五所川原市埋蔵文化財調査報告書　第33集

十三盛遺跡

― 一般国道101号五所川原西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

（第一分冊）

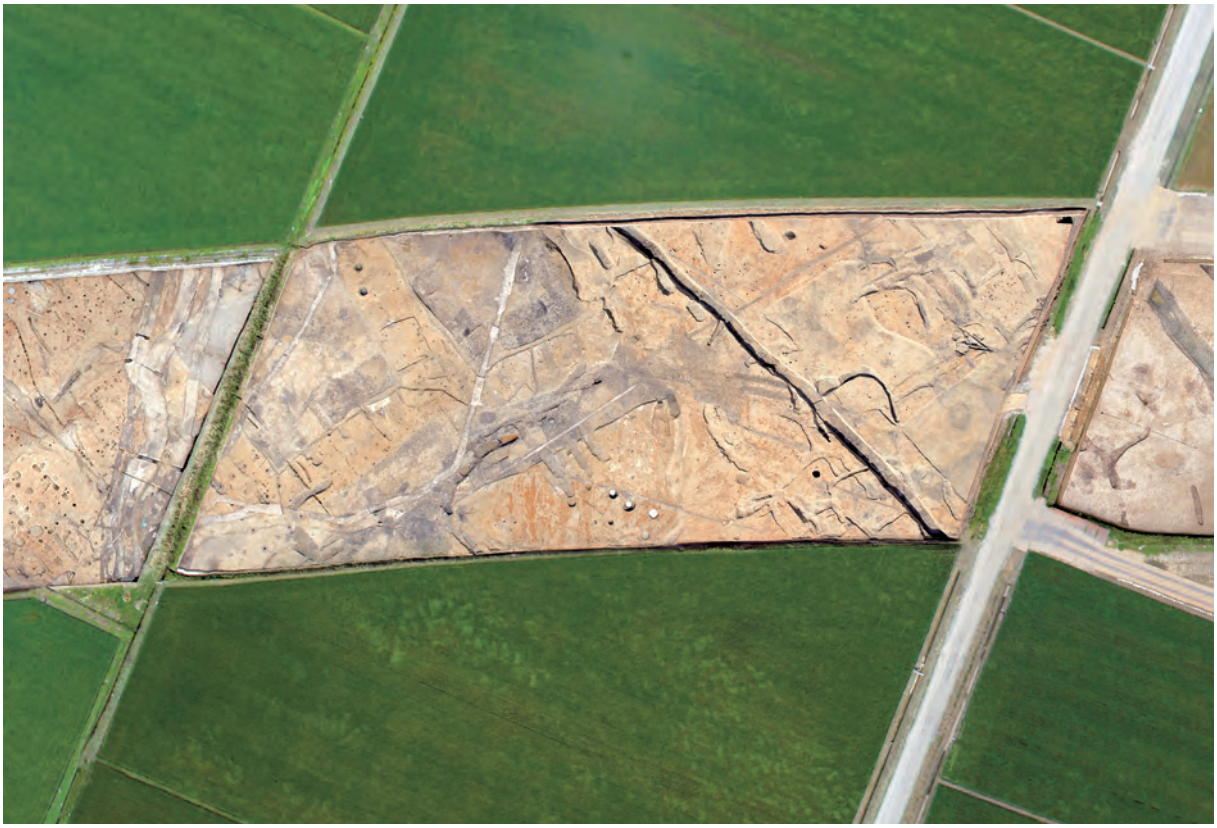
2013年３月

五所川原市教育委員会

十三盛遺跡近景（東側から）

十三盛遺跡西区全景

十三盛遺跡東区 SB28 全景



十三盛遺跡東区全景

十三盛遺跡出土土器

十三盛遺跡出土木製品

序　文

十三盛遺跡は、一般国道 101 号五所川原西バイパス建設事業に先立って、五所川原市教育委員会が平成 21・22 年度に発掘調査を実施いたしました。

その結果、平安時代後半の大規模な集落跡が検出されました。主要な遺構としては、外周溝を有する建物跡、集落の北西部分を取り囲む柵列跡、多数の井戸跡に加え、集落全体を囲うと考えられる大溝などが検出されました。また、近世から圃場整備以前のものと考えられる水田跡も検出されました。これは、現在まで連綿と継続する水田経営の歴史を辿る上で貴重な遺跡であると言えます。

主要な遺物としては、土師器や当市の国指定史跡五所川原須恵器窯跡で生産された須恵器が出土しているほかに、通常の遺跡では消失してしまう大量の木製品が出土しており、当時の生活様式を復元する上で貴重な資料が数多く出土しました。

本報告書は、平成 21・22 年度の発掘調査の成果をまとめたものであり、埋蔵文化財の調査資料として、当市の歴史教育を始め、埋蔵文化財の調査・研究・文化財の活用等に役立てていただければ幸いに存じます。

最後になりますが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、数多くのご指導・ご協力くださった関係機関並びに関係各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成２５年３月

五所川原市教育委員会

教育長　**長尾　孝紀**

例　言

1　本報告書は、一般国道 101 号線五所川原西バイパス建設事業に伴い平成 21 年度に五所川原市教育委員会が実施した十三盛遺跡の発掘調査報告書である。

2　十三盛遺跡は、青森県五所川原市大字長橋字広野、大字新宮字稲村地内に所在し、遺跡番号 205032 として青森県遺跡台帳に登録されている。

3　本書は、五所川原市教育委員会が編集・作成した。執筆は、五所川原市教育委員会社会教育課藤原が担当した。依頼原稿については、執筆者名を文頭に記した。

4　発掘調査及び整理作業・報告書作成の経費は、調査を委託した国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所が負担した。

5　試料の分析、鑑定・同定等については、次の方々に依頼した（順不同、敬称略）。

石器の石質鑑定	川村　眞一（日本地学教育学会会員、地質学）
掘立柱建物跡の分析	高島　成侑　（元八戸工業大学教授　建築学、故人）
木製品の種別鑑定	山田　昌久（首都大学東京教授　考古学）
編組製品の素材同定	鈴木　三男・小林　和貴（東北大学植物園）
	能城　修一（独立行政法人森林総合研究所）
	佐々木由香（株式会社　パレオ・ラボ）

6　木製品の樹種同定は独立行政法人森林総合研究所　能城修一氏指導の下、株式会社パレオ・ラボに委託した。

7　花粉・珪藻・プラントオパールの分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。

8　放射性炭素年代測定・出土火山灰の分析・土壌分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

9　出土木製品及び土師器の一部の実測図作成及び発掘調査区の空中撮影は株式会社シン・コンサルに委託した。

10　出土木製品の保存処理は重要と思われるものは株式会社吉田生物研究所に委託するとともに、その他のものは自前で行った。

11　本書に掲載した地形図（遺跡の位置・周辺の主な遺跡）は、国土地理院発行の五万分の 1 地形図 「五所川原」を複写して使用した。

12　挿図縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。写真の縮尺は統一していない。

13　遺構・遺物の文・図中の表現は、原則として次の基準によった。

（1）主な検出遺構については次の略号を使用し、発見順に番号を付した。

ＳＡ：柵列　ＳＢ：掘立柱建物跡、ＳＤ：溝跡、ＳＥ：井戸跡、ＳＫ：土抗、ＳＩ：竪穴住居跡、ＳＸ：性格不明遺構等

（2）遺構内外堆積土の注記には、『新装標準土色帖』（小山、竹原 2001）を使用した。

（3）層位名は基本層位を（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・・・）などのローマ数字、遺構内堆積土層位を（1・2・3・・・）などの算用数字もしくは（a・b・c・・・）などのアルファベットで表記している。

また、セクションベルト中の遺物の表記は次の略号を使用した。

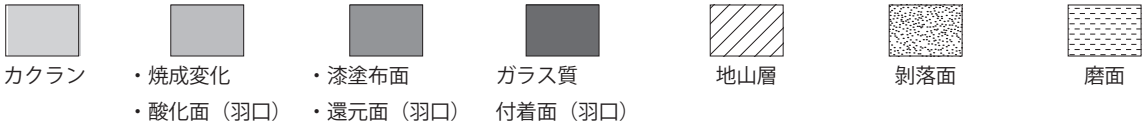
P：土器　S：石・石器　W：木材・木製品

（4）遺物の出土図について出土位置を示す点は種別ごとに次のマークを使用した。

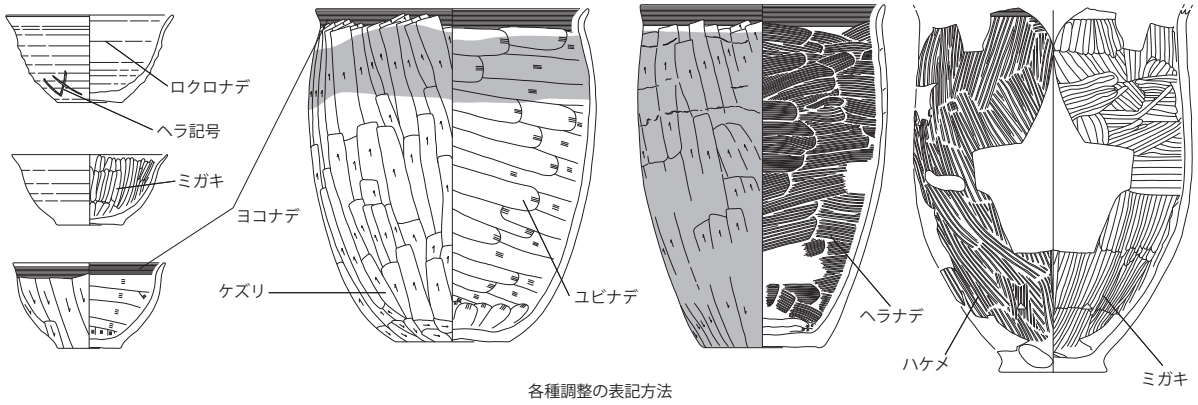
●：土器　○：土製品　■：石器　□：石製品　★：木製品　◆：自然遺物

（5）遺物には観察表、計測値を付した。計測値の単位は長さを mm、重量を g で表記している。

（6）遺構、遺物実測図で使用しているスクリーントーンの表示は次のとおりである。



（7）遺物の調整の表記は下記のとおりである。



各種調整の表記方法

14　引用・参考文献は文末に収めた。

15　遺構配置図及び出土遺物観察表は紙面の都合上第二分冊に添付している CD-ROM に所収している。

16　発掘調査及び報告書作成における出土品、実測図、写真等は現在五所川原市教育委員会で保管している。

17　発掘調査及び報告書作成にあたって、下記の諸氏・機関からご協力・ご助言を賜りました（敬称略、順不同）。記して感謝の意を表します。

浅田　智晴、新谷　久雄、宇部　保則、岡田　康弘、小口　雅史、片岡　太郎、鐘江　宏之、木村　淳一、小林　克、齋藤　淳、佐藤　智生、清水　香、白鳥　良一、鈴木　和子、関根　達人、高橋　学、成田　滋彦、畠山　昇、三浦　圭介、村上　由美子、百瀬　正恒、藤原　有希、青森県教育委員会、青森県埋蔵文化財調査センター、奈良国立文化財研究所

本文目次

（第一分冊）

第Ⅰ章　調査の概要

第 1 節　調査に至るまでの経緯・・・・・・・・・1

第 2 節　調査要項・・・・・・・・・・・・・・・1

第 3 節　調査方法・・・・・・・・・・・・・・・2

第 4 節　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・3

第Ⅱ章　遺跡周辺の環境と遺物の分類基準

第 1 節　遺跡周辺の自然環境・・・・・・・・・・6

第 2 節　遺跡周辺の歴史的環境・・・・・・・・・11

第 3 節　出土遺物の分類基準・・・・・・・・・・13

第Ⅲ章　西区の検出遺構と出土遺物

第 1 節　柵列跡・・・・・・・・・・・・・・・・28

第 2 節　溝跡・竪穴住居跡・・・・・・・・・・・40

第 3 節　井戸跡・・・・・・・・・・・・・・・213

第 4 節　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・224

第 5 節　掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・・236

第 6 節　柱穴跡・・・・・・・・・・・・・・・263

第 7 節　不明遺構・・・・・・・・・・・・・・294

第 8 節　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・298

第Ⅳ章　東区の検出遺構と出土遺物

第 1 節　柵列跡・・・・・・・・・・・・・・・299

第 2 節　溝跡・竪穴住居跡・・・・・・・・・・301

第 3 節　井戸跡・・・・・・・・・・・・・・・451

第 4 節　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・471

第 5 節　掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・・479

第 6 節　柱穴跡・・・・・・・・・・・・・・・480

第 7 節　不明遺構・・・・・・・・・・・・・・504

第 8 節　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・505

図版目次

図Ⅰ -4-1　平成 21 年度調査区・・・・・・・・・・4

図Ⅰ -4-2　平成 22 年度調査区・・・・・・・・・・5

図Ⅱ -1-1　遺跡周辺地形分類図・・・・・・・・・・7

表Ⅱ -1-1　十三盛遺跡層序・・・・・・・・・・・・8

図Ⅱ -1-2　土層柱状図・・・・・・・・・・・・・・9

表Ⅱ -2-1　遺跡地名表・・・・・・・・・・・・・11

図Ⅱ -2-1　周辺の遺跡位置図・・・・・・・・・・12

図Ⅱ -3-1　坏の分類・・・・・・・・・・・・・・13

図Ⅱ -3-2　坏の器形分類・・・・・・・・・・・・13

図Ⅱ -3-3　口縁部の形状分類・・・・・・・・・・13

図Ⅱ -3-4　土師器甕の器形分類・・・・・・・・・14

図Ⅱ -3-5　工具・・・・・・・・・・・・・・・・15

図Ⅱ -3-6　農耕土木具・・・・・・・・・・・・・16

図Ⅱ -3-7　編み具・紡織具・・・・・・・・・・・17

図Ⅱ -3-8　漁労具（ヤス）・・・・・・・・・・・17

図Ⅱ -3-9　下駄の各部名称・・・・・・・・・・・17

図Ⅱ -3-10　服飾具（下駄）・・・・・・・・・・・18

図Ⅱ -3-11　底板と側板の結合方法による分類・・・18

図Ⅱ -3-12　容器（曲物）・・・・・・・・・・・・19

図Ⅱ -3-13　容器（挽物）・・・・・・・・・・・・20

図Ⅱ -3-14　容器（刳物）・・・・・・・・・・・・20

図Ⅱ -3-15　容器（組物・指物）・・・・・・・・・21

図Ⅱ -3-16　容器（結物）・・・・・・・・・・・・21

図Ⅱ -3-17　調理加工具（杓子・柄杓）・・・・・・22

図Ⅱ -3-18　食事具・・・・・・・・・・・・・・・22

図Ⅱ -3-19　調度（灯明台）・・・・・・・・・・・22

図Ⅱ -3-20　祭祀具・・・・・・・・・・・・・・・23

図Ⅱ -3-21　雑具・・・・・・・・・・・・・・・・24

図Ⅱ -3-22　建築部材 (1)・・・・・・・・・・・・24

図Ⅱ -3-23　建築部材 (2)・・・・・・・・・・・・25

図Ⅱ -3-24　施設材・器具材・・・・・・・・・・・26

図Ⅱ -3-25　板状不明製品・・・・・・・・・・・・27

図Ⅱ -3-26　棒状不明製品・・・・・・・・・・・・27

図Ⅲ -1-1　SA02 出土遺物・・・・・・・・・・・・28

図Ⅲ -1-2　SA01 と出土遺物・・・・・・・・・29-30

図Ⅲ -1-3　SA02・SA03・・・・・・・・・・・31-32

図Ⅲ -1-4　SA03 出土遺物・・・・・・・・・・・・33

図Ⅲ -1-5　SA04・・・・・・・・・・・・・・・・33

図Ⅲ -1-6　SA05・・・・・・・・・・・・・・・・34

図Ⅲ -1-7　SA06 出土遺物・・・・・・・・・・・・34

図Ⅲ -1-8　SA06・・・・・・・・・・・・・・35-36

図Ⅲ -1-9　SA07・・・・・・・・・・・・・・・・37

図Ⅲ -1-10　SA07 出土遺物・・・・・・・・・・・37

図Ⅲ -1-11　SA08・・・・・・・・・・・・・・・・38

図Ⅲ-1-12　SA08 出土遺物・・・・・・・・・・・38
図Ⅲ-1-13　SA09・・・・・・・・・・・・・・・・38
図Ⅲ-1-14　SA10・・・・・・・・・・・・・・・・39
図Ⅲ-1-15　SA11・・・・・・・・・・・・・・・・39
図Ⅲ-1-16　SA12・・・・・・・・・・・・・・・・39
図Ⅲ-1-17　SA13・・・・・・・・・・・・・・・・40
図Ⅲ-1-18　SA14・・・・・・・・・・・・・・・・40
図Ⅲ-2-1　SD01・・・・・・・・・・・・・・・・41
図Ⅲ-2-2　SD02・03・61・・・・・・・・・・・42
図Ⅲ-2-3　SD02 遺物出土状況・・・・・・・・・・43
図Ⅲ-2-4　SD02 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・44
図Ⅲ-2-5　SD02 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・45
図Ⅲ-2-6　SD04・・・・・・・・・・・・・・・・46
図Ⅲ-2-7　SA08 出土遺物・・・・・・・・・・・46
図Ⅲ-2-8　SD05・30・・・・・・・・・・・・・・48
図Ⅲ-2-9　SD05 遺物出土状況・・・・・・・・・・49
図Ⅲ-2-10　SD05 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・50
図Ⅲ-2-11　SD05 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・51
図Ⅲ-2-12　SD05 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・52
図Ⅲ-2-13　SD30 遺物出土状況・・・・・・・・・53
図Ⅲ-2-14　SD30 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・54
図Ⅲ-2-15　SD30 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・55
図Ⅲ-2-16　SD06・07・・・・・・・・・・・・・56
図Ⅲ-2-17　SD06 遺物出土状況・・・・・・・・・57
図Ⅲ-2-18　SD06 出土遺物・・・・・・・・・・・58
図Ⅲ-2-19　SD07 遺物出土状況・・・・・・・・・59
図Ⅲ-2-20　SD07 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・59
図Ⅲ-2-21　SD07 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・60
図Ⅲ-2-22　SD07 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・61
図Ⅲ-2-23　SD08・43・・・・・・・・・・・・・62
図Ⅲ-2-24　SD08 遺物出土状況・・・・・・・・・62
図Ⅲ-2-25　SD08・43 出土遺物・・・・・・・・・62
図Ⅲ-2-26　SD09・10・29・・・・・・・・・・・63
図Ⅲ-2-27　SD09 遺物出土状況・・・・・・・・・64
図Ⅲ-2-28　SD09 出土遺物・・・・・・・・・・・65
図Ⅲ-2-29　SD10 遺物出土状況・・・・・・・・・66
図Ⅲ-2-30　SD10 出土遺物・・・・・・・・・・・67
図Ⅲ-2-31　SD09・10 出土遺物・・・・・・・・・68
図Ⅲ-2-32　SD11・36・38・41・60・66・・・・69
図Ⅲ-2-33　SD66 遺物出土状況・・・・・・・・・71
図Ⅲ-2-34　SD66 出土遺物・・・・・・・・・・・71
図Ⅲ-2-35　SD41 遺物出土状況・・・・・・・・・71
図Ⅲ-2-36　SD41 出土遺物・・・・・・・・・・・72
図Ⅲ-2-37　SD38 遺物出土状況・・・・・・・・・73
図Ⅲ-2-38　SD38 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・74
図Ⅲ-2-39　SD38 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・75
図Ⅲ-2-40　SD11 遺物出土状況 (1)・・・・・・・・76
図Ⅲ-2-41　SD11 遺物出土状況 (2)・・・・・・・・77
図Ⅲ-2-42　SD11 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・78
図Ⅲ-2-43　SD11 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・79
図Ⅲ-2-44　SD11 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・80
図Ⅲ-2-45　SD36 遺物出土状況・・・・・・・・・82
図Ⅲ-2-46　SD36 出土遺物・・・・・・・・・・・82
図Ⅲ-2-47　SD12・13・89・・・・・・・・・・・83
図Ⅲ-2-48　SD12 遺物出土状況・・・・・・・・・83
図Ⅲ-2-49　SD12 出土遺物・・・・・・・・・・・84
図Ⅲ-2-50　SD14・15・86・87・91・・・・・・・85
図Ⅲ-2-51　SD15 遺物出土状況・・・・・・・・・86
図Ⅲ-2-52　SD15 出土遺物・・・・・・・・・・・86
図Ⅲ-2-53　SD86 遺物出土状況・・・・・・・・・87
図Ⅲ-2-54　SD86 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・88
図Ⅲ-2-55　SD86 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・89
図Ⅲ-2-56　SD86 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・90
図Ⅲ-2-57　SD86 出土遺物 (4)・・・・・・・・・・91
図Ⅲ-2-58　SD87 遺物出土状況 (1)・・・・・・・・93
図Ⅲ-2-59　SD87 遺物出土状況 (2)・・・・・・・・94
図Ⅲ-2-60　SD87 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・95
図Ⅲ-2-61　SD87 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・96
図Ⅲ-2-62　SD87 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・97
図Ⅲ-2-63　SD87 出土遺物 (4)・・・・・・・・・・98
図Ⅲ-2-64　SD87 出土遺物 (5)・・・・・・・・・・99
図Ⅲ-2-65　SD87 出土遺物 (6)・・・・・・・・・100
図Ⅲ-2-66　SD87 出土遺物 (7)・・・・・・・・・101
図Ⅲ-2-67　SD87 出土遺物 (8)・・・・・・・・・102
図Ⅲ-2-68　SD87 出土遺物 (9)・・・・・・・・・103
図Ⅲ-2-69　SD16・17・31・・・・・・・・・・・104

図Ⅲ-2-70　SD16 遺物出土状況・・・・・・・・・105
図Ⅲ-2-71　SD16 出土遺物・・・・・・・・・・・105
図Ⅲ-2-72　SD31 出土遺物・・・・・・・・・・・105
図Ⅲ-2-73　SD17 遺物出土状況・・・・・・・・・106
図Ⅲ-2-74　SD17 出土遺物・・・・・・・・・・・106
図Ⅲ-2-75　SD18・・・・・・・・・・・・・・・107
図Ⅲ-2-76　SD19・・・・・・・・・・・・・・・107
図Ⅲ-2-77　SD19 遺物出土状況・・・・・・・・・107
図Ⅲ-2-78　SD19 出土遺物・・・・・・・・・・・108
図Ⅲ-2-79　SD20・・・・・・・・・・・・・・・108
図Ⅲ-2-80　SD20 遺物出土状況・・・・・・・・・108
図Ⅲ-2-81　SD20 出土遺物・・・・・・・・・・・109
図Ⅲ-2-82　SD21・・・・・・・・・・・・・・・109
図Ⅲ-2-83　SD21 出土遺物・・・・・・・・・・・109
図Ⅲ-2-84　SD22・44・・・・・・・・・・・・・110
図Ⅲ-2-85　SD22 遺物出土状況・・・・・・・・・110
図Ⅲ-2-86　SD22 出土遺物・・・・・・・・・・・110
図Ⅲ-2-87　SD44 遺物出土状況・・・・・・・・・111
図Ⅲ-2-88　SD44 出土遺物・・・・・・・・・・・111
図Ⅲ-2-89　SD23・34・・・・・・・・・・・・・112
図Ⅲ-2-90　SD34 遺物出土状況・・・・・・・・・113
図Ⅲ-2-91　SD34 出土遺物 (1)・・・・・・・・・114
図Ⅲ-2-92　SD34 出土遺物 (2)・・・・・・・・・115
図Ⅲ-2-93　SD23 遺物出土状況・・・・・・・・・116
図Ⅲ-2-94　SD23 出土遺物 (1)・・・・・・・・・117
図Ⅲ-2-95　SD23 出土遺物 (2)・・・・・・・・・118
図Ⅲ-2-96　SD23 出土遺物 (3)・・・・・・・・・119
図Ⅲ-2-97　SD23 出土遺物 (4)・・・・・・・・・120
図Ⅲ-2-98　SD24・・・・・・・・・・・・・・・121
図Ⅲ-2-99　SD24 遺物出土状況・・・・・・・・・121
図Ⅲ-2-100　SD24 出土遺物・・・・・・・・・・121
図Ⅲ-2-101　SD25・57・・・・・・・・・・・・122
図Ⅲ-2-102　SD25 遺物出土状況・・・・・・・・123
図Ⅲ-2-103　SD25 出土遺物・・・・・・・・・・123
図Ⅲ-2-104　SD26・37・・・・・・・・・・・・124
図Ⅲ-2-105　SD37 遺物出土状況・・・・・・・・125
図Ⅲ-2-106　SD37 出土遺物・・・・・・・・・・125
図Ⅲ-2-107　SD27・・・・・・・・・・・・・・126
図Ⅲ-2-108　SD27 遺物出土状況・・・・・・・・126
図Ⅲ-2-109　SD27 出土遺物・・・・・・・・・・126
図Ⅲ-2-110　SD28・・・・・・・・・・・・・・126
図Ⅲ-2-111　SD28 遺物出土状況・・・・・・・・127
図Ⅲ-2-112　SD28 出土遺物・・・・・・・・・・127
図Ⅲ-2-113　SD33・・・・・・・・・・・・・・128
図Ⅲ-2-114　SD35・49・56・59・・・・・・・・129
図Ⅲ-2-115　SD56 遺物出土状況・・・・・・・・131
図Ⅲ-2-116　SD56 出土遺物 (1)・・・・・・・・131
図Ⅲ-2-117　SD56 出土遺物 (2)・・・・・・・・132
図Ⅲ-2-118　SD35 遺物出土状況・・・・・・・・132
図Ⅲ-2-119　SD35 出土遺物・・・・・・・・・・133
図Ⅲ-2-120　SD49 遺物出土状況・・・・・・・・133
図Ⅲ-2-121　SD49 出土遺物・・・・・・・・・・133
図Ⅲ-2-122　SD39・・・・・・・・・・・・・・134
図Ⅲ-2-123　SD39 遺物出土状況・・・・・・・・134
図Ⅲ-2-124　SD39 出土遺物・・・・・・・・・・134
図Ⅲ-2-125　SD40・42・54・55・63・64・・135-136
図Ⅲ-2-126　SD40 遺物出土状況・・・・・・・・137
図Ⅲ-2-127　SD40 出土遺物・・・・・・・・・・138
図Ⅲ-2-128　SD55 遺物出土状況 (1)・・・・・・139
図Ⅲ-2-129　SD55 遺物出土状況 (2)・・・・・・140
図Ⅲ-2-130　SD55 遺物出土状況 (3)・・・・・・141
図Ⅲ-2-131　SD55 遺物出土状況 (4)・・・・・・142
図Ⅲ-2-132　SD55 遺物出土状況 (5)・・・・・・143
図Ⅲ-2-133　SD55 出土遺物 (1)・・・・・・・・144
図Ⅲ-2-134　SD55 出土遺物 (2)・・・・・・・・145
図Ⅲ-2-135　SD55 出土遺物 (3)・・・・・・・・146
図Ⅲ-2-136　SD55 出土遺物 (4)・・・・・・・・147
図Ⅲ-2-137　SD55 出土遺物 (5)・・・・・・・・148
図Ⅲ-2-138　SD55 出土遺物 (6)・・・・・・・・149
図Ⅲ-2-139　SD55 出土遺物 (7)・・・・・・・・150
図Ⅲ-2-140　SD55 出土遺物 (8)・・・・・・・・151
図Ⅲ-2-141　SD55 出土遺物 (9)・・・・・・・・152
図Ⅲ-2-142　SD55 出土遺物 (10)・・・・・・・・153
図Ⅲ-2-143　SD55 出土遺物 (11)・・・・・・・・154
図Ⅲ-2-144　SD64 遺物出土状況と出土遺物・・・155
図Ⅲ-2-145　SD42 遺物出土状況・・・・・・・・156

図Ⅲ-2-146　SD42 出土遺物・・・・・・・・・・157
図Ⅲ-2-147　SD54 遺物出土状況・・・・・・・・158
図Ⅲ-2-148　SD54 出土遺物・・・・・・・・・・158
図Ⅲ-2-149　SD63 遺物出土状況・・・・・・・・158
図Ⅲ-2-150　SD63 出土遺物・・・・・・・・・・158
図Ⅲ-2-151　SD45・48・52・・・・・・・・・・159
図Ⅲ-2-152　SD48 遺物出土状況・・・・・・・・160
図Ⅲ-2-153　SD48 出土遺物・・・・・・・・・・160
図Ⅲ-2-154　SD52 遺物出土状況と出土遺物・・・161
図Ⅲ-2-155　SD45 遺物出土状況・・・・・・・・161
図Ⅲ-2-156　SD45 出土遺物 (1)・・・・・・・・・162
図Ⅲ-2-157　SD45 出土遺物 (2)・・・・・・・・・163
図Ⅲ-2-158　SD47・・・・・・・・・・・・・・164
図Ⅲ-2-159　SD50・・・・・・・・・・・・・・164
図Ⅲ-2-160　SD50 遺物出土状況・・・・・・・・164
図Ⅲ-2-161　SD50 出土遺物・・・・・・・・・・165
図Ⅲ-2-162　SD51・・・・・・・・・・・・・・165
図Ⅲ-2-163　SD53 遺構図面及び遺物出土状況・・166
図Ⅲ-2-164　SD53 出土遺物・・・・・・・・・・166
図Ⅲ-2-165　SD58・・・・・・・・・・・・・・167
図Ⅲ-2-166　SD58 遺物出土状況・・・・・・・・167
図Ⅲ-2-167　SD58 出土遺物・・・・・・・・・・167
図Ⅲ-2-168　SD62・・・・・・・・・・・・・・168
図Ⅲ-2-169　SD62 遺物出土状況・・・・・・・・168
図Ⅲ-2-170　SD62 出土遺物・・・・・・・・・・168
図Ⅲ-2-171　SD65・・・・・・・・・・・・・・169
図Ⅲ-2-172　SD65 遺物出土状況・・・・・・・・170
図Ⅲ-2-173　SD65 出土遺物・・・・・・・・・・170
図Ⅲ-2-174　SD67・68・69・70・72・73・76・・171-172
図Ⅲ-2-175　SD67 出土遺物・・・・・・・・・・173
図Ⅲ-2-176　SD70 遺物出土状況・・・・・・・・173
図Ⅲ-2-177　SD70 出土遺物・・・・・・・・・・174
図Ⅲ-2-178　SD69 遺物出土状況・・・・・・・・175
図Ⅲ-2-179　SD69 出土遺物 (1)・・・・・・・・・176
図Ⅲ-2-180　SD69 出土遺物 (2)・・・・・・・・・177
図Ⅲ-2-181　SD69 出土遺物 (3)・・・・・・・・・178
図Ⅲ-2-182　SD69 出土遺物 (4)・・・・・・・・・179
図Ⅲ-2-183　SD68 遺物出土状況 (1)・・・・・・・181
図Ⅲ-2-184　SD68 遺物出土状況 (2)・・・・・・・182
図Ⅲ-2-185　SD68 遺物出土状況 (3)・・・・・・・183
図Ⅲ-2-186　SD68 遺物出土状況 (4)・・・・・・・184
図Ⅲ-2-187　SD68 出土遺物 (1)・・・・・・・・・185
図Ⅲ-2-188　SD68 出土遺物 (2)・・・・・・・・・186
図Ⅲ-2-189　SD68 出土遺物 (3)・・・・・・・・・187
図Ⅲ-2-190　SD68 出土遺物 (4)・・・・・・・・・188
図Ⅲ-2-191　SD68 出土遺物 (5)・・・・・・・・・189
図Ⅲ-2-192　SD68 出土遺物 (6)・・・・・・・・・190
図Ⅲ-2-193　SD68 出土遺物 (7)・・・・・・・・・191
図Ⅲ-2-194　SD68 出土遺物 (8)・・・・・・・・・192
図Ⅲ-2-195　SD68 出土遺物 (9)・・・・・・・・・193
図Ⅲ-2-196　SD68(10)、SD68・69 出土遺物・・・194
図Ⅲ-2-197　SD72 遺物出土状況・・・・・・・・195
図Ⅲ-2-198　SD72 出土遺物 (1)・・・・・・・・・196
図Ⅲ-2-199　SD72 出土遺物 (2)・・・・・・・・・197
図Ⅲ-2-200　SD72 出土遺物 (3)・・・・・・・・・198
図Ⅲ-2-201　SD71・・・・・・・・・・・・・・200
図Ⅲ-2-202　SD74・・・・・・・・・・・・・・200
図Ⅲ-2-203　SD74 遺物出土状況・・・・・・・・200
図Ⅲ-2-204　SD74 出土遺物・・・・・・・・・・200
図Ⅲ-2-205　SD75・77・78・79・・・・・・・・201
図Ⅲ-2-206　SD77 遺物出土状況・・・・・・・・202
図Ⅲ-2-207　SD77 出土遺物・・・・・・・・・・202
図Ⅲ-2-208　SD75 遺物出土状況・・・・・・・・203
図Ⅲ-2-209　SD75 出土遺物・・・・・・・・・・203
図Ⅲ-2-210　SD80・81・・・・・・・・・・・・204
図Ⅲ-2-211　SD81 遺物出土状況・・・・・・・・205
図Ⅲ-2-212　SD81 出土遺物・・・・・・・・・・205
図Ⅲ-2-213　SD80 出土遺物・・・・・・・・・・205
図Ⅲ-2-214　SD82・83・・・・・・・・・・・・206
図Ⅲ-2-215　SD82・83 遺物出土状況・・・・・・207
図Ⅲ-2-216　SD82・83 出土遺物・・・・・・・・207
図Ⅲ-2-217　SD84・・・・・・・・・・・・・・208
図Ⅲ-2-218　SD85・・・・・・・・・・・・・・208
図Ⅲ-2-219　SD85 遺物出土状況・・・・・・・・208
図Ⅲ-2-220　SD85 出土遺物・・・・・・・・・・209
図Ⅲ-2-221　SD88・・・・・・・・・・・・・・209

図Ⅲ-2-222　SD90・・・・・・・・・・・・・・・210
図Ⅲ-2-223　SI01・・・・・・・・・・・・・・・211
図Ⅲ-2-224　SI02・・・・・・・・・・・・・・・212
図Ⅲ-3-1　SE01・・・・・・・・・・・・・・・214
図Ⅲ-3-2　SE02・・・・・・・・・・・・・・・214
図Ⅲ-3-3　SE03・・・・・・・・・・・・・・・214
図Ⅲ-3-4　SE04・・・・・・・・・・・・・・・214
図Ⅲ-3-5　SE05・・・・・・・・・・・・・・・214
図Ⅲ-3-6　SE06・・・・・・・・・・・・・・・214
図Ⅲ-3-7　SE07・・・・・・・・・・・・・・・215
図Ⅲ-3-8　SE08・・・・・・・・・・・・・・・215
図Ⅲ-3-9　SE09・・・・・・・・・・・・・・・215
図Ⅲ-3-10　SE10・・・・・・・・・・・・・・・215
図Ⅲ-3-11　SE01 遺物出土状況・・・・・・・・・215
図Ⅲ-3-12　SE03 遺物出土状況・・・・・・・・・215
図Ⅲ-3-13　SE04 遺物出土状況・・・・・・・・・216
図Ⅲ-3-14　SE05 遺物出土状況・・・・・・・・・216
図Ⅲ-3-15　SE06 遺物出土状況・・・・・・・・・216
図Ⅲ-3-16　SE08 遺物出土状況・・・・・・・・・216
図Ⅲ-3-17　SE09 遺物出土状況・・・・・・・・・217
図Ⅲ-3-18　SE10 遺物出土状況・・・・・・・・・217
図Ⅲ-3-19　SE 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・・218
図Ⅲ-3-20　SE 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・・219
図Ⅲ-3-21　SE 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・・220
図Ⅲ-3-22　SE 出土遺物 (4)・・・・・・・・・・・221
図Ⅲ-3-23　SE 出土遺物 (5)・・・・・・・・・・・222
図Ⅲ-4-1　SK01・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-2　SK02・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-3　SK03・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-4　SK04・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-5　SK05・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-6　SK06・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-7　SK07・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-8　SK08・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-9　SK09・・・・・・・・・・・・・・・225
図Ⅲ-4-10　SK10・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-11　SK11・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-12　SK12・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-13　SK13・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-14　SK14・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-15　SK15・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-16　SK16・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-17　SK17・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-18　SK18・・・・・・・・・・・・・・・226
図Ⅲ-4-19　SK19・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-20　SK20・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-21　SK21・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-22　SK22・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-23　SK23・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-24　SK24・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-25　SK25・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-26　SK26・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-27　SK27・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-28　SK28・・・・・・・・・・・・・・・228
図Ⅲ-4-29　SK29・・・・・・・・・・・・・・・229
図Ⅲ-4-30　SK30・・・・・・・・・・・・・・・229
図Ⅲ-4-31　SK03 遺物出土状況・・・・・・・・・230
図Ⅲ-4-32　SK06 遺物出土状況・・・・・・・・・230
図Ⅲ-4-33　SK08 遺物出土状況・・・・・・・・・230
図Ⅲ-4-34　SK09 遺物出土状況・・・・・・・・・230
図Ⅲ-4-35　SK10 遺物出土状況・・・・・・・・・230
図Ⅲ-4-36　SK15 遺物出土状況・・・・・・・・・230
図Ⅲ-4-37　SK16 遺物出土状況・・・・・・・・・230
図Ⅲ-4-38　SK23 遺物出土状況・・・・・・・・・231
図Ⅲ-4-39　SK26 遺物出土状況・・・・・・・・・231
図Ⅲ-4-40　SK28 遺物出土状況・・・・・・・・・231
図Ⅲ-4-41　SK29 遺物出土状況・・・・・・・・・231
図Ⅲ-4-42　SK30 遺物出土状況・・・・・・・・・231
図Ⅲ-4-43　SK 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・233
図Ⅲ-4-44　SK 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・234
図Ⅲ-4-45　SK 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・235
図Ⅲ-5-1　SB01・・・・・・・・・・・・・・・237
図Ⅲ-5-2　SB02・・・・・・・・・・・・・・・238
図Ⅲ-5-3　SB03(1)・・・・・・・・・・・・・・239
図Ⅲ-5-4　SB03(2)・・・・・・・・・・・・・・240
図Ⅲ-5-5　SB04(1)・・・・・・・・・・・・・・240

図Ⅲ-5-6　SB04(2)・・・・・・・・・・・・・・・241
図Ⅲ-5-7　SB05・・・・・・・・・・・・・・・・・242
図Ⅲ-5-8　SB06・・・・・・・・・・・・・・・・・243
図Ⅲ-5-9　SB07・・・・・・・・・・・・・・・・・244
図Ⅲ-5-10　SB08・・・・・・・・・・・・・・・・245
図Ⅲ-5-11　SB09・・・・・・・・・・・・・・・・246
図Ⅲ-5-12　SB10・・・・・・・・・・・・・・・・247
図Ⅲ-5-13　SB11・・・・・・・・・・・・・・・・248
図Ⅲ-5-14　SB12・・・・・・・・・・・・・・・・249
図Ⅲ-5-15　SB13・・・・・・・・・・・・・・・・250
図Ⅲ-5-16　SB14・・・・・・・・・・・・・・・・251
図Ⅲ-5-17　SB15・・・・・・・・・・・・・・・・252
図Ⅲ-5-18　SB16(1)・・・・・・・・・・・・・・253
図Ⅲ-5-19　SB16(2)・・・・・・・・・・・・・・254
図Ⅲ-5-20　SB17・・・・・・・・・・・・・・・・254
図Ⅲ-5-21　SB18・・・・・・・・・・・・・・・・255
図Ⅲ-5-22　SB19・・・・・・・・・・・・・・・・256
図Ⅲ-5-23　SB20・・・・・・・・・・・・・・・・256
図Ⅲ-5-24　SB21・・・・・・・・・・・・・・・・257
図Ⅲ-5-25　SB22・・・・・・・・・・・・・・・・258
図Ⅲ-5-26　SB23・・・・・・・・・・・・・・・・259
図Ⅲ-5-27　SB24・・・・・・・・・・・・・・・・260
図Ⅲ-5-28　SB25・・・・・・・・・・・・・・・・260
図Ⅲ-5-29　SB26・・・・・・・・・・・・・・・・261
図Ⅲ-5-30　SB27・・・・・・・・・・・・・・・・261
図Ⅲ-5-31　SB 出土遺物・・・・・・・・・・・・262
図Ⅲ-6-1 ～ 17　遺構内 pit・・・・・・・・264 ～ 280
図Ⅲ-6-18 ～ 36　遺構外 pit・・・・・・・280 ～ 292
図Ⅲ-6-37　pit 出土遺物・・・・・・・・・・・・293
図Ⅲ-7-1　SX01・・・・・・・・・・・・・・・・294
図Ⅲ-7-2　SX01 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・294
図Ⅲ-7-3　SX01 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・295
図Ⅲ-7-4　SX02・・・・・・・・・・・・・・・・295
図Ⅲ-8-1　遺構外出土遺物 (1)・・・・・・・・・・296
図Ⅲ-8-2　遺構外出土遺物 (2)・・・・・・・・・・297
図Ⅳ-1-1　SA15・・・・・・・・・・・・・・・・299
図Ⅳ-1-2　SA16・・・・・・・・・・・・・・・・300
図Ⅳ-1-3　SA17・・・・・・・・・・・・・・・・300
図Ⅳ-1-4　SA18・・・・・・・・・・・・・・・・300
図Ⅳ-2-1　SD101・129・・・・・・・・・・・・302
図Ⅳ-2-2　SD101 遺物出土状況 (1)・・・・・・・303
図Ⅳ-2-3　SD101 遺物出土状況 (2)・・・・・・・304
図Ⅳ-2-4　SD101 遺物出土状況 (3)・・・・・・・305
図Ⅳ-2-5　SD101 遺物出土状況 (4)・・・・・・・306
図Ⅳ-2-6　SD101 遺物出土状況 (5)・・・・・・・307
図Ⅳ-2-7　SD101 出土遺物 (1)・・・・・・・・・308
図Ⅳ-2-8　SD101 出土遺物 (2)・・・・・・・・・309
図Ⅳ-2-9　SD101 出土遺物 (3)・・・・・・・・・310
図Ⅳ-2-10　SD101 出土遺物 (4)・・・・・・・・311
図Ⅳ-2-11　SD101 出土遺物 (5)・・・・・・・・312
図Ⅳ-2-12　SD101 出土遺物 (6)・・・・・・・・313
図Ⅳ-2-13　SD101 出土遺物 (7)・・・・・・・・314
図Ⅳ-2-14　SD101 出土遺物 (8)・・・・・・・・315
図Ⅳ-2-15　SD101 出土遺物 (9)・・・・・・・・316
図Ⅳ-2-16　SD101 出土遺物 (10)・・・・・・・・317
図Ⅳ-2-17　SD101 出土遺物 (11)・・・・・・・・318
図Ⅳ-2-18　SD101 出土遺物 (12)・・・・・・・・319
図Ⅳ-2-19　SD101 出土遺物 (13)・・・・・・・・320
図Ⅳ-2-20　SD101 出土遺物 (14)・・・・・・・・321
図Ⅳ-2-21　SD101 出土遺物 (15)・・・・・・・・322
図Ⅳ-2-22　SD102・103・104・105・・・・・・324
図Ⅳ-2-23　SD106・127・・・・・・・・・・・・325
図Ⅳ-2-24　SD106 遺物出土状況・・・・・・・・325
図Ⅳ-2-25　SD106 出土遺物・・・・・・・・・・325
図Ⅳ-2-26　SD127 遺物出土状況・・・・・・・・326
図Ⅳ-2-27　SD127 出土遺物・・・・・・・・・・326
図Ⅳ-2-28　SD107・・・・・・・・・・・・・・・327
図Ⅳ-2-29　SD108・・・・・・・・・・・・・・・327
図Ⅳ-2-30　SD109・・・・・・・・・・・・・・・328
図Ⅳ-2-31　SD109 遺物出土状況・・・・・・・・328
図Ⅳ-2-32　SD109 出土遺物・・・・・・・・・・328
図Ⅳ-2-33　SD110・・・・・・・・・・・・・・・328
図Ⅳ-2-34　SD110 遺物出土状況・・・・・・・・329
図Ⅳ-2-35　SD110 出土遺物・・・・・・・・・・329
図Ⅳ-2-36　SD111・・・・・・・・・・・・・・・329
図Ⅳ-2-37　SD111 遺物出土状況・・・・・・・・329

図Ⅳ -2-38　SD111 出土遺物・・・・・・・・・・329
図Ⅳ -2-39　SD112・113・126・128・137・・・330
図Ⅳ -2-40　SD112 遺物出土状況・・・・・・・・331
図Ⅳ -2-41　SD112 出土遺物・・・・・・・・・・331
図Ⅳ -2-42　SD113 遺物出土状況・・・・・・・・331
図Ⅳ -2-43　SD113 出土遺物・・・・・・・・・・332
図Ⅳ -2-44　SD126 遺物出土状況・・・・・・・・332
図Ⅳ -2-45　SD126 出土遺物・・・・・・・・・・332
図Ⅳ -2-46　SD128 遺物出土状況・・・・・・・・332
図Ⅳ -2-47　SD128 出土遺物・・・・・・・・・・333
図Ⅳ -2-48　SD137 遺物出土状況・・・・・・・・333
図Ⅳ -2-49　SD137 出土遺物 (1)・・・・・・・・333
図Ⅳ -2-50　SD137 出土遺物 (2)・・・・・・・・334
図Ⅳ -2-51　SD114・・・・・・・・・・・・・・334
図Ⅳ -2-52　SD115・119・・・・・・・・・・・・334
図Ⅳ -2-53　SD116・120・121・123・141・・・・・336
図Ⅳ -2-54　SD116 遺物出土状況・・・・・・・・336
図Ⅳ -2-55　SD116 出土遺物・・・・・・・・・・337
図Ⅳ -2-56　SD117・118・・・・・・・・・・・・337
図Ⅳ -2-57　SD122・・・・・・・・・・・・・・338
図Ⅳ -2-58　SD122 遺物出土状況・・・・・・・・338
図Ⅳ -2-59　SD122 出土遺物・・・・・・・・・・338
図Ⅳ -2-60　SD124・125・・・・・・・・・・・・339
図Ⅳ -2-61　SD130・・・・・・・・・・・・・・339
図Ⅳ -2-62　SD130 出土遺物・・・・・・・・・・339
図Ⅳ -2-63　SD131・132・・・・・・・・・・・・340
図Ⅳ -2-64　SD131 遺物出土状況・・・・・・・・340
図Ⅳ -2-65　SD131 出土遺物 (1)・・・・・・・・341
図Ⅳ -2-66　SD131 出土遺物 (2)・・・・・・・・342
図Ⅳ -2-67　SD133・・・・・・・・・・・・・・343
図Ⅳ -2-68　SD134・・・・・・・・・・・・・・343
図Ⅳ -2-69　SD134 遺物出土状況・・・・・・・・344
図Ⅳ -2-70　SD134 出土遺物 (1)・・・・・・・・345
図Ⅳ -2-71　SD134 出土遺物 (2)・・・・・・・・346
図Ⅳ -2-72　SD135・140・142・・・・・・・・・347
図Ⅳ -2-73　SD136・154・156・・・・・・・・・348
図Ⅳ -2-74　SD136 遺物出土状況・・・・・・・・348
図Ⅳ -2-75　SD136 出土遺物・・・・・・・・・・349
図Ⅳ -2-76　SD154 遺物出土状況・・・・・・・・349
図Ⅳ -2-77　SD154 出土遺物 (1)・・・・・・・・349
図Ⅳ -2-78　SD154 出土遺物 (2)・・・・・・・・350
図Ⅳ -2-79　SD156 遺物出土状況・・・・・・・・350
図Ⅳ -2-80　SD156 出土遺物・・・・・・・・・・350
図Ⅳ -2-81　SD138・143・150・・・・・・・・・351
図Ⅳ -2-82　SD143 出土遺物・・・・・・・・・・352
図Ⅳ -2-83　SD139・157・158・159・・・・・・・352
図Ⅳ -2-84　SD144・・・・・・・・・・・・・・353
図Ⅳ -2-85　SD145・・・・・・・・・・・・・・354
図Ⅳ -2-86　SD145 遺物出土状況・・・・・・・・355
図Ⅳ -2-87　SD145 出土遺物・・・・・・・・・・355
図Ⅳ -2-88　SD147・・・・・・・・・・・・・・356
図Ⅳ -2-89　SD148・149・・・・・・・・・・・・356
図Ⅳ -2-90　SD148 遺物出土状況・・・・・・・・357
図Ⅳ -2-91　SD148 出土遺物 (1)・・・・・・・・357
図Ⅳ -2-92　SD148 出土遺物 (2)・・・・・・・・358
図Ⅳ -2-93　SD149 遺物出土状況・・・・・・・・359
図Ⅳ -2-94　SD149 出土遺物・・・・・・・・・・359
図Ⅳ -2-95　SD151・152・153・・・・・・・・・360
図Ⅳ -2-96　SD152 遺物出土状況・・・・・・・・360
図Ⅳ -2-97　SD152 出土遺物・・・・・・・・・・361
図Ⅳ -2-98　SD153 遺物出土状況・・・・・・・・361
図Ⅳ -2-99　SD153 出土遺物 (1)・・・・・・・・362
図Ⅳ -2-100　SD153 出土遺物 (2)・・・・・・・・363
図Ⅳ -2-101　SD155・・・・・・・・・・・・・・364
図Ⅳ -2-102　SD155 遺物出土状況・・・・・・・・365
図Ⅳ -2-103　SD155 出土遺物 (1)・・・・・・・・366
図Ⅳ -2-104　SD155 出土遺物 (2)・・・・・・・・367
図Ⅳ -2-105　SD155 出土遺物 (3)・・・・・・・・368
図Ⅳ -2-106　SD160・161・171・・・・・・・・・370
図Ⅳ -2-107　SD160 遺物出土状況・・・・・・・・370
図Ⅳ -2-108　SD160 出土遺物・・・・・・・・・・370
図Ⅳ -2-109　SD171 遺物出土状況・・・・・・・・371
図Ⅳ -2-110　SD171 出土遺物・・・・・・・・・・371
図Ⅳ -2-111　SD162・164・173・201・・・・・・・372
図Ⅳ -2-112　SD162 遺物出土状況・・・・・・・・373
図Ⅳ -2-113　SD162 出土遺物・・・・・・・・・・373

図Ⅳ -2-114　SD164 遺物出土状況・・・・・・・・374
図Ⅳ -2-115　SD164 出土遺物 (1)・・・・・・・・375
図Ⅳ -2-116　SD164 出土遺物 (2)・・・・・・・・376
図Ⅳ -2-117　SD173 遺物出土状況・・・・・・・・377
図Ⅳ -2-118　SD173 出土遺物・・・・・・・・・・377
図Ⅳ -2-119　SD201 遺物出土状況・・・・・・・・378
図Ⅳ -2-120　SD201 出土遺物・・・・・・・・・・378
図Ⅳ -2-121　SD163・・・・・・・・・・・・・・378
図Ⅳ -2-122　SD165・175・・・・・・・・379・380
図Ⅳ -2-123　SD165 遺物出土状況 (1)・・・・・・382
図Ⅳ -2-124　SD165 遺物出土状況 (2)・・・・・・383
図Ⅳ -2-125　SD165 出土遺物 (1)・・・・・・・・384
図Ⅳ -2-126　SD165 出土遺物 (2)・・・・・・・・385
図Ⅳ -2-127　SD165 出土遺物 (3)・・・・・・・・386
図Ⅳ -2-128　SD165 出土遺物 (4)・・・・・・・・387
図Ⅳ -2-129　SD165 出土遺物 (5)・・・・・・・・388
図Ⅳ -2-130　SD165 出土遺物 (6)・・・・・・・・389
図Ⅳ -2-131　SD165 出土遺物 (7)・・・・・・・・390
図Ⅳ -2-132　SD175 遺物出土状況 (1)・・・・・・392
図Ⅳ -2-133　SD175 遺物出土状況 (2)・・・・・・393
図Ⅳ -2-134　SD175 遺物出土状況 (3)・・・・・・394
図Ⅳ -2-135　SD175 出土遺物 (1)・・・・・・・・395
図Ⅳ -2-136　SD175 出土遺物 (2)・・・・・・・・396
図Ⅳ -2-137　SD175 出土遺物 (3)・・・・・・・・397
図Ⅳ -2-138　SD175 出土遺物 (4)・・・・・・・・398
図Ⅳ -2-139　SD175 出土遺物 (5)・・・・・・・・399
図Ⅳ -2-140　SD175 出土遺物 (6)・・・・・・・・400
図Ⅳ -2-141　SD175 出土遺物 (7)・・・・・・・・401
図Ⅳ -2-142　SD175 出土遺物 (8)・・・・・・・・402
図Ⅳ -2-143　SD175 出土遺物 (9)・・・・・・・・403
図Ⅳ -2-144　SD175 出土遺物 (10)・・・・・・・・404
図Ⅳ -2-145　SD166・・・・・・・・・・・・・・406
図Ⅳ -2-146　SD166 遺物出土状況・・・・・・・・407
図Ⅳ -2-147　SD166 出土遺物・・・・・・・・・・407
図Ⅳ -2-148　SD167・168・169・・・・・・・・・・408
図Ⅳ -2-149　SD167 遺物出土状況・・・・・・・・409
図Ⅳ -2-150　SD167 出土遺物・・・・・・・・・・409
図Ⅳ -2-151　SD168 出土遺物・・・・・・・・・・409
図Ⅳ -2-152　SD170・・・・・・・・・・・・・・410
図Ⅳ -2-153　SD170 遺物出土状況・・・・・・・・410
図Ⅳ -2-154　SD170 出土遺物・・・・・・・・・・410
図Ⅳ -2-155　SD172・180・・・・・・・・・・・411
図Ⅳ -2-156　SD172 遺物出土状況・・・・・・・・411
図Ⅳ -2-157　SD172 出土遺物・・・・・・・・・・412
図Ⅳ -2-158　SD180 遺物出土状況・・・・・・・・412
図Ⅳ -2-159　SD180 出土遺物・・・・・・・・・・413
図Ⅳ -2-160　SD174・・・・・・・・・・・・・・414
図Ⅳ -2-161　SD176・・・・・・・・・・・・・・414
図Ⅳ -2-162　SD176 遺物出土状況・・・・・・・・414
図Ⅳ -2-163　SD176 出土遺物・・・・・・・・・・415
図Ⅳ -2-164　SD177・182・・・・・・・・・・・415
図Ⅳ -2-165　SD177 遺物出土状況・・・・・・・・416
図Ⅳ -2-166　SD177 出土遺物・・・・・・・・・・416
図Ⅳ -2-167　SD179・・・・・・・・・・・・・・416
図Ⅳ -2-168　SD179 出土遺物・・・・・・・・・・417
図Ⅳ -2-169　SD181・・・・・・・・・・・・・・418
図Ⅳ -2-170　SD181 遺物出土状況・・・・・・・・418
図Ⅳ -2-171　SD181 出土遺物・・・・・・・・・・419
図Ⅳ -2-172　SD183・・・・・・・・・・・・・・420
図Ⅳ -2-173　SD184・・・・・・・・・・・・・・420
図Ⅳ -2-174　SD184 遺物出土状況・・・・・・・・421
図Ⅳ -2-175　SD184 出土遺物 (1)・・・・・・・・422
図Ⅳ -2-176　SD184 出土遺物 (2)・・・・・・・・423
図Ⅳ -2-177　SD185・・・・・・・・・・・・・・423
図Ⅳ -2-178　SD185 遺物出土状況・・・・・・・・424
図Ⅳ -2-179　SD185 出土遺物 (1)・・・・・・・・425
図Ⅳ -2-180　SD185 出土遺物 (2)・・・・・・・・426
図Ⅳ -2-181　SD187・188・・・・・・・・・・・427
図Ⅳ -2-182　SD187 遺物出土状況・・・・・・・・428
図Ⅳ -2-183　SD187 出土遺物 (1)・・・・・・・・429
図Ⅳ -2-184　SD187 出土遺物 (2)・・・・・・・・430
図Ⅳ -2-185　SD187 出土遺物 (3)・・・・・・・・431
図Ⅳ -2-186　SD188 遺物出土状況・・・・・・・・432
図Ⅳ -2-187　SD188 出土遺物・・・・・・・・・・432
図Ⅳ -2-188　SD189・・・・・・・・・・・・・・432
図Ⅳ -2-189　SD189 遺物出土状況・・・・・・・・433

図Ⅳ -2-190　SD189 出土遺物・・・・・・・・・・433
図Ⅳ -2-191　SD190・・・・・・・・・・・・・・434
図Ⅳ -2-192　SD190 遺物出土状況・・・・・・・・434
図Ⅳ -2-193　SD190 出土遺物・・・・・・・・・・435
図Ⅳ -2-194　SD191・・・・・・・・・・・・・・436
図Ⅳ -2-195　SD191 遺物出土状況・・・・・・・・436
図Ⅳ -2-196　SD191 出土遺物・・・・・・・・・・437
図Ⅳ -2-197　SD192・・・・・・・・・・・・・・437
図Ⅳ -2-198　SD192 遺物出土状況・・・・・・・・438
図Ⅳ -2-199　SD192 出土遺物・・・・・・・・・・439
図Ⅳ -2-200　SD193・194・・・・・・・・・・・439
図Ⅳ -2-201　SD193 遺物出土状況・・・・・・・・440
図Ⅳ -2-202　SD193 出土遺物・・・・・・・・・・440
図Ⅳ -2-203　SD194 遺物出土状況・・・・・・・・441
図Ⅳ -2-204　SD194 出土遺物・・・・・・・・・・441
図Ⅳ -2-205　SD195・197・198・199・・・・・442
図Ⅳ -2-206　SD195 遺物出土状況・・・・・・・・443
図Ⅳ -2-207　SD195 出土遺物・・・・・・・・・・444
図Ⅳ -2-208　SD197 遺物出土状況・・・・・・・・445
図Ⅳ -2-209　SD197 出土遺物・・・・・・・・・・446
図Ⅳ -2-210　SD198 遺物出土状況・・・・・・・・447
図Ⅳ -2-211　SD198 出土遺物・・・・・・・・・・447
図Ⅳ -2-212　SD196・・・・・・・・・・・・・・448
図Ⅳ -2-213　SD196 出土遺物・・・・・・・・・・449
図Ⅳ -2-214　SD200・・・・・・・・・・・・・・449
図Ⅳ -2-215　SI03・・・・・・・・・・・・・・・450
図Ⅳ -3-1　SE11・・・・・・・・・・・・・・・・451
図Ⅳ -3-2　SE12・・・・・・・・・・・・・・・・451
図Ⅳ -3-3　SE13・・・・・・・・・・・・・・・・451
図Ⅳ -3-4　SE14・・・・・・・・・・・・・・・・451
図Ⅳ -3-5　SE15・・・・・・・・・・・・・・・・451
図Ⅳ -3-6　SE16・・・・・・・・・・・・・・・・451
図Ⅳ -3-7　SE17・・・・・・・・・・・・・・・・452
図Ⅳ -3-8　SE18・・・・・・・・・・・・・・・・452
図Ⅳ -3-9　SE19・・・・・・・・・・・・・・・・452
図Ⅳ -3-10　SE11 遺物出土状況・・・・・・・・・452
図Ⅳ -3-11　SE12 遺物出土状況・・・・・・・・・453
図Ⅳ -3-12　SE13 遺物出土状況 (1)・・・・・・・454
図Ⅳ -3-13　SE13 遺物出土状況 (2)・・・・・・・455
図Ⅳ -3-14　SE14 遺物出土状況・・・・・・・・・456
図Ⅳ -3-15　SE15 遺物出土状況・・・・・・・・・457
図Ⅳ -3-16　SE16 遺物出土状況・・・・・・・・・457
図Ⅳ -3-17　SE17 遺物出土状況・・・・・・・・・457
図Ⅳ -3-18　SE19 遺物出土状況・・・・・・・・・457
図Ⅳ -3-19　SE 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・458
図Ⅳ -3-20　SE 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・459
図Ⅳ -3-21　SE 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・460
図Ⅳ -3-22　SE 出土遺物 (4)・・・・・・・・・・461
図Ⅳ -3-23　SE 出土遺物 (5)・・・・・・・・・・462
図Ⅳ -3-24　SE 出土遺物 (6)・・・・・・・・・・463
図Ⅳ -3-25　SE 出土遺物 (7)・・・・・・・・・・464
図Ⅳ -3-26　SE 出土遺物 (8)・・・・・・・・・・465
図Ⅳ -3-27　SE 出土遺物 (9)・・・・・・・・・・466
図Ⅳ -3-28　SE 出土遺物 (10)・・・・・・・・・・467
図Ⅳ -3-29　SE 出土遺物 (11)・・・・・・・・・・468
図Ⅳ -3-30　SE 出土遺物 (12)・・・・・・・・・・469
図Ⅳ -3-31　SE 出土遺物 (13)・・・・・・・・・・470
図Ⅳ -4-1　SK31・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-2　SK32・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-3　SK33・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-4　SK34・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-5　SK35・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-6　SK36・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-7　SK37・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-8　SK38・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-9　SK39・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-10　SK40・・・・・・・・・・・・・・・・472
図Ⅳ -4-11　SK41・・・・・・・・・・・・・・・・473
図Ⅳ -4-12　SK31 遺物出土状況・・・・・・・・・473
図Ⅳ -4-13　SK33 遺物出土状況・・・・・・・・・473
図Ⅳ -4-14　SK38 遺物出土状況・・・・・・・・・473
図Ⅳ -4-15　SK41 遺物出土状況・・・・・・・・・474
図Ⅳ -4-16　SK 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・475
図Ⅳ -4-17　SK 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・476
図Ⅳ -4-18　SK 出土遺物 (3)・・・・・・・・・・477
図Ⅳ -4-19　SK 出土遺物 (4)・・・・・・・・・・478

図Ⅳ -5-1　SB28(1)・・・・・・・・・・・・・・・479
図Ⅳ -5-2　SB28(2)・・・・・・・・・・・・・・・480
図Ⅳ -6-1・2　遺構内 pit・・・・・・・・・・481・482
図Ⅳ -6-3 ～ 36　遺構外 pit・・・・・・・・483 ～ 503
図Ⅳ -6-37　pit 出土遺物 (1)・・・・・・・・・・503
図Ⅳ -6-38　pit 出土遺物 (2)・・・・・・・・・・504
図Ⅳ -7-1　SX03・・・・・・・・・・・・・・・・505
図Ⅳ -7-2　SX04・・・・・・・・・・・・・・・・505
図Ⅳ -7-3　SX04 遺物出土状況・・・・・・・・・505
図Ⅳ -7-4　SX04 出土遺物・・・・・・・・・・・505
図Ⅳ -8-1　遺構外出土遺物 (1)・・・・・・・・・・507
図Ⅳ -8-2　遺構外出土遺物 (2)・・・・・・・・・・508
図Ⅳ -8-3　遺構外出土遺物 (3)・・・・・・・・・・509
図Ⅳ -8-4　遺構外出土遺物 (4)・・・・・・・・・・510
図Ⅳ -8-5　遺構外出土遺物 (5)・・・・・・・・・・511
図Ⅳ -8-6　遺構外出土遺物 (6)・・・・・・・・・・512
図Ⅳ -8-7　遺構外出土遺物 (7)・・・・・・・・・・513
図Ⅳ -8-8　遺構外出土遺物 (8)・・・・・・・・・・514
図Ⅳ -8-9　遺構外出土遺物 (9)・・・・・・・・・・515
図Ⅳ -8-10　遺構外出土遺物 (10)・・・・・・・・・516
図Ⅳ -8-11　遺構外出土遺物 (11)・・・・・・・・・517
図Ⅳ -8-12　遺構外出土遺物 (12)・・・・・・・・・518
図Ⅳ -8-13　遺構外出土遺物 (13)・・・・・・・・・519
図Ⅳ -8-14　遺構外出土遺物 (14)・・・・・・・・・520
図Ⅳ -8-15　遺構外出土遺物 (15)・・・・・・・・・521

第Ⅰ章　調査の概要

第1節　調査に至るまでの経緯

十三盛遺跡は、周知の遺跡として青森県遺跡台帳に遺跡番号205032として登録されている。平成20年4月に県文化財保護課より発掘調査の依頼があり、同年7月に現地により、国土交通省青森河川国道事務所、青森県文化財保護課、五所川原市教育委員会の三者により協議を行った結果、平成20年中に範囲確認のための試掘調査を実施することとし、平成20年10月6日から11月5日まで試掘調査を実施した結果、同範囲内において遺構の分布及び多数の遺物が確認された。

その結果を受けて平成21年3月30日付国東青調二第62号により、国土交通省青森河川国道事務所から、周知の埋蔵文化財包蔵地に対する土木工事のための発掘に関する通知があり、これを受けて同年4月8日付青教文第47号によって青森県教育委員会教育長から当該発掘前における埋蔵文化財の記録作成のための発掘調査の実施の指示がなされている。

第2節　調査要項

1　調査目的　　一般国道101号五所川原西バイパス建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する十三盛遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

2　発掘調査期間　（第1次調査）平成21年5月19日から同年10月30日まで
　　（第2次調査）平成22年5月11日から同年10月29日まで

3　報告書作成業務　平成23年4月1日～平成25年3月26日まで

4　遺跡名および所在地　十三盛遺跡（青森県遺跡番号205032）　青森県五所川原市大字長橋字広野　地内

5　調査面積　１０，２８２㎡（1次：５，１８６㎡、2次：５，０９６㎡）

6　調査委託者　国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所

7　調査受託者　五所川原市

8　調査担当機関　五所川原市教育委員会

9　調査体制

調査指導員　岩崎　繁義　（元五所川原市文化財保護審議会　会長）
　　川村　眞一　（日本地学教育学会会員、地質学）
　　高島　成侑　（元八戸工業大学教授　建築学、故人）

調査員　五所川原市教育委員会
　　教育長　木下　巽（平成24年6月22日退任）
　　長尾　孝紀（平成24年6月23日就任）
　　教育部長　福井　定治

調査担当者　社会教育課

（第1次）
　課　長　前田　晃（平成22年3月31日まで）

課長補佐　　佐藤　文孝（平成 22 年 3 月 31 日まで）
副主幹兼文化財保護係長　大沢　丈徳（事務調整・契約担当）
十三湊発掘調査室主査　　榊原　滋高（調査担当）
十三湊発掘調査室主任　　長利　豪美（調査担当）
主　　査　藤原　弘明（調査担当）
主　　任　一戸　恵（庶務担当）
調査補助員　工藤　輝美、石戸谷　康仁、三上　智世、阿部　美希
（第 2 次）
課　　長　　井沼　清英（平成 22 年 4 月 1 日～）
課長補佐　　春藤　篤子（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）
主幹兼文化財保護係長　大沢　丈徳（事務調整・契約担当）
主　　幹　　門間　祐子（庶務担当）
主　　査　　藤原　弘明（調査担当）
調査補助員　工藤　輝美、阿部　美希、沢田　鯉香（平成 22 年 7 月 31 日まで）
木村　千春（平成 22 年 8 月 1 日～）、棟方　和美（平成２３年２月 28 日まで）
（整理作業、平成 23・24 年度）
課　　長　　井沼　清英
課長補佐　　中谷　文一（平成 23 年 4 月 1 日～）
主　　幹　　門間　祐子（庶務担当）
文化財保護係長　　藤原　弘明（事務調整・契約・報告書作成業務担当）
主　　事　　江戸　邦之（平成 23 年 4 月 1 日～、事務調整・契約担当）
調査補助員　工藤　輝美、木村　千春、棟方　和美、（以上平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日まで）尾崎　純（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日まで）

第３節　調査方法

調査はグリッド法を基本とした分層発掘を行った。

グリッドの起点は、既に前年において青森県埋蔵文化財調査センターが実施している発掘調査で使用している基準点 AA01（X=91,700、Y=-33,020）とし、１グリッド４ｍ四方として、ローマ数字と算用数字の組み合わせで設定した。具体的には、南北方向にはアルファベット２文字の組み合わせ（北に向かってＡＡ・ＡＢ・ＡＣ・・・、アルファベットはＡからＹまでの 25 文字でＺは使用せず）を、東西方向には算用数字（西に向かって１・２・３・・・）を付して使用している。グリッドの呼称は南東隅の交点の値を用いた。

測量点は青森県埋蔵文化財調査センターで設置した基準点（ILT1：Ｘ＝ 91841.500、Ｙ＝ -33261.800、IRT1：Ｘ＝ 91885.000、Ｙ＝ -33272.700、）を使用し、調査区内に適宜設置した。

土層の掘削は、事前に重機により水田耕作土を掘削したのち、基本層序のⅣ層から人力により掘削した。遺構の確認はⅣ層では、遺構の埋土がⅣ層由来のため、検出が困難であるので、主として地山まで掘削したのち確認している。検出された遺構は確認面において、堆積状況を把握するために規模や必要に応じて二分法・四分法を用い、土層観察用のベルトを残しながら行った。またピットに関し

ては、柱穴の痕跡を確認するため、全体を柱穴痕が確認できるまで段下げし、柱穴確認後に二分法を使用して、土層の堆積状況を確認した。

遺物の取り上げは、基本的に遺構及びグリッド単位で一括して取り上げているが、重要なものに関しては、トータルステーションによる測量で取り上げ、その中でも貴重と考えられるものは、垂直面からの写真撮影を行ったのち微細図を作成している。

調査区範囲や遺構の平面図の実測はトータルステーションによる三次元測量データを用いた株式会社ＣＵＢＩＣの遺構実測支援システム「遺構くん」により図化している。また遺構の土層断面図に関しては、簡易遣り方測量により作成した。

作図図面の縮尺は 20 分の 1 を基本とし、遺物の微細図など必要に応じて 10 分の 1 でも作成している。

遺構の呼称は、調査時に五所川原市教育委員会で付した略号を使用し、検出順に１・２・３･･･と呼称したが、一部に欠番がある。

層名は、遺構の堆積土には算用数字を付け、確認面での最終堆積土を 1 層とし、下位に順に 2・3・4･･･と表記した。また基本層序は表土をⅠ層として下位へ順次Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ･･･と、細分に際してはアルファベット小文字（ａ・ｂ・ｃ ･･･）を付した。土層観察には『土色帖』を用い、土色とマンセル記号を併記し、由来層、土質、粘性、しまり、含有物などの特徴を記した。

写真撮影は、遺構の検出状況・土層断面・遺物の出土状況・遺構の完掘状況等を中心に、調査の状況により適宜撮影した。その他に必要に応じて、遺構外の出土遺物や調査状況についても記録した。

カメラは 35mm1 眼レフカメラでモノクロ・リバーサルフィルムを使用して撮影したほか、デジタルカメラも併用した。また、調査区全域及び広範囲に及ぶ遺構に関しては、ラジコンヘリコプターによる空中撮影で対応した。

第 4 節　調査の経過

[1 次調査]

平成 21 年 4 月下旬　重機により、調査区全体の耕作土の除去を行う。

5 月 14 日　調査区東側の事務所兼駐車場内に調査機材を搬入して、調査区西側部分（西区）の調査を実施する。まず、Ⅴ層まで掘り下げ遺構の有無を確認する。

6 月 23 日　西区の遺構の確認が終了し、西区東端より精査に入る。東端には圃場整備以前まで使用されていた堰跡が存在し、攪乱が著しかった。

7 月上旬　西区東側部分の約 4 分の 1 程度の精査を行ったところ外周溝を伴うピット群が多数検出された。また外周溝の外縁に沿って柵列が検出された。

7 月下旬　西区東側部分の約 3 分の 1 程の精査を行ったところ外周溝を伴うピット群は、南東方向に開口部を有する溝が幾重にも重複した状態で北東方向から南西方向へと直線的に延びていることが判明した。

8 月上旬　雨天が多く、また、周囲の水田からの湧水により溝跡の調査が捗らず、今年度では調査区全体を終了することは困難であると判断し、国土交通省青森河川国道事務所、青森県文化財保護課との協議により、今年度は西区のみの調査とすることに決定した。

8 月下旬　西区調査区の約半分が終了したところで、ラジコンヘリによる空中撮影を実施した。

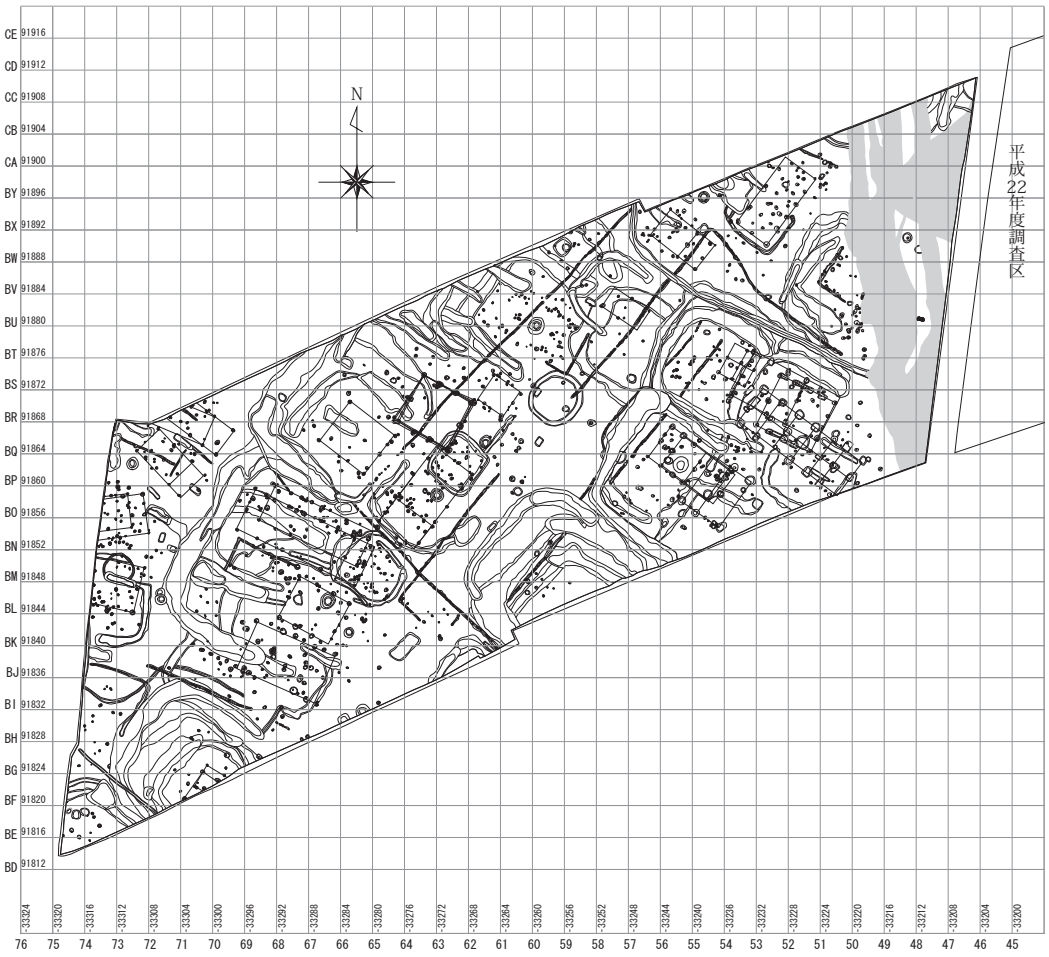
9月上旬　西区西側部分の精査に入る。東側部分同様に外周溝を有するピット群が多数検出された。

9月下旬～10月上旬　引き続き西区西側部分の精査を行う。

10月下旬　西区全体の空中写真撮影をラジコンヘリを使用して実施した。

10月29・30日　調査機材及び出土遺物の搬出を行って、21年度の発掘調査は終了した。

11月～3月　出土遺物の水洗、注記作業、実測図作成作業を行うとともに、木製品の樹種同定及び保存処理を実施した。



図Ⅰ-4-1　平成21年度調査区

[2次調査]

平成22年5月11日～6月3日　調査区西側の事務所兼駐車場内に調査機材を搬入して、調査区東側部分（東区）の調査を実施する。まず、Ⅴ層まで掘り下げ遺構の有無を確認する、また旧水田跡部分に関しては水田耕作面を掘り下げ、遺構の有無を確認した。

6月上旬　東区の遺構の確認が終了し、東区西端より精査に入る。西端には圃場整備以前まで使用されていた水田跡、堰跡が存在し、攪乱が著しかった。

7月　東区西側部分の精査を行う。多くの溝跡が検出されたが、近世以降の旧水田跡の攪乱のため、全体の規模・形状がわかるものは少なく、判明したものは西区と同様のコの字形の溝跡であった。

8月上旬　引き続き東区西側部分の精査を行う。

8月19日　空撮のため西側部分のクリーニングを実施する。午後より調査指導委員の高島先生と岩崎先生に現地指導を実施して頂く。

8 月 21 日　東区の西側部分の調査が終了したところで、ラジコンヘリによる空中撮影を実施した。

8 月 22 日～ 26 日　東側に仮置きしていた西側で掘り上げた残土を調査済みの西側に埋め戻し、敷き慣らしを行った。

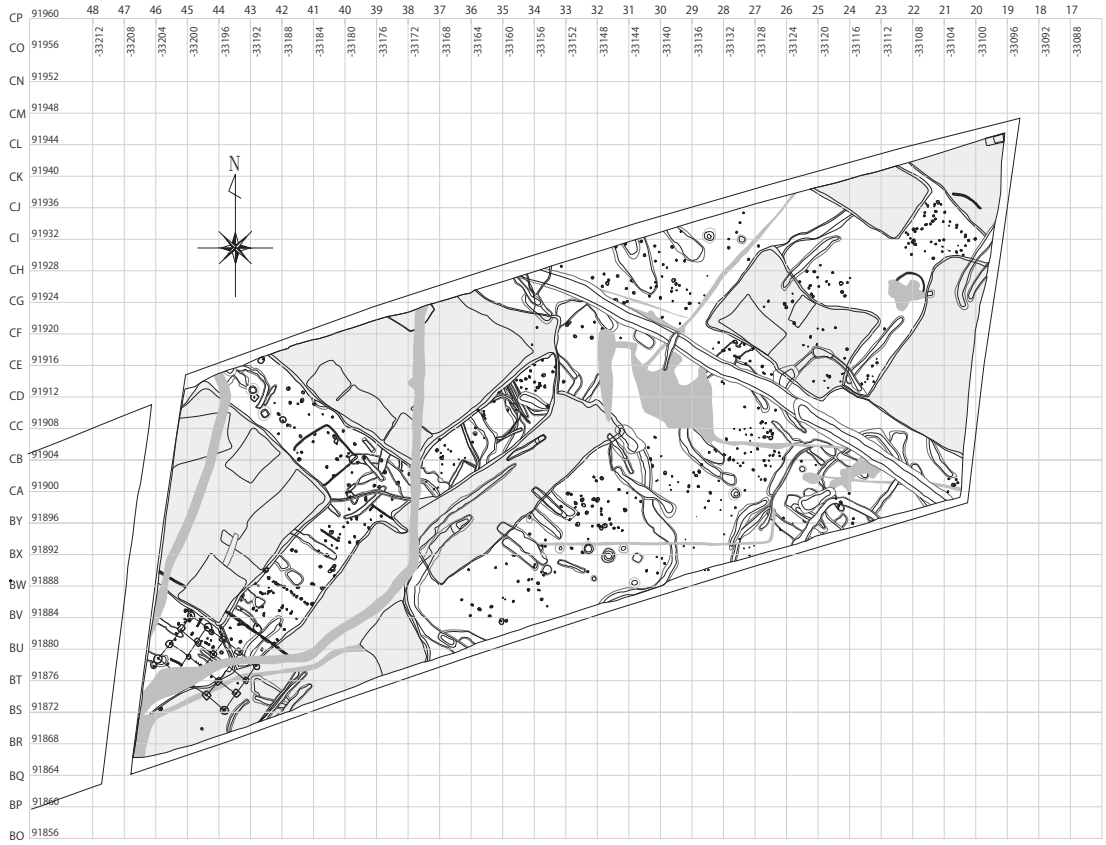
9 月 1 日～ 10 月　東区東側の精査を実施した。

10 月 19 日・20 日　空撮のため調査区内のクリーニングを実施した。

10 月 21 日　東側部分の調査が終了したところで、ラジコンヘリによる空中撮影を実施した。

10 月 29・30 日　調査機材及び出土遺物の搬出を行って、22 年度の発掘調査は終了した。

11 月～ 3 月　出土遺物の水洗、注記作業、実測図作成作業を行うとともに、木製品の樹種同定及び保存処理を実施した。



図Ⅰ -4-2　平成 22 年度調査区

平成 23・24 年度　報告書作成業務

（平成 23 年度）4 月～ 3 月　第 2 次調査の図面整理及び出土遺物の実測図を作成した。それと同時に木製品の樹種同定、保存処理を実施するとともに、木製品の鑑定を山田昌久首都大学東京教授に依頼して実施した。

（平成 24 年度）4 月～ 3 月　昨年度に引き続き木製品の樹種同定、保存処理を実施するとともに、木製品の鑑定を山田昌久首都大学東京教授に依頼して実施した。

第Ⅱ章　遺跡周辺の環境と遺物の分類基準

第 1 節　遺跡周辺の自然環境

日本地学教育学会会員（地質学）　川村　眞一

第 1 項　津軽平野の堆積環境の特徴

津軽平野は堆積環境の違いから次の三つの地域に区分できる。

ⅰ　扇状地地域　藤崎町以南の地域で盆地状地形となっており、主要河川岩木川、平川、浅瀬石川とこれら水系に注ぐ小河川による複合的な扇状地が形成されている。

ⅱ　自然堤防地域　藤崎町から五所川原市付近の地域で、自然堤防と後背低地からなる。岩木川は藤崎町で平川、浅瀬石川と合流し、水量が増え傾斜も小さく氾濫が繰り返し起こり自然堤防帯を形成している。

ⅲ　三角州性沖積地域　五所川原市付近以北の津軽平野北部の地域で、鶴田町妙堂崎－つがる市桑野木田－五所川原市姥萢－米田を結ぶ線より以北の平野。この地域は低平な低湿地が大部分を占める。

十三盛遺跡は三角州性沖積地域南端の五所川原市街地北側に立地している。

第 2 項　遺跡の立地する三角州性沖積地域の成立過程

気候が寒冷化した第四紀更新世 (258~1.17 万年) は、氷期と間氷期の気候の差が大きかった。完新世 (1.17 万年以降) に入り気候は温暖化し、海面は変動を繰り返しながら上昇し、現在に至っている。津軽平野北部の三角州性沖積地が、海面変動とのかかわりで形成されていった過程をみてみる。

更新世最終氷期に低下していた海面は完新世はじめころには現在より約－ 40m まで上昇し、以後も上昇を続け約 6,000 年前にピークに達し (縄文海進)、津軽平野北部の地域には急激な海進に伴って広大な潟湖が形成された (縄文時代前期)。その湖底にはシルト・粘土層が堆積した。この時期、板柳町から鶴田町にかけては氾濫原堆積物により自然堤防帯が形成されていた。この自然堤防帯地域は縄文時代中期や弥生時代後期の小海退に伴い侵食により幅広い谷を形成し、谷中には樹林が生育 (縄文時代晩期後半から弥生時代初期) した。自然堤防帯地域開析に伴う河川運搬物質は、拡大した潟湖に三角州の前置層堆積物としてシルト・砂層を堆積し、広大な三角州性沖積地を形成させていった。その埋積状況は昭和 23 年米軍撮影の空中写真 44W31PRSM1011314CW から曲流・分岐する水路後が見られ、浅い水域に注ぐ河口付近あるいは鳥趾状デルタの末端部を推定させる。このような堆積をしながら潟湖を次第に埋積させていったと考えられる。

三角州性沖積地域では現在の岩木川に沿って自然堤防が延長し、自然堤防部分には砂・シルトが堆積し、後背湿地には粘土や泥炭質の堆積物が堆積し、潟湖の埋積過程でつくられた自然堤防のような微地形を埋積した。なお、埋め残された自然堤防状微高地は三角州性沖積地には数多く存在する。

第 3 項　遺跡周辺の地形

①　岩木川左岸の地形

図Ⅱ-1-1　遺跡周辺地形分類図

五所川原図幅は　東北地方建設局（1977）治水地形分類図２万５千分の１
金木図幅は青森県（1993）土地分類基本調査金木５万分の１および小池一之・町田洋編（2001）日本の海成段丘アトラスによる

つがる市柏の小和巻、桑野木田の上派立・下町・鶴野、上古川、下古川集落は岩木川左岸に発達する自然堤防で、下流では五所川原市の小曲、つがる市木造の川除と続いている。左岸地域で特徴的なのはつがる市の柏から木造の三角州性沖積地域には、この地域に広がっていた潟湖の埋積過程で河川の本・分流にできた自然堤防の埋め残しと考えられる微高地・旧自然堤防が見られることである。広須、木造、蓮花田と続く旧自然堤防のほか、上相野、下相野、柴田、中館、さらに漆館、中田、近野、平野、菊川、遠山等にみられる。

② 岩木川右岸の地形

板柳町を中心とした自然堤防帯を経て、鶴田町から下流の岩木川右岸にみられる現自然堤防は鶴田、強巻、大巻、五所川原市街地、田川、高瀬と続いている。これらのうち五所川原市街地を載せる自然堤防は標高 9m~7.5m を示し、長さ約 3㎞、最大幅は約 1㎞で最も規模が大きい。

右岸地域で特徴的なのは、遺跡の東部に飯詰川・天神川の各谷口を中心に扇状地がみられ、それらが複合した扇状地が形成されていることである。扇状地の扇端は飯詰川扇状地ではほぼ南北方向であるが、天神川の扇端は南東方向へ後退している。

岩木川現自然堤防と扇状地に挟まれた低地中を十川が蛇行しながら北北西へ流れる。これら低地には三角州分流で形成された自然堤防の埋め残しと思われる旧自然堤防が、稲実、石岡、唐笠柳、米田、漆川等に転々と見られる。十川下流流路沿いの自然堤防には川山、種井集落が立地している。

第 4 項　遺跡の地質

遺跡は自然堤防、後背低地堆積物からなる。前者は細砂、極細砂、極細砂質シルト、後者はシルト質粘土、泥炭質シルト、泥炭等の堆積物から構成されている。

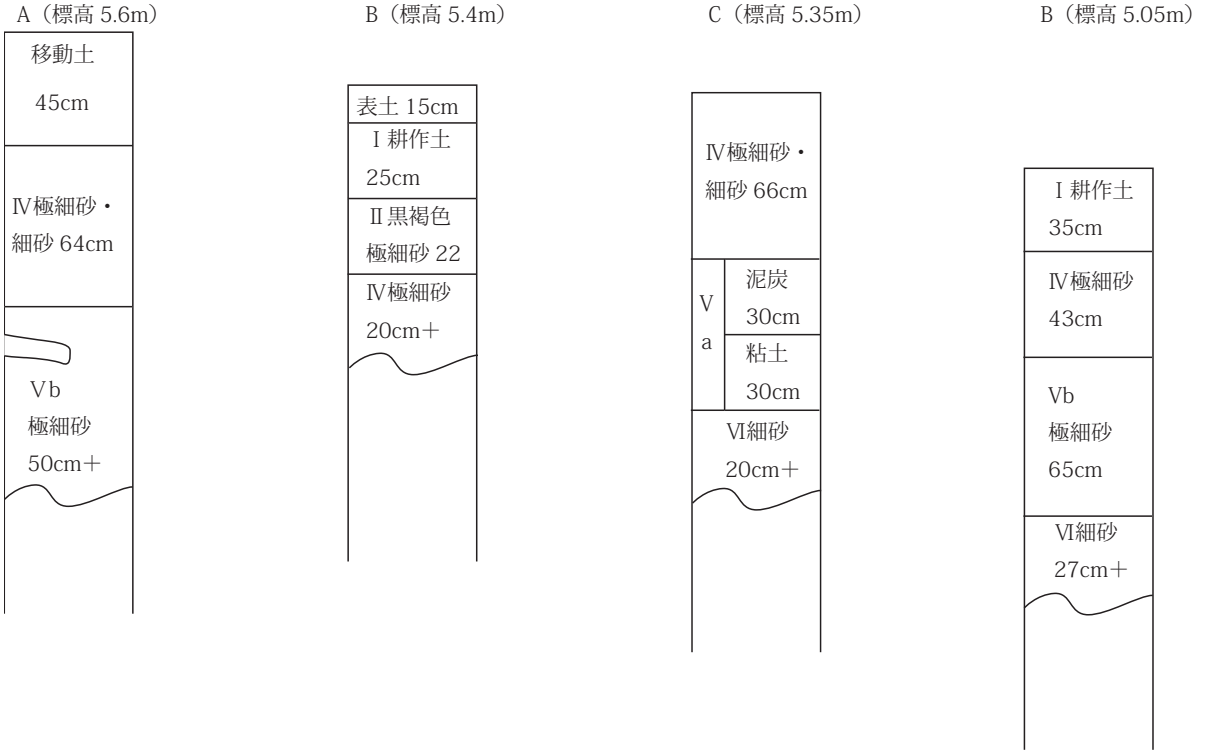
本遺跡の地質をまとめると表Ⅱ -1-1 のとおりである。

表Ⅱ -1-1　十三盛遺跡層序

層		層厚㎝	注　　記
表 土		15~25	団粒状シルトと耕作土シルト小塊の混合
耕作土	Ⅰ	33~37	黒褐色 (2.5Y3/1) 極細粒砂　根毛・細茎、鉄バクテリア沈着細茎も一部含む。
褐灰色極細粒砂 (10YR5/1)	Ⅱ	22	炭化物粒子若干混入。管状植物茎跡には灰色 (N5/) シルトが充填。下部 7~10㎝には下位Ⅳ層の灰黄色極細粒砂小塊混合。Ⅳ層との境界は凹凸があり、不整合的である。遺物包含層 (平安時代)。
腐植質黒褐色シルト	Ⅲ		成層として確認できないが、溝の堆積物から堆積を推定。堆積時期は平安時代か。
にぶい黄色極細砂 (2.5Y6/3)	Ⅳ	66	粗粒砂サイズの軽石まじりの中砂 ~ 粗砂薄層の互層する部分も見られ、自然堤防堆積層の特徴を示す。暗灰黄色軽石混じり凝灰質極細粒砂 ~ シルトの層相も示す。酸化した褐色管状植物茎跡が顕著である。自然堤防堆積物
暗褐色泥炭 (7.5YR3/2)	Ⅴa	Ⅴa 60	暗褐色泥炭 (7.5YR3/2)~ 黒褐色泥炭質シルト (7.5YR3/2) およびオリーブ (5GY5/1) シルト質粘土。低湿地堆積物
暗灰黄色極細粒砂 (2.5Y4/2)	Ⅴb	Ⅴb 65	暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細粒砂質極細粒砂。自然堤防堆積物
暗オリーブ灰細粒砂 (5GY4/1)	Ⅵ	27 ＋	暗オリーブ灰 (5GY4/1) 細粒砂 ~ オリーブ灰極細粒砂 (5GY5/1)。自然堤防堆積

第５項 遺跡の土層（図Ⅱ -1-2）

遺跡区域の最西端、最東端とこの間二個所を合わせた四個所の土層について述べる。各土層位置を西から東へ A,B,C,D とした。遺構配置図では A は BE75、B は BX60、C は BW32、D は CL20 である。



図Ⅱ-1-2　土層柱状図

A トレンチ

最上層は、黒褐色シルトと黒色土のルーズな混合層で、3~7㎝の亜角礫状団塊と灰黄褐色シルトの不規則小塊を多く含み締りもないことから、撹乱・移動土と思われる。

Ⅳ層は灰黄色シルト質極細砂、暗灰黄色極細砂、細粒砂の互層で自然堤防堆積物の特徴を示す。層厚は 64㎝であるが、上面は少し削剥されているものと考えられる。

Ｖｂ層は暗オリーブ灰～暗緑灰色極細砂からなり、上部には幅約 40㎝、厚さ 20㎝、長さ 50㎝＋の埋れ木片がみられ、洪水流堆積物であろう。

B トレンチ

遺跡区域西側の北側壁面である。耕作土Ⅰ層の下位にあるⅡ層は褐灰色極細粒砂でⅣ層の凝灰質シルト、灰黄色極細砂の小塊を含む。遺物包含層である。Ⅲ層は本遺跡で成層として確認できないが、遺構の溝堆積物には腐植質黒褐色シルトの堆積が見られ、かつて腐植質黒褐色シルトが堆積していたことをうかがわせることからⅢ層を設定した。Ⅲ層の堆積は平安時代と推定される。

C トレンチ

遺跡区域東側に近い南側にある井戸遺構である。Ⅳ層は黄褐色～黄灰色極細粒砂の基質に粗砂サイズの軽石を含む中砂の薄層が互層しており、層相や構成粒子から自然堤防堆積物と考えられる。層厚は 66㎝であるが、遺構面整理のため若干削られていると思われる。本遺跡のⅣ層の層厚は約 70㎝と

考えられる。

Ⅳ層下位のＶａ層は、下位のオリーブ灰シルト質粘土 (14㎝) からはじまり、上方へ暗褐色 (7.5YR3/2) 泥炭 (16㎝)、泥炭化した枝、材の細片まじり灰黄褐色粘土質シルト (15㎝) へと変化している。

Ⅵ層は暗オリーブ灰細粒砂となっている。

Ｃトレンチ地質層序からはⅥ層の自然堤防形成中に、たとえば河道の変遷があり、Ｃトレンチ周辺が低湿地となりＶａ層の泥炭を形成させたのであろう。その後、再び自然堤防形成の場となり遺跡が立地したものと思われる。

Ｄトレンチ

遺跡区域の最東北端に位置する。水田整備の際にⅡ層は削られて欠になっており、Ⅳ層も一部削剥されている。Ⅳ層は暗灰黄色軽石混じり凝灰質極細粒砂～シルトからなる。植物茎の周辺に酸化鉄が沈着し赤褐色の細枝殻が縦横に見られる。Ⅳ層のこの特徴は本遺跡を通して共通している。Ｖｂ層は暗灰黄色細砂質極細粒砂で、小枝、細茎を多く含む。Ⅵ層は小枝を含むオリーブ灰細粒砂となっている。

第６項　遺跡が立地している地形

遺跡の土層でみてきたように、遺跡は自然堤防堆積物である細粒砂からなるⅥ層を基盤とし、井戸遺構周辺でＶａ層堆積時期低湿地環境になったものの、井戸遺構周辺以外の区域では基盤から自然堤防の環境が続いている。最終的には遺跡区域全域がⅣ層を堆積させた自然堤防環境下になった。その構成物質は酸化した褐色管状植物茎跡が顕著にみられるにぶい黄色極細砂である。このⅣ層面が遺構立地面である。

遺跡は五所川原市街地を載せる自然堤防の北端新宮集落の北方約 700m に所在する。国土地理院の空中写真Ｃ　TO － 75 － 20　Ｃ　13 － 21・21 には、新宮集落から遺跡方向へ向かって周辺に比して微かな明色の帯がみられ、この両側は暗色帯で低湿地がうかがわれる。このことから新宮集落を載せる自然堤防帯が遺跡へと延び、遺跡を含む新宮集落以北の自然堤防帯は埋没しているものと推定される。遺跡面は約 80㎝の土砂で被覆されている。本遺跡は新宮集落から続く自然堤防帯の埋没された自然堤防の一部に立地していると考えられる。遺構面の標高は西端 5.7m、東端 5.0m で東へ緩傾斜している。

引用文献

青森県史編さん自然部会 (2001)『青森県史 自然編 地学』青森県史友の会 79 － 85
小池・田村・鎮西・宮城編 (2005)『日本の地形 3 東北』東京大学出版会　200 － 205
海津正倫 (1976)「津軽平野の沖積世における地形発達史」 地理学評論 716 － 731

第２節　遺跡周辺の歴史的環境

五所川原市は津軽平野の西北部に位置し、東は青森市、西はつがる市、南は鶴田町及び板柳町、北は中泊町と接している。市の西側部分は、岩木山に源を発し十三湖に流入する岩木川によって津軽平野が形成され、東側部分は袴腰岳、大倉岳、魔の山、馬ノ神山が南北に連なる東高西低の地形を呈する。

十三盛遺跡が立地する五所川原市大字長橋地区は、旧十川と岩木川との両河川に挟まれた標高５～ 6m の沖積地であり、現在は水田耕作地となっている。従来五所川原地区では、低湿地帯での遺跡は殆ど見られず、遺跡の密集する地域は河岸段丘上であると考えられてきた。それを示すように、五所川原市側の遺跡を見れば、現在の水田面よりも一段高い場所で確認されている。周辺の遺跡としては、薮里遺跡、鴻の巣遺跡、長富遺跡等が挙げられる。またつがる市では当遺跡と同様の地形に立地する同時期の遺跡として石上神社遺跡や、久米川遺跡、上相野遺跡等が所在する。

昭和 51 年に県営圃場整備事業に伴い発掘調査が実施された石上神社遺跡は、標高４～ 5m の岩木川左岸の自然堤防上の微高地に立地し、井戸跡３基、土坑 37 基、溝跡３条、溝状遺構 40 条、不明の竪穴遺構５基が検出され、遺物として土師器、須恵器、擦文土器、紡錘車・土錘などの土製品とともに多くの木製品が出土している（新谷武ほか　1977）。

平成４年に津軽北部広域農道建設に伴い発掘調査が実施された久米川遺跡は、標高２～ 3m の岩木川左岸の自然堤防上の微高地に立地し、竪穴遺構３基、土坑 60 基、溝跡 47 条、焼土遺構１、ピット群 14 箇所が検出され、遺物として土師器、須恵器、擦文土器、紡錘車・土錘などの土製品とともに多くの木製品が出土している（福田友之ほか　1994）。

平成 13 年に県営農村整備事業に伴い発掘調査が実施された上相野遺跡は、標高 7m の旧岩木川分流左岸の自然堤防上に立地し、土坑２基、溝状遺構９条、ピット４基が検出され、土師器、須恵器、擦文土器、紡錘車・土錘などの土製品とともに木製品が出土している（佐野　忠史　2004）。いずれの遺跡も本遺跡と遺構及び遺物が非常に類似している。佐野が示しているように（佐野　前掲）、9 世紀後半から津軽地方では遺跡数が増大するが、最初は現在の水田面より一段高い洪積台地上に遺跡

表Ⅱ -2-1 遺跡地名表

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別
1	205032	十三盛遺跡	五所川原市大字長橋字広野、大字新宮字稲村	平安、近世	集落跡
2	205055	薮里遺跡	五所川原市大字田川字薮里	縄文 (晩)、平安、近世	散布地
3	205026	鴻の巣遺跡	五所川原市大字桜田字鴻の巣	平安	散布地
4	205028	長富遺跡	五所川原市大字長富字鎧石	縄文 (前・中)	散布地
5	205121	雲雀野 (2) 遺跡	五所川原市金木町嘉瀬雲雀野、中柏木鎧石	縄文 (後)、弥生、平安	散布地
6	205136	嘉瀬館遺跡	五所川原市金木町嘉瀬萩元	平安、中世	城館跡
7	205137	萩元遺跡	五所川原市金木町嘉瀬萩元	平安	散布地
8	205138	鎧石 (2) 遺跡	五所川原市金木町中柏木鎧石	縄文、平安	散布地
9	205139	雲雀野 (1) 遺跡	五所川原市金木町嘉瀬雲雀野	縄文	散布地
10	205142	雲雀野 (4) 遺跡	五所川原市金木町嘉瀬雲雀野	平安	散布地
11	209003	石上神社遺跡	つがる市木造蓮川玉川	平安	集落跡
12	209043	清川遺跡	つがる市木造蓮川清川	平安	散布地
13	209066	下相野遺跡	つがる市森田町下相野住吉、下相野野田、下相野住野蔵	平安、近世	散布地
14	209077	栄田遺跡	つがる市森田町上相野松緑、森田町上相野浪風	平安	散布地
15	209086	上相野遺跡	つがる市森田町上相野若緑、上相野松緑、上相野明石	平安、近世	集落跡
16	209094	桑野木田八幡遺跡	つがる市柏桑野木田八幡	平安、近世	散布地
17	209095	久米川遺跡	つがる市稲垣町沼崎幾米川	平安	集落跡
18	209096	松枝遺跡	つがる市稲垣町吉出吉田、吉出福富	平安	集落跡

図Ⅱ -2-1　周辺の遺跡位置図

が形成され、10 世紀中葉以降から津軽平野と呼ばれる現在の水田面である沖積地へと進出することになる。この原因として主に挙げられるのが、河川周辺に形成された自然堤防上で集落形成が可能となった時期が 10 世紀中葉以降であり、生業の変化として水田耕作に適した立地条件への移動であると考えられる。

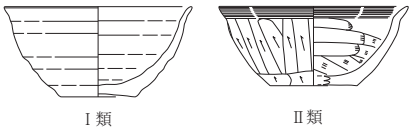
第 3 節　出土遺物の分類基準

1）土師器坏

土師器坏はその製作技法により、以下の 2 種類に大別された。

坏Ⅰ類：ロクロ使用の坏。

坏Ⅱ類：非ロクロの坏、主としてケズリ調整で整形されている。



図Ⅱ-3-1　坏の分類

さらに内面の黒色処理の有無により、以下の 2 種類に細別された。

a 類：内面黒色処理されないもの。

b 類：内面黒色処理されているもの。ミガキ調整が施されるものとロクロ成形のみののものが見られた。

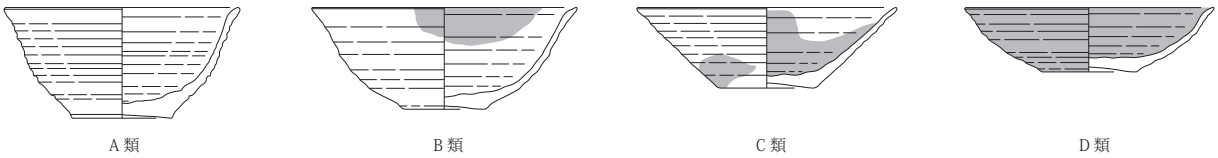
また、器形による分類として

A 類：底部から内弯気味に立ち上がるいわゆる埦と呼ばれるもの。器高に対する口径の比率が 0.40 以上のもの。

B 類：底部から内弯気味あるいは、直線的に外傾する埦形坏。器高に対する口径の比率が 0.35 以上 0.40 未満のもの。

C 類：底部から直線的に外傾する皿形坏。器高に対する口径の比率が 0.30 以上 0.35 未満のもの。

D 類：皿と呼ばれるもの。器高に対する口径の比率が 0.29 以下のもの。



図Ⅱ-3-2　坏の器形分類

また口縁部の形状により以下の 3 分類に可能である。

1 類：直上ないしは内弯するもの。

2 類：外弯するもの。

3 類：外反するもの。

図Ⅱ-3-3　口縁部の形状分類

2）土師器甕

土師器甕は器形の違いにより以下の 4 種類に大別された。

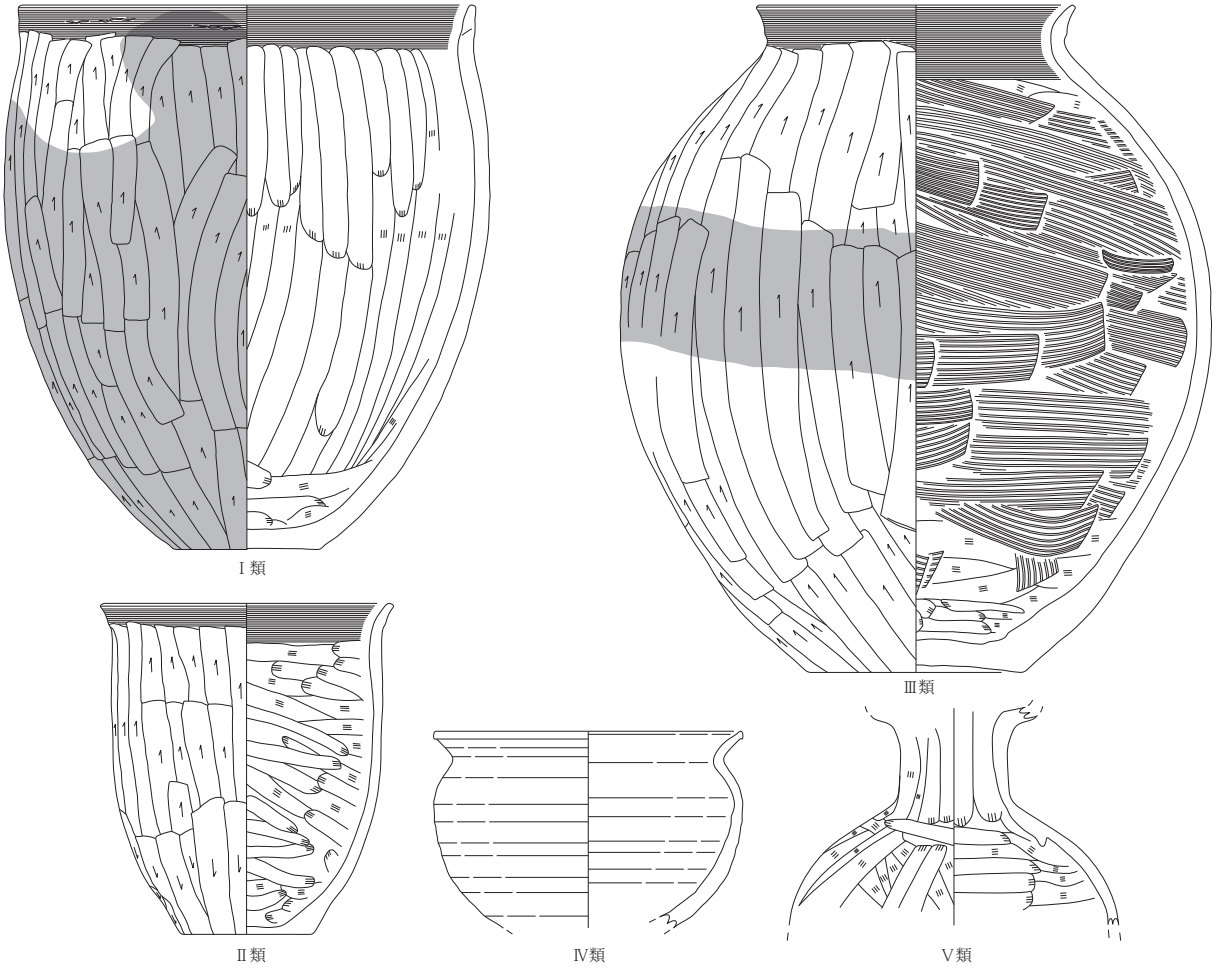
甕Ⅰ類：いわゆる長胴甕。

甕Ⅱ類：口縁 15cm 以下の小型甕。

甕Ⅲ類：口径が体部最大径よりも小さい壷形の甕、いわゆる球胴甕。

甕Ⅳ類：鉢型の甕、ロクロ成形のものが多い。

甕Ⅴ類：須恵器の長頸壷を模したもの。



図Ⅱ-3-4　土師器甕の器形分類

また、口縁部の形状により以下の３分類に可能である。

A 類：直上するもの

B 類：外反ないしは外弯するもの

C 類：内弯するもの。

さらに、口縁部端面形の形によって以下の２種類に細分できる。

１類：口唇部をつまみ出しただけのもの。端面形は丸みを帯びる。

２類：口唇部に面取り調整が施され、端面形は方形を呈する。

3）木製品

木製品の分類基準として、以下のように行った。その際、再利用されているものは、再利用以前の分類が明瞭に判明するものは再利用以前の分類を基本とし、再利用後の種別は属性表の備考欄に記すことにし、再利用以前の分類が不明瞭のものは再利用後の分類とした。なお、掲載図は次章以降に全て掲載するため、当分類図ではスケールを縮小し、出土点数の多いものは代表的なものを掲載した。

1．工具（図Ⅱ -3-5）

（1）柄（掲載点数：8 点、203・405・638・938・939・2085・2665・2669）

いずれも割材を丸く削り出し、真っ直ぐな棒状としたもの。頭部から体部にかけて断面方形の茎孔があるもの（203・638）は、鉈柄とした。いずれもヒバ材を利用。

（2）楔（掲載点数：2 点、410・2549）

長方形状の木片の一端を片面又は両面から削り、楔状に尖らせたもので、先端に潰れがみられるものを割楔として工具に分類した。いずれもヒバ材を利用。

（3）発火具

（ｉ）火鑽臼（掲載点数：2 点、2883・3052）

厚みのある柾目板の整形板を使用し、その長辺の一端に円形の窪みがあり、その側面に切り込みが伴う。窪み部分には摩擦熱により変色している部分もみられる。ヒバ材及びスギ材が利用されている。

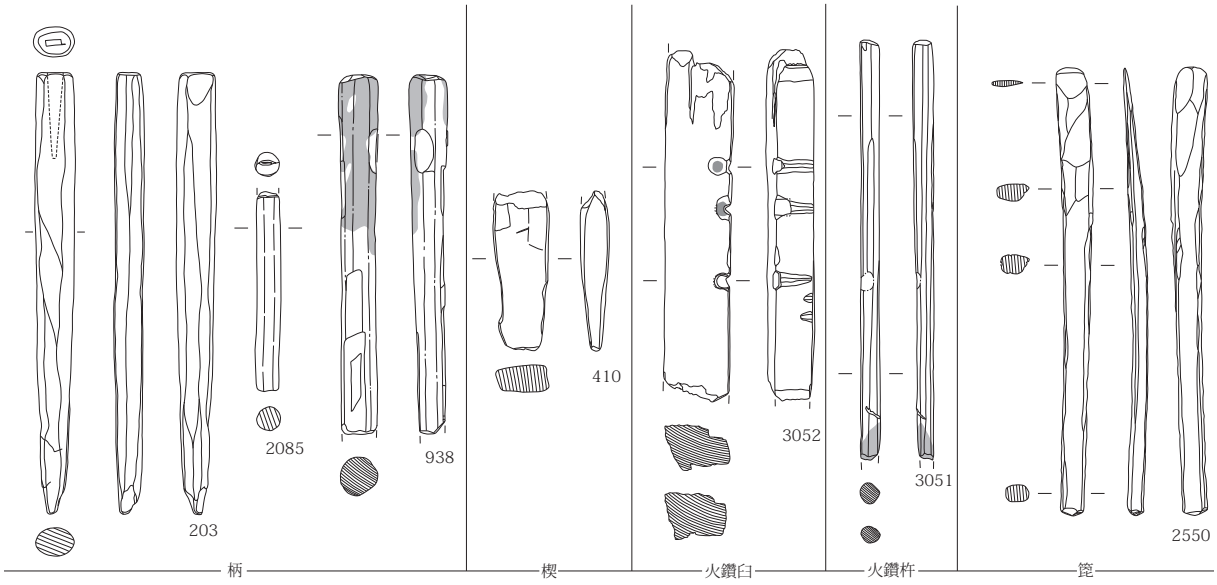
（ii）火鑽杵（掲載点数：1 点、3051）

断面円形の棒状製品で、片側端部が焦げて磨滅しているものを火鑽杵とした。ヒバ材が利用されている。

（4）箆（掲載点数：1 点、2550）

割材の側面を面取り、先端部に片面から削りを加えさらに薄くし、箆状としているもの。ヒバ材が利用されている。

2．農耕土木具（図Ⅱ -3-6）



図Ⅱ-3-5　工具

（1）鍬

（ｉ）直柄鍬身（掲載点数 3 点、641・642・1046）

641 及び 642 は U 字形の鉄刃装着部分を有し、身に枘穴を開けて真っ直ぐな棒状の柄を差し込む直柄鍬。1046 は装着部のみ残存。広葉樹のカエデ属を利用している。

（ii）泥除け（掲載点数 1 点、643）

4 分の 1 程度残存、ヒバ材の柾目の薄板を利用し、紐を通す孔が多数開けられている。糸とスリッ

トで鍬をつなぐ構造である。

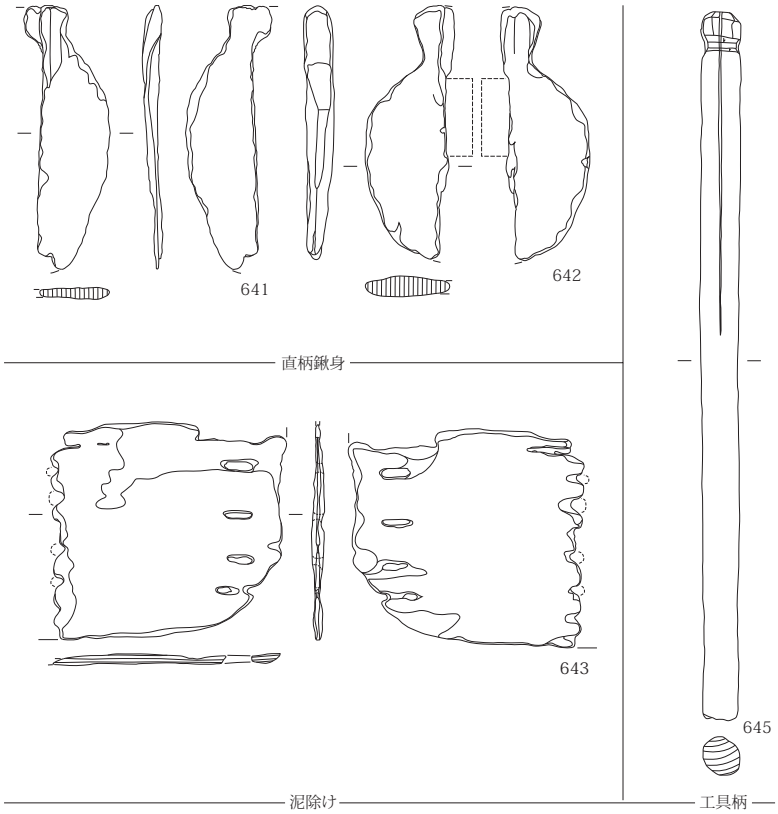
（2）工具柄（掲載点数 8 点、645 ほか）

ヒバ材の割材を削り出し、片側端部に有頭状の加工を施す棒状製品であり、どの柄かは不明であるが、工具柄とした。

3. 編み具・紡織具（図Ⅱ -3-7）

（1）編台の錘（掲載点数 17 点、649 ほか）

円筒形の芯持丸木材の中央部を両側から削り込んで細くした鼓状の形態を呈する。削り込みの形状により A：中央付近を丁寧に削り込み細くした一般的な形態のもの。B：中央付近の削り込みが浅くほぼ筒状のもの。C：削り込む部分が中央ではなく片側にずれているものの 3 類型に分類された。



図Ⅱ-3-6　農耕土木具

（2）木針（掲載点数：1 点、3056）

先端が先細り、中央付近に紐を通す孔が開けられている。ヒバ柾目板を使用している。

（3）紡錘車（掲載点数：3 点、2232・2330・2331）

紡輪のみ出土している。直径 57 ～ 65mm、厚さ 3 ～ 7mm のスギやヒバ柾目材を利用している。

（4）糸巻具（掲載点数：1 点、2771）

桟が出土している。欠損しているが、軸部を受ける孔が開けられている。ヒバ材を使用。

（5）繊維処理具（掲載点数：1 点、648）

糸を縫製するために樹皮から繊維を剝き取る道具。苧引き金。ヒバ材の柾目板を利用し、持ち手部分を薄く仕上げ、長辺側面に持ち手固定用の紐孔がみられる。鉄刃留め部分は欠損している。

（6）織機部材

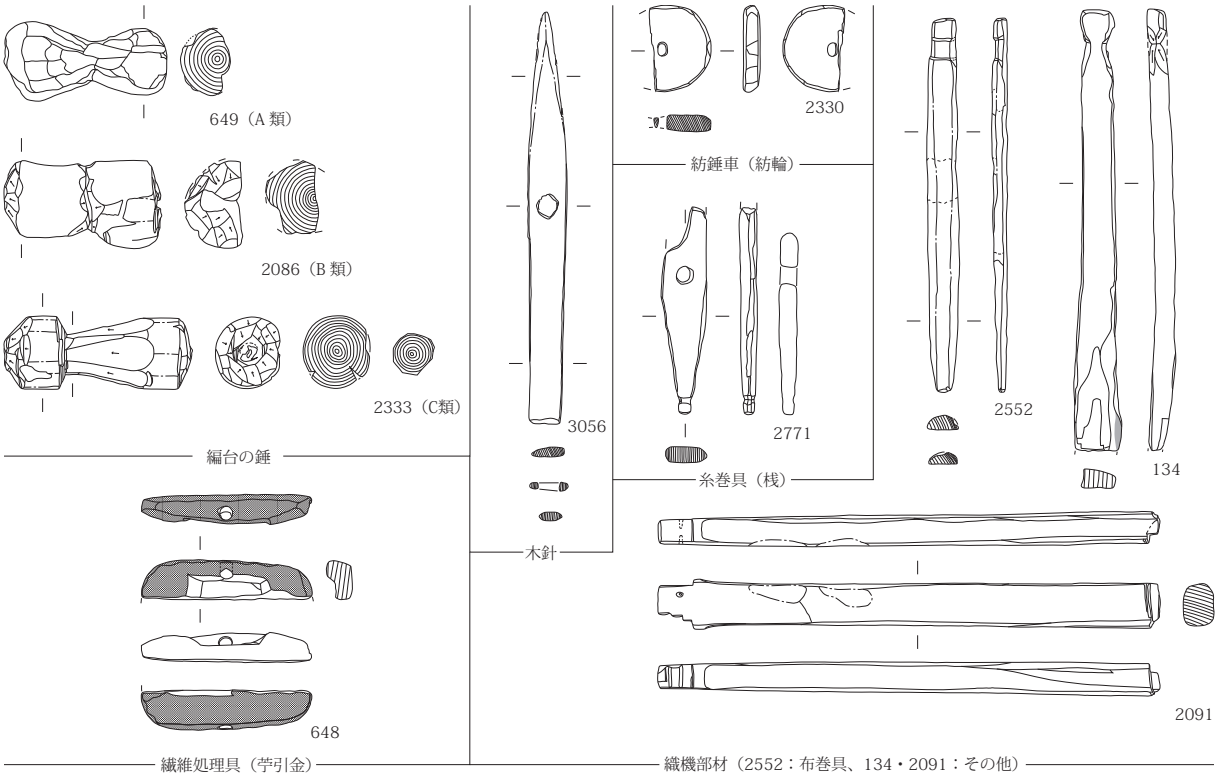
（ⅰ）布巻具（掲載点数：5 点、2552 ほか）

県埋蔵文化財調査センターでの出土遺物に両端部を有頭状加工した断面半円形状の細長い棒材の中に糸擦れとみられる痕跡が残るものを布巻具としていることから、この形状と同形態のものを布巻具とした。すべて破損品であり、また糸擦れの痕跡も確認できなかった。すべて芯無し削り出しのヒバ材を利用している。

（ⅱ）反転棒（掲載点数：1 点、2091）

ヒバ材の割材の側面を面取りして方形に仕上げ、一端には楔留めするための段を複数有する。本来 2 本 1 対であると考えられる。

（ⅲ）引杼？（掲載点数：2 点、134 ほか）



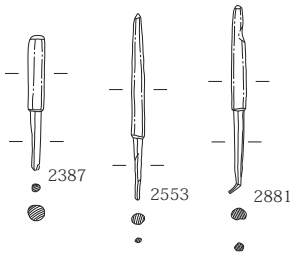
図Ⅱ-3-7　編み具・紡織具

ヒバ材の柾目板を利用して、一端部の両側面に抉りが入る。もう一端は欠損している。

4．武器・狩猟・漁労具（図Ⅱ -3-8）

ヤス状製品（掲載点数：3 点、2387 ほか）

断面円形の棒状製品で、細長く尖らせた刺突部とそれに続く柄装着部と考えられる棒状部をもった製品をヤス状製品とした。いずれも刺突部と装着部に明瞭な段差を有する。ヒバ材とノリウツギが使用されている。



図Ⅱ-3-8　漁労具（ヤス）

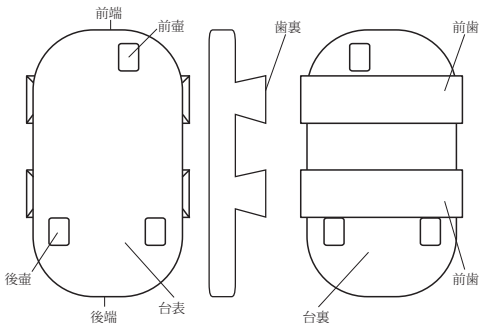
5．服飾具（図Ⅱ -3-10）

下駄（掲載点数：17 点、652 ほか）

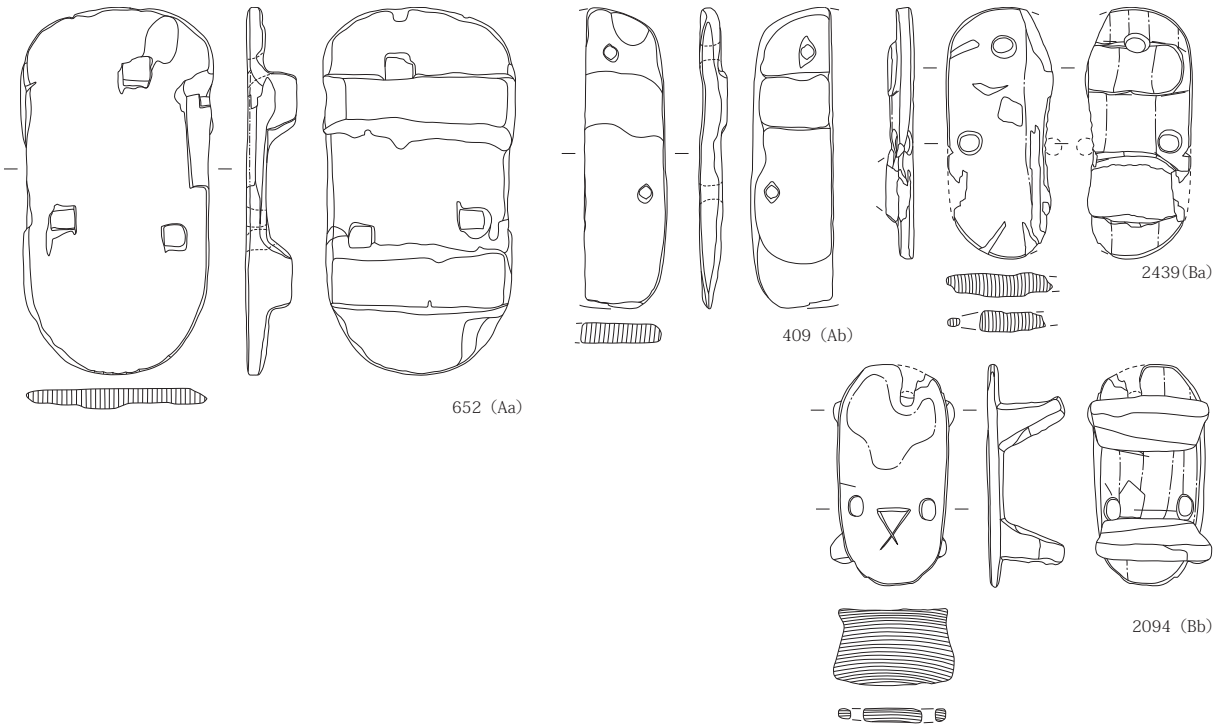
いずれも連歯一木作りの下駄であり、平面形は全体では丸みを帯びた小判型であるが、前端部はやや直線状で、後端部は大きく丸みを帯びる形状を呈する。

連歯部の作りは縦断面及び横断面がいずれもハの字状に削り出されており、その影響で後壷は歯の前方に設けられている。前壷の設置位置は左右にずれているがそのずれはあまり大きくない。

壷は大型のものはノミで開けられ方形を呈し、小型の物はキリで開けられ円形を呈する。大型の下駄は使用頻度が高く壷孔は紐による磨滅で丸みを帯び、歯も大きく磨り減っている個体が多い。小型のものは、歯がほぼ完



図Ⅱ-3-9　下駄の各部名称



図Ⅱ-3-10　服飾具（下駄）

全な形で残存しているものが多く、また後壷付近に所有者を示すものであろう線刻が施されている。

分類として大型（A 類）のもの及び小型（B 類）のものに細分し、さらに壷孔の加工の違いによりノミにより開けられたもの（a 類）、キリにより開けられたもの（b 類）の 2 類型に細分した。ヒバ材が多く使用され、カエデ属、ヤナギ属も使用されている。

6. 容器（図Ⅱ -3-12 ～ 16）

（1）曲物（掲載点数：69 点、1014 ほか、図Ⅱ -3-12）

底板と側板の結合方法により分類した（図Ⅱ-3-11）。分類方法は、『六大A遺跡』（穂積　2000）の分類に基づいて一部改変を行っている『柿田遺跡』（小野木　2005）の分類に依った。当調査区ではD1類、F類、H類が出土している。

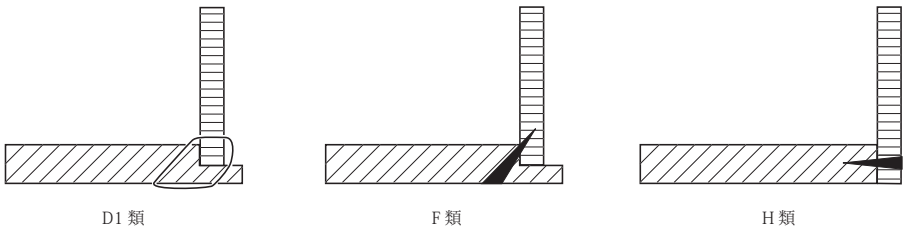
D 類－底板は周縁外端 1 段低く直角に切り落とし、そこに側板を乗せ、その両側に樹皮紐孔を穿って側板の紐孔との計 3 孔で樹皮紐綴じする。

1 類：木釘なし。

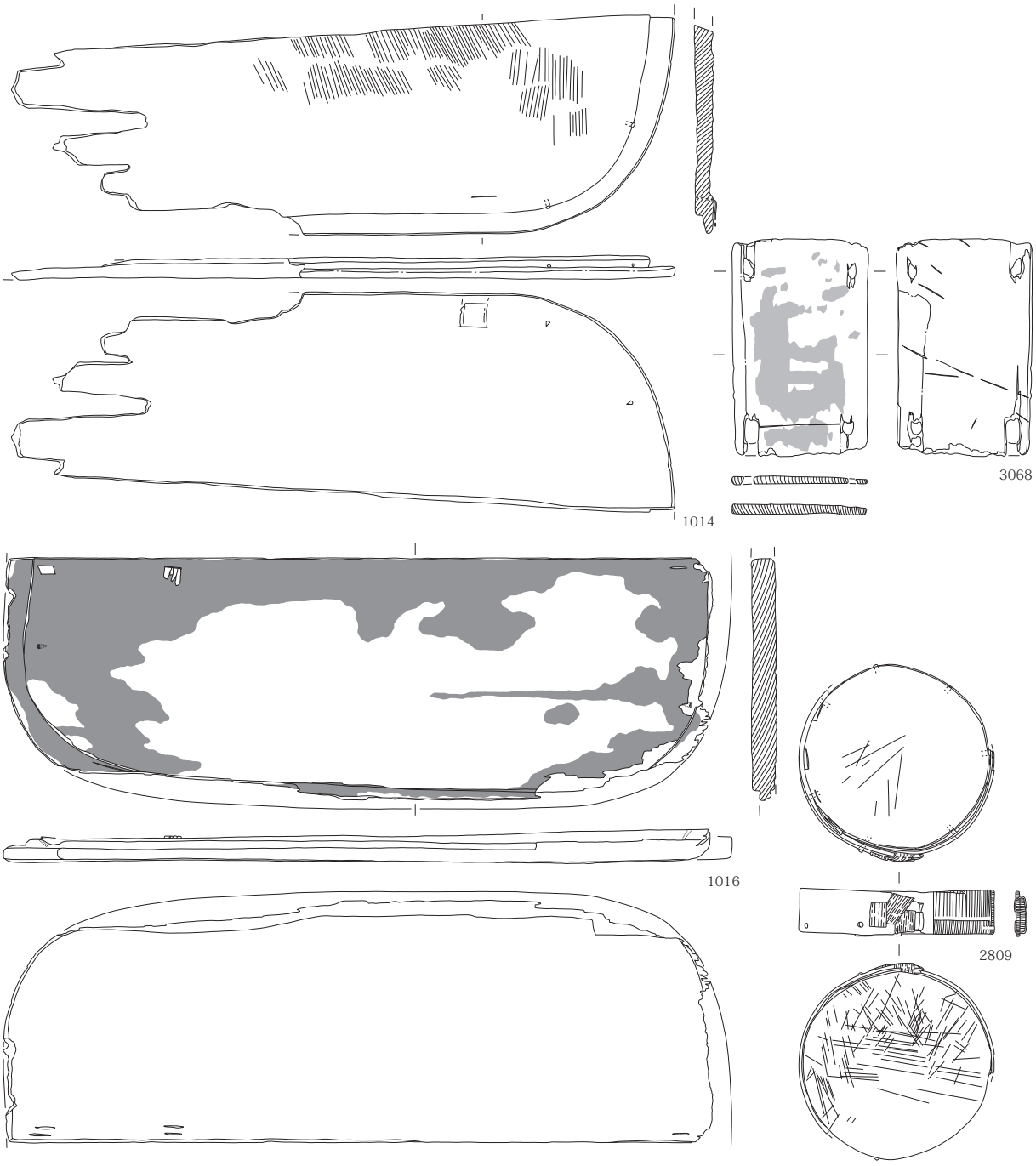
F 類―底板形状は D 類と同じ。樹皮紐綴じでなく、木釘打ち込みで固定。

H 類―平坦な底板の外側に側板をあて、側面から木釘を打ち込む。

D1 類では全形が判明した資料はないが、長軸 40cm 以上の隅丸長方形のものに見られる。F 類も同様に長軸 40cm 以上の隅丸長方形のものに見られる。



図Ⅱ-3-11　底板と側板の結合方法による分類（小野木 2005 より）



図Ⅱ-3-12　容器（曲物）

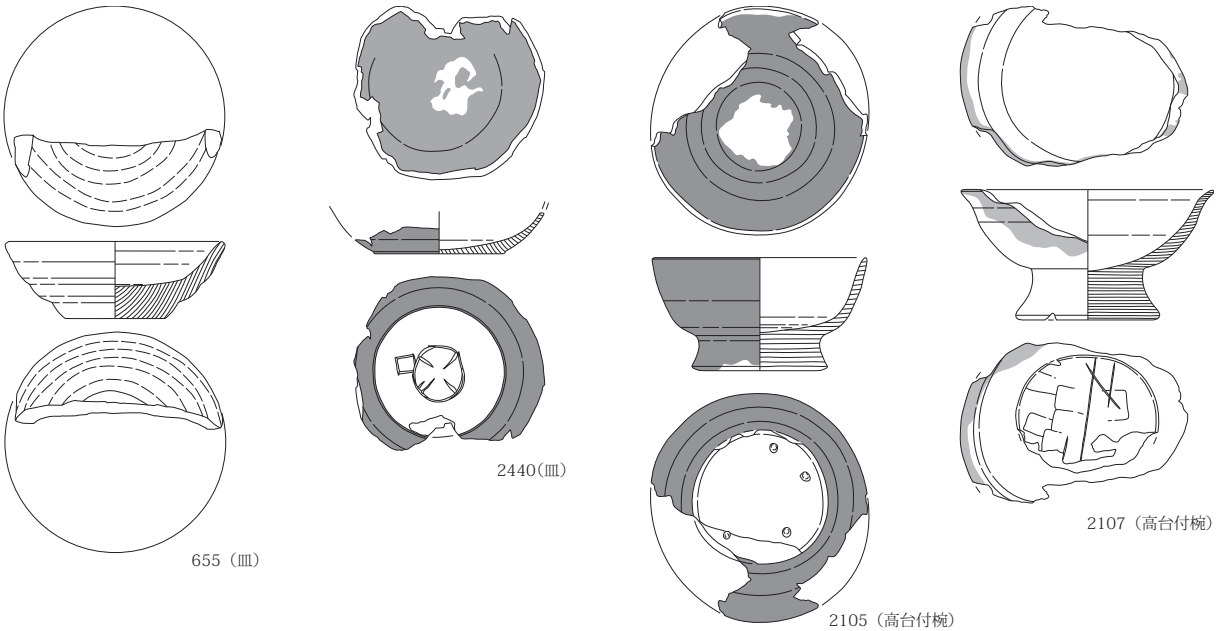
H 類が殆どを占め、底径 25cm 以下の小型のものが主体である。底板形態はややいびつな円形か楕円形で柾目材が多い。

小型製品は、底板が円形か楕円形であり、木釘結合の H 類主体、大型製品は、底板が長楕円形が多く樹皮紐結合による D1 類と木釘結合の F 類が見られる。使用材はすべてヒバ材であり、小型製品は柾目材を多く使用し、大型製品は板目材を多く使用している。

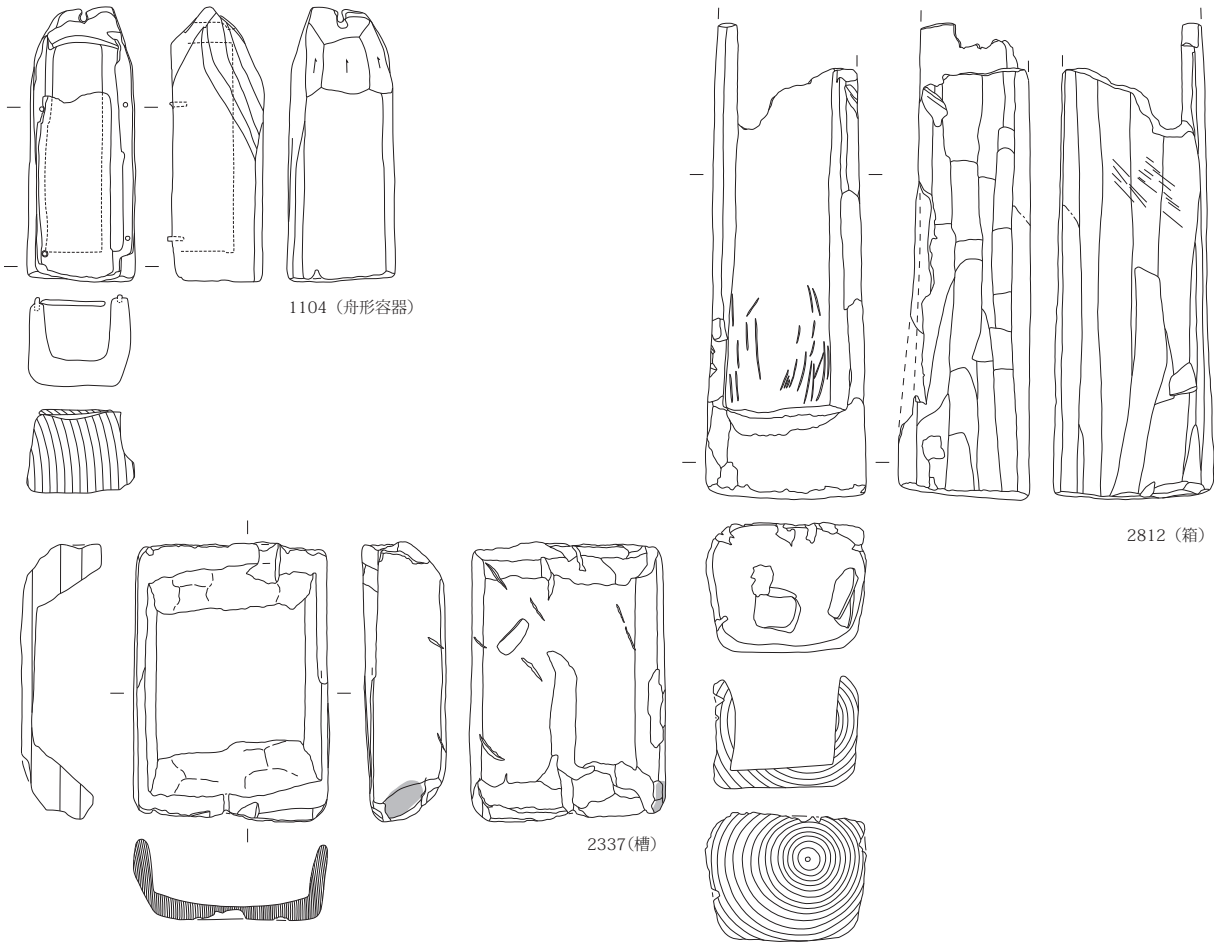
側板は柾目板で、年輪に直交してケビキ線が引かれ、円形のものは全面にケビキ線が引かれる物が多い。また側板内面には柿渋と考えられる黒色付着物が付くものが見られる。

大型の曲物の把手部分も出土している。

（2）挽物（掲載点数：9 点、655 ほか、図Ⅱ -3-13）



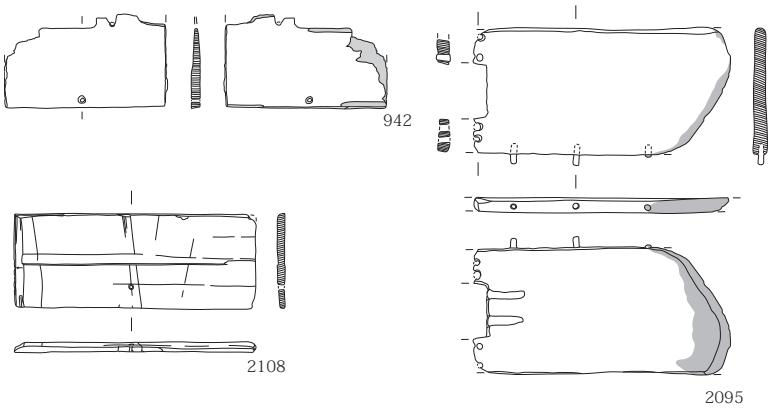
図Ⅱ-3-13　容器（挽物）



図Ⅱ-3-14　容器（刳物）

器種として椀・皿があり、椀はベタ高台付、皿はベタ高台付きと無高台の２種類である。椀・皿ともにヒバ材と広葉樹を使用した製品が有る。ヒバ製品には塗り物が無く、広葉樹製品には塗り物が多く、分析した資料は全て木炭粉柿渋下地と透明漆１層であった。

広葉樹はトチノキを多用しており、ケヤキも見られる。



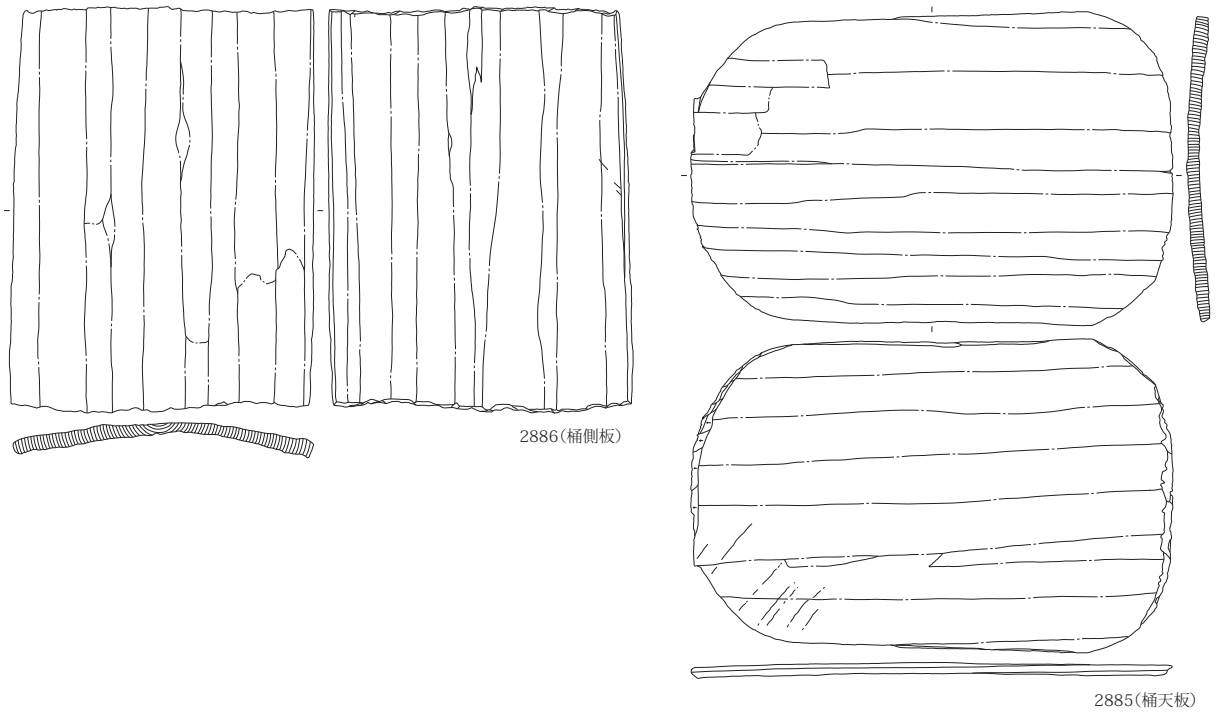
図Ⅱ-3-15　容器（組物・指物）

(3) 刳物（掲載点数：6 点、1104 ほか、図Ⅱ -3-14）

器種として槽・箱・舟形容器と器種不明であるが、脚部と把手がある。殆どがヒバ材であり、モクレンやヤナギ属も見られる。

(4) 指物（組物）（掲載点数：4 点、942 ほか、図Ⅱ -3-15）

箱形容器の側板が 1 点出土している。大きさは不明であるが、井桁状に組み、木釘留めしている。



図Ⅱ-3-16　容器（結物）

底板との接合も側板同様に木釘留めである。

斜断状加工が認められる板材を組物側板とした。全てヒバ、柾目材である。

(5) 結物（掲載点数：4 点、2885 ほか、図Ⅱ -3-16）

すべて同一の地点から出土しており、同一個体であると考えられる。底板・天板・側板からなるヒバ材の桶である。釘留め等の固定具が無く、側板の一部が欠如しているため、完全なものではなく、

土中に底板を敷き、側板の一部を立て、天板を載せていたものと考えられる。

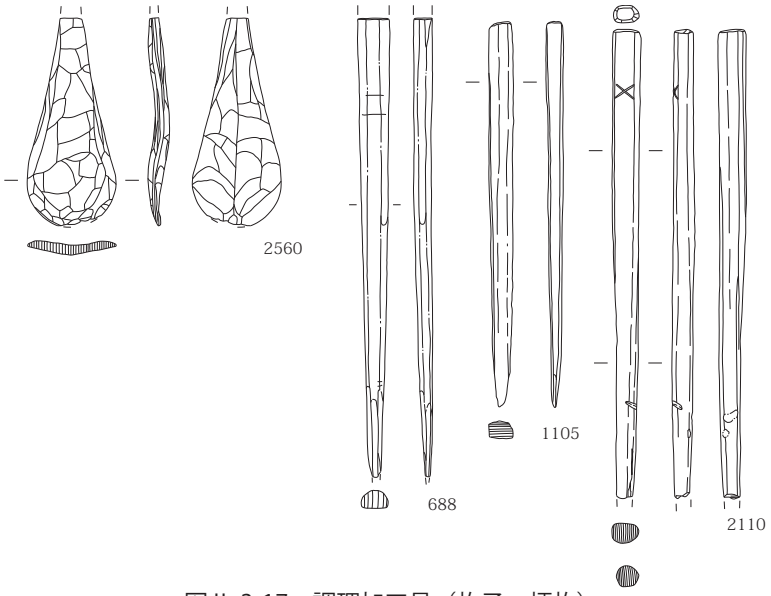
7. 調理加工具（図Ⅱ-3-17）

（1）横柄杓子（掲載点数：1点、2560）

身は楕円形状に浅く彫りくぼめた形状で、水平に柄が付く。ヒバ材。

（2）柄杓柄（掲載点数：3点、688・1105・2110）

先端にかけて先細りとなる棒状の加工で、曲物部との接合面の窪みが確認できた資料を柄杓柄とした。握り部の部分に刻印が見られるものが確認された。全てヒバ材である。

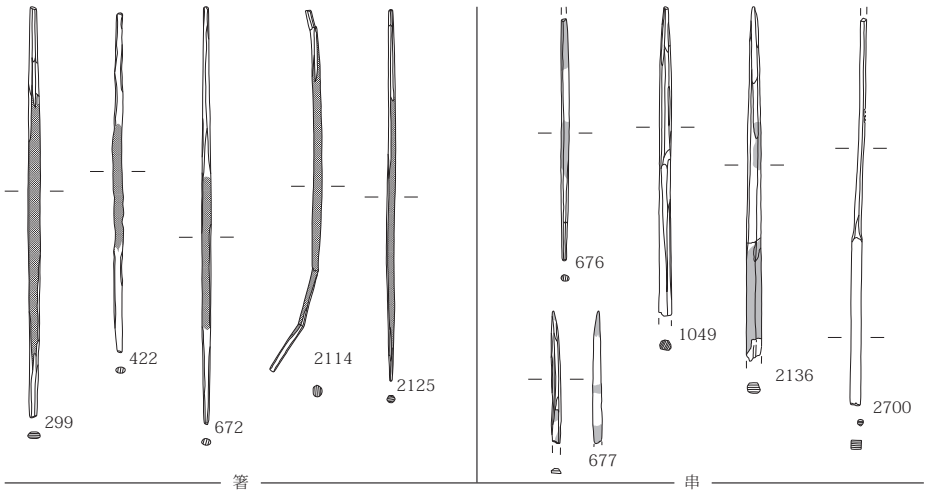


図Ⅱ-3-17　調理加工具（杓子・柄杓）

8. 食事具（図Ⅱ-3-18）

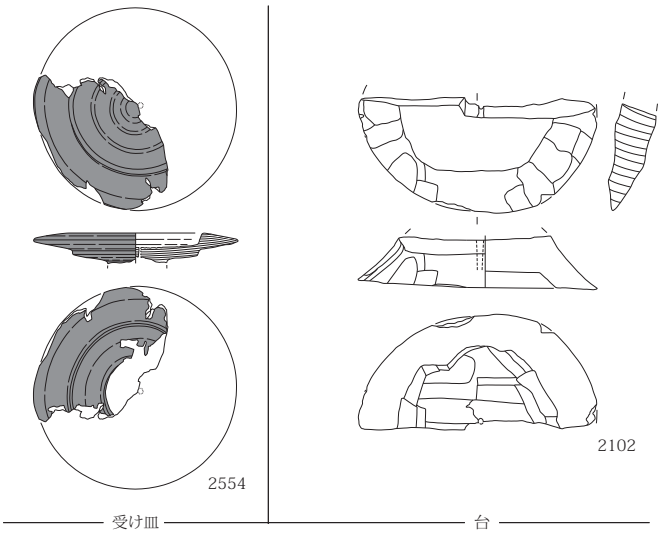
（1）箸（掲載点数：62点、299ほか）

刀子状の工具で面を削り出して整形し、両端部もしくは片端部を細く削り出している棒状製品を箸とした。握り部の特徴として削り出しの稜線が明瞭に区別できない程磨き上げている個体が多い。両端部を先細りにしているものをA、片側端部を先細りにしているものをB、一端は先細りにしているが、もう一端が折れや破損により不明なものをCとした。さらに中央部断面の面取りが丁寧で円形を呈するものをa、粗く隅丸方形を呈するものをbとした。殆どがヒバを使用しており、C類に1点マツ属単維管束亜属を使用している。



図Ⅱ-3-18　食事具

（2）串（掲載点数：12点、676ほか）



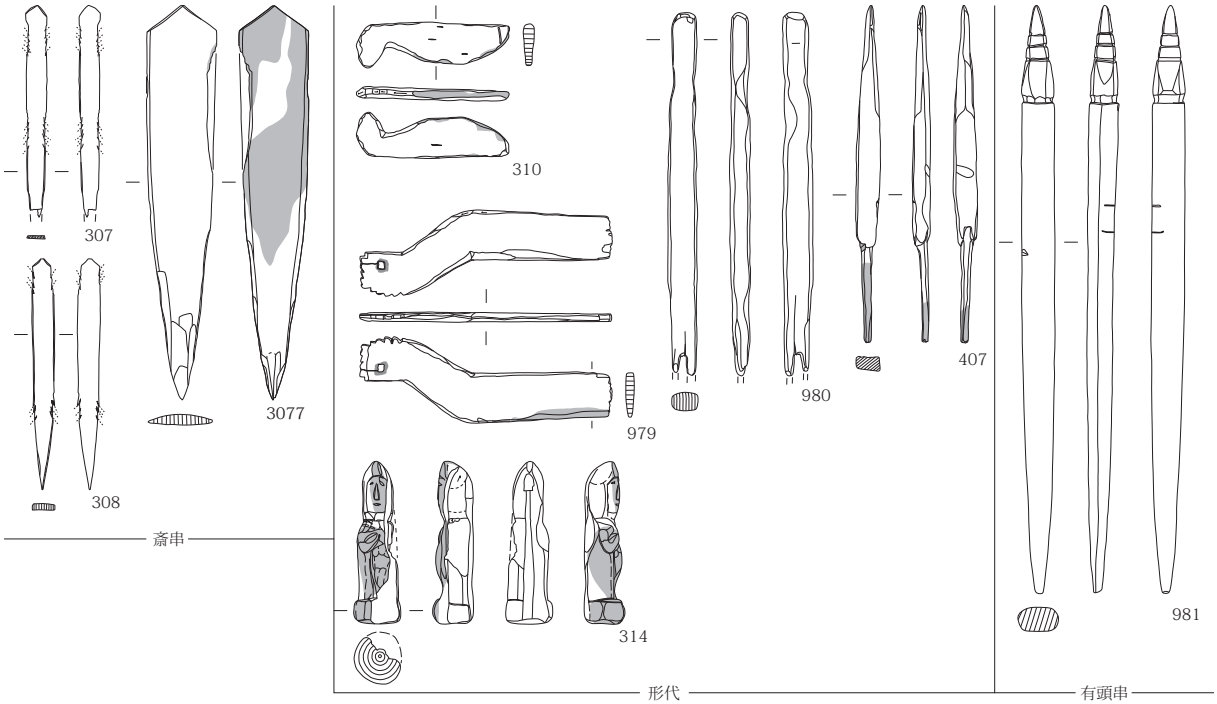
図Ⅱ-3-19　調度（灯明台）

箸と同様の作りではあるが、握り部に明瞭な稜線を有する。また、先細りとするのは一端のみであり、使用され、明瞭な炭化が見られるものを串とした。箸の破損品を串として再利用しているものも見られる。

9. 調度（図Ⅱ -3-19）

灯明台（掲載点数：2 点、2102・2554）

扁平な円形状を呈し、中央部に水平に 1 段凹みを有する器形であり、当初皿としていたが、底面中央部分に軸部と接続する釘孔が確認されたため、灯明台の受け皿部とした。トチノキ製で木炭粉柿渋下地と透明漆 1 層であり、ロクロ挽きである。



図Ⅱ-3-20　祭祀具

また、断面が台形状を呈し、中央部に軸部を装着する方形孔及び木釘孔を有する台座も出土しており、ヤナギ属で、白木である。一応灯明台としたが、糸巻具の台になる可能性も考えられる。

10. 祭祀具（図Ⅱ -3-20）

（1）斎串（掲載資料：20 点、307 ほか）

細長い薄板の一端を山形に作り出し、もう一端を先細りに尖らせている器形である。側面には切り込みを有するものも見られる。

（2）形代（掲載資料：7 点、310 ほか）

形代には馬形、鳥形、人形、武器形が見られる。馬形及び鳥形は薄板を利用しており、人形及び武器形は芯持ち丸木及び棒材を使用している。樹種は 314 の人形がヤナギ属であるのを除き、他はすべてアスナロである。

（3）串（掲載資料：7 点、981 ほか）

両端を先細りに尖らせ、一端に宝珠状に作り出しているものを有頭串とした（981）。また、両端を尖らせているが､片側端部に作り出しの無いものを食事具での焼き串の未使用品の可能性もあるが、一応祭祀具の串とした。

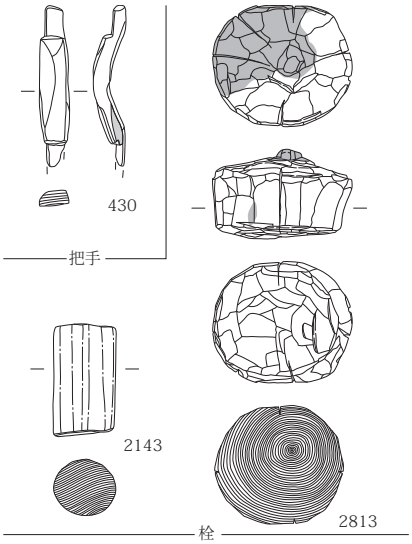
11. 雑具（図Ⅱ-3-21）

（1）把手（掲載点数：1点、430）

器具部材もしくは容器等の把手として分類できなかったものを雑具の把手とした。ヒバ材を使用している。

（2）栓（掲載点数：2点、2143・2813）

容器の口を詰めて、中身がこぼれないようにしたものと考えられる。2143はほぼ円柱状であり、柄の再利用の可能性も考えられる。



図Ⅱ-3-21　雑具

12. 建築部材（図Ⅱ-3-22,23）

（1）柱（掲載点数：2点、2450・2894）

柱頭に出枘があるなど、柱材としての形態的特徴を有するもの。また、検出状況から把握して柱材としたものも含める。さらに、長さ1m以上の柱状の製品も柱材として分類した。全てヒバ材が使用されている。

（2）壁（掲載点数：2点、2567・2568）

幅20cm弱、厚さ2cm弱の柾目板の両面を手斧により均等な厚さに仕上げている板材を壁材とした。いずれもヒバ材である。

（3）床（掲載点数：5点、944ほか）

いずれも使用後再利用されたものの残材である

（4）垂木（掲載点数：1点、2826）

一端が破損しているが、端部が一段平坦に抉られており、形態状垂木と分類した。ヒバ材を使用している。

（5）窓（掲載点数:3点、2144ほか）

図Ⅱ-3-22　建築部材（1）

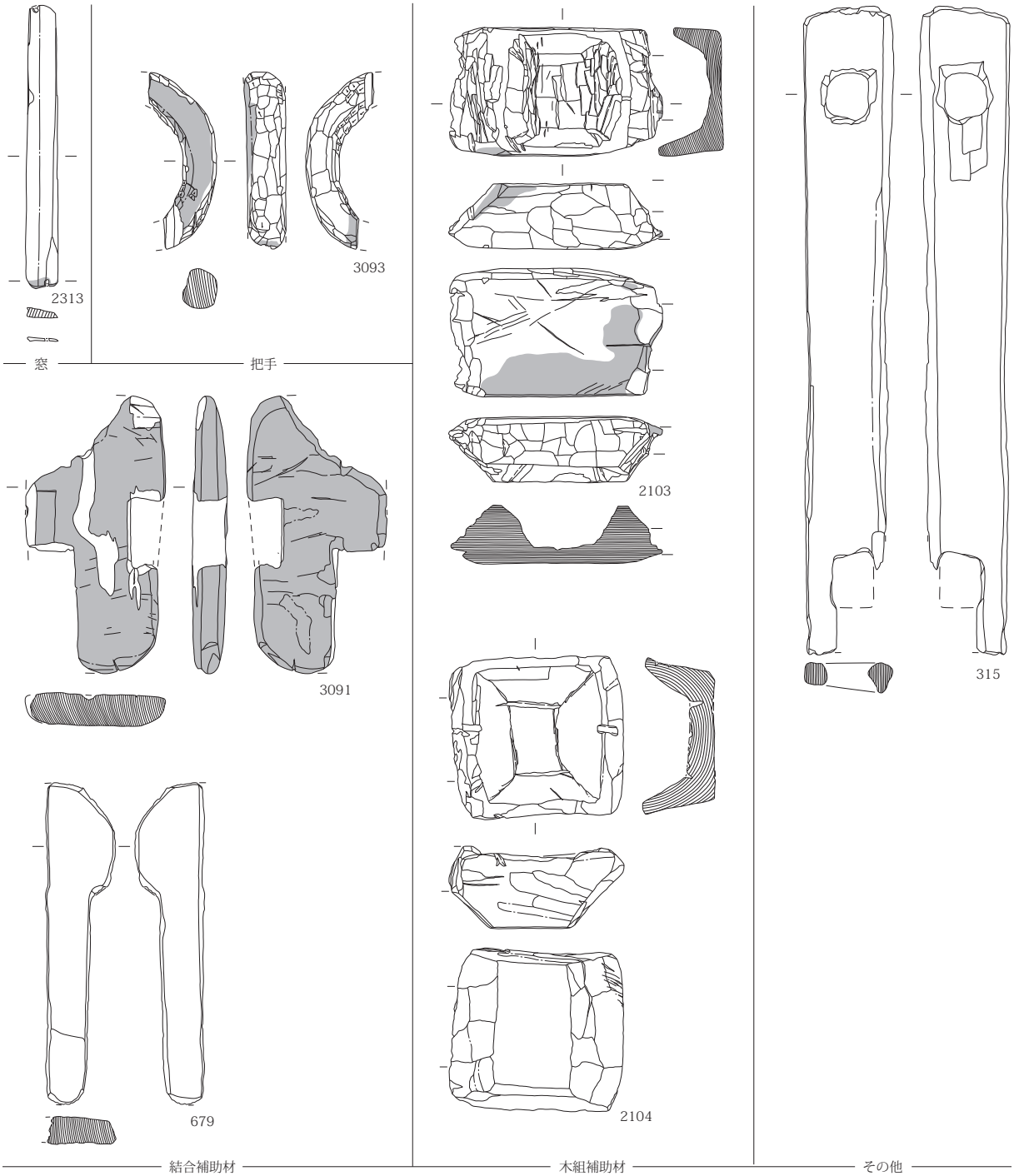
桟が出土している。薄板の板目材の両端部に木釘孔と考えられる穿孔が施されている。すべてヒバ材である。

（6）把手（掲載点数：1 点、3093）

全体を丁寧に整形加工されている。両端部が欠損しているため、結合か一木作りかは不明であるが、扉の把手であると考えられる。ヒバ材である。

（7）木組補助材（掲載点数：3 点、2103 ほか）

横架材の一部に上部の軸材を支えるための箱状の抉りが作り出されている。いずれも横架材の板状



図Ⅱ-3-23　建築部材 (2)

部分が切断されており、刳物として再利用された可能性も考えられる。

（8）結合補助材（掲載点数：2 点、3091・679）

建築部材の結合部分を強固に固定するための楔と考えられる。

（9）その他・不明（掲載点数：5 点、315 ほか）

建築部材と考えられるが、その機能・用途不明のものである。

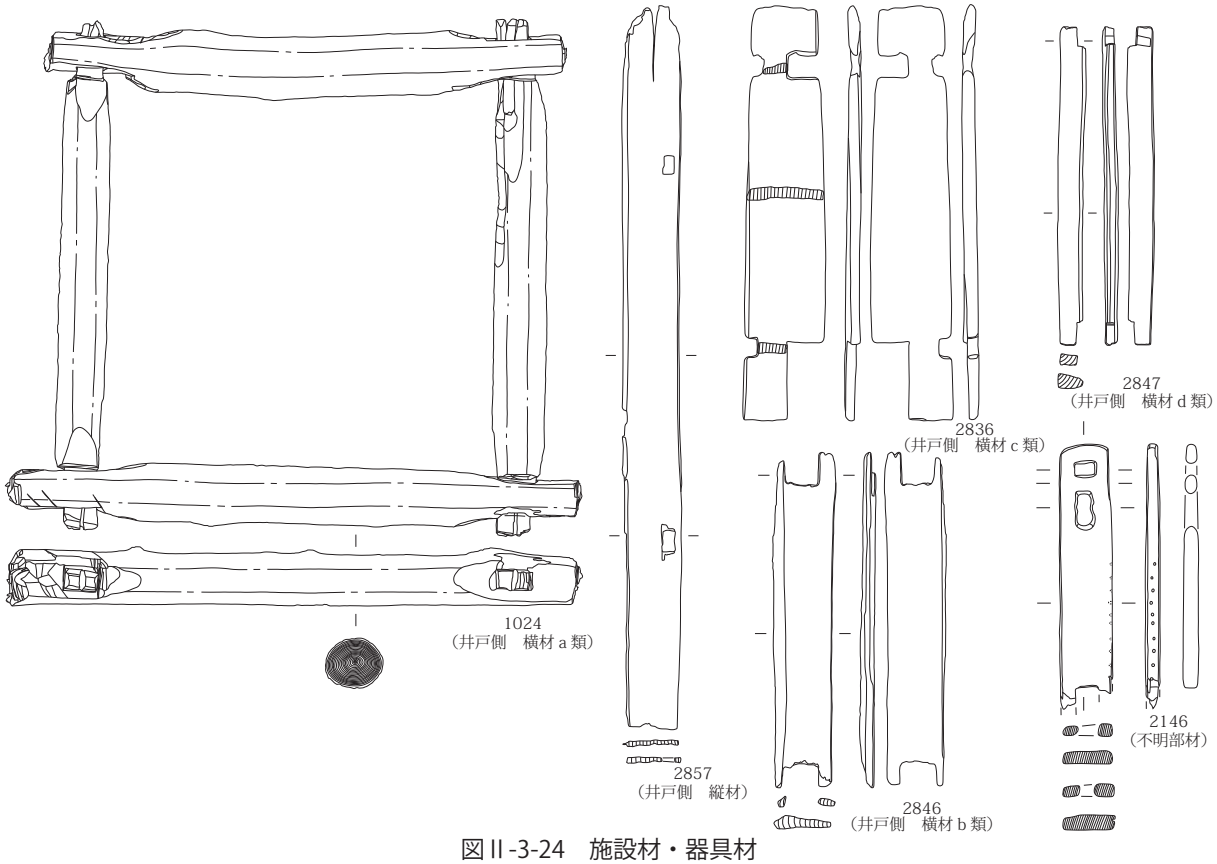
13. 施設材・器具材（図Ⅱ -3-24）

（1）井戸

井戸側（掲載点数：35 点、1023 ほか）

出土状況から確実に井戸側と断定できるものを掲載した。横材と縦材が出土しており、横材は仕口の形状から a 類：貫孔と仕口により組み合わさるもの。b 類：a 類型に類似するが、貫孔ではなく、両端を一方を凹状の形に、もう一方を凸状に作り出し、組み合わせるもの。c 類：側面を切り欠き、切り欠いた面同士を組み合わせて接合するもの。d 類：両端を半分の厚さに切り欠き、切り欠いた面同士を組み合わせて接合するもの。の 4 類形に分類可能である。

（2）その他・不明（掲載点数：6 点、2146 ほか）



図Ⅱ-3-24　施設材・器具材

器具材の枠材と考えられるが、どのようなものか器種は不明である。

14. 不明製品

（1）板状不明製品（掲載点数：11 点、699 ほか、図Ⅱ -3-25）

上記の分類にいずれにも明確に分類不可能なものの内、板状のものをこの分類とした。

（2）棒状不明製品（掲載点数：40 点、687 ほか、図Ⅱ -3-26）

上記の分類にいずれにも明確に分類不可能なものの内、棒状のものをこの分類とした。ヒバ材が大半を占めているが、カエデ属、ノリウツギも使用されている。

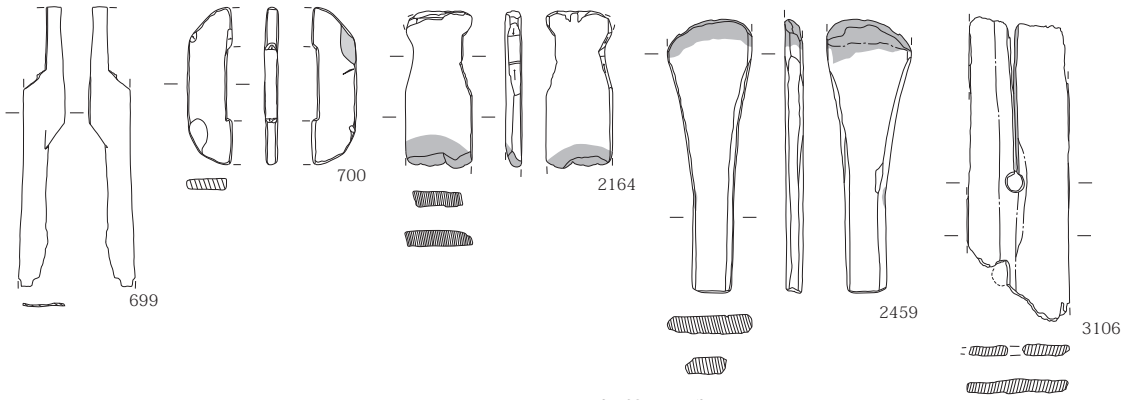
15. その他

（1）加工木

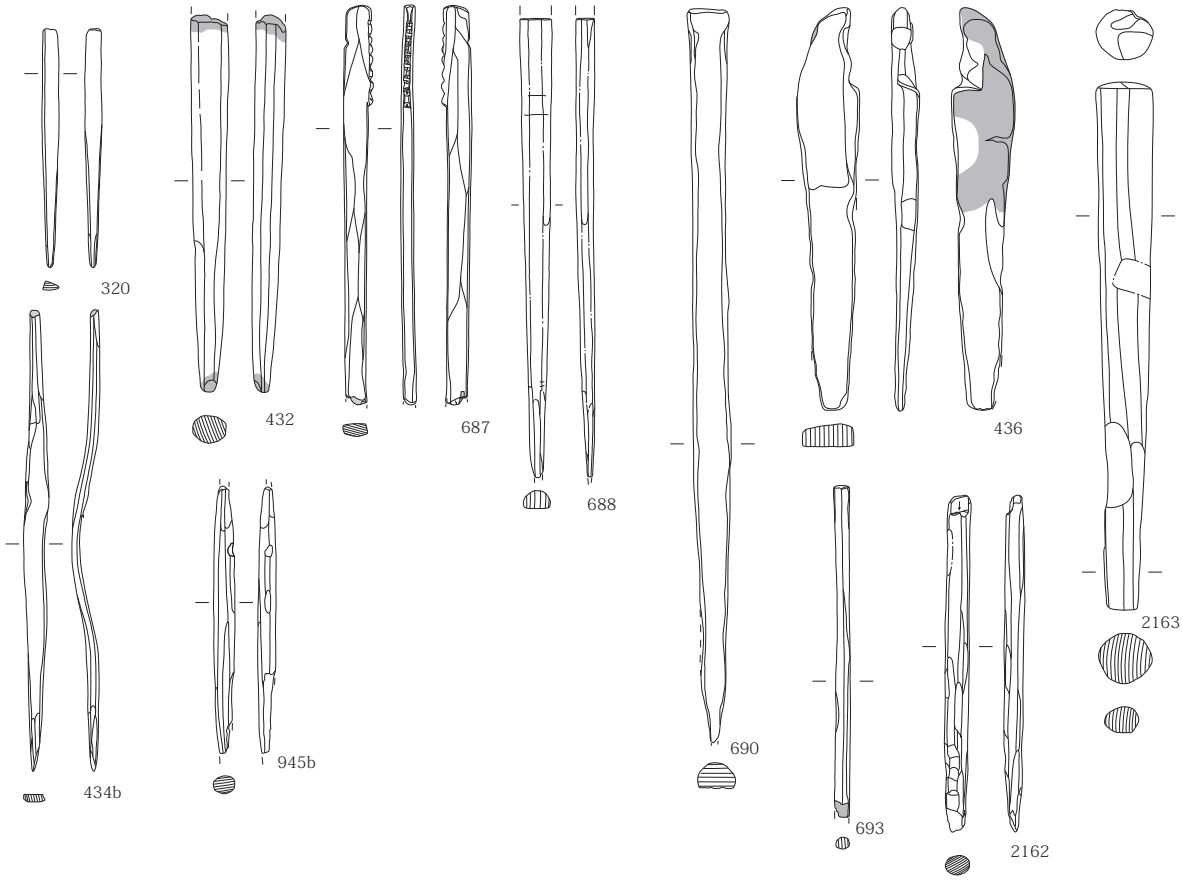
製品ではないものの加工の痕跡が確認されるもの。

（2）非加工木

自然木と考えられるもの。



図Ⅱ-3-25　板状不明製品



図Ⅱ-3-26　棒状不明製品

第Ⅲ章　西区の検出遺構と出土遺物

第 1 節　柵列跡（SA）

柵列跡は全部で 14 条確認された。いずれも幅 20cm 前後、深さ 10cm 前後の溝状の掘り込み面を有し、その中にピットがほぼ等間隔で並列する構造である。

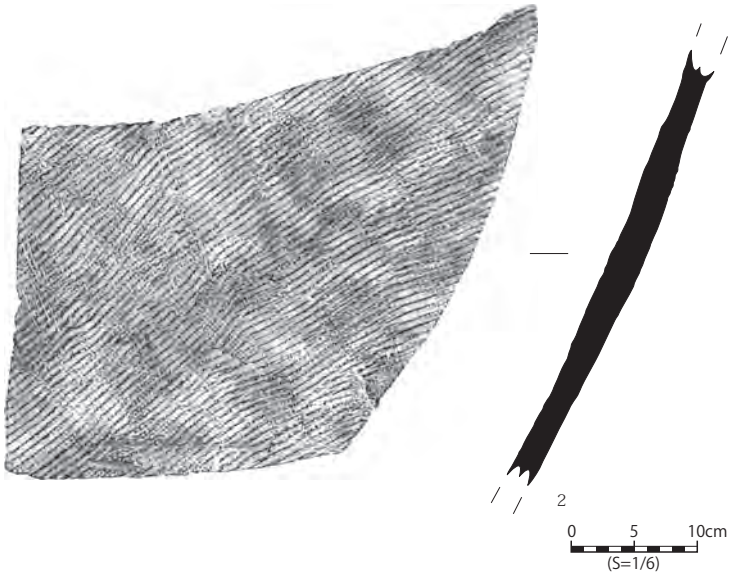
第 1 号柵列（SA01、図Ⅲ -1-2）

［位置・確認］調査区の中央部に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD10・28・33・65、SX01、SA06 と重復関係があり、SD28、SA06 よりも古く、SD10・33・65、SX01 よりも新しい。［規模・形状］幅 20cm 前後、深さ 9 ～ 53cm、距離 7,327cm を図る。南東隅から北西方向にやや内湾しながら伸び北側付近で北西方向へと直角に向きを変え直線状に伸びる。その後北西端からまた南西方向へと直角に向きを変え終結しており、全体ではコの字状を呈する。柵列中央部付近は柵が存在しない場所があり、出入り口であると考えられる。ピットは全部で 110 基検出され、各ピットの属性は図Ⅲ -1-2 の属性表のとおりである。pit17 ～ 29 はほぼ 30 ～ 50cm 間隔で配置され、pit30 ～ 79、pit82 ～ 93、pit103 ～ 110 はほぼ密接な間隔で配置されている。［堆積土］ 1 層確認され、Ⅳ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器の坏 156g、甕 1,382g、柱材に使用されたと考えられる木材が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -1-2）。1 は土師器のミニチュアの坏であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。

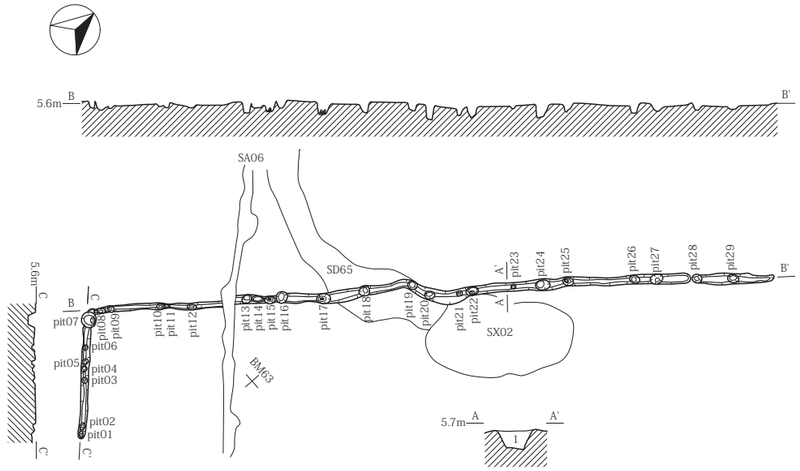
第 2 号柵列（SA02、図Ⅲ -1-3）

［位置・確認］グリッド BO58、BP58、BQ57、BR56・57、BS55・56、BT54・55、BU54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD11・30・34・23 と重復関係があり、いずれの溝跡よりも古い。

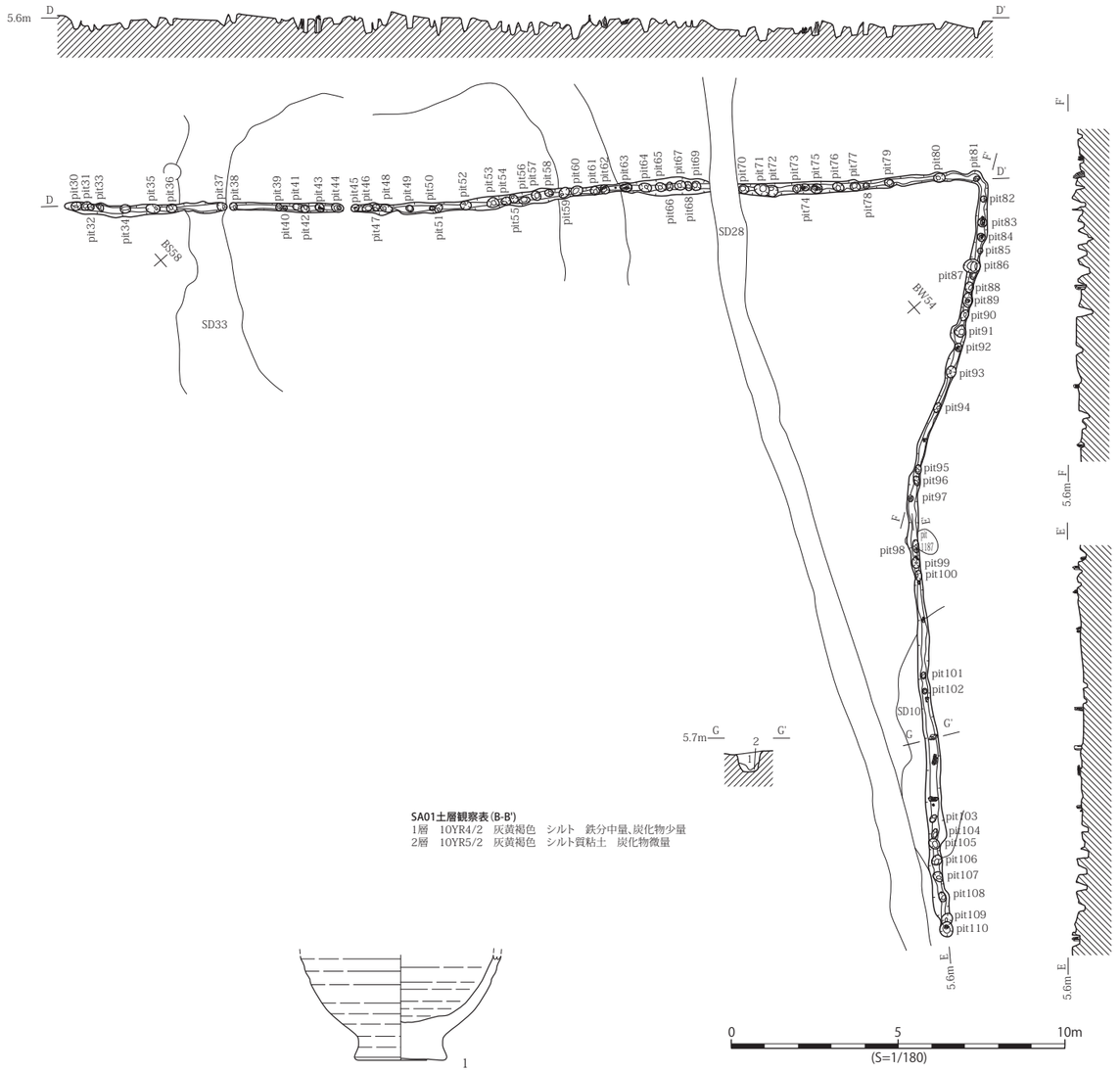
［規模･形状］北東方向から南西方向へ S 字状に蛇行しながら伸び､確認された距離は 1,920m を測る。ピットは全部で 26 基検出され、各ピットは図Ⅲ -1-3 の属性表のとおりである。pit01 ～ 05、pit06 ～ 08、pit09 ～ 16、pit17 ～ 20、pit21・22、pit23 ～ 26 で、ほぼ等間隔に配置されており、各ピット間では溝跡のみの部分が存在する。［堆積土］4 層確認され、上層は黒色土層を基調とし、下層はⅣ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器の甕 100g、須恵器の甕 955g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -1-1）。2 は須恵器の甕の体部破片であり、体部外面には斜行する平行タタキ目、内面は円礫状当て具痕が



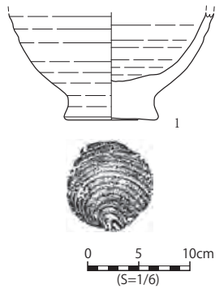
図Ⅲ-1-1　SA02 出土遺物



SA01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量



SA01土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト質粘土　炭化物微量



pit名	長径	短径	深さ
pit01	22.0	15.0	22.3
pit02	21.4	14.6	12.6
pit03	17.6	15.1	8.3
pit04	18.4	16.0	9.5
pit05	20.2	15.7	12.8
pit06	16.2	10.6	9.9
pit07	47.2	43.2	63.0
pit08	27.5	10.4	21.1
pit09	21.1	17.1	9.0
pit10	22.7	18.0	15.7
pit11	19.1	10.1	17.8
pit12	27.9	15.8	20.7
pit13	30.6	23.4	34.9
pit14	34.4	12.2	18.2
pit15	30.6	22.7	35.1
pit16	35.1	32.4	22.5
pit17	40.9	29.9	38.3
pit18	33.7	28.8	32.9
pit19	28.4	24.1	24.5
pit20	29.3	22.7	45.0
pit21	17.6	14.8	23.2
pit22	36.4	25.4	34.7
pit23	15.1	13.3	10.3
pit24	41.9	27.8	40.1
pit25	31.5	23.9	28.6

pit名	長径	短径	深さ
pit26	30.4	22.5	32.9
pit27	39.1	28.8	25.9
pit28	28.3	26.1	22.1
pit29	33.3	23.4	12.6
pit30	31.9	25.0	28.6
pit31	31.1	22.9	14.0
pit32	21.1	16.2	21.6
pit33	27.2	15.3	18.7
pit34	31.3	25.2	26.1
pit35	43.0	25.9	40.1
pit36	31.1	25.2	22.7
pit37	30.6	20.2	27.5
pit38	23.8	22.7	28.3
pit39	20.9	18.2	21.6
pit40	13.3	11.0	17.3
pit41	—	18.8	37.6
pit42	24.8	23.2	45.0
pit43	29.7	23.4	54.5
pit44	36.7	25.4	43.4
pit45	25.0	22.0	13.1
pit46	34.2	21.4	49.0
pit47	21.8	20.9	36.0
pit48	36.5	20.0	42.7
pit49	23.6	18.7	38.5
pit50	15.8	13.7	28.3

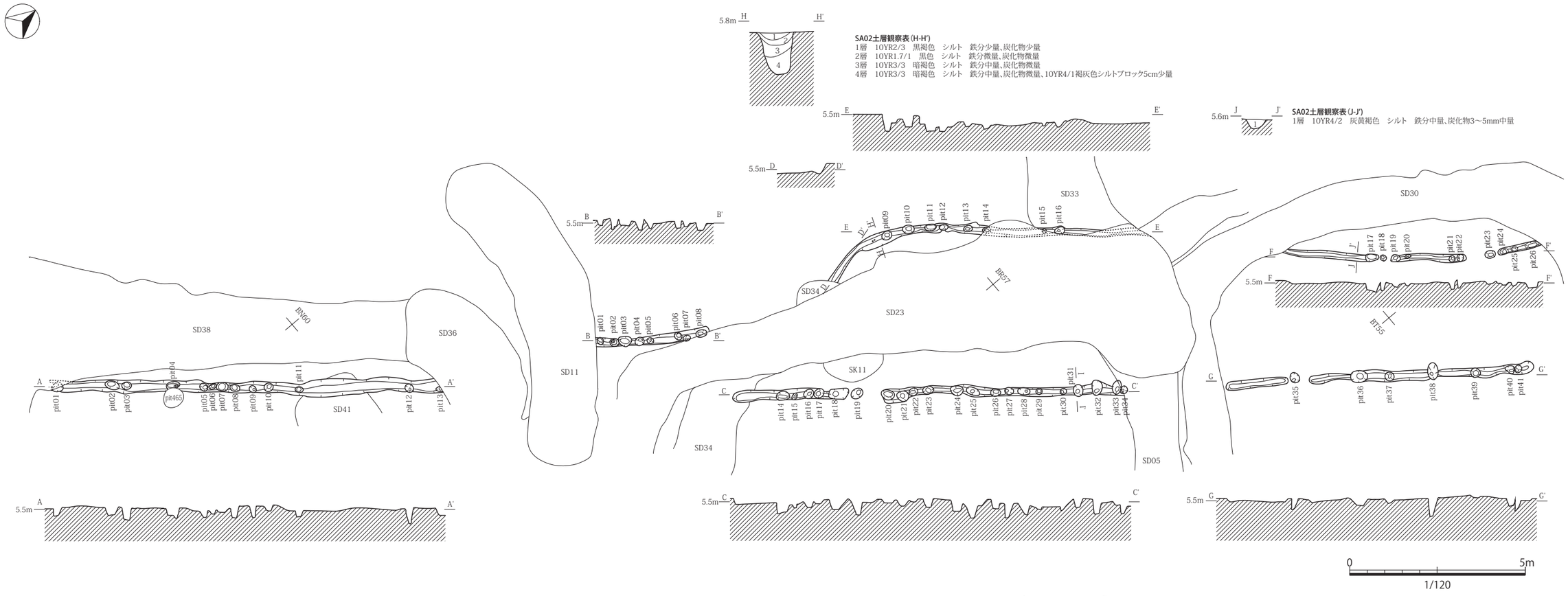
pit名	長径	短径	深さ
pit51	28.4	25.2	39.6
pit52	32.6	26.6	45.0
pit53	34.7	29.7	35.5
pit54	29.2	23.6	36.9
pit55	28.4	22.7	35.1
pit56	33.5	19.6	31.5
pit57	30.8	25.5	42.1
pit58	26.1	20.0	15.7
pit59	34.4	27.2	35.5
pit60	36.2	28.4	42.7
pit61	28.1	24.7	18.0
pit62	29.2	24.2	24.8
pit63	35.8	22.9	20.9
pit64	37.6	25.4	43.9
pit65	32.0	25.7	14.9
pit66	25.7	19.1	15.7
pit67	32.8	27.7	23.2
pit68	28.1	17.2	26.1
pit69	29.0	26.2	23.9
pit70	30.1	25.4	27.0
pit71	45.0	16.4	53.5
pit72	—	37.1	14.9
pit73	26.8	22.7	17.8
pit74	24.7	21.8	21.1
pit75	41.6	29.2	49.5

pit名	長径	短径	深さ
pit76	34.0	25.2	40.1
pit77	30.4	23.2	27.7
pit78	19.6	17.3	38.0
pit79	28.4	22.0	35.1
pit80	34.2	26.3	21.6
pit81	18.9	14.5	32.8
pit82	19.3	17.4	14.4
pit83	27.7	21.4	20.3
pit84	27.2	25.6	20.0
pit85	16.2	14.8	27.0
pit86	50.9	40.1	58.3
pit87	23.9	18.0	17.3
pit88	31.3	25.2	18.9
pit89	42.8	27.0	47.9
pit90	34.7	20.9	28.6
pit91	36.7	32.6	47.2
pit92	24.5	21.8	24.1
pit93	35.3	28.6	54.0
pit94	29.9	18.1	24.7
pit95	26.8	18.2	33.7
pit96	29.2	16.6	14.4
pit97	18.9	13.4	15.8
pit98	38.5	17.3	25.4
pit99	33.3	22.3	23.4
pit100	31.5	19.1	28.3

pit名	長径	短径	深さ
pit101	19.4	13.5	19.4
pit102	16.6	14.0	10.6
pit103	26.1	16.9	20.0
pit104	30.1	16.2	9.2
pit105	35.5	27.3	34.7
pit106	32.8	27.9	27.5
pit107	32.9	26.2	36.0
pit108	31.7	21.6	41.9
pit109	—	33.4	26.1
pit110	45.0	39.8	23.2

SA01pit属性表(単位:cm)

図Ⅲ-1-2　SA01と出土遺物



SA02pit属性表

pit名	長径	短径	深さ
pit01	21.0	17.9	17.4
pit02	25.9	22.5	31.0
pit03	38.2	28.9	18.5
pit04	26.4	23.6	31.7
pit05	19.2	17.2	15.4
pit06	24.0	19.7	24.0
pit07	20.9	16.2	16.0
pit08	31.4	20.9	25.6
pit09	30.1	24.0	24.6
pit10	33.7	23.4	34.0
pit11	34.1	19.0	21.0
pit12	25.6	14.4	19.3
pit13	26.0	17.8	14.4
pit14	24.6	16.8	12.0
pit15	13.7	12.6	9.6
pit16	29.6	20.2	20.6
pit17	37.3	21.2	24.5
pit18	18.6	15.5	23.4
pit19	27.6	19.6	12.6
pit20	17.6	10.6	9.0

pit名	長径	短径	深さ
pit21	18.2	17.6	21.0
pit22	21.1	18.8	24.4
pit23	30.2	22.0	9.6
pit24	24.1	16.4	8.6
pit25	19.4	13.2	11.0
pit26	40.8	15.6	18.6

SA03pit属性表

pit名	長径	短径	深さ
pit01	32.4	28.3	31.1
pit02	41.6	24.1	27
pit03	27.2	19.9	37.3
pit04	39.4	17.5	31.1
pit05	24.2	20.4	25.1
pit06	21.4	14.4	17
pit07	34.7	23.4	12
pit08	28.4	19.6	33.4
pit09	21.7	19	36
pit10	25.9	24.4	16.4
pit11	23.5	15.9	23.5
pit12	25.8	22.6	53.4
pit13	21.6	14.9	30
pit14	38.0	25.6	48
pit15	20.9	13.1	12
pit16	29.6	25.2	28
pit17	30.8	24.8	18
pit18	60.5	33	31.6
pit19	35.8	27.7	46.6
pit20	38.5	28	16

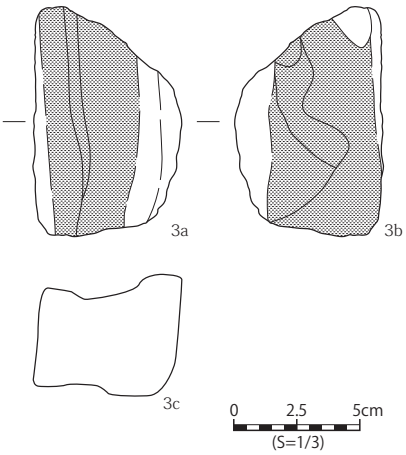
pit名	長径	短径	深さ
pit21	34.8	27.7	24
pit22	25.9	21	9
pit23	31.6	20.9	26.4
pit24	36.8	27.7	36.6
pit25	39.7	20.9	38.6
pit26	29.0	20.5	28.6
pit27	25.7	19.4	48
pit28	35.2	20.2	32.6
pit29	18.1	16.2	11
pit30	19.3	15.8	16
pit31	33.8	27.6	26
pit32	43.8	29.5	45
pit33	40.4	25.3	19.9
pit34	23.3	19.7	32
pit35	31.0	26.2	31.9
pit36	48.7	33.4	19.6
pit37	26.9	25.2	13.9
pit38	48.6	29.8	55.7
pit39	28.3	26.9	11
pit40	26.0	19.2	29.4
pit41	22.3	19	32.5

図Ⅲ-1-3　SA02・03

確認された。

第 3 号柵列（SA03、図Ⅲ -1-3）

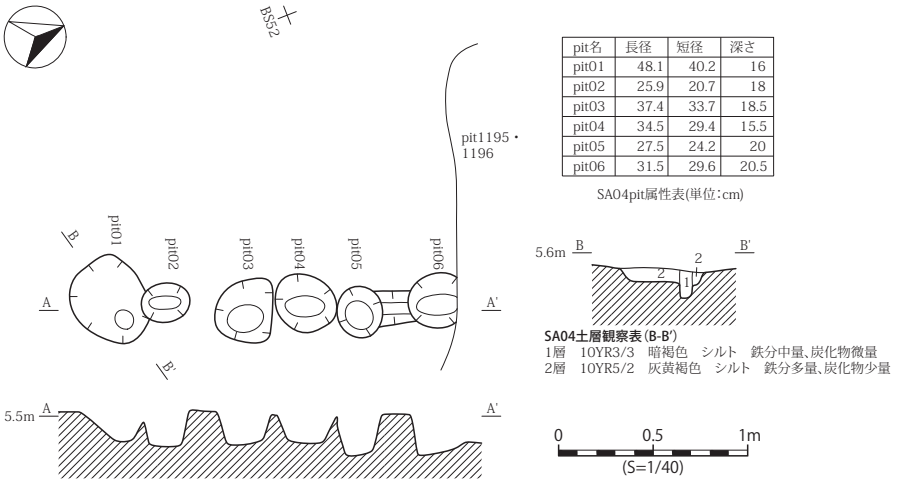
［位置・確認］グリッド BL60、BM59・60、BN59、BP56・57、BQ56、BR55・56、BS54・55、BT54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD05・34・36・38・41、pit465 と重複関係にあり、SD34・41 よりも新しく、SD05・36・38、pit465 よりも古い。［規模・形状］南西方向から北東方向にほぼ直線状に伸び、SA01 と同様に出入り口と考えられる開口部を有する。確認された距離は 3,100cm を測る。ピットは全部で 41 基検出され、各ピットの属性は図Ⅲ -1-3 の属性表のとおりである。pit05 ～ 10 及び pit14 ～ 34 ではほぼ密接にピットが配置され、その他のピットは約 1 ～ 2m 間隔で配置されている。［堆積土］2 層確認され、Ⅳ層由来の層を基調とする。［出土遺物］石器が出土している。3 は砥石であり、不定形の角礫の平坦面を砥面として使用している。石材は珪質泥岩である（図Ⅲ -1-4）。



図Ⅲ-1-4　SA03 出土遺物

第 4 号柵列（SA04、図Ⅲ -1-5）

［位置・確認］グリッド BR51 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］pit1195・1196 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］溝状の遺構は一部しか確認できなかったがピットが連続することから柵列と認定した。検出距離は 205cm、幅 17cm 前後、深さ 8.0 ～ 53.2cm を計り、直線形を呈する。ピットは 6 基検出され、各ピットの属性は図Ⅲ -1-5 の属性表のとおりである。いずれのピットも連続して配置されている。［堆積土］ピット内であるが 2 層確認され柵列部はⅣ層由来の層であり、埋め方の埋土はⅣ層由来の層で形成されていた。［出土遺物］特になし。



pit名	長径	短径	深さ
pit01	48.1	40.2	16
pit02	25.9	20.7	18
pit03	37.4	33.7	18.5
pit04	34.5	29.4	15.5
pit05	27.5	24.2	20
pit06	31.5	29.6	20.5

SA04pit属性表(単位：cm)

SA04土層観察表（B-B'）
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

図Ⅲ-1-5　SA04

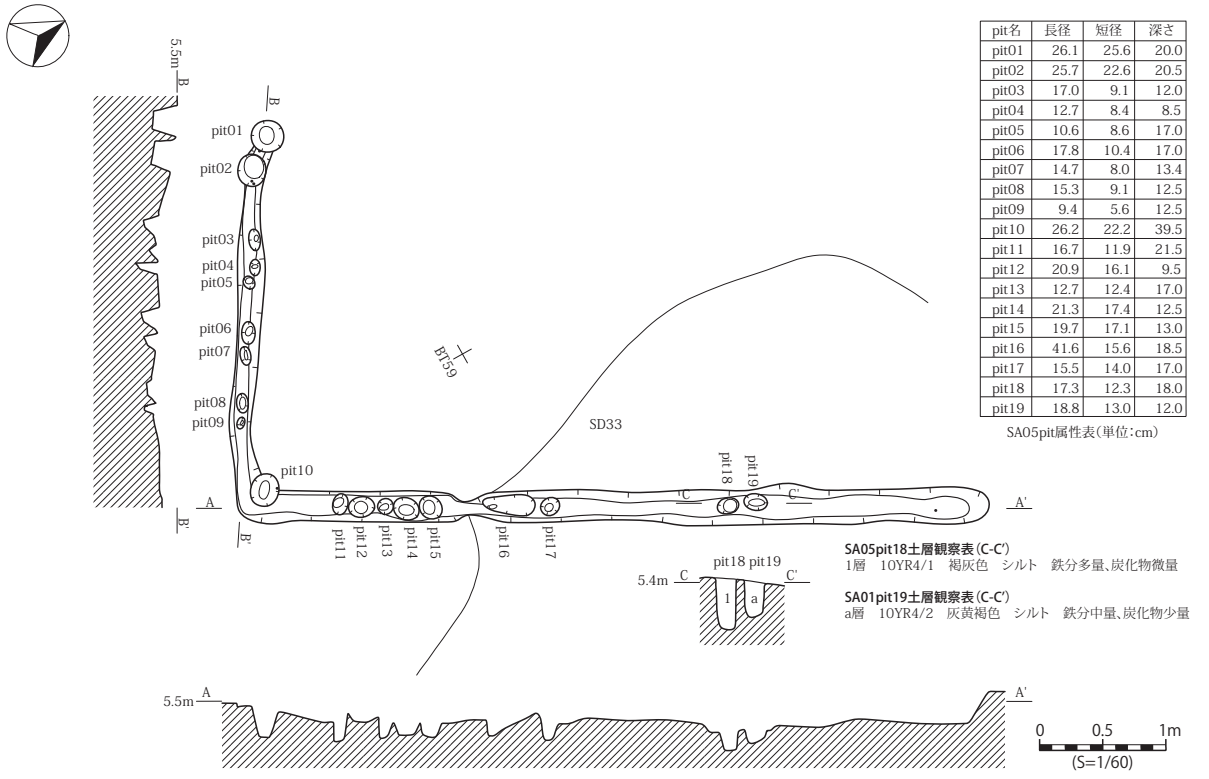
第 5 号柵列（SA05、図Ⅲ -1-6）

［位置・確認］グリッド BS・BT58，59 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］距離 887cm、幅 23 ～ 33cm、深さ 9.5 ～ 39.5cm を測り、L 字形を呈する。ピットは 19 基検出され、各ピットの属性は図Ⅲ -1-6 の属性表のとおりである。ピットが連続して配置されている箇所（pit11 ～ 15）、ピットが一定間隔で配置されている箇所（pit03 ～ 09）が見られる。［堆積土］1 層確認され、

Ⅳ層ないしはⅥ層由来の層を基調とする。［出土遺物］特になし。

第 6 号柵列（SA06、図Ⅲ -1-8）

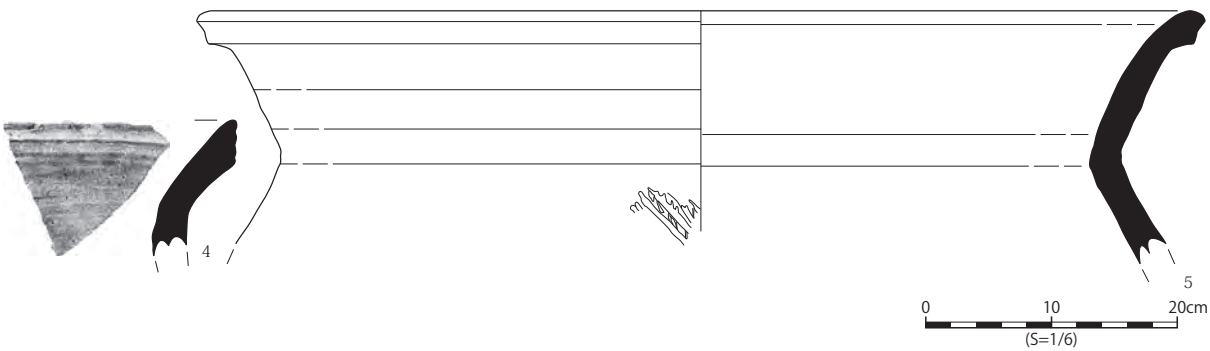
［位置・確認］調査区中央部に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［ 重複関係 ］ SD02・24・28・35・52・66、SA01 と重複関係があり、SD28 より古く、その他の遺構よりは新しい。特に SA01 より新しく、且つ構造的に類似することから SA01 廃棄後に位置を北東方向にずらして再構築したものと考えられる。［規模・形状］距離 7,617cm、幅 24 ～ 61cm、深さ 8.0 ～ 53.2cm を計り、L 字形を呈する。ピットは 139 基検出され、各ピットの属性は図Ⅲ -1-8 の属性表のとおりである。［堆積土］4 層確認され地山由来の層とⅣ層由来の層が互層を成す。［出土遺物］土師器の坏が 116 ｇ、甕が 716 ｇ、須恵器甕が出土している。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -1-7）。4 は須恵器の中甕の口縁部破片であり、内外面ともにロクロ成形が施されている。5 は須恵器の大甕であり、口縁部はロクロ成形、体部上半は格子タタキ目が観察される。



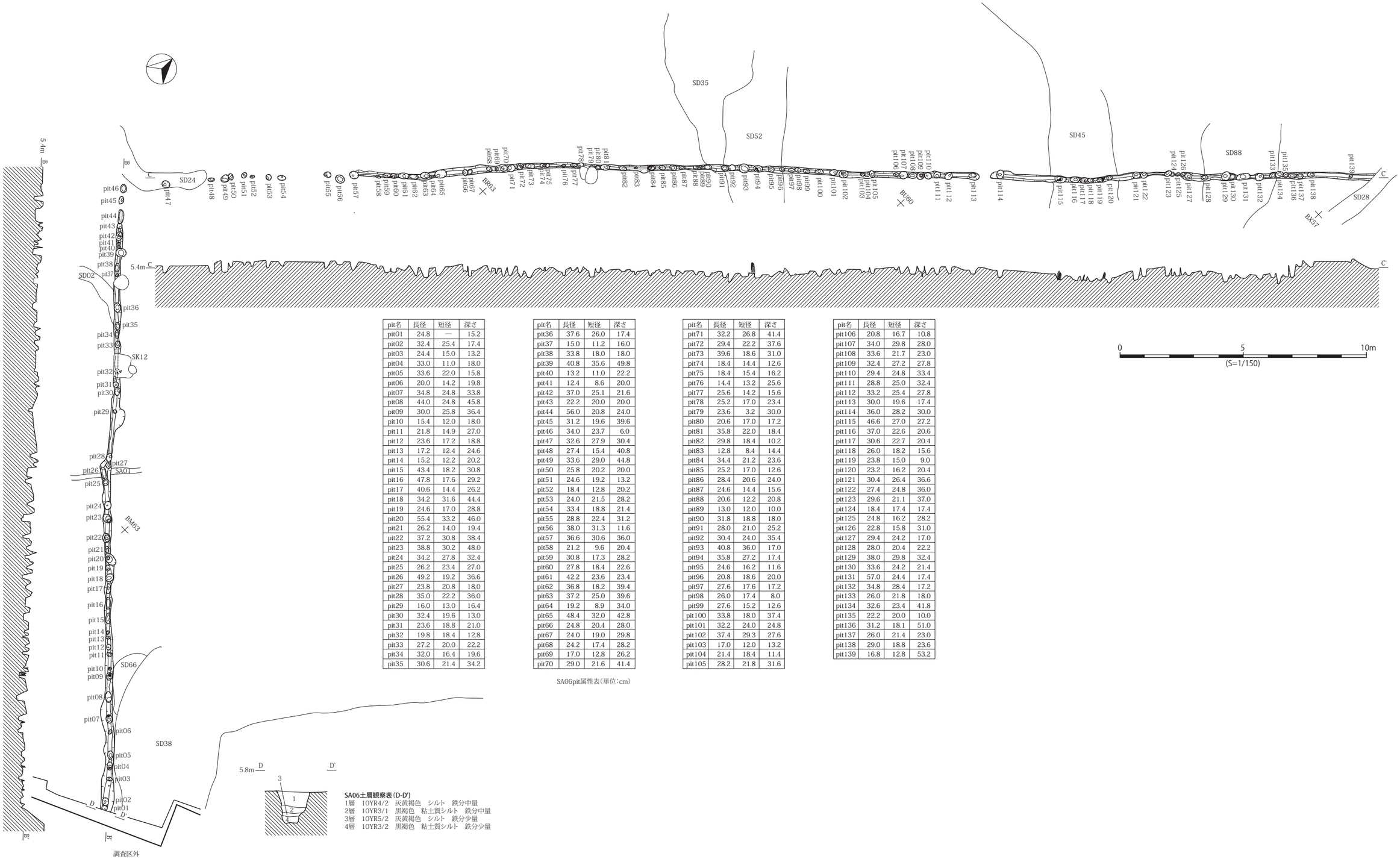
pit名	長径	短径	深さ
pit01	26.1	25.6	20.0
pit02	25.7	22.6	20.5
pit03	17.0	9.1	12.0
pit04	12.7	8.4	8.5
pit05	10.6	8.6	17.0
pit06	17.8	10.4	17.0
pit07	14.7	8.0	13.4
pit08	15.3	9.1	12.5
pit09	9.4	5.6	12.5
pit10	26.2	22.2	39.5
pit11	16.7	11.9	21.5
pit12	20.9	16.1	9.5
pit13	12.7	12.4	17.0
pit14	21.3	17.4	12.5
pit15	19.7	17.1	13.0
pit16	41.6	15.6	18.5
pit17	15.5	14.0	17.0
pit18	17.3	12.3	18.0
pit19	18.8	13.0	12.0

SA05pit属性表（単位：cm）

図Ⅲ-1-6　SA06



図Ⅲ-1-7　SA06 出土遺物



pit名	長径	短径	深さ
pit01	24.8	—	15.2
pit02	32.4	25.4	17.4
pit03	24.4	15.0	13.2
pit04	33.0	11.0	18.0
pit05	33.6	22.0	15.8
pit06	20.0	14.2	19.8
pit07	34.8	24.8	33.8
pit08	44.0	24.8	45.8
pit09	30.0	25.8	36.4
pit10	15.4	12.0	18.0
pit11	21.8	14.9	27.0
pit12	23.6	17.2	18.8
pit13	17.2	12.4	24.6
pit14	15.2	12.2	20.2
pit15	43.4	18.2	30.8
pit16	47.8	17.6	29.2
pit17	40.6	14.4	26.2
pit18	34.2	31.6	44.4
pit19	24.6	17.0	28.8
pit20	55.4	33.2	46.0
pit21	26.2	14.0	19.4
pit22	37.2	30.8	38.4
pit23	38.8	30.2	48.0
pit24	34.2	27.8	32.4
pit25	26.2	23.4	27.0
pit26	49.2	19.2	36.6
pit27	23.8	20.8	18.0
pit28	35.0	22.2	36.0
pit29	16.0	13.0	16.4
pit30	32.4	19.6	13.0
pit31	23.6	18.8	21.0
pit32	19.8	18.4	12.8
pit33	27.2	20.0	22.2
pit34	32.0	16.4	19.6
pit35	30.6	21.4	34.2

pit名	長径	短径	深さ
pit36	37.6	26.0	17.4
pit37	15.0	11.2	16.0
pit38	33.8	18.0	18.0
pit39	40.8	35.6	49.8
pit40	13.2	11.0	22.2
pit41	12.4	8.6	20.0
pit42	37.0	25.1	21.6
pit43	22.2	20.0	20.0
pit44	56.0	20.8	24.0
pit45	31.2	19.6	39.6
pit46	34.0	23.7	6.0
pit47	32.6	27.9	30.4
pit48	27.4	15.4	40.8
pit49	33.6	29.0	44.8
pit50	25.8	20.2	20.0
pit51	24.6	19.2	13.2
pit52	18.4	12.8	20.2
pit53	24.0	21.5	28.2
pit54	33.4	18.8	21.4
pit55	28.8	22.4	31.2
pit56	38.0	31.3	11.6
pit57	36.6	30.6	36.0
pit58	21.2	9.6	20.4
pit59	30.8	17.3	28.2
pit60	27.8	18.4	22.6
pit61	42.2	23.6	23.4
pit62	36.8	18.2	39.4
pit63	37.2	25.0	39.6
pit64	19.2	8.9	34.0
pit65	48.4	32.0	42.8
pit66	24.8	20.4	28.0
pit67	24.0	19.0	29.8
pit68	24.2	17.4	28.2
pit69	17.0	12.8	26.2
pit70	29.0	21.6	41.4

pit名	長径	短径	深さ
pit71	32.2	26.8	41.4
pit72	29.4	22.2	37.6
pit73	39.6	18.6	31.0
pit74	18.4	14.4	12.6
pit75	18.4	15.4	16.2
pit76	14.4	13.2	25.6
pit77	25.6	14.2	15.6
pit78	25.2	17.0	23.4
pit79	23.6	3.2	30.0
pit80	20.6	17.0	17.2
pit81	35.8	22.0	18.4
pit82	29.8	18.4	10.2
pit83	12.8	8.4	14.4
pit84	34.4	21.2	23.6
pit85	25.2	17.0	12.6
pit86	28.4	20.6	24.0
pit87	24.6	14.4	15.6
pit88	20.6	12.2	20.8
pit89	13.0	12.0	10.0
pit90	31.8	18.8	18.0
pit91	28.0	21.0	25.2
pit92	30.4	24.0	35.4
pit93	40.8	36.0	17.0
pit94	35.8	27.2	17.4
pit95	24.6	16.2	11.6
pit96	20.8	18.6	20.0
pit97	27.6	17.6	17.2
pit98	26.0	17.4	8.0
pit99	27.6	15.2	12.6
pit100	33.8	18.0	37.4
pit101	32.2	24.0	24.8
pit102	37.4	29.3	27.6
pit103	17.0	12.0	13.2
pit104	21.4	18.4	11.4
pit105	28.2	21.8	31.6

pit名	長径	短径	深さ
pit106	20.8	16.7	10.8
pit107	34.0	29.8	28.0
pit108	33.6	21.7	23.0
pit109	32.4	27.2	27.8
pit110	29.4	24.8	33.4
pit111	28.8	25.0	32.4
pit112	33.2	25.4	27.8
pit113	30.0	19.6	17.4
pit114	36.0	28.2	30.0
pit115	46.6	27.0	27.2
pit116	37.0	22.6	20.6
pit117	30.6	22.7	20.4
pit118	26.0	18.2	15.6
pit119	23.8	15.0	9.0
pit120	23.2	16.2	20.4
pit121	30.4	26.4	36.6
pit122	27.4	24.8	36.0
pit123	29.6	21.1	37.0
pit124	18.4	17.4	17.4
pit125	24.8	16.2	28.2
pit126	22.8	15.8	31.0
pit127	29.4	24.2	17.0
pit128	28.0	20.4	22.2
pit129	38.0	29.8	32.4
pit130	33.6	24.2	21.4
pit131	57.0	24.4	17.4
pit132	34.8	28.4	17.2
pit133	26.0	21.8	18.0
pit134	32.6	23.4	41.8
pit135	22.2	20.0	10.0
pit136	31.2	18.1	51.0
pit137	26.0	21.4	23.0
pit138	29.0	18.8	23.6
pit139	16.8	12.8	53.2

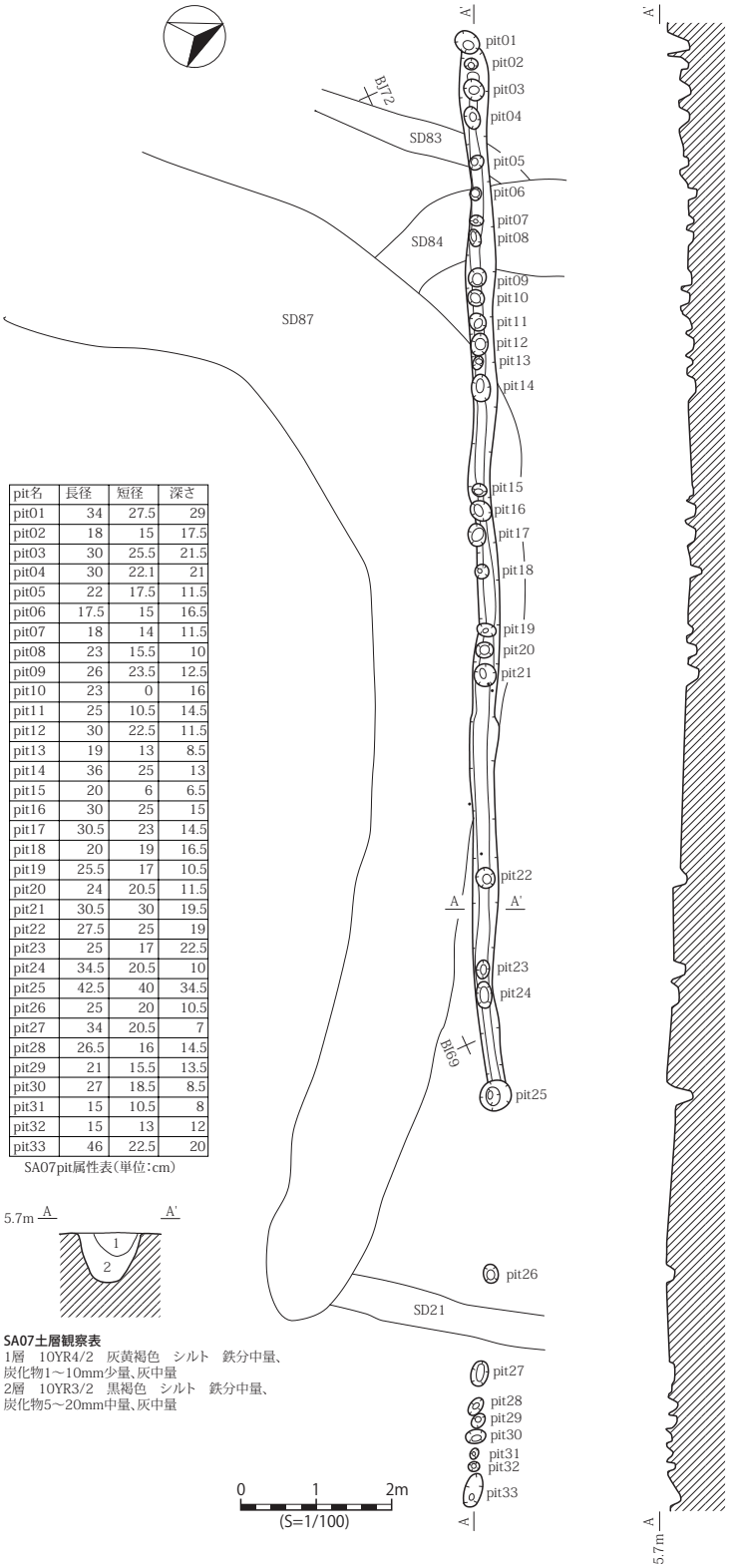
SA06pit属性表（単位：cm）

SA06土層観察表（D-D'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量
4層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量

図Ⅲ-1-8　SA06

第 7 号柵列（SA07、図Ⅲ -1-9）

［位置・確認］グリッド BP72 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD83・84・87 と重複関係にあり、いずれの溝跡よりも新しい。［規模・形状］検出距離 2,017cm、最大幅 41cm を測り、ほぼ直線的である。ピットは 33 基検出され各ピットの属性は図Ⅲ -1-9 の属性表のとおりである。pit01 から pit25 までは、検出距離 1,430cm、最大幅 41cm、深さ 58.5cm の溝跡が検出されており、pit26 ～ pit33 には溝跡は検出されなかった。ピットが連続して配置されている箇所（pit01 ～ 04、pit09 ～ 14、pit15 ～ 18、pit19 ～ 21、pit27 ～ 33）、ピットが一定間隔で配置されている箇所（pit22 ～ 27）が見られる。［堆積土］7 層確認され、上層はⅣ層由来の層を基調とし、下層はⅥ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器の坏 228g、土師器の甕 72g が出土している。その内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -1-10）。6 は土師器の皿であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

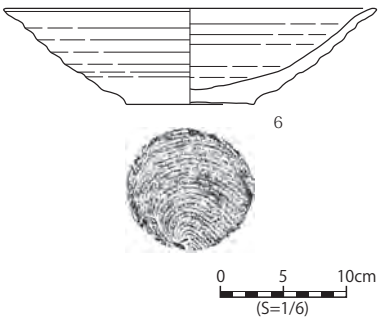


pit名	長径	短径	深さ
pit01	34	27.5	29
pit02	18	15	17.5
pit03	30	25.5	21.5
pit04	30	22.1	21
pit05	22	17.5	11.5
pit06	17.5	15	16.5
pit07	18	14	11.5
pit08	23	15.5	10
pit09	26	23.5	12.5
pit10	23	0	16
pit11	25	10.5	14.5
pit12	30	22.5	11.5
pit13	19	13	8.5
pit14	36	25	13
pit15	20	6	6.5
pit16	30	25	15
pit17	30.5	23	14.5
pit18	20	19	16.5
pit19	25.5	17	10.5
pit20	24	20.5	11.5
pit21	30.5	30	19.5
pit22	27.5	25	19
pit23	25	17	22.5
pit24	34.5	20.5	10
pit25	42.5	40	34.5
pit26	25	20	10.5
pit27	34	20.5	7
pit28	26.5	16	14.5
pit29	21	15.5	13.5
pit30	27	18.5	8.5
pit31	15	10.5	8
pit32	15	13	12
pit33	46	22.5	20

SA07pit属性表（単位：cm）

SA07土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm中量、灰中量

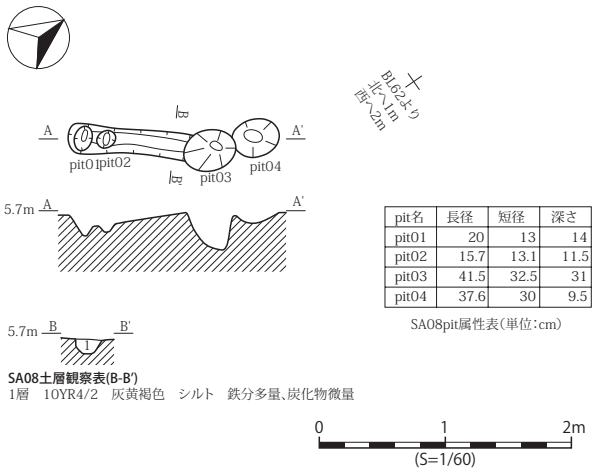
図Ⅲ-1-9　SA07



図Ⅲ-1-10　SA07 出土遺物

第 8 号柵列（SA08、図Ⅲ -1-11）

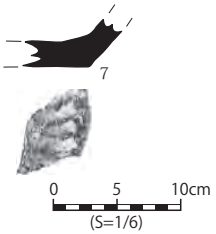
［位置・確認］グリッド BK62 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］検出距離 168cm、最大幅 22cm、深さ 13cm を測り、ほぼ直線



pit名	長径	短径	深さ
pit01	20	13	14
pit02	15.7	13.1	11.5
pit03	41.5	32.5	31
pit04	37.6	30	9.5

SA08pit属性表(単位:cm)

図Ⅲ-1-11　SA08

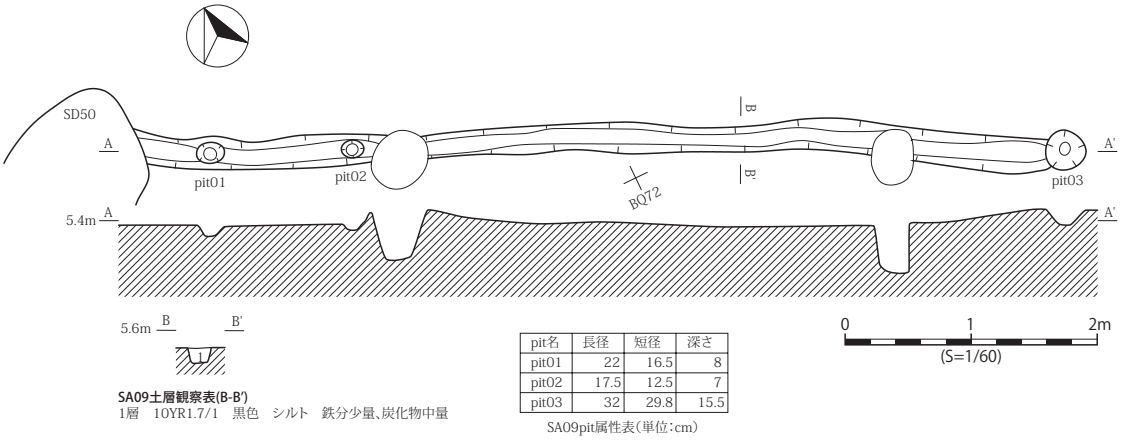


図Ⅲ-1-12　SA08 出土遺物

的である。ピットは4基検出され、図Ⅲ-1-11の属性表のとおりである。［堆積土］1層確認され、Ⅳ層由来の層を基調とする。［出土遺物］須恵器の壺26gが出土している。その内図示できたのは1点である（図Ⅲ-1-12）。7は須恵器の壺の底部破片であり、底面には菊花状のヘラケズリが施されている。

第9号柵列（SA09、図Ⅲ-1-13）

［位置・確認］グリッドBP72に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD50と重複関係にあり、SD50よりも古い。［規模・形状］SD50よりも古いため、正確な規模・形状は不明であるが、検出距離751cm、最大幅22.5cm、深さ17.5cmを測り、ほぼ直線的である。ピットは3基検出され、図Ⅲ-1-13の属性表のとおりである。［堆積土］1層確認され、黒色土を基調とする。［出土遺物］土師器の甕283gが出土している。



pit名	長径	短径	深さ
pit01	22	16.5	8
pit02	17.5	12.5	7
pit03	32	29.8	15.5

SA09pit属性表(単位:cm)

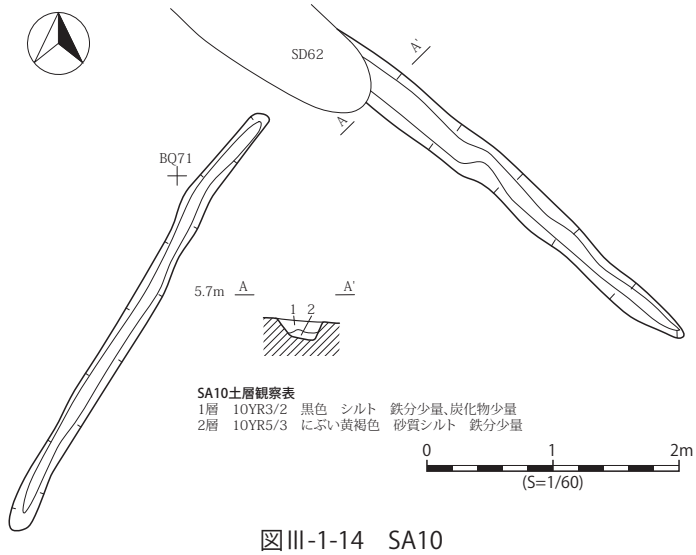
図Ⅲ-1-13　SA09

第10号柵列（SA10、図Ⅲ-1-14）

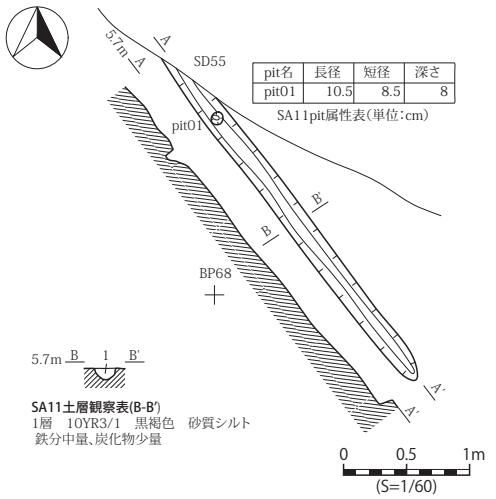
［位置・確認］グリッドBP70，71、BQ70に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD62と重複関係にあり、SD62よりも古い。［規模・形状］SD62よりも古いため、正確な規模・形状は不明であるが、検出距離703cm、最大幅49.5cm、深さ30.5cmを測り、L字形を呈する。［堆積土］2層確認され、上層は黒色土層を基調とし、下層はⅣ層由来の層を基調とする。［出土遺物］特になし。

第11号柵列（SA11、図Ⅲ-1-15）

［位置・確認］グリッドBO67、BP67，68に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD55



図Ⅲ-1-14　SA10

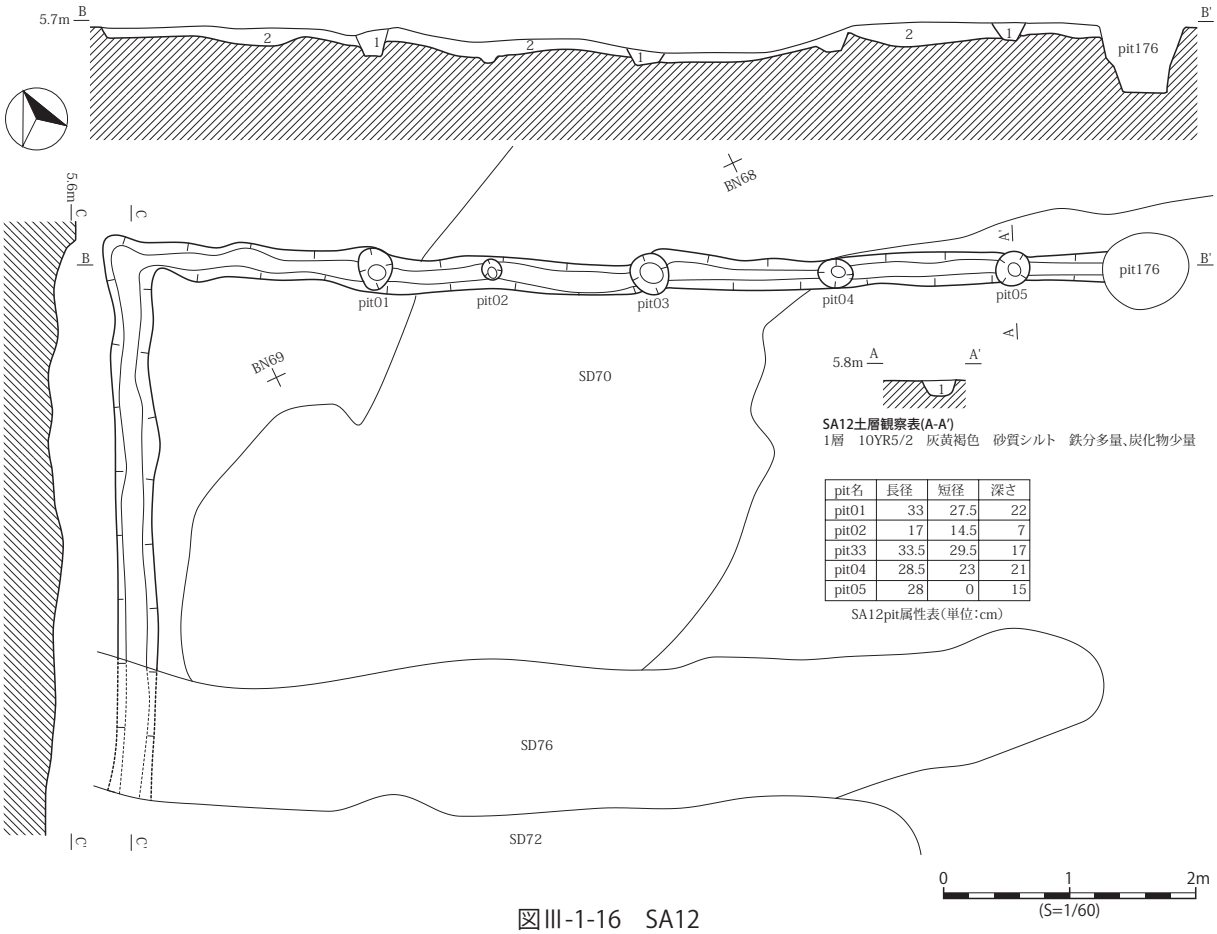


図Ⅲ-1-15　SA11

と重複関係にあり、SD55 よりも古い。［規模・形状］SD55 よりも古いため、正確な規模・形状は不明であるが、検出距離 308cm、最大幅 22.5cm、深さ平均 19.5cm を測り、ほぼ直線的である。ピットは 1 基検出され長径 10.5cm、短径 9cm、深さ 8cm を測る。［堆積土］1 層確認され、Ⅳ層及びⅥ層由来の層を基調とする。［出土遺物］特になし。

第 12 号柵列（SA12、図Ⅲ -1-16)

［位置・確認］グリッド BM67、BN・BM68，69 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］

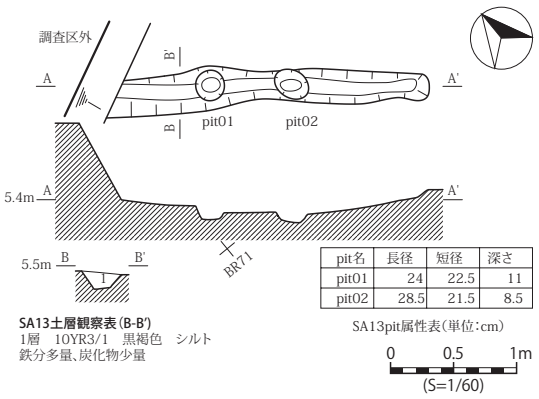


図Ⅲ-1-16　SA12

SD70・72・76 と重複関係にあり、SD70・76 より新しく、SD72 よりも古い。［規模・形状］検出距離 1,188cm、幅 17 ～ 37cm、深さ平均 16.5cm を測り、L 字形を呈する。ピットは 5 基検出され、図Ⅲ -1-16 の属性表のとおりである。［堆積土］1 層確認され、上層はⅣ層由来の層を基調とし、下層はⅥ層由来の層を基調とする。［出土遺物］特になし。

第 13 号柵列（SA13、図Ⅲ -1-17）

［位置・確認］グリッド BR70 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］調査区外に伸びているため正確な規模・形状は不明であるが、検出距離 226cm、最大幅 36cm、深さ平均 22.5cm を測り、ほぼ直線的である。ピットは 2 基検出され、図Ⅲ -1-17 の属性表のとおりである。［堆積土］1 層確認され、Ⅳ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 13g、土師器甕 132g が出土している。



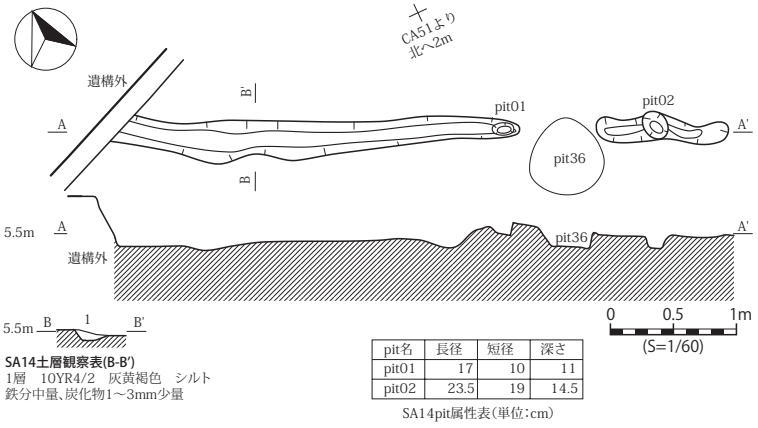
pit名	長径	短径	深さ
pit01	24	22.5	11
pit02	28.5	21.5	8.5

SA13pit属性表（単位：cm）

図Ⅲ-1-17　SA13

第 14 号柵列（SA14、Ⅲ -1-18）

［位置・確認］グリッド CA50，51 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］調査区外に伸びているため正確な規模・形状は不明であるが、検出距離 476cm、最大幅 39cm、深さ 5 ～ 18cm を測り、ほぼ直線的である。ピットは 2 基検出され、図Ⅲ -1-18 の属性表のとおりである。［堆積土］1 層確認され、Ⅳ層由来の層を基調とする。［出土遺物］特になし。



pit名	長径	短径	深さ
pit01	17	10	11
pit02	23.5	19	14.5

SA14pit属性表（単位：cm）

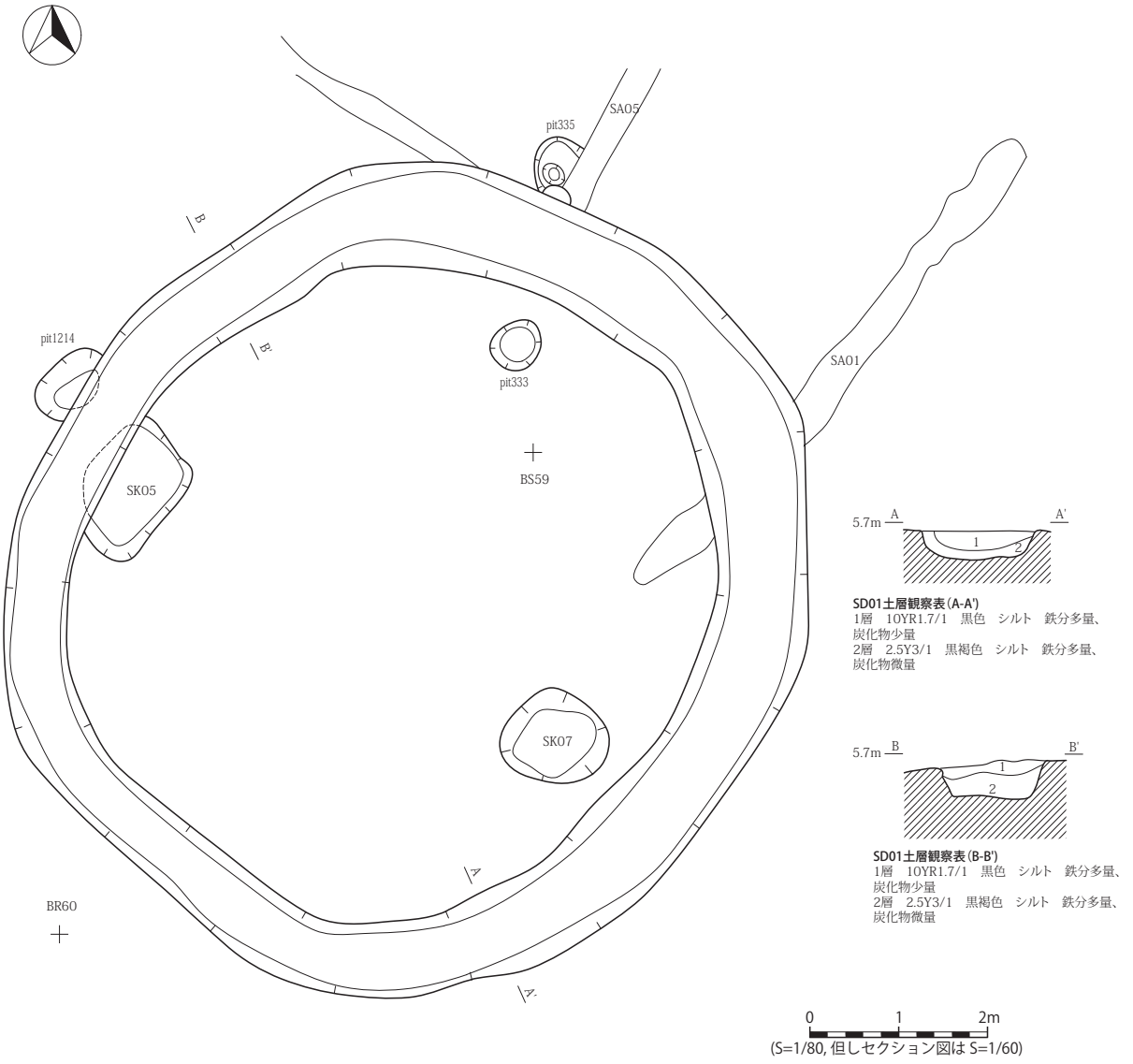
図Ⅲ-1-18　SA14

第 2 節　溝跡（SD）・竪穴住居跡（SI）

溝跡は、1）円形周溝状のもの。2）方形周溝状のもの。3）L 字状ないしは直線状の溝跡によりコの字形を呈するもの。4）直線状を呈するものといった 4 種類の溝跡が確認され、その溝跡の堆積土中から多量の遺物が出土している。また、3）の溝跡で囲まれた内部からは、柱穴と考えられるピットが多数出土しているが、掘立柱建物跡と確認できたもの以外は、竪穴部の消滅した竪穴住居跡の柱穴群であると考えられるものの、明瞭な住居跡の範囲が確認できないため、平面図にピットを掲載するのみに留め、堆積状況はまとめて後述することにする。

第 1 号溝跡（SD01、図Ⅲ -2-1）

［位置・確認］グリッド BQ58，59、BR58 ～ 60、BS58 ～ 60 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA01・05、SK05、pit1214 と重復関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］長径 713cm、短径 616cm、幅 51 ～ 88cm、深さ 26cm を測り、円形を呈する。［堆積土］2 層確認され、1 層は黒色土を基調とし、2 層はⅢ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器片が少



図Ⅲ-2-1　SD01

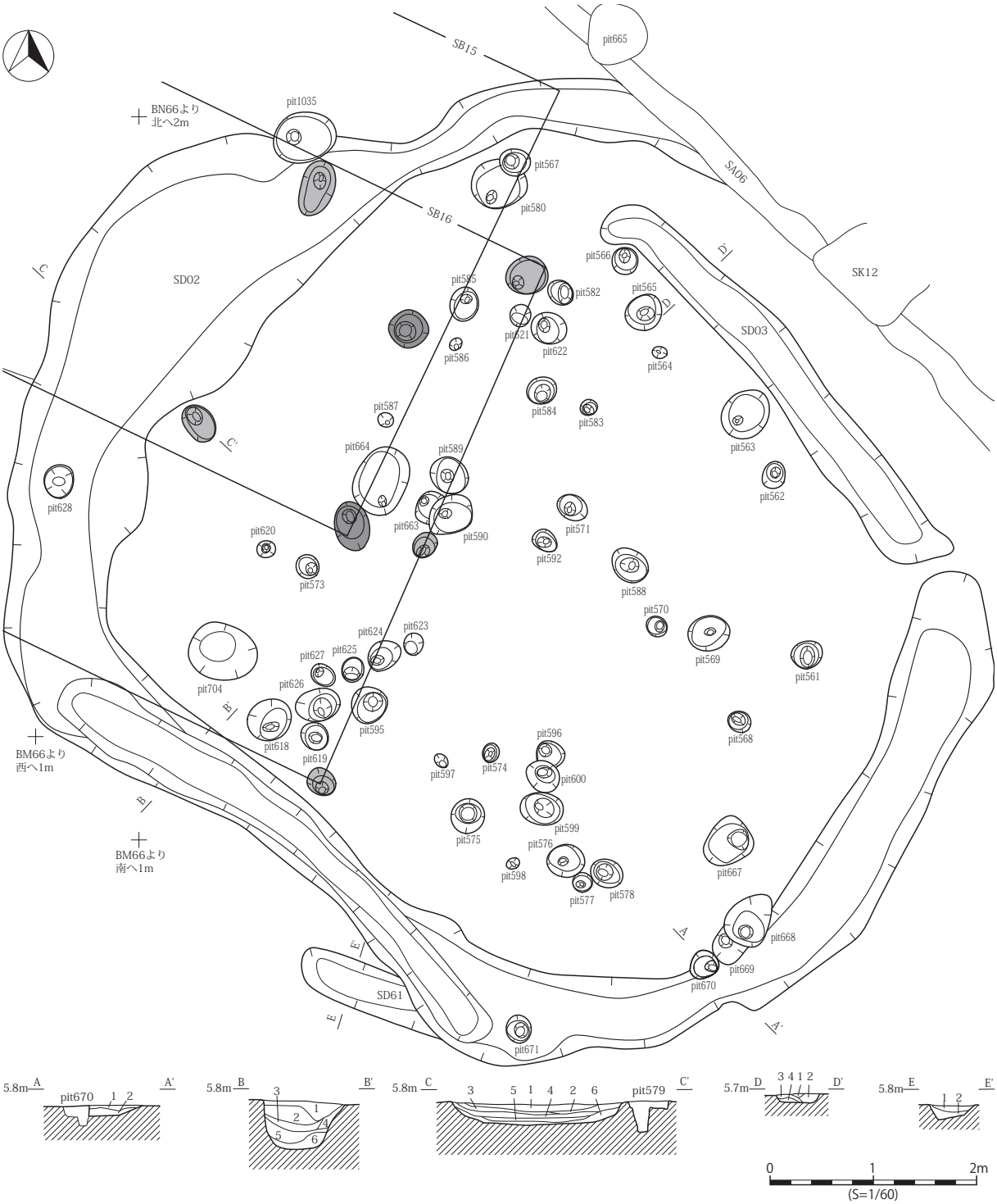
量出土しているのみである。

［時期］他の遺構確認面より上層で確認されたため、Ⅳ期であると考えられる。

第２・３・61 号溝跡（SD02・03・61、図Ⅲ -2-2）

（SD02）

［位置・確認］グリッド BL・BM・BN65，66，67 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD02・61、SA06 には重復関係があり、SD61、SD02、SA06 の順に新しい。［規模・形状］残存長 2,119cm、幅 41 ～ 204cm、深さ 49.5cm を測り、不整円形を呈する。［堆積土］6 層確認され、２～５層は黒色土を基調とする腐植土層であり、６層はⅢ層由来の層を基調とする。［出土遺物］遺物は西側部分から集中して出土している（図Ⅲ -2-3)。8 は土師器のミニチュアの甕であり、手捏ねで製作されている。9・10 は土師器の高台付耳皿であり、台部に鍔上の張り出し部が見られ、あたかも器台の上に耳皿を乗せた形態をしている。高台は中実である。11・12 は土師器の皿型の坏であり、13・14 は土師器の椀型坏である。いずれもロクロ成形であり、



SD02土層観察表(A-A')
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、灰少量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

SD02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
6層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

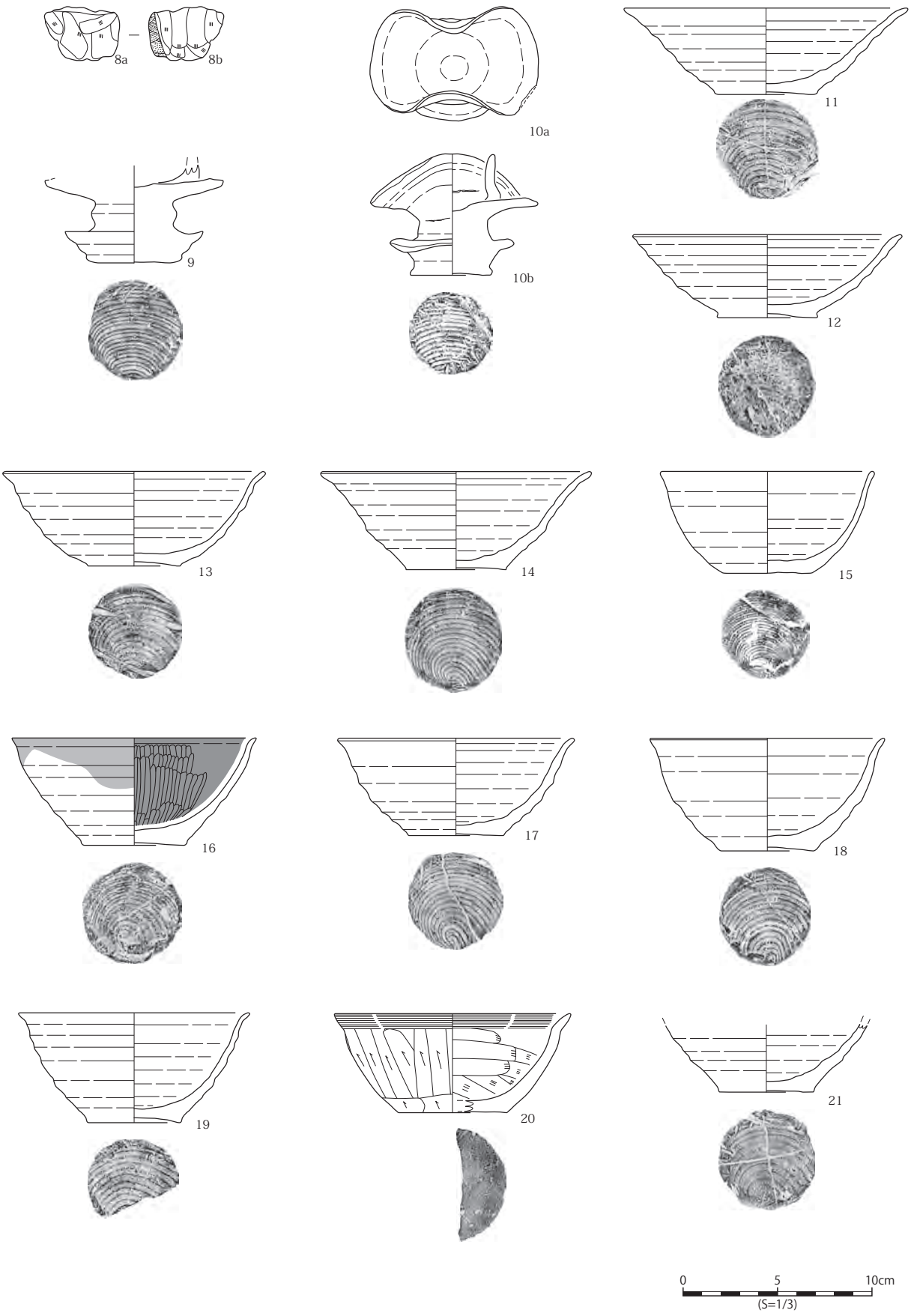
SD02土層観察表(C-C')
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰微量、細礫2～9mm少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰中量
4層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰中量、
5層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
6層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

SD03土層観察表(D-D')
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト鉄分中量、炭化物多量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

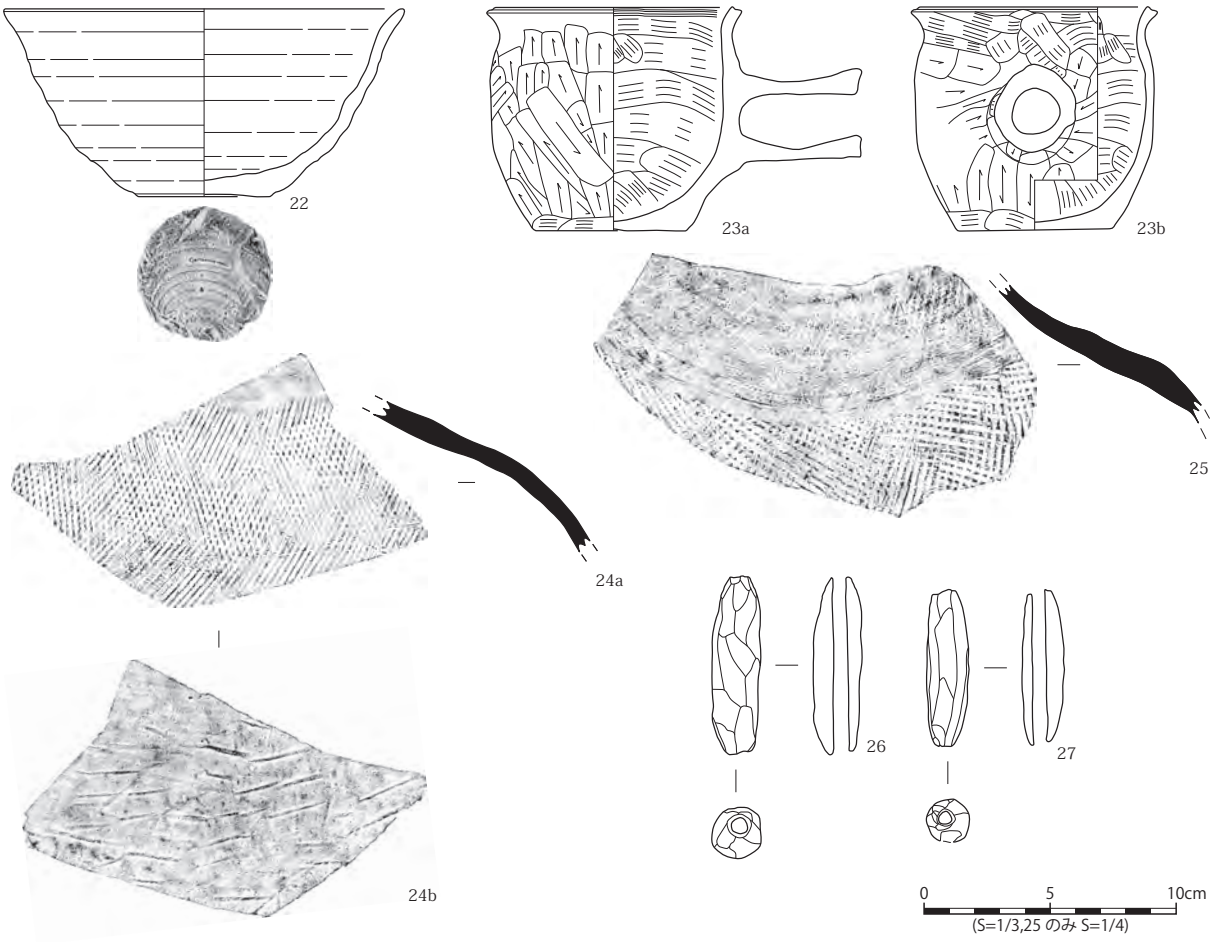
SD61土層観察表(E-E')
1層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰中量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、灰中量

図Ⅲ-2-2　SD02・03・61

図Ⅲ-2-3　SD02遺物出土状況



図Ⅲ-2-4　SD02 出土遺物 (1)



図Ⅲ-2-5　SD02 出土遺物 (2)

底部は回転糸切痕が残る。15 ～ 21 は土師器の埦であり、16 はロクロ成形後内面にミガキが施されたのち黒色処理が施されている。20 は非ロクロであり、外面は口縁部にヨコナデ、体部にケズリ調整が施され、内面は口縁部にヨコナデ、体部にユビナデ調整が施されている（図Ⅲ -2-4）。22 は大型の埦形坏であり、底面に「×」のヘラ記号が施されている。23 は把手付土器であり、調整方法は 20 の非ロクロ坏と同様である。24・25 は須恵器甕の体部破片であり、ともに格子タタキ調整である。24 の内面には鳥足状の当て具痕が見られる。26・27 は土錘であり、小型のため、内水面の網漁に使用されたものであると考えられる（図Ⅲ -2-5）。

（SD03）

［位置・確認］グリッド BM・BN65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］なし。［規模・形状］長さ 466cm、幅 57cm、深さ 20cm を測り、直線形を呈する。［堆積土］4 層確認され、1 ～ 3 層は黒色土を基調とし、4 層はⅢ層由来の層を基調とし、SD02 と同様の堆積状況である。［出土遺物］特になし。

（SD61）

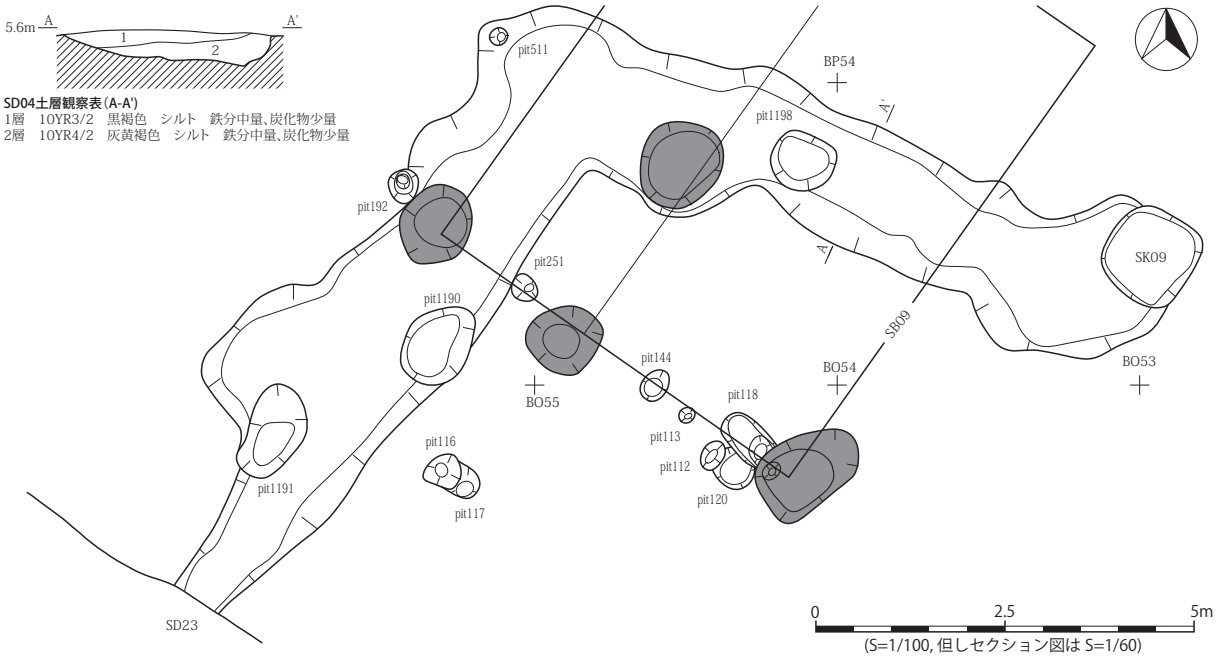
［位置・確認］グリッド BL65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD02 と重複関係にあり、SD02 よりも古い。［規模・形状］残存長 114cm、幅 42cm、深さ 20cm を測り、直線形を呈する。［堆積土］2 層確認され、黒色土を基調とし、SD02 の上層と同様の堆積状況である。［出土遺物］

図示できるものはなかったが、土師器の坏が 91g、甕が 464g 出土している。

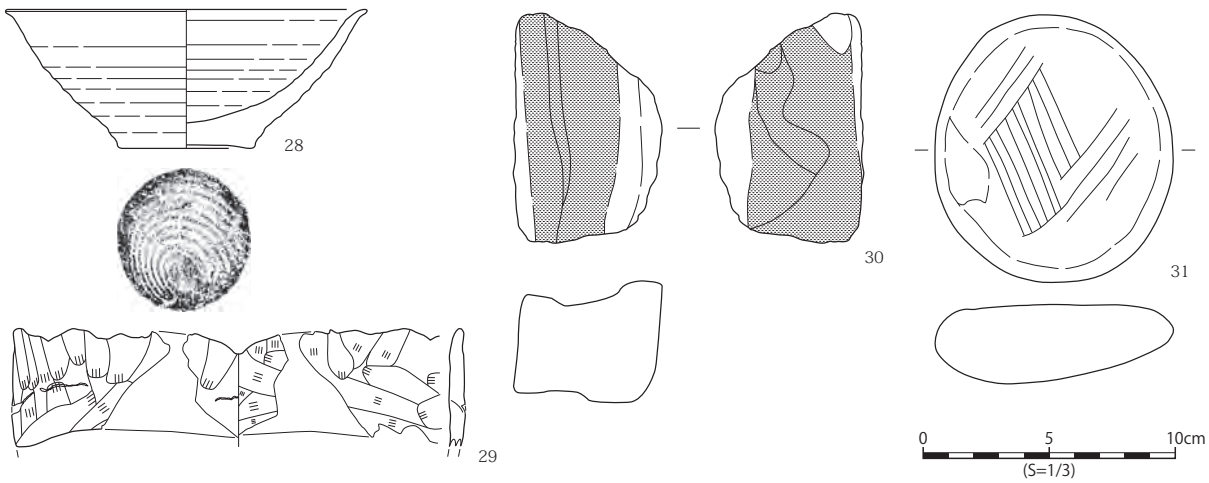
［時期］いずれの溝跡も同様の堆積状況を示しており、ほぼ同時期に廃絶している可能性が高い。特に SD02・03 は、最下層は遺構構築層由来の層が堆積している以外は、黒色土を由来とする層が堆積していることから、徐々に溝の深度が浅くなっていると考えられ、SD02 から出土する遺物はこの溝で囲まれた建物跡内外から廃棄された遺物である可能性が高い。遺構の構築時期はⅠ期特有の堆積状況を示さず、かつ SA06 よりも古いことからⅡ期であると考えられる。

第 4 号溝跡（SD04、図Ⅲ -2-6）

［位置・確認］グリッド BO53 ～ 55、BP55 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD23 と重復関係があり、SD23 よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向にほぼ直線状に伸び、そこから直角に曲がり南西方向へ伸びる L 字状の溝跡である。残存長 1,690cm、幅 79 ～ 250cm、



図Ⅲ-2-6　SD04



図Ⅲ-2-7　SD04 出土遺物

深さ 25cm を測る。［堆積土］2 層確認され、1 層は黒褐色土を基調とし、2 層はⅣ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器の坏 113.4g、甕 1243.2g、石器 707g が出土している。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅲ -2-7）。28 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。29 は、土師器の甕であり、白色から赤褐色へと器面が熱変しているため、製塩土器である可能性が高い。30・31 は砥石であり、31 は平坦な刃部の仕上げ砥として使用されたと考えられる刃物痕が確認される。材質は 30 が泥岩、31 が安山岩である。

［時期］Ⅰ期とは異なる自然堆積層であるが、Ⅱ期に該当する SD23 より古いため、Ⅱ期の比較的初期の段階に構築されているものと考えられる。

第 5・30 号溝跡（SD05・30、図Ⅲ -2-8）

（概要）

南東部に開口部を有するコの字状溝である SD05 が外側を、SD30 が内側を巡る 2 重の外周溝を形成している。建物跡の詳細は不明であるが溝跡内には多数のピットが有するため、数回の立て替えがあったものと考えられる。また、溝跡内の北東部には SB05 があるが、同溝跡との関連は不明である。

（SD05）

［位置･確認］グリッド BQ53 ～ 55、BR54，55、BS56、BT55，56、BU52 ～ 54、BT52 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA02・03、SD17・23・28・30 と重復関係があり、SA02・03、SD17 よりも新しく、SD23・28・30 よりも古い。［規模・形状］南東方向に開口部を有するコの字状の溝跡である。残存長 3,790cm、幅 76 ～ 228cm、深さは平均 42cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒色土を基調とする堆積層とⅢ層由来の層が互層を成している。［出土遺物］土師器の坏 9,227.9g、甕 35,854.8g、須恵器甕 2,812g、壷 141g、石器 661g が出土している（図Ⅲ -2-9）。この内図示できたのは 38 点である（図Ⅲ -2-10 ～ 12）。32 ～ 34・48 は土師器の皿である。いずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し無調整である。48 は底部付近が他の皿と異なり内湾する器形である。35 ～ 38 は土師器の皿形坏であり、39・40 は、土師器の埦形坏である。調整は皿と同様である。41 ～ 47・49 は土師器の埦であり、43・49 の内面にはヘラ記号が記されている。46 の内面には籾圧痕が確認された。50 は口径 15cm 以上の大型の埦である。52 ～ 54 は土師器の小型甕であり、調整は口縁部付近の内外面にはヨコナデが施され、体部外面はヘラケズリ、内面はユビナデが施されている。51・56 ～ 59・61 は土師器の長胴甕であり、調整は小型甕と同様である。55 は土師器の広口壷であり、調整は小型甕と同様である。60 は甕の底部であるが、底面に「×」のヘラ記号が記されている。62・63 は擦文土器であり、62 は体部下半で刷毛目調整が見られる。63 は体部上半で矢羽根状の区画文の上に 2 重の縦方向の沈線が施され、その間に山形文が配されている。64 は須恵器甕の体部破片である。65 は土錘であり、SD02 で出土した個体同様内水面の網漁に使用されたものと考えられる。66 ～ 69 は砥石である。材質は 66 ～ 68 が流紋岩､69 がプロピライトである。［時期］Ⅰ期に相当する SD17 よりも新しく、Ⅱ期に該当する SD23 より古いが、ほぼ同時期であるため、Ⅱ期の段階に構築されているものと考えられる。

（SD30）

［位置・確認］グリッド BQ52 ～ 54、BR53 ～ 55、BS55，56、BT52，55，56、BU53 ～ 55 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD05・17・23 と重復関係があり、SD05・17 よりも新しく、SD23 よりも古い。［規模・形状］南東方向に開口部を有するコの字状の溝跡である。残存長

SD05・30土層観察表(A-A')

SD05
1層　10YR3/2　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、10YR4/2灰黄褐色ブロック中量混入
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、10YR2/2黒褐色粘土少量混入
5層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

SD30
a層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
b層　10YR3/2　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
c層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、10YR4/2灰黄褐色ブロック中量混入
d層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
e層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、10YR2/2黒褐色粘土少量混入

SD30土層観察表(B-B')

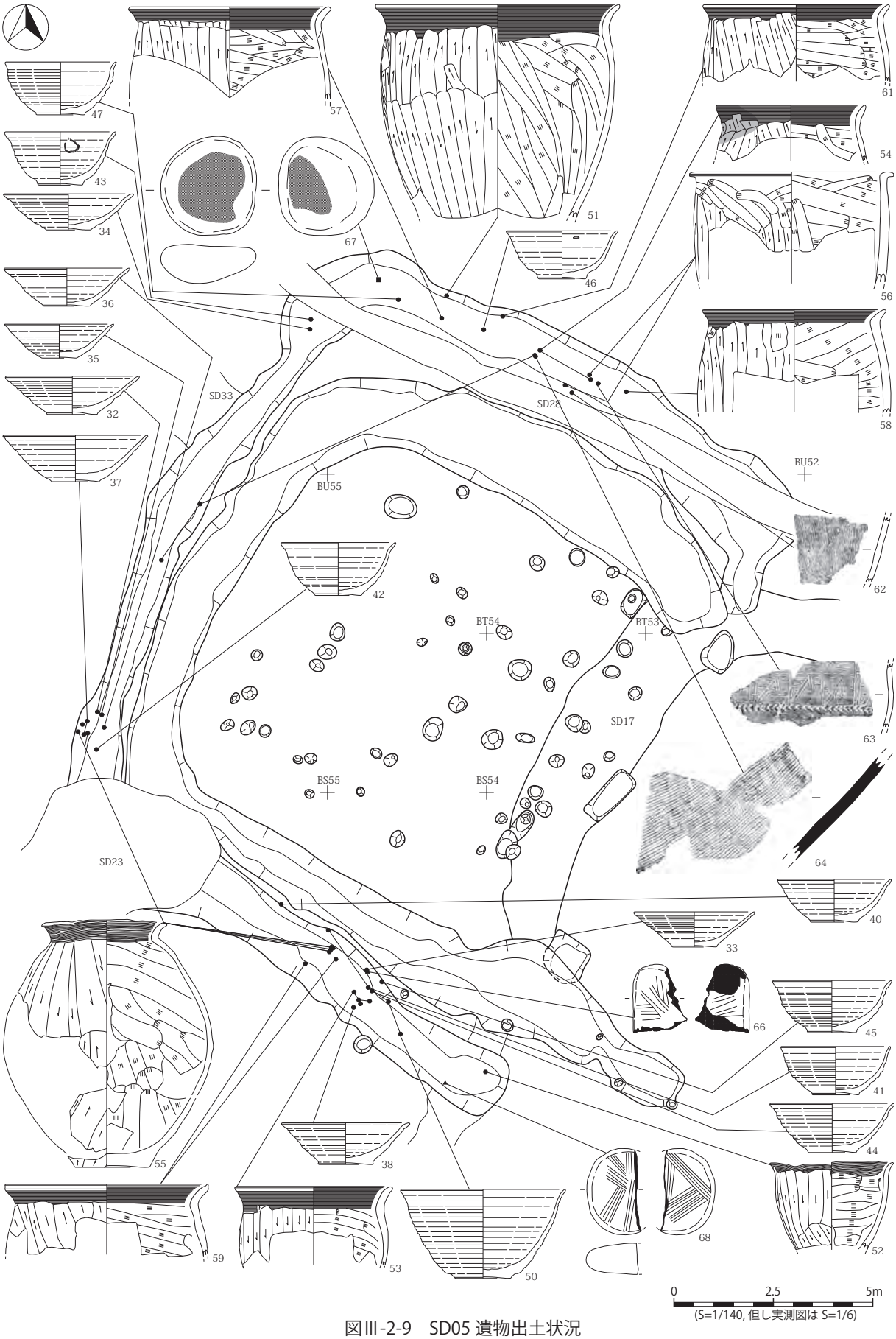
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SD05土層観察表(C-C')

1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
4層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物少量

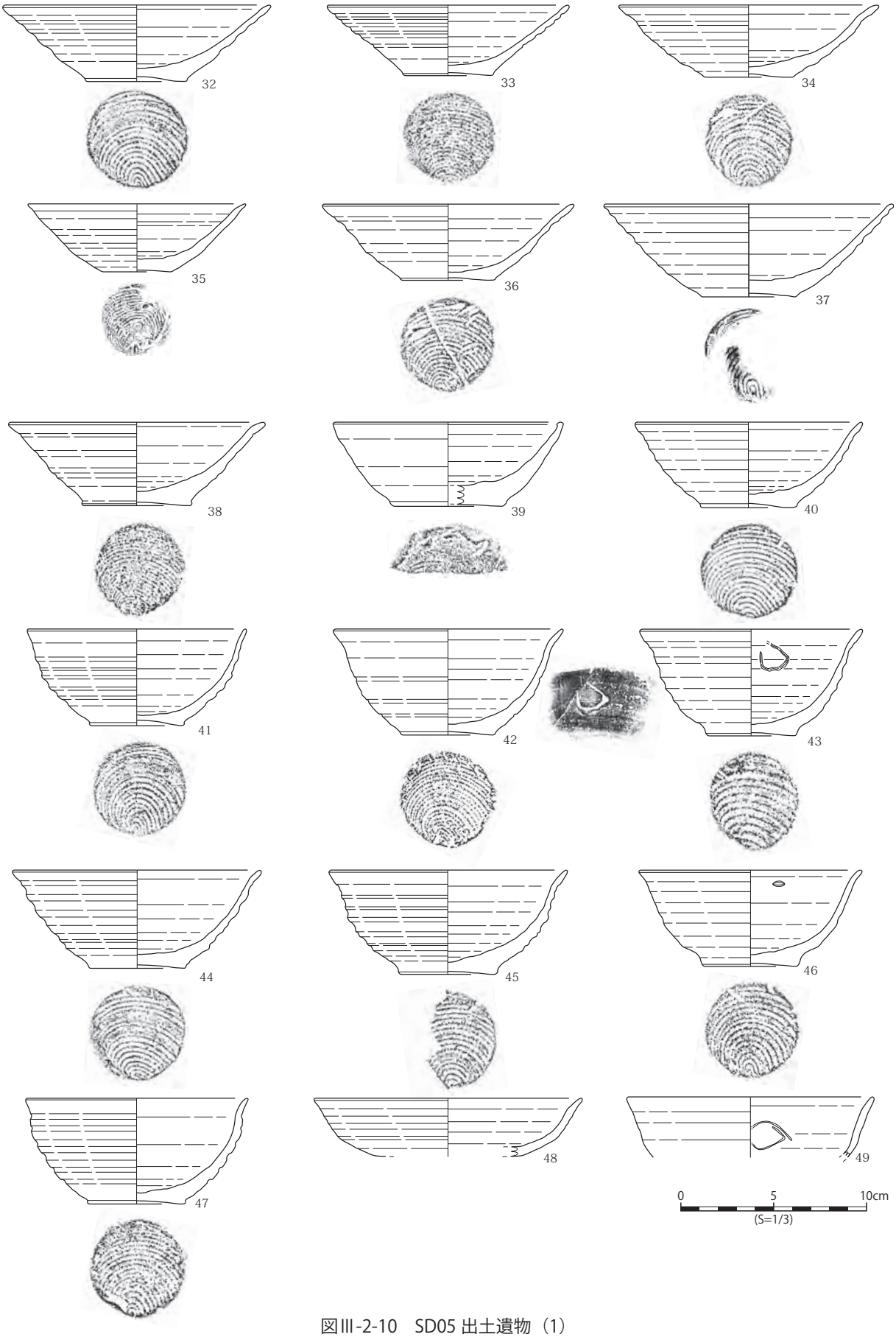
0　2.5　5m
(S=1/120, 但しセクション図は S=1/60)

図Ⅲ-2-8　SD05・30

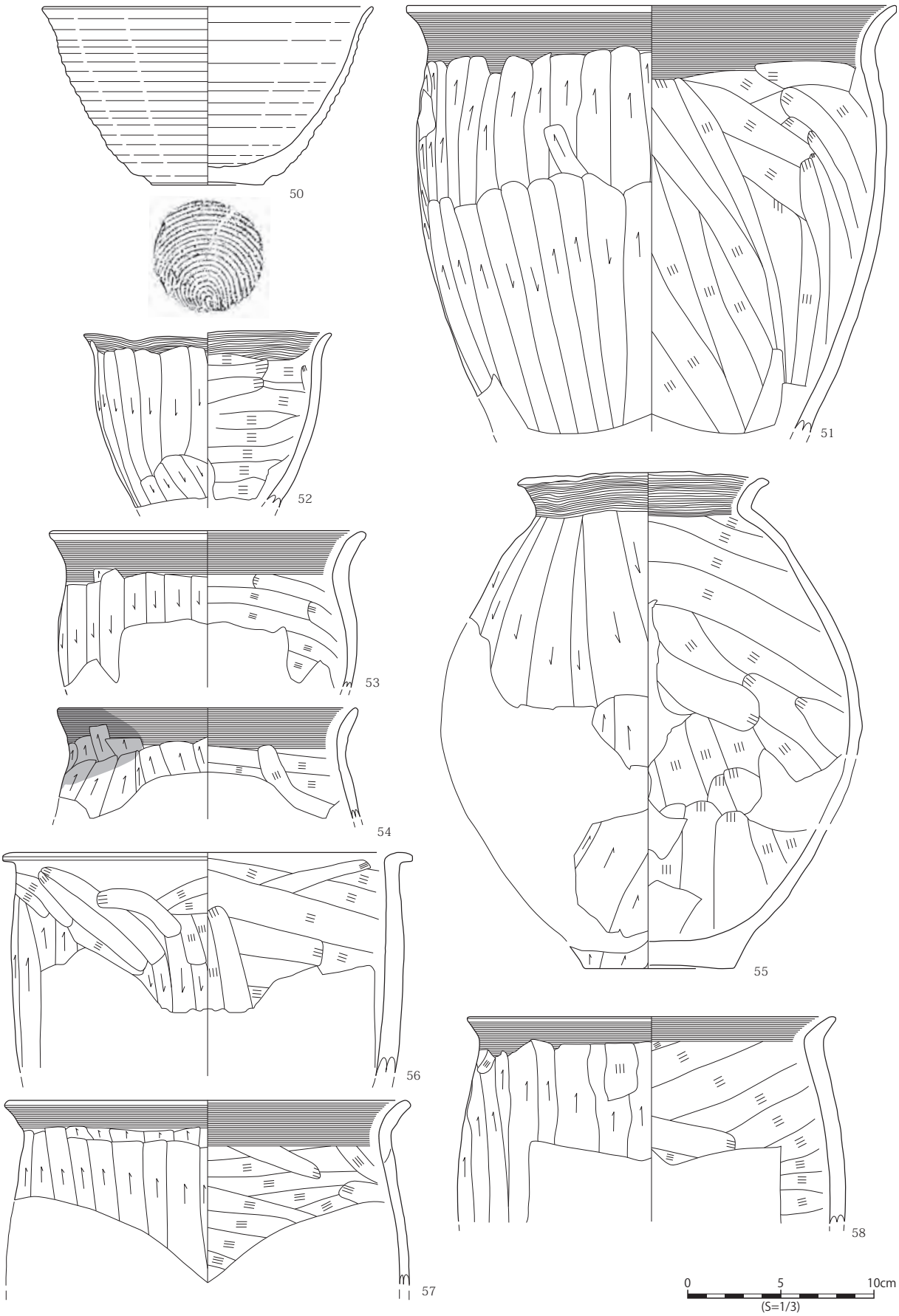


(S=1/140, 但し実測図は S=1/6)

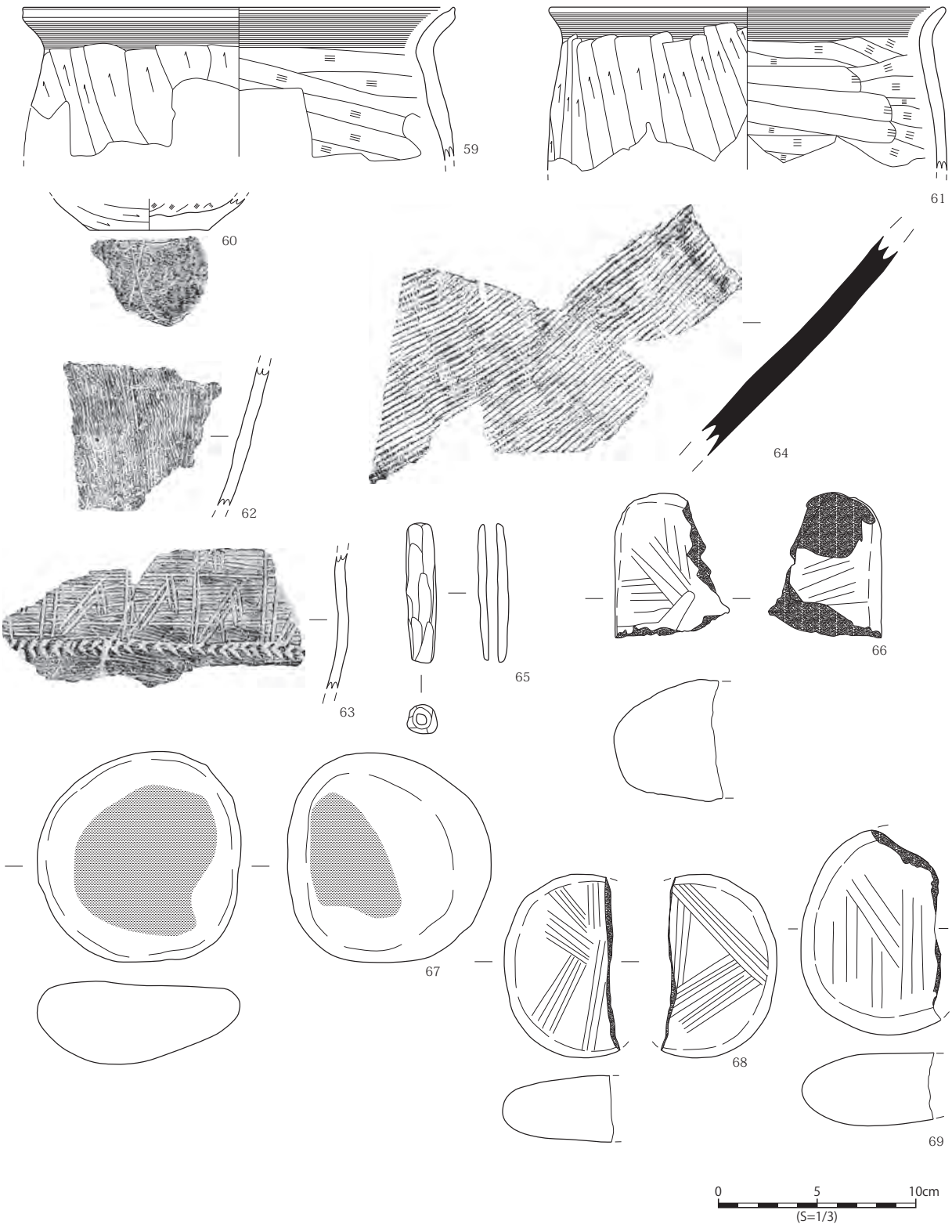
図Ⅲ-2-9　SD05 遺物出土状況



図Ⅲ-2-10　SD05 出土遺物（1）



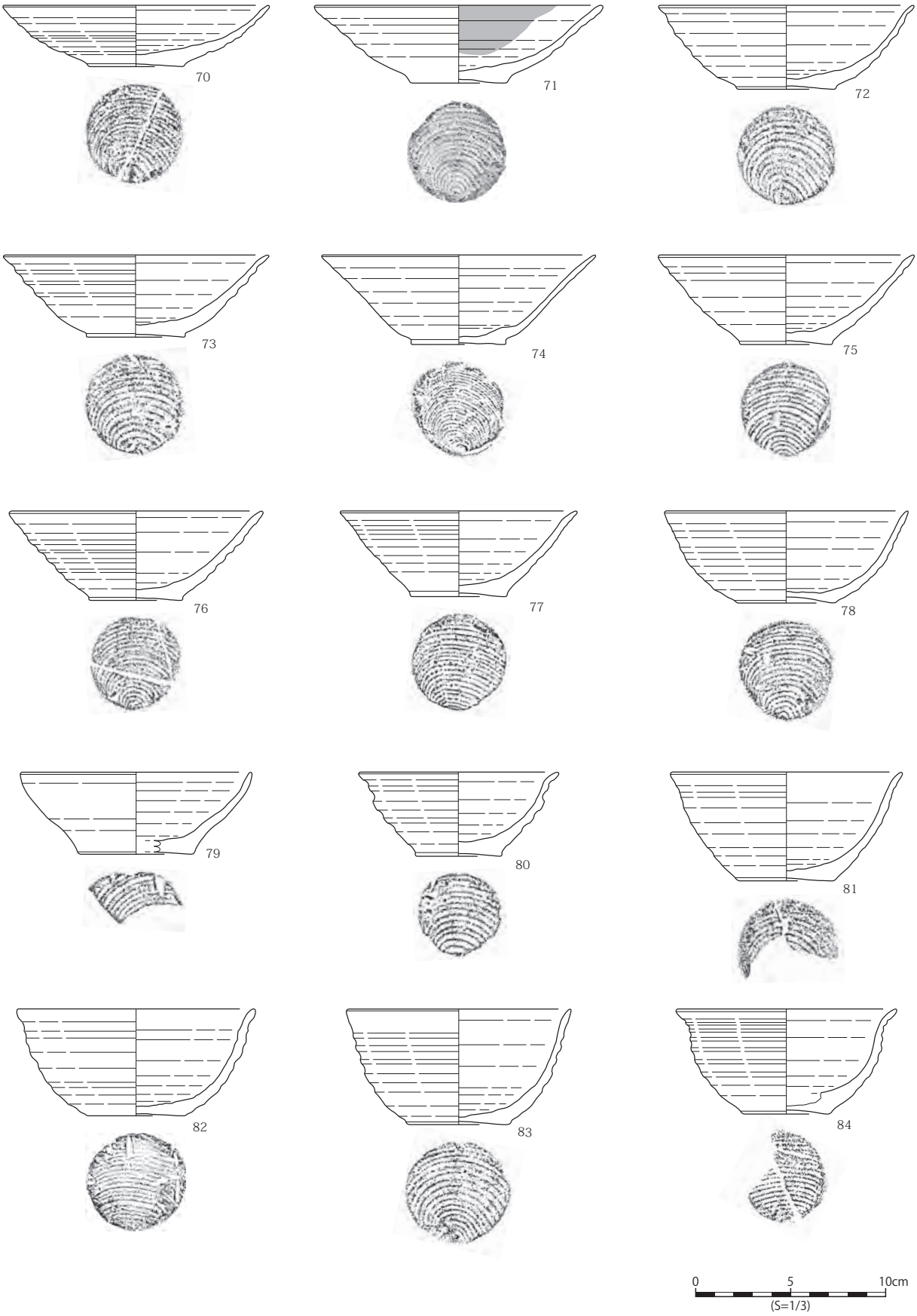
図Ⅲ-2-11　SD05 出土遺物 (2)



図Ⅲ-2-12　SD05 出土遺物 (3)

3,790cm、幅 76 ～ 228cm、深さは平均 42cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒色土を基調とする堆積層、Ⅲ層由来の層、Ⅳ層由来の層が互層を成している。［出土遺物］土師器の坏 7,766.2g、甕 14,258.5g、須恵器甕 2,096g、壷 1,373g が出土している（図Ⅲ -2-13）。この内図示できたのは 32 点である（図Ⅲ -2-14,15）。70・71 は土師器のⅢである。いずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕

図Ⅲ-2-13　SD30遺物出土状況



図Ⅲ-2-14　SD30 出土遺物（1）

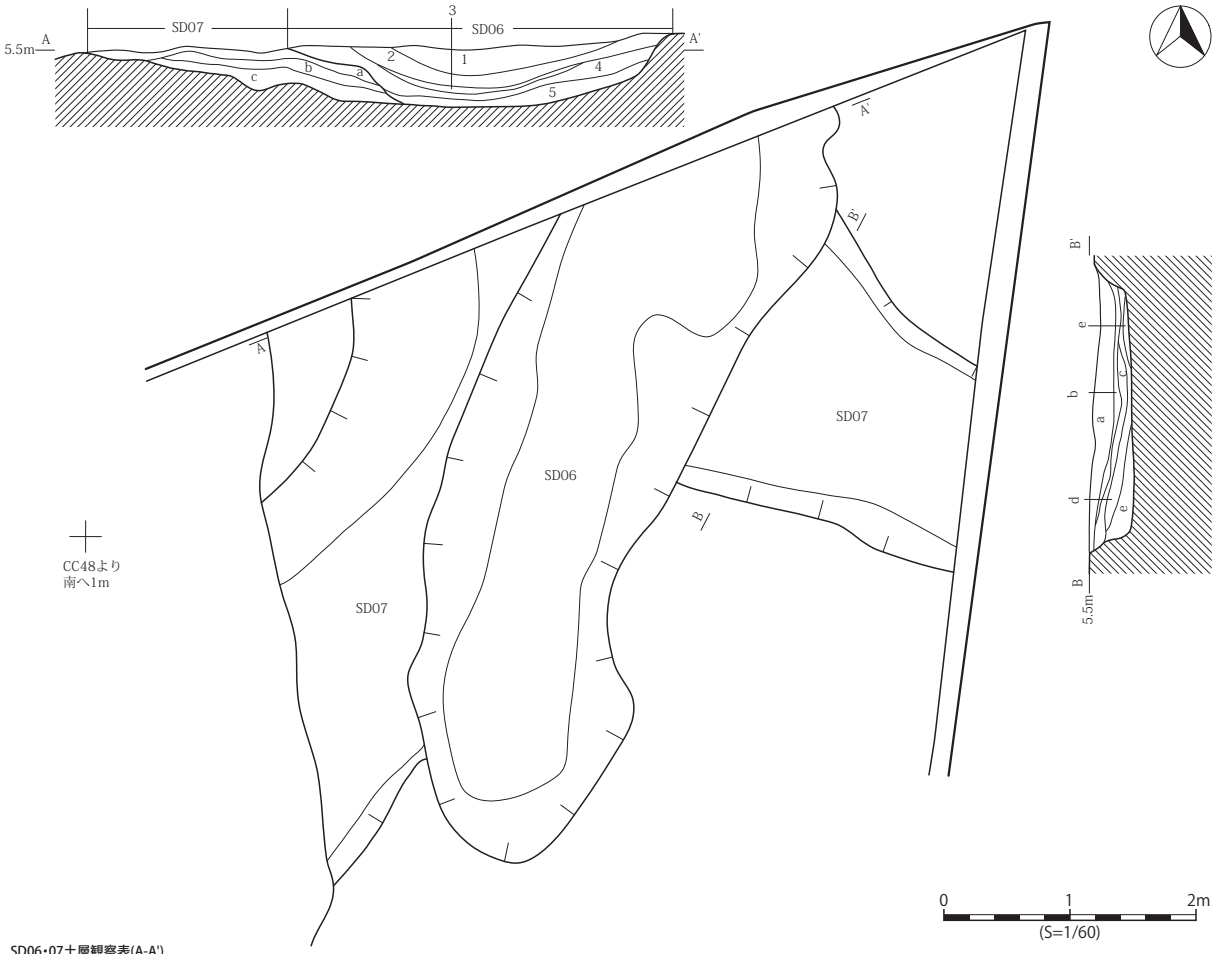
図Ⅲ-2-15　SD30 出土遺物 (2)

を残し無調整である。71 の内面には煤が付着している。72 ～ 74 は土師器の皿形坏である。75 ～ 79 は土師器の埦形坏であり、79 は他の器形と異なり口縁部が内彎している。調整は皿と同様である。80 ～ 91 は埦形の坏であり、いずれもロクロ目が強い。92・93 は土師器の小型甕であり、調整は口縁部付近の内外面にはヨコナデが施され、体部外面はヘラケズリ、内面はユビナデが施されている。94 は土師器の長胴甕であり、調整は小型甕と同様である。95 は須恵器の壷であり、ロクロ成形後外面にはヘラケズリが施されている。96 は須恵器の甕の底部であり、格子タタキ目が確認される。97 ～ 100 は、須恵器甕の口縁部破片である。101 は中空の支脚であり、外面はケズリの後ユビナデ、内面及び底面はユビナデ調整が施されている。［時期］Ⅰ期に相当する SD17 よりも新しく、Ⅱ期に該当する SD23 より古いが、ほぼ同時期であるため、Ⅱ期の段階に構築されているものと考えられる。

第 6・7 号溝跡（SD06・07、図Ⅲ -2-16）

（SD06）

［位置・確認］グリッド CB・CC46，47 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD07 と重復関係があり、SD07 よりも新しい。［規模・形状］南北方向に直線状に調査区外へと伸びる溝跡



SD06・07土層観察表(A-A')

1層	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	鉄分多量、炭化物少量
2層	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	鉄分中量、炭化物少量
3層	10YR2/1	黒色	砂質シルト	鉄分中量、炭化物多量
4層	10YR2/1	黒色	砂質シルト	鉄分中量、炭化物微量
5層	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	鉄分中量、炭化物中量
a層	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	鉄分少量、炭化物少量
b層	10YR1.7/1	黒色	砂質シルト	鉄分中量、炭化物少量
c層	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	鉄分少量、炭化物少量

SD07土層観察表(B-B')

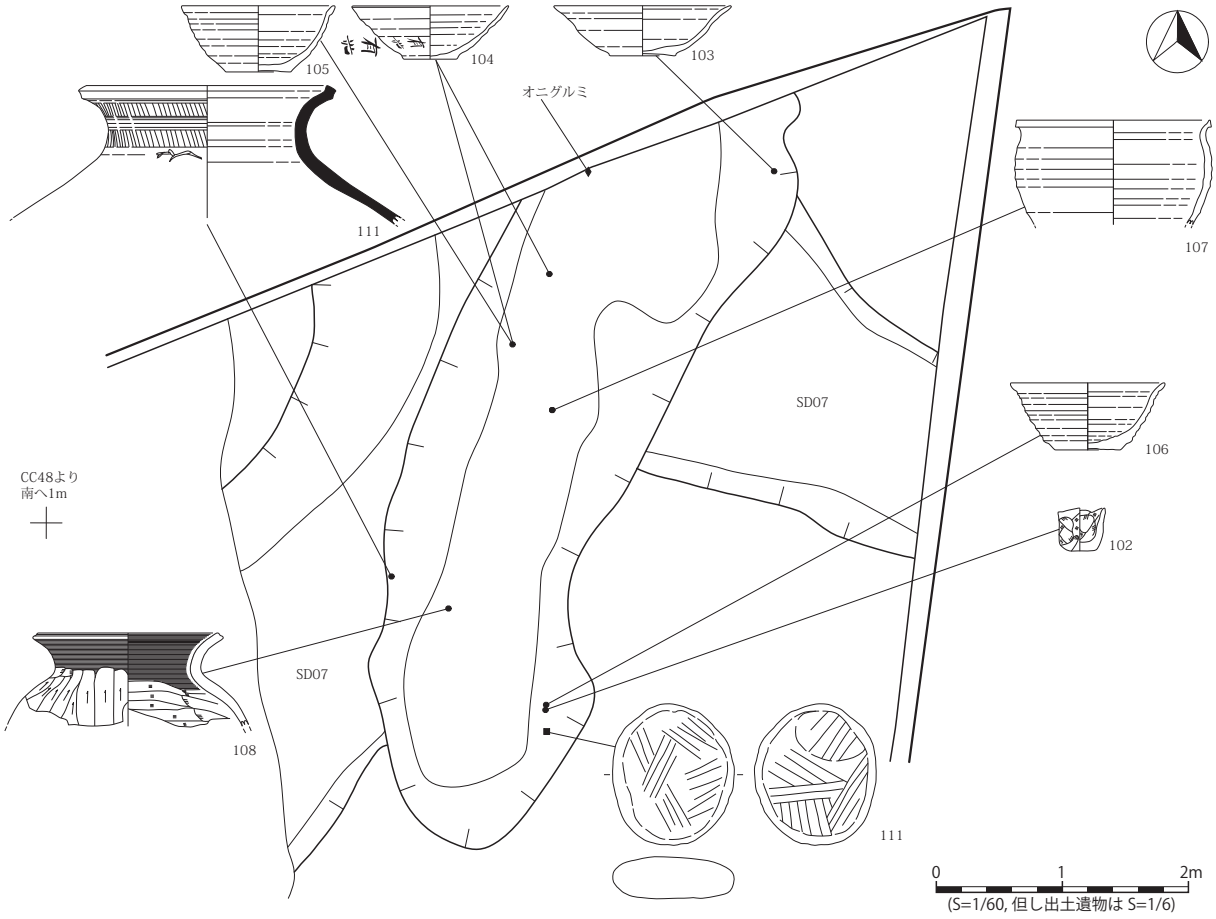
a層	10YR3/1	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物少量
b層	10YR2/1	黒色	シルト	鉄分少量、炭化物中量、灰1～2cm少量
c層	10YR2/2	黒褐色	シルト	鉄分少量、炭化物多量
d層	2.5Y2/1	黒色	シルト	鉄分少量、炭化物多量、灰中量
e層	10YR1.7/1	黒色	シルト	鉄分少量、炭化物多量、粘土2.5YR4/1黄灰色少量、人為的堆積層

図Ⅲ-2-16　SD06・07

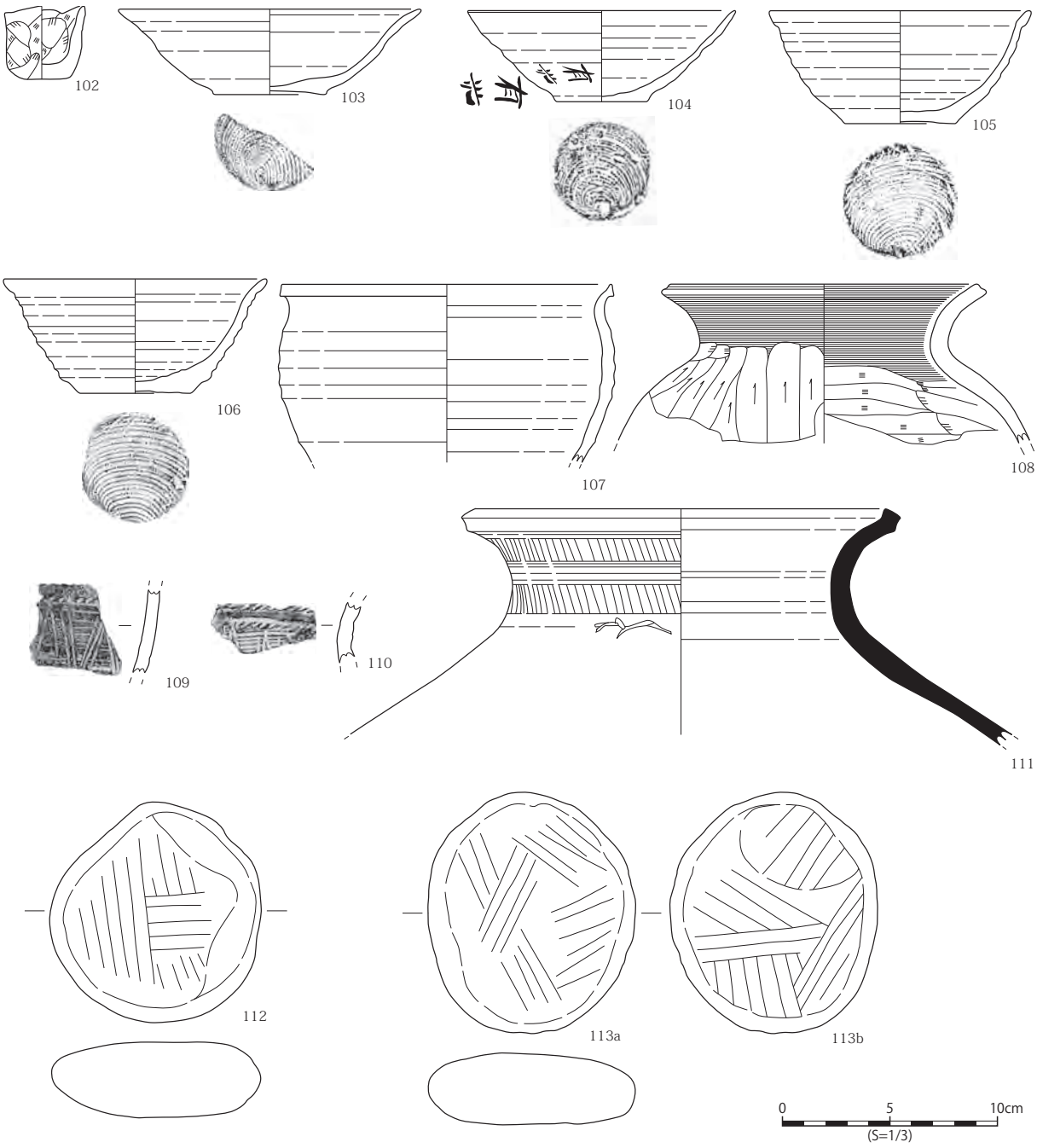
で、残存長 556cm、幅 180cm、深さ 50cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒色土層を基調とし、暗褐色土層と互層を成している。［出土遺物］土師器の坏 2,586g、甕 4,101g、須恵器甕 1,540g、石器 1,017g が出土している（図Ⅲ -2-17）。この内図示できたのは 12 点である（図Ⅲ -2-18）。102 は、土師器のミニチュアの甕であり、内外面ユビナデ調整が施されているが、粗雑なつくりである。103 は土師器の皿であり、ロクロ成形で底面は回転糸切痕が残り無調整である。104 は土師器の皿形坏であり、外面底部付近に「有（器ヵ）」という墨書が記されている。調整は皿と同様である。105・106 は埦であり、いずれも口縁部が外彎する器形である。調整は皿と同様である。107 は土師器の鉢形土器であり、須恵器鉢を模した器形であり、成形もロクロ成形である。108 は土師器の壷形の甕であり、口頸部をヨコナデ調整した後、体部外面をケズリ、内面をユビナデ調整している。109・110 は擦文土器であり、いずれも横位の列点文及び山形文を配している。111 は須恵器の中甕であり、肩部にヘラ記号が記されている。口頸部はタタキ調整後ロクロ成形が施され、体部上半はタタキ調整が施されている。112・113 は砥石である。いずれも扁平な楕円形の石の扁平部分を砥面としている。材質はいずれも安山岩である。その他自然遺物として、オニグルミが出土している。

（SD07）

［位置・確認］グリッド CB・CC46，47 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD06 と重復関係があり、SD06 よりも古い。［規模・形状］調査区外、攪乱に延びており、また SD06 より古いため、正確な形状は不明だが L 字形を呈する溝跡で、残存長 587cm、幅 279cm、深さ 27cm を測る。

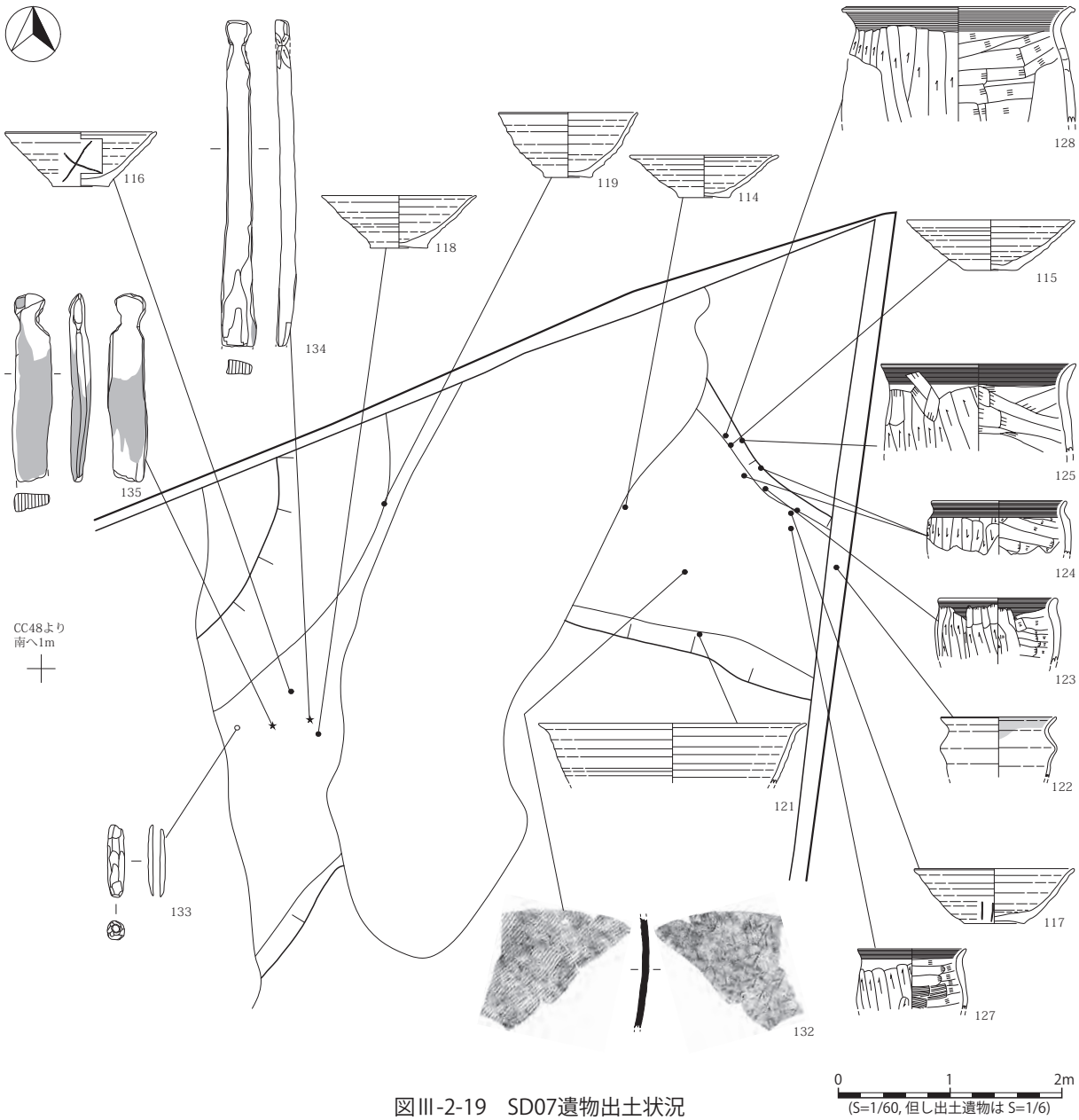


図Ⅲ-2-17　SD06遺物出土状況

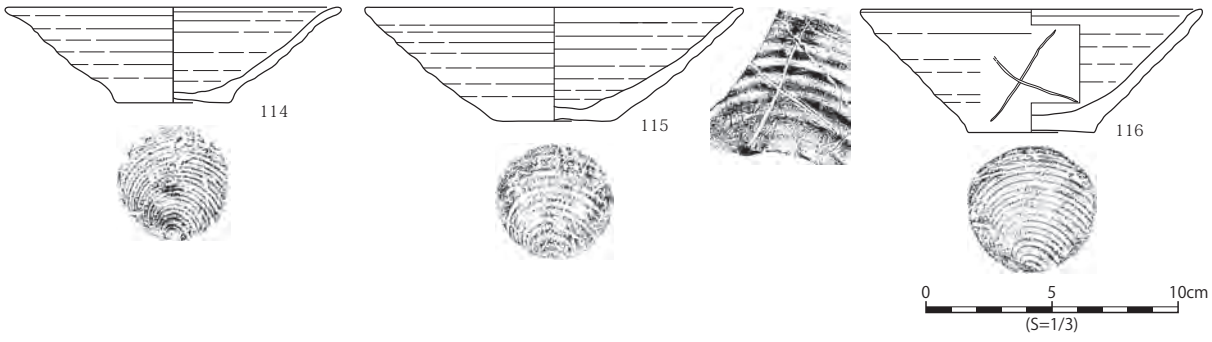


図Ⅲ-2-18　SD06出土遺物

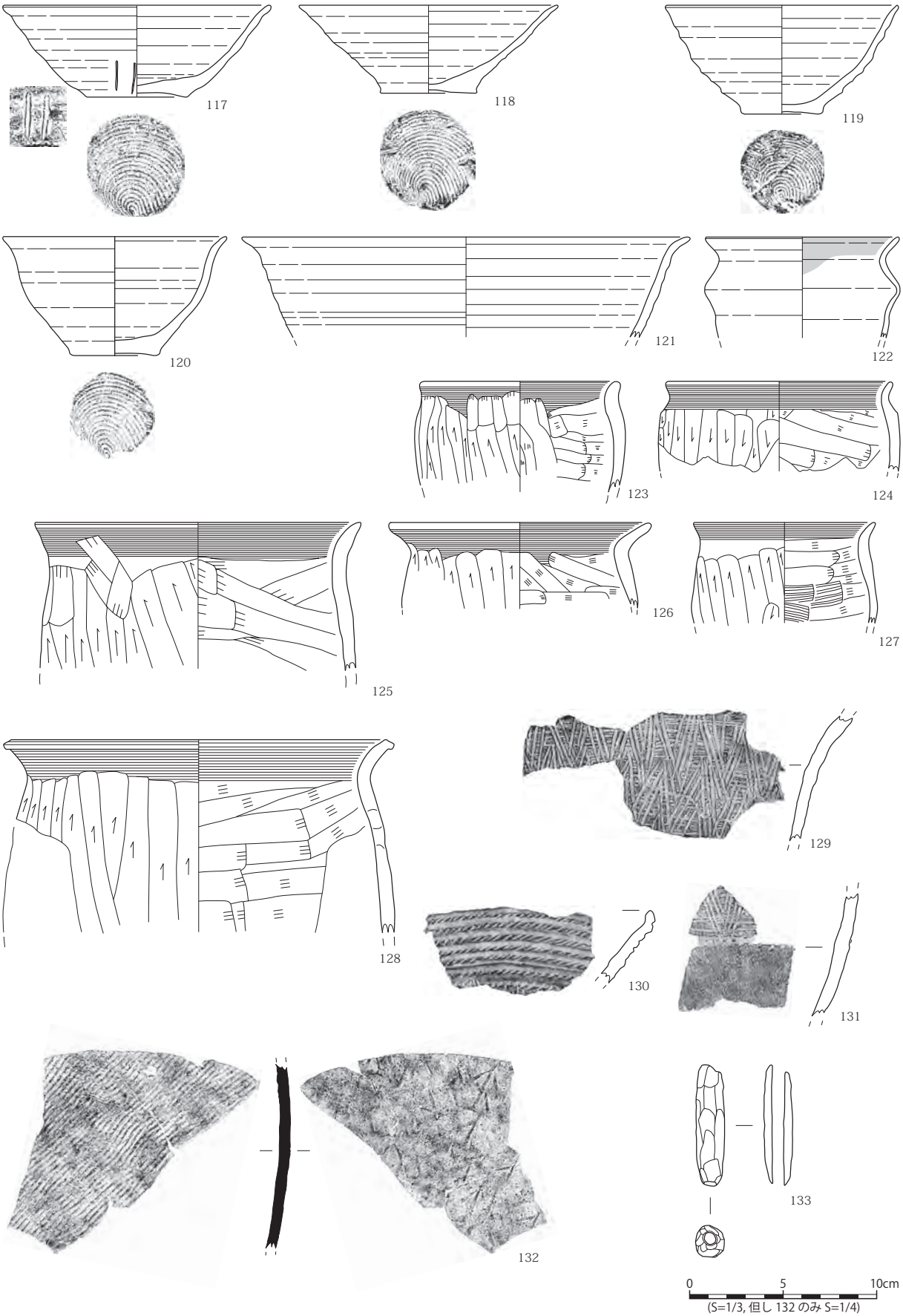
［堆積土］5 層確認され、黒色土層を基調とし、暗褐色土層と互層を成している。［出土遺物］土師器の坏 2,151.9g、甕 4,380.2g、須恵器甕 675g 等が出土している（図Ⅲ -2-19）、この内図示できたのは 22 点である（図Ⅲ -2-20 ～ 22）。114 は土師器の皿であり、ロクロ成形で底面は回転糸切痕が残り無調整である。115・118 は土師器の皿形坏である。116・117 は土師器の埦形坏であり、外面にヘラ記号が記されている。調整は皿と同様である。119・120 は埦であり、120 は口縁部が外彎する器形である。調整は皿と同様である。121 は大型の埦形坏であり、ロクロ成形である。122 は鉢形土器であり、内面に煤が付着している。123・124・126・127 は土師器の小型甕であり、123・124・127 は短く外彎する口縁部を有し、126 は大きく外反する口縁部を有する。調整はいずれも口



図Ⅲ-2-19　SD07遺物出土状況

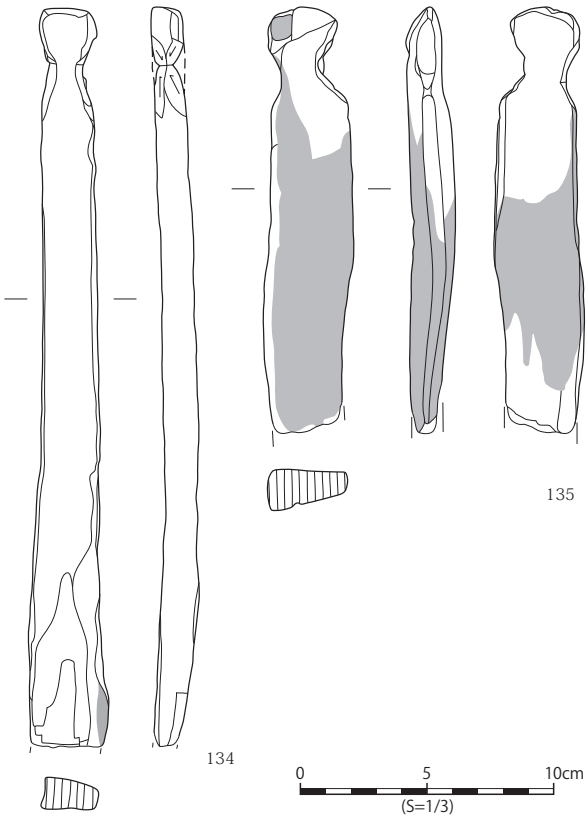


図Ⅲ-2-20　SD07出土遺物(1)



図Ⅲ-2-21　SD07出土遺物(2)

縁部は内外面ともにヨコナデ調整、体部は外面にはケズリ（123 のみ一部ユビナデ）調整、内面にはユビナデ調整が施されている。125・128 は土師器の長胴甕であり 128 は口縁端部に面取り調整が施されている。調整は小型甕と同様である。129 ～ 131 は擦文土器であり、129 は頸部破片であり、多重横走沈線の上に鋸歯文が施されている。130 は口縁部破片であり、4 条の沈線が引かれ、沈線間に刺突列が見られる。131 は体部破片であり、刺突列により文様帯と無文帯を区画し、無文部はミガキ調整が施され、文様帯は多重横走沈線の上に鋸歯文が施されている。129 と同一個体の可能性が高い。132 は須恵器の甕の体部破片である。133 は土錘であり、小型のため、内水面の網漁に使用されたものであると考えられる。134・135 は織機の不明部材であり、一端の頭頂部を丸く作り出しその下に半円状の抉りが施されている。断面形は扁平な板状であり、いずれももう一端はやや薄くなっているものの明確な加工は有しない。樹種はいずれもアスナロ（ヒバ）である。



図Ⅲ-2-22　SD07 出土遺物 (3)

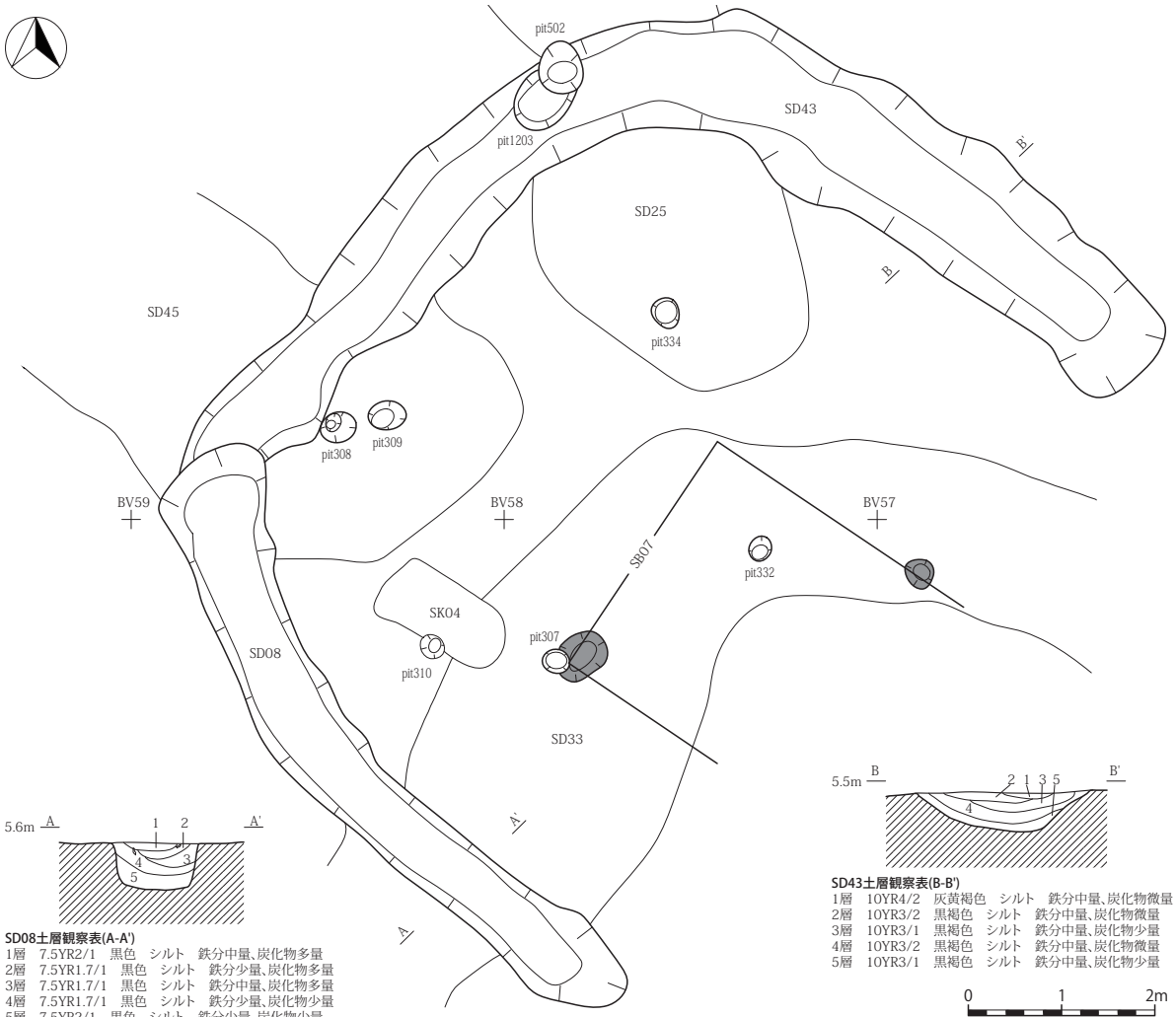
第 8・43 号溝跡（SD08・43、図Ⅲ -2-23）

（SD08）

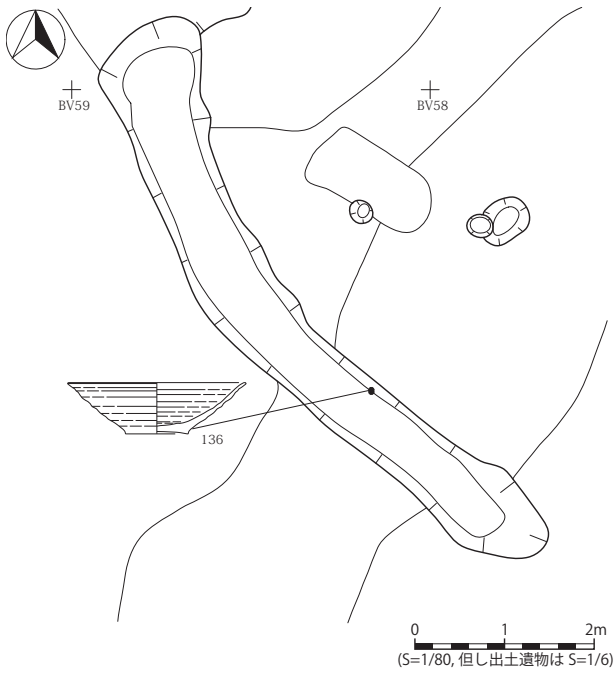
［位置・確認］グリッド BT57・58、BU57, 58、BV58 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD33・43・45 と重復関係があり、いずれの溝跡よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へとほぼ直線形を呈する溝跡で、長さ 752cm、幅 92cm、深さ 49.5cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒色土層と黒褐色土層が互層を成しているる。［出土遺物］土師器の坏 582.1g、甕 2,337g 出土している（図Ⅲ -2-24）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-25）。136 は、土師器の皿であり、ロクロ成形で底面は回転糸切痕が残り無調整である。［時期］Ⅰ期に相当する SD33 及びⅡ期に相当する SD45 より新しいが、あまり時期差が無いため、Ⅱ期に相当するものと考えられる。

（SD43）

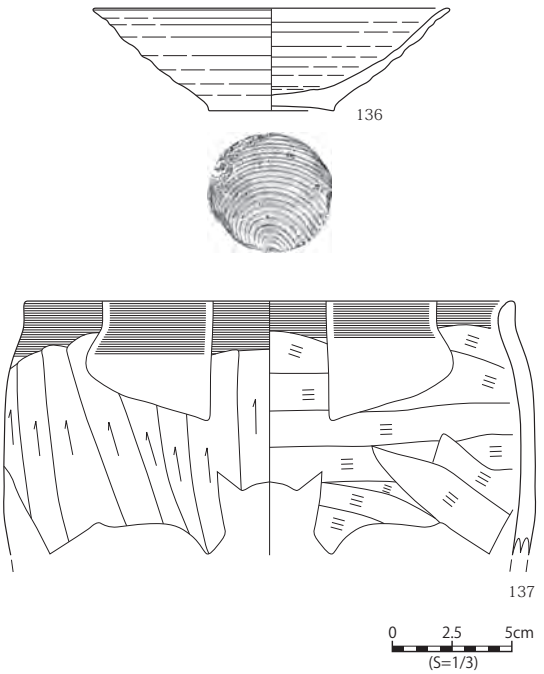
［位置・確認］グリッド BV・BW56 ～ 58 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD08・25・45 と重復関係があり、SD08 よりも古く、SD25・45 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中でゆるやかに方向を南西方向へと転じ、直線状に延びる L 字形を呈する溝跡である。残存長 1,239cm、幅 70 ～ 154cm、深さ 51.5cm を測る。［堆積土］5 層確認され、1 層はⅣ層由来の層で下層は黒褐色土層である。［出土遺物］土師器の坏 5g、甕 270.3g、須恵器甕 132g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-25）。137 は、土師器の長胴甕で口縁部が短く外彎する器形である。調整は口縁部には内外面にヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。［時期］Ⅰ期に相当する SD33 及びⅡ期に相当



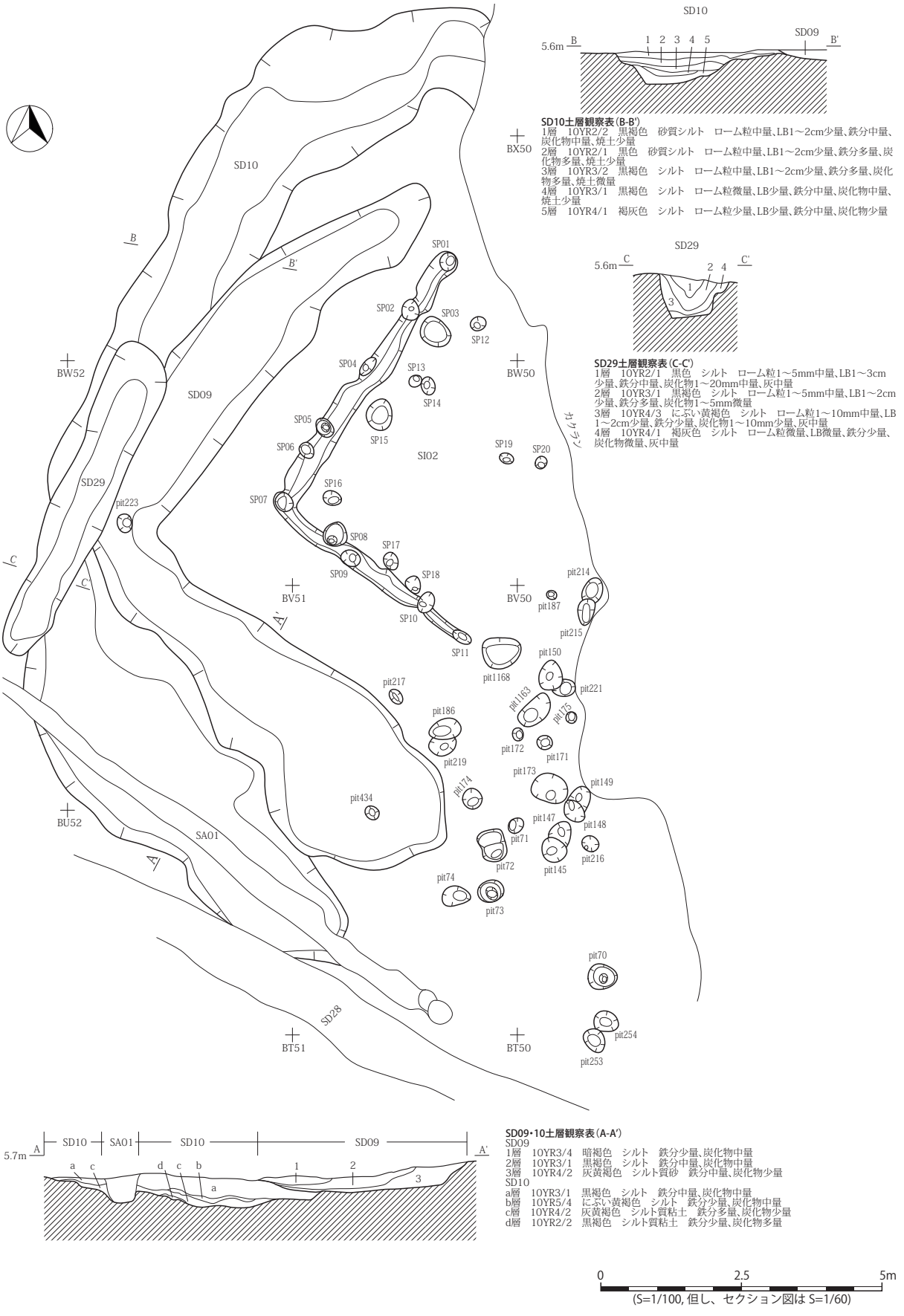
図Ⅲ-2-23 SD08・43



図Ⅲ-2-24 SD08遺物出土状況



図Ⅲ-2-25 SD08・43出土遺物



図Ⅲ-2-26　SD09・10・29

する SD25 及び SD45 より新しいため、あまり時期差が無いため、Ⅱ期に相当するものと考えられる。

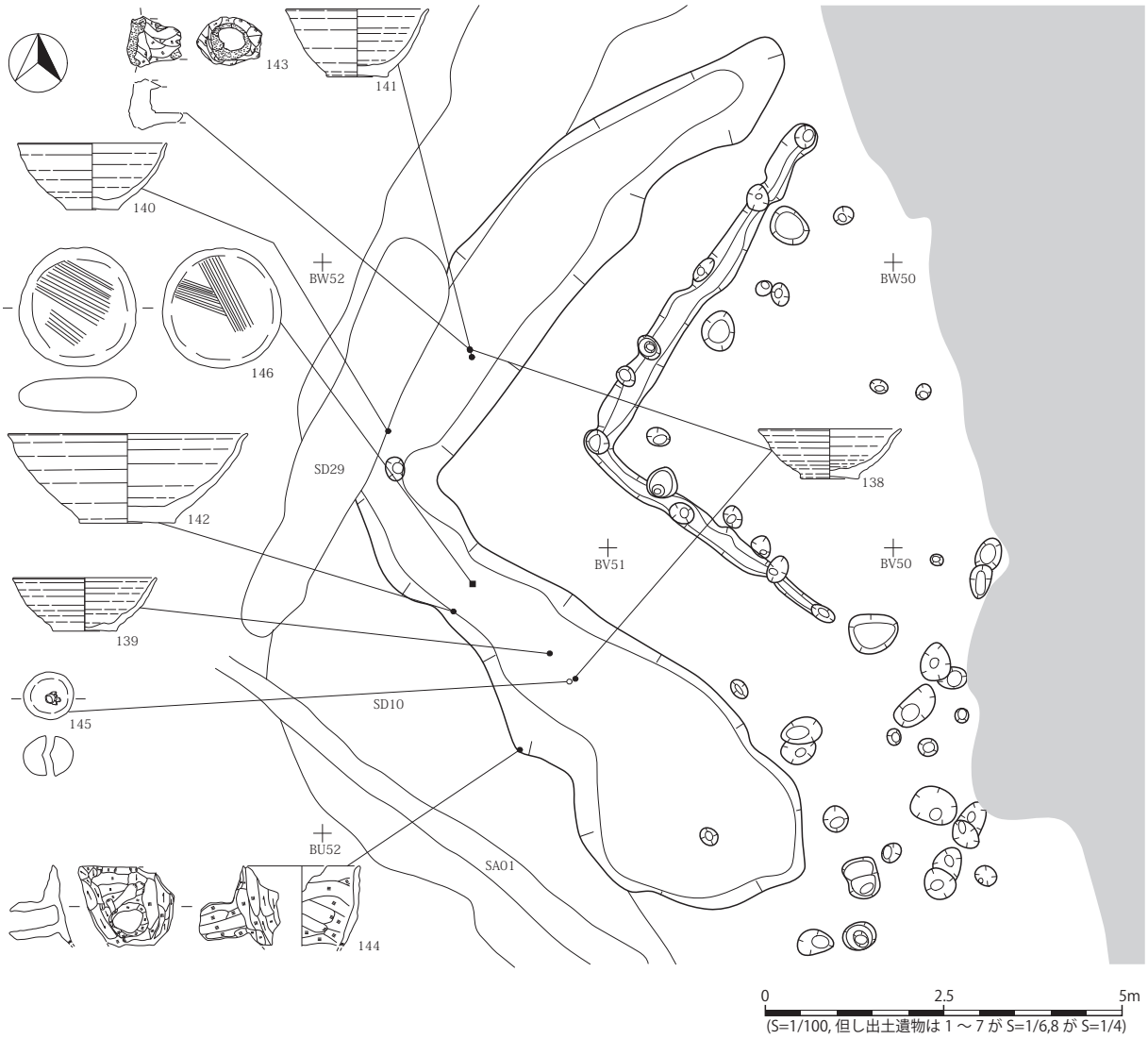
第 9・10・29 号溝跡（SD09・10・29、図Ⅲ -2-26）

（概要）

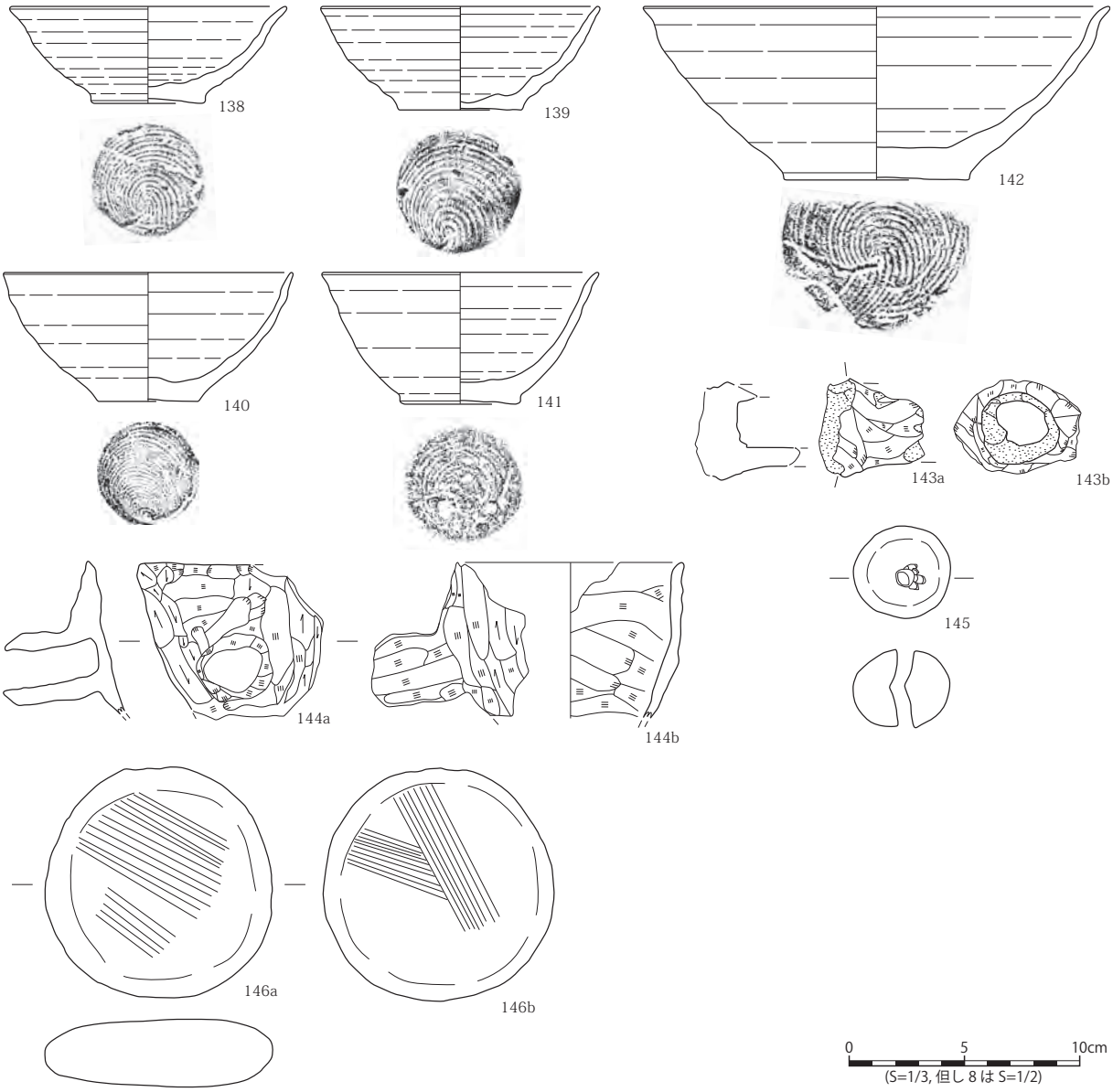
一部攪乱により詳細は不明であるが、SI01 の外周溝として、SD10 が外側を、SD09 が内側を巡る L 字状の溝跡である。その後 SD29 が構築されている。時期は SA01 よりも古いため、SA02 ないしは、SA03 構築時と同時期の I 期であると考えられる。

（SD09）

［位置・確認］グリッド BT・BU・BV・BW50，51 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD10・29 と重復関係があり、SD29 よりも古く、SD10 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中でゆるやかに方向を北西方向へと転じ、直線状に延びる L 字形を呈する溝跡である。長さ 1,646cm、幅 110 ～ 289cm、深さ 36.5cm を測る。［堆積土］3 層確認され、1・2 層は黒色土層で最下層はⅢ層由来の層である。［出土遺物］土師器の坏 3,067g、甕 6,872.1g、須恵器甕 1,034g が出土している（図Ⅲ -3-27）。この内図示できたのは 8 点である（図Ⅲ -2-28）。138・139 は、土師器の椀形坏であり、調整はロクロ成形で、底面は回転糸切り痕を有し、無調整で



図Ⅲ-2-27　SD09 遺物出土状況

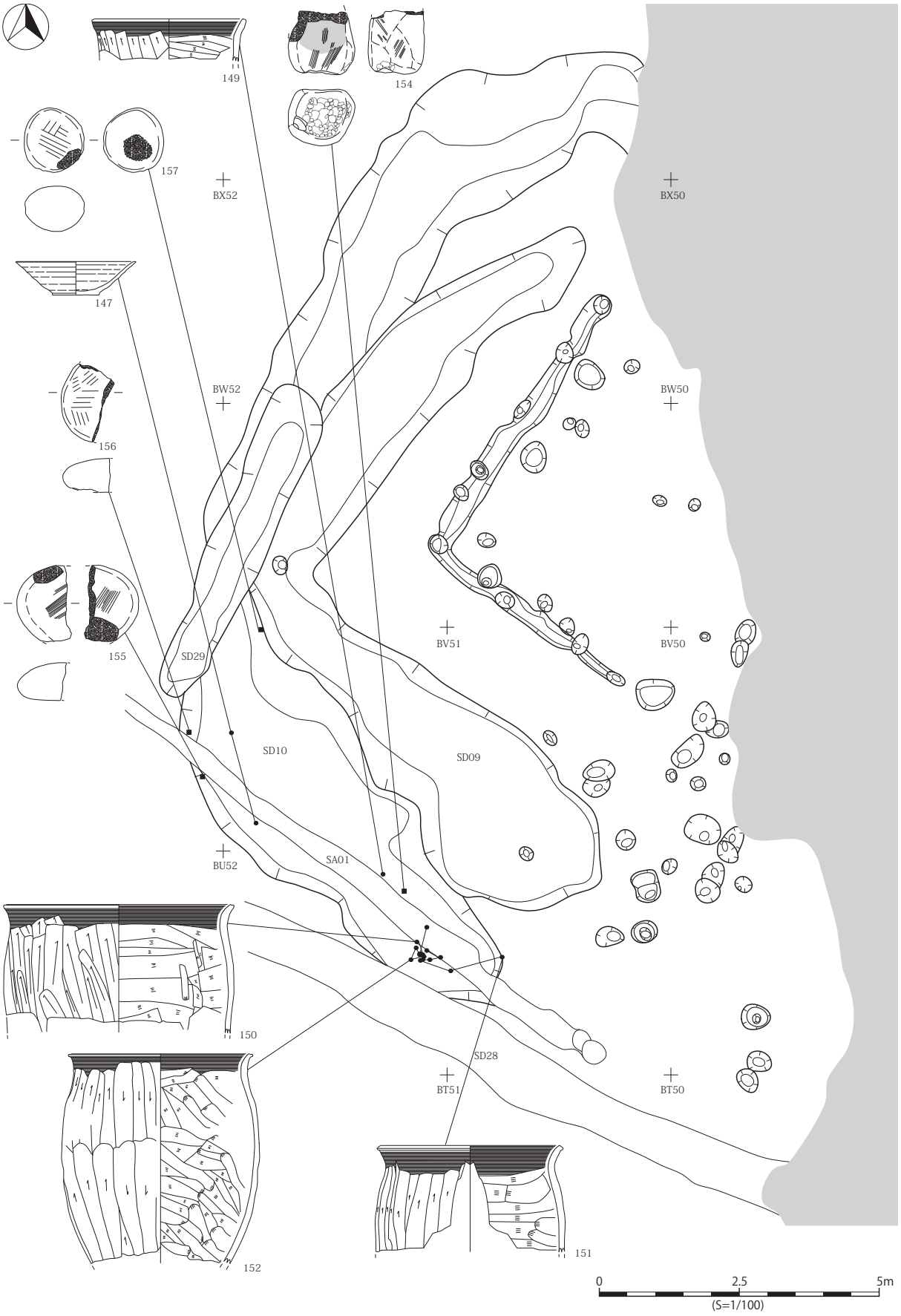


図Ⅲ-2-28　SD09 出土遺物

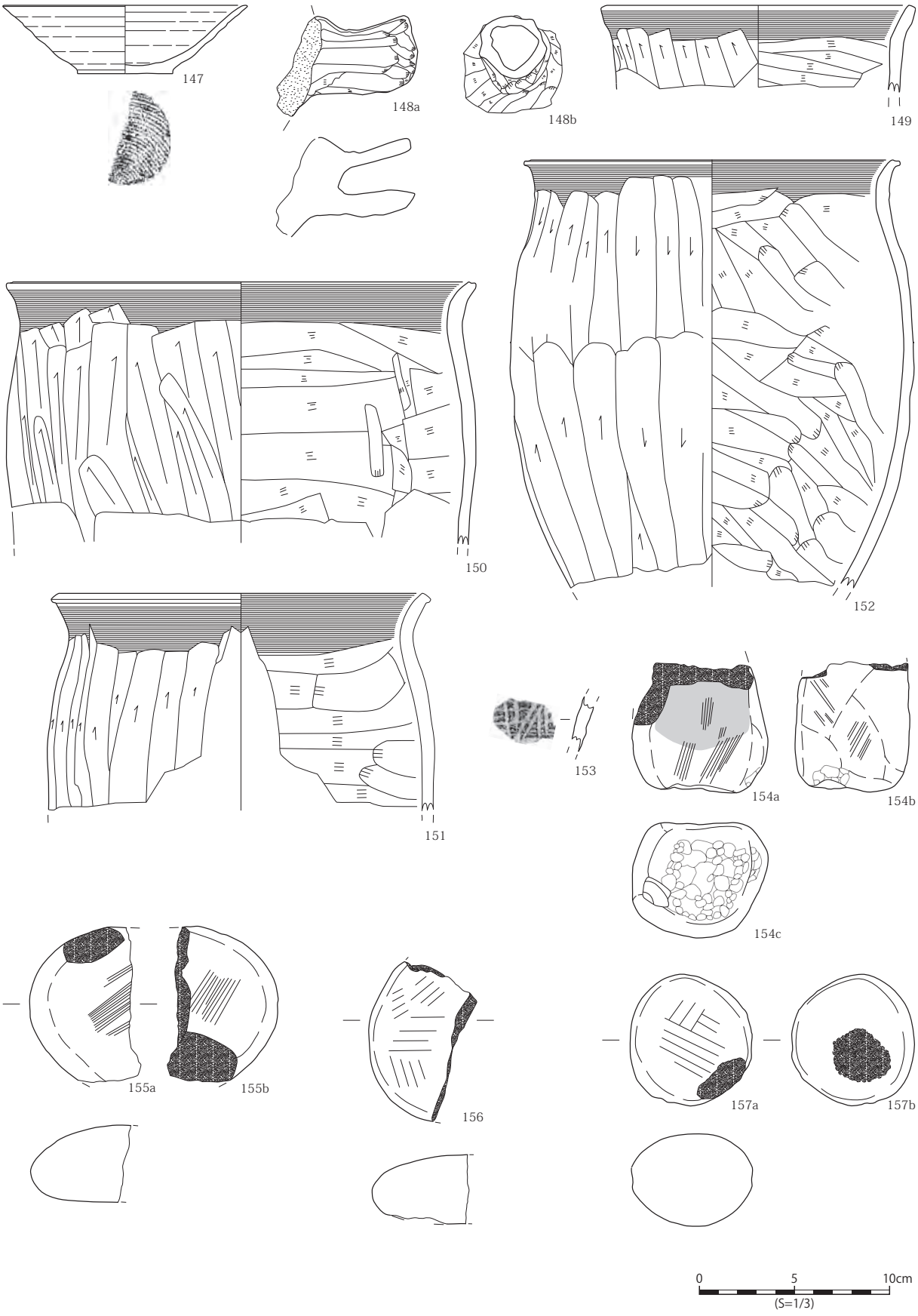
ある。140・141 は埦であり、調整は皿形坏と同様である。142 は大型の皿形坏であり、調整は皿形坏と同様である。143・144 は把手付土器であり、143 は把手部のみ、144 は口縁から体部下半が残存している個体である。調整は外面ではケズリないしはユビナデ調整、内面ではユビナデ調整が施されている。145 は石製の玉であり、双方向から穿孔することによって、貫通させている。材質は珪質凝灰岩である。146 は扁平な円礫を使用した砥石であり、平坦面を砥面として使用している。材質は安山岩である。

（SD10）

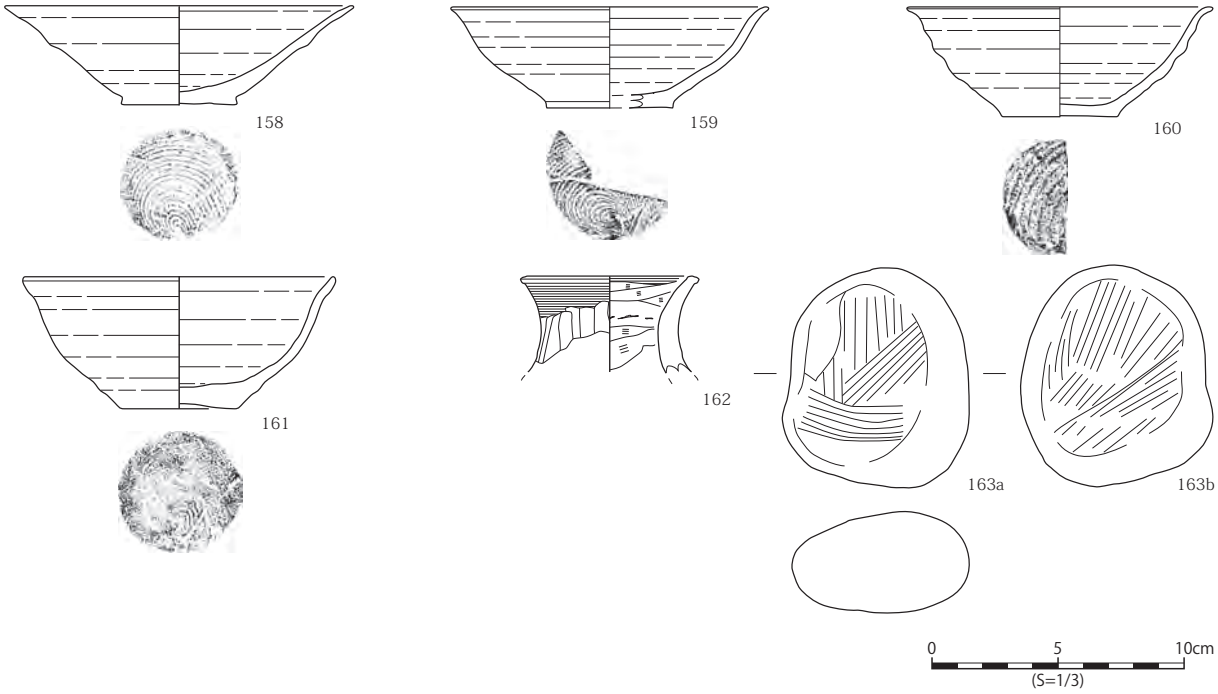
［位置・確認］グリッド BT50，51、BU・BV50 ～ 52、BW50，51 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD09・29、SA01 と重復関係があり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中でゆるやかに方向を北西方向へと転じ、直線状に延びる L 字形を呈する溝跡である。長さ 2,123cm、幅 110 ～ 289cm、深さ 43.5cm を測る。［堆積土］5



図Ⅲ-2-29　SD10 遺物出土状況



図Ⅲ-2-30　SD10 出土遺物



図Ⅲ-2-31　SD09・10出土遺物

層確認され、1 層～ 4 層は黒色土と黒褐色土が互層を成し、最下層はⅢ層由来の層である。［出土遺物］土師器の坏 2,646.2g、甕 6,546.6g、須恵器甕 1,105g が出土している（図Ⅲ -2-29）この内図示できたのは 11 点である（図Ⅲ -2-30）。147 は土師器の皿であり、調整はロクロ成形で、底面は回転糸切り痕を有し、無調整である。148 は把手付土器の把手部でありユビナデ調整が施されている。149 ～ 152 は土師器の長胴甕であり、いずれも口縁部は内外面にヨコナデ調整、体部外面にケズリ調整、体部内面にユビナデ調整が施されている。153 は擦文土器の体部破片であり、多重横走沈線の上に鋸歯文が施されている。154 ～ 157 は砥石であり、154 は角礫、155 ～ 157 は扁平な円礫が使用されている。154 及び 157 は一部の面を叩き石として併用している。材質は 154 ～ 156 が流紋岩、157 は安山岩である。

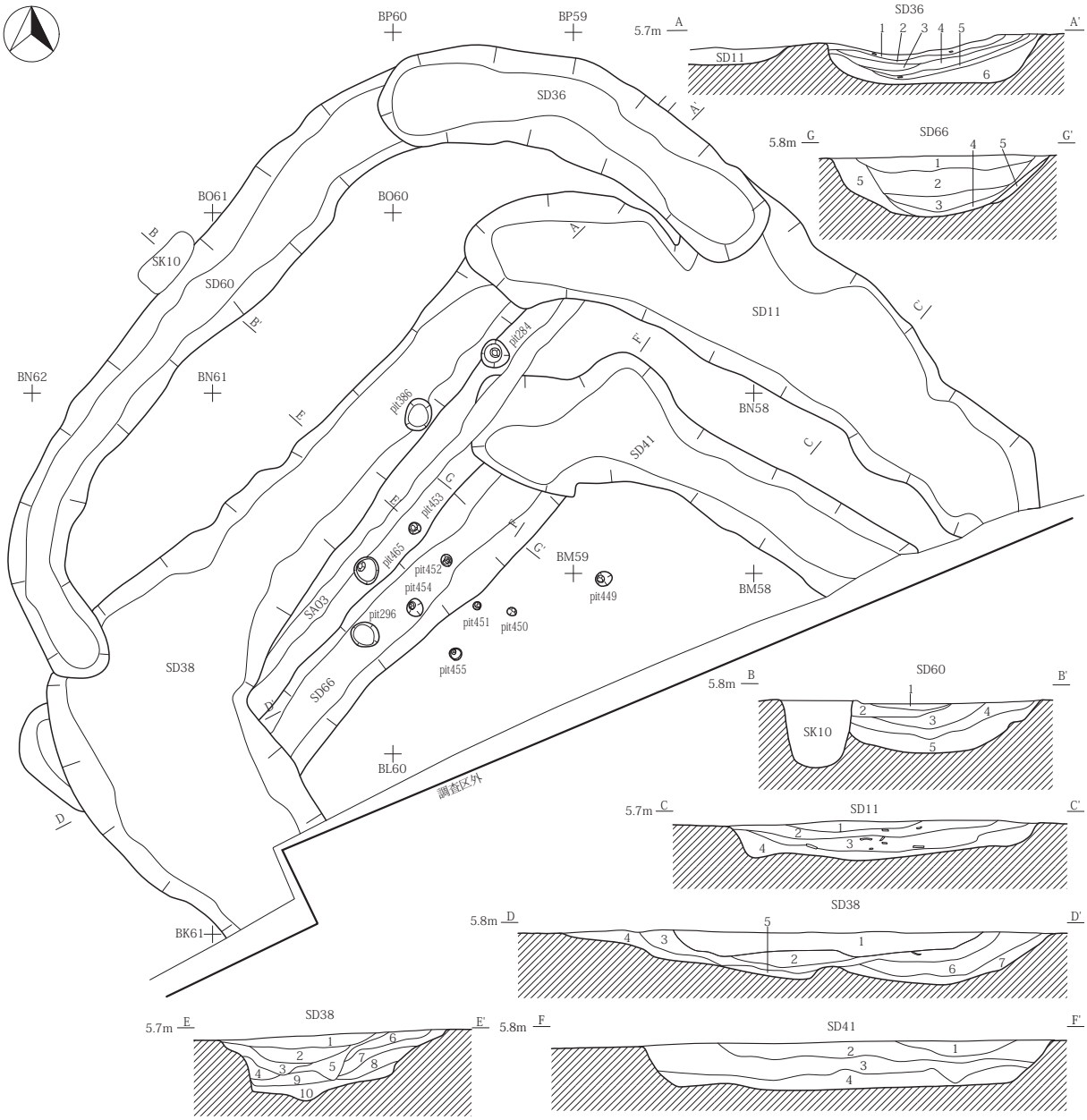
また、出土地が SD09 か SD10 か不明の遺物が 5 点出土している（図Ⅲ -2-31）。158 は土師器の皿であり、159・160 は土師器の皿形坏であり、161 は土師器の埦形坏であり、いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。162 は土師器の壺であり、やや外彎する口縁を有し、内外面ともにユビナデ調整が施されている。163 は砥石であり、扁平な円礫の扁平部の両面を砥面として利用している。材質は流紋岩である。

（SD29）

［位置・確認］グリッド BU・BV51，52、BW52 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD09・10 と重復関係があり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 589cm、幅 102cm、深さ 66.5cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1・2 層は黒色土層であり、3・4 層はⅢ層由来の層である。［出土遺物］土師器の坏 135g、甕 630g が出土している。

第 11・36・38・41・60・66 号溝跡（SD11・36・38・41・60・66、図Ⅲ -2-32）

（概要）



SD36土層観察表(A-A')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、灰少量、炭化物中量
5層　5Y2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
6層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

SD60土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR3/1　黒褐色　シルト　Ⅳ層由来のシルト質粘土ブロック1～10cm多量、鉄分中量、炭化物微量

SD11土層観察表 (C-C')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、5YR5/6明褐色ブロック少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量、5YR5/6明褐色シルト質粘土ブロック少量
4層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、7.5Y5/1灰色粘土ブロック少量

SD38土層観察表(D-D')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、5YR4/4にぶい赤褐色シルトブロック微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量、10YR4/1褐灰色粘土ブロック少量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
5層　10YR2/3　黒褐色　シルト質粘土　鉄分微量、炭化物微量、泥炭層
6層　10YR4/1　褐灰色　シルト質粘土　鉄分少量、炭化物少量
7層　10YR3/1　黒褐色　シルト質粘土　鉄分少量、炭化物中量

SD38土層観察表(E-E')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　Ⅳ層由来の埋土
6層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
7層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
8層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、7.5YR4/6褐色シルト質粘土ブロック少量
9層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
10層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SD41土層観察表(F-F')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

SD66土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
4層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
5層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

0　5　10m
(S=1/150, 但しセクション図は 1/60)

図Ⅲ-2-32　SD11・36・38・41・60・66

コの字状を呈する溝跡が南東方向から北西方向へと3回作り替えられている（SD66・SD41 → SD38・SD11 → SD60・SD36）。いずれの溝跡も、2本の溝跡によりコの字状を形成しているが、堆積状況を見ると一番内側の溝跡は、人為的に埋め戻されているが、外側の2列の溝跡は自然堆積であり、内側の溝跡が自然に堆積した後、新たに外側に溝を構築していることが判明した。さらに内側の溝跡が埋まった後にその溝内にピットを掘り、建物を建て替えていることが判明した。

SA03は、一番内側のSD66と同時期のものと考えられる。

（SD66）

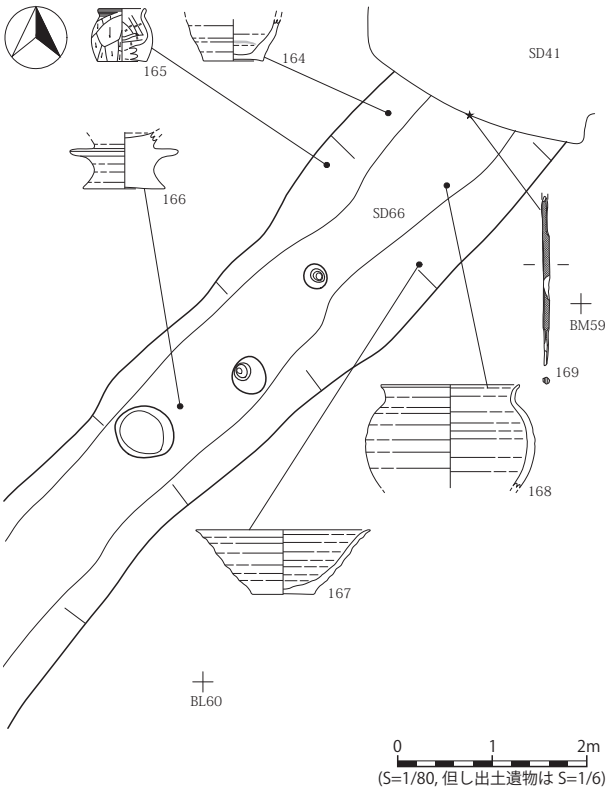
［位置・確認］グリッドBK60、BL・BM59，60に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD38・41と重復関係があり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延びる溝跡である。残存長785cm、幅131 ～ 192cm、深さ57cmを測る。［堆積土］5層確認され、1・2層はⅢ層由来の層で、人為的堆積土であり、3・4層は黒色土層である。5層はⅢ層由来の層である。［出土遺物］土師器の坏281g、甕587.6gが出土している（図Ⅲ-2-33）。図示できたのは6点である（図Ⅲ-2-34）。164・165は土師器のミニチュアであり、164はロクロ成形、165は手捏ねである。166は土師器の台付坏もしくは耳皿であり、台部が器台状の張り出し部を有する。167は土師器の埦型坏であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。168は土師器の鉢であり、須恵器の鉢を模しており、ロクロ成形である。169は一端が欠損しているが、片側端部が細く削り出されており､中央部は磨き面が見られることから箸とした。樹種はアスナロ（ヒバ）である。［時期］Ⅰ期に相当する人為的堆積土が確認されたことから、Ⅰ期に相当するものと考えられる。

（SD41）

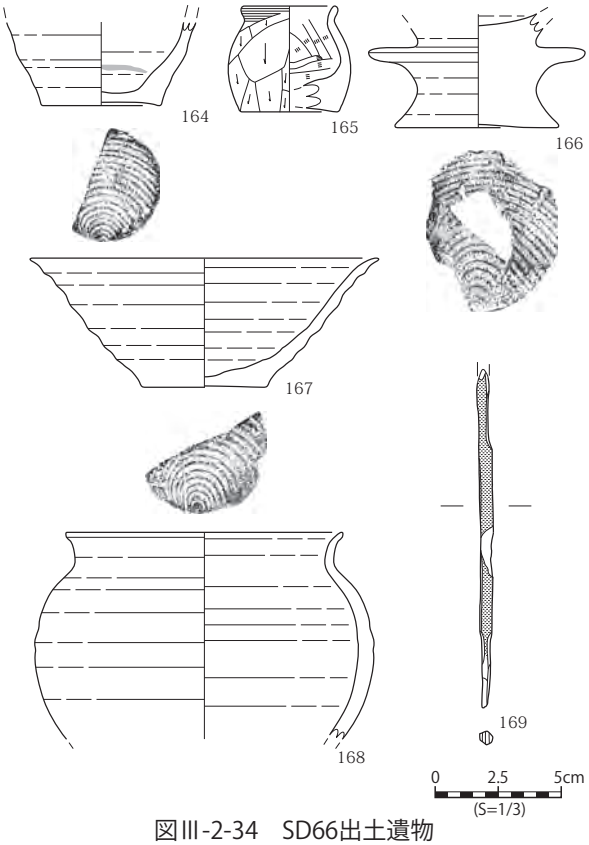
［位置・確認］グリッドBL57、BM57 ～ 59、BN58，59に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA03、SD66と重復関係があり、SA03より古く、SD66より新しい。［規模・形状］南東東方向から北西方向へとやや内弯気味に延びる溝跡である。残存長785cm、幅161 ～ 286cm、深さ53.5cmを測る。［堆積土］4層確認され、黒色土層とⅢ層由来の層が互層を成している。［出土遺物］土師器の坏1837.9g、甕8967.6g、須恵器の甕11gが出土している（図Ⅲ-2-35）。この内図示できたのは、15点である（図Ⅲ-2-36）。170はミニチュアの壷、171はミニチュアの甕であり、いずれもロクロ成形である。172は台付坏であり、高台部に器台状の張り出し部を有する。173 ～ 176は土師器の埦であり、173は直上口縁、174・175は外弯口縁、176は外反口縁である。調整はロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。177は土師器の坏であり､ヘラ記号が記されている。178・179は土師器の鉢であり、ロクロ成形である。180は把手付土器であり、把手部は剥落している。調整は内外面ともにユビナデ調整が施されている。181・182は土師器の甕であり、口縁部は内外面にヨコナデ、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデが施されている。183は土玉であり、穿孔前にユビナデにより調整が施されている。184は不明木製品であり、板材の中央部を樋状に削り、中央部付近に穿孔が見られる｡機織に使用される杼の可能性が考えられる｡樹種はアスナロである｡[時期］Ⅰ期に相当するSD66よりも新しいが、時期的相違はあまりないものと考えられるため、Ⅰ期に相当するものと考えられる。

（SD38）

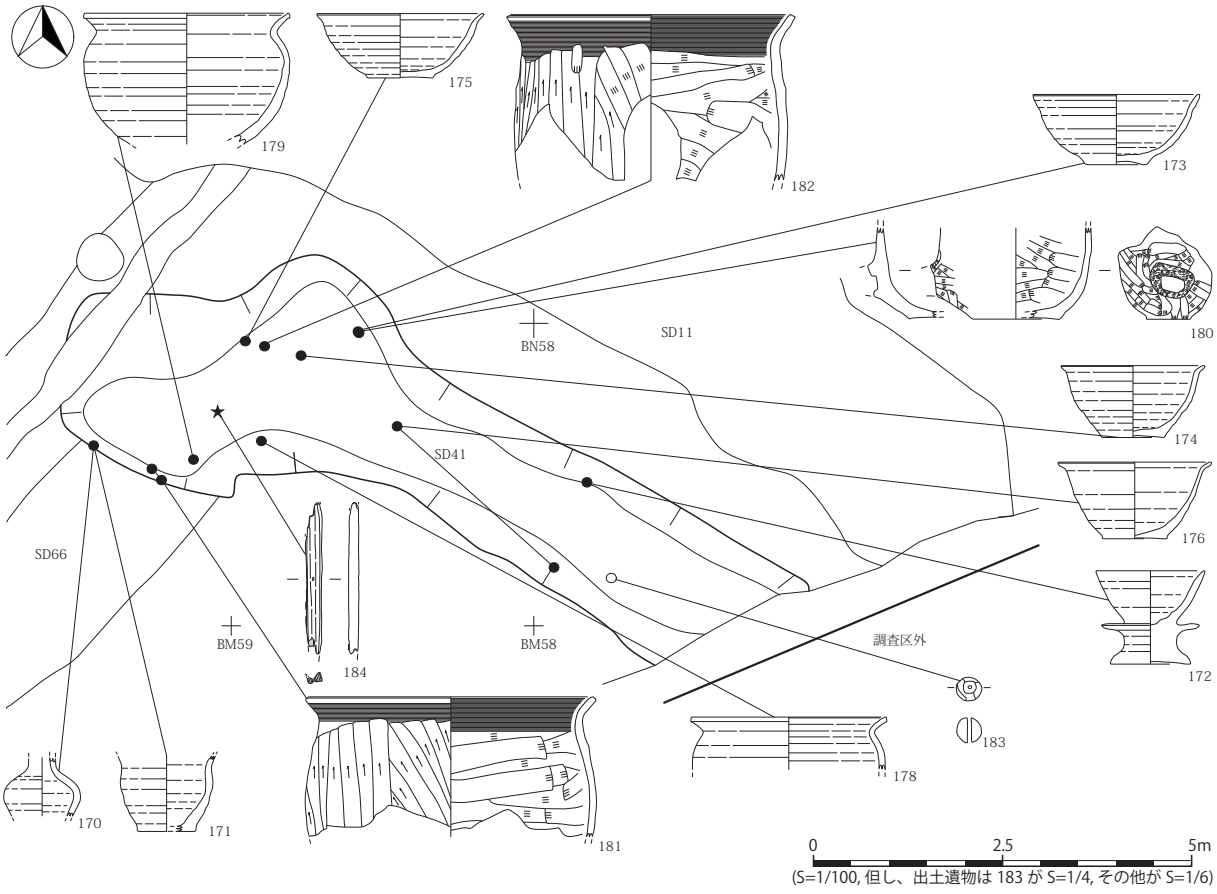
［位置・確認］グリッドBJ60、BK・BL60，61、BM59 ～ 61、BN58，59に位置し、Ⅳ層上面で



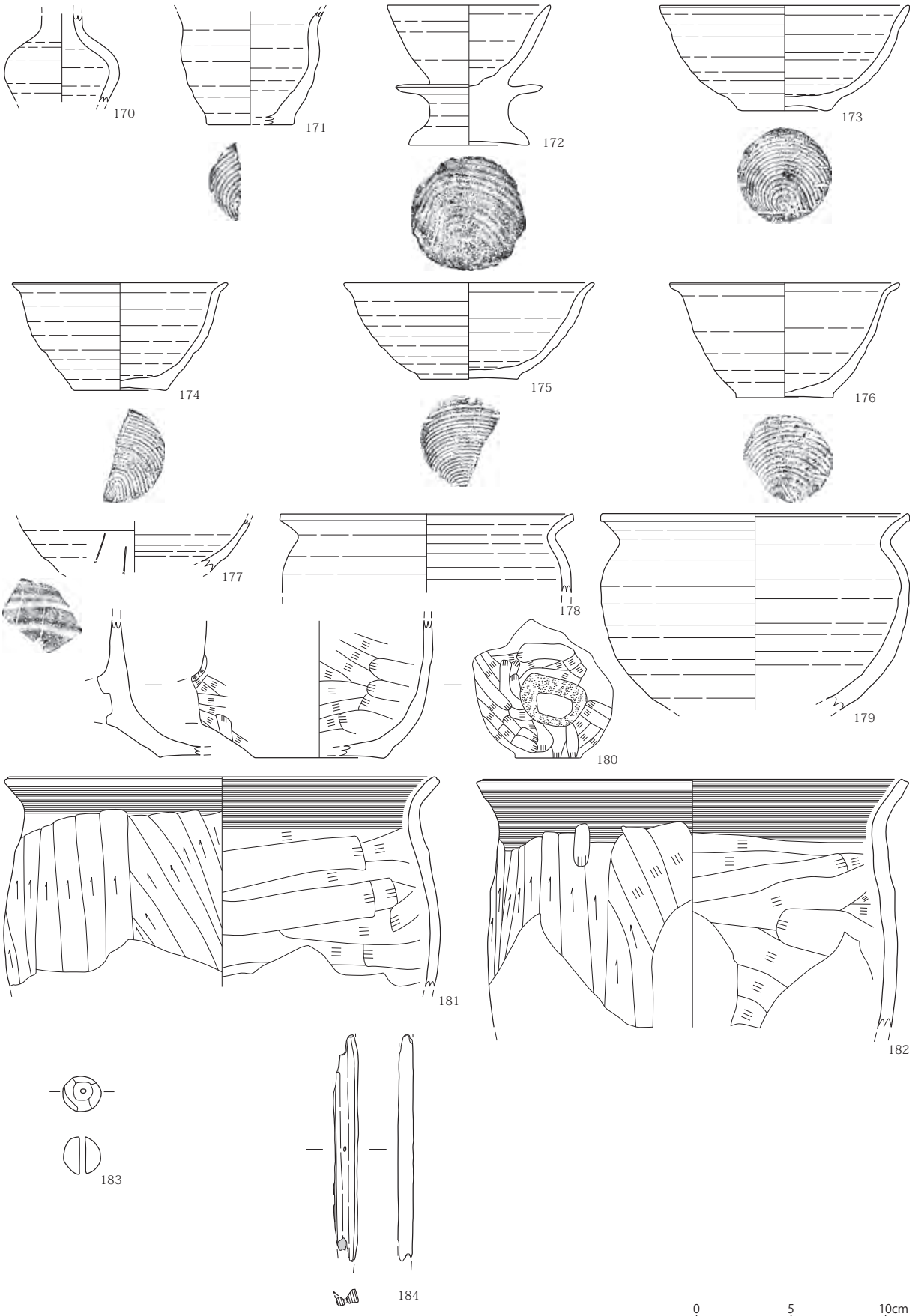
図Ⅲ-2-33　SD66遺物出土状況



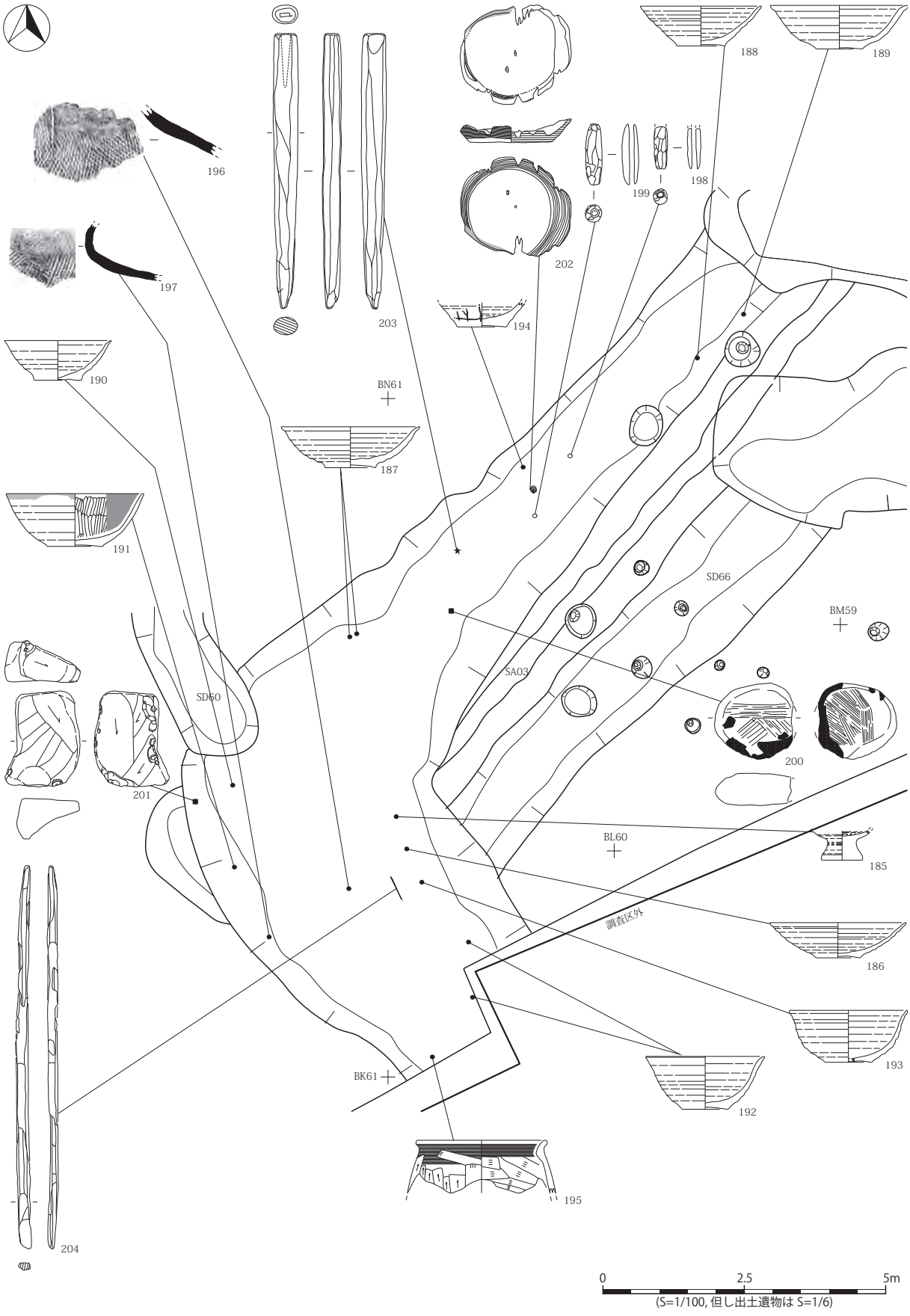
図Ⅲ-2-34　SD66出土遺物



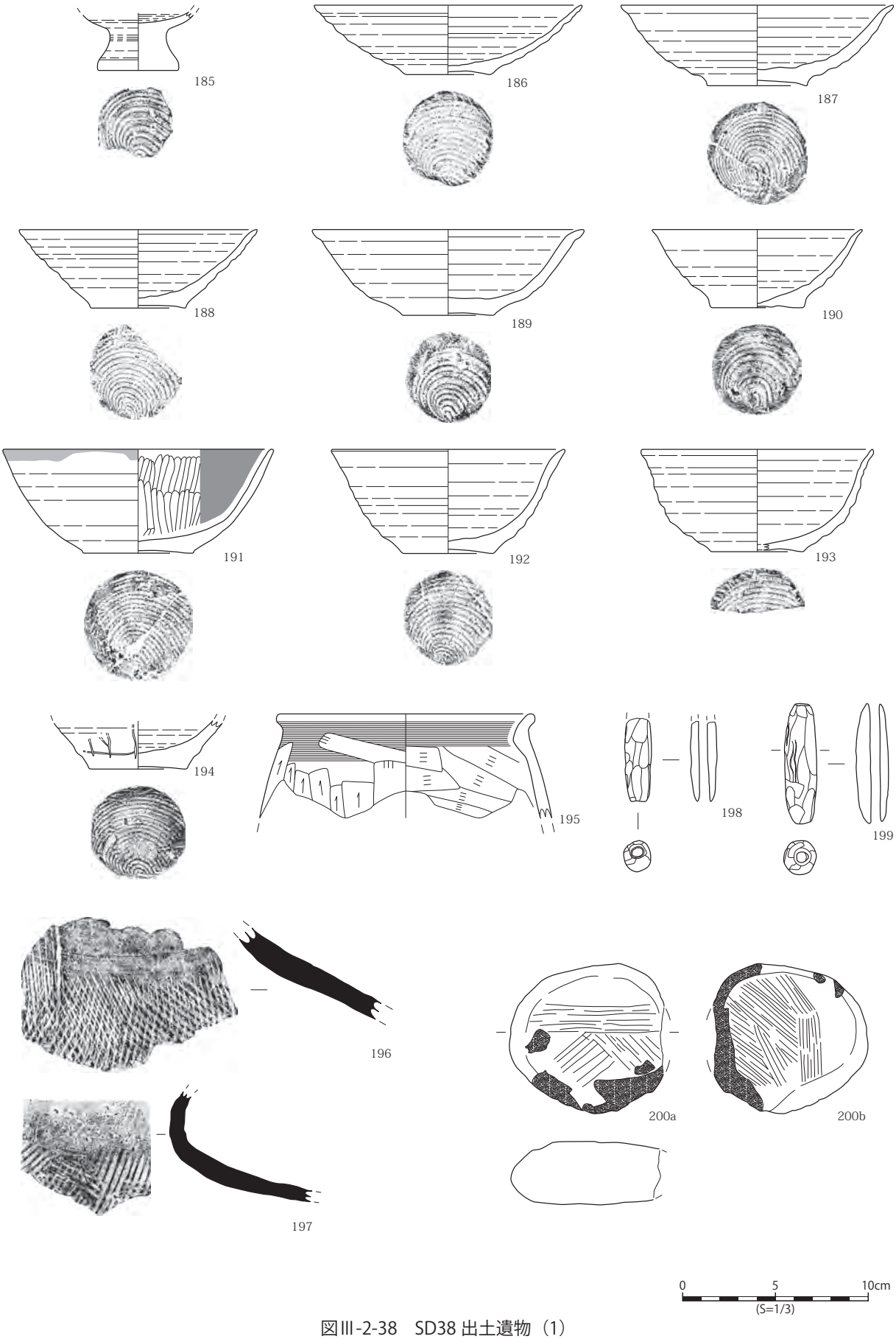
図Ⅲ-2-35　SD41 遺物出土状況



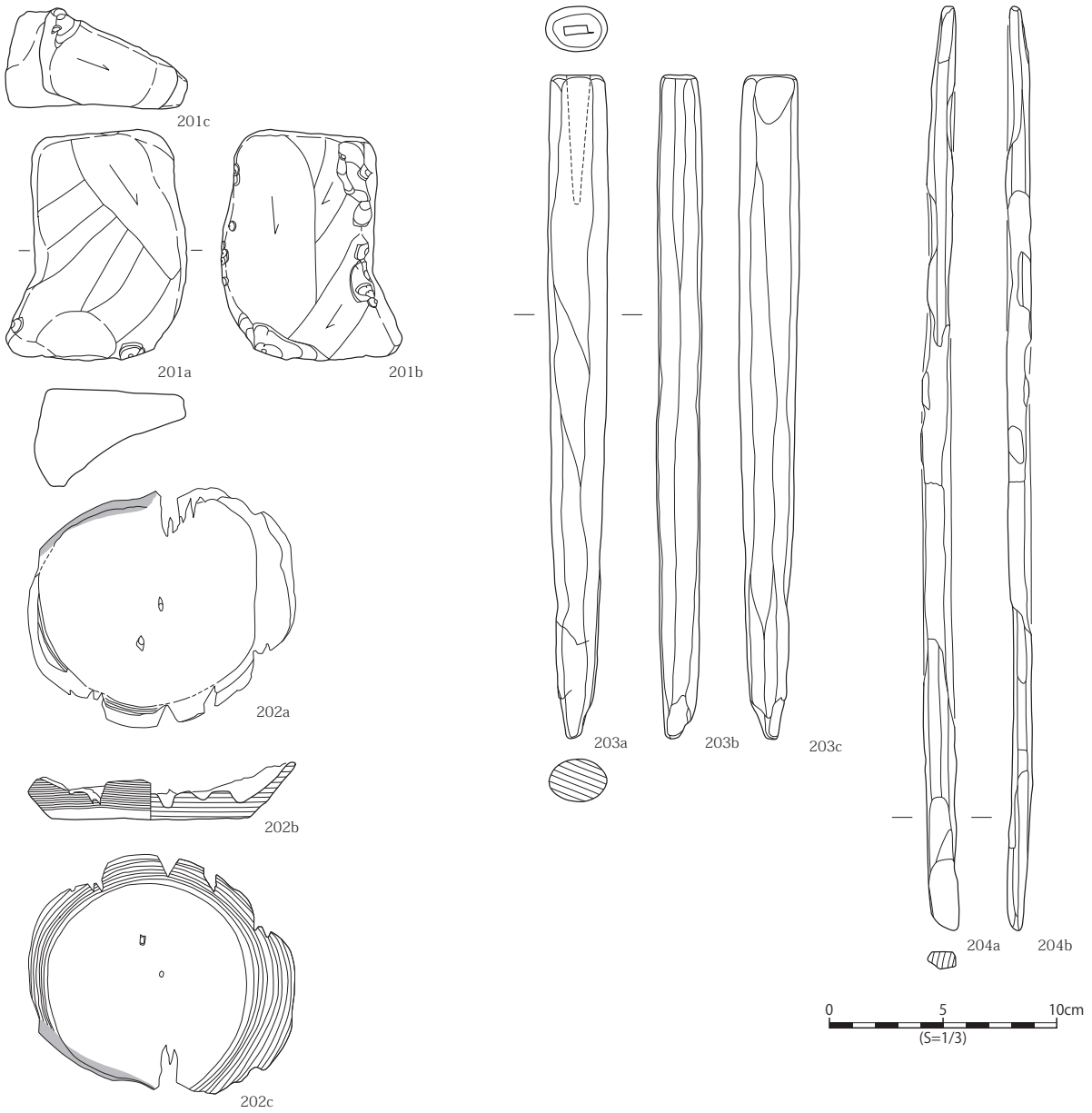
図Ⅲ-2-36　SD41 出土遺物



図Ⅲ-2-37　SD38遺物出土状況



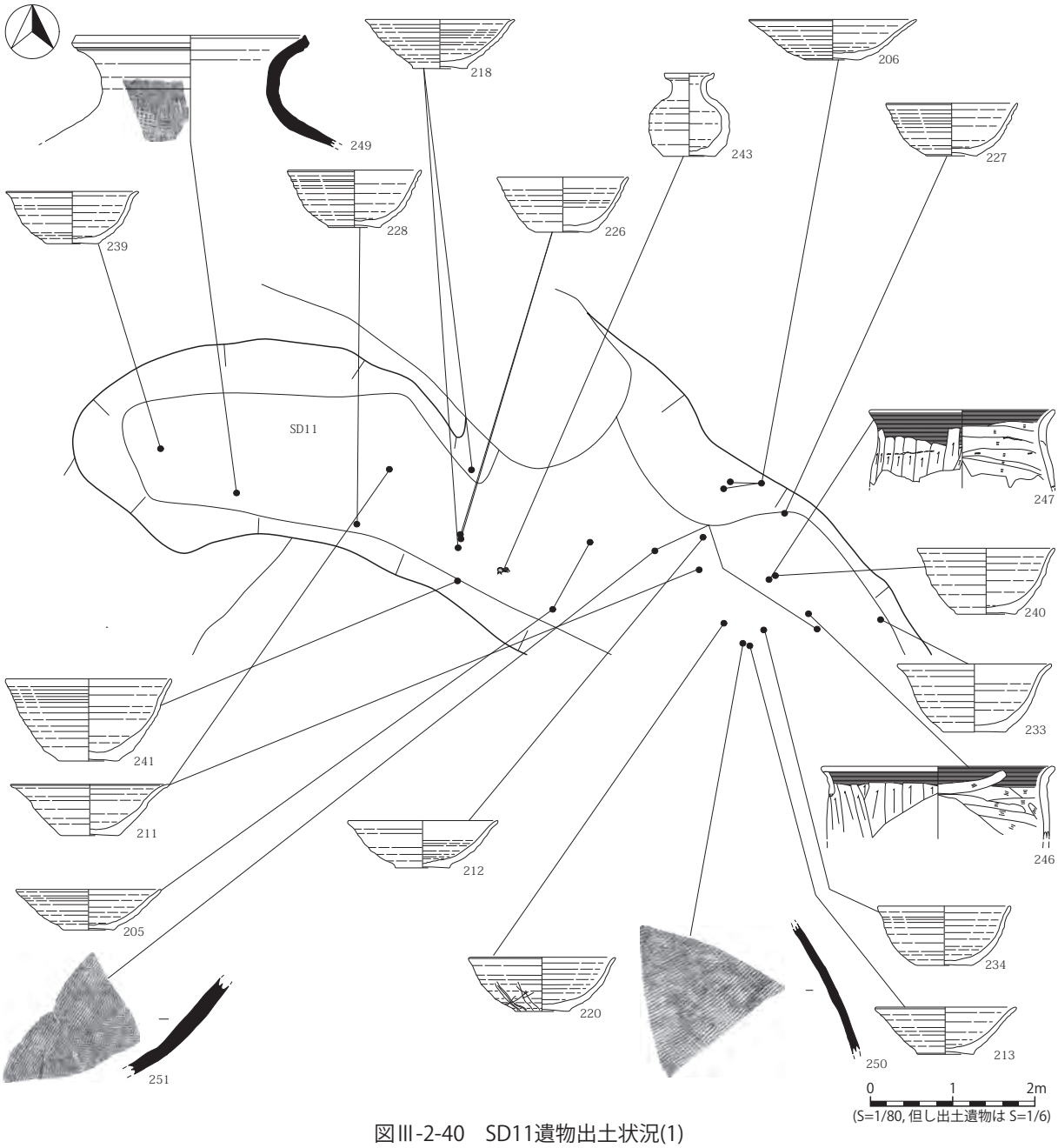
図Ⅲ-2-38　SD38 出土遺物（1）



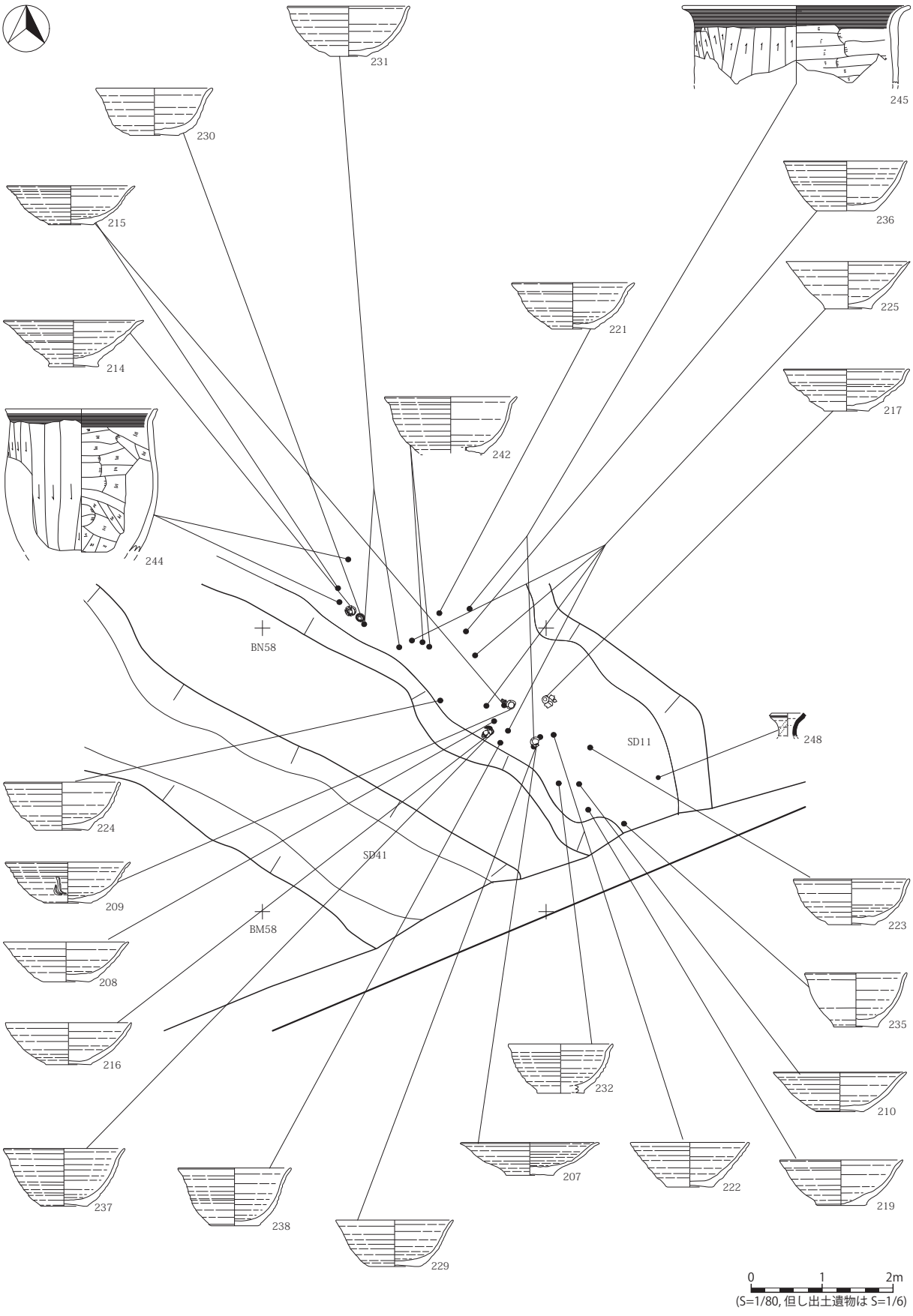
図Ⅲ-2-39　SD38 出土遺物（2）

確認された。［重復関係］SA03、SD11・60・66 と重復関係があり、SD11・60 より古く、SA03、SD66 よりも新しい。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延び、途中で南東方向へ糸向きを転じ、調査区外へと延びる L 字状の溝跡である。残存長 1,759cm、幅 160 ～ 440cm、深さ 39cm を測る。［堆積土］10 層確認され、上層はⅣ層由来の層による人為的堆積土であり、下層は黒色土層である。［出土遺物］土師器の坏 1,991.4g、甕 3,547.4g、須恵器甕 624g、須恵器壺 60g が出土している（図Ⅲ -2-37）。この内図示できたものは 20 点である（図Ⅲ -2-38・39）。185 は土師器の台付坏であり、口縁部が欠損している。186・187 は土師器の皿であり、188・189 は土師器の皿形坏であり、190 は土師器の埦形坏であり、191 ～ 193 は土師器の埦である。191 はロクロ成形後内面をミガキ調整し、黒色処理が施されている。調整は台付坏と同様でロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。194 は坏の体部～底部にかけての破片であり、体部下半にヘラ記号が記されている。185 ～ 194 の調整はいずれもロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無

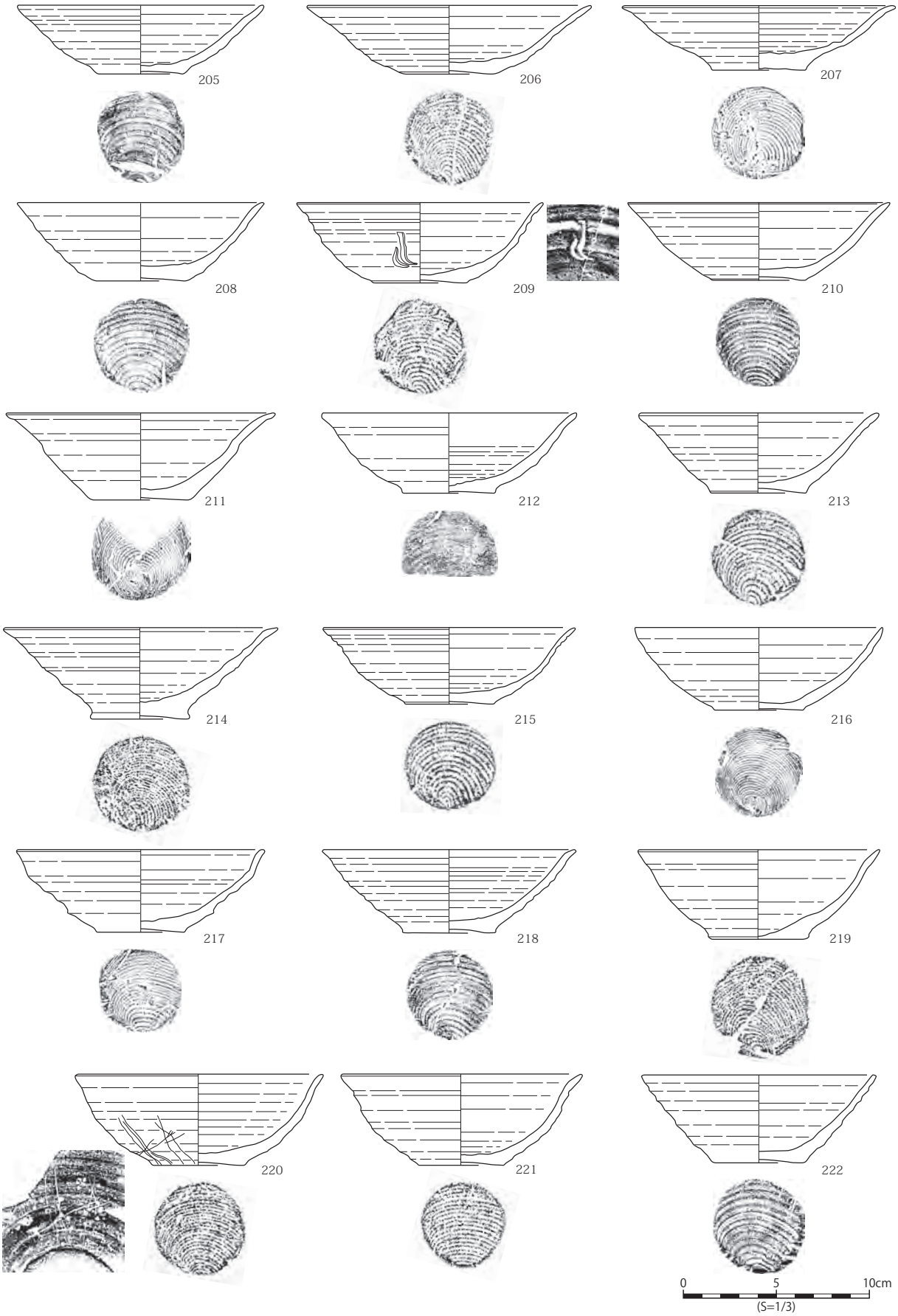
調整である。195 は土師器の甕であり、口縁部内外面にはヨコナデが施され、体部外面にはケズリ、内面にはユビナデ調整が施されている。196・197 は須恵器甕の頸部～体部上半の破片であり、196 にはヘラ記号が記されている。外面にははいずれもタタキ調整の際に付いた格子タタキ目が確認される。198・199 は土錘であり、いずれもユビナデにより成形されている。両個体とも小型であり、内水面の網漁に使用されていたものと考えられる。200・201 は砥石であり、200 は円礫、201 は角礫を使用している。201 は砥面がほぼすべての面で確認されていることから、砥石を手で持って、使用していたものと考えられる。材質は 200 が安山岩、201 が硬質泥岩である。202 ～ 204 は木製品であり、202 は、挽物の椀であり、体部外面にはロクロ挽きの線が確認される。内外面には二次被熱による炭化が見られる。また底面にはロクロの爪痕が見られる。203 は棒状の一端部に長方形状



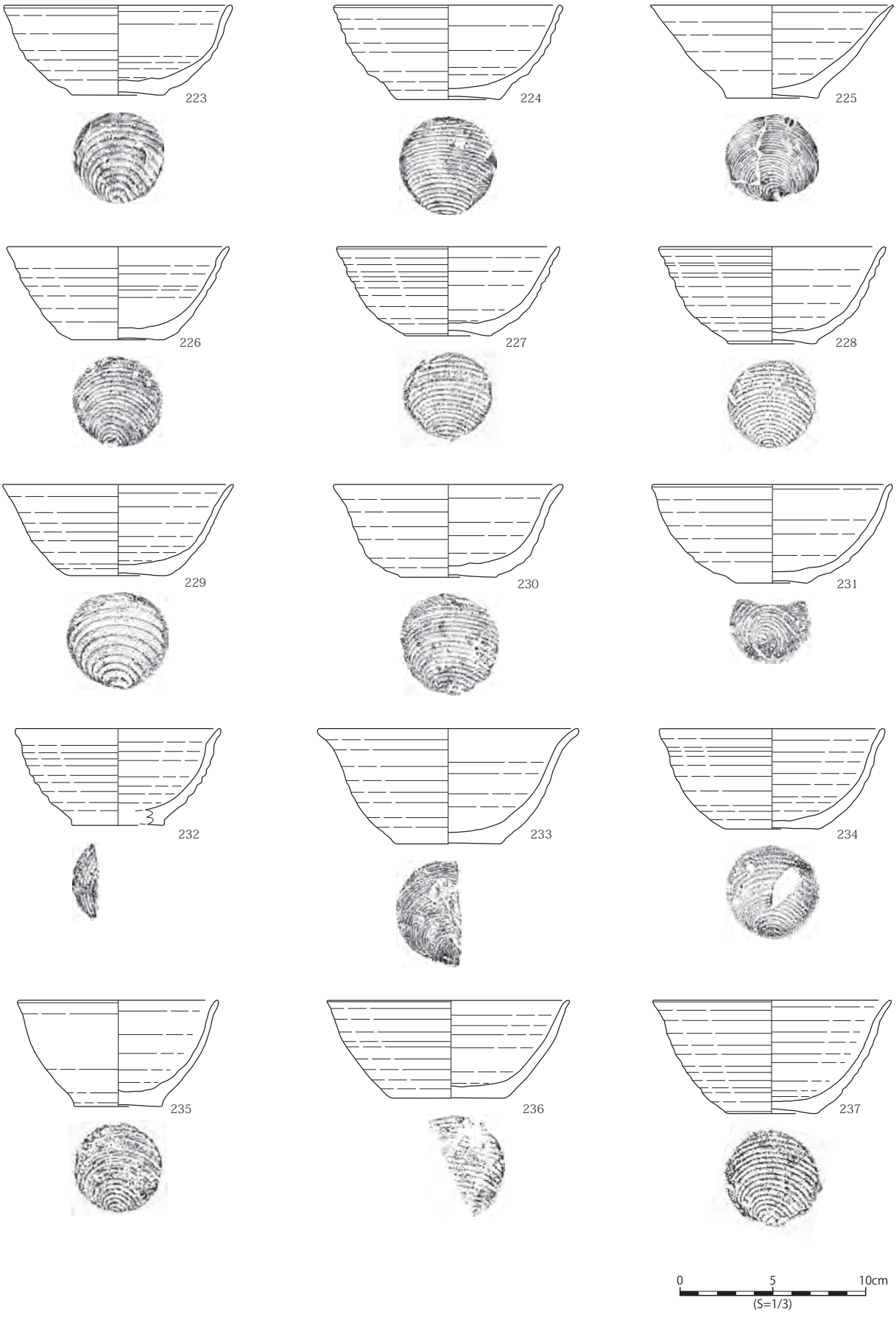
図Ⅲ-2-40　SD11遺物出土状況(1)



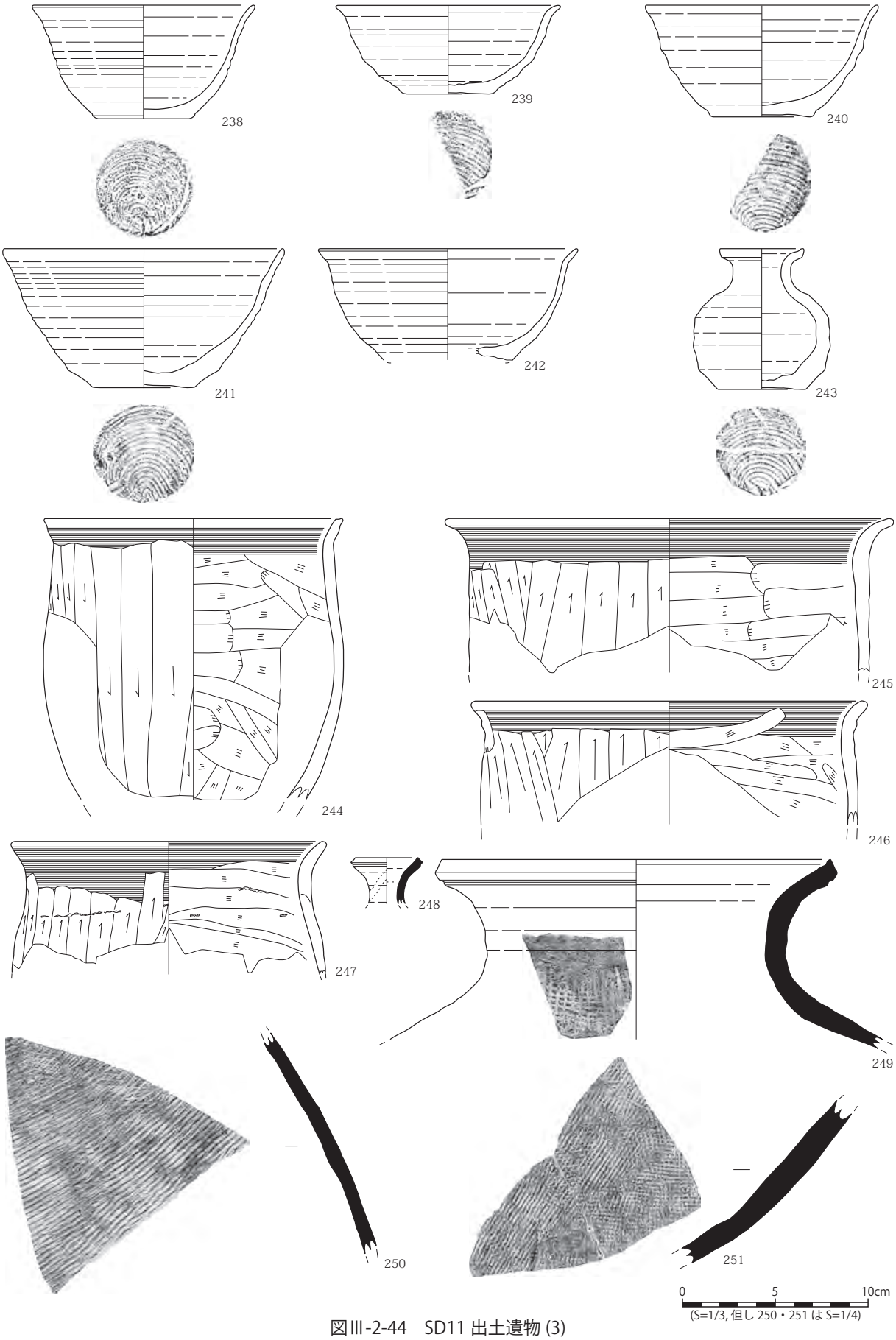
図Ⅲ-2-41　SD11遺物出土状況(2)



図Ⅲ-2-42　SD11 出土遺物 (1)



図Ⅲ-2-43　SD11 出土遺物 (2)



図Ⅲ-2-44　SD11 出土遺物 (3)

の穿孔が認められるため、ヤリガンナの柄とした。204 は棒状の不明木製品であり、先端部が平滑に加工されている。樹種はいずれもアスナロ（ヒバ）である。

（SD11）

［位置・確認］グリッド BM56，57、BN56 ～ 59、BO57 ～ 59 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA03、SD36･38 と重復関係があり、SD36 より古く、SA03、SD38 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる L 字状の溝跡である。検出長 1,382cm、幅 236 ～ 378cm、深さ 58cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1 層ははⅣ層由来の層による人為的堆積土であり、2・3 層は黒色土層であり、4 層はⅣ層由来の自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏 9,383,0g、甕 14,742.6g、須恵器甕 2,110.0g、須恵器壺 136.9g が出土している（図Ⅲ -2-40・41）。この内図示できたものは 47 点である（図Ⅲ -2-42 ～ 44）。205 ～ 207 は土師器の皿である。208 ～ 215 は土師器の皿形坏であり、209 は外面にヘラ記号が描かれている。216 ～ 221 は土師器の埦形坏であり、220 は外面にヘラ記号が描かれている。222 ～ 240 は土師器の埦である。241 は大型の埦である。243 はミニチュアの広口短頸壷である。205 ～ 243 までいずれもロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。244 は土師器の小型甕であり、口縁内外面にヨコナデを施した後体部外面にはケズリ調整、内面にはユビナデ調整が施されている。245 ～ 247 は土師器の長胴甕である。調整は小型甕と同様である。248 は須恵器の小型の長頸壷の口頸部であり、自然釉が観察された。また破断面が黒色を帯びていることから二次焼成を受けている。249 は須恵器の甕 I 類の口縁部から体部上半までの個体であり、口縁部の特徴から、五所川原産須恵器の MD 窯操業時期の須恵器である。250 は須恵器甕の体部破片であり、外面には平行タタキ目痕が残る。251 は須恵器甕の体部下半から底部破片であり、体部下半は平行タタキ目、底部付近は格子タタキ目痕が残る。

（SD60）

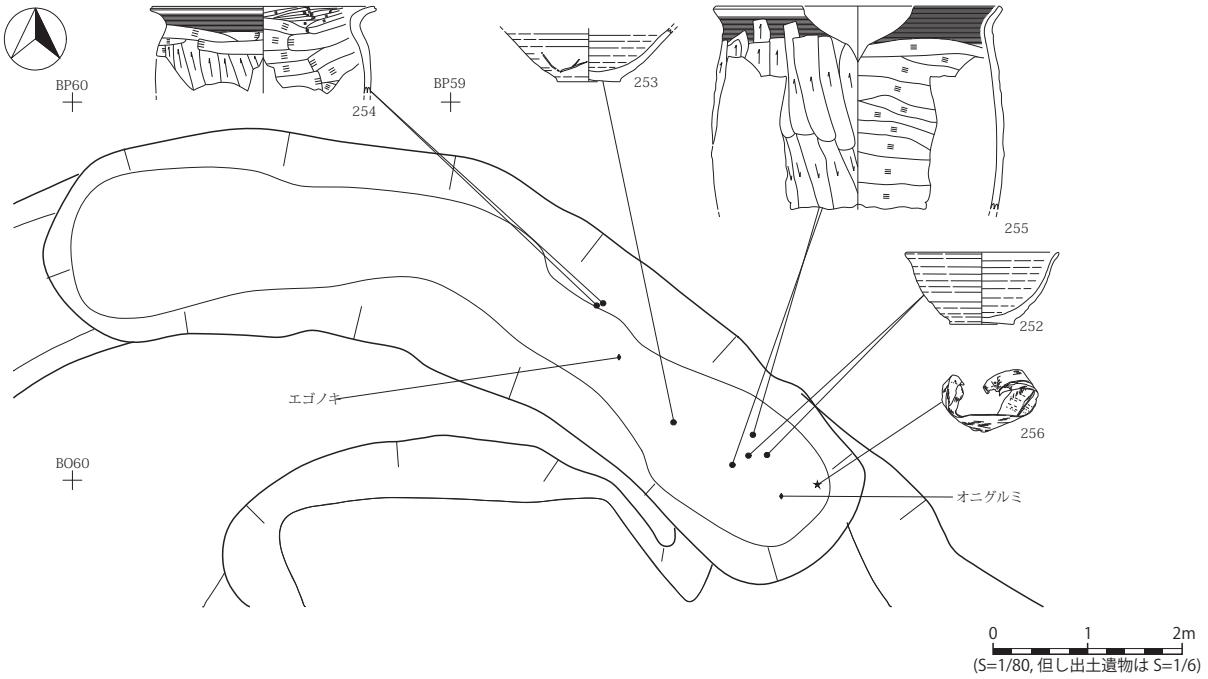
［位置・確認］グリッド BL・BM61，62、BN60，61、BO59，60 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD36・38、SK10 と重復関係があり、SD38、SK10 より古く、SD36 よりも新しい。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延び、途中で南東方向へと向きを転じる L 字状の溝跡である。検出長 1,556cm、幅 115 ～ 208cm、深さ 61cm を測る。［堆積土］5 層確認され、上層はⅣ層由来の層による人為的堆積土であり、下層は黒色土層である。［出土遺物］土師器坏 108g、土師器甕 244g が出土している。

（SD36）

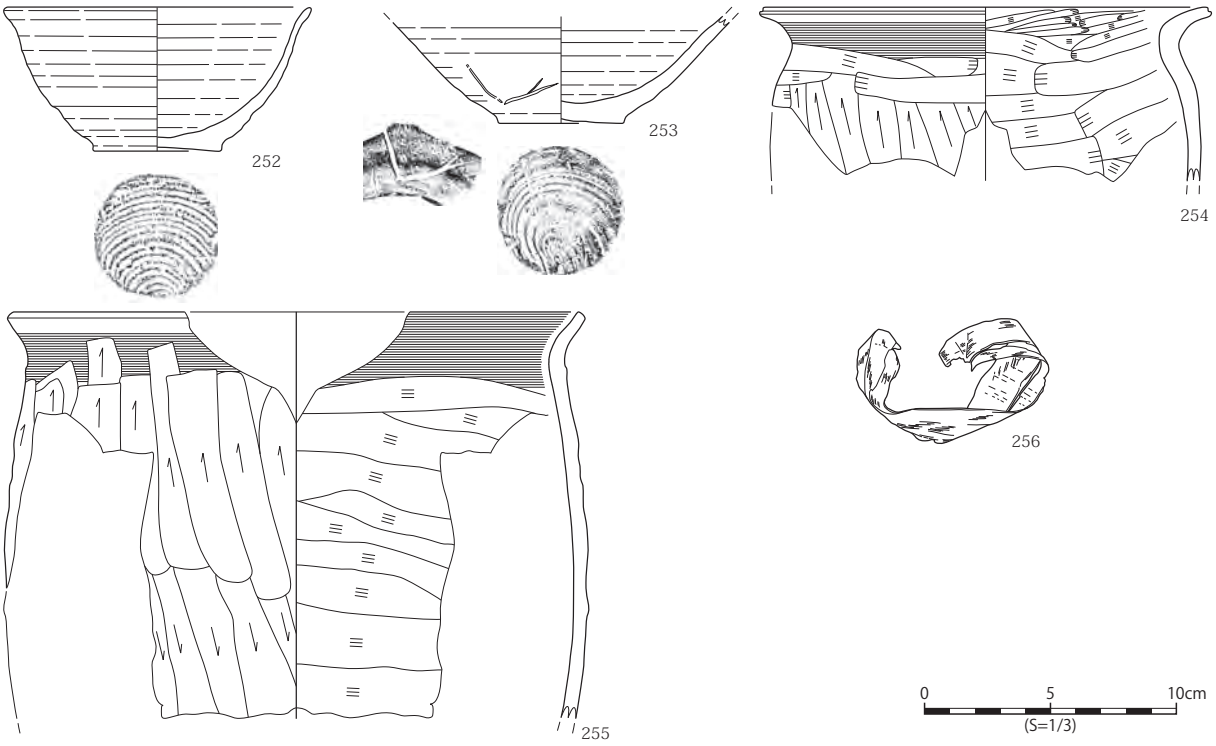
［位置・確認］グリッド BN57，58、BO57 ～ 60 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA03、SD11・60 と重復関係があり、すべての遺構よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 942cm、幅 185 ～ 212cm、深さ 69cm を測る。［堆積土］6 層確認され、1 ～ 5 層は黒色土層と黒褐色土層が互層を成している。最下層はⅢ層由来の層である。

［出土遺物］土師器の坏 306g、土師器甕 860.1g が出土している（図Ⅲ -2-45）。この内図示できたものは 5 点である（図Ⅲ -2-46）。252 は土師器の埦であり、253 は坏の体部～底部にかけての破片であり、外面にヘラ記号が記されている。254・255 は土師器の長胴甕であり、口縁部はユビナデ、体部外面はヘラケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。256 は結合補助材として使用される樹皮であり、針葉樹であるが樹種は不明である。

第 12・13・89 号溝跡（SD12・13・89、図Ⅲ -2-47）



図Ⅲ-2-45　SD36遺物出土状況



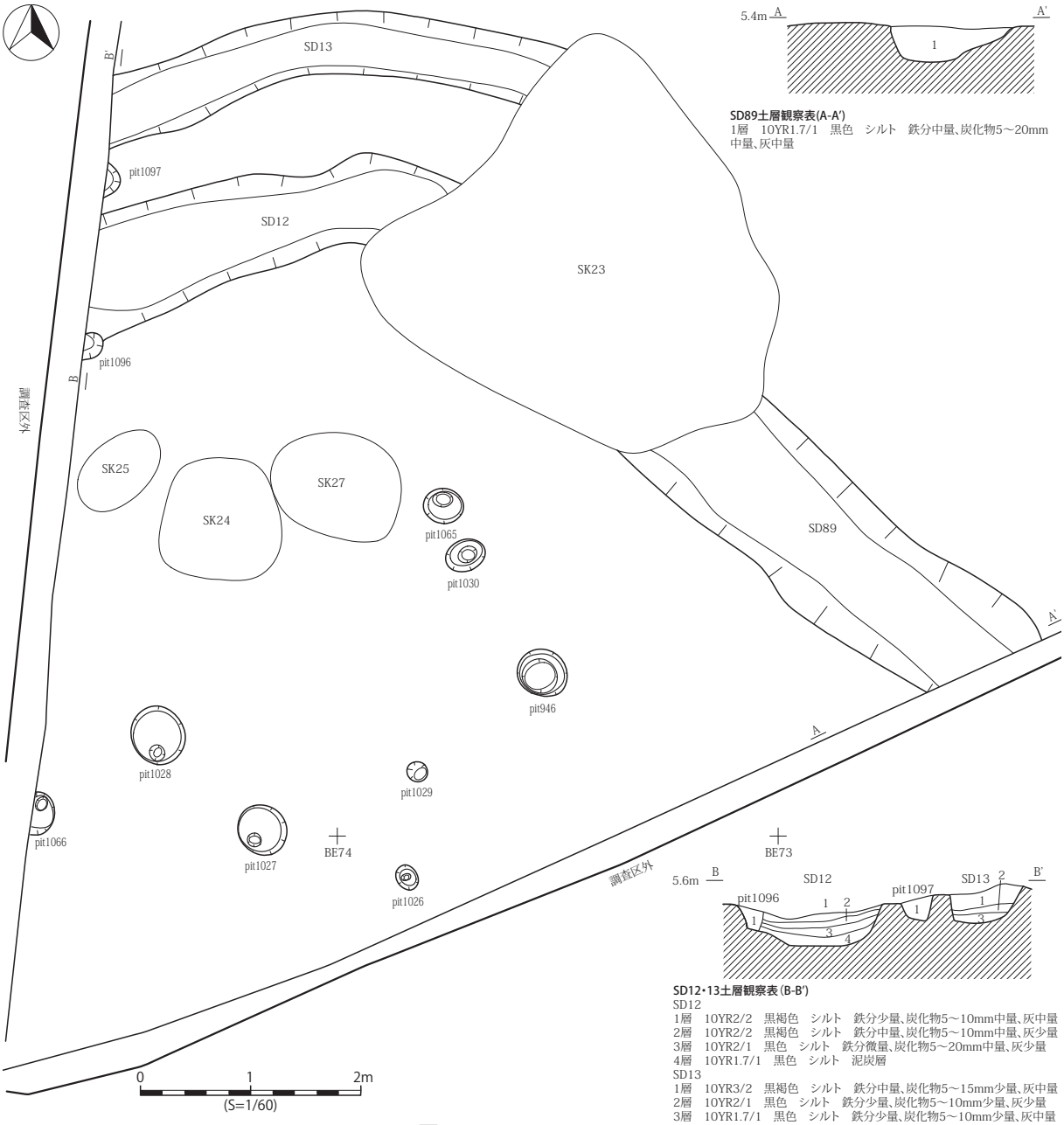
図Ⅲ-2-46　SD36 出土遺物

（概要）

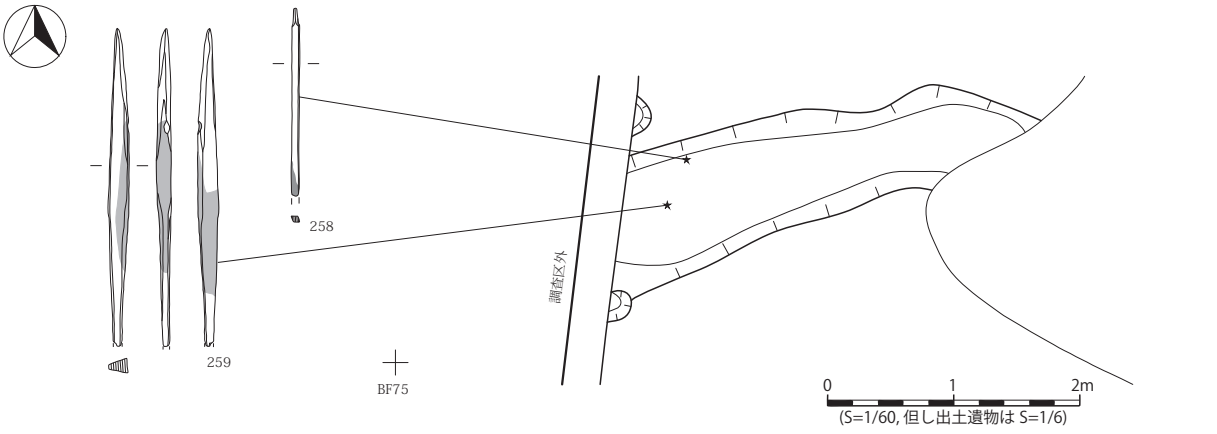
調査区の南西端で検出されたＬ字状の溝である。SK23 より古いため、詳細は不明であるが、南東側では 1 条の溝跡（SD89）、北西側では 2 条の溝跡（SD12・SD13）で形成されている。

（SD12）

［位置・確認］グリッド BF73，74 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SK23、pit1096



図Ⅲ-2-47　SD12・13・89



図Ⅲ-2-48　SD12遺物出土状況

と重復関係があり、すべての遺構よりも古い。［規模・形状］東南東方向から西北西方向へと直線状に延び、途中で向きを西南西方向へと転じ調査区外へと延びているL字状の溝跡である。残存長303cm、幅64～115cm、深さ39cmを測る。［堆積土］4層確認され、上層は黒褐色土層、下層は黒色土層で形成されており、自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏204g、土師器甕520g等が出土している（図Ⅲ-2-48）。この内図示できたものは3点である（図Ⅲ-2-49）。257は、土師器の皿であり、ロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。258は箸状の木製品であり、先端部に鋭角状の加工が認められる。もう一端は破損しており、全体の形状は不明である。一部被熱を受け炭化している部分がある。259は棒状の不明木製品であり、両端を細く尖らせている。中央付近は被熱により炭化している。樹種は、いずれもアスナロである。

図Ⅲ-2-49　SD12出土遺物

（SD13）

［位置・確認］グリッドBF73，74に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SK23と重復関係があり、SK23よりも古い。［規模・形状］東南東方向から西北西方向へと直線状に延び、途中で向きを西南西方向へと転じ調査区外へと延びているL字状の溝跡である。残存長397cm、幅59～63cm、深さ30cmを測る。［堆積土］3層確認され、上層は黒褐色土層、下層は黒色土層で形成されており、自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏340g、土師器甕1,792g、須恵器甕39g、須恵器壷4g等が出土している。

（SD89）

［位置・確認］グリッドBF73，74に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SK23と重復関係があり、SK23よりも古い。［規模・形状］北西方向から南東方向の調査区へと延びる直線状の溝跡である。残存長330cm、幅113～128cm、深さ48cmを測る。［堆積土］1層確認され、黒色土層で形成されており、自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏1,254g、土師器甕5,162g、須恵器壷29g等が出土している。

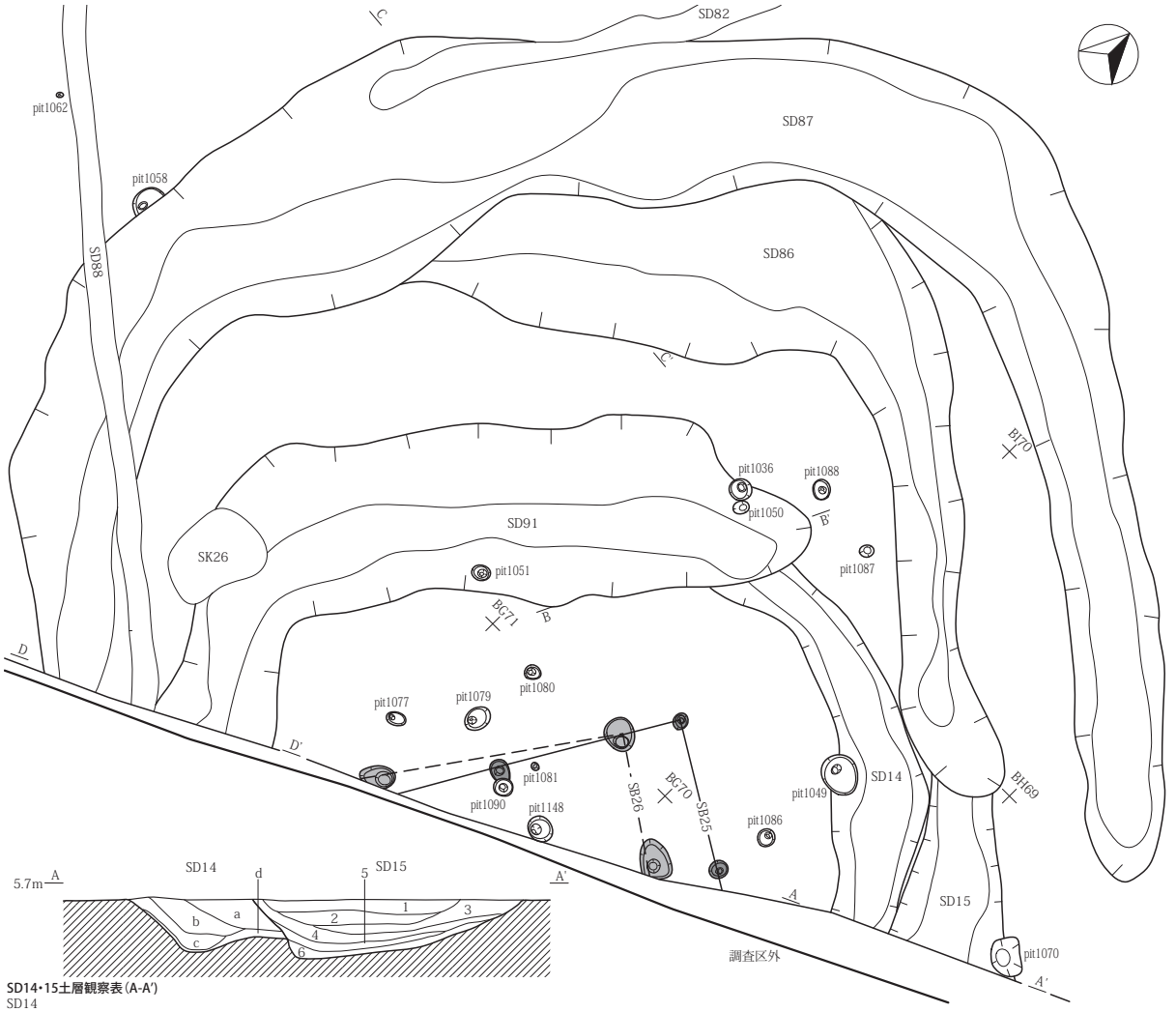
第14・15・86・87・91号溝跡（SD14・15・86・87・91、図Ⅲ-2-50）

（概要）

調査区南西部で検出された。コの字状を呈する溝跡が南東方向から北西方向へと3回作り替えられている（SD14・91→SD15・86→SD87）。内側の溝跡は、2本の溝跡によりコの字状を形成しているが、堆積状況を見ると一番内側の溝跡は、人為的に埋め戻されているが、外側の2列の溝跡は自然堆積であり、内側の溝跡が自然に堆積した後、新たに外側に溝を構築していることが判明した。さらに内側の溝跡が埋まった後にその溝内にピットを掘り、建物を建て替えていることが判明した。時期はSD14・91がⅠ期、SD15・86、87がⅡ期に相当すると考えられる。

（SD14）

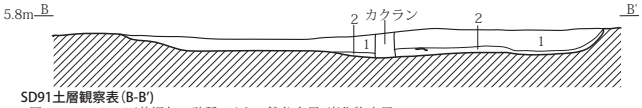
［位置・確認］グリッドBG68～70、BH69，70に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］



SD14・15土層観察表（A-A'）

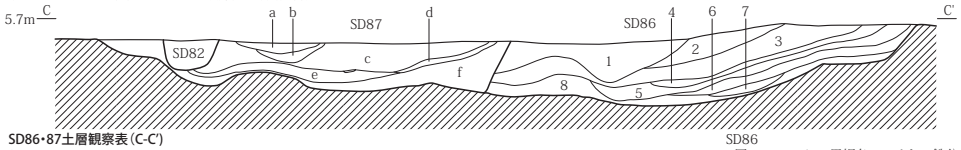
SD14
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
b層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
c層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
d層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物多量

SD15
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
5層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
6層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量



SD91土層観察表（B-B'）

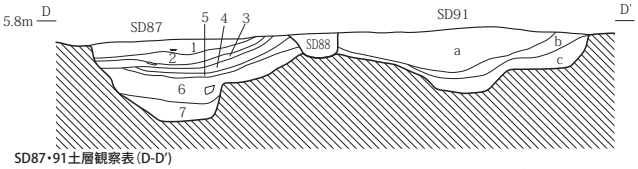
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量、灰少量



SD86・87土層観察表（C-C'）

SD87
a層　10YR1.7/1　黒色　粘土質シルト　ローム粒1～9mm少量、鉄分少量、炭化物多量
b層　10YR2/1　黒色　シルト　ローム粒1～9mm少量、鉄分少量、炭化物中量
c層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　ローム粒1～9mm中量、LB1～6cm少量、鉄分中量、炭化物少量
d層　10YR3/1　黒褐色　シルト　ローム粒1～9mm少量、鉄分少量、炭化物中量
e層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
f層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

SD86
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
5層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
6層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
7層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
8層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量



SD87・91土層観察表（D-D'）

SD87
1層　10YR4/1　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量
2層　10YR2/1　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm中量、灰少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量
4層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
5層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量
6層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm中量、灰中量
7層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰中量

SD91
a層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
b層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm中量、灰中量
c層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm中量、灰中量

0　2.5　5m
(S=1/120，但しセクション図は S=1/60)

図Ⅲ-2-50　SD14・15・86・87・91

SD15・86・91 と重復関係があり、すべての遺構よりも古い。［規模・形状］北西方向から南東方向へと曲線状に延びる溝跡である。残存長 635cm、幅 78 ～ 158cm、深さ 63cm を測る。［堆積土］4 層確認され、上層はⅣ層由来の人為的堆積土で、下層は黒色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］特になし。

（SD91）

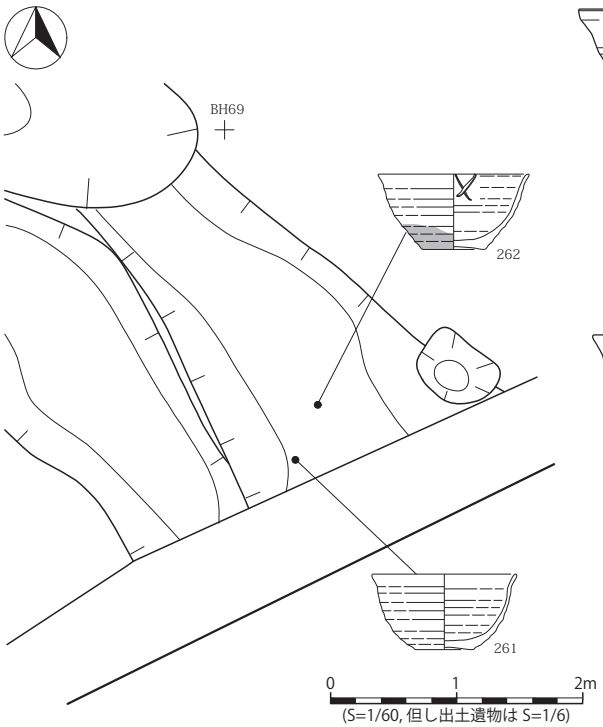
［位置・確認］グリッド BE71、BF71，72、BG・BH70，71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD14・88、SK26 と重復関係があり、SD88、SK26 よりも古く、SD14 よりも新しい。［規模・形状］北東方向から南西方向へとへと直線状に延び、途中で向きを南東方向へと転じ、調査区外へと延びているＬ字状の溝跡である。残存長 1,179cm、幅 155 ～ 296cm、深さ 42.5cm を測る。［堆積土］３層確認され、上層はⅣ層由来の人為的堆積土で、下層は黒色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］特になし。

（SD15）

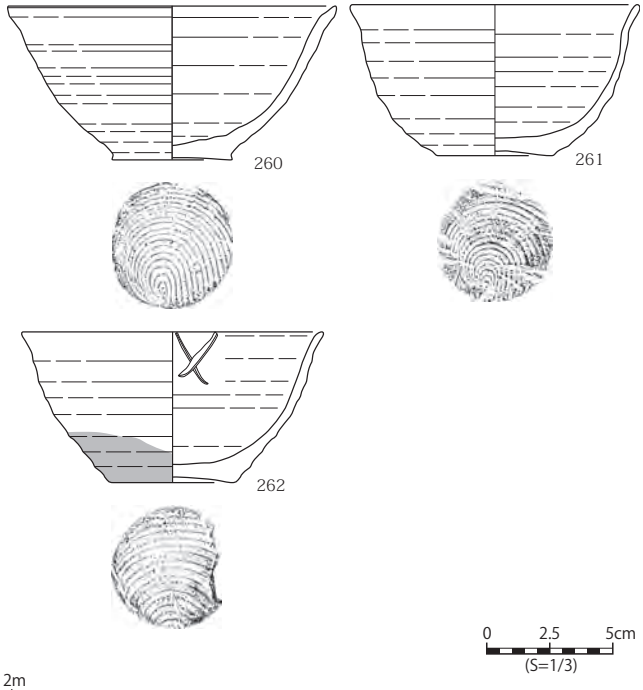
［位置・確認］グリッド BG68，69 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD14・86 と重復関係があり、SD86 より古く、SD14 より新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。残存長260cm、幅103～146cm、深さ50.5cmを測る。［堆積土］7層確認され、黒色土層で形成されており、自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 1,065g、土師器甕 2,125g が出土している（図Ⅲ -2-51）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ -2-52）。260 ～ 262 は土師器の埦であり、調整はロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。262 は内面にヘラ記号「×」が記されており、外面は被熱を受けて黒変している。

（SD86）

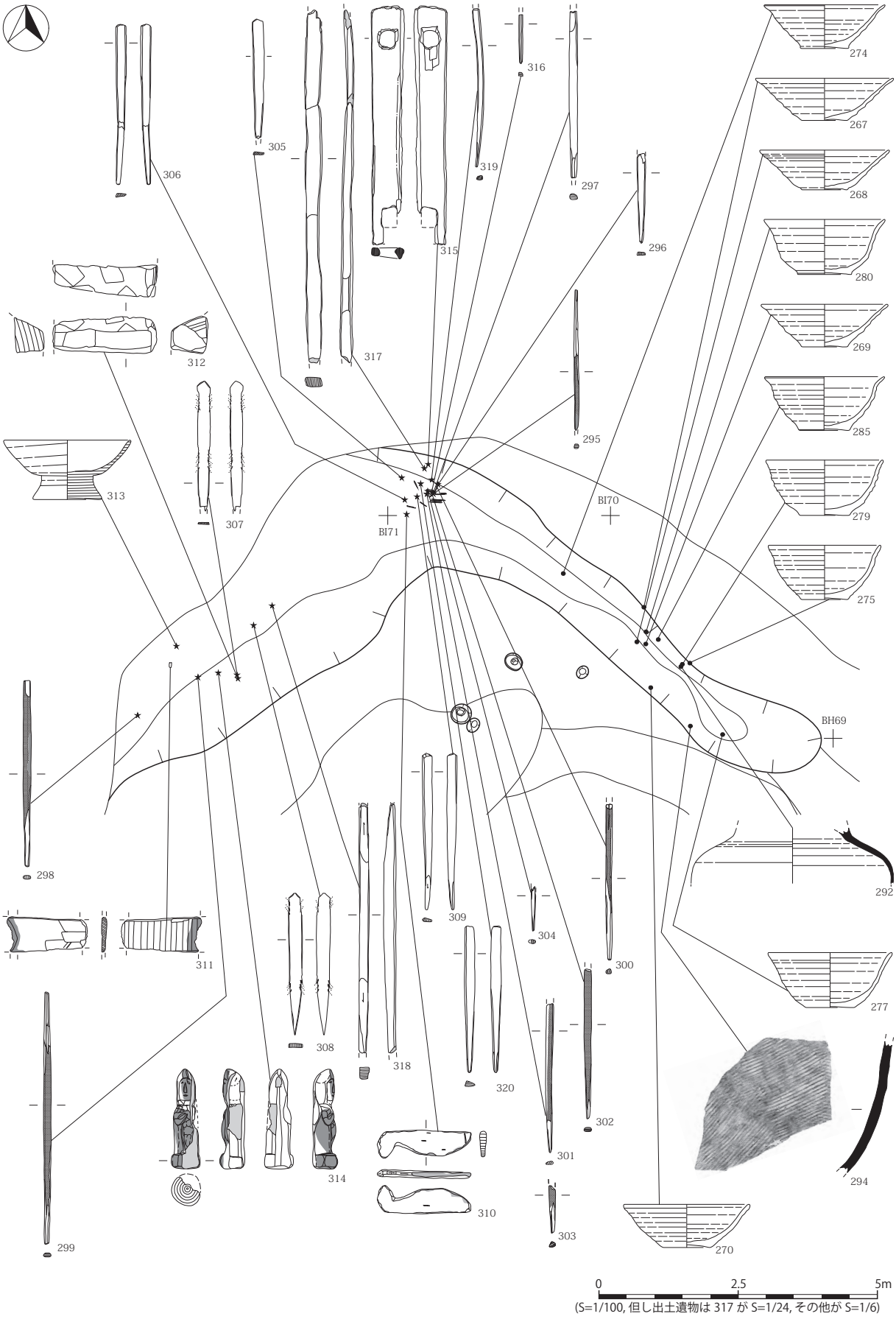
［位置・確認］グリッド BG69，71，72、BH69 ～ 72、BI70，71 に位置し、Ⅳ層上面で確認され



図Ⅲ-2-51　SD15遺物出土状況

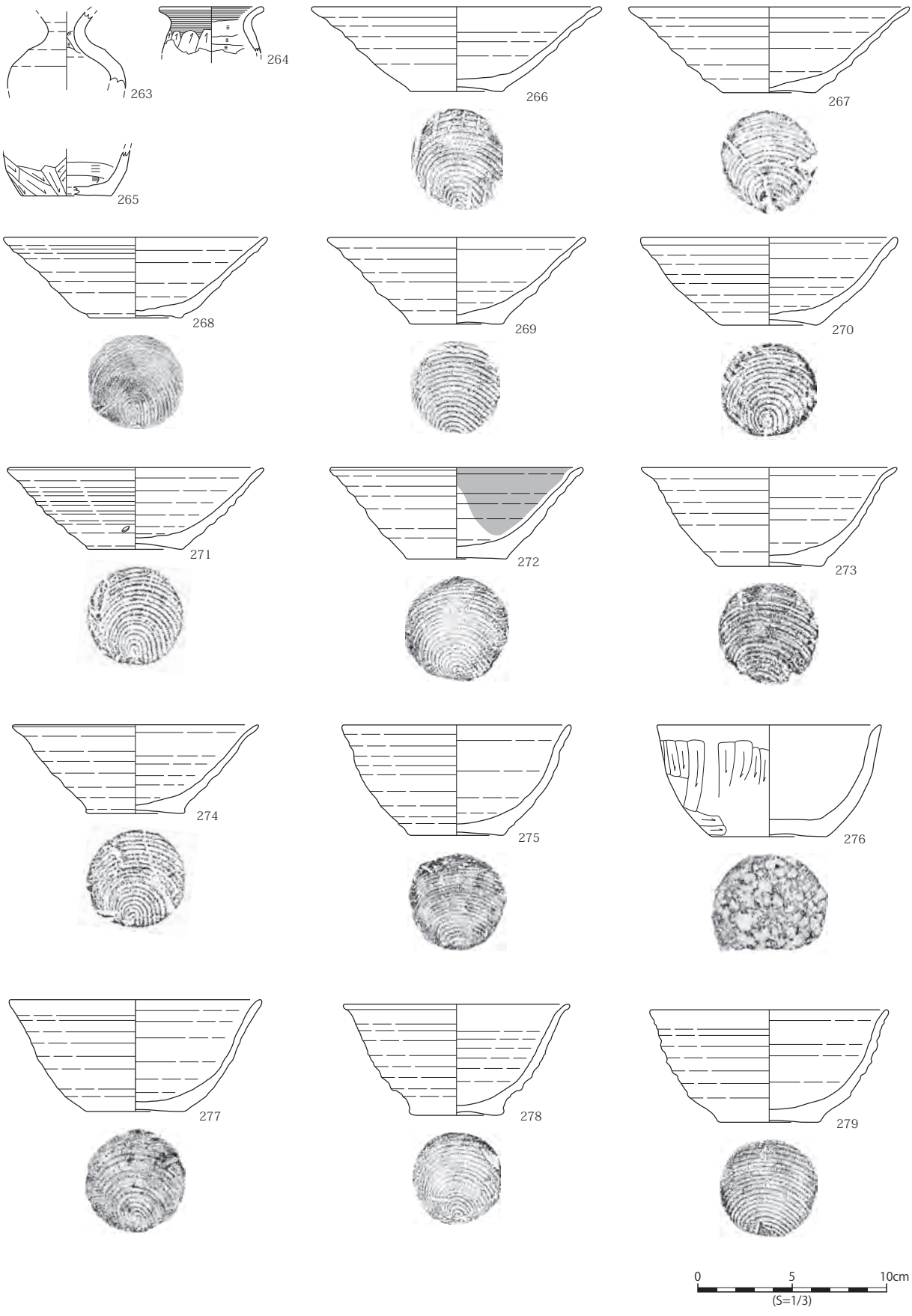


図Ⅲ-2-52　SD15出土遺物

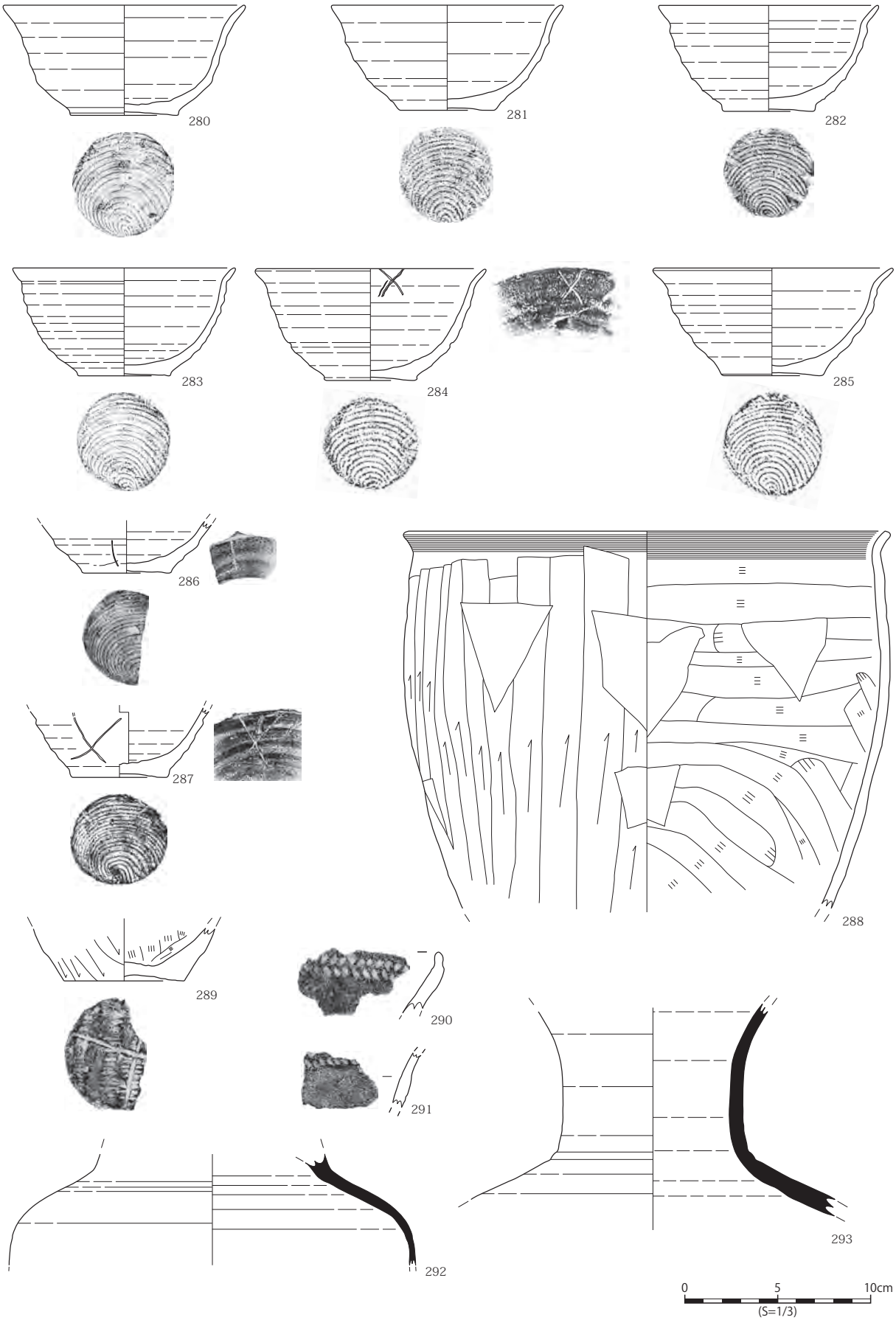


(S=1/100, 但し出土遺物は 317 が S=1/24, その他が S=1/6)

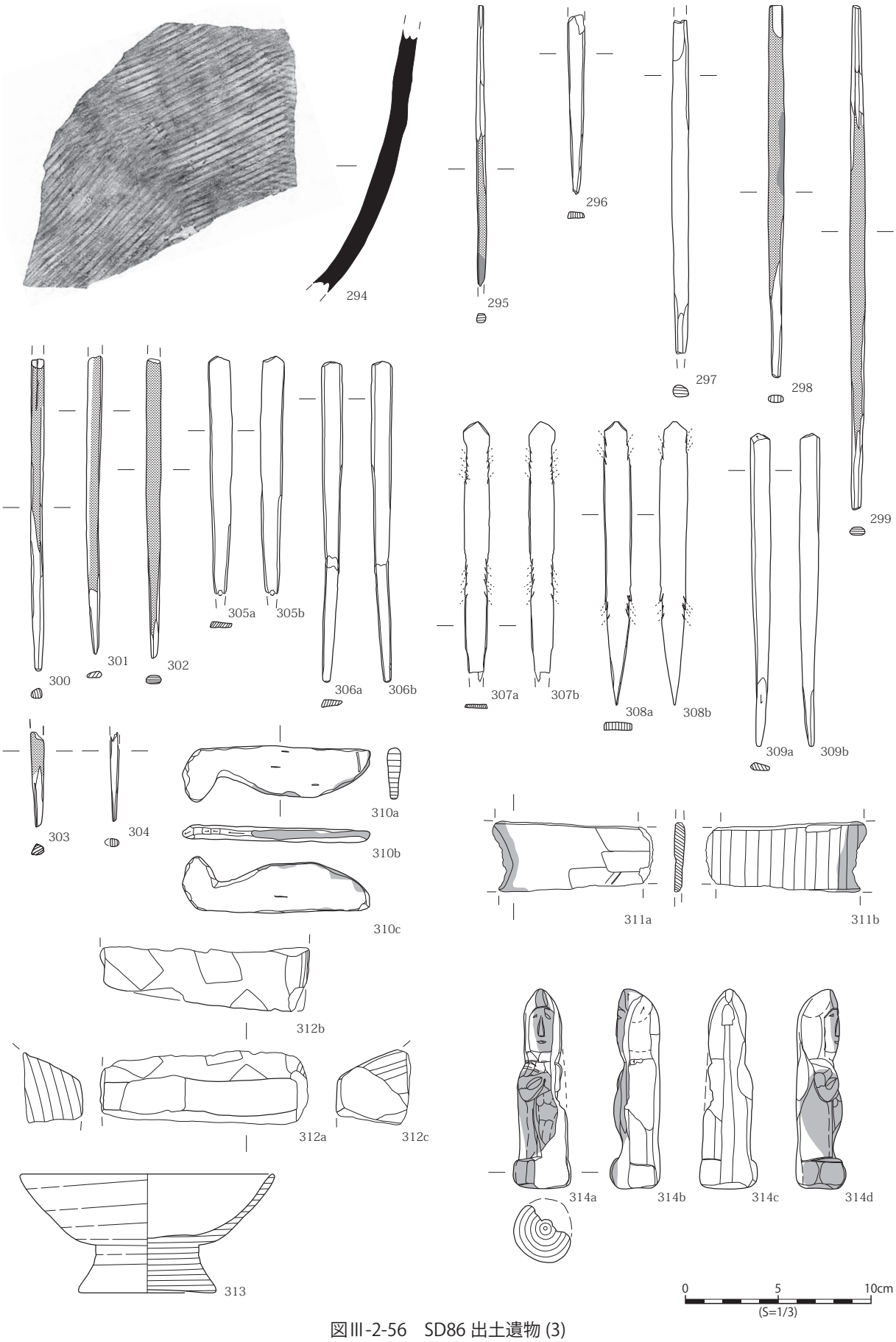
図Ⅲ-2-53　SD86遺物出土状況



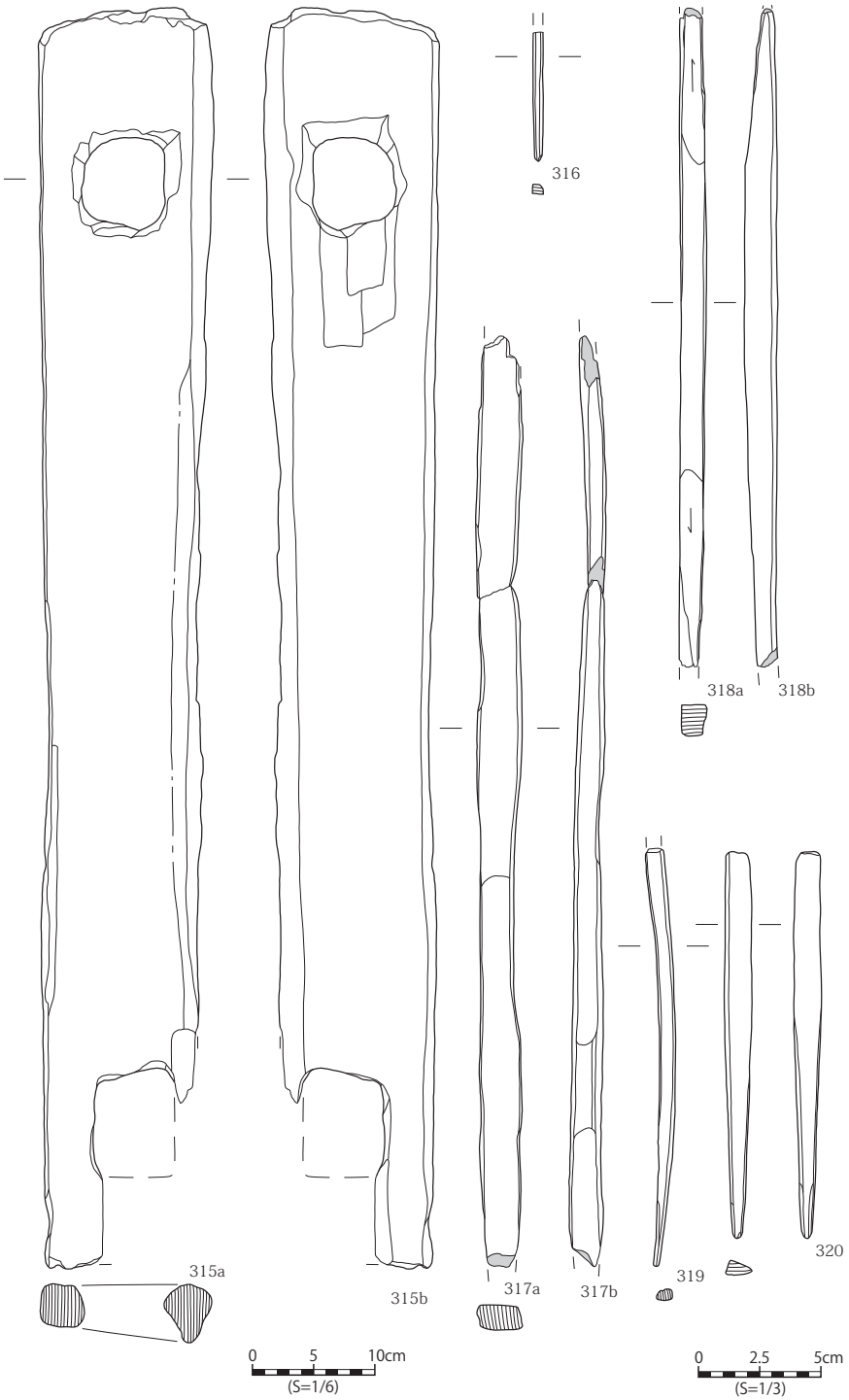
図Ⅲ-2-54　SD86 出土遺物 (1)



図Ⅲ-2-55　SD86 出土遺物 (2)



図Ⅲ-2-56　SD86 出土遺物 (3)



図Ⅲ-2-57　SD86 出土遺物 (4)

た。［重復関係］SD14・15・87 と重復関係があり、SD87 より古く、SD14・15 よりも新しい。［規模・形状］東南東方向から西北西方向へと直線状に延び、途中で向きを西南西方向へと転じ調査区外へと延びているＬ字状の溝跡である。残存長 1,195cm、幅 925 ～ 265cm、深さ 82.5cm を測る。［堆積土］8 層確認され、上層及び下層は黒色土層で形成されており、中間層は黒褐色土層で形成されていて、いずれも自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 6,380.1g、土師器甕 5,043g、須恵器甕 762g、須恵器壷 263g 等が出土している（図Ⅲ -2-53）。この内図示できたものは 59 点である（図Ⅲ -2-54 ～ 57）。263 ～ 265 は土師器のミニチュアであり、263 はロクロ成形、264・265 は手捏ねである。266 は土師器の皿である。267 ～ 271 は土師器の皿形坏であり、272 ～ 274 は土師器の椀形坏であり、272 は内面に二次被熱の痕が見られる。275 ～ 287 は土師器の椀であり、276 は非ロクロの坏であり、外面にはケズリ調整が施されている。284 は内面に、286・287 は外面にヘラ記号が記されている。276 を除く 266 ～ 287 までいずれもロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。288 は土師器の甕であり、口縁部内外面にはヨコナデ、体部外面にはケズリ、体部内面にはユビナデが施されている。289 は土師器甕の底部であり、底面にヘラ記号が記されて

いる。290 は擦文土器の口縁部破片であり、矢羽根状の刺突列が施されている。291 は擦文土器の体部破片であり刺突列が施されている。292 は須恵器の広口壷の頸部～体部上半であり、ロクロ成形である。293 は須恵器の長頸壷であり、ロクロ成形である。294 は須恵器の甕の体部破片であり、タタキ目調整が施されており、内面の当て具痕は不明瞭である。

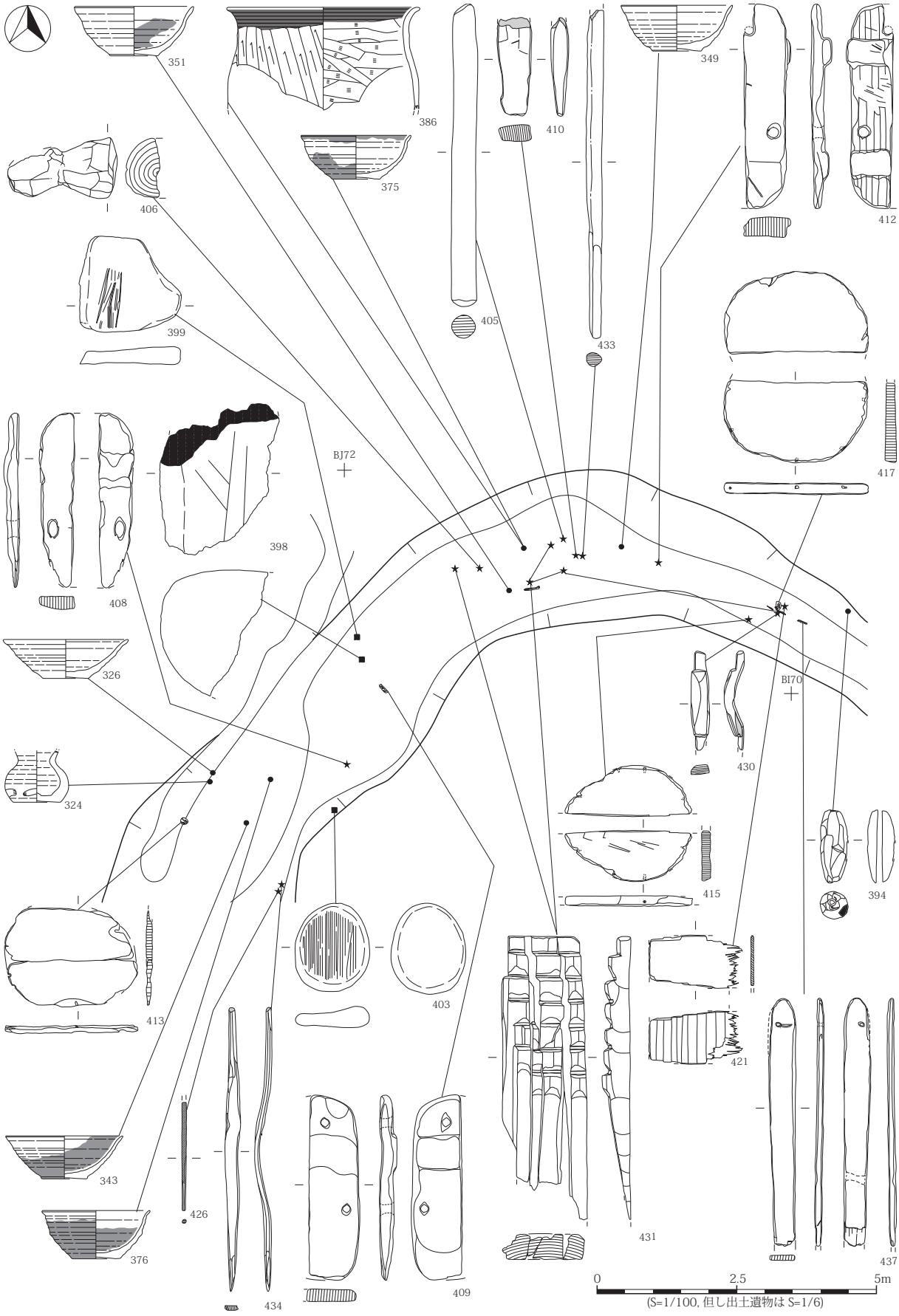
295 ～ 304 は箸及び箸状木製品であり、299 を除いてほぼ欠損しているが、先端部を細く尖らせている。295 は一部炭化が見られることから串に転用されている。305 ～ 309 は斎串であり、いずれも細長い柾目材の上端を圭頭状にして下端を剣先状につくる。310 は鳥形である。嘴と頸の短い鳥を表している。311 は曲物の側板であり、内面にケビキ線を有する。312 は下駄の歯である。313 は挽物の椀であり、高台部は実高台である。314 は人形であり、正面で手を合わせた形態を呈し、一部二次被熱により炭化している。315 は建築部材であり、一部欠損しているが両端に方形の臍穴が施されている。井戸枠の構造部材として使用されたものが廃棄されたと考えられる。316 ～ 320 は棒状の不明木製品であり、316・319・320 は一端を鋭角に削り出し、尖らせている。樹種は 313 がトチノキ、314 がヤナギ属であり、他はいずれもアスナロである。

（SD87）

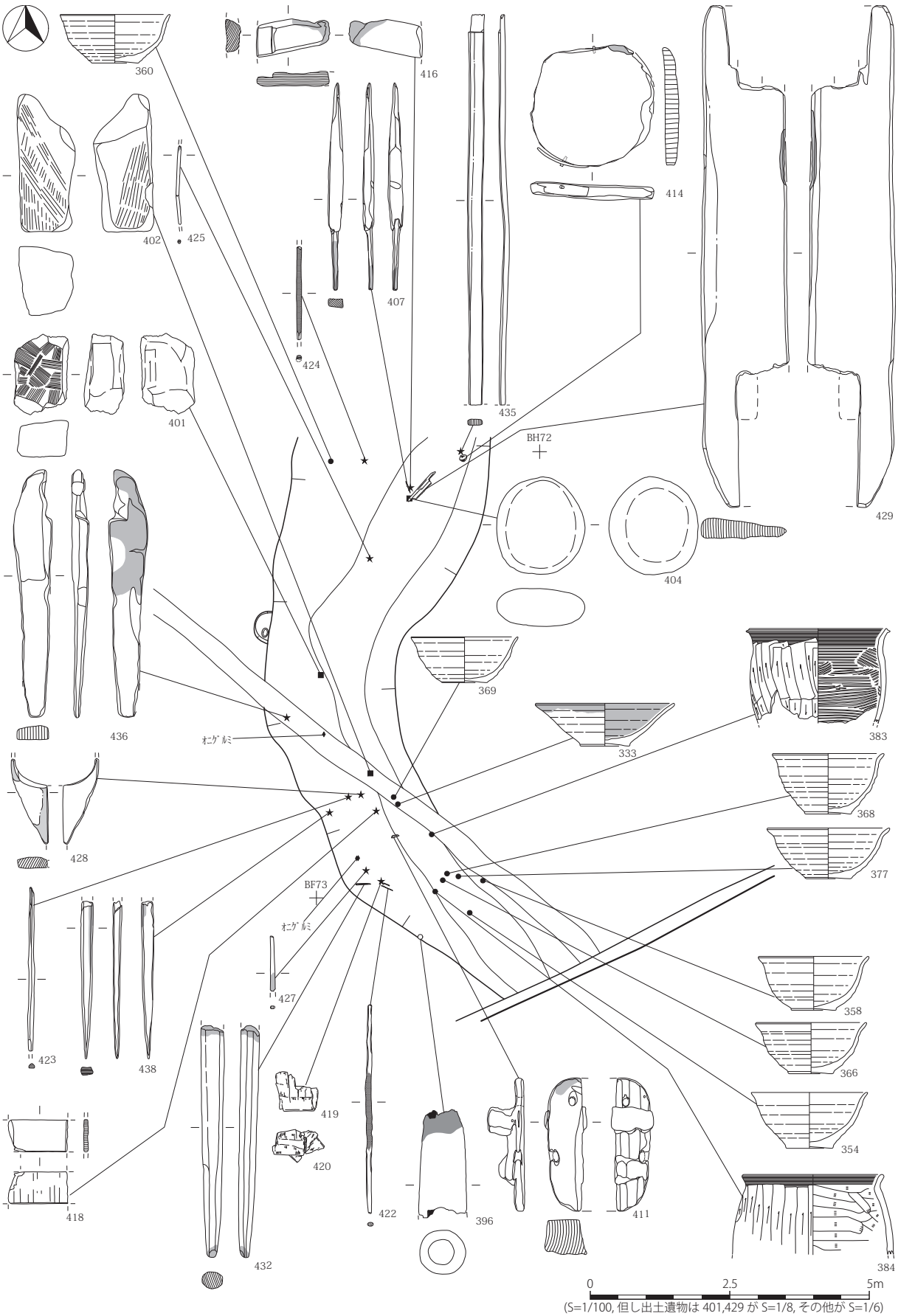
［位置・確認］グリッド BE71，72、BF・BG72，73、BH69，70，72 ～ 74、BI70 ～ 73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD82・86・88 と重復関係があり、SD82・88 より古く、SD86 より新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、向きを南西方向へと転じ、さらに南東方向へと向きを転じ、調査区外へと延びているコの字状の溝跡である。確認長 3,270cm、幅 140 ～ 358cm、深さ 85.5cm を測る。［堆積土］7 層確認され、上層はⅢ層由来の層であり、中間層は黒褐色土及び黒色土で形成され、最下層はⅣ層の崩落土層の自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏 20,877.9g、土師器甕 59,541g、須恵器甕 769g、須恵器甕 349g、須恵器壺 44g が出土している（図Ⅲ -2-58・59）。この内図示できたのは 118 点である（図Ⅲ -2-60 ～ 68）。321 ～ 324 は土師器のミニチュアの壺であり、いずれもロクロ成形で、322 ～ 324 の底面は回転糸切痕を残し、無調整である。325 は土師器の皿である。326 ～ 337 は土師器の皿形坏であり、333 は内外面に二次被熱を受けている。338 ～ 343 は土師器の埦形坏であり、338 は内面にヘラ記号が描かれている。343 は内外面に二次被熱を受けている。344 ～ 377 は土師器の埦であり、348・351 は内面に二次被熱を受けており、375・376 は内外面に二次被熱を受けている。363 は外面にヘラ記号が描かれている。378・380・381 は土師器の大型坏であり、378・380 は皿形坏、381 は埦形坏である。379・382 はヘラ記号が描かれている坏の破片資料であり、いずれも外面に描かれている。皿及び坏はいずれもロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。383 ～ 385 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面にヨコナデが施され、383 は体部外面にケズリ調整、内面にヘラナデ調整が施されている。384・385 は体部外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されている。386 ～ 390 は土師器の甕であり、口縁部内外面にヨコナデが施され、体部外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されている。391・392 は把手付土器の把手部であり、391 はケズリ調整、392 はユビナデ調整が施されている。

393 は須恵器の壺の体部下半～底部にかけての破片資料であり、底面に五所川原産須恵器特有の棒状の工具による菊花状のケズリ調整が施されている。

394・395 は、土錘であり、外面はユビナデにより調整が施されている。いずれも小型のため内水

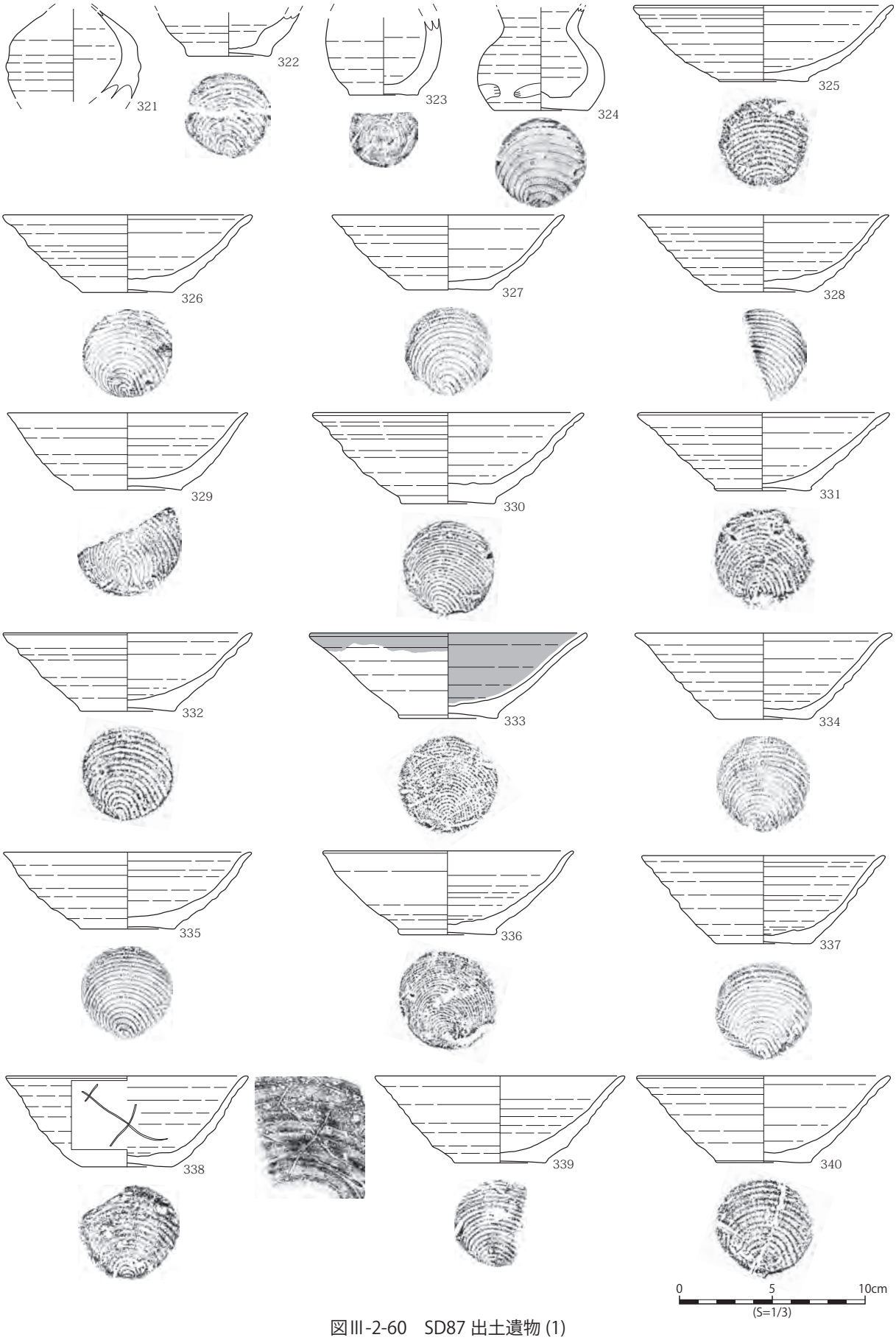


図Ⅲ-2-58　SD87遺物出土状況(1)

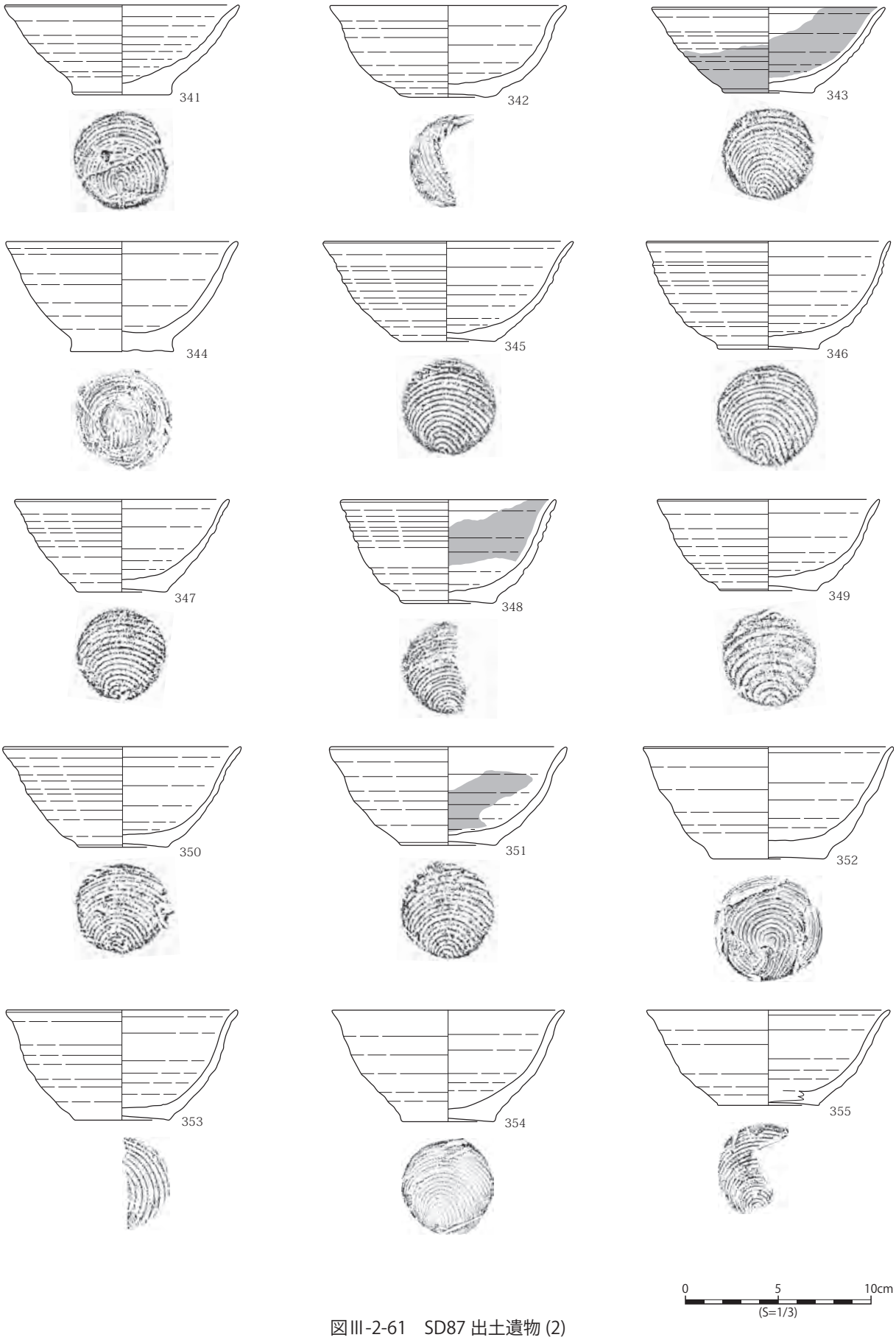


(S=1/100, 但し出土遺物は 401,429 が S=1/8, その他が S=1/6)

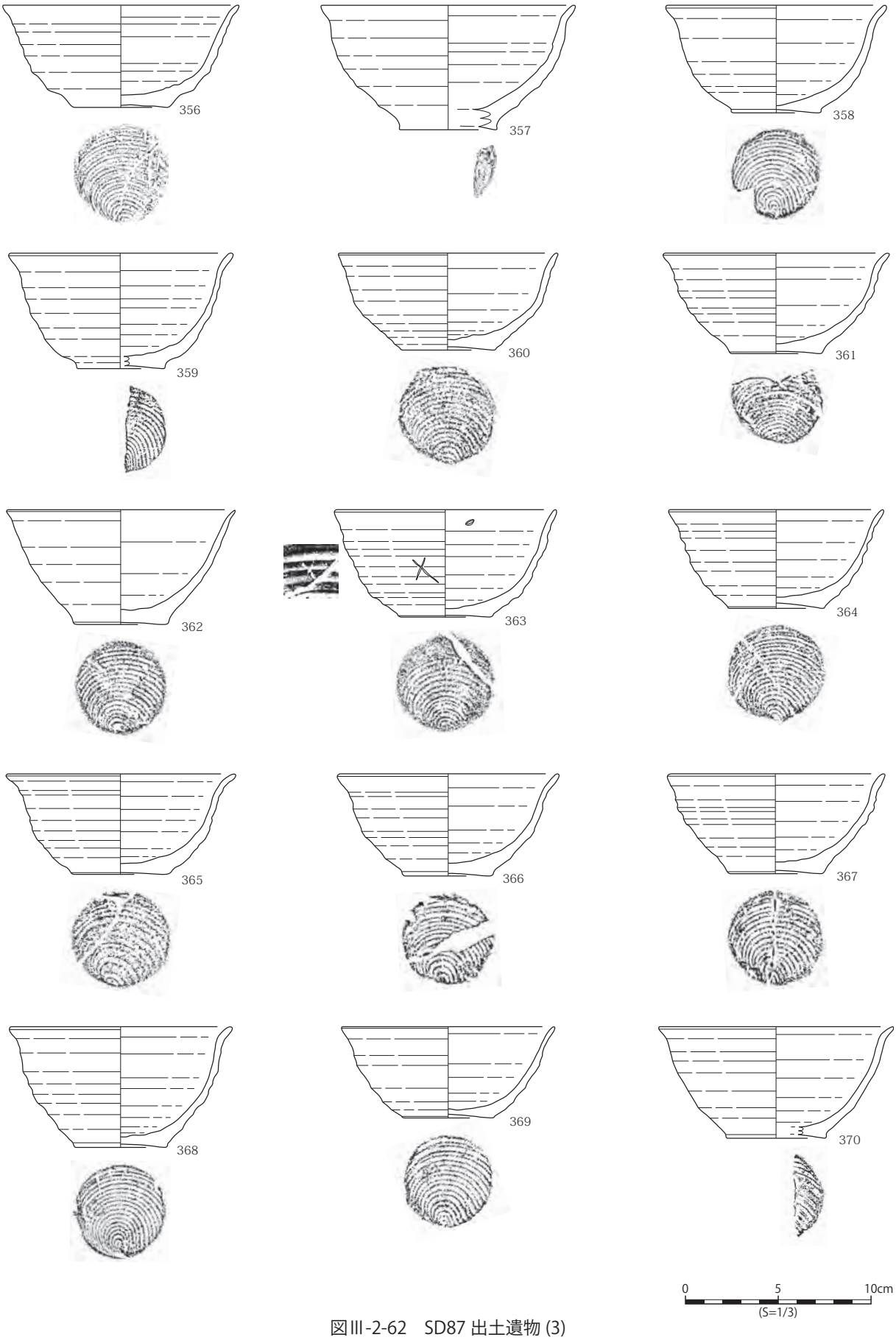
図Ⅲ-2-59　SD87遺物出土状況(2)



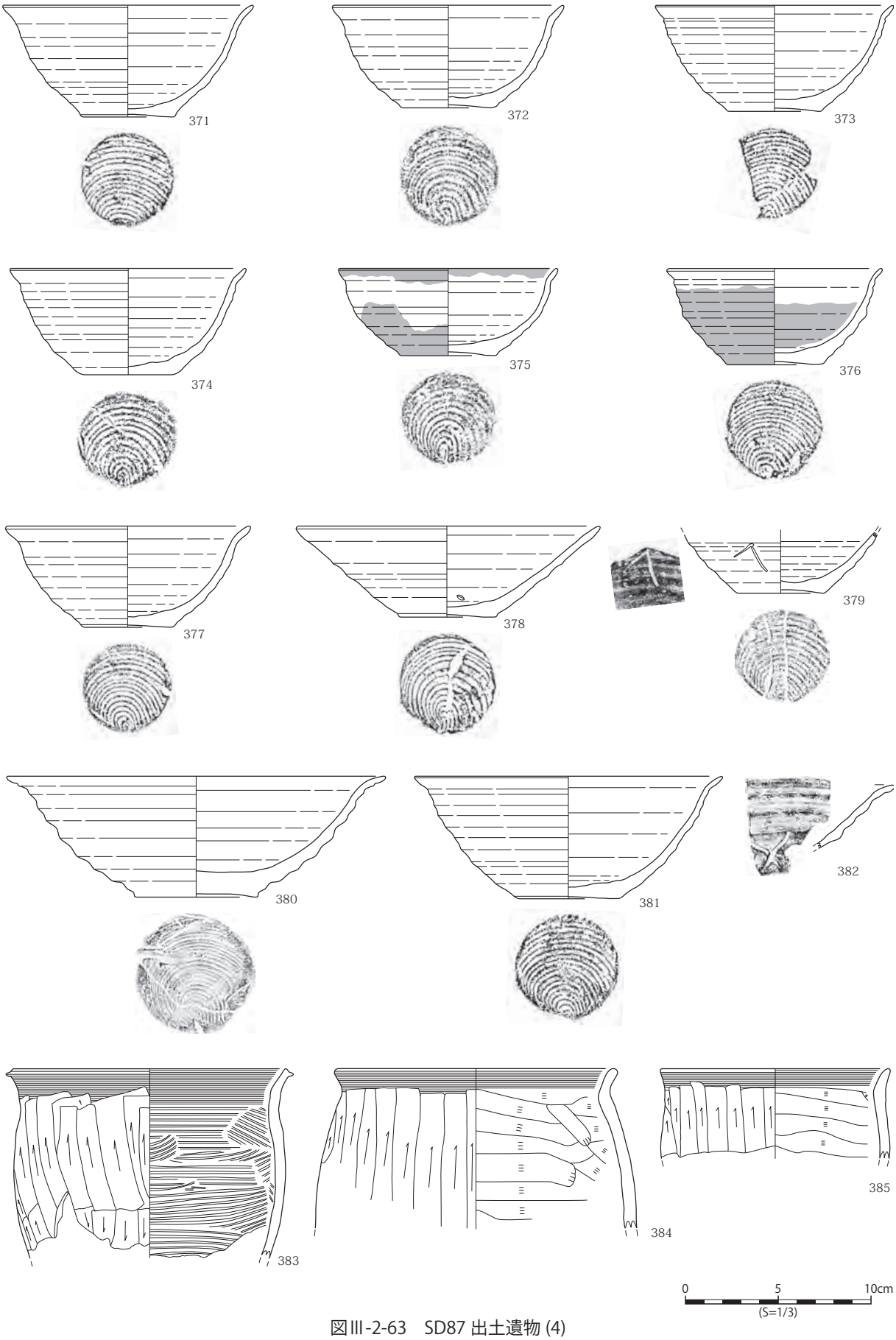
図Ⅲ-2-60　SD87 出土遺物 (1)



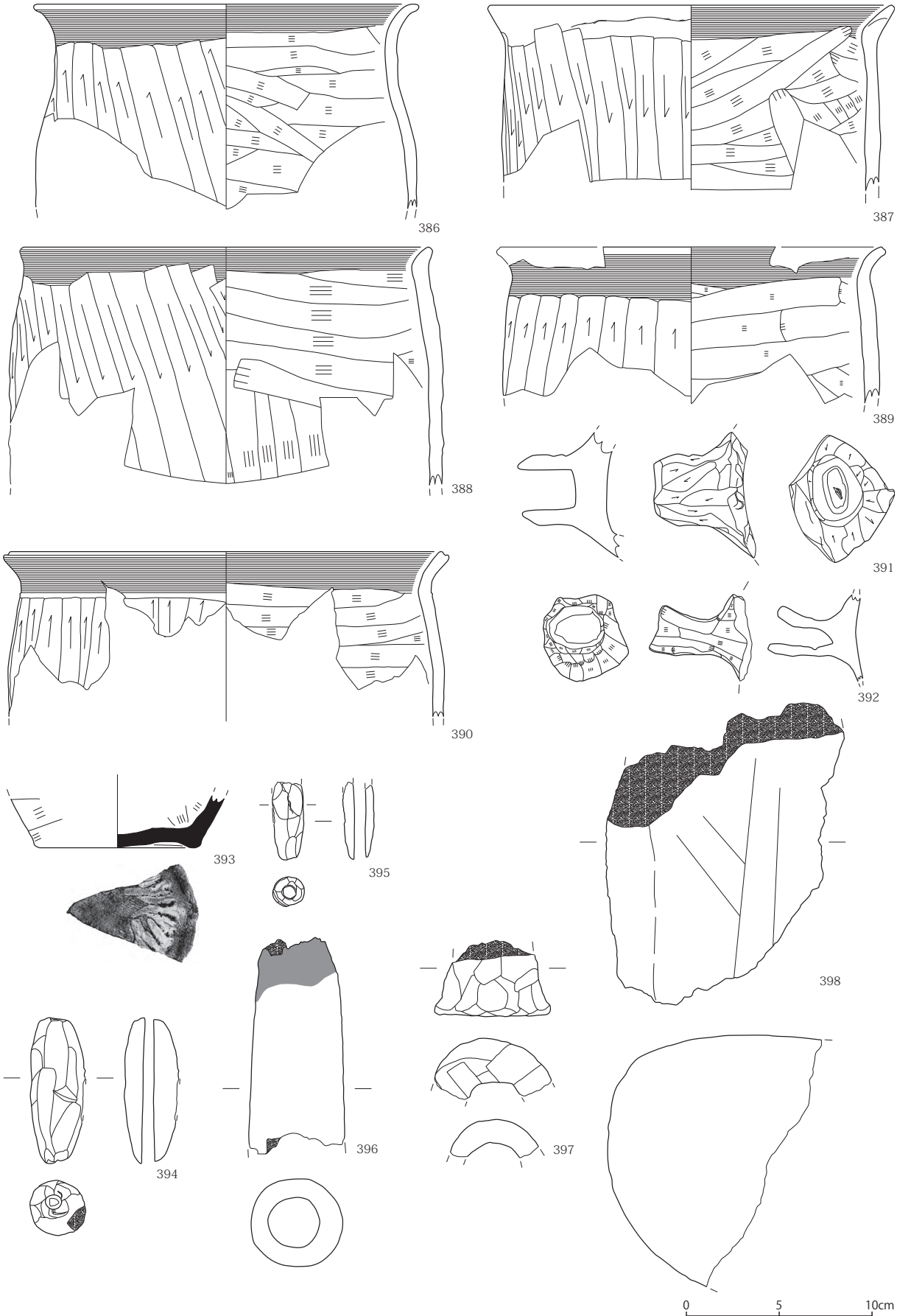
図Ⅲ-2-61　SD87 出土遺物 (2)



図Ⅲ-2-62　SD87 出土遺物 (3)

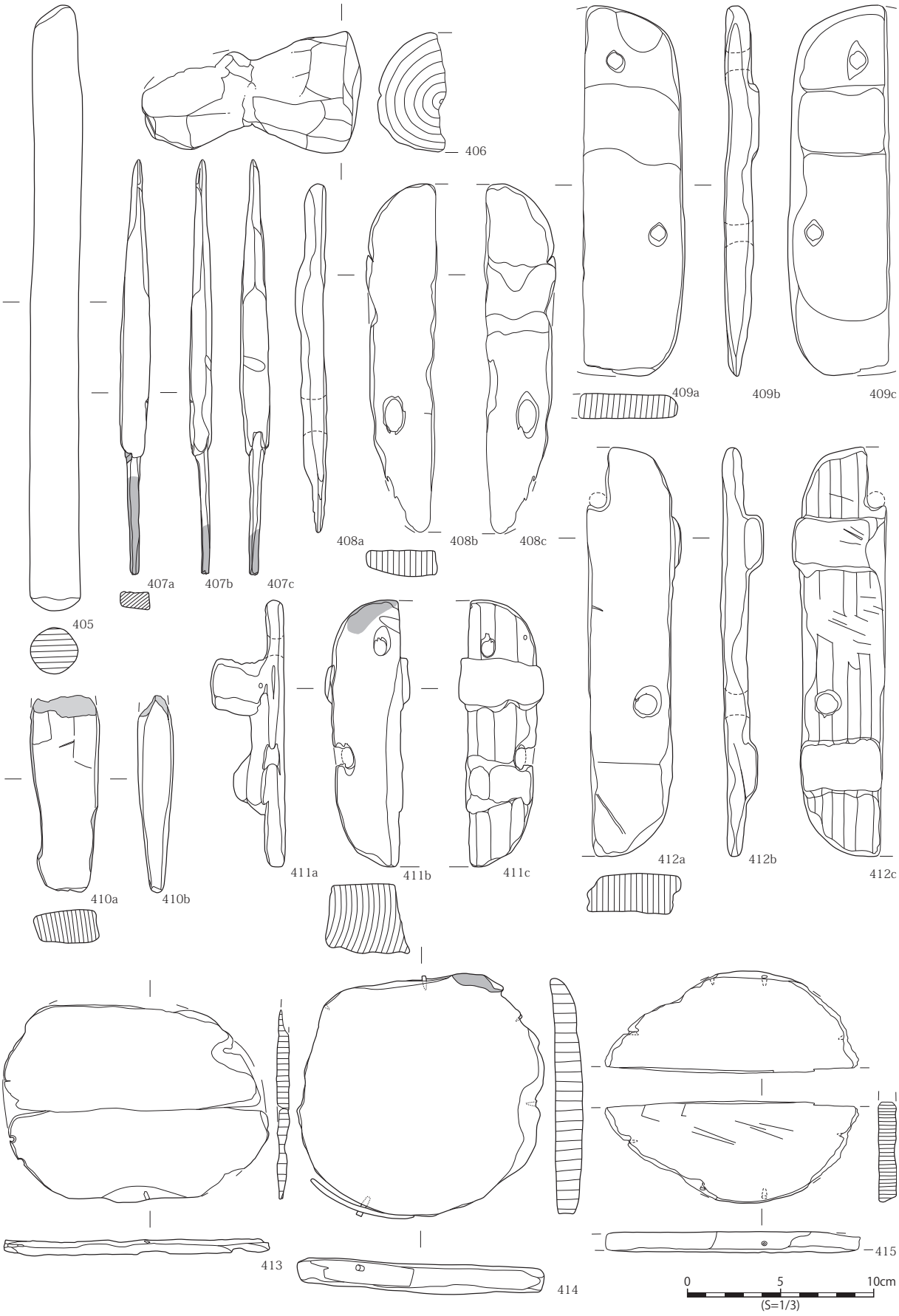


図Ⅲ-2-63　SD87 出土遺物 (4)

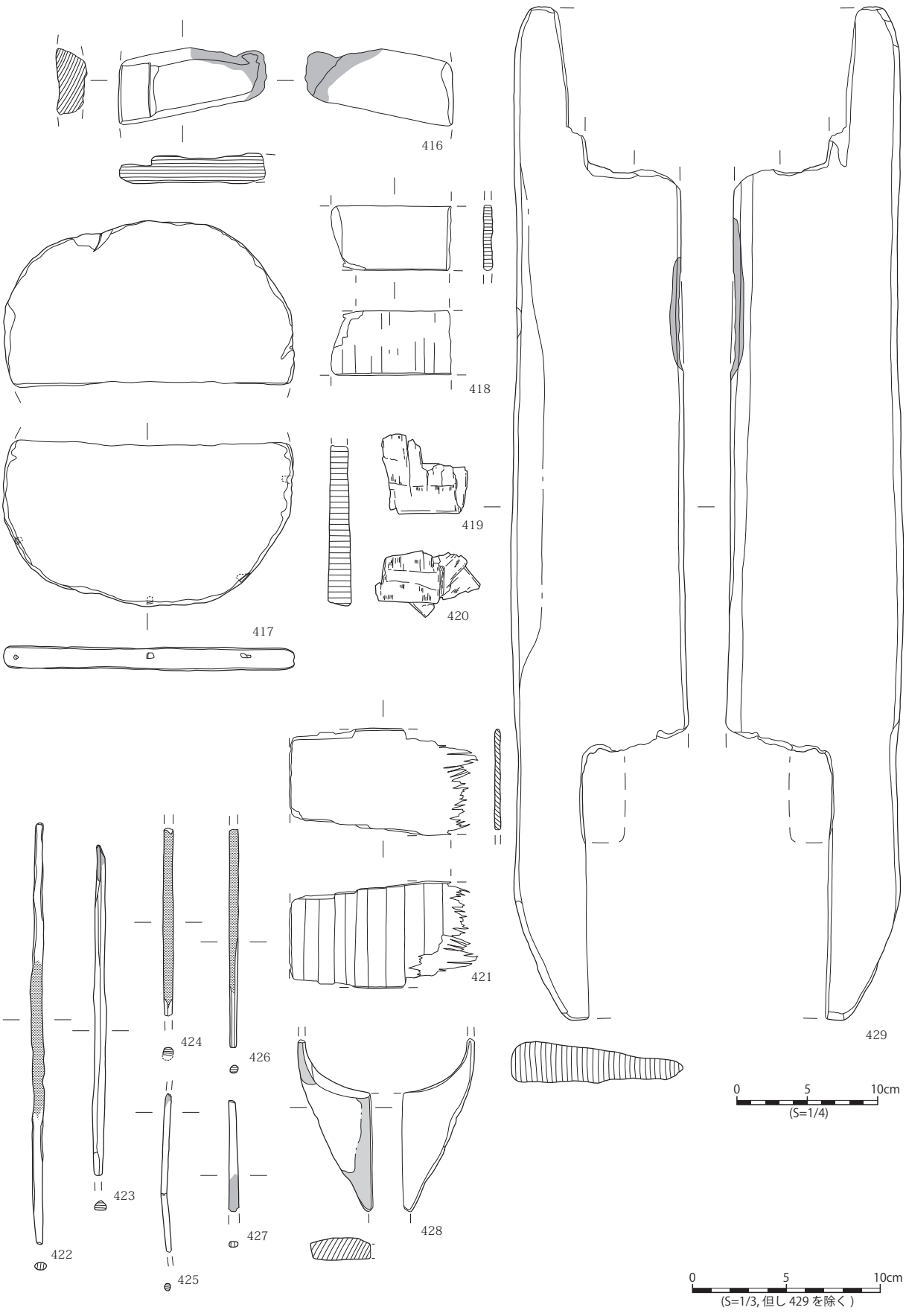


図Ⅲ-2-64　SD87 出土遺物 (5)

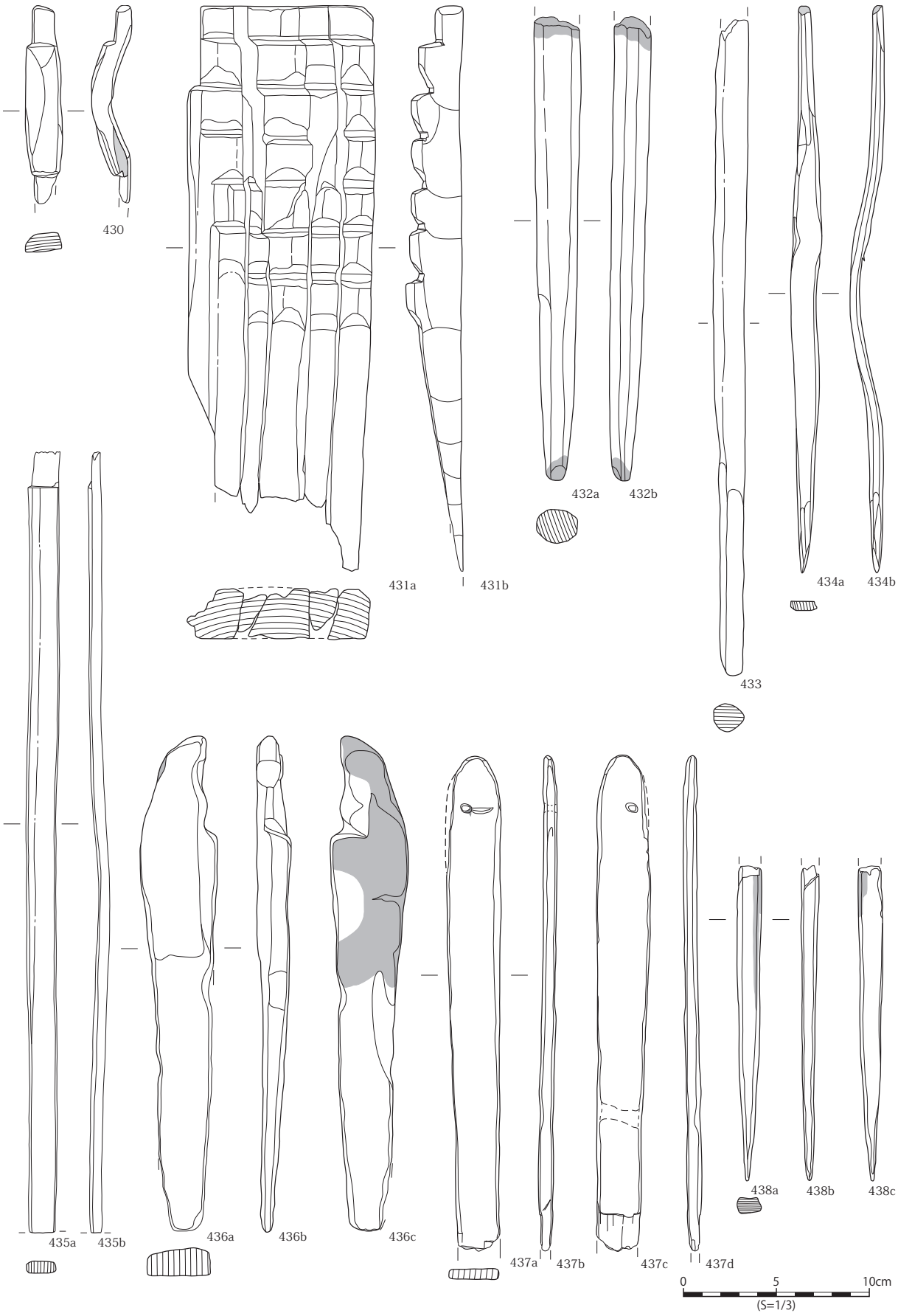
図Ⅲ-2-65　SD87 出土遺物 (6)



図Ⅲ-2-66　SD87 出土遺物 (7)



図Ⅲ-2-67　SD87 出土遺物 (8)



図Ⅲ-2-68　SD87 出土遺物 (9)

図Ⅲ-2-69　SD16・17・31

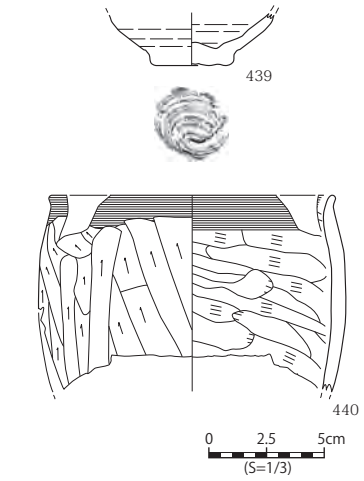
面の網漁に使用されたものと考えられる。396 は羽口であり、先端部は溶融したガラス成分が付着している。397 はカマドに使用されたと考えられる支脚であり、中空である。

398・399、401 ～ 404 は砥石であり、398・399・401・402 は角礫、403・404 は円礫を使用している。いずれも擦痕や磨滅面が観察された。400 は扁平な円礫の周辺を両側面より、円形に打ち欠いて整形している。中央部分に磨滅の痕跡は確認できなかったため、恐らく錘として使用された

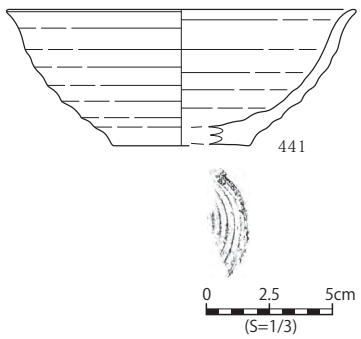
ものと考えられる。材質は 398 がデイサイト、399 が頁岩、400・402 が流紋岩、401・403 が安山岩、404 が花崗閃緑岩である。

木製品は全部で 34 点図示した。405 は種類は不明であるが工具の柄であり、端部は丸みを帯びている。406 は編台の錘である。407 は漁労具のヤスの基部である。408･409･411･412 は下駄であり、いずれも半分に破損している。408・411 は右足用、409・412 は左足用である。410 は楔であり、一部炭化している。413 ～ 417 は曲物底板であり、いずれも柾目取りである。414 には側板が一部残存している。415 は隅丸方形の曲物の底板の一部破片である。415･417 には木釘孔が確認された。418・421 は曲物側板であり、内面にケビキ線が確認された。419・420 は曲物留具に使用される針葉樹製の樹皮である。422 ～ 427 は箸である。429 は構造部材であり、破損しているが両端に臍孔が見られた。428・430 ～ 438 は不明木製品であり、428 は一端が山形の突起形を呈し、もう一端は弧状の形態を呈している。430 は中心部が山形に彎曲し、両端を臍状に細く作り出しており、小形の容器の把手の可能性も考えられる。431 は階段状に切り込みが入る形状を呈し、同一遺構内で

図Ⅲ-2-70　SD16遺物出土状況



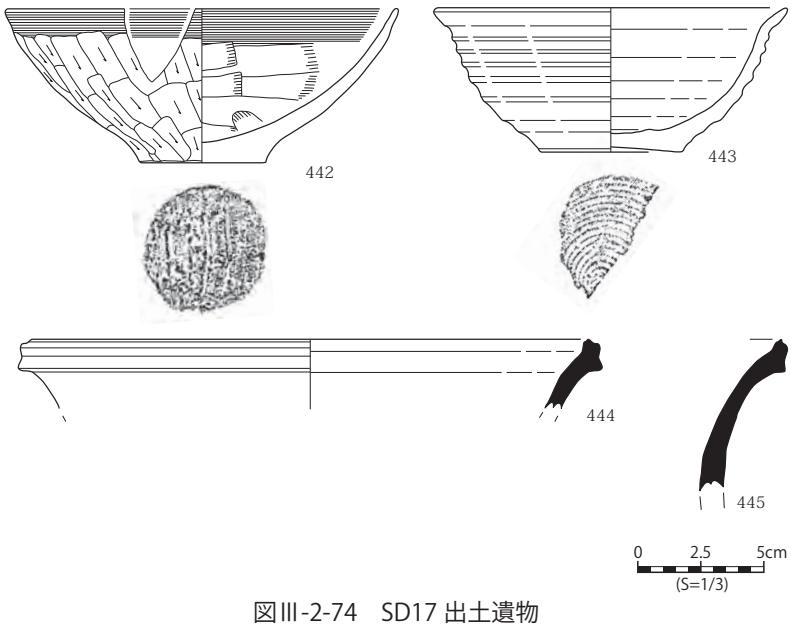
図Ⅲ-2-71　SD16 出土遺物



図Ⅲ-2-72　SD31 出土遺物

図Ⅲ-2-73　SD17遺物出土状況

散在していたものが接合したものである。板状に使用したものが破損したのか、意図的に棒状に断ち割って使用されたものか不明である。432 ～ 435・438 は棒状の木製品であり、432・438 は破損しているため用途は不明であるが、一端は先細りとなる形状を呈する。436・437 は板状木製品であり、436 は一端の一側面に抉りが入る。437 は一端に穿孔が見られる。樹種は 406 がミツバウツギ、419・420 が針葉樹皮、436 がトチノ



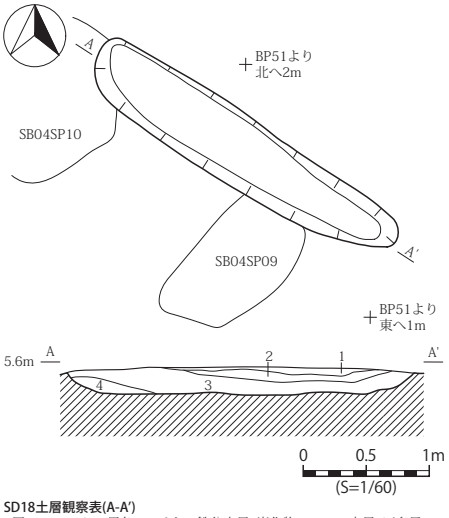
図Ⅲ-2-74　SD17 出土遺物

キであり、それ以外はすべてアスナロである。

第 16・17・31 号溝跡（SD16・17・31、図Ⅲ -2-69）

（SD16）

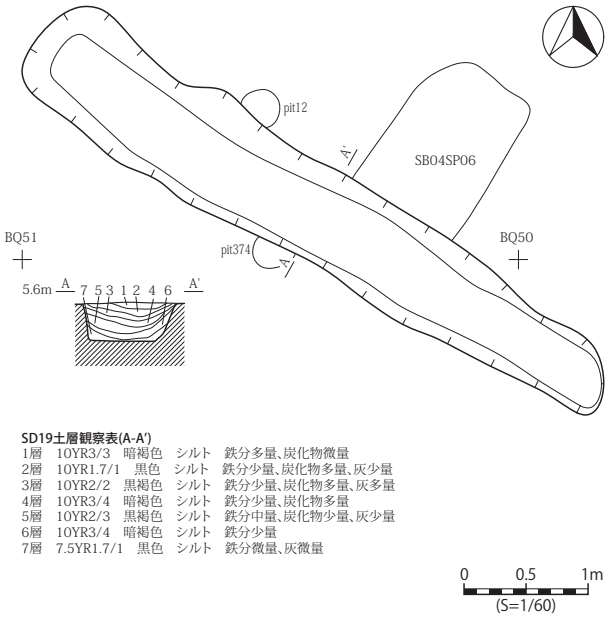
［位置・確認］グリッド BO51，52、BP・BQ52 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］なし。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延び、向きを南東方向へと転じ、調査区外へと延びているＬ字状の溝跡である。確認長 977cm、幅 96 ～ 133cm、深さ 35.5cm を測る。［堆積土］3 層確認され、上層は黒色土層であり、中間層はⅢ層由来の層、最下層は黒褐色土層の自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 33.3g、土師器坏 2,186g、土師器甕 672.8g、須恵器甕 216g、



SD18土層観察表(A-A')

1層	10YR2/1	黒色	シルト	鉄分少量、炭化物3～5mm中量、灰多量
2層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	鉄分中量、炭化物中量、灰やや多量
3層	10YR2/2	黒褐色	シルト	鉄分多量、炭化物中量、灰少量
4層	10YR4/4	褐色	シルト	鉄分中量、炭化物少量、灰少量

図Ⅲ-2-75　SD18



SD19土層観察表(A-A')

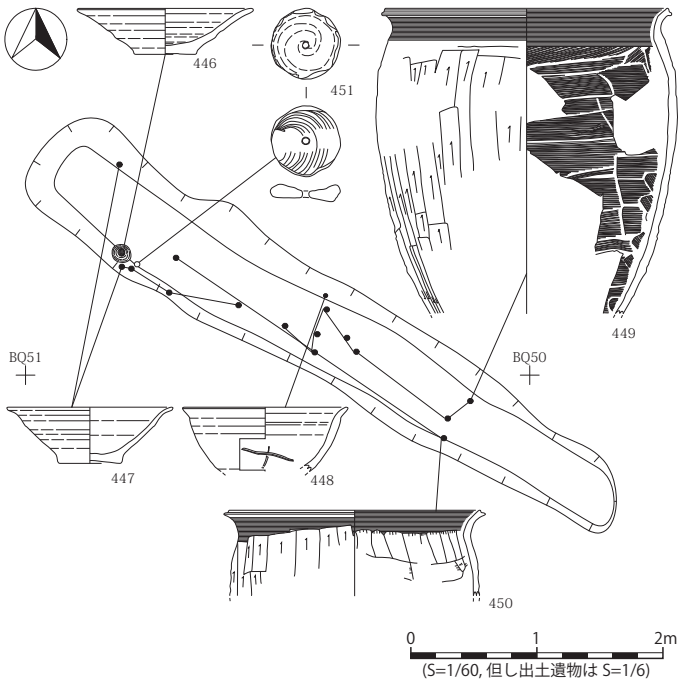
1層	10YR3/3	暗褐色	シルト	鉄分多量、炭化物微量
2層	10YR1.7/1	黒色	シルト	鉄分少量、炭化物多量、灰少量
3層	10YR2/2	黒褐色	シルト	鉄分少量、炭化物多量、灰多量
4層	10YR3/4	暗褐色	シルト	鉄分少量、炭化物多量
5層	10YR2/3	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物少量、灰少量
6層	10YR3/4	暗褐色	シルト	鉄分少量
7層	7.5YR1.7/1	黒色	シルト	鉄分微量、灰微量

図Ⅲ-2-76　SD19

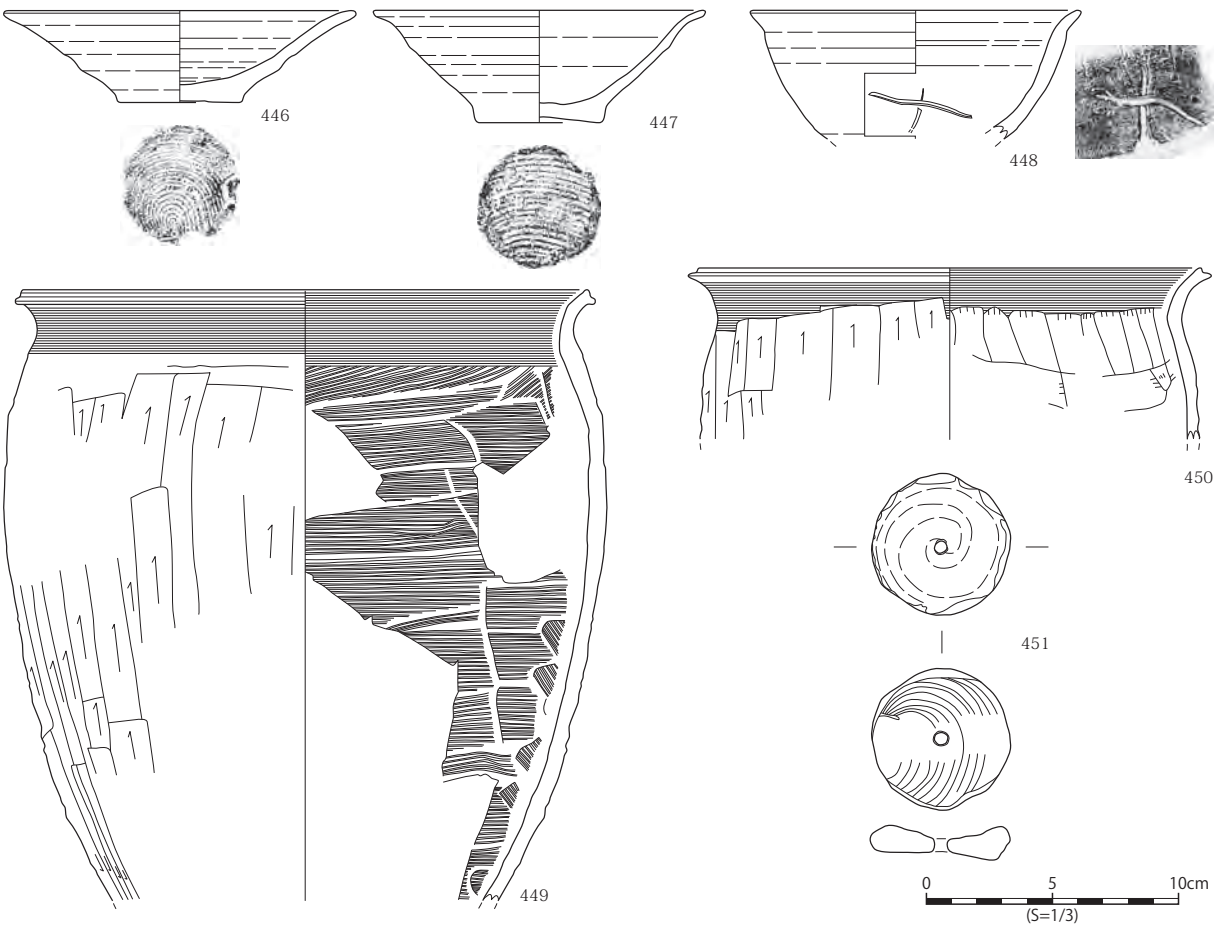
須恵器壷 29g が出土している（図Ⅲ -2-70）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -2-71）。439 は土師器のミニチュアであり、成形はロクロ成形であり、底部は回転糸切痕を残し無調整である。440 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面をヨコナデ調整後、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。

（SD31）

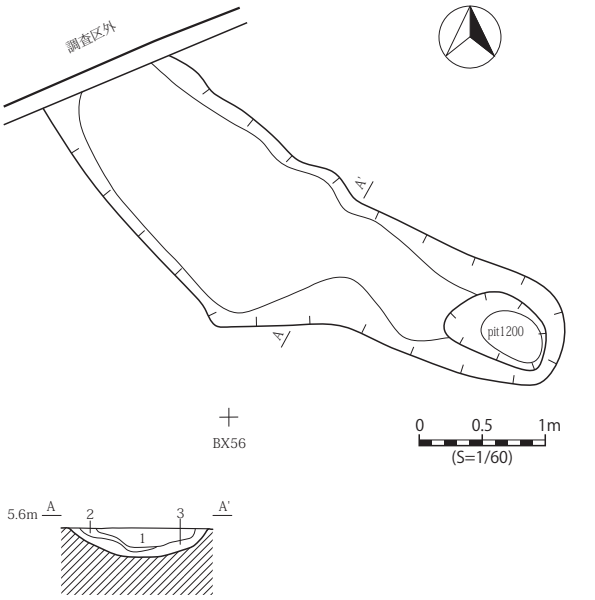
［位置・確認］グリッド BO・BP49, 50 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］pit1150 と重複関係にあり、pit1150 よりも古い。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長



図Ⅲ-2-77　SD19遺物出土状況



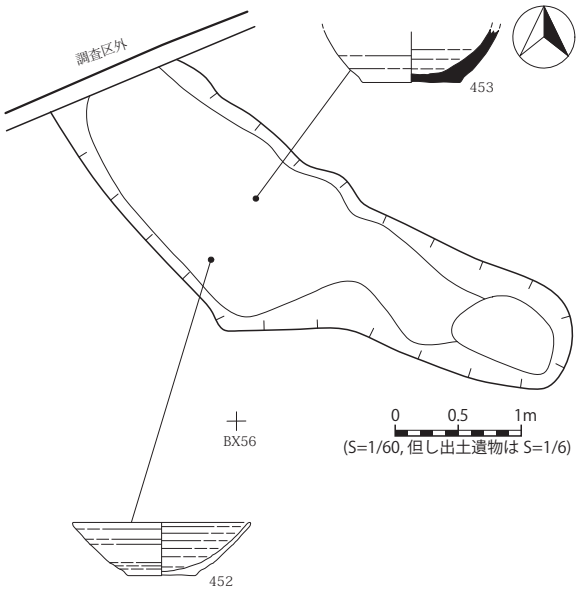
図Ⅲ-2-78　SD19出土遺物



SD20土層観察表(A-A')

1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物、細砂少量、人為的堆積層

図Ⅲ-2-79　SD20



図Ⅲ-2-80　SD20遺物出土状況

265cm、幅 180cm、深さ 30cm を測る。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏 222g、土師器甕 238g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ-2-72）。441 は土師器の埦であり、ロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

（SD17）

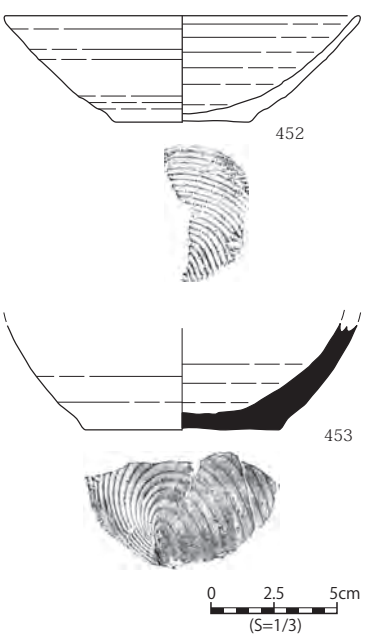
［位置・確認］グリッド BP54、BQ53，54、BR50，53、BS50 ～ 53、BT51 ～ 53 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD05・30 と重復関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、向きを南西方向へと転じる L 字状の溝跡である。確認長 2,355cm、幅 89 ～ 210cm、深さ 29.5cm を測る。［堆積土］2 層確認され、Ⅲ層由来の層の人為的堆積層である。［出土遺物］土師器の坏 241g、土師器甕 1,699g、須恵器甕 741g、須恵器壷 94g が出土している（図Ⅲ -2-73）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅲ -2-74）。442 は土師器の皿形坏で、非ロクロ成形であり、口縁部内外面にヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。底面には網代痕を有する。443 は土師器の埦であり、ロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整である。444・445 は須恵器の中甕の口縁部破片であり、いずれもロクロ成形である。

第 18 号溝跡（SD18、図Ⅲ -2-75）

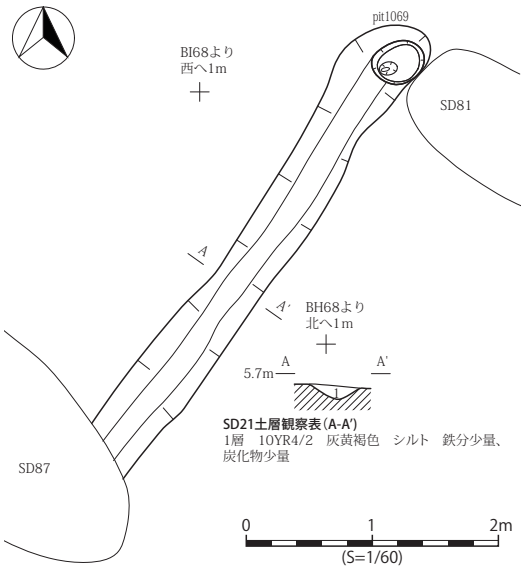
［位置・確認］グリッド BP50，51 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］pit1158・1181 と重復関係があり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 278cm、幅 58cm、深さ 22cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1 層は黒色土、2 層はⅣ層由来の層であり、下層は黒褐色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 10g、土師器甕 125g が出土している。

第 19 号溝跡（SD19、図Ⅲ -2-76）

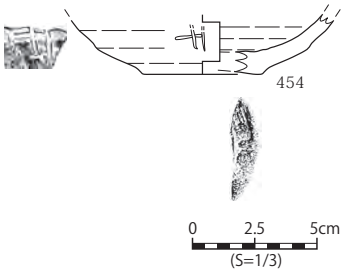
［位置・確認］グリッド BP49，50、BQ50 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］pit12・374・



図Ⅲ-2-81　SD20 出土遺物

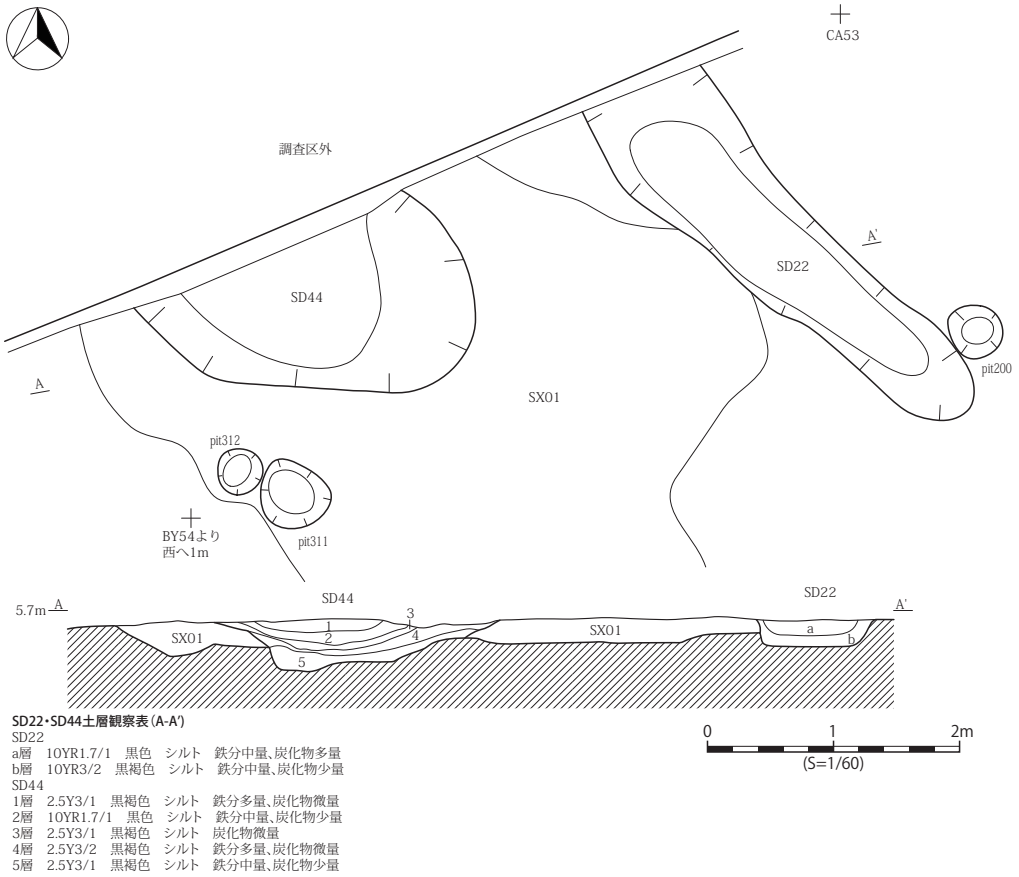


図Ⅲ-2-82　SD21



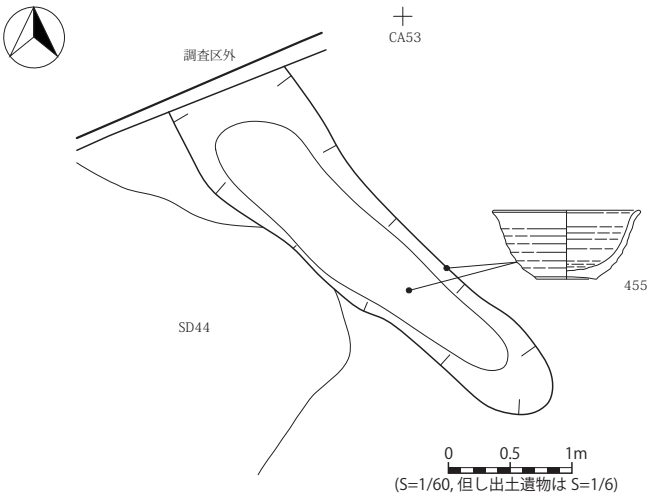
図Ⅲ-2-83　SD21 出土遺物

1161 と重復関係があり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 535cm、幅 52 ～ 89cm、深さ 43cm を測る。［堆積土］7 層確認され、黒色土と暗褐色土が互層を成す自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 527.4g、土師器甕 2,389.1g、須恵器甕 311g が出土している（図Ⅲ -2-77）。この内図示できたのは 6 点である（図Ⅲ -2-78）。446 は土師器の皿形坏であり、447 は土師器の埦形坏であり、448 は土師器の埦である。いずれも

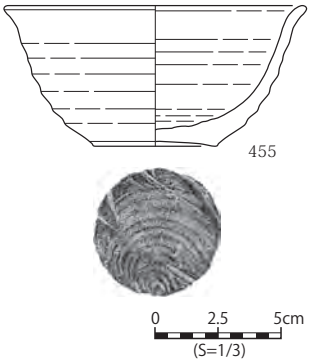


SD22・SD44土層観察表（A-A'）
SD22
a層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
b層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
SD44
1層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　炭化物微量
4層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
5層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-2-84　SD22・44



図Ⅲ-2-85　SD22遺物出土状況



図Ⅲ-2-86　SD22 出土遺物

ロクロ成形であり、446・447 の底面は回転糸切痕を残し、無調整である。448 は内面にヘラ記号を有する。449・450 は土師器の甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施され、449 は体部外面にケズリ調整、内面にヘラナデ調整が施されている。450 は体部外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されている。451 は坏の底部破片を二次利用し、中央部に穿孔を施した紡錘車である。

第 20 号溝跡（SD20、図Ⅲ -2-79）

［位置・確認］グリッド BX55，56 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］pit1200 と重復関係があり、pit1200 よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 409cm、幅 90 ～ 153cm、深さ 33.5cm を測る。［堆積土］3 層確認され、黒色土から形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 85.8g、土師器甕 730g、須恵器鉢 82.7g が出土している（図Ⅲ -2-80）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -2-81）。452 は土師器のⅢ形坏であり、453 は須恵器の鉢であり、いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

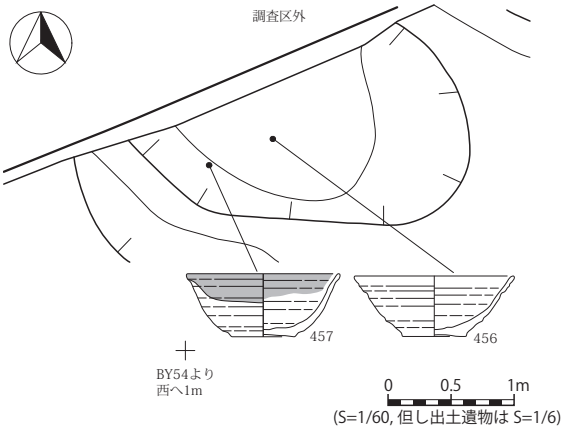
第 21 号溝跡（SD21、図Ⅲ -2-82）

［位置・確認］グリッド BH・BI67，68 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］pit1200 と重復関係があり、pit1200 よりも古い。SD87、pit1069 と重復関係があり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延びる溝跡である。南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。現存長 416cm、幅 42 ～ 59cm、深さ 24.5cm を測る。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 109.7g、土師器甕 356g、須恵器甕 19g、須恵器壺 42g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-83）。454 は土師器の埦であり、外面にヘラ記号が描かれている。

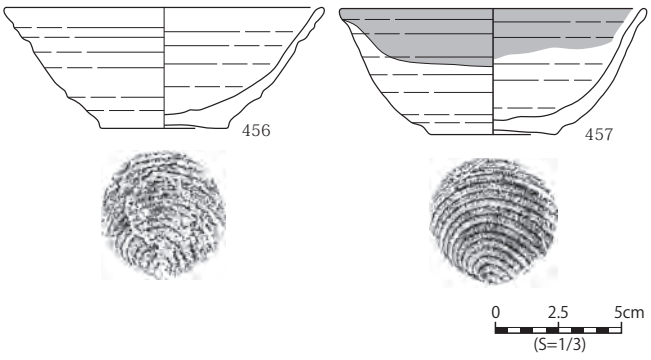
第 22・44 号溝跡（SD22・44、図Ⅲ -2-84）

（SD22）

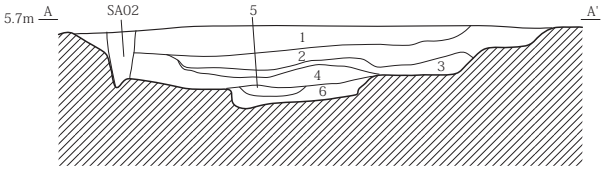
［位置・確認］グリッド BY52，53 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SX01 と重複関係にあり、SX01 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 363cm、幅 66 ～ 108cm、深さ 40.5cm を測る。［堆積土］2 層確認され、黒色土及び黒褐色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏 117.7g、土師器甕 528g が出土している（図Ⅲ 2-85）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-86）。455 は土師器



図Ⅲ-2-87　SD44遺物出土状況

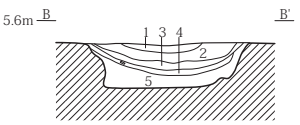


図Ⅲ-2-88　SD44出土遺物



SD23土層観察表(A-A')

1層	10YR3/1	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物微量
2層	10YR3/1	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物少量
3層	10YR2/2	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物中量
4層	10YR2/2	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物微量
5層	10YR2/1	黒色	シルト	鉄分少量、炭化物中量
6層	10YR3/2	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物少量

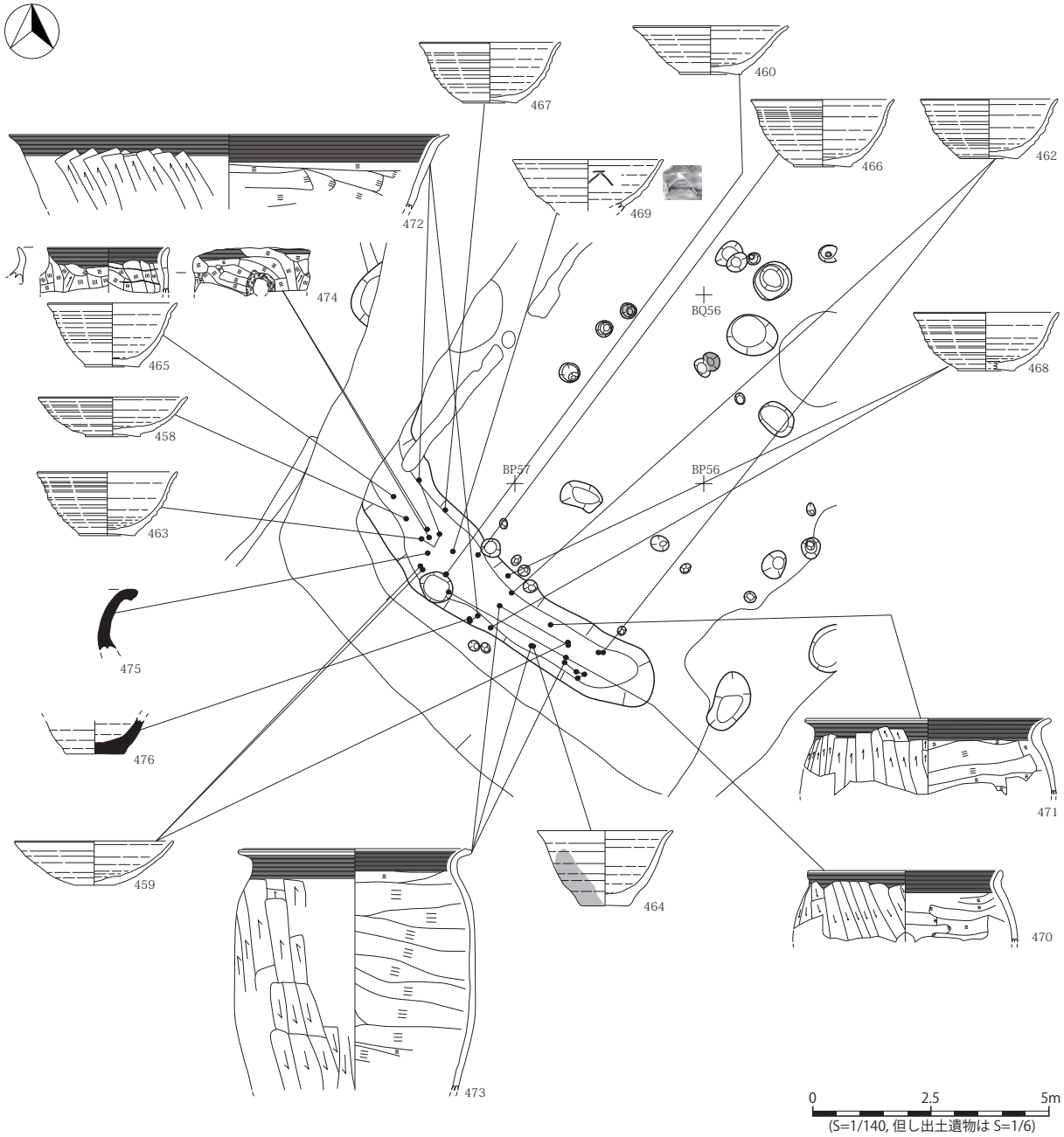


SD34土層観察表(B-B')

1層	10YR2/2	黒褐色	シルト	鉄分少量、炭化物中量
2層	10YR1.7/1	黒色	シルト	鉄分少量、炭化物多量
3層	10YR2/2	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物多量
4層	10YR1.7/1	黒色	シルト	鉄分中量、炭化物多量
5層	10YR3/1	黒褐色	シルト	鉄分中量、炭化物少量

0 2.5 5m
(S=1/140, 但しセクション図は S=1/60)

図Ⅲ-2-89　SD23・34

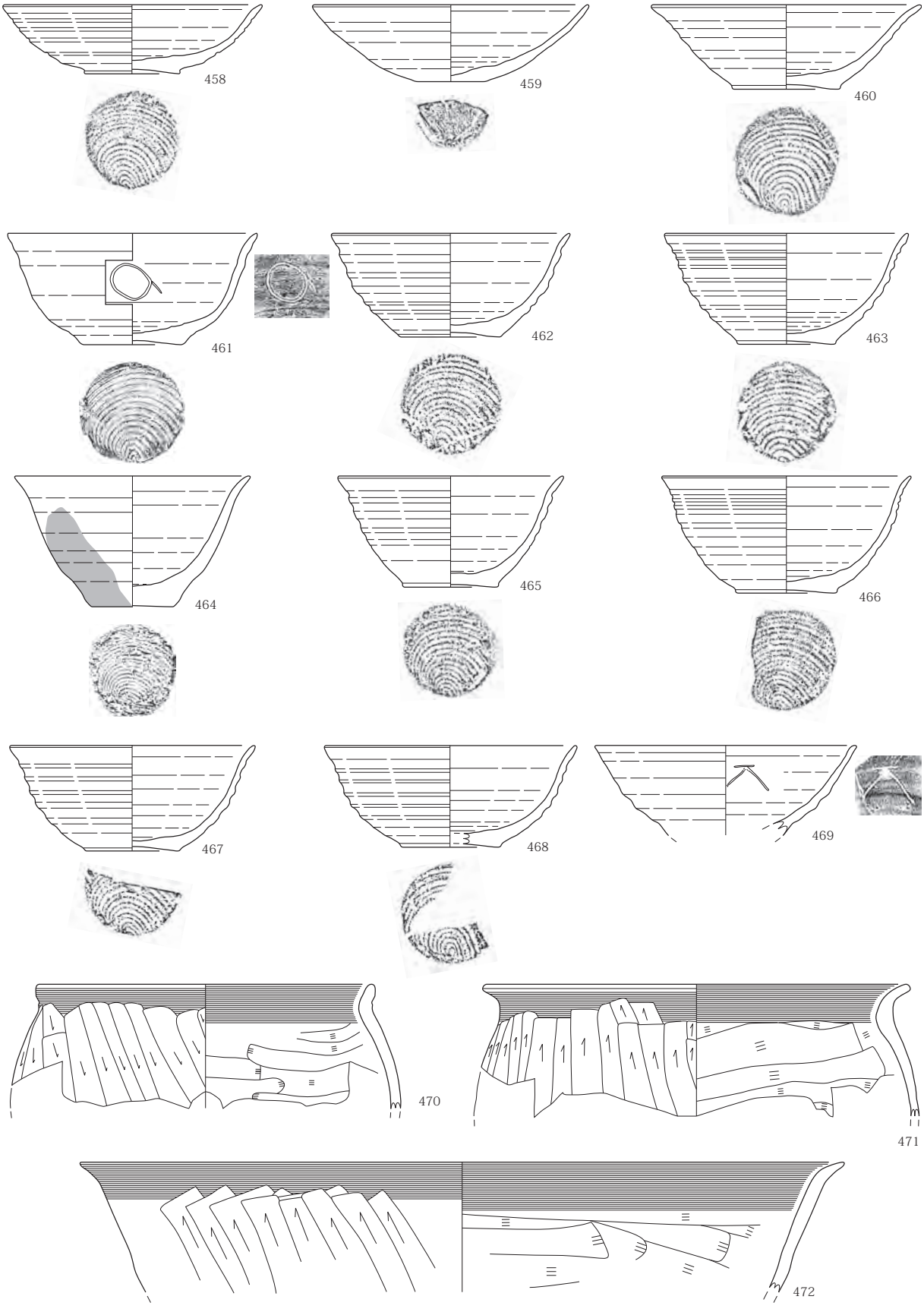


図Ⅲ-2-90　SD34 遺物出土状況

の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

(SD44)

［位置・確認］グリッド BY53，54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SX01 と重複関係にあり、SX01 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 254cm、最大幅 179cm、深さ 45.5cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒色土と黒褐色土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 585g、土師器甕 2,650g、須恵器甕 30.1g、須恵器壺 6.3g が出土している（図Ⅲ -2-87）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -2-88）。いずれも土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。457



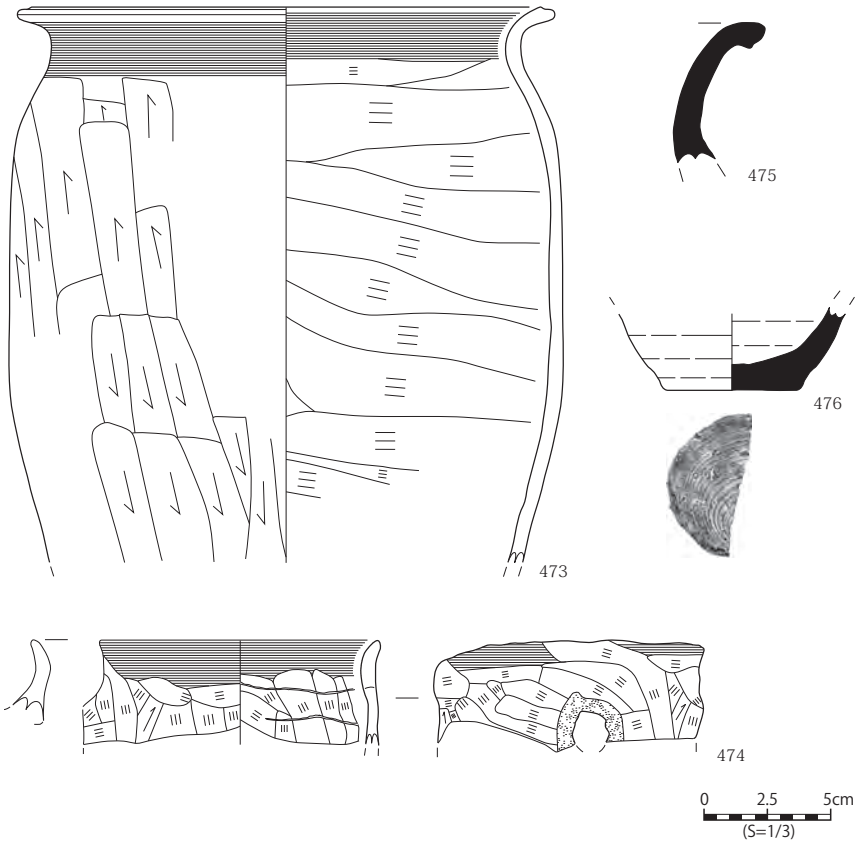
図Ⅲ-2-91　SD34 出土遺物 (1)

は内外面に二次被熱を受けている。

第 23・34 号溝跡（SD23・34、図Ⅲ -2-89）

（概要）

調査区中央南端に位置し、前述した SD05 重複しながらコの字状の溝跡を形成している。重複関係から最初に SD05 と SD34 でコの字状の溝跡が形成され、その後 SD05 と SD23 で溝跡が形成されたと考えられる。コの字状に区画された溝跡の外側には SA02 が構築され、内側には SA03 が構築されている。溝跡内部には SB05 が検出されている。



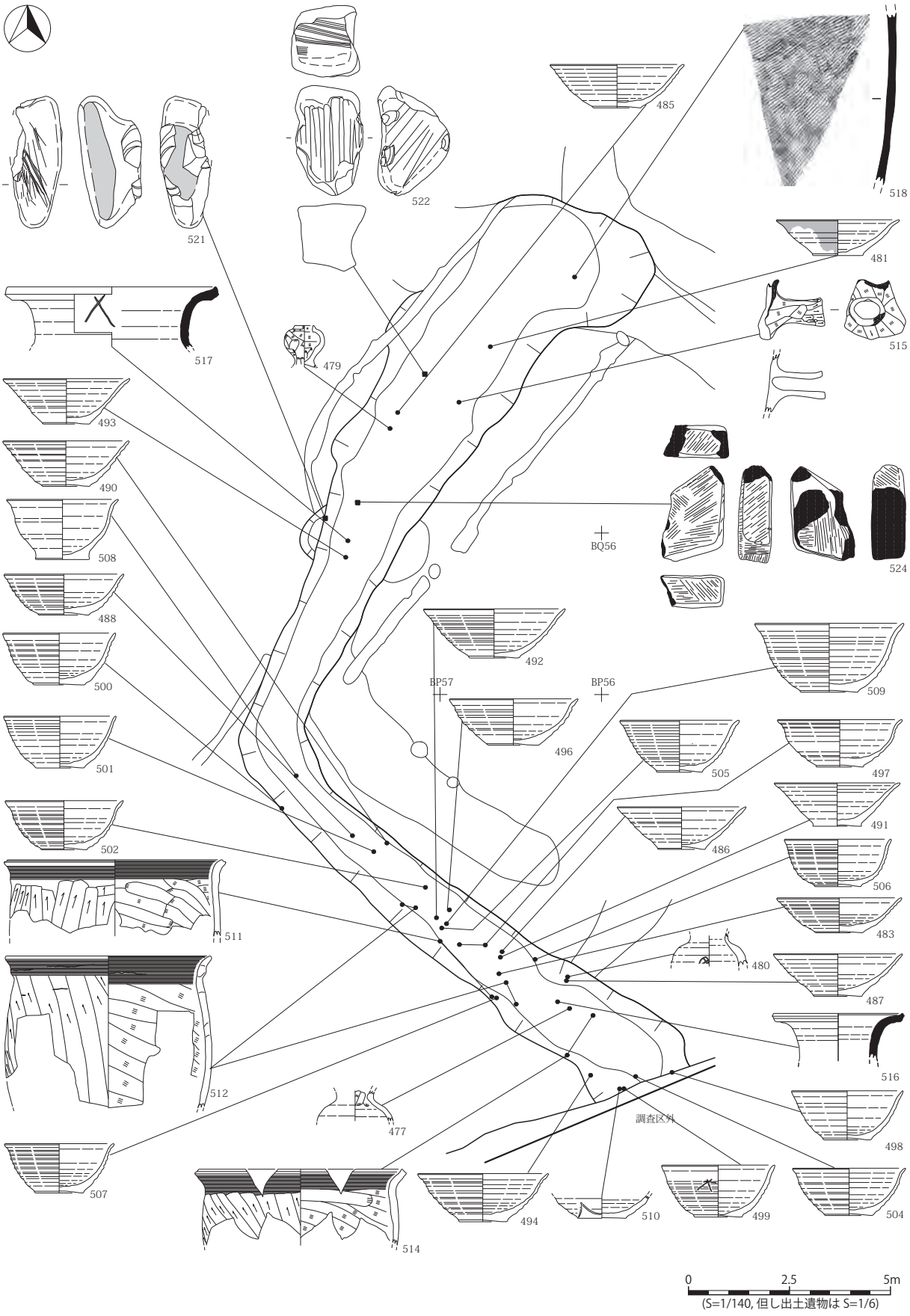
図Ⅲ-2-92　SD34 出土遺物 (2)

（SD34）

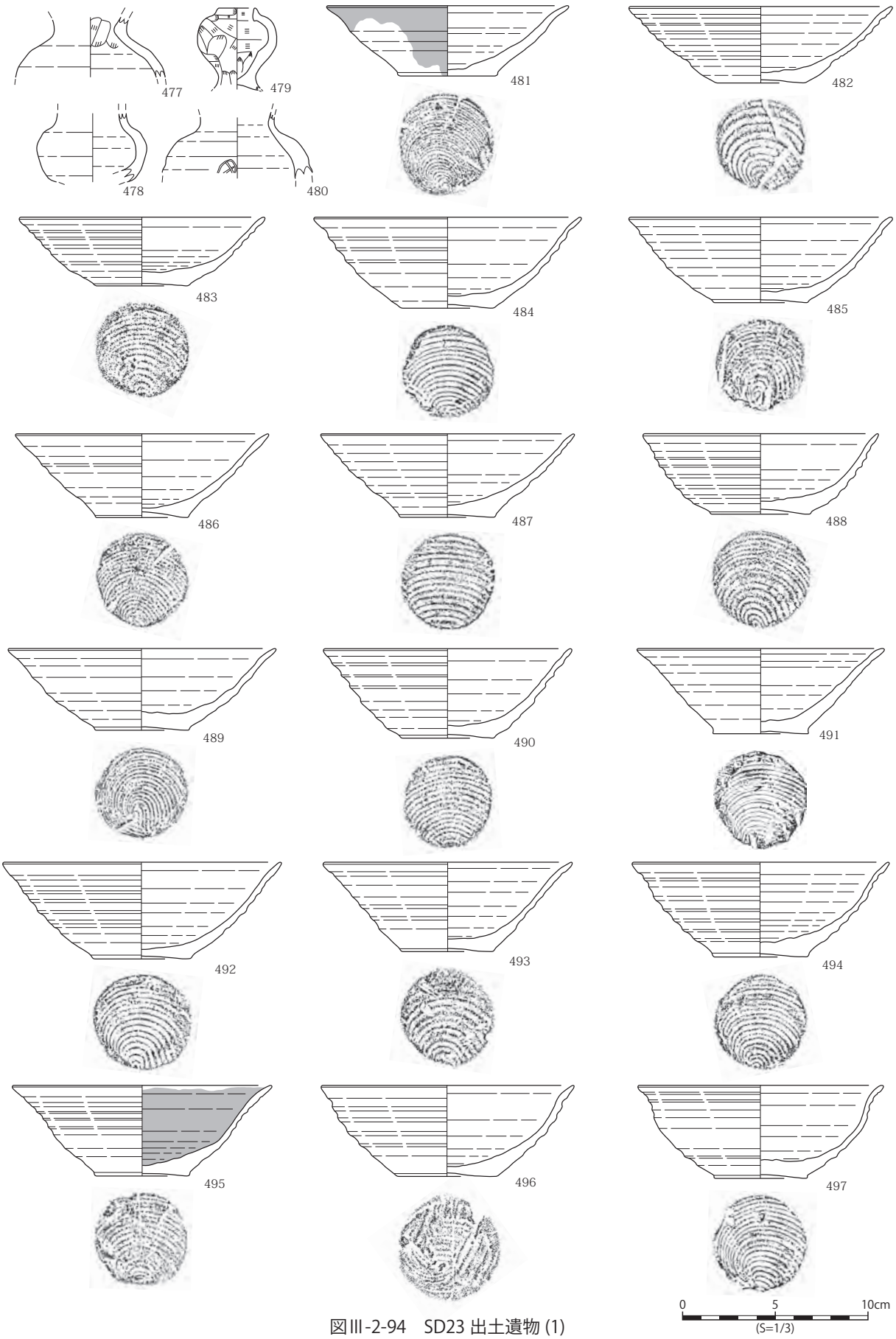
［位置・確認］グリッド BN56、BO56，57、BP57 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA03・23、pit293・341・392 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。現存長 775cm、幅 125 ～ 184cm、深さ 50.5cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒色土と黒褐色土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 3,860.3g、土師器甕 3,795.6g、須恵器甕 390g、須恵器鉢 75.7g が出土している（図Ⅲ -2-90）。この内図示できたのは 19 点である（図Ⅲ -2-91,92）。458・459 は土師器の皿であり、460 は土師器の皿形坏であり、461 ～ 469 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。また、461 と 469 には内面にヘラ記号が描かれている。470・471・473 は土師器の甕であり、口縁部内外面にはヨコナデが施され、体部外面にはケズリ調整、内面にはユビナデ調整が施されている。472 は土師器の鍋であり、調整は土師器の甕と同様である。474 は土師器の把手付土器であり、内外面ともにユビナデ調整が施されている。475 は須恵器の中甕の口頸部破片であり、ロクロ整形である。476 は須恵器の鉢であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

（SD23）

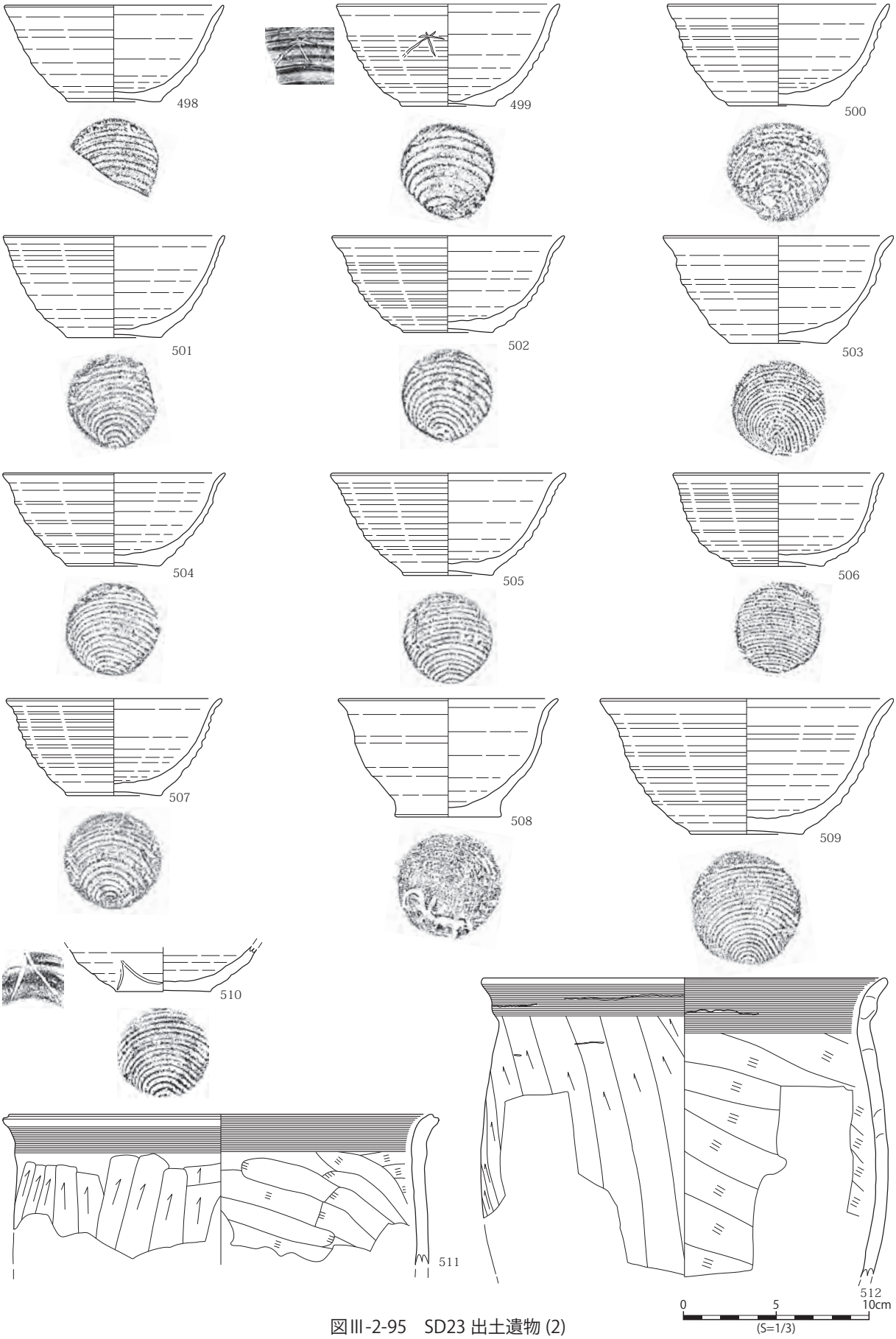
［位置・確認］グリッド BM55，56、BN55 ～ 57、BO・BP57，58、BQ56，57、BR55 ～ 57、BS56 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA02、SD05・30・33・34、SK11 と重複関係にあり、SA02 よりも古く、その他の遺構よりも新しい。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延び、途中で南東方向へと向きを転じ、調査区外へと延びる L 字状の溝跡である。確認



図Ⅲ-2-93　SD23 遺物出土状況

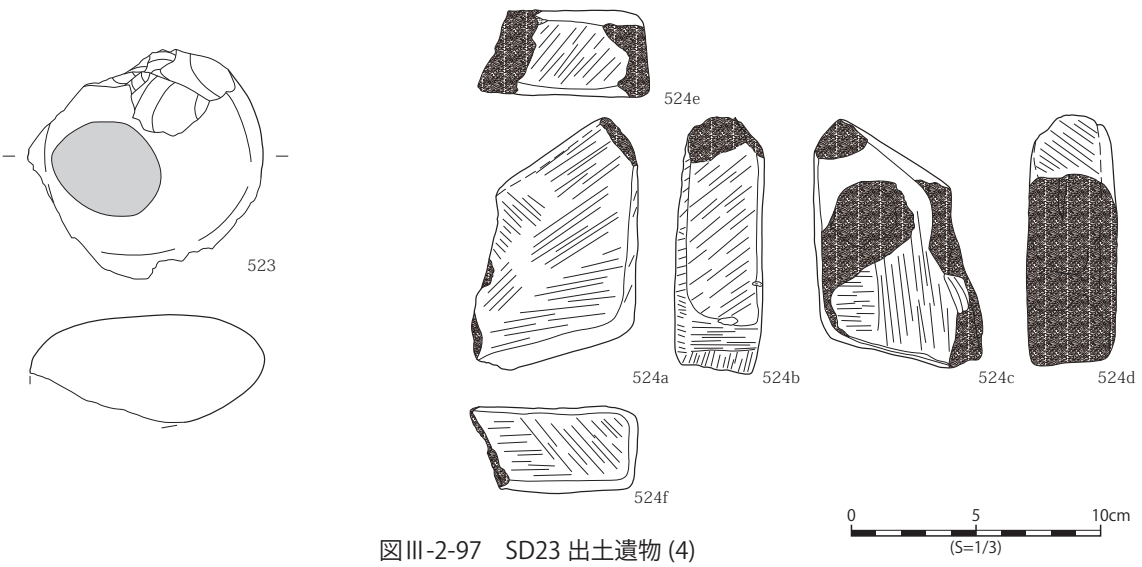


図Ⅲ-2-94　SD23 出土遺物 (1)



図Ⅲ-2-95　SD23 出土遺物 (2)

図Ⅲ-2-96　SD23 出土遺物 (3)



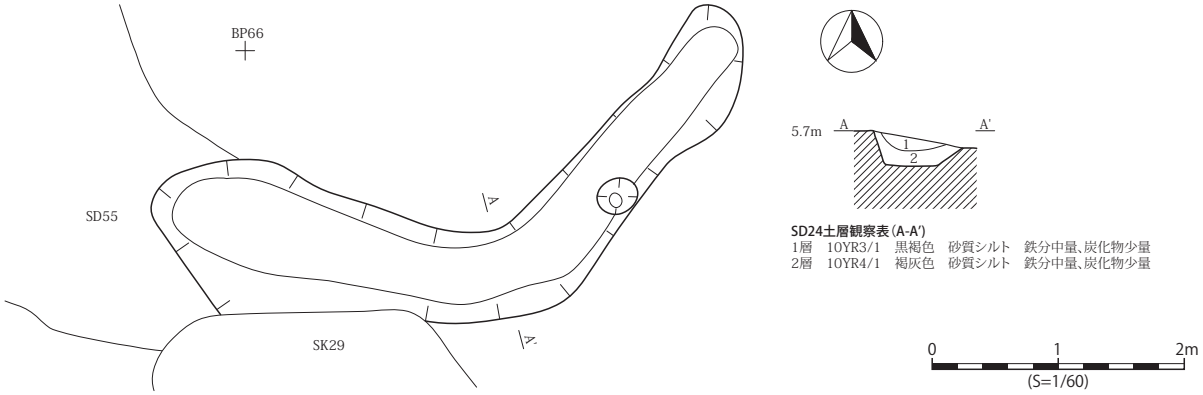
図Ⅲ-2-97　SD23 出土遺物 (4)

長 2,911cm、幅 125 ～ 353cm、深さ 77.5cm を測る。［堆積土］6 層確認され、黒褐色土を主体とした自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 103.7g、土師器坏 13,892.7g、土師器甕 20,574.9g、須恵器甕 390g、須恵器鉢 75.7g が出土している（図Ⅲ -2-93）。この内図示できたのは 48 点である（図Ⅲ -2-94 ～ 97）。477 ～ 480 は土師器のミニチュアの壺であり、479 は非ロクロでユビナデ成形、477・478・480 はロクロ成形である。481 ～ 483 は土師器の皿であり、481 は外面に二次被熱を受け黒色変化している。484 ～ 489 は土師器の皿形坏であり、490 ～ 497 は土師器の皿形坏であり、495 は内面に二次被熱を受け黒色変化している。498 ～ 508 は土師器の埦である。499 は外面にヘラ記号が描かれている。509 は土師器の大型の埦型坏である。510 は土師器坏の底部破片であり、外面にヘラ記号が描かれている。484 ～ 510 はいずれもロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。511 ～ 514 は土師器の長胴甕であり、いずれも口縁部内外面にヨコナデ調整、体部外面にはケズリ調整、内面にはユビナデ調整が施されている。515 は把手付土器の把手部であり、中空で外面はユビナデ調整が施されている。516 は須恵器の広口短頸壺の口頸部であり、ロクロ成形である。517 は須恵器の中甕の口頸部であり、頸部外面にヘラ記号が描かれている。516 と同様にロクロ成形である。518 は須恵器甕の体部破片であり、外面には平行タタキ目が見られる。519 は中空の支脚破片であり、外面はユビナデ調整が施されている。520 ～ 524 は砥石であり、520・523 は扁平の円礫の扁平部を砥面として利用している。521・522・524 は角礫をの平面部を砥面として利用している。石材は 520・523 が安山岩、521・522 が硬質泥岩、524 が頁岩である。

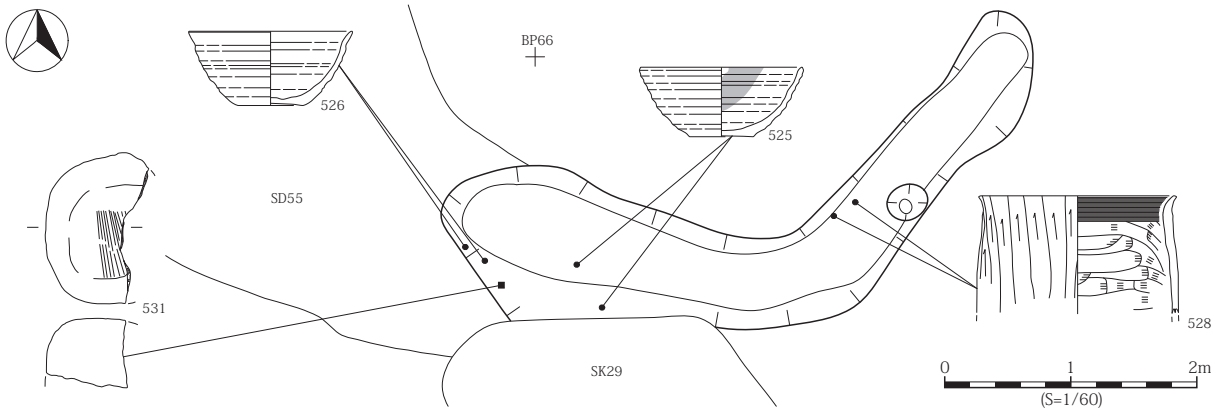
第 24 号溝跡（SD24、図Ⅲ -2-98）

［位置・確認］グリッド BO・BP65，66 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD55、SK29 と重複関係にあり、SK29 よりも古く、SD55 よりも新しい。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延び、途中で西へと向きを転じる L 字状の溝跡である。長さ 549cm、幅 59 ～ 124cm、深さ 41.5cm を測る。［堆積土］2 層確認され、上層は黒色土層、下層はⅢ層由来の自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 1,159.9g、土師器甕 3,362.6g、須恵器甕 29g、須恵器鉢 73g が出土している（図Ⅲ -2-99）。この内図示できたのは 7 点である（図Ⅲ -2-100）。525・526 は土師

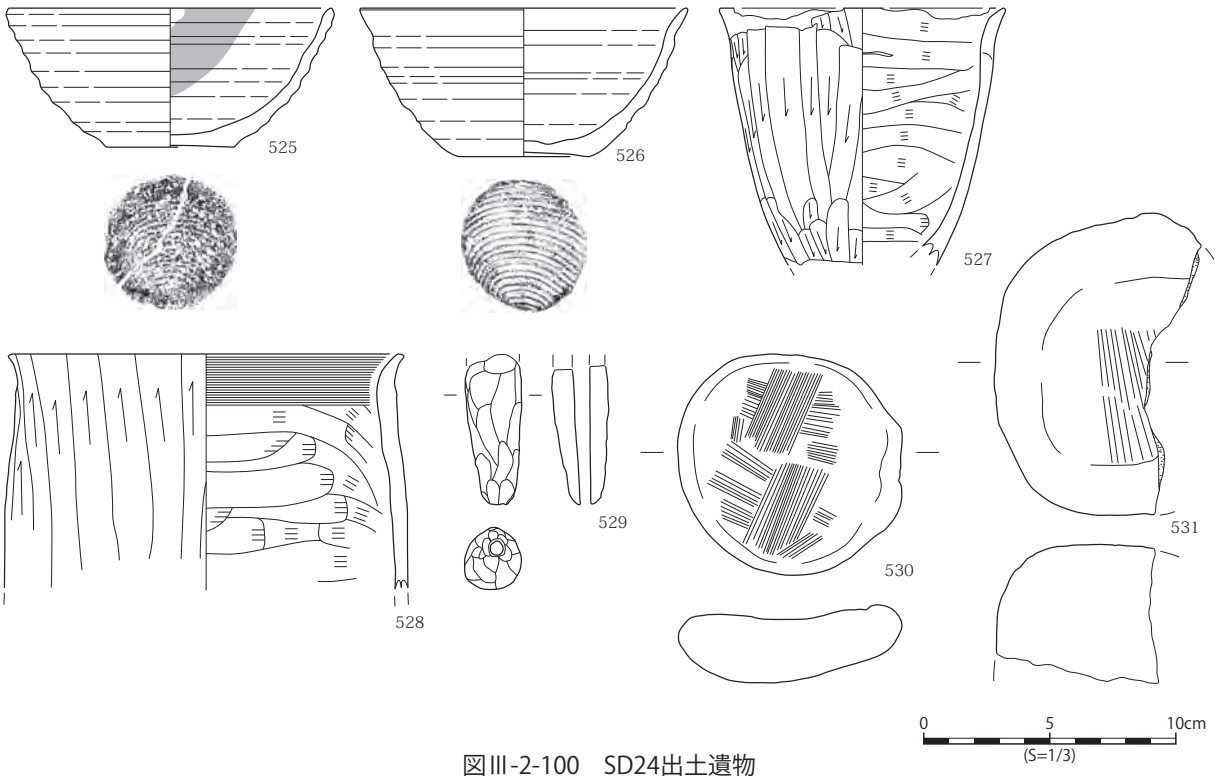
器の埦であり、ロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整である。527・528 は土師器の小型甕であり、527 は外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されている。528 は外面にケズリ調整、



図Ⅲ-2-98　SD24



図Ⅲ-2-99　SD24遺物出土状況



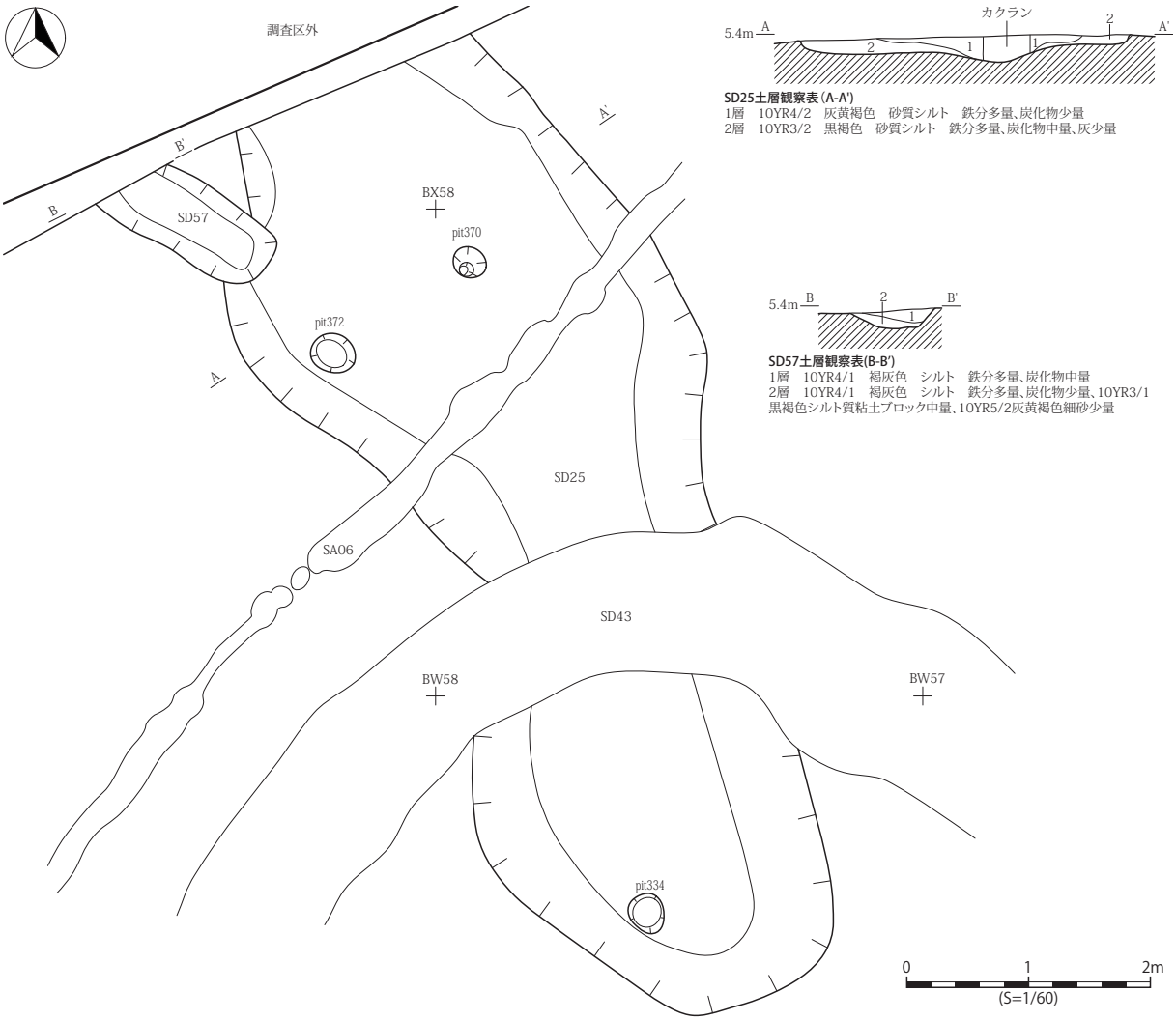
図Ⅲ-2-100　SD24出土遺物

内面にユビナデ調整の後口縁部にヨコナデ調整が施されている。529 はユビナデ成形の土錘である。530・531 は砥石であり、530 は扁平な円礫、531 は円礫を使用しており、いずれも平坦部分を砥面として使用している。石材は 530 が安山岩、531 が流紋岩である。

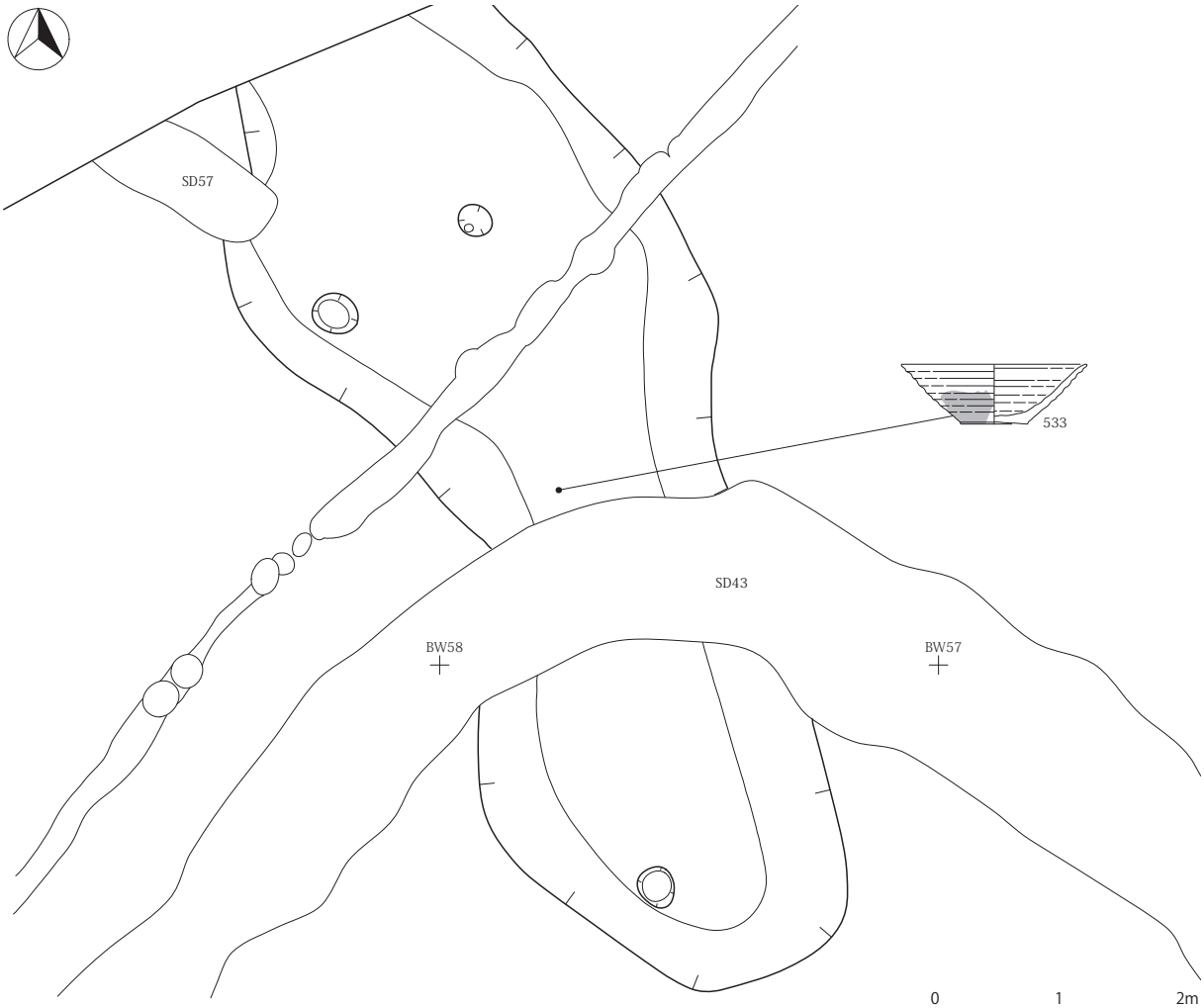
第 25・57 号溝跡（SD25・57、図Ⅲ -2-101）

（SD25）

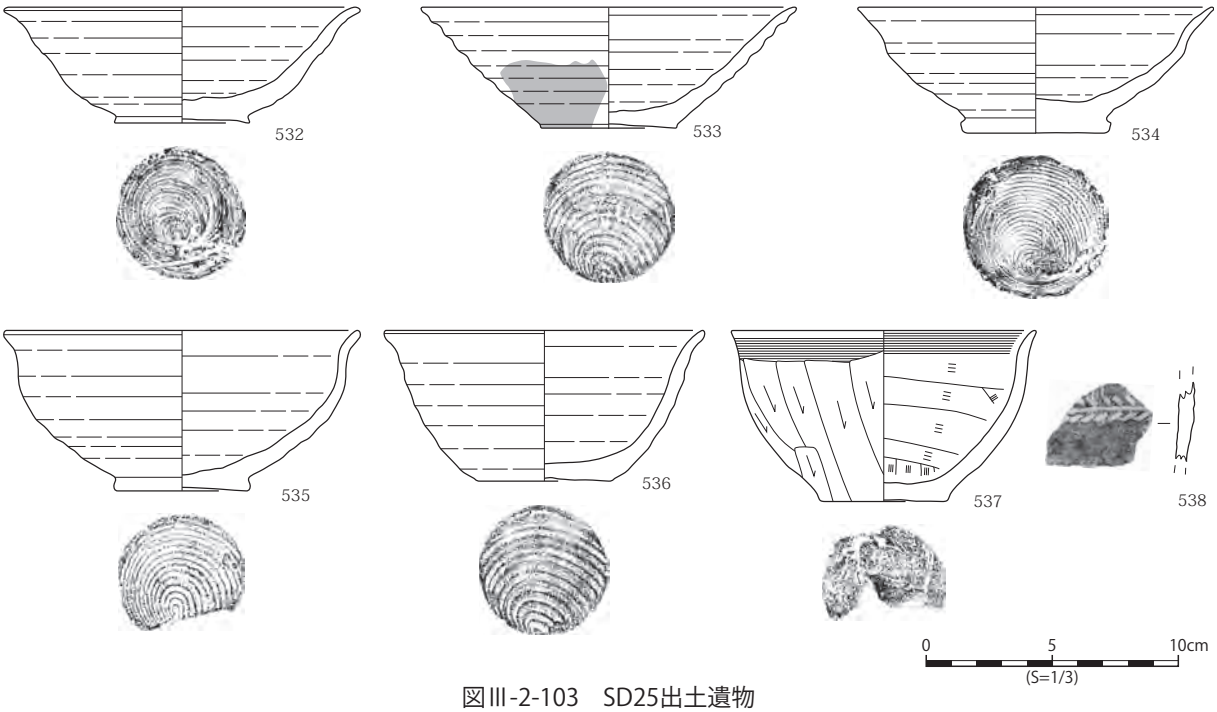
［位置・確認］グリッド BV57、BW・BX57，58 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA06、SD43・57、pit334・370・372 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］南南東方向から北北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 818cm、幅 204 ～ 335cm、深さ 23.0cm を測る。［堆積土］2 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土の自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 1,990.2g、土師器甕 2,681g、須恵器甕 13g が出土している（図Ⅲ -2-102）。この内図示できたのは 7 点である（図Ⅲ -2-103）。532・534 は土師器のⅢ形坏であり、533 は土師器の椀形坏であり、外面は二次被熱により黒色変化している。535 ～ 537 は土師器の椀である。532 ～ 536 はロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。537 は非ロクロ坏であり、口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されて



図Ⅲ-2-101　SD25・57



図Ⅲ-2-102　SD25遺物出土状況



図Ⅲ-2-103　SD25出土遺物

いる。538 は擦文土器の体部破片であり、横位沈線の上下に斜方向の列点文を配し、矢羽状の文様が施されている。

（SD57）

［位置・確認］グリッド BW・BX57，58 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD25 と重複関係にあり、SD25 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 124cm、幅 63cm、深さ 21.5cm を測る。［堆積土］2 層確認され、Ⅲ層由来の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］特になし。

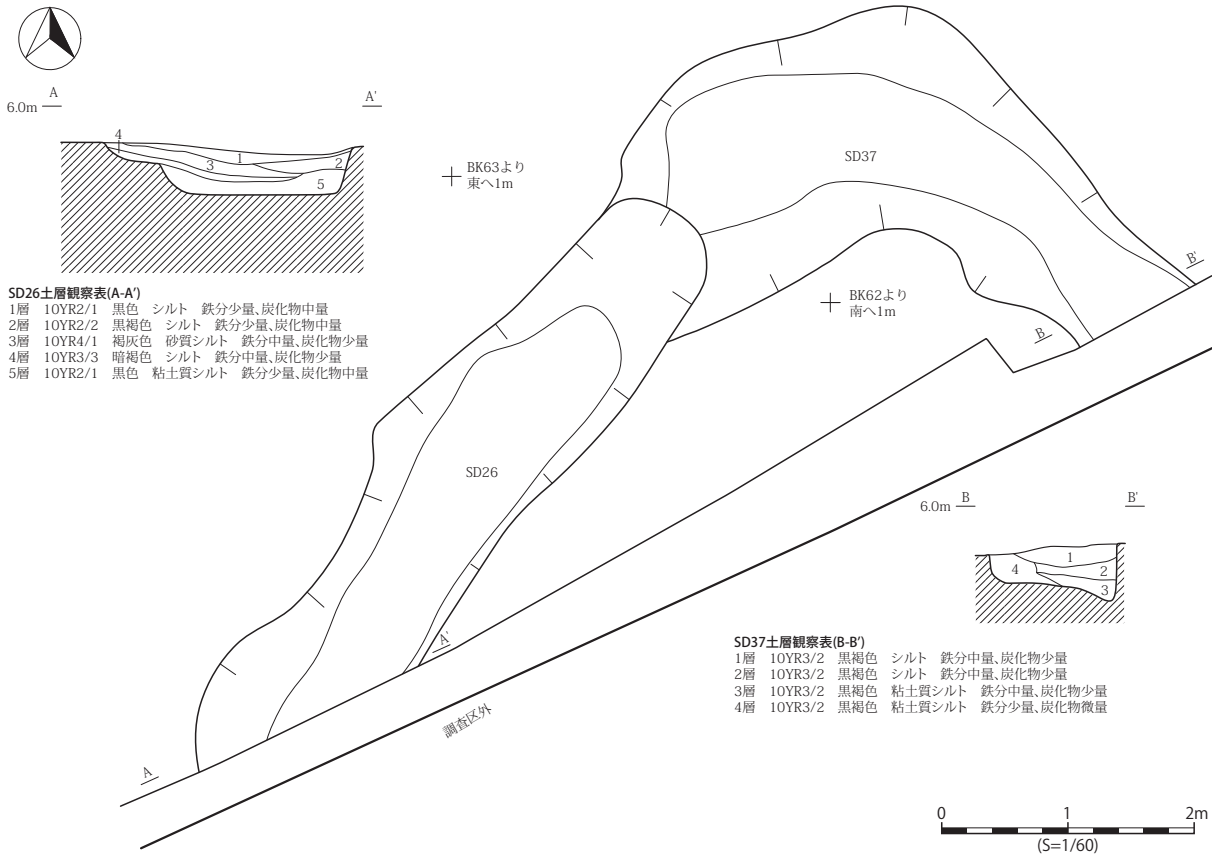
第 26・37 号溝跡（SD26・37、図Ⅲ -2-104）

（概要）

調査区中央南端に位置し、SD26 と SD37 により L 字状の溝跡を形成している。重複関係から最初に SD37 次に SD26 の順で構築されているが、堆積状況をからあまり時期差がなく、Ⅰ期であると考えられる。

（SD37）

［位置・確認］グリッド BJ・BK61，62 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD26 と重複関係にあり、SD26 よりも古い。［規模・形状］南西方向から北東方向へと直線状に伸び、そこから方向を南東方向へと転じ、調査区外へと延びる L 字状の溝跡である。確認長 431cm、幅 91 ～ 188cm、深さ 39.5cm を測る。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土主体の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 794g、土師器甕 2,340g、須恵器甕 951g、須恵器壺 9g が出土してい

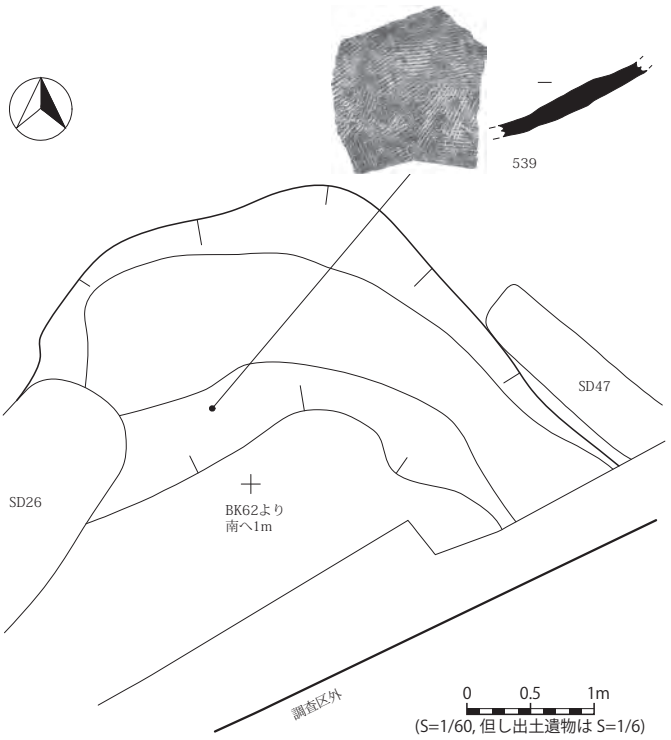


図Ⅲ-2-104　SD26・37

る（図Ⅲ -2-105）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-106）。539 は須恵器の大甕の底部破片であり、格子タタキ目が見られる。

（SD26）

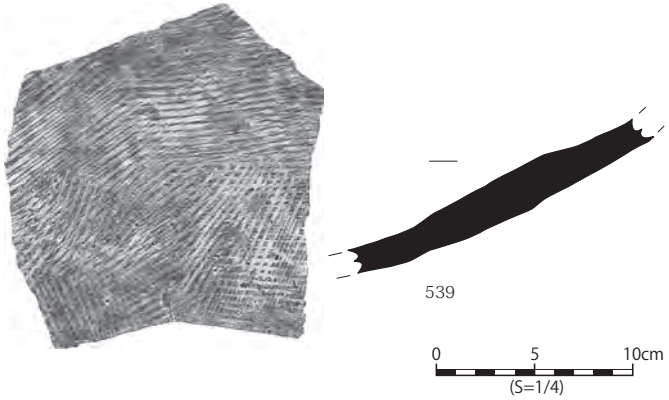
［位置・確認］グリッド BI・BJ62，63 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD37 と重復関係にあり、SD37 よりも新しい。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 483cm、幅 103 ～ 134cm、深さ 50.5cm を測る。［堆積土］5 層確認され、上層は黒色土及び黒褐色土主体の層、下層はⅢ層由来の層及び黒色土主体の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 81g、須恵器壷 31g が出土している。



図Ⅲ-2-105　SD37遺物出土状況

第 27 号溝跡（SD27、図Ⅲ -2-107）

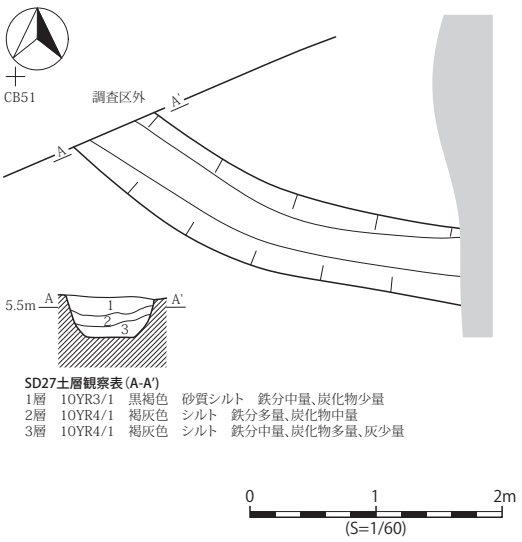
［位置・確認］グリッド CA50 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］なし。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 292cm、幅 70cm、深さ 44.5cm を測る。［堆積土］3 層確認され、上層は黒褐色土主体の層、下層はⅢ層由来の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 534.4g、須恵器甕 8g が出土している（図Ⅲ -2-108）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-109）。540 は大型の埦であり、ロクロ成形である。



図Ⅲ-2-106　SD37 出土遺物

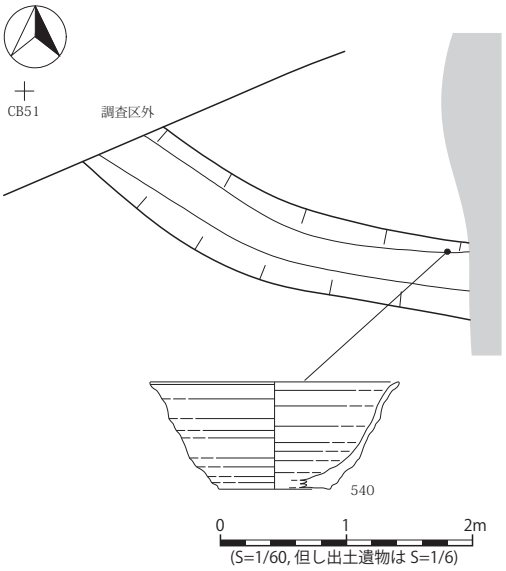
第 28 号溝跡（SD28、図Ⅲ -2-110）

［位置・確認］グリッド BS49，50、BT50 ～ 52、BU52 ～ 54、BV54 ～ 56、BW・BX56 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA01・06、SD05・10・30 と重複関係があり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中で北に向きを転じ、調査区外へと延びる溝跡である。確認長 3,829cm、幅 72 ～ 136cm、深さ 54cm を測る。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 179.7g、土師器甕 891g、須恵器壷 6g が出土している（図Ⅲ -2-111）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-112）。541 は土師器の埦であり、外面に二次焼成痕がある。ロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を

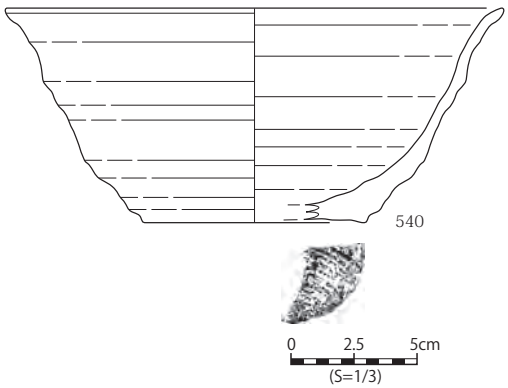


SD27土層観察表 (A-A')
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、灰少量

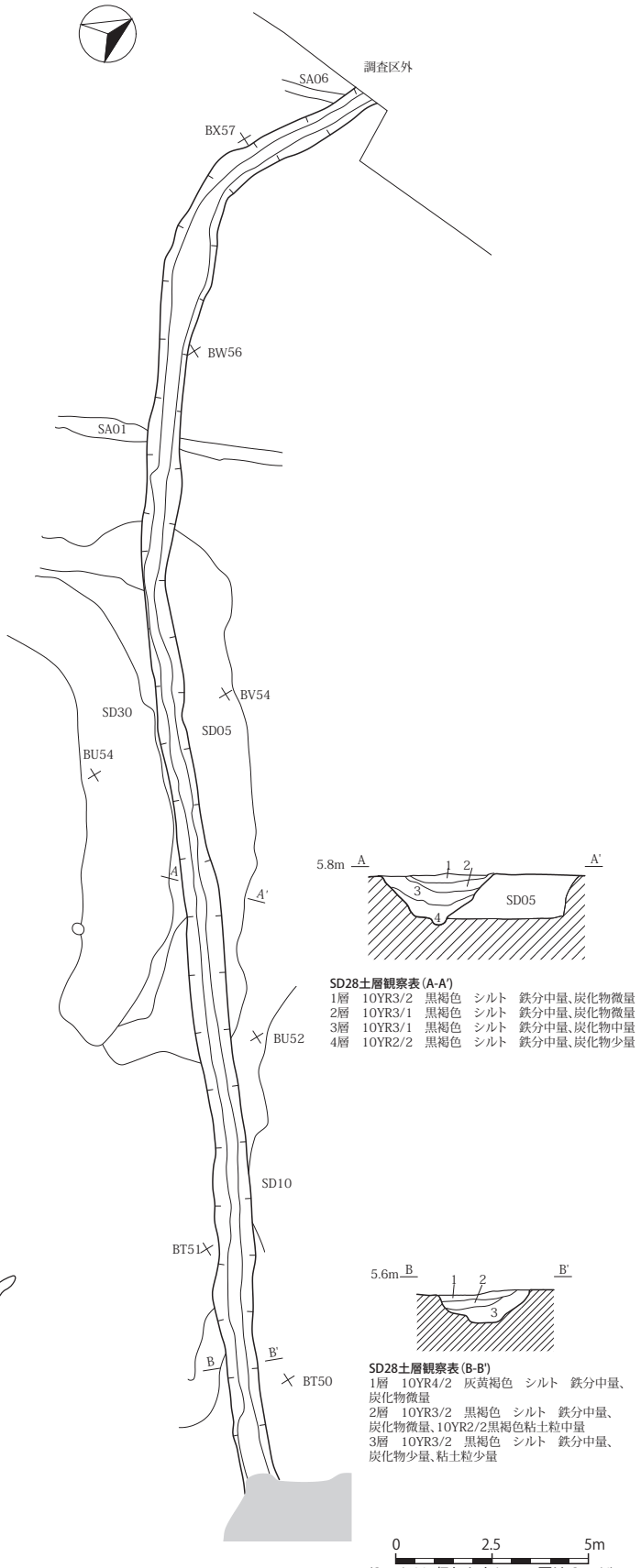
図Ⅲ-2-107　SD27



図Ⅲ-2-108　SD27遺物出土状況



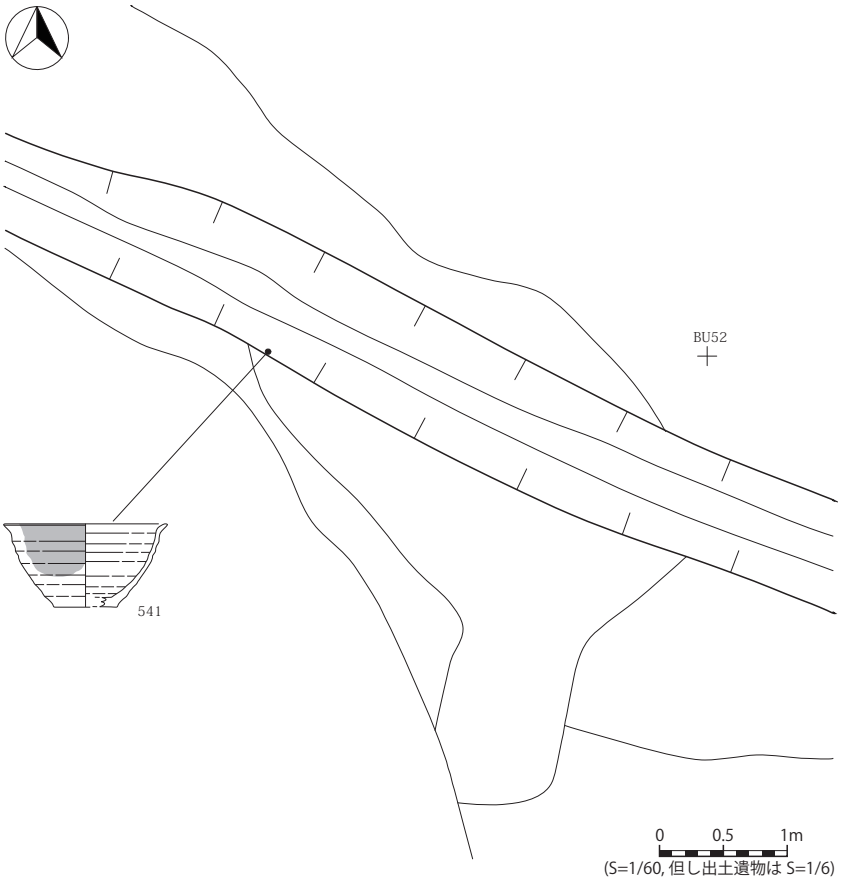
図Ⅲ-2-109　SD27出土遺物



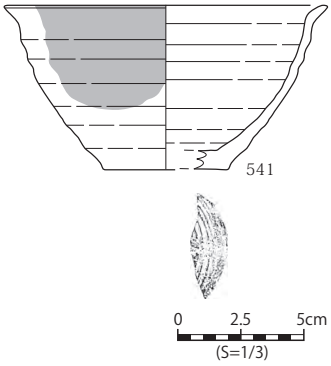
SD28土層観察表 (A-A')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SD28土層観察表 (B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、10YR2/2黒褐色粘土粒中量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、粘土粒少量

図Ⅲ-2-110　SD28



図Ⅲ-2-111　SD28遺物出土状況



図Ⅲ-2-112　SD28出土遺物

残し未調整である。［時期］いずれの遺構よりも新しいため、集落終了時の遺構であると考えられる。

第 33 号溝跡（SD33、図Ⅲ -2-113）

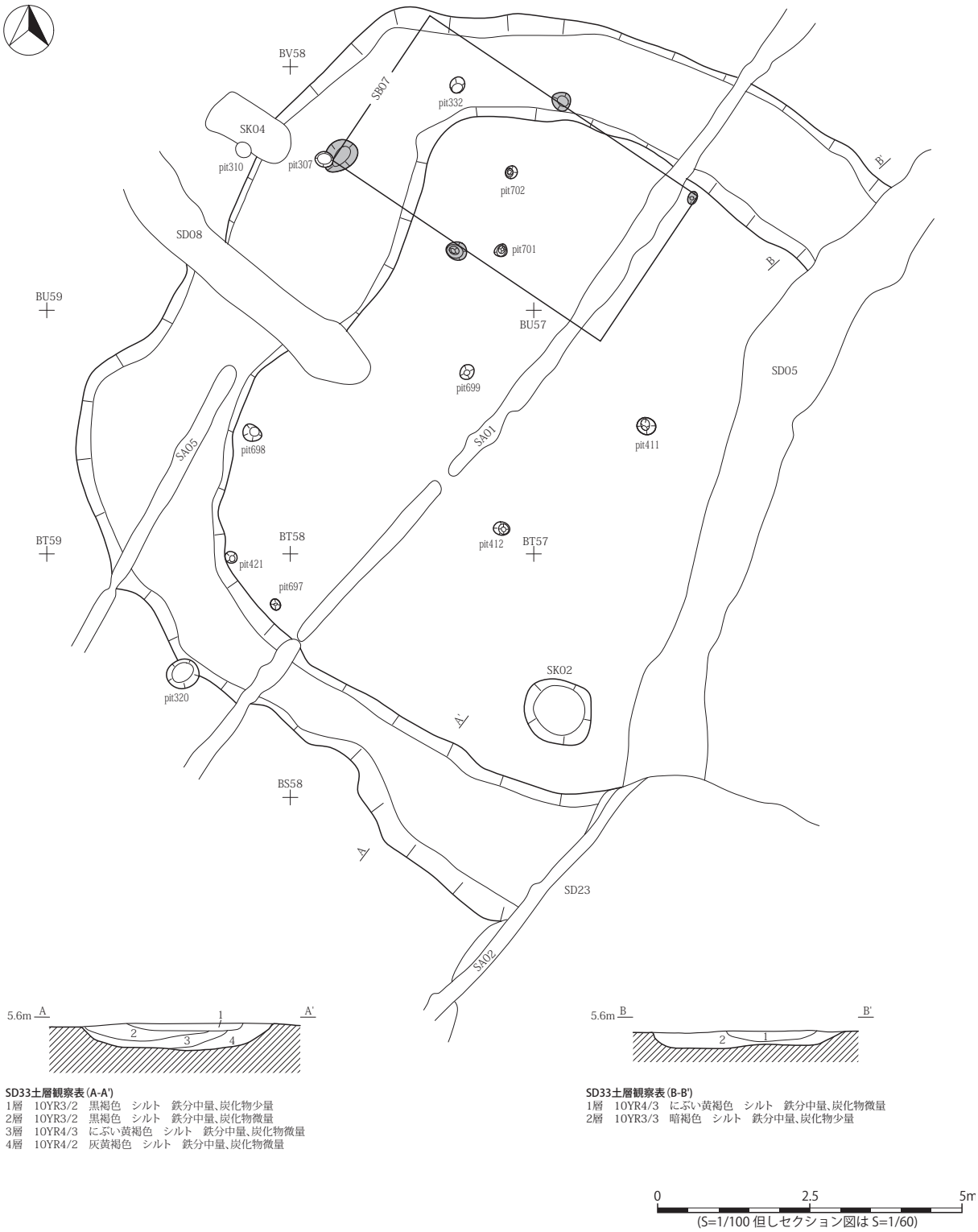
［位置・確認］グリッド BR56，57、BS56 ～ 58、BT57，58、BU55 ～ 58、BV56，57 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA01・05、SD05・08・23、SK04 と重複関係があり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中で南西方向に向きを転じ直線状に延び、再び南東方向へと向きを転じ、コの字状を呈する溝跡である。確認長 2,532cm、幅 98 ～ 285cm、深さ 21.5cm を測る。［堆積土］4 層確認され、上層は黒褐色土で形成される自然堆積層であり、下層はⅣ層由来の人為的堆積土層である。［出土遺物］土師器坏 179.7g、土師器甕 891g、須恵器壷 6g が出土している。［時期］いずれの遺構よりも古いため、Ⅰ期に相当すると考えられる。

第 35・49・56・59 号溝跡（SD35・49・56・59、図Ⅲ -2-114）

（概要）

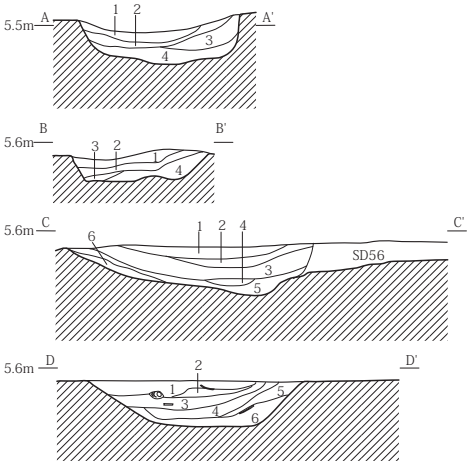
調査区中央北端に位置し、一部調査区外に延びているため、正確な形状は不明であるが、コの字状の溝跡が SD59 と SD56 → SD59 と SD35 → SD49 と SD35 の順で構成されていると考えられる。但し、堆積土に差異があまりないことから、短期間の内に作り替えられているものと考えられる。

（SD56）



図Ⅲ-2-113　SD33

［位置・確認］グリッド BT・BU61，62 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD35・52 と重複関係があり、SD35 よりも古く、SD52 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。現存長 437cm、幅 117 ～ 181cm、深さ 38cm を測る。［堆積土］6 層確認され、5 層にⅣ層由来の層が堆積しているのを除けば、黒褐色土と黒色土が互層を形成する自



SD59土層観察表 (A-A')
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、灰少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、灰少量、5YR4/6赤褐色ブロック1cm少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量、5YR4/6赤褐色ブロック1cm少量
4層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

SD49土層観察表 (B-B')
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm少量、灰少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～10mm少量、灰中量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物1～5mm少量、灰中量

SD35土層観察表 (C-C')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、泥炭少量
5層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、泥炭微量
6層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

SD56土層観察表 (D-D')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物少量、灰少量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、10YR4/2灰黄褐色ブロック中量、灰少量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量、灰少量
5層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
6層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

0　2.5　5m
(S=1/120 但し、セクション図は S=1/60)

図Ⅲ-2-114　SD35・49・56・59

然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 1,508.4g、土師器甕 6,092.7g、須恵器甕 2,041.4g 等が出土している（図Ⅲ -2-115）。この内図示できたのは 12 点である（図Ⅲ -2-116,117）。542 は土師器のミニチュアであり、非ロクロ成形、内外面はユビナデ調整が施されている。543 は土師器の皿形坏であり、544 ～ 546 は土師器の埦であり、546 は内面にヘラ記号が描かれている。543 ～ 546 はいずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。547・548 は土師器の小型甕であり、

547 はロクロ成形で回転糸切痕を残し、無調整である。548 は非ロクロであり口縁部内外面はヨコナデ調整、体部内外面はユビナデ調整が施されている。549・550 は土師器の長胴甕であり、いずれも口縁部が外彎し、口唇部を面取調整している。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。551 ～ 553 は須恵器甕であり、551 が体部破片で平行タタキ目が見られ、552・553 は底部破片で、格子タタキ目が見られる。［時期］SD35 と同時期の溝跡であると考えられることからⅡ期であると考えられる。

（SD35）

［位置・確認］グリッド BS61、BT61 ～ 63、BU・BV62，63 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA06、SD39・49・56 と重複関係があり、SA06、SD39・49 よりも古く、SD56 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中で北東方向へ向きを転じ調査区外へと延びるＬ字状の溝跡である。確認長 1,314cm、幅 154 ～ 232cm、深さ 48.5cm を測る。［堆積土］6 層確認され、1 層と 6 層はⅢ層由来の層であり、2 ～ 5 層は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 4,541.8g、土師器甕 9,764.5g、須恵器甕 1,892.2g が出土している（図Ⅲ -2-118）。この内図示できたのは 8 点である（図Ⅲ -2-119）。554 は土師器のⅢであり、555・556 は土師器のⅢ形坏であり、555 は内面が二次被熱により黒色変化している。557 は口縁部が外彎する埦である。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。558 は土師器の甕であり、外面は口縁部にヨコナデ調整が施された後、体部はケズリ調整が施されている。内面は体部にユビナデ調整が施された後、口縁部にヨコナデ調整が施されている。559 は須恵器の中甕の口頸部破片であり、頸部付近までタタキ調整が施された後、口頸部にロクロナデが施されている。560 は須恵器甕の体部から底部にかけての破片であり、体部下半は平行タタキ目であるが、底部になると格子タタキ目痕が見られる。561 は甕の体部上半の破片であり、格子タタキ目が見られる。［時期］Ⅱ期であると考えられる。

（SD49）

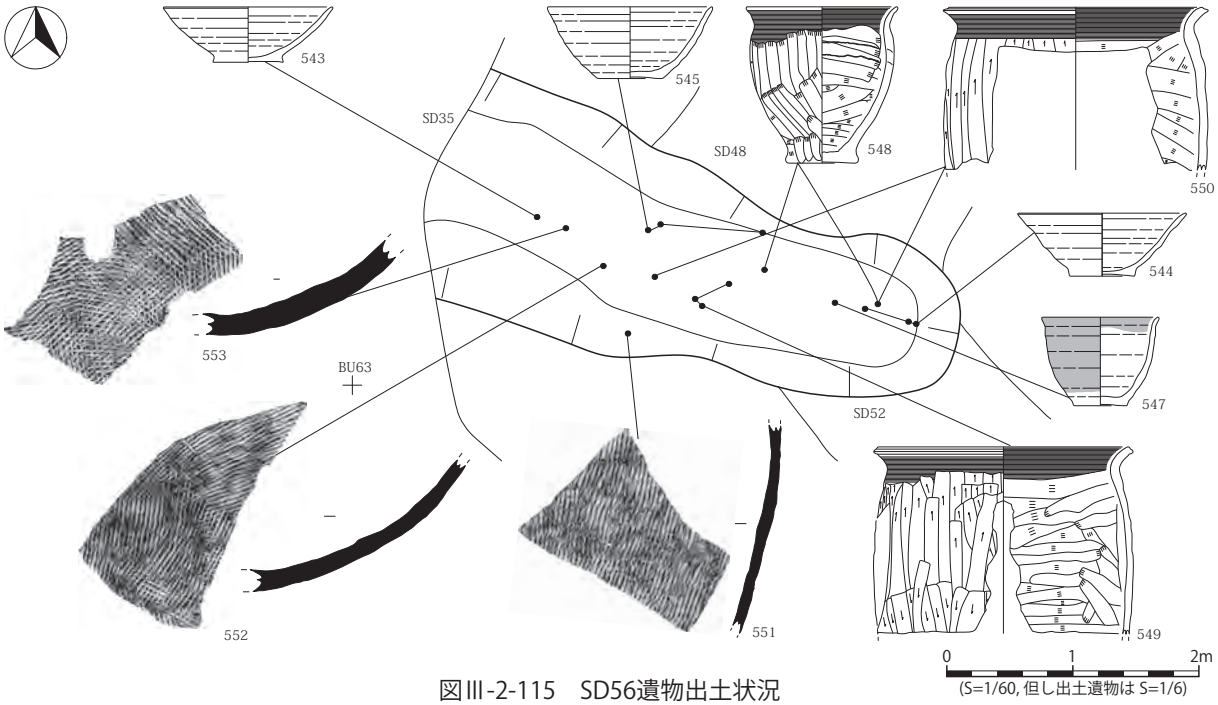
［位置・確認］グリッド BU・BV61，62 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD35・48 と重複関係があり、SD35 よりも古く、SD48 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 416cm、幅 92 ～ 107cm、深さ 44cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1 層は黒色土主体、2 ～ 4 層は黒褐色土主体の自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 628g、土師器甕 243.2g が出土している（図Ⅲ -2-120）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-121）。562 は土師器の長胴甕であり、短く外彎する口縁部を有し、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。

（SD59）

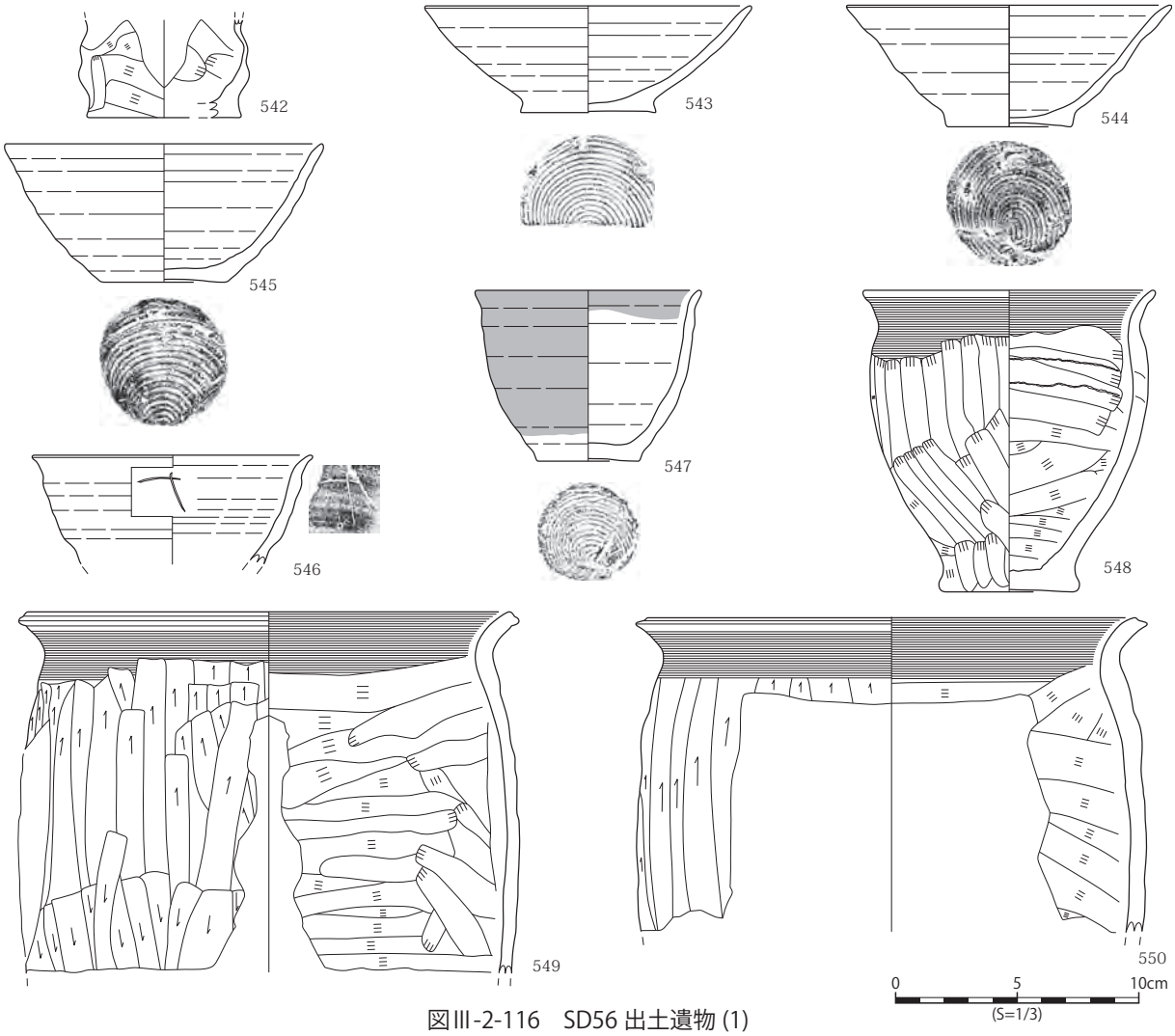
［位置・確認］グリッド BV60，61 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD48 と重複関係があり、SD48 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 557cm、幅 109 ～ 202cm、深さ 35.5cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1 ～ 3 層は黒褐色土と黒色土が互層を形成し、4 層はⅢ層由来の自然堆積層である。［出土遺物］須恵器甕 44g が出土している。

第 39 号溝跡（SD39、図Ⅲ -2-122）

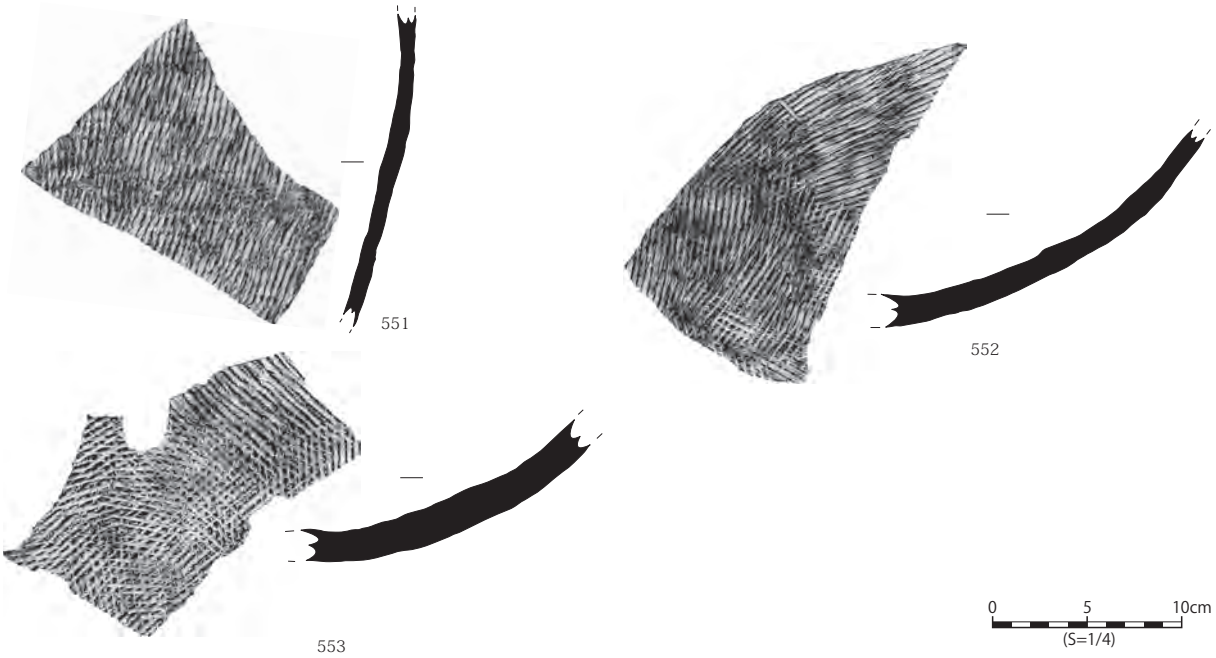
［位置・確認］グリッド BT63、BU63，64 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD35・



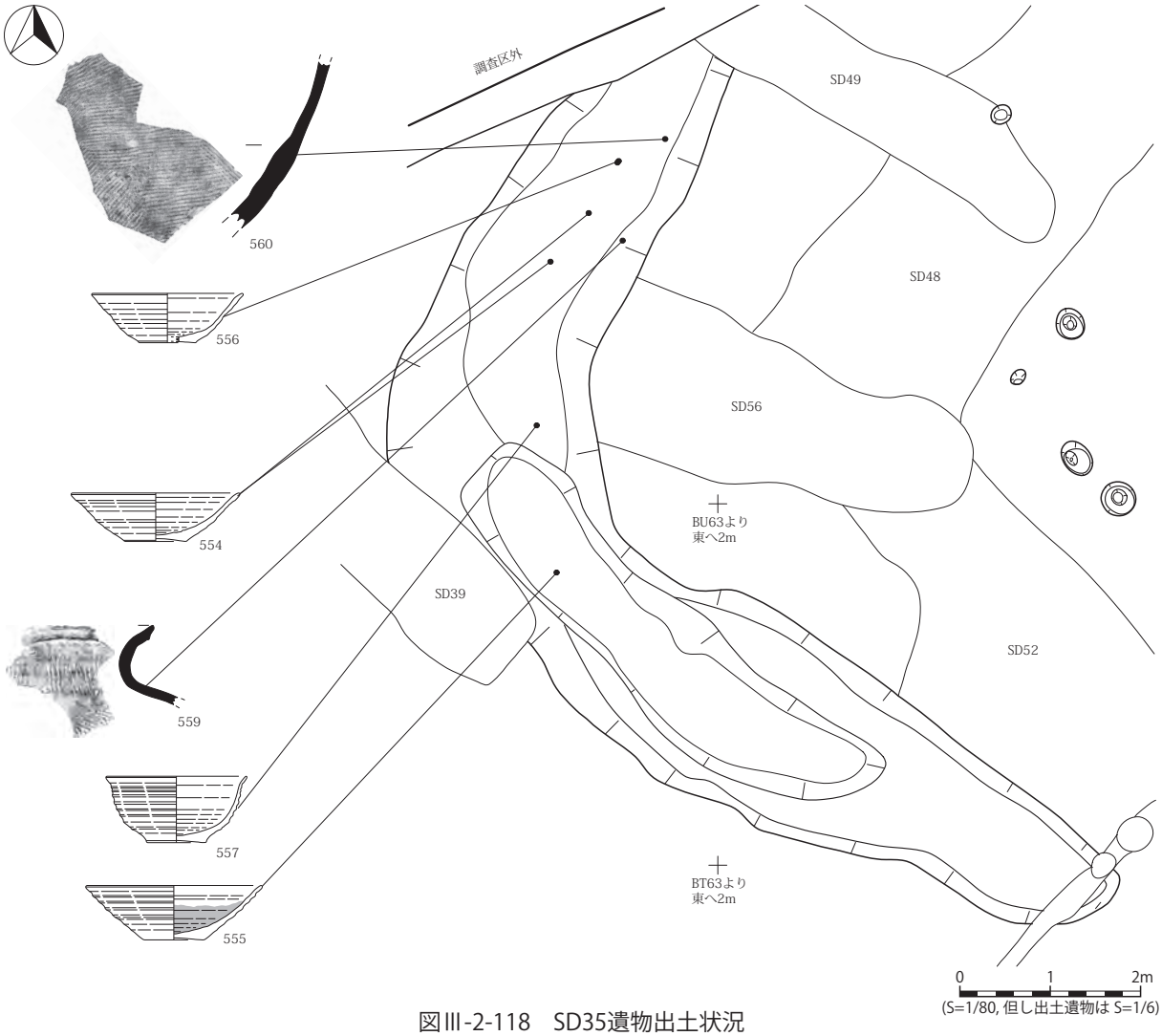
図Ⅲ-2-115　SD56遺物出土状況



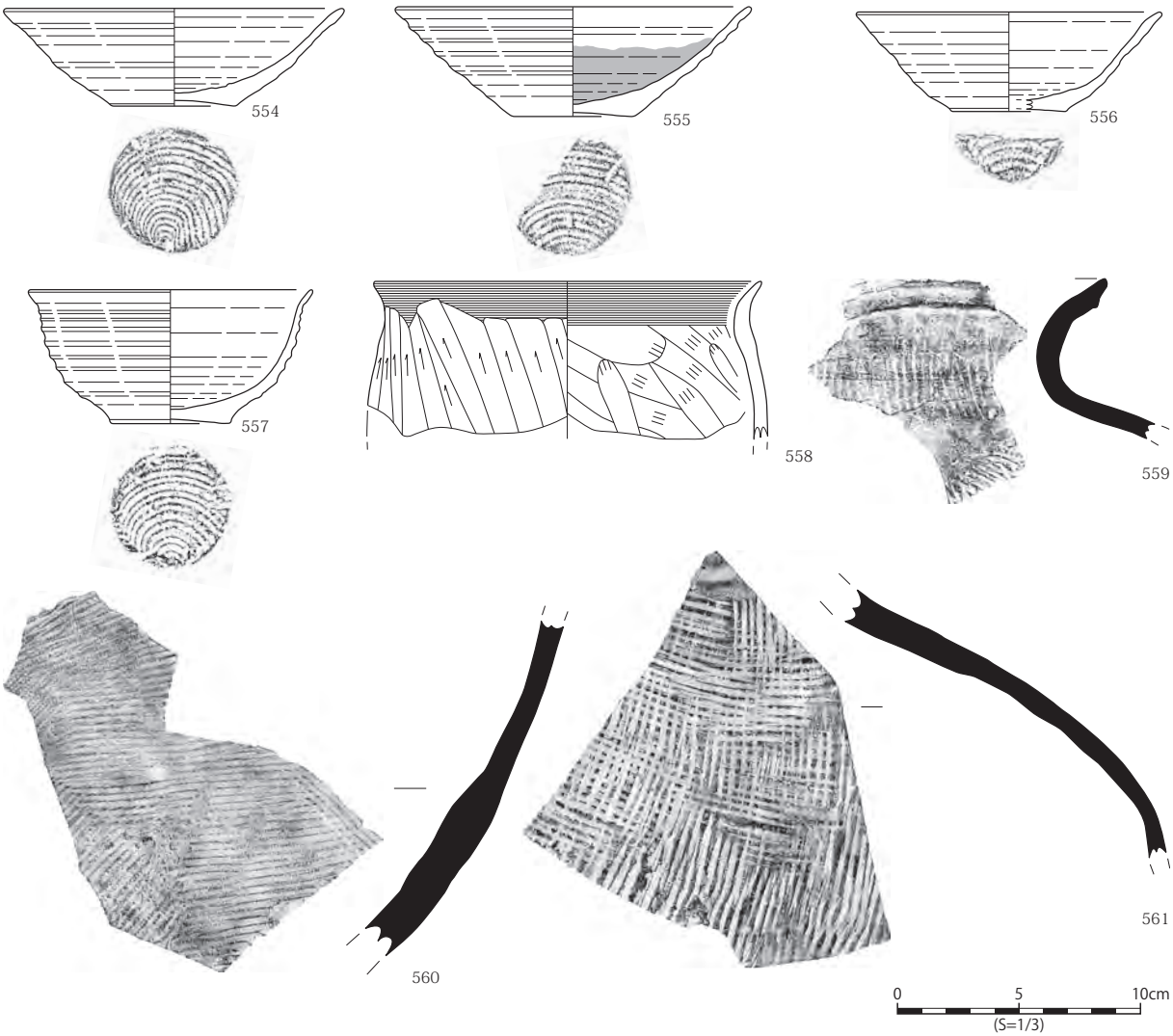
図Ⅲ-2-116　SD56 出土遺物 (1)



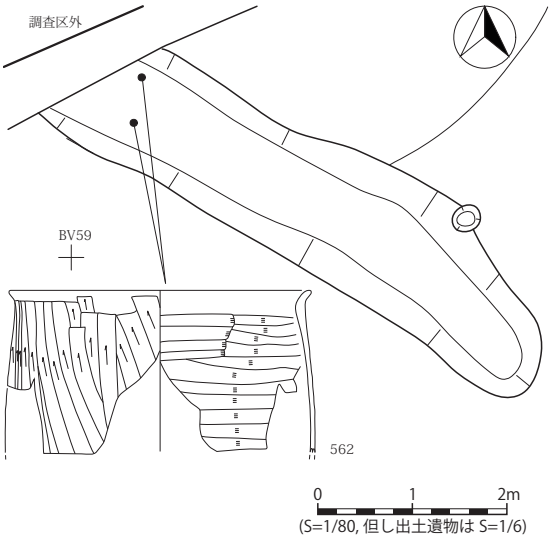
図Ⅲ-2-117　SD56 出土遺物 (2)



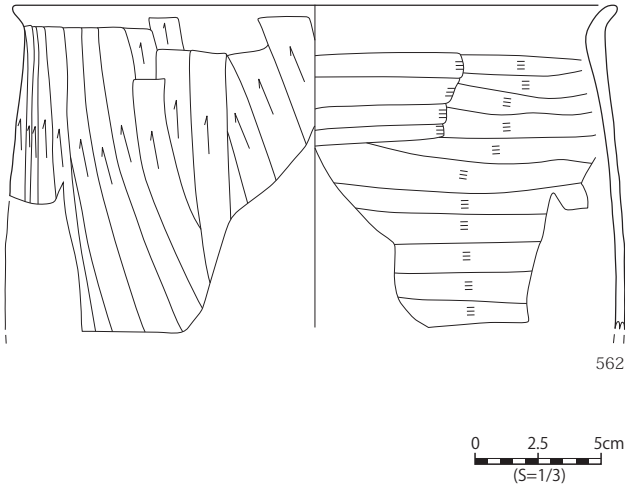
図Ⅲ-2-118　SD35遺物出土状況



図Ⅲ-2-119　SD35出土遺物

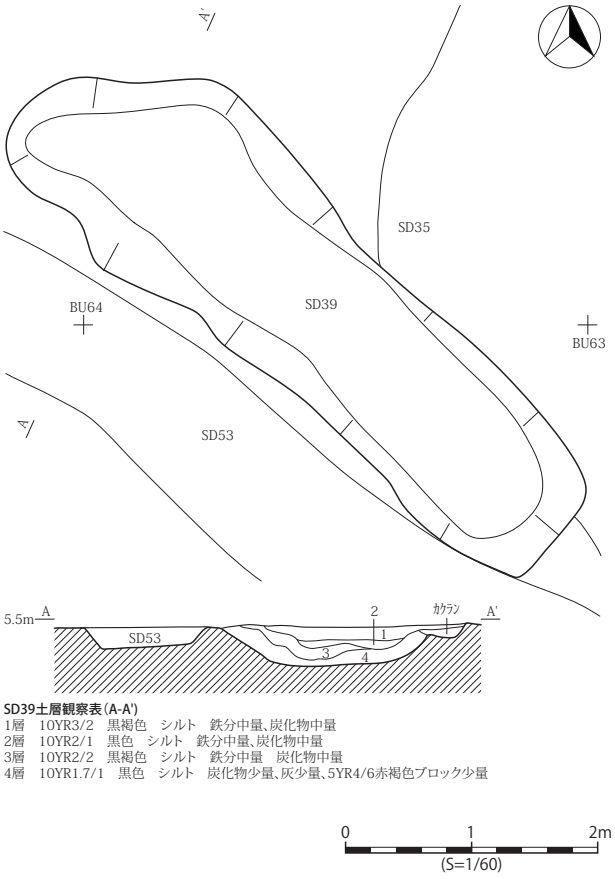


図Ⅲ-2-120　SD49遺物出土状況

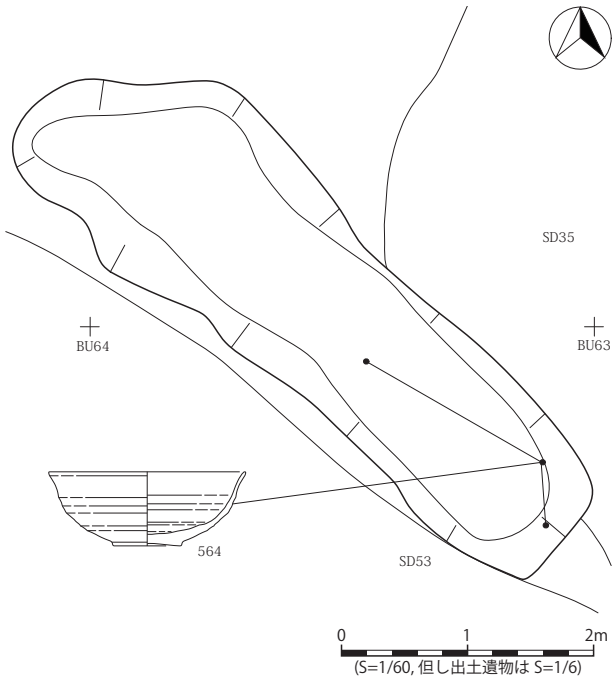


図Ⅲ-2-121　SD49出土遺物

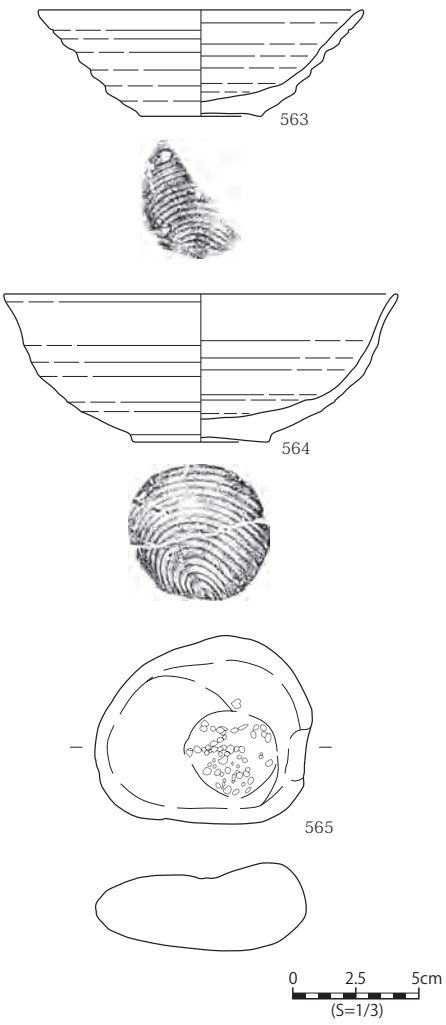
53 と重複関係があり、SD53 よりも古く、SD35 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 541cm、幅 117 ～ 175cm、深さ 42.5cm を測る。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土と黒色土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 612.9g、土師器甕 2,335g、須恵器甕 48g、須恵器壷 170g が出土している（図Ⅲ -2-123）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ -2-124）。563 は、土師器の皿形坏であり、564 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後、底部は回転糸切痕を残し未調整である。565 は扁平な円礫を利用した叩石であり、扁平部中央付近に敲打痕が確認された。材質はプロピライトである。



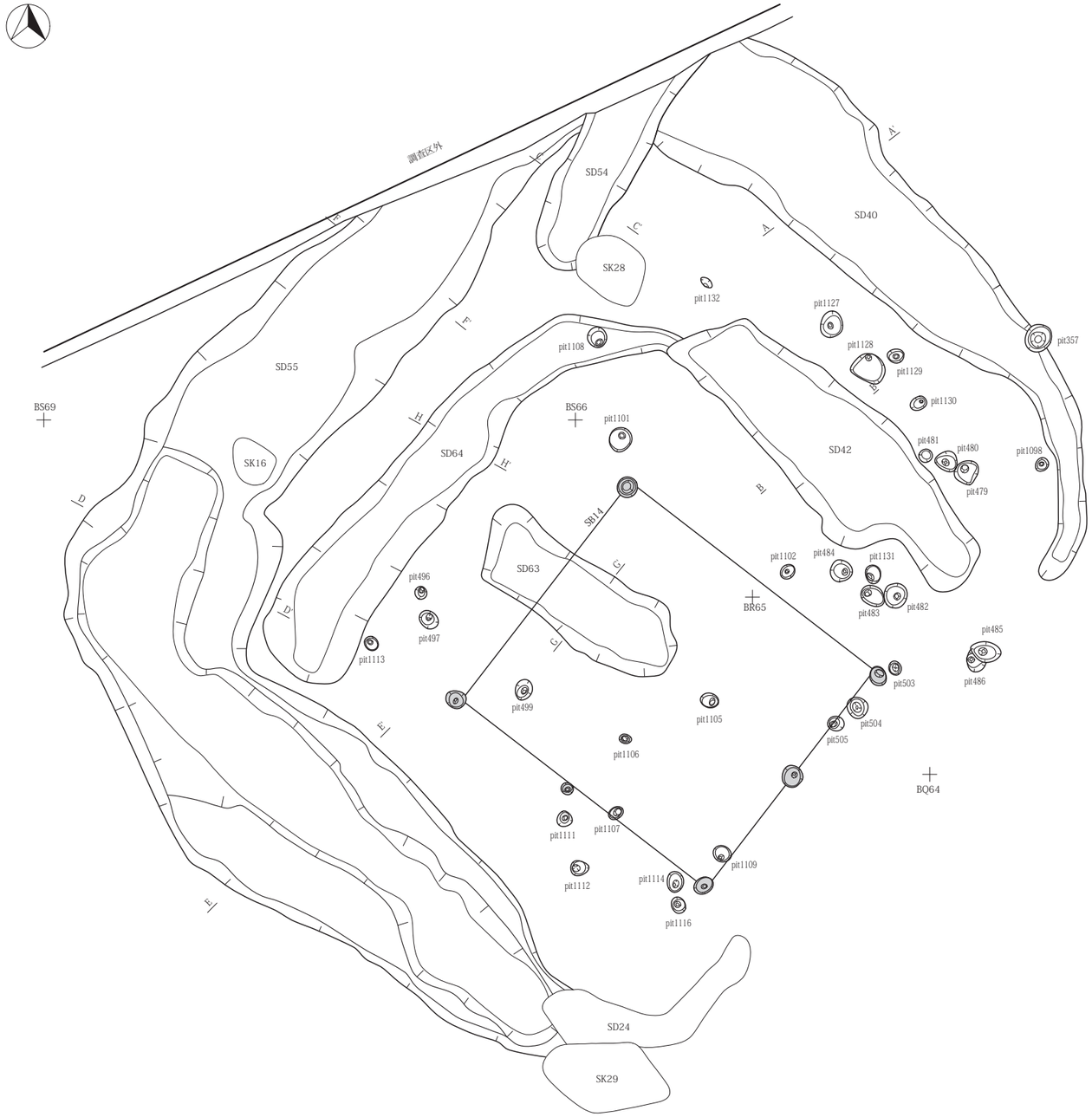
図Ⅲ-2-122　SD39

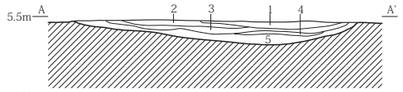


図Ⅲ-2-123　SD39遺物出土状況

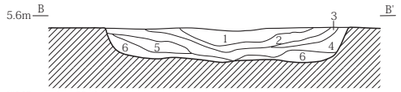


図Ⅲ-2-124　SD39出土遺物

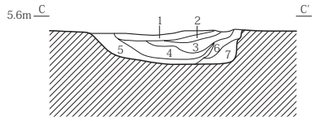




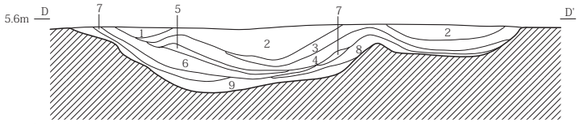
SD40土層観察表 (A-A')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰少量
3層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量、10YR1.7/1黒色泥炭層中量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
5層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量



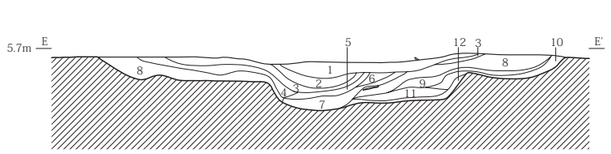
SD42土層観察表 (B-B')
1層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、10YR4/1褐灰色粘土質シルトブロック少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物少量、10YR4/1褐灰色ブロック少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰多量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
5層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
6層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量



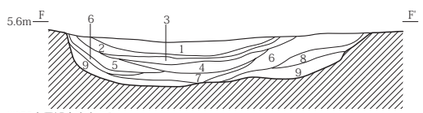
SD54土層観察表 (C-C')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物少量
3層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、灰少量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
5層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
6層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
7層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量



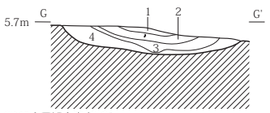
SD55土層観察表 (D-D')
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
5層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
6層　10YR1.7/1　黒色　シルト　炭化物多量
7層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
8層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
9層　10YR1.7/1　黒色　シルト　炭化物多量、木片混入



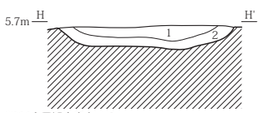
SD55土層観察表 (E-E')
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量、灰微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、灰多量、5YR3/4暗赤褐色ブロック少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物多量、5YR3/6暗赤褐色ブロック少量
5層　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量、泥炭層
6層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰少量、5YR4/2灰褐色ブロック1×9少量
7層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量、泥炭層少量
8層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
9層　10YR1.7/1　黒色　砂質シルト　炭化物少量、灰少量、泥炭層少量
10層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
11層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物多量、灰少量、泥炭層
12層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量



SD55土層観察表 (F-F')
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
5層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
6層　10YR1.7/1　黒色　シルト　炭化物多量
7層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
8層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
9層　10YR1.7/1　黒色　シルト　炭化物多量、木片混入



SD63土層観察表 (G-G')
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
4層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物多量



SD64土層観察表 (H-H')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

0　2.5　5m
(S=1/120，但しセクション図は S=1/60)

図Ⅲ-2-125　SD40・42・54・55・63・64

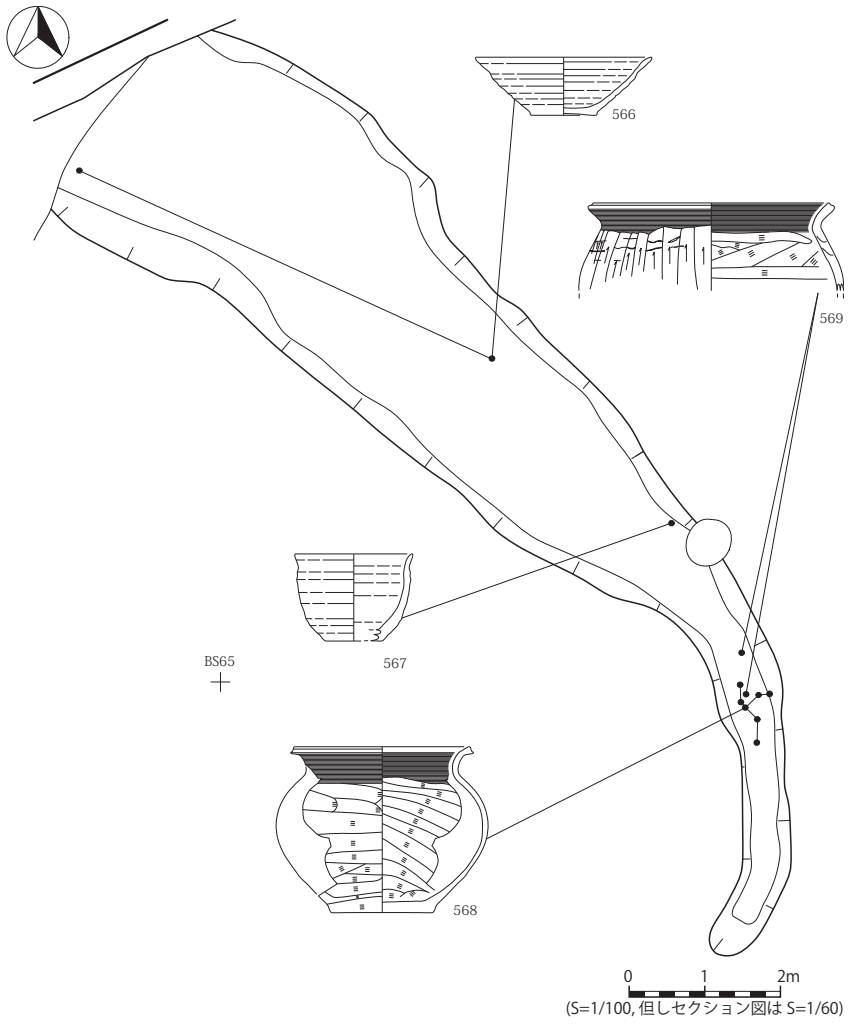
第 40・42・54・55・63・64 号溝跡（SD40・42・54・55・63・64、図Ⅲ -2-125）

（概要）

調査区西側北端に位置し、一部調査区外に延びているため、正確な形状は不明であるが、コの字状の溝跡が SD40 と SD55 及びその内側に SD42 と SD64 で L 字状の溝跡を構成している。但し、堆積土に差異があまりないことから、同時期に存在しているかもしくは短期間の内に作り替えられているものと考えられる。溝跡の内側には 2 間四方の掘立柱建物跡 SB14 が構築されている。

（SD40）

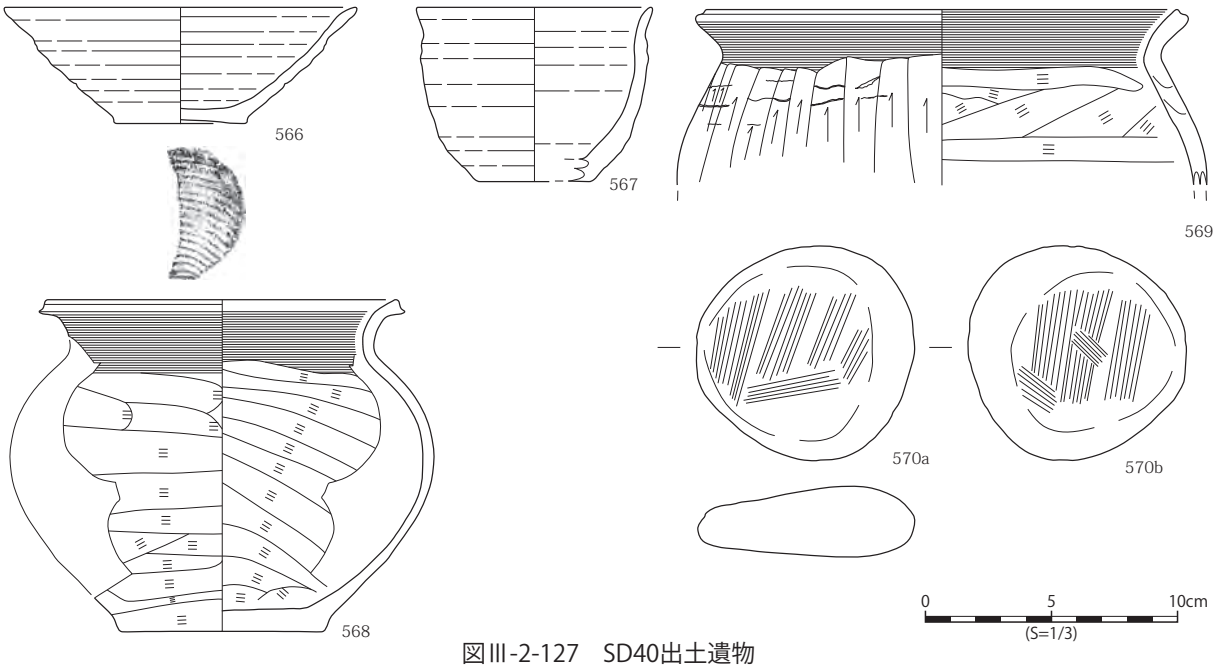
［位置・確認］グリッド BR63、BS63，64、BT・BU64，65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD54 と重複関係があり、SD54 よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へとやや内彎しながら調査区外に延びる溝跡である。確認長 1,513cm、幅 62 ～ 324cm、深さ 41cm を測る。［堆積土］5 層確認され、1 層と 5 層はⅢ層由来の層、2 ～ 4 層は黒褐色土と黒色土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 1,809.2g、土師器甕 11,169.2g、須恵器甕 52g、石器 303g が出土している（図Ⅲ -2-126）。この内図示できたのは 5 点である（図Ⅲ -2-127）。566 は土師器の皿形坏であり、567 は土師器の小型甕である。いずれもロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し未調整である。568 は土師器の球胴甕であり、569 は土師器の長胴甕である。いずれも口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。570 は扁平な円礫を使用した砥石であり平坦部両面を砥面として使用している。材質は花崗閃緑岩である。



図Ⅲ-2-126　SD40遺物出土状況

（SD55）

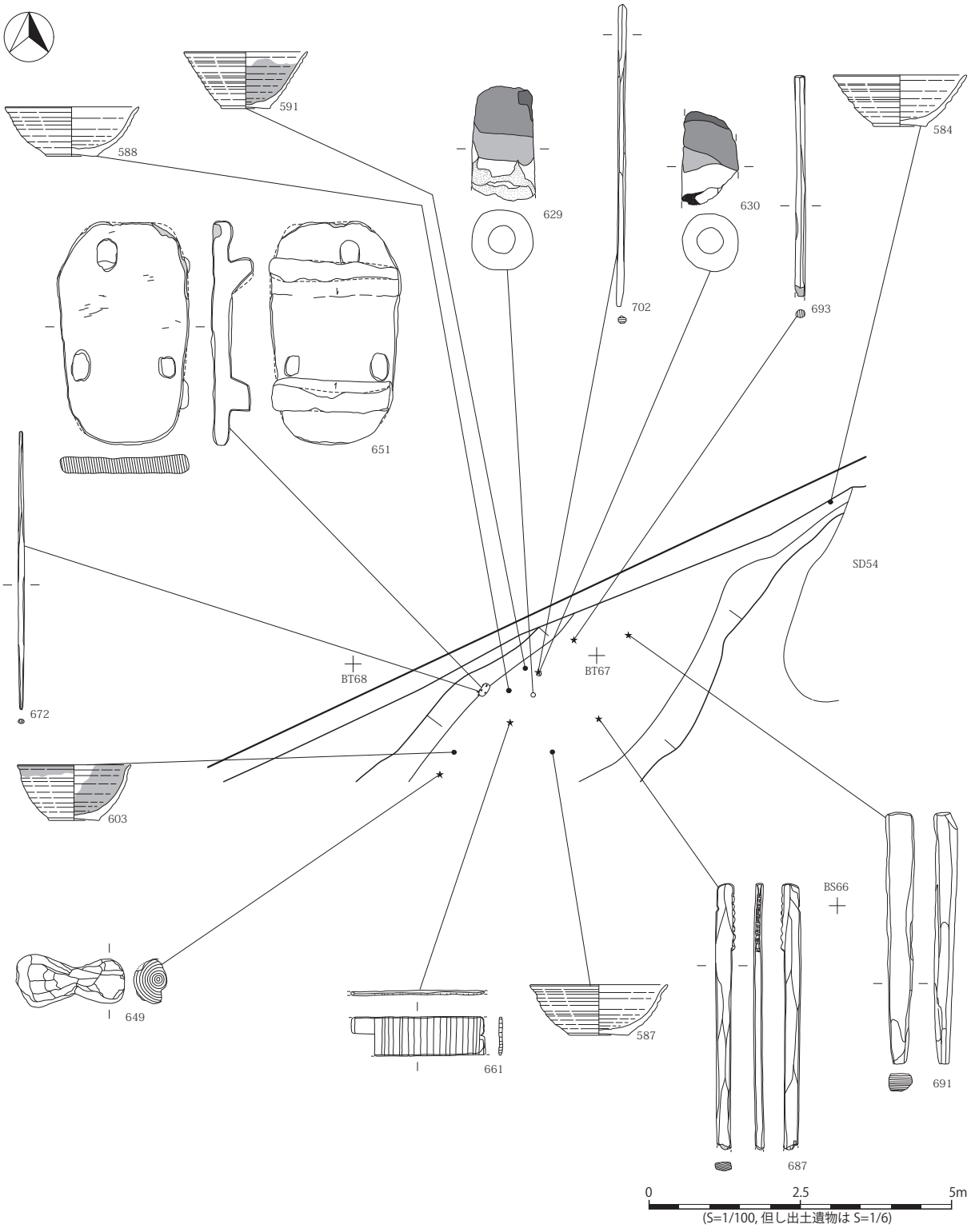
［位置・確認］グリッド BO66，67、BP・BQ66 ～ 68、BR67，68、BS66 ～ 68、BT66，67 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD24・54、SK29 と重複関係があり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中で方向を北東方向へ転じ調査区外へと延びる L 字状の溝跡である。長さ 2,630cm、幅 221 ～ 468cm、深さ



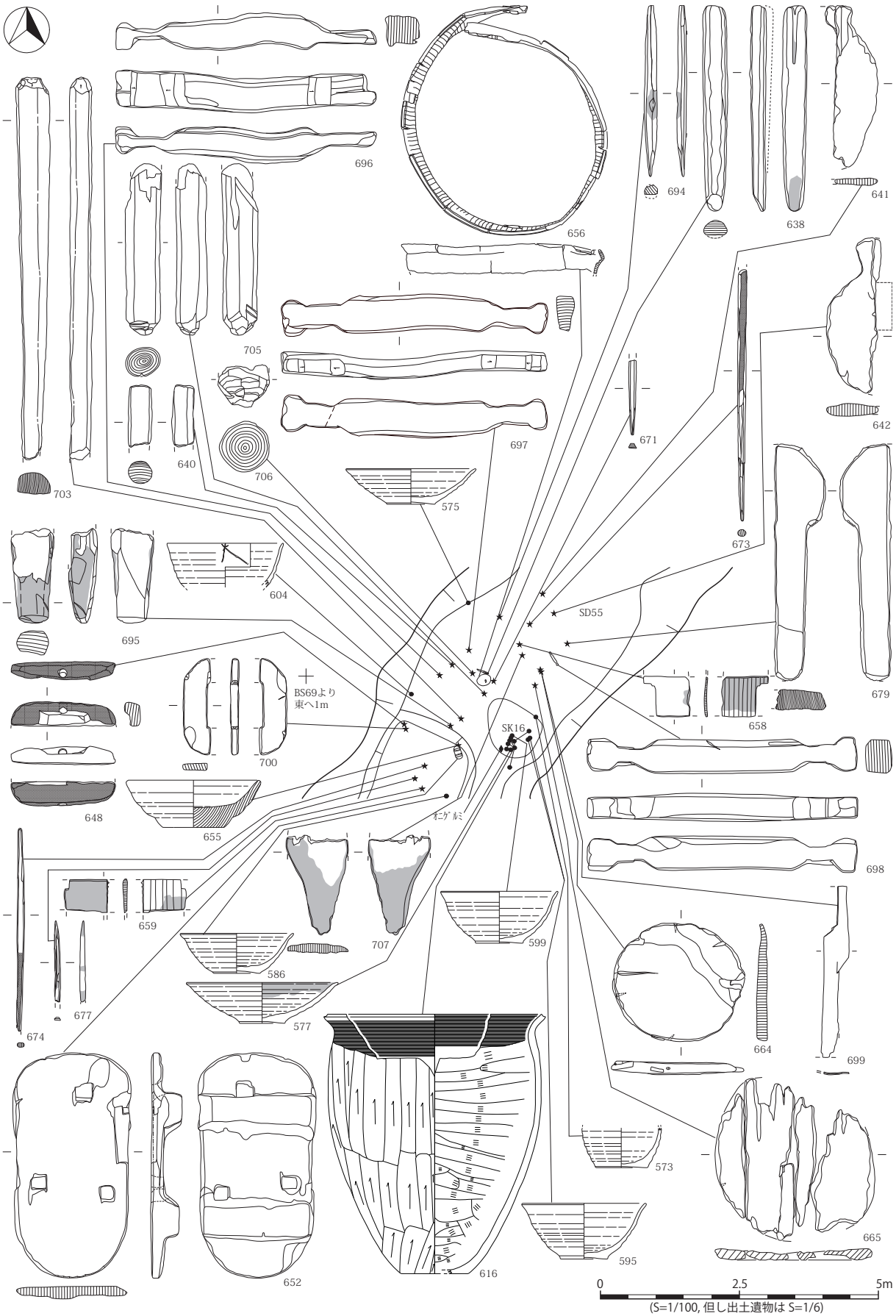
図Ⅲ-2-127　SD40出土遺物

77.5cm を測る。［堆積土］12 層確認され、黒褐色土、黒色土、Ⅲ層由来の土、Ⅳ層由来の土がが互層を形成する自然堆積層である。堆積状況を見ると最初は浅く幅広い溝跡に堆積が進行した後中心部分を再度深く掘り込んでいることが確認された。［出土遺物］土師器ミニチュア 292.3g、土師器坏 6,963.9g、土師器甕 41,925.7g、擦文土器 11.5g、須恵器甕 3,276g、須恵器壷 383.9g 等が出土している（図Ⅲ -2-128 ～ 132）。この内図示できたのは 135 点である（図Ⅲ -2-133 ～ 143）。571 ～ 573 は土師器のミニチュアの壺であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。574 は土師器の台付耳皿の中実台部であり、ロクロ成形である。575・576 は土師器の皿であり、576 は外面に墨書が見られる。577 は土師器の大型皿であり、内面に二次被熱を受け、黒色変化している。578・579 は土師器の皿形の坏であり、580 ～ 588 は土師器の椀形坏であり、582 には「大日安ヵ」の墨書が書かれている。589 ～ 603 は土師器の椀であり、589 は外面にヘラ記号が描かれている。591 は内面に二次被熱を受け、黒色変化している。601 は内面にヘラ記号が描かれている。603 は内外面に二次被熱を受け、黒色変化している。575 ～ 603 はいずれもロクロ成形後、回転糸切痕を残し、無調整である。604 ～ 607 はヘラ記号が描かれている坏であり、604・606 は外面、605 は底面、607 は内面に描かれている。608 ～ 611 は土師器の小型甕であり、608 は口縁部が内彎し、外面はケズリ調整後一部ユビナデ調整、内面はユビナデ調整が施されている。609 ～ 611 は口縁部が外彎し、口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。612 ～ 616 は土師器の長胴甕であり、いずれも口縁部が外彎する器形であり、調整は口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。617 は土師器の鍋であり、やや内彎気味に立ち上がる口縁部を有し、口縁部外面がヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。618 は擦文土器の体部破片であり、二本一組の沈線により格子文が施された後平行沈線が施されている。619 は須恵器の中甕であり、口頸部はロクロ整形、体部上半は格子タタキが確認された。620 は須恵器の長頸壷であり、ロクロ整形であ

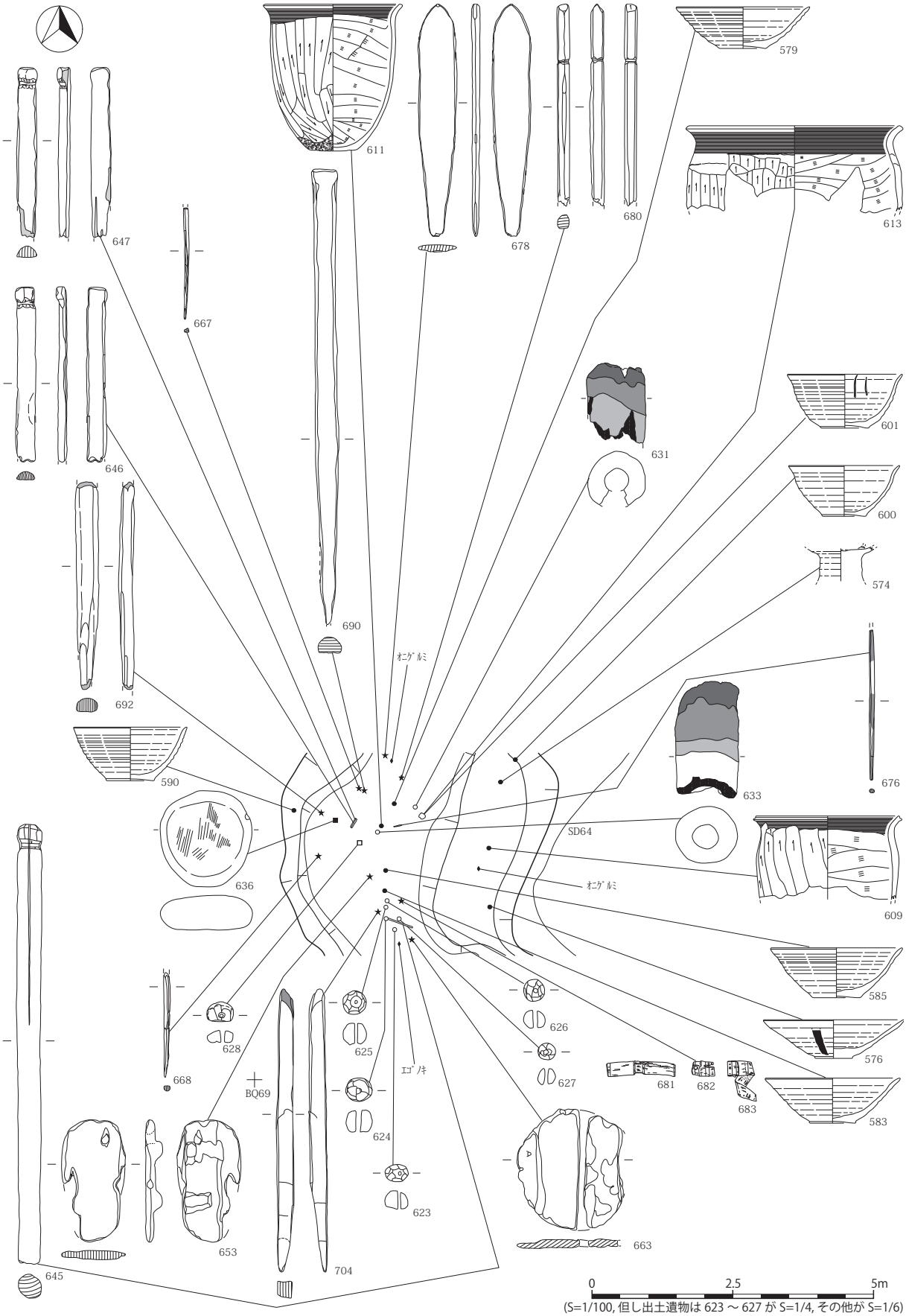
り、体部上半にはヘラ記号が描かれている。いずれも五所川原産須恵器の可能性が高いと考えられる。621・622 は内水面の網漁で使用されたと考えられる土錘であり、表面はユビナデ調整が施されている。623 ～ 627 は土玉であり、出土地点が隣接していることから、本来紐状のもので一つに纏まっていた可能性が高いと考えられる。628 は石製玉であり、材質は緑色凝灰岩である。629 ～ 633 は羽口であり、いずれもガラス質溶融物、還元面、酸化面が確認された。今回の調査では確認できなかっ



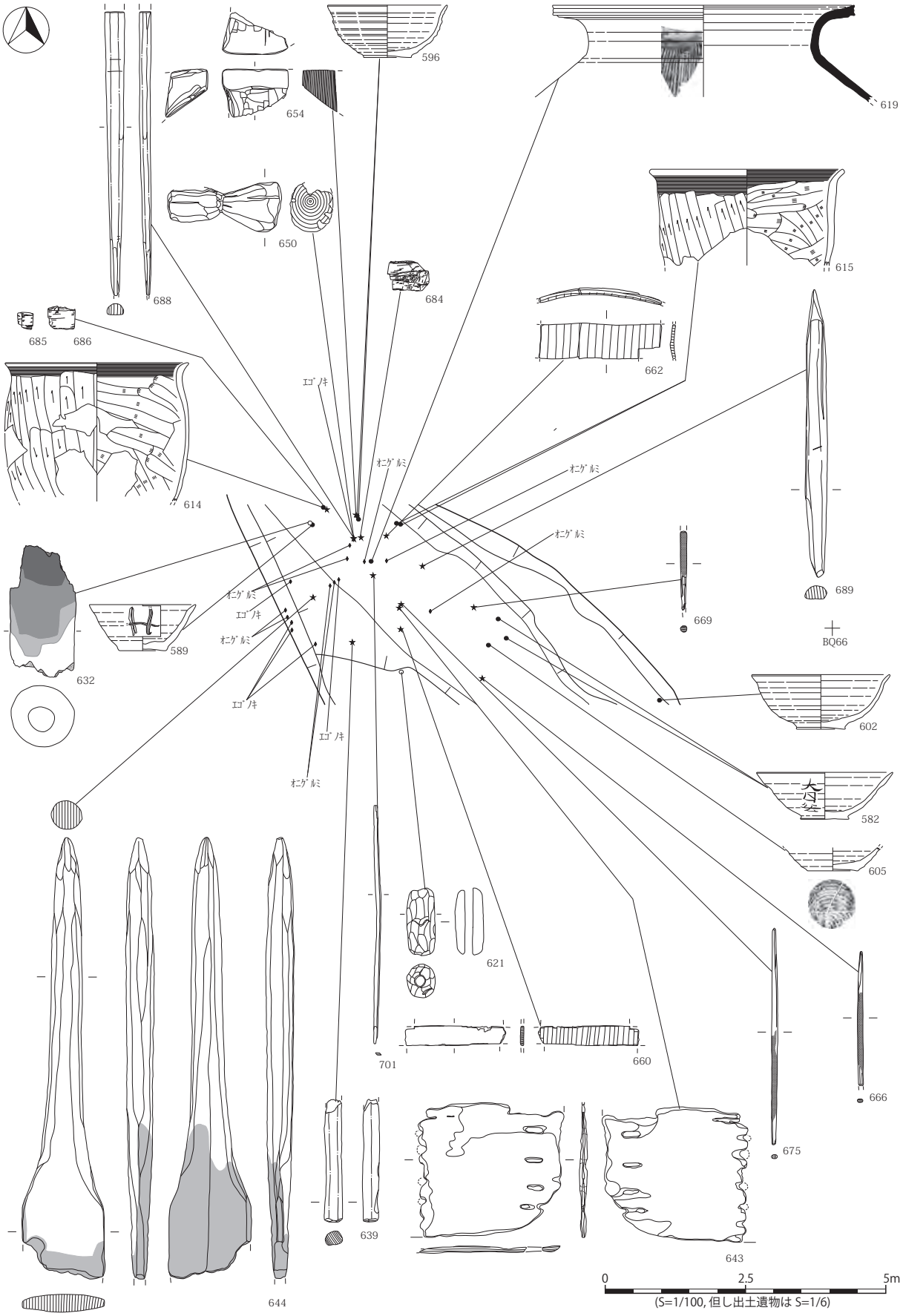
図Ⅲ-2-128　SD55遺物出土状況(1)



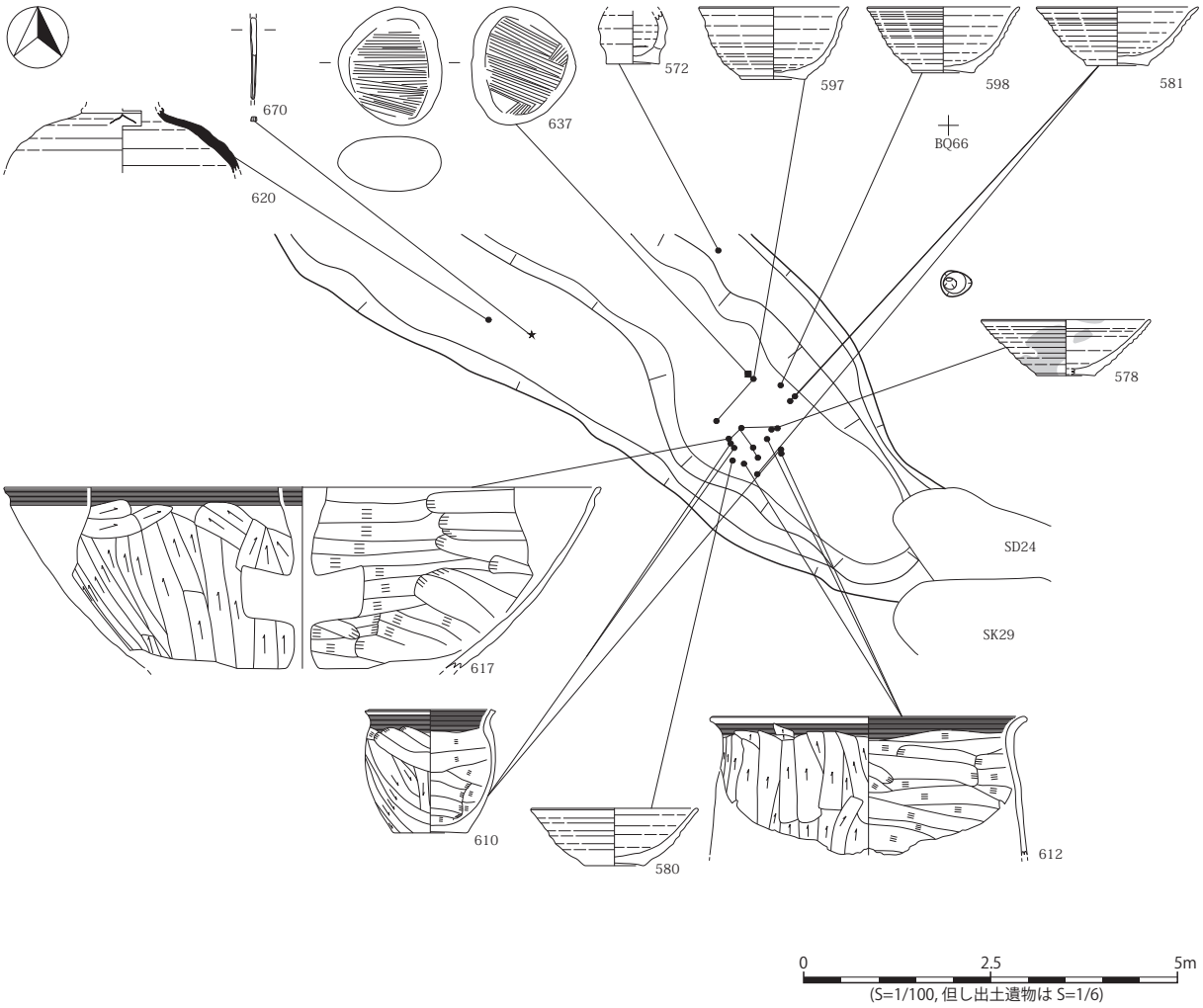
図Ⅲ-2-129　SD55遺物出土状況(2)



図Ⅲ-2-130　SD55遺物出土状況(3)



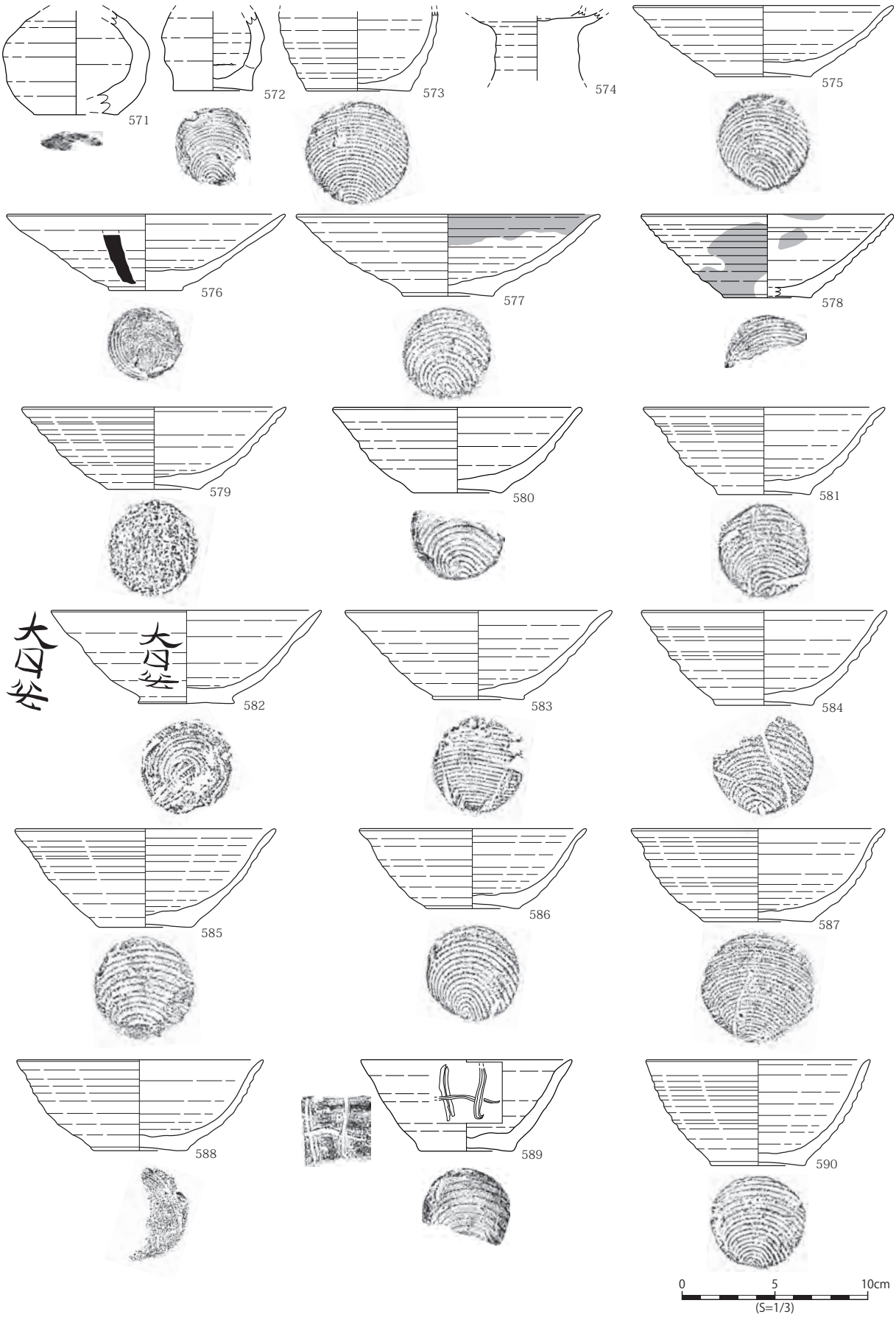
図Ⅲ-2-131　SD55遺物出土状況(4)



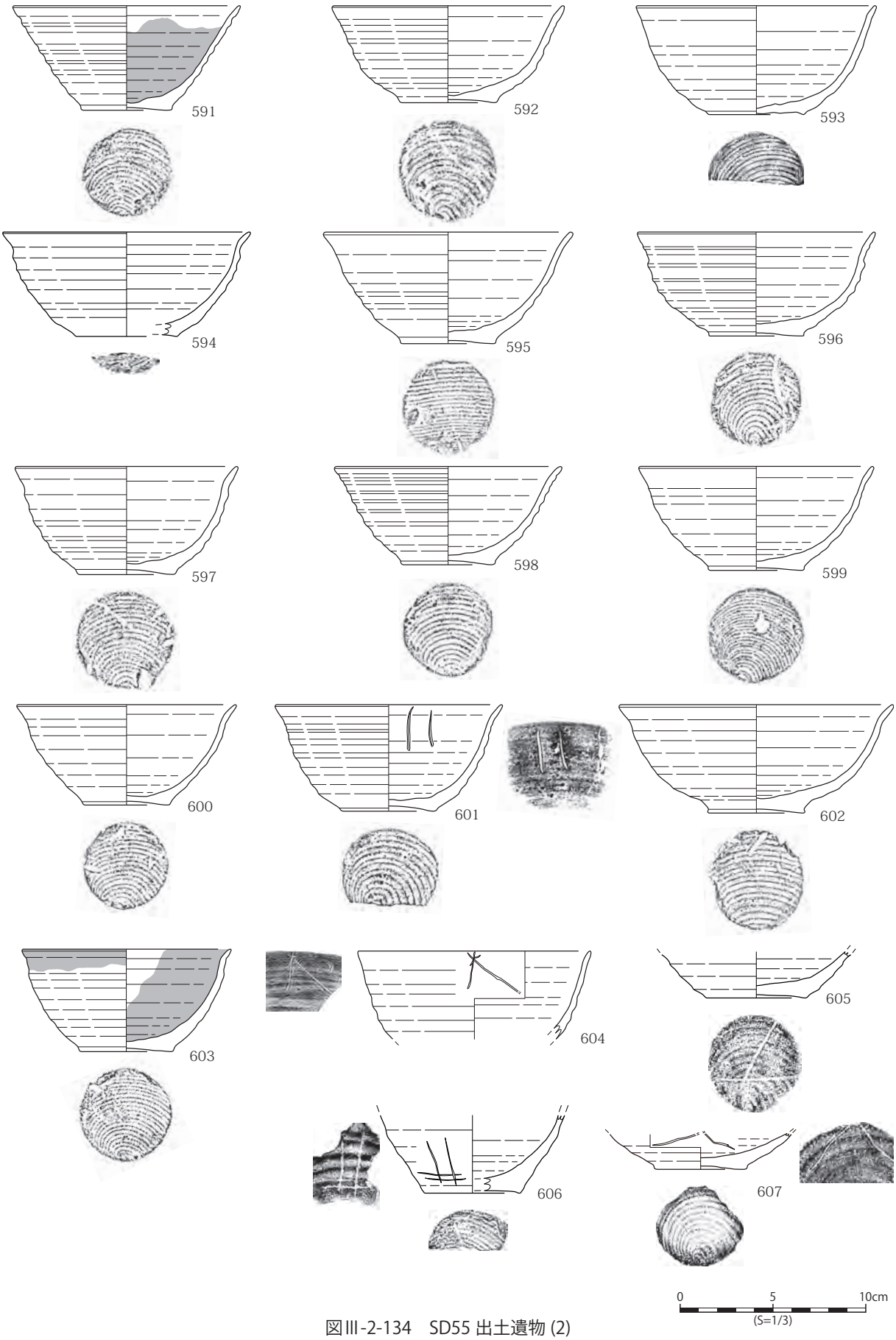
図Ⅲ-2-132　SD55遺物出土状況(5)

たが、付近に製鉄関連の遺構があるものと考えられる。634 ～ 637 は砥石であり 634・637 は角礫、635・636 は扁平な円礫を使用し、いずれも平坦面を砥面としている。637 は二次被熱により一部黒色変化している。材質は 634 が硬質泥岩、635・636 が安山岩、637 が流紋岩である。

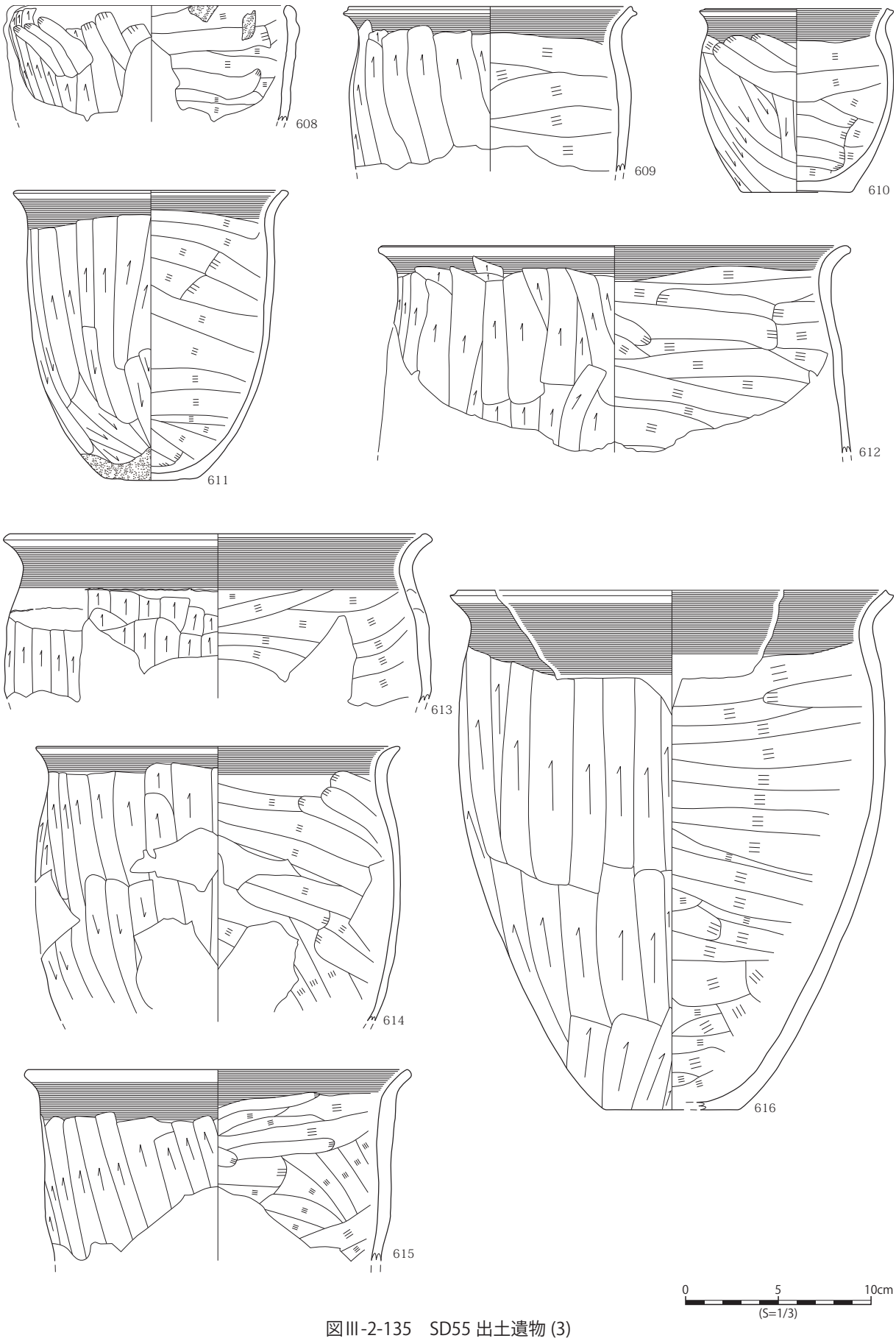
638 はヤリガンナ柄であり、639・645 は不明柄である。いずれも芯無削り出しであり、中央部を細く削り出している。638 は装着用の溝が切られている。645 は持ち手上端に有頭状の作り出しが見られる。樹種はいずれもアスナロである。641・642 は農耕土木具の鍬身破損品であり、いずれも柄装着部の臍孔より破損している。樹種はカエデ属である。643 は農耕土木具の泥除けであり、鍬身に装着し､固定するための孔が多数確認された｡樹種はアスナロである｡644 は掘削具の小鋤であり、持ち手の先端部を尖らせており、刃部は炭化により欠損している。樹種はアスナロである。646・647 は編み具・紡織具の布巻具であり、断面半円形、中央部平滑で、一端部に括れを作り紐の固定部を作り出している。樹種はアスナロである。648 は繊維処理具の苧引き金であり、中央部を掘り込んで側面に穿孔がある。刃部装着部は欠損しており、全体が手擦れにより磨滅している。樹種はアスナロである。649・650 は編台の錘であり、芯持丸木を使用し、中央部分に括れを作り、独鈷状の形状を呈する。樹種はクワ属である。651 ～ 654 は服飾具の下駄であり、654 は歯のみである。いず



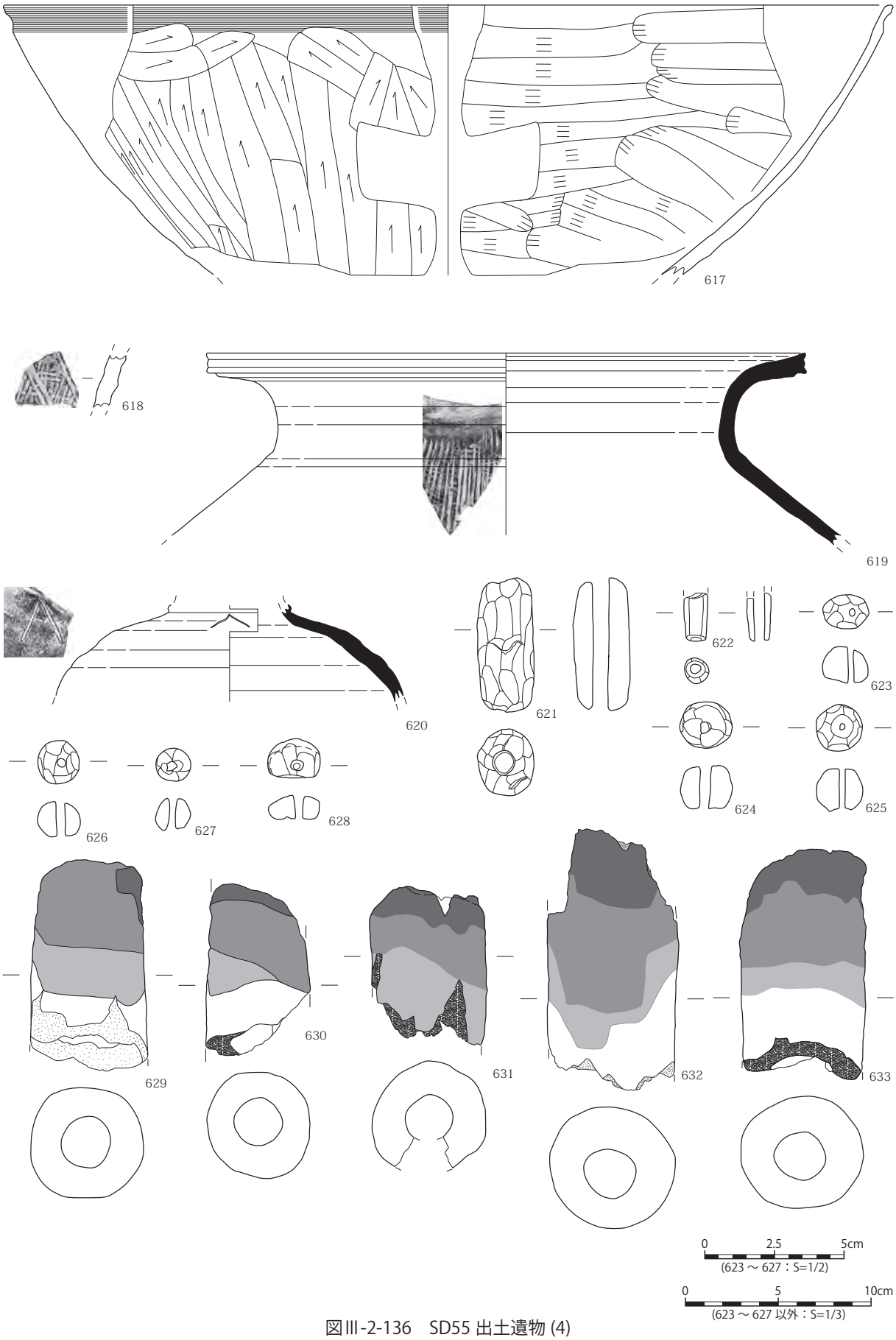
図Ⅲ-2-133　SD55 出土遺物 (1)



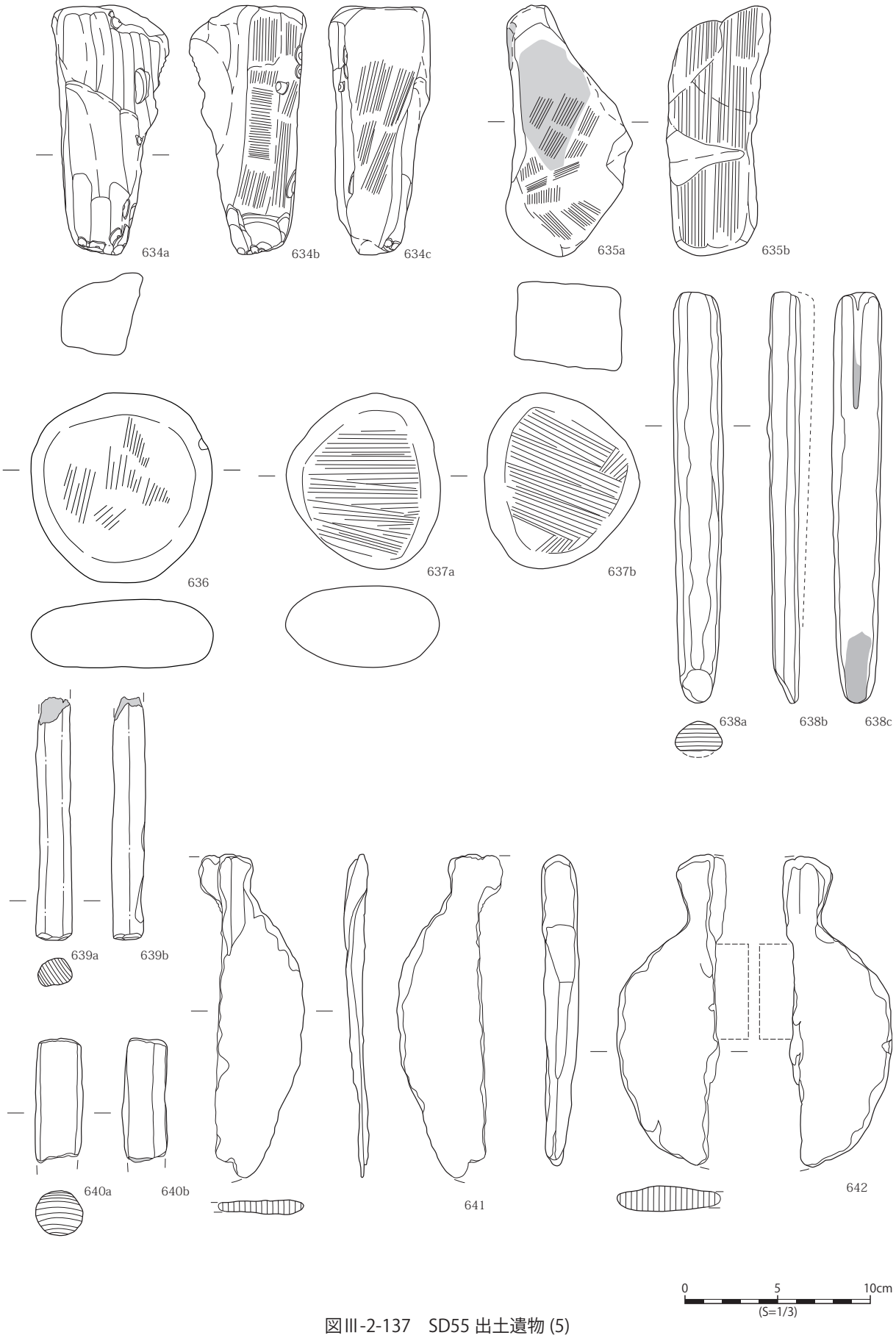
図Ⅲ-2-134　SD55 出土遺物 (2)



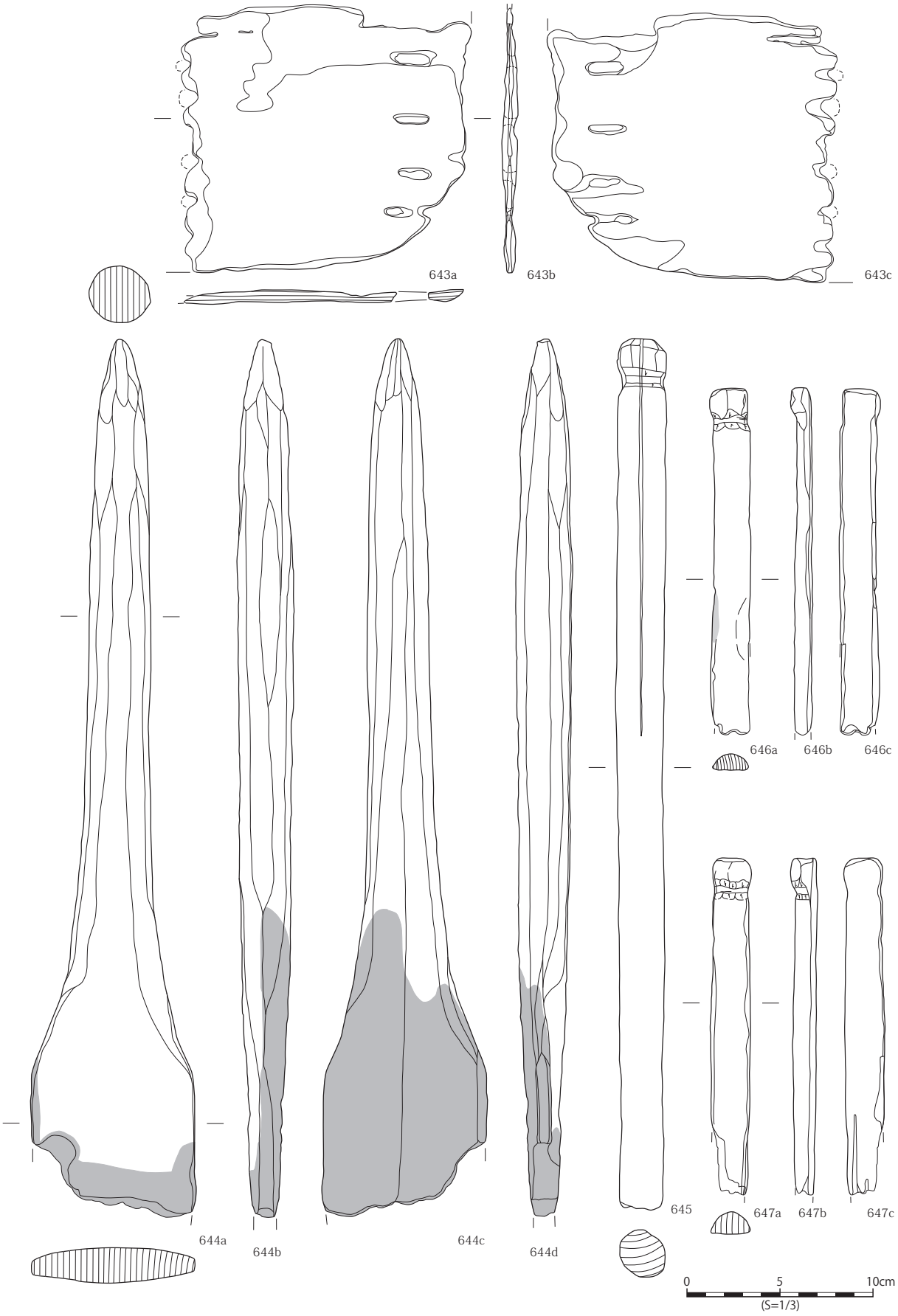
図Ⅲ-2-135　SD55 出土遺物 (3)



図Ⅲ-2-136　SD55 出土遺物 (4)

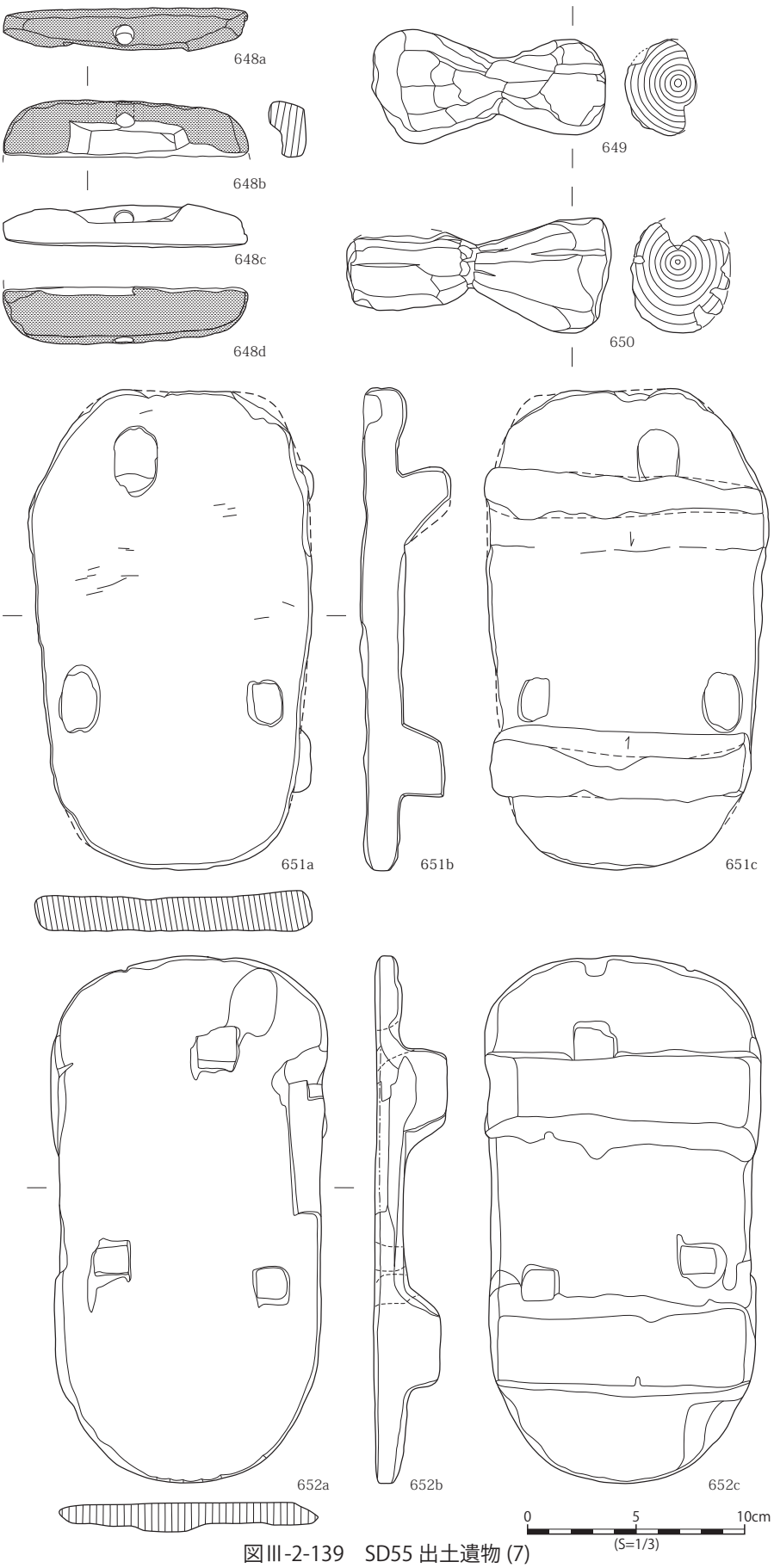


図Ⅲ-2-137　SD55 出土遺物 (5)

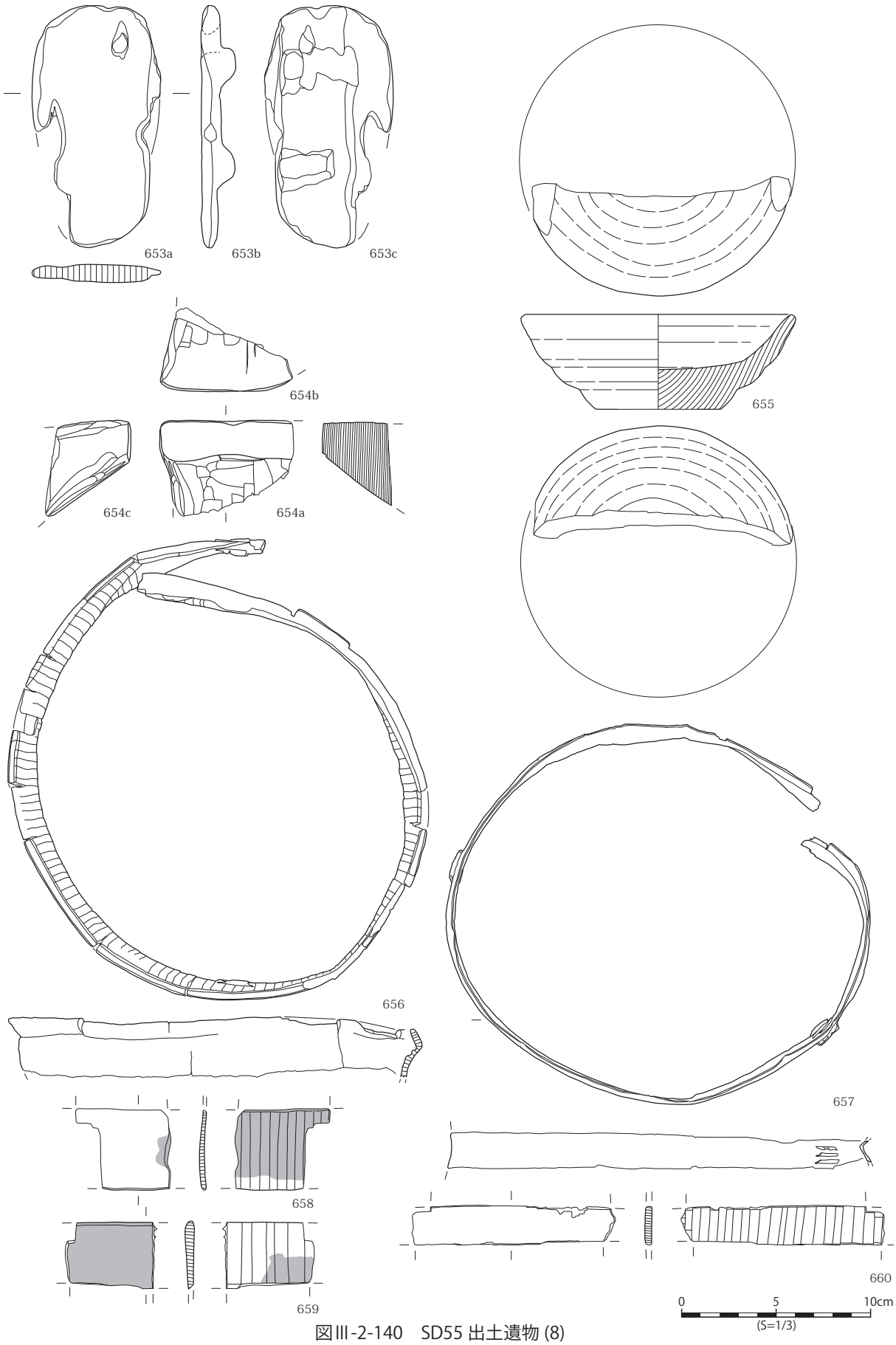


図Ⅲ-2-138　SD55 出土遺物 (6)

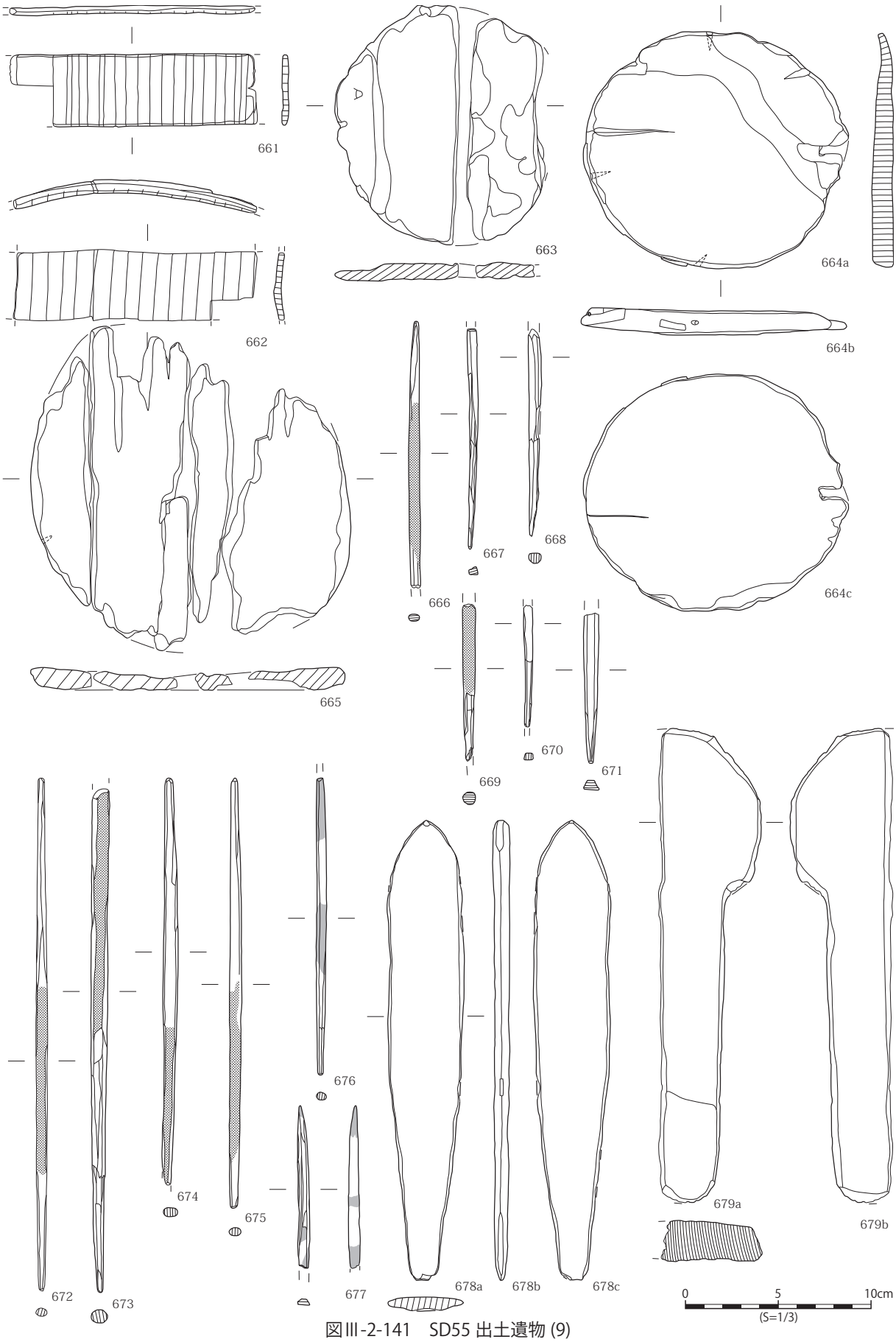
れも平面形は隅丸長方形を呈し、連歯である。樹種はいずれもアスナロである。655は挽物の皿であり、横木取り、両面にロクロ目を残している。樹種はアスナロである。656～662は曲物側板であり、いずれも内面にケビキ線を有し、656・657は樹皮綴じが見られる。663は曲物底板か蓋であり、綴じ方は不明である。664・665は曲物底板であり、木釘綴じであり、664は一部側板が残存している。樹種はいずれもアスナロである。666～675は箸であり、細長い棒状の割材の両端を細く削り出し、握り部は製作時のミガキか使用時の磨滅か不明であるが、擦り面が見られる。樹種は670のマツ属単維管亜属以外はいずれもアスナロである。676・677は箸からの転用串であり、使用中に焼成したと考えられる炭化部が見られる。678は祭祀具の斎串であり、片側山形で片側を尖らせる形状を呈する。樹種はアスナロである。679・680は構



図Ⅲ-2-139　SD55出土遺物(7)

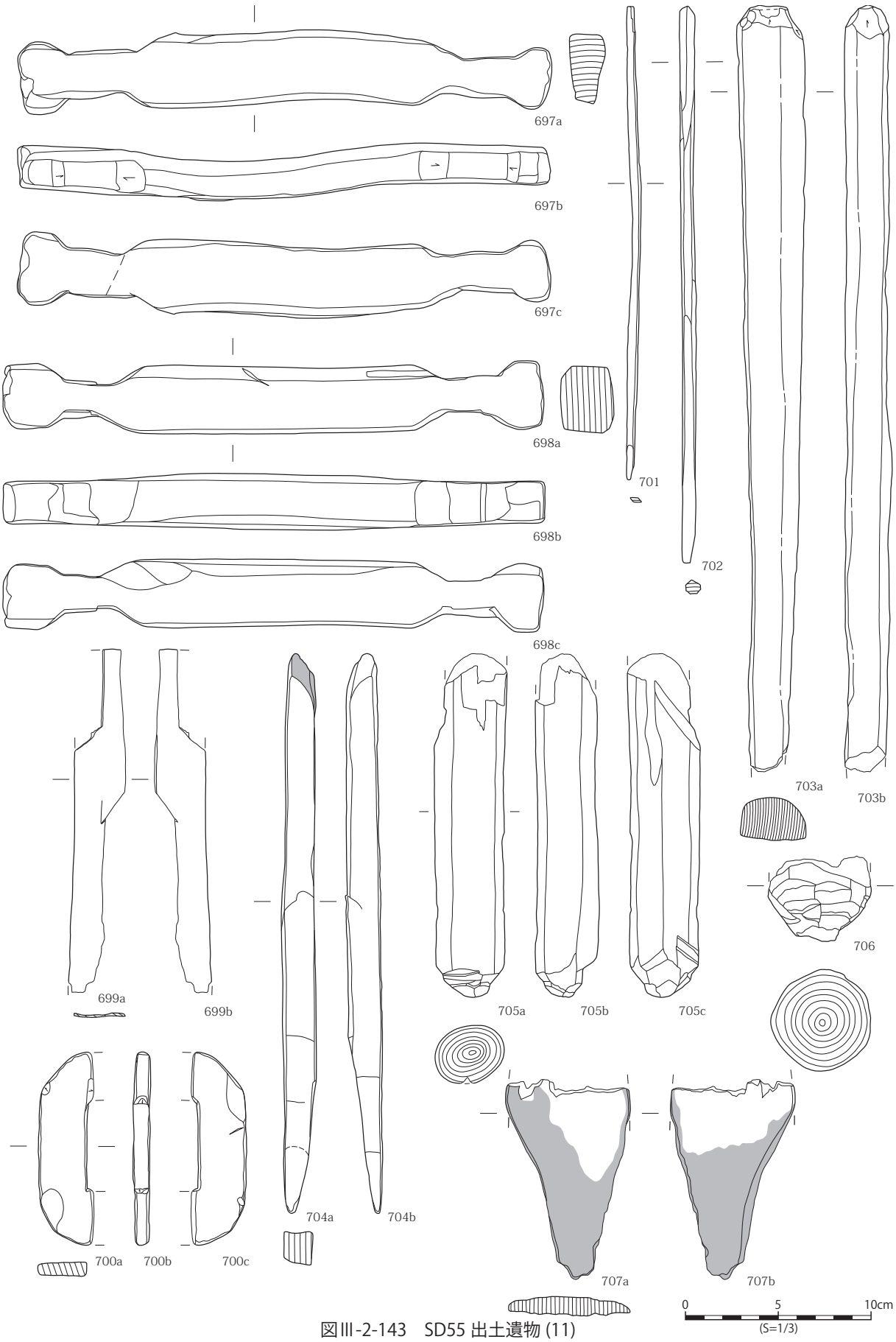


図Ⅲ-2-140　SD55 出土遺物 (8)



図Ⅲ-2-141　SD55 出土遺物 (9)

図Ⅲ-2-142　SD55 出土遺物 (10)



図Ⅲ-2-143　SD55 出土遺物 (11)

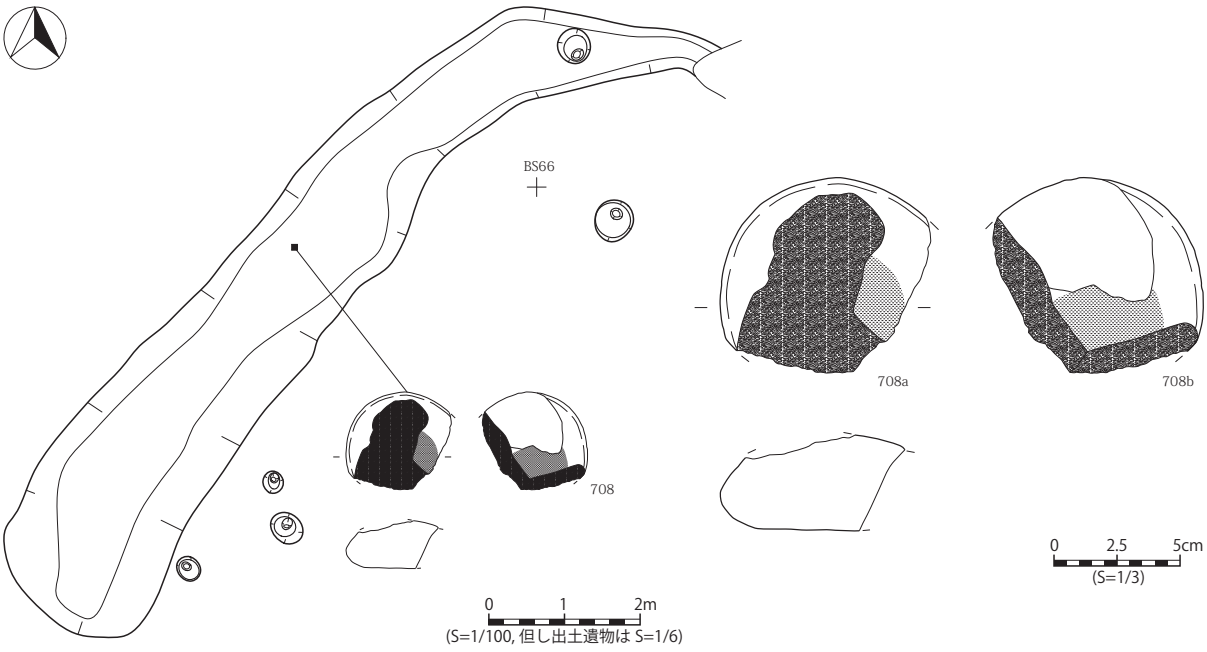
造部材であり、679 は留め具の木栓であり、全体を手斧で仕上げ、頭部を幅広に作り栓としている。下端部には段差を有する。680 は糸掛痕を有するが用途不明部材とした。樹種はいずれもアスナロである。681 ～ 686 は結合補助材の樹皮巻であり、樹種はいずれも針葉樹樹皮である。687 ～ 698 は棒状の不明製品である。687 は 8 つのキザミ目を有し、側面は面取り調整が施されている。694 は焼成材の二次加工品であり、両端を尖らせており、祭祀具の串の可能性が考えられる。695 は柄の可能性が考えられる。樹種は 695 がカエデ属であり、それ以外はいずれもアスナロである。699・700 は板状の不明製品であり、樹種はアスナロである。701 は箸状の残材であり、702 ～ 707 は加工木であり、樹種は 705 がクワ属、706 がヤナギ属であり、それ以外はアスナロである。

（SD64）

［位置・確認］グリッド BQ67、BR66，67、BS65，66 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD42 と重複関係があり、SD42 よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延び、途中で方向を東へと転じる L 字状の溝跡である。現存長 1,218cm、幅 44 ～ 226cm、深さ 40.5cm を測る。［堆積土］2 層確認され、Ⅲ層由来の層とⅣ層由来の層が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 147g、土師器甕 471g、須恵器壷 67g、石器 275.2g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-144）。708 は砥石であり、扁平な円礫を使用しており、平坦面を砥面として使用している。材質は玄武岩である。

（SD42）

［位置・確認］グリッド BR63 ～ 65、BS64，65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD64 と重複関係があり、SD64 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 822cm、幅 136 ～ 284cm、深さ 38.5cm を測る。［堆積土］6 層確認され、黒褐色土、黒色土、Ⅳ層由来の土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 10.1g、土師器坏 2,125.4g、土師器甕 7,179g、須恵器甕 2,455g、須恵器壷 62g が出土している（図

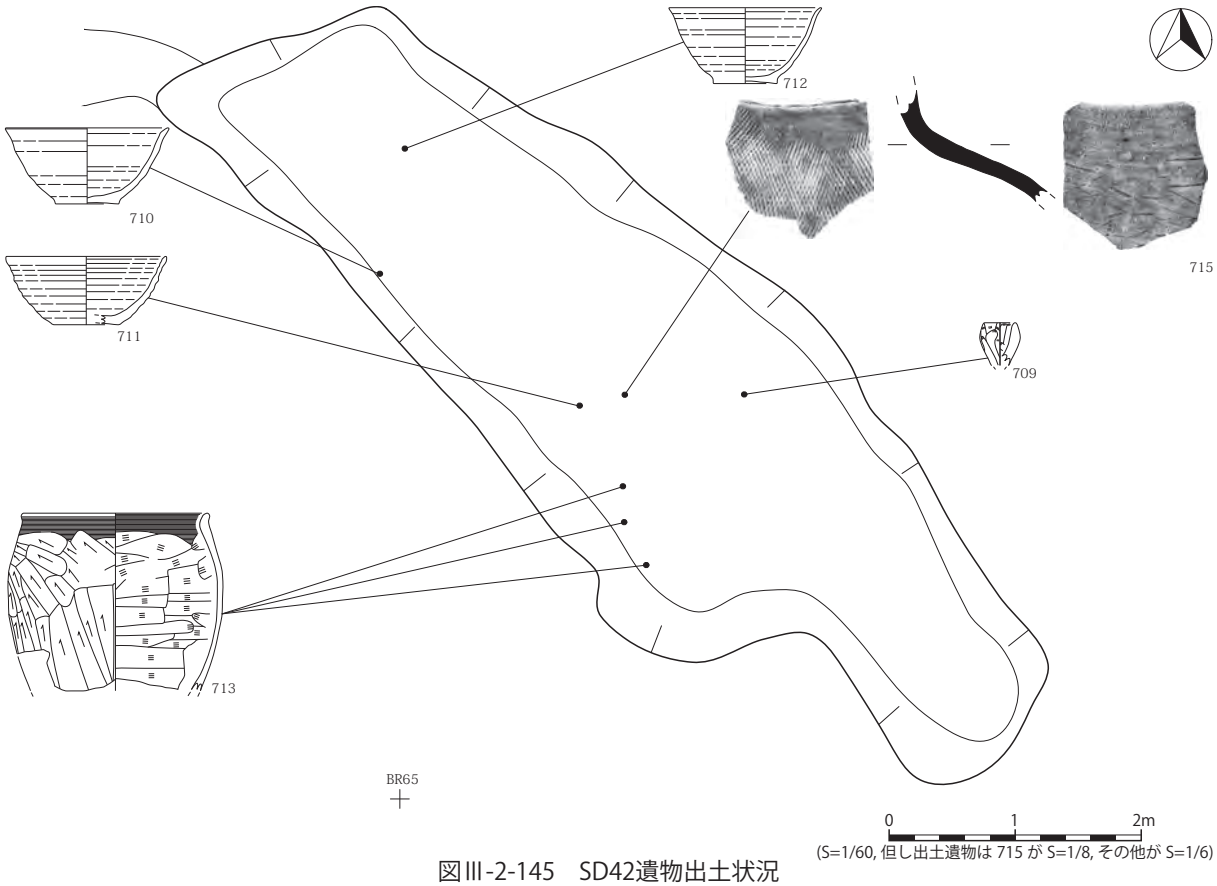


図Ⅲ-2-144　SD64遺物出土状況と出土遺物

Ⅲ-2-145)。この内図示できたのは 9 点である（図Ⅲ-2-146)。709 は、土師器のミニチュアの甕であり、非ロクロ成形で内外面にユビナデ調整が施されている。710 ～ 712 は土師器の埦であり、いずれもロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。713 は土師器の小型甕であり、口縁内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。714 ～ 716 は須恵器の中甕であり、714 は口縁部から肩部にかけての破片であり、頸部は平行タタキ成形後、ロクロナデ調整が施され、肩部は格子タタキ成形されている。715 は、頸部～肩部にかけての破片であり、調整は 714 と同様であるが、タタキ成形の際内面に鳥足状の当て具を使用している。716 は体部下半から底部にかけての破片資料であり、底面付近では格子タタキ目が見られる。717 は叩石で、扁平な円礫の平坦部を利用している。材質は安山岩である。

(SD54)

［位置・確認］グリッド BS・BT65，66、BU65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD40・55、SK28 と重複関係があり、SK28 よりも古く、SD40・55 よりも新しい。［規模・形状］南西方向から北東方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。長さ 435cm、幅 141 ～ 163cm、深さ 30cm を測る。［堆積土］7 層確認され、1 層はⅢ層由来の土、それより下層は黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 170.7g、土師器坏 410g、土師器甕 866g、須恵器甕 39g 等が出土している（図Ⅲ-2-147)。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅲ-2-148)。718・719 は土師器のミニチュアの短頸壺であり、いずれもロクロ成形である。720 は把



(S=1/60, 但し出土遺物は 715 が S=1/8, その他が S=1/6)

図Ⅲ-2-145　SD42遺物出土状況

手付土器の把手部であり、外面はユビナデ調整が施されている。721 は曲物側板であり、内面にケビキ線がひかれており、外面には二次被熱により黒色炭化している。樹種はアスナロである。

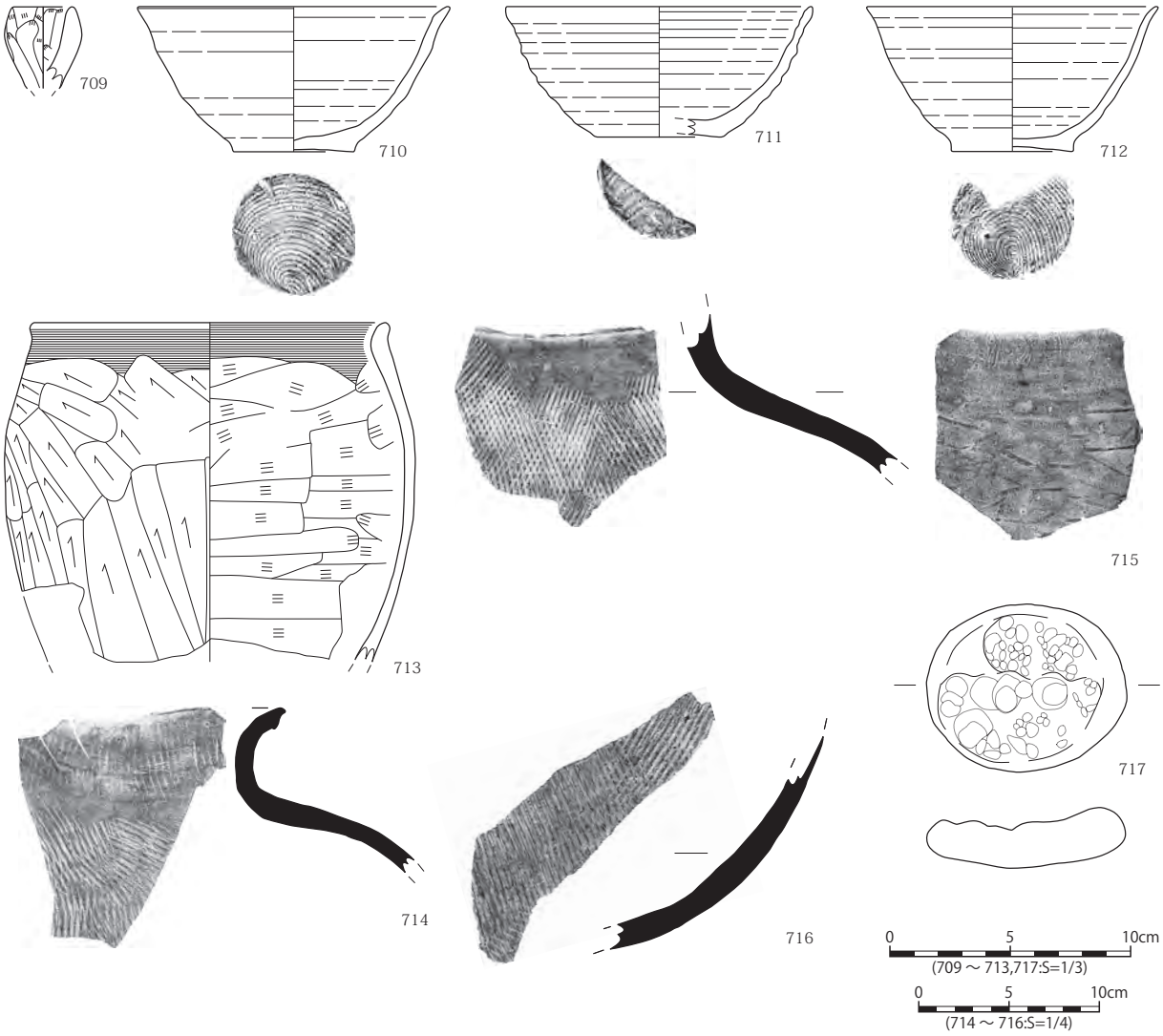
（SD63）

［位置・確認］グリッド BQ・BR65, 66 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］なし。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 495cm、幅 159 ～ 183cm、深さ 42.5cm を測る。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土と黒色土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 511,1g、土師器甕 4,524.8g が出土している（図Ⅲ -2-149）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -2-150）。722 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底部は回転糸切痕を残し未調整である。723 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。［時期］堆積状況から SD42 と同時期の可能性が高く、Ⅱ期であると考えられる。

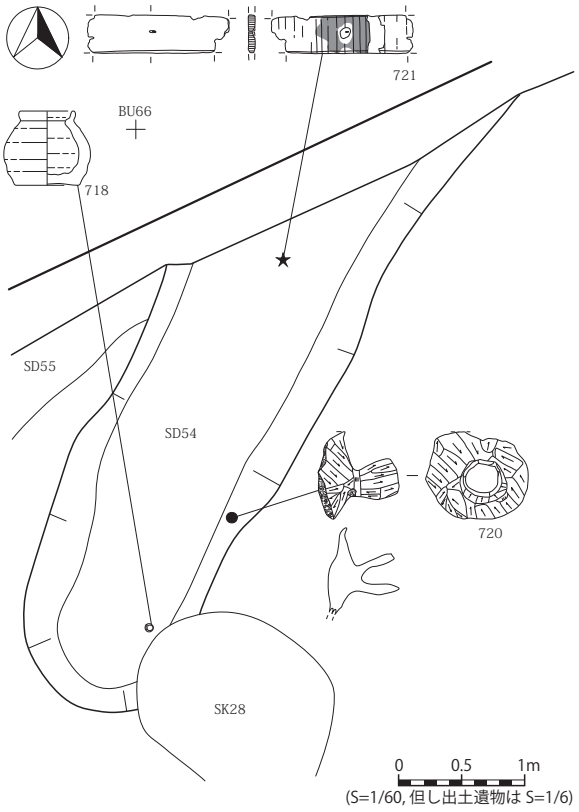
第 45・48・52 号溝跡（SD45・48・52、図Ⅲ -2-151）

（概要）

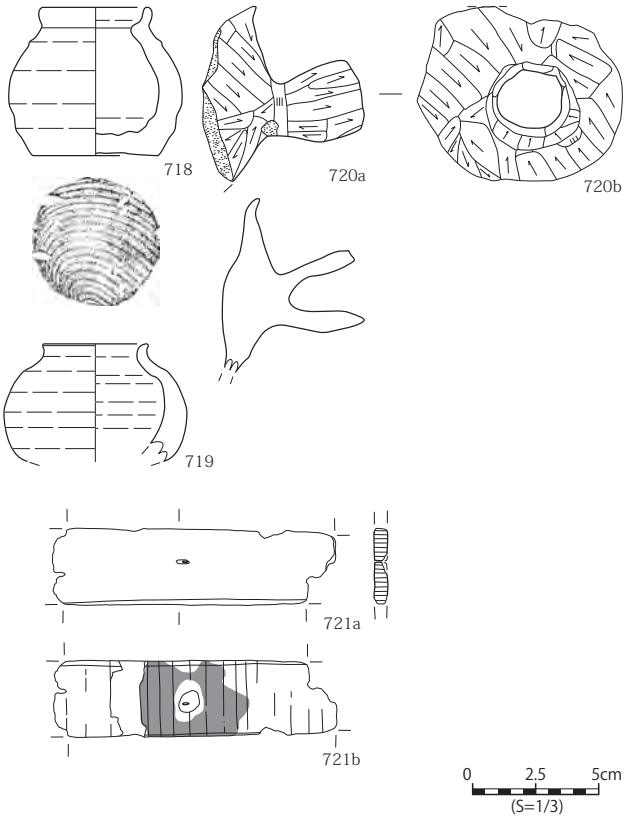
調査区中央北端に位置し、直線状の溝跡 3 条により、南東方向に開口部を有するコの字状の溝跡を



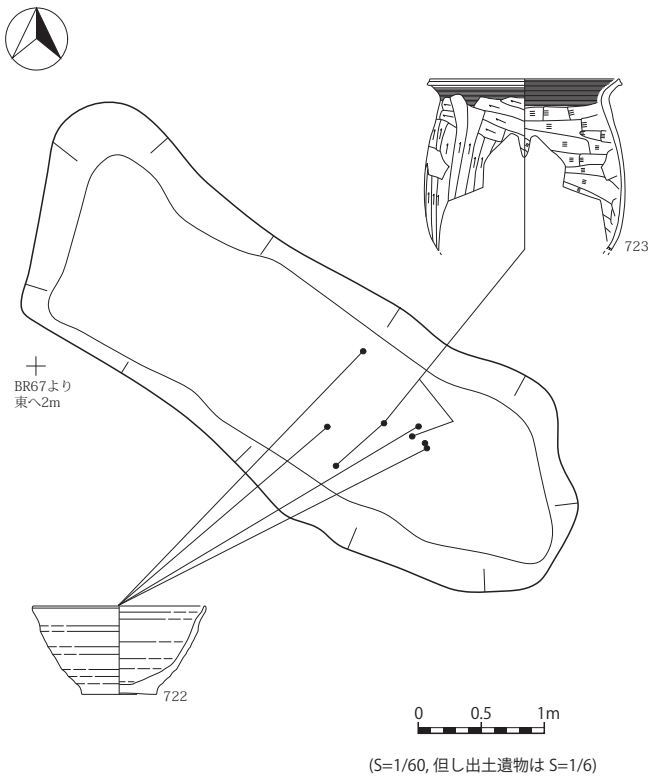
図Ⅲ-2-146　SD42出土遺物



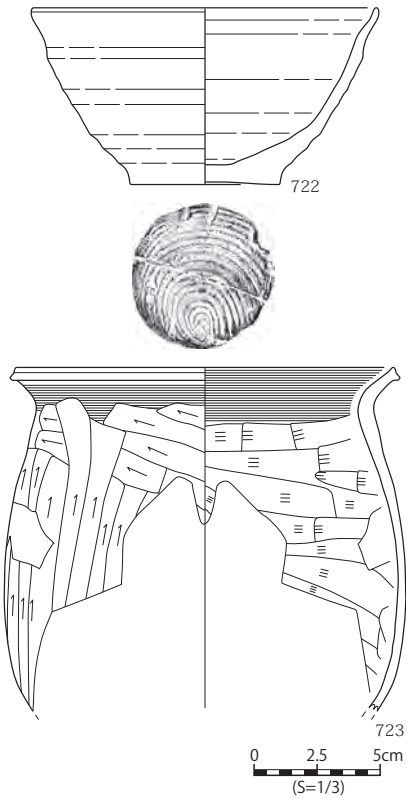
図Ⅲ-2-147　SD54遺物出土状況



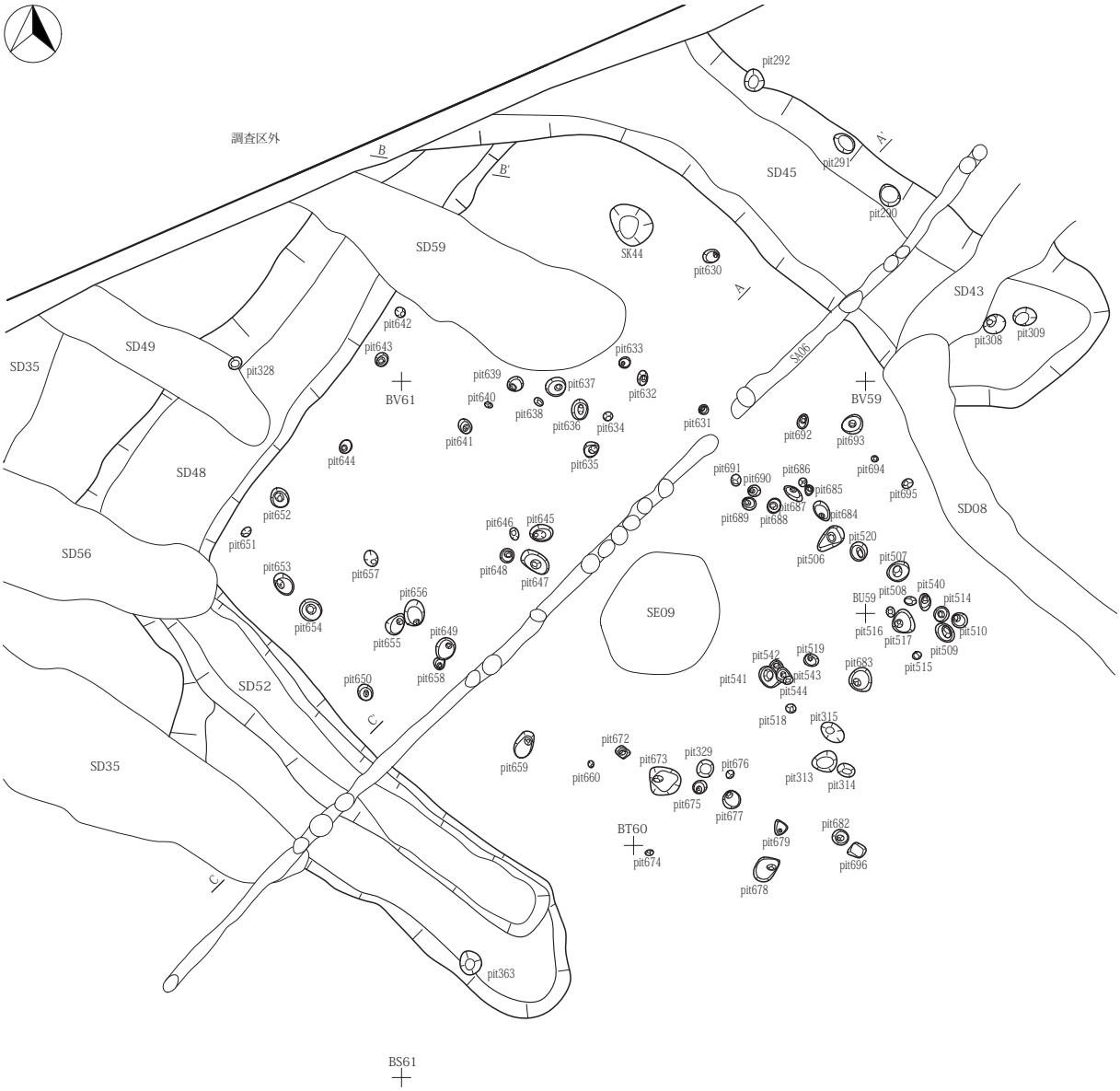
図Ⅲ-2-148　SD54 出土遺物

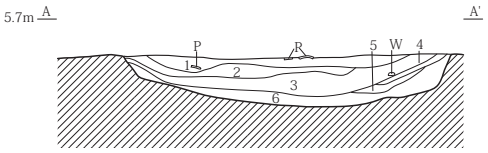


図Ⅲ-2-149　SD63遺物出土状況



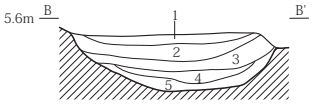
図Ⅲ-2-150　SD63出土遺物





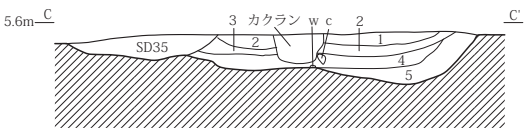
SD45土層観察表(A-A')

1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
5層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
6層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物微量



SD48土層観察表(B-B')

1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
5層　7.5Y4/1　灰色　シルト　鉄分少量、炭化物微量



SD52土層観察表(C-C')

1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
5層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

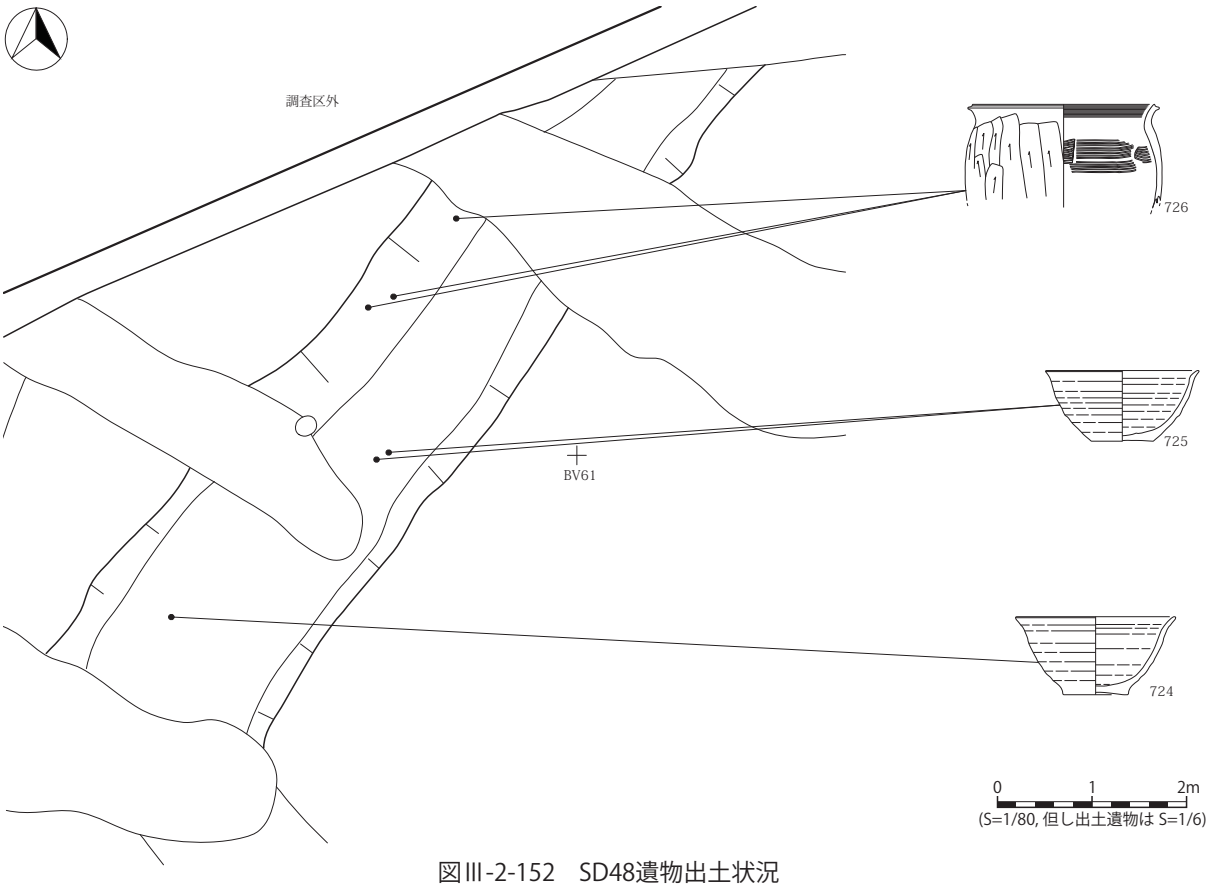
0　2.5　5m
(S=1/120 但し、セクション図は S=1/60)

図Ⅲ-2-151　SD45・48・52

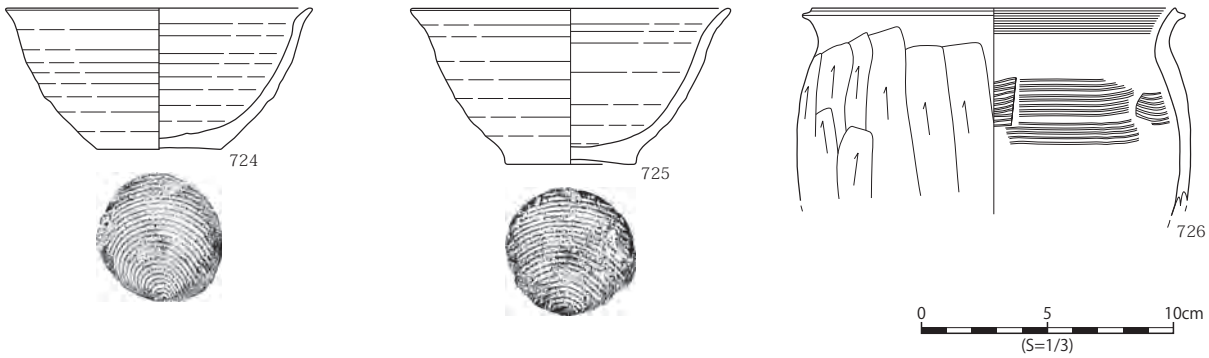
構成している。溝跡内には井戸跡 SE09 を有し、その周囲を囲むように小さな柱穴が存在するため、井戸小屋が存在していた可能性が高いと考えられる。柵列 SA06 よりも古いため、Ⅰ期あるいはⅡ期の可能性が高いと考えられる。

（SD48）

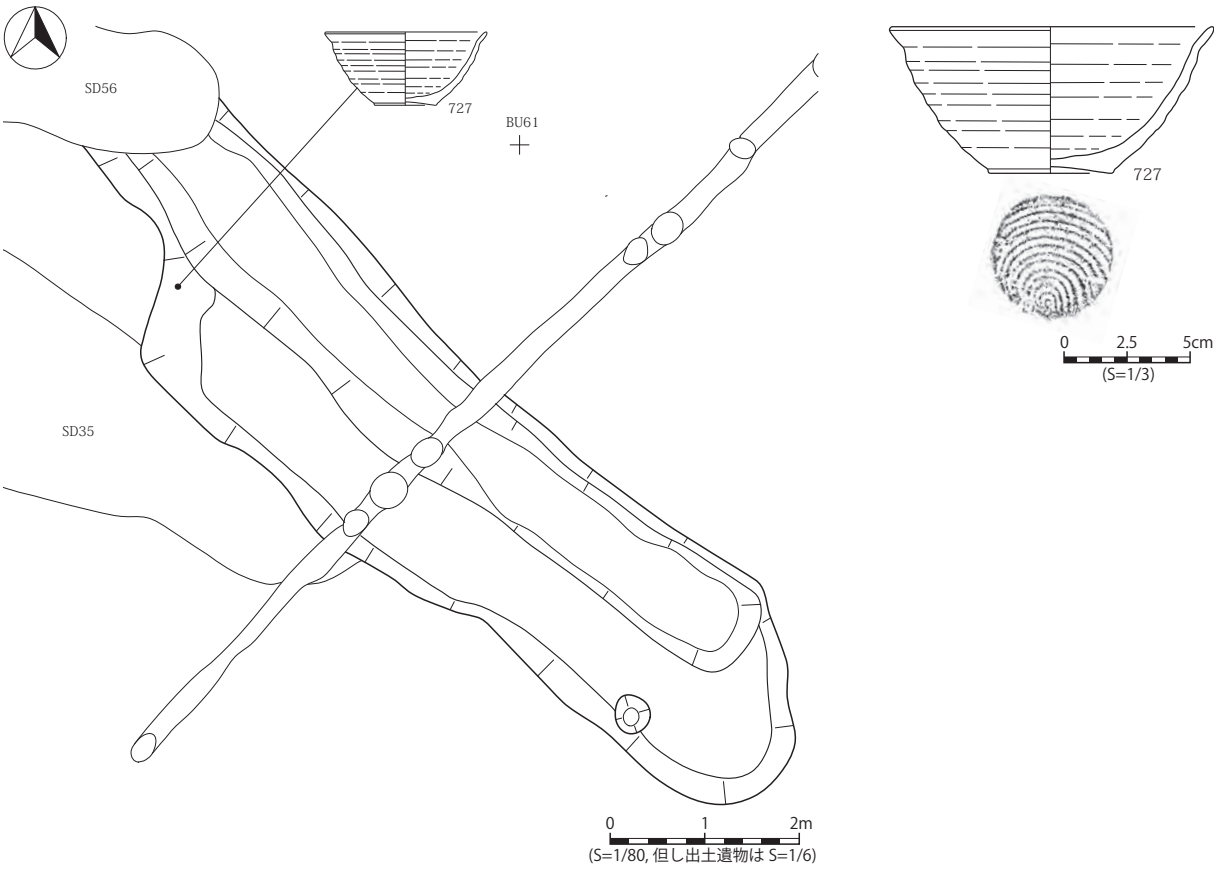
［位置・確認］グリッド BU61, 62、BV60, 61、BW60 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD45・49・56・59 と重複関係にありいずれの遺構よりも古い［規模・形状］南西方向から北東方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。現存長 722cm、幅 202 ～ 243cm、深さ 42.5cm を測る。［堆積土］5 層確認され、Ⅲ層由来の土とⅣ層由来の土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 1,566.2g、土師器甕 2,234g、須恵器甕 59g が出土している（図Ⅲ -2-152）。この



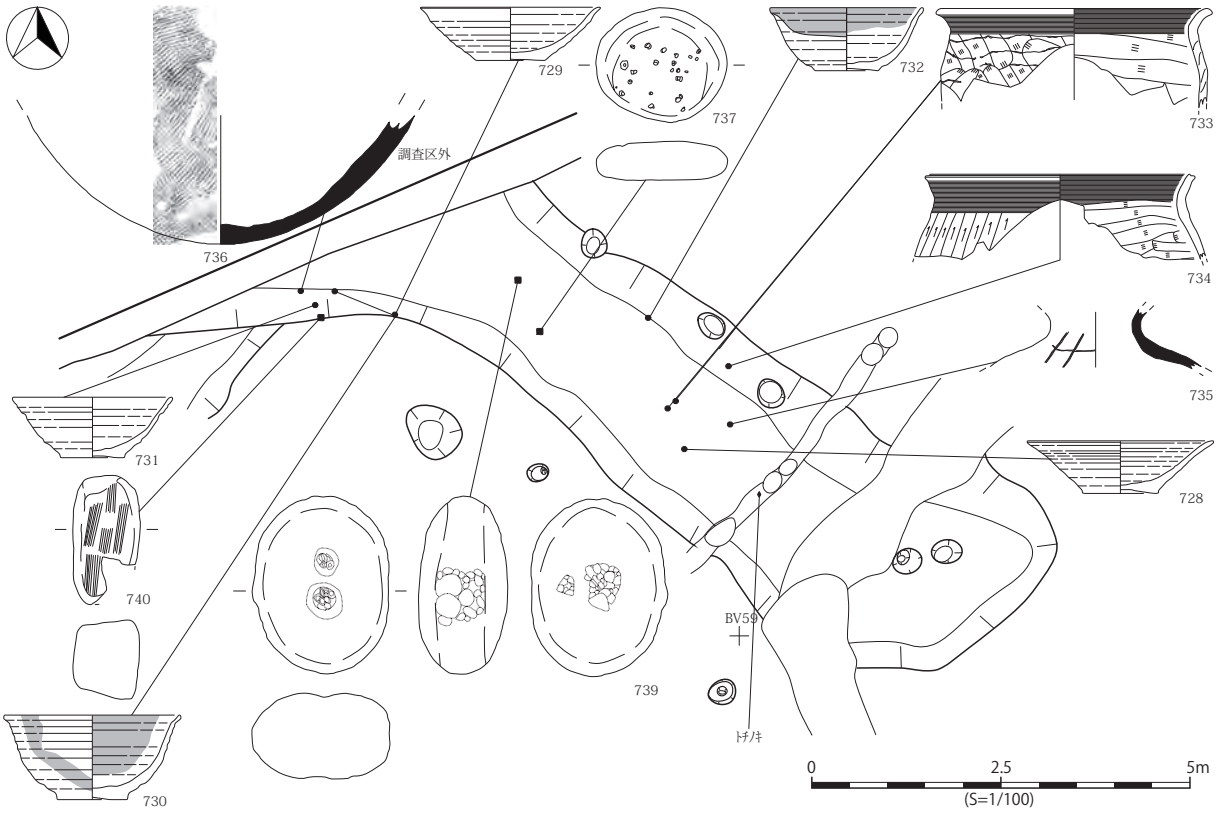
図Ⅲ-2-152　SD48遺物出土状況



図Ⅲ-2-153　SD48出土遺物



図Ⅲ-2-154　SD52遺物出土状況と出土遺物

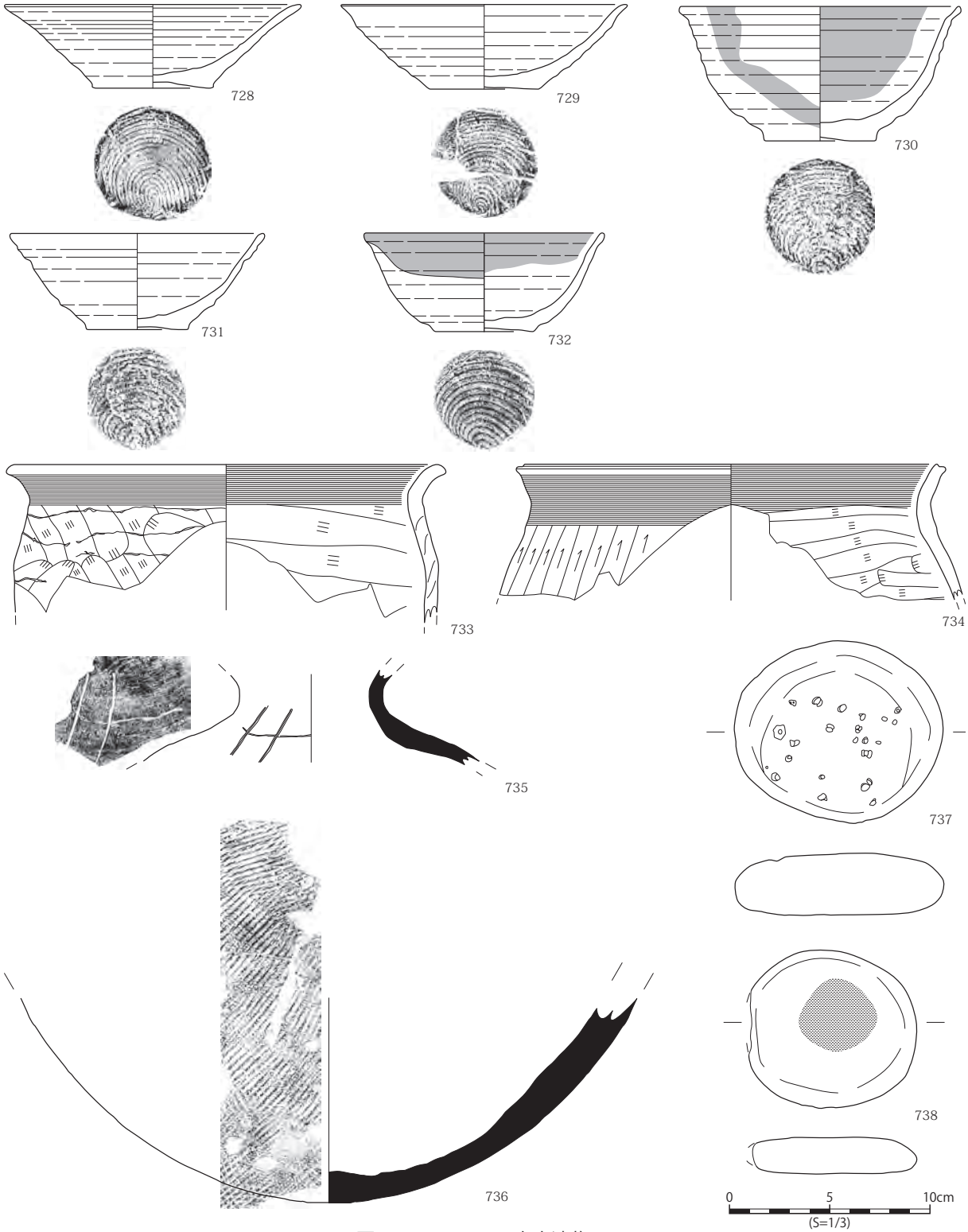


図Ⅲ-2-155　SD45遺物出土状況

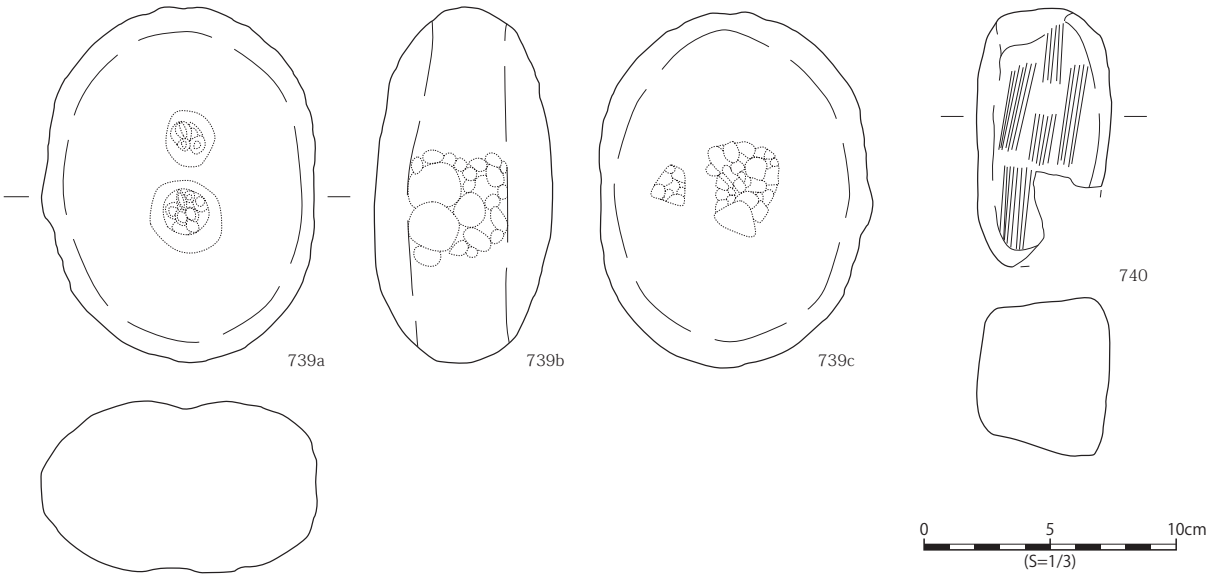
内図示できたのは３点である（図Ⅲ -2-154）。724・725 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。726 は土師器の小型甕であり、外面はケズリ調整、内面は口縁部がヨコナデ調整、体部はヘラナデ調整が施されている。［時期］ Ⅱ期であると考えられる。

（SD52）

［位置・確認］グリッド BS60，61、BT60，61、BU61，62 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重



図Ⅲ-2-156　SD45出土遺物(1)



図Ⅲ-2-157　SD45出土遺物(2)

復関係］SD35・56 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 908cm、幅 136 ～ 222cm、深さ 49.5cm を測る。［堆積土］5 層確認され、1 層と 5 層がⅣ層由来の土、その他が黒色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 2,049.1g、土師器甕 2,088g、須恵器甕 415g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-154）。727 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる。

（SD45）

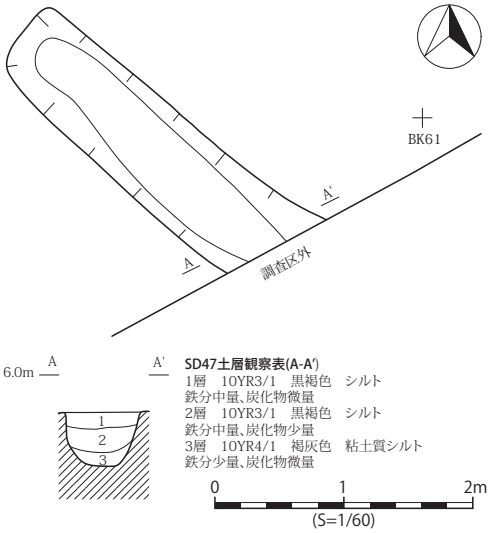
［位置・確認］グリッド BU58、BV57 ～ 59、BW58，59 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD08・43・48 と重複関係にあり、SD08・43 よりも古く、SD48 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。長さ 939cm、幅 197 ～ 311cm、深さ 40.5cm を測る。［堆積土］6 層確認され、1 層はⅢ層由来の層、4 層及び 6 層はⅣ層由来の層、その他は黒色土を主体とした層で形成されており、壁面崩落土と自然堆積層が互層を成している。［出土遺物］土師器ミニチュア 9g、土師器坏 1,566.2g、土師器甕 2,229.2g、須恵器甕 3,102g、須恵器壷 77.6g が出土している（図Ⅲ -2-155）。この内図示できたのは 13 点である（図Ⅲ -2-156・157）。728 は土師器の皿、729 は土師器の皿形坏、730 ～ 732 は土師器の埦であり、730・732 は内外面とも二次被熱により黒色変化している。調整はいずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整である。733・734 は土師器の長胴甕であり、733 は口縁内外面はヨコナデ調整、体部内外面はユビナデ調整が施されているが、輪積痕が明瞭に確認でき、粗雑な造りである。734 は口縁内外面はヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。735 は須恵器の広口短頸壷であり、ロクロ整形で、体部上半にヘラ記号が描かれている。736 は須恵器甕であり、体部下半は平行タタキ目、底面は格子タタキ目が見られる。737・739 は叩石であり、いずれも扁平な円礫を使用し、737 は平坦面を、739 は平坦面及び側面を叩面として使用している。738・740 は砥石であり、738 は扁平な円礫、740 は角礫を使用しており、いずれも平坦面を砥面として使用

している。材質は 737・738 が安山岩、739 が花崗閃緑岩、740 が硬質頁岩である。［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる。

第 47 号溝跡（SD47、図Ⅲ -2-158）

［位置・確認］グリッド BJ・BK61 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］なし。［規模・形状］北西方向から南東方向へと直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 167cm、幅 46cm、深さ 39.5cm を測る。［堆積土］3 層確認され、上層は黒褐色土主体の層、下層はⅢ層由来の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 15g、土師器甕 228g、須恵器甕 80g が出土している。

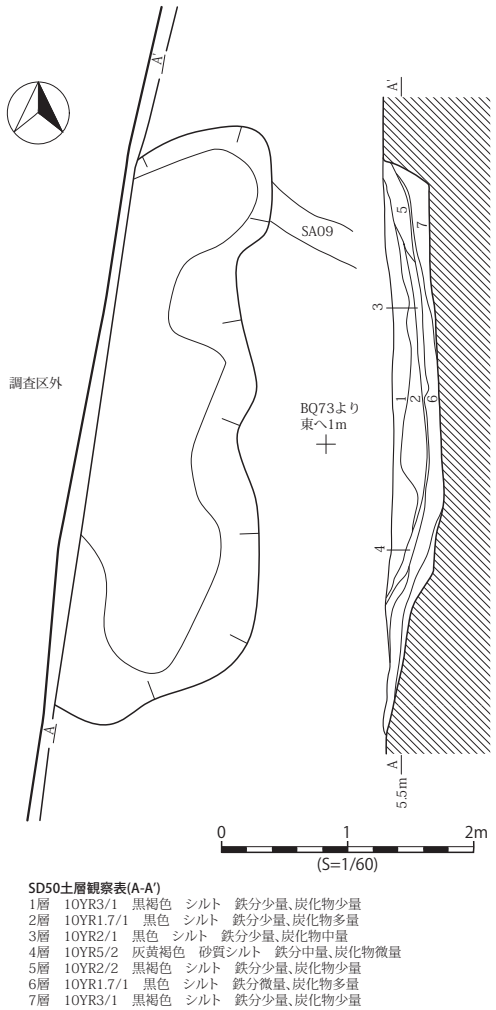
［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる。



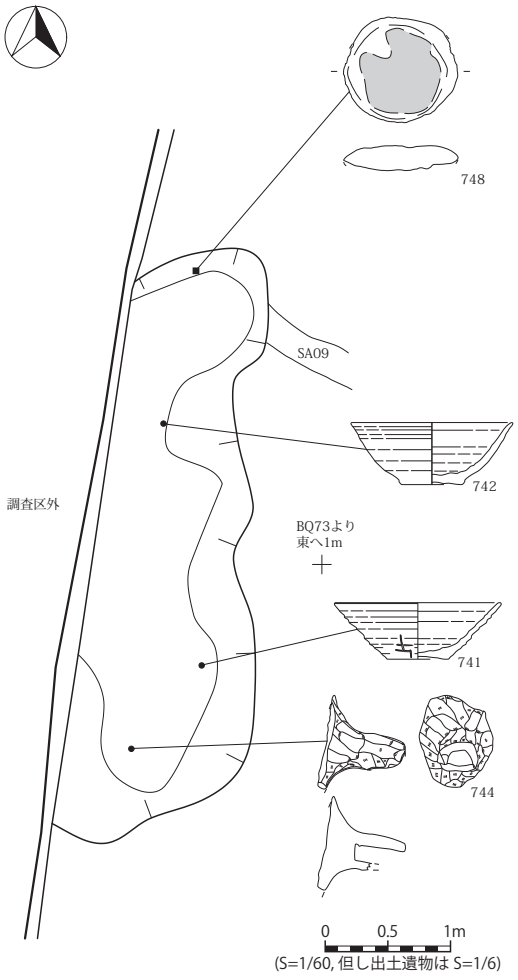
図Ⅲ-2-158　SD47

第 50 号溝跡（SD50、図Ⅲ -2-159）

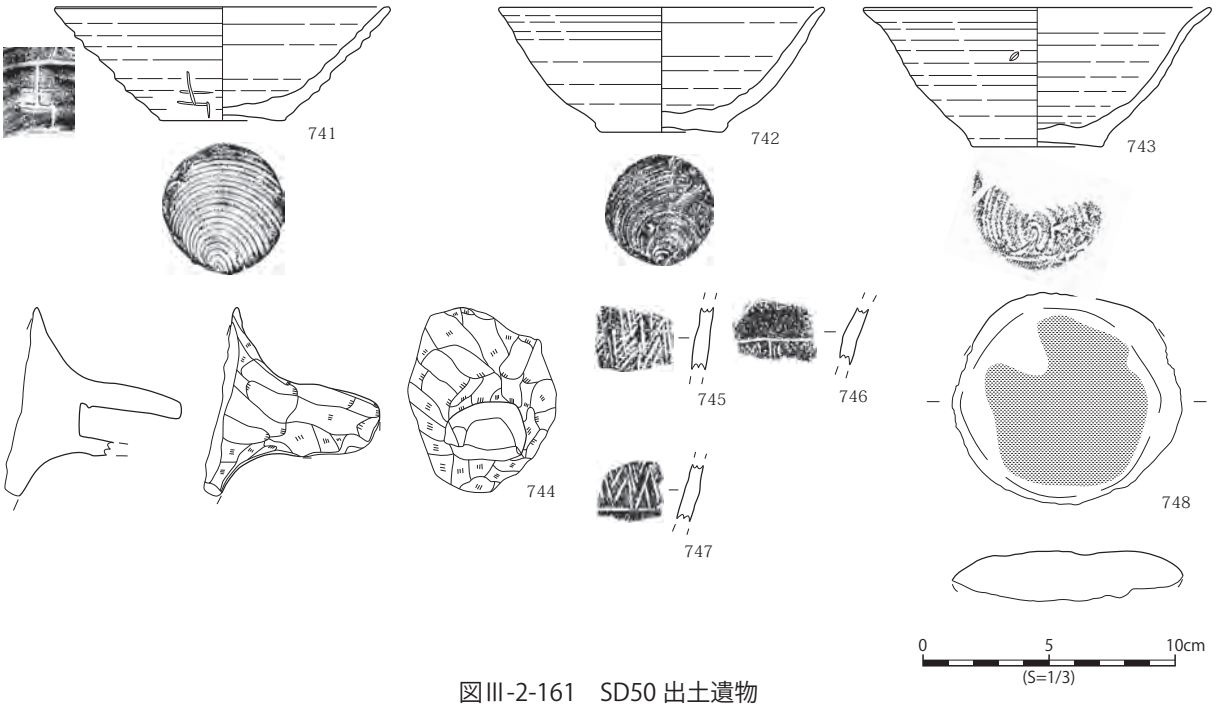
［位置・確認］グリッド BP・BQ72，73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA09 と重復関係



図Ⅲ-2-159　SD50

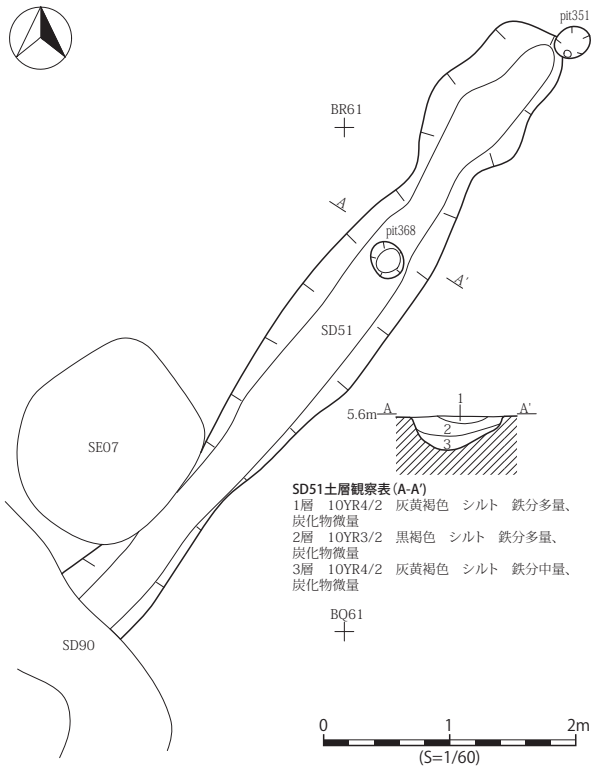


図Ⅲ-2-160　SD50 遺物出土状況



図Ⅲ-2-161　SD50 出土遺物

にあり、SA09 よりも新しい。［規模・形状］西側部分は調査区外のため正確な形状は不明であるが、南北に直線状に延びる溝跡である。確認長 452cm、幅 180cm、深さ 42cm を測る。［堆積土］3 層確認され、上層は黒褐色土主体の層、下層はⅢ層由来の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 3,045.9g、土師器甕 873.3g、擦文土器 16.2g、須恵器甕 100g、須恵器壺 30g、石器 208.3g が出土している（図Ⅲ -2-160）。この内図示できたのは 8 点である（図Ⅲ -2–161）。741 は土師器皿形坏であり、外面にヘラ記号が描かれている。742・743 は土師器の埦であり、742 は直上口縁、743 は外彎口縁である。743 には外面に籾圧痕が見られる。741 ～ 743 はいずれもロクロ成形で、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。744 は把手付土器の把手部であり、角型の棒状工具で刺突され、中空である。ナデ調整が施されている。745 ～ 747 は擦文土器の体部破片であり、いずれもミガキ調整の後、745 は鋸歯文、746 は横位沈線文、747 は横位沈線文の後鋸歯文が施されている。748 は扁平な円礫をの平坦部を砥面として使用している砥石である。石材はプロピライトである。［時期］正確な時期は不明であるが、遺構の配置状況からⅡ期以降であると考えられる。



図Ⅲ-2-162　SD51

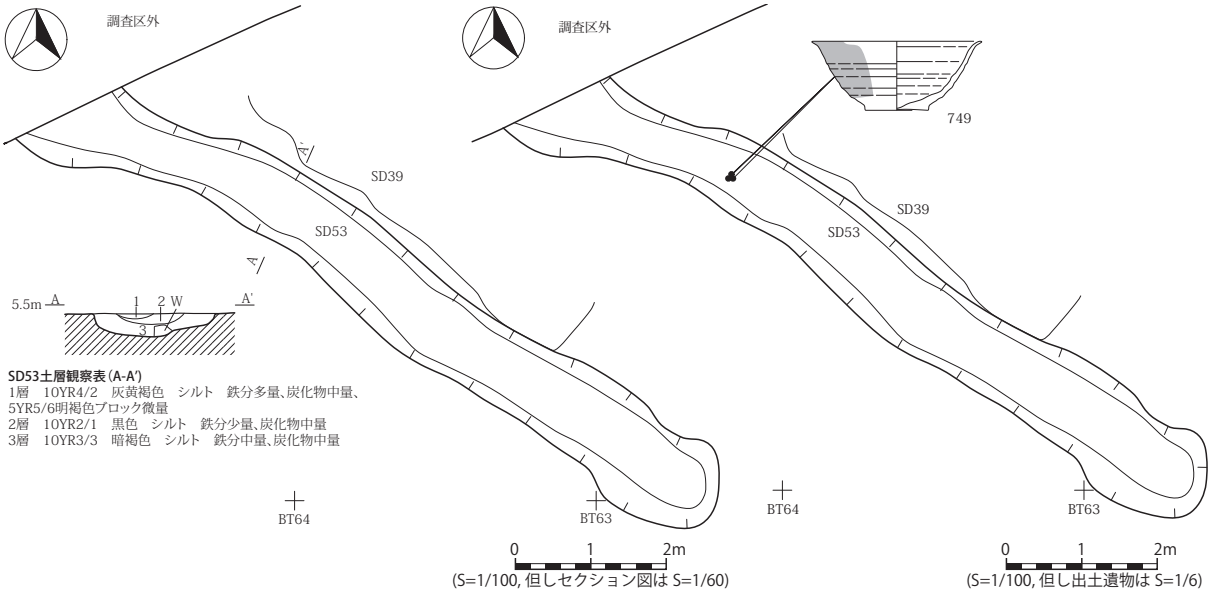
第 51 号溝跡（SD51、図Ⅲ -2-162）

［位置・確認］グリッド BP61、BQ60，61、BR60 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復

関係］SD90、SE07 と重復関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］北東方向から南西方向へ直線状に延びる溝跡である。現存長 585cm、幅 43 ～ 81cm、深さ 32cm を測る。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層と黒褐色土層が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 38g、土師器甕 549g、須恵器甕 39g が出土している。［時期］いずれの遺構よりも古いため、Ⅰ期に相当すると考えられる。

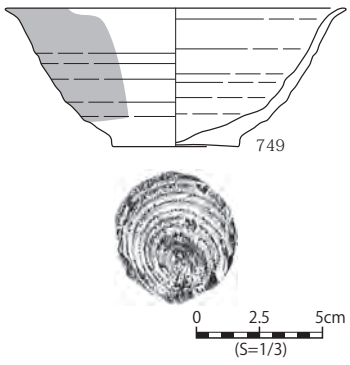
第 53 号溝跡（SD53、図Ⅲ -2-163）

［位置・確認］グリッド BS62、BT62 ～ 64、BU63，64 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD39 と重複関係にあり、SD39 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へ直線状に調査区外へと延びる溝跡である。確認長 995cm、幅 68 ～ 120cm、深さ 34.5cm を測る。［堆積土］



図Ⅲ-2-163　SD53遺構図面及び遺物出土状況

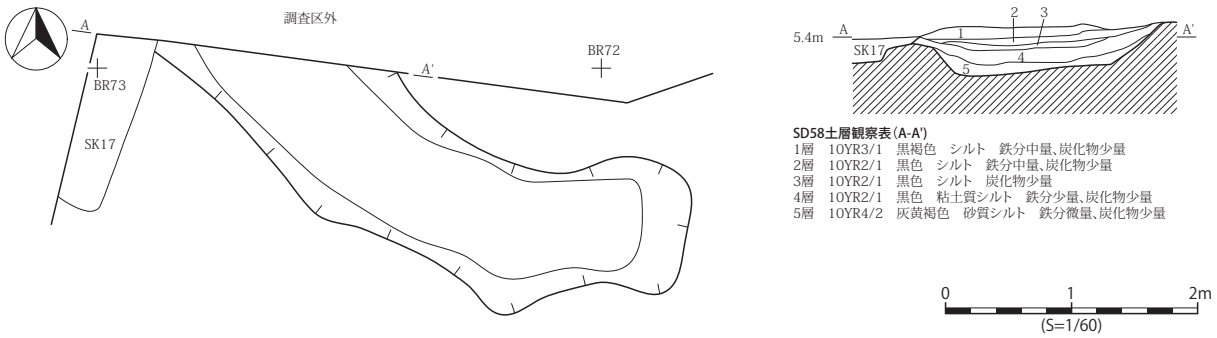
3 層確認され、1 層はⅢ層由来の層で、2・3 層は黒色土を主体とした自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 571.5g、土師器甕 1,395g、須恵器甕 32g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-164）。749 は土師器の椀形坏であり、外彎口縁を有し、体部外面には二次被熱により黒色変化している。ロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し無調整である。［時期］正確な時期は不明であるが堆積土からⅡ期以降であると考えられる。



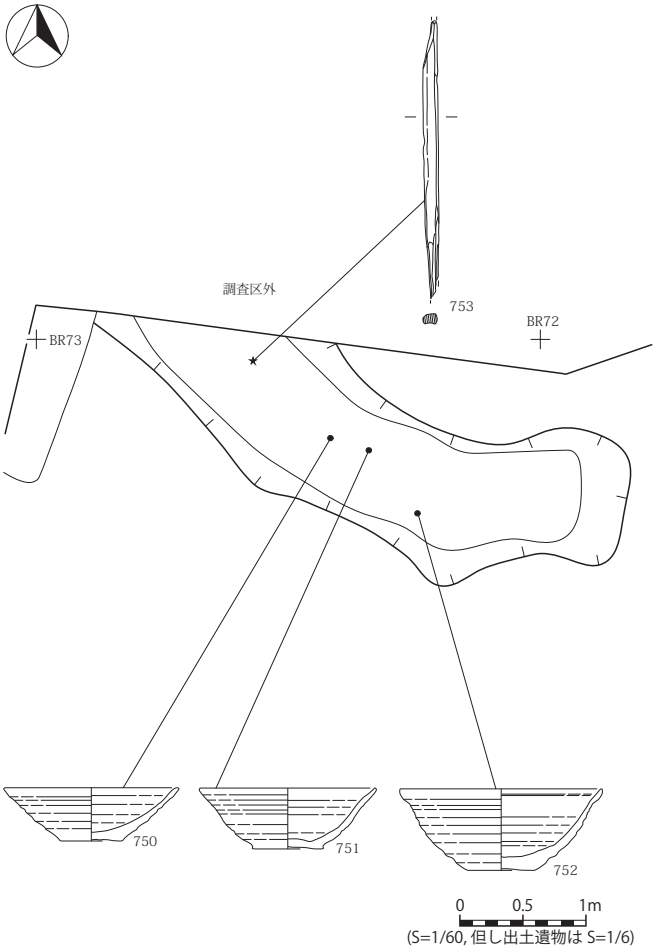
図Ⅲ-2-164　SD53出土遺物

第 58 号溝跡（SD58、図Ⅲ -2-165）

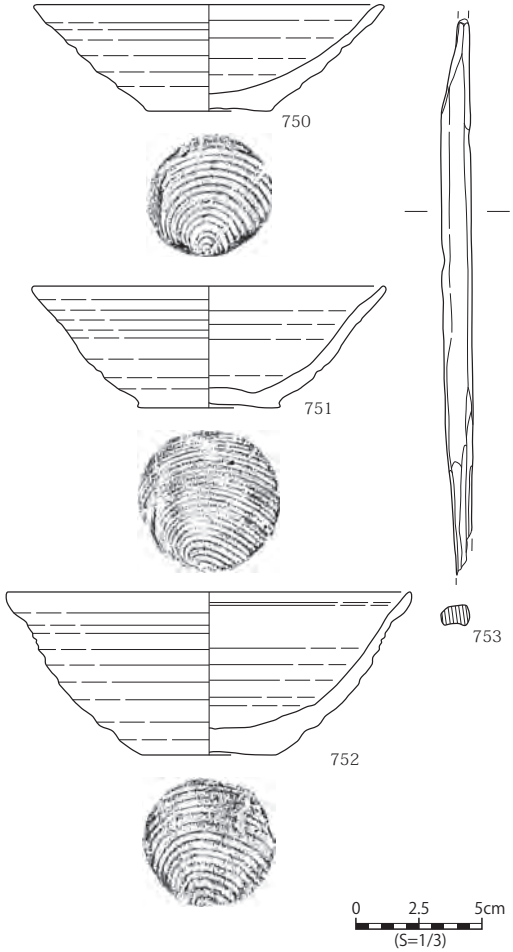
［位置・確認］グリッド BQ71, 72、BR72 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SK17 と重複関係にあり、SK17 よりも古い。［規模・形状］東方向から北西方向へ内彎気味に曲がりながら調査区外へと延びる溝跡である。確認長 363cm、幅 92 ～ 121cm、深さ 33cm を測る。［堆積土］5 層確認され、1 ～ 4 層は黒色土主体であり、最下層はⅢ層由来の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 677.3g、土師器甕 2,244g、須恵器甕 28g、須恵器壷 41g が出土している（図Ⅲ -2-166）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅲ -2-



図Ⅲ-2-165　SD58



図Ⅲ-2-166　SD58遺物出土状況

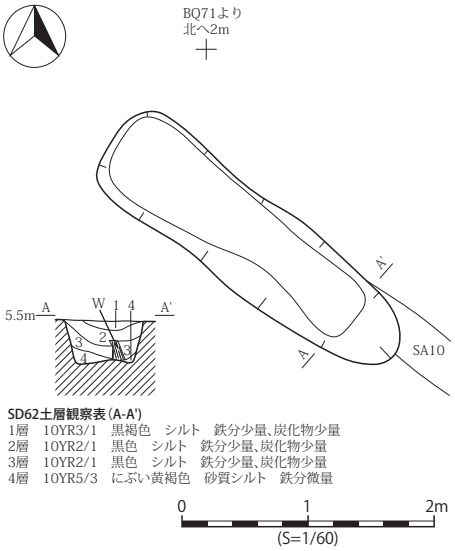


図Ⅲ-2-167　SD58出土遺物

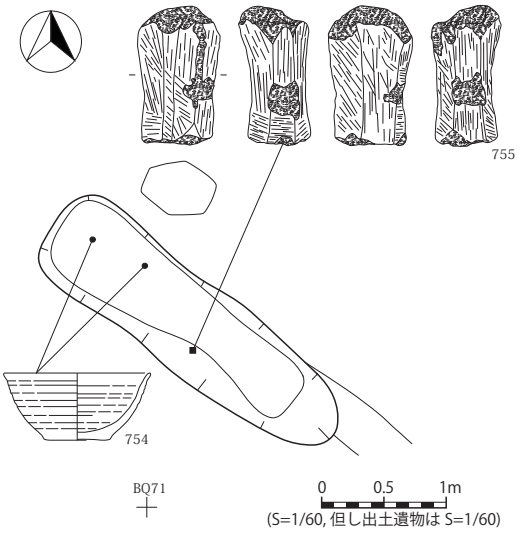
167）。750・751 は皿形坏であり、752 は土師器の大型の埦形坏である。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。753 は棒状の不明木製品であり、割材で両端部を細く尖らせている。樹種はアスナロである。

第 62 号溝跡（SD62、図Ⅲ -2-168）

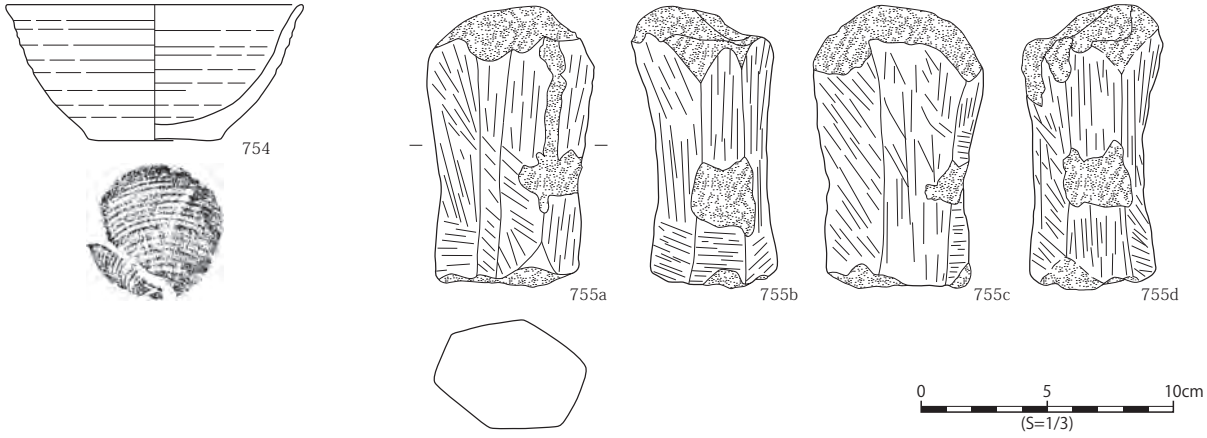
［位置・確認］グリッド BQ70, 71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA10 と重複関係にあり、SA10 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。長さ 283cm、幅 70 ～ 75cm、深さ 40cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1 ～ 3 層は黒色土主体であり、最下層はⅣ層由来の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 672.2g、土師



図Ⅲ-2-168　SD62



図Ⅲ-2-169　SD62遺物出土状況

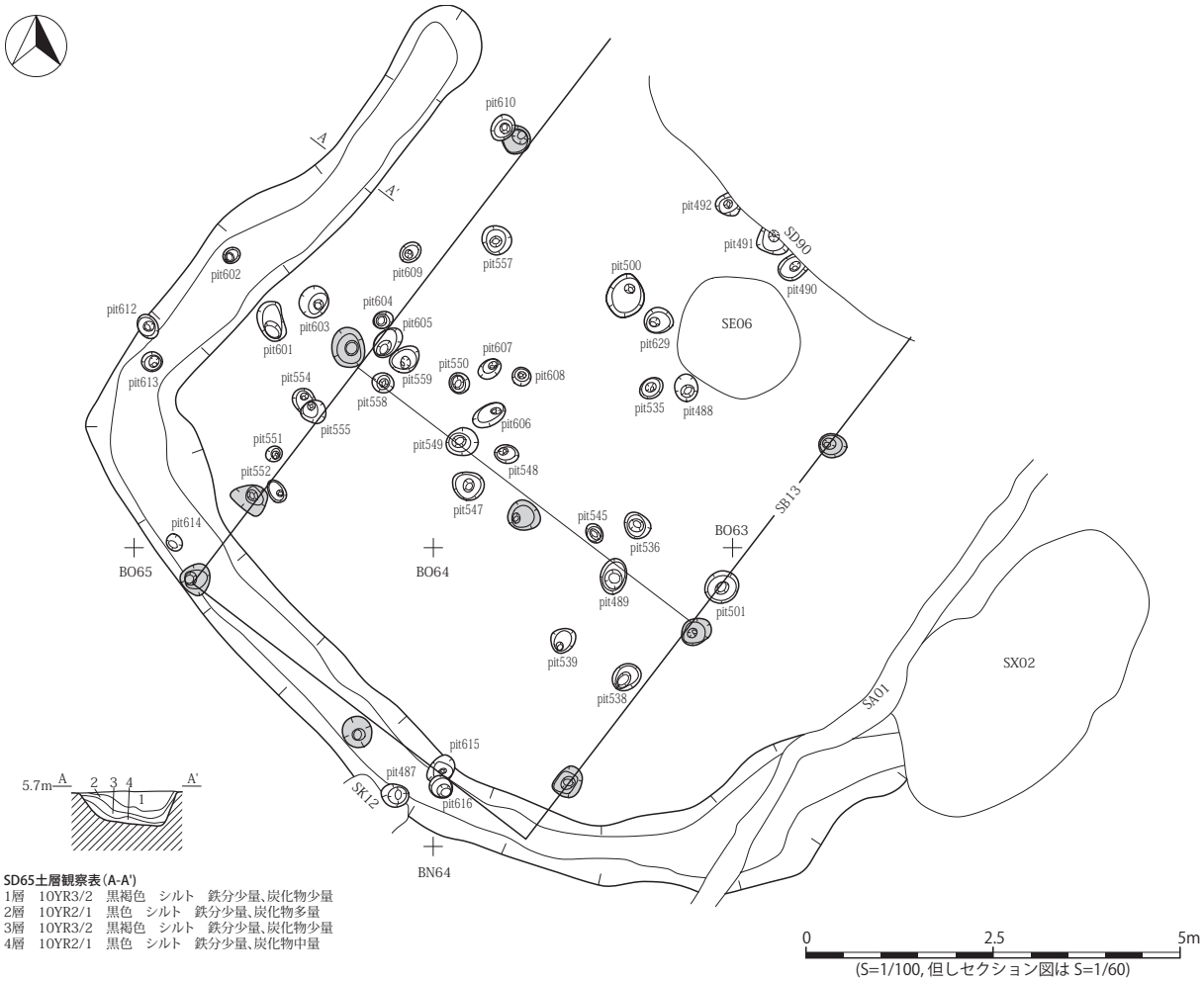


図Ⅲ-2-170　SD62 出土遺物

器甕 1,556g、須恵器甕 50g、須恵器壷 48g、石器 208.3 g が出土している（図Ⅲ -2-169）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -2-170）。754 は土師器の椀形坏であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。755 は多面形の角礫ないしは円柱状の礫を利用した砥石である。すべての面を砥面として利用している。石材は安山岩である。［時期］ Ⅱ期以降であると考えられる。

第 65 号溝跡（SD65、図Ⅲ -2-171）

［位置・確認］ グリッド BM62，63、BN62 ～ 64、BO64，65、BP63，64 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA01、SB13、SK12、SX02 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］ 北東方向から南西方向へ直線状に延び、途中で向きを南西方向に転じ、再び北東方向へと向きを変え、開口部を北東方向に有するコの字状の溝跡である。現存長 2,021cm、幅 80 ～ 168cm、深さ 44cm を測る。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土層と黒色土層が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］ 土師器坏 747.1g、土師器甕 2,592.5g、須恵器鉢 44.1g、須恵器甕 39g、須恵器壷 92g が出土している（図Ⅲ -2-172）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅲ -2-173）。756 は土師器の椀型の坏であり、非ロクロで外面はケズリ調整の後口縁部はヨコナデ調整が施され、内面はユビナデ



図Ⅲ-2-171　SD65

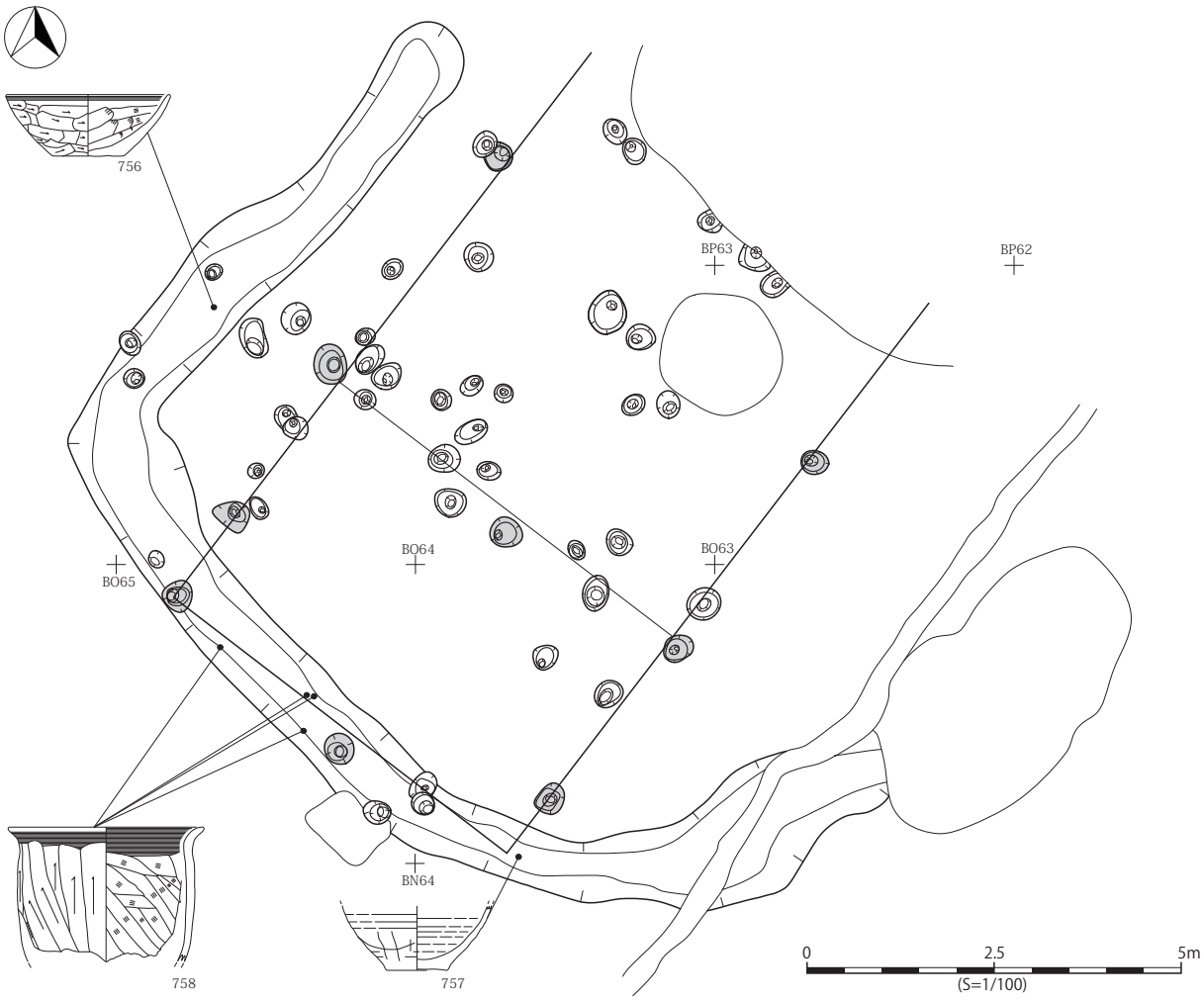
調整の後、口縁部はヨコナデ調整が施されている。757 は土師器の埦であり、外面にヘラ記号が描かれている。ロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。758 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整を施した後、外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。759 は須恵器の鉢であり、ロクロ成形であり、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。［時期］Ⅰ期に相当すると考えられる。

第 67・68・69・70・72・73・76 号 溝 跡（SD67・68・69・70・72・73・74・76、 図 Ⅲ -2-174）

（概要）

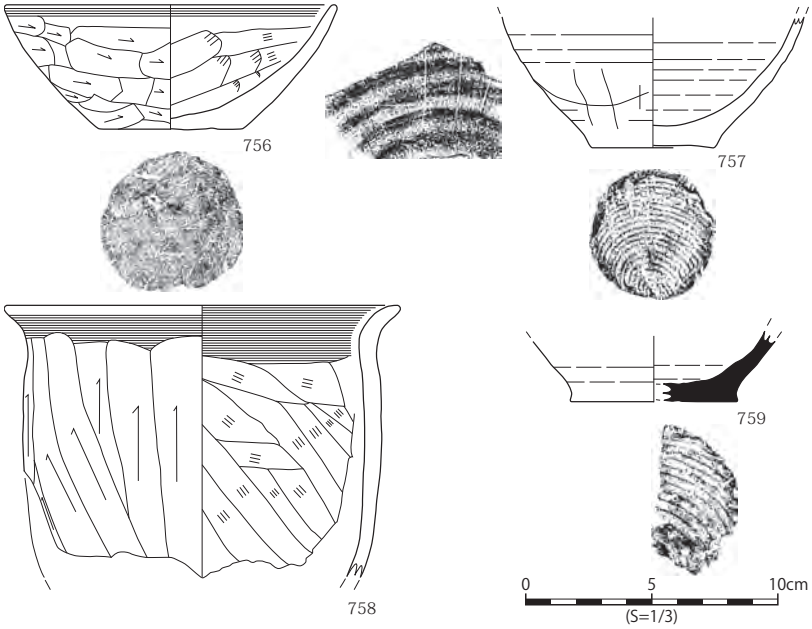
調査区西側中央付近に位置し、複数の溝跡により南東部に開口部を有するコの字状の溝跡が構築されている。重複順に見てみると、① SD67 と SD70 →② SD55、SD68 の一部、SD76 →③ SD69、SD68 の一部→④ SD55、SD68 の一部、SD72 の順に溝跡が使用されていた。溝跡内部には 4 棟の掘立柱建物跡（SB15 ～ 18）が検出され、SB15 及び SB16 は④の時期、SB17 は①の時期、SB18 は④廃絶以降の時期に相当する。また、柵列 SA12 が③の時期に構築されている。しかしながら、各溝跡の堆積状況及び SD68 が終始使用されていたことを考えると各溝跡間には時期差があまりないものと考えられる。

（SD67）

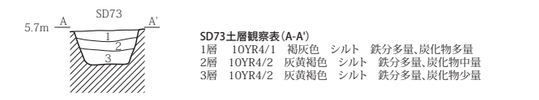


図Ⅲ-2-172　SD65遺物出土状況

［位置・確認］グリッドBJ67，68に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD68と重複関係にあり、SD68よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。現存長420cm、幅160～205cm、深さ12cmを測る。［堆積土］3層確認され、上層が黒褐色土層で、下層が黒色土層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏463.2g、土師器甕1,604g、須恵器甕141gが出土している。この

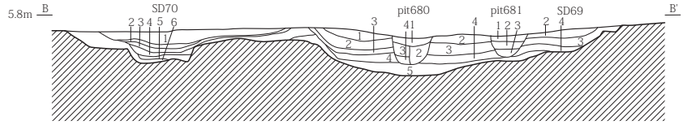


図Ⅲ-2-173　SD65出土遺物



SD73土層観察表(A-A')

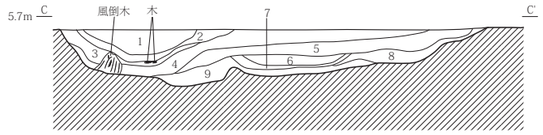
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量



SD69・70土層観察表(B-B')

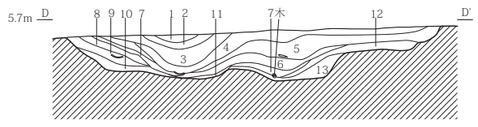
SD69
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量
4層　10YR3/1　黒褐色　粘土　鉄分少量、炭化物中量
5層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

SD70
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
5層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
6層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量



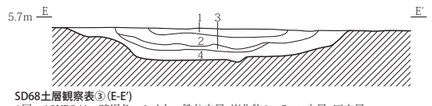
SD68土層観察表①(C-C')

1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
5層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
6層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
7層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
8層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
9層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量



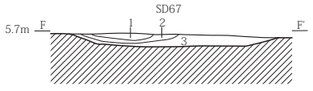
SD68土層観察表②(D-D')

1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分多量、炭化物少量、灰少量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、灰少量
5層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰少量
6層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
7層　10YR1.7/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
8層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
9層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
10層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
11層　10YR2/3　黒褐色　粘土質シルト　泥炭層
12層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
13層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量



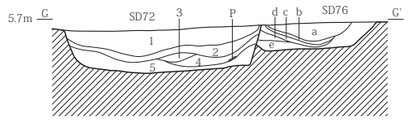
SD68土層観察表③(E-E')

1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～50mm中量、灰中量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物10～20mm中量、灰少量
4層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物2～5mm中量、灰中量



SD67土層観察表(F-F')

1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量



SD72・76土層観察表(G-G')

SD72
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量、灰少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量、灰少量
3層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
5層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

SD76
a層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
b層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
c層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
d層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
e層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

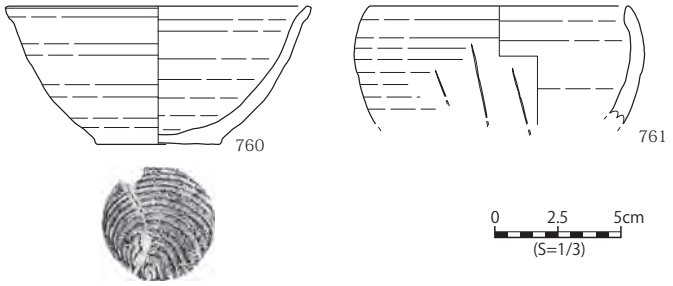
0　2.5　5m
(S=1/120，但しセクション図は S=1/60)

図Ⅲ-2-174　SD67・68・69・70・72・73・76

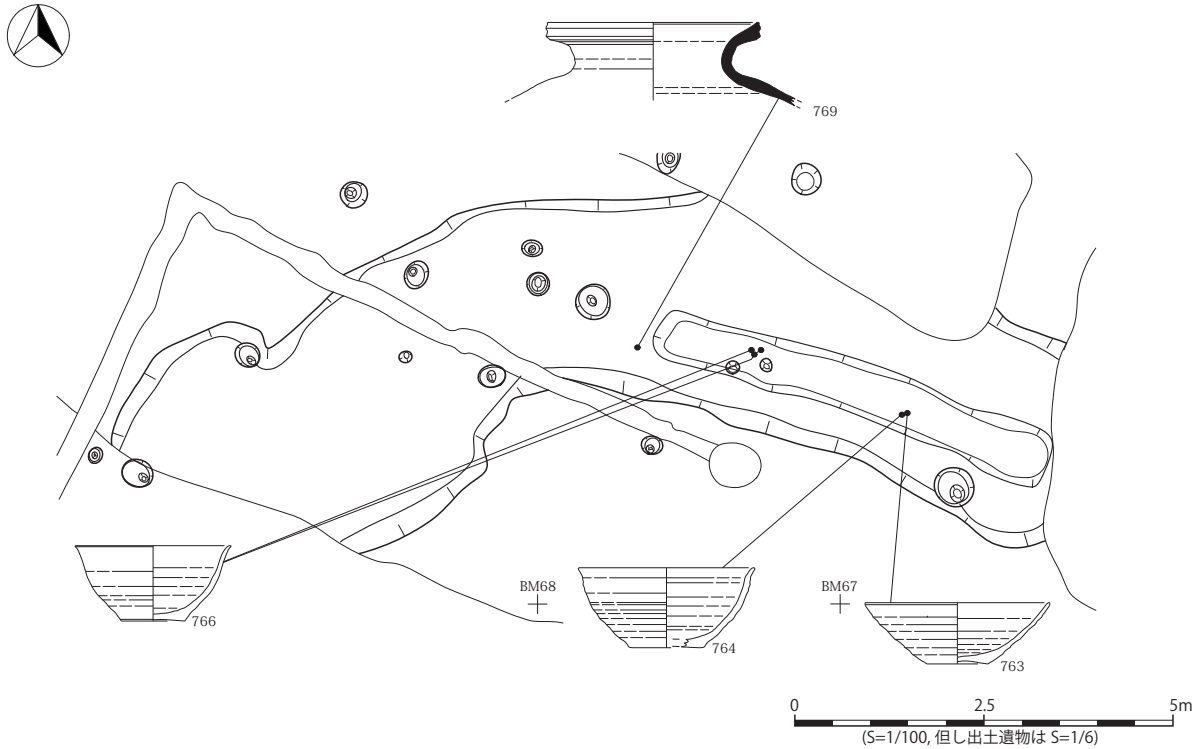
内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -2-175）。760 は外彎する埦であり、761 は内彎する埦であり、外面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形であり、760 は底面に回転糸切痕を残し、無調整である。［時期］遺構の配置状況及び重複関係からⅡ期の前半にあたると考えられる。

（SD70）

［位置・確認］グリッド BK・BL69、BM66 ～ 69、BN67，68 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA12、SD02・68・69・72・76 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］東南東方向から西北西方向へ直線状に延び、途中で屈曲しながら南南西方向へと延びる L 字状の溝跡である。現存長 1,630cm、幅 162 ～ 410cm、深さ 30.5cm を測る。［堆積土］6 層確認され、Ⅳ層由来の層、黒褐色土層、黒色土層が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 24.8g、土師器坏 1419.2g、土師器甕 3,325g、擦文土器 5.9g、須恵器甕 175g、須恵器壷 187g が出土している（図Ⅲ -2-176）。この内図示できたのは 9 点である（図Ⅲ -2-177）。762 は土師器のミニチュアの甕であり、非ロクロ成形で外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。763 は土師器の皿形坏であり、764 ～ 766 は土師器の埦であり、いずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整である。767 は土師器の把手付土器であり、内彎する器形にやや短めの中空の把手を有する。成形及び調整は粗雑であり、外面はケズリ調整後一部ユビナデ調整、内面はユビナデ調整が施されている。768 は擦文土器であり、ハケメ調整の後鋸歯文が施されている。769 は須恵器の中甕であり、口頸部は内外面ともにロクロ整形であり、体部上半は格



図Ⅲ-2-175　SD67 出土遺物



図Ⅲ-2-176　SD70遺物出土状況

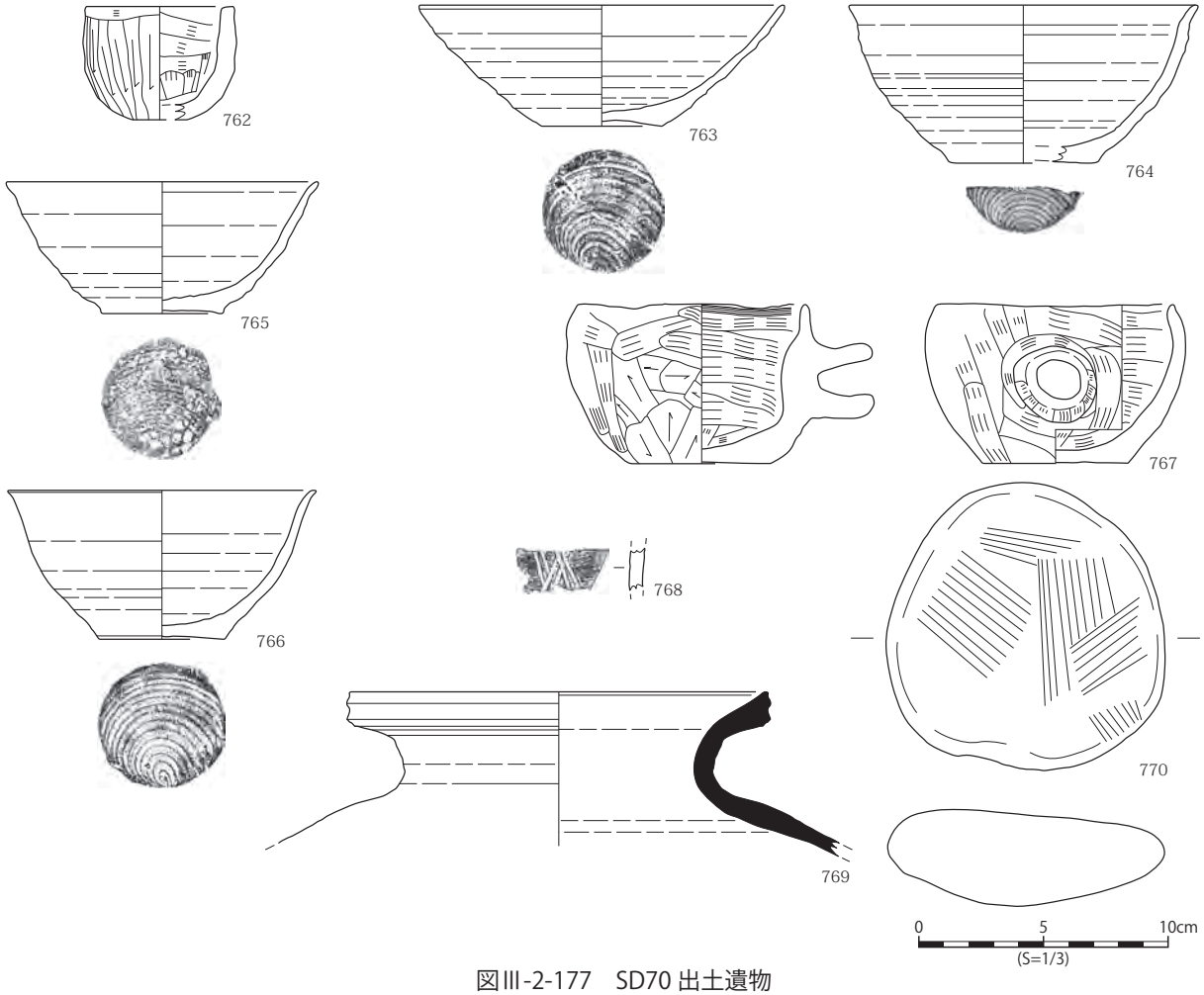
子叩き目が残されている。770 は扁平な円礫を使用した砥石であり、平坦面を砥面として使用している。石材は安山岩である。［時期］ I 期に相当すると考えられる。

（SD76）

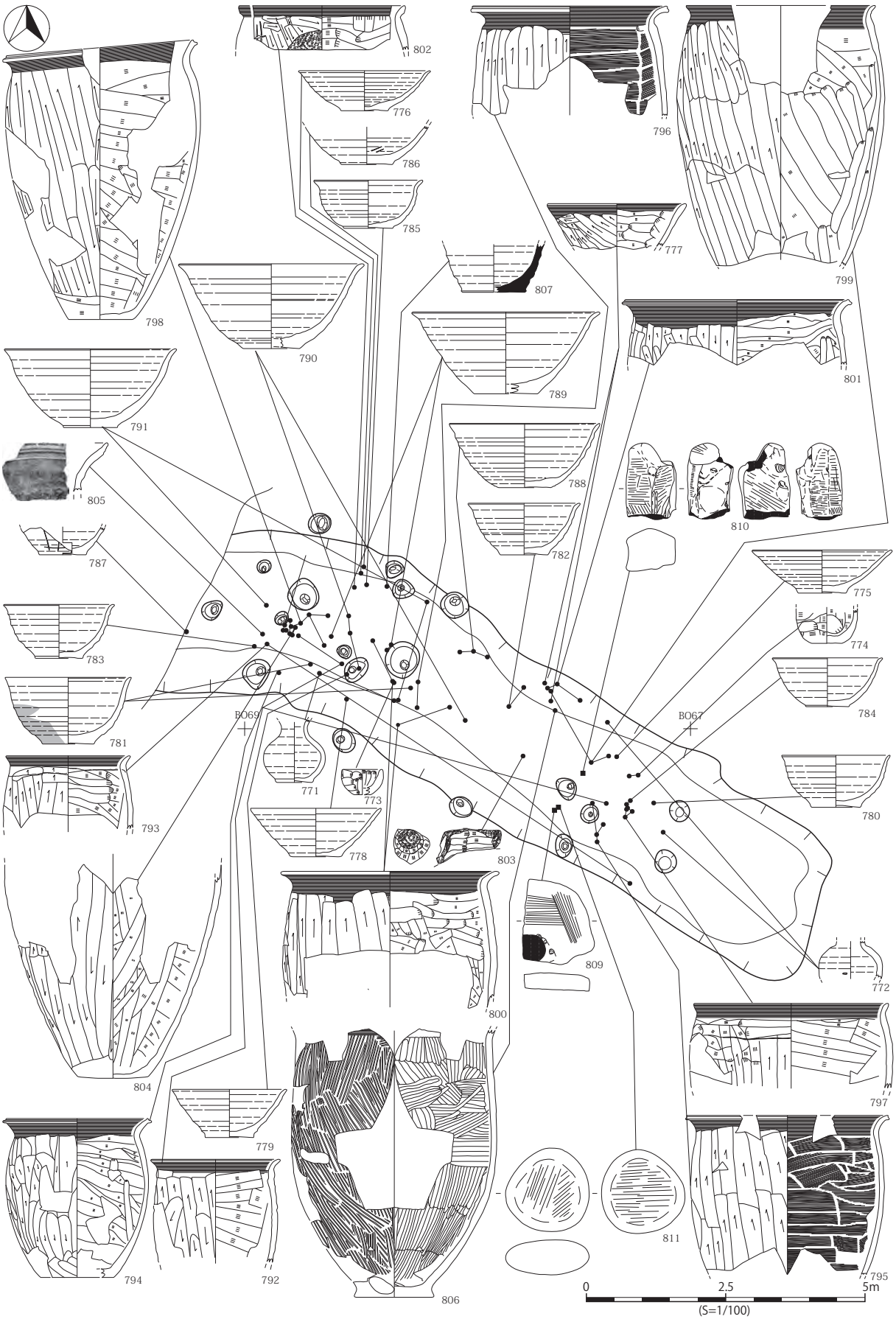
［位置･確認］グリッド BL67，68、BM68 ～ 70、BN69，70 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA12、SD68・70・72 と重複関係にあり、SA12、SD68・72 よりも古く、SD70 よりも新しい。［規模・形状］東南東方向から西北西方向へ直線状に延びる溝跡である。現存長 1,115cm、最小幅 88cm、深さ 25cm を測る。［堆積土］5 層確認され、Ⅲ層由来の層とⅣ層由来の層が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 106g､土師器甕 684g､須恵器甕 23g が出土している。

（SD69）

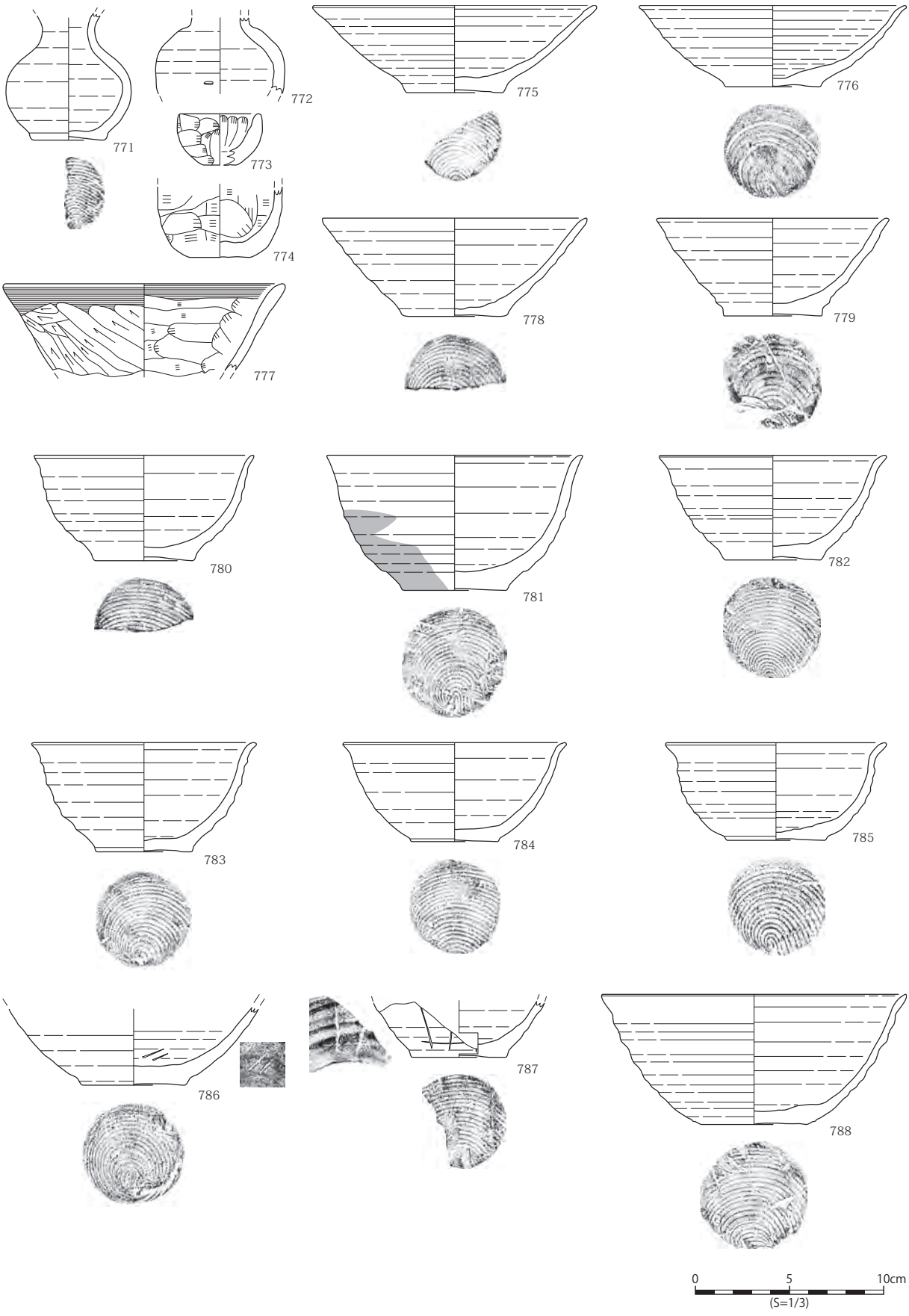
［位置・確認］グリッド BM66、BN66 ～ 68、BO67 ～ 69 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD68・70 と重複関係にあり、SD68 よりも古く、SD70 よりも新しい。［規模・形状］東南東方向から西北西方向へ直線状に延びる溝跡である。現存長 1,240cm、最小幅 258 ～ 304cm、深さ 42cm を測る。［堆積土］5 層確認され、最下層はⅢ層由来の層であり、それより上層は黒色土と黒褐色土が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 149.5g、土師器坏 4,183.2g、土師器甕 26,061.5g、土師器把手付土器 55.5g、擦文土器 877.8g、須恵器鉢 67.4g、須恵器壷 656.6g、石器 709.7g が出土している（図Ⅲ -2-178）。その内図示できたのは 41 点である（図



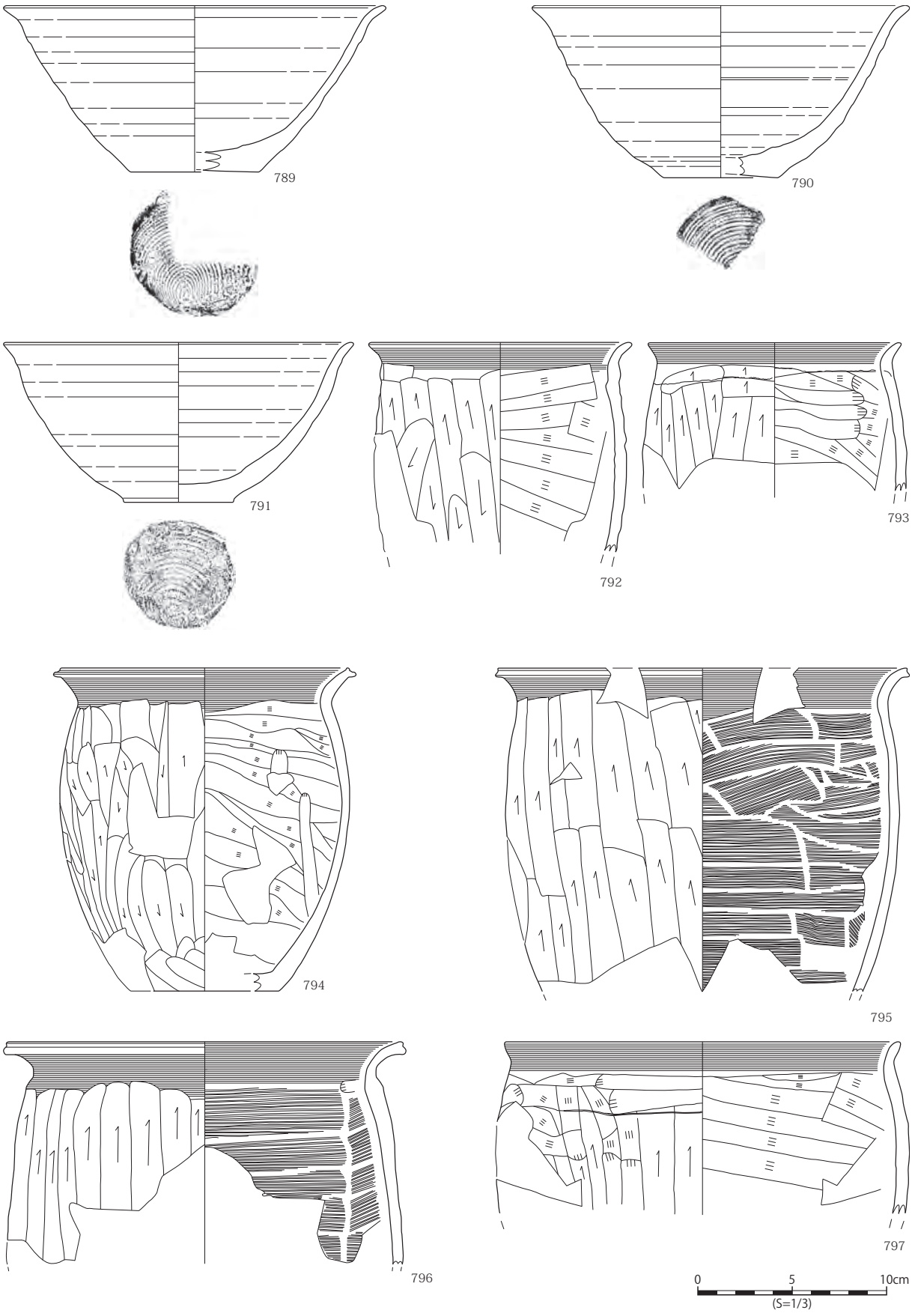
図Ⅲ-2-177　SD70 出土遺物



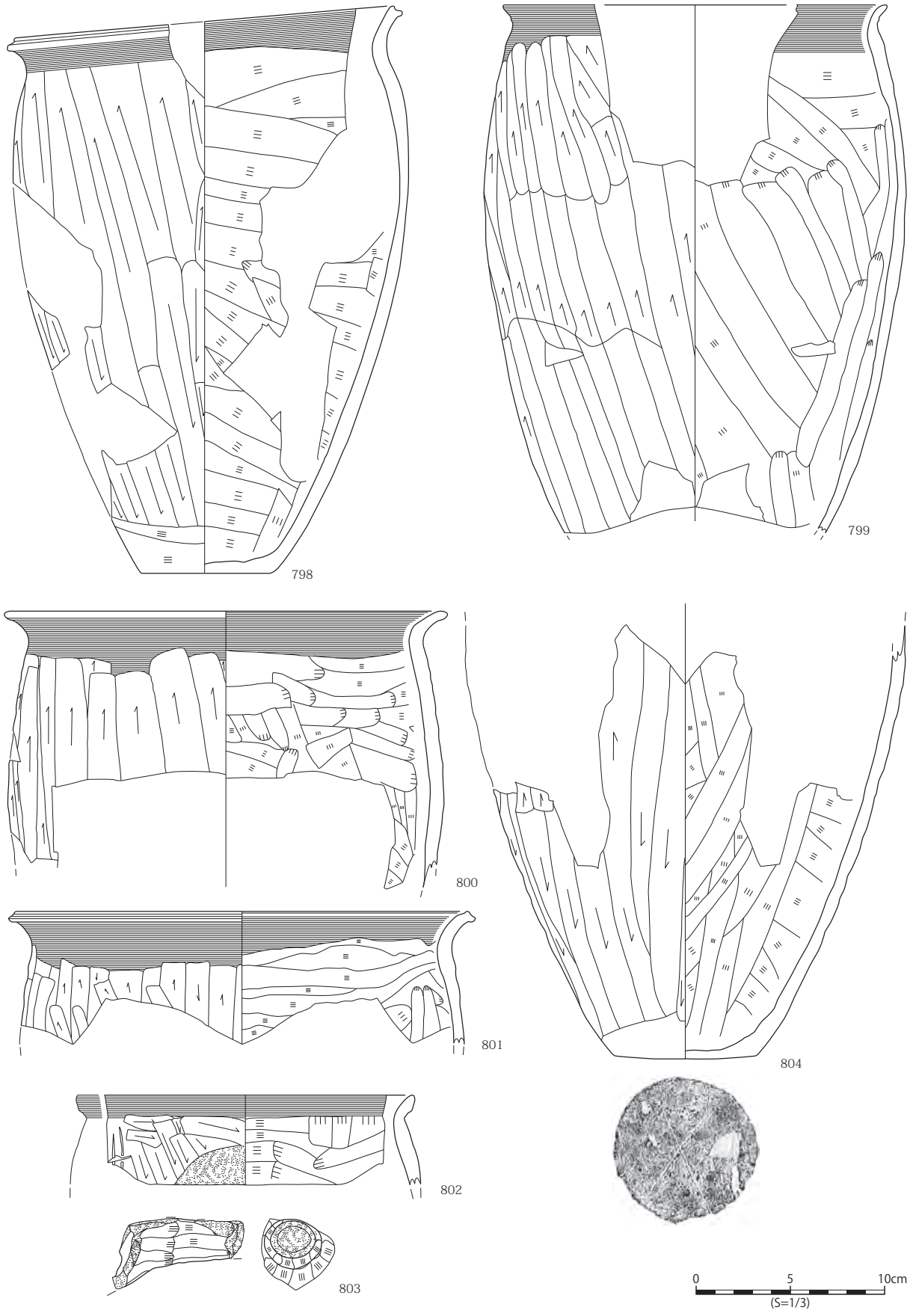
図Ⅲ-2-178　SD69遺物出土状況



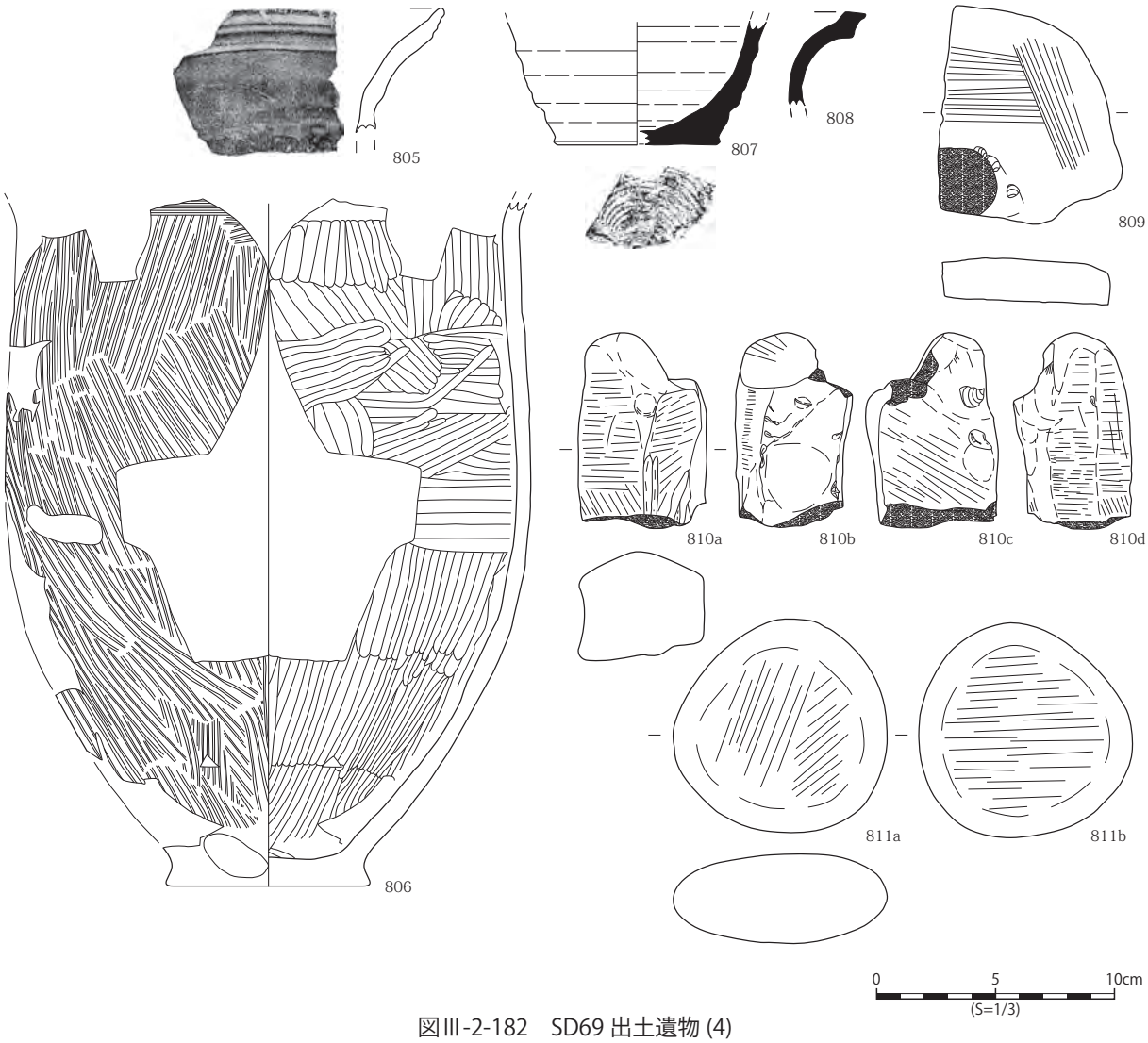
図Ⅲ-2-179　SD69 出土遺物 (1)



図Ⅲ-2-180　SD69 出土遺物 (2)



図Ⅲ-2-181　SD69 出土遺物 (3)



図Ⅲ-2-182　SD69 出土遺物 (4)

Ⅲ -2-179 ～ 182)。771・772 は土師器のミニチュアの壺であり、ロクロ成形である。773 は土師器のミニチュアの坏、774 は土師器のミニチュアの甕であり、非ロクロ成形でユビナデ調整が施されている。775・776 は土師器の皿形坏であり、777 は非ロクロの土師器の埦形坏であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。778 は土師器の埦形坏であり、779 ～ 785・787 は土師器の埦であり、781 は外面が二次被熱により黒色変化している。787 は外面にヘラ記号が描かれている。786・788 ～ 791 は土師器の大型の埦であり、786 には内面にヘラ記号が描かれている。777 以外はいずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整である。792 ～ 794 は小型甕であり、いずれも口縁部が外彎する器形で口縁部内外面はヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。795 ～ 802・804 は土師器の長胴甕であり、調整は小型甕と同様に口縁部内外面にヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデあるいはヘラナデ調整が施されている。804 は底部にヘラ記号が描かれている。803 は把手付土器の把手部であり、中実である。805 は擦文土器の甕の口縁部破片であり、内外面にミガキ調整が施された後、外面には多重横走沈線が施されている。806 は擦文土器の甕と考えられるが、体部外面はハケメ調整、体部内面はミガキ調整が施されている。807 は須恵器の鉢であり、

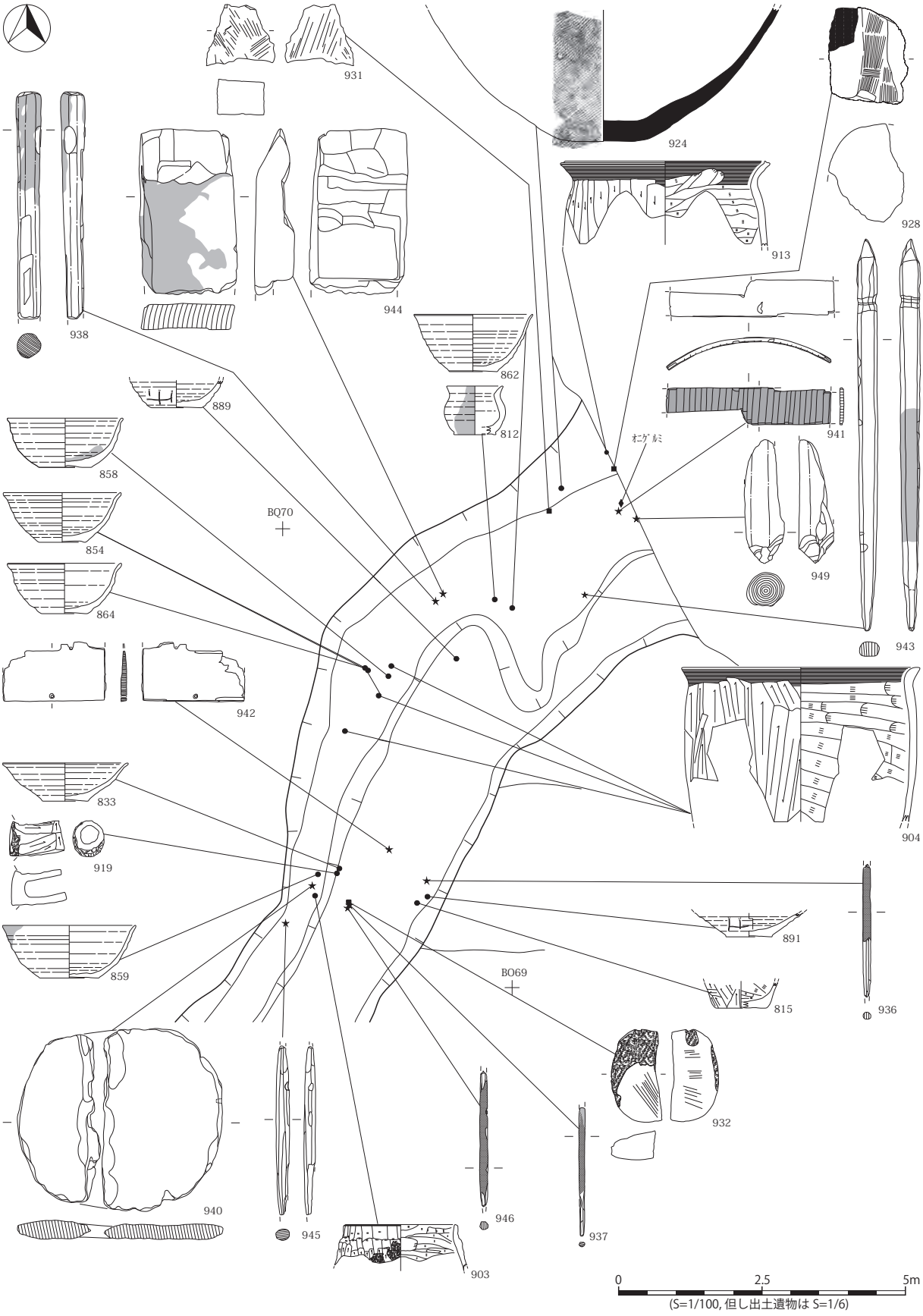
808 は須恵器の中甕である。809 ～ 811 は砥石であり、809・811 は扁平な円礫、810 は角礫を使用し、いずれも平坦面を砥面に利用している。石材は 809 が泥岩、810 が珪質泥岩、811 が安山岩である。

（SD68）

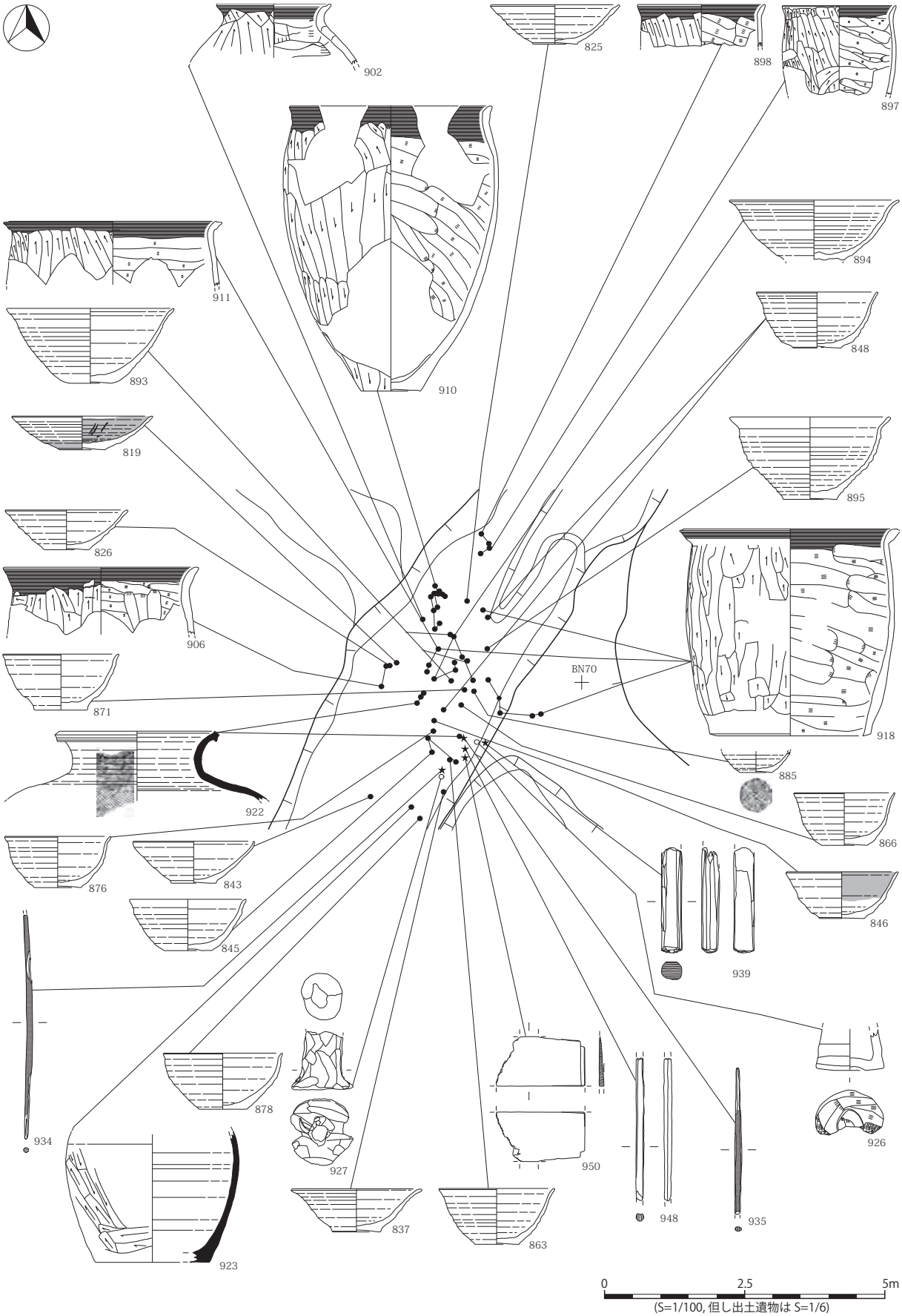
［位置・確認］グリッド BJ68 ～ 70、BK68 ～ 71、BL・BM70，71、BN69 ～ 71、BO69，70、BP・BQ68，69 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD55・67・69・70・72・74・76・84、SE05、SK22 と重複関係にあり、SD55、SE05、SK22 よりも古く、その他の遺構よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へ直線状に延び、途中で方向を北東方向へと転じる L 字状の溝跡である。現存長 3,525cm、最小幅 211 ～ 419cm、深さ 74cm を測る。［堆積土］13 層確認され、黒色土、黒褐色土、Ⅲ層由来の層、Ⅳ層由来の層が互層を形成し、自然堆積層であり、最下層はⅤ層の壁面崩落土である。［出土遺物］土師器ミニチュア 246.2g、土師器坏 24,160.3g、土師器甕 69,732.5g、須恵器甕 8,022g、須恵器壷 603.4g、石器 1,937.8g が出土している（図Ⅲ -2-183 ～ 186）。その内図示できたのは 139 点である（図Ⅲ -2-187 ～ 196）。812・813・816 はミニチュアの壷であり、812・816 はロクロ成形、813 は非ロクロ成形である。814・815 はミニチュアの器種不明個体であり、いずれも非ロクロである。817 は台付耳皿もしくは台付坏の台部であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。818 ～ 820 は土師器の皿であり、819 は内面にヘラ記号が描かれており、二次被熱により黒色変化している。821 ～ 837 は皿形の坏であり、821 は外面にヘラ記号が描かれている。832 の外面には籾圧痕が観察された。834 は内外面が二次被熱により黒色変化している。838 ～ 844 は土師器の埦形坏であり、841 は内面にヘラ記号が描かれている。845 ～ 883 は土師器の埦であり、850・851・883 は外面に、856 は内面にヘラ記号が描かれている。846・858・859・861 は二次被熱により黒色変化している。881 は外面に籾圧痕が確認された。884 ～ 891 はヘラ記号が描かれた坏であり、885 は底面に、その他は外面に描かれている。892 は台付坏であり、外面にヘラ記号が描かれており、内面は二次被熱により一部黒色変化している。893・895 は大型の埦形坏であり、894 は大型の皿形坏である。818 ～ 894 はいずれもロクロ成形であり、底面の残存する個体はいずれも回転糸切痕を残し、無調整である。

896 ～ 901 は土師器の小型甕であり、896 は直上口縁、その他は外彎口縁である。調整は、896 が内外面にユビナデ調整、その他は口縁部内外面にヨコナデ調整、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。902 は体部に最大径を有する球胴甕であり、調整は小型甕と同様である。903 は内外面がユビナデ調整が施された直上口縁の甕であり、内外面ともに被熱を受けて剥落が見られることから、製塩土器の可能性が高いと考えられる。904 ～ 917 は土師器の長胴甕であり、いずれも短く外彎する口縁を有し、904 ～ 910 は口縁端部がつまみ出されただけのものであり、911 ～ 917 は面取り調整が施されている。調整は口縁部にヨコナデ、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。918 は土師器の甑であり、体部下半は面取り調整が施されており、端面形は方形を呈する。調整及び器形は土師器の長胴甕と同様である。919・920 は把手付土器の把手部であり、いずれも中空であり、外面調整は 919 がケズリ調整、920 がユビナデ調整である。

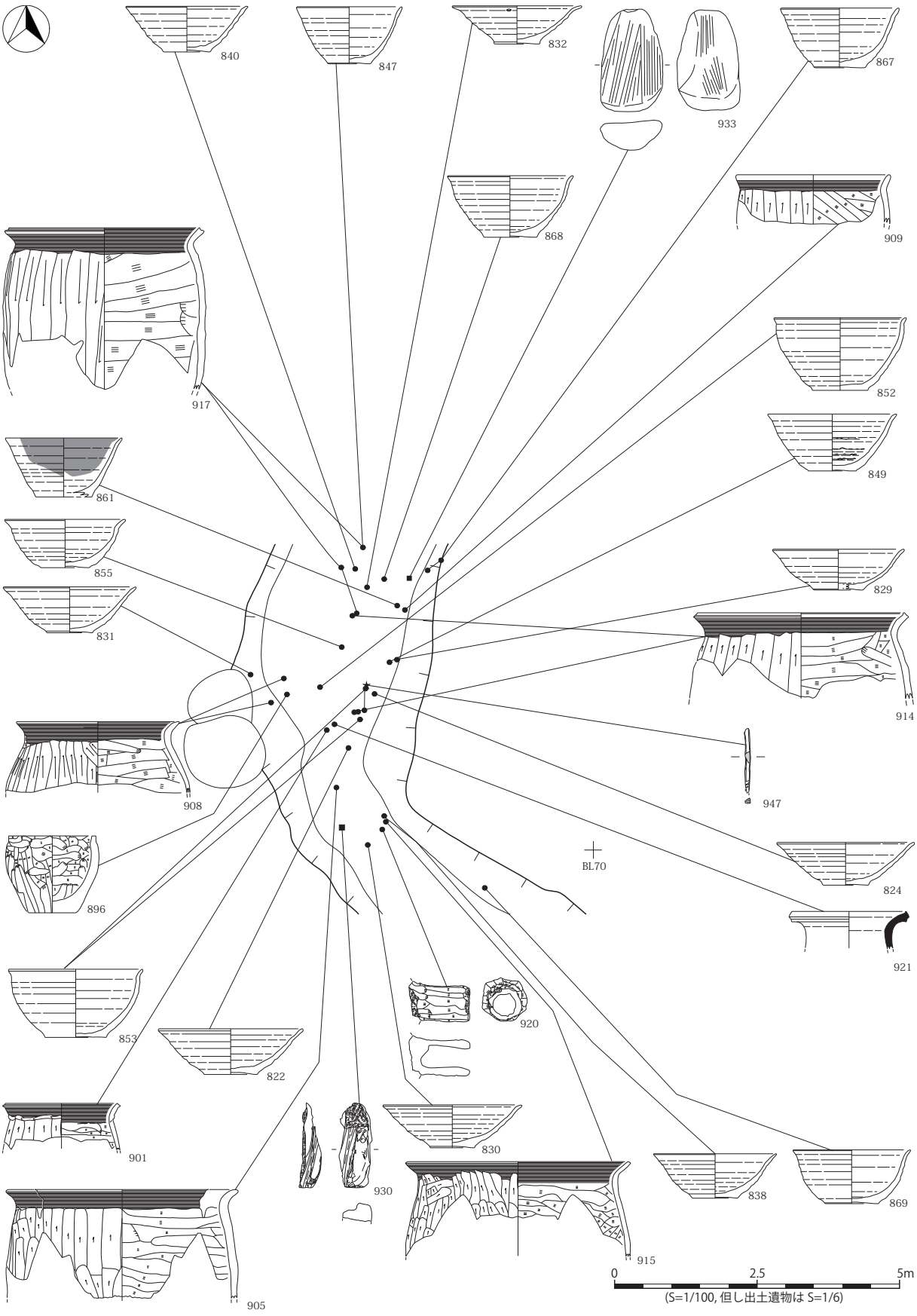
921 は須恵器の広口壷であり内外面ともにロクロ調整である。922 は須恵器の中甕であり口頸部は内外面ともにロクロナデ調整、体部外面には格子タタキ目が見られる。923 は須恵器の壷であり、ロクロナデ調整後、外面はヘラケズリ調整である。924 は須恵器の甕の体部～底部破片であり、体



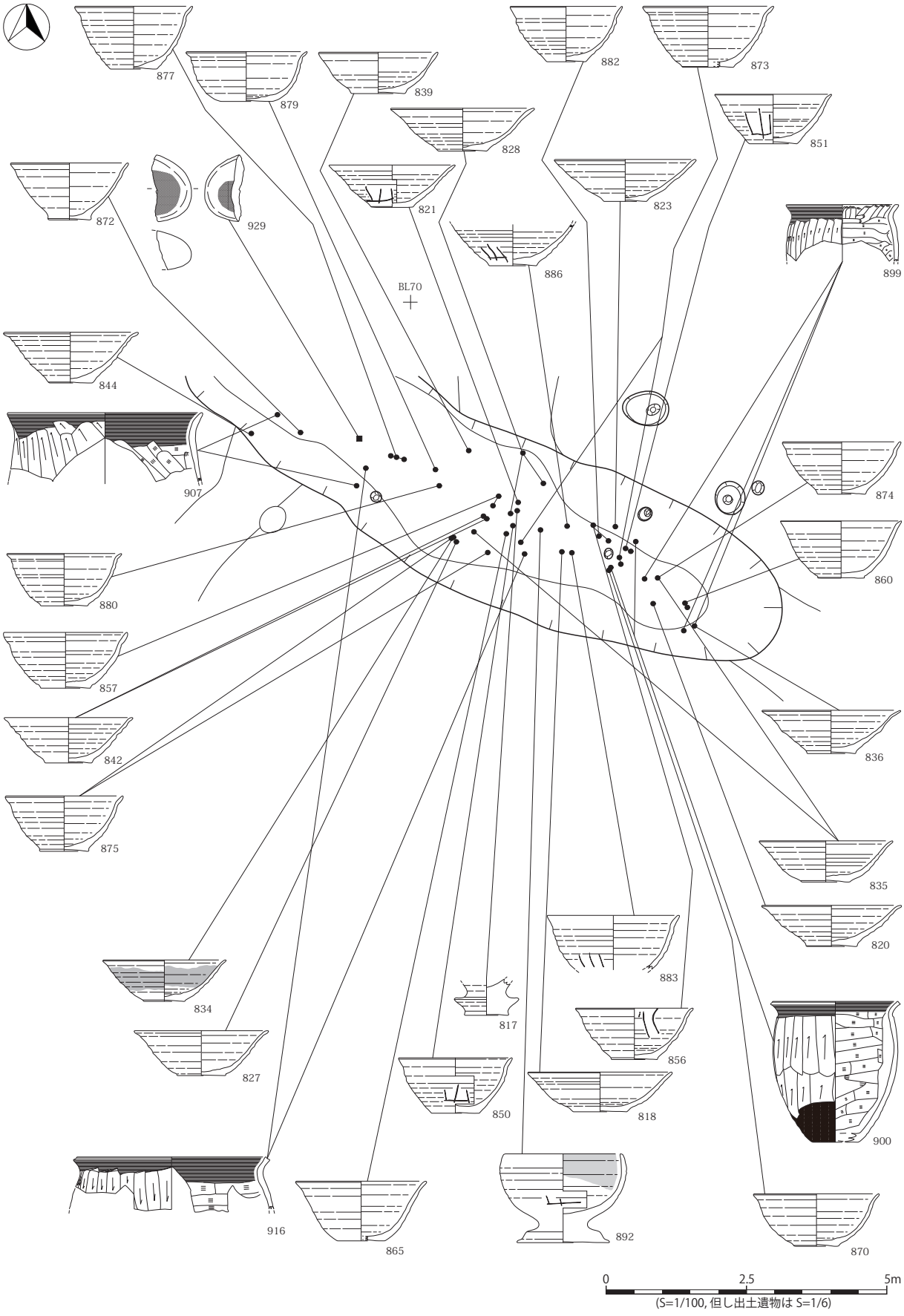
図Ⅲ-2-183　SD68遺物出土状況(1)



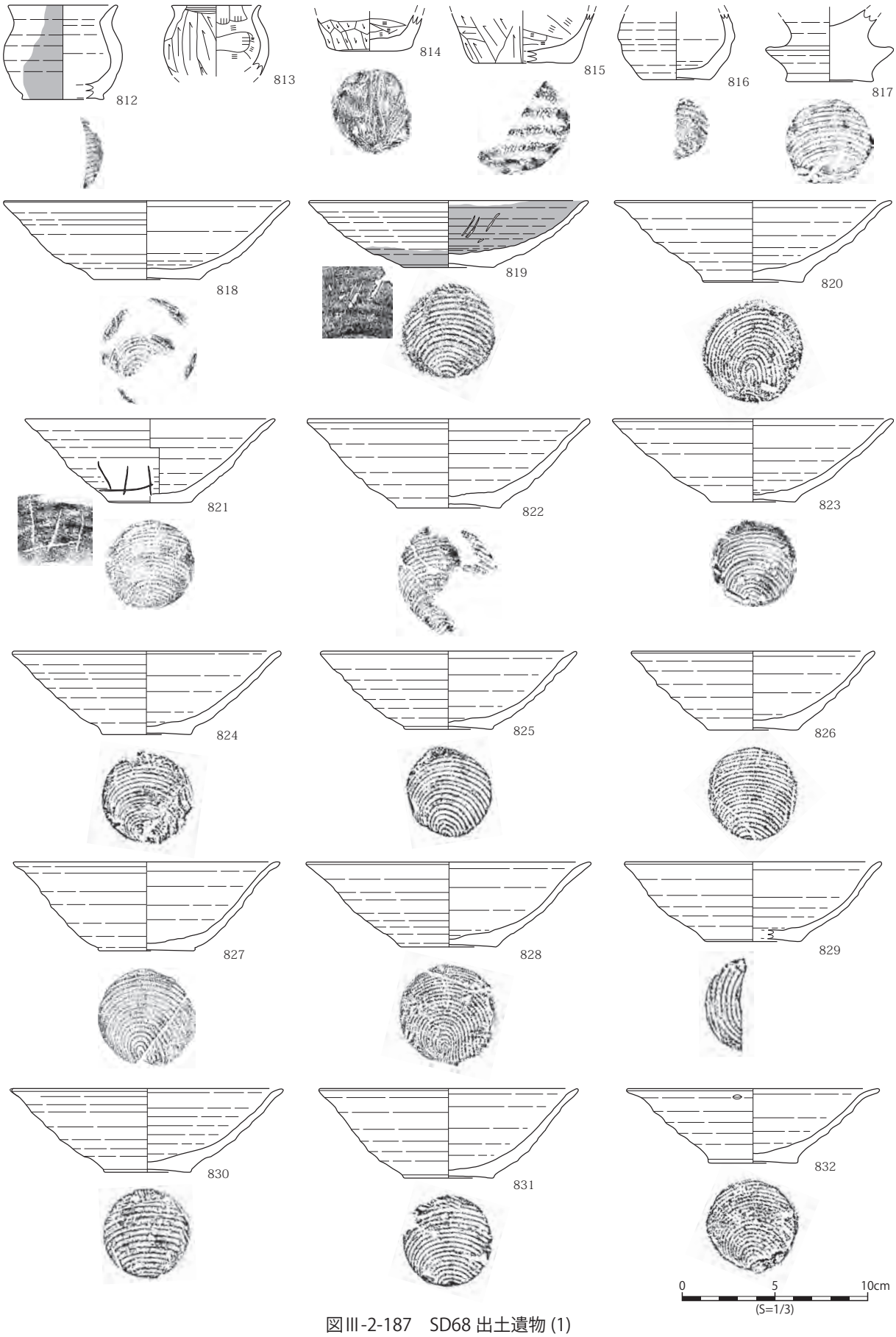
図Ⅲ-2-184　SD68遺物出土状況(2)



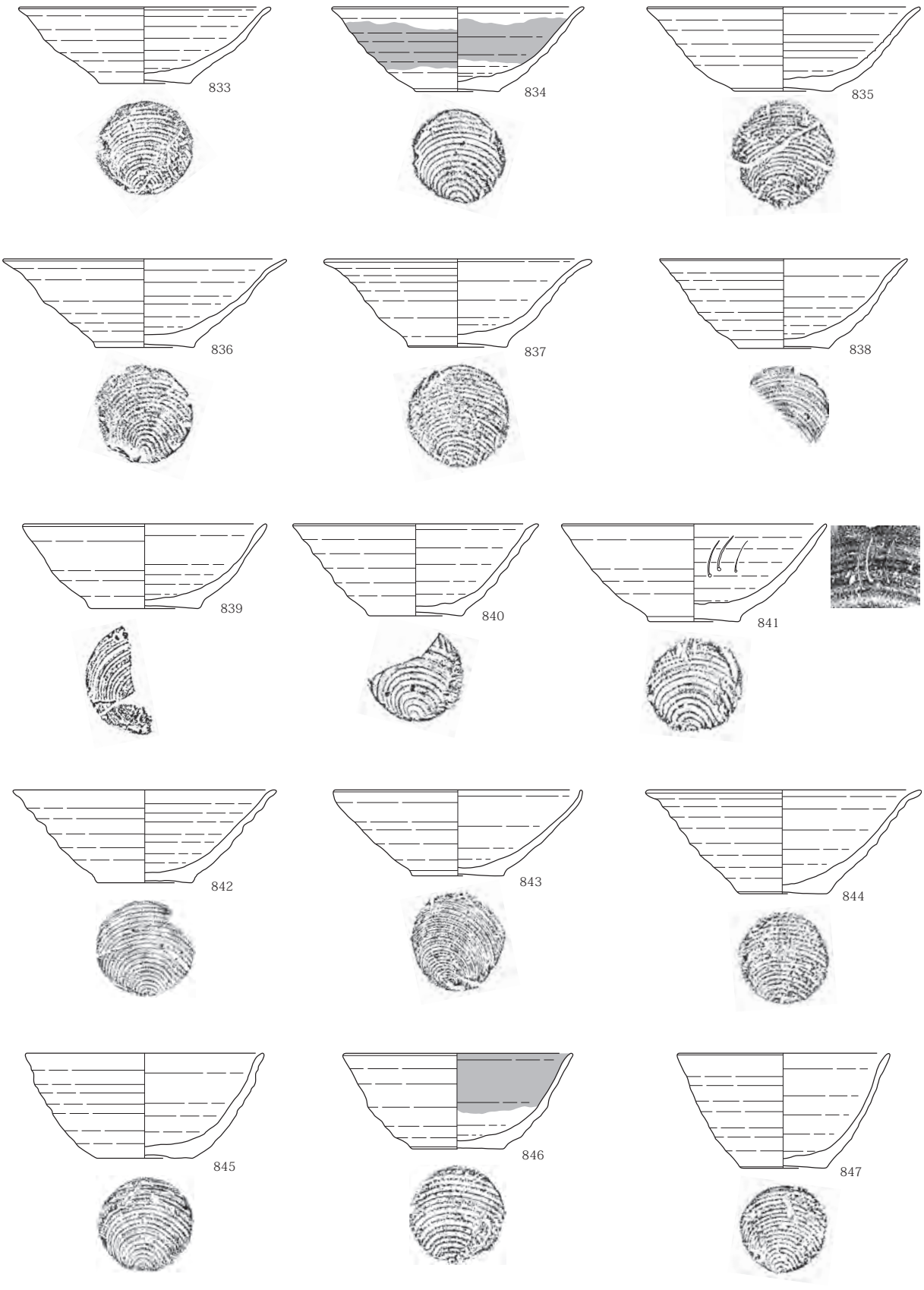
図Ⅲ-2-185　SD68遺物出土状況(3)



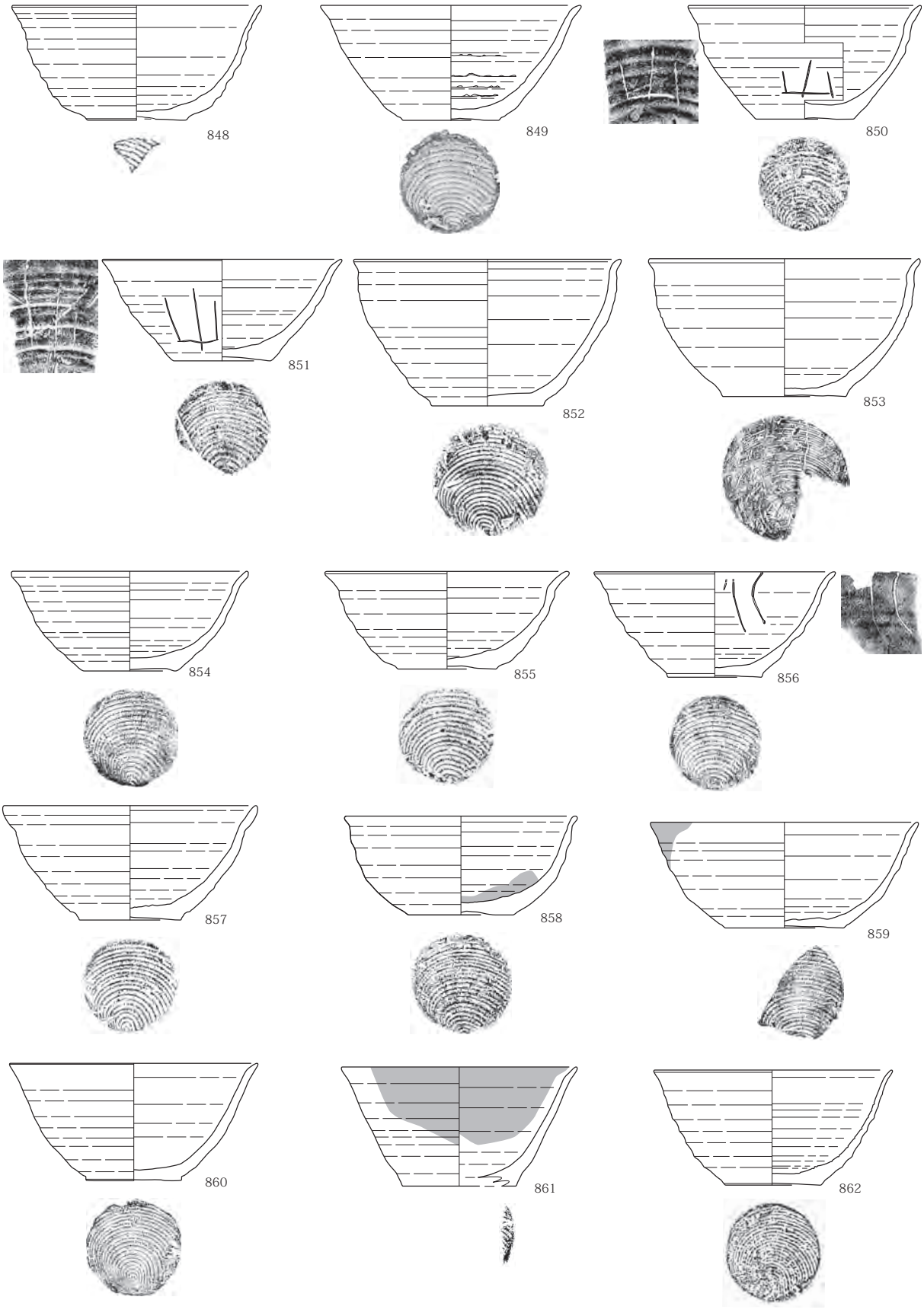
図Ⅲ-2-186　SD68遺物出土状況(4)



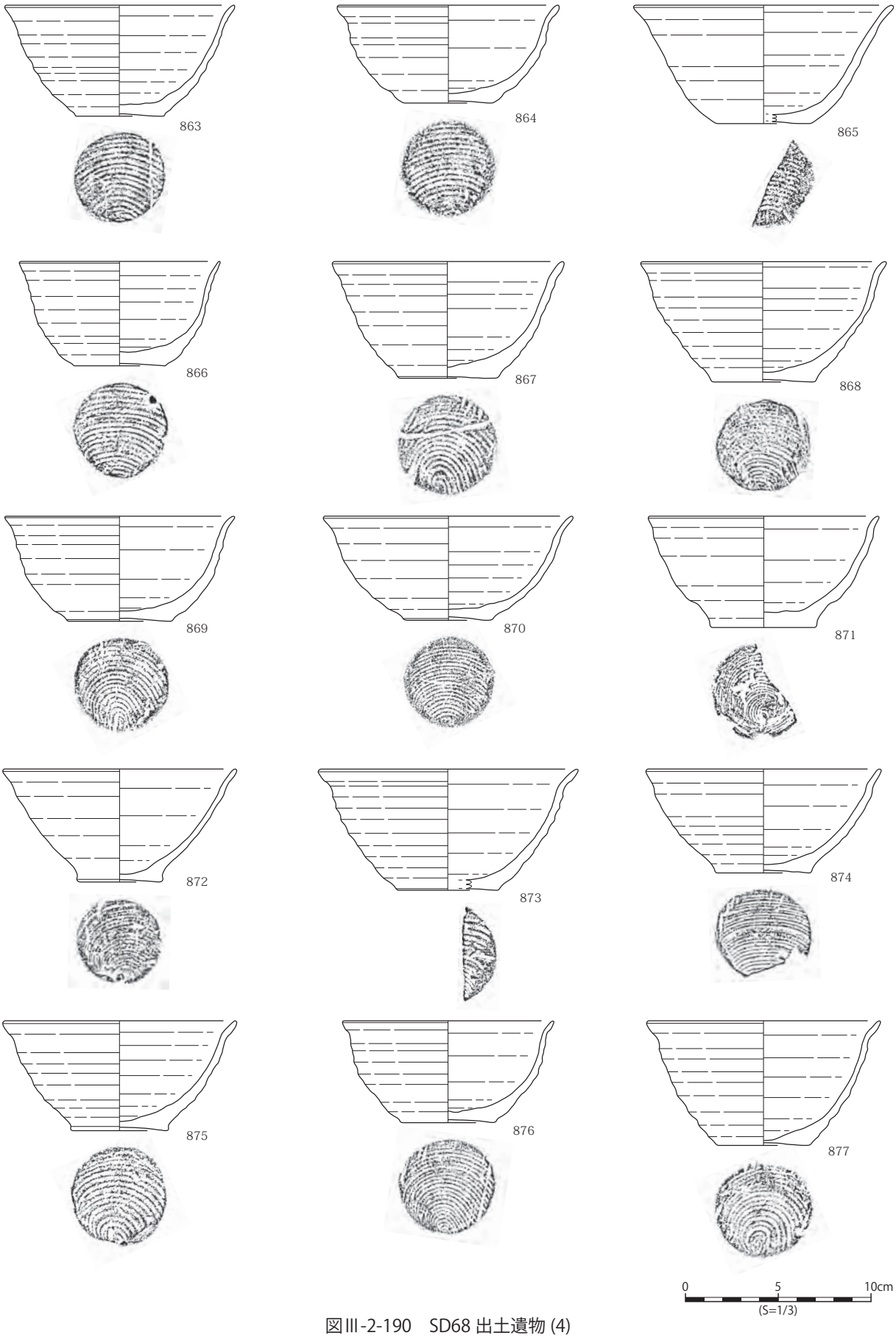
図Ⅲ-2-187　SD68 出土遺物 (1)



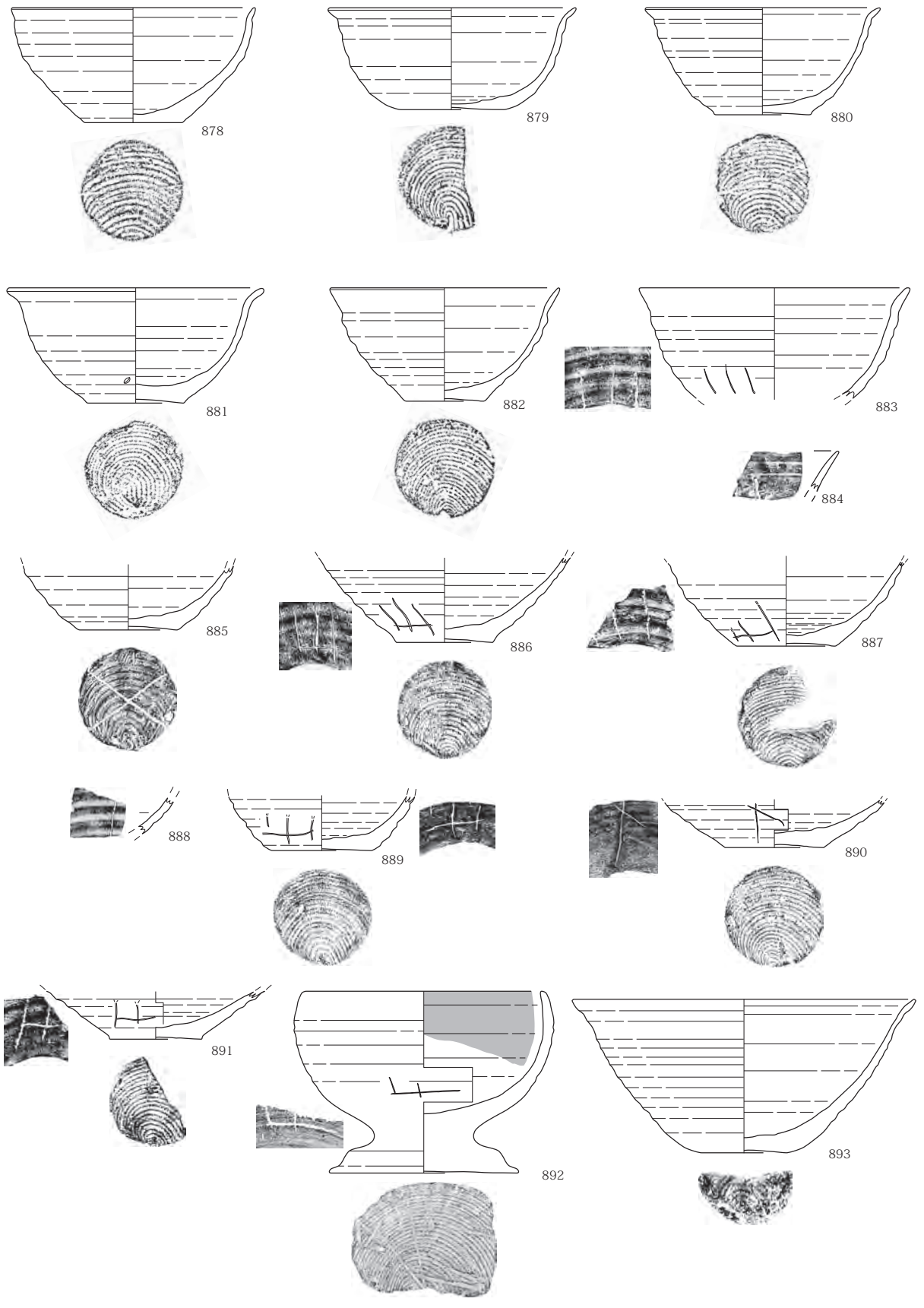
図Ⅲ-2-188　SD68 出土遺物 (2)



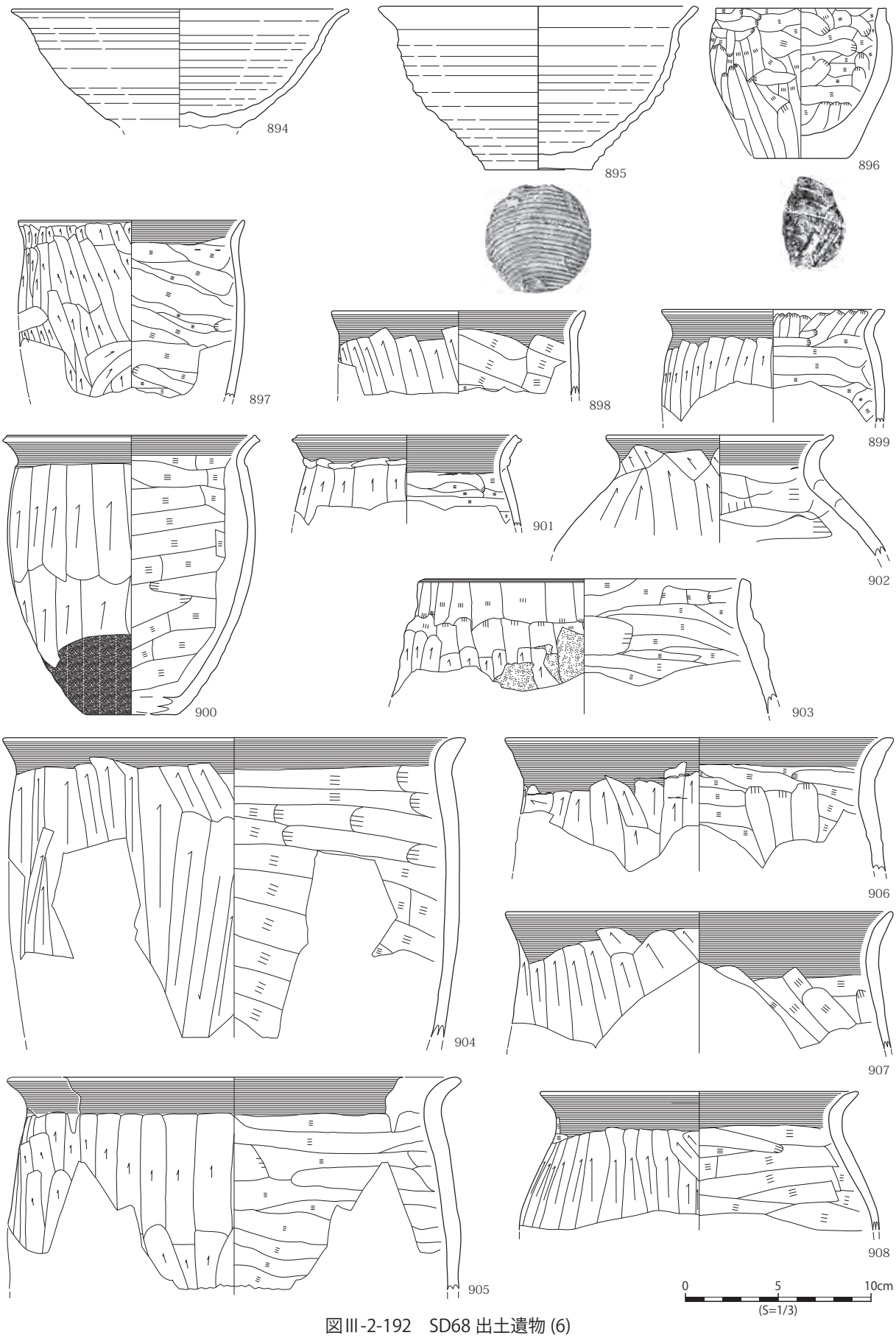
図Ⅲ-2-189　SD68 出土遺物 (3)



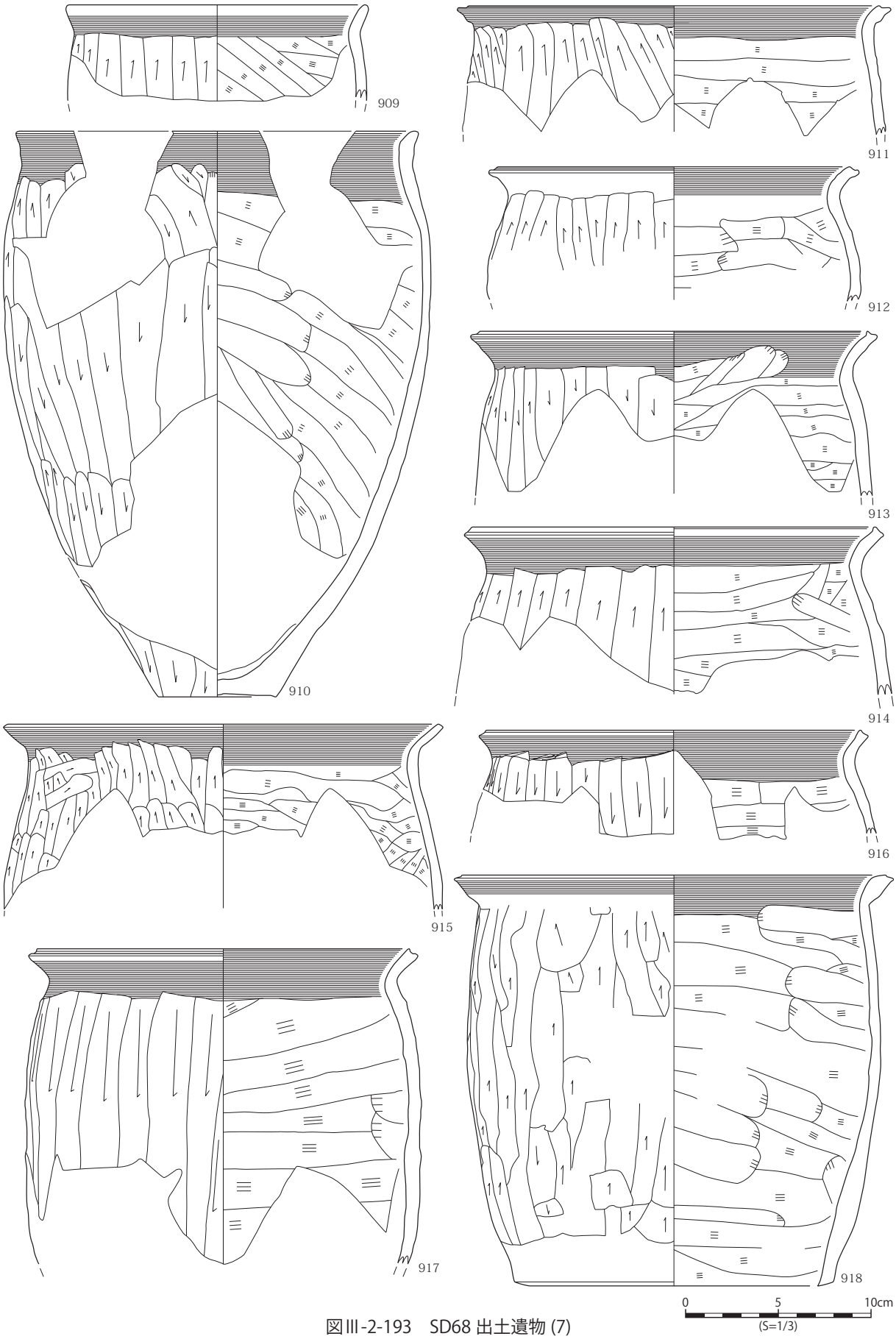
図Ⅲ-2-190　SD68 出土遺物 (4)



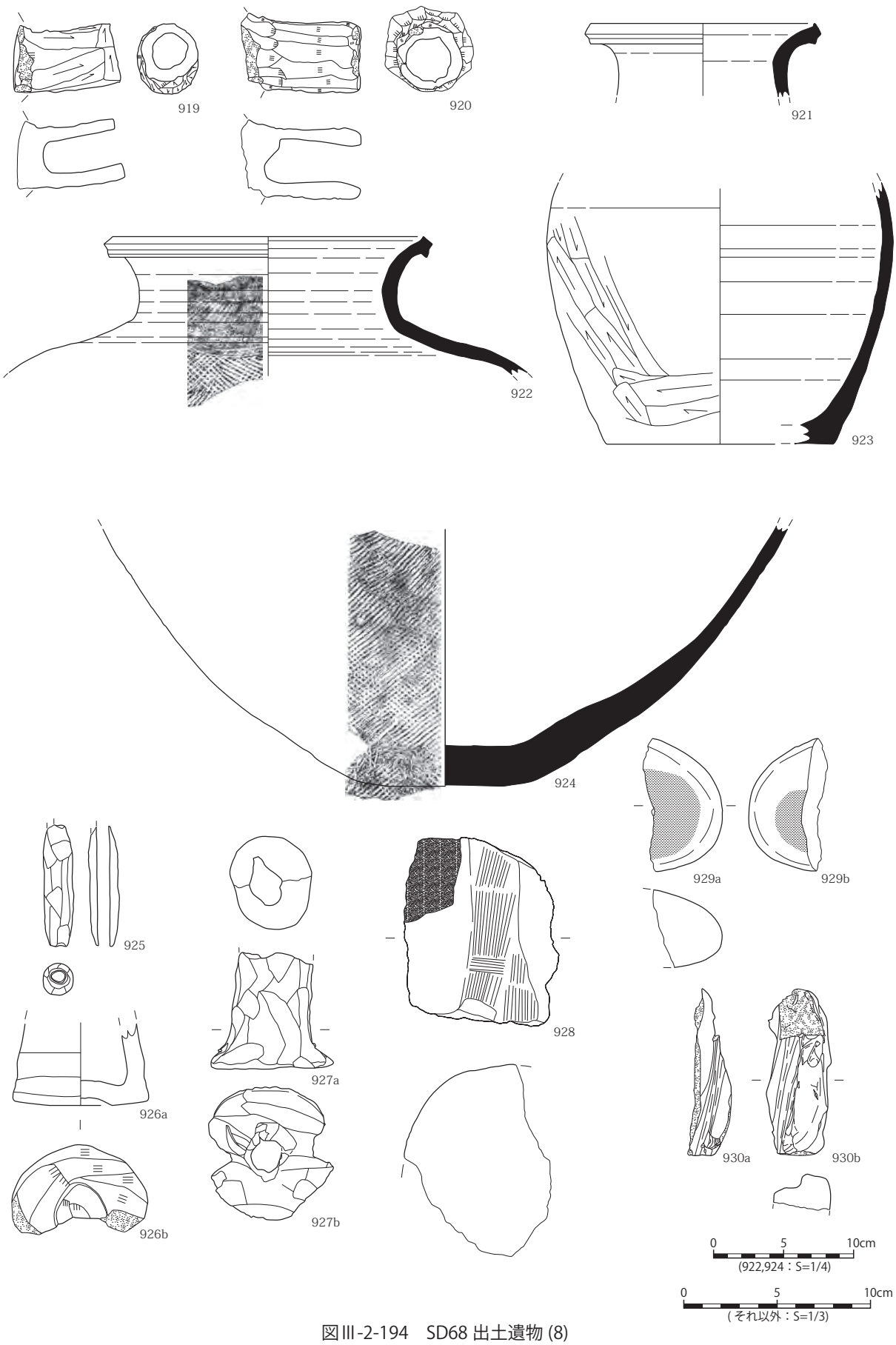
図Ⅲ-2-191　SD68 出土遺物 (5)



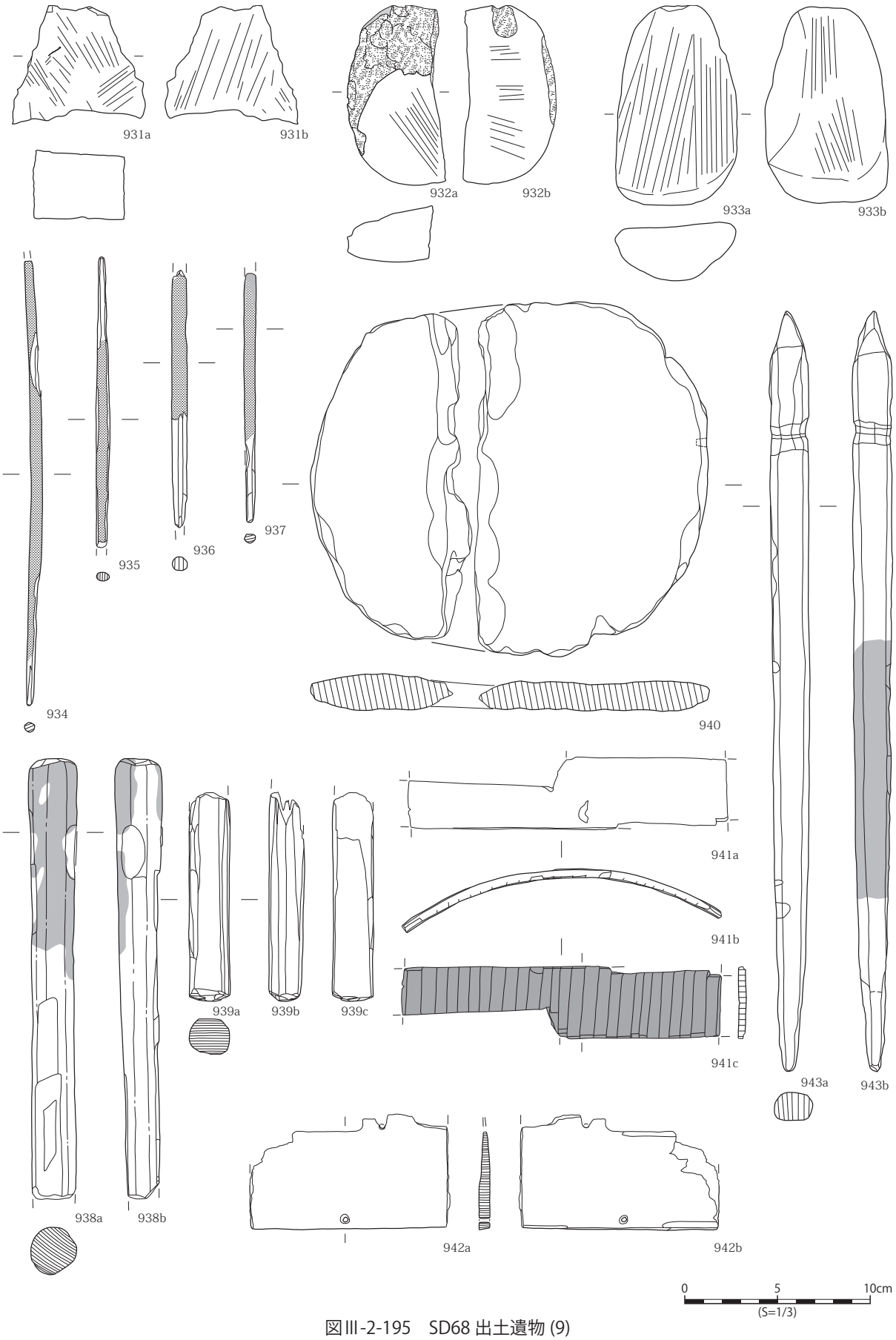
図Ⅲ-2-192　SD68 出土遺物 (6)



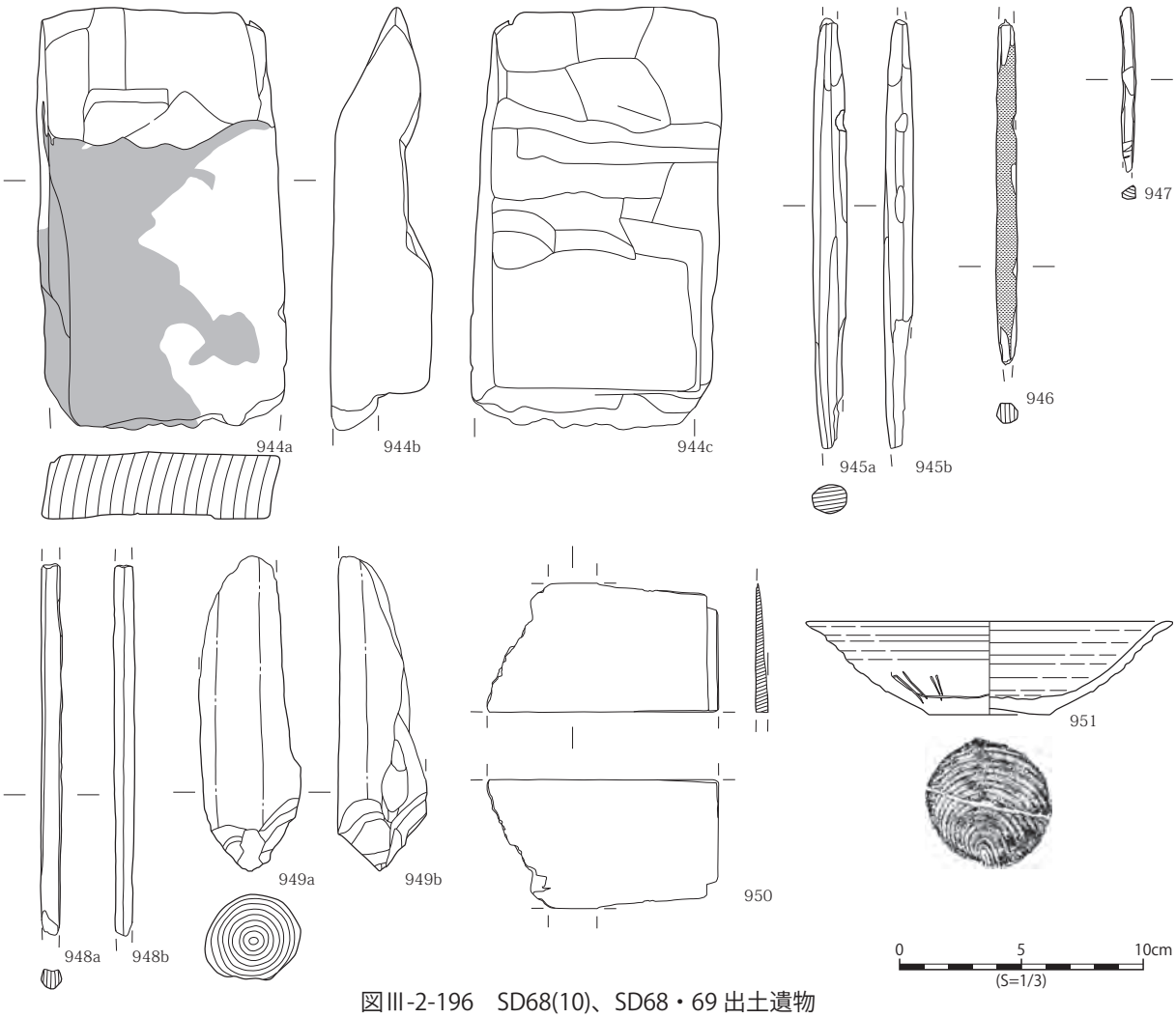
図Ⅲ-2-193　SD68 出土遺物 (7)



図Ⅲ-2-194　SD68 出土遺物 (8)



図Ⅲ-2-195　SD68 出土遺物 (9)



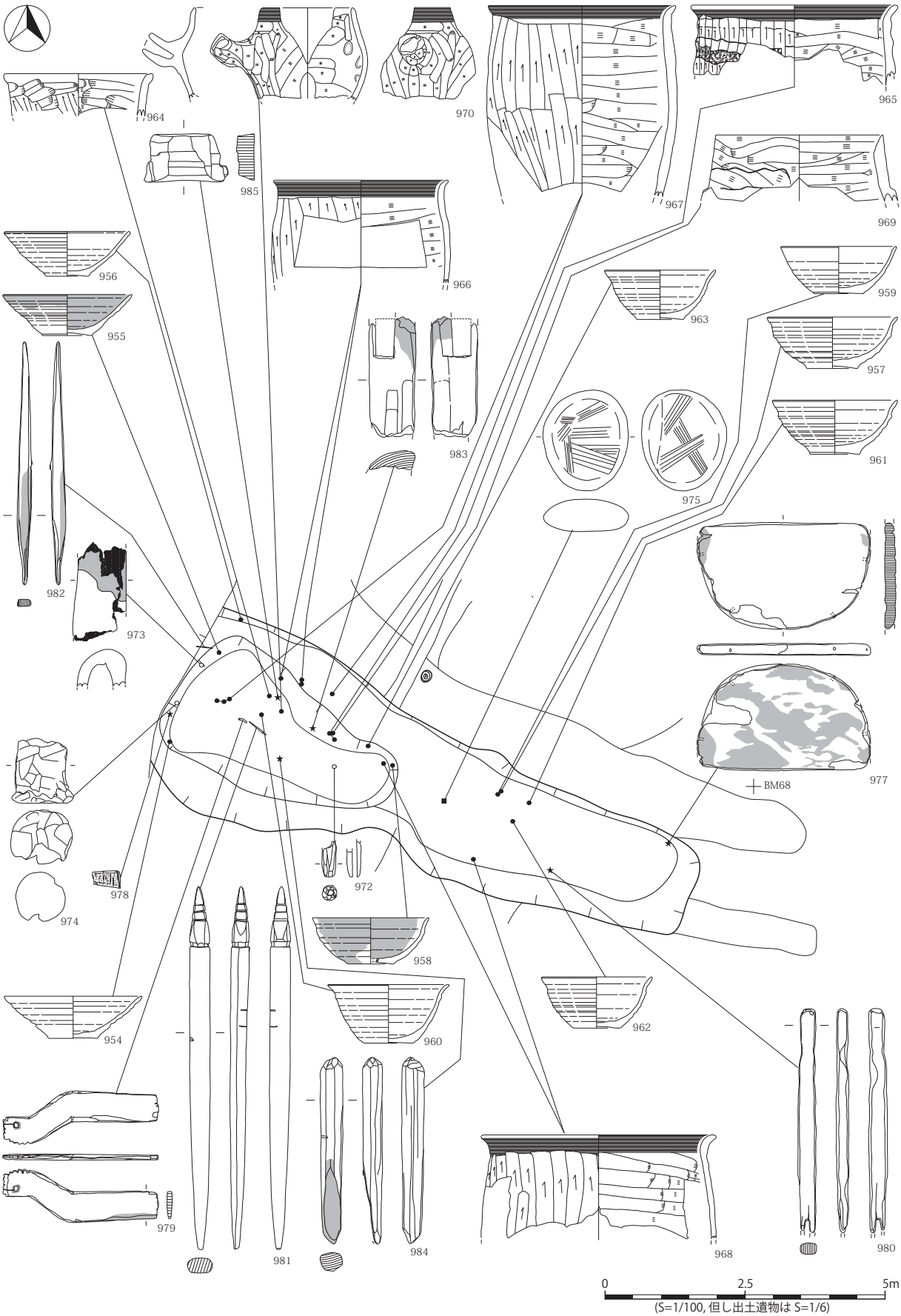
図Ⅲ-2-196　SD68(10)、SD68・69 出土遺物

部外面は平行タタキ目、底部は格子タタキ目が見られる。921 ～ 924 は土器の胎土から五所川原産須恵器であり、特に 921・922 は口縁部の形態から MD 窯前半期の窯産のものと考えられる。

925 は土錘であり、外面はユビナデ調整が施されている。926・927 は支脚であり、いずれも中空であるが、926 は底面があり、927 は底面まで貫通している。いずれもユビナデ調整が施されている。

928 ～ 933 は砥石であり、928・929・932・933 は円礫、930・931 は角礫を使用している。いずれも平坦面を砥面として使用している。石材は 928･929 が安山岩、930 が珪質泥岩、931 が流紋岩、932 が泥岩、933 が珪質凝灰岩である。934 ～ 937 は箸あるいは箸状木製品であり、残存する先端部を尖らせている。938・939 は丸状に面取りされていることから、工具の柄であると考えられる。940 は曲物の底板、941 は曲物の側板である。942 は不明の板状木製品であり、穿孔が見られる。943 は不明の棒状木製品であり、先端部を尖らせ、上端両側面に抉りが入っている。944 は下駄の未成品であり、945 ～ 948 は不明の棒状木製品である。949 は杭状木製品であり、950 は不明の板状木製品である。樹種は 947 が針葉樹である以外はすべてアスナロである。951 は、SD68 あるいは SD69 から出土した土師器の皿であり、外面にヘラ記号が描かれている。［時期］Ⅱ期であると考えられる。

（SD72）

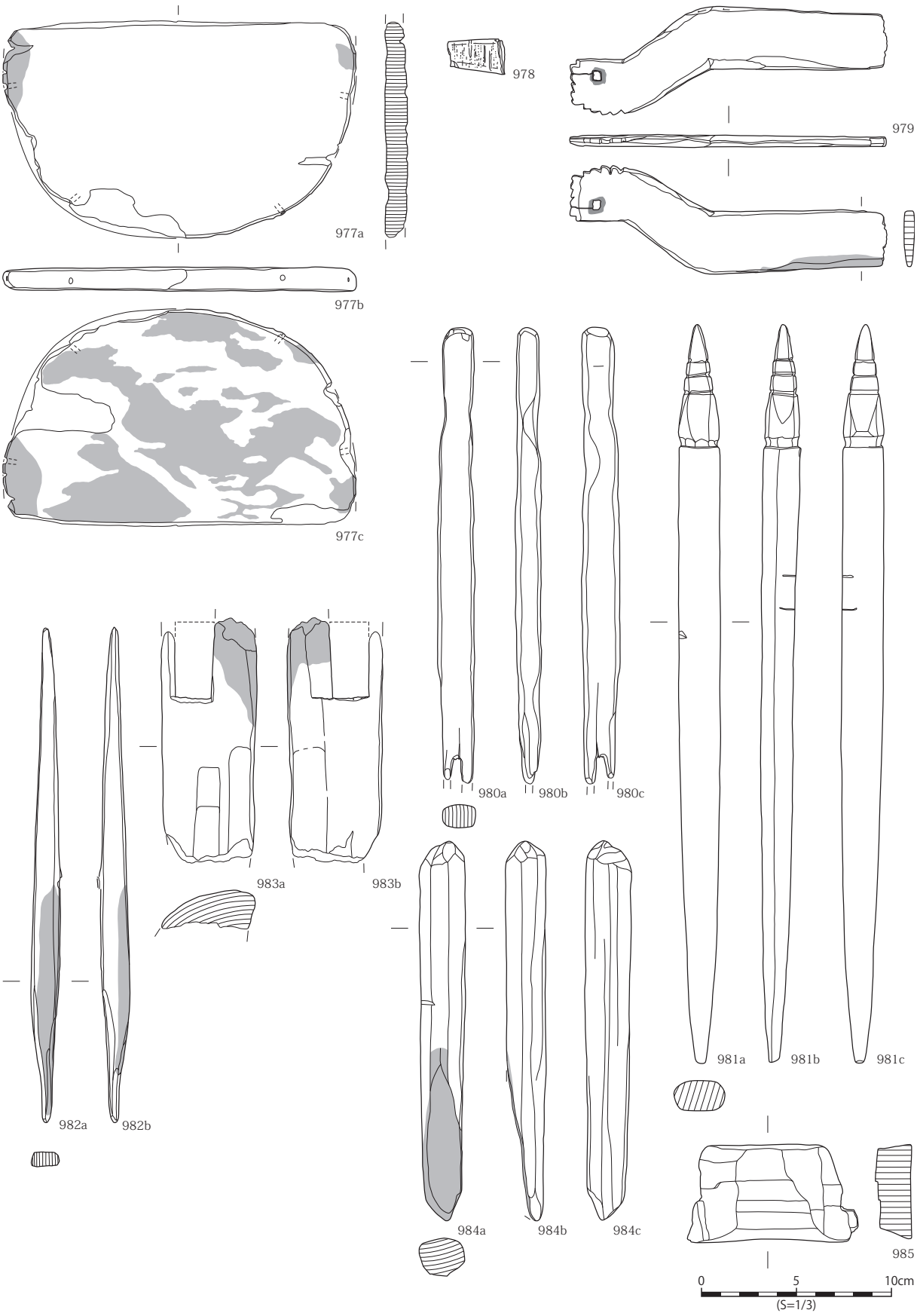


図Ⅲ-2-197　SD72遺物出土状況

図Ⅲ-2-198　SD72 出土遺物 (1)

図Ⅲ-2-199　SD72 出土遺物 (2)

［位置・確認］グリッド BL・BM68 ～ 70 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA12、SD68・70・73・76 と重複関係にあり、SD68 よりも古く、その他の遺構よりも新しい。［規模・形状］南南東方向から北北西方向へ直線状に延びる溝跡である。現存長 985cm、最小幅 203 ～ 358cm、深さ 67cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒褐色土を主体とした層で構成されており、間に黒色



図Ⅲ-2-200　SD72 出土遺物 (3)

土層を混じる自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 21.1g、土師器坏 8,644.2g、土師器甕 39,040.3g、須恵器甕 686g、須恵器壷 32g が出土している（図Ⅲ -2-197）。その内図示できたのは 34 点である（図Ⅲ -2-198 ～ 200）。952 はミニチュアの甕であり体部中央付近に穿孔が見られる。外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。953 は土師器の皿であり、954 ～ 956 は土師器の皿形坏であり、955 は内外面が二次被熱により黒色変化している。957・958 は土師器の埦形坏であり、958 は内外面が二次被熱により黒色変化している。959 ～ 963 は土師器の埦である。953 ～ 963 はいずれもロクロ成形で、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。964 は土師器の小型甕であり、やや外傾気味に立ち上がる口縁部を有し、内外面にユビナデ調整が施されている。965 ～ 968 は土師器の長胴甕であり、いずれも短く外彎する口縁部を有し、口縁部内外面はユビナデ調整、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。969 は土師器の甕であり、体部上半に段を有し、やや内傾する口縁部を有する器形である。内外面ともにユビナデ調整が施されている。970・971 は把手付土器であり、いずれも中空の把手を有し、ユビナデ調整が施されている。972 は土錘であり、外面はユビナデ調整が施されている。973 は羽口であり、上下端が欠損しているが、ガラス質溶解部と還元部分が確認された。974 は中実の支脚であり、底面及び外面にはユビナデ調整が施されている。975・976 は砥石であり、975 は扁平な円礫の扁平部を砥面として使用しおり、976 は角礫の平坦面を砥面として使用している。石材は 975 が安山岩、976 が珪質凝灰岩である。

977 は曲物底板であり、側面には側板を留めていたと考えられる木釘孔が見られ、二次被熱により一部炭化している。978 は結合補助材に使用される樹皮巻である。979 は頭部と目が作り出され、体部は簡略化された鳥形であり、980 は上部側面に抉りが入り、下部は 2 叉に分かれており、人形の可能性が高い。981 は上端部を円錐状に作り出し、円錐部に 4 段の横位沈線が施されており、祭祀具の有頭串である。982 は上下部鋭角に尖らせている不明木製品である。983 は不明木製品であり、枘状の方形孔が作り出されているため、施設材・器具材の可能性が考えられる。984 は不明の棒状木製品であり、柄の可能性が高い。985 は残材であり、刃物痕が顕著に認められる。樹種は 978 が針葉樹皮のほかはすべてアスナロである。［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる。

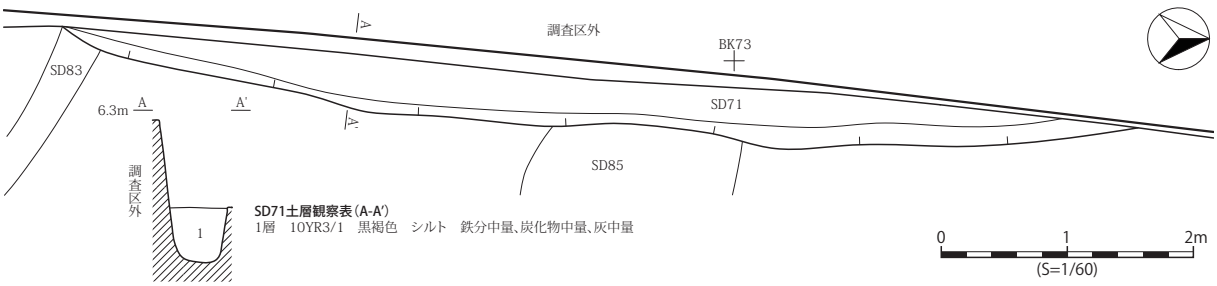
（SD73）

［位置・確認］グリッド BL67，68 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD72 と重複関係にあり、SD72 よりも古い。［規模・形状］南南東方向から北北西方向へ直線状に延びる溝跡である。現存長 246cm、最小幅 55 ～ 68cm、深さ 33cm を測る。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層とⅣ層由来の層が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 411g、土師器甕 4,624g、須恵器甕 47g、須恵器壷 17g が出土している。［時期］堆積土からⅠ期に相当すると考えられる。

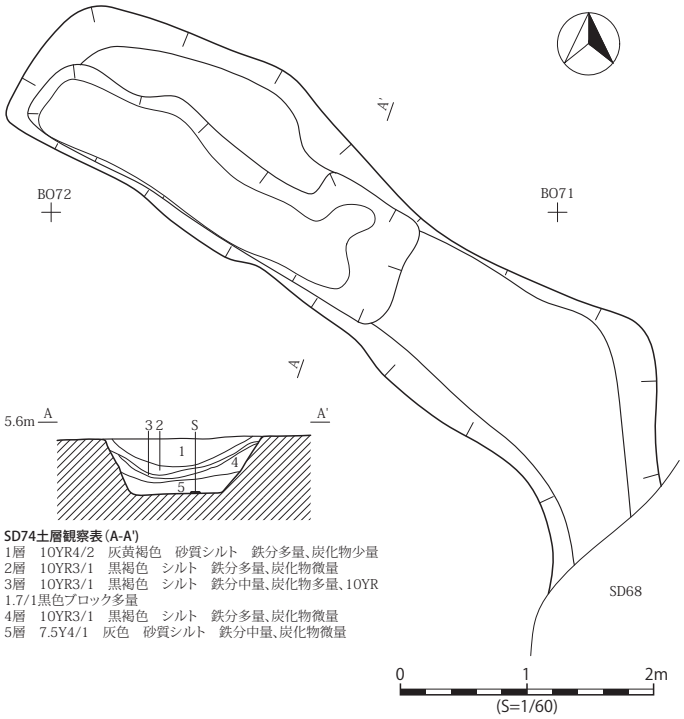
第 71 号溝跡（SD71、図Ⅲ -2-201）

［位置・確認］グリッド BI73，74、BJ・BK73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD8・85 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模・形状は不明であるが、南北方向に直線状に延びる溝跡である。確認長 836cm、深さ 54.5cm を測る。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］特になし。［時期］Ⅲ期に相当すると考えられる。

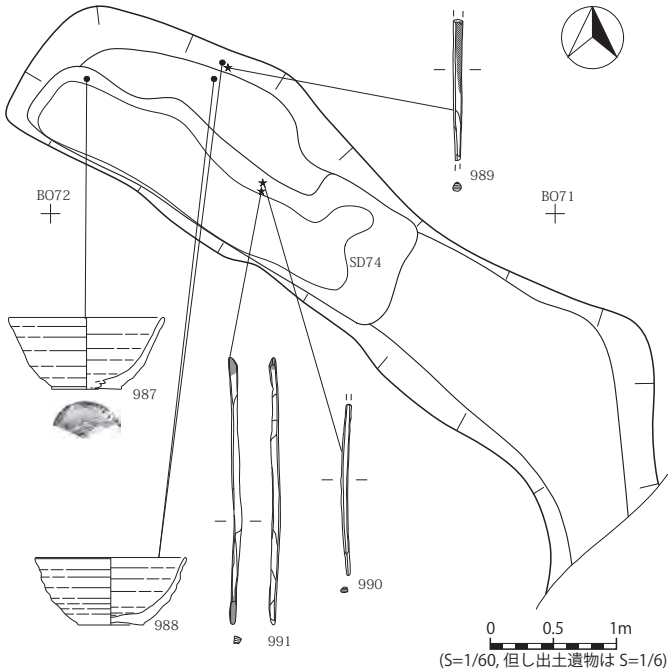
第 74 号溝跡（SD74、図Ⅲ -2-202）



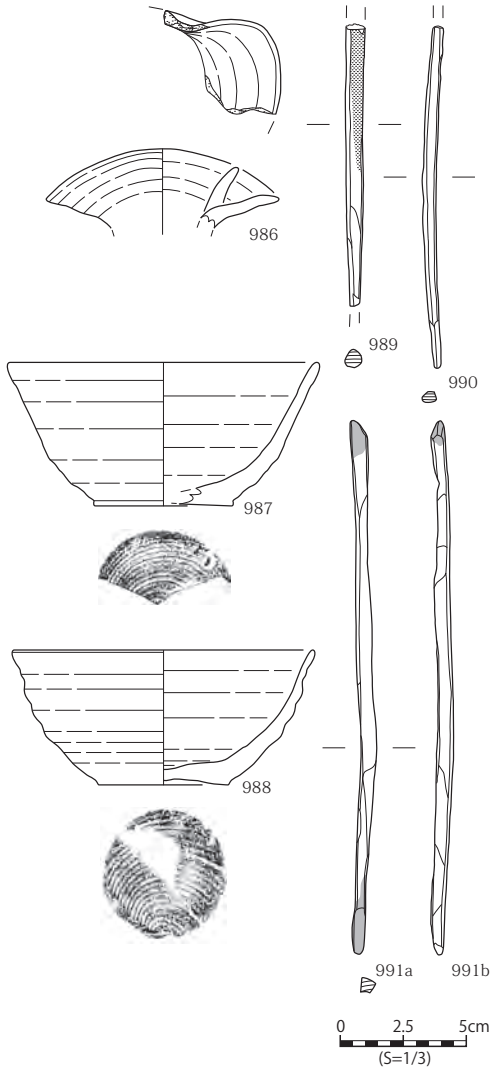
図Ⅲ-2-201　SD71



図Ⅲ-2-202　SD74

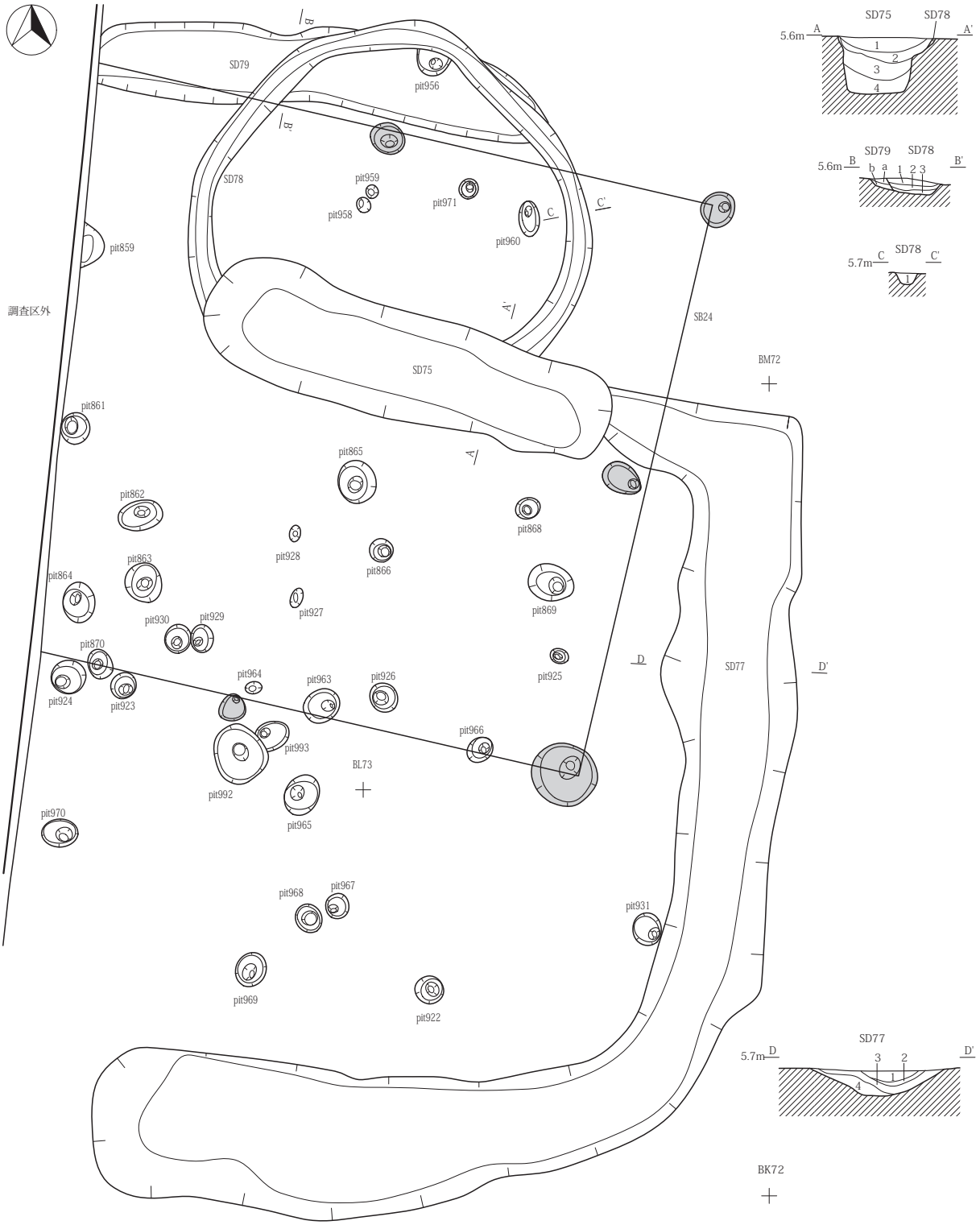


図Ⅲ-2-203　SD74 遺物出土状況



図Ⅲ-2-204　SD74 出土遺物

［位置・確認］グリッド BN70，71、BO71，72 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD68 と重複関係にあり、SD68 よりも古い。［規模・形状］南東方向から北西方向に直線状に延びる溝跡である。現存長 601cm、幅 108 ～



SD75土層観察表（A-A'）
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　5Y2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SD78・79土層観察表（B-B'）
SD78
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
SD79
a層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物多量
b層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

SD78土層観察表（C-C'）
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物多量

SD77土層観察表（D-D'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
4層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-2-205　SD75・77・78・79

150㎝、深さ 63㎝を測る。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 185.7g、土師器甕 1,123g、須恵器甕 57g、須恵器壷 123g が出土している（図Ⅲ-2-203）。この内図示できたのは 6 点である（図Ⅲ-2-204）。986 は土師器の耳皿であり、ロクロ成形である。987・988 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

木製品では、989 は箸であり、990 は残材である。991 は加工木である。樹種は 989・990 がアスナロ、991 はマツ属である。［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる。

第 75・77・78・79 号溝跡（SD75・77・78・79、図Ⅲ-2-205）

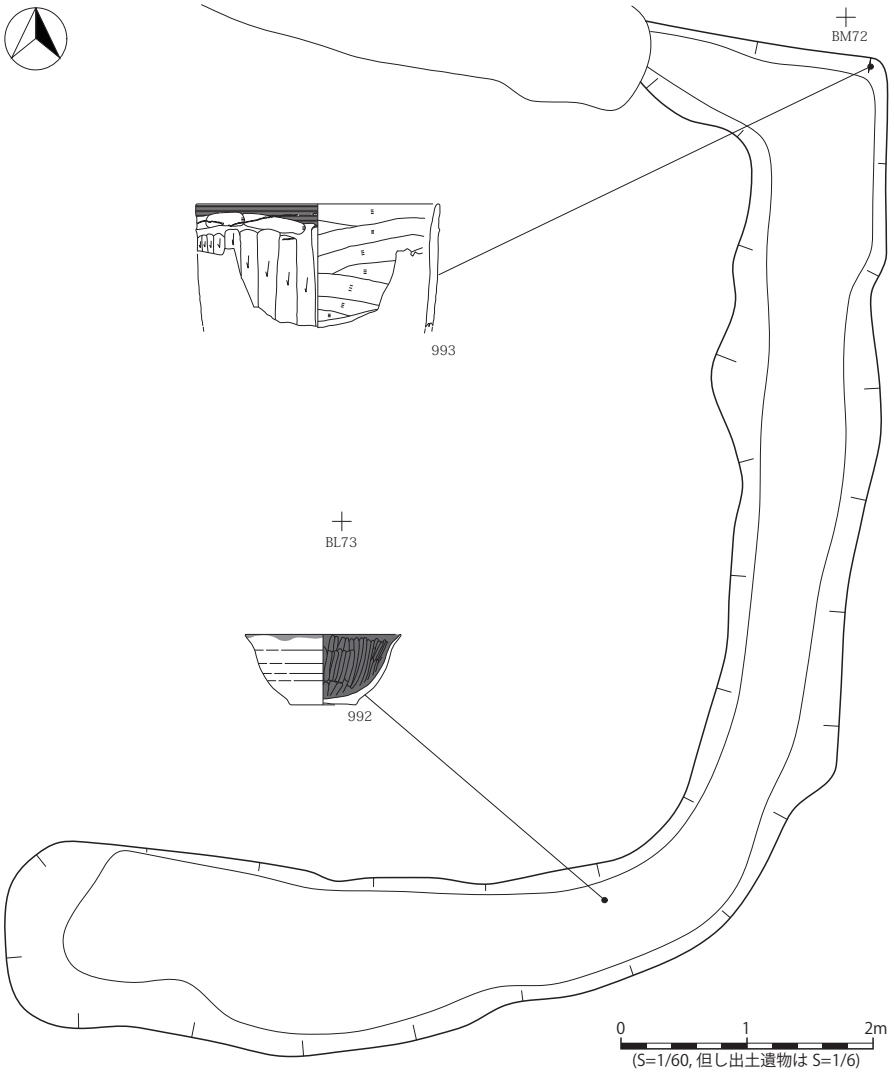
（概要）

調査区西端中央付近に位置し、直線状の溝跡 SD79 →円形周溝 SD78 →西側に開口部を有するコの字状の溝跡 SD77・75 の順に構築されている。さらにその溝跡廃絶後に掘立柱建物跡 SB24 が構築されている。

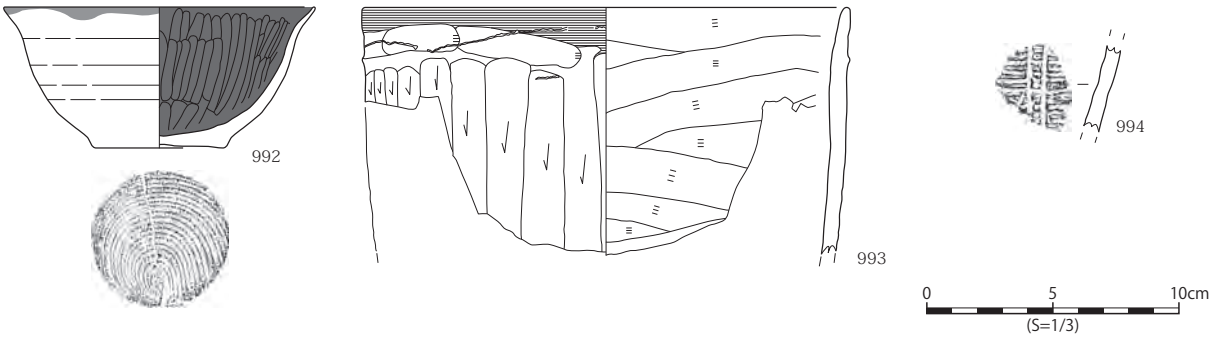
（SD79）

［位置・確認］グリッド BM72，73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。

［重複関係］SD78 と重複関係にあり、SD78 よりも古い。［規模・形



図Ⅲ-2-206　SD77遺物出土状況



図Ⅲ-2-207　SD77出土遺物

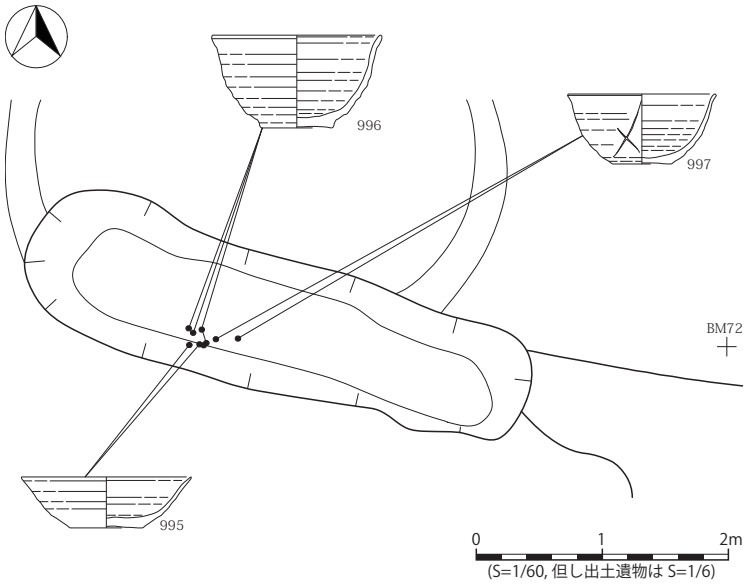
状］調査区外へと延びているため正確な規模・形状は不明であるが、東西方向に直線状に延びる溝跡である。確認長 437cm、幅 47 ～ 104cm、深さ 19cm を測る。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏 5g、土師器甕 26g が出土している。［時期］Ⅰ期に相当すると考えられる。

（SD78）

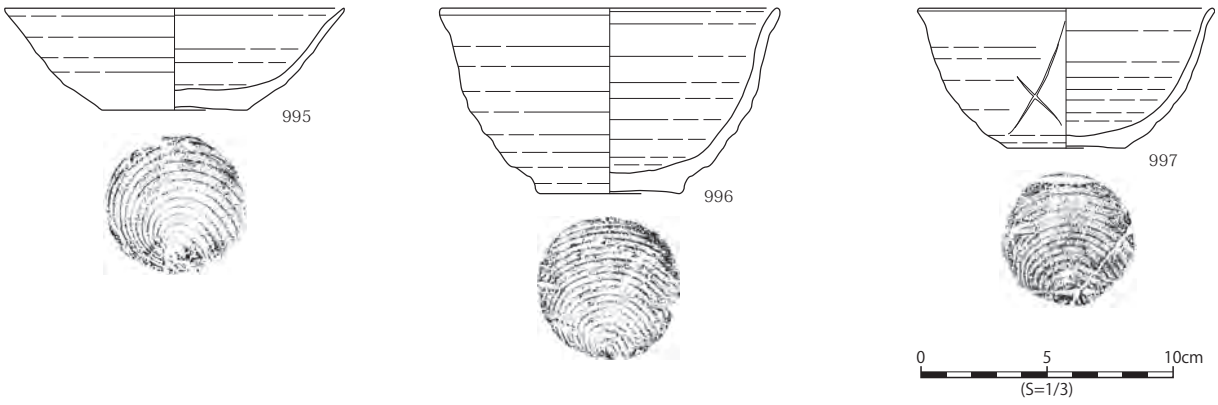
［位置・確認］グリッド BM72，73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD75・79 と重複関係にあり、SD75 よりも古く、SD79 よりも新しい。［規模・形状］円形の溝跡である。現存外周長 337cm、現存内周長 724cm、幅 20 ～ 30cm、深さ 33cm を測る。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］特になし。［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる SD77 よりも古いため、Ⅰ期に相当すると考えられる。

（SD77）

［位置・確認］グリッド BJ72，73、BK・BL71 ～ 73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD75 と重複関係にあり、SD75 よりも古い。［規模・形状］西から東へと直線状に延び途中で方向を北に転じ直線状に延び、さらに方向を西に転ずる開口部を西側に有するコの字状の溝跡である。現存長 1,320cm、幅 85 ～ 153cm、深さ 32cm を測る。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土を主体とし、間に黒色土層とⅢ層由来の層を挟む自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 739.6g、土師器甕 3,476.6g、須恵器甕 15g が出土している（図Ⅲ -2-206）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ -2-207）。992 は土師器の埦であり、ロクロ成形後内面はミガキ調整が施され、内面黒色処理が施されている。底面は回転糸切痕を残し、無調整である。993 は直上口縁を有する土師器の



図Ⅲ-2-208　SD75遺物出土状況

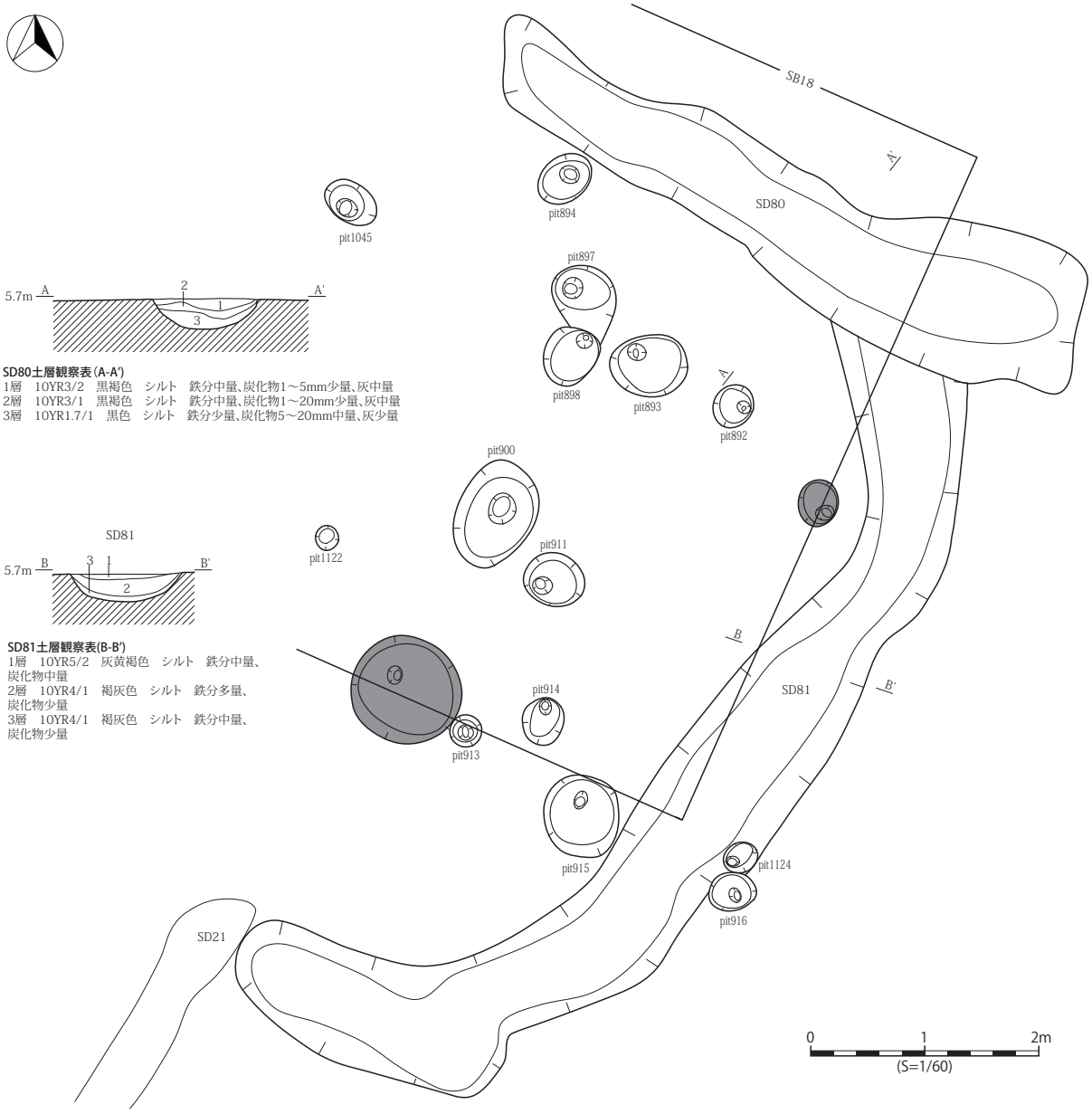


図Ⅲ-2-209　SD75 出土遺物

小型甕であり、外面は口縁部がヨコナデ、体部がケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。994 は擦文土器の体部破片であり、多重の横走沈線を引いたのち二重の縦走沈線が引かれている。［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる。

（SD75）

［位置・確認］グリッド BL・BM72,73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD77・78 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］東南東から西北西へと直線状に延びる溝跡である。長さ 411cm、幅 91 ～ 119cm、深さ 59cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1 層はⅣ層由来の層、2 ～ 4 層は黒褐色土層と黒色土層が互層を形成する自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 487.1g、土師器甕 1,040g が出土している（図Ⅲ -2-208）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ –2-209）。995 は土師器の皿形坏であり、996・997 は土師器の埦である。997 は外面にヘラ記号が描かれている。調整はいずれもロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し無調整である。［時



図Ⅲ-2-210　SD80・81

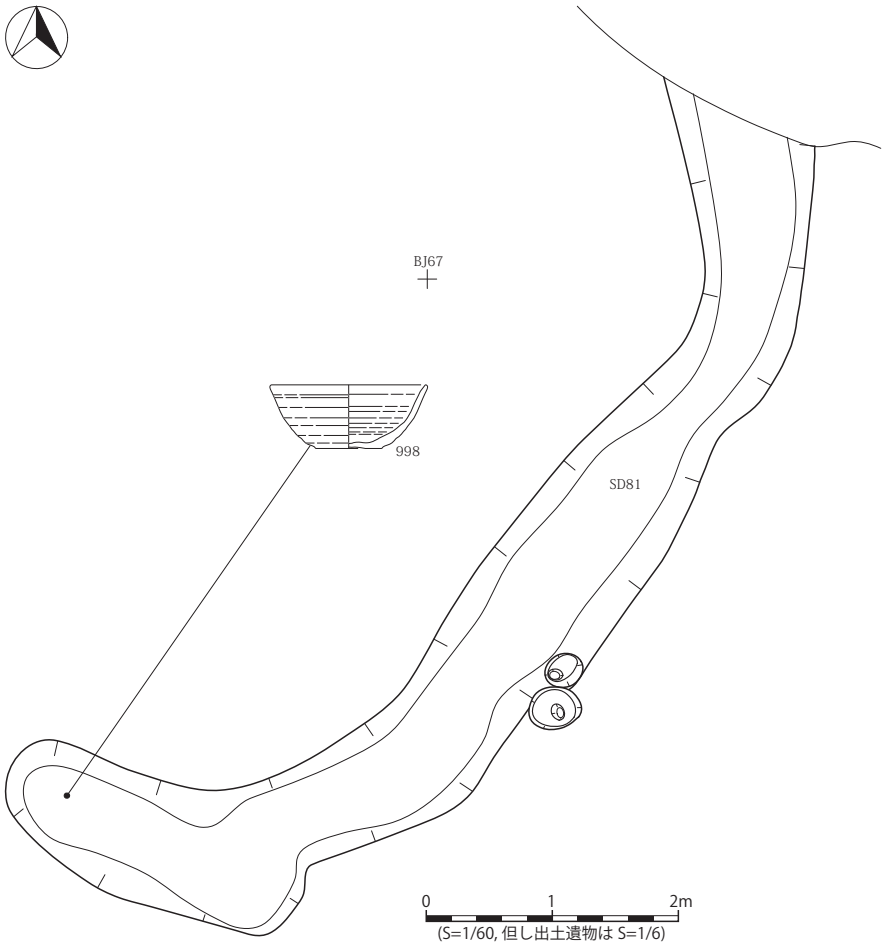
期］Ⅱ期に相当すると考えられる。

第 80・81 号溝跡（SD80・81、図Ⅲ -2-210）

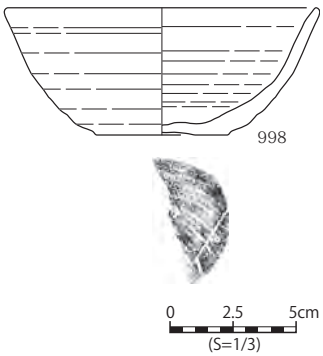
（概要）

調査区西側南端に位置し、L 字状の溝跡 SD81 と直線状の溝跡 SD80 により北西方向に開口部を有するコの字状の溝跡を構成している。

（SD81）

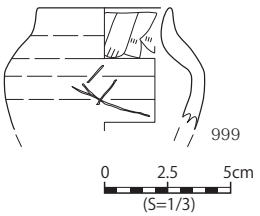


図Ⅲ-2-211　SD81遺物出土状況



図Ⅲ-2-212　SD81出土遺物

［位置・確認］グリッド BH・BI66，67、BJ66 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD80 と重複関係にあり、SD80 よりも古い。［規模・形状］北西方向からから南東方向へと直線状に延び、そこから北へ向きを転じ、やや曲線状に延びる L 字状の溝跡である。長さ 955cm、幅 64 ～ 122cm、深さ 32cm を測る。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 394.9g、土師器甕 966g が出土している（図Ⅲ -2-211）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-212）。998 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。［時期］堆積土からⅠ期に相当すると考えられる。



図Ⅲ-2-213　SD80 出土遺物

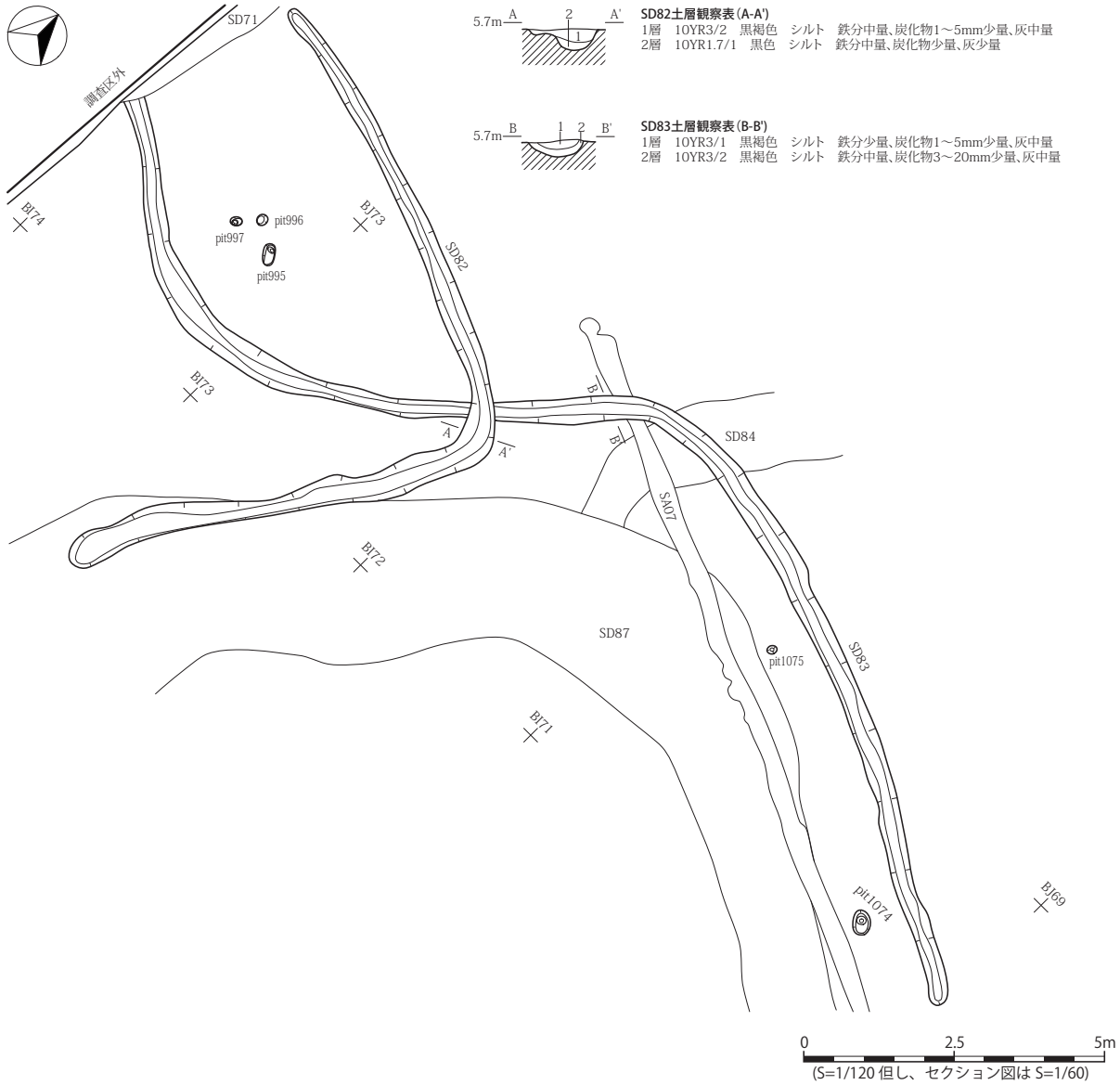
（SD80）

［位置・確認］グリッド BJ65 ～ 67、BK67 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD81 と重複関係にあり、SD81 よりも新しい。［規模・形状］北西方向からから南東方向へと直線状に延びる溝跡である。長さ 555cm、幅 60 ～ 179cm、深さ 38.5cm を測る。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 32.1g、土師器坏 202g、土師器甕 1,239g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-213）。999 は土師器のミニチュアの短頸壺であり、ロクロ成形後、内面はユビナデ調整が施されている。外面にはヘラ記号が描かれている。［時期］SD81 とほぼ同時期と考えられるため、Ⅰ期に相当すると考えられる。

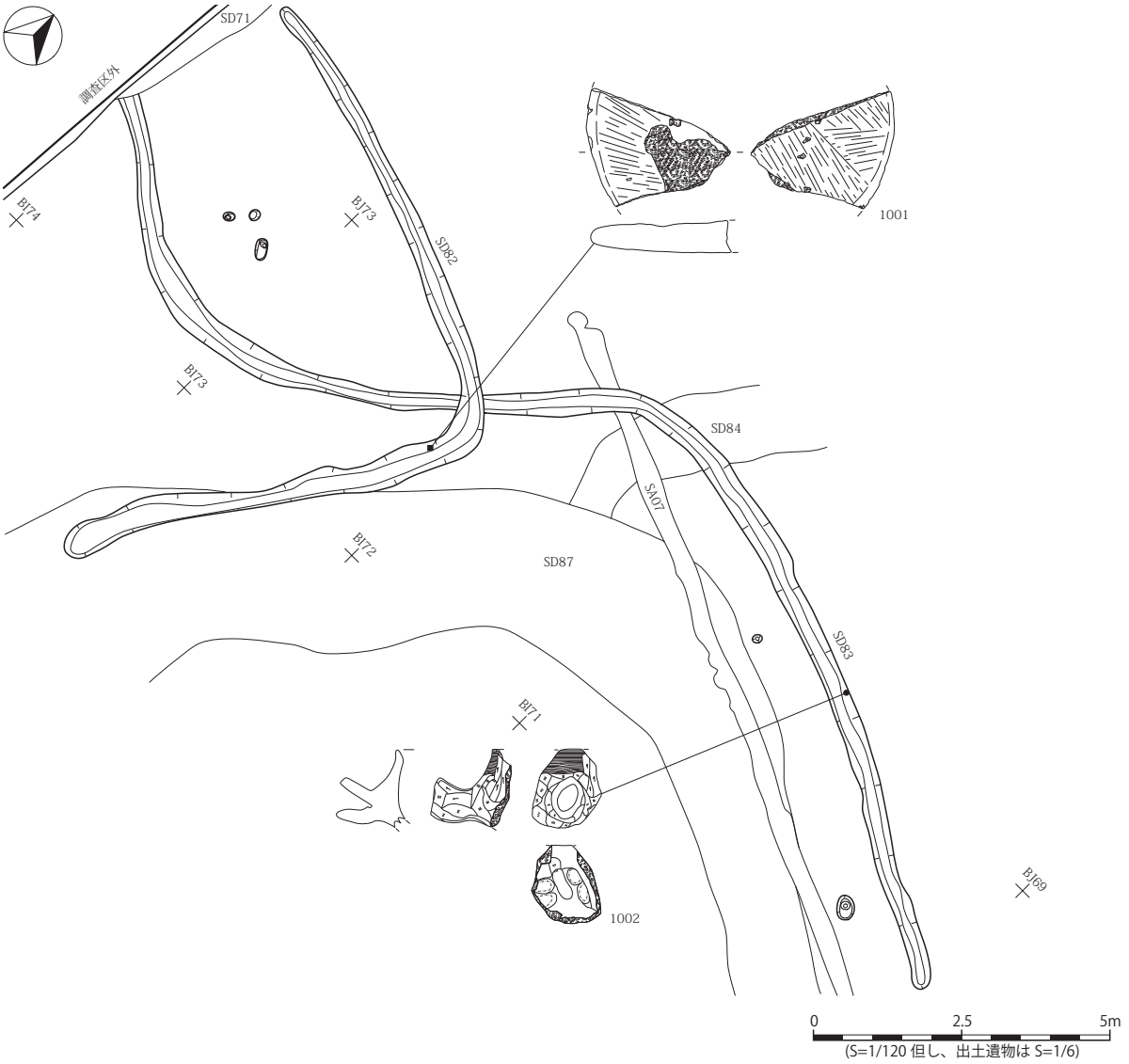
第 82・83 号溝跡（SD82・83、図Ⅲ -2-214）

（SD83）

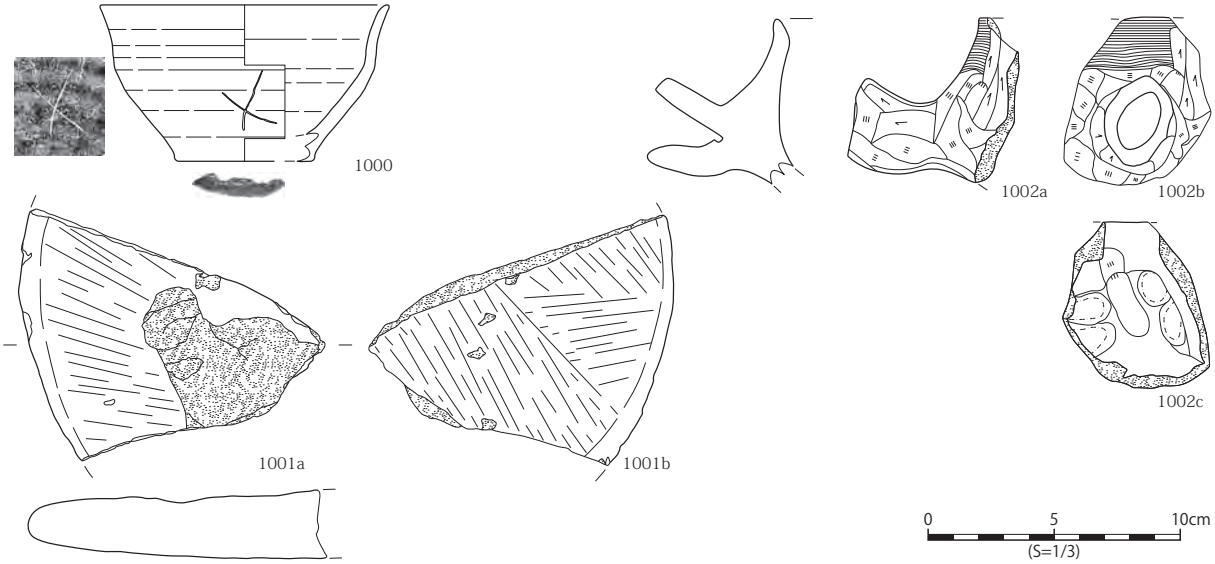
［位置・確認］グリッド BI68 ～ 73、BJ68 ～ 70 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA07、SD71・82・84 と重複関係にあり、SD82 よりも古く、SA07、SD71・84 よりも新しい。［規



図Ⅲ-2-214　SD82･83

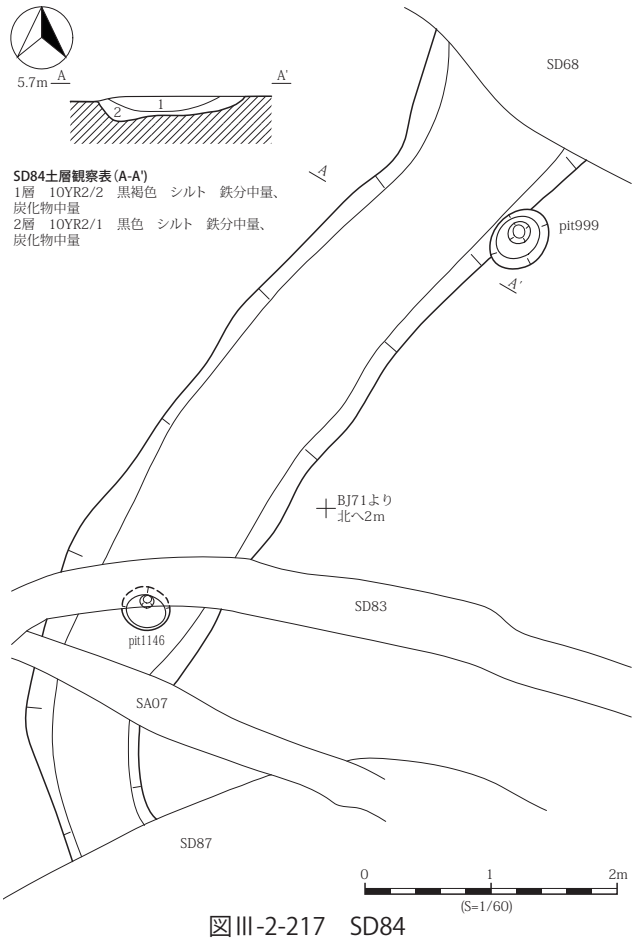


図Ⅲ-2-215　SD82・83遺物出土状況



図Ⅲ-2-216　SD82・83出土遺物

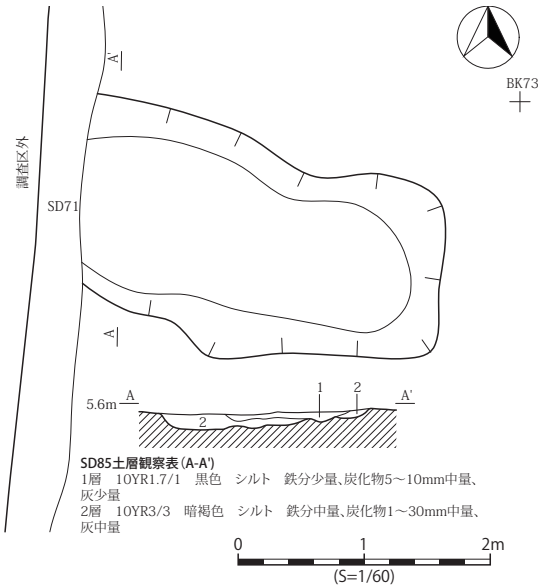
模・形状］調査区外へと延びているため性格な規模・形状は不明であるが、東西方向に延びるS字状の溝跡である。確認長2,072cm、幅30～46cm、深さ27.5cmを測る。［堆積土］2層確認され、黒褐色土を主体とする層で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏394.9g、土師器甕966gが出土している（図Ⅲ-2-215）。この内図示できたのは1点である（図Ⅲ-2-216）。1002は把手付土器であり、把手部は中空である。調整は口縁部にヨコナデ調整、体部外面はケズリ、ユビナデ調整、内面はユビナデ調整が施されている［時期］重複関係からⅢ期に相当すると考えられる。



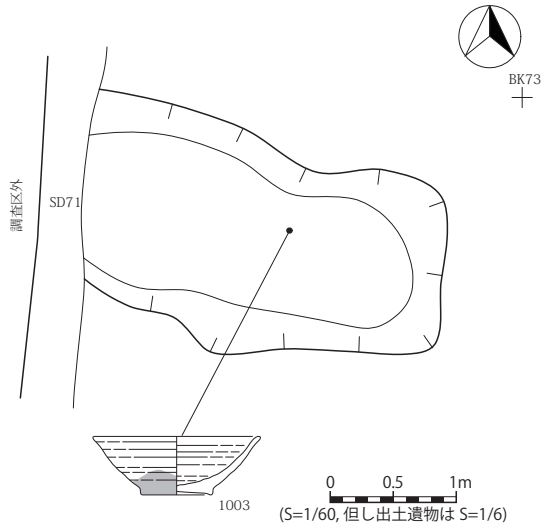
図Ⅲ-2-217　SD84

（SD82）

［位置・確認］グリッドBH72、BI71，72、BJ72，73に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD83・87と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］南西方向から北東方向へと直線状に延び、そこから西北西へ向きを転じ、やや曲線状に延びるL字状の溝跡である。長さ1,508cm、幅24～56cm、深さ39cmを測る。［堆積土］2層確認され、黒色土と黒褐色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏373.6g、土師器甕1,516gが出土している（図Ⅲ-2-215）。この内図示できたのは2点である（図Ⅲ-2-216）。1000は

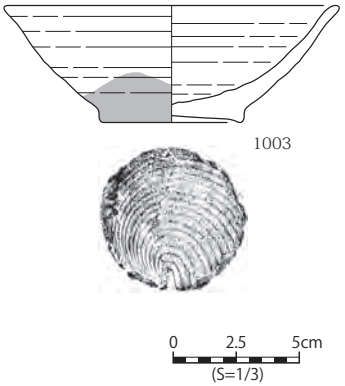


図Ⅲ-2-218　SD85



図Ⅲ-2-219　SD85遺物出土状況

土師器の埦であり、外面にヘラ記号が描かれている。ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1001 は扁平な円礫？の平坦部を砥面として利用している砥石であり、石材は安山岩である。[時期] 重複関係からⅢ期に相当すると考えられる。



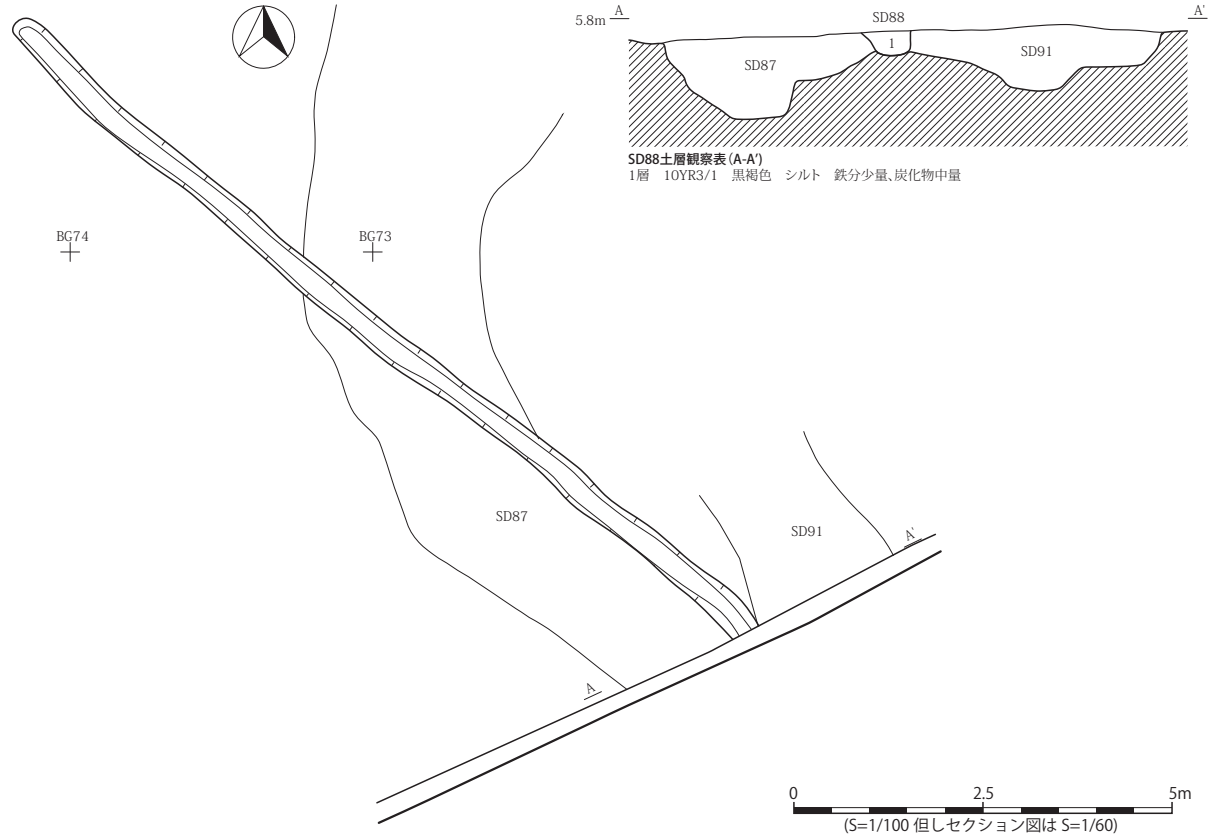
図Ⅲ-2-220　SD85出土遺物

第 84 号溝跡（SD84、図Ⅲ -2-217）

［位置・確認］グリッド BI71、BJ・BK70，71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA07、SD68・83・87 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］北東方向から南西方向へと直線状に延び、そこから南へ向きを転じ、やや曲線状に延びる L 字状の溝跡である。長さ 674cm、幅 68 ～ 155cm、深さ 17.5cm を測る。［堆積土］2 層確認され、黒色土と黒褐色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 131g、土師器甕 376g が出土している。［時期］重複関係から I 期に相当すると考えられる。

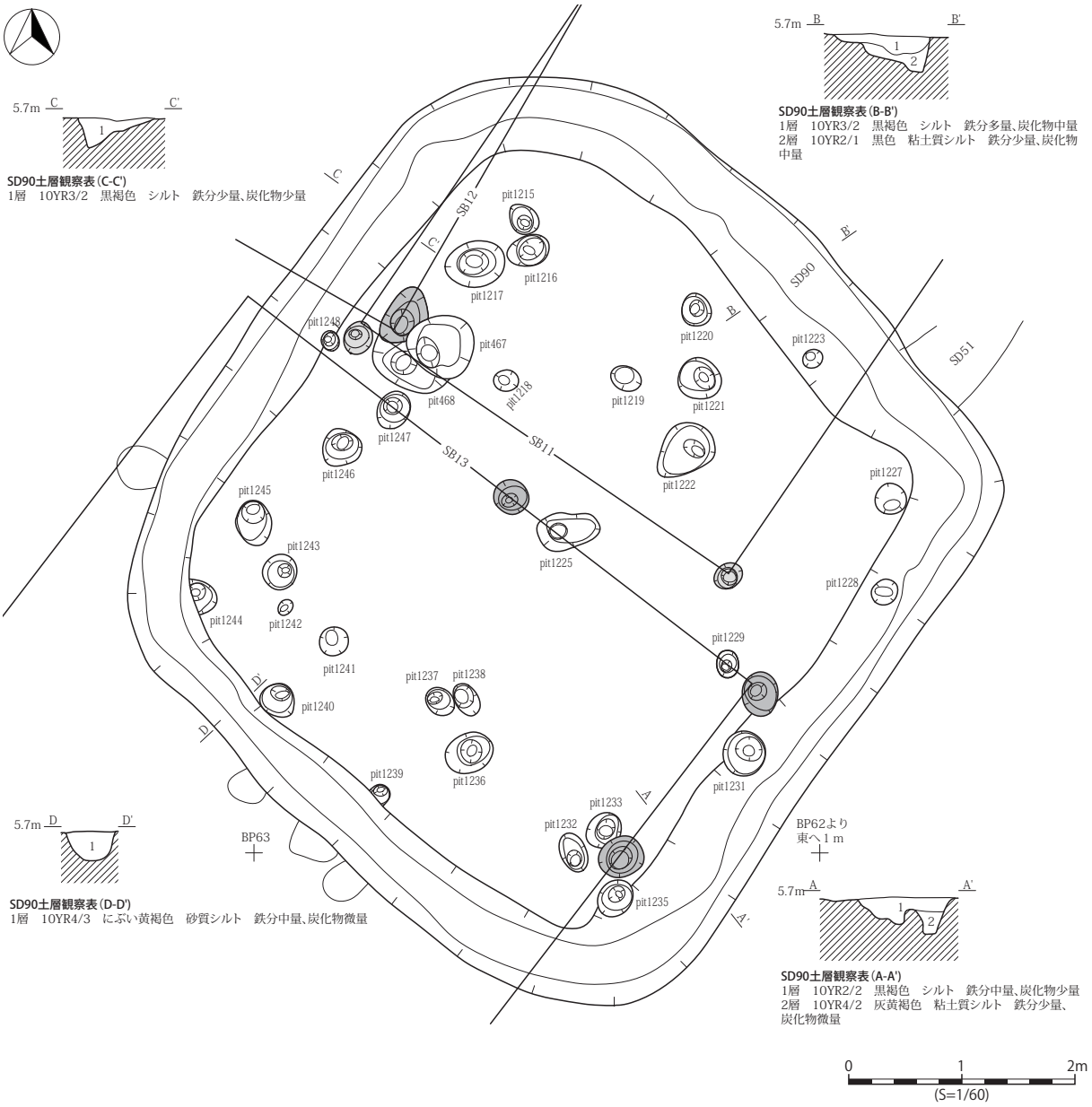
第 85 号溝跡（SD85、図Ⅲ -2-218）

［位置・確認］グリッド BJ・BK73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD71 と重複関係にあり、SD71 よりも新しい。［規模・形状］東西に直線状に延びる L 字状の溝跡である。現存長



図Ⅲ-2-221　SD88

293cm、幅 138 ～ 171cm、深さ 39cm を測る。［堆積土］2 層確認され、黒色土と暗褐色土で形成される自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 151.4g、土師器甕 131g が出土している（図Ⅲ -2-219）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -2-220）。1 は土師器の皿形の坏であり、ロクロ成形



図Ⅲ-2-222　SD90

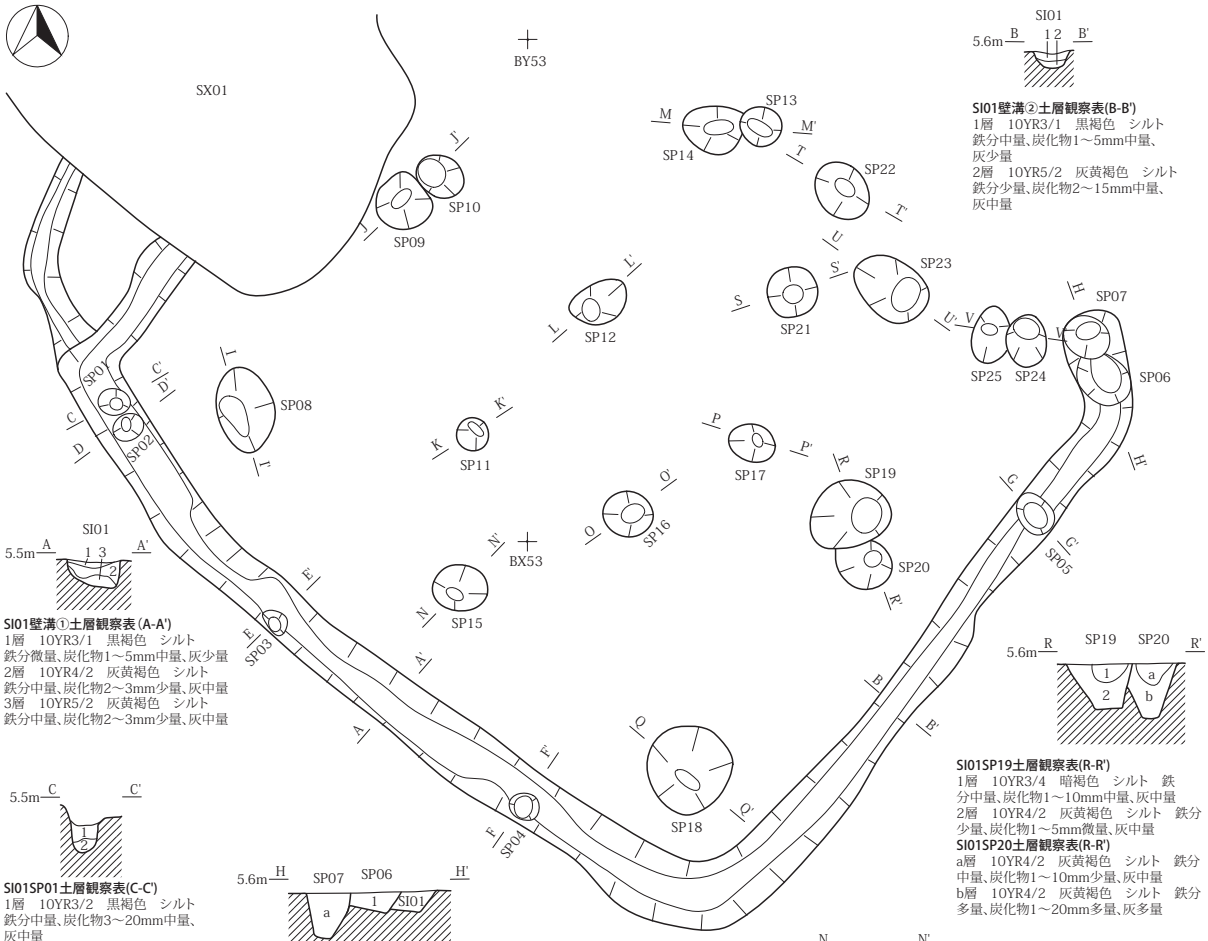
後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。また外面には二次被熱により黒色に変化している。［時期］重複関係からⅢ期に相当すると考えられる。

第 88 号溝跡（SD88、図Ⅲ -2-221）

［位置・確認］グリッド BE71,72、BP・BQ61 ～ 63 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD87・91 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］北西方向から南東方向へ直線状に調査区外へと延びる溝跡である。現存長 1,250cm、幅 30 ～ 36cm、深さ 31.5cm を測る。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 78g が出土している。［時期］Ⅲ期に相当すると考えられる。

第 90 号溝跡（SD90、図Ⅲ -2-222）

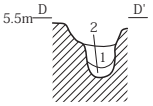
［位置・確認］グリッド BO61,62、BF71 ～ 73、BG73，74 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD51、SB12・13 と重複関係にあり、SB12・13 よりも古く、SD51 よりも新しい。［規模・形状］



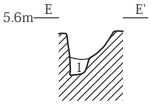
SI01壁溝①土層観察表(A-A')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分微量、炭化物1～5mm中量、灰少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物2～3mm少量、灰中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物2～3mm少量、灰中量

SI01壁溝②土層観察表(B-B')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、
灰少量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物2～15mm中量、
灰中量

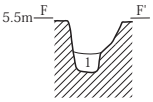
SI01SP01土層観察表(C-C')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物3～20mm中量、
灰中量
2層　10YR5/1　褐灰色　シルト
炭化物微量、灰中量



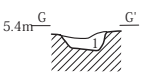
SI01SP02土層観察表(D-D')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm微量、
灰中量
2層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト
鉄分多量、炭化物5～20mm少量、
灰中量



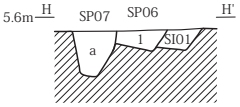
SI01SP03土層観察表(E-E')
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



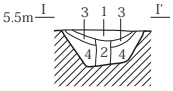
SI01SP04土層観察表(F-F')
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



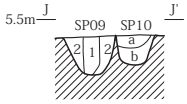
SI01SP05土層観察表(G-G')
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



SI01SP06土層観察表(H-H')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、
炭化物5～15mm中量、灰中量
SI01SP07土層観察表(H-H')
a層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量

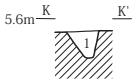


SI01SP08土層観察表(I-I')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物3～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物2～5mm中量、灰中量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト
炭化物1～10mm中量、灰中量

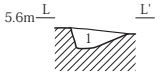


SI01SP09土層観察表(J-J')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　10YR5/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

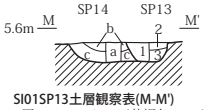
SI01SP10土層観察表(J-J')
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量
b層　10YR5/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量



SI01SP11土層観察表(K-K')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、
灰中量

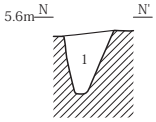


SI01SP12土層観察表(L-L')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm少量、
灰中量

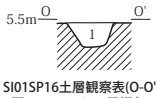


SI01SP13土層観察表(M-M')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～3mm少量、灰中量
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量、灰少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量

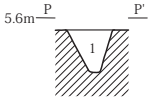
SI01SP14土層観察表(M-M')
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～3mm少量、灰中量
b層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量、灰少量
c層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm中量、
灰中量



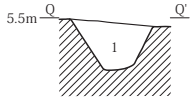
SI01SP15土層観察表(N-N')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、
灰中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物3～10mm多量、
灰中量



SI01SP16土層観察表(O-O')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物2～10mm中量、
灰中量

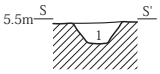


SI01SP17土層観察表(P-P')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、
灰中量

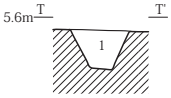


SI01SP18土層観察表(Q-Q')
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物1～5mm中量、
灰中量

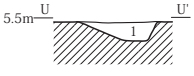
SI01SP19土層観察表(R-R')
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄
分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分
少量、炭化物1～5mm微量、灰中量
SI01SP20土層観察表(R-R')
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分
中量、炭化物1～10mm少量、灰中量
b層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分
多量、炭化物1～20mm多量、灰多量



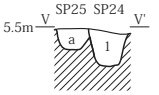
SI01SP21土層観察表(S-S')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物中量、灰中量



SI01SP22土層観察表(T-T')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物中量、灰中量



SI01SP23土層観察表(U-U')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物中量、灰中量



SI01SP24土層観察表(V-V')
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト
鉄分少量、炭化物微量、灰少量

SI01SP25土層観察表(V-V')
a層　10YR4/3　にぶい黄褐色
シルト　鉄分少量、炭化物少量、
灰中量

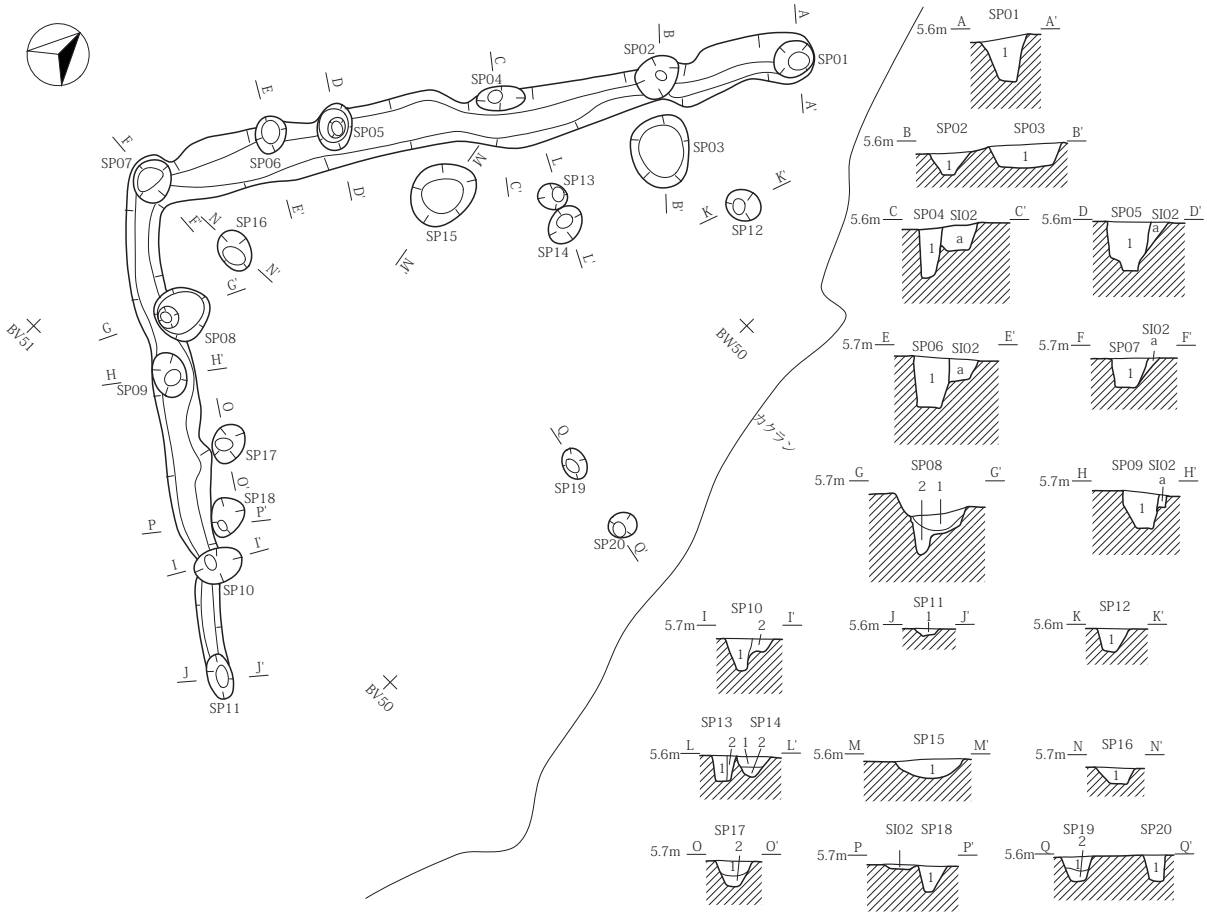
0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-2-223　SI01

隅丸方形を呈する溝跡である。外周長 2,368cm、内周長 1,931cm、幅 42 ～ 91cm、深さ 48.5cm を測る。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 85g、土師器甕 322g が出土している。［時期］ I 期に相当すると考えられる。

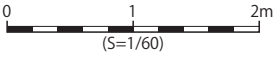
第 1 号竪穴住居跡（SI01、図Ⅲ -2-223）

［位置・確認］グリッド BO61，62、BF71 ～ 73、BG73，74 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD51、SB12・13 と重複関係にあり、SB12・13 よりも古く、SD51 よりも新しい。［規



SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
SP02・03土層観察表（B-B'）
SP02
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
SP03
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量
SP04土層観察表（C-C'）
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量
SI02土層観察表（C-C'）
a層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量
SP05土層観察表（D-D'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
SP06土層観察表（E-E'）
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
SP07土層観察表(F-F')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
SP08土層観察表（G-G'）
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量
SP09土層観察表（H-H'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
SP10土層観察表（I-I'）
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～10mm中量、灰中量
SP11土層観察表（J-J'）
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
SP12土層観察表（K-K'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

SP13・14土層観察表（L-L'）
SP13
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量
SP14
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰微量
SP15土層観察表（M-M'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
SP16土層観察表（N-N'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量
SP17土層観察表（O-O'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm中量、灰中量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量
SP18土層観察表（P-P'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
SP19・20土層観察表（Q-Q'）
SP19
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰少量
SP20
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量



図Ⅲ-2-224　SI02

模・形状］隅丸方形を呈する溝跡である。外周長 2,368cm、内周長 1,931cm、幅 42 ～ 91cm、深さ 48.5cm を測る。ピットは 27 基確認され、重複しているピットがあることから、少なくとも 1 回の立て替えが確認された。後述する SB01 と pit が重複する部分があるが、掘立柱建物跡に外周溝が付属するものなのか、竪穴住居跡に張り出し部が付属するのか、上面が削平されているため不明であるので、第 5 節で SB01 として再掲した。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 85g、土師器甕 322g が出土している。［時期］Ⅰ期に相当すると考えられる。

第 2 号竪穴住居跡（SI02、図Ⅲ -2-224）

［位置･確認］グリッド BU･BV･BW50､BV51 に位置し､Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］当初は隅丸方形を呈する溝跡であると考えられるが、削平により L 字状のみが検出された。長さ 954cm、幅 18 ～ 50cm、深さ 19cm を測る。ピットは 20 基確認された。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 85g、土師器甕 322g が出土している。［時期］Ⅰ期に相当すると考えられる。

第 3 節　井戸跡（SE）

井戸跡は全部で 10 基検出された。1 基の隅丸方形の平面プランを除いて掘り込み面は円形ないしは楕円形を呈する。いずれも完全な形を留めているものはなく、井戸枠等部材が残存するのみであった。深さ 30 ～ 50cm 程までは、緩やかな傾斜で掘削し、その後ほぼ垂直に井戸床面まで掘り下げているのが特徴である。

第 1 号井戸跡（SE01、図Ⅲ -3-1）

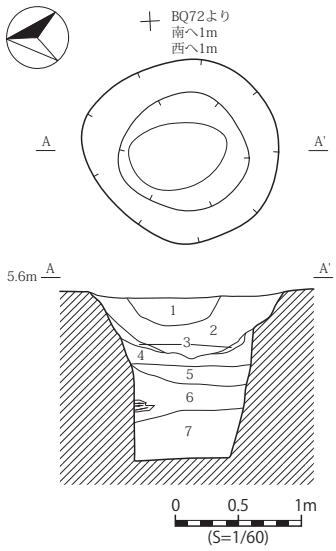
［位置・確認］グリッド BP72 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 158cm、短径 146cm、深さ 136cm を測り、楕円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 43cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］7 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器の坏が 43g、甕が 151g、石器が 1,013g 出土している（図Ⅲ -3-11）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -3-19）。1013 は砥石であり、石材は軽石である。砥面は一面のみである。

第 2 号井戸跡（SE02、図Ⅲ -3-2）

［位置・確認］グリッド BL66 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 204cm、短径 180cm、深さ 232cm を測り、楕円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ 40cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］11 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］部材に使用されたと考えられる木製品が出土している。

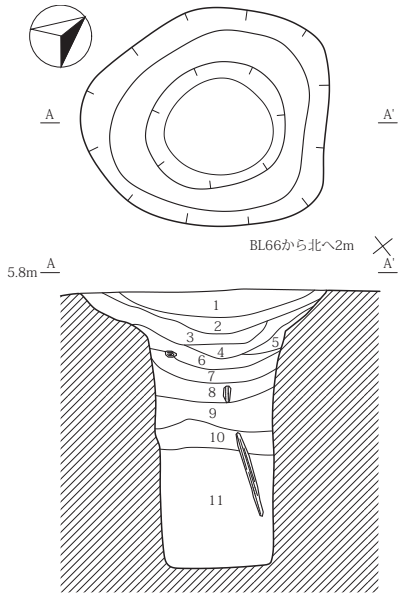
第 3 号井戸跡（SE03、図Ⅲ -3-3）

［位置・確認］グリッド BK65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 129cm、短径 128cm、深さ 175cm を測り、不整円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 39cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］8 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器のミニチュア 152.5g、石器 687g、部材に使用されたと考えられる木製品が出土している（図Ⅲ -3-12）。この内図示したのは



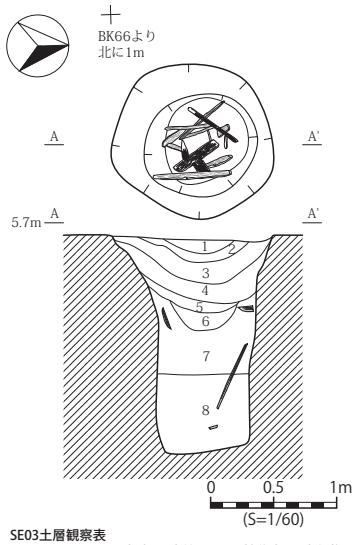
SE01土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物3～5mm中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　炭化物2～3mm少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　炭化物1mm少量
4層　7.5Y4/1　灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量、10YR5/1褐灰色粘土ブロック中量
6層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物微量、7.5Y4/1灰ブロック中量
7層　2.5GY3/1　暗オリーブ灰色　粘土質シルト(砂混入)　鉄分微量、炭化物中量

図Ⅲ-3-1　SE01



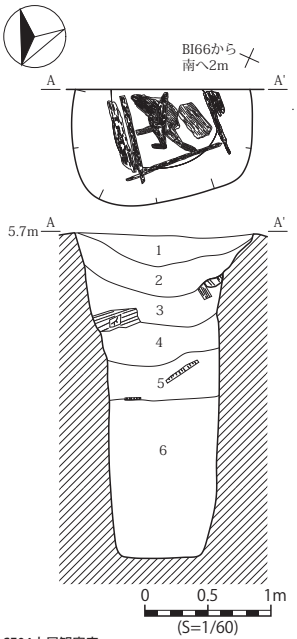
SE02土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
5層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量
6層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
7層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量
8層　2.5GY3/1　暗オリーブ灰色　粘土質シルト　鉄分微量、炭化物微量、2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルトブロック1～3cm少量
9層　2.5Y3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量、10YR4/3にぶい黄褐色細砂多量
10層　2.5GY2/1　黒色　砂質シルト
11層　10Y3/1　オリーブ黒色　砂質シルト　細砂多量

図Ⅲ-3-2　SE02



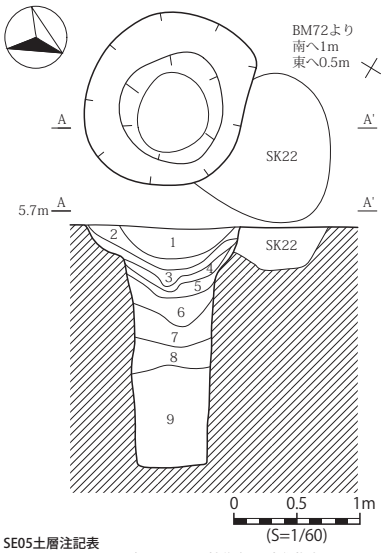
SE03土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物多量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
5層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
6層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
7層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
8層　10YR3/1　オリーブ黒色　粘土質シルト　炭化物少量

図Ⅲ-3-3　SE03



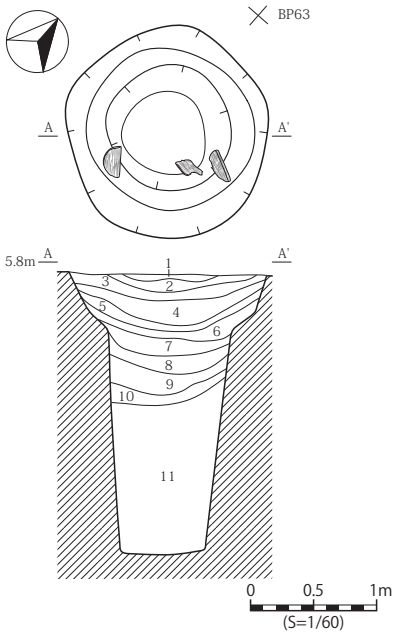
SE04土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量
4層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物5～20mm中量、灰中量
5層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物5～10mm少量、灰中量
6層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物微量、灰中量

図Ⅲ-3-4　SE04



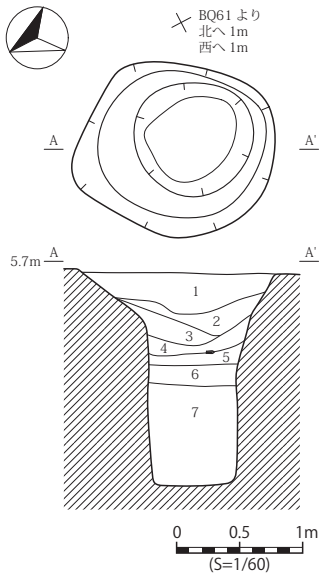
SE05土層注記表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　5Y3/2　オリーブ黒色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
6層　5Y4/1　灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
7層　5Y2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
8層　5Y4/1　灰色　シルト質砂　5Y4/1灰色粘土質シルト多量
9層　5G4/1　暗緑灰色　シルト質砂

図Ⅲ-3-5　SE05



SE06土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物多量、灰まじり
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
6層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
7層　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
8層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
9層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
10層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量
11層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分微量、炭化物少量

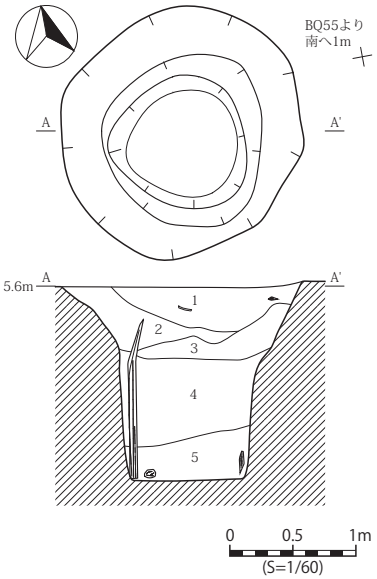
図Ⅲ-3-6　SE06



SE07土層観察表

1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10Y3/1　オリーブ黒色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
6層　7.5GY2/1　緑黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
7層　5GY3/1　暗オリーブ灰色　粘土　2.5Y5/1黄灰色粘土ブロック少量

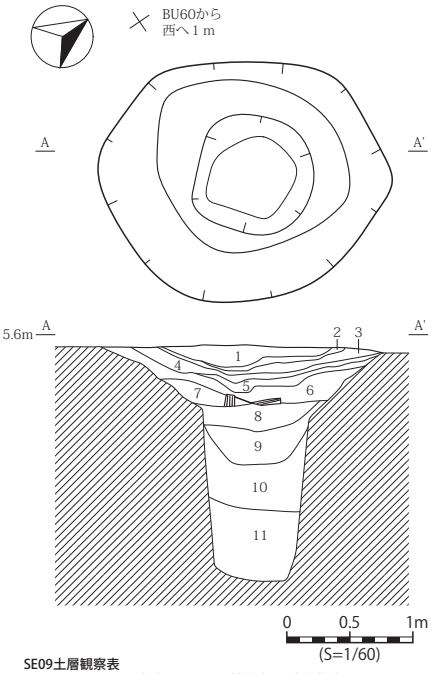
図Ⅲ-3-7　SE07



SE08土層観察表

1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10Y4/1　灰色　粘土質シルト　炭化物少量、7.5Y5/1灰色粘土ブロック1～3cm少量
5層　10Y4/1　灰色　シルト質粘土　鉄分微量、炭化物少量、10Y5/1灰色粘土ブロック1～4cm少量

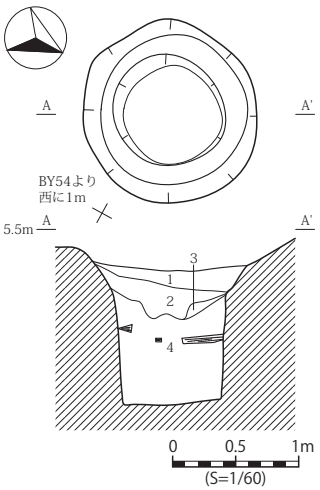
図Ⅲ-3-8　SE08



SE09土層観察表

1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量、7.5YR6/8橙色　シルトブロック中量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
5層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
6層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
7層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
8層　5G2/1　緑黒色　シルト質粘土　鉄分中量、炭化物少量
9層　5G2/1　緑黒色　シルト質粘土　鉄分少量、炭化物少量
10層　5G2/1　緑黒色　シルト質粘土　鉄分微量、炭化物微量
11層　5G2/1　緑黒色　シルト質粘土　炭化物中量、わら混入

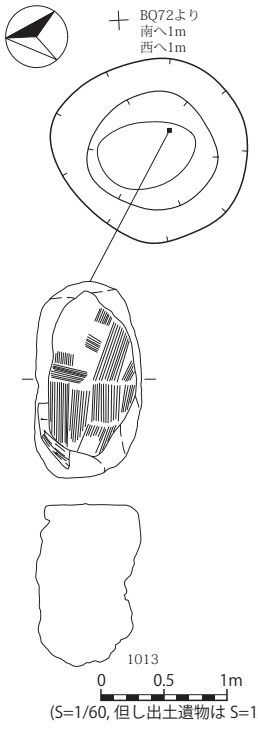
図Ⅲ-3-9　SE09



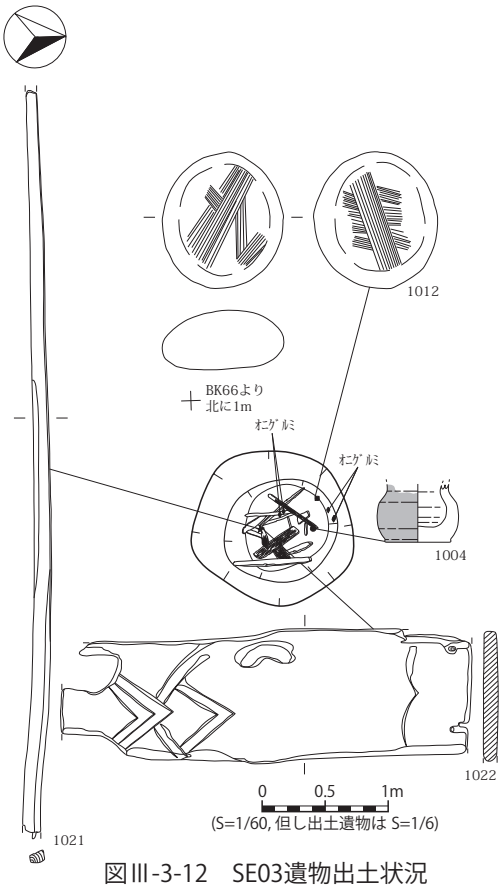
SE10土層観察表

1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/4　褐色　シルト質粘土
鉄分少量、炭化物少量
4層　5GY4/3　暗オリーブ色　シルト質粘土
鉄分少量、炭化物微量

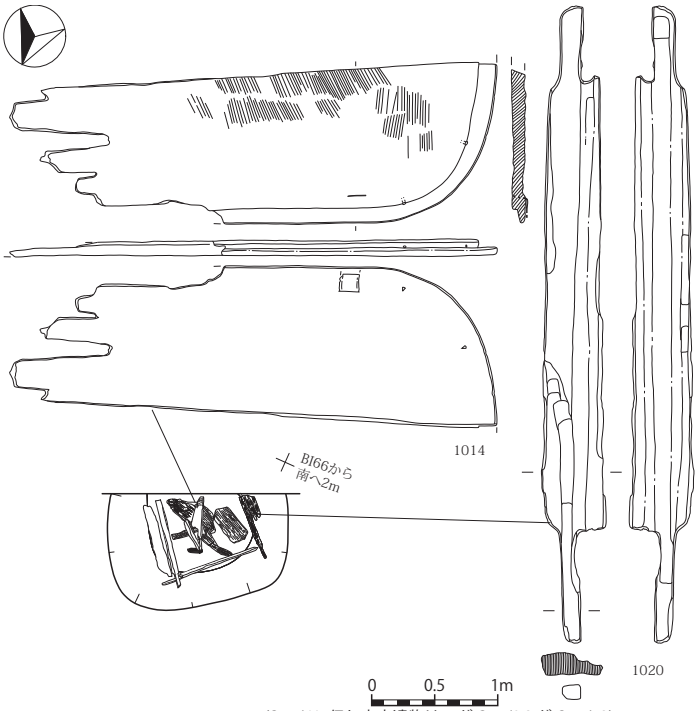
図Ⅲ-3-10　SE10



図Ⅲ-3-11　SE01遺物出土状況

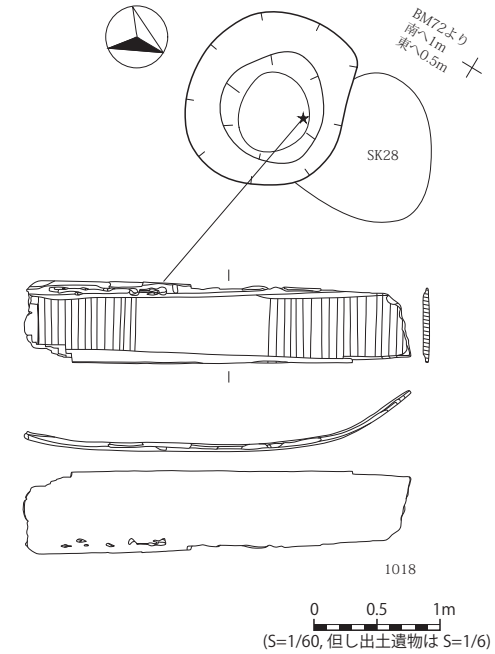


図Ⅲ-3-12　SE03遺物出土状況



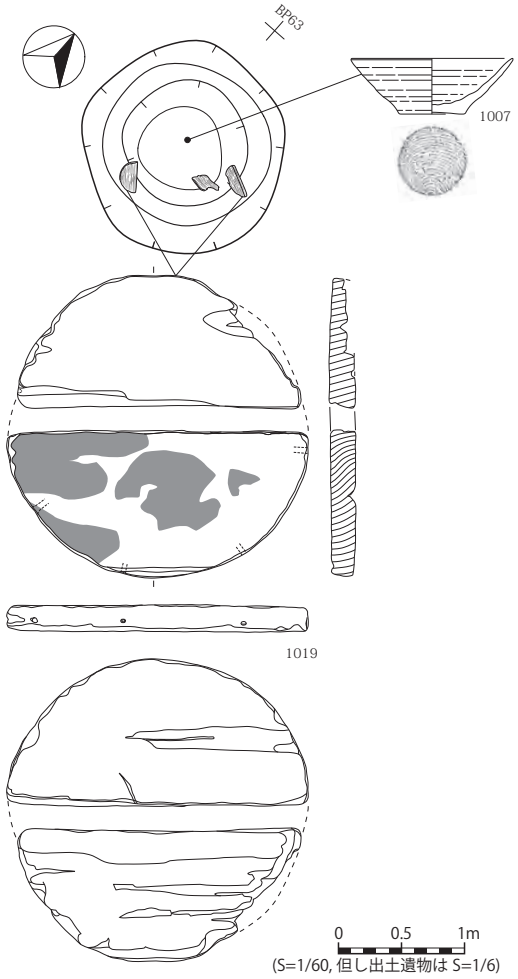
(S=1/60, 但し出土遺物は 1 が S=1/8,2 が S=1/12)

図Ⅲ-3-13　SE04 遺物出土状況



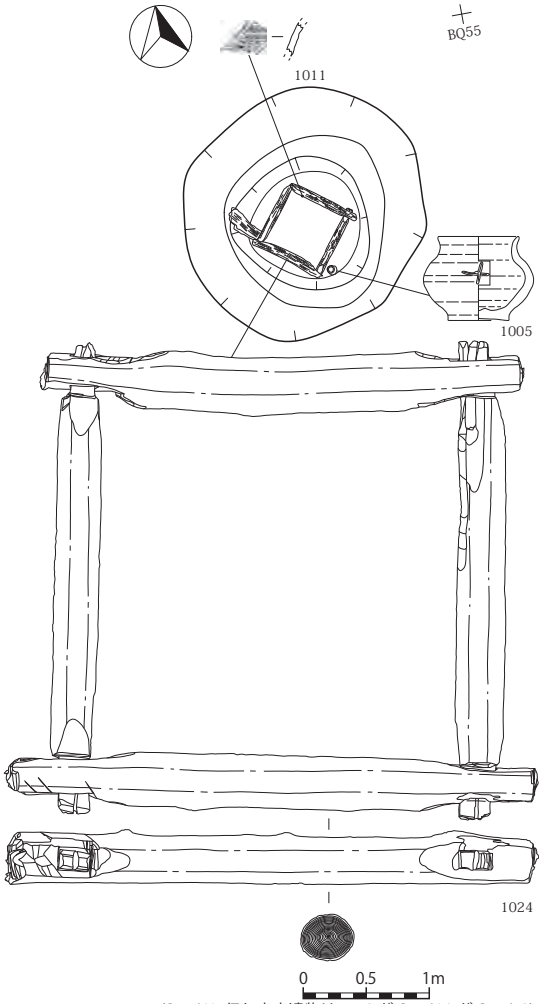
(S=1/60, 但し出土遺物は S=1/6)

図Ⅲ-3-14　SE05 遺物出土状況



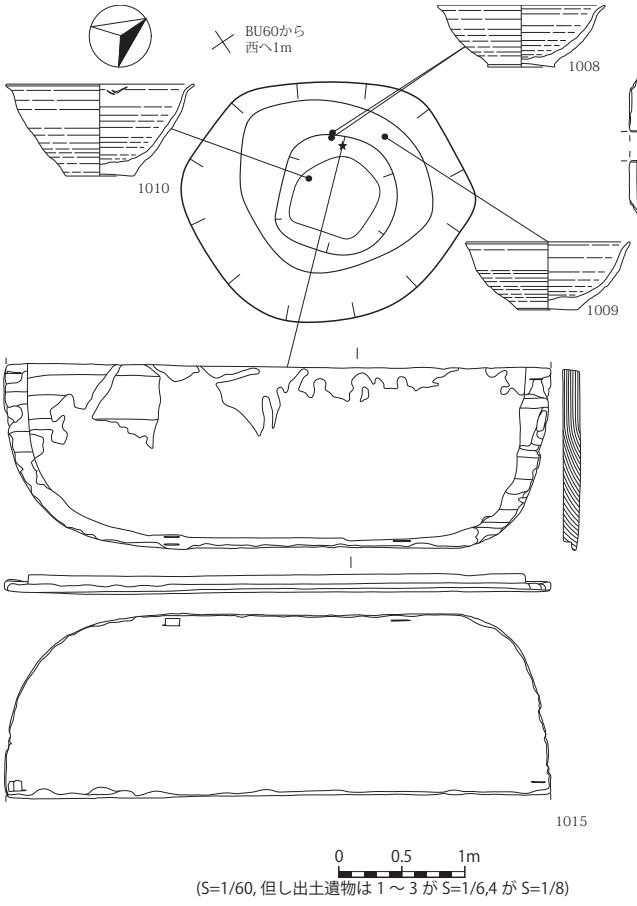
(S=1/60, 但し出土遺物は S=1/6)

図Ⅲ-3-15　SE06 遺物出土状況

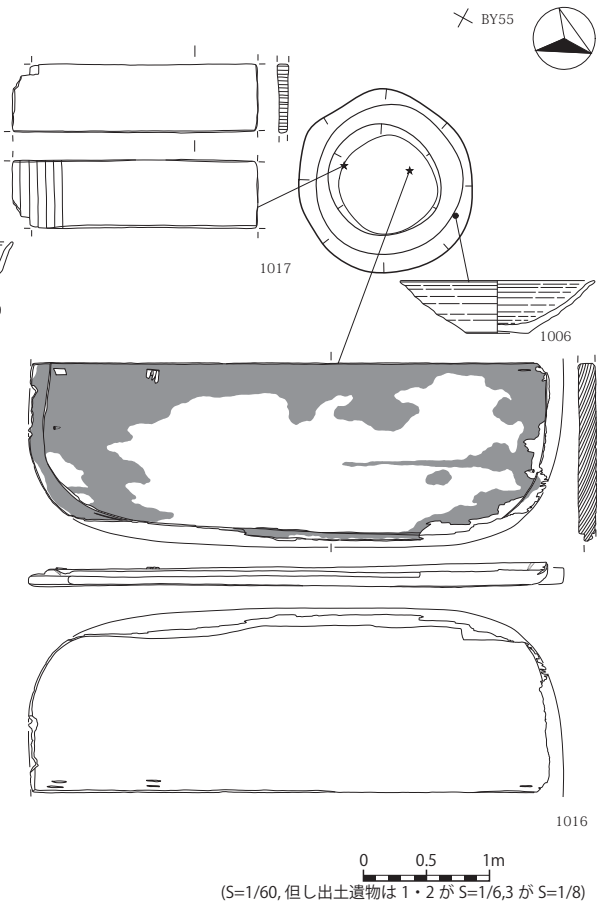


(S=1/60, 但し出土遺物は 1・2 が S=1/6,3 が S=1/12)

図Ⅲ-3-16　SE08 遺物出土状況



図Ⅲ-3-17　SE09 遺物出土状況

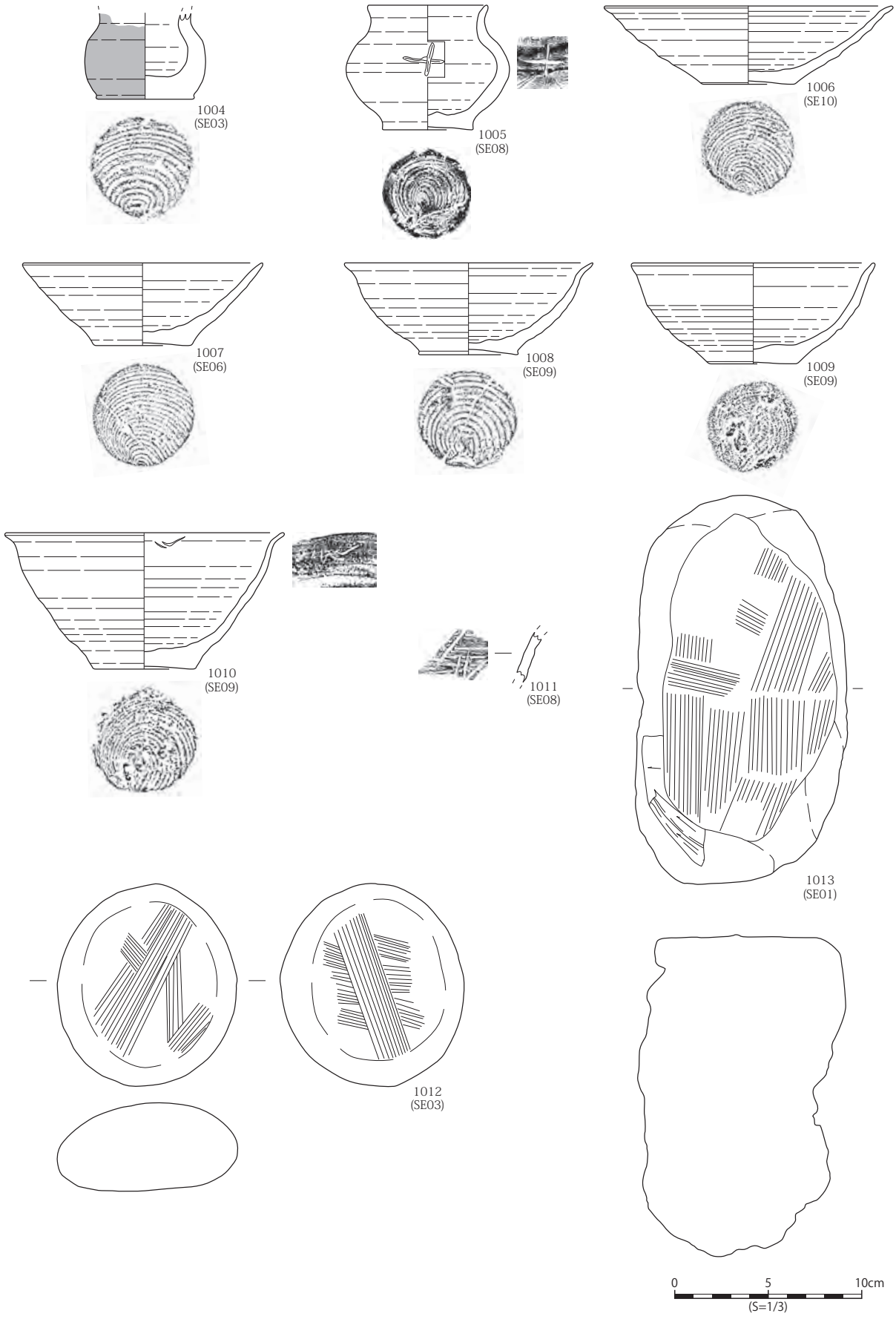


図Ⅲ-3-18　SE10 遺物出土状況

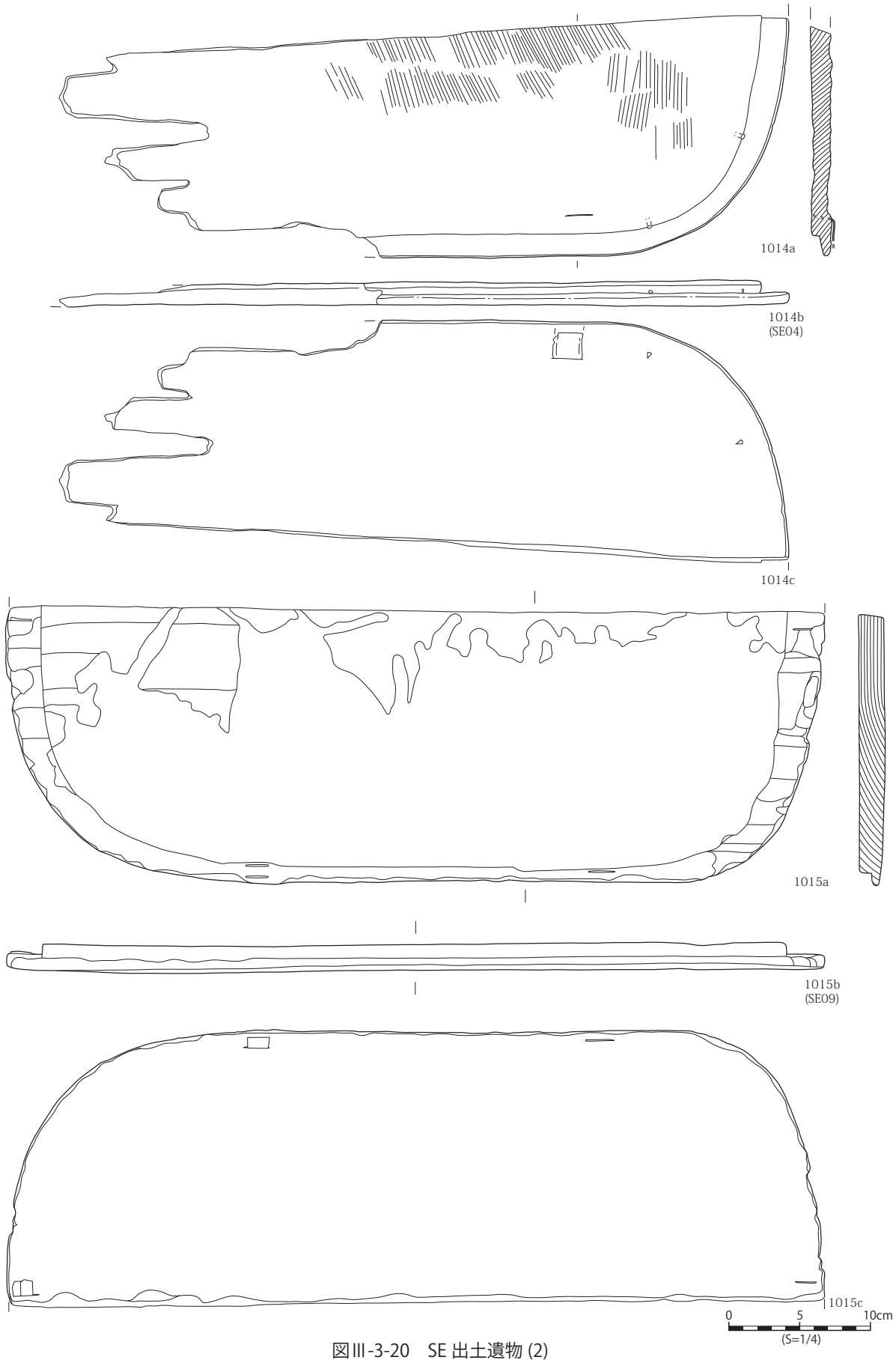
4 点である（図Ⅲ -3-19、22）。1005 は土師器のミニチュアの短頸壺であり、ロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1012 は扁平な円礫を利用した砥石であり両面に砥面を有する。石材は花崗閃緑岩である。1021 は棒状の割材であり、井戸枠の縦材の一部として使用されたものと考えられる。1022 は用途は不明であるが、片側には破損しているが臍孔が見られ、もう一端には他の部材との連結用の小孔が見られることから構造部材であると考えられる。表面には山形の文様と波型の文様が彫り込まれている。樹種はいずれもアスナロである。

第 4 号井戸跡（SE04、図Ⅲ -3-4）

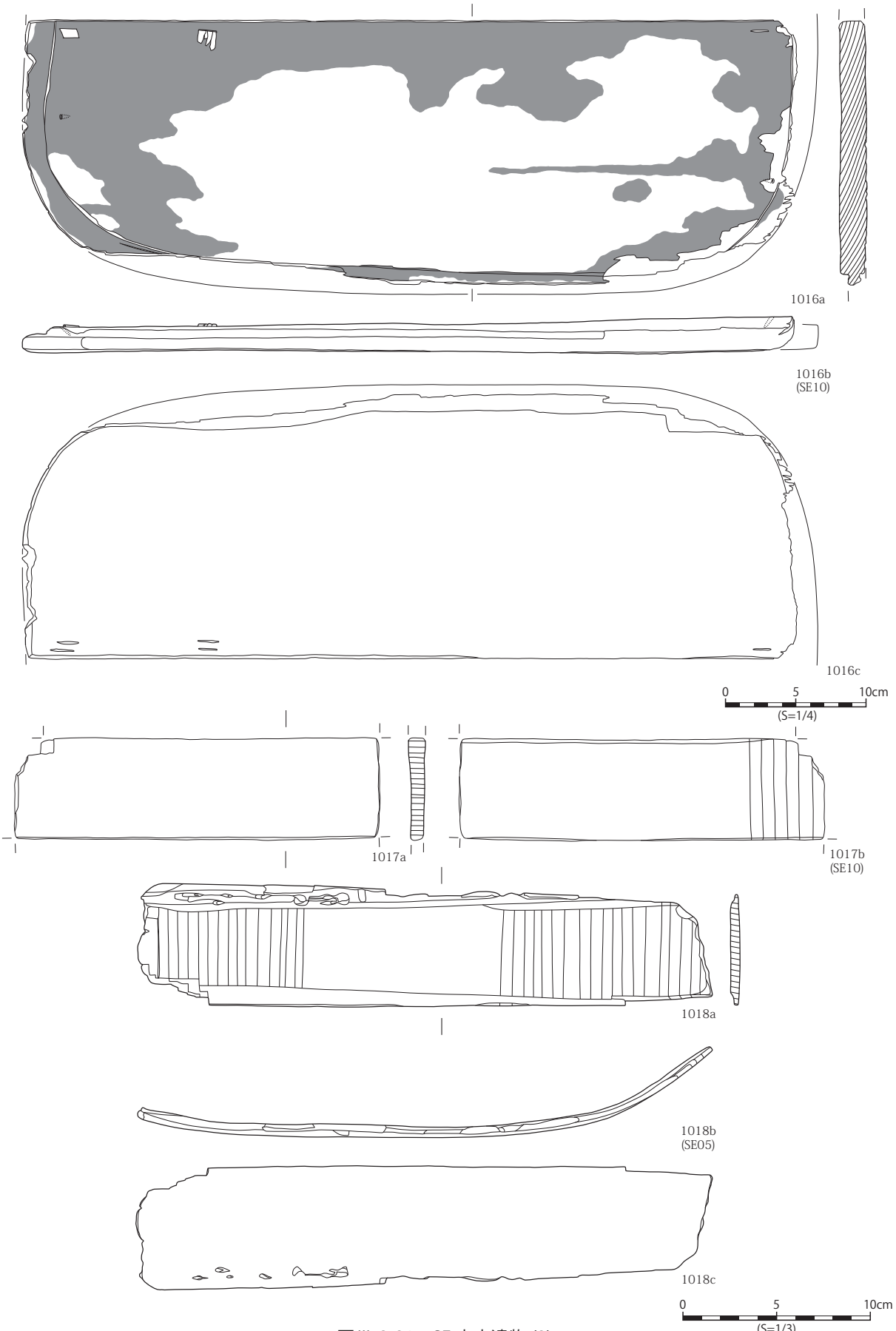
［位置・確認］グリッド BH・BI65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］約半分が調査区外のため、正確な規模は不明であるが、隅丸方形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 27cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］6 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］井戸枠のほかに、部材に使用されたと考えられる木製品が出土している（図Ⅲ -3-13）。この内図示したのは 2 点である（図Ⅲ -3-20、22）。1014 は隅丸方形の曲物の底板で、保存状態が悪く 3 分の 1 ほどしか残存していない。側板の接合面を底板面より一段薄く削り段差を付けている。その段差部分に木釘孔が確認され、段差の内側には留め具孔が確認された。また底面内面には無数の刃物痕が確認されたことから、曲物使用後に俎板に再利用されたものと考えられる。1020 は井戸枠の構造部材であり、両端には臍孔にはめ込むための加工が施されている。樹種はいずれもアスナロである。



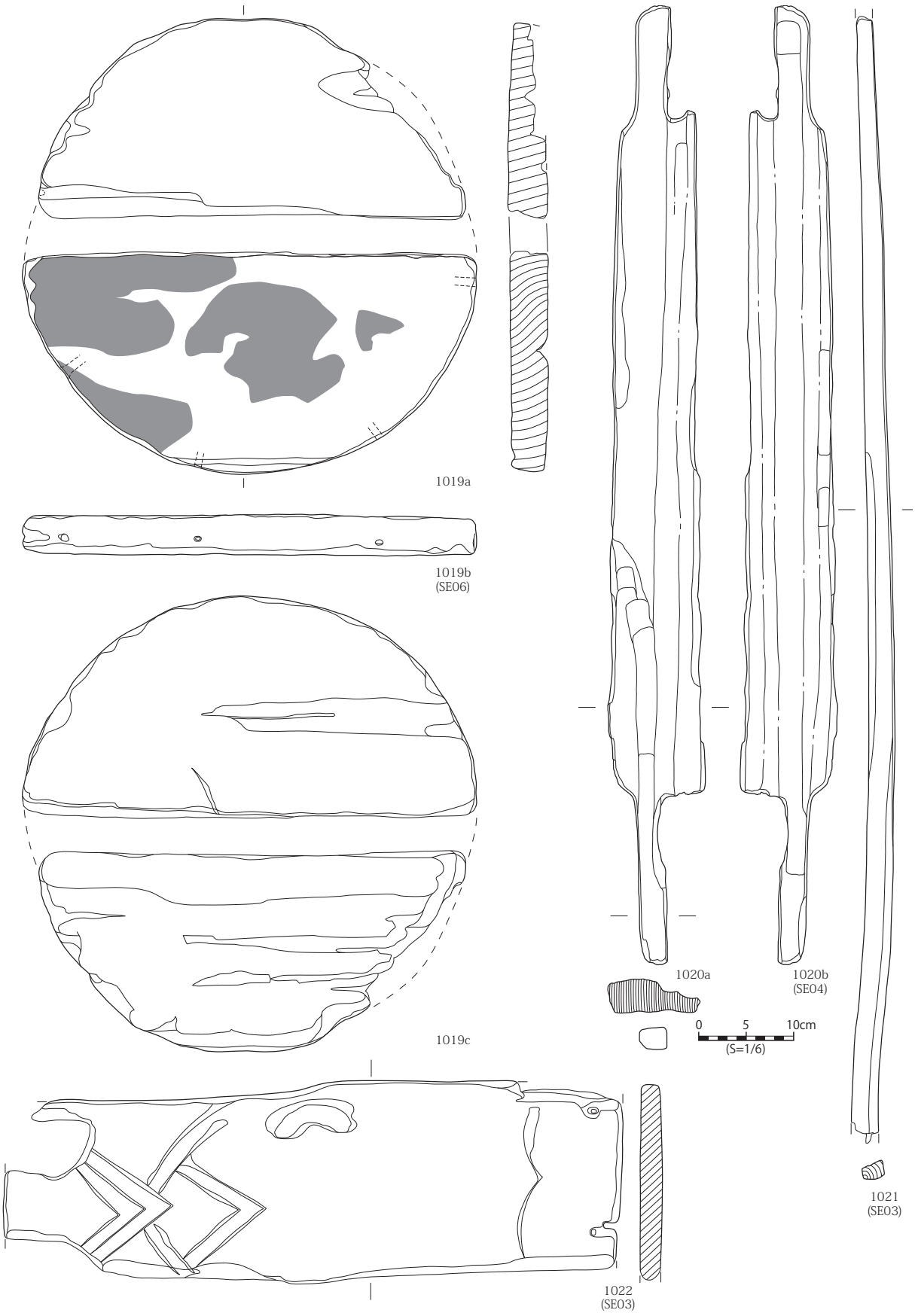
図Ⅲ-3-19　SE 出土遺物 (1)



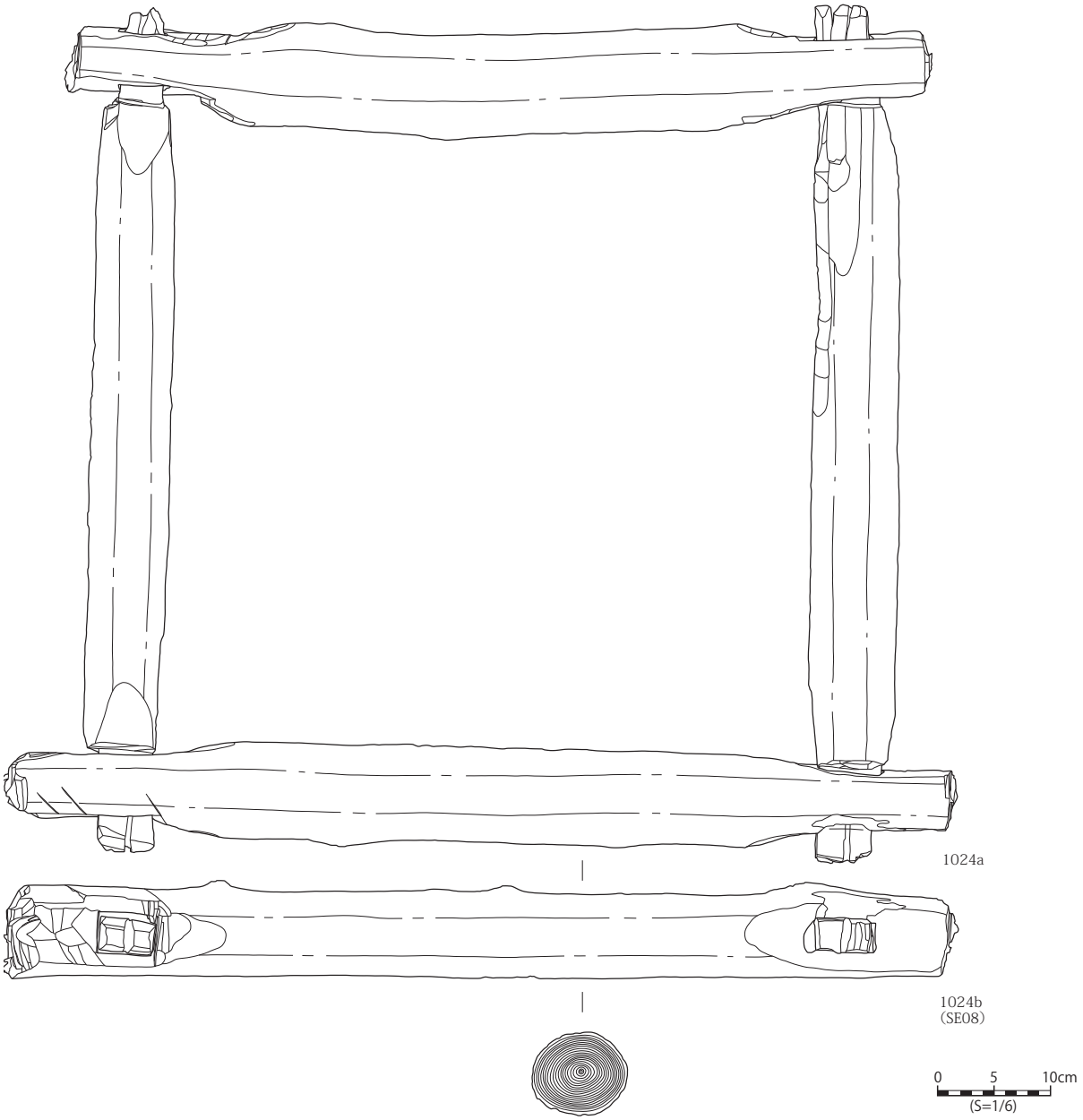
図Ⅲ-3-20　SE 出土遺物 (2)



図Ⅲ-3-21　SE 出土遺物 (3)



図Ⅲ-3-22　SE 出土遺物 (4)



図Ⅲ-3-23　SE 出土遺物 (5)

第 5 号井戸跡（SE05、図Ⅲ -3-5）

［位置・確認］グリッド BL71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 148cm、短径 134cm、深さ 197cm を測り、不整円形を呈する。SK28、SD68 よりも新しい。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 51cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］9 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器の坏 7g、甕 877g、曲物破片が出土している（図Ⅲ -3-14）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -3-22）。1018 は隅丸方形の大型の曲物の側板であり、柾目取りで樹種はアスナロである。

第 6 号井戸跡（SE06、図Ⅲ -3-6）

［位置・確認］グリッド BO62・63 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 170cm、短径 162cm、深さ 227cm を測り、不整円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がる

が、深さ約 51cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］11 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器の坏 103g、甕 52g、須恵器の甕 89g 等が出土している（図Ⅲ -3-15）。この内図示できたものは 2 点である（図Ⅲ -3-19、22）。1007 は土師器のⅢ形の坏であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1019 は曲物の底板であり、木釘が残存している。追柾目取りで樹種はアスナロである。

第 7 号井戸跡（SE07、図Ⅲ -3-7）

［位置・確認］グリッド BQ61 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 165cm、短径 147cm、深さ 175cm を測り、不整円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 40cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］7 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 202g、土師器甕 200g、須恵器甕 278g が出土している。

第 8 号井戸跡（SE08、図Ⅲ -3-8）

［位置・確認］グリッド BP55 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 203cm、短径 195cm、深さ 149cm を測り、不整円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 51cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］5 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器ミニチュア 192.1g、土師器坏 85g、土師器甕 432g、須恵器甕 52g、部材に使用されたと考えられる木製品が出土している（図Ⅲ -3-16）。この内図示できたものは 3 点である（図Ⅲ -3-19、23）。1005 は土師器のミニチュアの短頸壺であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。体部にヘラ記号が描かれている。1011 は擦文土器の体部上半の破片であり、複数の横位平行沈線を施した後その沈線文に直交あるいは斜交する沈線が施されている。1024 は井戸底面で出土した井戸枠であり、完全な形で残存していた、ほぼ丸太状の材の両端部分を加工し、臍孔組で井桁状の組まれていた。樹種はアスナロである。

第 9 号井戸跡（SE09、図Ⅲ -3-9）

［位置・確認］グリッド BT・BU59，60 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 234cm、短径 191cm、深さ 212cm を測り、不整楕円形を呈する。井戸上面は、緩やかに掘り込まれているが、深さ約 61cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］11 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 346g、土師器甕 2,666g、須恵器甕 177g 等が出土している（Ⅲ -3-17）。この内図示できたものは 4 点である（図Ⅲ -3-19、20）。1008 は土師器の埦形坏であり、1009 は土師器の埦であり、1010 は土師器の大型の埦であり、内面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。1015 は大型の隅丸方形の曲物底板である。板目取りで樹種はアスナロである。

第 10 号井戸跡（SE10、図Ⅲ -3-10）

［位置・確認］グリッド BX・BY54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 147cm、短径 139cm、深さ 134cm を測り、不整円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 45cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］4 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅤ層由来の層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 185g、土師器甕 756g 等が出土している（図Ⅲ -3-18）。この内図示できたものは 3 点である（図Ⅲ -3-19、21）。1006 は、土師器のⅢであり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。1016 は大型の隅丸方形の

曲物底板であり、板目取りで補修のための樹皮が、側面に残存している。1017 は大型の隅丸方形の曲物側板であり、柾目取りで、曲線部のみケビキ線が見られる。樹種はいずれもアスナロである。

第 4 節　土抗（SK）

第 1 号土抗（SK01、図Ⅲ -4-1）

［位置・確認］グリッド BW・BX54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］pit121・156 と重複関係があり、SK01 が最も古い。［規模・形状］長径 165cm、短径 107cm、深さ 26cm を測り、不整楕円形を呈する。［堆積土］4 層確認され、Ⅲ層由来の土を基調とし、Ⅳ層を混入物とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器の坏 85g が出土している。

第 2 号土抗（SK02、図Ⅲ -4-2）

［位置・確認］グリッド BS56，57 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 124cm、短径 111cm、深さ 36cm を測り、不整円形を呈する。［堆積土］7 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層はⅣ層由来の土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］特になし。

第 3 号土抗（SK03、図Ⅲ -4-3）

［位置・確認］グリッド BX・BY54，55 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］一部が調査区外のため正確な規模は不明であるが短径 96cm、深さ 27cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の土を基調とし、下層は黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 187g、土師器甕 376g が出土している（図Ⅲ -4-31）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -4-43）。1030・1034 ともに土師器の埦形坏であり、ロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1034 は外面体部下半にヘラ記号が描かれている。

第 4 号土抗（SK04、図Ⅲ -4-4）

［位置・確認］グリッド BU58 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD33、pit310 と重複関係にあり、SD33 より新しく、pit310 よりも古い。［規模・形状］長径 146cm、短径 72cm、深さ 29cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］2 層確認され、黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器の甕 163g が出土している。

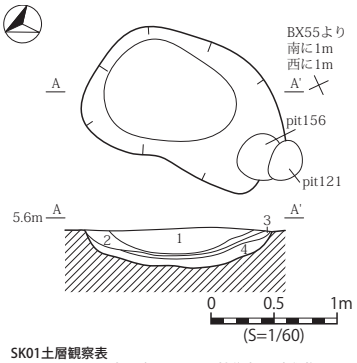
第 5 号土抗（SK05、図Ⅲ -4-5）

［位置・確認］グリッド BR59 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD01 と重複関係にあり、SD01 よりも古い。［規模・形状］長径 108cm、短径 89cm、深さ 29cm を測り、不整方形を呈する。［堆積土］1 層確認され、Ⅳ層由来の土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］特になし。

第 6 号土抗（SK06、図Ⅲ -4-6）

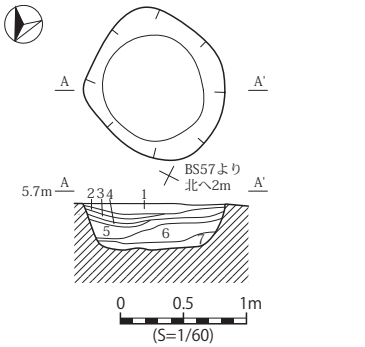
［位置・確認］グリッド BQ59 に位置し、Ⅴ層上面で確認された。［規模・形状］長径 112cm、短径 80cm、深さ 26.5cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］3 層確認され、上層はⅣ層由来の層を基調とし、Ⅴ層由来の土をブロック状に含む人為堆積層であり、下層は黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］北東隅に遺物が集中して出土しており、土師器坏 22g、土師器甕 2,180g が出土している（図Ⅲ -4-32）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -4-44）。1038 は口縁部が外反する土師器の長胴甕であり、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。

第 7 号土抗（SK07、図Ⅲ -4-7）



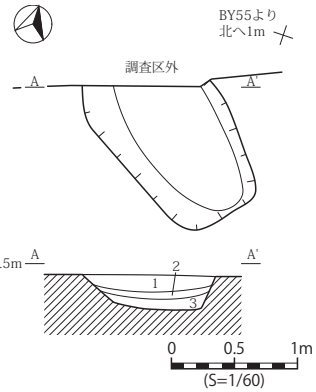
SK01土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～50mm少量、灰中量
2層　2.5YR4/1　黄灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～50mm中量、灰中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物10～50mm中量、灰中量
4層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm微量、灰少量

図Ⅲ-4-1　SK01



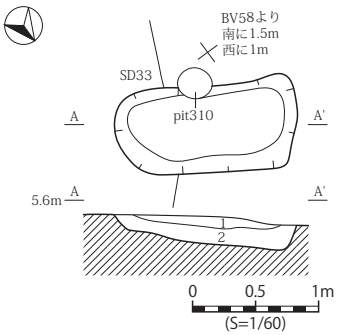
SK02土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト質砂　鉄分中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分多量、炭化物少量
5層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト質砂　鉄分多量、炭化物中量
6層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト質粘土　鉄分多量、炭化物中量
7層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

図Ⅲ-4-2　SK02



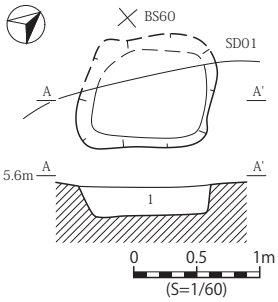
SK03土層観察表
1層　10YR5/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分多量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

図Ⅲ-4-3　SK03



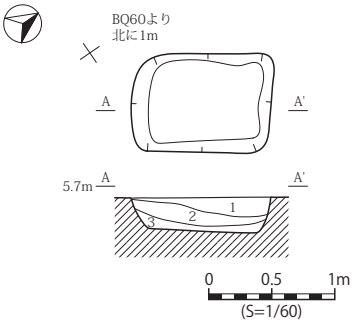
SK04土層観察表
1層　7.5Y2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　5Y2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

図Ⅲ-4-4　SK04



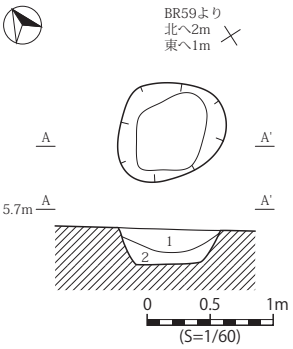
SK05土層観察表
1層　10YR5/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分多量

図Ⅲ-4-5　SK05



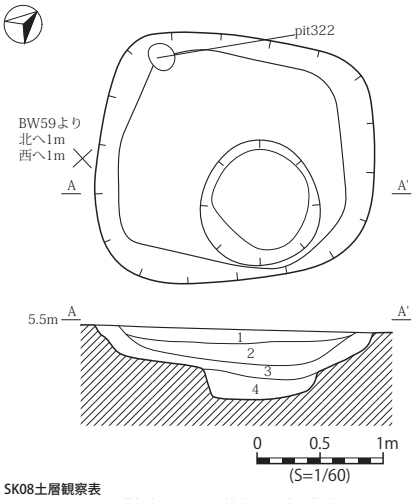
SK06土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

図Ⅲ-4-6　SK06



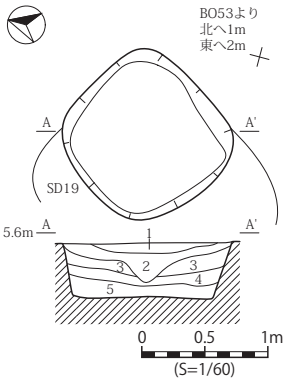
SK07土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～5mm少量

図Ⅲ-4-7　SK07



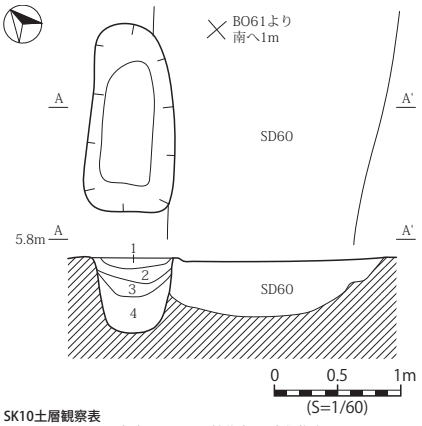
SK08土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、5YR4/4にぶい赤褐色ブロック中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR3/1　黒褐色　粘土　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-4-8　SK08



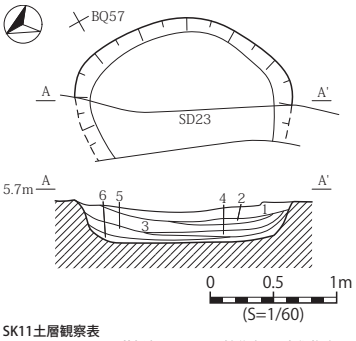
SK09土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
5層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

図Ⅲ-4-9　SK09



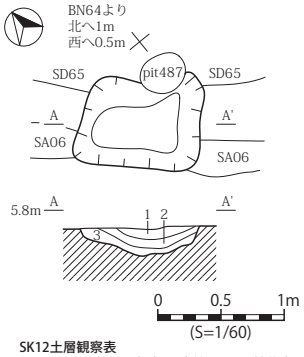
SK10土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、10YR5/2灰黄褐色シルト質砂中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分微量、炭化物少量、2.5YR4/6褐色粘土ブロック微量

図Ⅲ-4-10　SK10



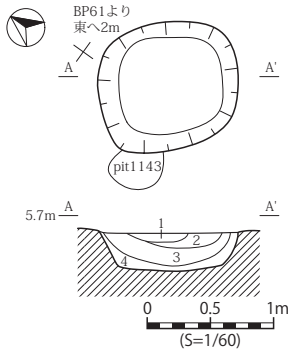
SK11土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
6層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、10YR2/1黒色灰少量

図Ⅲ-4-11　SK11



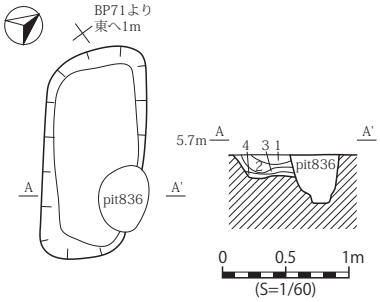
SK12土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト

図Ⅲ-4-12　SK12



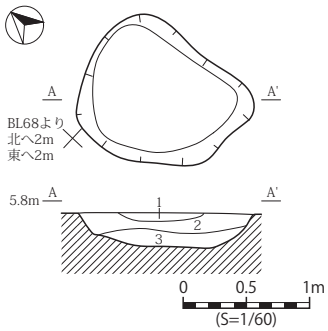
SK13土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物多量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量

図Ⅲ-4-13　SK13



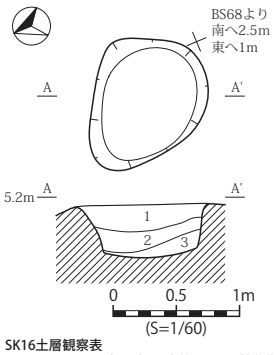
SK14土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-4-14　SK14



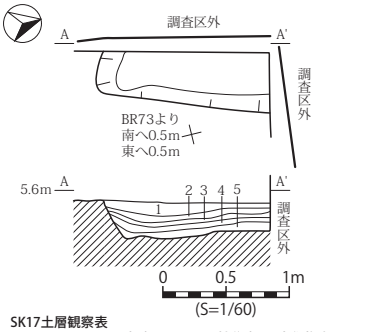
SK15土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

図Ⅲ-4-15　SK15



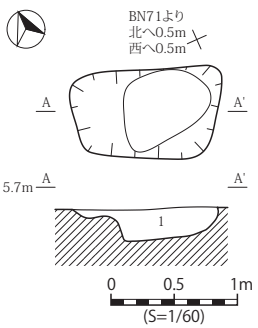
SK16土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分微量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　炭化物多量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　炭化物多量、木片混入

図Ⅲ-4-16　SK16



SK17土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
5層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物少量

図Ⅲ-4-17　SK17



SK18土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

図Ⅲ-4-18　SK18

［位置・確認］グリッド BR58・59 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 92cm、短径 77cm、深さ 27.5cm を測り、不整円形を呈する。［堆積土］2 層確認され、Ⅲ層由来の層を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］特になし。

第 8 号土坑（SK08、図Ⅲ -4-8）

［位置・確認］グリッド BW58，59 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］pit322 と重複関係があり、pit322 よりも古い。［規模・形状］長径 221cm、短径 196cm、深さ 61cm を測り、隅丸方形を呈する。［堆積土］4 層確認され、Ⅲ層由来の土と黒褐色土が互層をなす自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 578.6g、土師器甕 1,837.8g が出土している（図Ⅲ -4-33）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ -4-43,44）。1031 は土師器の埦形坏であり、ロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1041 は土師器の甕の底部破片であり、外面はケズリ、内面はユビナデ、底面はユビナデ調整が施され、底面にはヘラ記号が描かれている。1045 は扁平な円礫の平坦面を砥面として利用されている砥石であり、石材はプロピライトである。

第 9 号土坑（SK09、図Ⅲ -4-9）

［位置・確認］グリッド BO52，53 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD19 と重複関係にあり SD19 より新しい。［規模・形状］長径 125cm、短径 120cm、深さ 49cm を測り、隅丸方形を呈する。［堆積土］5 層確認され、Ⅲ層由来の層を基調とし、Ⅳ層由来の土をブロック状に含む人為堆積層である。［出土遺物］土師器甕 259g、須恵器甕 23g、木製品が出土している（図Ⅲ -4-34）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -4-45）。1047 は曲物底板であり、側面には 2 箇所木釘の痕跡が確認され、内面には工具痕が確認された。1050 は用途不明の棒状木製品であり、一端を鋭角に尖らせている。いずれも樹種はアスナロである。

第 10 号土坑（SK10、図Ⅲ -4-10）

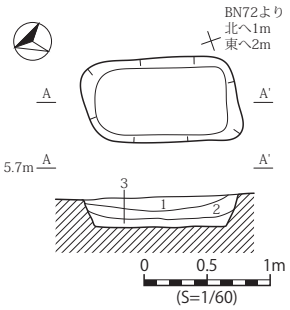
［位置・確認］グリッド BN61 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD60 と重複関係にあり SD60 より新しい。［規模・形状］長径 147cm、短径 70cm、深さ 70.5cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］4 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、Ⅳ層由来の土をブロック状に含み、下層は黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 149.6g、土師器甕 512g が出土している（図Ⅲ -4-35）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -4-43）。1032 は土師器の埦形坏であり、ロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

第 11 号土坑（SK11、図Ⅲ -4-11）

［位置・確認］グリッド BP・BQ57 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD23 と重複関係にあり SD23 より古い。［規模・形状］正確な規模は不明であるが、残存径 172cm、深さ 39.5cm を測り、円形を呈する。［堆積土］6 層確認され、上層はⅢ層由来の層とⅣ層由来の層が互層を成し、下層はⅢ層由来の層と黒色土層が互層を成す自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 36g、土師器甕 15g が出土している。

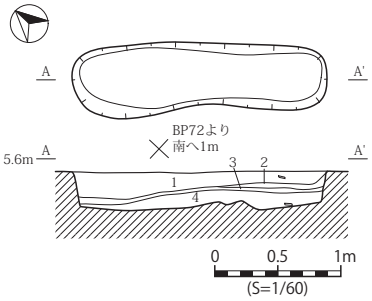
第 12 号土坑（SK12、図Ⅲ -4-12）

［位置・確認］グリッド BN64 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD65、SA06、pit487 と重複関係にあり SD65、SA06 より新しく、pit487 より古い。［規模・形状］長径 94.5cm、短径 68cm、深さ 20cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層とⅣ層由来の層が互層を成し、下層はⅢ層由来の層と黒色土層が互層を成す自然堆積層である。［出土遺物］



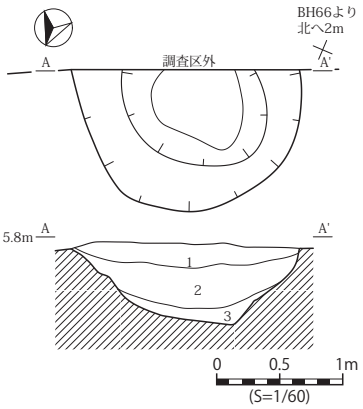
SK19土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-4-19　SK19



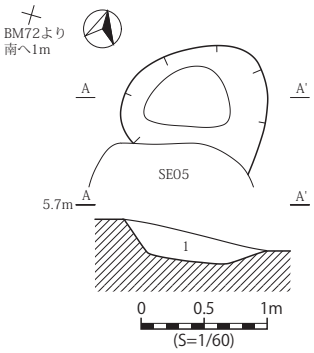
SK20土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-4-20　SK20



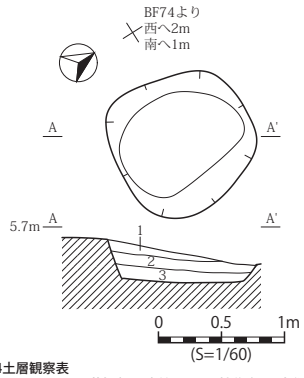
SK21土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物中量

図Ⅲ-4-21　SK21



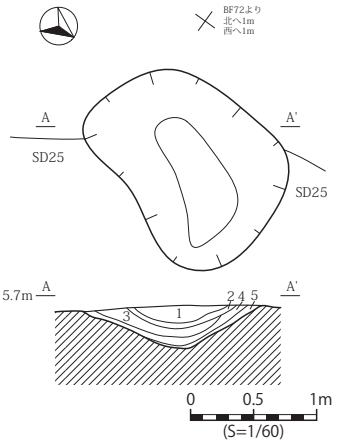
SK22土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-4-22　SK22



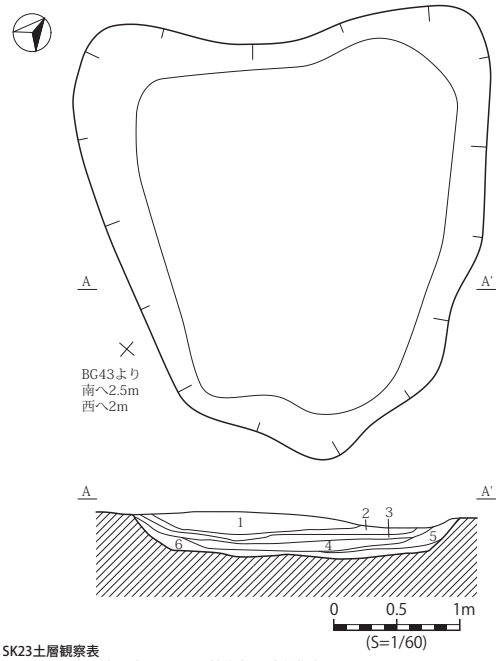
SK24土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

図Ⅲ-4-24　SK24



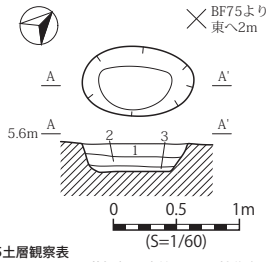
SK26土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
5層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

図Ⅲ-4-26　SK26



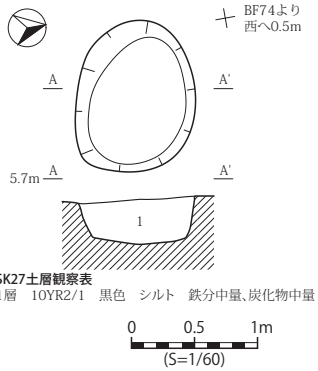
SK23土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分微量、炭化物少量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分微量、炭化物多量
4層　10YR2/3　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量、木片混入
5層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
6層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

図Ⅲ-4-23　SK23



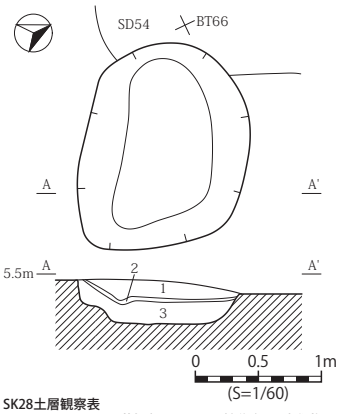
SK25土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

図Ⅲ-4-25　SK25



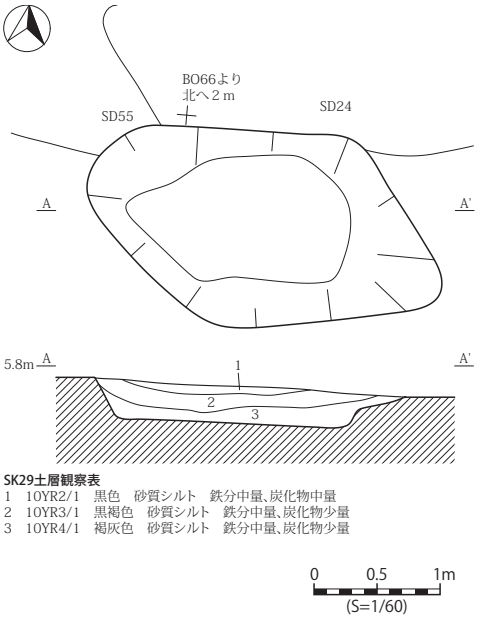
SK27土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

図Ⅲ-4-27　SK27

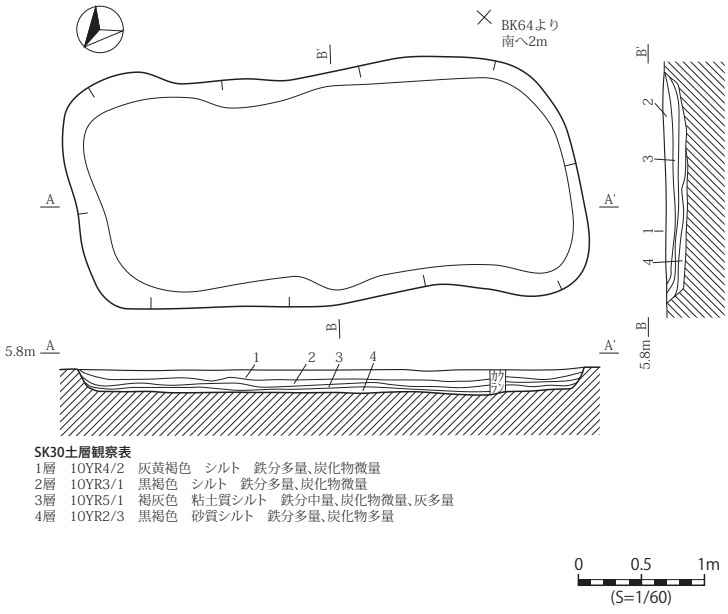


SK28土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　焼土多量
3層　10YR5/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分多量

図Ⅲ-4-28　SK28



図Ⅲ-4-29　SK29



図Ⅲ-4-30　SK30

土師器坏 26g、土師器甕 197g、須恵器壺 8g が出土している。

第 13 号土坑（SK13、図Ⅲ -4-13）

［位置・確認］グリッド BO60 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］pit1143 と重複関係にあり pit1143 より新しい。［規模・形状］長径 94.5cm、短径 68cm、深さ 20cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］4 層確認され、上層に黒色土を基調とする層が一部見られるが、Ⅲ層由来の層を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 206g、土師器甕 1,315g、須恵器甕 1g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -4-44）。1042 は擦文土器である。横位多重沈線の後に鋸歯文が施される。内面はミガキである。

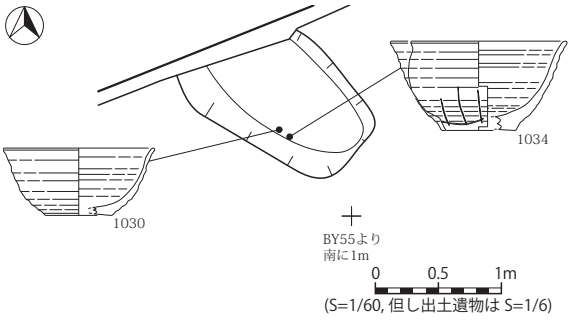
第 14 号土坑（SK14、図Ⅲ -4-14）

［位置・確認］グリッド BO70 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］pit836 と重複関係にあり pit836 より古い。［規模・形状］長径 169cm、短径 80cm、深さ 34.5cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］4 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、Ⅳ層由来の層をブロック状に含む人為的堆積層である。下層は黒色土を基調とする層とⅢ層由来の層が互層をなす自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 7g、土師器甕 229g が出土している。

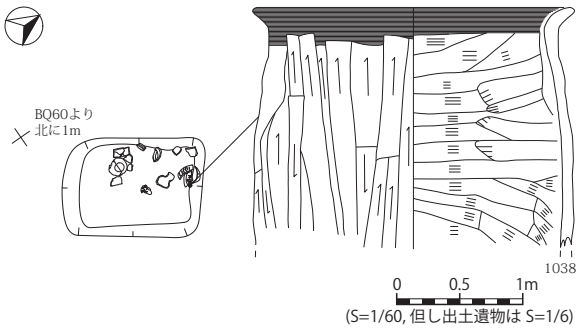
第 15 号土坑（SK15、図Ⅲ -4-15）

［位置・確認］グリッド BL67 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 141cm、短径 119cm、深さ 29cm を測り、不整円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 245.4g、土師器甕 705g、石器 694g が出土している（図Ⅲ -4-36）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ -4-43）。1026 は土師器の皿であり、1033 は土師器の埦形坏である。いずれもロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1044 は扁平な円礫の平坦面を砥面として利用している砥石であり、石材は安山岩である。

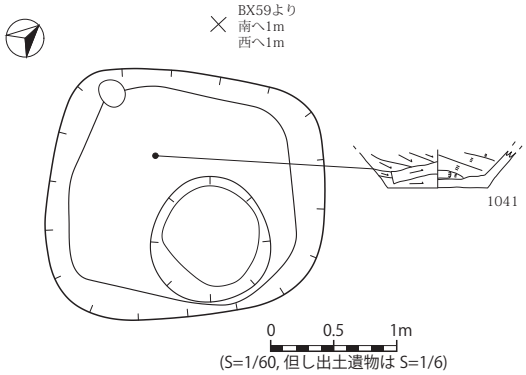
第 16 号土坑（SK16、図Ⅲ -4-16）



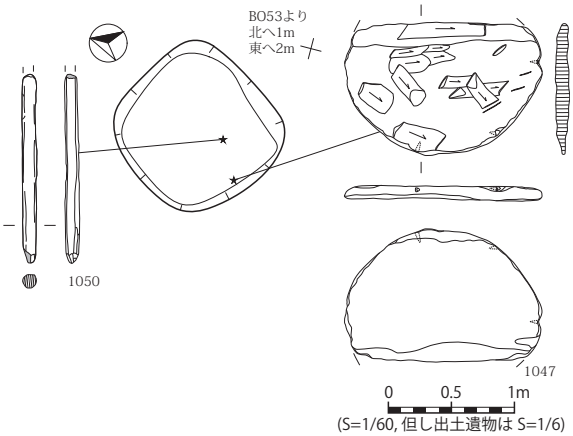
図Ⅲ-4-31　SK03遺物出土状況



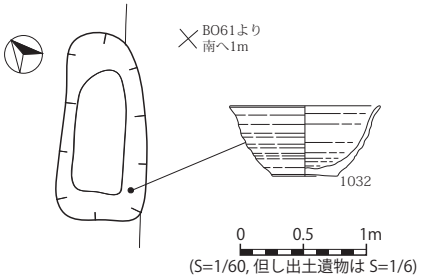
図Ⅲ-4-32　SK06遺物出土状況



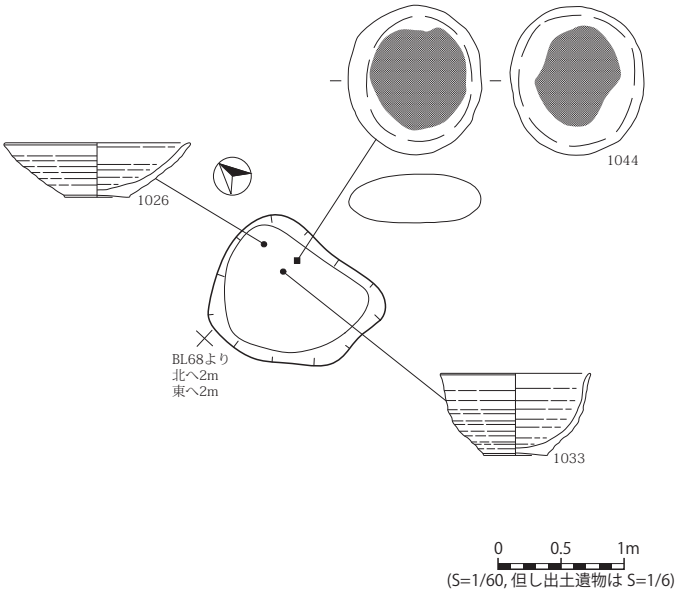
図Ⅲ-4-33　SK08遺物出土状況



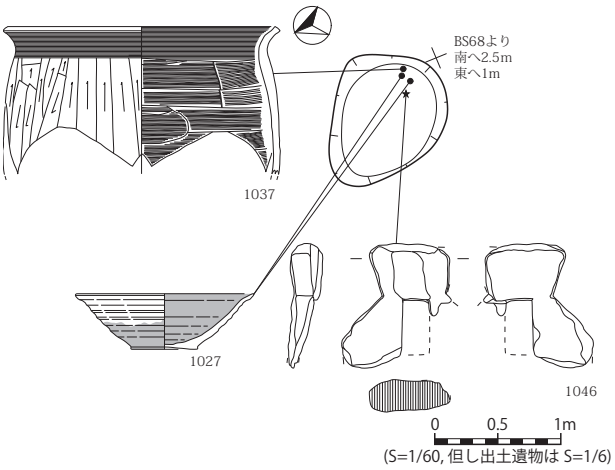
図Ⅲ-4-34　SK09遺物出土状況



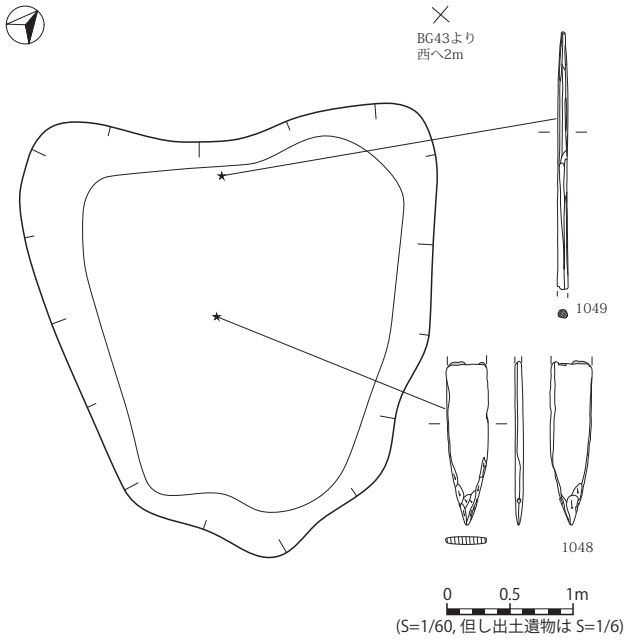
図Ⅲ-4-35　SK10遺物出土状況



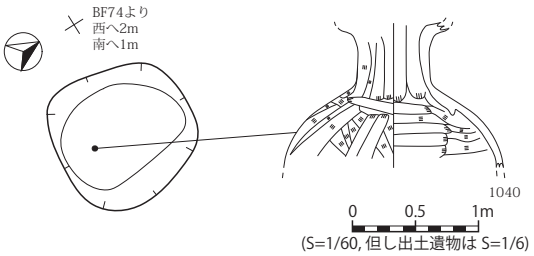
図Ⅲ-4-36　SK15遺物出土状況



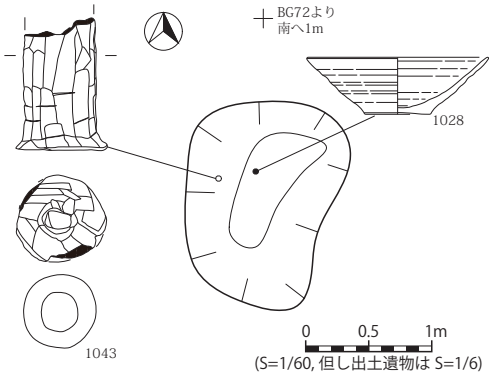
図Ⅲ-4-37　SK16遺物出土状況



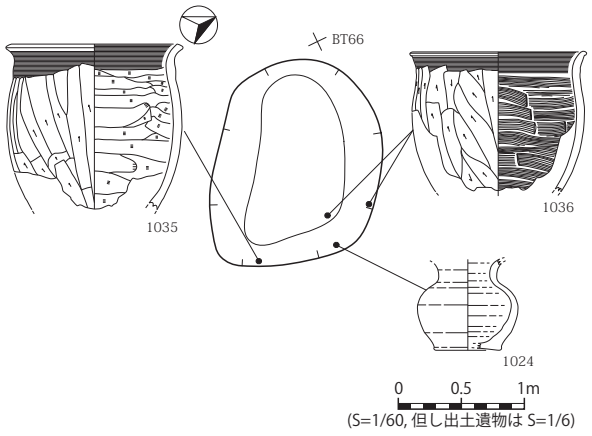
図Ⅲ-4-38　SK23遺物出土状況



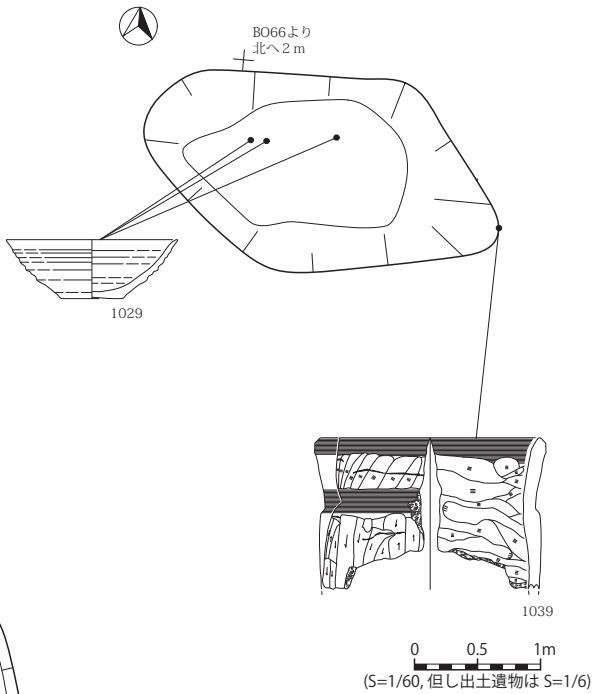
図Ⅲ-4-39　SK24遺物出土状況



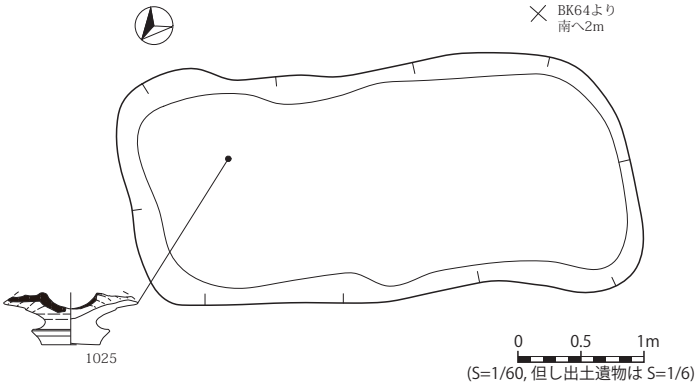
図Ⅲ-4-39　SK26遺物出土状況



図Ⅲ-4-40　SK28遺物出土状況



図Ⅲ-4-41　SK29遺物出土状況



図Ⅲ-4-42　SK30遺物出土状況

［位置・確認］グリッド BR67 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD55 と重複関係にあり SD55 より古い。［規模･形状］長径 116cm、短径 93cm、深さ 50.5cm を測り、楕円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 184.6g、土師器甕 298.8g、木製品が出土している（図Ⅲ -4-37）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ -4-43,45）。1027 は土師器のⅢ形坏であり、ロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1037 は口縁部が外彎する土師器長胴甕であり、外面はケズリ調整後口縁部にヨコナデ調整が施され､内面はヘラナデ調整後口縁部にヨコナデ調整が施されている。1046 は破損しているが、農具の鍬身であり、樹種はカエデ属である。

第 17 号土抗（SK17、図Ⅲ -4-17）

［位置・確認］グリッド BQ・BR72，73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］一部が調査区外のため正確な規模は不明であるが深さ 20.5cm を測る隅丸長方形を呈する。［堆積土］5 層確認され、上層は黒色土層を基調とし、最下層はⅢ層由来の層を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 234g、土師器甕 1,040g が出土している。

第 18 号土抗（SK18、図Ⅲ -4-18）

［位置・確認］グリッド BM・BN71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 115cm、短径 74cm、深さ 29.5cm を測り、不整隅丸長方形を呈する。［堆積土］1 層確認され、黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 22g、土師器甕 97g が出土している。

第 19 号土抗（SK19、図Ⅲ -4-19）

［位置・確認］グリッド BN71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 124cm、短径 69cm、深さ 36.5cm を測り、不整隅丸長方形を呈する。［堆積土］3 層確認され、Ⅳ層由来の層と黒色土を基調とする層が互層を成す自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 96g、土師器甕 354g が出土している。

第 20 号土抗（SK20、図Ⅲ -4-20）

［位置・確認］グリッド BO71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 203cm、短径 50cm、深さ 34cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］4 層確認され、1 層はⅣ層由来の層を基調とし、2･3 層は黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 234g、土師器甕 384g が出土している。

第 21 号土抗（SK21、図Ⅲ -4-21）

［位置・確認］グリッド BH・BI65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］一部が調査区外のため正確な規模は不明であるが、深さ 65.5cm を測り、円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器甕 131g が出土している。［特記事項］掘り込みの形状が井戸跡上面と類似することから､井戸掘削途中で放棄した土抗であると考えられる。

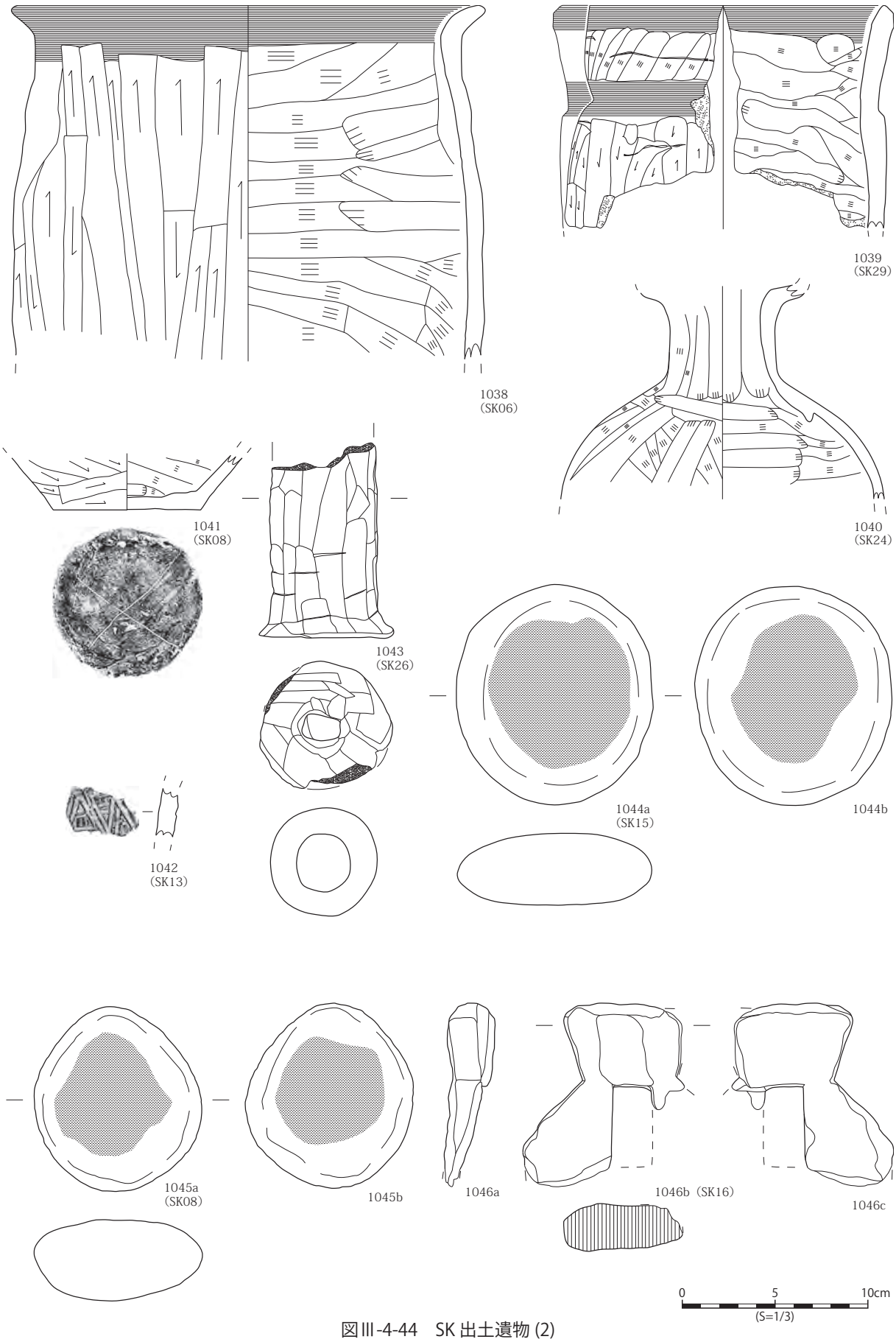
第 22 号土抗（SK22、図Ⅲ -4-22）

［位置・確認］グリッド BO71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 203cm、短径 50cm、深さ 34cm を測り、隅丸長方形を呈する。［堆積土］1 層確認され、1 層はⅢ層由来の層を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 49g、土師器甕 291g が出土している。

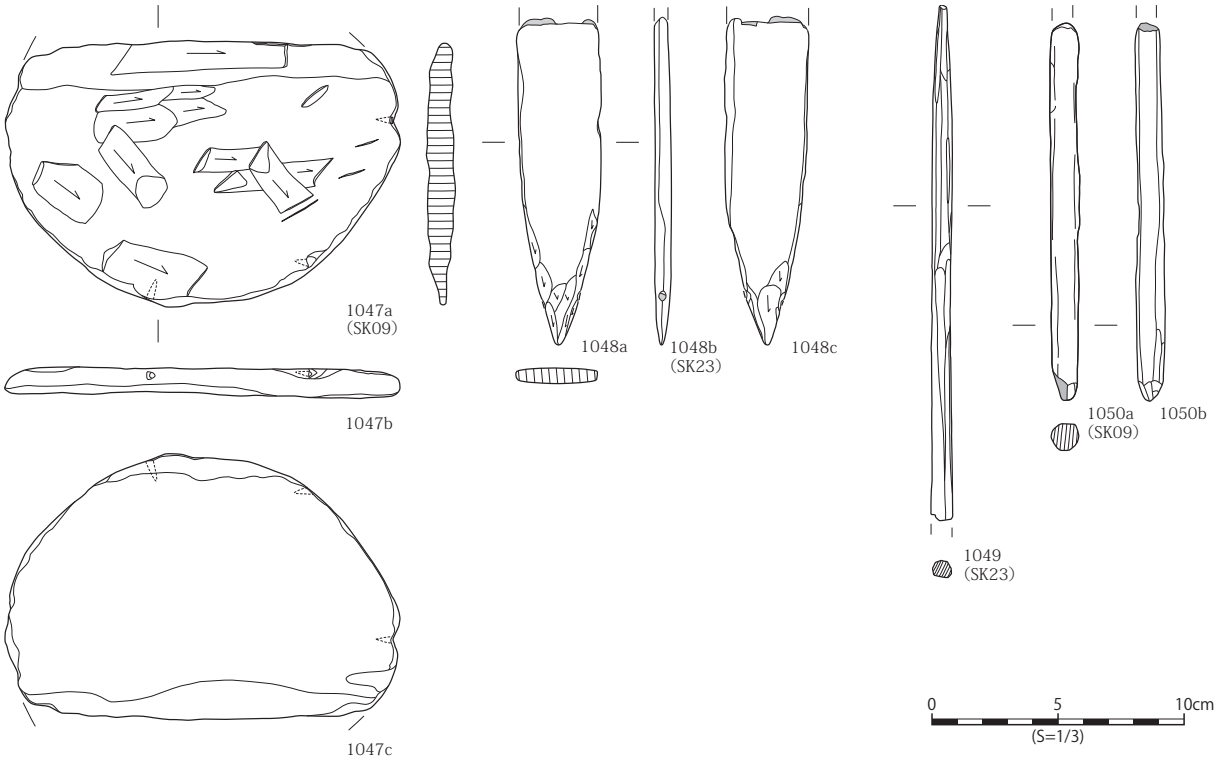
第 23 号土抗（SK23、図Ⅲ -4-23）

［位置・確認］グリッド BF73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD04・12・13 と重複関

図Ⅲ-4-43　SK 出土遺物 (1)



図Ⅲ-4-44　SK 出土遺物 (2)



図Ⅲ-4-45　SK 出土遺物 (3)

係があり、いずれの溝跡よりも新しい。［規模･形状］長径 330cm、短径 296cm、深さ 46cm を測り、不整形を呈する。［堆積土］6 層確認され、1 層はⅢ層由来の層を基調とし、粘土ブロックを多量に含む人為堆積層である。2 ～ 6 層は、黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］木製品が出土している（図Ⅲ -4-38）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -4-45）。1048 は刀形？であり先端部を山形に尖らせている。1049 は箸状木製品であり、一端を細く尖らせている。樹種はいずれもアスナロである。

第 24 号土坑（SK24、図Ⅲ -4-24）

［位置・確認］グリッド BE74 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 121cm、短径 120cm、深さ 30cm を測り、円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、1 層はⅢ層由来の層を基調とし、2・3 層は、黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］土師器壺 424g が出土している（図Ⅲ -4-39）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅲ -4-44）。1040 は土師器の壺であり、内外面ともユビナデ調整が施されている。器形から須恵器の長頸壺を模したものと考えられる。

第 25 号土坑（SK25、図Ⅲ -4-25）

［位置・確認］グリッド BE74 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 88cm、短径 55.5cm､深さ 23cm を測り､楕円形を呈する。［堆積土］3 層確認され､1 層はⅢ層由来の層を基調とし、2・3 層は、黒色土を基調とする自然堆積層である。［出土遺物］特になし。

第 26 号土坑（SK26、図Ⅲ -4-26）

［位置・確認］グリッド BE71・72 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD25 と重複関係にあり、SD25 より新しい。［規模・形状］長径 168cm、短径 118cm、深さ 37cm を測り、楕円形を呈する。［堆積土］5 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒色土層である自然堆積土である。［出土遺物］土師器の坏 35g、土師器の甕 170g が出土している（図Ⅲ -4-39）。この内図示

できたのは 2 点である（図Ⅲ -4-43,44）。1028 は土師器の皿形坏である。1048 は支脚である。中空で外面はユビナデ調整が施される。輪積痕が残り粗雑なつくりである。

第 27 号土坑（SK27、図Ⅲ -4-27）

［位置・確認］グリッド BE73，74 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 124cm、短径 97.5cm、深さ 35cm を測り、楕円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層を基調とし、Ⅳ層由来の土がブロック状に混入する。人為的堆積土である。［出土遺物］特になし。

第 28 号土坑（SK28、図Ⅲ -4-28）

［位置・確認］グリッド BS・BT65 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD54 と重複関係にあり、SD54 より新しい。［規模・形状］長径 176.5cm、短径 135cm、深さ 4 0.5cm を測り、楕円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層と黒色土層が互層を形成している自然堆積土である。［出土遺物］土土師器の坏 180g、土師器の甕 428g が出土している（図Ⅲ -4-40）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅲ -4-43）。1024 は土師器のミニチュア壺であり、1035・1036 は土師器の小型甕である。口縁内外面にヨコナデ、体部外面にケズリ、体部内面に 1035 はユビナデ、1036 はヘラナデ調整が施されている。

第 29 号土坑（SK29、図Ⅲ -4-29）

［位置・確認］グリッド BE73･74 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD24・55 と重複関係にあり、両溝跡より新しい。［規模・形状］長径 294cm、短径 159cm、深さ 45cm を測り、楕円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層を基調とし、Ⅳ層由来の土がブロック状に混入する。人為的堆積土である。［出土遺物］土師器の坏 878g、土師器甕 3,376g、須恵器甕 65g が出土している（図Ⅲ -4-41）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅲ -4-43,44）。1029 は土師器の皿形坏であり、ロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。1039 は土師器の甕であり、体部上半に段を有し、この時期には珍しい長くやや外傾する口縁部を有する。体部上半と口縁部にヨコナデ、頸部外面はユビナデ、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデ調整が施されている。

第 30 号土坑（SK30、図Ⅲ -4-30）

［位置・確認］グリッド BJ・BK63，64 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 398cm、短径 182cm、深さ 21cm を測る長方形を呈する。［堆積土］4 層確認され、Ⅲ層由来の層と黒色土層が互層を成す自然堆積層である。［出土遺物］土師器坏 82g、土師器甕 529g が出土している（図Ⅲ -4-42）。この内図示できたものは 1 点である（図Ⅲ -4-43）。1025 は土師器の耳皿であり、ロクロ成形後、底面は回転糸切痕を残し、無調整である。

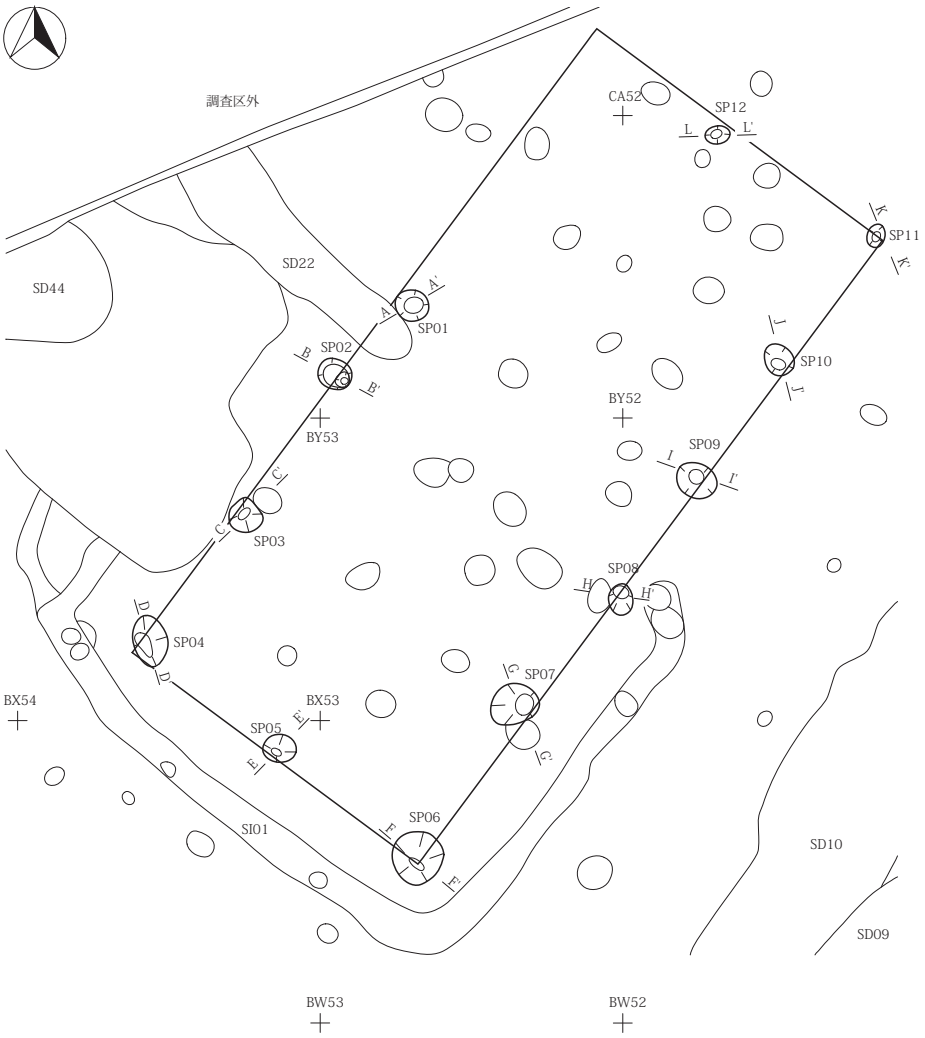
第 5 節　掘立柱建物跡（SB）

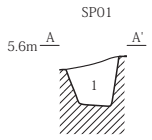
掘立柱建物跡は全部で 26 棟確認された。

第 1 号掘立柱建物跡（SB01、図Ⅲ -5-1）

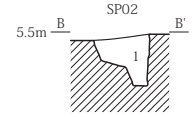
［位置・確認］グリッド BW52，53、BX51 ～ 53、BY51 ～ 53、CA52，53 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］なし。［規模・形状］桁行 34.5 尺（柱間 4.5 尺～ 7.5 尺）、梁間 15.5 尺（柱間 7.5 尺・8 尺）を測り、5 間×２間の長方形を呈する。［時期］SI01 と同一時期であるため、Ⅰ期であると考えられる。

第 2 号掘立柱建物跡（SB02、図Ⅲ -5-2）

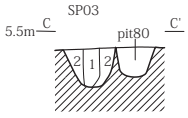




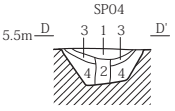
SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量、灰中量



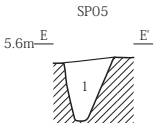
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量



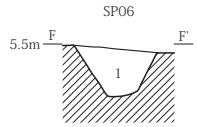
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　10YR5/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量



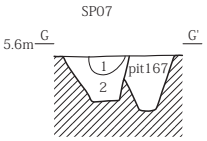
SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物3～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物2～5mm中量、灰中量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量



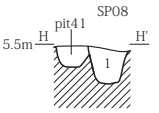
SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量



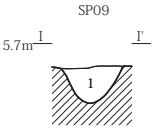
SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物1～5mm中量、灰中量



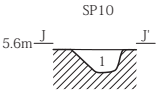
SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～5mm微量、灰中量



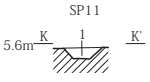
SP08土層観察表(G-G')
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト
鉄分少量、炭化物微量、灰少量



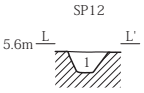
SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物中量、灰中量



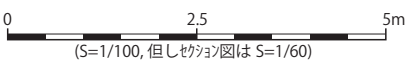
SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm少量、
灰中量



SP11土層観察表(K-K')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

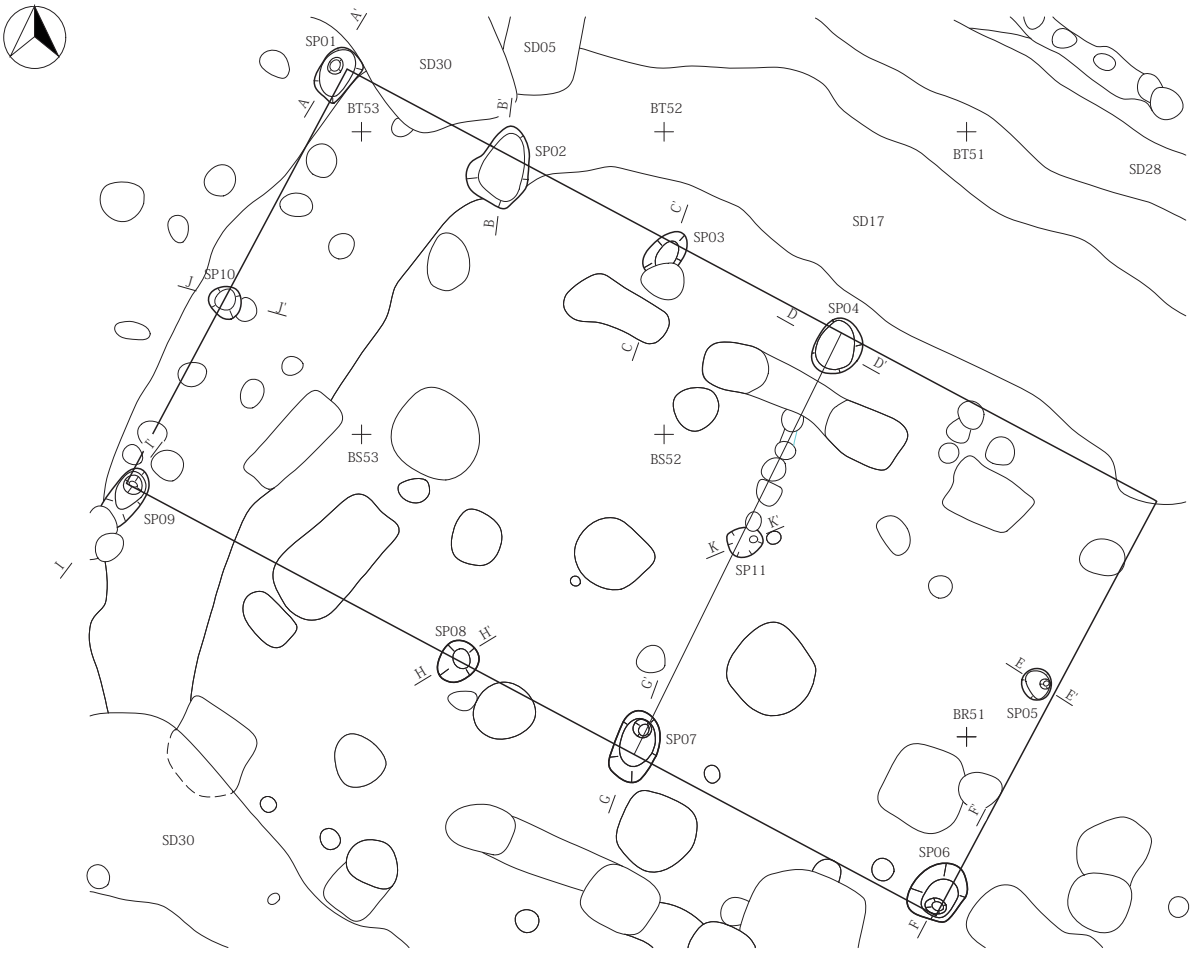


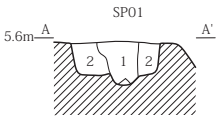
SP12土層観察表(L-L')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量



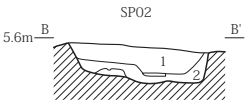
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-5-1　SB01

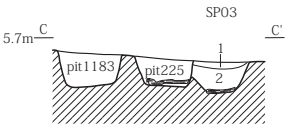




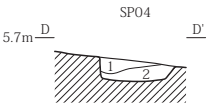
SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物少量



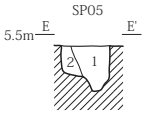
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量



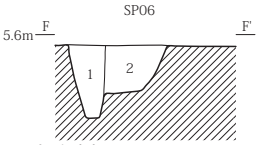
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



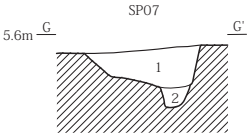
SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量



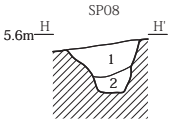
SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR2/3　黒褐色　シルト
炭化物微量、軽石0.5cm
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



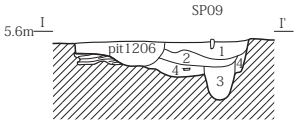
SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量、軽石0.5cm



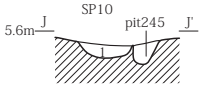
SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物中量、10YR2/1黒色埋土中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



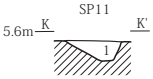
SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物中量、人為的堆積層
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



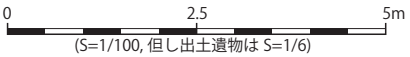
SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、5YR3/6 暗赤褐色ブロック少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　炭化物少量
3層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量、10YR5/6 黄褐色粘土ブロック少量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量



SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物2～20mm多量

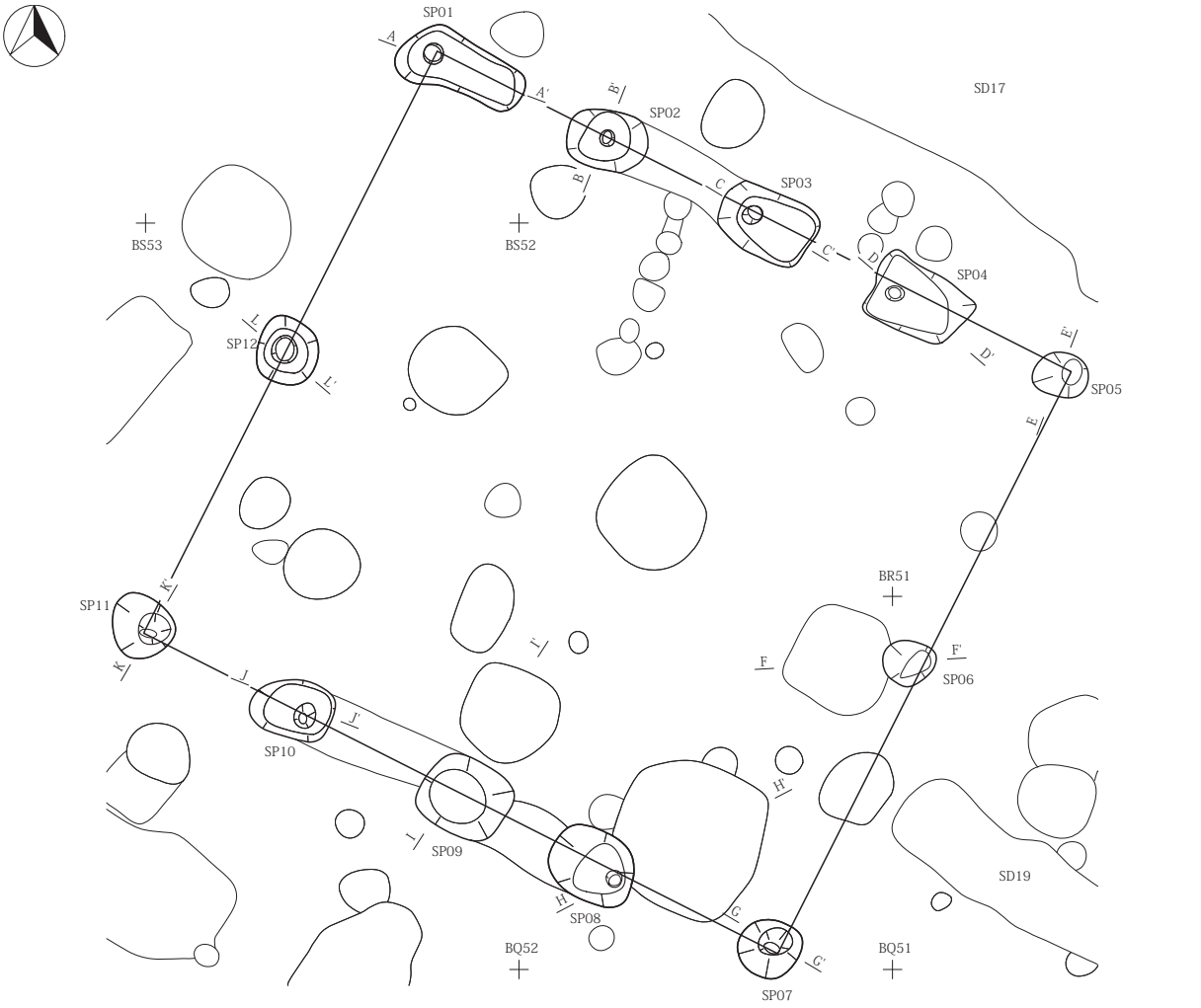


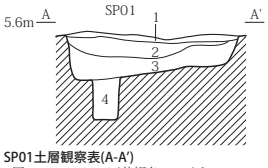
SP11土層観察表(K-K')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐　シルト
鉄分多量、炭化物微量



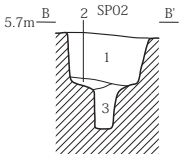
(S=1/100, 但し出土遺物は S=1/6)

図Ⅲ-5-2　SB02

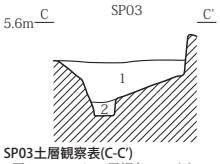




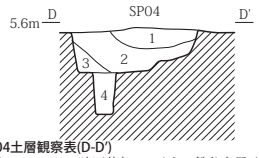
SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物少量、焼土 1 mm微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物少量、10YR3/1黒褐色粘土ブロック少量
4層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量



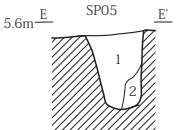
SP02土層観察表(B-B')
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分少量、粘土ブロック3cm少量
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



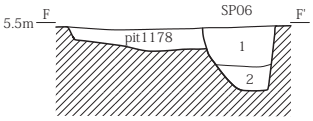
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量



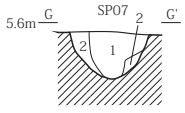
SP04土層観察表(D-D')
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　2.5Y4/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量



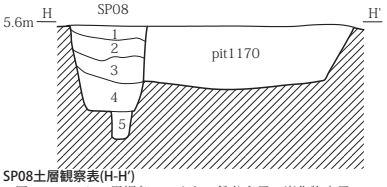
SP05土層観察表(E-E')
1 層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量、人為的堆積層
2 層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分中量、人為的堆積層



SP06土層観察表(F-F')
1 層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2 層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量



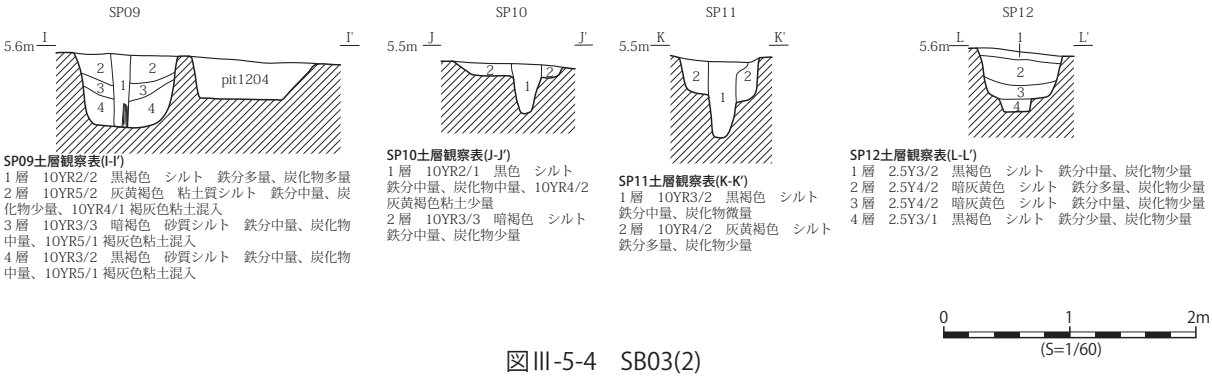
SP07土層観察表(G-G')
1 層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物 2 ～ 10mm 中量
2 層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物 10 ～ 20mm 少量



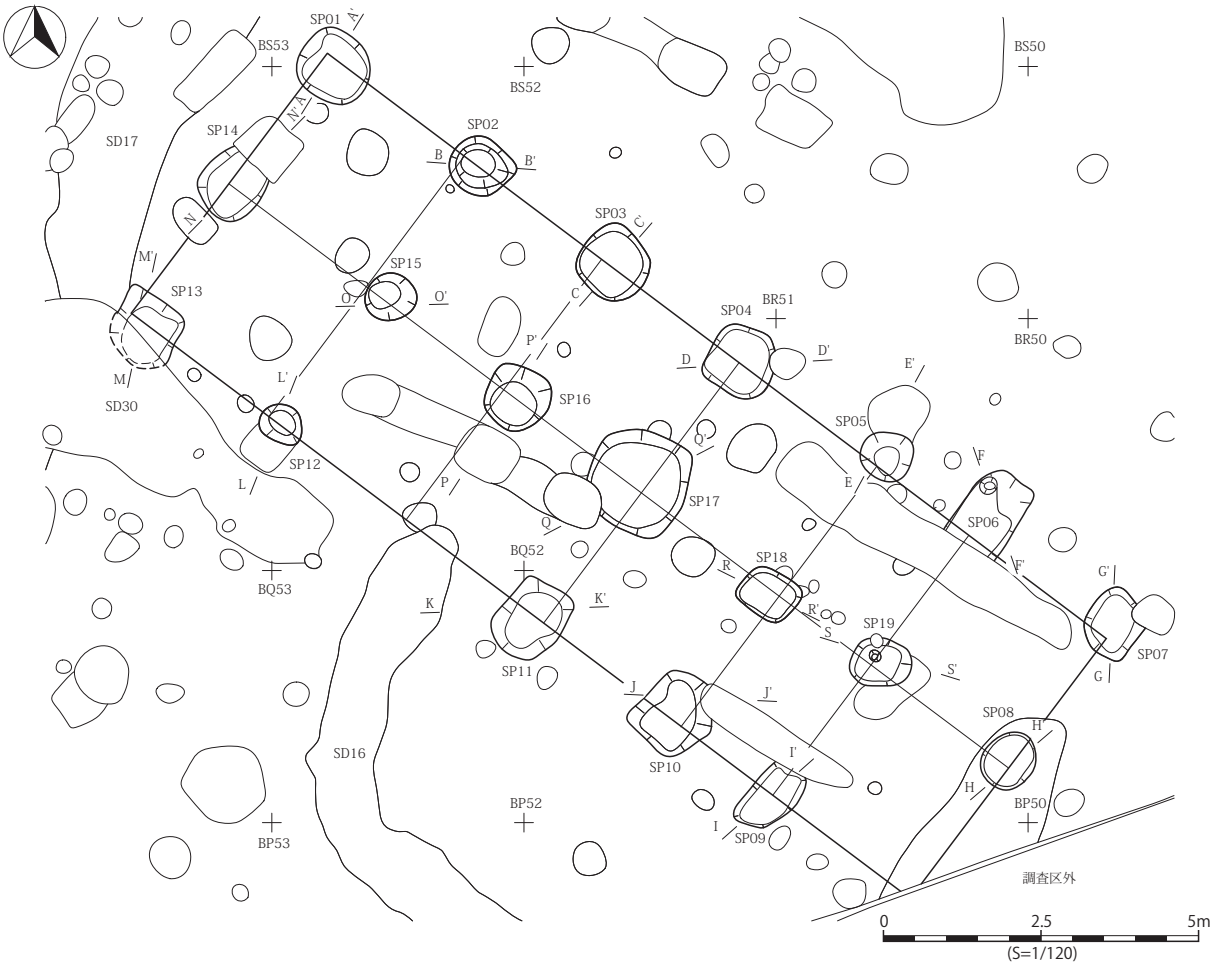
SP08土層観察表(H-H')
1 層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2 層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、焼土微量
3 層　10YR3/2　黒褐色　鉄分中量、炭化物少量
4 層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
5 層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物多量

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-5-3　SB03(1)



図Ⅲ-5-4 SB03(2)

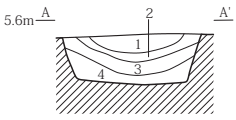


図Ⅲ-5-5 SB04(1)

［位置・確認］グリッド BQ50, 51、BR・BS50 ～ 53、BT52, 53 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD17 と重複関係にあり、SD17 よりも新しい。［規模・形状］桁行 40 尺（柱間 8.5 尺・14.5 尺）、梁間 20.5 尺（柱間 10 尺・10.5 尺）を測り、4 間× 2 間の長方形を呈する。［出土遺物］SP07 より図示可能なものが 2 点出土している。（図Ⅲ -5-31）。1053 は土師器のⅢ形坏であり、1055 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。［時期］ I 期の SD17 よりも新しく、SD30 と同時期と考えられることからⅡ期であると考えられる。

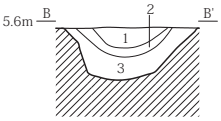
第 3 号掘立柱建物跡（SB03、図Ⅲ -5-3･4）

SP01



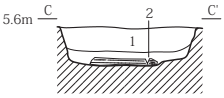
SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
4層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

SP02



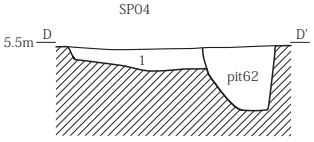
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量

SP03



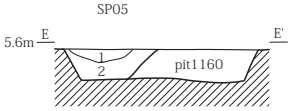
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

SP04



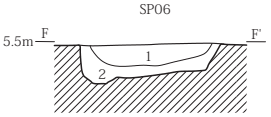
SP04土層観察表(D-D')
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

SP05



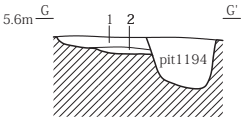
SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物微量、灰微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

SP06



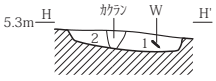
SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

SP07



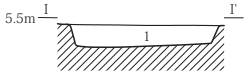
SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、人為的堆積層
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SP08



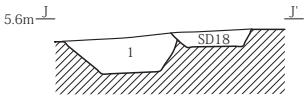
SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、人為的堆積層
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SP09



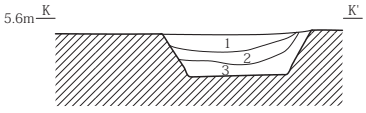
SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

SP10



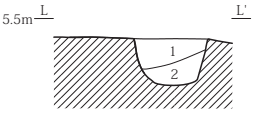
SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物1～20mm中量

SP11



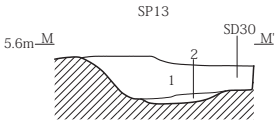
SP11土層観察表(K-K')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～10mm中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物5～10mm中量
3層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化v物10～20mm少量

SP12



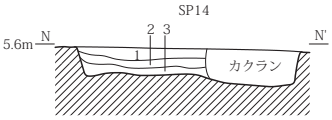
SP12土層観察表(L-L')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SP13



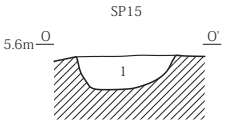
SP13土層観察表(M-M')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、10YR5/2灰黄褐色粘土少量

SP14



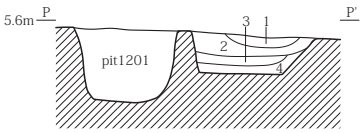
SP14土層観察表(N-N')
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　炭化物多量、灰微量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量、灰多量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、灰多量

SP15



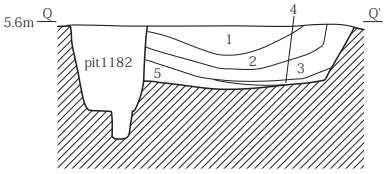
SP15土層観察表(O-O')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SP16



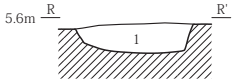
SP16土層観察表(P-P')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SP17



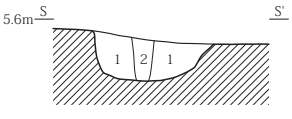
SP17土層観察表(Q-Q')
1層　2.5YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
3層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
4層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
5層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物多量

SP18

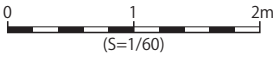


SP18土層観察表(R-R')
1層　2.5YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

SP19



SP19土層注記表(S-S')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

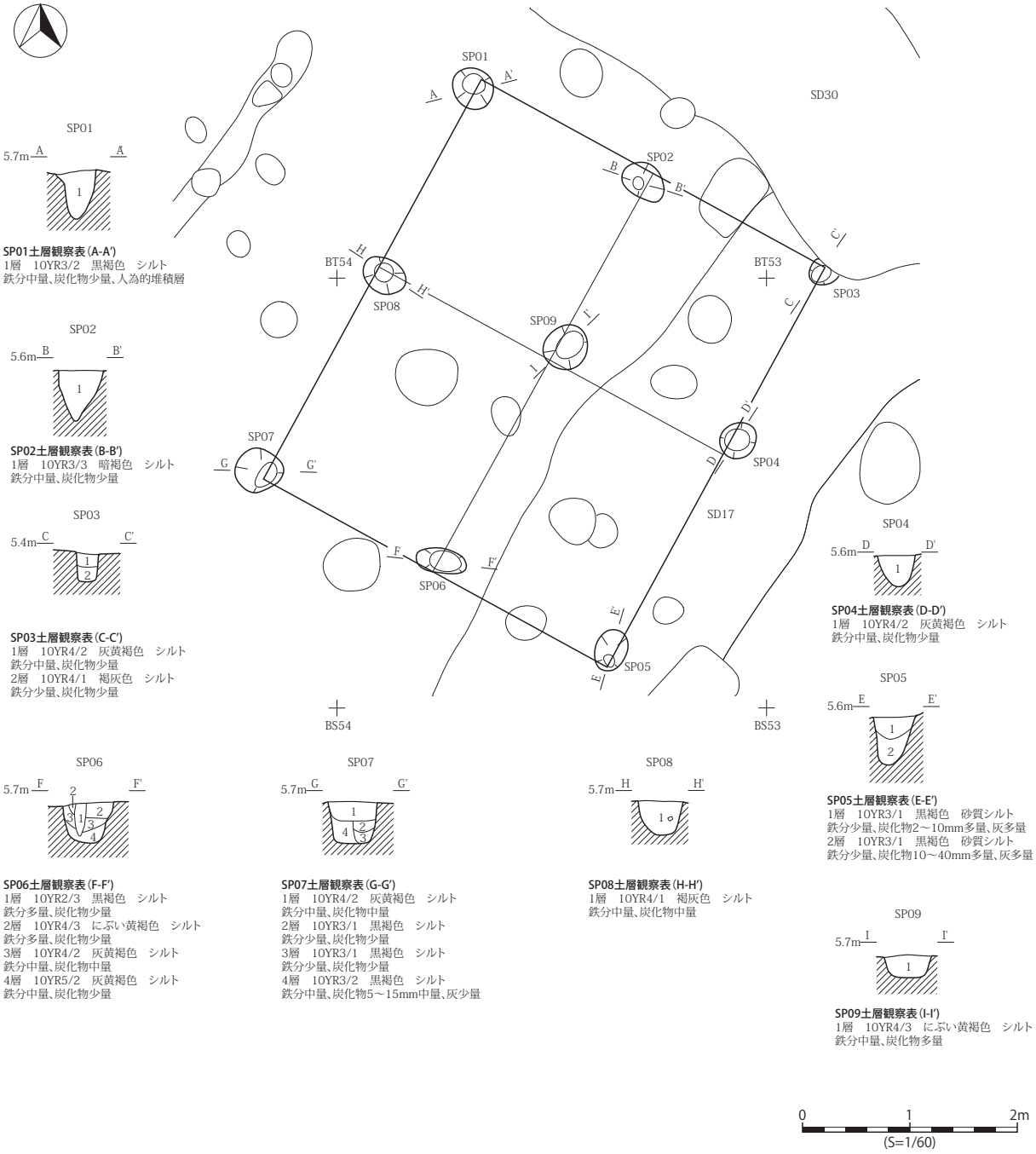


図Ⅲ-5-6　SB04(2)

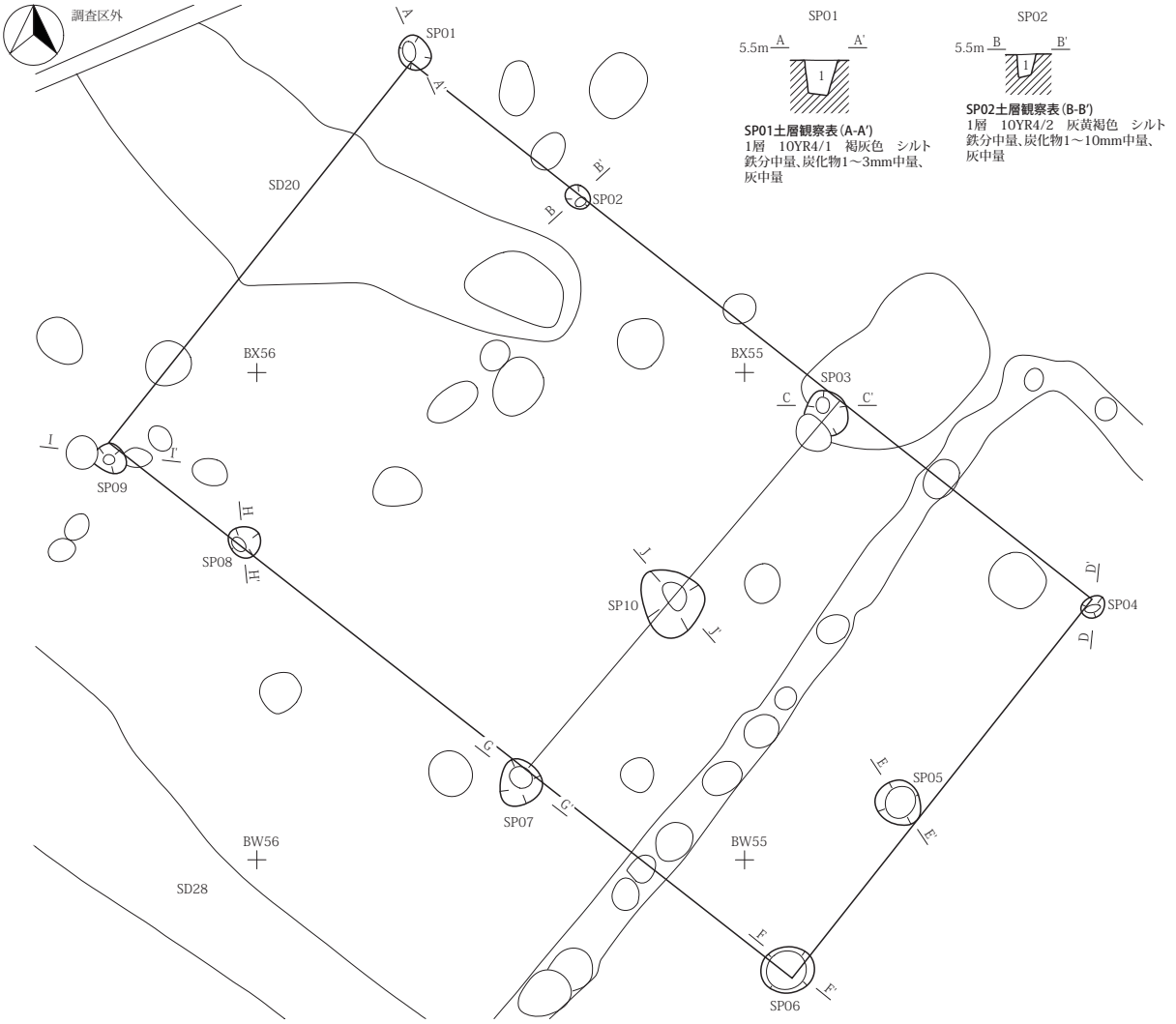
［位置・確認］グリッド BP51、BQ50 ～ 53、BR50 ～ 52、BS51 ， 52 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SB04 と重複関係にあり、SB04 よりも新しい。［規模・形状］桁行 25 尺（柱間 6 尺・6.5 尺）、梁間 23 尺（柱間 11.5 尺）を測り、4 間× 2 間の方形を呈する。［時期］ Ⅰ期に相当する SB04 よりも新しいためⅡ期以降であると考えられる。

第 4 号掘立柱建物跡（SB04、図Ⅲ -5-5・6）

［位置・確認］グリッド BW52，53、BX51 ～ 53、BY51 ～ 53、CA52，53 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］なし。［規模・形状］桁行 34.5 尺（柱間 4.5 尺～ 7.5 尺）、梁間 15.5 尺（柱間 7.5 尺・8 尺）を測り、6 間× 2 間の長方形を呈する。［時期］ Ⅰ期に相当する SD17 と同時期であるため、



図Ⅲ-5-7　SB05



SP01

5.5m A — A'

1

SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～3mm中量、灰中量

SP02

5.5m B — B'

1

SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量

SP03

5.5m C — C'

1

SP03土層観察表(C-C')
1層　2.5Y5/2　暗灰褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～3mm少量、灰多量

SP04

5.5m D — D'

1

SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰多量

SP05

5.6m E — E'

2
1

SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量、灰少量

SP06

5.5m F — F'

1
2

SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物2～5mm中量、灰中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量

SP07

5.5m G — G'

1

SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

SP08

5.5m H — H'

1
2

SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm微量、灰少量

SP09

5.5m I — pit127 — pit129 — I'

1

SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～3mm少量、灰中量

SP10

5.6m J — J'

1
2
3

SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト
炭化物1～3mm中量、灰中量

0　1　2m
(S=1/60)

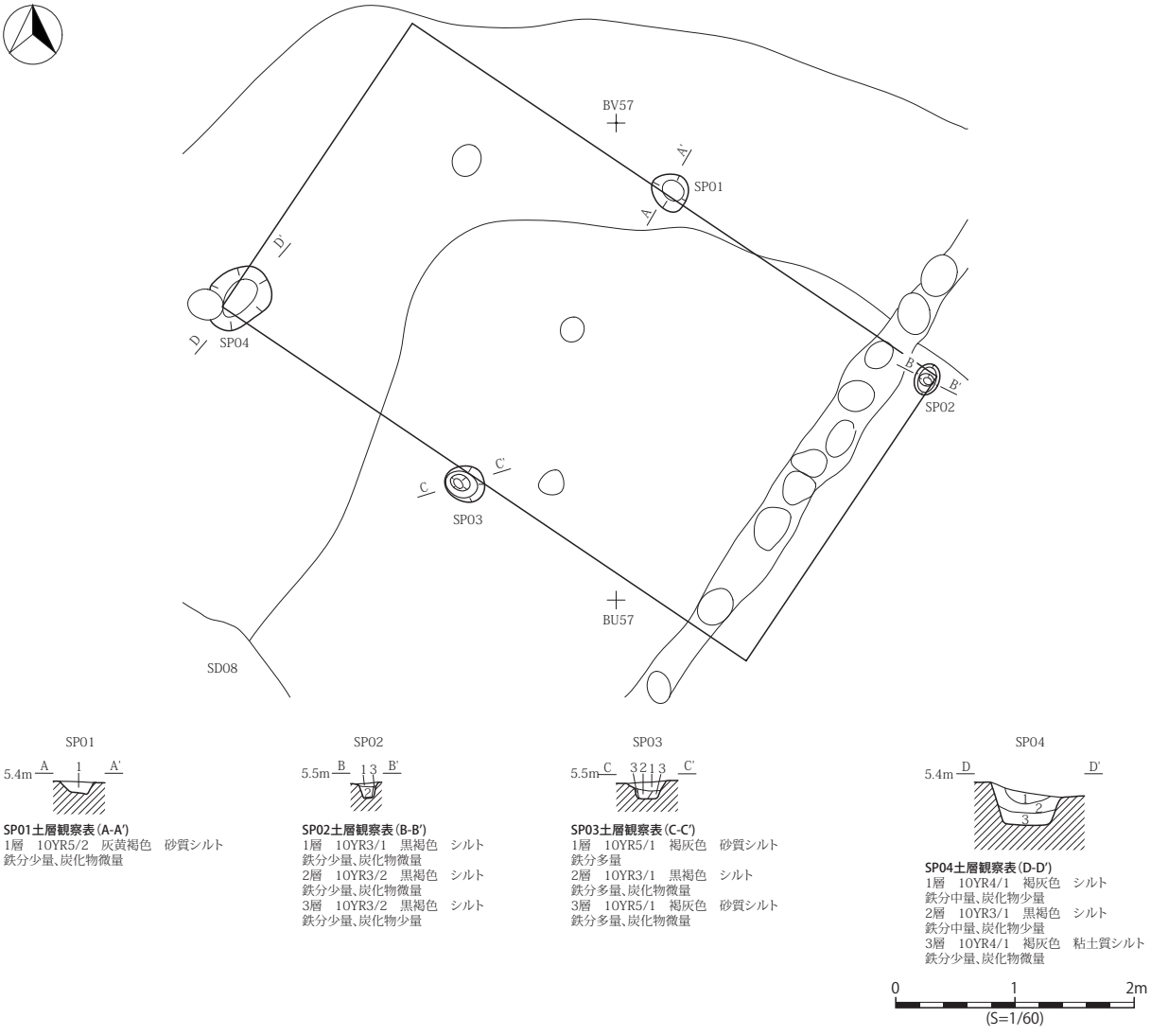
図Ⅲ-5-8　SB06

Ⅰ期であると考えられる。［出土遺物］図示可能な個体が 6 点出土している（図Ⅲ -5-31）。1051 は SP17 から出土した土師器のミニチュアの短頸壺であり、ロクロ成形である。1052 は SP14 から出土した土師器のミニチュアの甕であり、ロクロ成形である。1054 は SP01 から出土した土師器の椀形坏であり、1056 は SP17 から出土した土師器の椀であり、1057 は SP11 から出土した土師器の椀である。1057 は内面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。1058 は土師器の長胴甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。

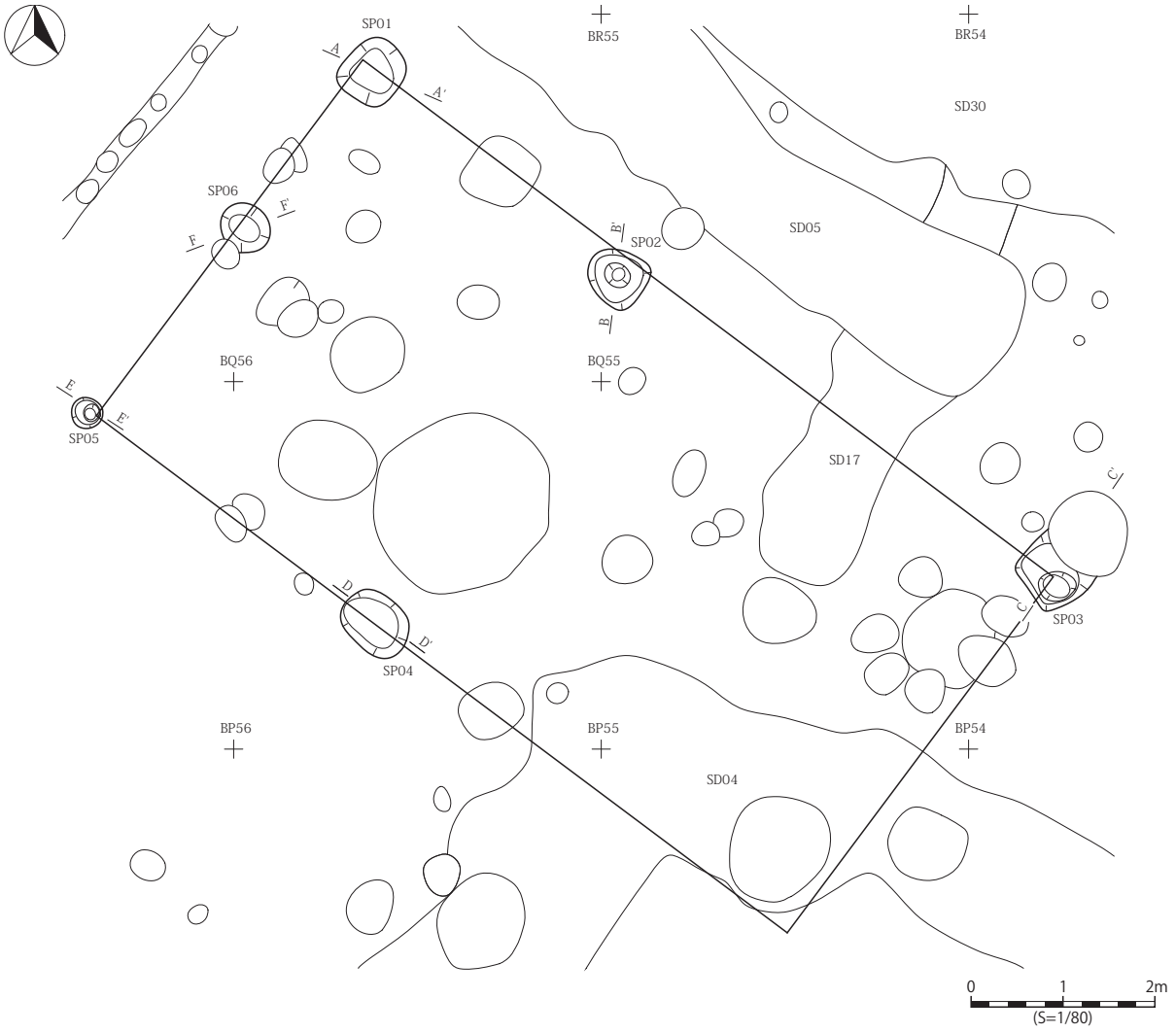
第 5 号掘立柱建物跡（SB04、図Ⅲ -5-7）

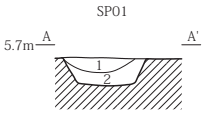
［位置・確認］グリッド BS・BT52 ～ 54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD17 と重複関係にあり、SD17 よりも新しい。［規模・形状］桁行 13 尺（柱間 6.5 尺、7.5 尺）、梁間 12 尺（柱間 6 尺）を測り、2 間× 2 間の長方形を呈する。［時期］Ⅰ期に相当する SD17 より新しいため、Ⅰ期以降であると考えられる。

第 6 号掘立柱建物跡（SB05、図Ⅲ -5-8）

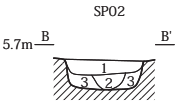


図Ⅲ-5-9　SB07

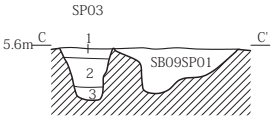




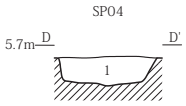
SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分多量、炭化物3～20mm多量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量



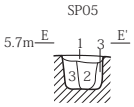
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物微量



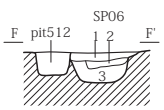
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/4　暗褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物微量



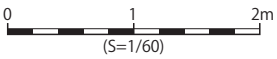
SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量



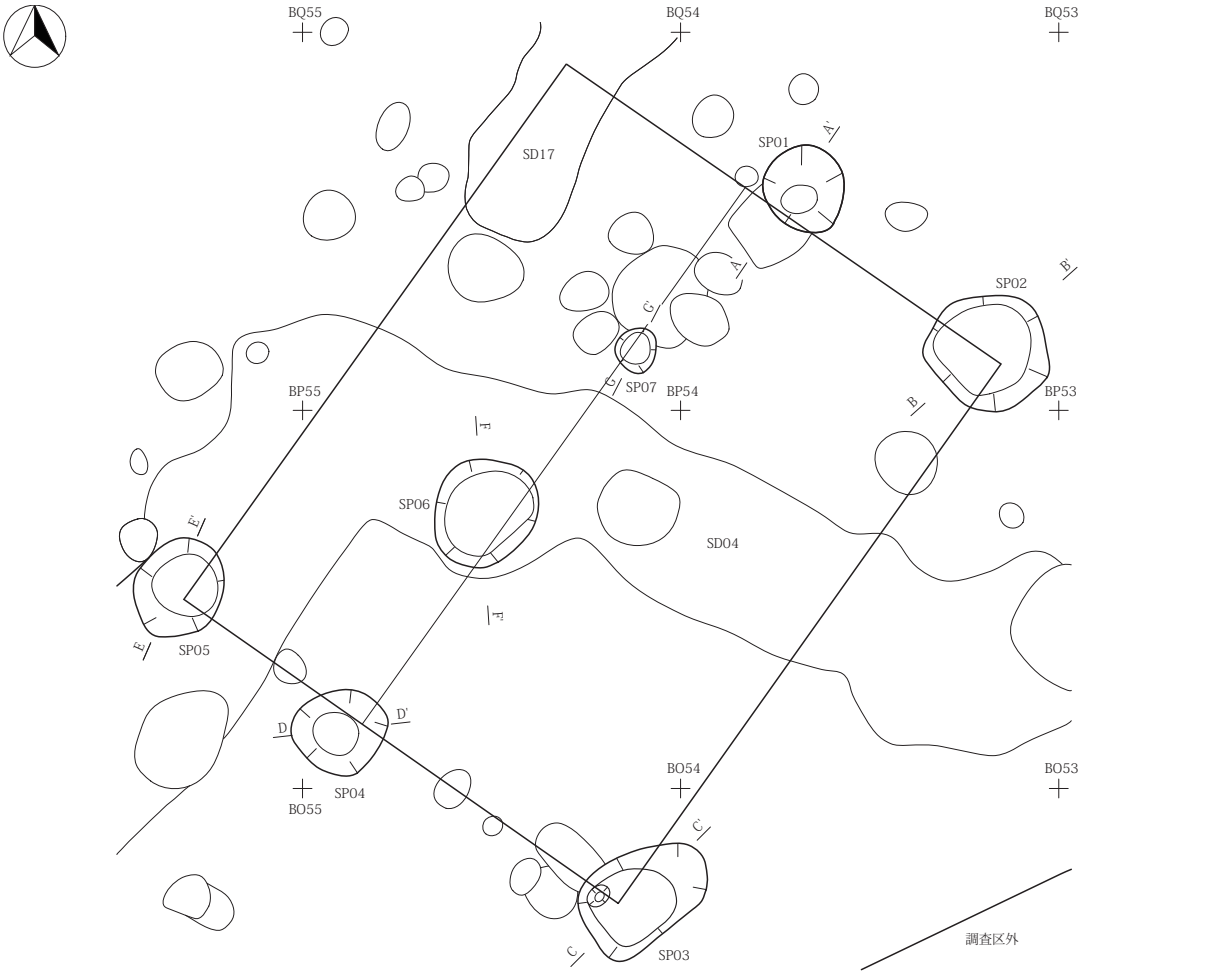
SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

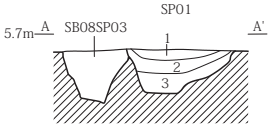


SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

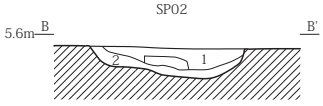


図Ⅲ-5-10　SB08

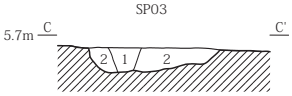




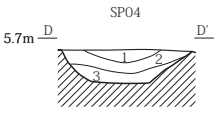
SP01土層観察表 (A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量



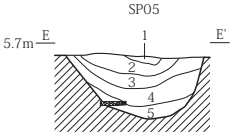
SP02土層観察表 (B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量



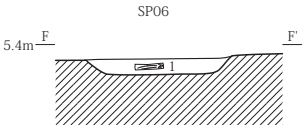
SP03土層観察表 (C-C')
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物中量



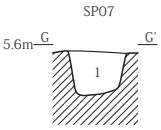
SP04土層観察表 (D-D')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量



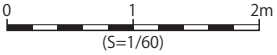
SP05土層観察表 (E-E')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物
1～5mm中量、灰多量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物
1～5mm中量、灰多量
3層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物
1～3mm中量、灰多量
4層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物
1～10mm中量、灰多量
5層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物
1～10mm中量、灰中量



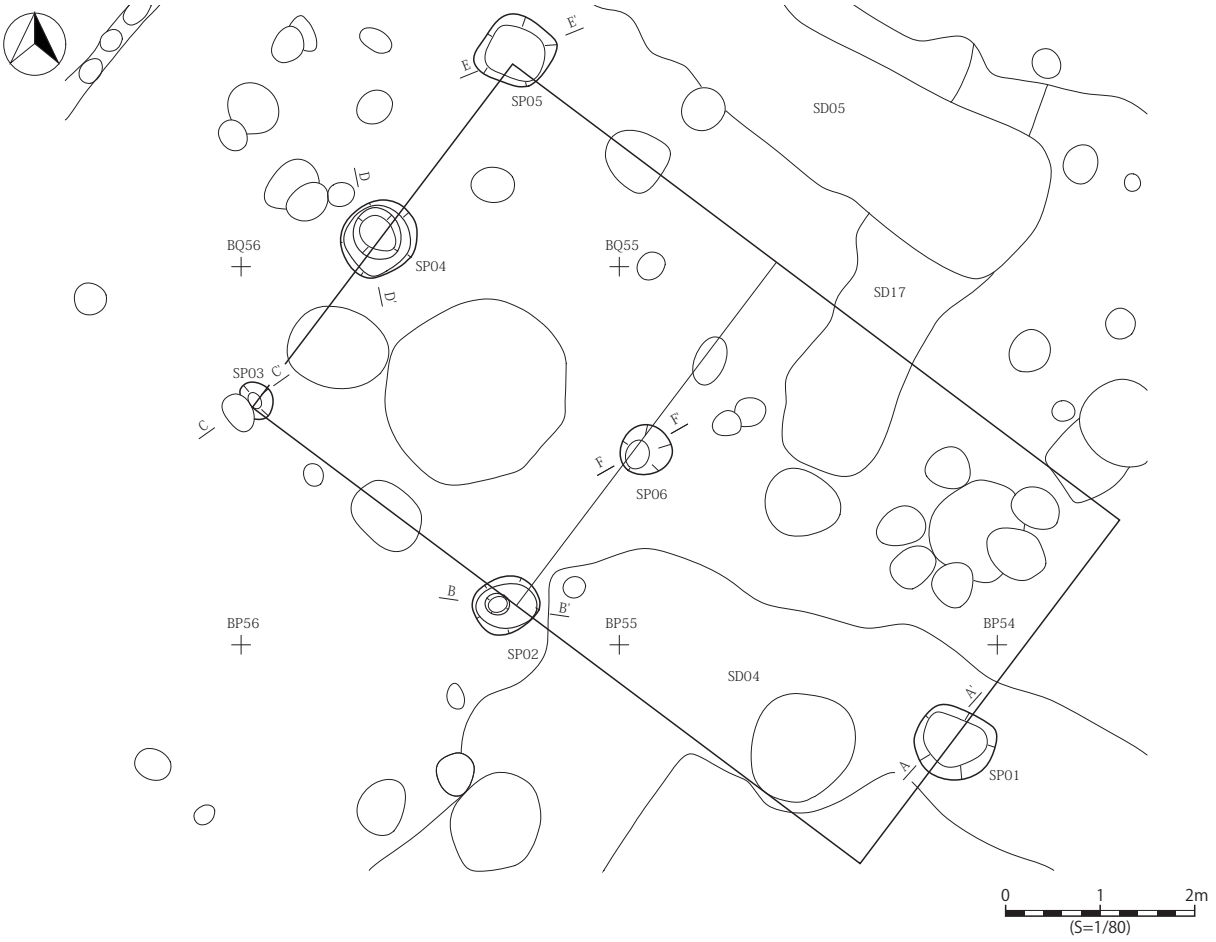
SP06土層観察表 (F-F')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分少量、炭化物微量、灰中量

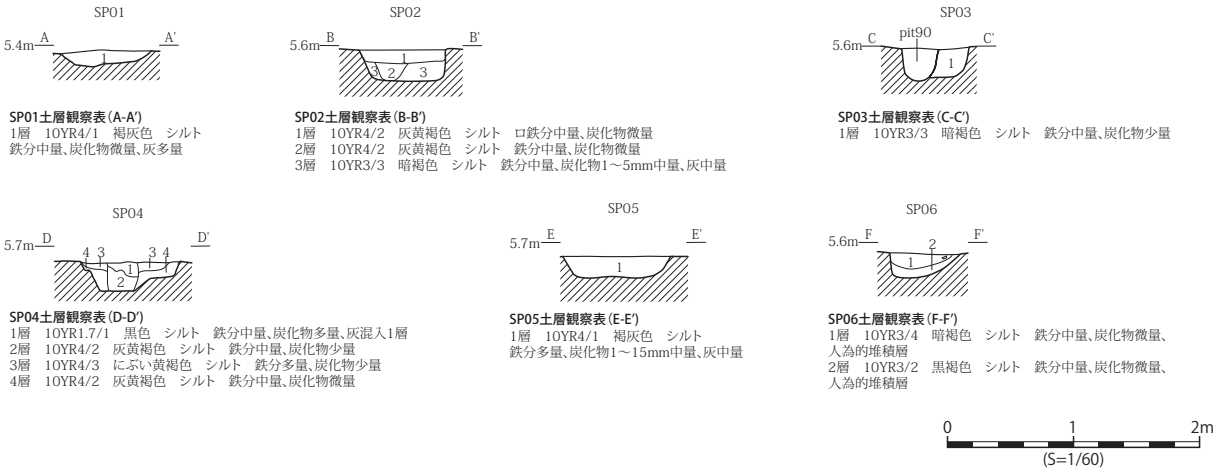


SP07土層観察表 (G-G')
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量



図Ⅲ-5-11　SB09



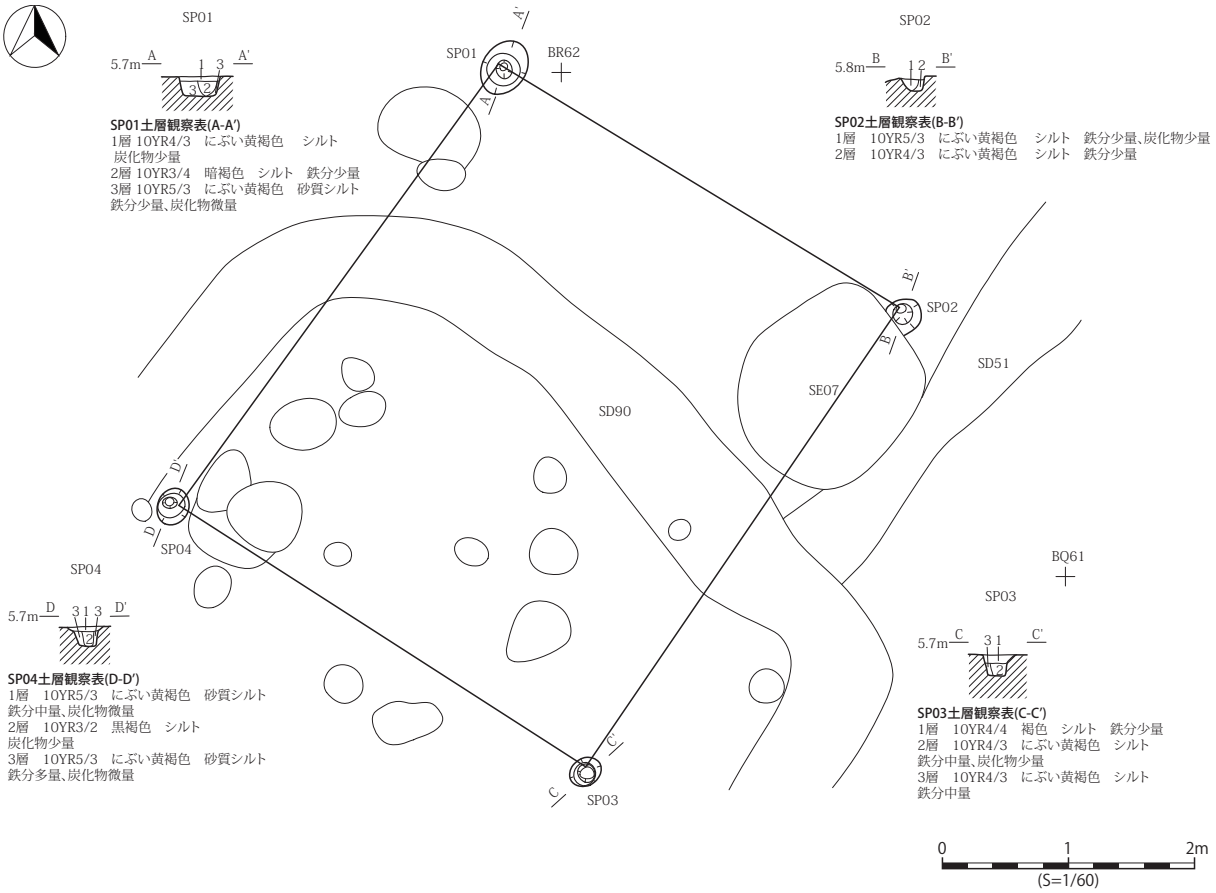


図Ⅲ-5-12　SB10

［位置・確認］グリッド BV54，55、BW・BX54 ～ 56 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD20 と重複関係にあり、SD20 よりも新しい。［規模・形状］桁行 23.5 尺（柱間 5 尺～ 9.5 尺）、梁間 13 尺（柱間 6 尺・7 尺）を測り、2 間× 3 間の長方形を呈する。［時期］Ⅰ期に相当する SD20 より新しいため、Ⅰ期以降であると考えられる。

第 7 号掘立柱建物跡（SB07、図Ⅲ -5-9）

［位置・確認］グリッド BT56、BU56，57、BV57 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD20 と重複関係にあり、SD20 よりも新しい。［規模・形状］桁行 23.5 尺（柱間 5 尺～ 9.5 尺）、梁



図Ⅲ-5-13　SB11

間 13 尺（柱間 6 尺・7 尺）を測り、2 間× 3 間の長方形を呈する。［時期］ I 期に相当する SD20 より新しいため、I 期以降であると考えられる。

第 8 号掘立柱建物跡（SB08、図Ⅲ -5-10）

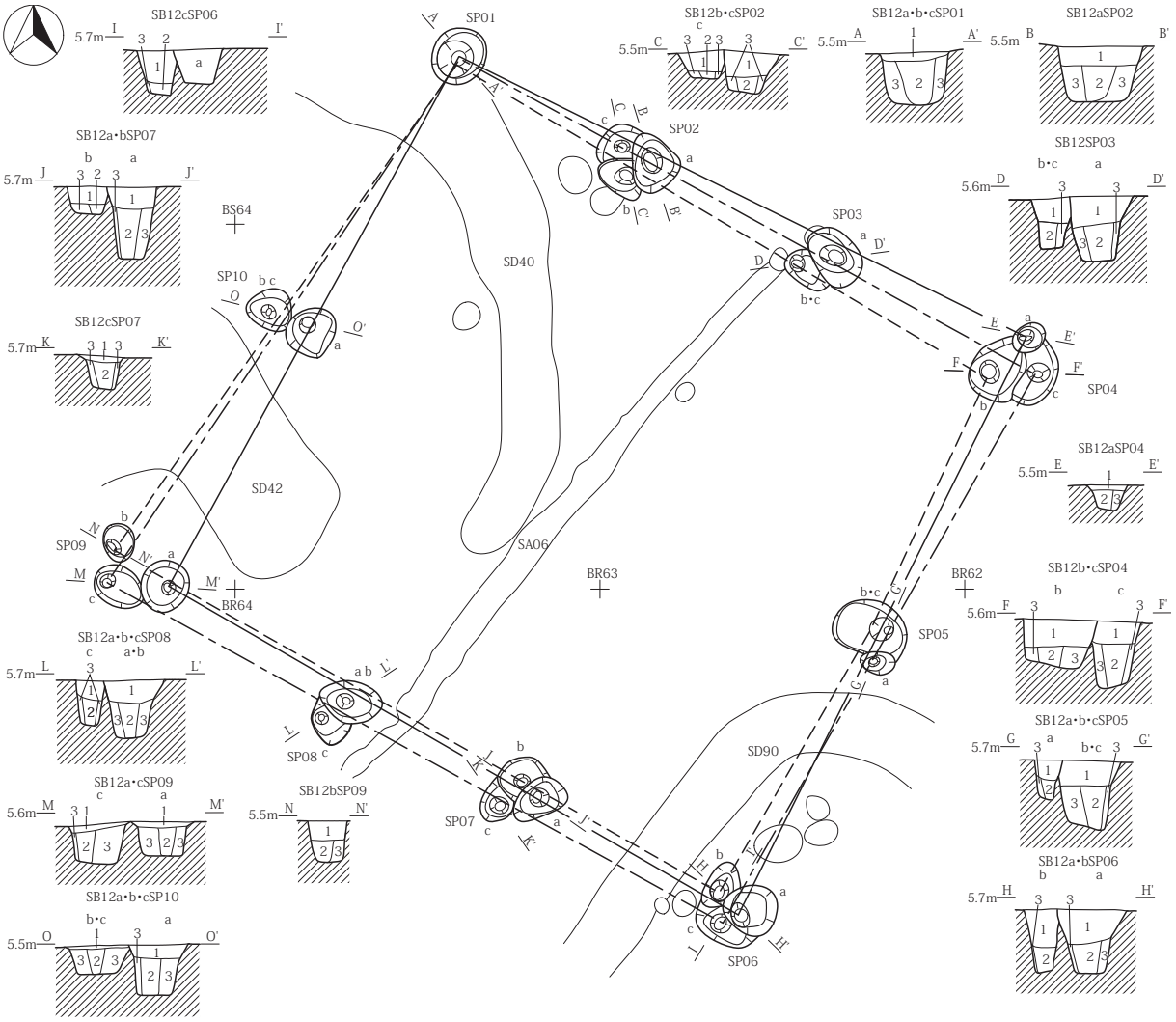
［位置・確認］グリッド BV54，55、BW・BX54 ～ 56 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD20 と重複関係にあり、SD20 よりも新しい。［規模・形状］桁行 23.5 尺（柱間 5 尺～ 9.5 尺）、梁間 13 尺（柱間 6 尺・7 尺）を測り、2 間× 3 間の長方形を呈する。［時期］ I 期に相当する SD20 より新しいため、I 期以降であると考えられる。

第 9 号掘立柱建物跡（SB09、図Ⅲ -5-11）

［位置・確認］グリッド BO53，54、BP53 ～ 55、BQ53，54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD04 と重複関係にあり、SD04 よりも新しい。［規模・形状］桁行 23 尺（柱間 7 尺、9 尺）、梁間 18.5 尺（柱間 7.5 尺・11 尺）を測り、2 間× 3 間の長方形を呈する。［時期］ I 期に相当する SD04 より新しいため、I 期以降であると考えられる。［出土遺物］図示可能な個体は 2 点である（図Ⅲ -5-31）。1060 は SP02 から出土した擦文土器であり、口縁部外面は多重横走沈線を引いた後沈線間に交互に向き合う斜状の刺突列が施されている。内面はミガキ調整である。1061 は SP01 から出土した支脚であり、ユビナデ成形であるが輪積痕が残り、粗雑な作りである。

第 10 号掘立柱建物跡（SB10、図Ⅲ -5-12）

［位置・確認］グリッド BP・BQ53 ～ 55、BR54，55 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］



SB12a･b･cSP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量､炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量､炭化物微量
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量

SB12aSP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量､炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量､炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量､炭化物微量

SB12bSP02土層観察表(C-C')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量､炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量､炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量､炭化物少量

SB12cSP02土層観察表(C-C')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量､炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量､炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量､炭化物少量

SB12a･b･cSP03土層観察表(D-D')
SB12aSP03
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量､炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分多量､炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量､炭化物微量
SB12b･cSP03
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量､炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量､炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量､炭化物微量

SB12aSP04土層観察表(E-E')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量

SB12bSP04土層観察表(F-F')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

SB12cSP04土層観察表(F-F')
1層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

SB12a･b･cSP05土層観察表(G-G')
SP12 aSP05
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分多量
2層 10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量
SP12b･cSP05
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SB12aSP06土層観察表(H-H')
SB12aSP06
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
SB12bSP06
1 層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2 層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3 層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

SB12cSP06土層観察表(I-I')
1層　10YR5/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物微量

SB12aSP07土層観察表(J-J')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シル　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量

SB12bSP07土層観察表(J-J')
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　ローム粒少量、鉄分中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量

SB12cSP07土層観察表(K-K')
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、 炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量

SB12a･bSP08土層観察表(L-L')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

SB12cSP08土層観察表(L-L')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

SB12aSP09土層観察表(M-M')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

SB12cSP09土層観察表(M-M')
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

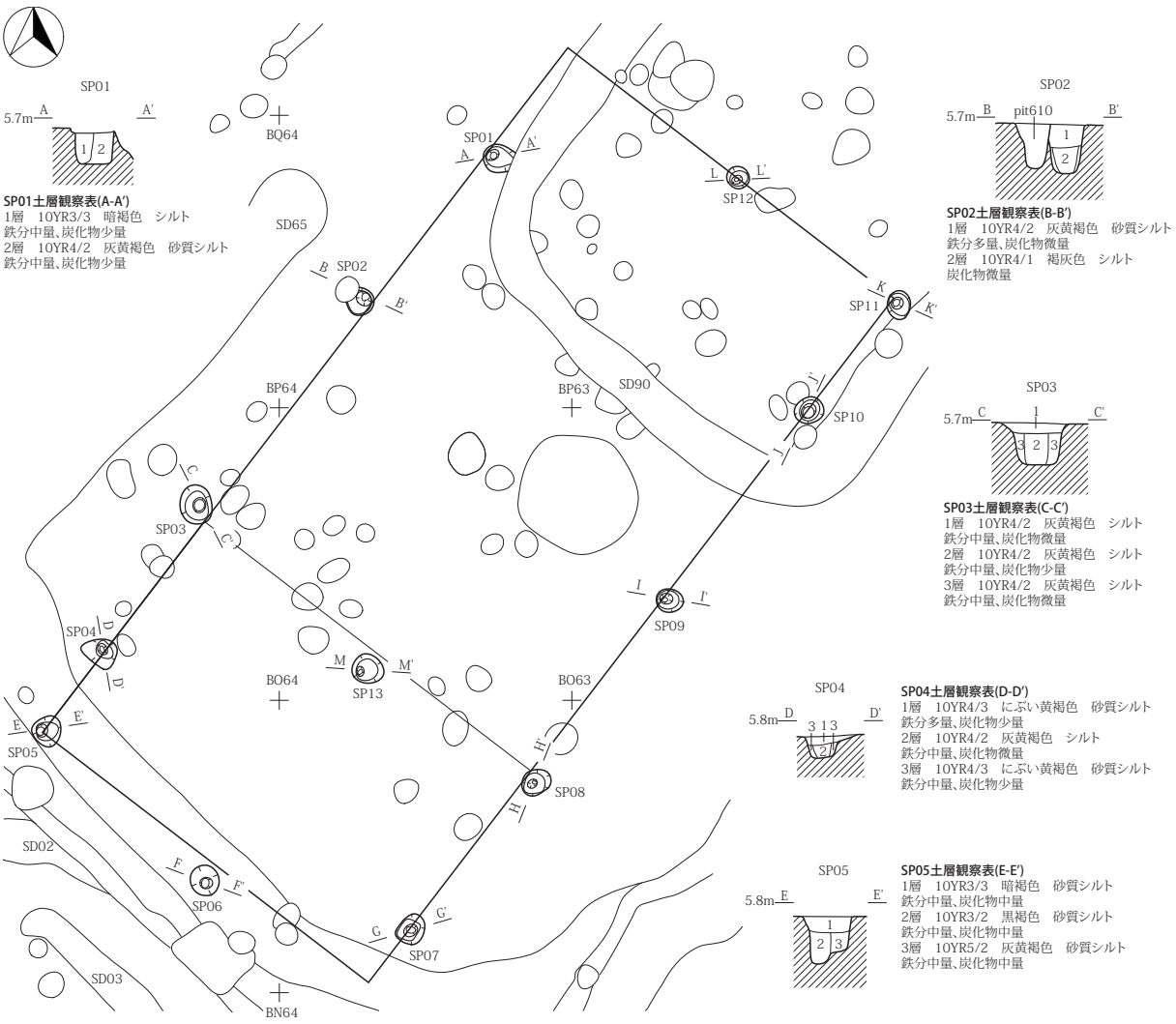
SB12bSP09土層観察表(N-N')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

SB12aSP10土層観察表(O-O')
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB12b･cSP10土層観察表(O-O')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

0　1　2m
(S=1/80)

図Ⅲ-5-14　SB12



SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量

SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
炭化物微量

SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量

SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量

SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物中量

SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物中量

SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量

SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物中量

SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物微量

SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐　シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/3　暗褐　シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐　シルト
鉄分中量、炭化物少量

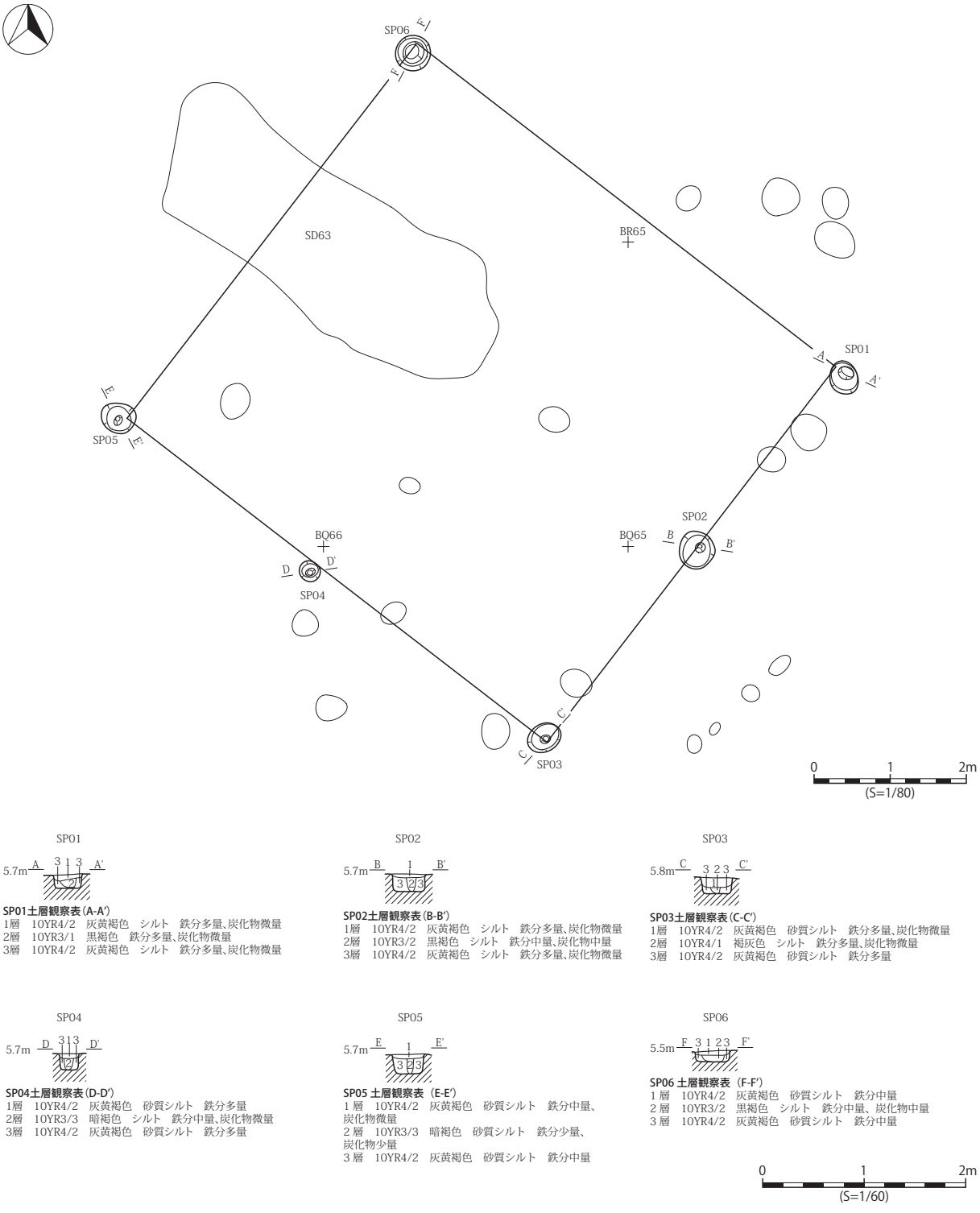
SP11土層観察表(K-K')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐　シルト
鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐　シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐　シルト
鉄分少量、炭化物中量

SP12土層観察表(L-L')
1層　10YR4/2　灰黄褐　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐　シルト
3層　10YR4/2　灰黄褐　シルト
鉄分多量、炭化物微量

SP13土層観察表(M-M')
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-5-15　SB13

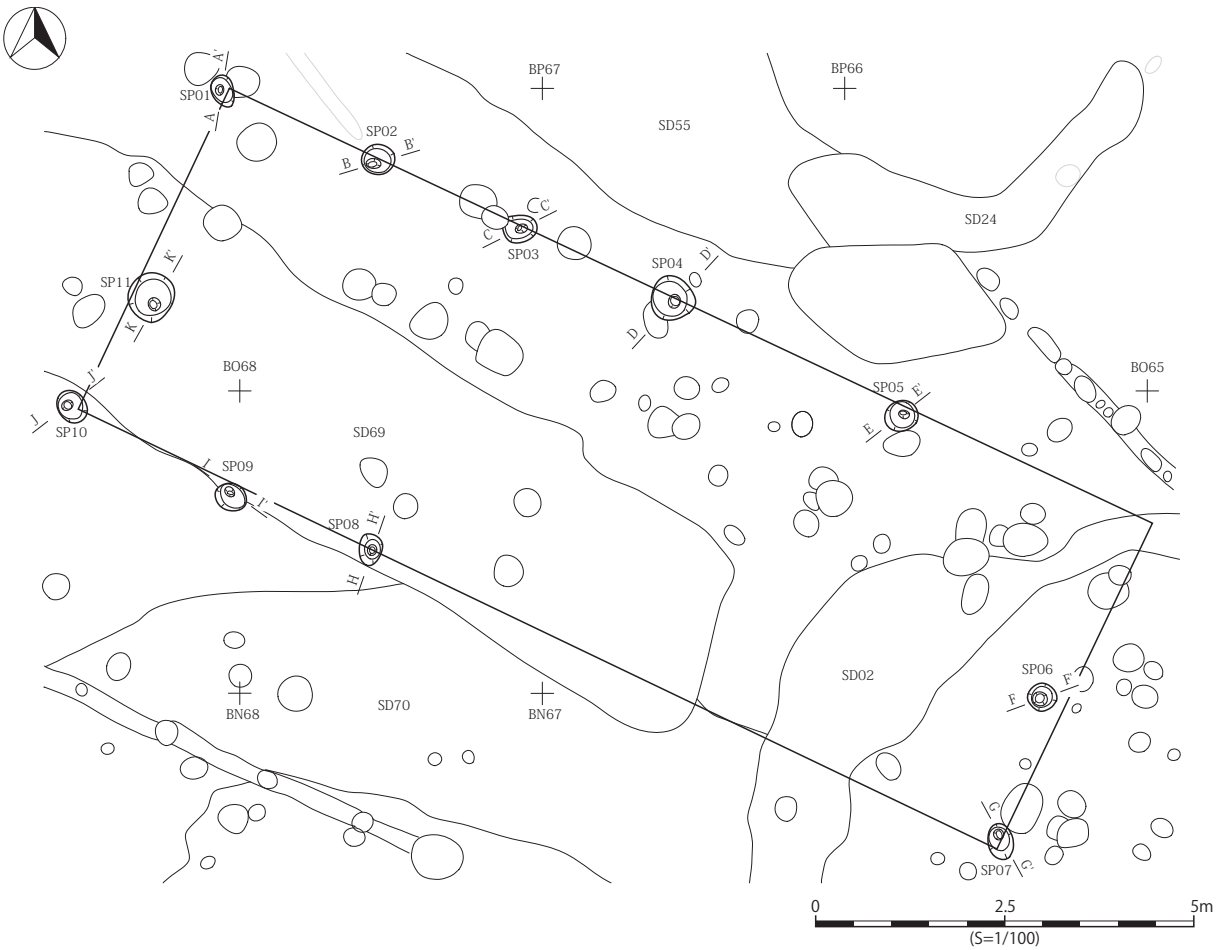


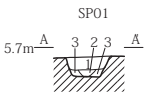
図Ⅲ-5-16　SB14

SD04 と重複関係にあり、SD04 よりも新しい。［規模・形状］桁行 26.5 尺（柱間 11.5 尺・15 尺）、梁間 15 尺（柱間 7 尺・8 尺）を測り、２間×２間の長方形を呈する。［時期］Ⅰ期に相当する SD04 より新しいため、Ⅰ期以降であると考えられる。

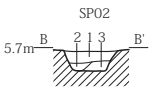
第 11 号掘立柱建物跡（SB11、図Ⅲ -5-13）

［位置・確認］グリッド BQ61，62、BR61 ～ 63 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD90

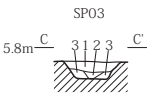




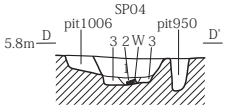
SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量



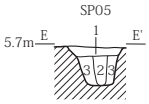
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量



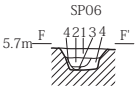
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量



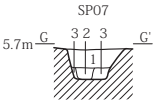
SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量



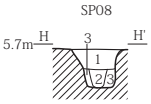
SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量



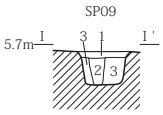
SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
3層　10YR3/4　暗褐色　砂質シルト　鉄分多量
4層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量



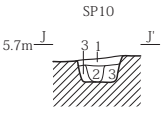
SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量



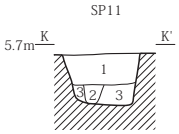
SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量



SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量



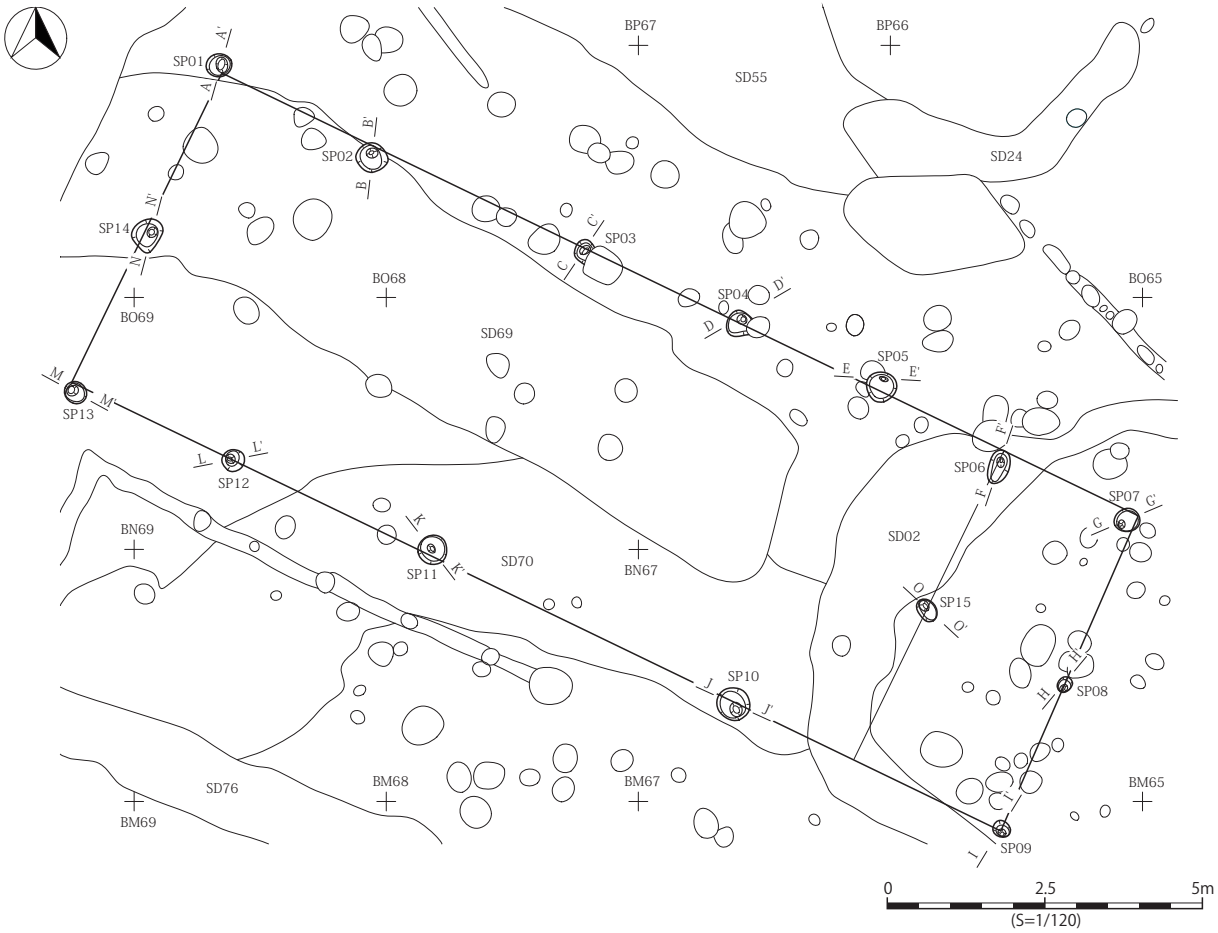
SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR4/4　褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

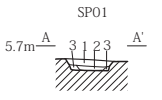


SP11層観察表(K-K')
1層　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物多量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト鉄分少量

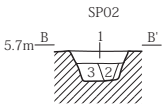
0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-5-17　SB15

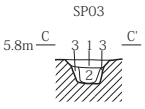




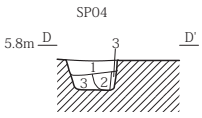
SP01層観察表(A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量



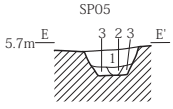
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物多量
2層　10YR2/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物中量



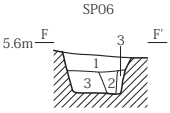
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物少量



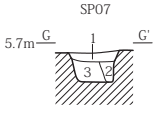
SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物中量



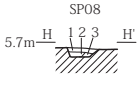
SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物微量



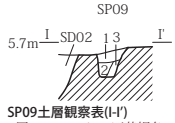
SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR7/2　にぶい黄橙色　シルト質粘土
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量



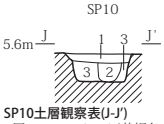
SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量



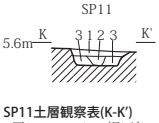
SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量



SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量

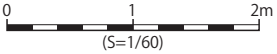


SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量



SP11土層観察表(K-K')
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量

SP12土層観察表(L-L')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量

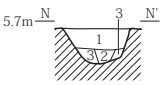


図Ⅲ-5-18　SB16(1)

SP13

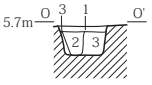
SP13土層観察表(M-M')
1層　10YR3/4　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

SP14

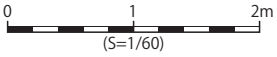


SP14土層観察表(N-N')
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物多量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

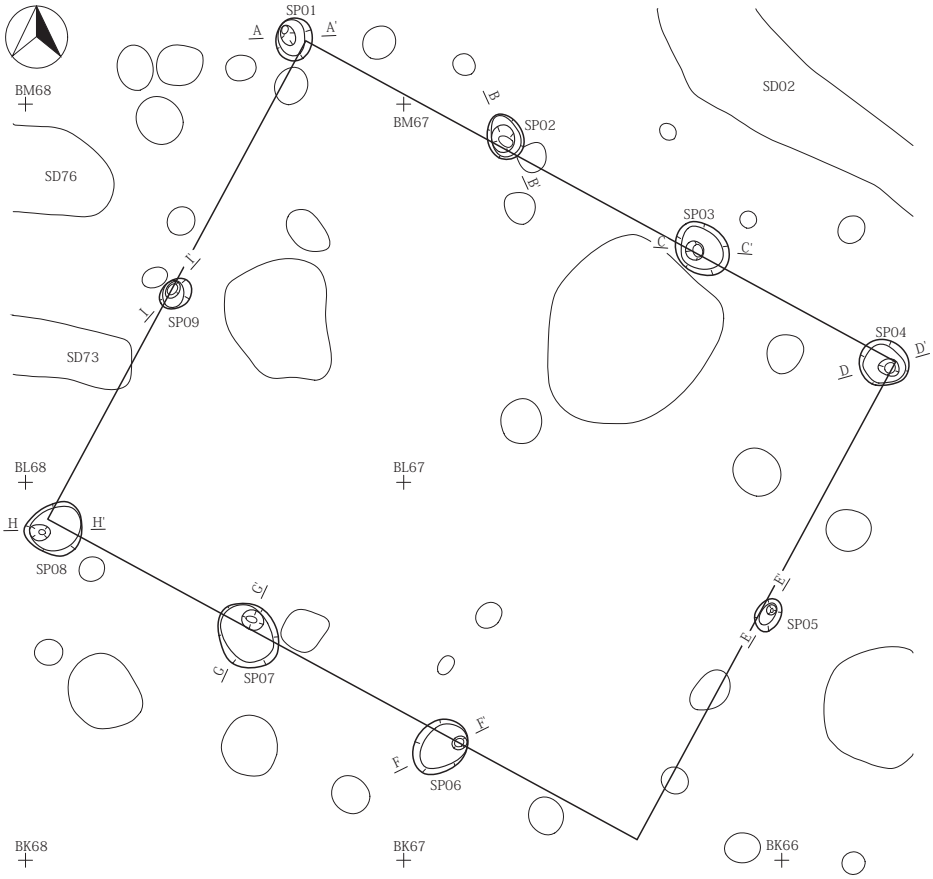
SP15



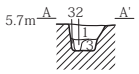
SP15土層観察表(O-O')
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量



図Ⅲ-5-19　SB16(2)

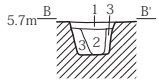


SP01



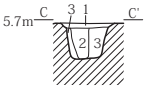
SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

SP02



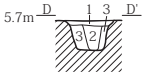
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

SP03



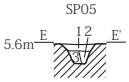
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

SP04



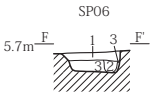
SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

SP05



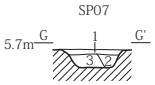
SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

SP06



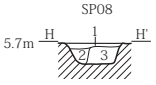
SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

SP07



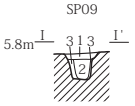
SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

SP08

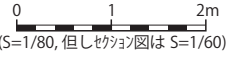


SP08土層表(H-H')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物多量、7.5YR4/6赤褐色シルト質粘土ブロック1つ
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

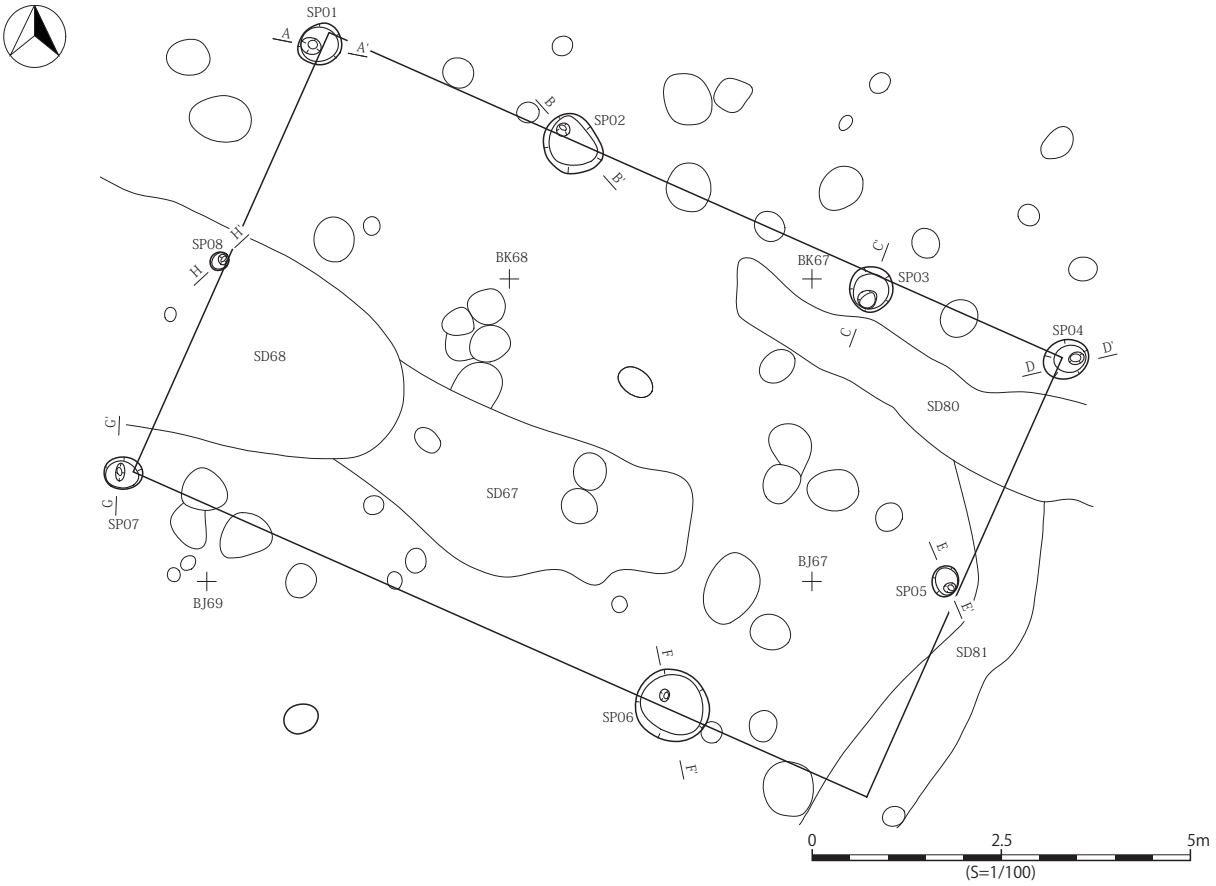
SP09

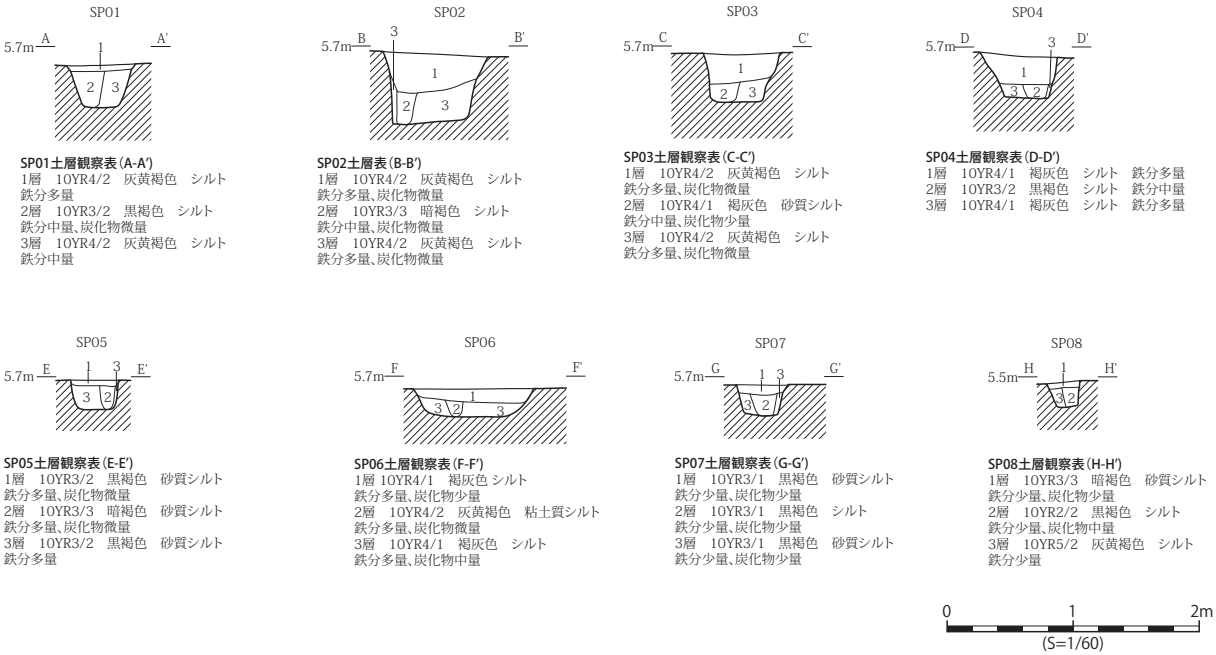


SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量



図Ⅲ-5-20　SB17





SP01土層観察表（A-A'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量

SP02土層観察表（B-B'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量

SP03土層観察表（C-C'）
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量

SP04土層観察表（D-D'）
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量

SP05土層観察表（E-E'）
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト
鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト
鉄分多量

SP06土層観察表（F-F'）
1層 10YR4/1　褐灰色 シルト
鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト
鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分多量、炭化物中量

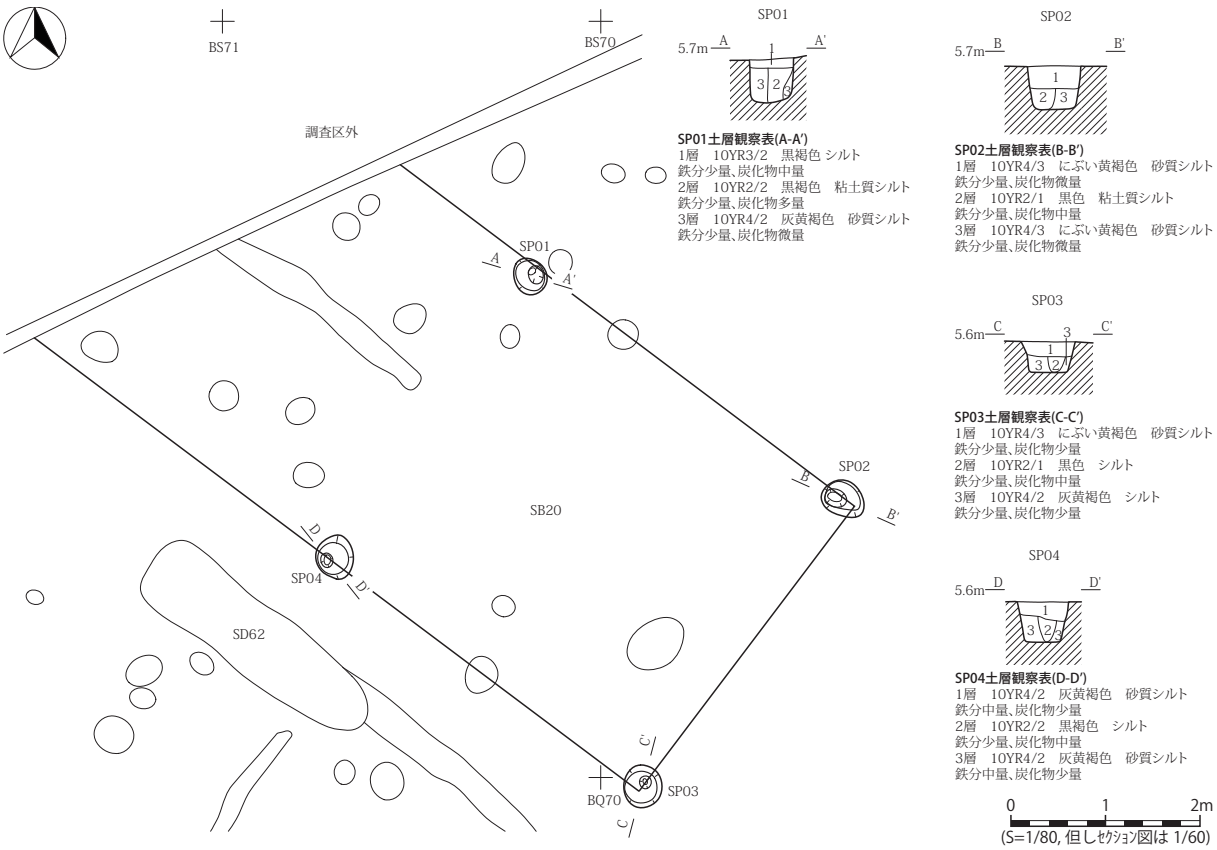
SP07土層観察表（G-G'）
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量

SP08土層観察表（H-H'）
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量

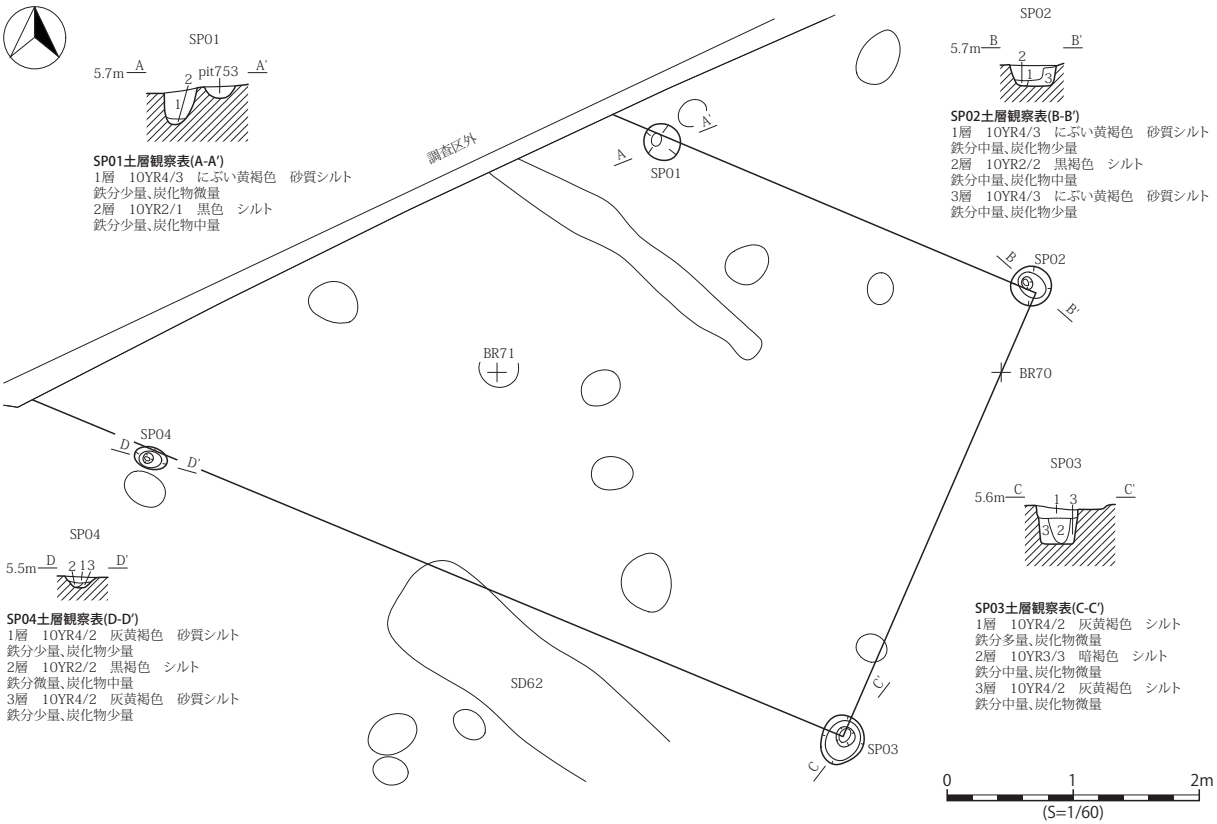
図Ⅲ-5-21　SB18

と重複関係にあり、SD90 よりも新しい。［規模・形状］桁行 6.5 尺（柱間 6.5 尺）、梁間 6.5 尺（柱間 6.5 尺）を測り、1 間× 1 間の方形を呈する。［時期］Ⅰ期に相当する SD90 より新しいため、Ⅰ期以降であると考えられる。

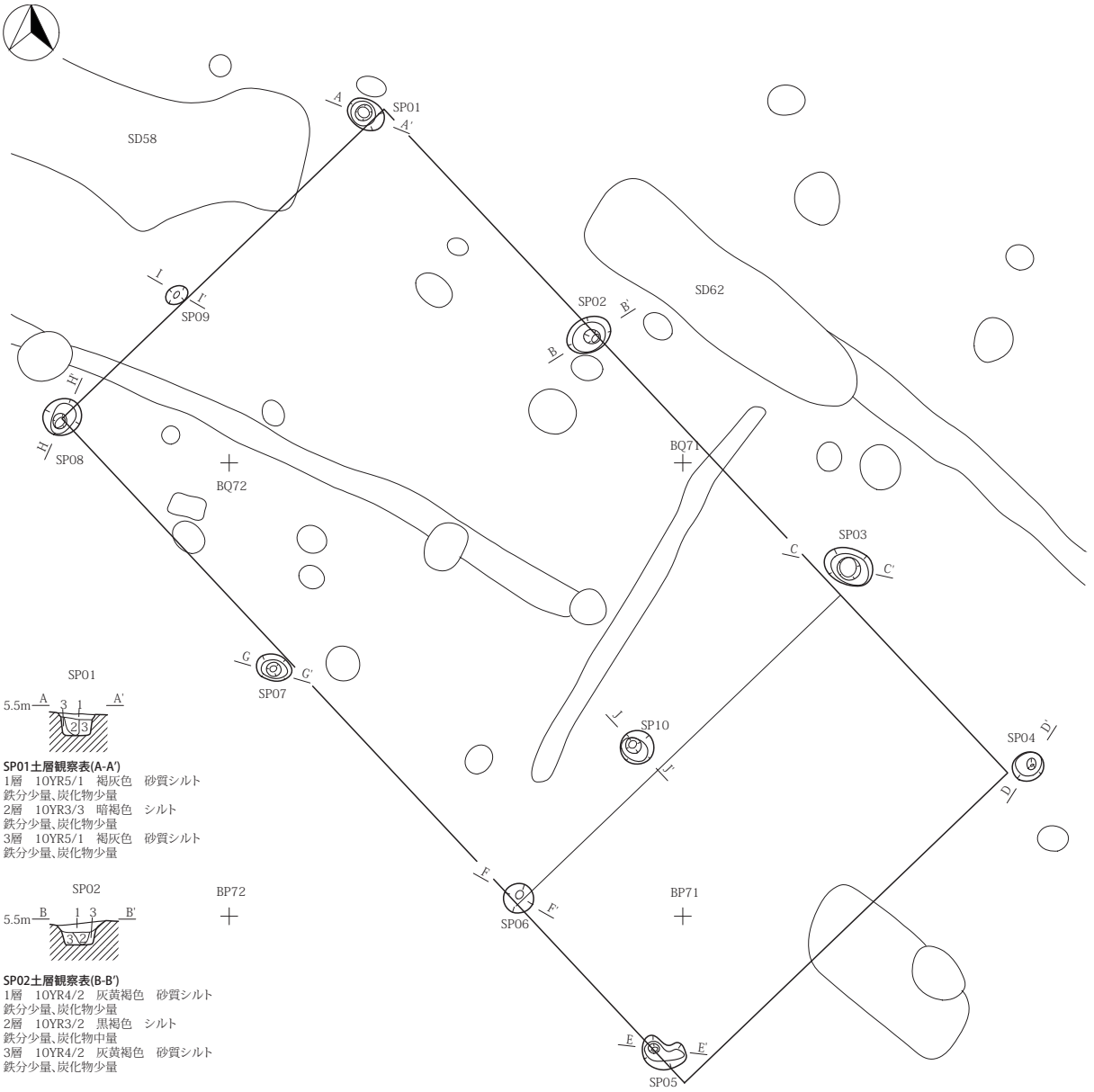
第 12 号掘立柱建物跡（SB12、図Ⅲ -5-14）



図Ⅲ-5-22 SB19

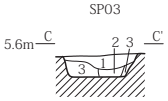


図Ⅲ-5-23 SB20

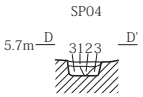


SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR5/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/1　褐灰色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量

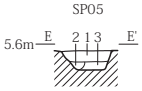
SP02土層観察表(B-B')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量



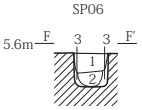
SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量



SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量

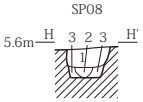


SP05土層観察表(E-E')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量

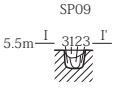


SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト
鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量

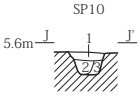
SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト
鉄分微量、炭化物多量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量



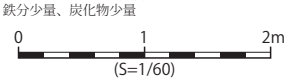
SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分中量、炭化物微量



SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量



SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR4/4　褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量



図Ⅲ-5-24　SB21

［位置・確認］グリッド BR62 ～ 64、BS61 ～ 64、BT62，63 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SA06、SD40・42・90 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］桁行 23.5 尺（柱間 7.5 尺・8 尺）、梁間 22 尺（柱間 11 尺）を測り、２間× 3 間の方形を呈する。［時期］Ⅱ期に相当する SD40 より新しいため、Ⅱ期以降であると考えられる。

第 13 号掘立柱建物跡（SB13、図Ⅲ -5-15）

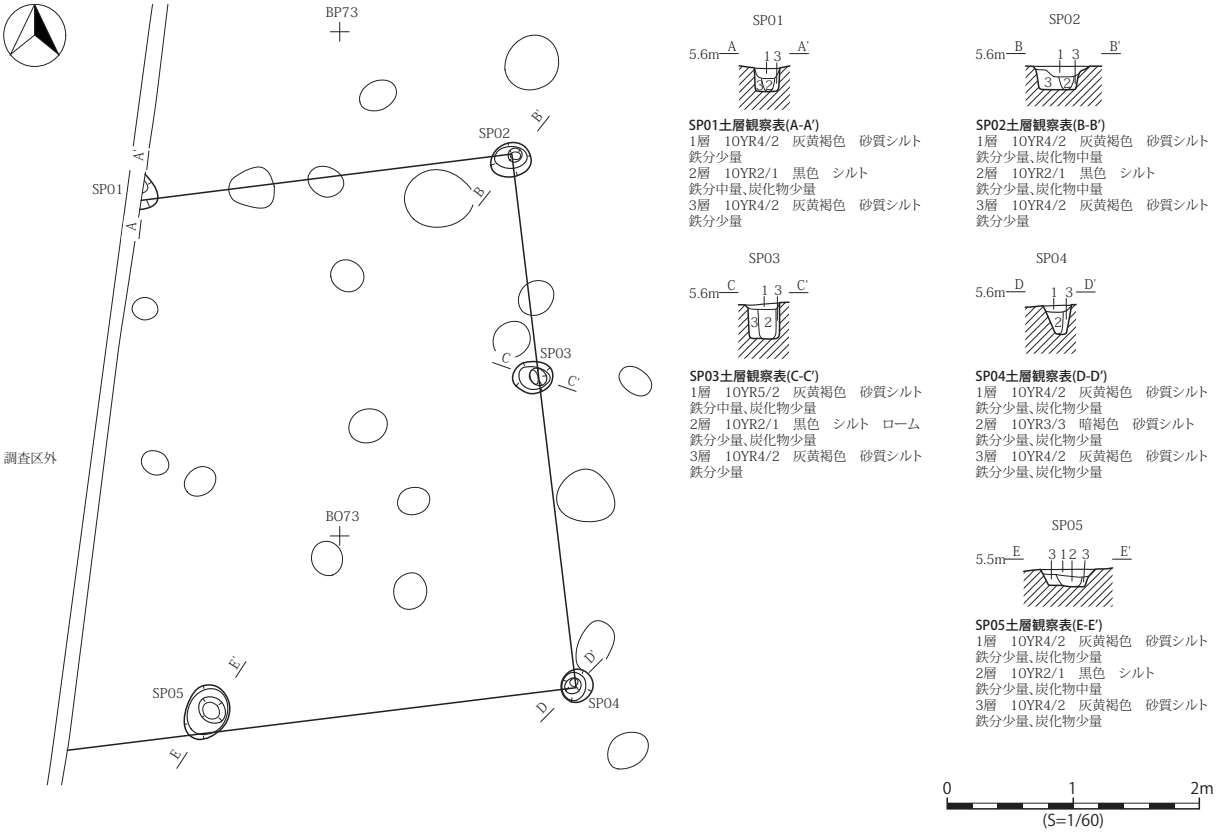
［位置・確認］グリッド BO・BP62 ～ 64、BQ61 ～ 63、BR62，63 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD65・90 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］桁行 39 尺（柱間 4.5 尺・6 尺・8.5 尺・10 尺）、梁間 18.5 尺（柱間 9 尺・9.5 尺）を測り、２間× 5 間の長方形を呈する。［時期］Ⅱ期に相当する SD65 より新しいため、Ⅱ期以降であると考えられる。

第 14 号掘立柱建物跡（SB14、図Ⅲ -5-16）

［位置・確認］グリッド BQ ～ BS64 ～ 66 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD63 と重複関係にあり、SD63 よりも新しい。［規模・形状］桁行 23 尺（柱間 10.5 尺・12.5 尺）、梁間 20.5 尺（柱間 9.5 尺・11 尺）を測り、２間× 2 間の方形を呈する。［時期］Ⅱ期に相当する SD63 より新しいため、Ⅱ期以降であると考えられる。

第 15 号掘立柱建物跡（SB15、図Ⅲ -5-17）

［位置・確認］グリッド BN65，66、BO・BP65 ～ 68 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD02・69 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］桁行 44.5 尺（柱間 7 尺・7.5 尺 11 尺・11.5 尺）、梁間 16 尺（柱間 6.5 尺・9.5 尺）を測り、２間× 5 間の長方形を呈する。［時



図Ⅲ-5-25　SB22

期］Ⅱ期に相当するSD69より新しいため、Ⅱ期以降であると考えられる。

第16号掘立柱建物跡（SB16、図Ⅲ-5-18･19）

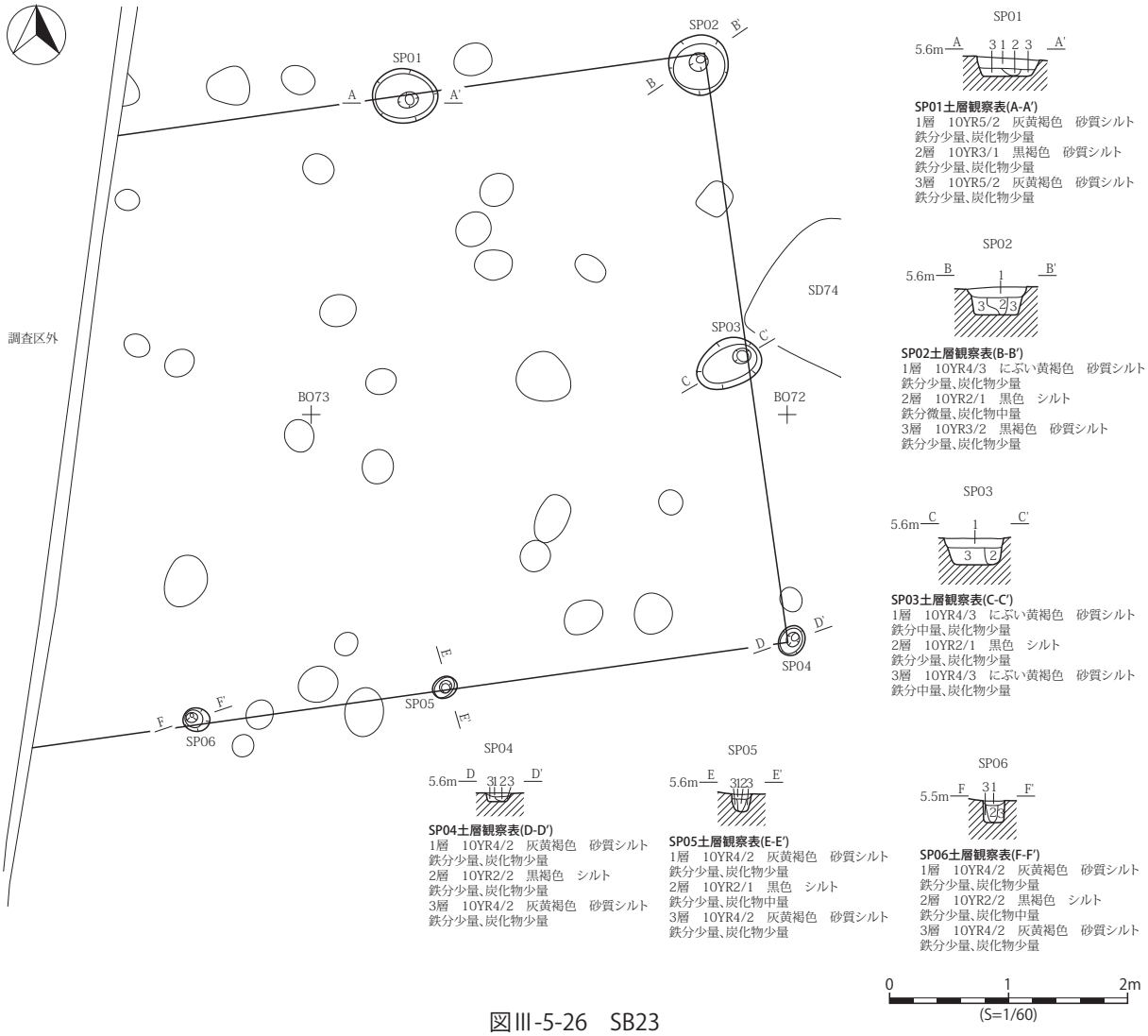
［位置・確認］グリッドBM65、BN65～67、BO65～69、BP66～68に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD02・69・70と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］桁行54.5尺（柱間7尺･8.5尺･9尺･12尺）、梁間18尺（柱間9尺）を測り、2間×6間の長方形を呈する。［時期］Ⅱ期に相当するSD69より新しいため、Ⅱ期以降であると考えられる。

第17号掘立柱建物跡（SB17、図Ⅲ-5-20）

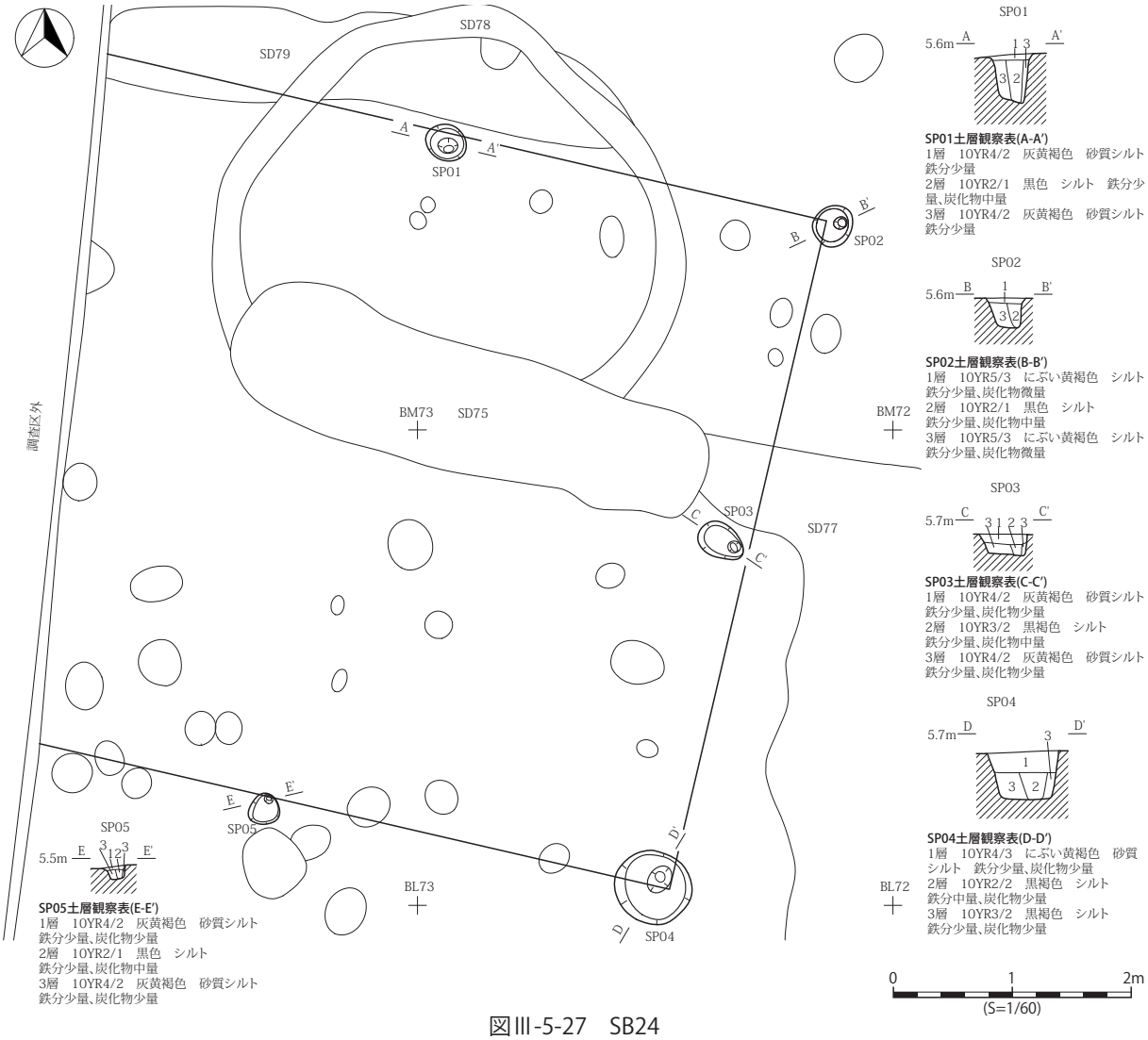
［位置・確認］グリッドBL・BM65～67、BN66，67に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD73と重複関係にああるが、新旧は不明である。［規模・形状］桁行23.5尺（柱間7.5尺･8尺）、梁間19尺（柱間9.5尺）を測り、2間×3間の長方形を呈する。［時期］Ⅰ期である。

第18号掘立柱建物跡（SB18、図Ⅲ-5-21）

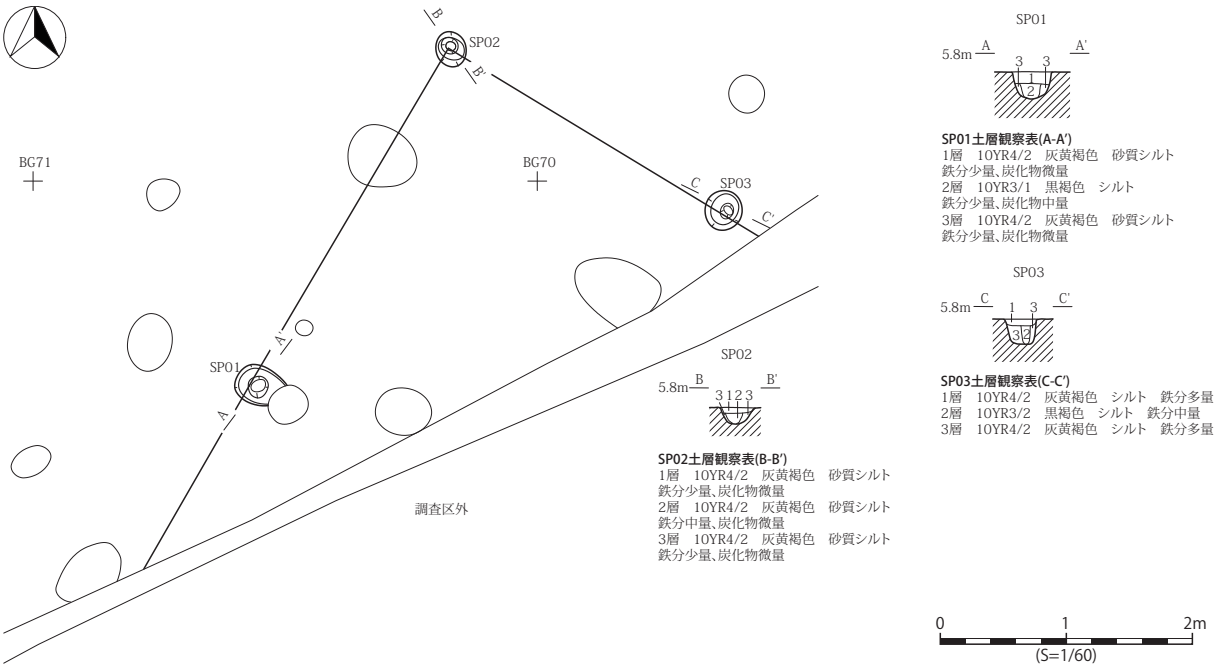
［位置・確認］グリッドBJ66～68、BK・BL66～69に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD67・68・80・81と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］桁行34尺（柱間9尺･10尺･15尺）、梁間21尺（柱間10.5尺）を測り、2間×3間の長方形を呈する。［時期］



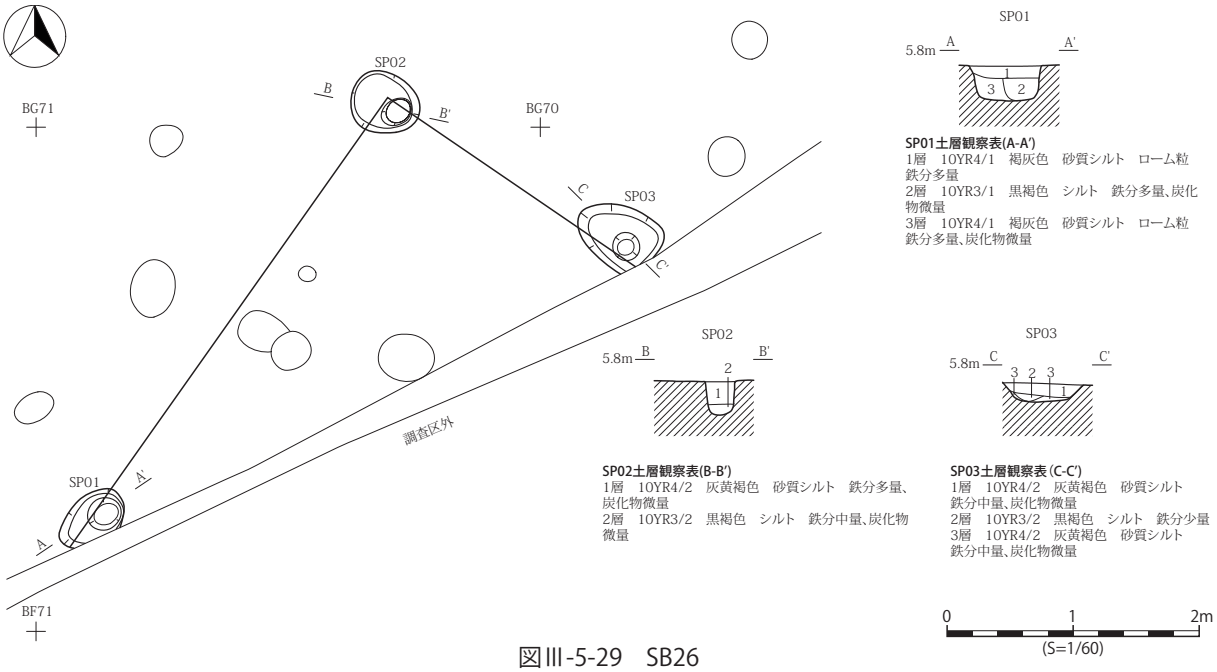
図Ⅲ-5-26　SB23



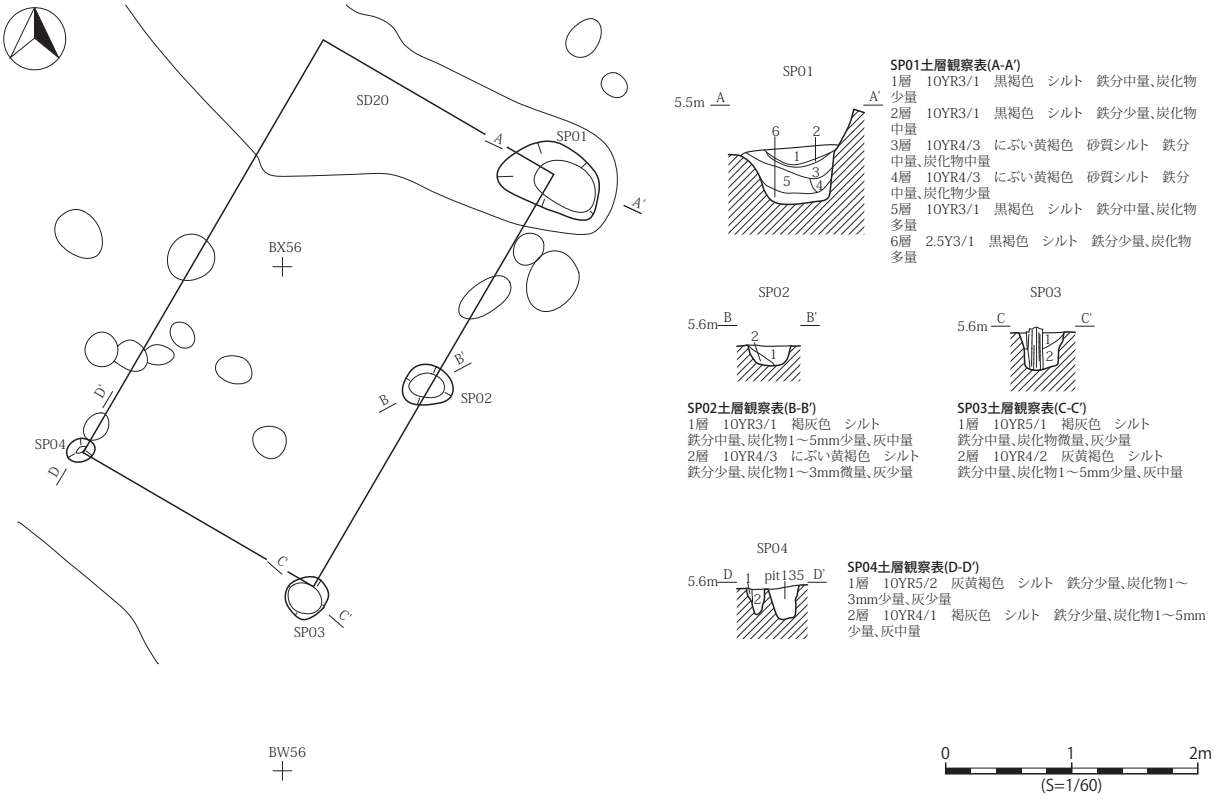
図Ⅲ-5-27 SB24



図Ⅲ-5-28 SB25



図Ⅲ-5-29　SB26



図Ⅲ-5-30　SB27

Ⅱ期に相当するSD68より新しいため、Ⅱ期以降であると考えられる。

第19号掘立柱建物跡（SB19、図Ⅲ-5-22）

［位置・確認］グリッドBQ69、BR・BS69～71に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SA13と重複関係にあるが、新旧は不明である。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行15.5尺（柱間13.5尺）、梁間12.5尺（柱間12.5尺）を測り、1間×2間

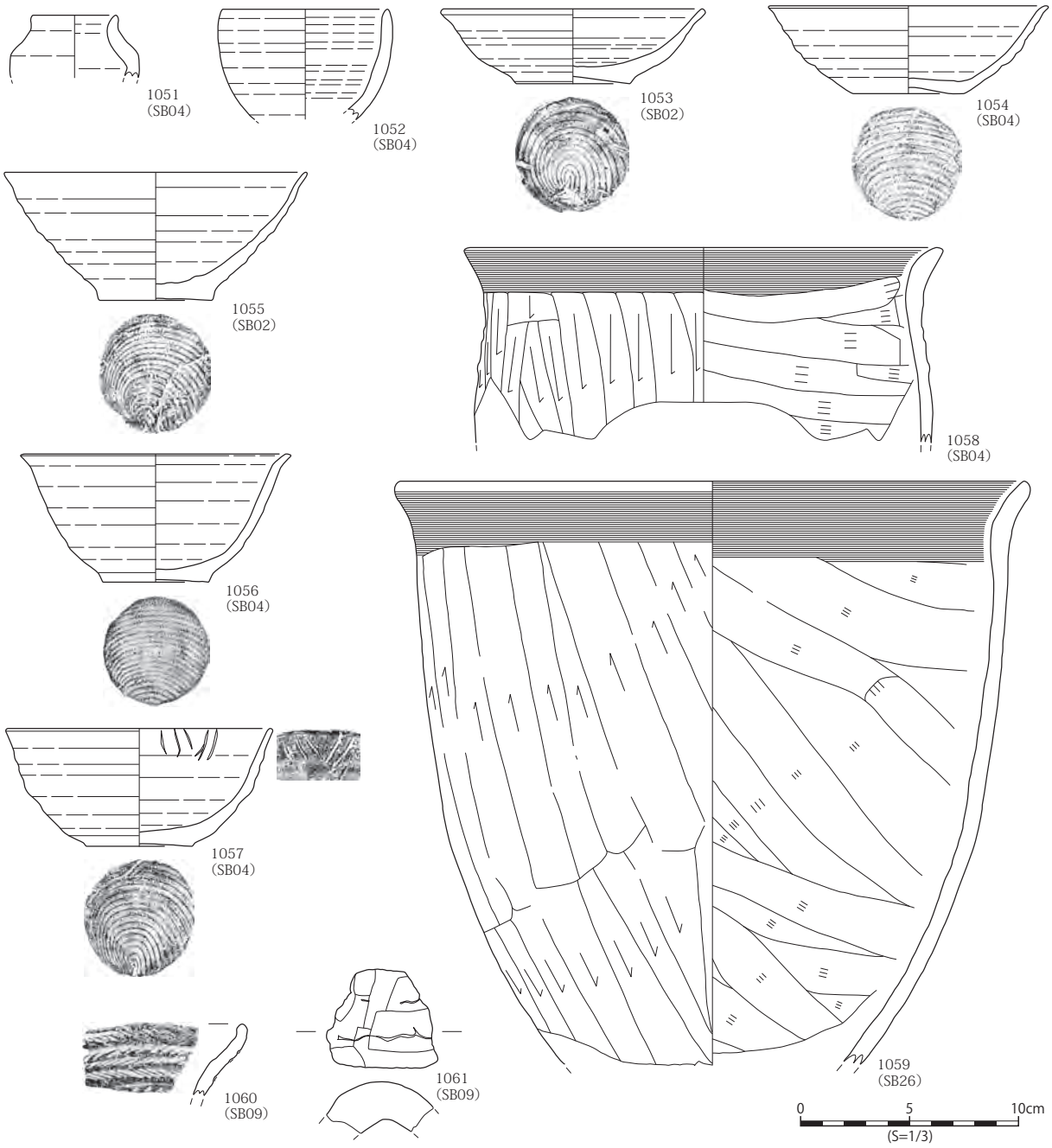
以上の長方形を呈する。

第 20 号掘立柱建物跡（SB20、図Ⅲ -5-23）

［位置・確認］グリッド BR70, 71、BS69 ～ 71 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SA13、SD62 と重複関係にあるが、新旧は不明である。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行 20 尺（柱間 10 尺）、梁間 12.5 尺（柱間 12.5 尺）を測り、1 間× 2 間以上の長方形を呈する。

第 21 号掘立柱建物跡（SB21、図Ⅲ -5-24）

［位置・確認］グリッド BP70，71、BQ・BR70 ～ 72 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］



図Ⅳ-5-31　SB 出土遺物

SA13、SD62 と重複関係にあるが、新旧は不明である。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行 26.5 尺（柱間 7 尺・10 尺）、梁間 12.5 尺（柱間 12.5 尺）を測り、1 間× 2 間以上の長方形を呈する。

第 22 号掘立柱建物跡（SB22、図Ⅲ -5-25）

［位置・確認］グリッド BN・BO72, 73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］特になし。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行 26.5 尺（柱間 7 尺・10 尺）、梁間 12.5 尺（柱間 12.5 尺）を測り、1 間× 2 間以上の長方形を呈する。

第 23 号掘立柱建物跡（SB23、図Ⅲ -5-26）

［位置・確認］グリッド BO・BP72, 73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］特になし。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行 16.5 尺（柱間 7.5 尺・9 尺）、梁間 16.5 尺（柱間 8 尺・8.5 尺）を測り、2 間× 3 間以上の長方形を呈する。

第 24 号掘立柱建物跡（SB24、図Ⅲ -5-27）

［位置・確認］グリッド BL・BM72，73 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD76 ～ 79 と重複関係があり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行 11.5 尺（柱間 11.5 尺）、梁間 19 尺（柱間 9.5 尺）を測り、2 間× 2 間以上の長方形を呈する。

第 25 号掘立柱建物跡（SB25、図Ⅲ -5-28）

［位置・確認］グリッド BF・BG69, 70 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］特になし。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行 10 尺（柱間 10 尺）、梁間 8.5 尺（柱間 8.5 尺）を測り、2 間× 2 間以上の長方形を呈する。

第 26 号掘立柱建物跡（SB26、図Ⅲ -5-29）

［位置・確認］グリッド BF・BG69，70 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］特になし。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模は不明であるが、確認桁行 13 尺（柱間 13 尺）、梁間 7 尺（柱間 7 尺）を測り、2 間× 2 間以上の長方形を呈する。［ 出土遺物 ］図示可能な個体は 1 点である（図Ⅲ -5-31）。1059 は SP02 から出土した土師器の長胴甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。

第 27 号掘立柱建物跡（SB27、図Ⅲ -5-30）

［位置・確認］グリッド BW・BX55，56 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］特になし。［規模・形状］確認桁行 12.5 尺（柱間 6 尺，6.5 尺）、梁間 7 尺（柱間 7 尺）を測り、1 間× 2 間以上の長方形を呈する。

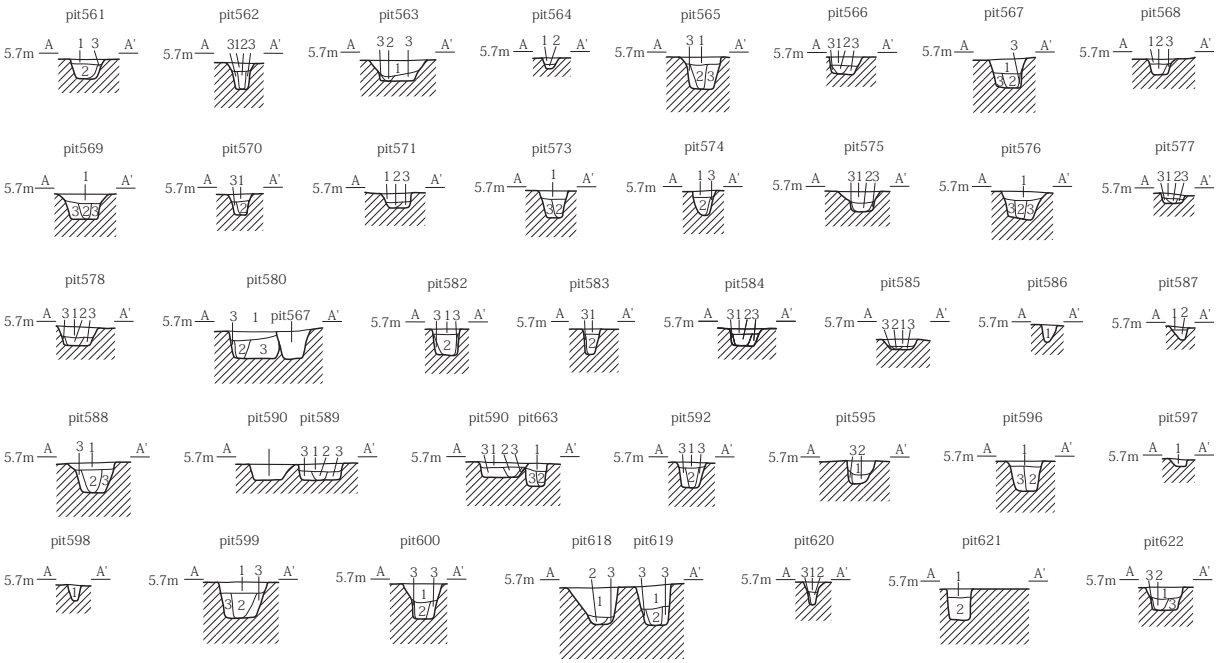
第 6 節　柱穴跡

1) 溝跡内ピット（図Ⅲ -6-1 ～ 17）

ここでは、検出された溝跡内柱穴跡の土層観察図をまとめて掲載する。なお、各柱穴跡の平面図は第 2 節の遺構配置図に記載したとおりである。

2）遺構外ピット（図Ⅲ -6-18 ～ 36）

ここでは、先に図示した溝跡内の柱穴跡以外のピットの平面図及び土層観察図を図示する。なお、堆積状況は土層観察表を参考にされたい。



pit561土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit562土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量

pit563土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit564土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit565土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit566土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit567土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit568土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit569土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit570土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
3層　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit571土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit573土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit574土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit575土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit576土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト

pit577土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量

pit578土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit580土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit582土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit583土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit584土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit585土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit586土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit587土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物微量

pit588土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit589土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit590土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit592土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit595土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit596土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト

pit597土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit598土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分微量

pit599土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit600土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit618土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量

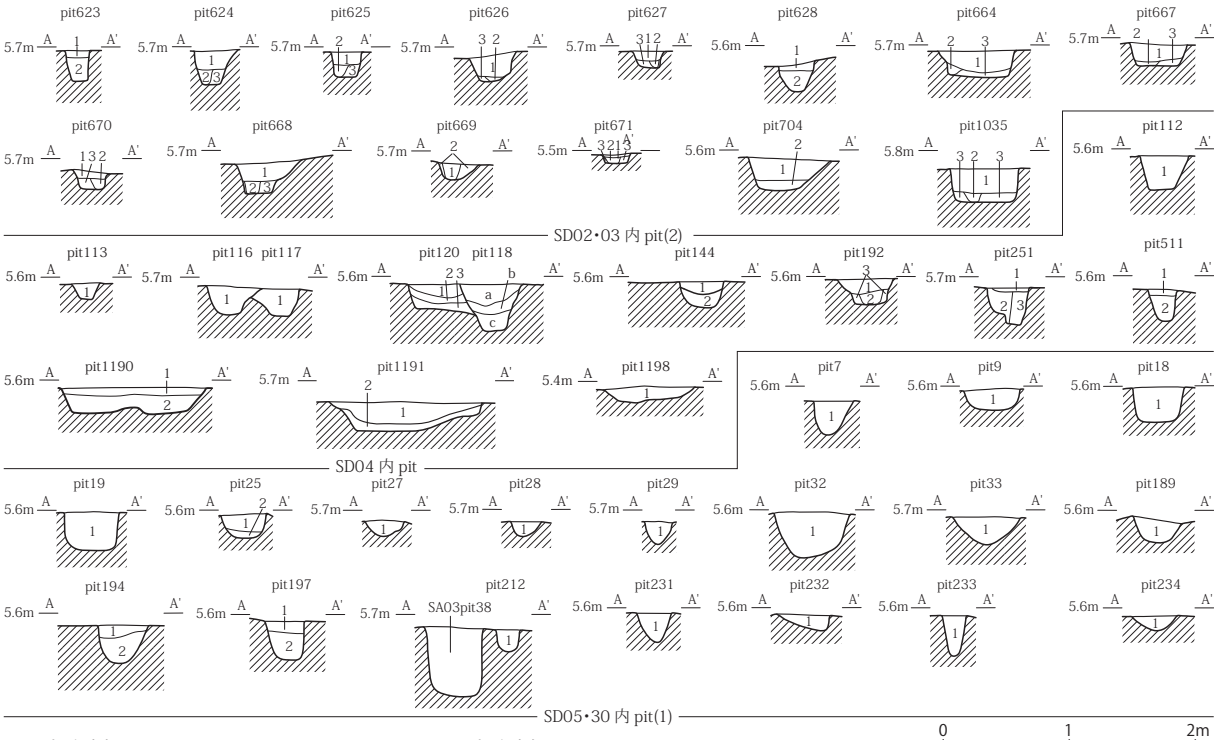
pit619土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量

pit620土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト鉄分多量

pit621土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit622土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

図Ⅲ-6-1　SD02・03内pit(1)



pit623土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit624土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit625土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit626土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit627土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分微量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit628土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit664土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit667土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit668土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit669土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　LB1～3cm少量、鉄分少量、炭化物少量

pit670土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit671土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

pit704土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分微量、炭化物少量

pit1035土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit112土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit113土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit116土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit117土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit118土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、赤色ブロック1cm微量、人為的堆積層
b層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
c層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit120土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、赤色ブロック5～9mm微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、赤色ブロック1cm微量

pit144土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit192土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm中量、灰多量

pit251土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰多量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm中量、灰多量

pit511土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit1190土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、人為的堆積層

pit1191土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit1198土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰多量

pit7土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、10YR6/4にぶい黄橙色粘土0.1～1cm少量

pit9土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit18土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、人為的堆積層

pit19土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量、灰少量、人為的堆積層

pit25土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit27土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit28土層観察表
1層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit29土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit32土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit33土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

pit189土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit194土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit197土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit212土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

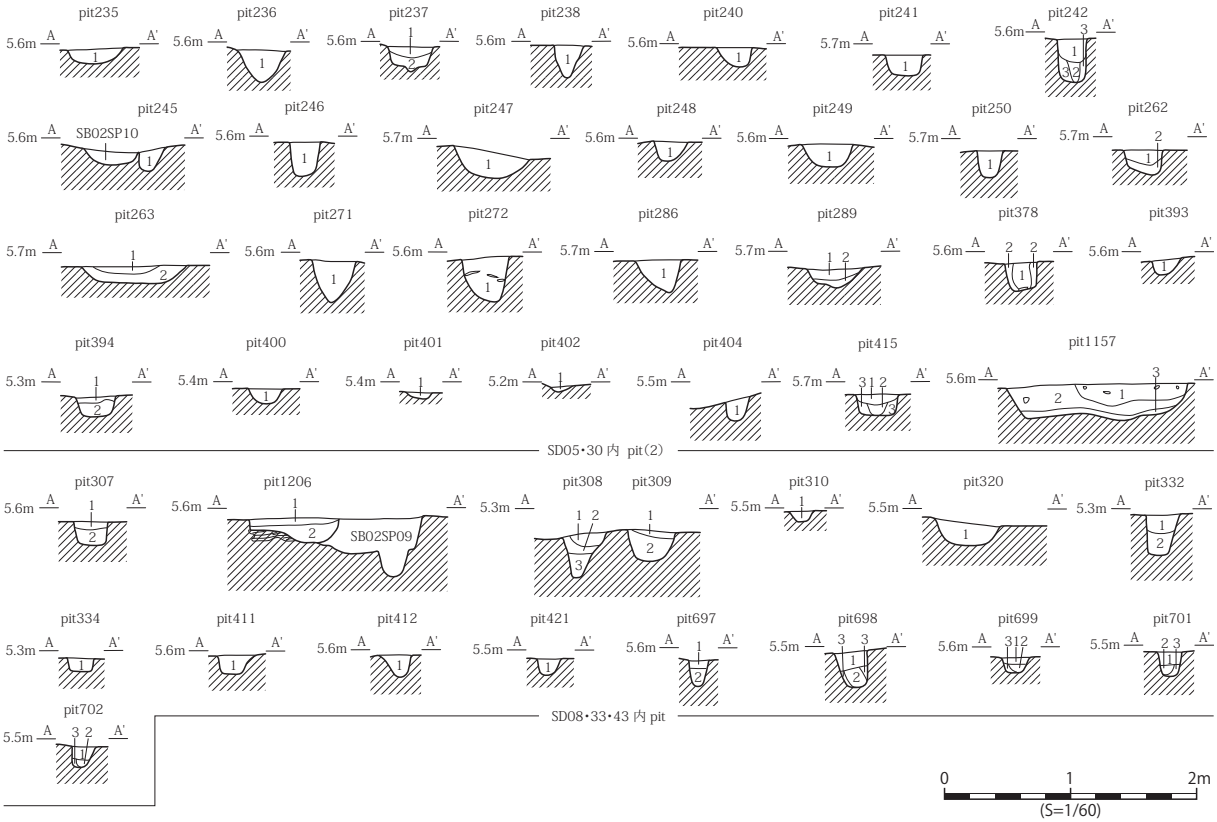
pit231土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量

pit232土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit233土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物3～5mm少量

pit234土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物3～10mm少量

図Ⅲ-6-2　SD02・03 内 pit(2),SD04 内 pit,SD05・30 内 pit(1)



pit235土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物3～5mm少量

pit236土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～5mm少量

pit237土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物3～10mm少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物1～10mm少量

pit238土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量

pit240土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～15mm中量

pit241土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物2～10mm中量

pit242土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物5～15mm中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物3～20mm中量

pit245土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm中量、灰中量

pit246土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物3～15mm中量、灰中量

pit247土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～15mm中量、灰少量

pit248土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit249土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰多量

pit250土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物3～10mm中量、灰中量

pit262土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量

pit263土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm中量

pit271土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物10～20mm多量、灰多量

pit272土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm中量

pit286土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit289土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit378土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit393土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit394土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit400土層観察表
1層　10YR2/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit401土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit402土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit404土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、10YR4/1褐灰色ブロック2×5cm混入

pit415土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1157土層観察表
1層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、焼土粒微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、10YR2/2黒褐色粘土粒少量
3層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit307土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1206土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit308土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit309土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit310土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit320土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit332土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit334土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit411土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit412土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit421土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit697土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

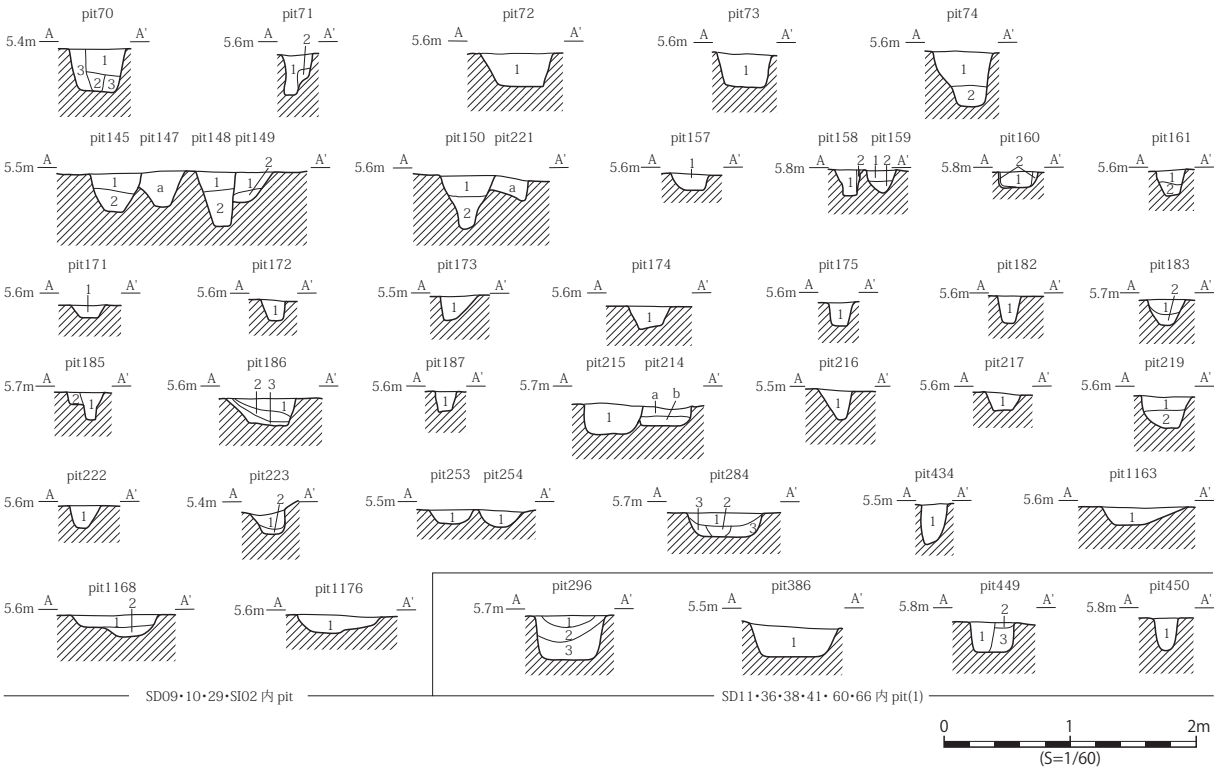
pit698土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit699土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量

pit701土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit702土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

図Ⅲ-6-3　SD05・30 内 pit(2),SD08・33・43 内 pit



pit70土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、人為的堆積層

pit71土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit72土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、人為的堆積層

pit73土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit74土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit145土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit147土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト

pit148土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit149土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit150土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分微量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit221土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit157土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit158土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　、鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰少量

pit159土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰微量

pit160土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、灰微量

pit161土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰少量

pit171土層観察表
1層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit172土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物中量

pit173土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit174土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit175土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit182土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量

pit183土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm中量、灰中量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit185土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰少量

pit186土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm中量、灰中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量、灰中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰少量

pit187土層観察表
1層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit214土層観察表
a層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
b層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit215土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit216土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit217土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit219土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit222土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit223土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量、10YR4/1褐灰色粘土少量

pit253土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit254土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit284土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit434土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1163土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

pit1168土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、5YR5/4にぶい赤褐色粘土ブロック混入
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1176土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

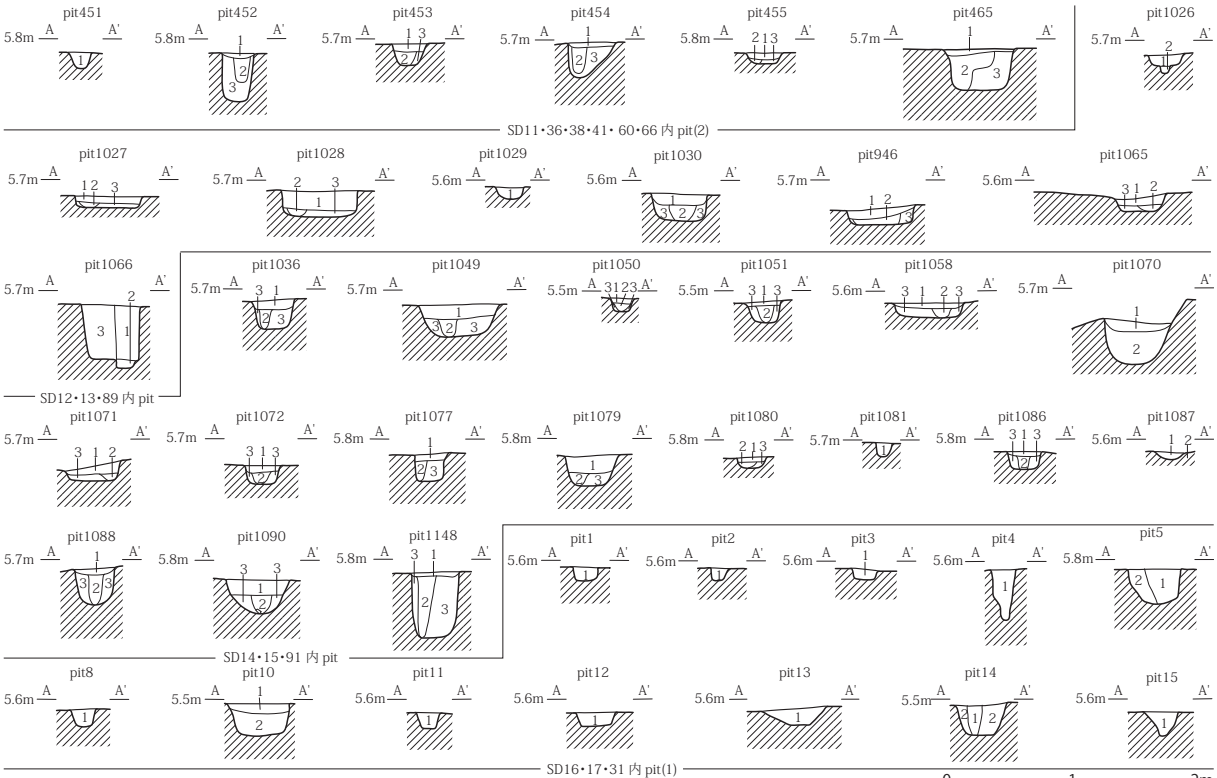
pit296土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit386土層観察表
1層　2.5Y4/1　黄灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit449土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit450土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

図Ⅲ-6-4　SD09・10・29・SI02内pit,SD11・36・38・41・ 60・66内pit(1)



pit451土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit452土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit453土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit454土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、
5YR4/4にぶい赤褐色粘土ブロック少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、
5YR4/4にぶい赤褐色粘土ブロック少量

pit455土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit465土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1026土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量

pit1027土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1028土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1029土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit1030土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit946土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit1065土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1066土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質粘土　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1036土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量

pit1049土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1050土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit1051土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量

pit1058土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1070土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　砂質シルト　炭化物多量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量

pit1071土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit1072土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1077土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1079土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1080土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量

pit1081土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1086土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1087土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1088土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit1090土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit1148土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit2土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit3土層観察表
1層　10Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit4土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit5土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　、鉄分多量、炭化物微量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量、灰中量

pit8土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit10土層観察表
1層　2.5Y2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量、灰多量
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit11土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm微量、灰少量

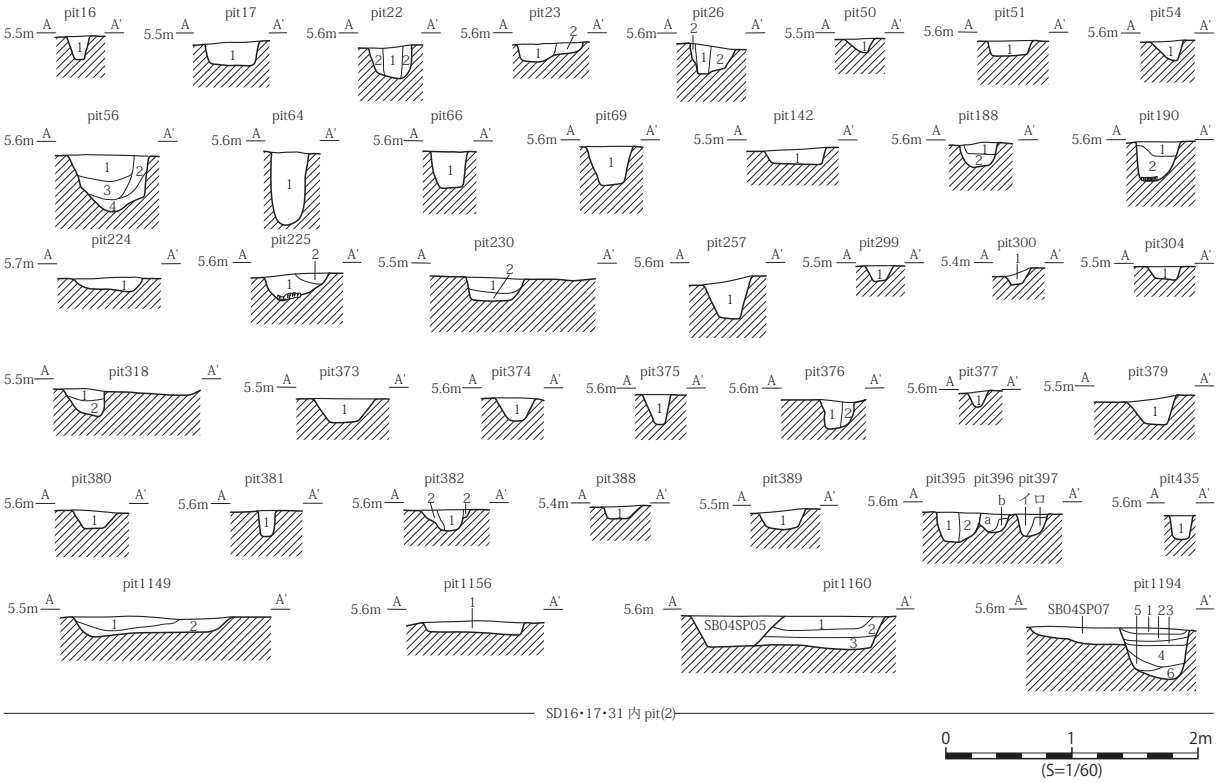
pit12土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit13土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量

pit14土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit15土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物1～3mm少量

図Ⅲ-6-5　SD11・36・38・41・60・66 内 pit(2),SD12・13・89 内 pit,SD14・15・91 内 pit,SD16・17・31 内 pit(1)



pit16土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量

pit17土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰中量

pit22土層観察表
1層　2.5Y3/2　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit23土層観察表
1層　2.5Y3/2　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物多量
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit26土層観察表
1層　2.5Y3/2　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit50土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit51土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　ローム粒多量、鉄分中量、炭化物微量、人為的堆積層

pit54土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～15mm中量、灰少量

pit56土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～2cm少量、灰中量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2cm少量、灰中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰中量
4層　10YR4/1　褐灰色　シルト質粘土　鉄分微量、炭化物微量、灰少量

pit64土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit66土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分多量

pit69土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、人為的堆積層

pit142土層観察表
1層10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit188土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit190土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit224土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit225土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit230土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量

pit257土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit299土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit300土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit304土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit318土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit373土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit374土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit375土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit376土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit377土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit379土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit380土層観察表
1層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit381土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit382土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit388土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit389土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit395土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit396土層観察表
a層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
b層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量

pit397土層観察表
イ層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量
ロ層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量

pit435土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

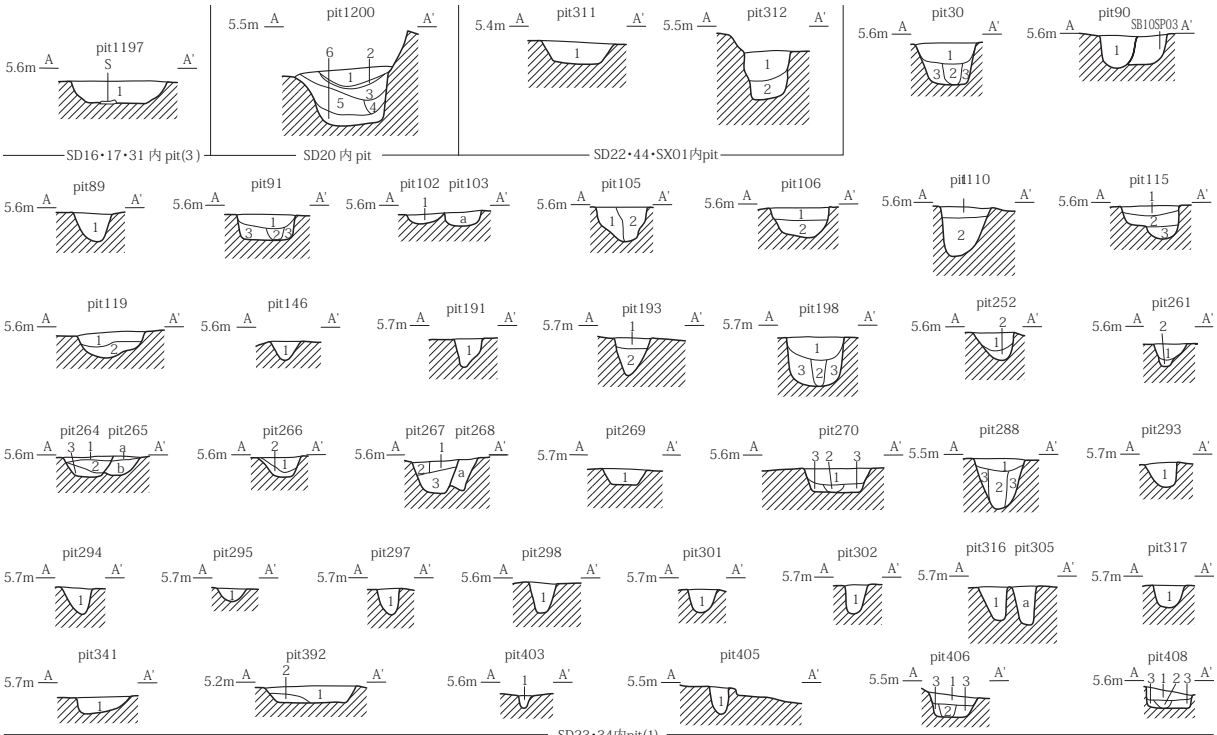
pit1149土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1156土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit1160土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1194土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
5層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
6層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

図Ⅲ-6-6　SD16・17・31 内 pit(2)



pit1197土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1200土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
5層　10YR3/1　黒褐色　シルト　ロ鉄分中量、炭化物多量
6層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

pit311土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit312土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit30土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit90土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit89土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit91土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分微量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit102土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit103土層観察表
a層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit105土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit106土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit110土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、抜き取り痕あり
2層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit115土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、1～2mm赤色シルト質粘土ブロック微量

pit119土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit146土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit191土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit193土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit198土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit252土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰多量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit261土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit264土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～15mm中量、灰多量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm中量、灰中量

pit265土層観察表
a層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
b層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit266土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰多量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～20mm中量、灰中量

pit267土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
3層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～30mm中量、灰中量

pit268土層観察表
a層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量

pit269土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～10mm中量、灰中量

pit270土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit288土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit293土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit294土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit295土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit297土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit298土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit301土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit302土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit305土層観察表
a層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit316土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit317土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit341土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit392土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物微量、泥炭層少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量

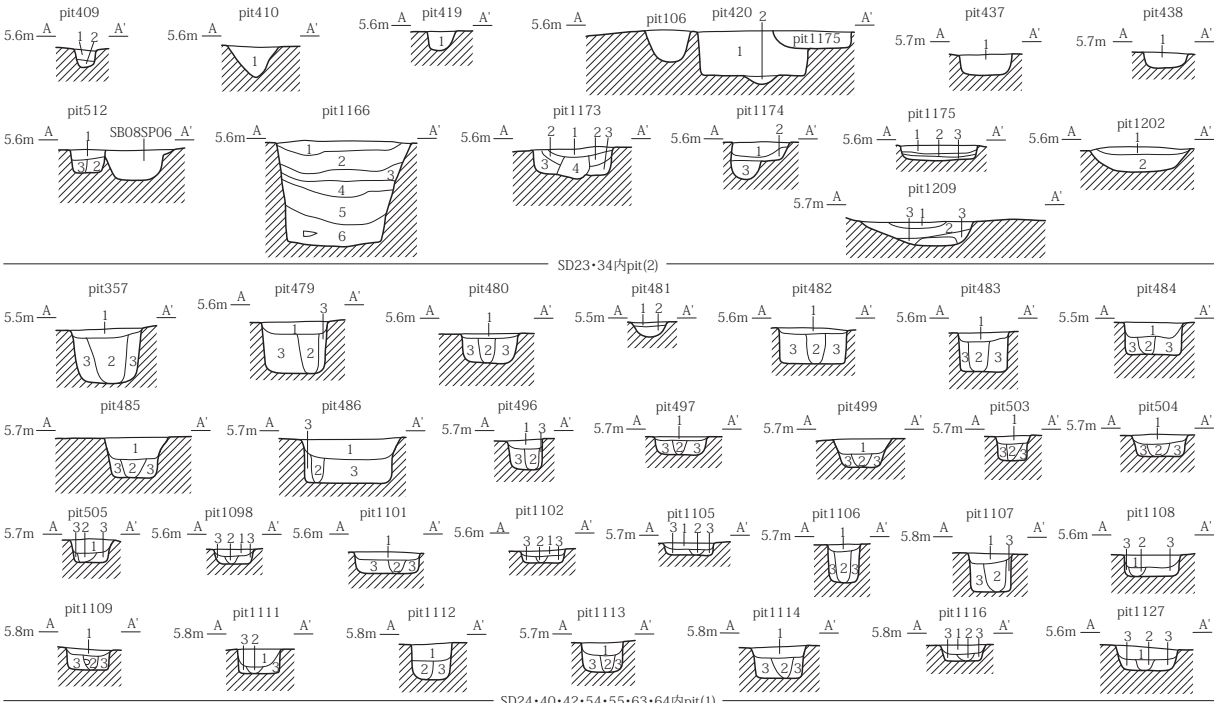
pit403土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit405土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit406土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit408土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

図Ⅲ-6-7　SD16・17・31 内 pit(3),SD20 内 pit,SD22・44・SX01 内 pit,SD23・34 内 pit(1)



pit409土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit410土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit419土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～2mm多量、灰少量

pit420土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、人為的堆積土
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit437土層観察表
1層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit438土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit512土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit1166土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
4層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト質粘土　鉄分中量、炭化物中量
5層　10YR2/1　黒色　シルト質粘土　鉄分中量、炭化物中量
6層　10YR2/1　黒色　シルト質粘土　鉄分少量、炭化物中量、灰中量、7.5Y5/1灰色粘土質シルトブロック2～3cm混入

pit1173土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit1174土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1175土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1202土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm少量、灰多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm中量、灰中量

pit1209土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit357土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit479土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit480土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit481土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit482土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit483土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit484土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit485土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit486土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit496土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit497土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit499土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/4　褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit503土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit504土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit505土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit1098土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1101土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1102土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1105土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1106土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1107土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1108土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1109土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1111土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit1112土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

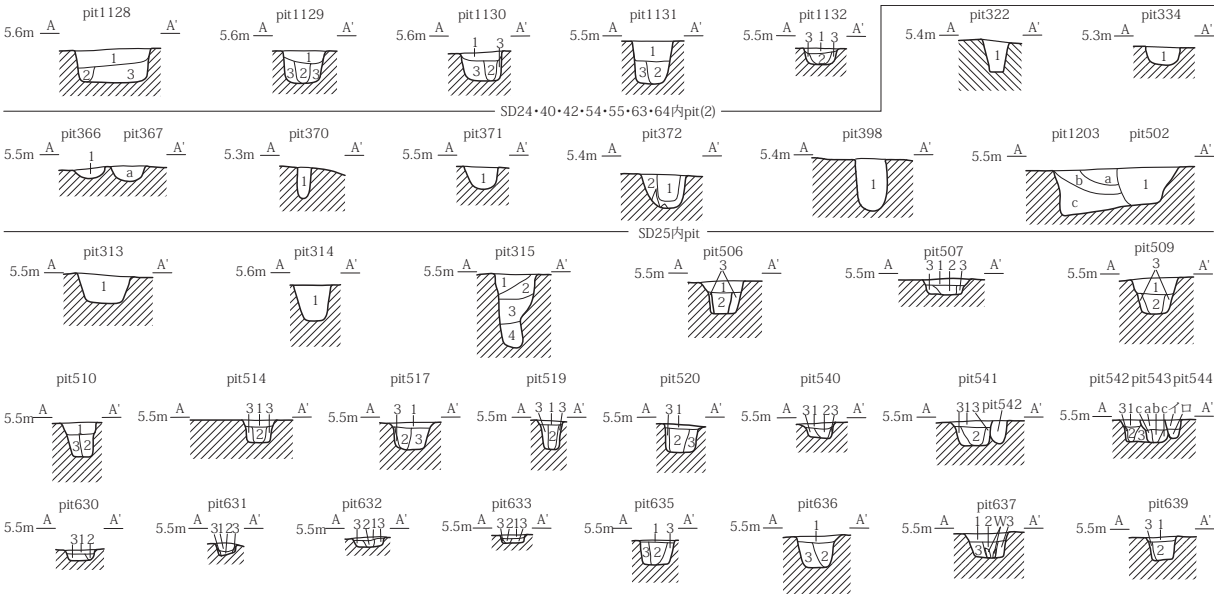
pit1113土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit1114土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1116土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit1127土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

図Ⅲ-6-8　SD23・34 内 pit(2)・SD24・40・42・54・55・63・64 内 pit(1)



pit1128土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　炭化物少量

pit1129土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit1130土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1131土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1132土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト

pit322土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、人為的堆積層

pit334土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit366土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit367土層観察表
a層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit370土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit371土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit372土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit398土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量

pit502土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit1203土層観察表
a層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
b層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
c層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit313土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量

pit314土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit315土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物3～5mm少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物2～20mm中量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～10mm中量
4層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit506土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト

pit507土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit509土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit510土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト質粘土　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit514土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit517土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit519土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit520土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR1.7/1　黒色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit540土層観察表
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘性シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/4　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit541土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit542土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit543土層観察表
a層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
b層　10YR3/4　暗褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
c層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit544土層観察表
イ層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
ロ層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit630土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit631土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit632土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit633土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

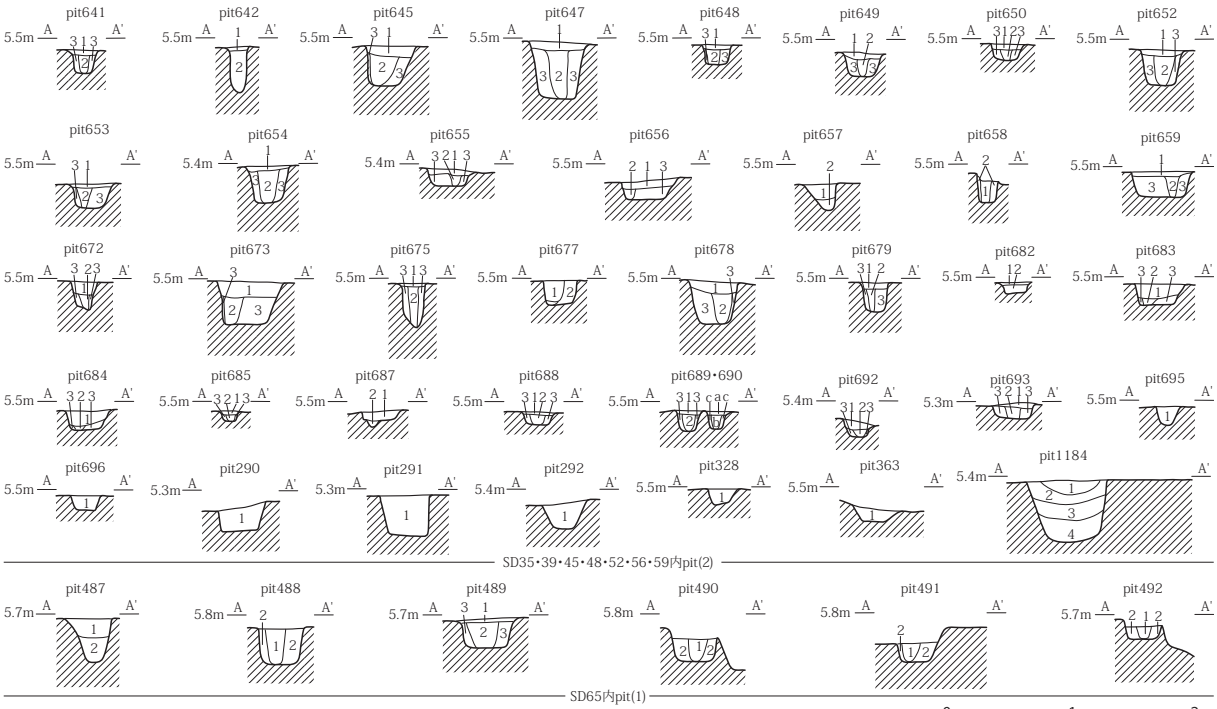
pit635土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit636土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit637土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit639土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

図Ⅲ-6-10　SD24・40・42・54・55・63・64 内 pit(2),SD25 内 pit,SD35・39・45・48・52・56・59 内 pit(1)



pit641土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量

pit642土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit645土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit647土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit648土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit649土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit650土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit652土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit653土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR5/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit654土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit655土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit656土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量

pit657土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit658土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit659土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit672土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit673土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit675土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit677土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit678土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit679土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　褐灰色　粘土質シルト　鉄分中量

pit682土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量

pit683土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量

pit684土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量

pit685土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit687土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit688土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit689土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit690土層観察表
a層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
b層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
c層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit692土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit693土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit695土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit696土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit290土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit291土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit292土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit328土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物多量

pit363土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1184土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit487土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/4　暗褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit488土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

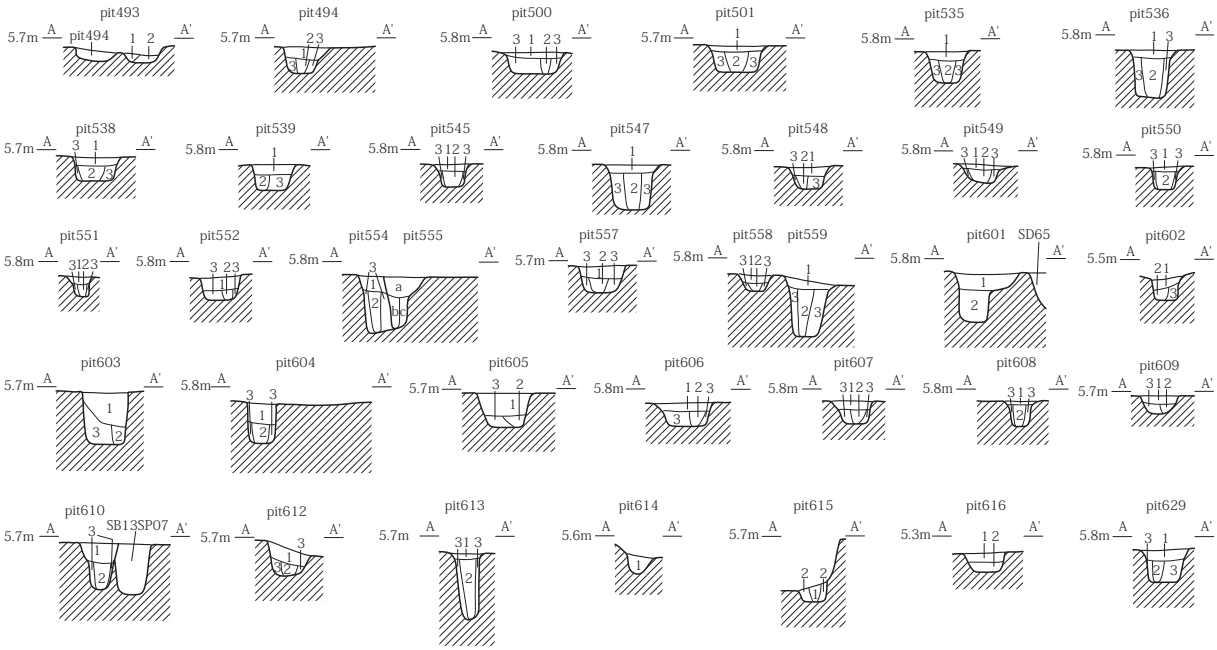
pit489土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit490土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit491土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit492土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

図Ⅲ-6-10　SD35・39・45・48・52・56・59 内 pit(2),SD65 内 pit(1)



pit493土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit494土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit500土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit501土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit535土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit536土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit538土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit539土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit545土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit547土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit548土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit549土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit550土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit551土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit552土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit554土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit555土層観察表
a層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
b層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
c層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit557土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit558土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分多量
2層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit559土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit601土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit602土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量

pit603土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit604土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit605土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit606土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit607土層観察表
1層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/1　褐灰色　シルト　鉄分中量

pit608土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit609土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量

pit610土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit612土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit613土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

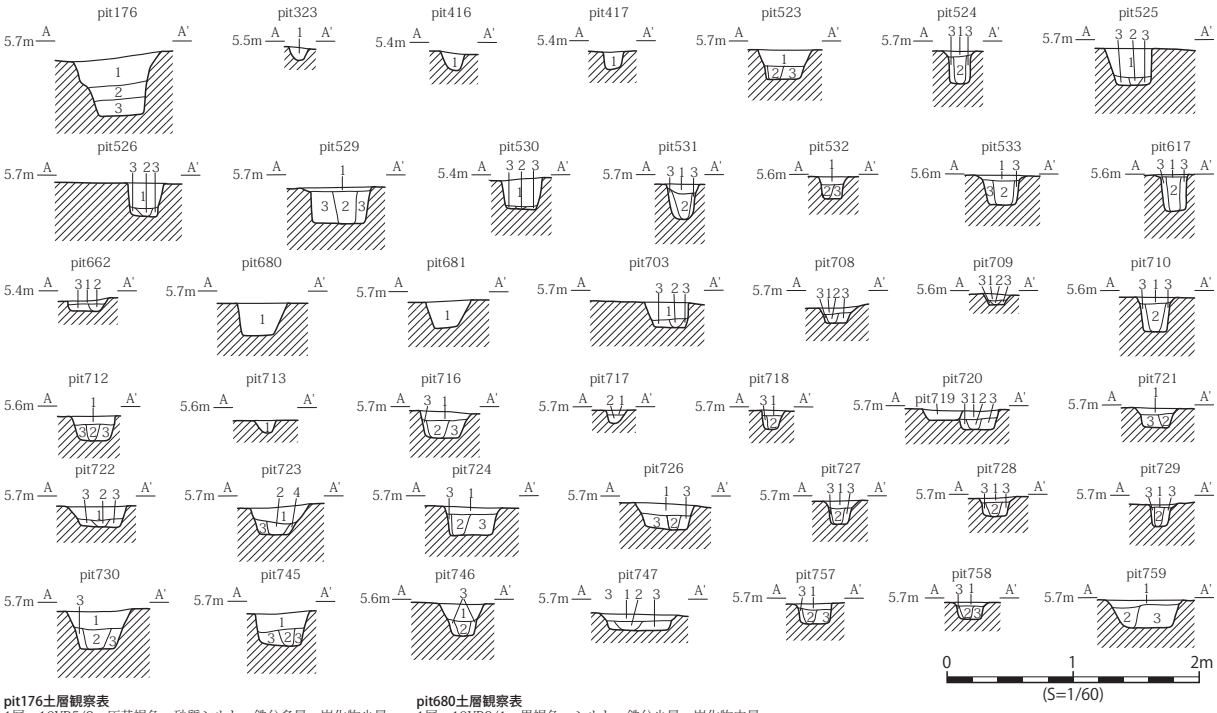
pit614土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit615土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit616土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit629土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

図Ⅲ-6-11　SD65 内 pit(2)



pit176土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit323土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物多量

pit416土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit417土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物中量

pit523土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit524土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit525土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit526土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit529土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物多量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit530土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit531土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit532土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit533土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR1.7/1　黒色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit617土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit662土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit680土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit681土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit703土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit708土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit709土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit710土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit712土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit713土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit716土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit717土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit718土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit720土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit721土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit722土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit723土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量
4層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit724土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit726土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit727土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit728土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit729土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit730土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit745土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物多量、灰多量、焼土　5YR4/6赤褐色ブロック１×3中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、灰多量、焼土　5YR4/6赤褐色ブロック1×3少量

pit746土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

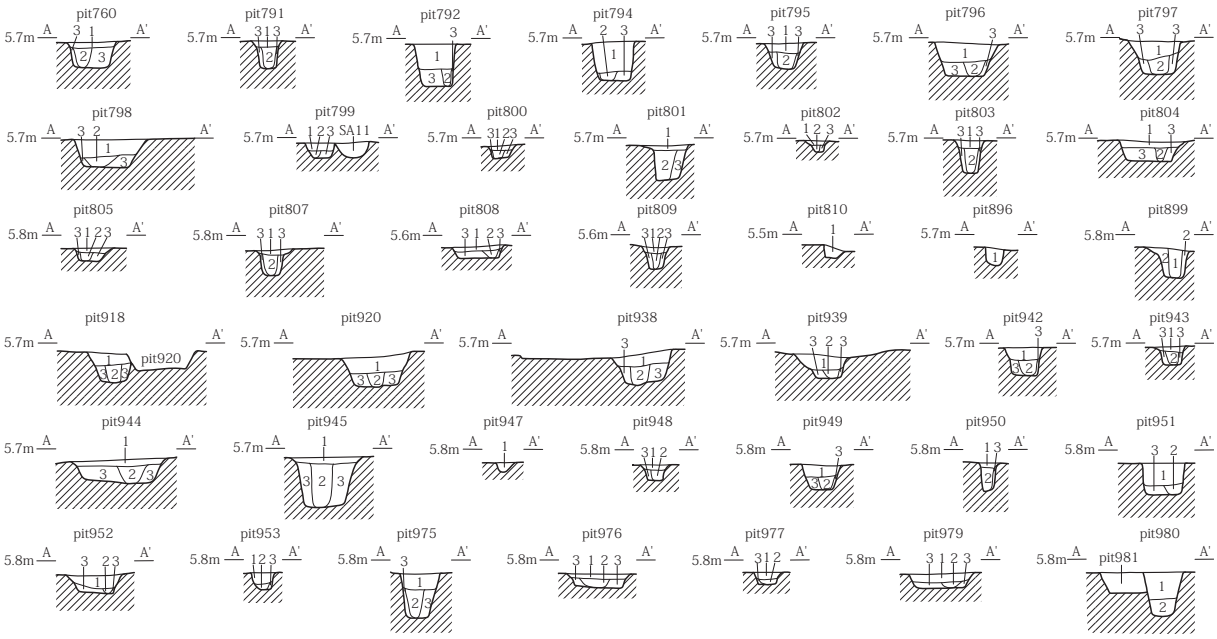
pit747土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit757土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit758土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit759土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

図Ⅲ-6-12　SD67・68・69・70・72・73・74・76 内 pit(1)



pit760土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit791土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、
5YR4/6赤褐色粘土質シルトブロック1～9mm微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit792土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit794土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit795土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit796土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit797土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit798土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit799土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit800土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit801土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit802土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit803土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit804土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量

pit805土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit807土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit808土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit809土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit810土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit896土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit899土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit918土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit920土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit938土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit939土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit942土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit943土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit944土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit945土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit947土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit948土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit949土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit950土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit951土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit952土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit953土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

Pit975土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

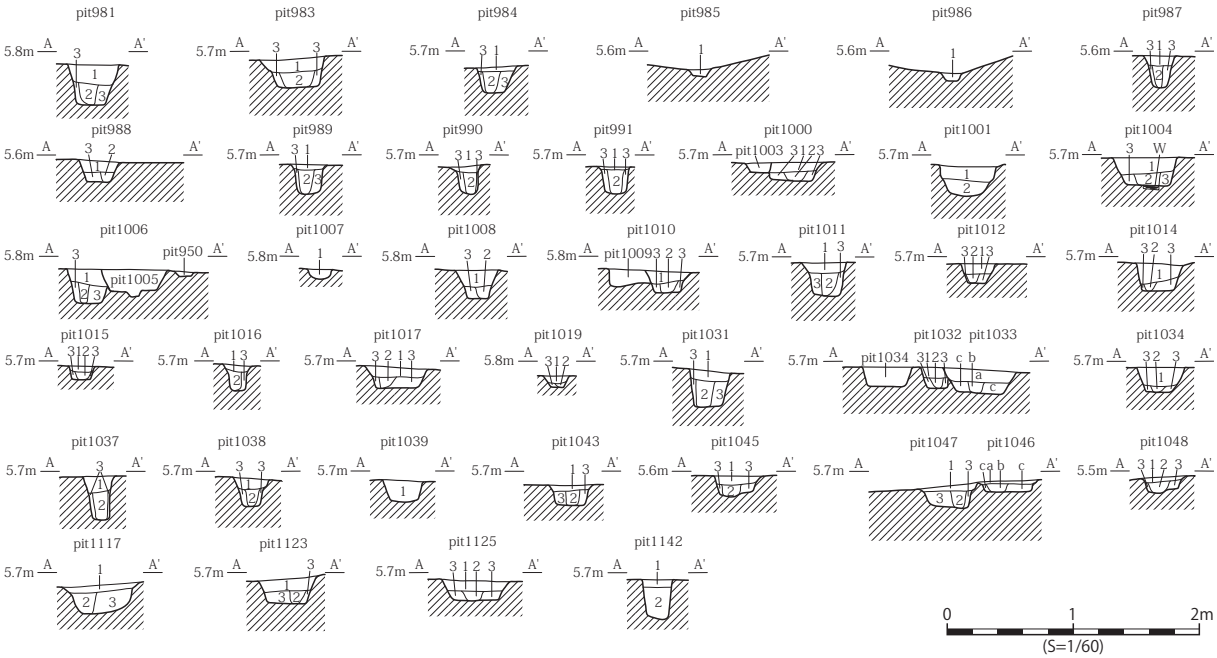
pit976土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit977土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit979土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit980土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-6-13　SD67・68・69・70・72・73・74・76 内 pit(2)



pit981土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit983土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit984土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit985土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit986土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit987土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit988土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit989土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit990土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit991土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1000土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1001土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1004土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit1006土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1007土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1008土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1010土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1011土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1012土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1014土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1015土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1016土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1017土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1019土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1031土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1032土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1033土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分多量、炭化物少量
b層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
c層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1034土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト質砂　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1037土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1038土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit1039土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit1043土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1045土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1046土層観察表
a層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
b層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
c層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit1047土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物多量

pit1048土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

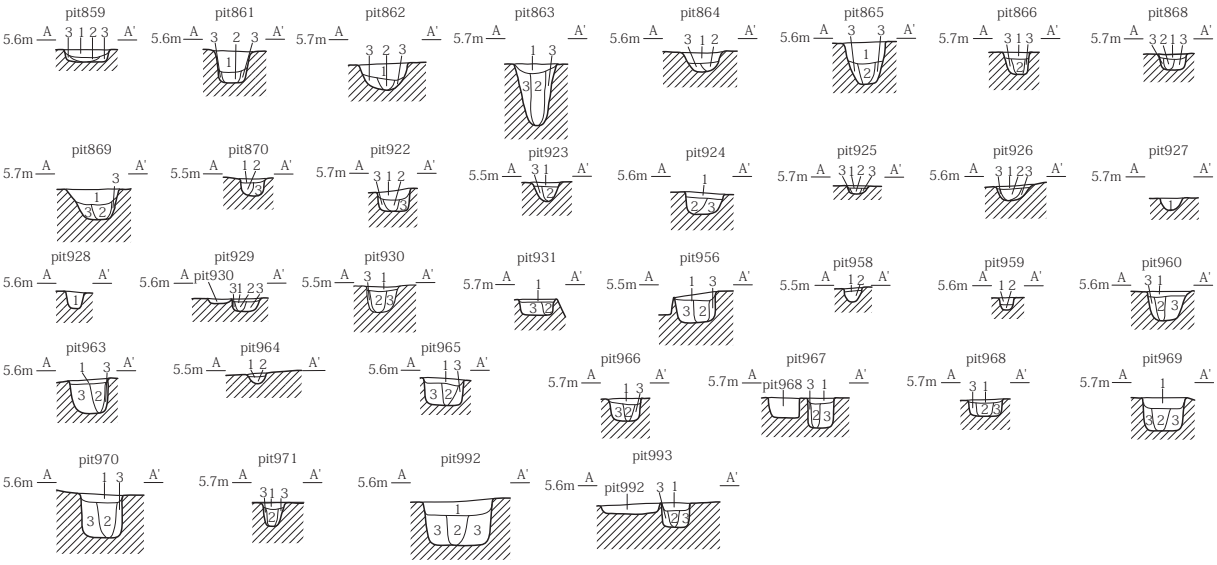
pit1117土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1123土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量

pit1125土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1142土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

図Ⅲ-6-14　SD67・68・69・70・72・73・74・76 内 pit(3)



pit859土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit861土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit862土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit863土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit864土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit865土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit866土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit868土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit869土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト

pit870土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit922土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分微量

pit923土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト

pit924土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit925土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit926土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit927土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit928土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物中量

pit929土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit930土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit931土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　少量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit956土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit958土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit959土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　炭化物中量

pit960土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit963土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit964土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分微量、炭化物少量

pit965土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit966土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit967土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit968土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit969土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

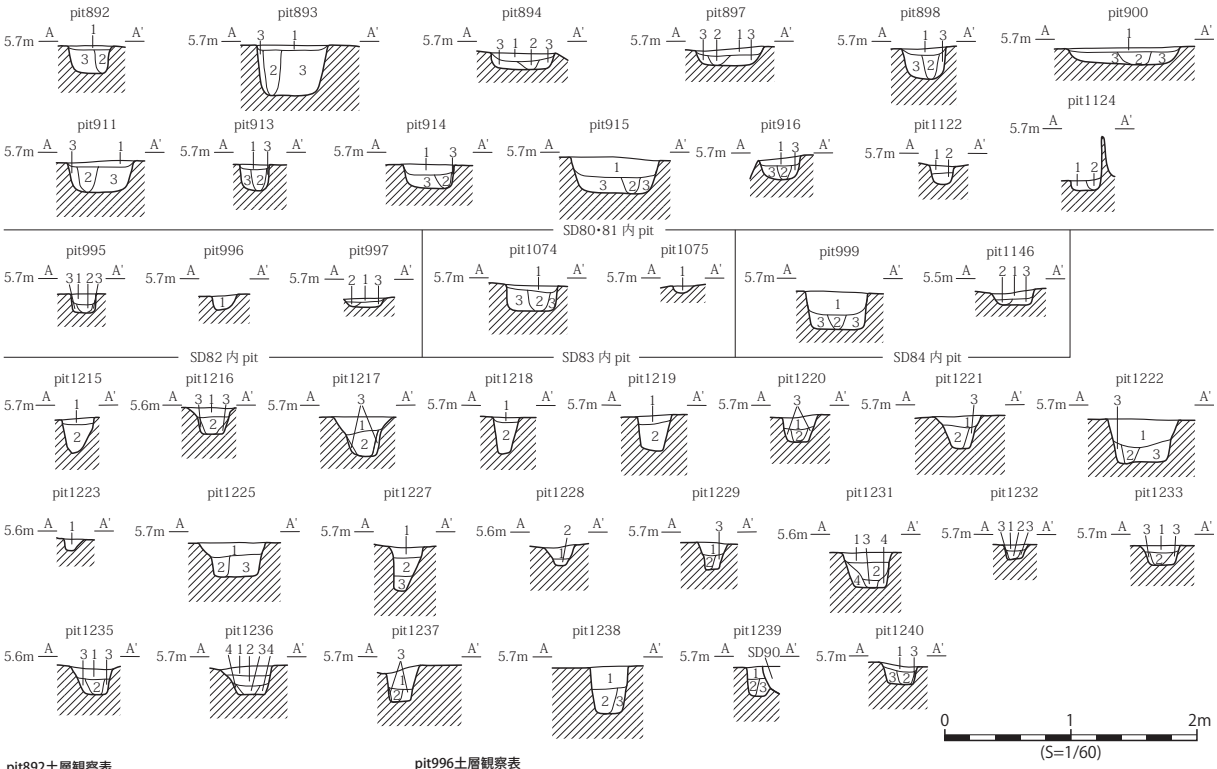
pit970土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit971土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit992土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit993土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　L鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

図Ⅲ-6-15　SD75・77・78・79 内 pit



pit892土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit893土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit894土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit897土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit898土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit900土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit911土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit913土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit914土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit915土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit916土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1122土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit1124土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit995土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit996土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit997土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit1074土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、7.5YR4/3褐色ブロック少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1075土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit999土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit1146土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1215土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1216土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1217土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1218土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1219土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit1220土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1221土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1222土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分多量

pit1223土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1225土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分多量

pit1227土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1228土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1229土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分少量

pit1231土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1232土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分やや中量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量

pit1233土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物中量
3層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1235土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1236土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
4層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量

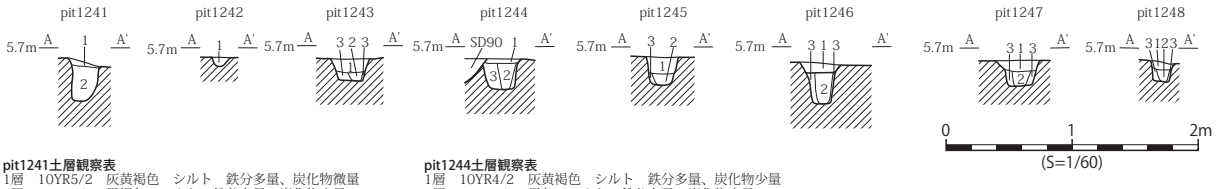
pit1237土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分微量

pit1238土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分やや中量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量

pit1239土層観察表
1層　10YR5/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR5/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1240土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-6-16　SD80・81 内 pit,SD82 内 pit,SD83 内 pit,SD84 内 pit,SD90 内 pit(1)



pit1241土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1242土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1243土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1244土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

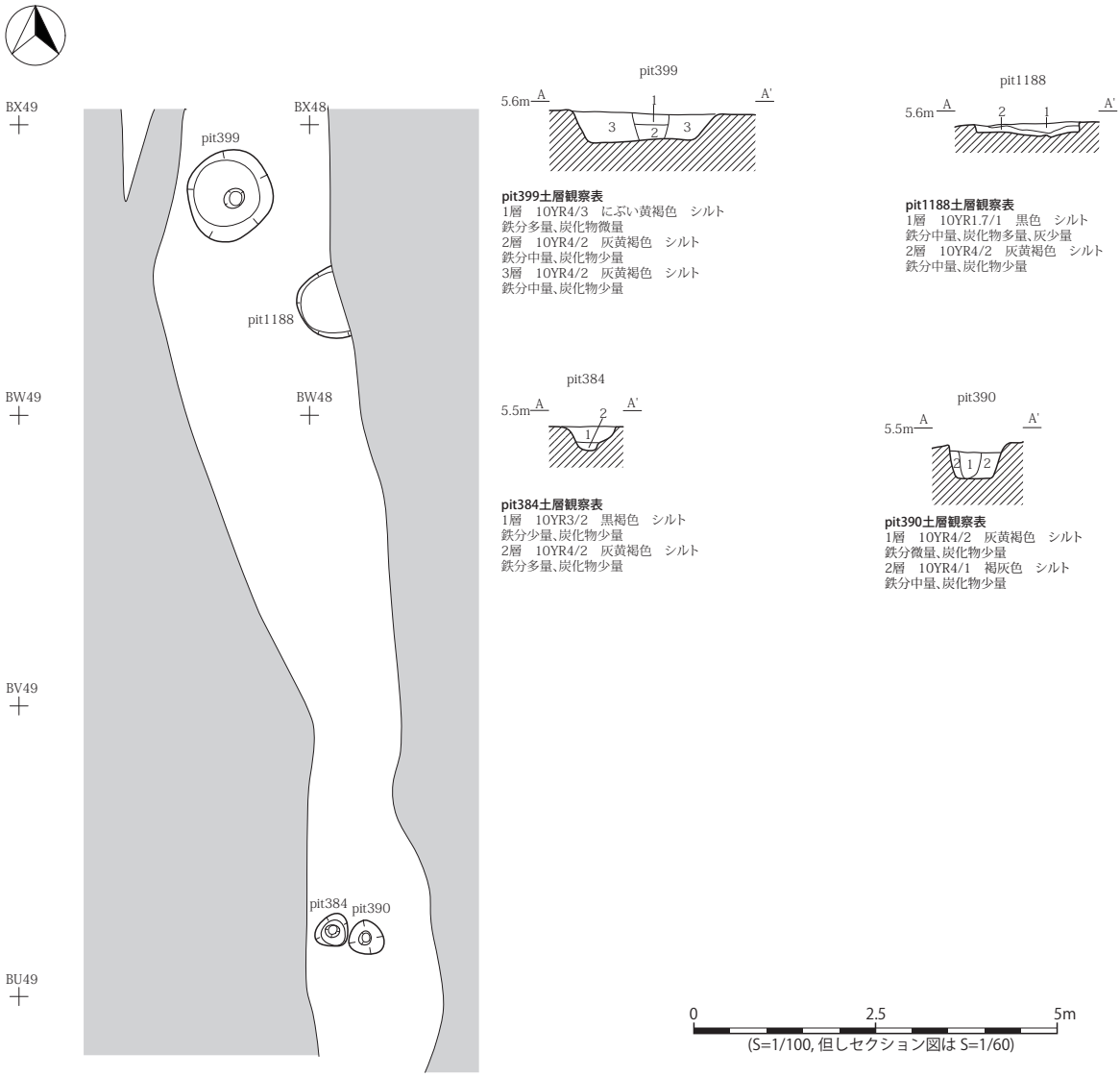
pit1245土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1246土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1247土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1248土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

図Ⅲ-6-17　SD90 内 pit(2)



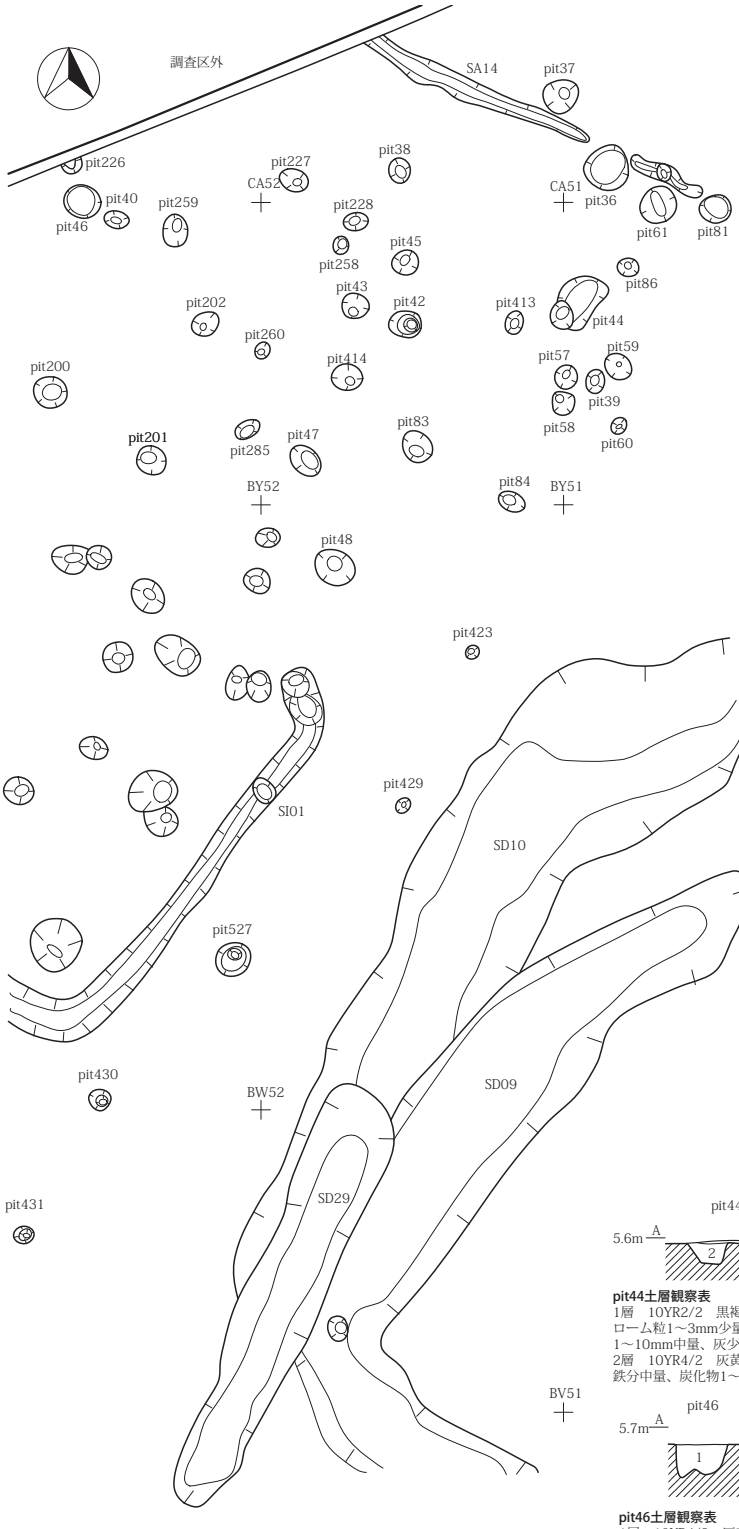
pit399土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量

pit1188土層観察表
1層　10YR1.7/1　黒色　シルト
鉄分中量、炭化物多量、灰少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量

pit384土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物少量

pit390土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分微量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト
鉄分中量、炭化物少量

図Ⅲ-6-18　遺構外pit(1)



pit36

5.7m A — A'

1

pit36 土層観察表
1 層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物 1 ～ 10mm 中量、灰中量

pit37

5.7m A — A'

1

pit37土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、灰中量

pit38

5.6m A — 1 2 3 — A'

pit38土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～10mm中量、灰微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰多量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰少量

pit39

5.6m A — A'

1

pit39土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰中量

pit40

5.7m A — A'

1

pit40土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量、灰中量

pit42

5.6m A — A'

1

pit42土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量、灰中量

pit43

5.6m A — A'

1

pit43土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量、灰中量

pit44

5.6m A — 1 — A'

2

pit44土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト
ローム粒1～3mm少量、鉄分少量、炭化物1～10mm中量、灰少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit45

5.6m A — A'

1

pit45土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～2mm少量、灰中量

pit46

5.7m A — A'

1

pit46土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit47

5.6m A — A'

1

pit47土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物少量、灰中量

pit57

5.6m A — 1 — A'

pit57土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit58

5.6m A — 1 — A'

pit58土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～20mm少量、灰中量

pit59

5.6m A — 1 — A'

pit59土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分中量、炭化物5～15mm少量、灰中量

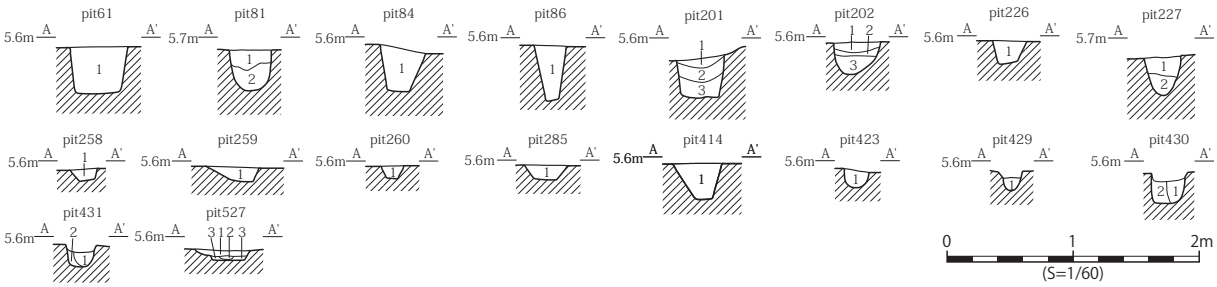
pit60

5.6m A — 1 — A'

pit60土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-19　遺構外pit(2-1)



pit61土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量

pit81土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit84土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～10mm少量、灰中量

pit86土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit201土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm中量、灰中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰中量

pit202土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物3～10mm中量、灰中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物3～5mm少量、灰中量

pit226土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit227土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit258土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit259土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit260土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit285土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit414土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分微量、炭化物1～2mm少量、灰少量

pit423土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

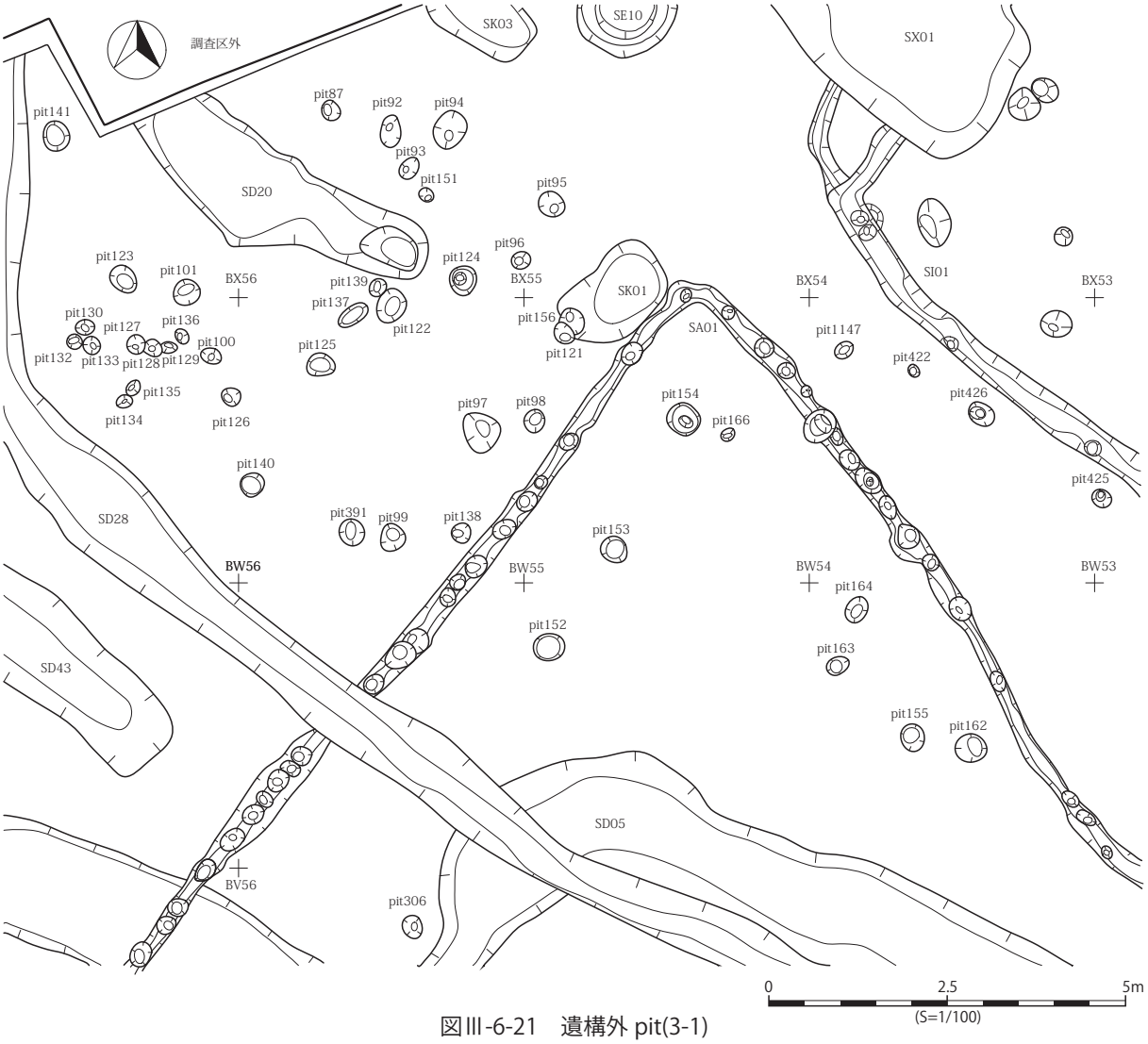
pit429土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit430土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

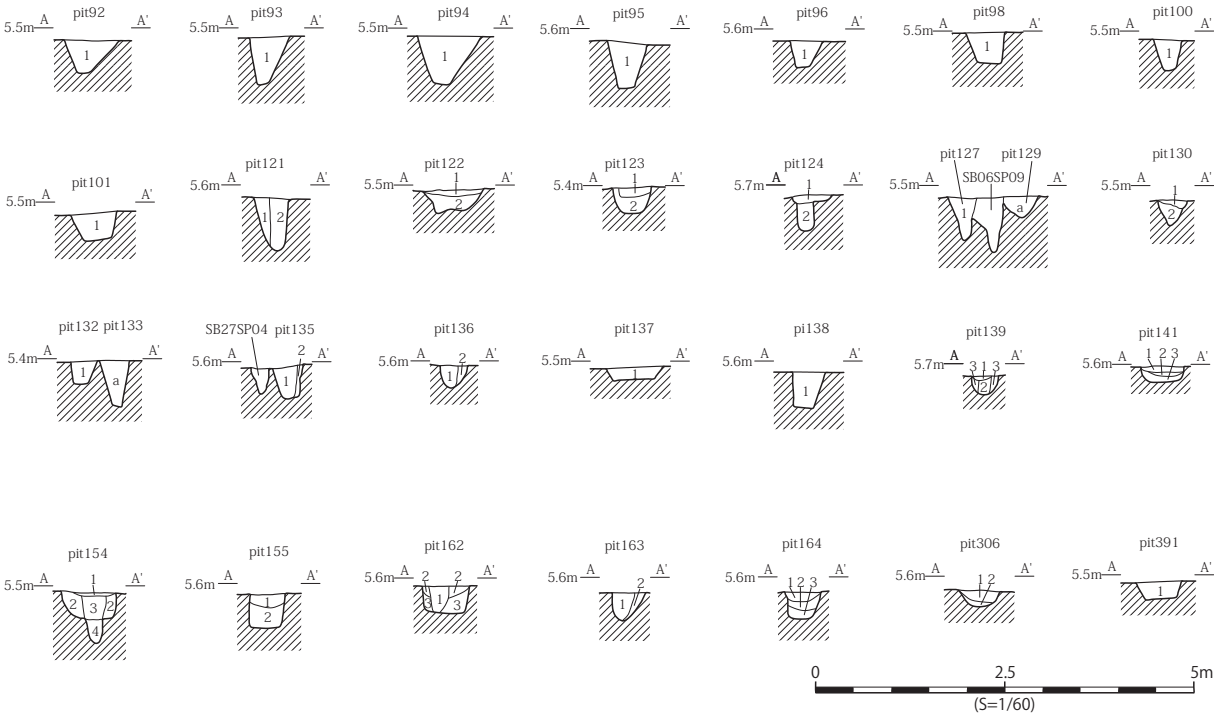
pit431土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit527土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト質砂　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

図Ⅲ-6-20　遺構外 pit(2-2)



図Ⅲ-6-21　遺構外 pit(3-1)



pit92土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit93土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit94土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit95土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm微量、灰中量

pit96土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit98土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit100土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit101土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit121土層観察表
1層　2.5Y5/2　暗灰褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰中量
2層　2.5Y4/2　暗灰褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit122土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm多量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰中量

pit123土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量
2層　2.5Y5/1　黄灰色　シルト　鉄分中量、炭化物3～5mm中量、灰中量

pit124土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit127土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit129土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit130土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物1～3mm微量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物2～5mm微量、灰中量

pit132土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit133土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量

pit135土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～10mm少量、灰中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～3mm少量、灰少量

pit136土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～10mm少量、灰中量

pit137土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量

pit138土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰少量

pit139土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物3～5mm少量、灰少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰少量、鉄分少量、炭化物微量

pit141土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～3mm少量、灰中量
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物3～10mm少量、灰中量
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　粘土質シルト　鉄分中量

pit154土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～3mm少量、灰中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物3～5mm微量、灰中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量
4層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit155土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～5mm少量、灰中量

pit162土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物2～10mm少量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm少量、灰少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物3～5mm微量、灰少量

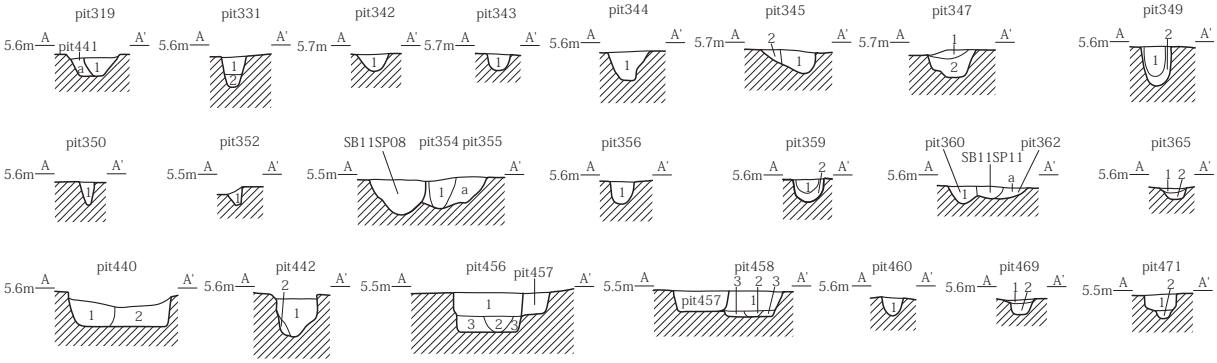
pit163土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm中量、灰多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物5～15mm中量、灰中量

pit164土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物5～20mm中量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物5～10mm少量、灰中量
3層　2.5Y5/1　黄灰色　シルト　鉄分中量、炭化物1～10mm少量、灰中量

pit306土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit391土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト

図Ⅲ-6-22　遺構外 pit(3-2)



pit319土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit441土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit331土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit342土層観察表
1層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit343土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、5YR4/6赤褐色シルトブロック微量

pit344土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit345土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit347土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit349土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～15mm中量

pit350土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm中量、灰中量

pit352土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit354土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～9mm少量、灰中量

pit355土層観察表
a層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit356土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物1～5mm少量、灰中量

pit359土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物微量、灰中量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～9mm少量、灰中量

pit360土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit362土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit365土層観察表
1層　10YR3/4　暗褐色　シルト質砂　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit440土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit442土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit456土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit458土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　ローム粒2～9mm少量、LB1～6cm中量、鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　ローム粒1～5mm少量、LB1～2cm少量、鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　ローム粒2～9mm少量、LB1～6cm中量、鉄分多量、炭化物少量

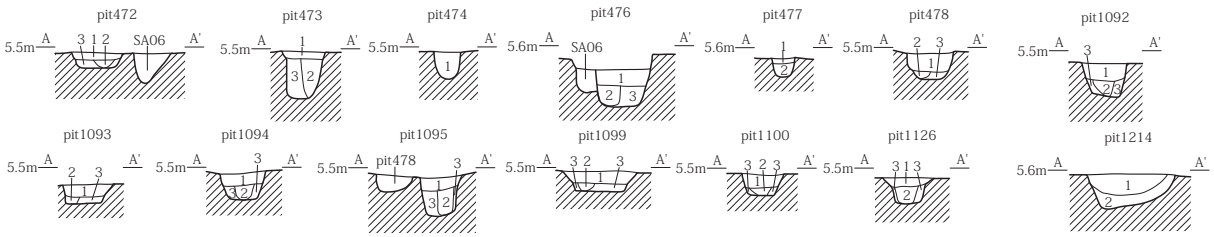
pit460土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量

pit469土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit471土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-23　遺構外 pit(4-1)



pit472土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit473土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit474土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit476土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit477土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit478土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1092土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1093土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量

pit1094土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1095土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1099土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

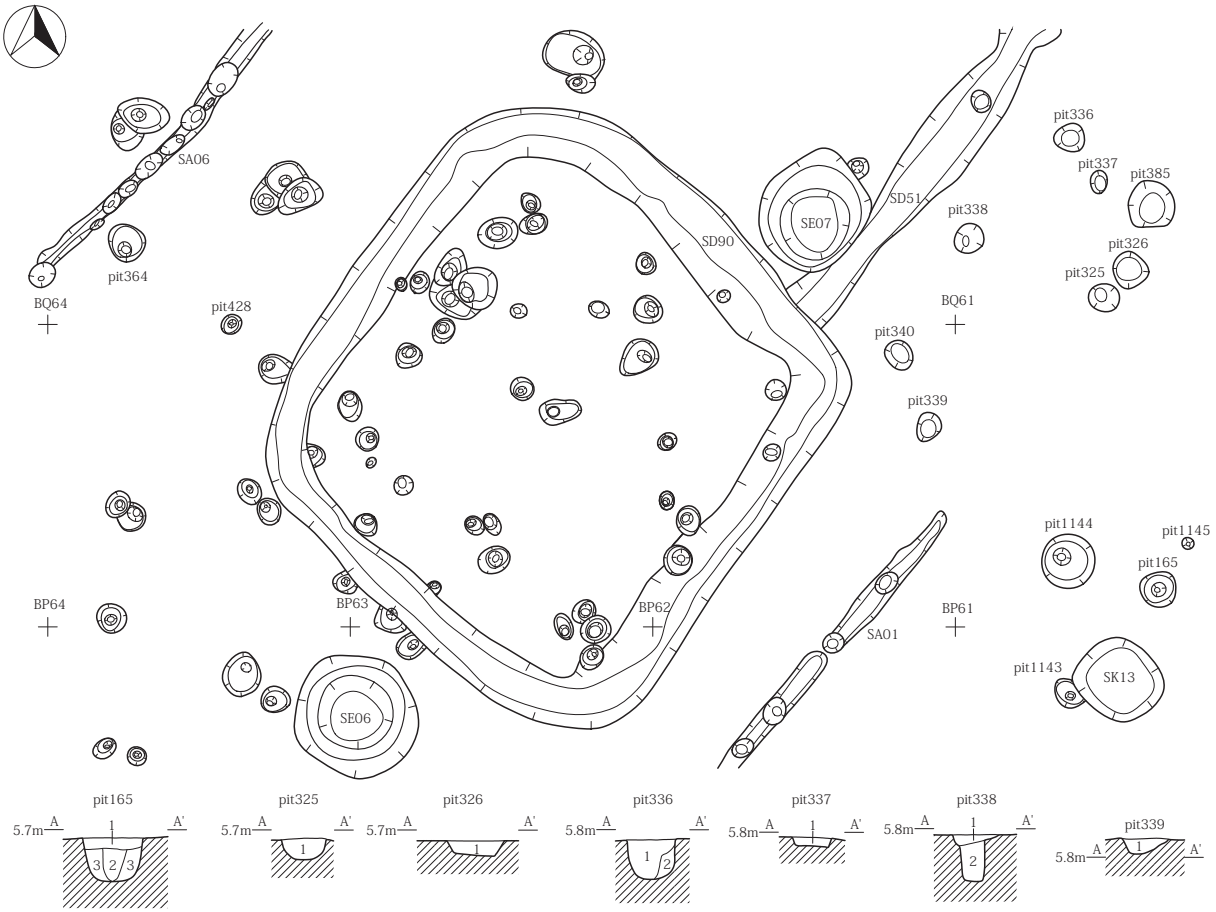
pit1100土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量

pit1126土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit1214土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-6-24　遺構外 pit(4-2)



pit165土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit325土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物1～20mm中量、灰中量

pit326土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit336土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量

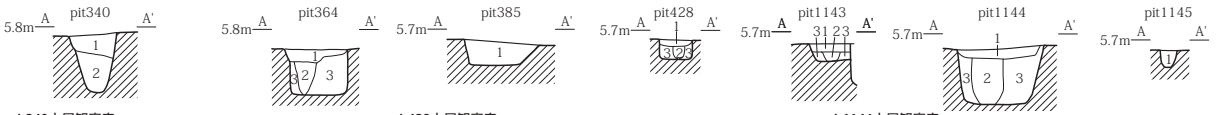
pit337土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit338土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit339土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-25　遺構外 pit(5-1)



pit340土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　鉄分中量､炭化物微量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量､炭化物微量

pit364土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量､炭化物中量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物多量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit385土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物中量

pit428土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量､炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物微量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物微量

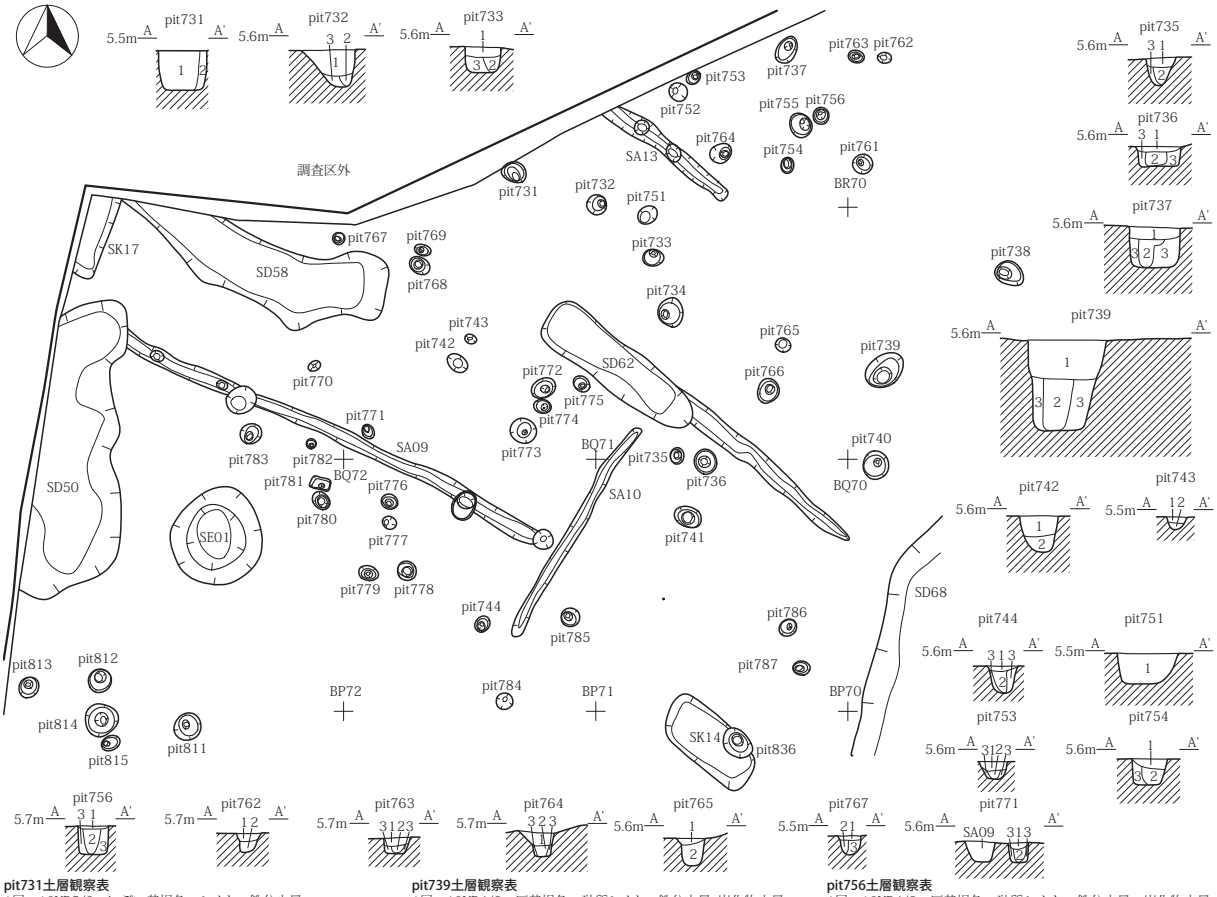
pit1143土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit1144土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1145土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-6-26　遺構外 pit(5-2)



pit731土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量

pit732土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物中量

pit733土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit735土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit736土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物少量

pit737土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物微量

pit739土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分中量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物少量

pit742土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit743土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit744土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit751土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit753土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit754土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/3　黒褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit756土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit762土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit763土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit764土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

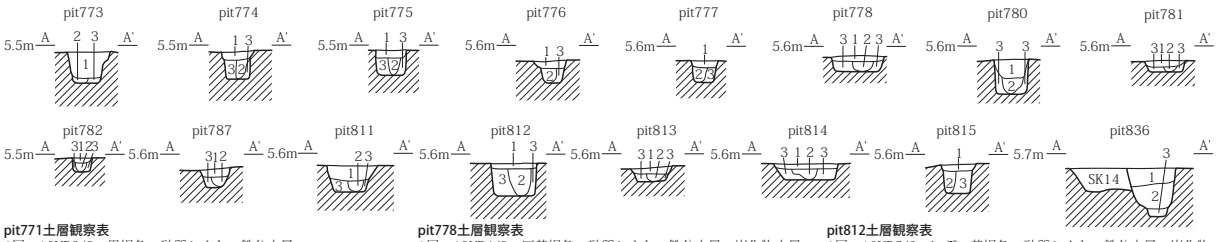
pit765土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit766土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit767土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

0　2.5　5m
(S=1/120, 但しセクション図は S=1/60)

図Ⅲ-6-27　遺構外 pit(6-1)



pit771土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit773土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit774土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit775土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量

pit776土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit777土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit778土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit780土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit781土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit782土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit787土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit811土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit812土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit813土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

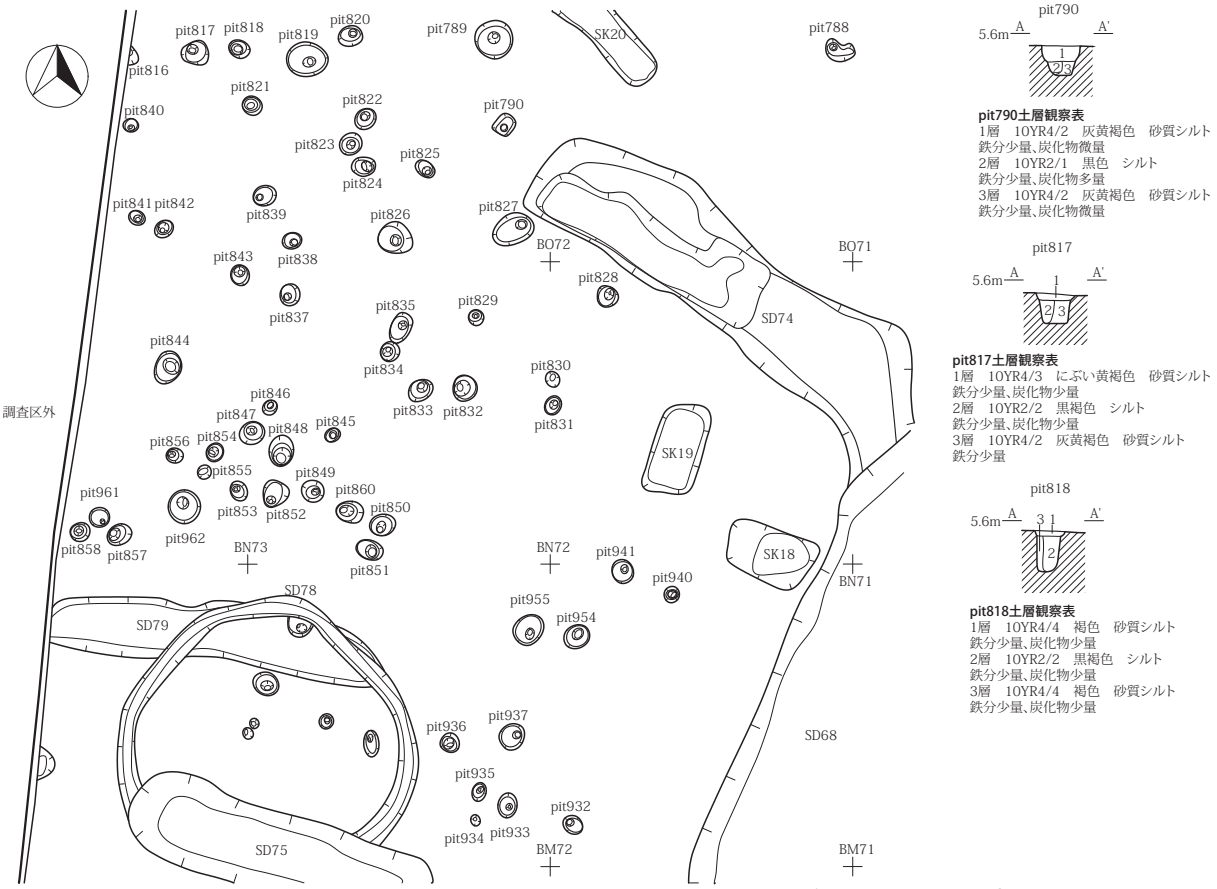
pit814土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit815土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit836土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-6-28　遺構外 pit(6-2)



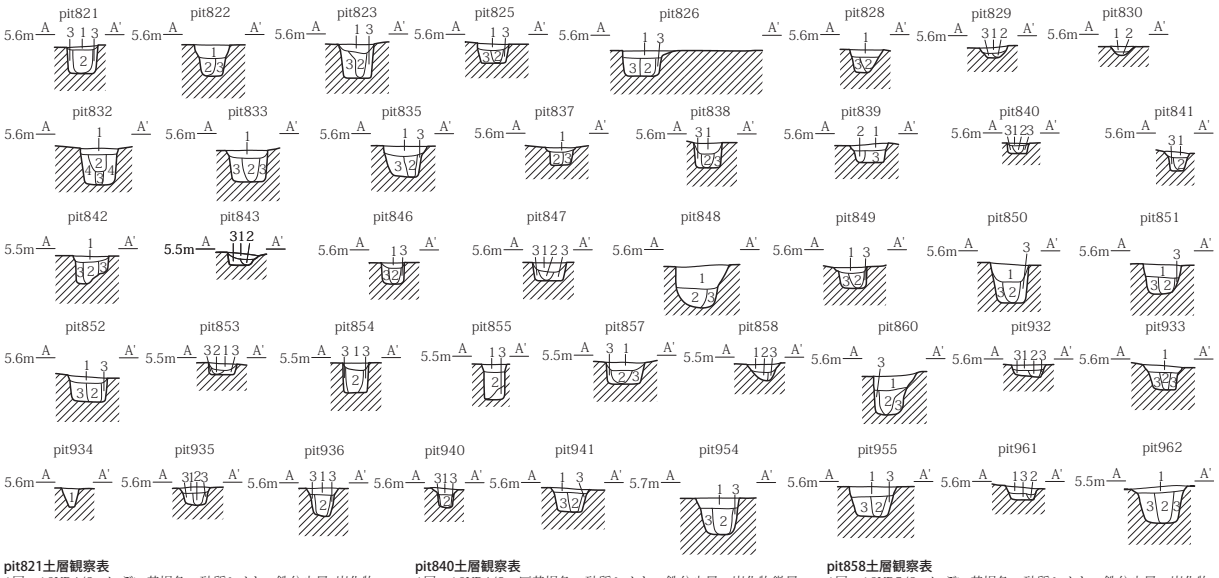
pit790土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト
鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物微量

pit817土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量

pit818土層観察表
1層　10YR4/4　褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/4　褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-29　遺構外 pit(7-1)



pit821土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit822土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit823土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit825土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit826土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit828土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分微量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit829土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit830土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　炭化物少量

pit832土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit833土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit835土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量

pit837土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit838土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit839土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit840土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit841土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit842土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit843土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit846土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit847土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit848土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit849土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit850土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit851土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit852土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit853土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit854土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit855土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量

pit857土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit858土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit860土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit932土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit933土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit934土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit935土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit936土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit940土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分微量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分微量

pit941土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit954土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

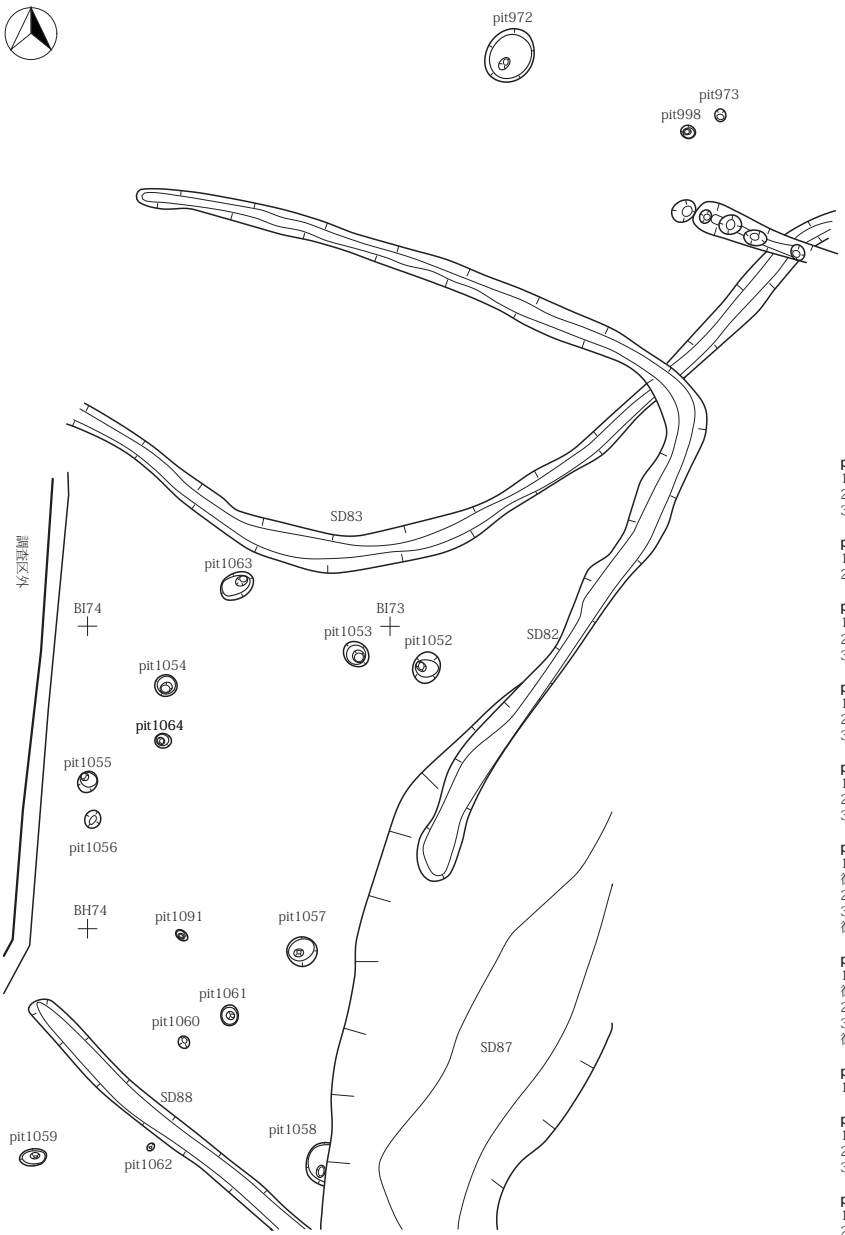
pit955土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

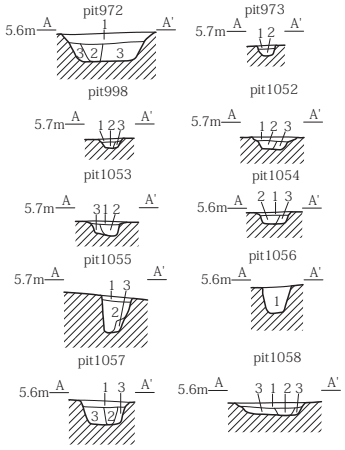
pit961土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit962土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR1.7/1　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-30　遺構外 pit(7-2)





pit972土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit973土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR2/3　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物中量

pit998土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit1052土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit1053土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物少量

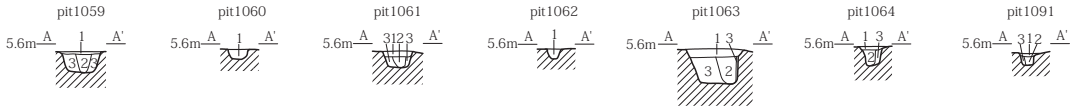
pit1054土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物微量

pit1055土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物微量

pit1056土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物中量

pit1057土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit1058土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量､炭化物少量



pit1059土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量､炭化物微量

pit1060土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量､炭化物少量

pit1061土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量､炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit1062土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分少量、炭化物少量

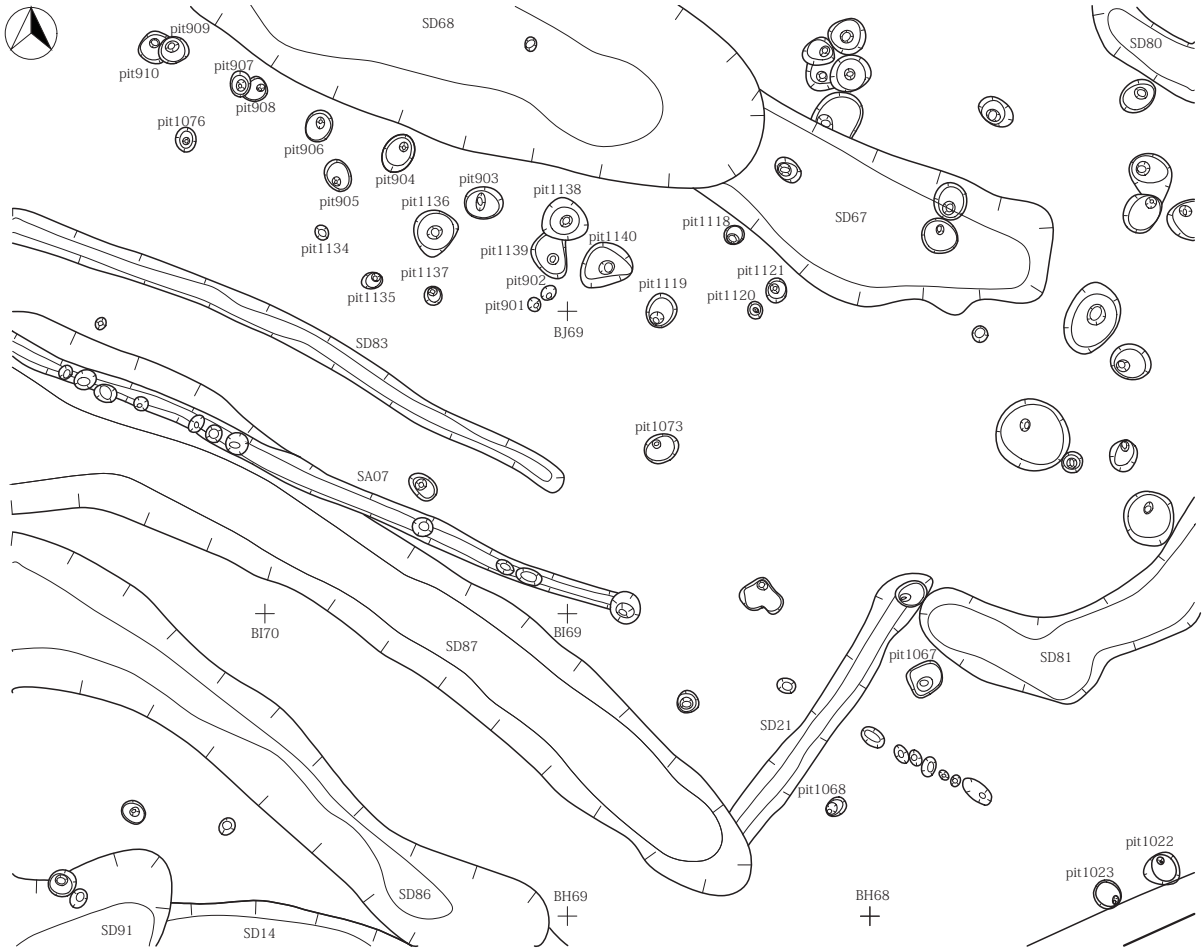
pit1063土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

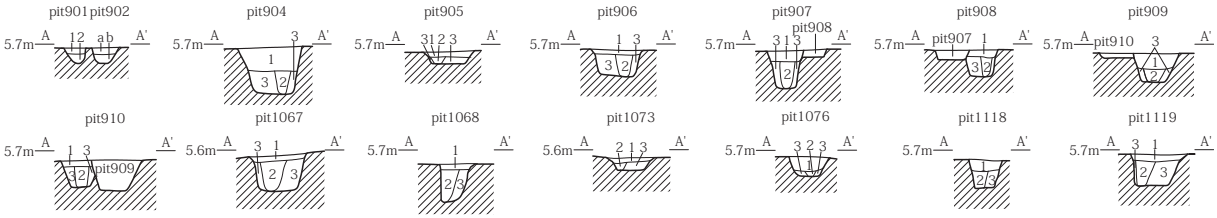
pit1064土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
ローム粒1～9mm少量、鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物少量

pit1091セクション土層注記表
1層　10YR2/1　黒色　シルト
ローム粒1～9mm少量、鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-31　遺構外 pit(8)





pit901土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit902土層観察表
a層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
b層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量

pit904土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物微量

pit905土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量

pit906土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit907土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit908土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit909土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit910土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit1067土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1068土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1073土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

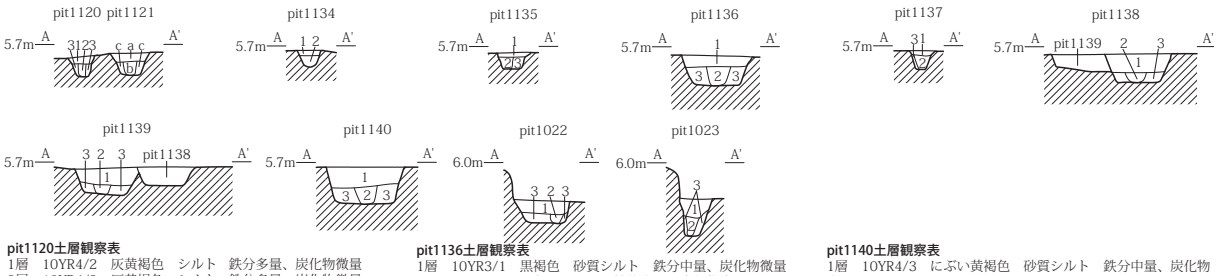
pit1076土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1118土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1119土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-32　遺構外 pit(9-1)



pit1120土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1121土層観察表
a層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
b層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
c層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

pit1134土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit1135土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1136土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit1137土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

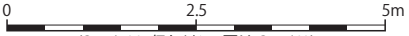
pit1138土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1139土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit1140土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

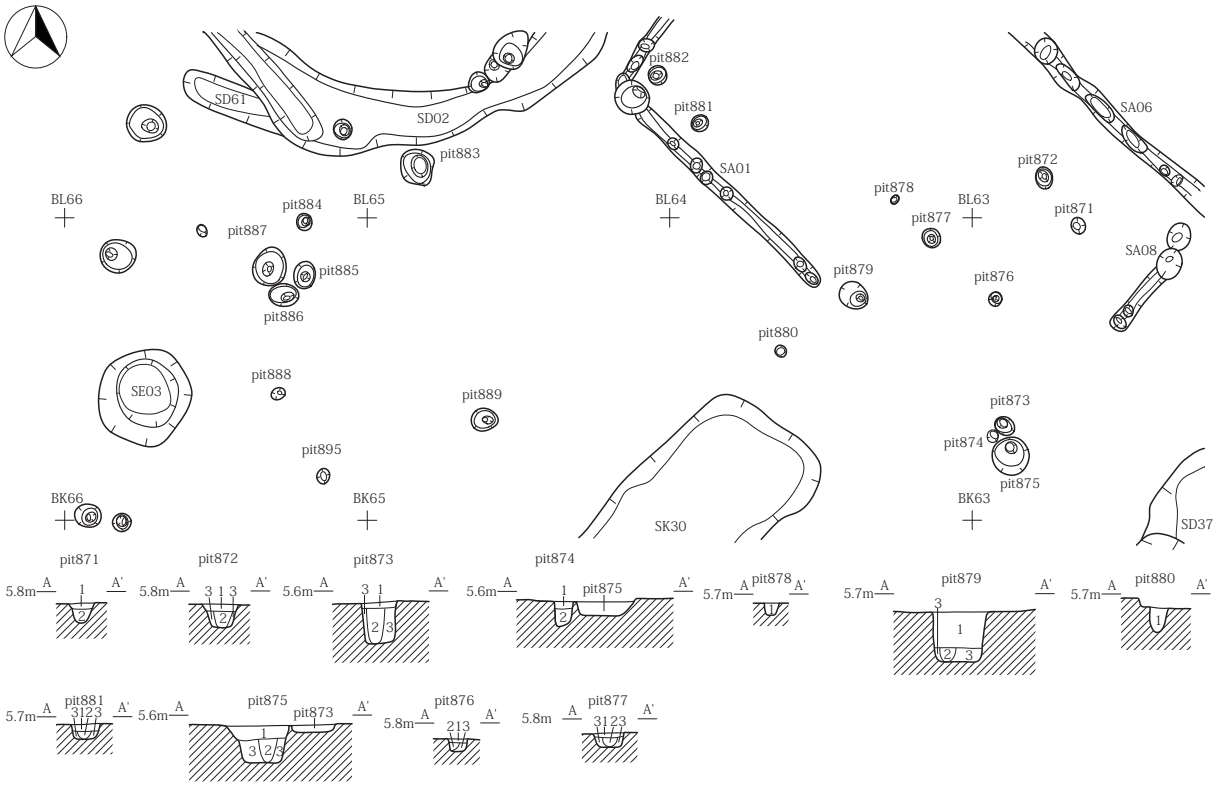
pit1022土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit1023土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト質粘土　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量



(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-33　遺構外 pit(9-2)



pit871土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit872土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit873土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit874土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit878土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量

pit879土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量

pit880土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit881土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物微量

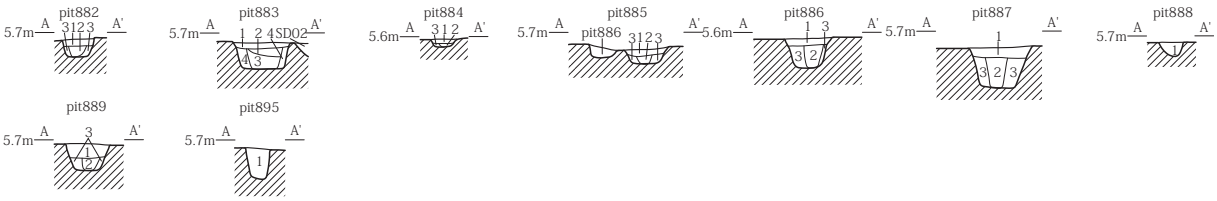
pit875土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit876土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物中量
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分中量、炭化物少量

pit877土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/4　暗褐色　シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量

(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-34　遺構外 pit(10-1)



pit882土層観察表
1層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit883土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit884土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量

pit885土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量

pit886土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量

pit887土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質シルト　鉄分多量

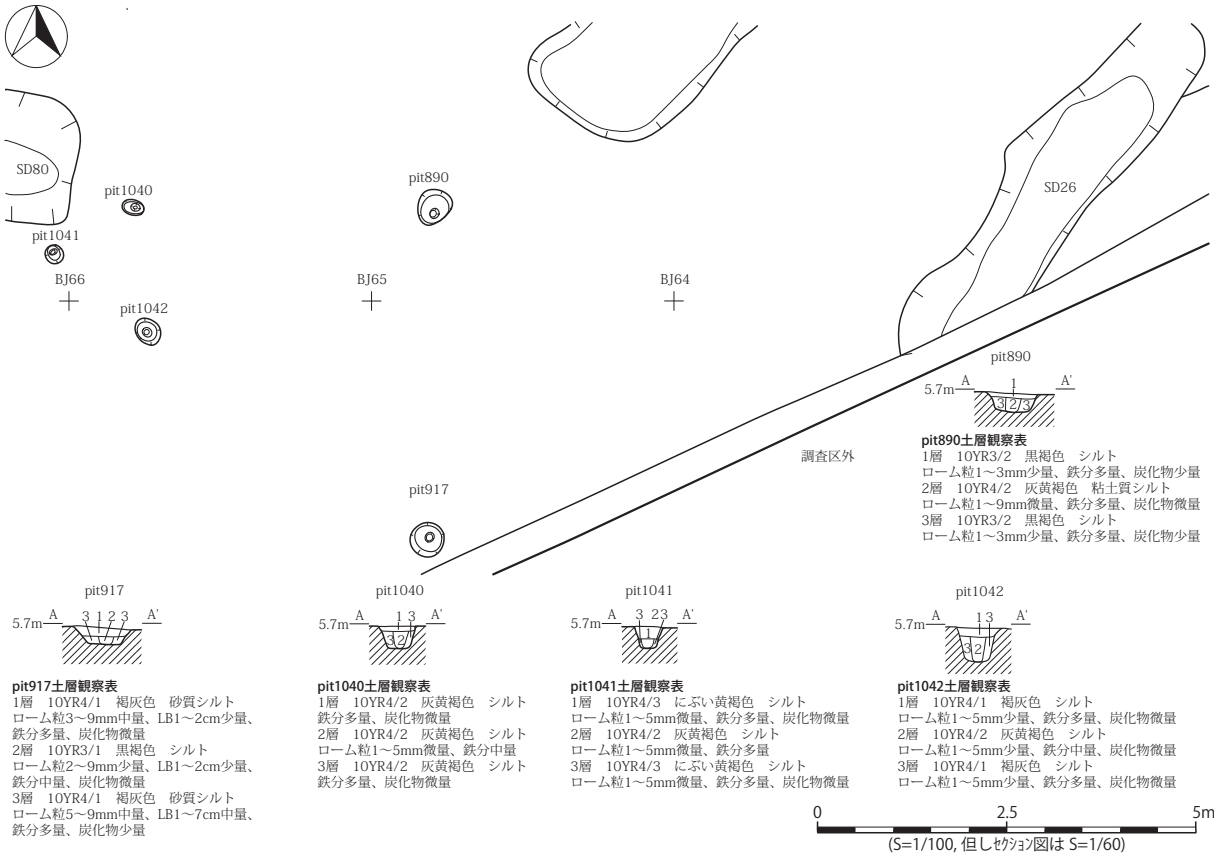
pit888土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit889土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物少量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分多量、炭化物少量

pit895土層観察表
1層　10YR5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅲ-6-35　遺構外pit（10-2）



pit890土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト
ローム粒1～3mm少量、鉄分多量、炭化物少量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト
ローム粒1～9mm微量、鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト
ローム粒1～3mm少量、鉄分多量、炭化物少量

pit917土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
ローム粒3～9mm中量、LB1～2cm少量、鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト
ローム粒2～9mm少量、LB1～2cm少量、鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト
ローム粒5～9mm中量、LB1～7cm中量、鉄分多量、炭化物少量

pit1040土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
ローム粒1～5mm微量、鉄分中量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量

pit1041土層観察表
1層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
ローム粒1～5mm微量、鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
ローム粒1～5mm微量、鉄分多量
3層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト
ローム粒1～5mm微量、鉄分多量、炭化物微量

pit1042土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト
ローム粒1～5mm少量、鉄分多量、炭化物微量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
ローム粒1～5mm少量、鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR4/1　褐灰色　シルト
ローム粒1～5mm少量、鉄分多量、炭化物微量

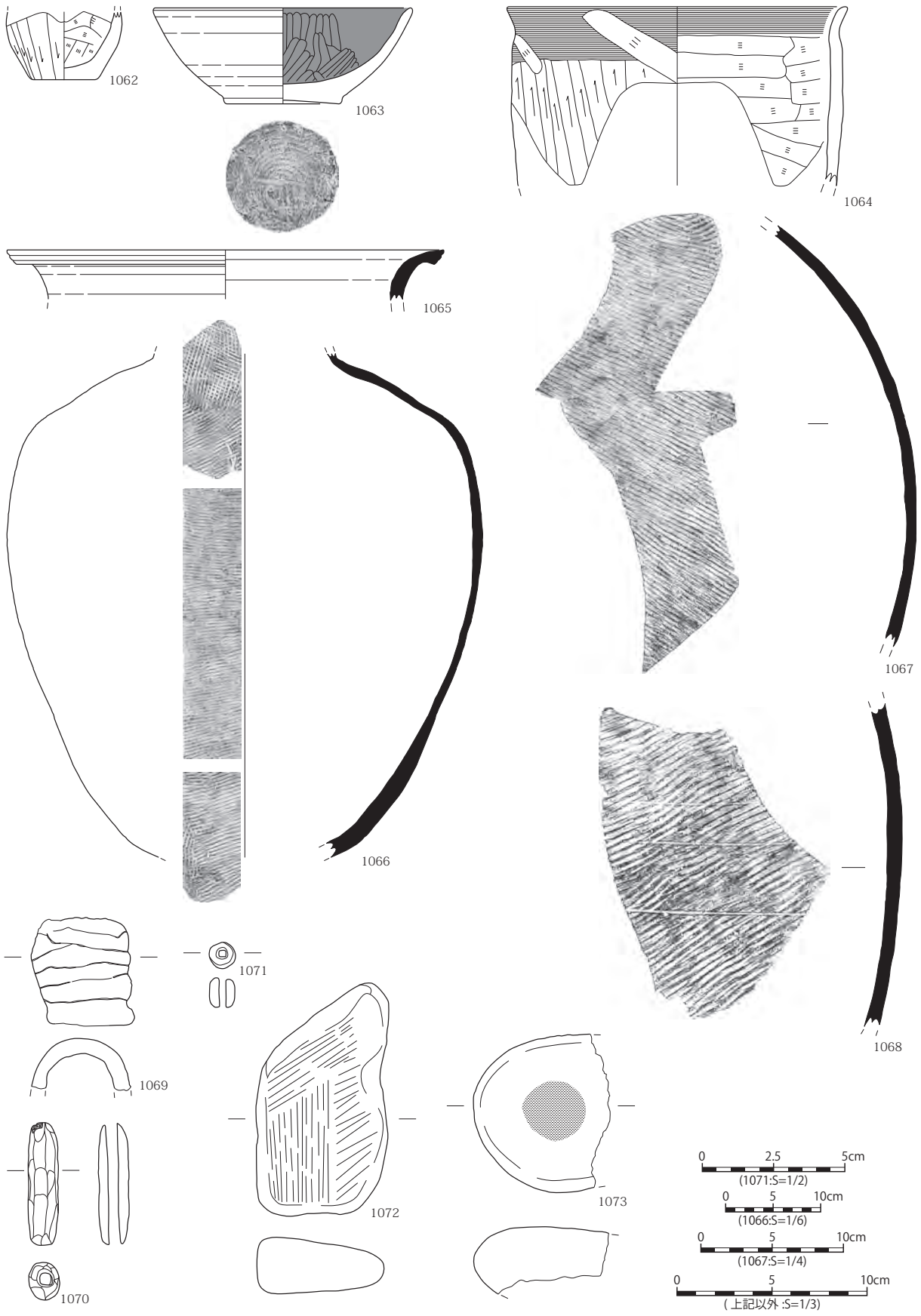
0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅲ-6-36　遺構外pit（11）

3）出土遺物（図Ⅲ -6-37）

柱穴内での出土遺物の内図示可能な個体は全部で 12 点であった。1062 は土師器のミニチュアであり、非ロクロの甕である。1063 は土師器の椀形坏であり、ロクロ成形後内面にミガキ調整が施された後黒色処理が施されている。1064 は土師器の甕であり、口縁内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。

1065 ～ 1068 は須恵器である。1065 は大甕の口縁部であり、内外面ともロクロ整形である。1066 は中甕の体部破片であり、肩部及び底部付近の外面は格子タタキ目、体部は平行タタキ目が見られる。1067・1068 は甕の体部破片であり、平行タタキ目が見られる。



図Ⅲ-6-37　pit 出土遺物

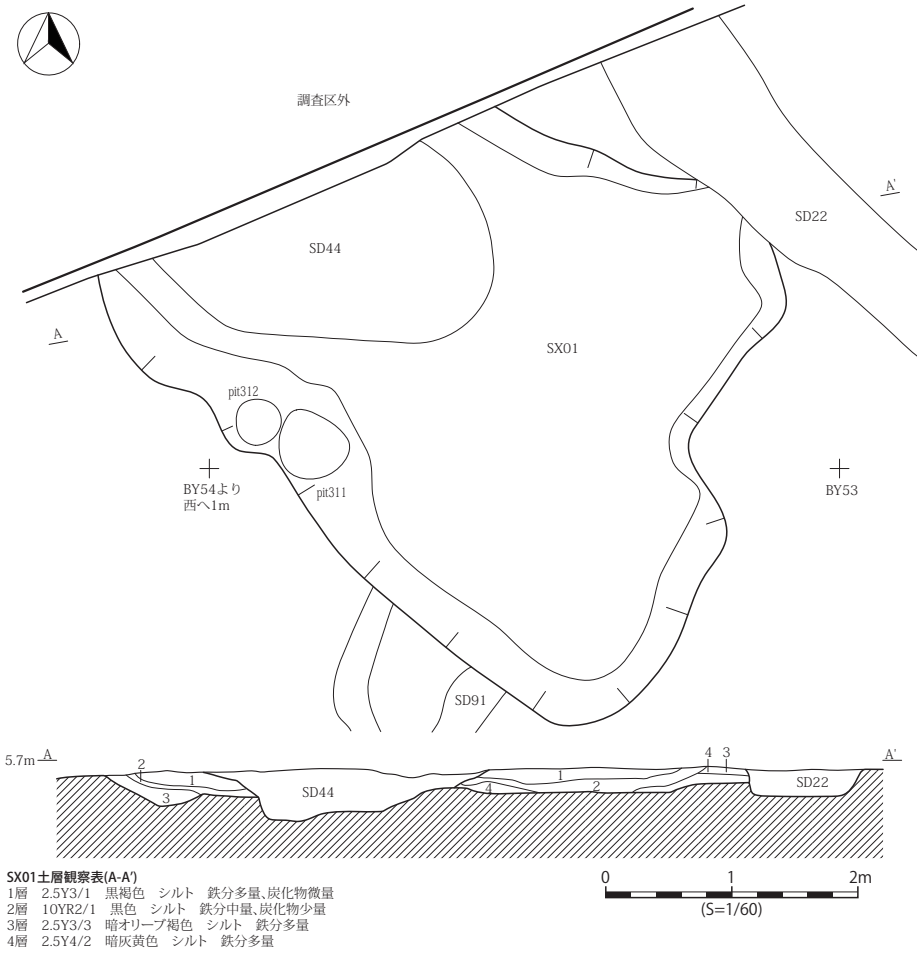
1069 は支脚であり、粘土紐の輪積痕が確認され、粗雑な作りである。1070 は土錘であり、小形のもので内水面の網漁に使用されたものと考えられる。1071 は銅製の玉である（詳細は第 6 章第 5 節参照。）。

1072・1073 は砥石であり、いずれも扁平な円礫の平坦部を砥面として使用している。材質は 1072 が流紋岩、1073 が安山岩である。

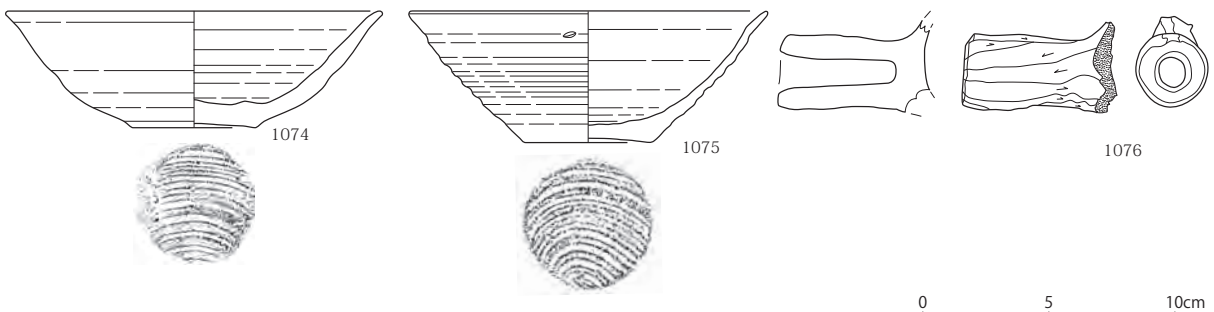
第 7 節　不明遺構（SX）

第 1 号不明遺構（SX01、図Ⅲ -7-1）

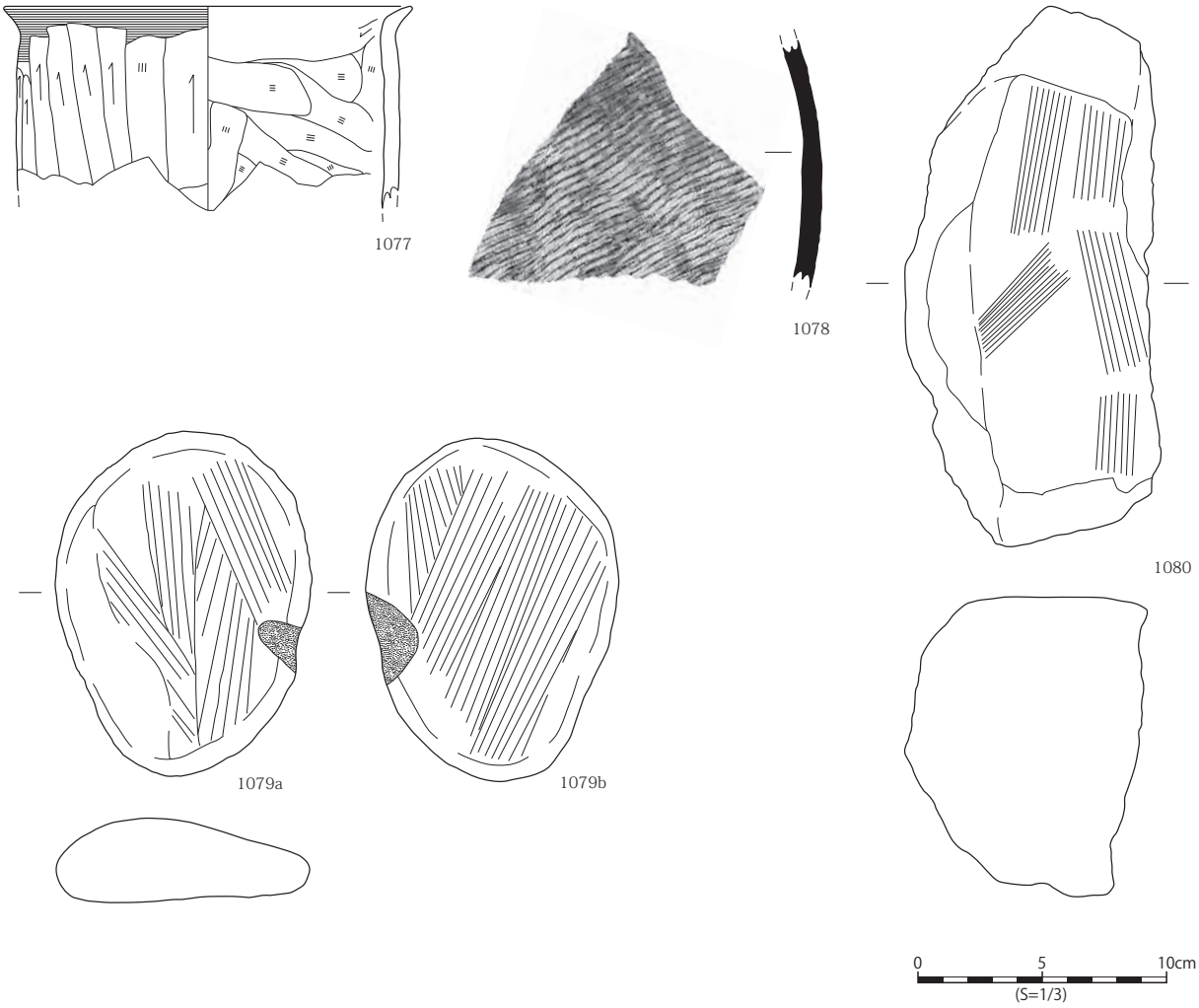
［位置･確認］グリッド BX・BY53，54 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係 ］SD22・44・91 と重複関係にあり、SD22・44 よりも古く、SD91 よりも新しい。［規模・形状］南東方向から北西方向へと調査区外へと延びる不定形の竪穴状遺構である。確認長 486cm、 幅 251 ～ 417cm、 深さ 19cm を測る。［堆積土］4 層確認され、1･2 層は黒色土を基調とする層、3･4 層はⅣ層由来の層で形成されており、遺構形成後に壁面崩落土がまず堆積



図Ⅲ-7-1　SX01

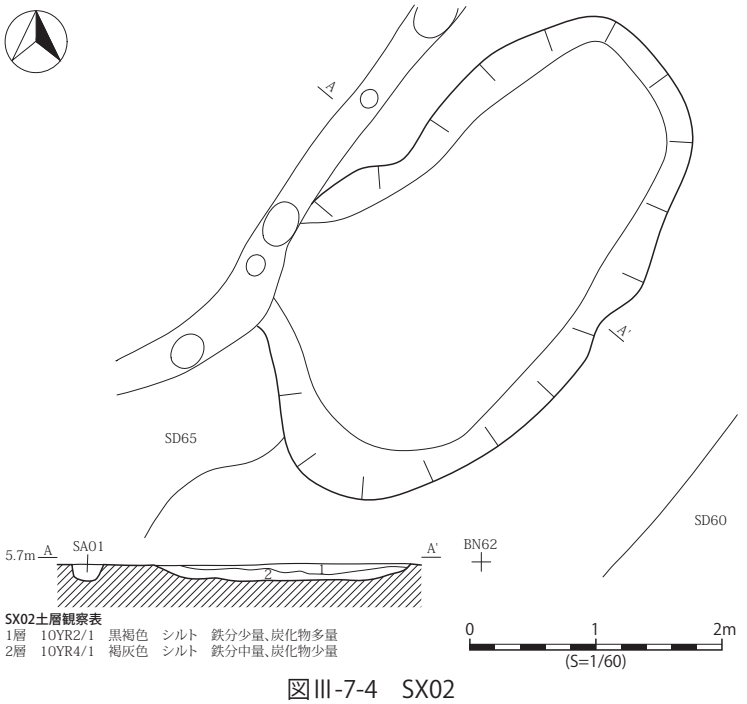


図Ⅲ-7-2　SX01 出土遺物 (1)



図Ⅲ-7-3　SX01 出土遺物 (2)

し、その後腐植土層が堆積している。［出土遺物］土師器坏 1,170g、土師器甕 5,300g、須恵器甕 182.7g、須恵器壷 12.7g が出土している。この内図示できたのは 7 点である（図Ⅲ-7-2・3）。1074・1075 は土師器の皿形坏であり、1075 は外面に籾圧痕が確認された。調整はいずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を有し未調整である。1076 は土師器の把手付土器の把手部であり、中空筒型を呈し、外面にはケズリ調整が施されている。1077 は土師器の小型甕であり、短い頸部を有し外面は口縁にヨコナデを施した後体部外面はケ

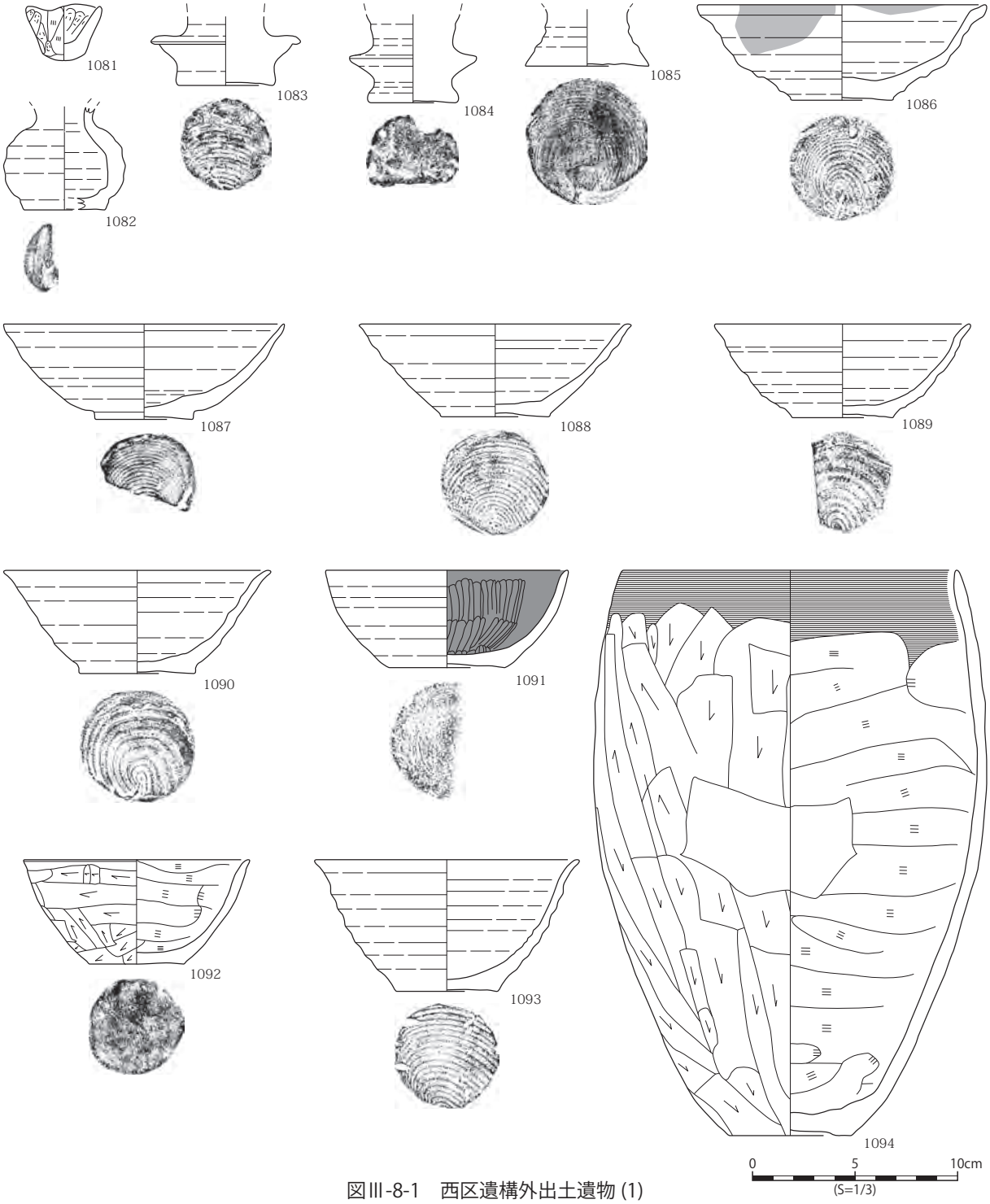


図Ⅲ-7-4　SX02

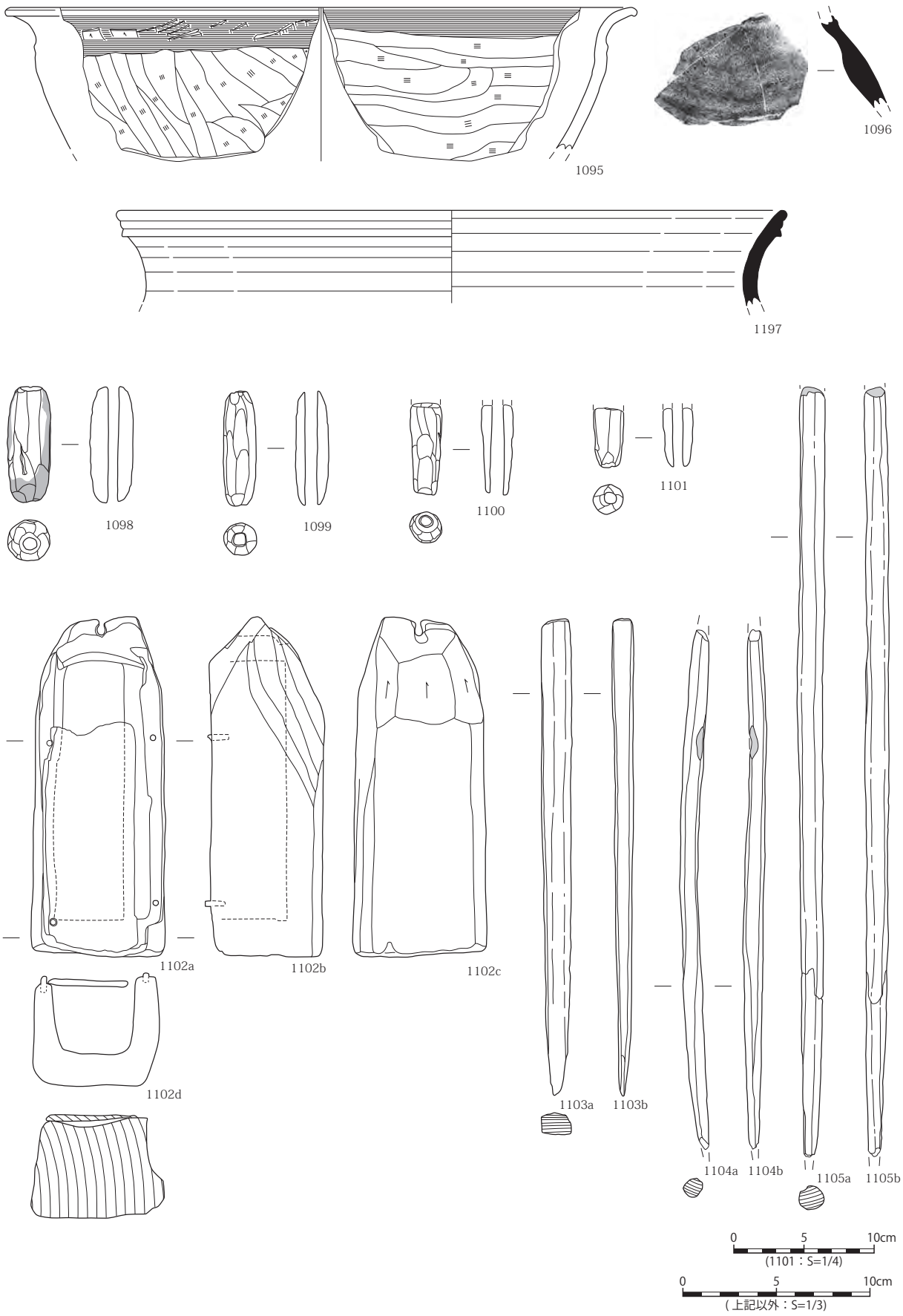
ズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。1078 は須恵器の甕の体部破片であり、平行タタキ目がみられる。1079・1080 は砥石であり、1079 は扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。1080 は角礫の平坦面を砥面として使用している。材質は 1079 が石英安山岩、1080 が流紋岩である。

第 2 号不明遺構（SX02、図Ⅲ -7-4）

［位置・確認］グリッド BN61，62 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA01、SD65 と重複関係にあり、SA01 よりも古く、SD65 よりも新しい。［規模・形状］北東方向から南西方向



図Ⅲ-8-1　西区遺構外出土遺物 (1)



図Ⅲ-8-2　遺構外出土遺物 (2)

へと延びる不定形の竪穴状遺構である。長さ 434cm、幅 203 ～ 237cm、深さ 13cm を測る。［堆積土］2 層確認され、1 層は黒色土を基調とする層、2 層はⅢ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 49g、土師器甕 86g、須恵器甕 180g が出土している。

第 8 節　遺構外出土遺物

遺構外からも多量の遺物が出土したが、いずれも後世の攪乱により原形を留めている個体は少なく、図示可能なものを以下に述べることにする（図Ⅲ -8-1・2）。1081 は土師器のミニチュアの甕であり、非ロクロ、内外面ともにユビナデ調整が施されている。1082 は土師器のミニチュアの壺であり、ロクロ成形で底面に回転糸切痕を有し、未調整である。1083 ～ 1085 は土師器の高台部であり、いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、未調整である。1083・1084 は器形から高台付耳皿、1087 は高台付坏の台部であると考えられる。1086 ～ 1088 は土師器の皿形坏、1089・1090 は土師器の椀形坏、1091 ～ 1093 は土師器の椀であり、1092 は非ロクロで、外面はケズリ調整、内面はナデ調整が施されている。それ以外はロクロ成形であるが、1091 は内面を磨いた後黒色処理が施されている。また、1086 は内外面に二次被熱を受けている。1094 は内彎口縁を有する土師器の長胴甕であり、口縁内外面にユビナデ調整が施された後外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。1095 は土師器の鍋であり、口縁内外面にユビナデ調整が施された後外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。1096 は須恵器壺の肩部破片であり、ヘラ記号が描かれている。1097 は須恵器大甕の口縁部破片であり、口縁端部の形態から前田野目系の須恵器である。

1098 ～ 1101 は土錘であり、いずれもユビナデ成形である。

1102 は木製品の舟形容器であり、割材を刳り抜いて成形した後、1 端に穿孔が確認され、天板により木釘留されており、用途は不明である。1103 ～ 1105 は用途不明の棒状製品であり、いずれも一端を細く尖らせている。樹種はいずれもアスナロである。

第Ⅳ章　東区の検出遺構と出土遺物

第 1 節　柵列跡（SA）

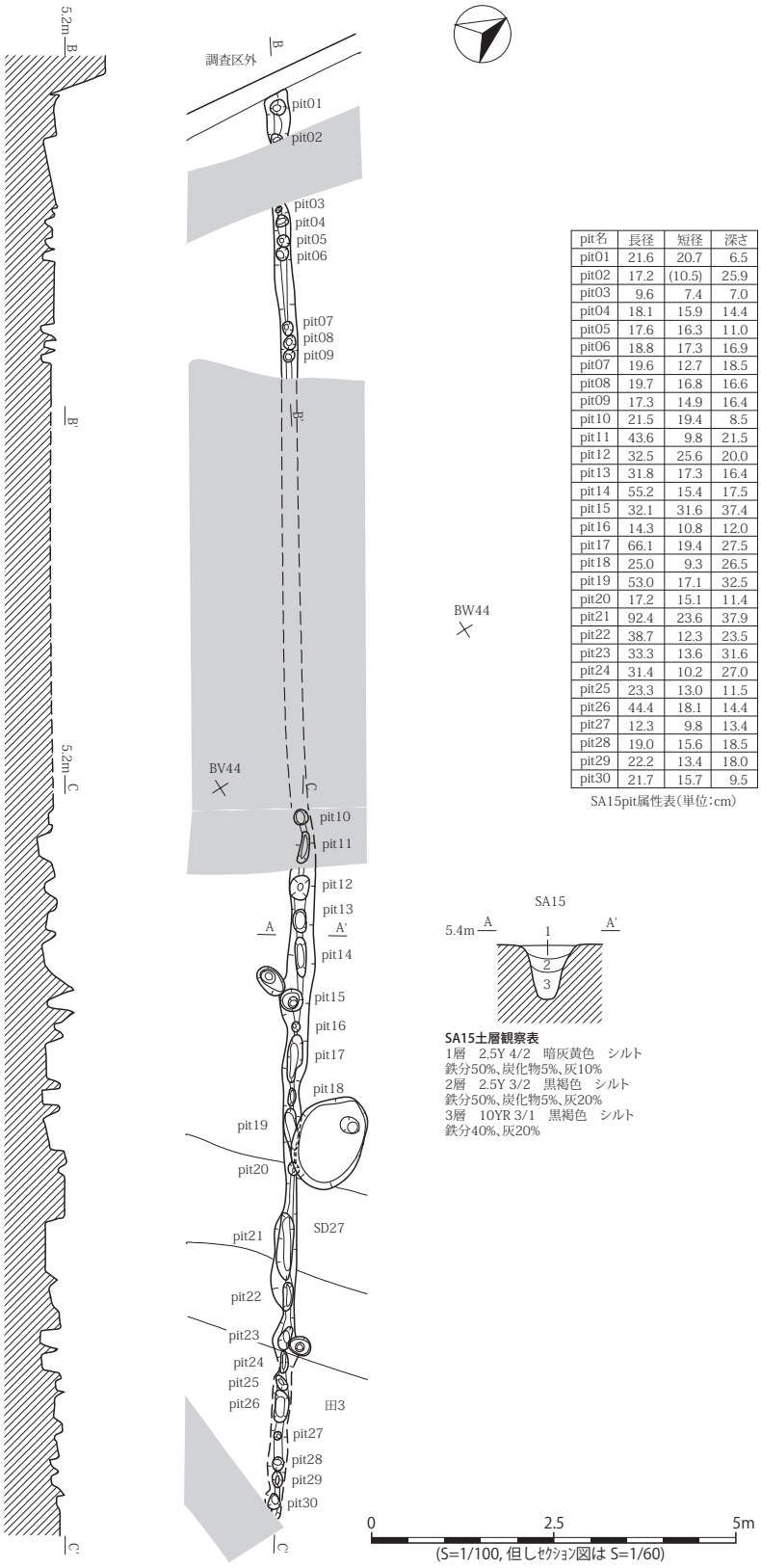
柵列跡は全部で 5 条確認された。幅 20cm 前後、深さ 10cm 前後の溝状の掘り込み面を有するものと、掘り込みが従来あったと考えられるが、後世の削平により連続したピットのみで構成されるものが確認された。

第 15 号柵列跡（SA15、図Ⅳ-1-1）

［位置・確認］グリッド BT41，42、BU42，43、BV43 ～ 45、BW45 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD127、SB28 と重復関係があり、SB28 よりも古く、SD127 よりも新しい。［規模・形状］調査区外へと延びるため正確な規模・形状は不明であるが、幅 14.5 ～ 39cm、深さ 13.4 ～ 46.4cm、距離 1,951cm を図り、南東方向から北西方向に直線状に延びる。ピットは全部で 30 基検出され、各 pit の属性は属性表のとおりである。［堆積土］3 層確認され、1 層はⅢ層由来の土を主体とし、2・3 層は黒褐色土主体である。［出土遺物］特になし。

第 16 号柵列跡（SA16、図Ⅳ-1-2）

［位置・確認］グリッド BV・BW42，43 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特



pit名	長径	短径	深さ
pit01	21.6	20.7	6.5
pit02	17.2	(10.5)	25.9
pit03	9.6	7.4	7.0
pit04	18.1	15.9	14.4
pit05	17.6	16.3	11.0
pit06	18.8	17.3	16.9
pit07	19.6	12.7	18.5
pit08	19.7	16.8	16.6
pit09	17.3	14.9	16.4
pit10	21.5	19.4	8.5
pit11	43.6	9.8	21.5
pit12	32.5	25.6	20.0
pit13	31.8	17.3	16.4
pit14	55.2	15.4	17.5
pit15	32.1	31.6	37.4
pit16	14.3	10.8	12.0
pit17	66.1	19.4	27.5
pit18	25.0	9.3	26.5
pit19	53.0	17.1	32.5
pit20	17.2	15.1	11.4
pit21	92.4	23.6	37.9
pit22	38.7	12.3	23.5
pit23	33.3	13.6	31.6
pit24	31.4	10.2	27.0
pit25	23.3	13.0	11.5
pit26	44.4	18.1	14.4
pit27	12.3	9.8	13.4
pit28	19.0	15.6	18.5
pit29	22.2	13.4	18.0
pit30	21.7	15.7	9.5

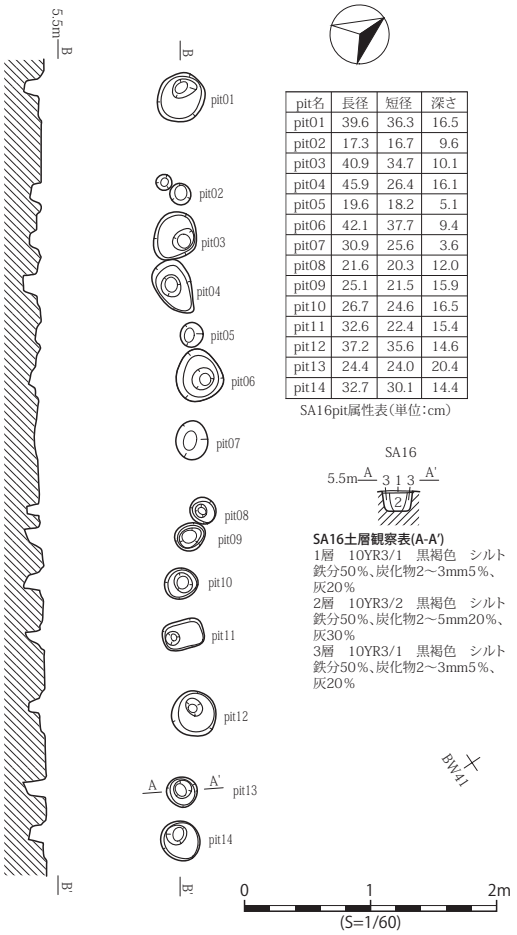
SA15pit属性表（単位：cm）

SA15土層観察表
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分50%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト
鉄分50%、炭化物5%、灰20%
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分40%、灰20%

(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅳ-1-1　SA15

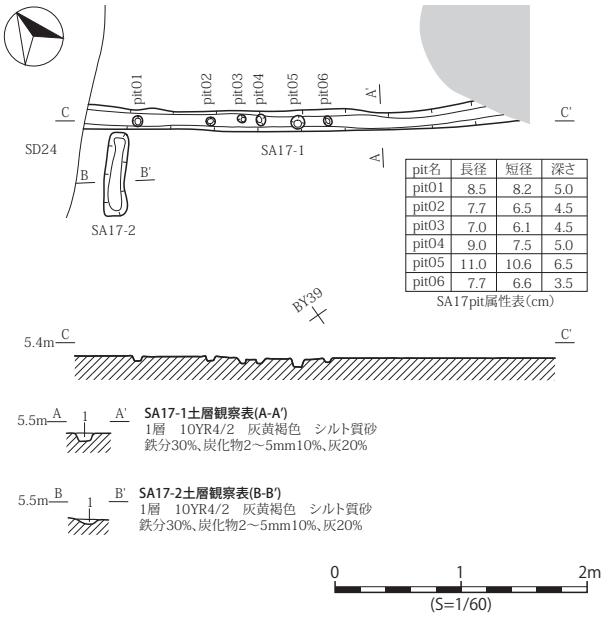
になし。［規模・形状］溝状の掘り込みは確認されなかったが、連続するピットから柵列跡と認定した。幅 19 ～ 45cm、深さ 5 ～ 20cm、距離 526cm を図り、南東方向から北西方向に直線状に延びる。ピットは全部で 14 基検出され、各 pit の属性は属性表のとおりである。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］特になし。



pit名	長径	短径	深さ
pit01	39.6	36.3	16.5
pit02	17.3	16.7	9.6
pit03	40.9	34.7	10.1
pit04	45.9	26.4	16.1
pit05	19.6	18.2	5.1
pit06	42.1	37.7	9.4
pit07	30.9	25.6	3.6
pit08	21.6	20.3	12.0
pit09	25.1	21.5	15.9
pit10	26.7	24.6	16.5
pit11	32.6	22.4	15.4
pit12	37.2	35.6	14.6
pit13	24.4	24.0	20.4
pit14	32.7	30.1	14.4

SA16pit属性表(単位:cm)

図Ⅳ-1-2　SA16



pit名	長径	短径	深さ
pit01	8.5	8.2	5.0
pit02	7.7	6.5	4.5
pit03	7.0	6.1	4.5
pit04	9.0	7.5	5.0
pit05	11.0	10.6	6.5
pit06	7.7	6.6	3.5

SA17pit属性表(cm)

図Ⅳ-1-3　SA17

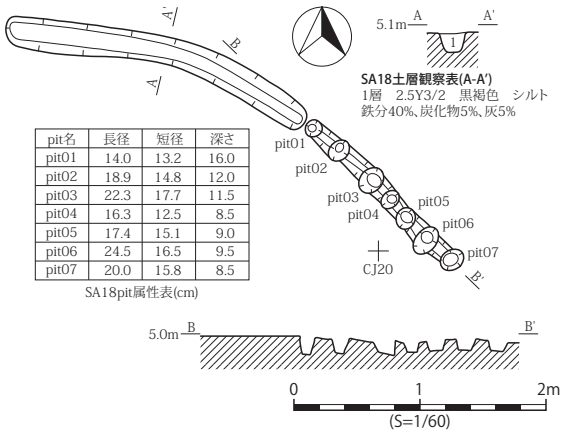
〜 20cm、距離 526cm を図り、南東方向から北西方向に直線状に延びる。ピットは全部で 14 基検出され、各 pit の属性は属性表のとおりである。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］特になし。

第 17 号柵列跡（SA17、図Ⅳ -1-3）

［位置・確認］グリッド BY38，39 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD124 と重復関係があり、SD124 よりも古い。［規模・形状］幅 13 ～ 19cm、深さ 8 ～ 16cm、距離 290cm を図り、南東方向から北西方向に直線状に延びる。ピットは全部で 6 基検出され、各 pit の属性は属性表のとおりである。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の土を主体とする。［出土遺物］特になし。

第 18 号柵列跡（SA18、図Ⅳ -1-4）

［位置・確認］グリッド CI19、CJ19, 20 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］幅 14 ～ 26cm、深さ 7.5 ～ 18.5cm、距離 420cm を図り、南東方向から北西方向にやや弧状を描きながら延びる。ピットは全部で 7 基検出され、各 pit の属性は属性表のとおりである。［堆積土］1 層確認され、1 層はⅢ層由来の土を主体とする。［出土遺物］特になし。



pit名	長径	短径	深さ
pit01	14.0	13.2	16.0
pit02	18.9	14.8	12.0
pit03	22.3	17.7	11.5
pit04	16.3	12.5	8.5
pit05	17.4	15.1	9.0
pit06	24.5	16.5	9.5
pit07	20.0	15.8	8.5

SA18pit属性表(cm)

図Ⅳ-1-4　SA18

第２節　溝跡（SD）・竪穴住居跡（SI）

溝跡は全部で 101 条検出された。

第 101・129 号溝跡（SD101・129、図Ⅳ -2-1）

（SD101）

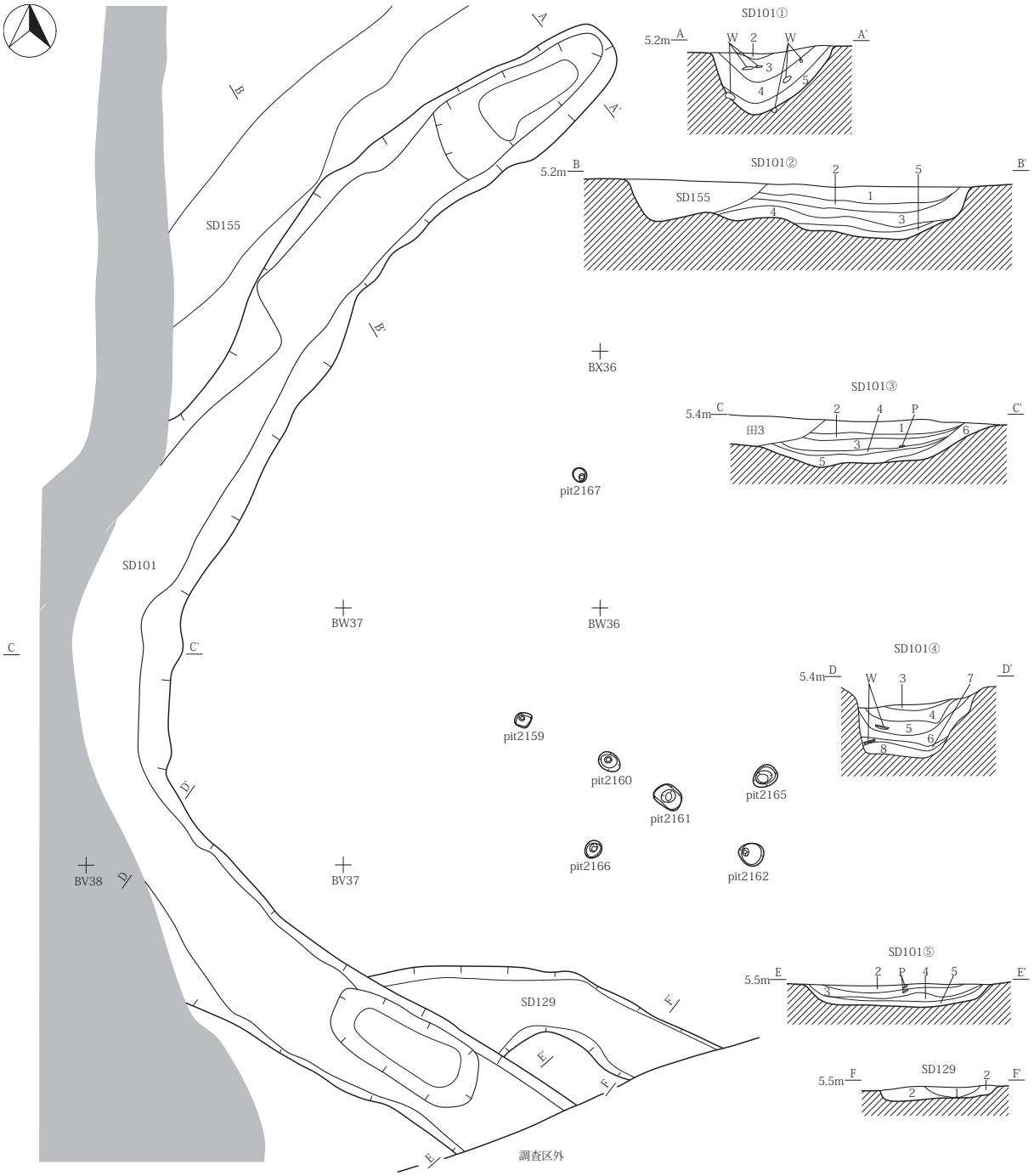
［位置・確認］グリッド BU36，37、BV・BW・BX37、BX・BY36 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD129 と重復関係にあり、SD129 よりも新しい。［規模・形状］調査区外へと延びるため、正確な規模・形状は不明であるが、確認長 2,292.5cm、幅 134 ～ 175.5cm、深さ 72cm を測り、北東方向から南西方向へと直線状に延び、途中で向きを南東方向へと転じ、調査区外へと延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］8 層確認され、黒色土と泥炭層が互層を成している。［出土遺物］土師器のミニチュア 363.9g、耳皿 236.4g、高台付坏 216.3g、坏 17,756.2g、甕 58,879.1g、把手付土器 187g、須恵器の甕 3,160g、壺 709g、鉢 557g、土製品 334g 等が出土している（図Ⅳ -2-2 ～ 6）。その内図示できたものは 183 点である（図Ⅳ -2-7 ～ 21）。2001 ～ 2003・2006 は土師器のミニチュアであり、2001・2002 はロクロ成形の壺、2003 は非ロクロの甕、2006 はロクロ成形の坏である。2004・2005 は、台付の耳皿である。

2007 ～ 2010 は土師器の皿であり、2008 は内外面、2009 は内面に二次被熱を受けている。2010 は外面にヘラ記号が描かれている。2011 ～ 2017 は土師器の皿形坏であり、2011 には外面にヘラ記号が描かれており、2015 には外面に墨書が書かれており、2017 は外面に二次被熱を受けている。2018 ～ 2024 は土師器の埦形坏であり、2019 は内彎気味に立ち上がる直上口縁を有する個体で、当遺跡では他に類例のない個体である。2018 の外面、2021 の内面、2024 の内面にはヘラ記号が描かれている。2020 は内外面に二次被熱を受けている。2025 は土師器の台付坏であり、台部は中実である。2026 ～ 2036 は土師器の埦であり、2018 の外面、2027・2028・2033 の外面にはヘラ記号が描かれている。2034・2035 は内外面に二次被熱を受けている。2037・2038 は土師器の大型坏であり、2038 は内外面に二次被熱を受けている。2039 ～ 2046 はヘラ記号を有する土師器坏の破片資料である。調整はいずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。

2047 ～ 2055 は土師器の小型甕であり、2050 は内外面、2053 は内面、2054 は外面に二次被熱を受けている。調整は、口縁内外面にヨコナデ調整が施され、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデあるいはヘラナデ調整が施されている。2056 ～ 2065 は土師器の長胴甕であり、2064 の内面にはヘラ記号が描かれている。2056 の内外面、2057・2058・2060・2061・2063 の外面は二次被熱を受けている。調整は、口縁内外面（一部は外面のみ）にヨコナデ調整が施され、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデあるいはヘラナデ調整が施されている。2066・2067 は土師器の把手付土器であり、把手部は中空であり、外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。また 2066 は内外面、2067 は外面に二次被熱を受けている。

2068 は須恵器の鉢であり、体部上半にヘラ記号が描かれている。2069・2070 は須恵器の長頸壺であり、ロクロ整形で、2070 の頸部にはヘラ記号が描かれている。2071 は須恵器の中甕の口縁部破片であり、2072 は須恵器の中甕の体部破片であり、内面に鳥足状の当具痕が確認された。

2073 ～ 2075 は支脚であり、いずれも粘土紐の輪積痕が見られ、調整は粗雑である。2073 は底面を有し、2074 は底面が無く、底部付近に三角形状の切り込みを有し、2075 は底面を有するが中



SD101①土層観察表(A-A')
2層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物5～20mm30%、灰40%、焼土2～5mm5%
3層　10YR 3/3　暗褐色　シルト　鉄分10%、泥炭層
4層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分5%、炭化物1～2cm30%、灰10%、焼土5～10mm5%
5層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5～30mm20%、灰10%、泥炭層

SD101②土層観察表(B-B')
1層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm10%、灰20%
2層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物5～20mm30%、灰40%、焼土2～5mm5%
3層　10YR 3/3　暗褐色　シルト　鉄分10%、泥炭層
4層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分5%、炭化物1～2cm30%、灰10%、焼土5～10mm5%
5層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5～30mm20%、灰10%、泥炭層

SD101③土層観察表(C-C')
1層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm10%、灰20%
2層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物5～20mm30%、灰40%、焼土2～5mm5%
3層　10YR 3/3　暗褐色　鉄分10%、泥炭層
4層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分5%、炭化物1～2cm30%、灰10%、焼土5～10mm5%
5層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5～30mm20%、灰10%、泥炭層
6層　10YR 3/1　黒褐色　鉄分20%、炭化物5～10mm10%、灰10%

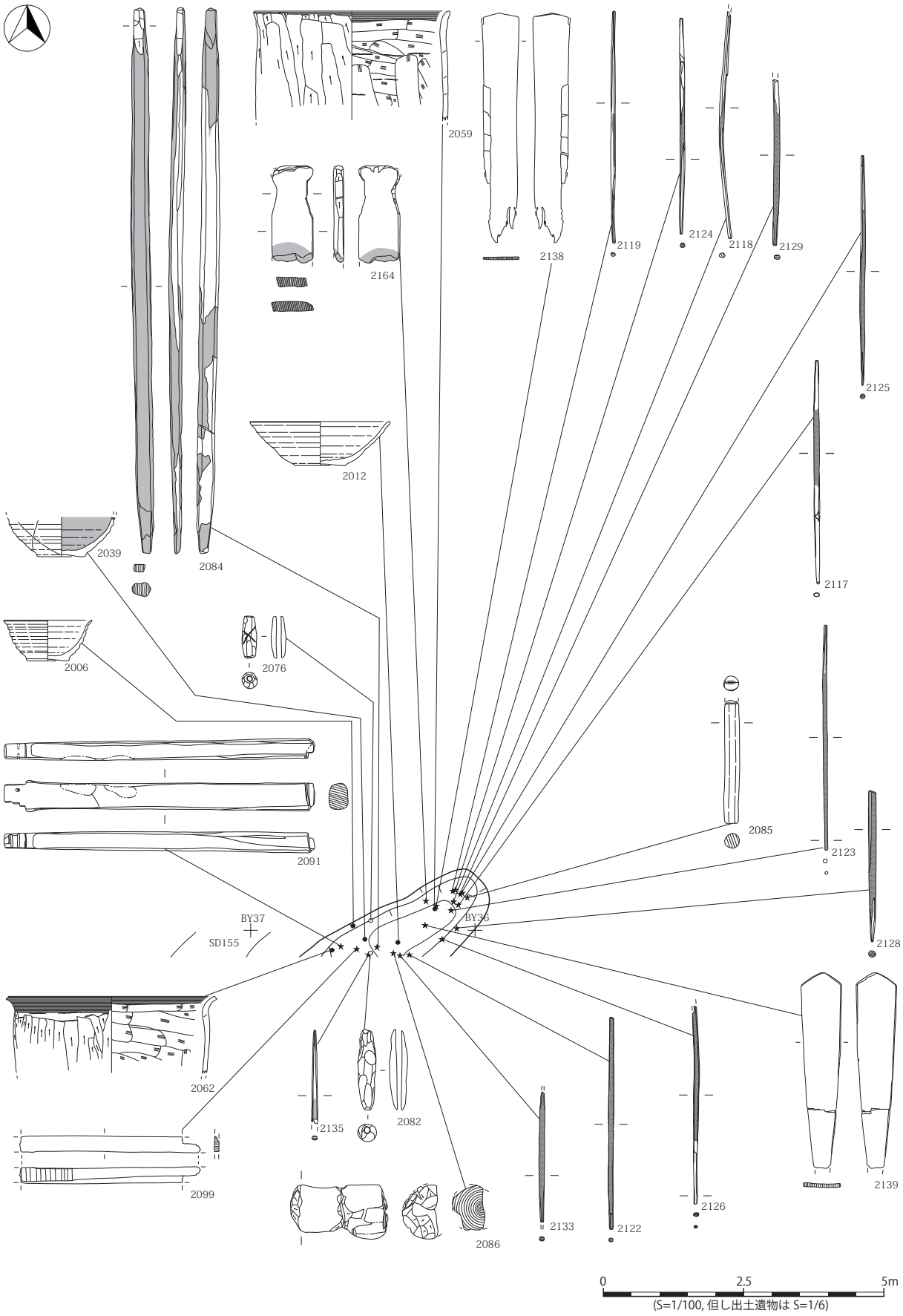
SD101④土層観察表(D-D')
3層　10YR 3/3　暗褐色　シルト　鉄分10%、泥炭層
4層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分5%、炭化物1～2cm30%、灰10%、焼土5～10mm5%
5層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5～30mm20%、灰10%
6層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5～10mm10%、灰10%
7層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物5～20mm20%、灰10%、泥炭層
8層　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト　鉄分10%、炭化物3～5mm5%、灰10%、泥炭層

SD101⑤土層観察表(E-E')
2層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物5～20mm30%、灰40%、焼土2～5mm5%
3層　10YR 3/3　暗褐色　シルト　鉄分10%、泥炭層
4層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分5%、炭化物1～2cm30%、灰10%、焼土5～10mm5%
5層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5～30mm20%、灰10%、泥炭層

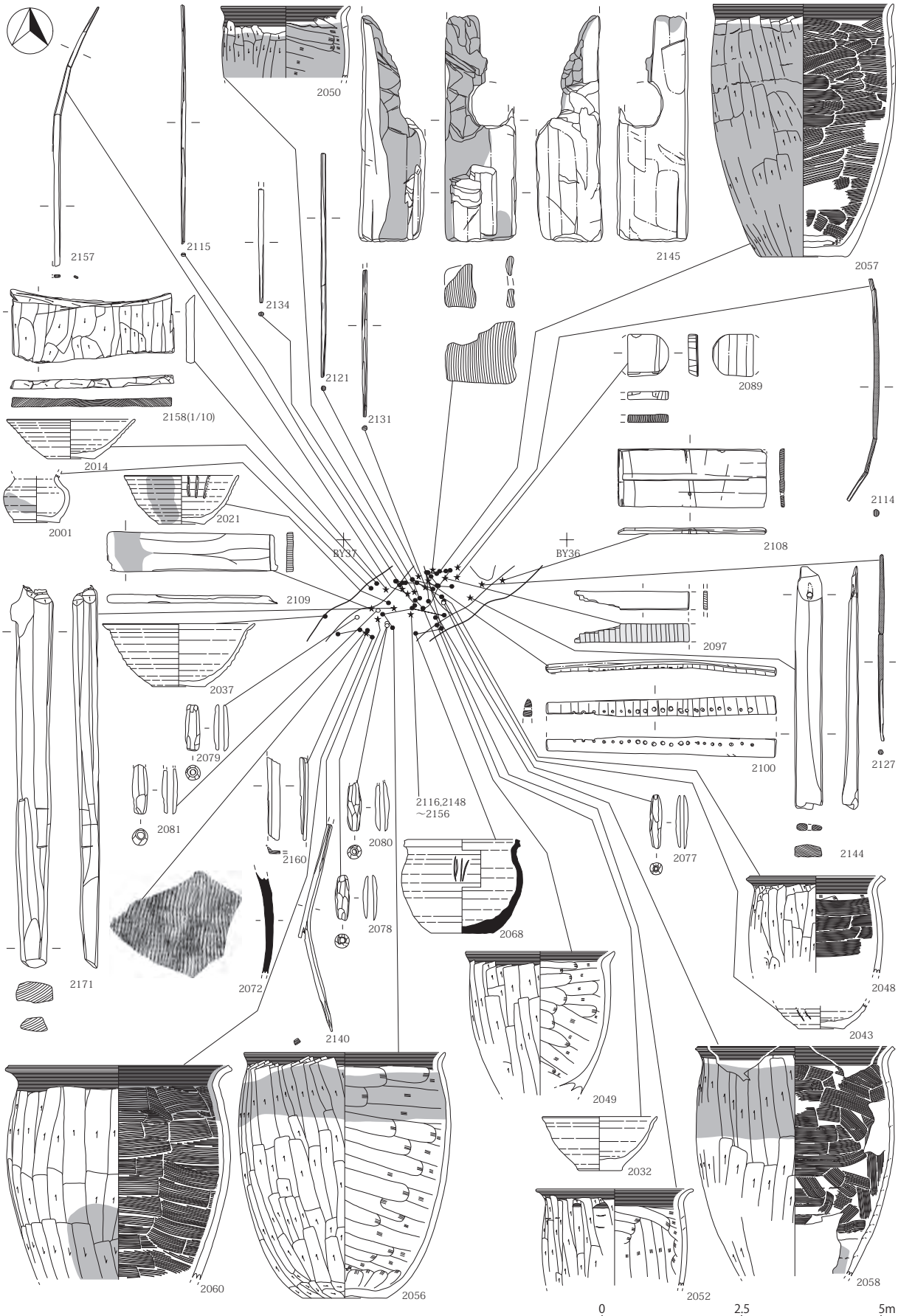
SD129土層観察表(F-F')
1層　10YR 3/1 黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～20mm40%、灰30%
2層　10YR 3/2 黒褐色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰10%

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅳ-2-1　SD101・129

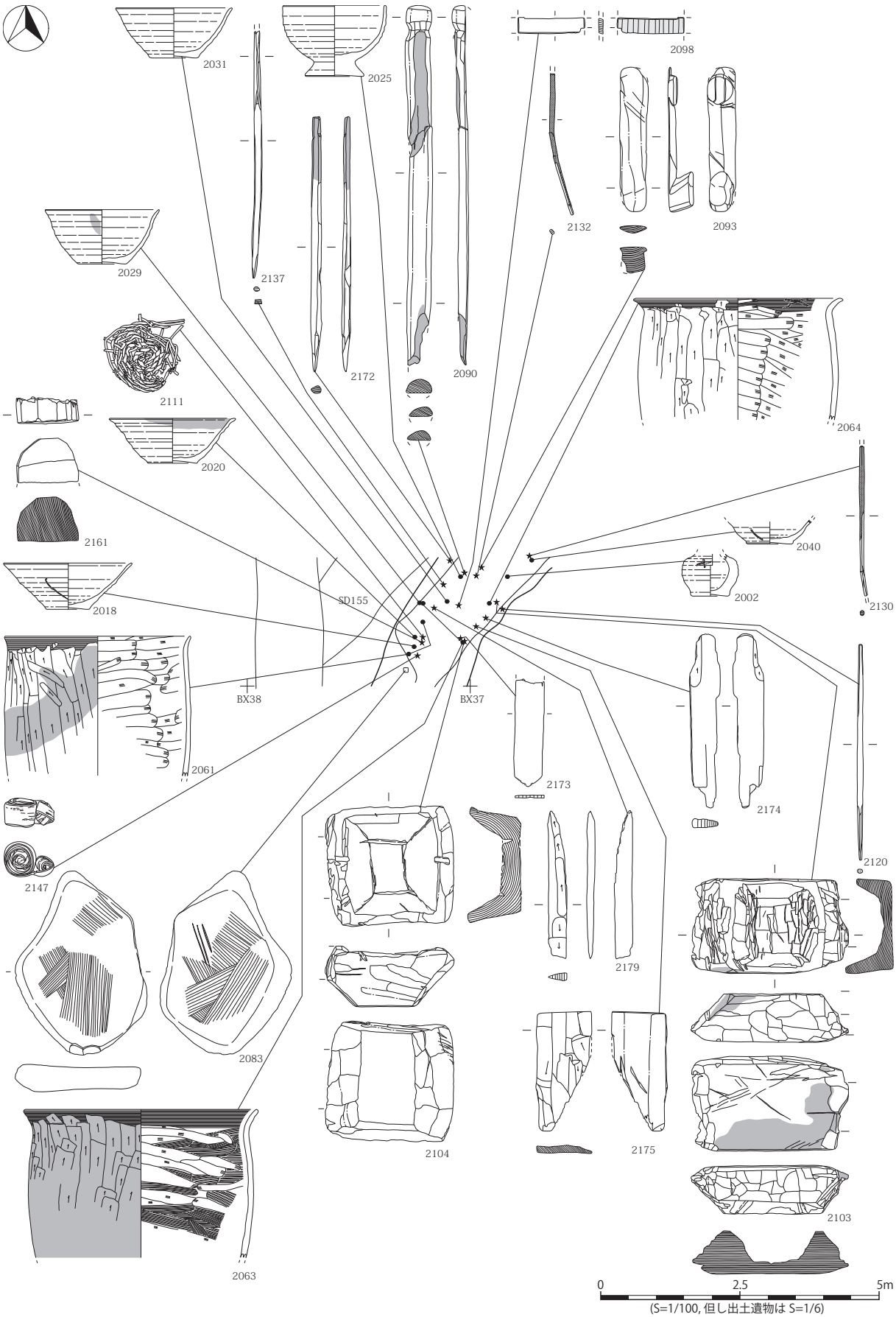


図Ⅳ-2-2　SD101遺物出土状況(1)

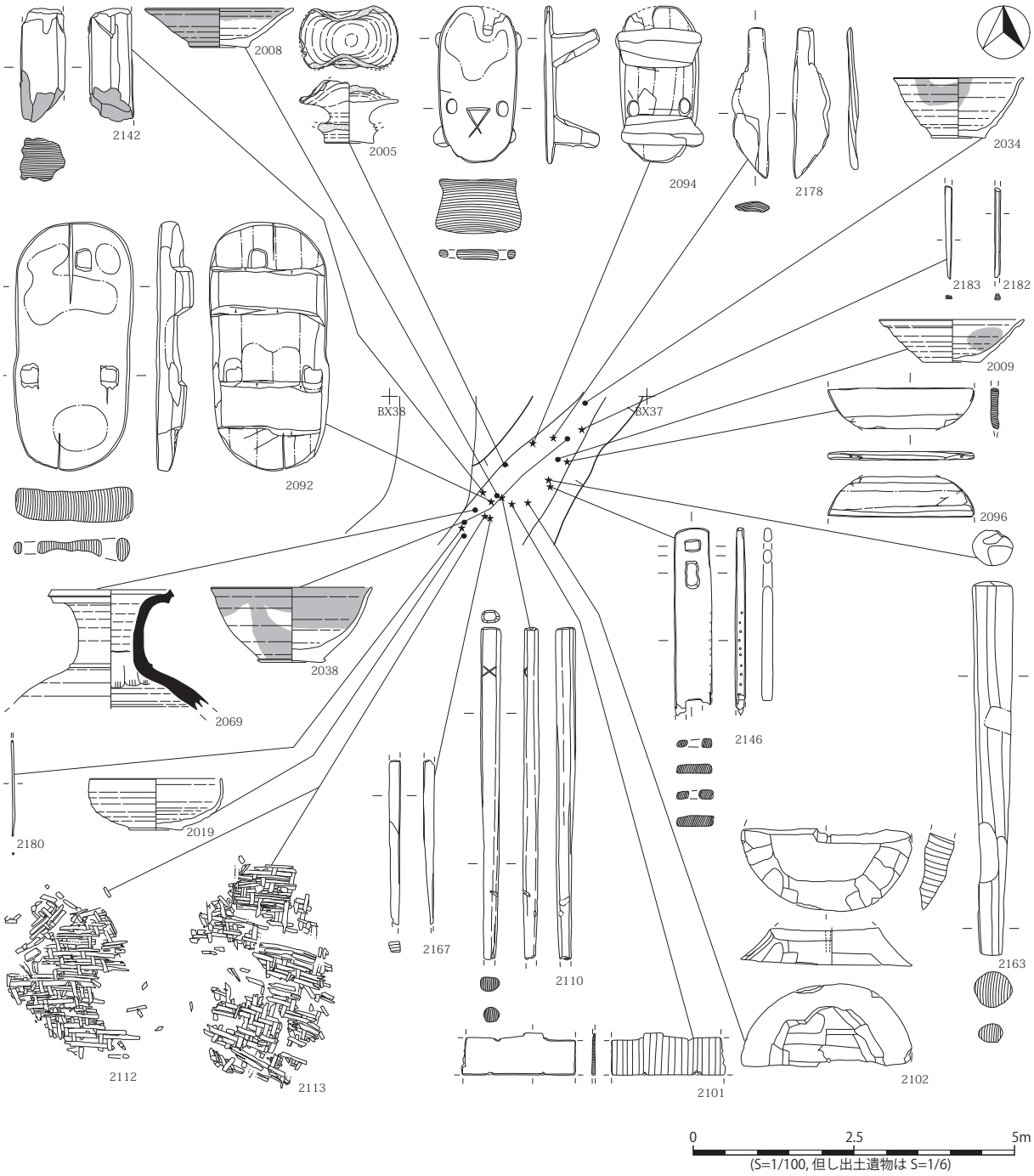


図IV-2-3　SD101遺物出土状況(2)

(S=1/100, 但し出土遺物は S=1/6)



図Ⅳ-2-4　SD101遺物出土状況(3)

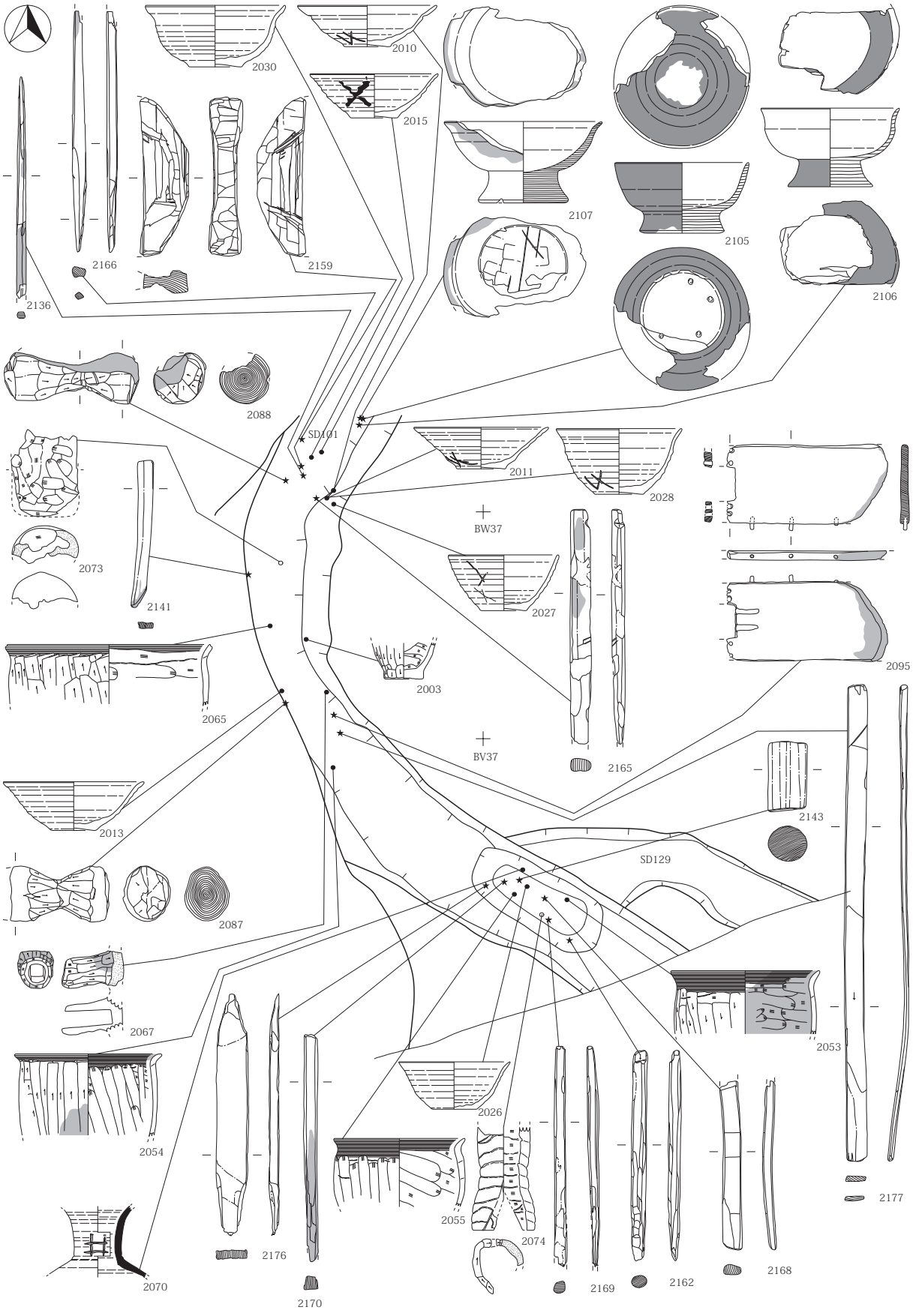


図Ⅳ-2-5　SD101遺物出土状況(4)

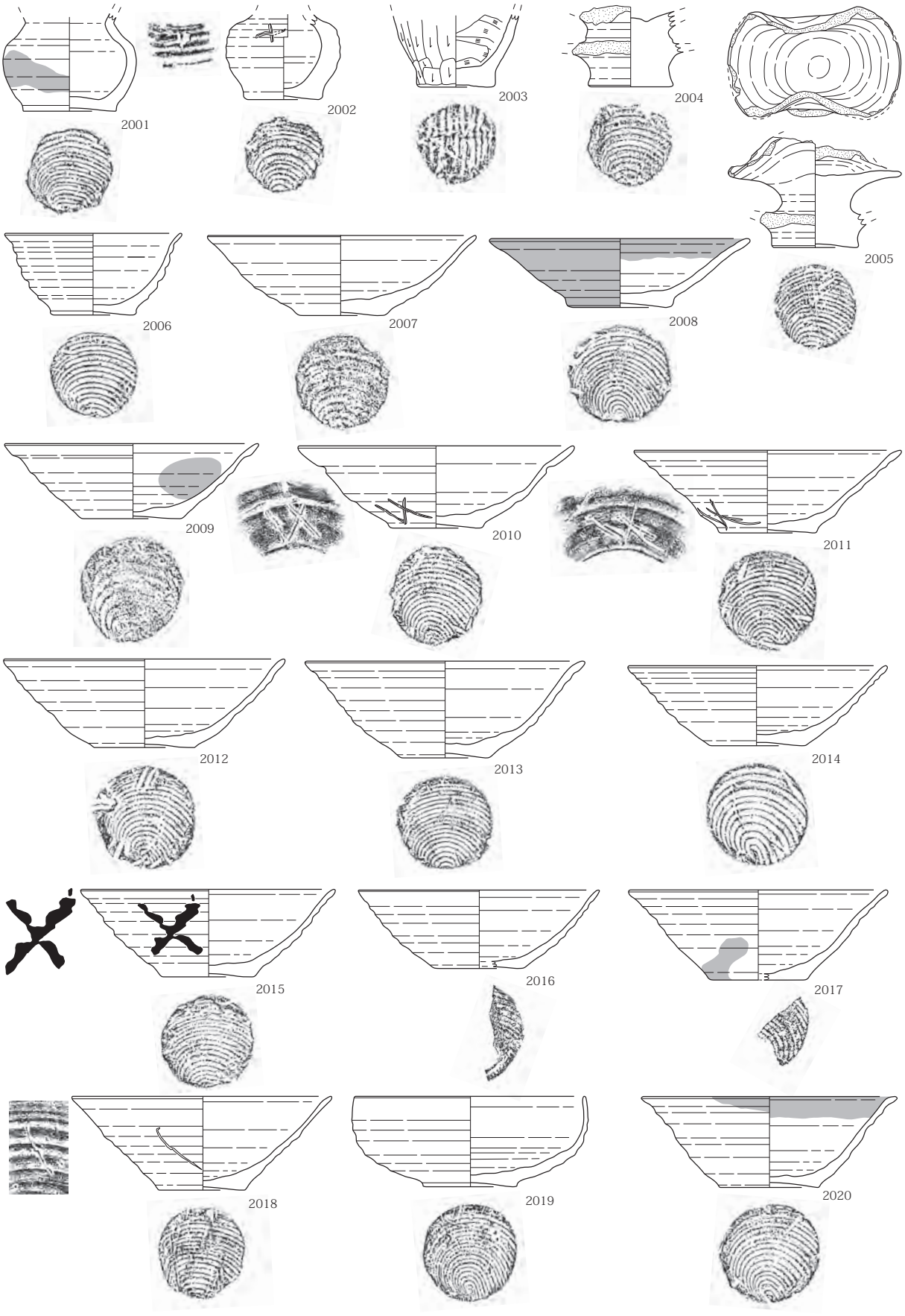
央部に円形の穿孔が施されている。2076 ～ 2082 は土錘であり、いずれも小型のものであり、内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

2083 は砥石であり、扁平な不正形の角礫の扁平部を砥面として使用している。材質は溶結凝灰岩である。

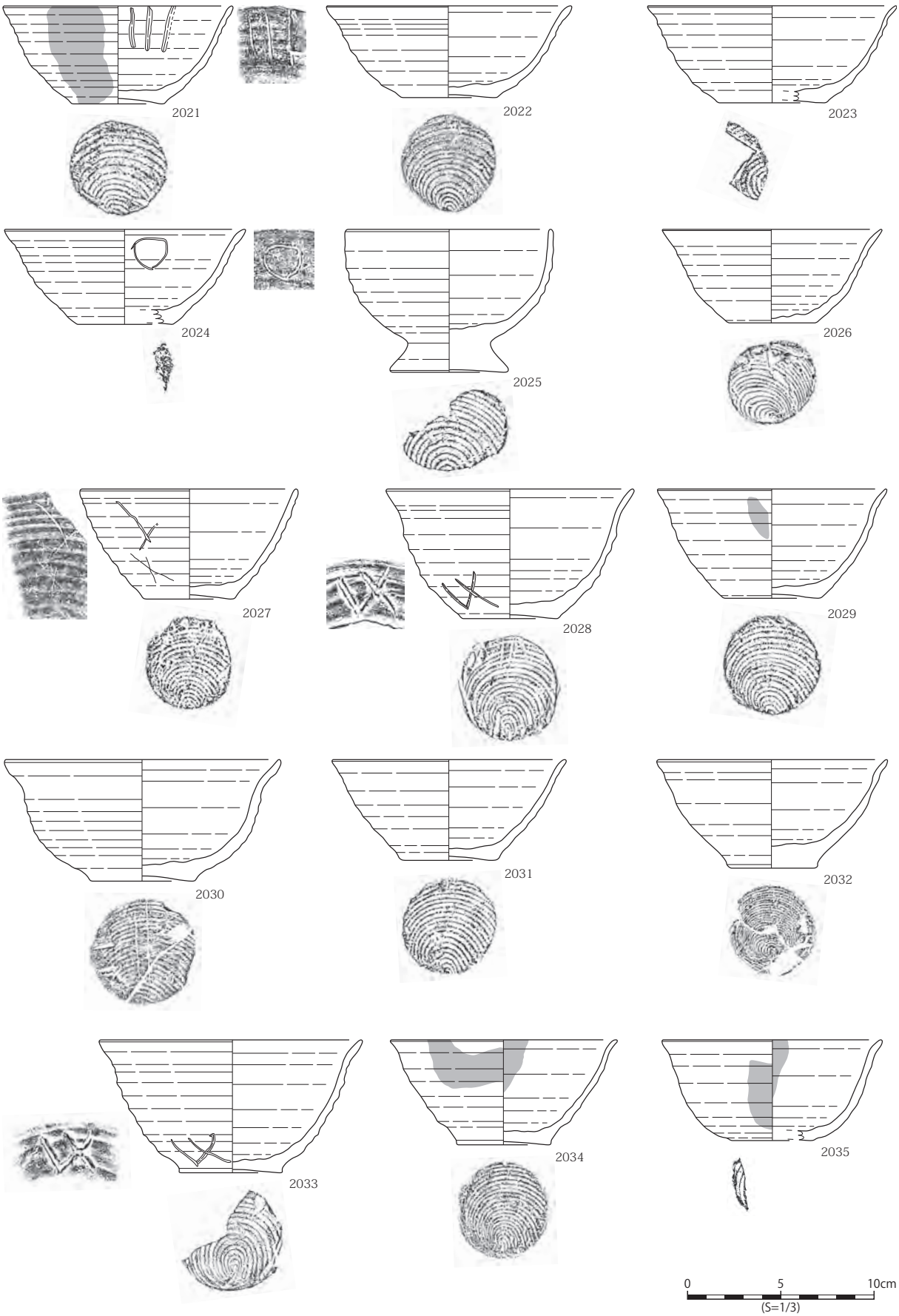
2084 は農耕土木具の掘り棒であり、両端を尖らせている。2085 は工具の柄であり、片側端部に刃部装着箇所が確認された。2086 ～ 2091 は編み具・紡織具である。2086 ～ 2088 は編台の錘であり、いずれも中央部付近を窪めて独鈷状の形状を呈する。2089 は、破損しているが、形状から紡錘車であると考えられる。2090 は布巻具であり、断面が半円形を呈し、中央部に磨滅が見られる。2091 は、



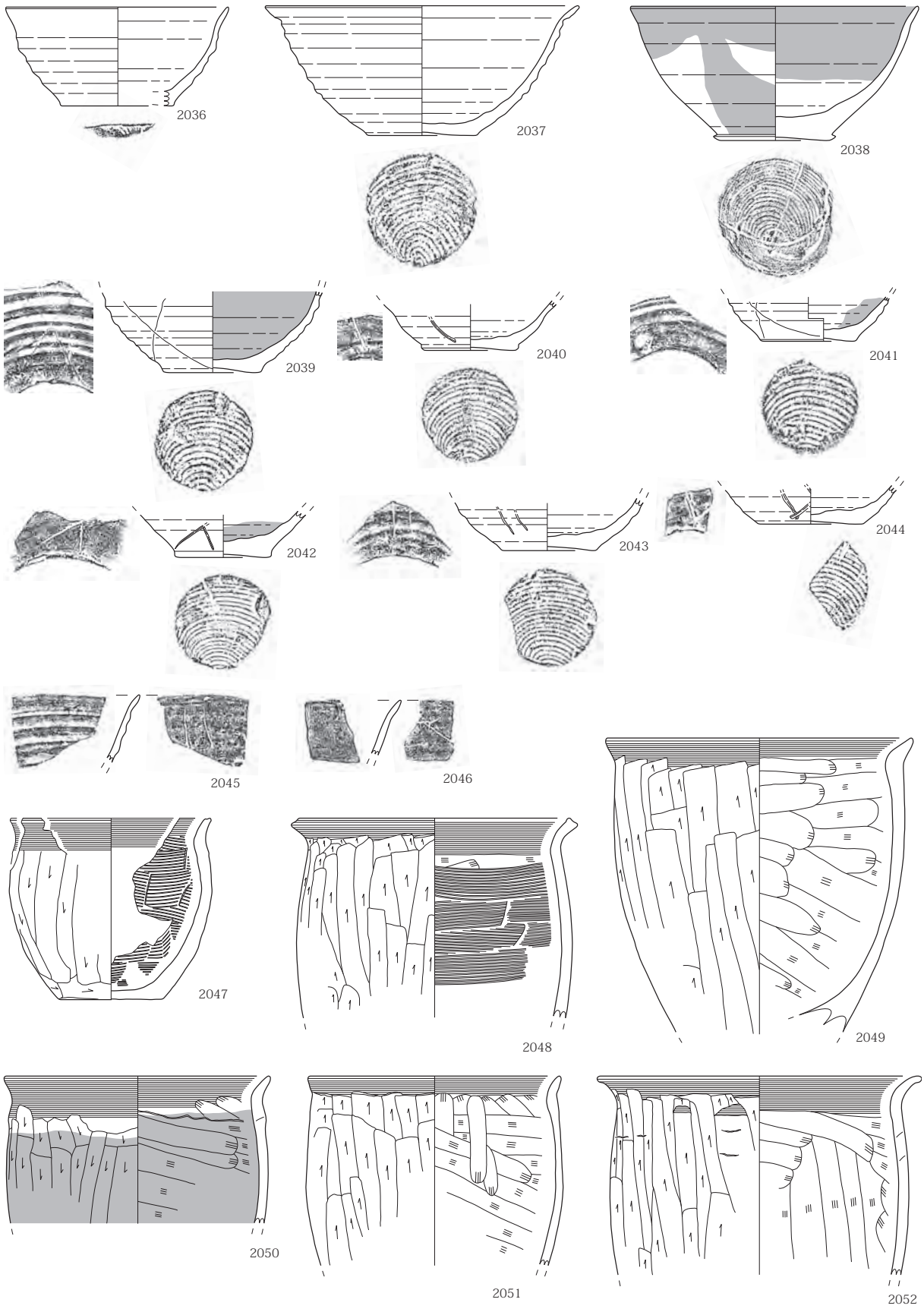
図Ⅳ-2-6　SD101遺物出土状況(5)



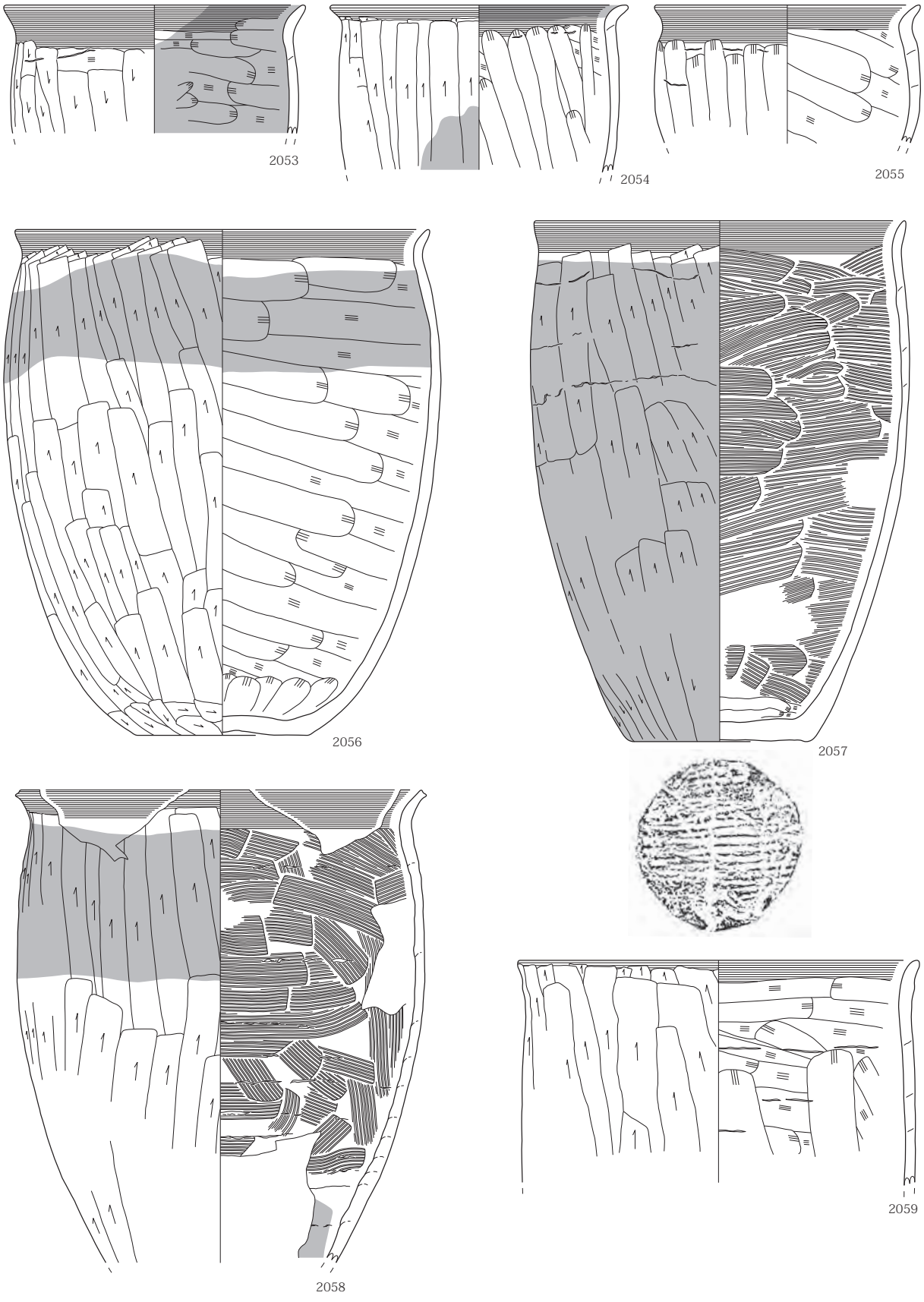
図Ⅳ-2-7　SD101 出土遺物 (1)



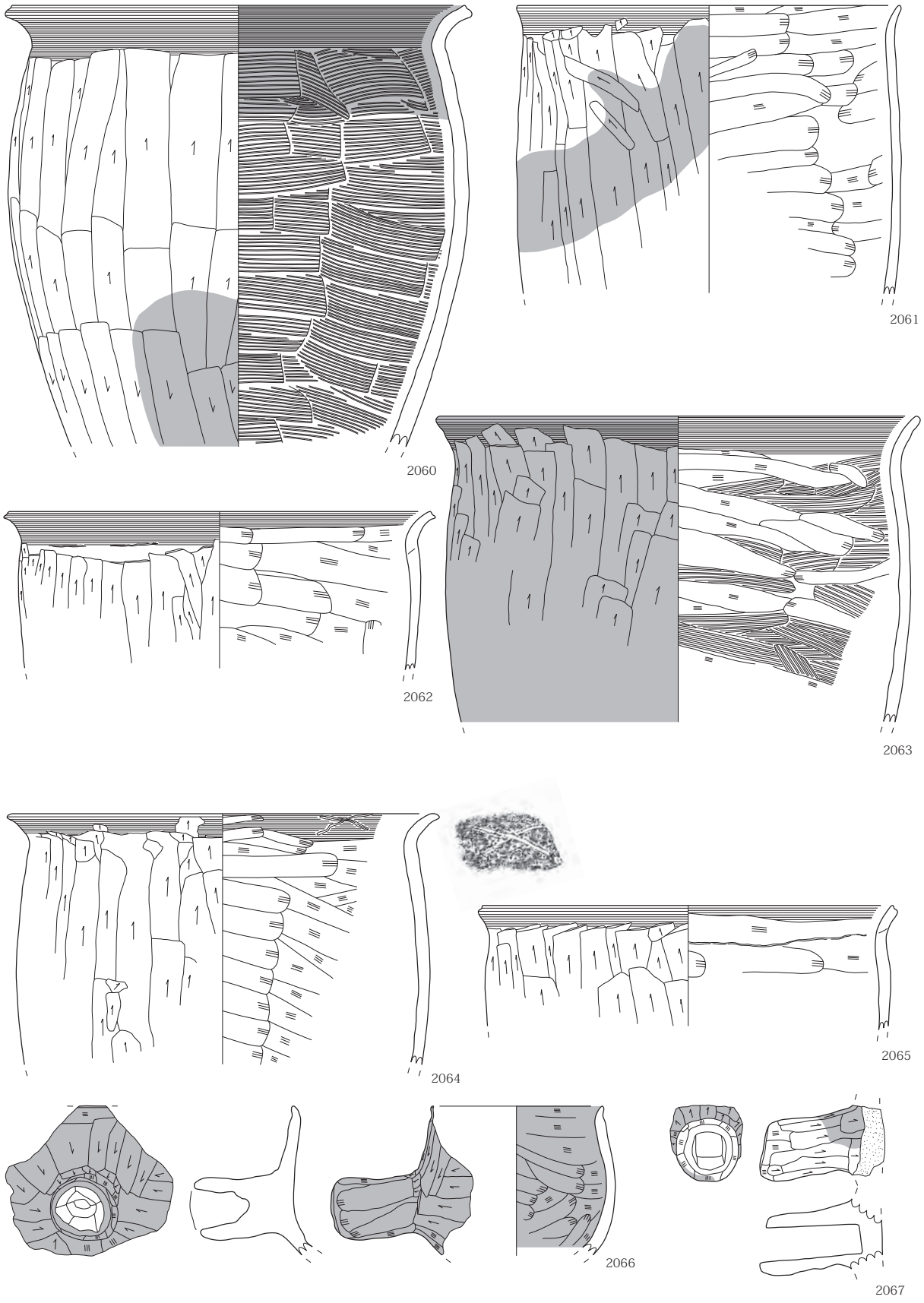
図Ⅳ-2-8　SD101 出土遺物 (2)



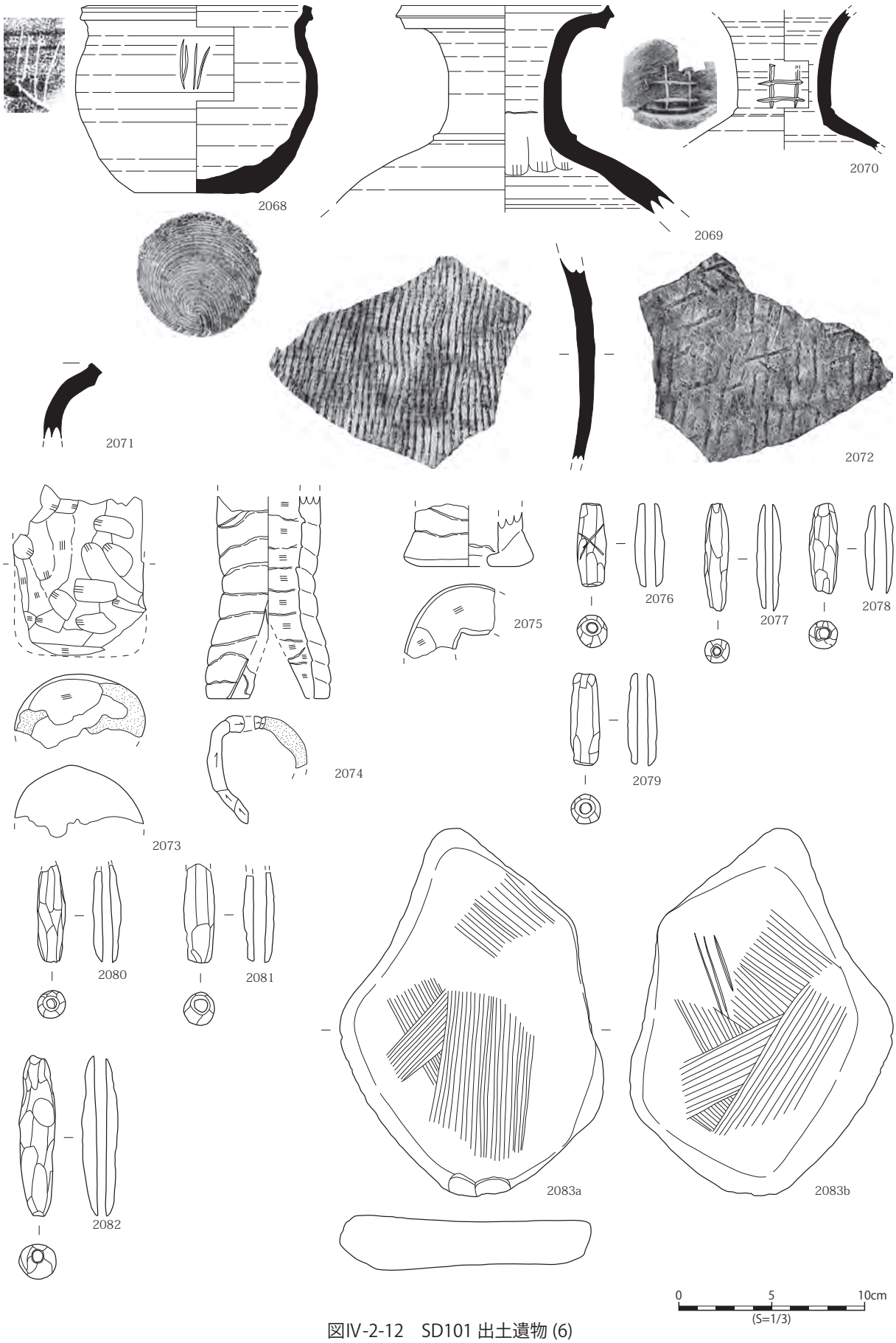
図Ⅳ-2-9　SD101 出土遺物 (3)



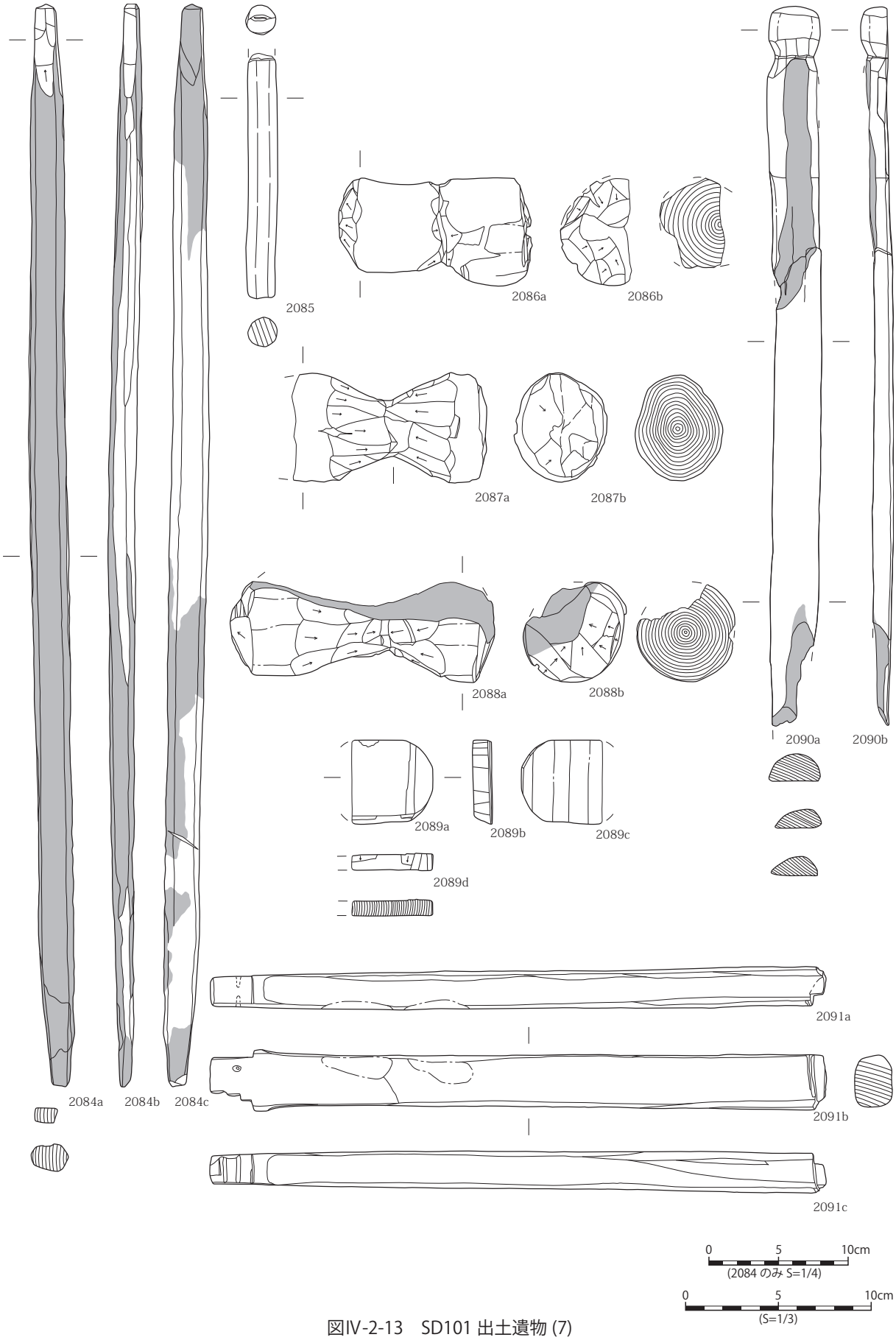
図Ⅳ-2-10　SD101 出土遺物 (4)



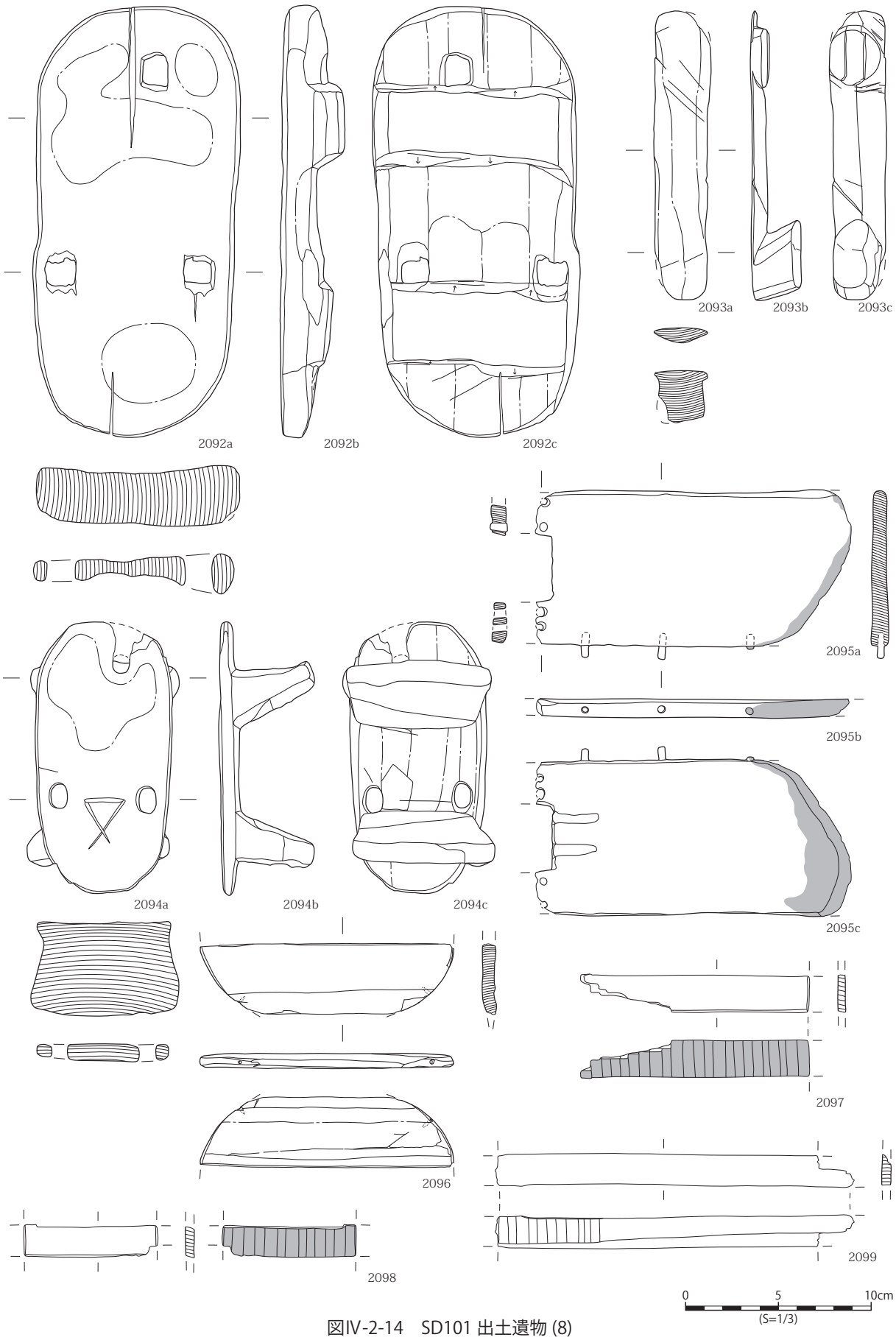
図Ⅳ-2-11　SD101 出土遺物 (5)



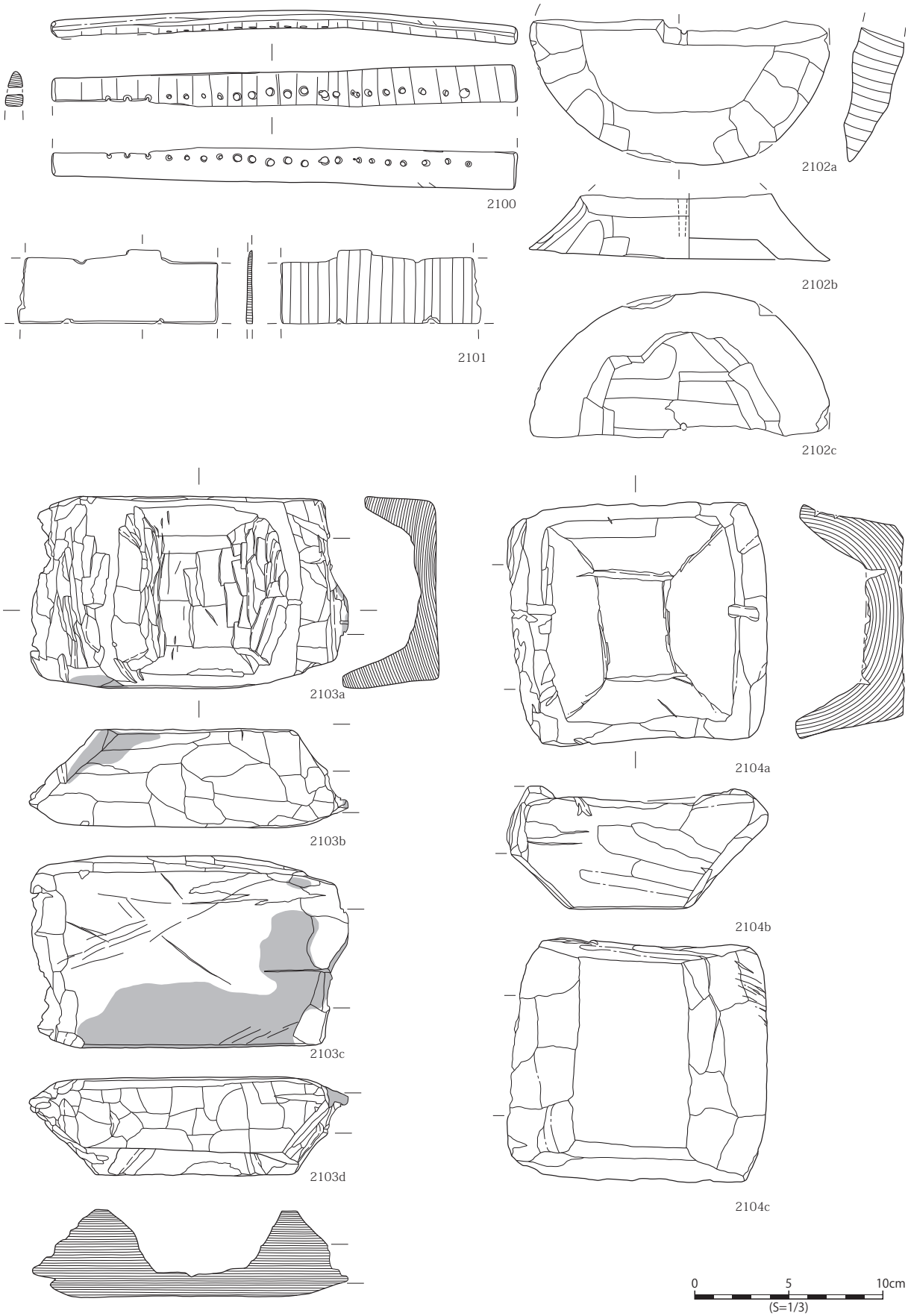
図Ⅳ-2-12　SD101 出土遺物 (6)



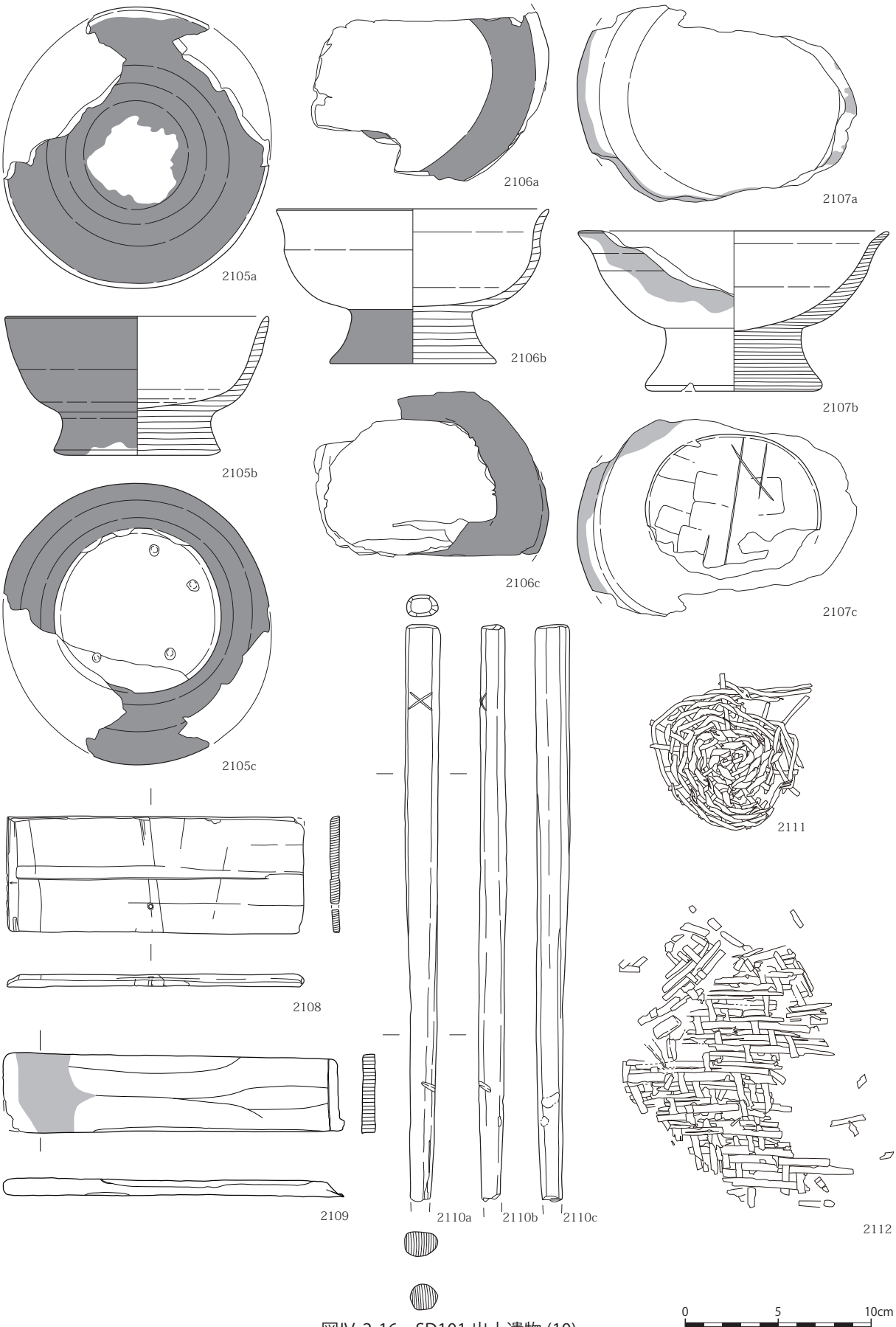
図Ⅳ-2-13　SD101 出土遺物 (7)



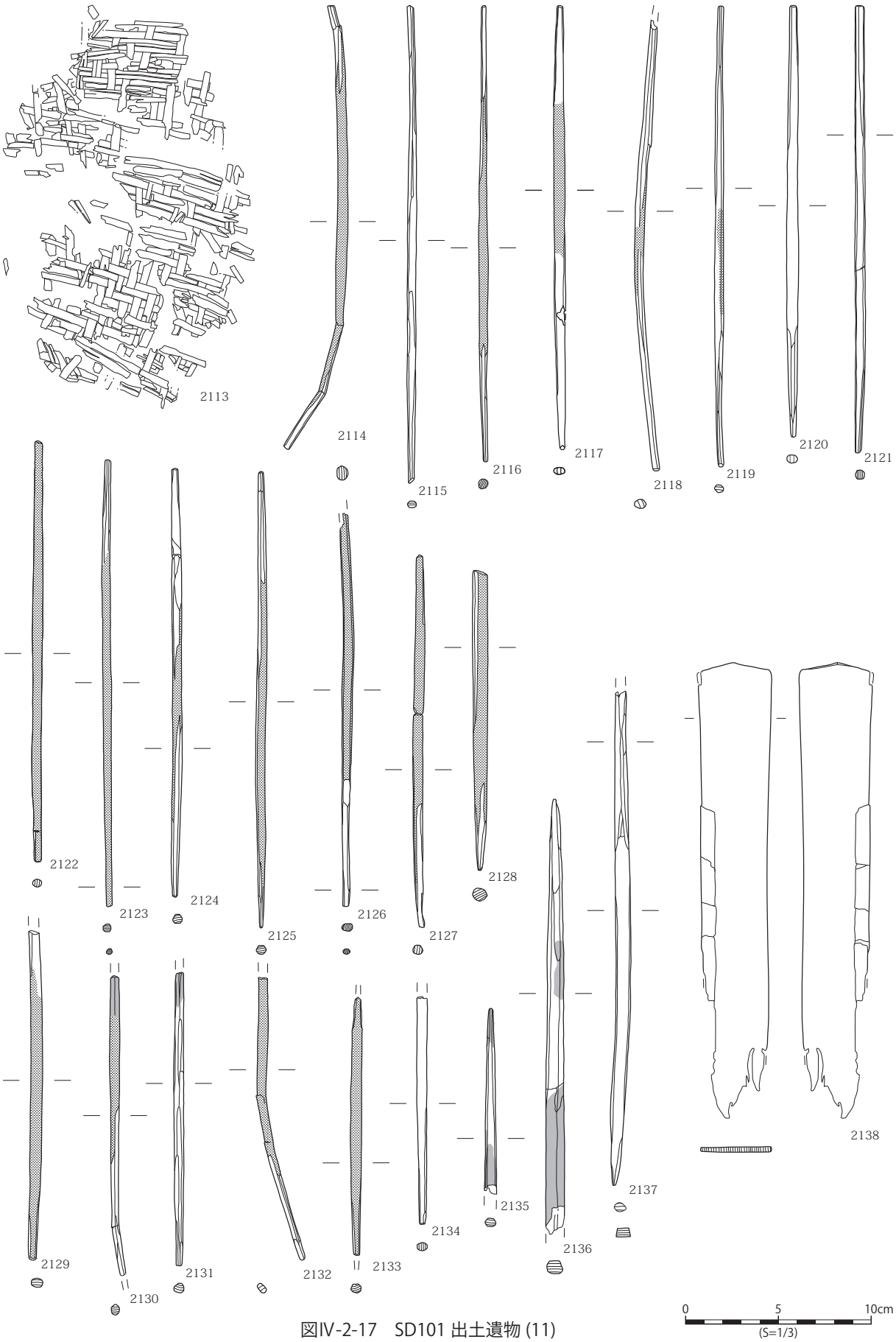
図Ⅳ-2-14　SD101 出土遺物 (8)



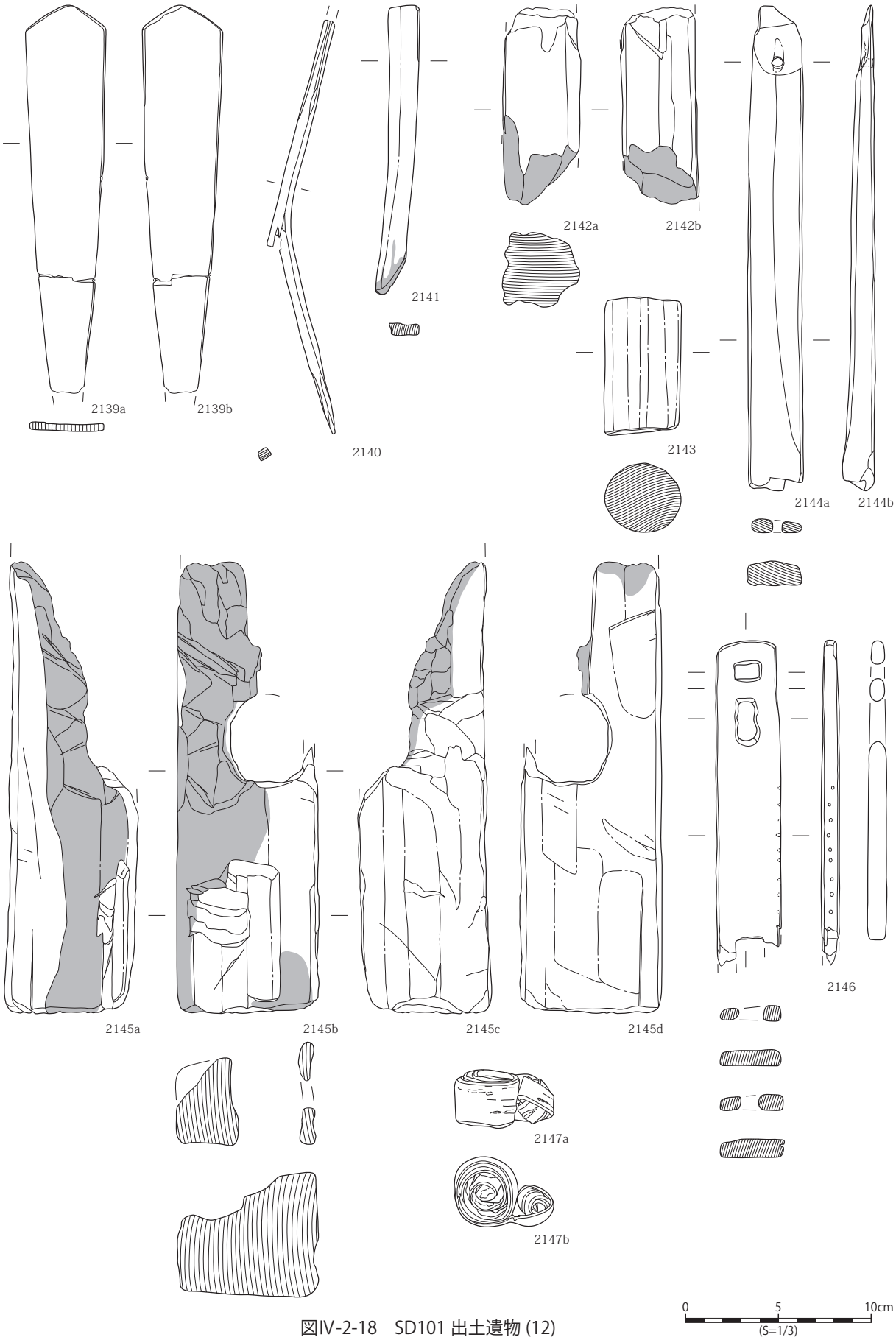
図Ⅳ-2-15　SD101 出土遺物 (9)



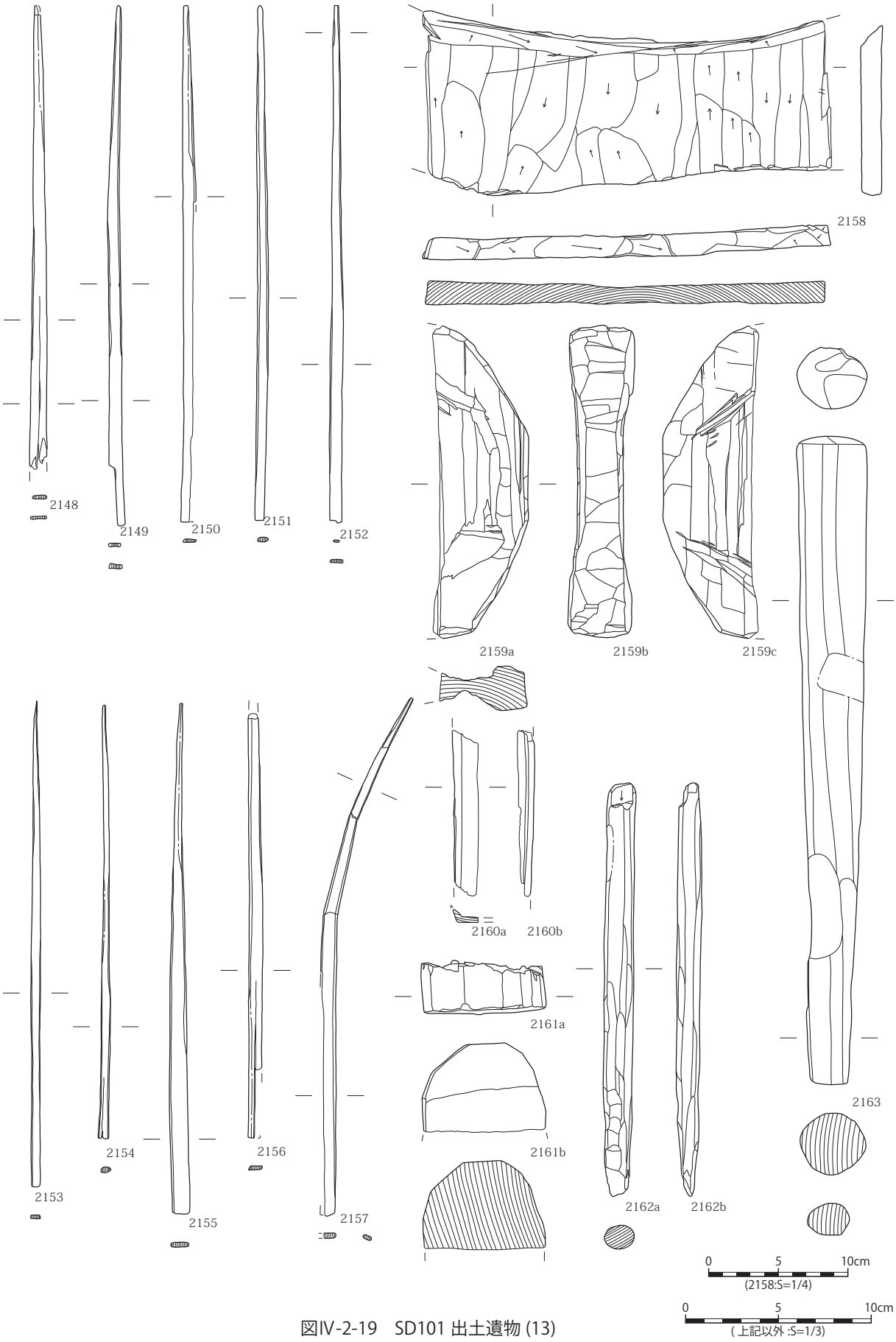
図Ⅳ-2-16　SD101 出土遺物 (10)



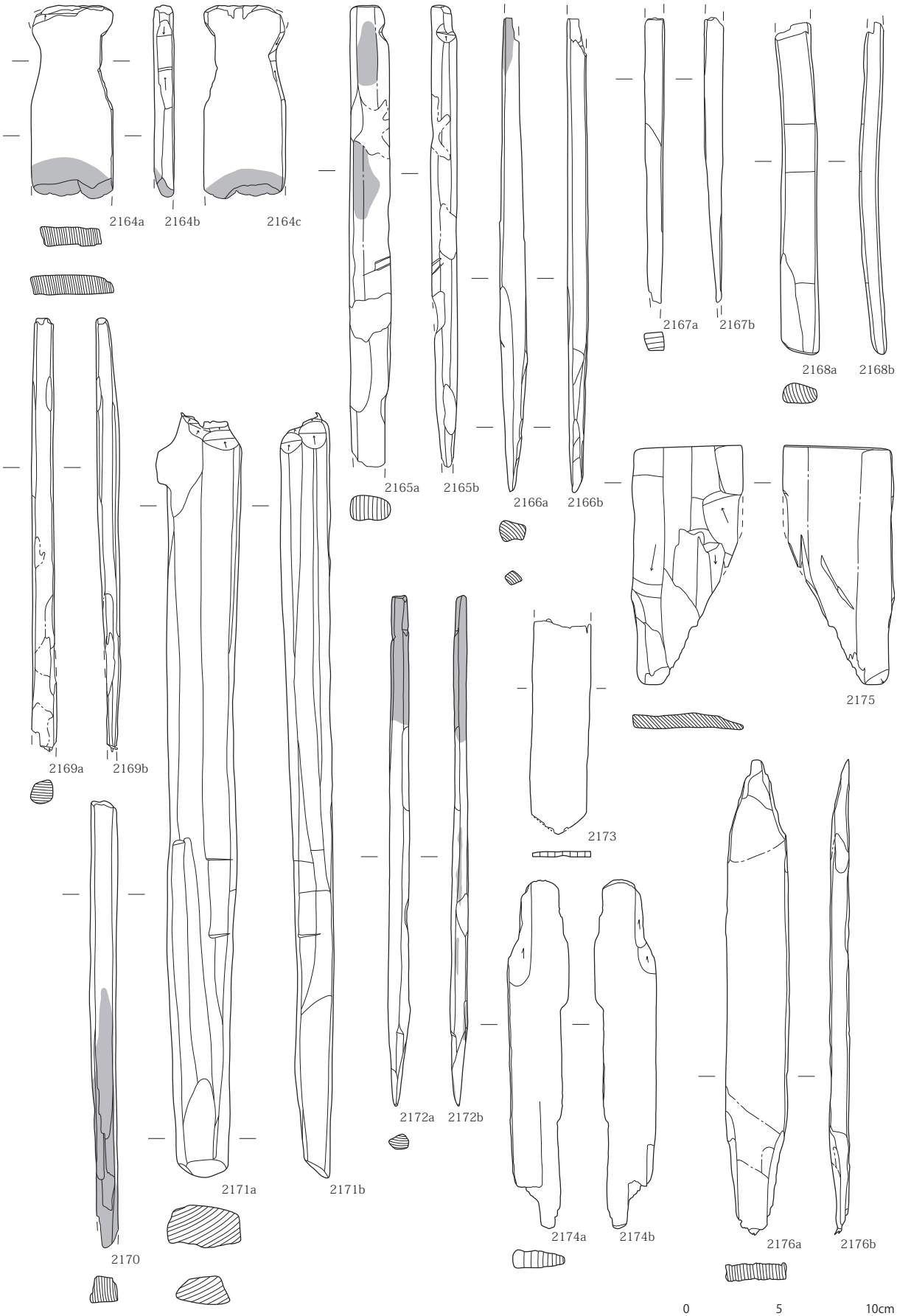
図Ⅳ-2-17　SD101 出土遺物 (11)



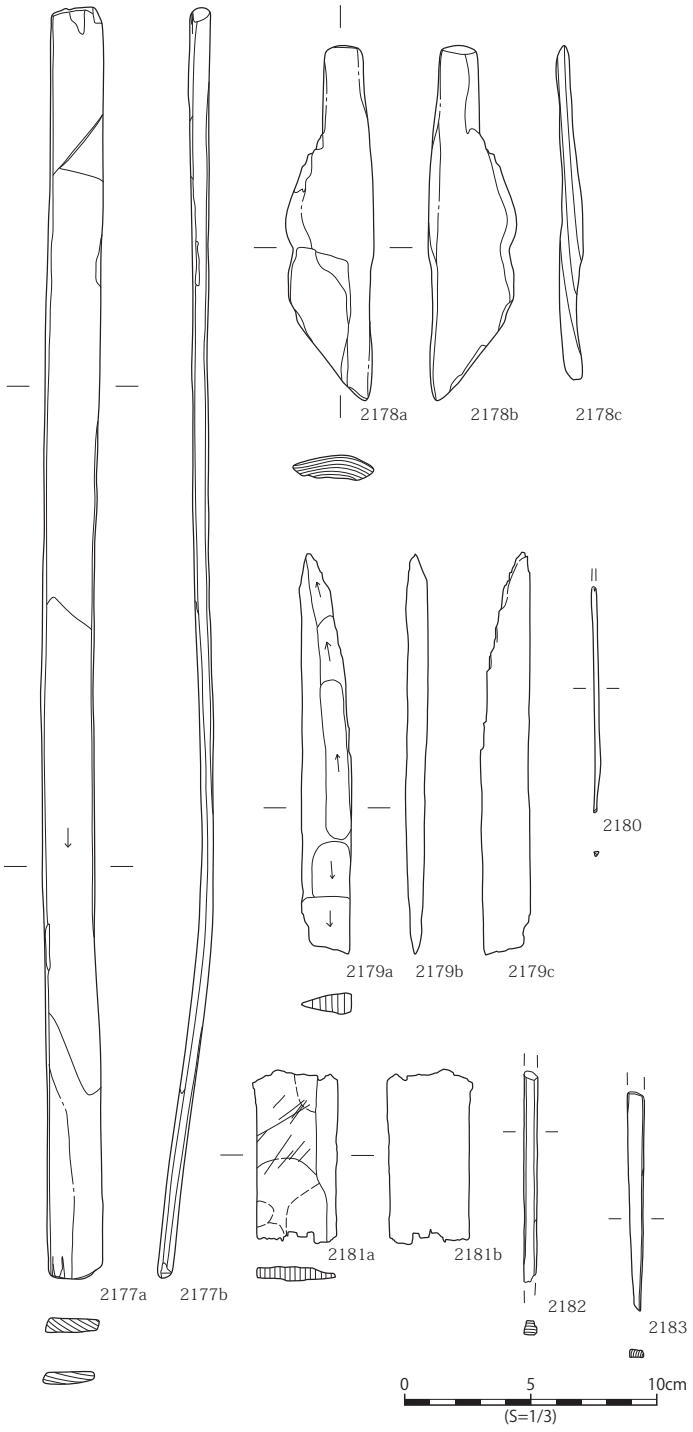
図Ⅳ-2-18　SD101 出土遺物 (12)



図Ⅳ-2-19　SD101 出土遺物 (13)



図Ⅳ-2-20　SD101 出土遺物 (14)



図Ⅳ-2-21　SD101 出土遺物 (15)

紡織具の反転棒であり、側面面取り、中央部磨滅し、楔を止めるための段を有する。2092 ～ 2094 は服飾具の下駄であり、いずれも平面形は隅丸方形を呈し、連歯である。2094 は小形の高下駄であり、台表後端付近に記号が彫られている。子供用のものと考えられる。

2095 ～ 2110 は容器である。2095 は曲物底板であり、木釘が残存している。2096 は木釘孔が確認できないことから、曲物底板か蓋か不明である。2097 ～ 2101 は曲物側板であり、内面にケビキ線が見られる。2100 は直線状に 21 箇所の穿孔が見られ、二次的に利用されている。2102 ～ 2104 は刳物であり、2102 は皿未成品、2103 は槽未成品、2104 は方形鉢である。2105 ～ 2107 は挽物の高台付椀であり、いずれも身高台である。2105・2106 には内外面に漆が塗布されている。2108・2109 は組物の側板であり、いずれも鉋による丁寧な加工が見られる。2110 は杓子柄であり、断面を長方形状に仕上げ、曲物装着部先端を尖らせている。

2111 ～ 2113 は編組製品である（詳細は第 6 章参照。）。

2114 ～ 2137 は食事具である。2114 ～ 2134 は箸であり、細長い割材の両端部を細く尖らせ、握り部は整形時もしくは使用時による磨滅が確認される。2135 ～ 2137 は串であり、2135・2136 は使用時の炭化が見られる。

2138 ～ 2140 は祭祀具である。2138・2139 は斎串であり、一端が山形であり、もう一端が先細りとなる。2140 は割串であり、両端が尖り、中央部でへし折られている。

2141 ～ 2144 は雑具である。2141・2142 は燃えさしであり、一端が炭化している。2143 は栓である。2144 は付け札であり、端部付近に穿孔がある。

2145・2146 は構造部材であり、2145 は貫孔が確認された。2146 は枠材であり、長方形の穿孔が 3 箇所あり、不整形孔は紐を通していた可能性があり、整形の孔は桟である。

2147 は緊縛具の樹皮巻である。2148 ～ 2165 は不明製品である。2148 ～ 2157 は串状不明製品であり、扁平な細長い割材の先端を尖らせ、もう一端を平坦に切断し、側面は削ぎ削っている。2158 は厚みを均等にし、大型の円形のものを据えるような斜断状の湾曲をもたせる加工を施している。皮綴じ用の刻みを有し、大型の槽の把手部分の可能性が考えられる。2159 は半円形の板材の周縁部を残し、表裏面を薄く削り出している。2158 と同様に組物の把手の未成品の可能性が考えられる。2160・2161・2164・2165 は、板状の不明製品である。2163・2164 は棒状の不明製品である。

2166 ～ 2179 は加工木である。2180 ～ 2183 は加工時に出た残材である。樹種は 2086・2088 がクワ属、2087・2102・2113 がヤナギ属、2104 がモクレン属、2105 ～ 2107 がトチノキ、2111 がフジ、2112 がマタタビ属及びバラ属、2142 がスギ、2174 がニレ属であり、それ以外はすべてアスナロである。

［時期］堆積土の状況から、Ⅱ期に相当するものと考えられる。

(SD129)

［位置・確認］グリッド BU35，36 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD101 と重復関係にあり、SD101 よりも古い。［規模・形状］SD101 と重複関係にあり、かつ調査区外へ延びているため、正確な規模・形状は不明であるが、残存長 373cm、幅 92 ～ 149cm、深さ 14cm を測り、南東方向から北西方向へと曲線状に延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を基調とする。［出土遺物］土師器の坏 99.3g、甕 520g 等が出土している。［時期］SD101 と時期差はあまりないと考えられることから、Ⅱ期に相当すると考えられる。

第 102・103・104・105 号溝跡（SD102・103・104・105 、図Ⅳ -2-22）

(SD102)

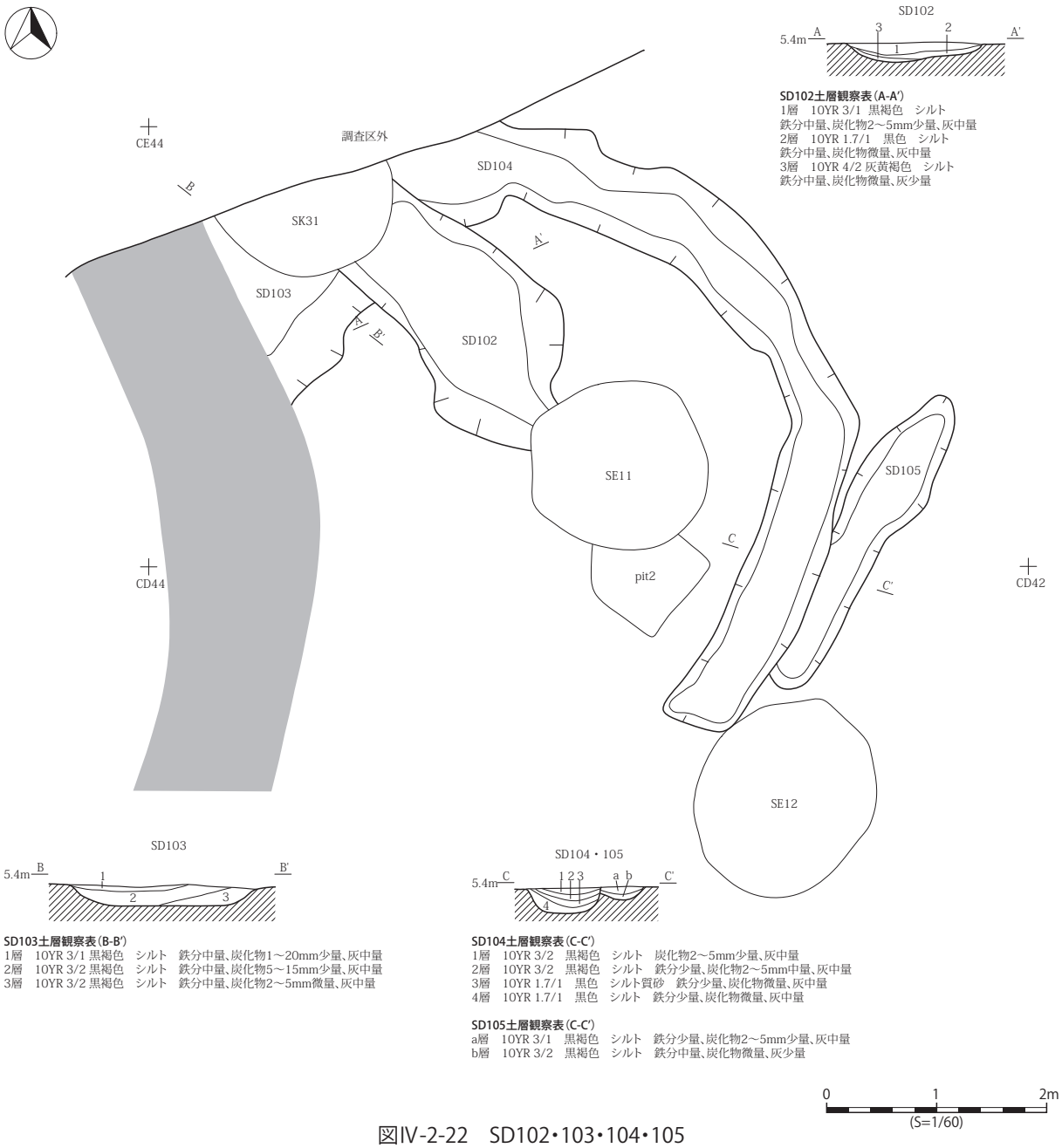
［位置・確認］グリッド CD43 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD103・104 、SE11、SK31 と重復関係にあり、SD103・104 よりも新しく、SE11、SK31 よりも古い。［規模・形状］SD101 と重複関係にあり、かつ調査区外へ延びているため、正確な規模・形状は不明であるが、残存長 373cm、幅 92 ～ 149cm、深さ 14㎝を測り、南東方向から北西方向へと曲線状に延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器坏 291g、土師器甕 1,433g 等が出土している。［時期］SD103･104 と時期差はあまりないと考えられることから、Ⅱ期に相当すると考えられる。

(SD103)

［位置・確認］グリッド CD43 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD102、SK31 と重復関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD102、SK31 と重複関係にあり、かつ攪乱へと延びているため、正確な規模・形状は不明であるが、確認長 99cm、幅 163cm、深さ 18.5cm を測り、南西方向から北東方向へと直線状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器の坏 37.8g、甕 165g 等が出土している。［時期］Ⅱ期に相当すると考えられる。

(SD104)

［位置・確認］グリッド CC42、CD42，43 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD102・105、SK31 と重復関係にあり、SD102、SK31 よりも古く、SD105 よりも新しい。［規模・形状］SD102、SK31 と重複関係にあるため正確な規模・形状は不明であるが、残存長 804cm、幅



図Ⅳ-2-22　SD102・103・104・105

44 ～ 83cm、深さ 25cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延び途中で方向を北東方向に転ずるＬ字状の溝跡である。［堆積土］２層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器の坏 71.1g、甕 654.5g、須恵器の甕 73g 等が出土している。［時期］SD103 と同一の溝跡と考えられ、Ⅱ期に相当すると考えられる。

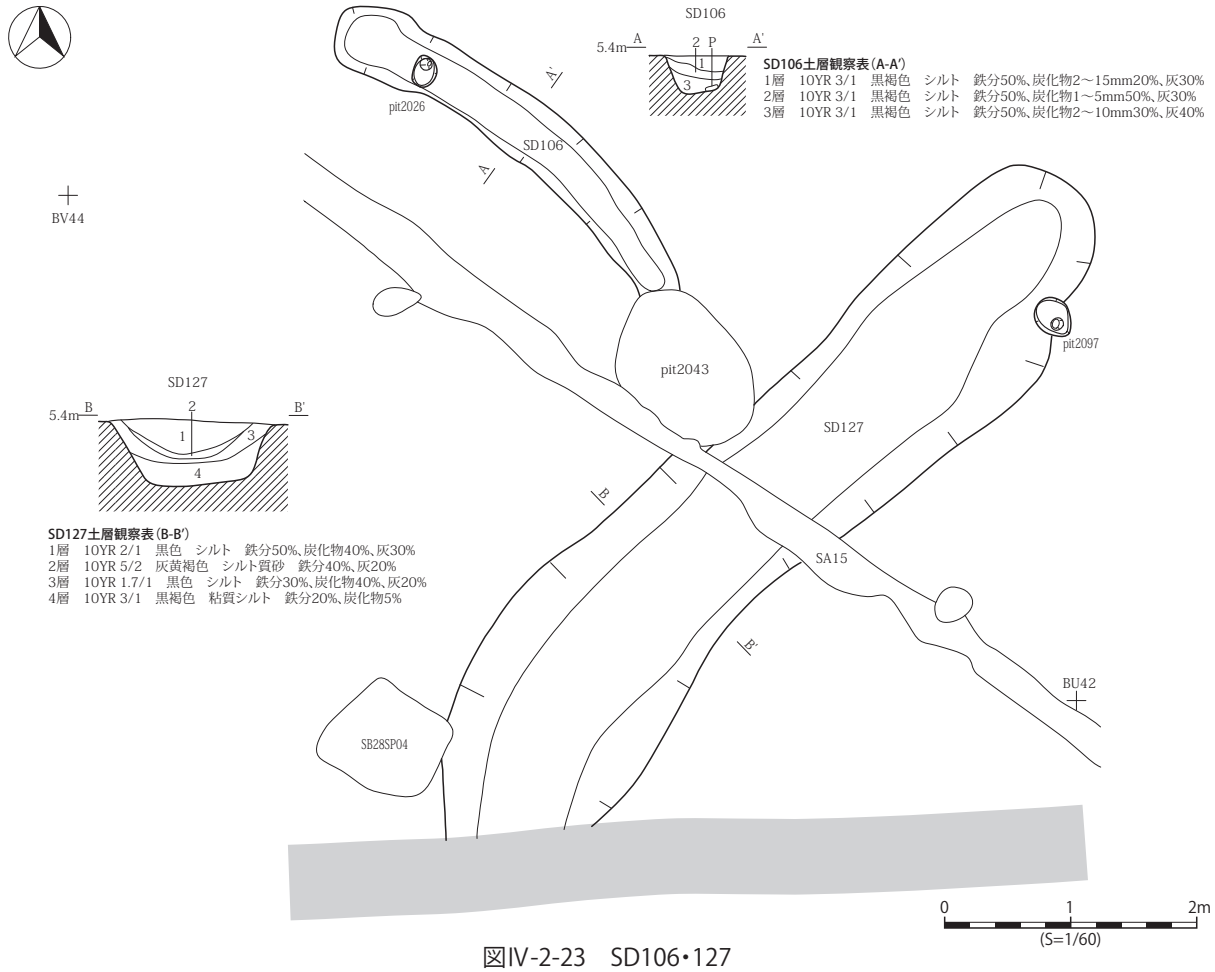
(SD105)

［位置・確認］グリッド CC・CD42 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD104 と重復関係にあり、SD104 よりも古い。［規模・形状］確認長 304cm、幅 46 ～ 69cm、深さ 12.5cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］２層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］特になし。［時期］SD104 と時期差がないことからⅡ期に相当すると考えられる。

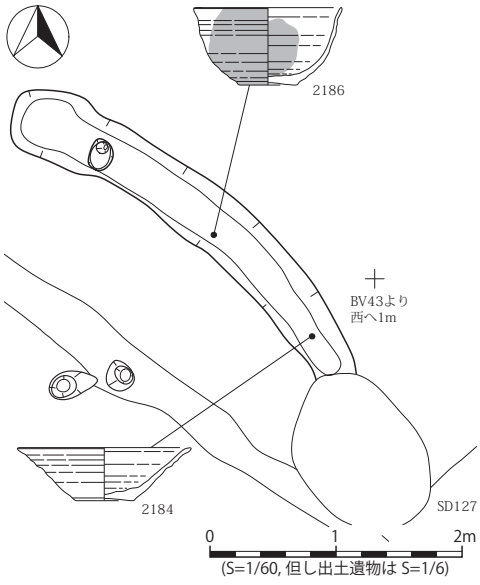
第 106・127 号溝跡（SD106・127、図Ⅳ -2-23）

（SD106）

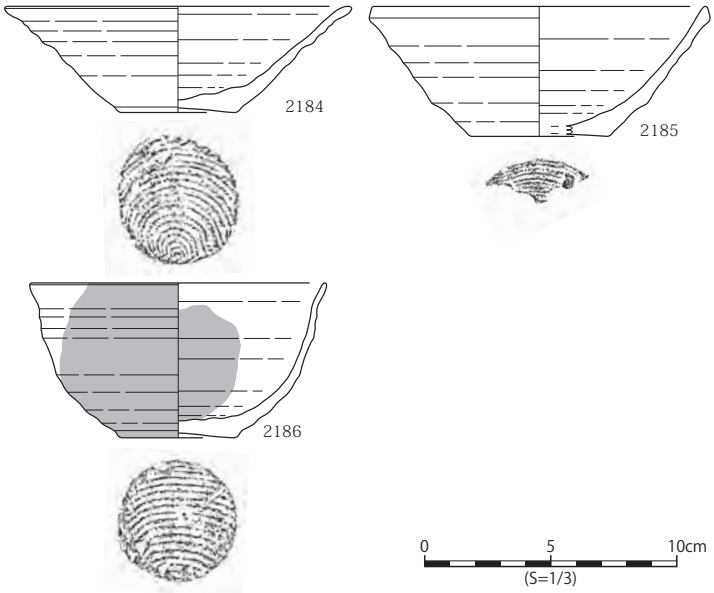
［位置・確認］グリッドBU42，43、BV43に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］pit2026・2043と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］確認長337cm、幅34



図Ⅳ-2-23　SD106・127

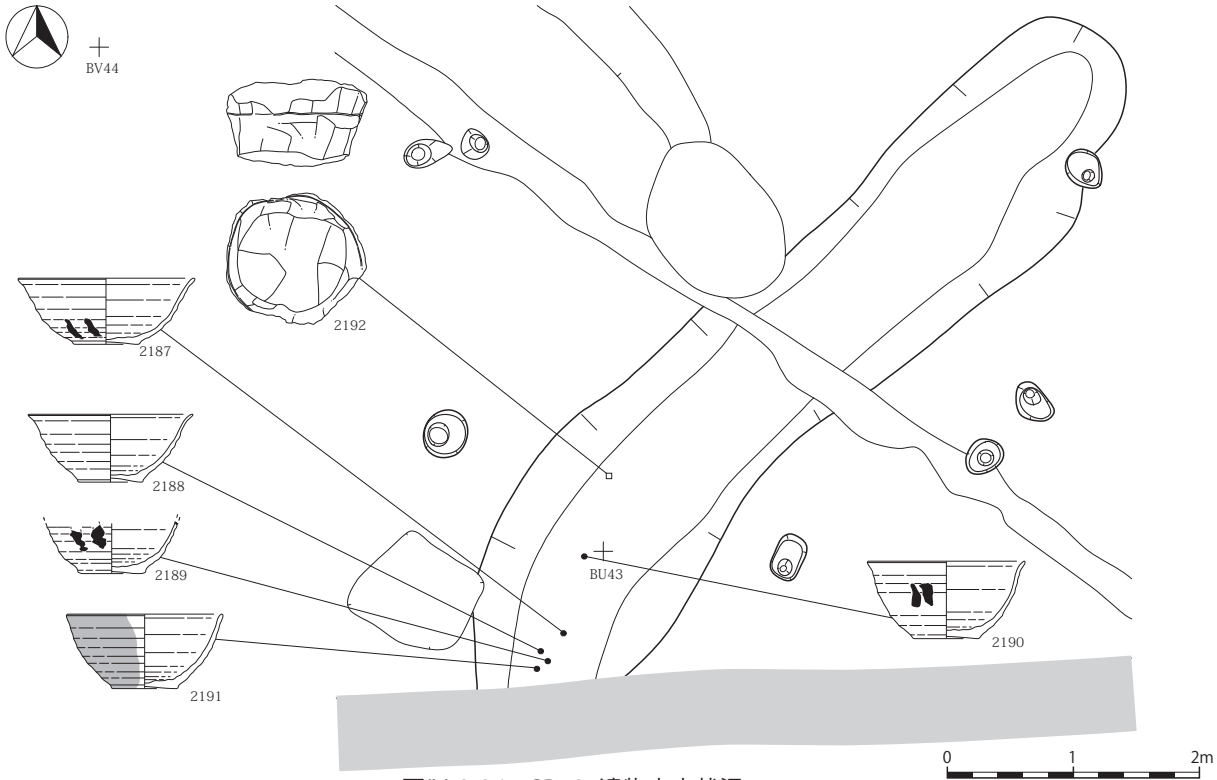


図Ⅳ-2-24　SD106遺物出土状況

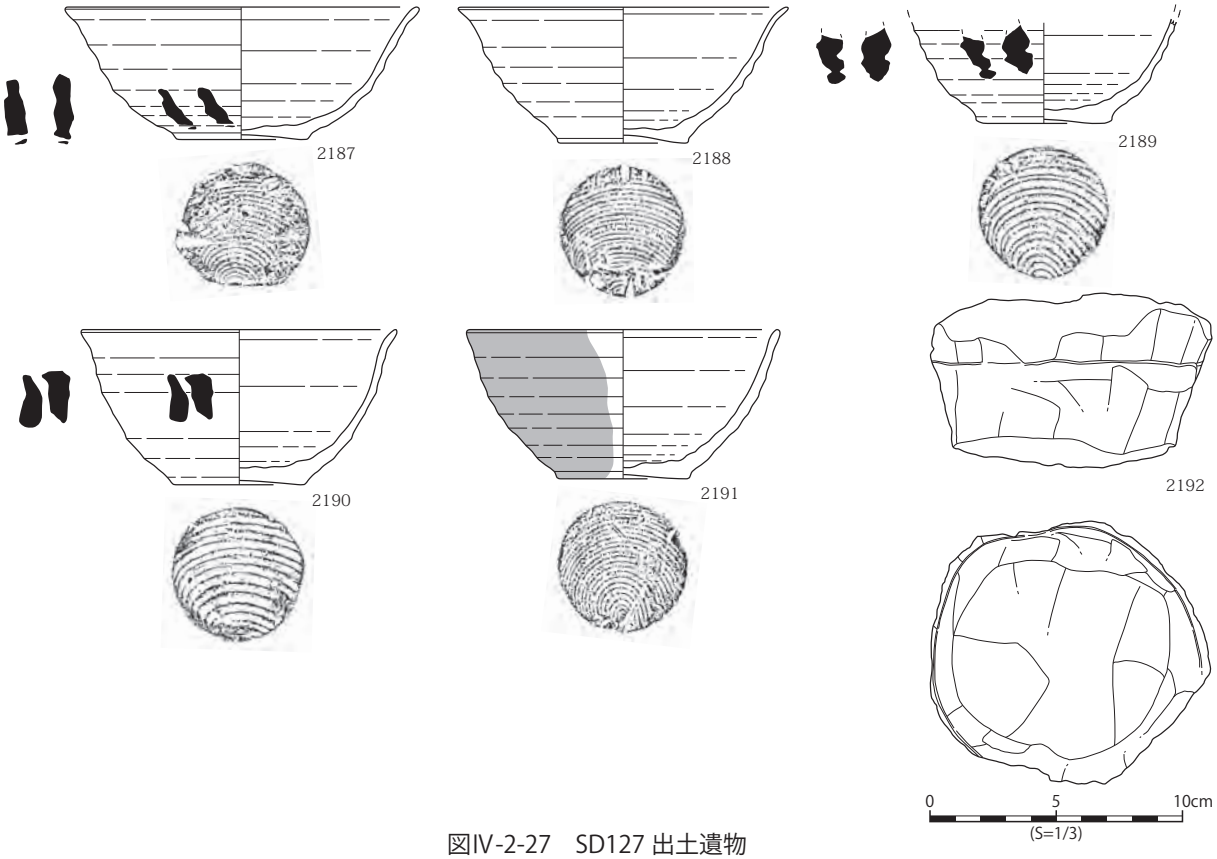


図Ⅳ-2-25　SD106出土遺物

～ 56cm、深さ 32cm を測り、南東方向から北西方向へやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］3



図Ⅳ-2-26　SD127遺物出土状況

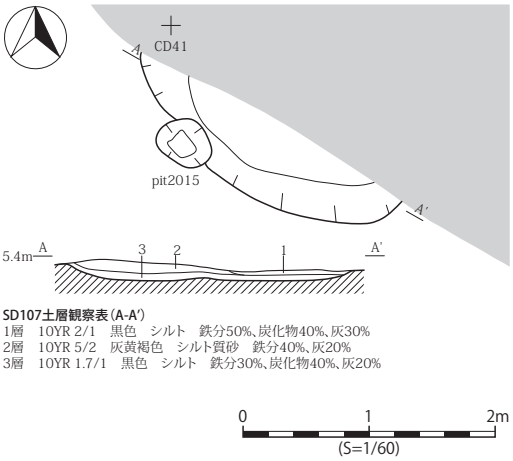


図Ⅳ-2-27　SD127 出土遺物

層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器の坏 502.8g、甕 1,193.0g が出土している（図Ⅳ -2-24）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-25）。2134 は皿形坏であり、2135 は埦形坏であり、口縁外面に面取調整が施されている。2186 は埦であり、内外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を残し、無調整である。［時期］Ⅲ期の pit2043 よりも古いため、Ⅱ期であると考えられる。

(SD127)

［位置・確認］グリッド BT42，43、BU41 ～ 43、BV41，42 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA13、SB28SP04、pit2043 と重復関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］攪乱を受けており正確な規模形状は不明であるが、現存長 685cm、幅 116 ～ 163cm、深さ 49.5cm を測り、南西方向から北東方向へやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器坏 833.5g、土師器甕 899.2g、須恵器甕 70.0g、須恵器壺 11.0g が出土している（図Ⅳ -2-26）。この内図示できたのは 6 点である（図Ⅳ -2-27）。2187 は土師器の埦形坏、2188 ～ 2191 は土師器の埦である。2187・2189・2190 は外面に墨書が確認された。2191 は外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し、無調整である。2192 は石製栓であり、石材は軽石である。［時期］Ⅲ期の pit2043 よりも古いため、Ⅱ期であると考えられる。



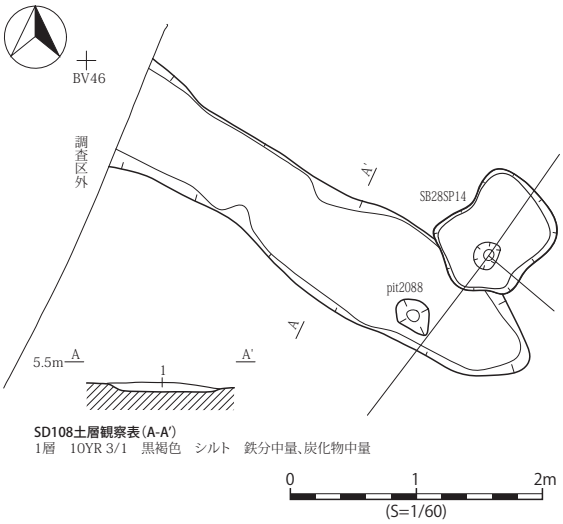
図Ⅳ-2-28　SD107

第 107 号溝跡（SD107、図Ⅳ -2-28)

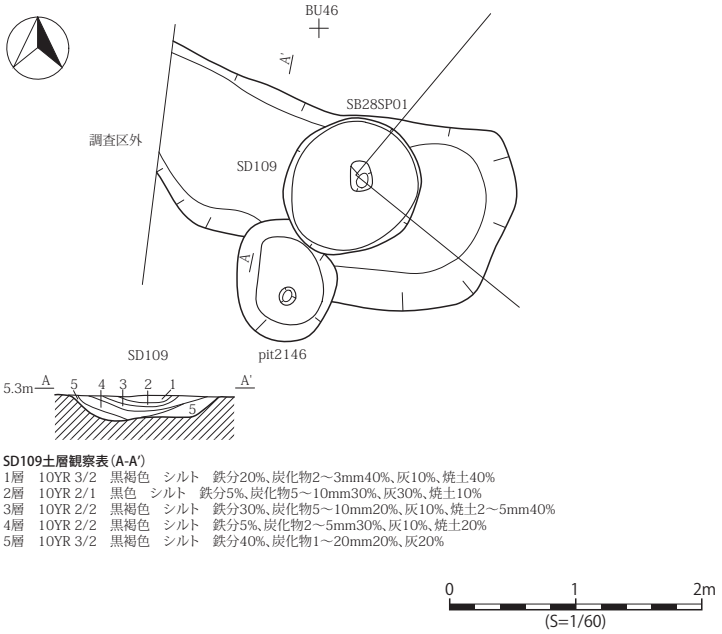
［位置・確認］グリッド CC40，41 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SA13、pit2015 と重復関係にあり、pit2015 よりも古い。［規模・形状］攪乱を受けており正確な規模形状は不明である。［堆積土］3 層確認され、黒色土とⅣ層由来の層が互層を形成している。［出土遺物］特になし。［時期］不明である。

第 108 号溝跡（SD108、図Ⅳ -2-29）

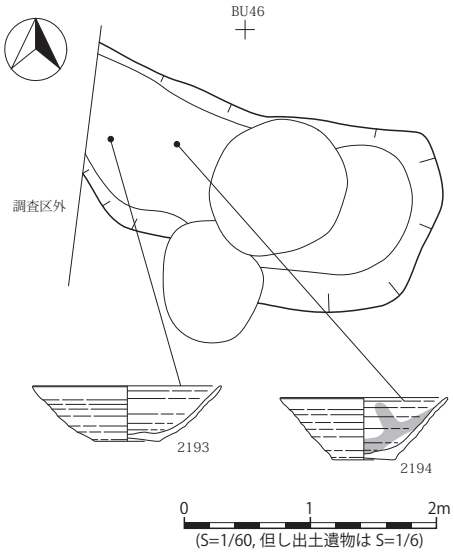
［位置・確認］グリッド BU45 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SB28SP14、pit2088 と重復関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］攪乱を受けており正確な規模形状は不明であるが、現存長 372.5cm、幅 65 ～ 91cm、深さ 17cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器坏 54.0g、土師器甕 534.0g が出土している。［時期］3 期の SB28 よりも古いことから、Ⅱ期であると考えられる。



図Ⅳ-2-29　SD108



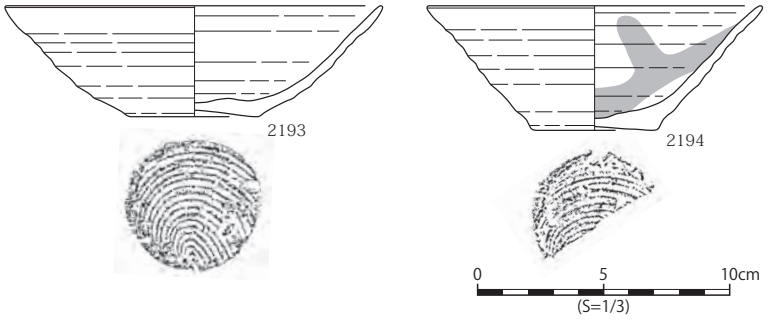
図Ⅳ-2-30　SD109



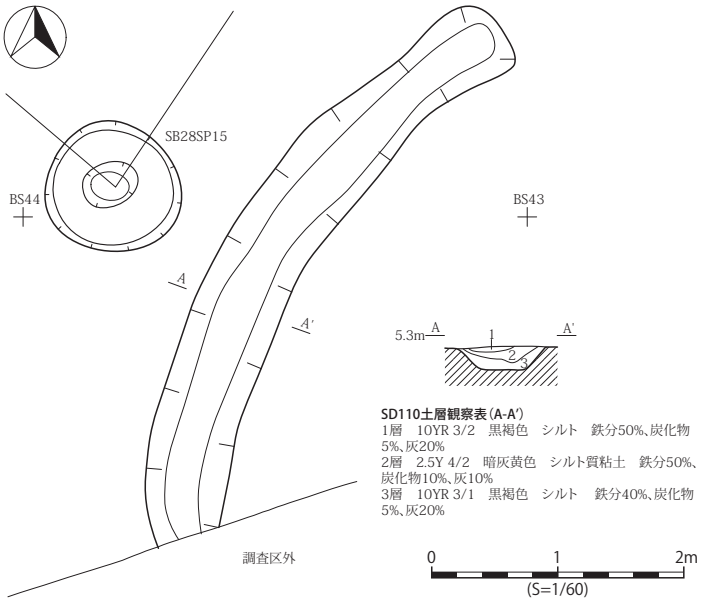
図Ⅳ-2-31　SD109遺物出土状況

第 109 号溝跡（SD109、図Ⅳ -2-30）

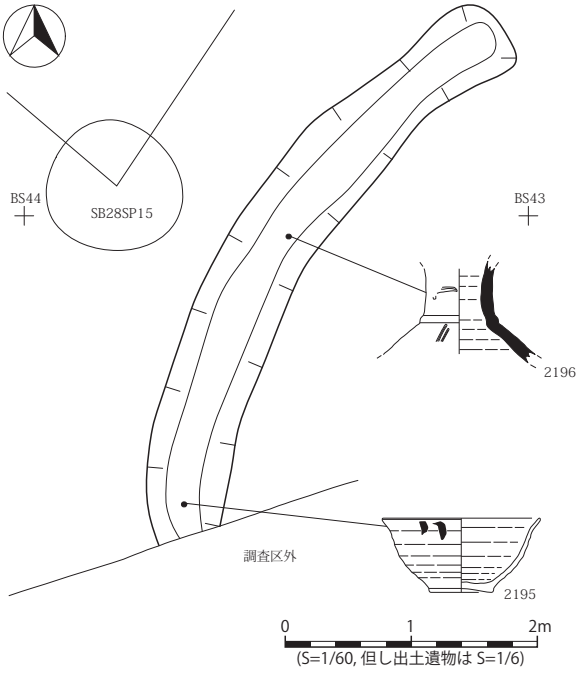
［位置・確認］グリッド BT45, 46 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SB28SP01、pit2146 と重復関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模、形状は不明であるが、現存長 285cm、幅 100 ～ 154cm、深さ 29cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］5 層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器坏 509.1g、土師器甕 838.0g が出土している（図Ⅳ -2-31）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅳ -2-32）。2193 は土師器の皿形坏であり、2194 は土師器の椀形坏であり、内面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を残し、無調整である。［時期］Ⅲ期で



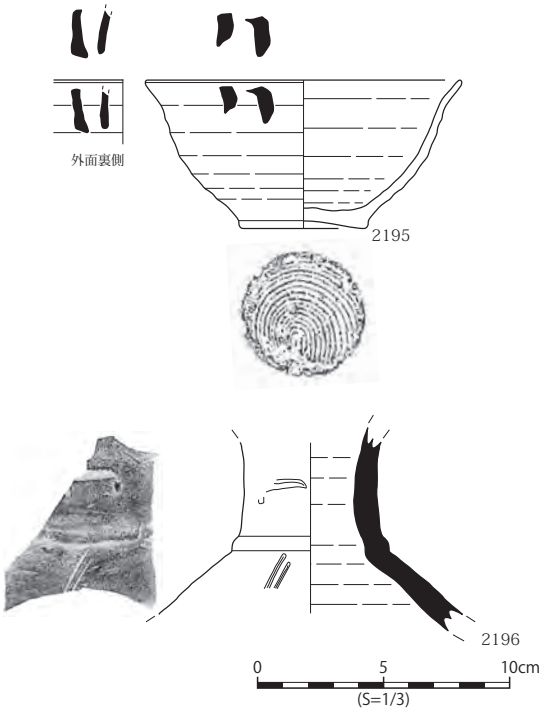
図Ⅳ-2-32　SD109 出土遺物



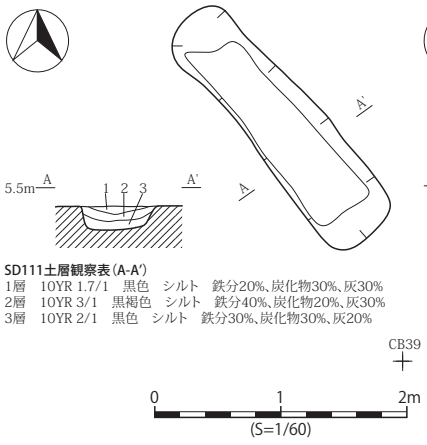
図Ⅳ-2-33　SD110



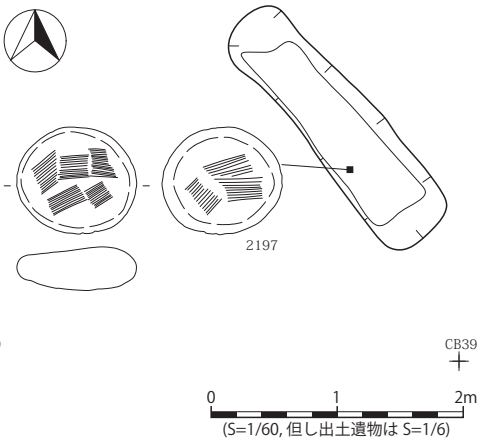
図Ⅳ-2-34　SD110 遺物出土状況



図Ⅳ-2-35　SD110 出土遺物



図Ⅳ-2-36　SD111

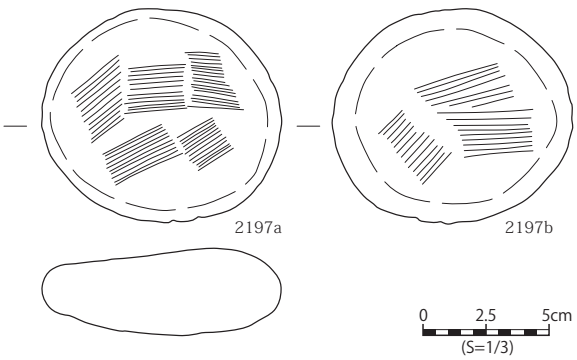


図Ⅳ-2-37　SD111 遺物出土状況

あるSB28よりも古いことからⅡ期であると考えられる。

第110号溝跡（SD110、図Ⅳ-2-33）

［位置・確認］グリッドBR・BS43に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模、形状は不明であるが、現存長285cm、幅100～154cm、深さ29cmを測り、南西方向から北東方向へやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］5層確認され、黒褐色土を主体とする。［出土遺物］土師器坏509.1g、土師器甕838.0gが出土している（図Ⅳ-2-34）。この内図示できたのは2点である（図Ⅳ-2-35）。2195は土師器の埦であり、内外面に墨書が確認された。ロクロ成形で、底面に回転糸切痕を残し、無調整である。2196は須恵器の長頸壺であり、体部上半にヘラ記号が描かれている。［時期］不明である。



図Ⅳ-2-38　SD111 出土遺物

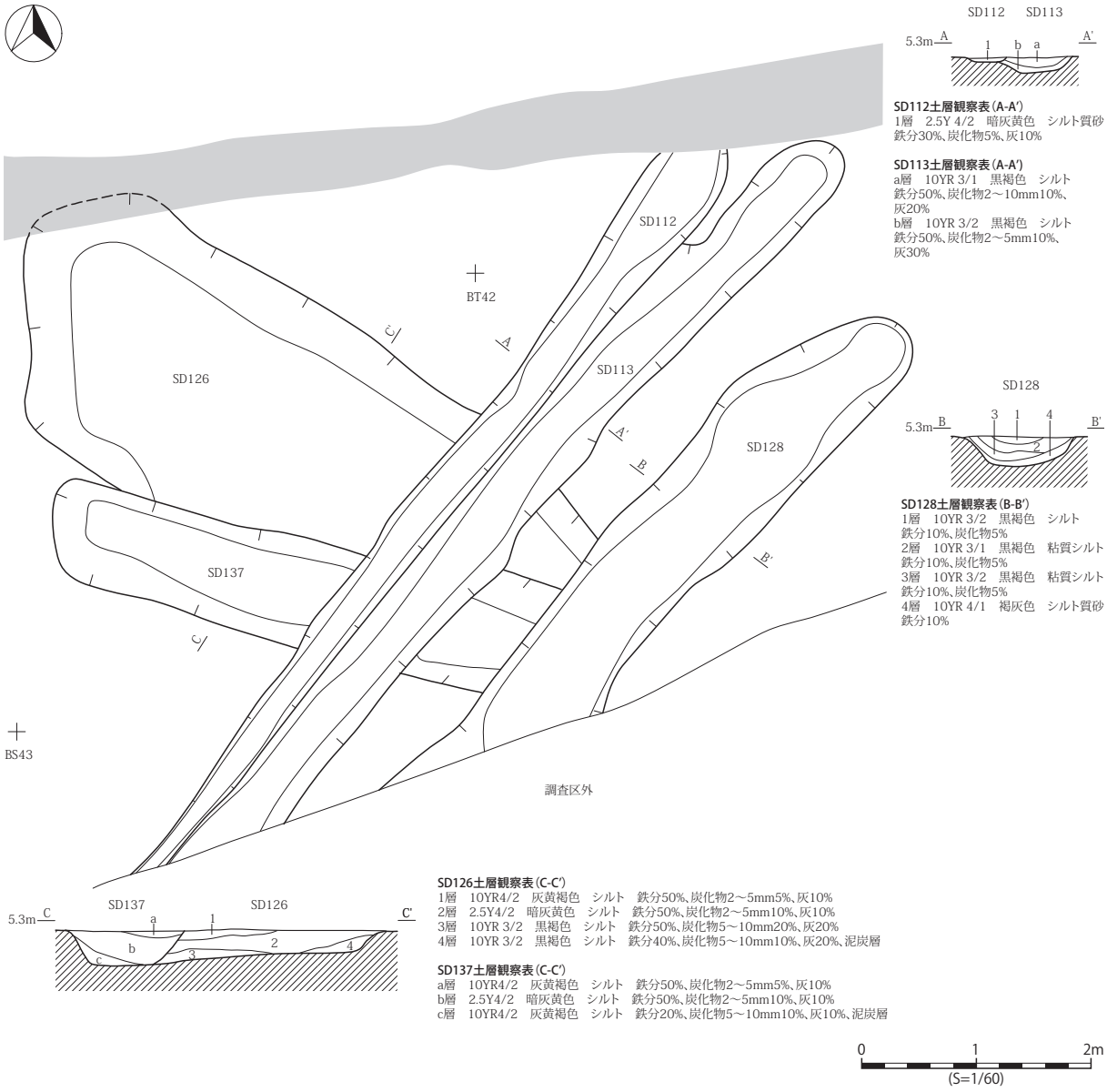
第 111 号溝跡（SD111、図Ⅳ -2-36）

［位置・確認］グリッド CB39 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］長さ 226cm、幅 51 ～ 63cm、深さ 21cm を測り、南西方向から北東方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒色土と黒褐色土が互層を成している。［出土遺物］土師器甕 199.0g、石器 403.0g が出土している（図Ⅳ -2-37）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-38）。2197 は砥石であり、扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。材質は珪質流紋岩である。［時期］不明である。

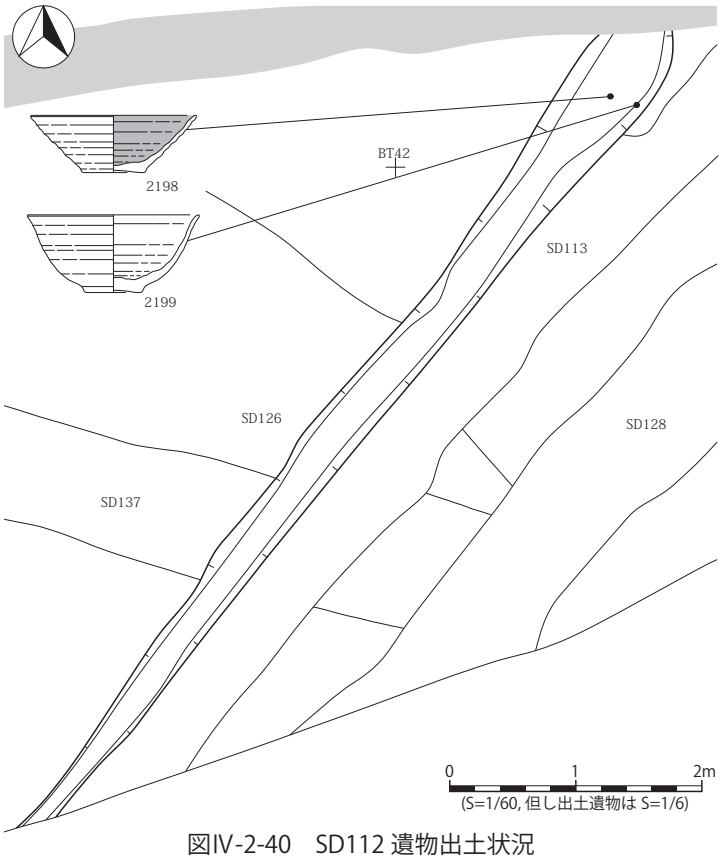
第 112・113・126・128・137 号溝跡（SD112・113・126・128・137、図Ⅳ -2-39）

(SD112)

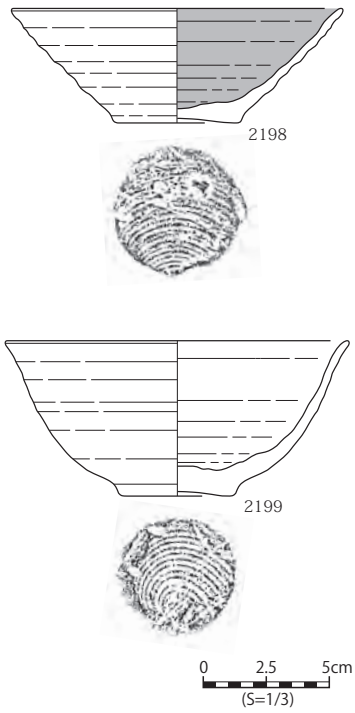
［位置・確認］グリッド BS・BT41、BR・BS42 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］



図Ⅳ-2-39　SD112・113・126・128・137

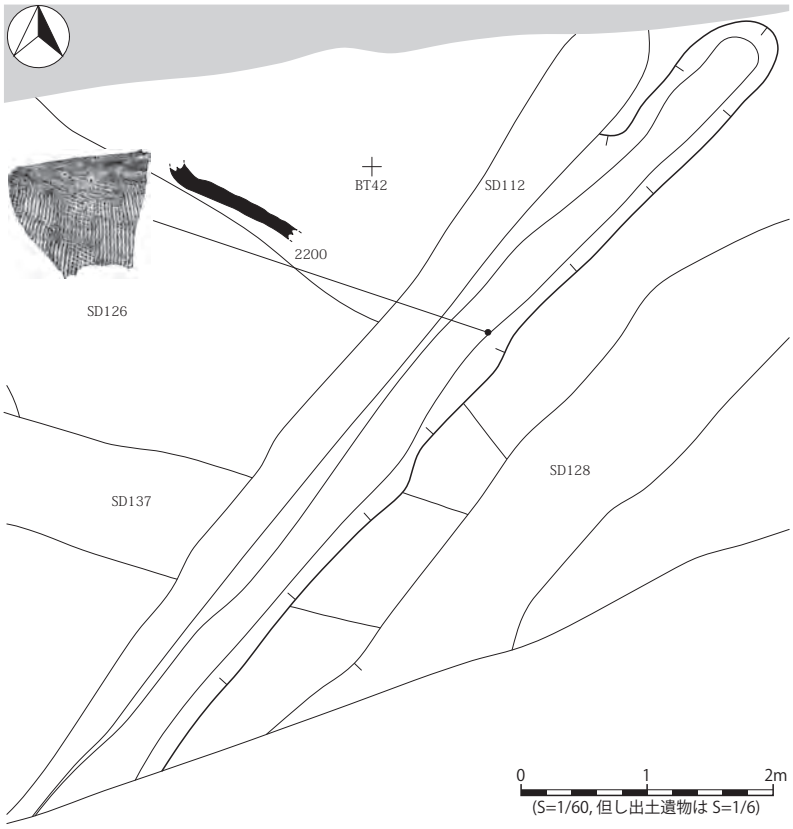


図Ⅳ-2-40　SD112 遺物出土状況



図Ⅳ-2-41　SD112 出土遺物

SD113･126･137 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］調査区外へと延びるため、正確な規模は不明であるが、現存長 791cm、幅 15 ～ 66cm、深さ 10.5cm を測り、南西方向から北東方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の層である。［出土遺物］土師器坏 512.4g、土師器甕 308.0g、須恵器甕 42.0g が出土している（図Ⅳ -2-40）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅳ -2-41）。2198 は、土師器の皿形坏であり、内面に二次被熱を受けている。2199 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕を残し、無調整

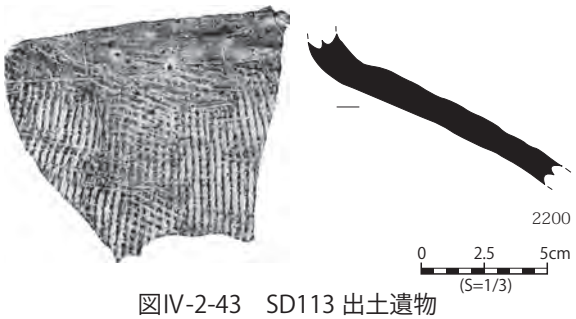


図Ⅳ-2-42　SD113 遺物出土状況

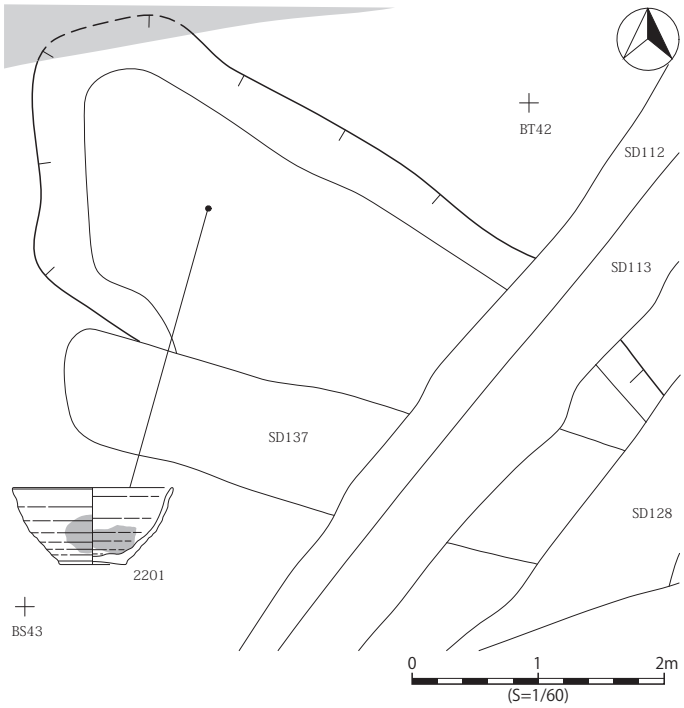
である。［時期］溝跡の形状からⅢ期であると考えられる。

（SD113）

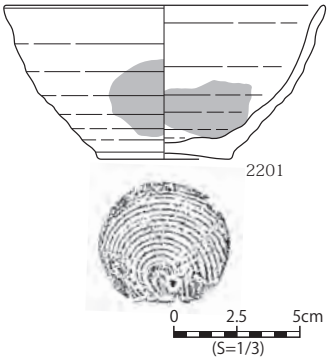
［位置・確認］グリッドBS・BT41，BR・BS42に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD112･126･137と重複関係にあり、SD112よりも古く、SD126･137よりも新しい。［規模・形状］



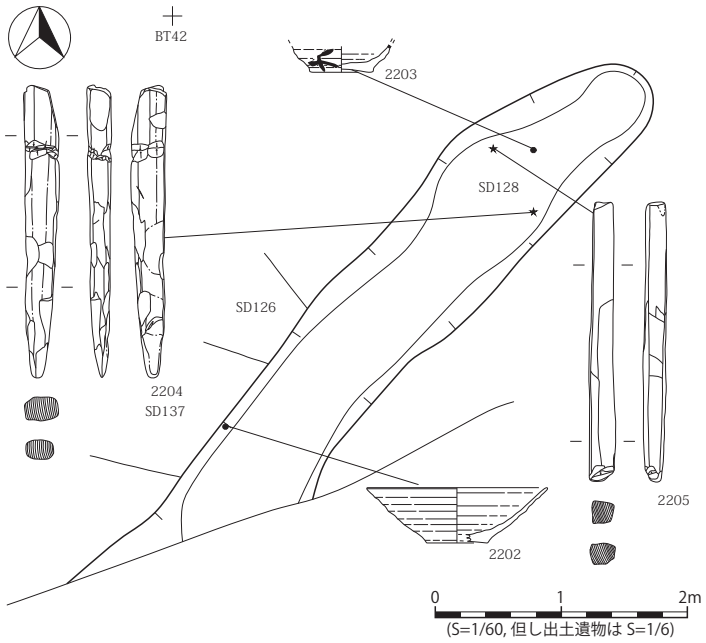
図Ⅳ-2-43　SD113出土遺物



図Ⅳ-2-44　SD126遺物出土状況



図Ⅳ-2-45　SD126出土遺物



図Ⅳ-2-46　SD128遺物出土状況

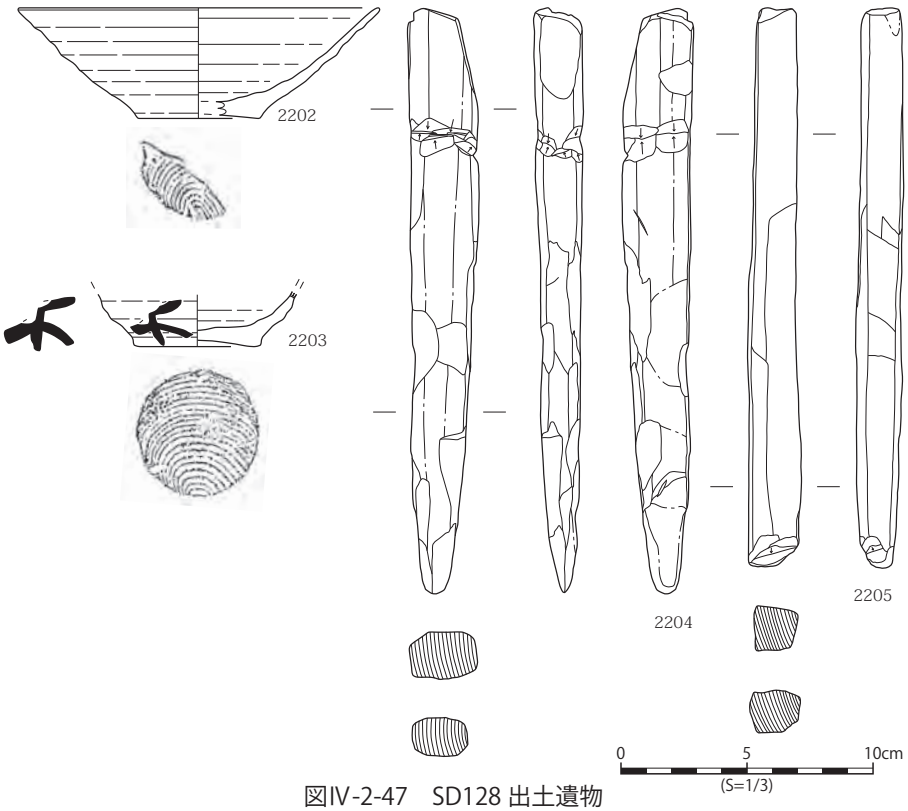
調査区外へと延びるため、正確な規模は不明であるが、確認長818.5cm、幅52～65cm、深さ18.5cmを測り、南西方向から北東方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］2層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器甕190.6g、須恵器甕202.0gが出土している（図Ⅳ-2-42）。この内図示できたのは1点である（図Ⅳ-2-43）。2200は須恵器甕の肩部破片であり、頸部はロクロナデ、肩部は格子タタキ目が確認された。［時期］溝跡の形状からⅢ期であると考えられる。

（SD126）

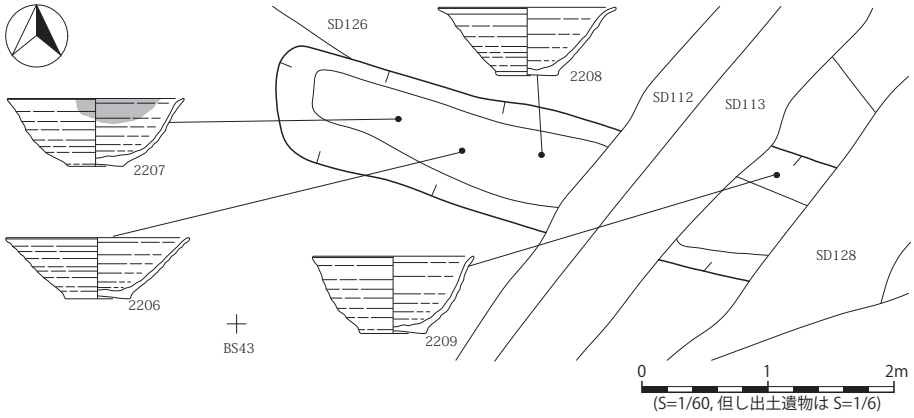
［位置・確認］グリッドBS41，42，BT42に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD112・113・128・137と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD128に重複関係にあるため、正確な規模は不明であ

るが、現存長 558cm、幅 55.5 ～ 226cm、深さ 21.5cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］4 層確認され、上層はⅢ層あるいはⅣ層由来の層であり、下層は黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 306.3g、土師器甕 359.7g が出土している（図Ⅳ -2-44）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-45）。2201 は土師器の埦であり、内外面は二次被熱を受けている。ロクロ成形後、底面に回転糸切痕を有し、無調整である。［時期］溝跡の形状からⅢ期であると考えられる。（SD128）

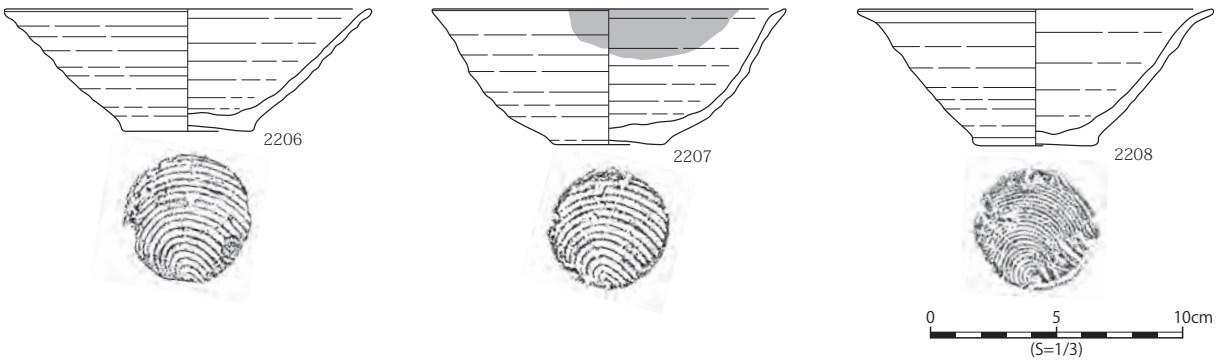
［位置・確認］グリッド BS41 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］



図Ⅳ-2-47　SD128 出土遺物

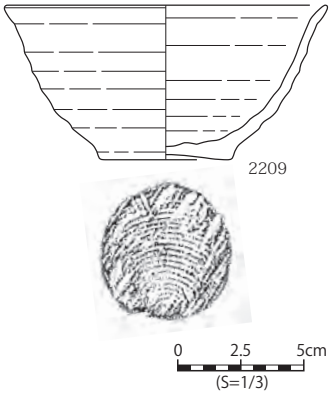


図Ⅳ-2-48　SD137遺物出土状況



図Ⅳ-2-49　SD137 出土遺物 (1)

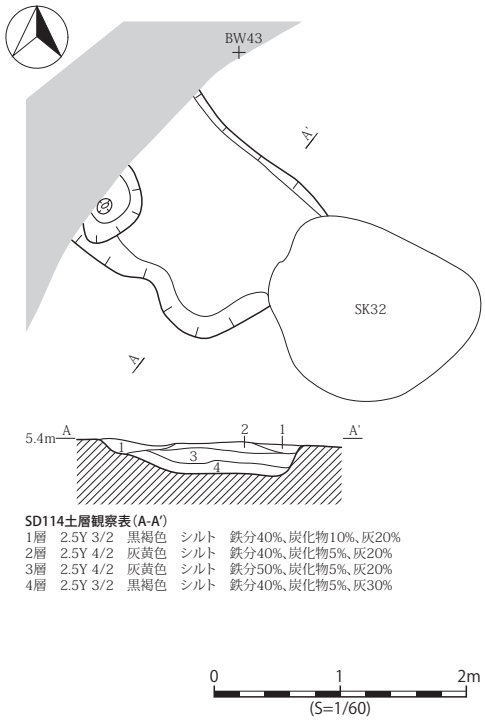
SD126・137 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］調査区外に延びるため、正確な規模は不明であるが、確認長 489cm、幅 82 ～ 104.5cm、深さ 26.5cm を測り、南西方向から北東方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 329.0g、土師器甕 940.3g、須恵器甕 180.0g、木製品等が出土している（図Ⅳ -2-46）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅳ -2-47）。2202 は土師器の皿形坏である。2203 は土師器の坏であり、外面に墨書が書かれている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を残し無調整である。［時期］堆積土及び出土遺物からⅡ期であると考えられる。



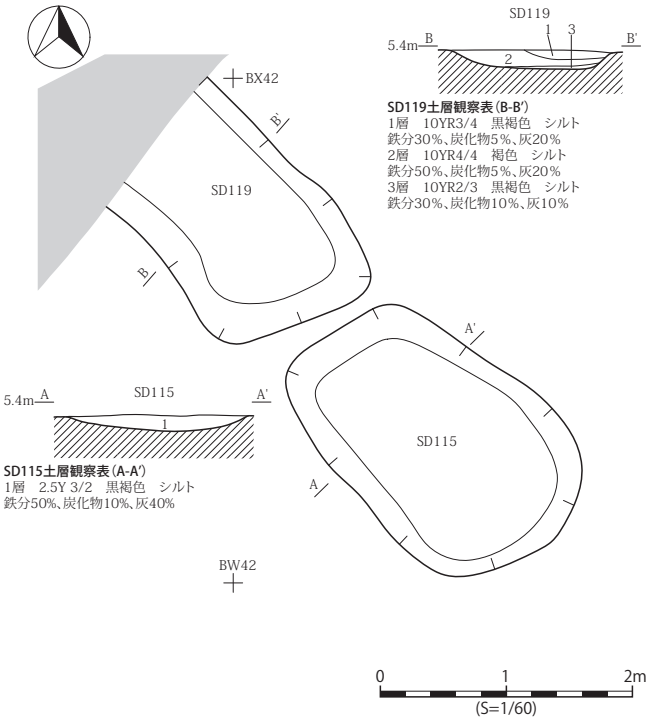
図Ⅳ-2-50　SD137 出土遺物 (2)

（SD137）

［位置・確認］グリッド BS41，42 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD112・113・126・128 と重複関係にあり、SD112・113・128 よりも古く、SD126 よりも新しい。［規模・形状］SD128 に重複関係にあるため、正確な長さは不明であるが、現存長 423cm、幅 83.5 ～ 108cm、深さ 31cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層とⅣ層由来の層が互層を成している。［出土遺物］土師器坏 612.7g、土師器甕 719.3g が出土している（図Ⅳ -2-48）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅳ -2-49・50）。2206 は土師器の皿形坏である。2207・2208 は土師器の埦形坏であり、2207 は内外面は二次被熱を受けている。2209 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後、底面に回転糸切痕を有し、無調整である。［時期］Ⅱ期であると考えられる SD128 とあまり時期差がないことからⅡ期であると考えられる。



図Ⅳ-2-51　SD114



図Ⅳ-2-52　SD115・119

第 114 号溝跡（SD114、図Ⅳ -2-51）

［位置・確認］グリッド BV42，43 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SK32 と重複関係にあり、SK32 よりも古い。［規模・形状］SK32 により掘削され、また近世以降の水田により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 157.5cm、幅 132 ～ 155cm、深さ 28cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土を主体とした層とⅣ層由来の層が互層を成している。［出土遺物］土師器甕 114.8g が出土している。

第 115・119 号溝跡（SD115・119、図Ⅳ -2-52）

圃場整備の際の掘削により、僅かに残存していた溝跡であり、当初は直線状に延びる同一の溝跡であった可能性が高いと考えられる。

（SD115）

［位置・確認］グリッド BW41 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］現存長 239cm、幅 134 ～ 162cm、深さ 10cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 9.4g、土師器甕 78.6g、須恵器甕 7.0g、須恵器壺 69.0g が出土している。

（SD119）

［位置・確認］グリッド BW41 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］近世以降の水田により掘削されているため正確な規模は不明であるが、現存長 206cm、幅 127 ～ 140cm、深さ 17cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 8.0g、土師器甕 68.7g が出土している。

第 116・120・121・123・141 号溝跡（SD116・120・121・123・141、図Ⅳ -2-53）

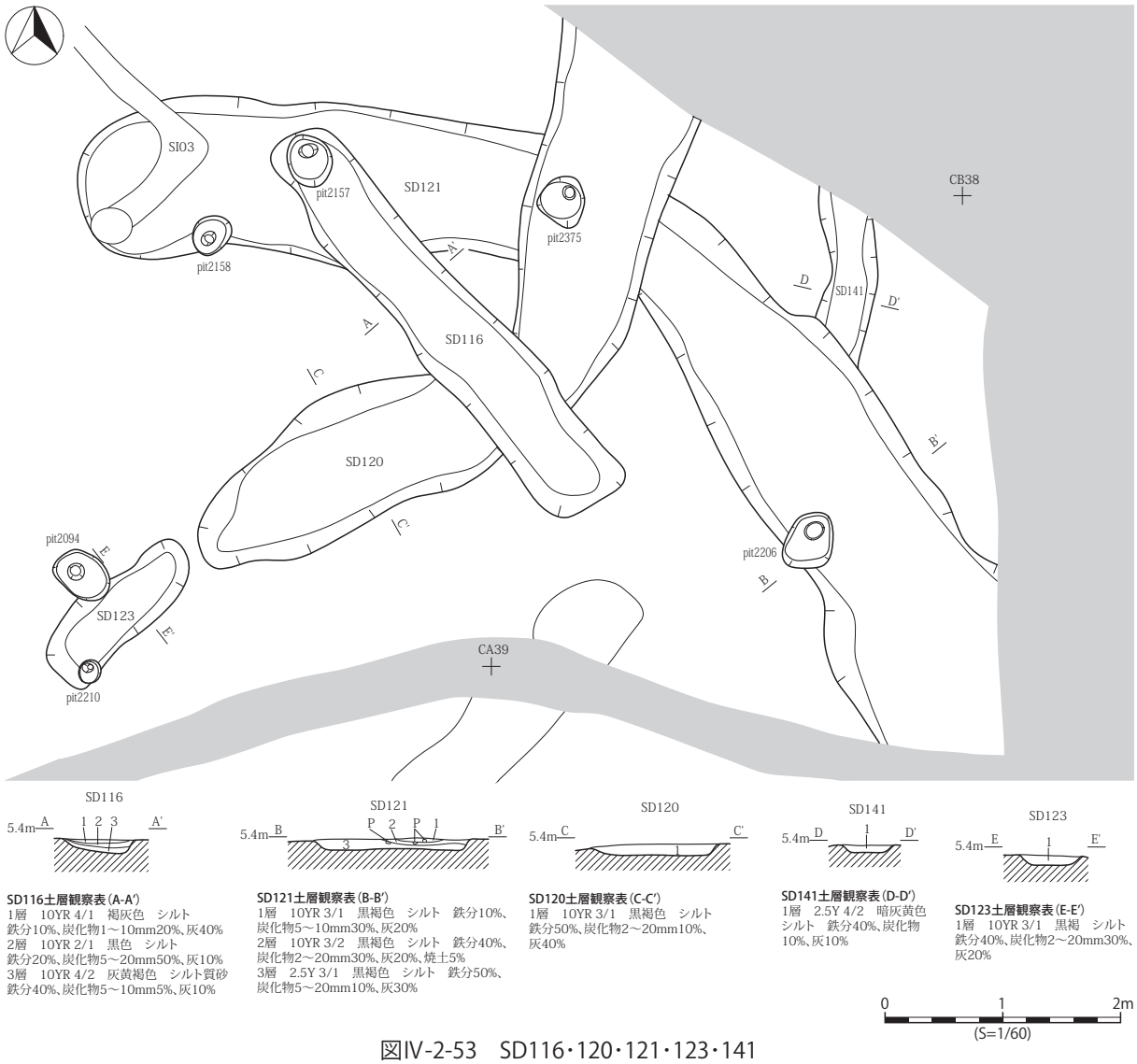
（SD116）

［位置・確認］グリッド CA38，39、CB39 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD120・121 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］長さ 406cm、幅 57 ～ 74cm、深さ 12.5cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 391.8g、土師器甕 880.9g 出土している（図Ⅳ -2-54）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-55）。2210 は土師器の皿型坏であり、内外面に二次被熱を受けている。2211・2212 は土師器の埦であり、2212 は内面にヘラ記号が描かれており、内外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕を有し、無調整である。［時期］堆積土及び出土遺物からⅡ期であると考えられる。

（SD120）

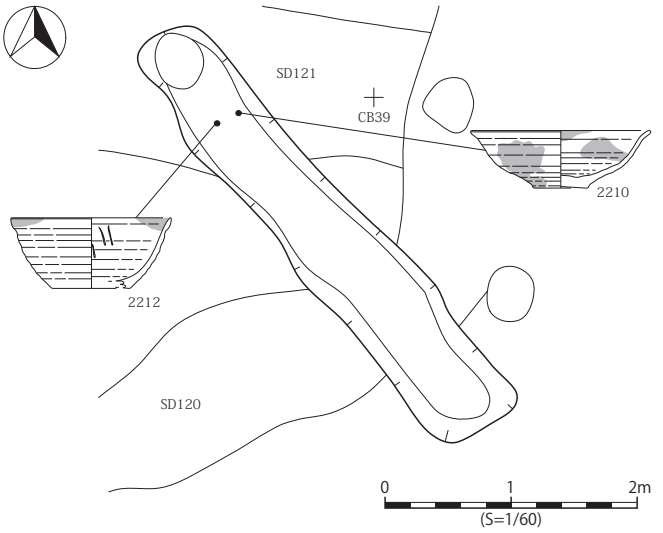
［位置・確認］グリッド CA38，39、CB38 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD116・121 と重複関係にあり、SD116 よりも古く、SD121 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 594cm、幅 80.5 ～ 110cm、深さ 11cm を測り、南西方向から北方向へ弧状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 76.4g、土師器甕 188.5g、須恵器甕 34.9g が出土している。［時期］Ⅱ期であると考えられる SD116 とあまり時期差がないことからⅡ期であると考えられる。

（SD121）

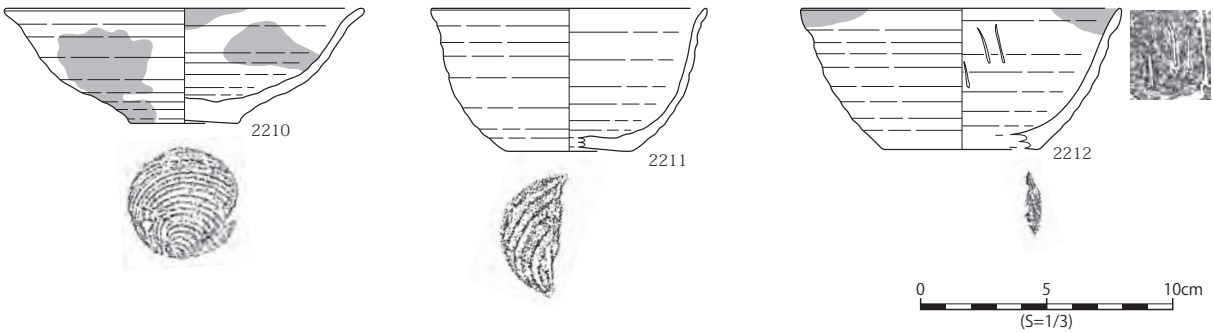


図Ⅳ-2-53　SD116・120・121・123・141

［位置・確認］グリッドBY・CA37～39、CB38，39に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SI03、SD116・120・141と重複関係にあり、SI03、SD116・120よりも古く、SD141よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長1,022cm、幅87～167cm、深さ9.5cmを測り、南東方向から北西方向へ直線状に延び、途中で北西方向に向きを転じるL字状の溝跡である。［堆積土］3層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器甕285.2g、須恵器



図Ⅳ-2-54　SD116遺物出土状況



図Ⅳ-2-55　SD116 出土遺物

甕 154.0g が出土している。［時期］Ⅱ期であると考えられる SD116 とあまり時期差がないことからⅡ期であると考えられる。

（SD123）

［位置・確認］グリッド CA39 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］長さ 151cm、幅 45 ～ 55cm、深さ 12.5cm を測り、南西方向から北東方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 9.5g、土師器甕 40.7g 出土している。［時期］Ⅱ期であると考えられる SD116 とあまり時期差がないことからⅡ期であると考えられる。

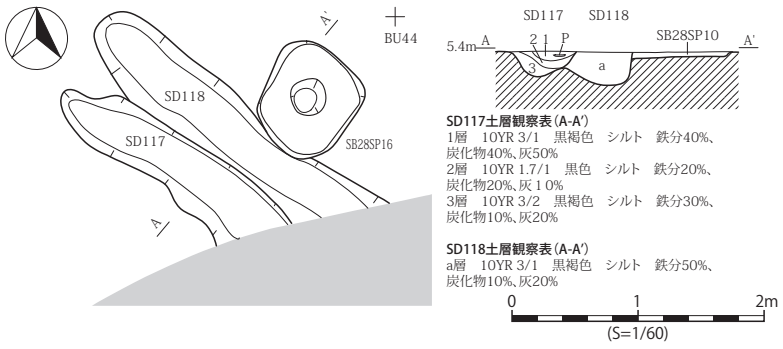
（SD141）

［位置・確認］グリッド CA38 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD121 と重複関係にあり、SD121 よりも古い。［規模・形状］SD121、近世以降の水田により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 118cm、幅 39 ～ 44.5cm、深さ 10cm を測り、南西方向から北東方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の層である。［出土遺物］土師器坏 613.0g、土師器甕 533.0g が出土している。

第 117・118 号溝跡（SD117・118、図Ⅳ -2-56）

（SD117）

［位置・確認］グリッド BT44 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD118 と重複関係にあり、SD118 よりも新しい。［規模・形状］撹乱を受けており正確な規模・形状は不明であるが現存長 192cm、幅 40 ～ 56cm、深さ 21cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器甕 82.9g が出土している。



図Ⅳ-2-56　SD117･118

（SD118）

［位置・確認］グリッド BT44 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SB28SP16、SD117 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］撹乱を受けており正確な規模・形状は不明であるが現存長 246cm、幅 34 ～ 56cm、深さ 33cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に

延びる溝跡である。［堆積土］1層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］特になし。

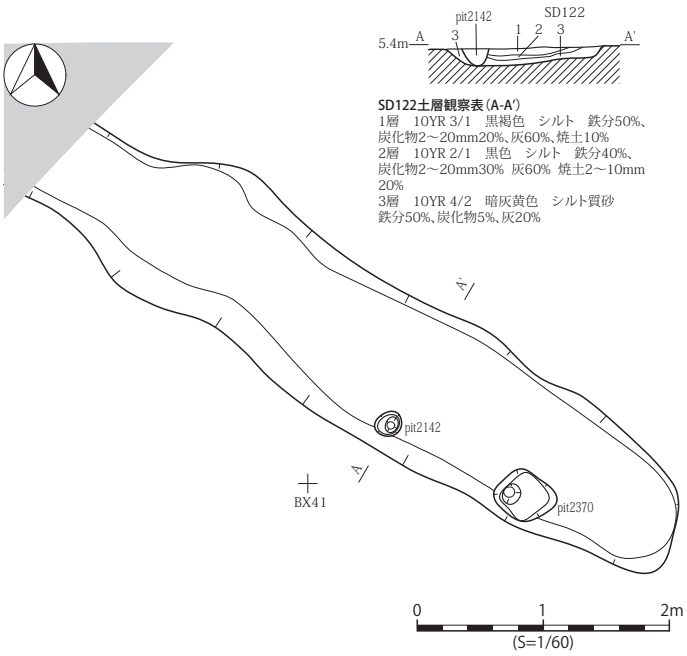
第122号溝跡（SD122、図Ⅳ-2-57）

［位置・確認］グリッドBW40、BX40,41に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］pit2142・2370と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］撹乱を受けており正確な規模・形状は不明であるが現存長657cm、幅75～129cm、深さ44cmを測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］3層確認され、上層より黒褐色土を主体とした層、黒色土を主体とした層、Ⅲ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器甕173.2g、須恵器ミニチュア186.3g、石器374gが出土している（図Ⅳ-2-58）。この内図示できたものは3点である（図Ⅳ-2-59）。2213は土師器の皿形坏であり、2214は須恵器ミニチュアの壺である。いずれもロクロ成形後、底面は回転糸切痕を有し、無調整である。

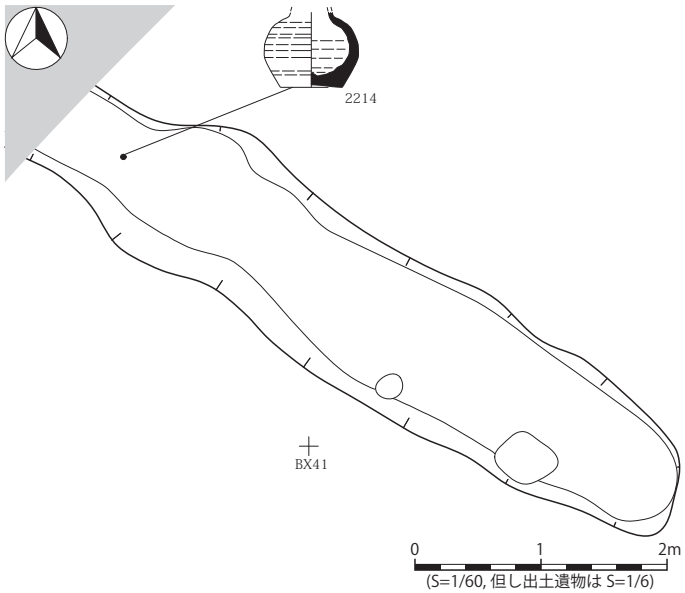
第124・125号溝跡（SD124・125、図Ⅳ-2-60）

（SD124）

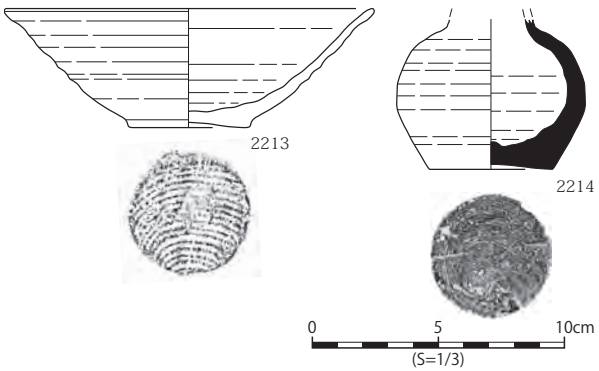
［位置・確認］グリッドBY38～40、CA38に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SA16と重複関係にあり、SA16よりも新しい。［規模・形状］長さ594cm、幅80.5～110cm、深さ11cmを測り、南西方向から北東方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］2層確認され、上層は黒褐色土を主体とした層、下層はⅢ層由来の層で形成されている。



図Ⅳ-2-57　SD122

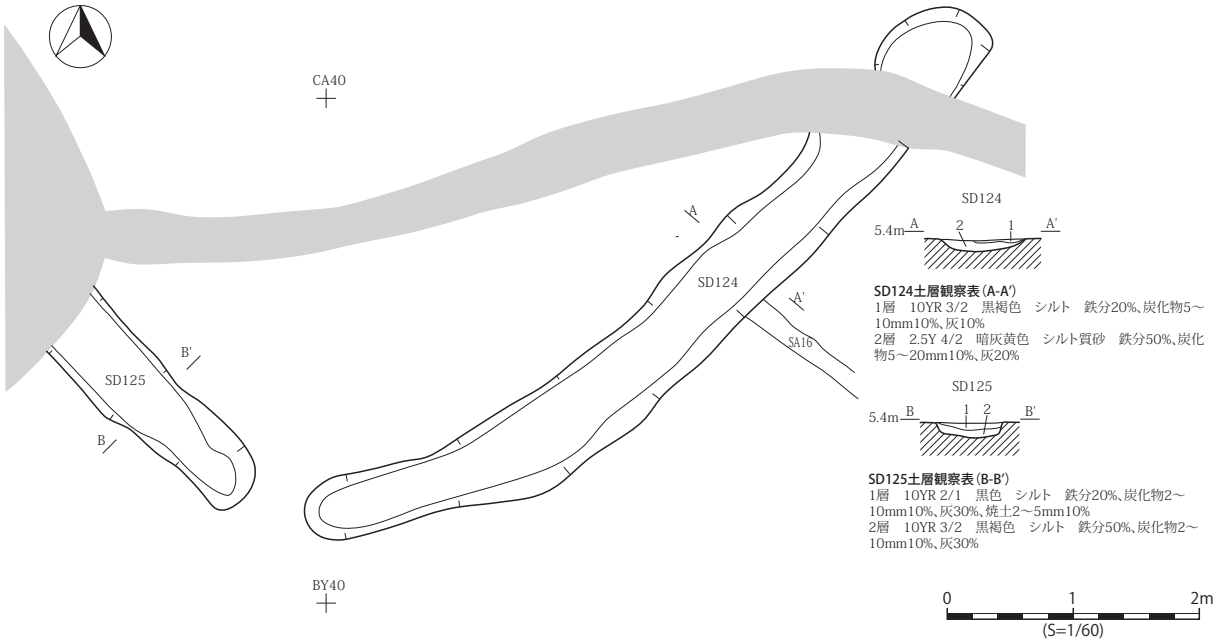


図Ⅳ-2-58　SD122遺物出土状況



図Ⅳ-2-59　SD122 出土遺物

［出土遺物］土師器坏 36.1g、土師器甕 67.4g が出土している。



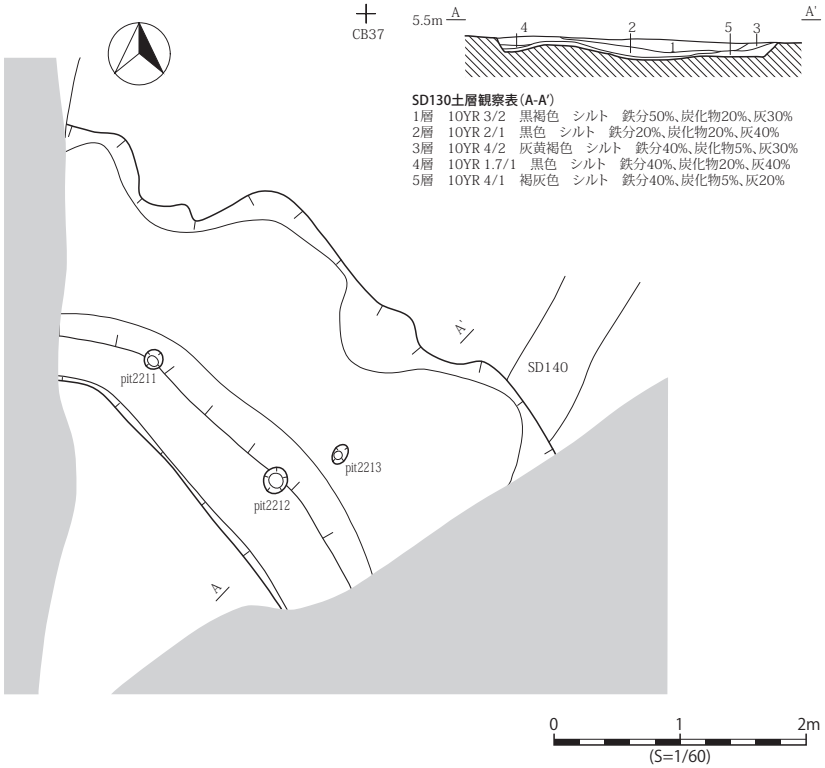
図Ⅳ-2-60　SD124･125

（SD125）

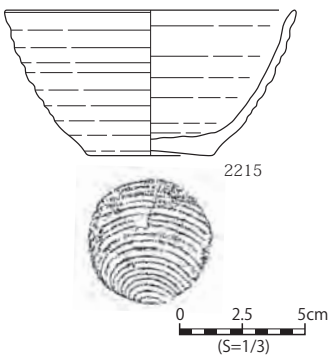
［位置・確認］グリッド BY40 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］特になし。［規模・形状］撹乱を受けており正確な規模・形状は不明であるが、現存長 194cm、幅 51 ～ 62cm、深さ 14.5cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］2 層確認され、上層は黒色土を主体とした層、下層は黒褐色土を主体としたで形成されている。［出土遺物］土師器坏 12.3g、土師器甕 233.4g が出土している。

第 130 号溝跡（SD130、図Ⅳ-2-61）

［位置・確認］グリッド BY・CA36，37 に位置し、Ⅳ

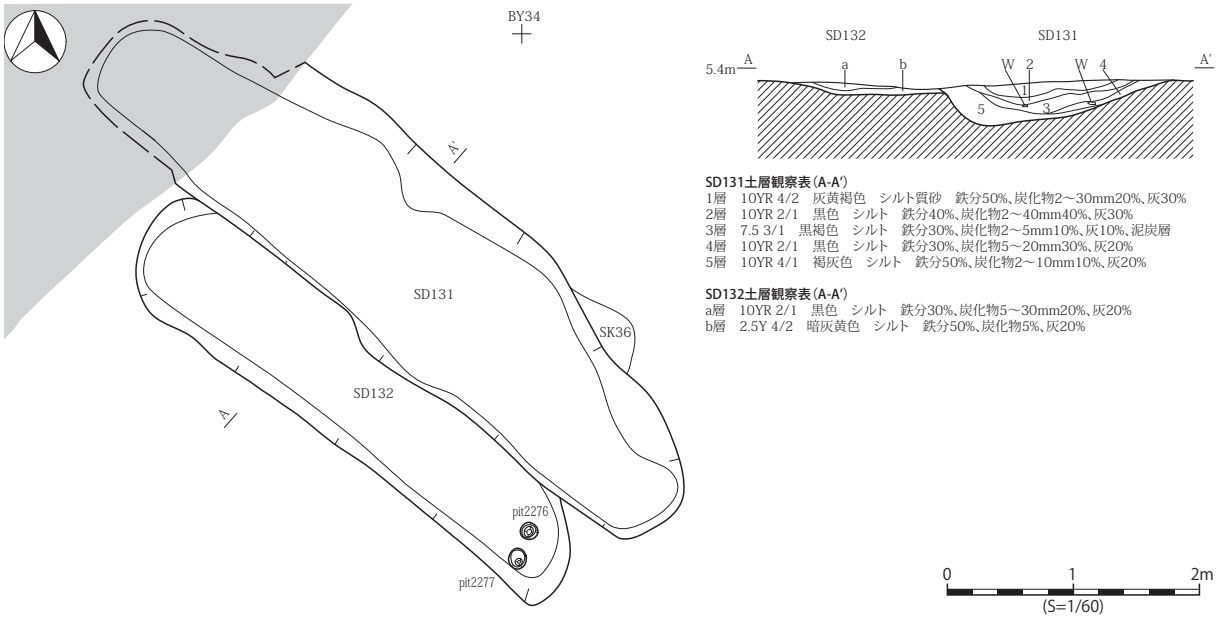


図Ⅳ-2-61　SD130

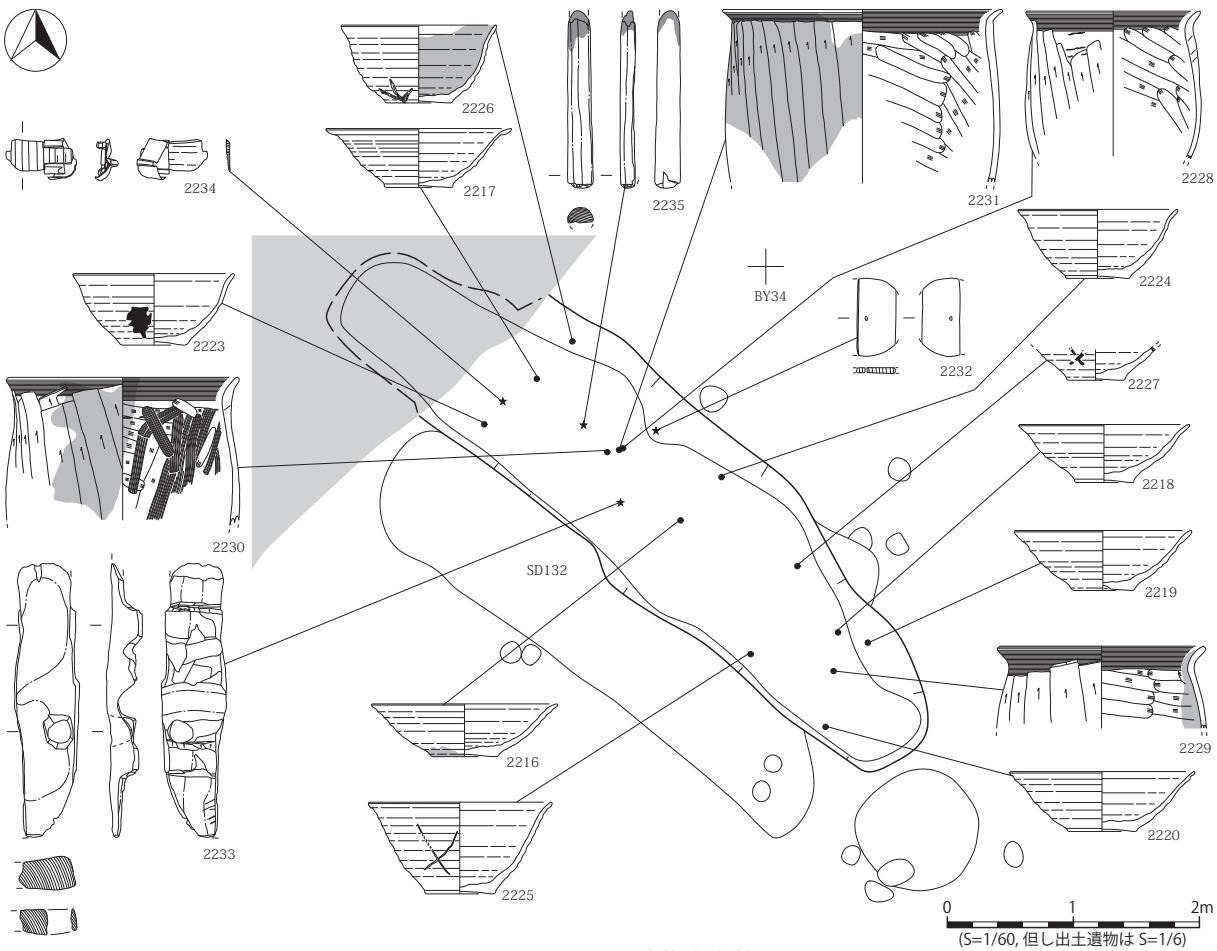


図Ⅳ-2-62　SD130 出土遺物

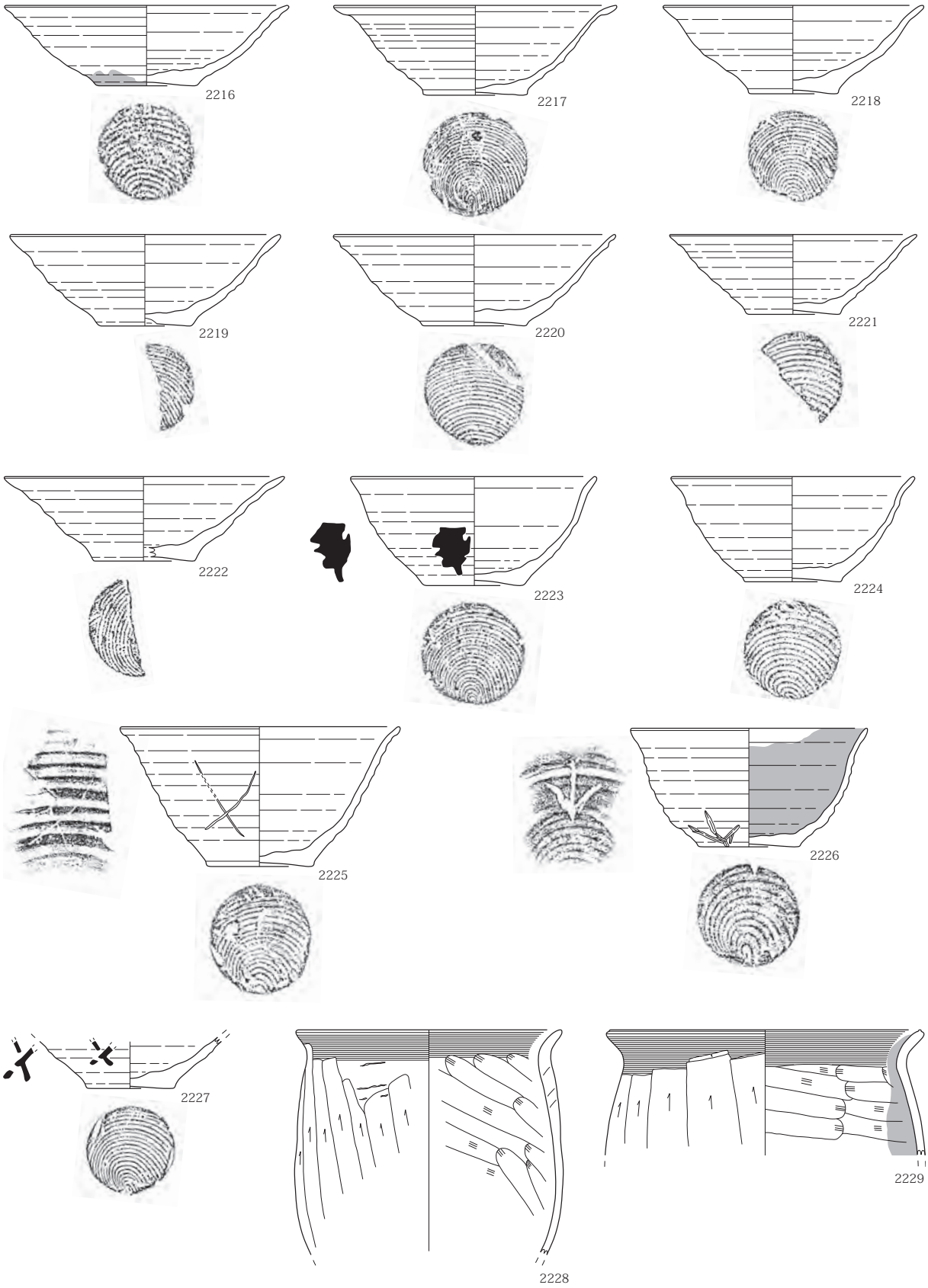
層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］撹乱を受けており正確な規模・形状は不明であるが、現存長 379cm、幅 153 ～ 253cm、深さ 11cm を測り、南東方向から北西方向へ直線



図Ⅳ-2-63　SD131･132



図Ⅳ-2-64　SD131遺物出土状況



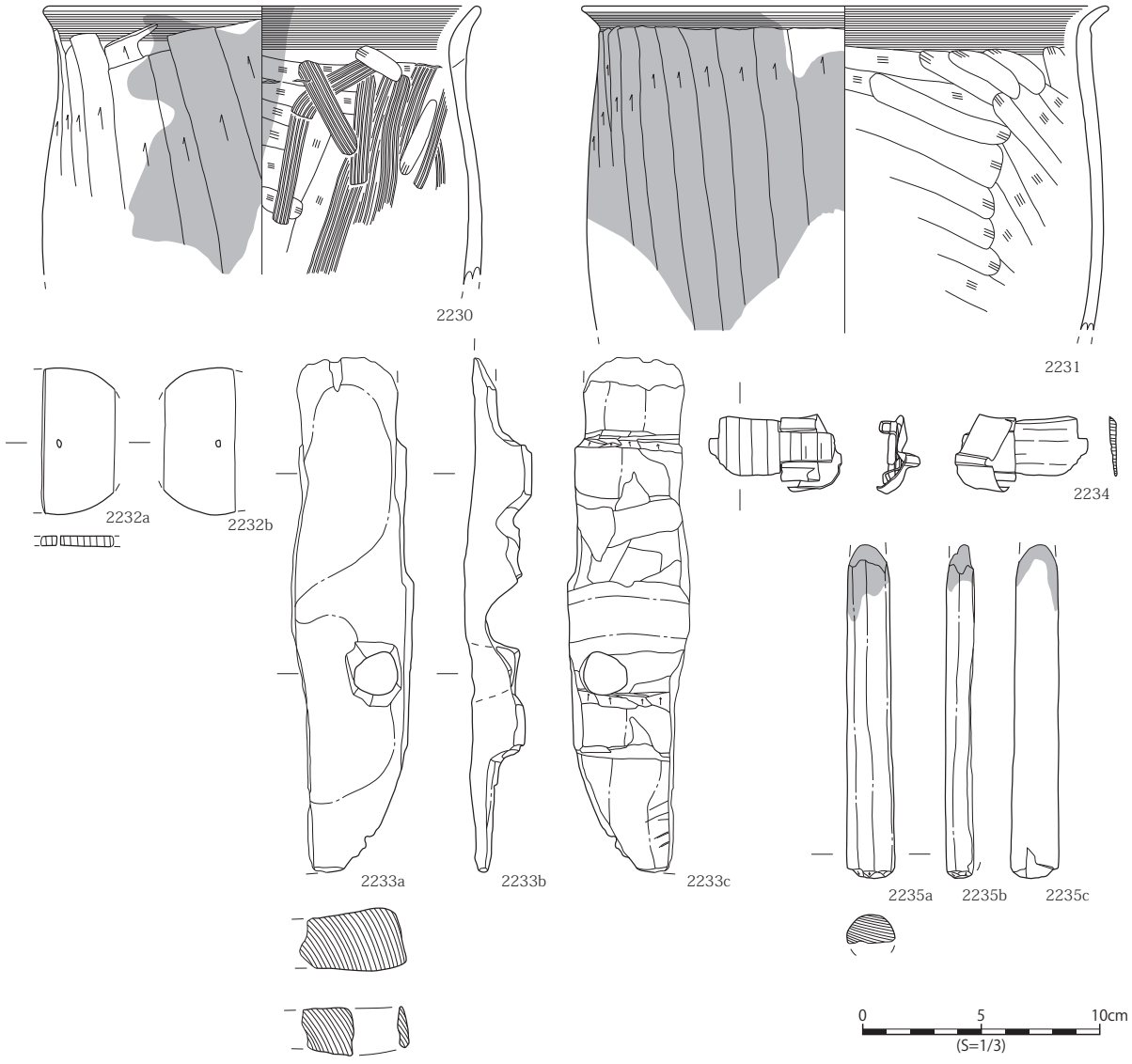
図Ⅳ-2-65　SD131 出土遺物 (1)

状に延びる溝跡である。［堆積土］5 層確認され、黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層とで形成されている。［出土遺物］土師器坏 686.2g、土師器甕 2,830.0g、須恵器甕 49.9g が出土している。その内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-62）。2215 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。

第 131・132 号溝跡（SD131・132、図Ⅳ -2-63）

（SD131）

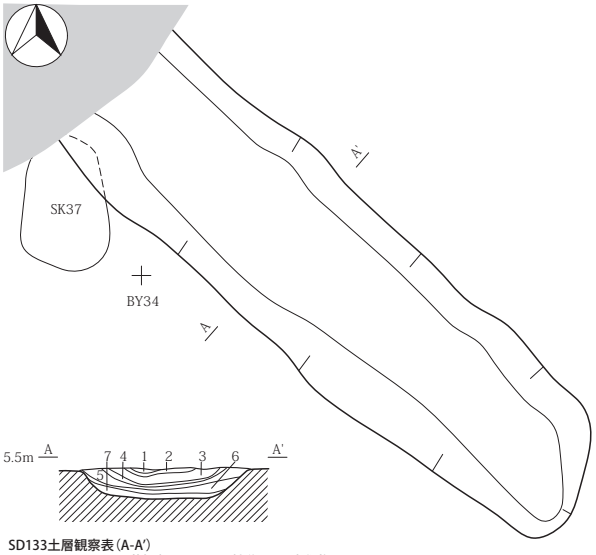
［位置・確認］グリッド BW33，34、BX34 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD132 と重複関係にあり、SD132 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田による掘削を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、現存長 778cm、幅 148 ～ 202cm、深さ 37cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］5 層確認され、黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層とで形成されている。［出土遺物］土師器坏 2,600.7g、土師器甕 8,651.0g、須恵器甕 58.0g が出土している（図Ⅳ -2-64）。その内図示できたのは 19 点である（図Ⅳ -2-65・



図Ⅳ-2-66　SD131 出土遺物 (2)

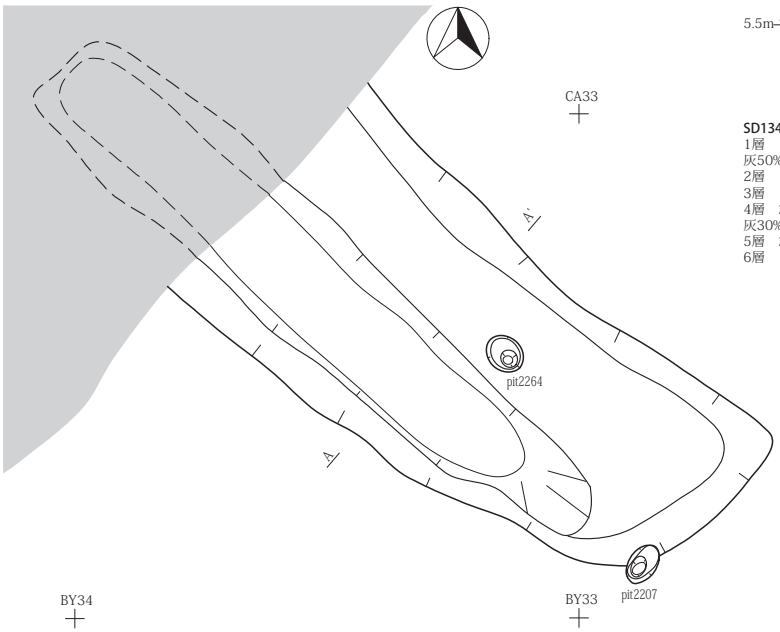
66)。2216 は土師器の皿であり、外面に二次被熱を受けている。2217 ～ 2222 は土師器の皿形坏である。2223 ～ 2226 は土師器の埦であり、2223 は外面に墨書が書かれている。2225・2226 は外面にヘラ記号描かれ、2226 は内面に二次被熱を受けている。2227 は土師器坏の体部～底部破片であり、外面に墨書が書かれている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2228・2229 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整を施した後、体部外面にヘラケズリ、内面にユビナデ調整が施されている。2230・2231 は土師器の長胴甕であり、調整は小型甕と同様である。2232 は紡錘車であり、穿孔が見られる。2233 は下駄であり、2234 は曲物側板の綴じ具であり、一部側板が残存している。2335 は燃えさしであり、一端が二次被熱により炭化している。樹種は 2333 の綴じ具が針葉樹種であり、その他はいずれもアスナロである。(SD132)

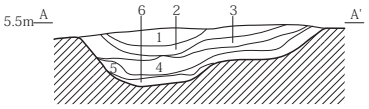
［位置・確認］グリッド BW33，34、BX33 ～ 35 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD131 と重複関係にあり、SD131 よりも古い。［規模・形状］長さ 576.5cm、幅 104 ～ 128cm、深さ 23cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］2 層確認され、上層は黒色土を主体とした層、下層はⅢ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 132.3g、土師器甕 469.7g が出土している。



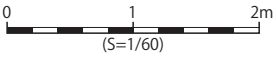
SD133土層観察表(A-A')
1層　10YR 5/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物2～5mm20%、灰30%
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰30%
3層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物2mm～1cm20%、灰30%
4層　10YR 2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～15mm10%、灰40%
5層　10YR 2/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm10%、灰30%
6層　10YR 1.7　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物5mm～4cm30%、灰20%
7層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5mm～3cm10%、灰30%

図Ⅳ-2-67　SD133





SD134土層観察表(A-A')
1層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物2～10mm20%、灰50%
2層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分50%、炭化物5～30mm30%、灰40%
3層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～10mm20%、灰30%
4層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト質粘土　鉄分50%、炭化物5～20mm20%、灰30%
5層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm10%、灰20%
6層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物20%、灰10%



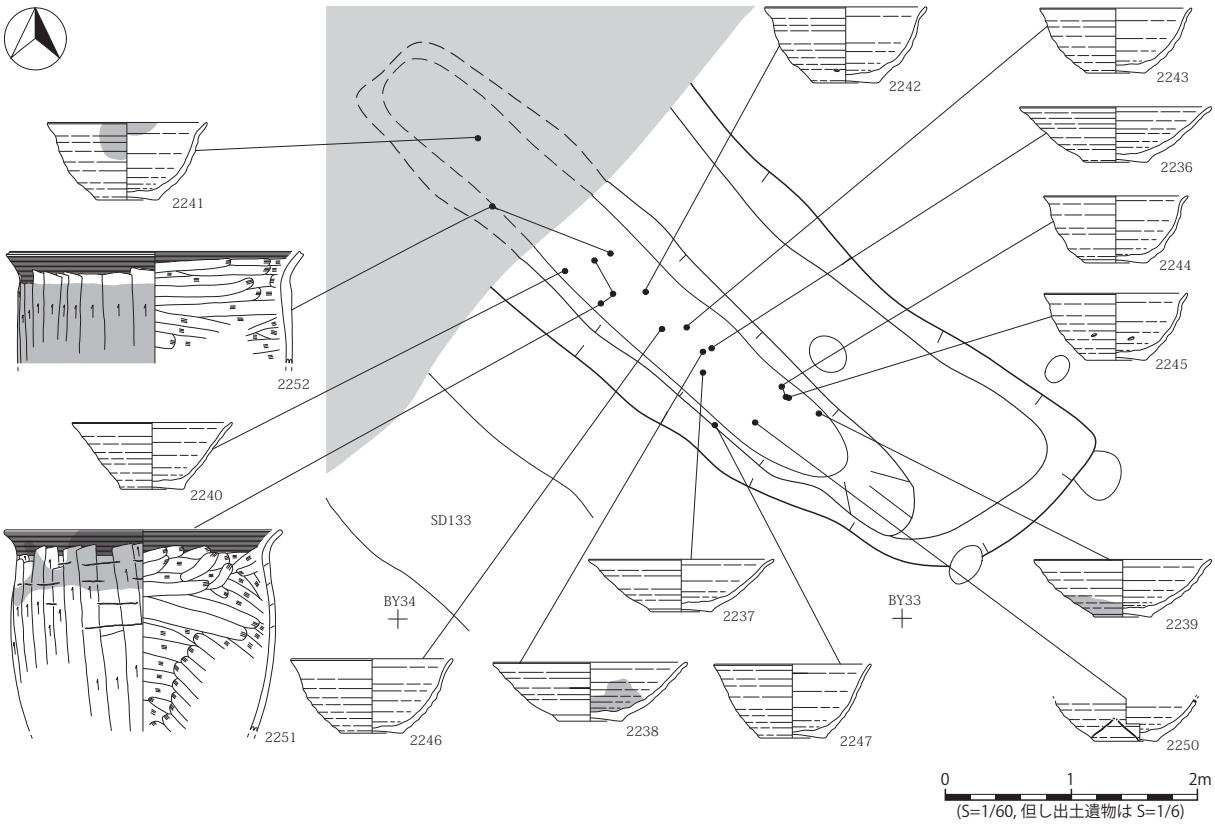
図Ⅳ-2-68　SD134

第 133 号溝跡（SD133、図Ⅳ -2-67）

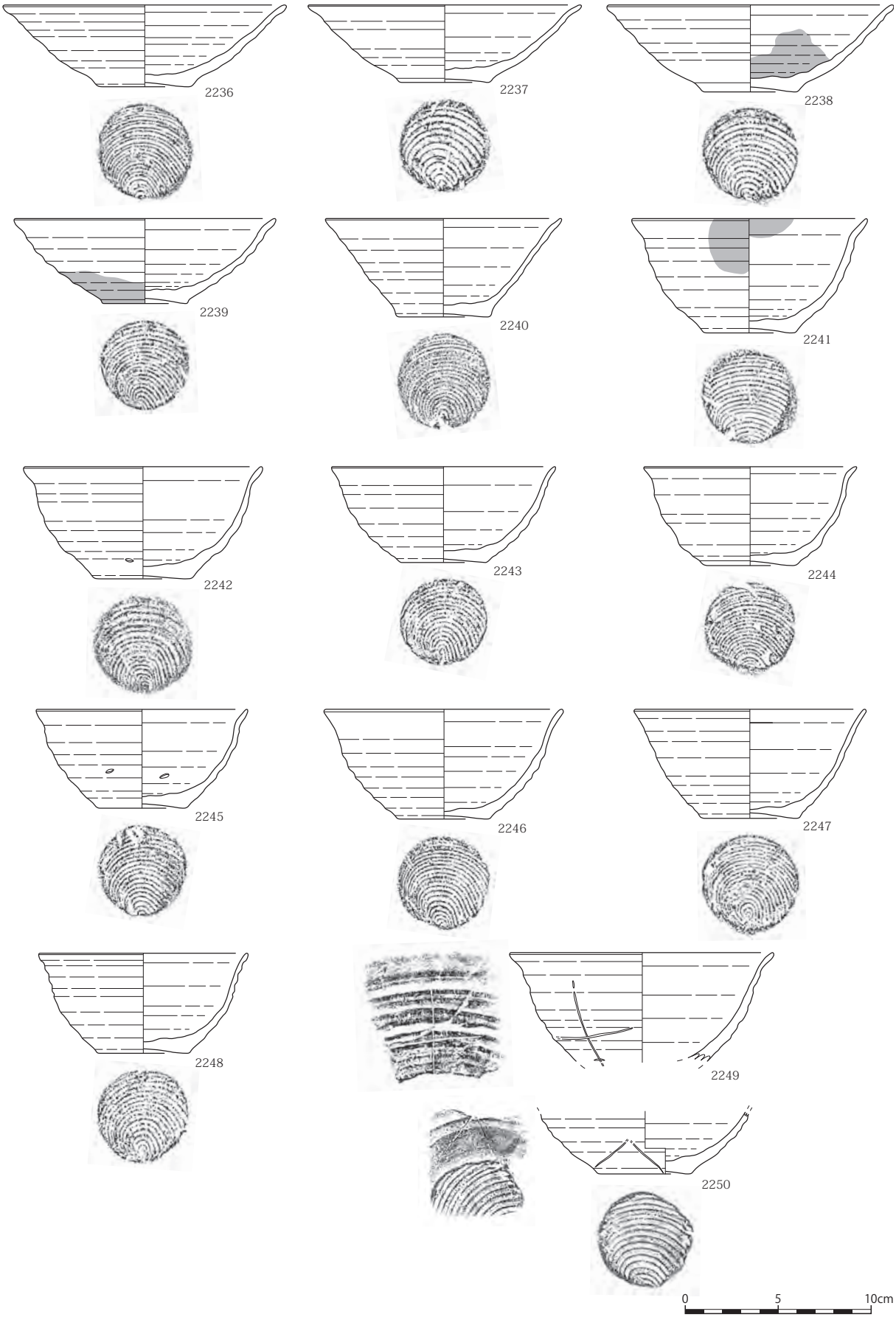
［位置・確認］グリッド BX・BY33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SK37 と重複関係にあり、SK37 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田による掘削を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、現存長 489cm、幅 115 ～ 136cm、深さ 25.5cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］7 層確認され、Ⅳ層由来の層と黒褐色土を主体とした層が互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 498.7g、土師器甕 1,170.7g が出土している。

第 134 号溝跡（SD134、図Ⅳ -2-68）

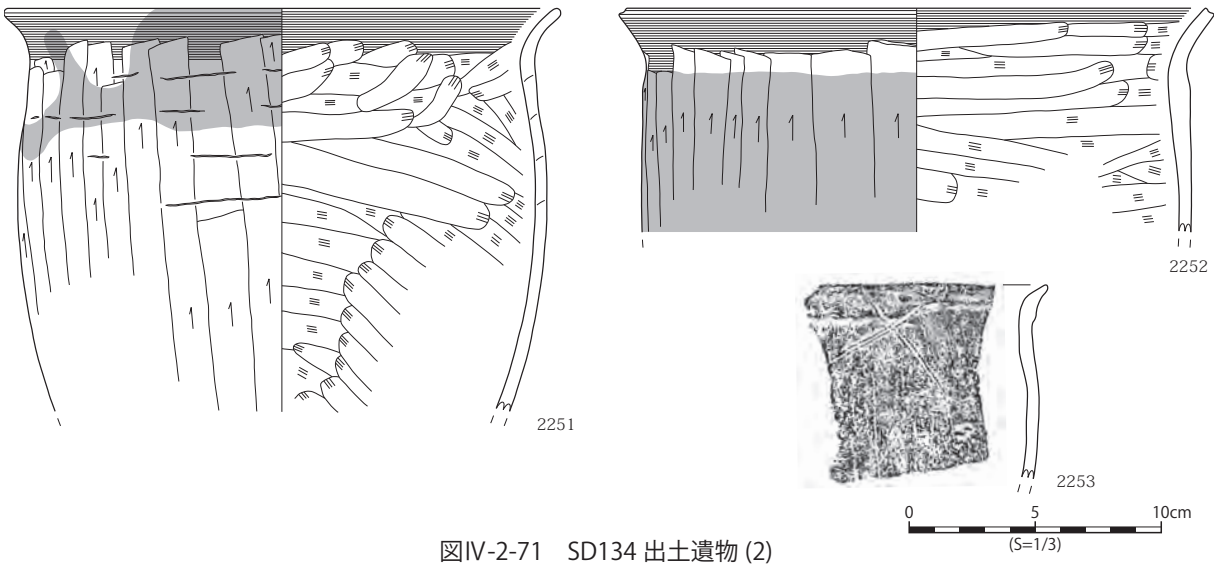
［位置・確認］グリッド BY32, 33、CA33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］近世以降の水田による掘削を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、現存長 620cm、幅 174 ～ 224cm、深さ 47cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］6 層確認され、黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層が互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 2,629.5g、土師器甕 4,881.8g が出土している（図Ⅳ -2-69）。この内図示できたのは 17 点である（図Ⅳ -2-70・71）。2236・2237 は土師器の皿であり、2238・2239 は土師器の皿形坏であり、2238 は内面に、2239 は外面に二次被熱を受けている。2240 ～ 2248 は土師器の埦であり、2242 は外面に、2245 は内外面に籾圧痕が見られる。2241 は内外面に二次被熱を受けている。2249・2250 は土師器の坏であり、外面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2251 ～ 2253 は土師器の甕であり、2253 は外面にヘラ記号が描かれている。いずれも口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。



図Ⅳ-2-69　SD134遺物出土状況



図Ⅳ-2-70　SD134 出土遺物 (1)



図Ⅳ-2-71　SD134 出土遺物 (2)

第 135・140・142 号溝跡（SD135・140・142、図Ⅳ -2-72）

（SD140）

［位置・確認］グリッド CA35，36 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD130・135 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD130･135 により掘削を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、現存長 529cm、幅 20 ～ 59cm、深さ 13cm を測り、南西方向から北東方向へ直線状に延び、途中で向きを転じ、南東方向へと延びる L 字状の溝跡である。溝跡内からピットが検出されていないが、竪穴住居跡の壁溝の可能性も考えられる。［堆積土］2 層確認され、上層は黒褐色土を主体とした層で、下層はⅣ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 92.6g、土師器甕 75.7g が出土している。

（SD142）

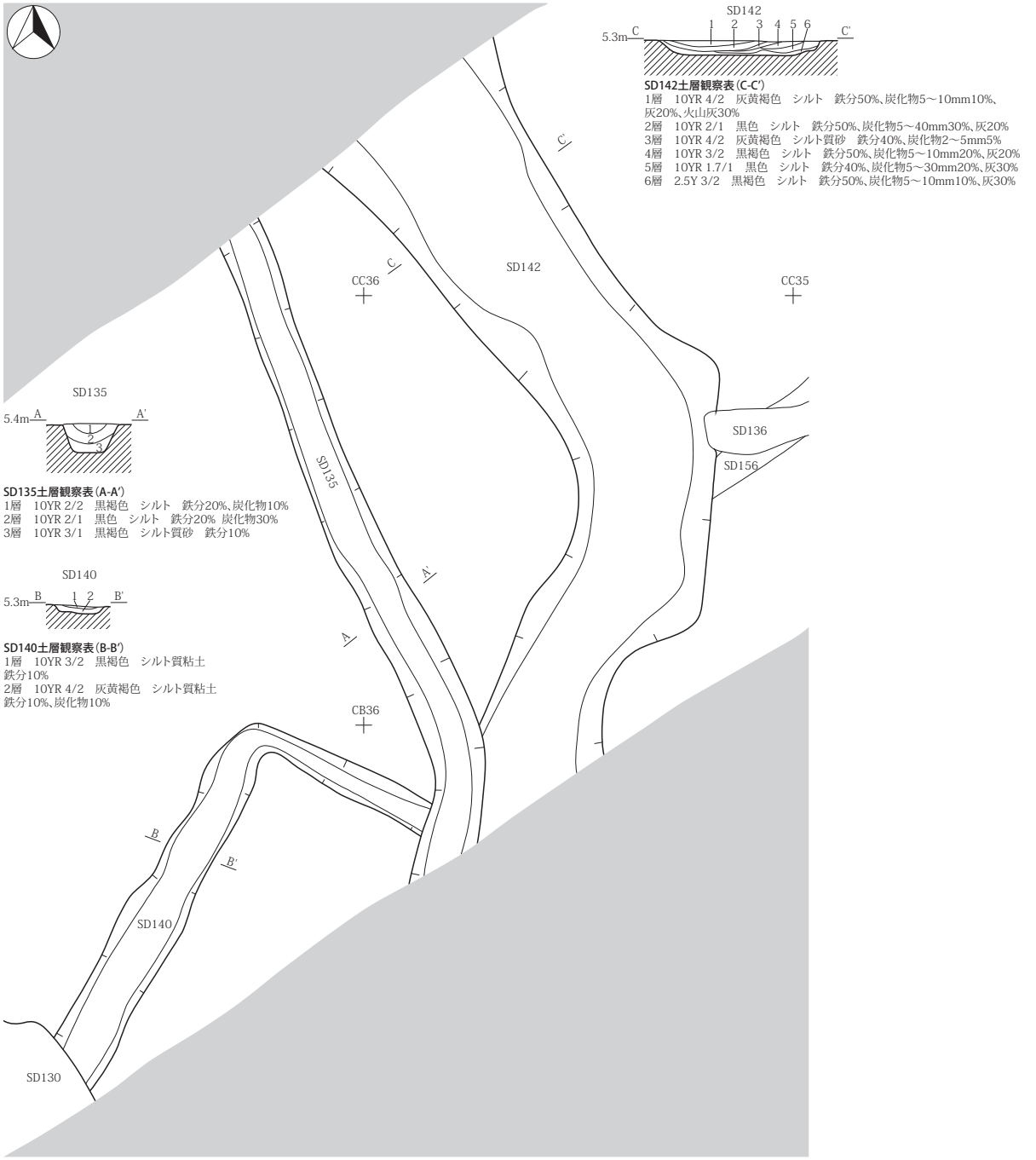
［位置・確認］グリッド CA・CB35、CC35，36 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD135・136・156 と重複関係にあり、SD135・156 よりも古く、SD136 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、現存長 790cm、幅 101 ～ 199cm、深さ 19cm を測り、南方向から北方向へと延び、途中で向きを転じ、南西方向へと延びるやや弧状の溝跡である。［堆積土］6 層確認され、上層は黒色土を主体とした層とⅣ層由来の層が互層を成し、下層は黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層が互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 707.7g、土師器甕 1174.0g が出土している。

（SD135）

［位置・確認］グリッド CA35、CB35，36、CC36 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD140・142 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削を受けており正確な規模・形状は不明であるが、現存長 632cm、幅 39.5 ～ 53.5cm、深さ 29.5cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層とで形成されている。［出土遺物］土師器坏 422.7g、土師器甕 586.0g、須恵器甕 103.2g が出土している。

第 136・154・156 号溝跡（SD136・154・156、図Ⅳ -2-73）

（SD136）

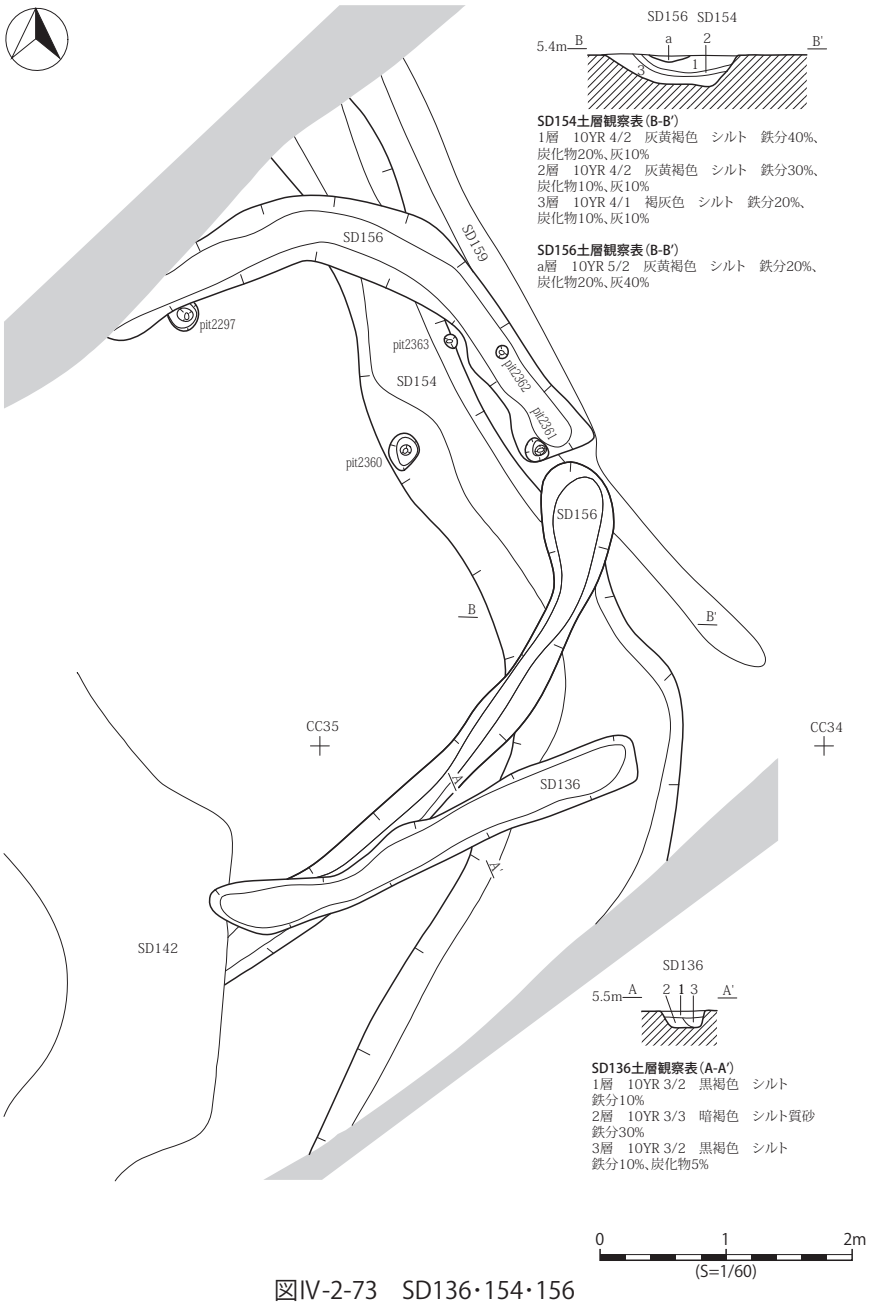


図Ⅳ-2-72　SD135・140・142

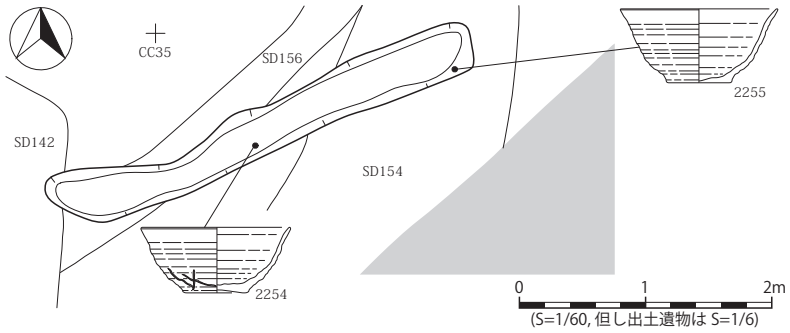
［位置・確認］グリッド CB34，35 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD142・154・156 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］長さ 364cm、幅 27 ～ 42cm、深さ 17cm を測り、東西方向に直線状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とする層と暗褐色土を主体とする層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 235.2g、土師器甕 18.8g が出土している（図Ⅳ -2-74）。この内図示できたものは 2 点である（図Ⅳ -2-75）。2254・2255 は土師器の埦であり、2254 は外面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後、底面には回転糸切痕を有し、無調整である。

(SD154)

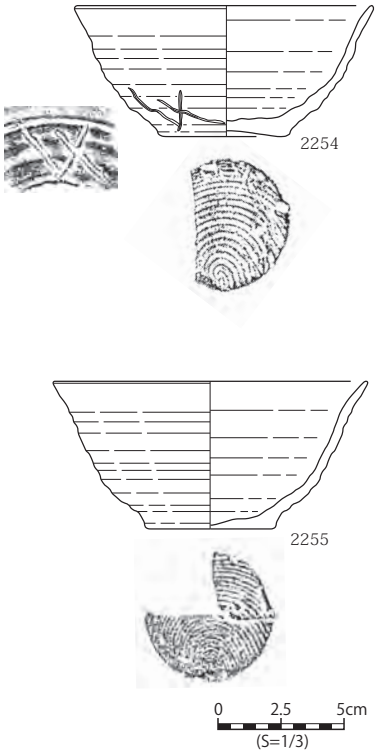
［位置・確認］グリッド CB・CC34、CD34，35 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD136・156 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削を受けており正確な規模・形状は不明であるが、現存長 801cm、幅 75 ～ 154cm、深さ 31cm を測り、南東方向から北西方向へ延び、途中で向きを転じ、北方向へ延びる弧状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器台付耳皿 133.3g、土師器坏 1,288.8g、土師器甕 1,428.1g、須恵器甕 416.7g が出土している（図Ⅳ -2-76）。この内図示できたのは 5 点である（図Ⅳ -2-77・78）。2256 ～ 2258 は土師器の皿形坏であり、2256 の外面には墨書が書かれている。2258 の内外面は二次被熱を受けている。2259 は土師器の埦であり、外面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2260 は砥石であり、



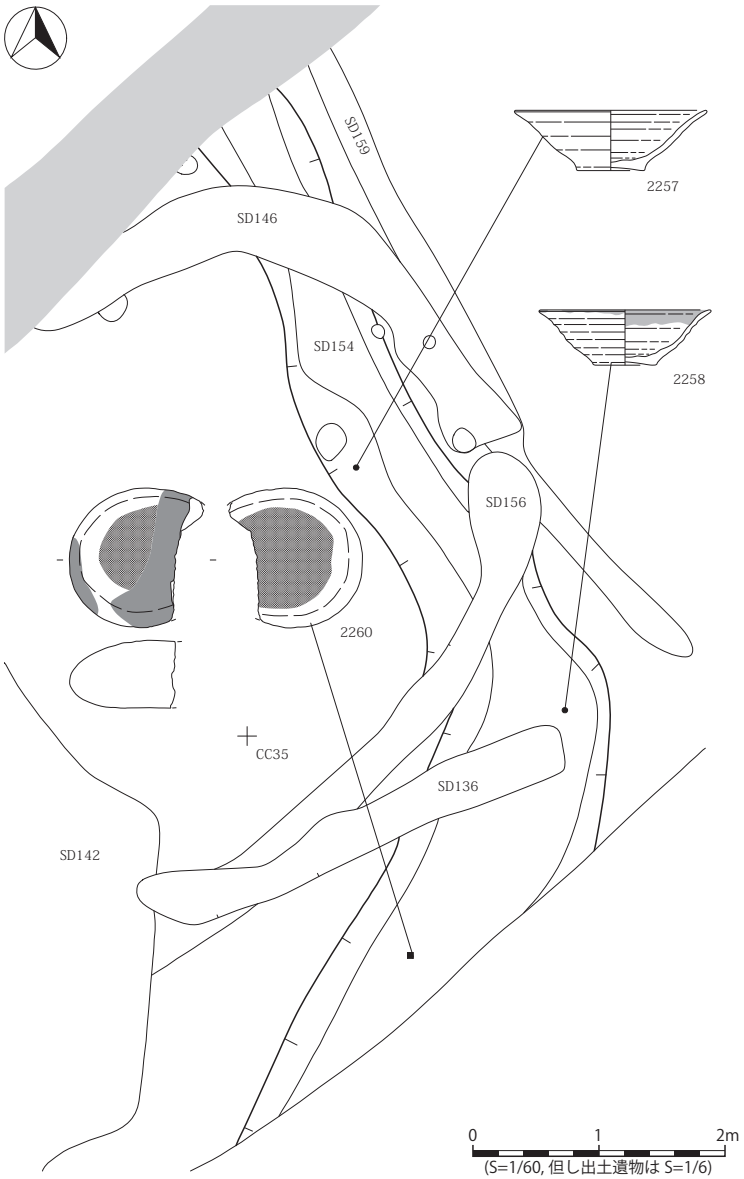
図Ⅳ-2-73　SD136･154･156



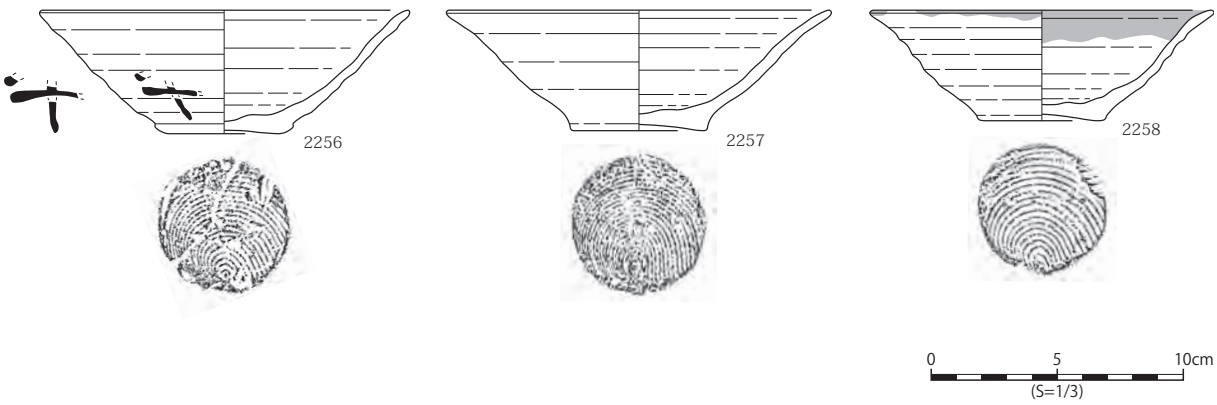
図Ⅳ-2-74　SD136 遺物出土状況



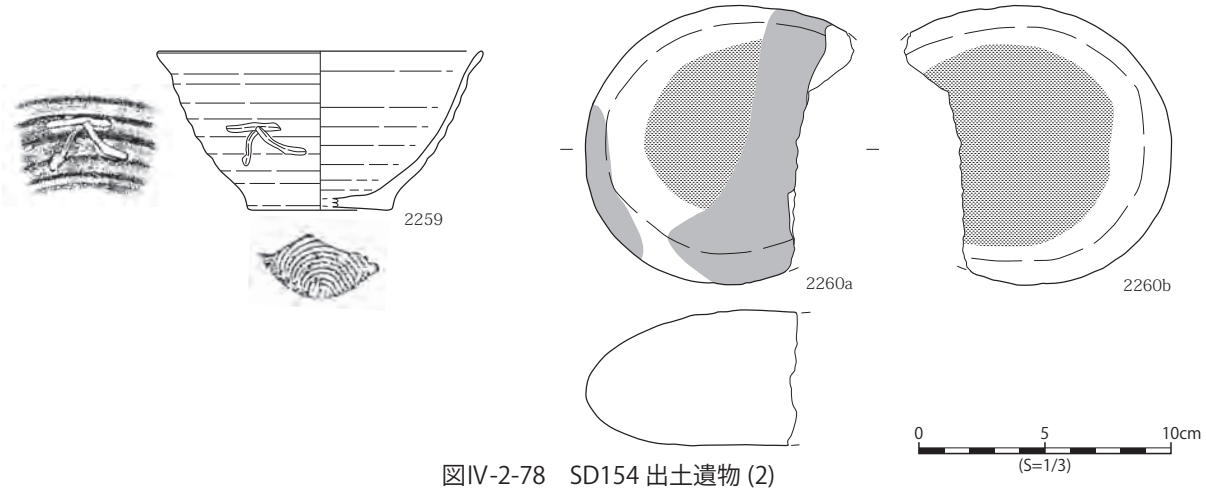
図Ⅳ-2-75　SD136 出土遺物



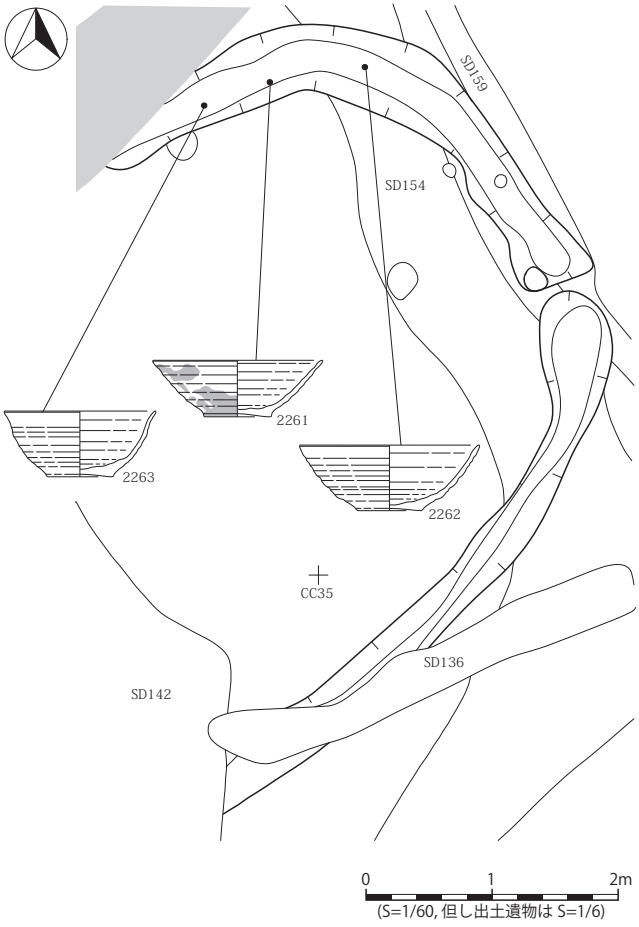
図Ⅳ-2-76　SD154 遺物出土状況



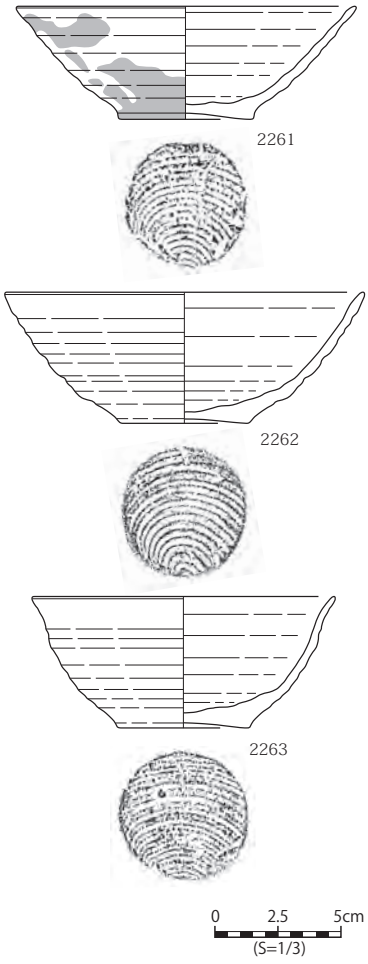
図Ⅳ-2-77　SD154 出土遺物 (1)



図Ⅳ-2-78　SD154 出土遺物 (2)



図Ⅳ-2-79　SD156遺物出土状況



図Ⅳ-2-80　SD156 出土遺物

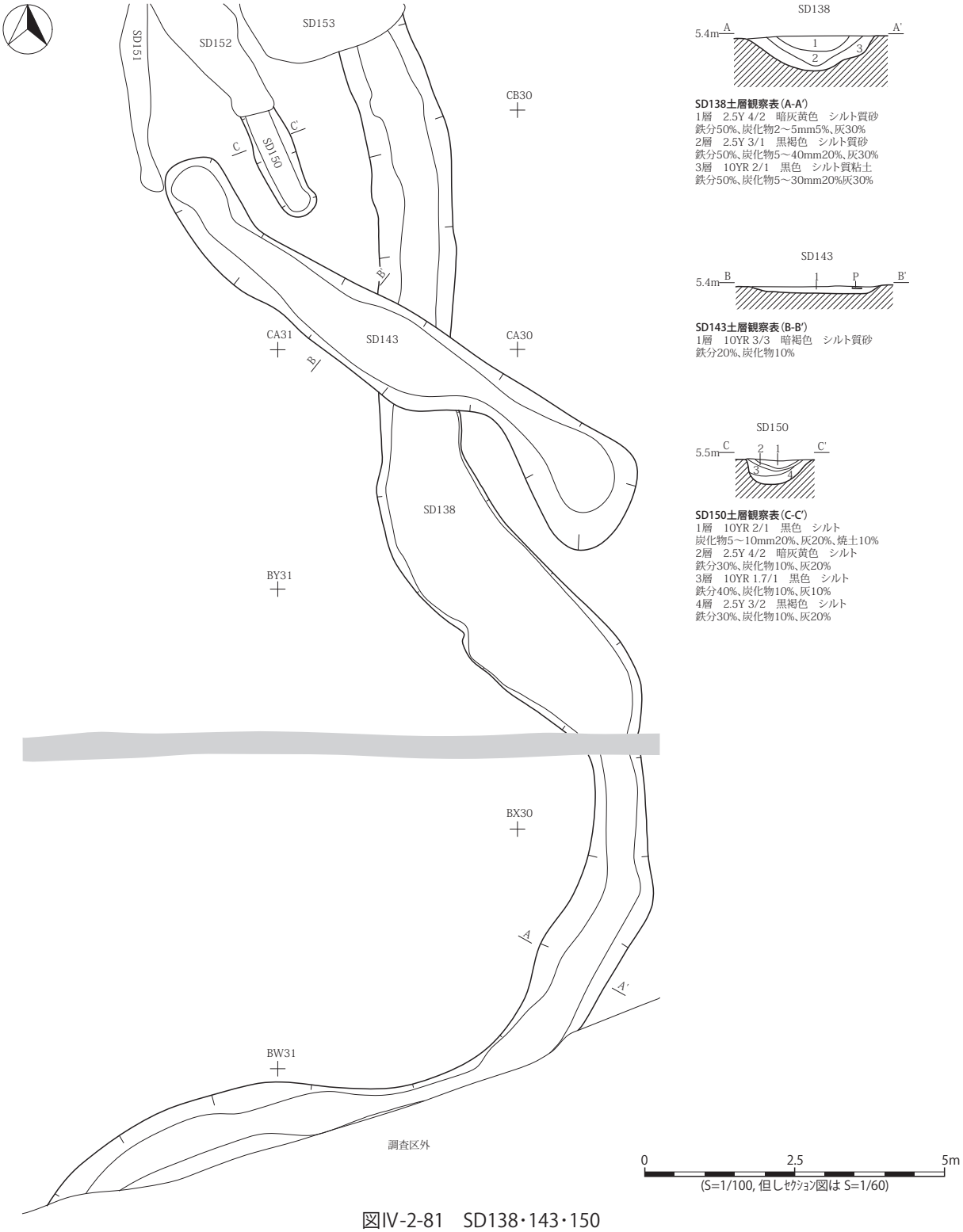
扁平な円礫の平坦部を砥面として使用している。材質は珪質流紋岩である。

(SD156)

［位置・確認］グリッド CB・CC・CD34，35 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD136・142・154・159 と重複関係にあり、SD136・142 よりも古く、SD154・159 よりも新しい。［規模・形状］SD142 及び近世以降の水田跡により掘削を受けており正確な規模・形状は不明であるが、現存長 937.5cm、幅 25.5 ～ 62cm、深さ 18cm を測り、南西方向に開口部を有するコの字

状の溝跡である。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 613.0g、土師器甕 533.0g 出土している（図Ⅳ -2-79）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-80）。2261 は土師器の皿形坏であり、外面に二次被熱を受けている。2262 は土師器の埦形坏であり、2263 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。

第 138・143・150 号溝跡（SD138・143・150、図Ⅳ -2-81）



図Ⅳ-2-81　SD138・143・150

（SD138）

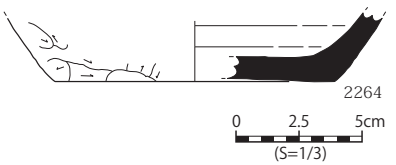
［位置・確認］グリッド BV30，31、BW・BX・BY29，30、CA・CB30 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD143・153 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD153 による掘削及び調査区外へと延びるため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 2,613cm、幅 81 ～ 189cm、深さ 22cm を測り、南北方向に蛇行しながら延びる溝跡（自然流路の可能性が高い）である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とする層形成されており、床面直下に B-Tm が堆積していた。［出土遺物］土師器坏 165.0g、土師器甕 132.1g が出土している。

（SD143）

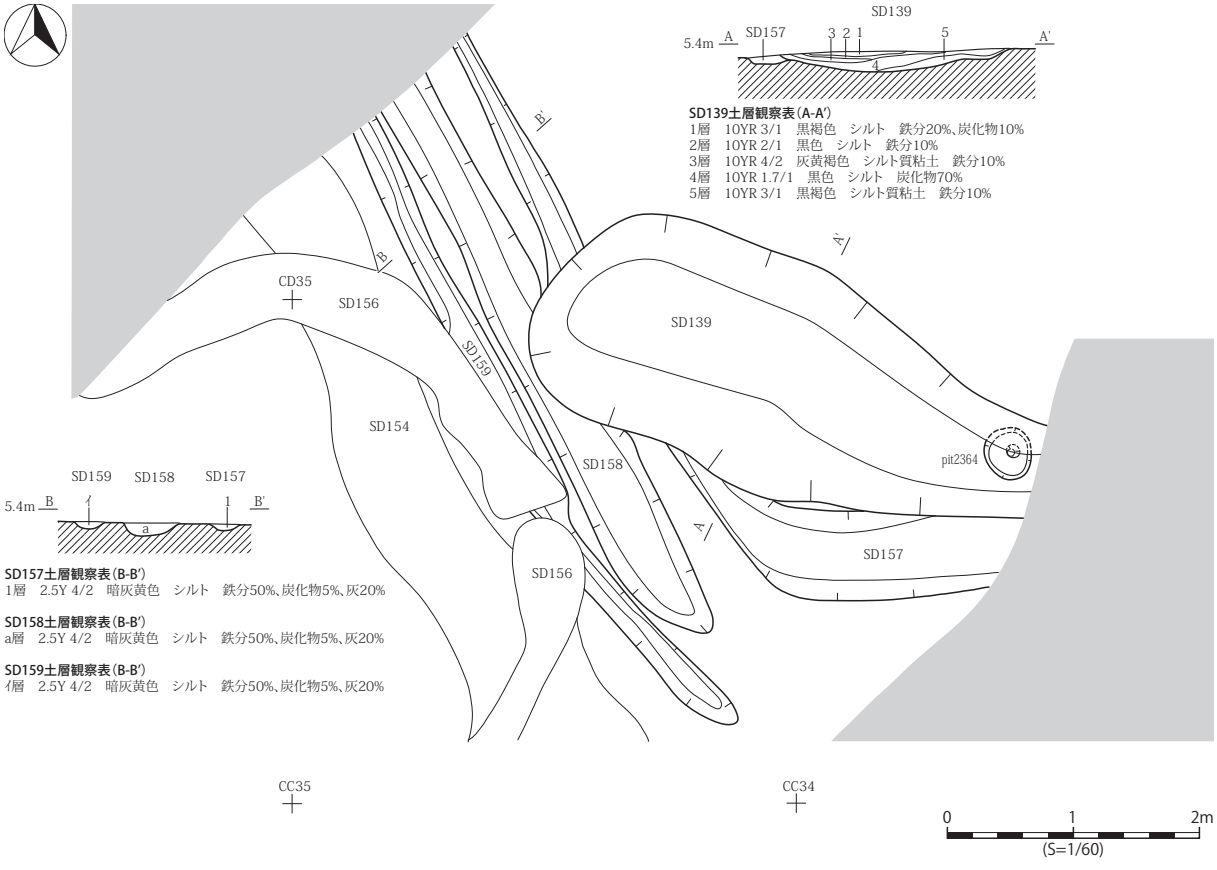
［位置・確認］グリッド BY29，30、CA30，31 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD138 と重複関係にあり、SD138 よりも新しい。［規模・形状］長さ 964cm、幅 74 ～ 189cm、深さ 18.5cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］1 層確認され、暗褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 126.7g、土師器甕 929.0g、須恵器壺 39.1g が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-82）。2264 は須恵器壺の底部破片である。外面はロクロ整形後ケズリ、内面はロクロナデ調整が施されている。

（SD150）

［位置・確認］グリッド CA30，31 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD152 と重複関係にあり、SD152 よりも古い。



図Ⅳ-2-82　SD143 出土遺物



図Ⅳ-2-83　SD139・157・158・159

［規模・形状］SD152により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長188cm、幅56～69.5cm、深さ29cmを測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］4層確認され、黒色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏4.2g、土師器甕71.8gが出土している。

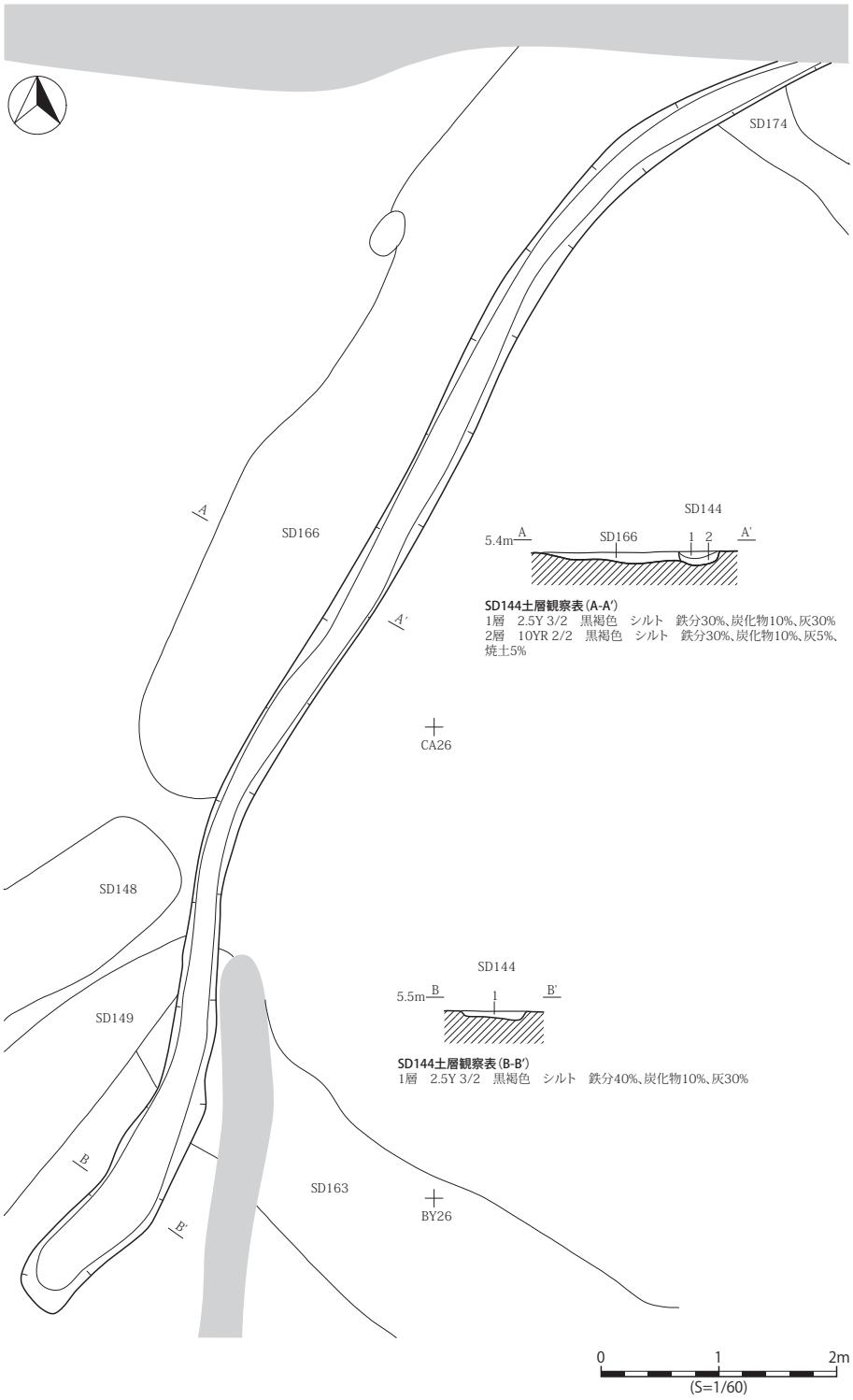
第139・157・158・159号溝跡（SD139・157・158・159、図Ⅳ-2-83）

（SD139）

［位置･確認］グリッドCC・CD34に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD157・158と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長413cm、幅77～186cm、深さ20.5cmを測り、東西方向に直線状に延びる溝跡である。［堆積土］5層確認され、黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層で互層を形成している。［出土遺物］土師器坏119.2g、土師器甕590.0g、須恵器甕5.8gが出土している。

（SD157）

［位置･確認］グリッドCC・CD34に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD139と重複関係に



図Ⅳ-2-84　SD144

あり、SD139 よりも古い。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 670cm、幅 15 ～ 71cm、深さ 11cm を測り、東方向から西方向に直線状に延び、途中で向きを転じ、北東方向へ延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の層である。［出土遺物］特になし。

（SD158）

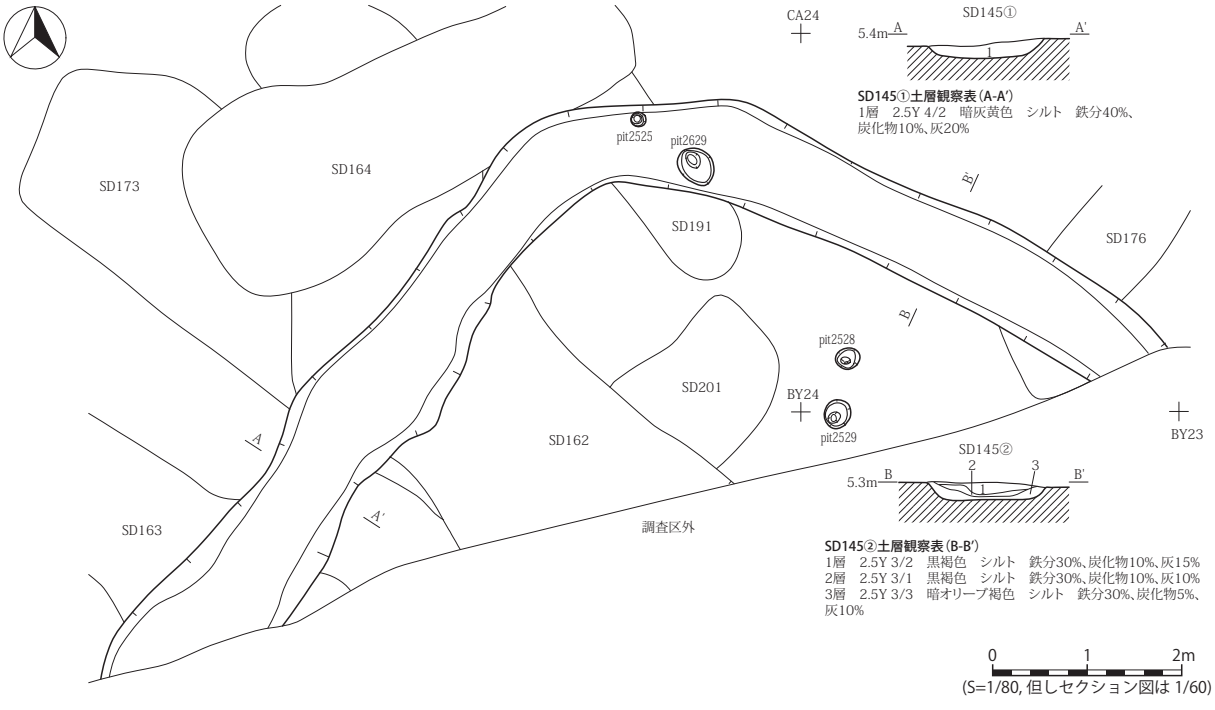
［位置・確認］グリッド CC・CD34 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD139 と重複関係にあり、SD139 よりも古い。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 493cm、幅 42 ～ 58cm、深さ 17cm を測り、南東方向から北西方向に直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の層である。［出土遺物］特になし。

（SD159）

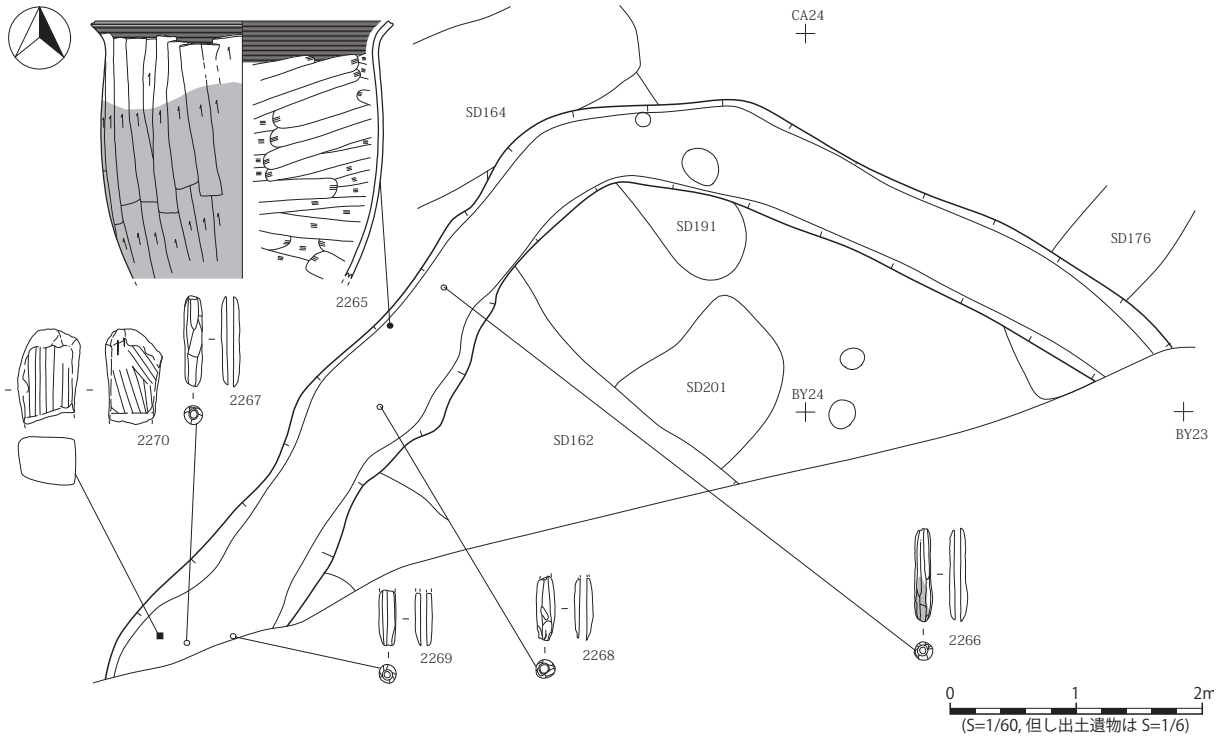
［位置・確認］グリッド CC34、CD34，35 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD156 と重複関係にあり、SD156 よりも古い。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 564.5cm、幅 22 ～ 28.5cm、深さ 19cm を測り、南東方向から北西方向に直線状に延びる溝跡である。［堆積土］1 層確認され、Ⅲ層由来の層である。［出土遺物］特になし。

第 144 号溝跡（SD144、図Ⅳ -2-84）

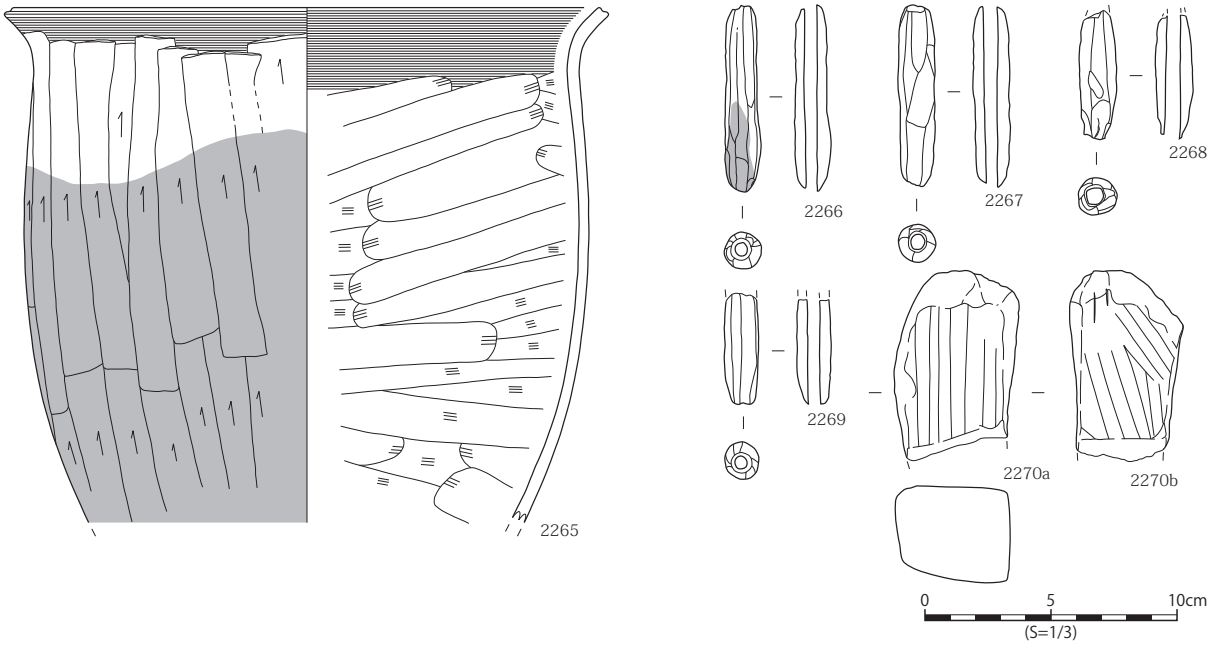
［位置・確認］グリッド BX・BY・CA26､CA・CB25 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD149・163・166・174 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］撹乱を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 1,288cm、幅 23 ～ 57cm、深さ 23cm を測り、南西方向から北東方向へとやや蛇行しながら直線状に延びる溝跡（自然流路の可能性が高い。）



図Ⅳ-2-85　SD145



図Ⅳ-2-86　SD145 遺物出土状況



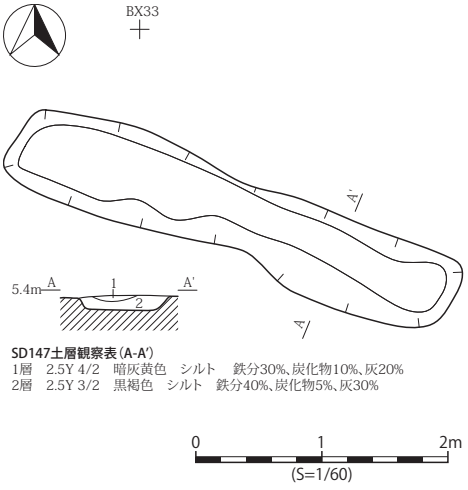
図Ⅳ-2-87　SD145 出土遺物

である。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 377.1g、土師器甕 289.0g が出土している。

第 145 号溝跡（SD145、図Ⅳ -2-85）

［位置・確認］グリッド BX25、BY23 ～ 25B に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD162・163・164・173・176・191 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 1,319cm、幅 76 ～ 125cm、

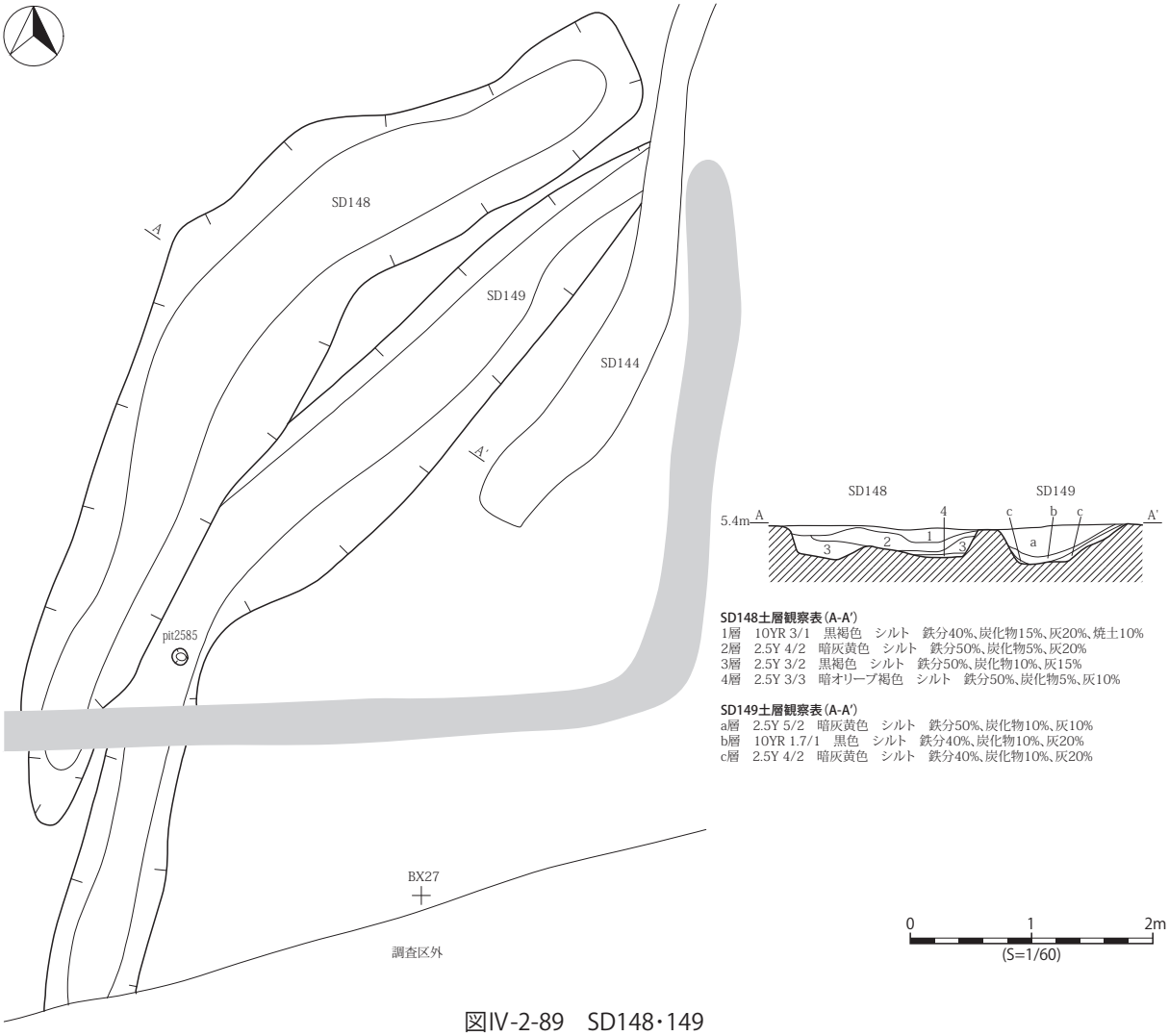
深さ 24cm を測り、南西方向から北東方向へ直線状に延び、途中で向きを転じ、南東方向へ直線状に延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 944.9g、土師器甕 2,324.4g、須恵器壺 47.3g、土製品 86.4g が出土している（図Ⅳ -2-86）。この内図示できたのは 6 点である（図Ⅳ -2-87）。2265 は土師器の小型甕であり、外面に二次被熱を受けている。口縁部内外面にヨコナデ調整を施した後体部外面はケズリ調整、体部内面はヘラナデ調整が施されている。2266 ～ 2269 は土錘であり、表面にはユビナデ調整が施されている。いずれも小型のものであり、内水面の網漁に使用されたものと考えられる。2270 は砥石であり、角礫の平坦面を砥面として使用している。石材は珪質流紋岩である。



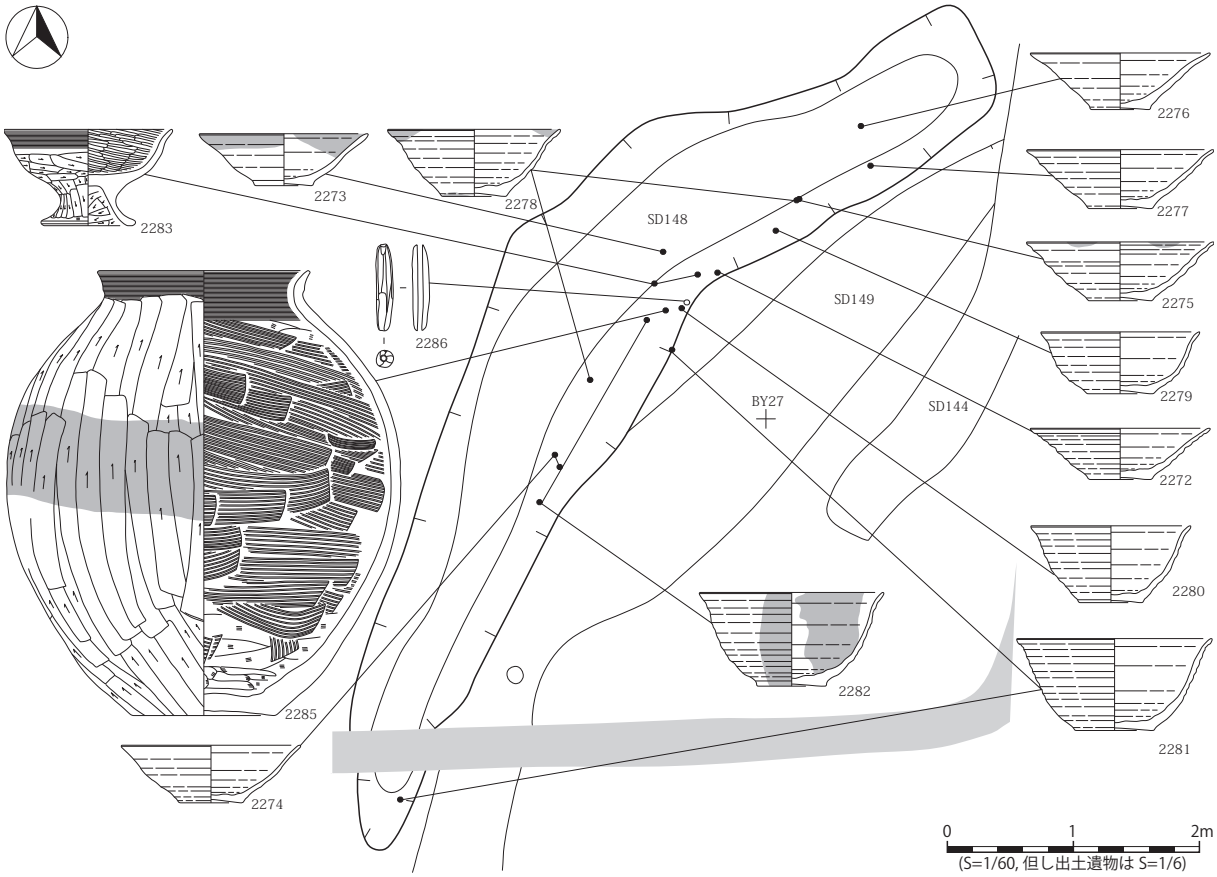
図Ⅳ-2-88　SD147

第 147 号溝跡（SD147、図Ⅳ -2-88）

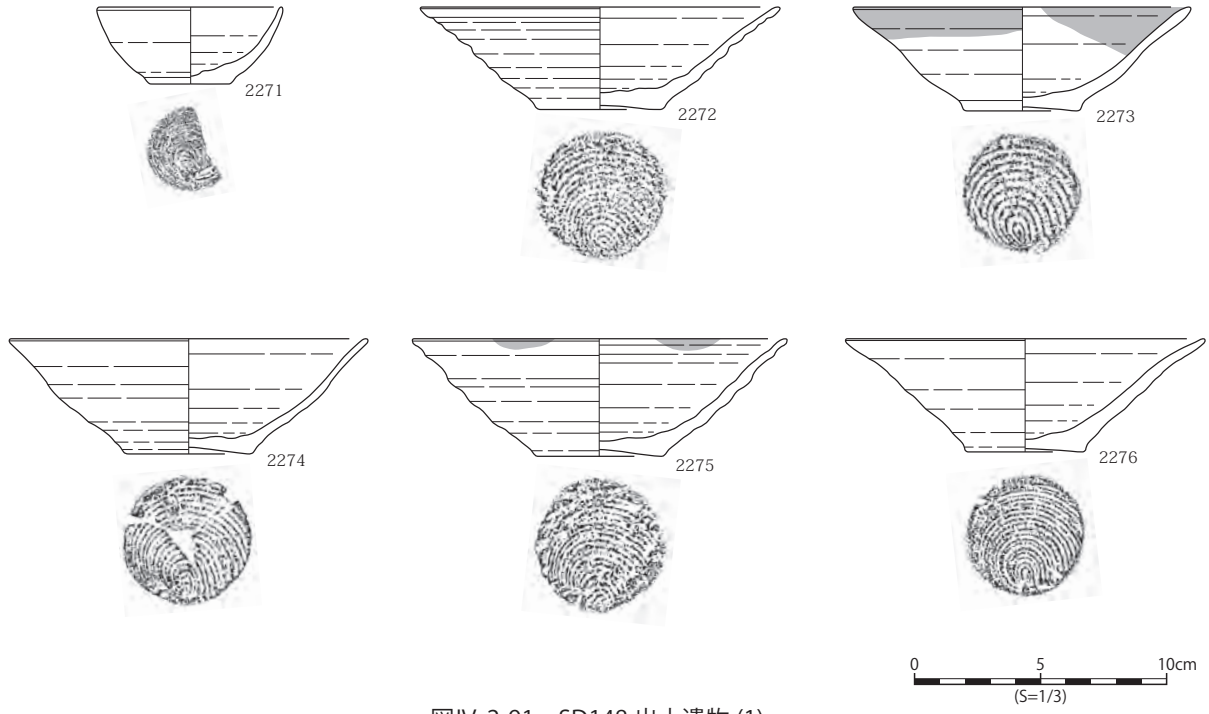
［位置・確認］グリッド BW32・33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］特になし。［規模・形状］長さ



図Ⅳ-2-89　SD148･149

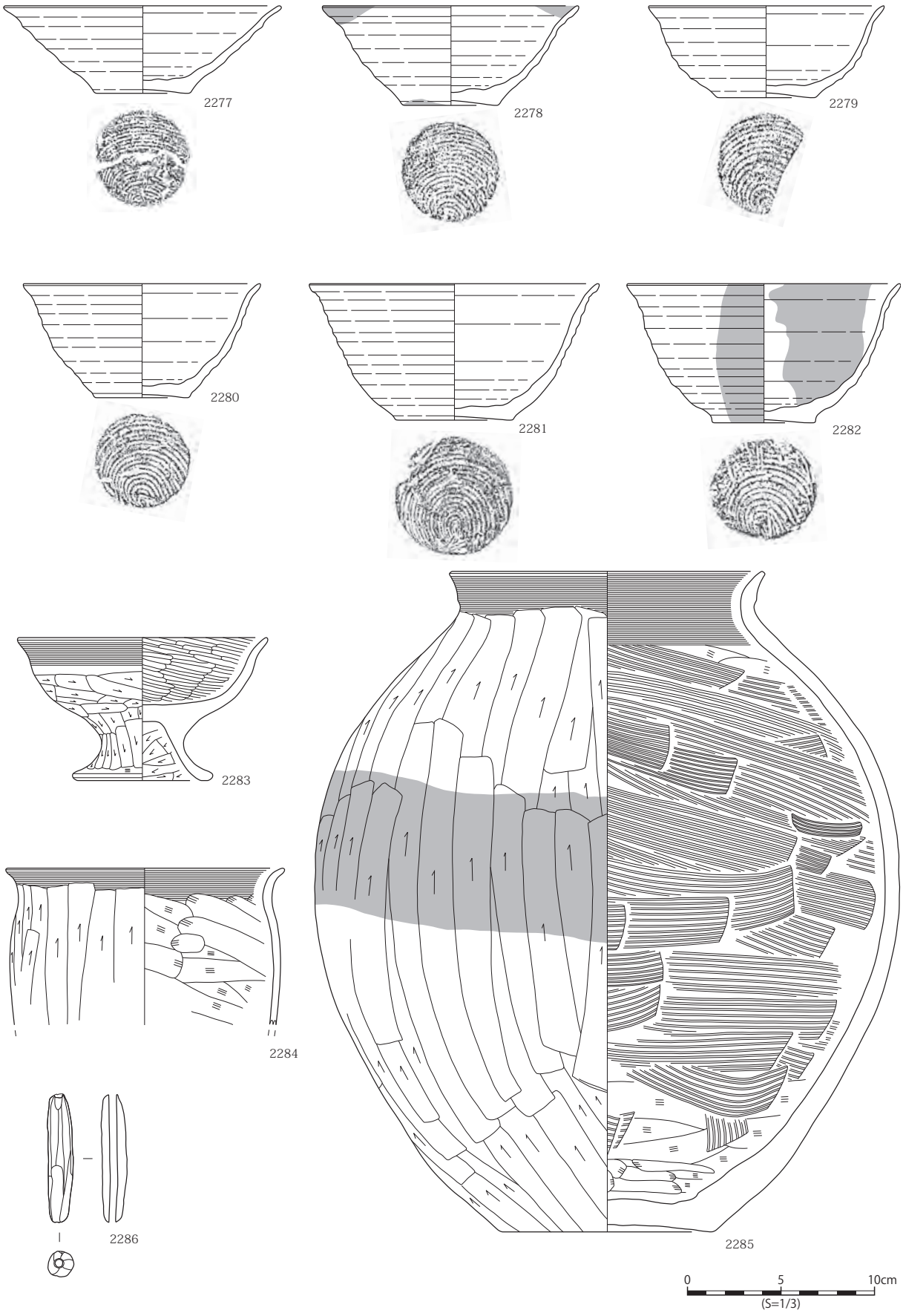


図Ⅳ-2-90　SD148遺物出土状況



図Ⅳ-2-91　SD148 出土遺物 (1)

370cm、幅 51 ～ 68cm、深さ 15.5cm を測り、南東方向から北西方向へ直線状に延びる溝跡である。［堆積土］2 層確認され、上層がⅢ層由来の層、下層が黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出



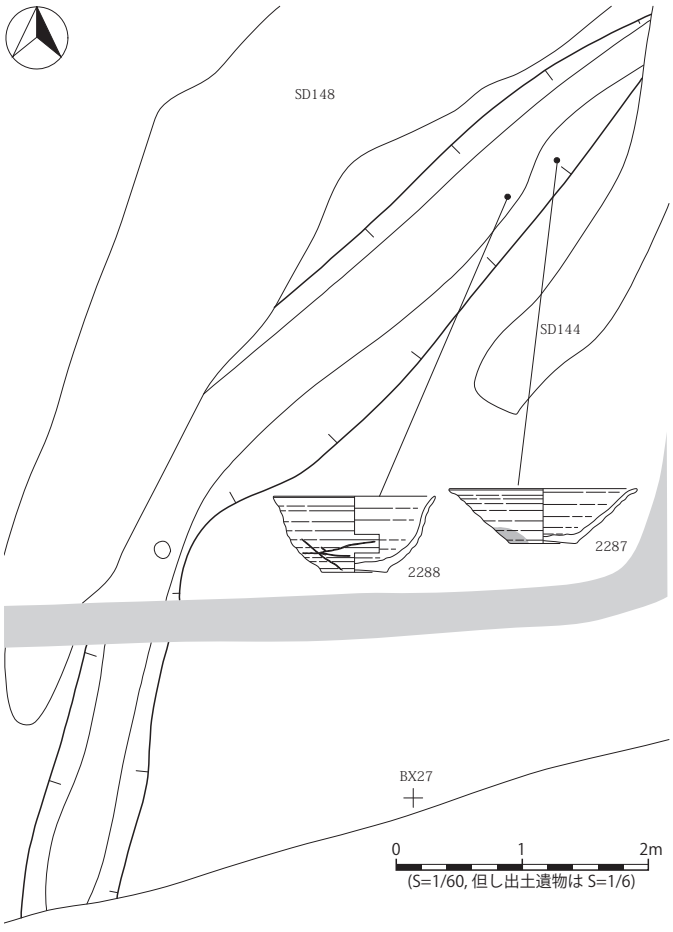
図Ⅳ-2-92　SD148 出土遺物 (2)

土遺物］特になし。

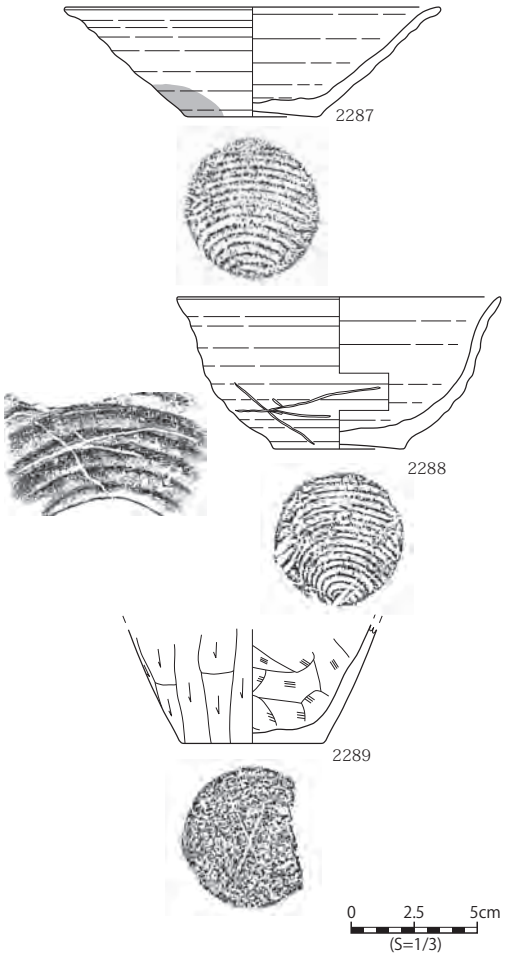
第 148・149 号溝跡（SD148・149、図Ⅳ -2-89）

（SD148）

［位置・確認］グリッド BX27、BY26，27 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD149 と重複関係にあり、SD149 よりも新しい。［規模・形状］長さ 849cm、幅 70 ～ 160cm、深さ 40cm を測り、南西方向から北東方向へやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］4 層確認され、Ⅲ層由来の層と黒色土を主体とした層が互層を成している。［出土遺物］土師器ミニチュア 35.8g、土師器坏 3,249.5g、土師器甕 8,839.0g、須恵器甕 82.0g、支脚 39.7g が出土している（図Ⅳ -2-90）。この内図示できたのは 16 点である（図Ⅳ -2-91・92）。2271 はミニチュアの坏である。2272 は土師器の皿である。2273 ～ 2277 は土師器の皿形坏であり、2273・2275 は内外面に二次被熱を受けている。2278・2279 は土師器の埦形坏であり、2278 は内外面に二次被熱を受けている。2280 ～ 2282 は土師器の埦であり、2282 は内外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2283 は土師器の台付坏であり、中空の台を有し、非ロクロで外面は口縁部付近がユビナデ、体部から台部にかけてケズリ調整が施されている。内面はミガキ調整が施されている。2284 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面はユビナデ、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデ調整が施されている。2285 は土師器の球胴甕であり、口縁部内外面はユビナデ、体部外面は



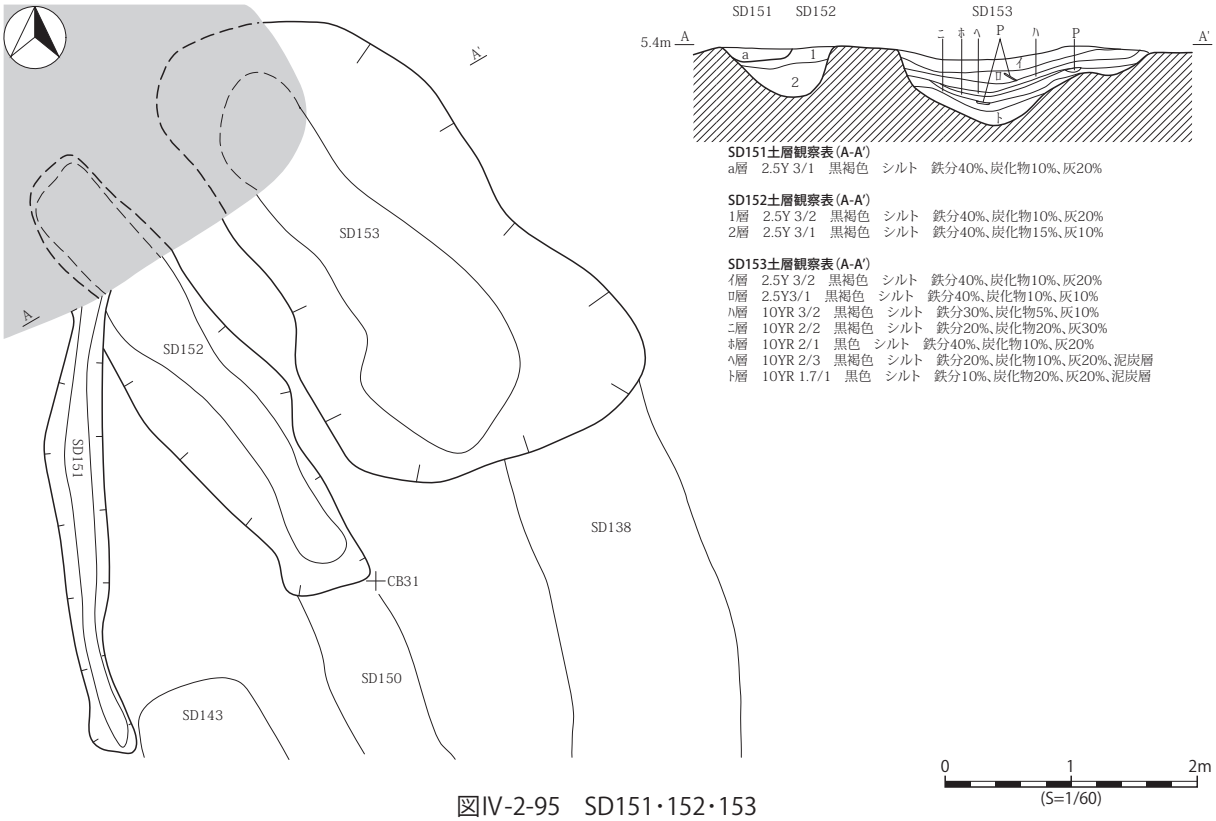
図Ⅳ-2-93　SD149遺物出土状況



図Ⅳ-2-94　SD149 出土遺物

ケズリ、内面はヘラナデ及びユビナデ調整が施されている。2286 は土錘であり、表面にはユビナデ調整が施されている。いずれも小型のものであり、内水面の網漁に使用されたものと考えられる。
（SD149）

［位置・確認］グリッド BW・BX27、BY26，27 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD144・148 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 861cm、幅 45 ～ 113cm、深さ 24cm を測り、南西方向から北東方向へやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、Ⅲ層由来の層と黒色土

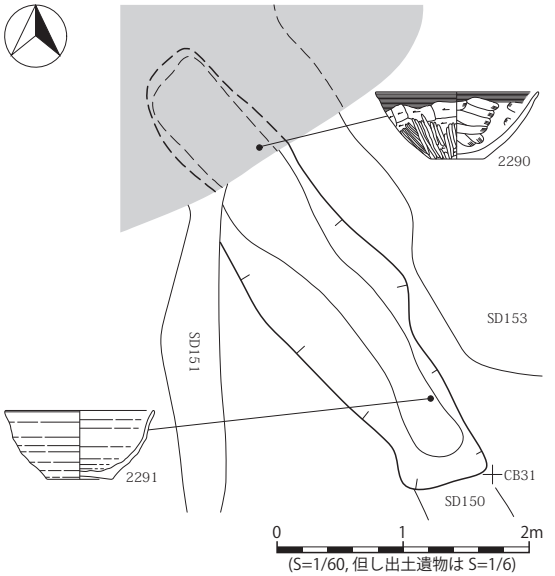


図Ⅳ-2-95　SD151・152・153

を主体とした層が互層を成している。［出土遺物］土師器坏 592.9g、土師器甕 759.8g、須恵器甕 7.3g、支脚 191.6g が出土している（図Ⅳ -2-93）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-94）。2287 は土師器の皿であり、外面に二次被熱を受けている。2288 は土師器の埦であり、外面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2289 土師器の甕であり、底面にヘラ記号が描かれている。外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。

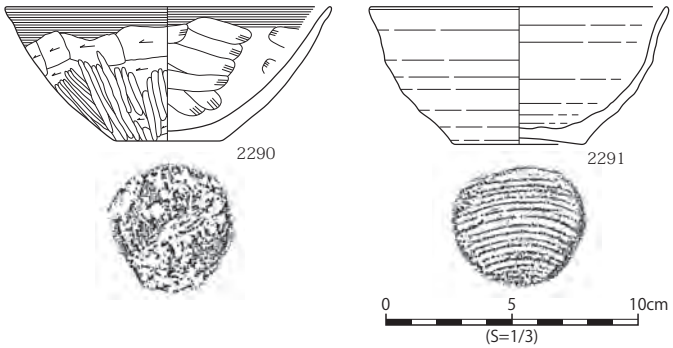
第151・152・153号溝跡（SD151・152・153、図Ⅳ-2-95）

（SD151）



図Ⅳ-2-96　SD152 遺物出土状況

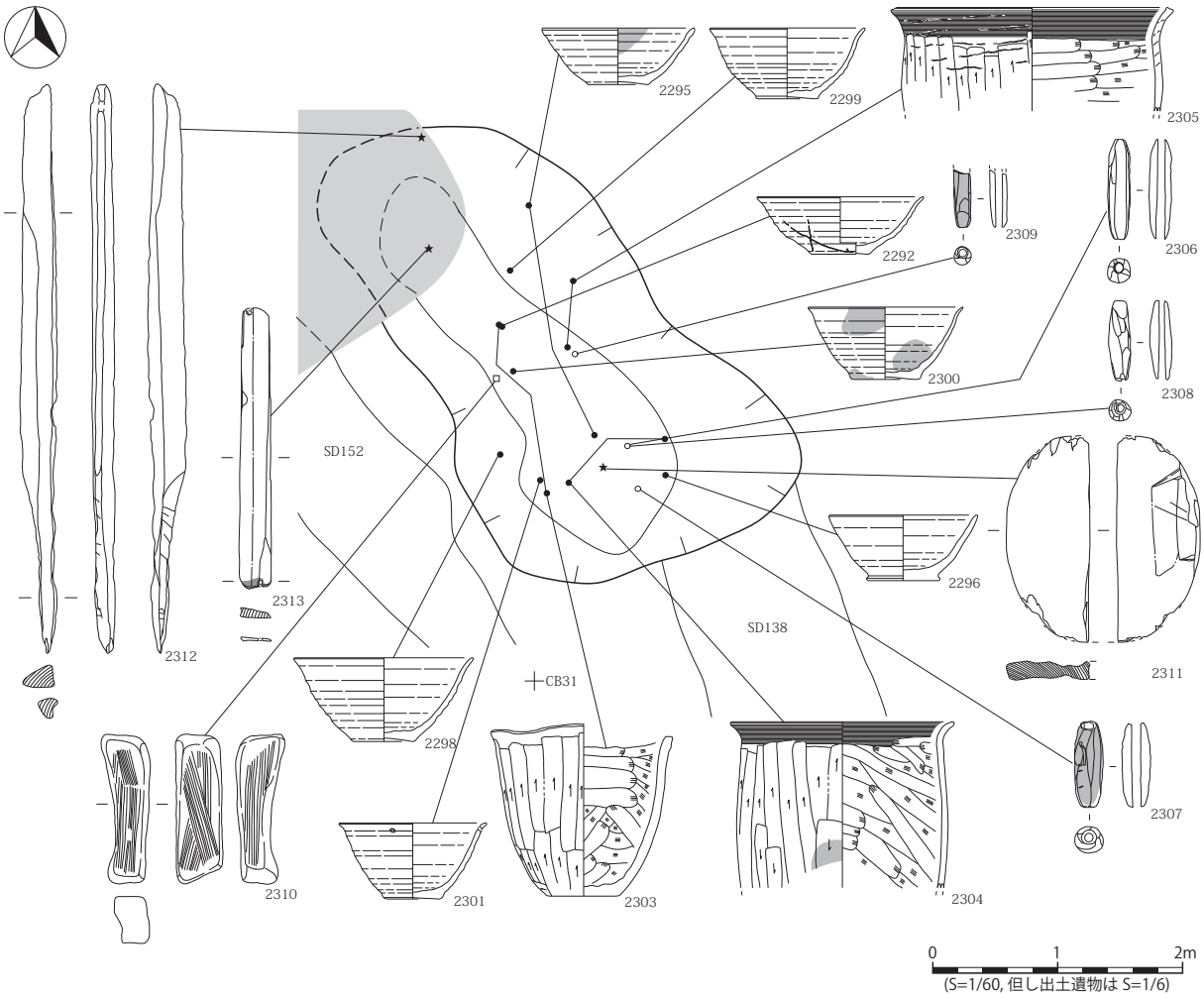
［位置・確認］グリッド CA・CB31 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD152 と重複関係にあり、SD152 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、残存長 362.5cm、幅 21 ～ 46.5cm、深さ 27.5cm を測り、南北方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層である。［出土遺物］土師器坏 106.4g、土師器甕 389.5g が出土している。



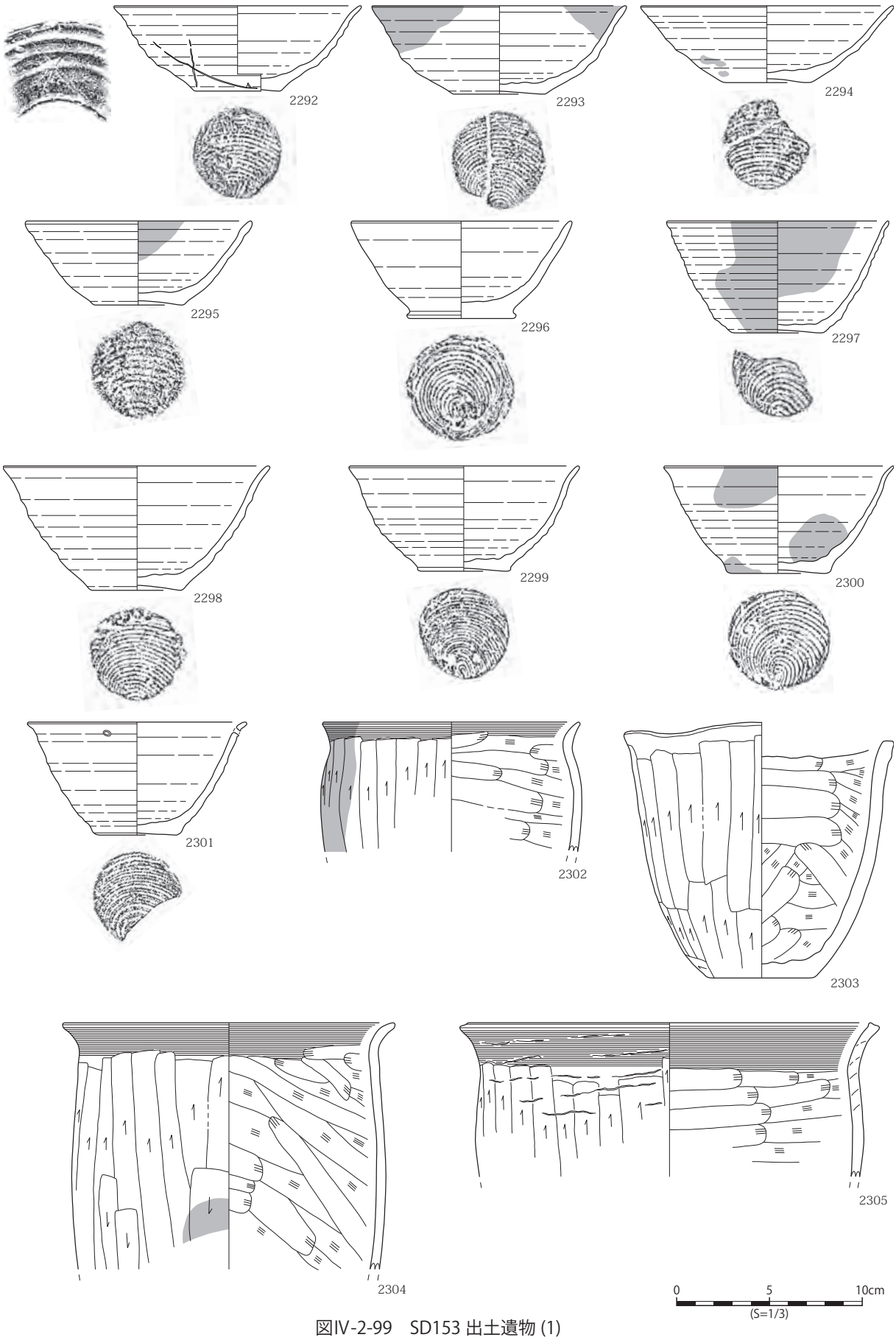
図Ⅳ-2-97　SD152 出土遺物

(SD152)

［位置・確認］グリッド CA30，31、CB31 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD150・151 と重複関係にあり、SD151 よりも古く、SD150 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 405cm、幅 60 ～ 108cm、深さ 61.5cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 5.9g、土師器



図Ⅳ-2-98　SD153 遺物出土状況

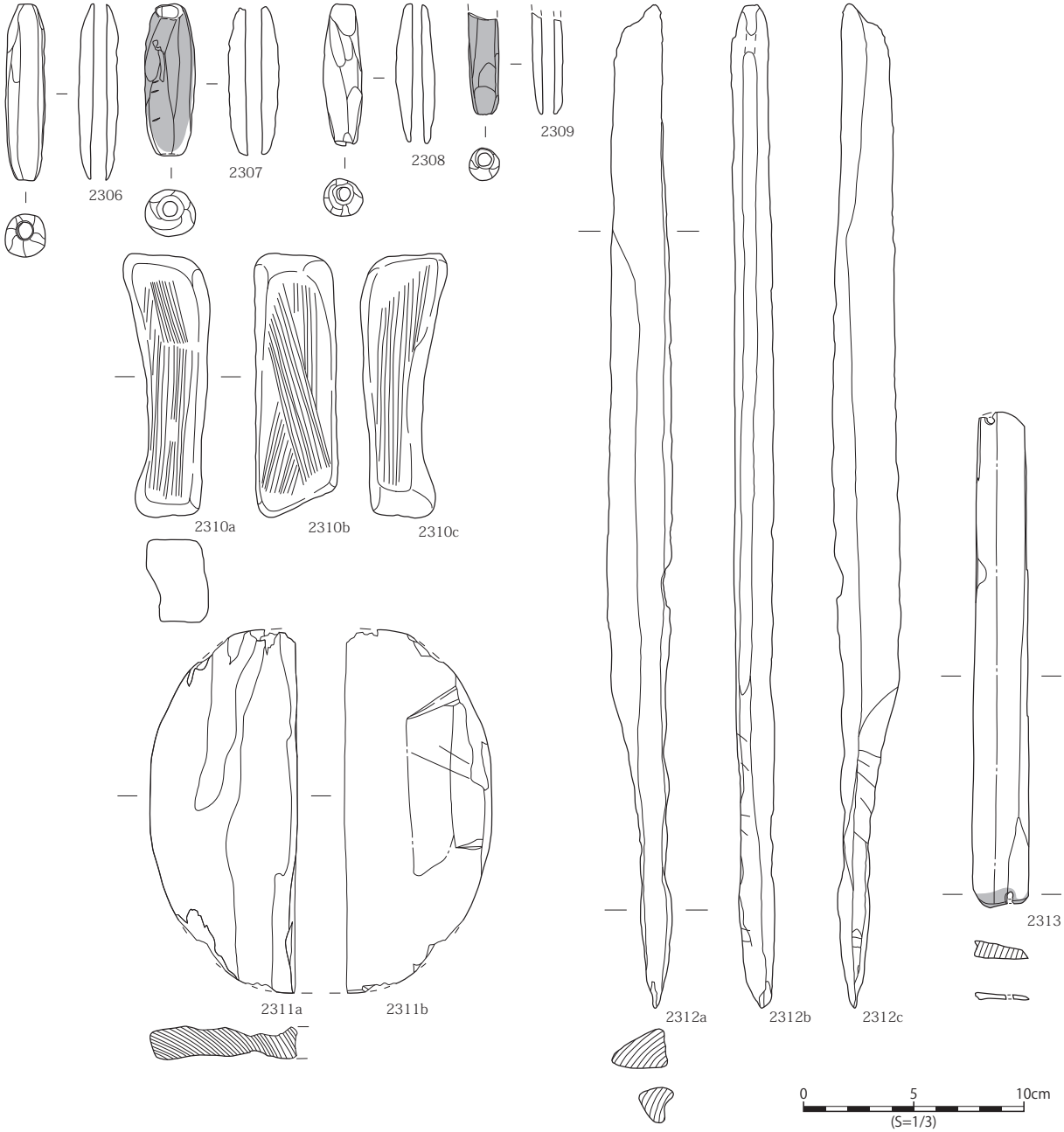


図Ⅳ-2-99　SD153 出土遺物 (1)

坏 1,061.0g、土師器甕 2,002.3g、須恵器甕 7.3g が出土している（図Ⅳ -2-96）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅳ -2-97）。2290 は土師器の非ロクロの埦であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面にケズリ調整後ミガキ調整が施され、体部内面はユビナデ調整が施されている。2291 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。

（SD153）

［位置・確認］グリッド CB・CC30，31 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD138 と重複関係にあり、SD138 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 420cm、幅 188 ～ 242cm、深さ 68cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層が互層を成している。［出土遺物］土師器ミニチュア 12.2g、土師器坏 2,536.3g、



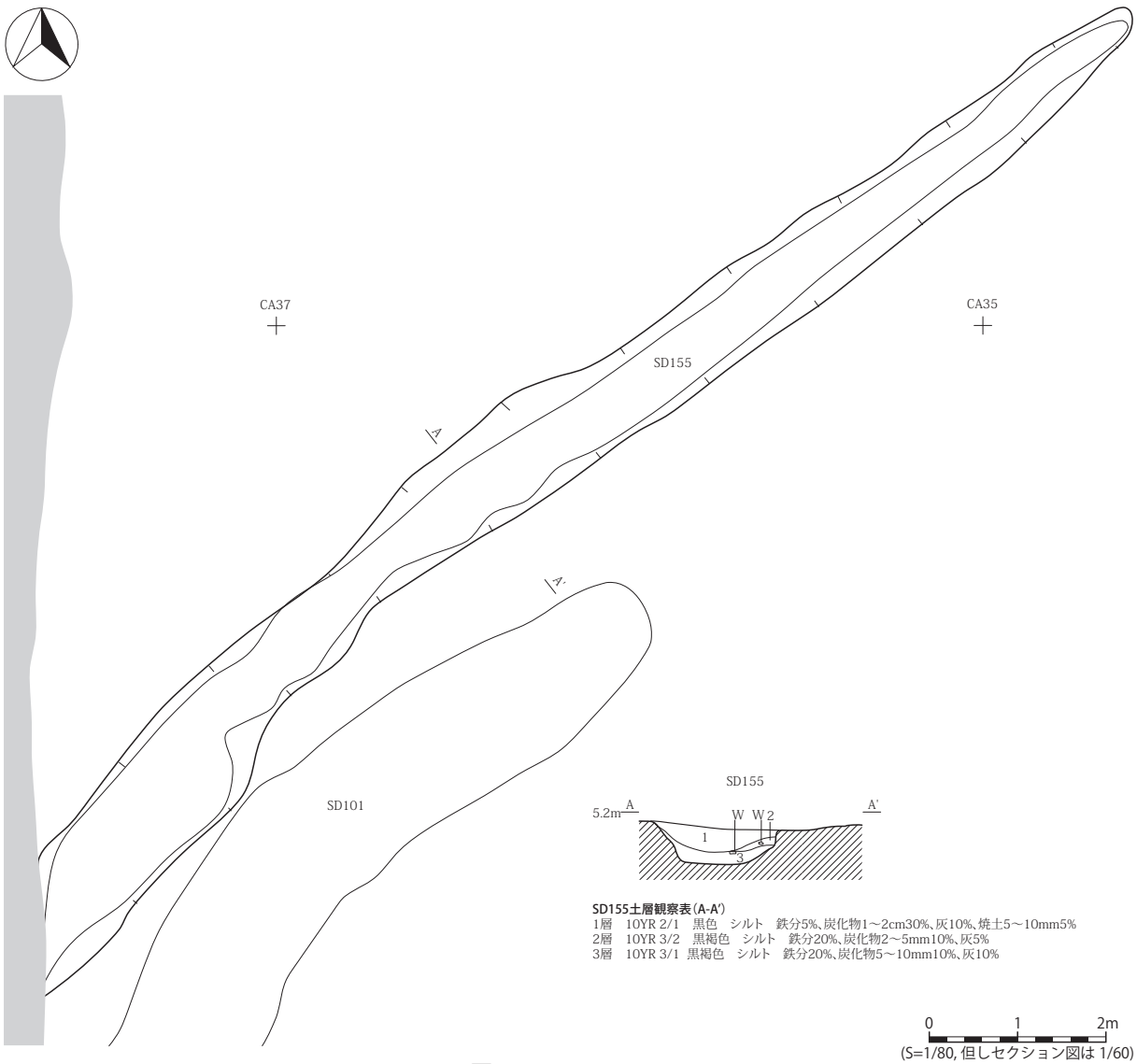
図Ⅳ-2-100　SD153 出土遺物 (2)

土師器甕 7,240.1g、須恵器甕 341.3g が出土している（図Ⅳ -2-98）。この内図示できたのは 22 点である（図Ⅳ -2-99・100）。2292 ～ 2294 は土師器の皿形坏であり、2291 は外面にヘラ記号が描かれている。2293 は内外面に、2294 は外面に二次被熱を受けている。2295 は土師器の椀形坏であり、内面に二次被熱を受けている。2296 ～ 2301 は土師器の椀であり、2301 は口縁部付近に焼成後の穿孔が確認された。2297・2300 は内外面に二次被熱を受けている。2302・2303 は土師器の小型甕である。2303 は外面に二次被熱を受けており、口縁部内外面にユビナデ調整後体部外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されている。2302 は外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されている。2304・2305 は土師器の長胴甕であり、調整は 2302 と同様である。

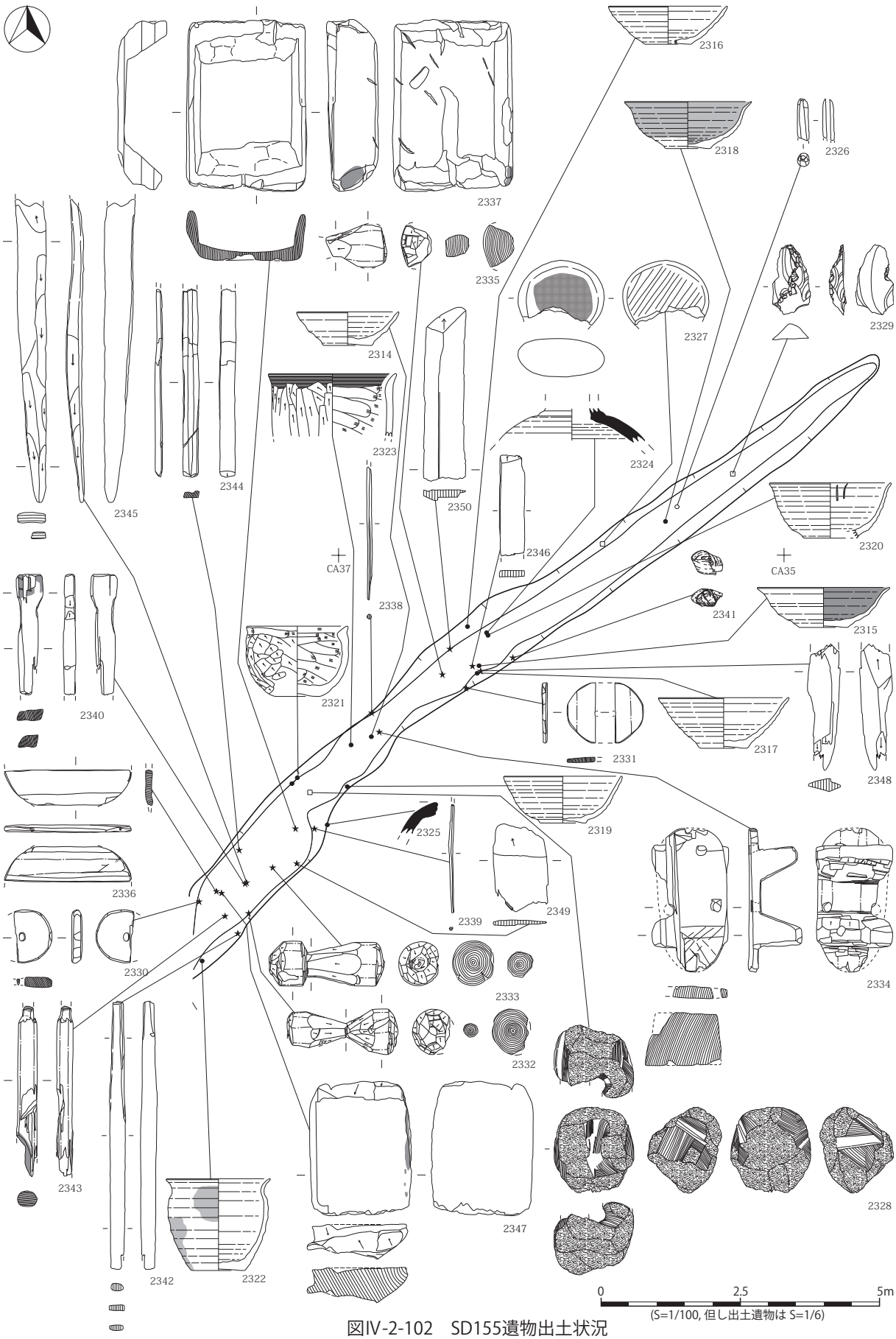
2306 ～ 2309 は土錘であり、2307・2309 は二次被熱を受けている。いずれもユビナデ調整が施され、小型のものであり、内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

2310 は砥石であり、角礫の平坦面を砥面として使用している。材質は珪質泥岩である。

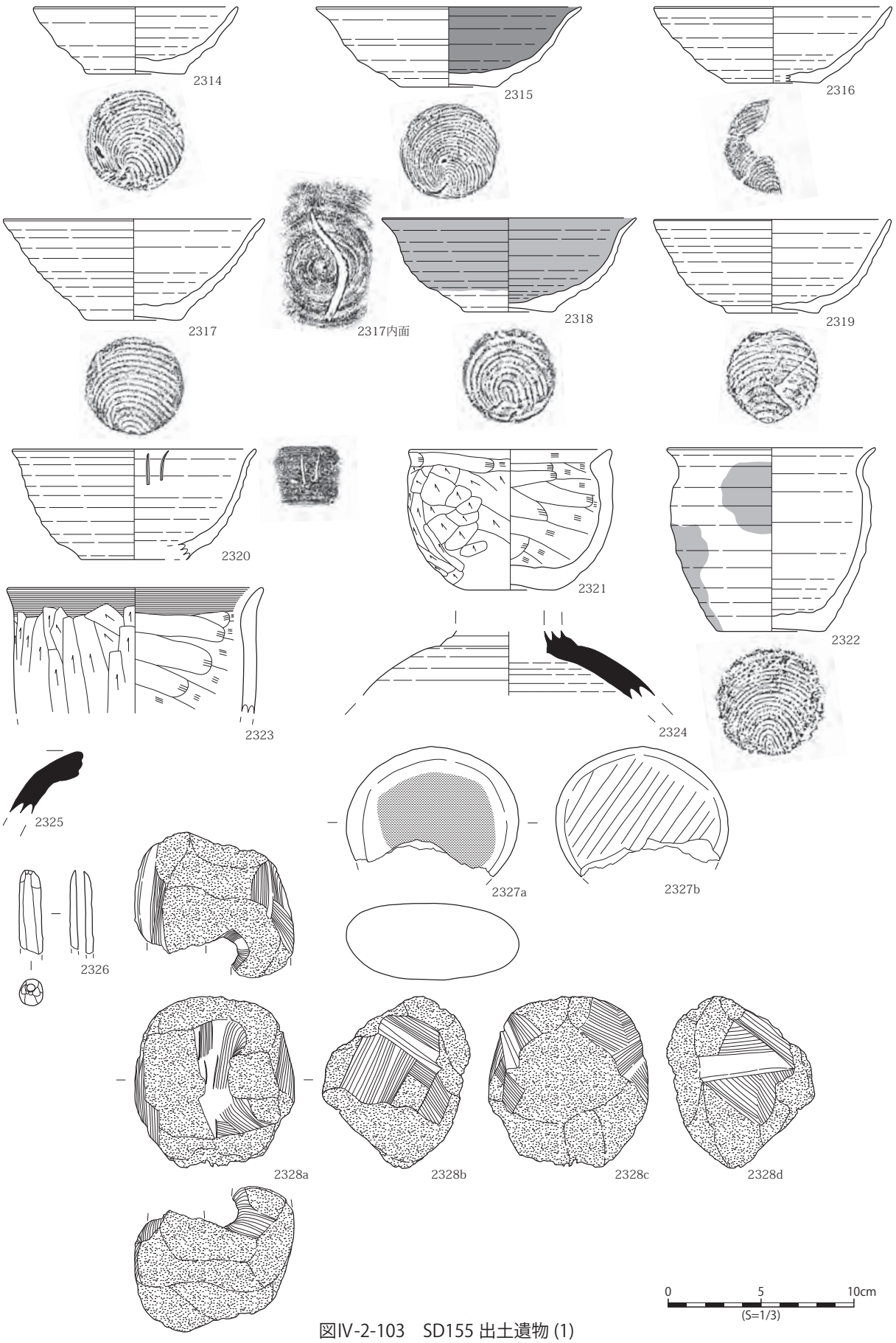
2311 は曲物側板を綴じる木釘跡等が確認できなかったためを曲物の底板もしくは蓋とした。2312 は棒状の不明製品であり、片側端部を尖らせている。2313 は板状の不明製品であり、両端部に穿孔



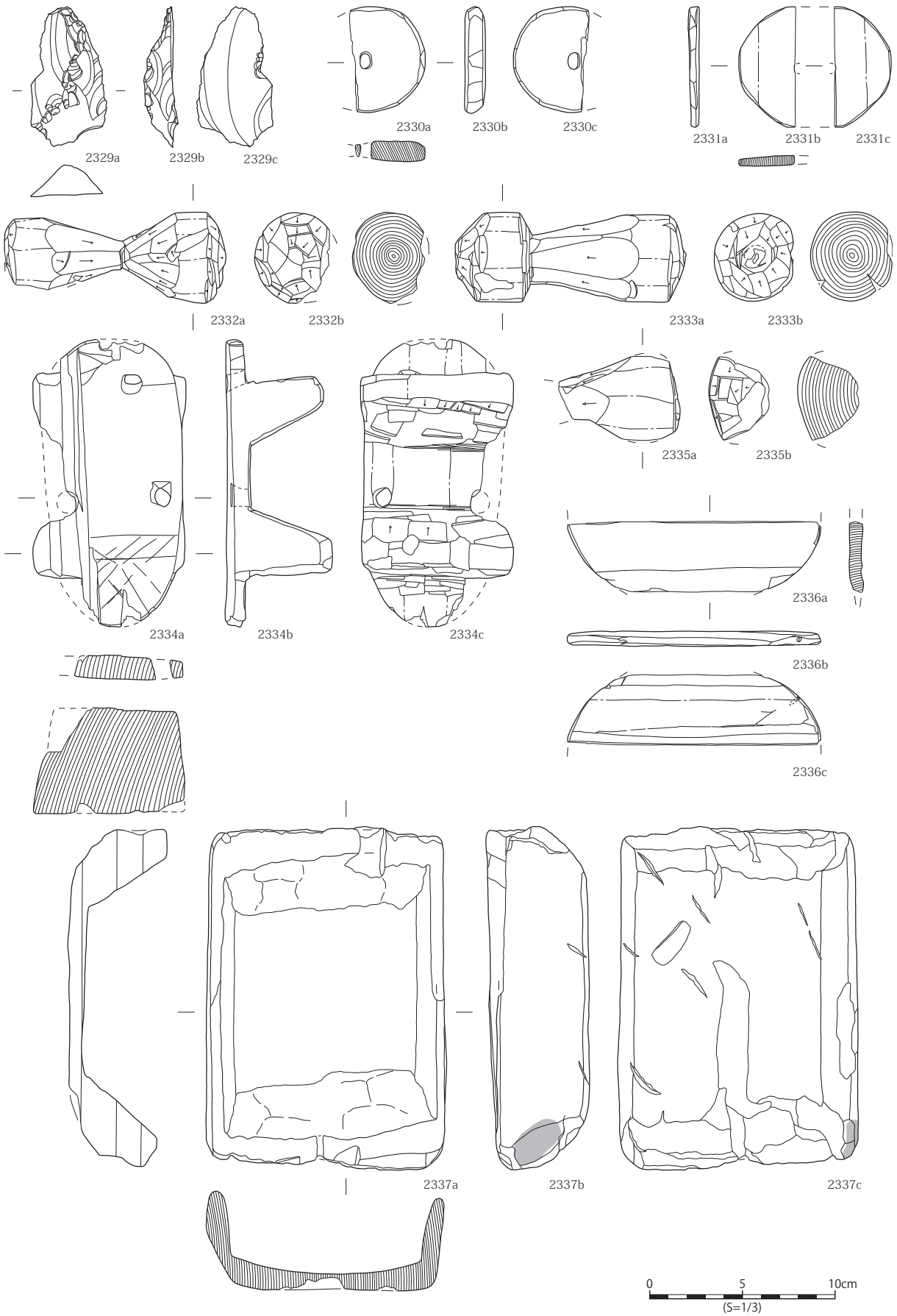
図Ⅳ-2-101　SD155



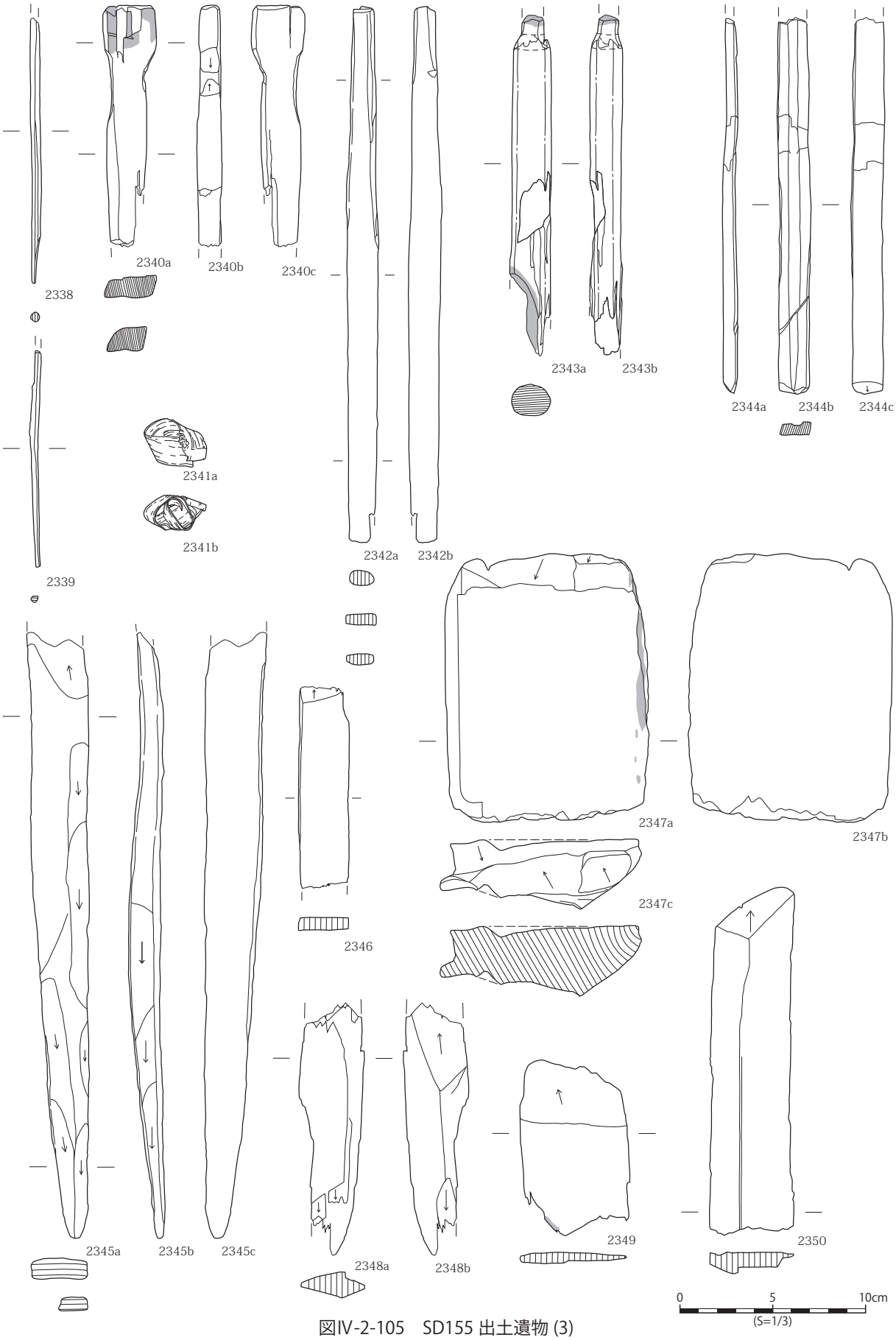
図Ⅳ-2-102　SD155遺物出土状況



図IV-2-103　SD155 出土遺物 (1)



図Ⅳ-2-104　SD155 出土遺物 (2)



図IV-2-105　SD155 出土遺物 (3)

が見られる。樹種はいずれもアスナロである。

第 155 号溝跡（SD155、図Ⅳ -2-101）

［位置・確認］グリッド BX・BY37、BY35，36、CA34，35 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 1,639cm、幅 63 ～ 135cm、深さ 48cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層は黒色土を主体とした層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 3,127.9g、土師器甕 5,905.8g、須恵器甕 199.4g、須恵器壺 203.7g が出土している（図Ⅳ -2-102）。この内図示できたのは 37 点である（図Ⅳ -2-103 ～ 105）。2314 ～ 2316 は土師器の皿形坏であり、2315 は内面黒色処理がなされている。2317 ～ 2319 は土師器の埦形坏であり、2317 の内面にはヘラ記号が描かれている。2318 は内外面に二次被熱を受けている。2320 は土師器の埦であり、内面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2321 ～ 2323 は土師器の小型甕であり、2321 は体部外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されるものの非常に粗雑なつくりである。2322 はロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2323 は口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2324 は須恵器の長頸壺の肩部破片であり、リング状の凸帯が確認された。2325 は須恵器甕の口縁部破片であり、口縁端部が簡略化された沈線のみとなっているため、MD 窯期のものと考えられる。

2326 は土錘であり、ユビナデ調整がみられ、小形のものであることから内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

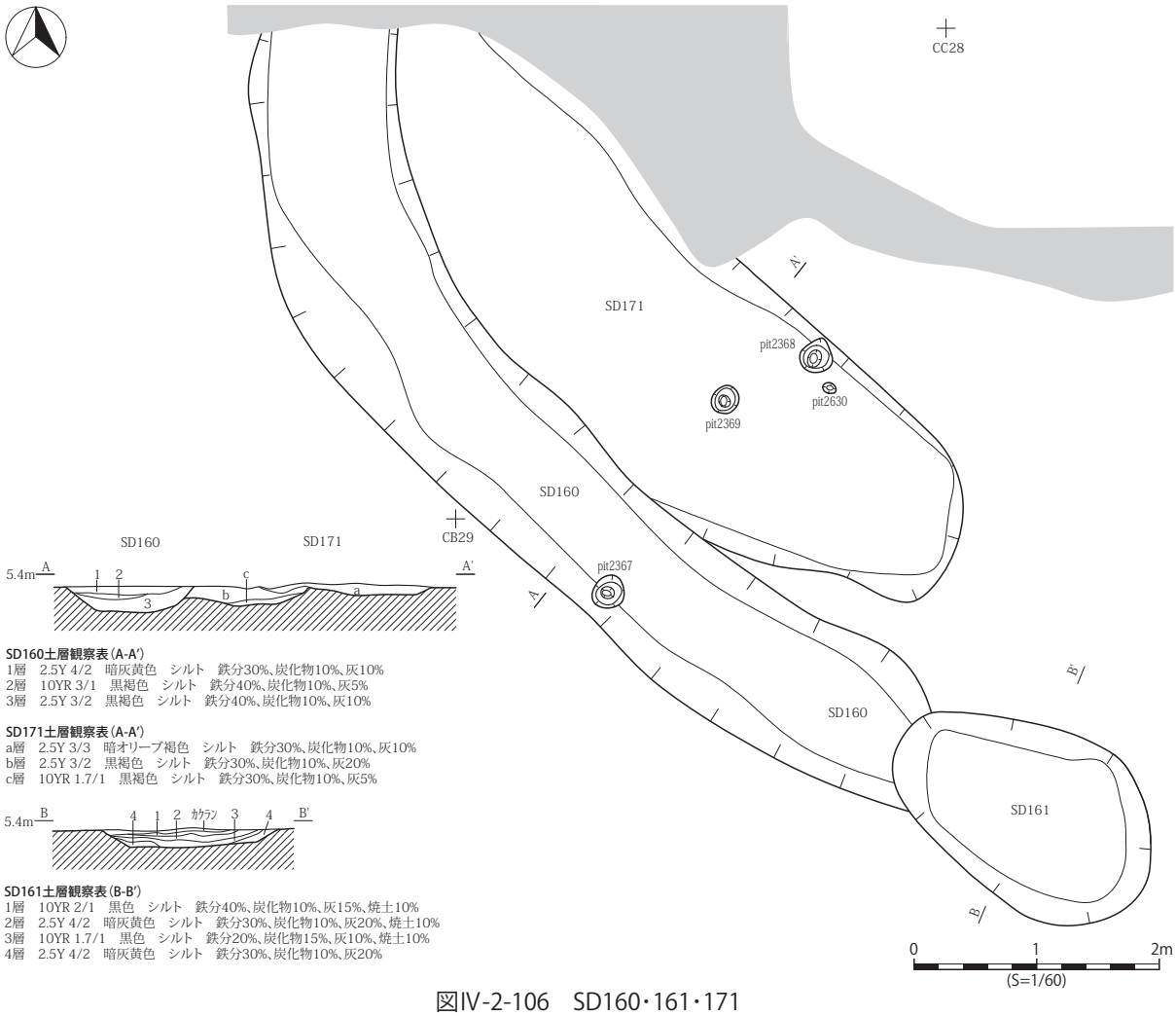
2327 は砥石であり、扁平な円礫の平坦部を砥面として使用している。材質は安山岩である。2328 は不明の軽石製石器である。2329 は剥片石器であり、材質は珪質泥岩である。

2330・2331 は紡錘車の紡輪である。2332・2333・2335 は編台の錘である。2334 は連歯の高下駄であり、小型のもので、恐らく子供の右足用であると考えられる。下端の部分に所有者を示すと考えられる斜線状の傷が付けられている。また、前壷の位置決めをするケビキ線がある。2236 は曲物底板であり、側板を留める木釘が付着している。2237 は刳物の槽である。2338・2339 は箸の先端部であり、細く尖らせている。2340 は不明部材であり、側面に抉りが見られることから、何らかの固定具として使用されたものと考えられる。2341 は緊縛具の樹皮巻きであり、曲物綴じ具等の結合補助材として使用するために製作されたものである。2342 は板状不明製品であり、一端の両側面に加工痕が見られる。2343 は棒状不明製品であり、一端を細く作り出している。2344・2345・2347 は板材の加工木である。2346・2348 ～ 2350 は端材である。樹種は 2332 がクワ属、2333 がイヌエンジュ、2335 がコナラ属コナラ節、2341 が針葉樹皮、それ以外はすべてアスナロである。

第 160・161・171 号溝跡（SD160・161・171、図Ⅳ -2-106）

（SD160）

［位置・確認］グリッド CA28、CB28，29 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD161・171 と重複関係にあり、SD161 よりも古く、SD171 よりも新しい。［規模・形状］撹乱を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 787cm、幅 107 ～ 132cm、深さ 24cm を測り、南東方向から北方向に延びる弧状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 1,139.4g、土師器甕

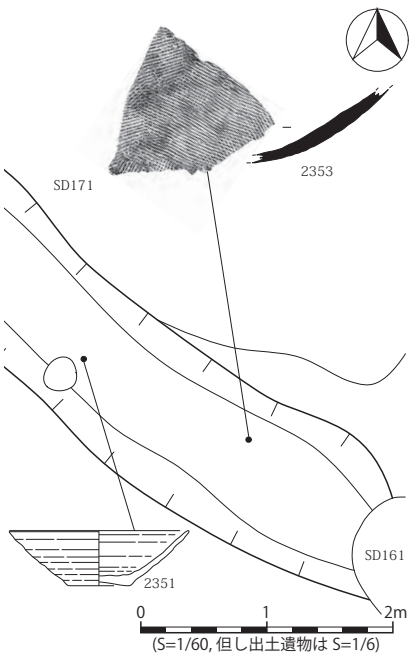


SD160土層観察表（A-A'）
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰5%
3層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

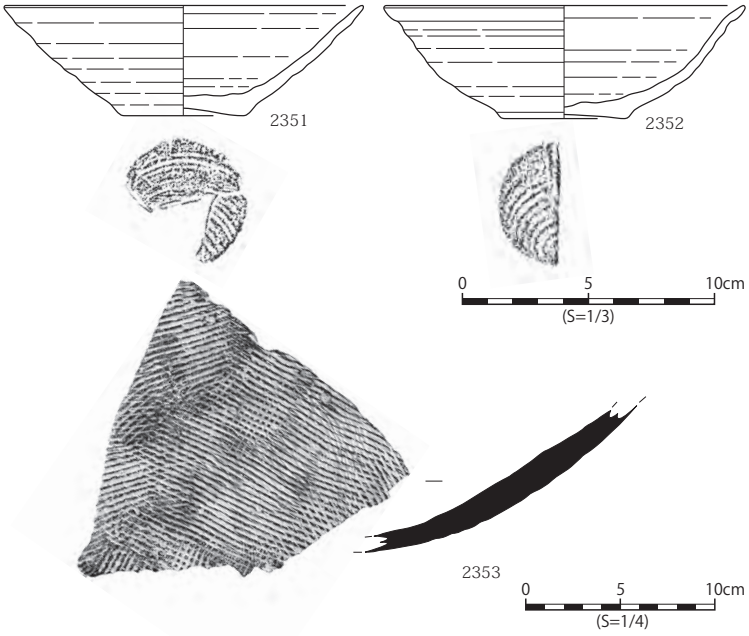
SD171土層観察表（A-A'）
a層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
b層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
c層　10YR 1.7/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰5%

SD161土層観察表（B-B'）
1層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰15%、焼土10%
2層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%、焼土10%
3層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物15%、灰10%、焼土10%
4層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%

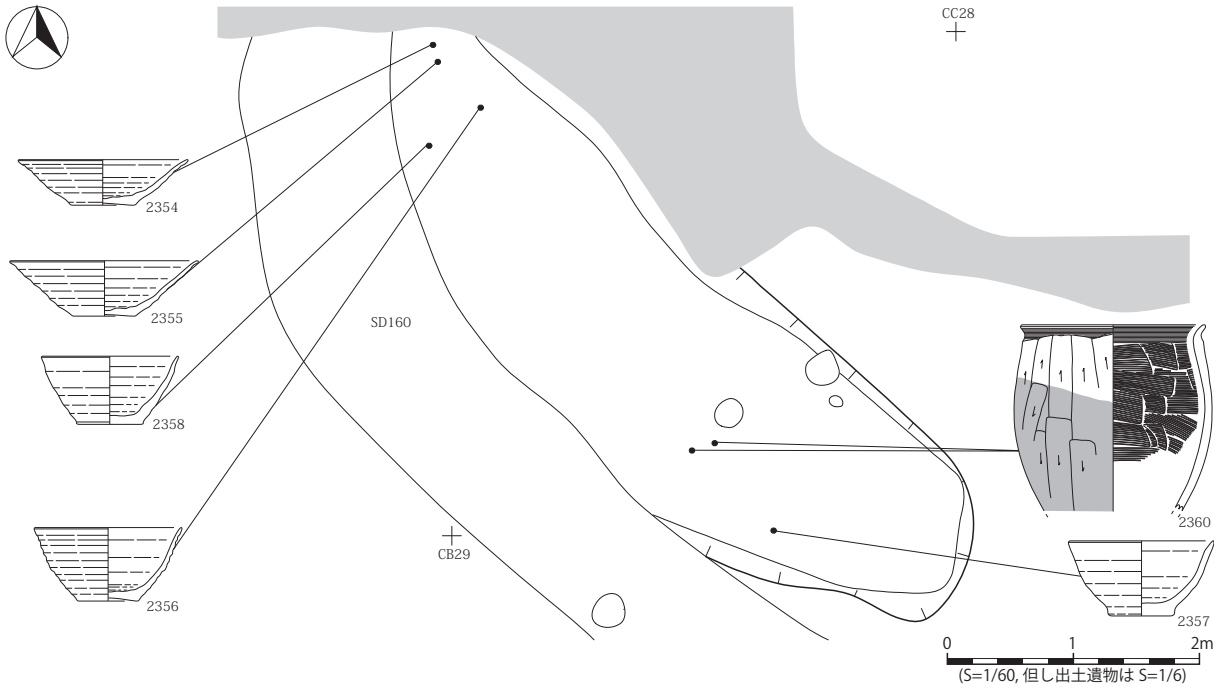
図Ⅳ-2-106　SD160・161・171



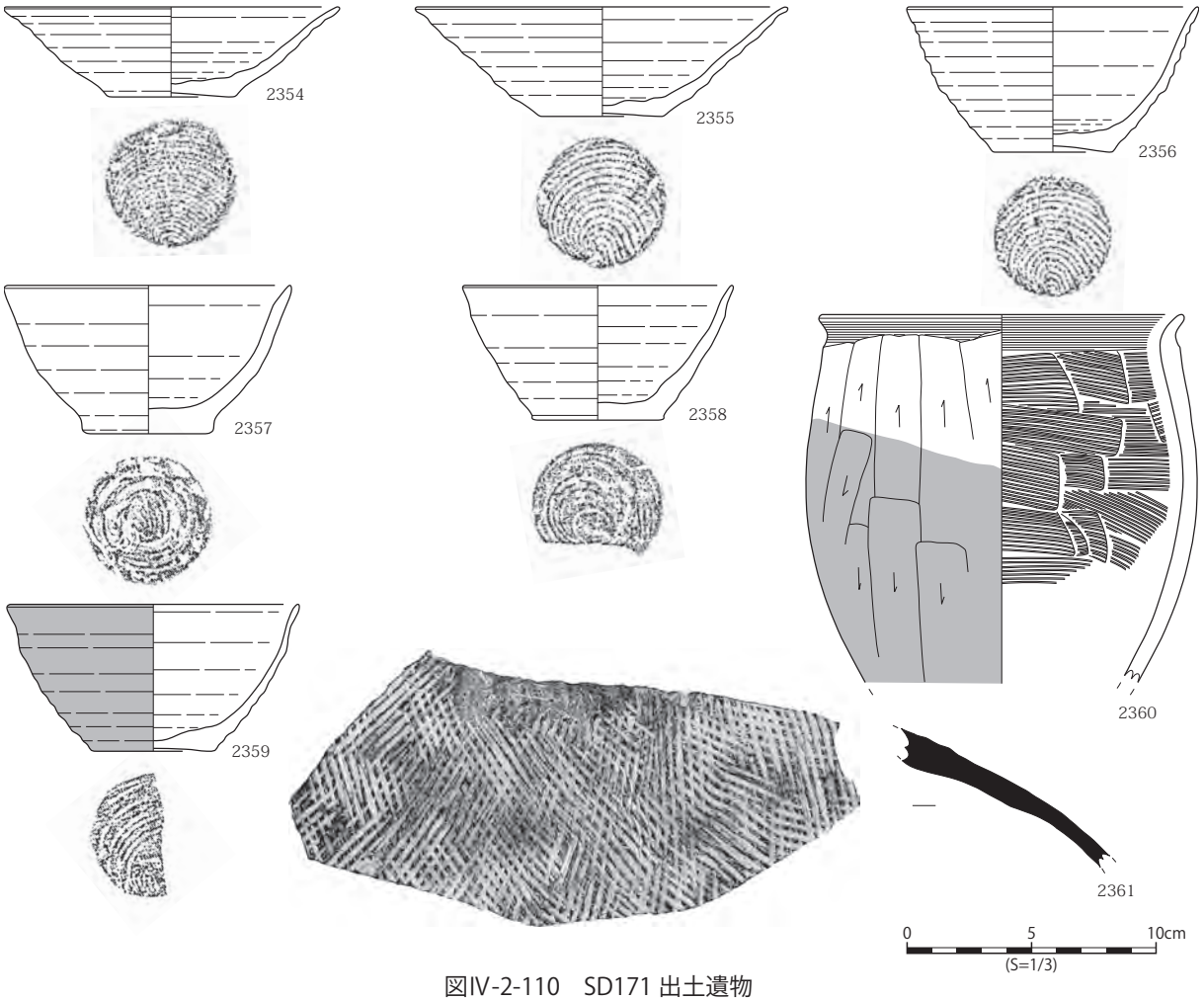
図Ⅳ-2-107　SD160遺物出土状況



図Ⅳ-2-108　SD160 出土遺物



図Ⅳ-2-109　SD171 遺物出土状況



図Ⅳ-2-110　SD171 出土遺物

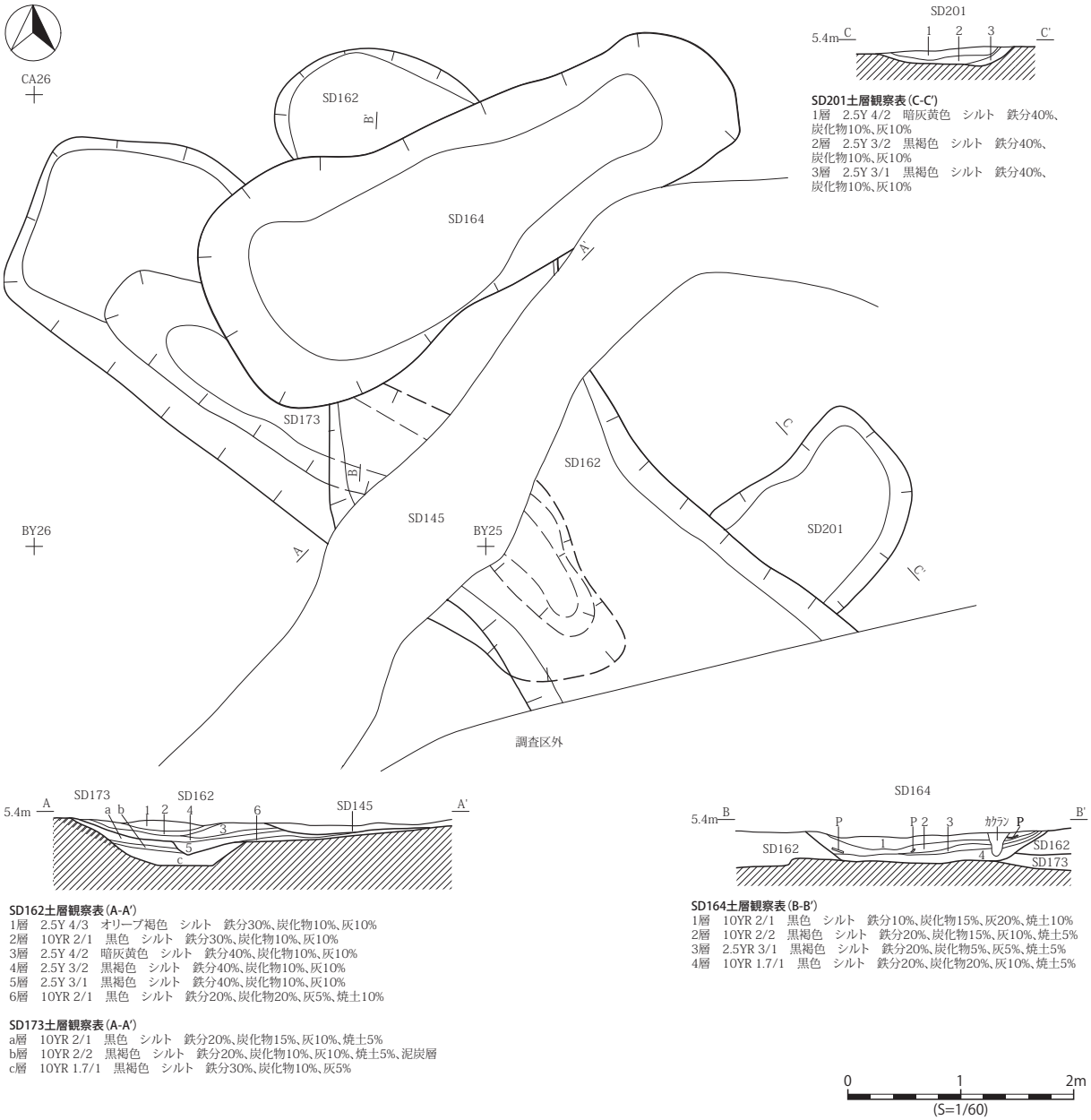
1,809.0g、須恵器甕 483.0g が出土している（図Ⅳ -2-107）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-108）。2351・2352 は土師器の皿形坏であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2353 は須恵器甕の底部破片であり、格子タタキ目が見られる。

（SD161）

［位置・確認］グリッド CA27，28 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD160 と重複関係にあり、SD161 よりも新しい。［規模・形状］長さ 232cm、幅 150cm、深さ 19cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］5 層確認され、黒色土を主体とした層とⅢ層由来の層が互層を成している。［出土遺物］特になし。

（SD171）

［位置・確認］グリッド CA28、CB28，29 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD160



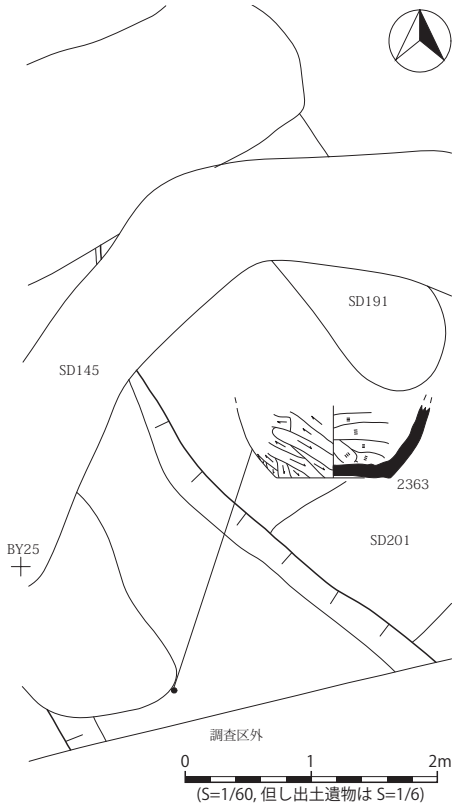
図Ⅳ-2-111　SD162・164・173・201

と重複関係にあり、SD161 よりも古い。［規模・形状］撹乱を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 634cm、幅 134 ～ 185cm、深さ 22cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 1,192.3g、土師器甕 1,217.3g、須恵器甕 254.9g が出土している（図Ⅳ -2-109）。この内図示できたのは 8 点である（図Ⅳ -2-110）。2354・2355 は土師器の皿であり、2356 ～ 2359 は土師器の埦である。2359 は外面全体に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2360 は土師器の小型甕であり、外面に二次被熱を受けている。口縁部内外面にヨコナデ調整を施した後体部外面はケズリ調整、体部内面はヘラナデ調整が施されている。2361 は須恵器の中甕の肩部破片であり、格子タタキ目が見られる。

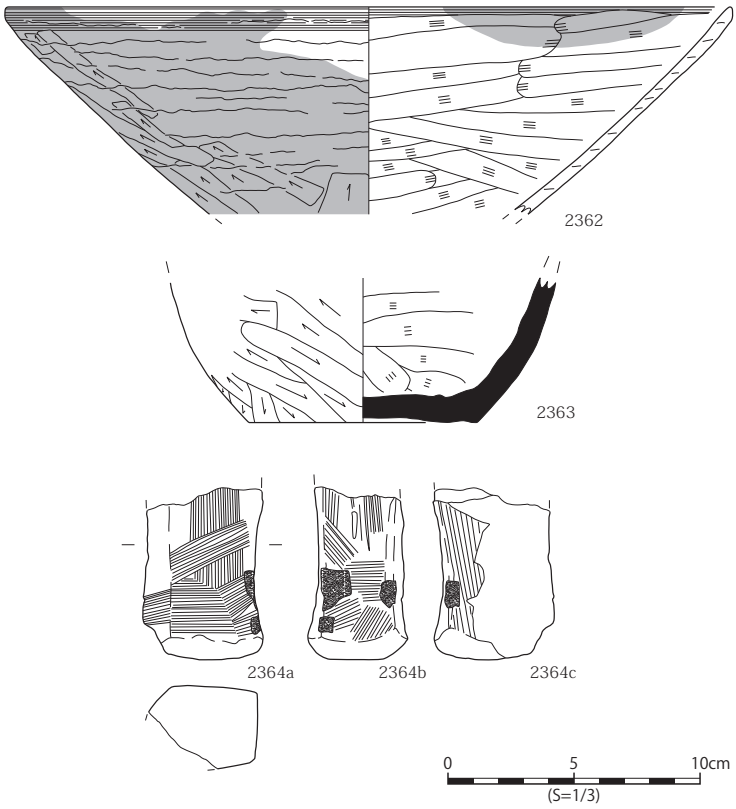
第 162・164・173・201 号溝跡（SD162・164・173・201、図Ⅳ -2-111）

（SD162）

［位置・確認］グリッド BX・BY24、CA25 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD145・164・173・201 と重複関係にあり、SD145・164 よりも古く、SD173・201 よりも新しい。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 635cm、幅 150 ～ 244cm、深さ 18cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］6 層確認され、黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層とで互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 727.0g、土師器甕 3,157.0g、須恵器甕 199.4g、須恵器壺 203.7g が出土している（図Ⅳ -2-112）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-113）。2362 は土師器の鍋であり、口縁外面をヨコナデ後、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。2363 は須恵器



図Ⅳ-2-112　SD162遺物出土状況

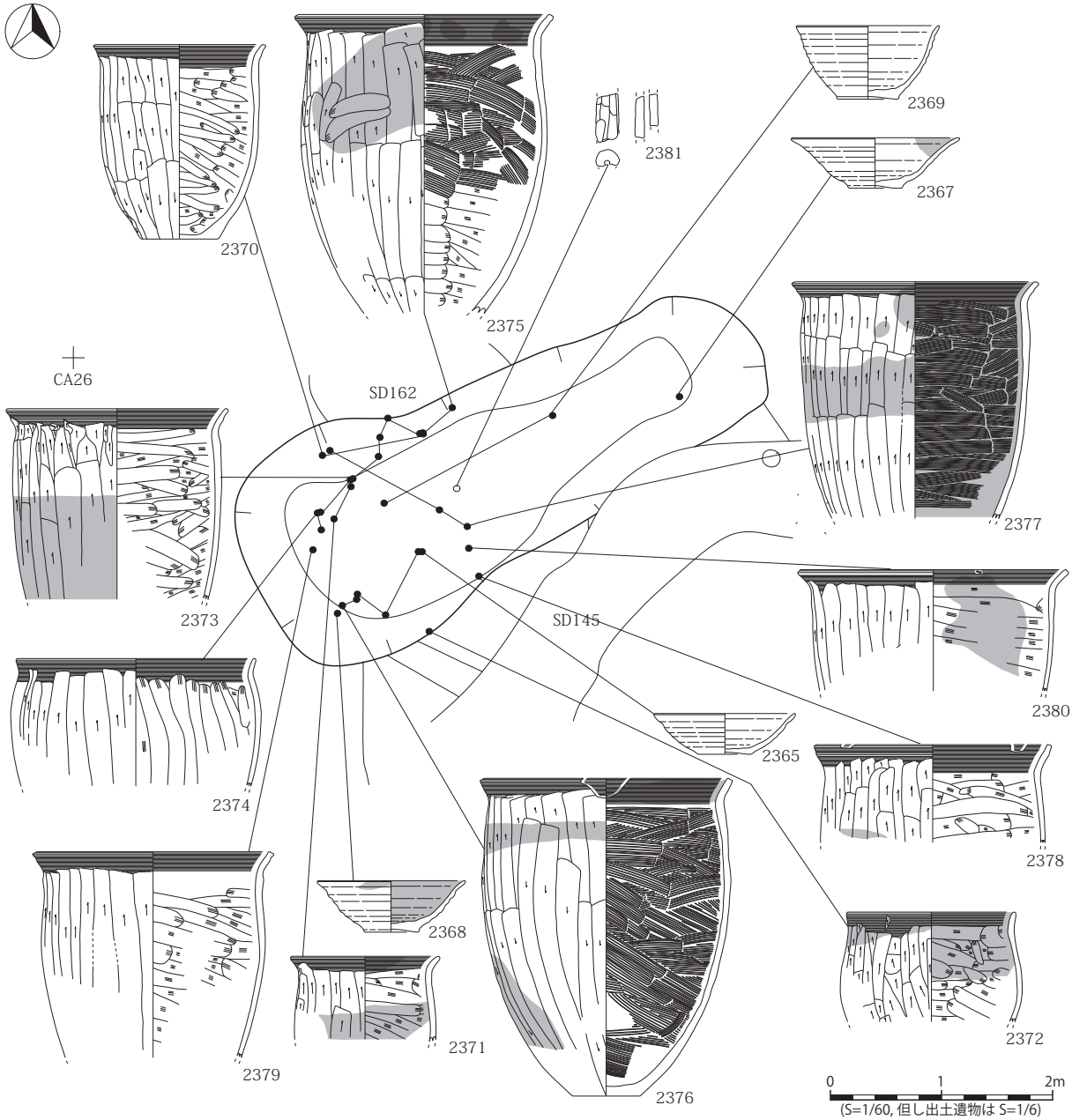


図Ⅳ-2-113　SD162 出土遺物

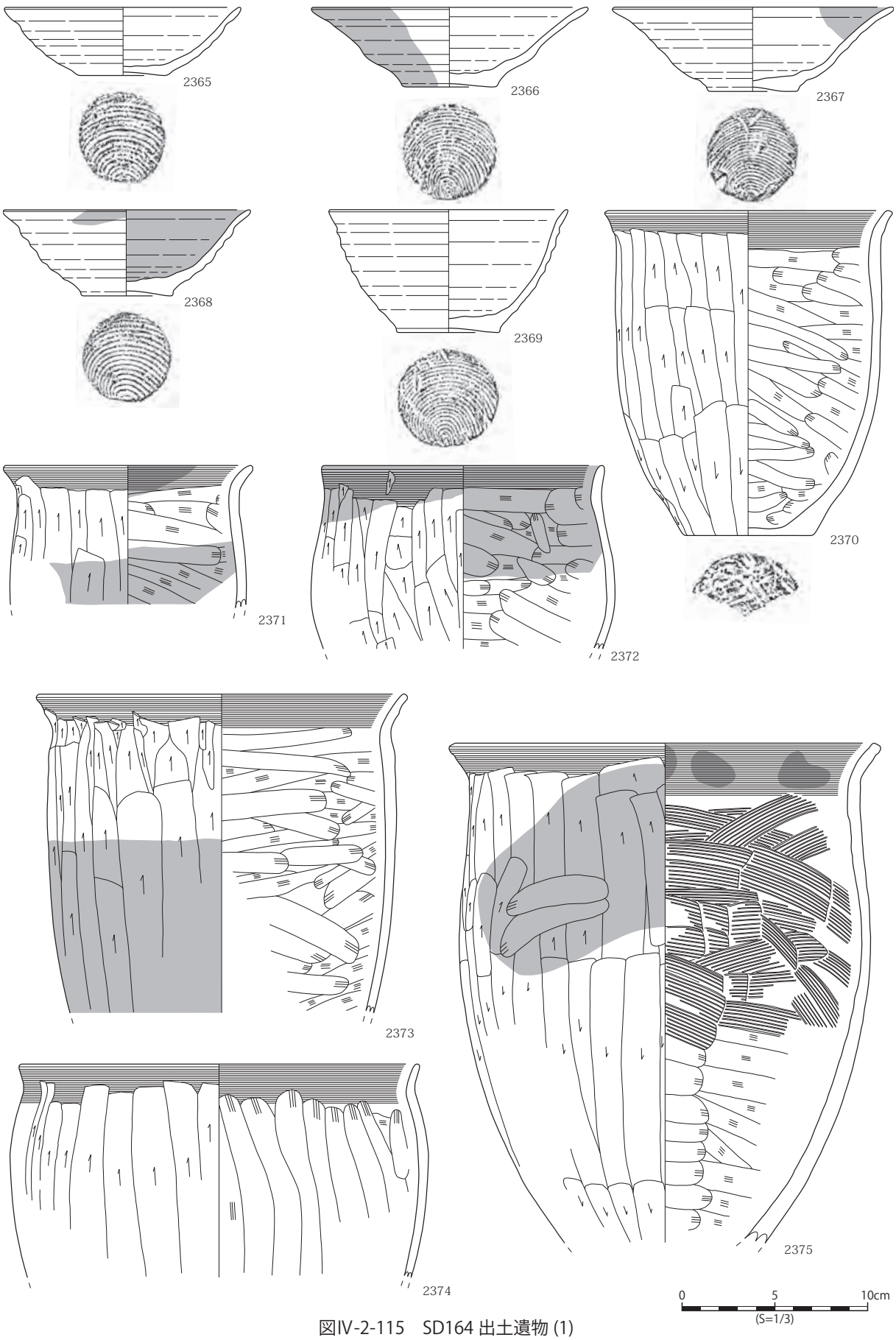
の壺であり、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。2364 は砥石であり、角礫の平坦面を砥面として使用している。材質は珪質凝灰岩である。

（SD164）

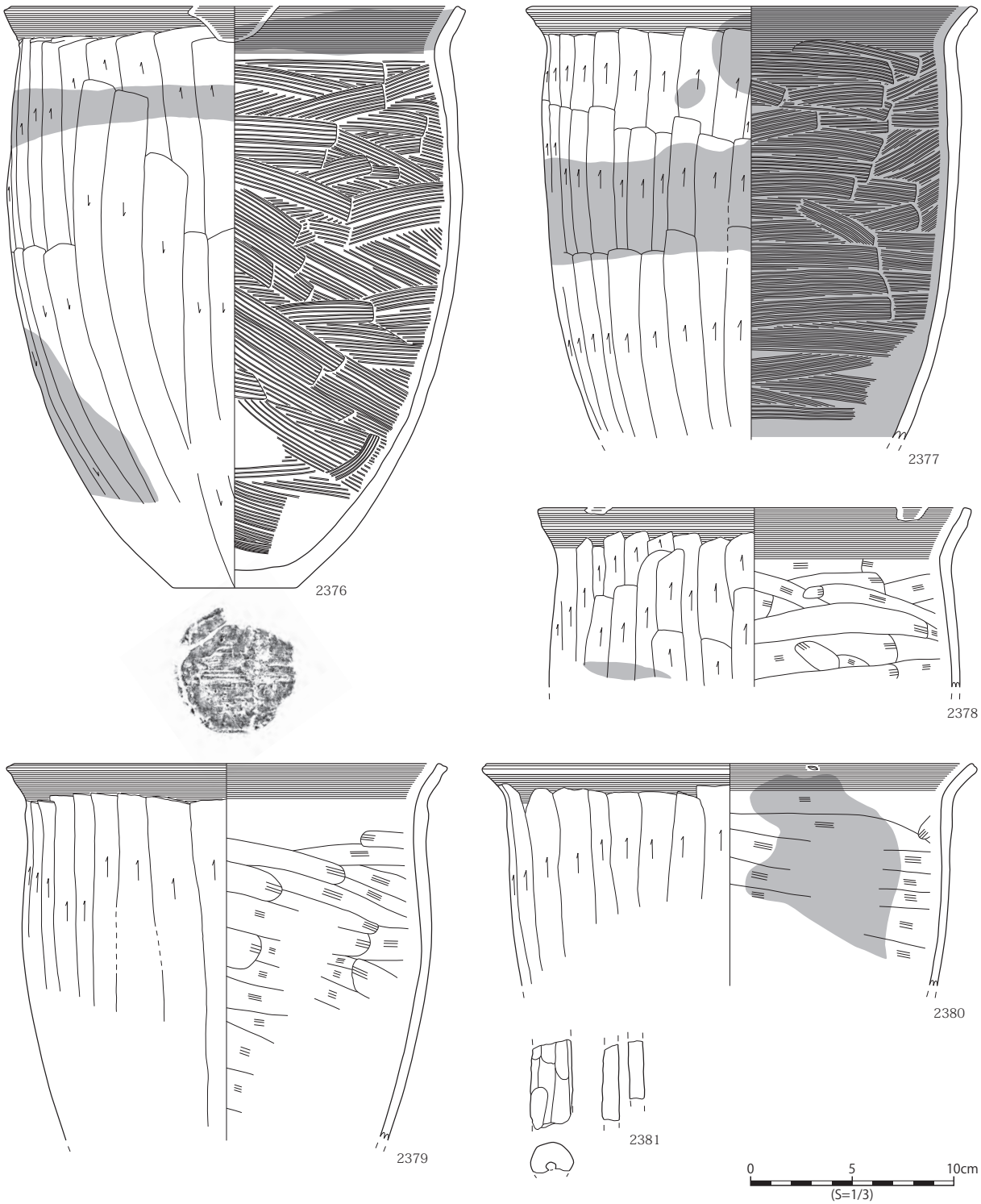
［位置・確認］グリッド BY24，25、CA24 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD145・162・173 と重複関係にあり、SD145 よりも古く、SD162・173 よりも新しい。［規模・形状］長さ 499cm、幅 130 ～ 214cm、深さ 43cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。SD162 により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 672cm、幅 111 ～ 212cm、深さ 43.5cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］4 層確認され、黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層とで互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 2,108.3g、土師器甕 13,421.7g、須恵器甕 370.9g、支脚 115.8g が出土している（図Ⅳ -2-



図Ⅳ-2-114　SD164遺物出土状況



図Ⅳ-2-115　SD164 出土遺物 (1)



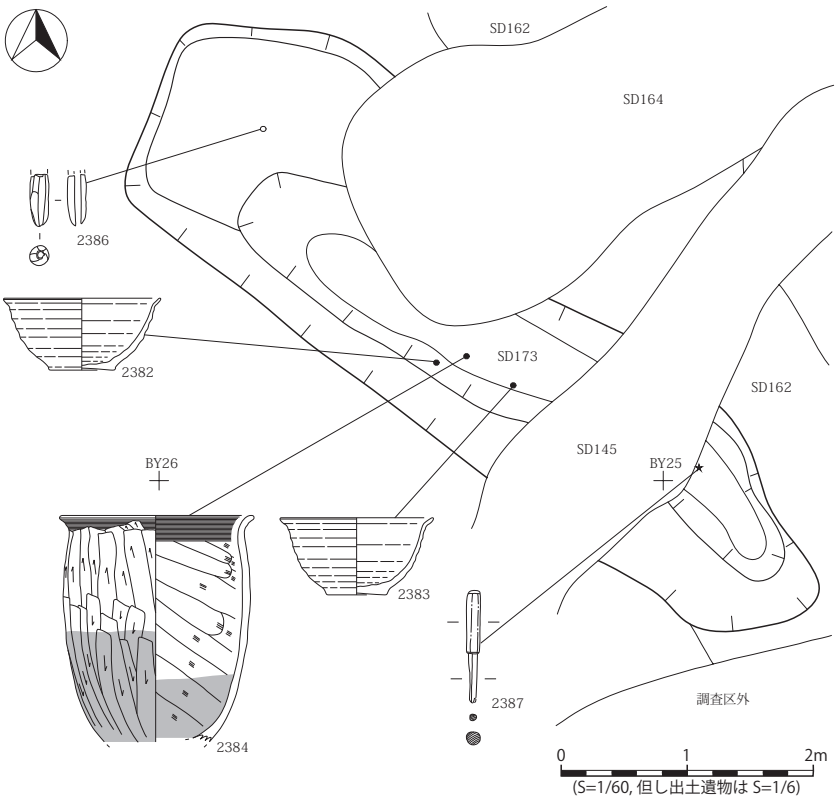
図Ⅳ-2-116　SD164 出土遺物 (2)

114)。この内図示できたのは 17 点である（図Ⅳ -2-115・116)。2365・2366 は土師器の皿であり、2366 は外面に二次被熱を受けている。2367 は土師器の皿形坏であり、内面に二次被熱を受けている。2368 は土師器の埦形坏であり、内外面に二次被熱を受けている。2369 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2370 ～ 2372 は土師器の小型甕であり、2371・2372 は内外面に二次被熱を受けている。いずれも口縁部内外面にユビナデ調整が施された後体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。2373 ～ 2380 は土師器の長胴

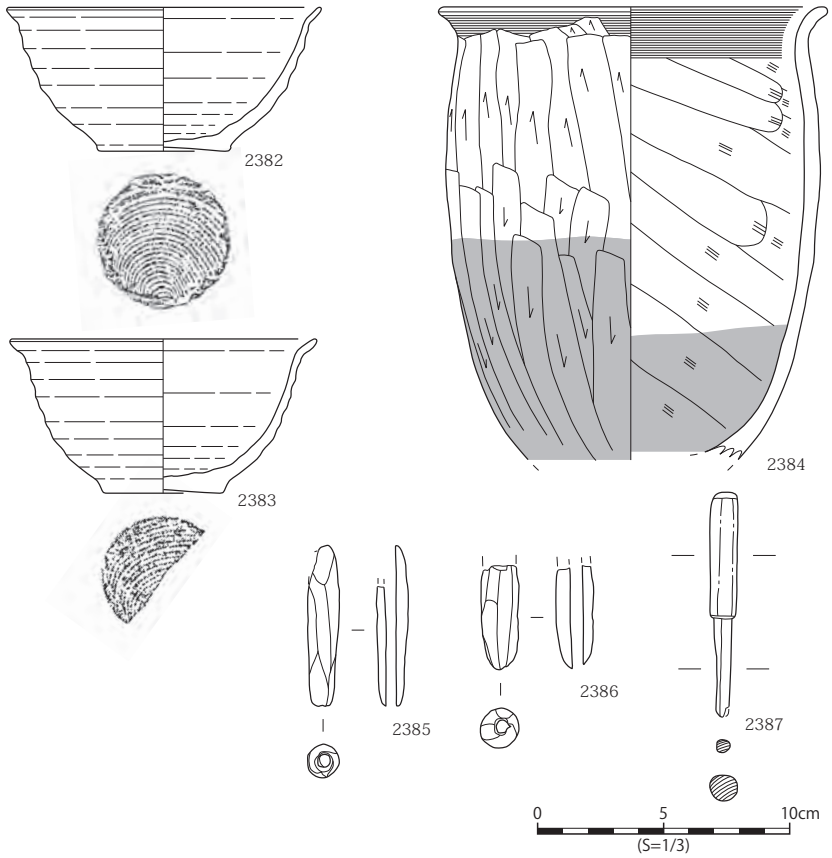
甕であり、2373・2378は外面に、2380は内面に、2375～2377は内外面に二次被熱を受けている。いずれも口縁部内外面にユビナデ調整が施された後体部外面はケズリ調整、体部内面は2375～2377はヘラナデ調整、それ以外はユビナデ調整が施されている。2381は土錘であり、ユビナデ調整がみられ、小形のものであることから内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

(SD173)

［位置・確認］グリッドBX24，25、BY24～26に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD145・162・164と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD162により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長672cm、幅111～212cm、深さ43.5cmを測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3層確認され、上層は黒色土を主体とした層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏323.2g、土師器甕2,479.5g、土製品17.8g

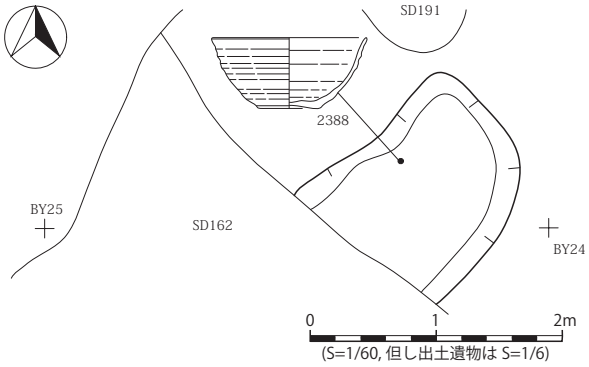


図Ⅳ-2-117　SD173遺物出土状況

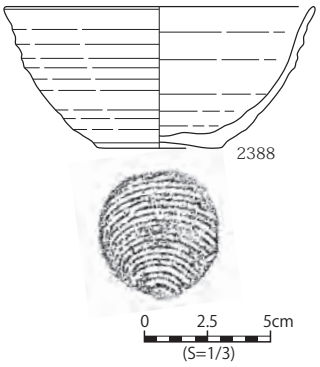


図Ⅳ-2-118　SD173出土遺物

等が出土している（図Ⅳ -2-117）。この内図示できたのは 6 点である（図Ⅳ -2-118）。2382・2383 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2384 は土師器の小型甕であり、体部下半内外面に二次被熱を受けている。2385・2386 は土錘であり、ユビナデ調整がみられ、小形のものであることから内水面の網漁に使用されたものと考えられる。2387 は漁労具のヤスであり、割材を丸く削り出した後柄装着部を細く作り出している。樹種はアスナロである。



図Ⅳ-2-119　SD201遺物出土状況



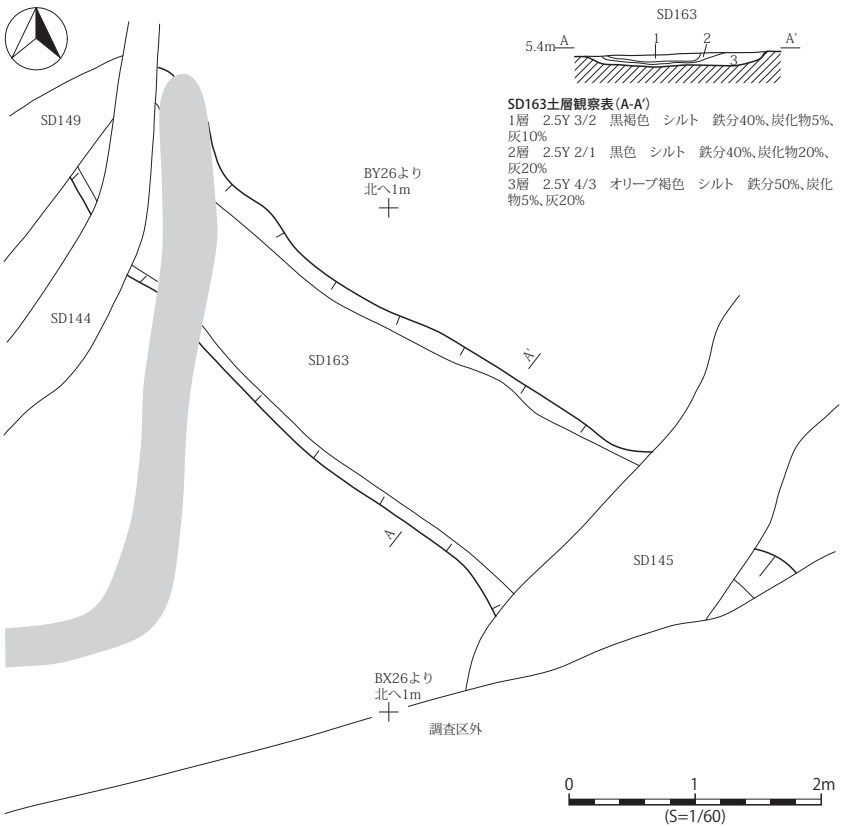
図Ⅳ-2-120　SD201 出土遺物

（SD201）

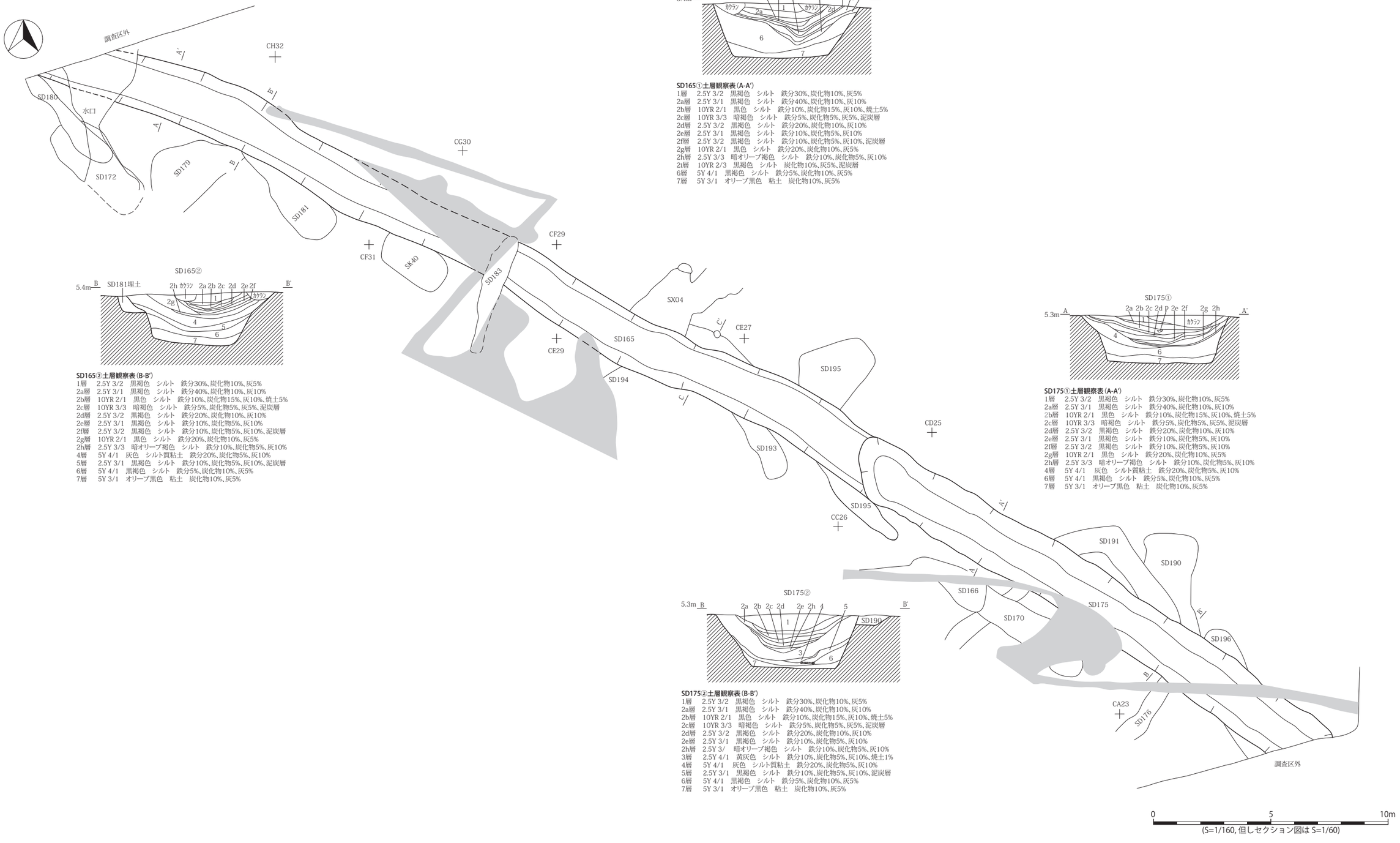
［位置・確認］グリッド BX・BY24 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD162 と重複関係にあり、SD162 よりも古い。［規模・形状］SD162 により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 151cm、幅 125 ～ 142cm、深さ 24cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 237g、土師器甕 578g が出土している（図Ⅳ -2-119）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-120）。2388 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し無調整である。

第 163 号溝跡（SD163、図Ⅳ -2-121）

［位置・確認］グリッド BX25，26、BY26 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD144・145・149 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］調査区外に延びているため正



図Ⅳ-2-121　SD163



図Ⅳ-2-122　SD165・175

確な規模・形状は不明であるが、現存長 600cm、幅 108 ～ 168cm、深さ 43cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層は黒褐色土を主体とした層、下層は黒色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 157.2g、土師器甕 282.3g が出土している。

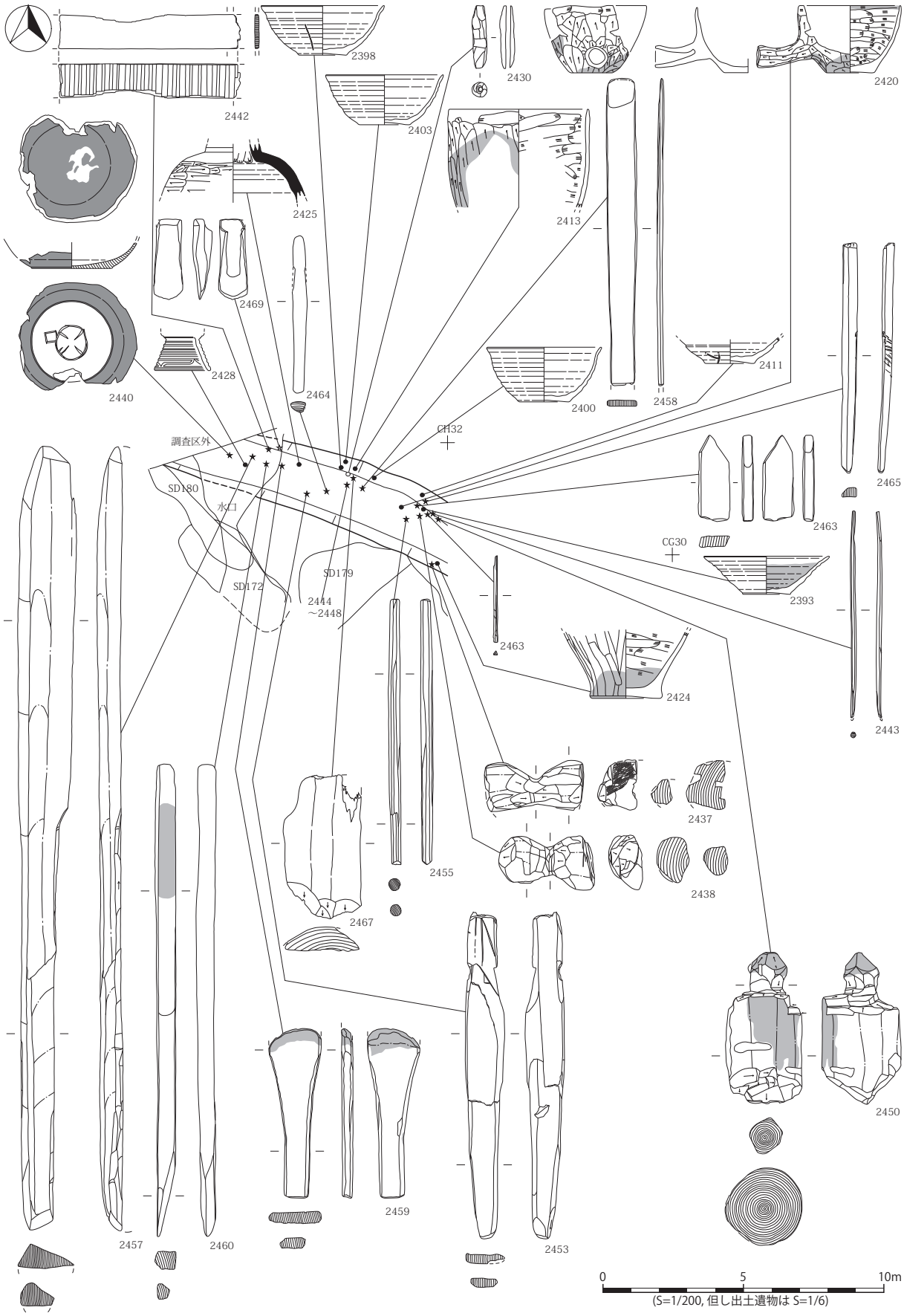
第 165・175 号溝跡（SD165・175、図Ⅳ -2-122）

調査区西側に南東方向から北西方向へと調査区を縦断する大溝である。青森県埋蔵文化財調査センターによる調査区で検出された大溝と同様の遺構であると考えられ、集落全体を区画する溝であると考えられる。防御性というよりは、低湿地帯集落縁辺に構築することにより、集落内の排水用として機能していたものと考えられる。

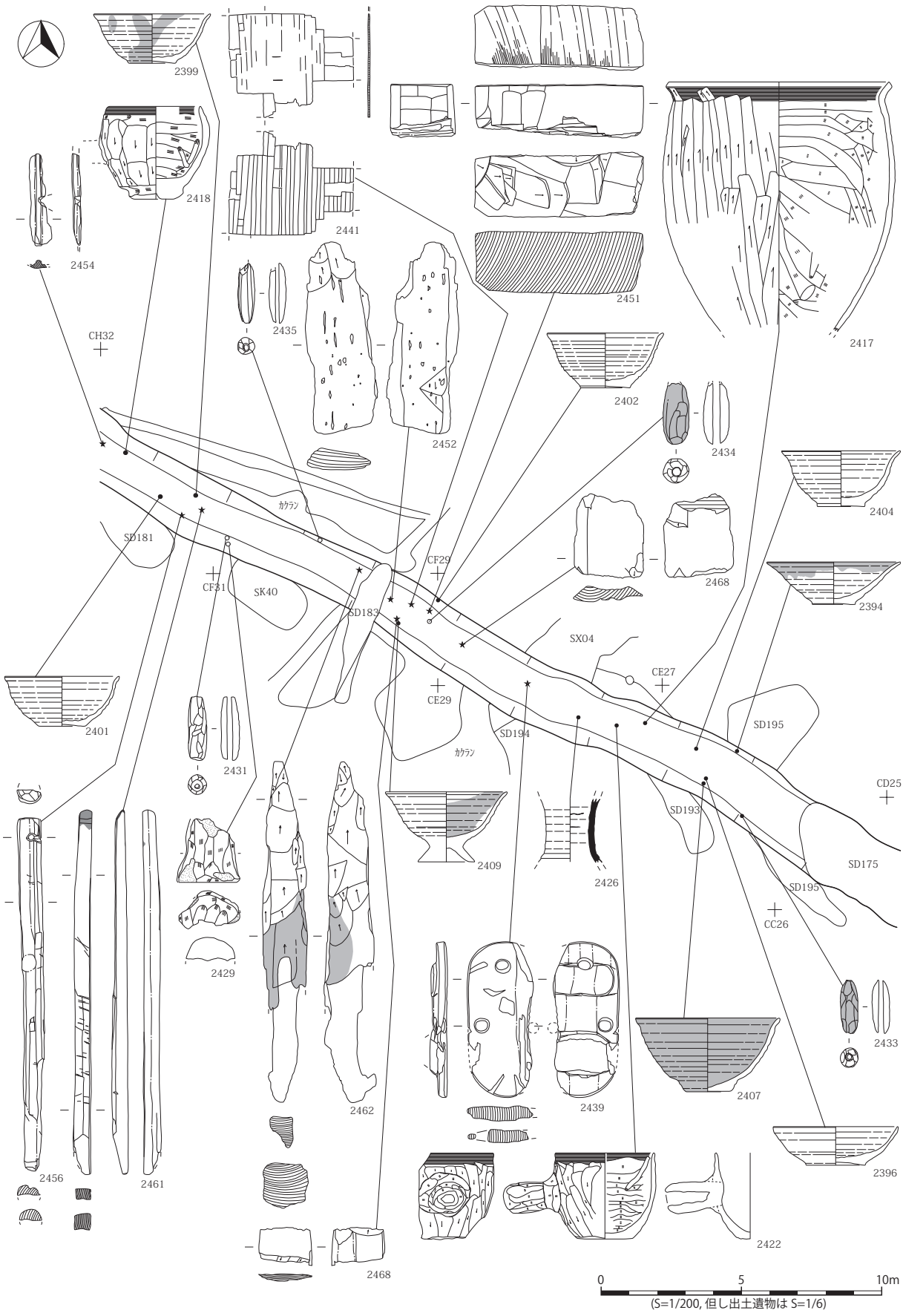
（SD165）

［位置・確認］グリッド CC25，26、CD25 ～ 28、CE27 ～ 30、CF29 ～ 32、CG31 ～ 34 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD175・179・180・181・183・193・194・195、SK40、SX04 と重複関係にあり、SD175・183 よりも古く、その他の遺構よりも新しい。［規模・形状］調査区外に延びているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 3,755cm、幅 182 ～ 233.5cm、深さ 83.5cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層が互層を形成している。また、下層付近はいずれも泥炭層である。［出土遺物］土師器坏 6,067.7g、土師器甕 21,209.1g、須恵器甕 114.6g、須恵器壺 36.3g、支脚 111.1g が、縄文土器 39.2g 等が出土している（図Ⅳ -2-123・124）。この内図示できたのは、80 点である（図Ⅳ -2-125 ～ 131）。2389 は土師器の皿であり、内外面二次被熱を受けている。2390 ～ 2397 は土師器の皿形坏であり、2390 は外面に墨書が書かれており、2391 は外面にヘラ記号が描かれている。2392・2394・2395 は内外面に、2393 は内面に二次被熱を受けている。2397 は土師器の椀形坏であり、2398 ～ 2406 は土師器の椀であり、2398 は外面にヘラ記号が描かれている。2399 は内外面に、2405・2406 は内面に二次被熱を受けている。2407・2408 は土師器の大型椀であり、2407 は内外面に、2408 は外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2409 は土師器の台付椀であり、内面に二次被熱を受けている。2410 は土師器坏の口縁～体部にかけての破片、2411 は体部～底部にかけての破片であり、いずれも外面にヘラ記号が描かれている。2412 ～ 2414 は土師器の小型甕であり、2412・2413 は外面に、2414 は内面に二次被熱を受けている。2412・2414 は口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2413 は体部外面にケズリ調整、内面にユビナデ調整が施されている。2415 ～ 2417 は土師器の長胴甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2418 ～ 2422 は土師器の把手付土器であり、2418 は把手部が欠損しており不明であるが、他はいずれも中空の把手である。2423・2424 は擦文土器であり、2423 は口縁部に刻み目を有し、2424 はヘラミガキが施されている。2425・2426 は須恵器の長頸壺であり、頸部と肩部の接合部分にリング状の凸帯が見られる。2427 は須恵器の壺の底部破片であり、体部外面はケズリ調整、内面はロクロナデ調整が施されている。2428 は縄文晩期後葉の台付浅鉢の台部であり、工字文が確認された。非常に風化しており、二次堆積により溝跡内に混入したものと考えられる。

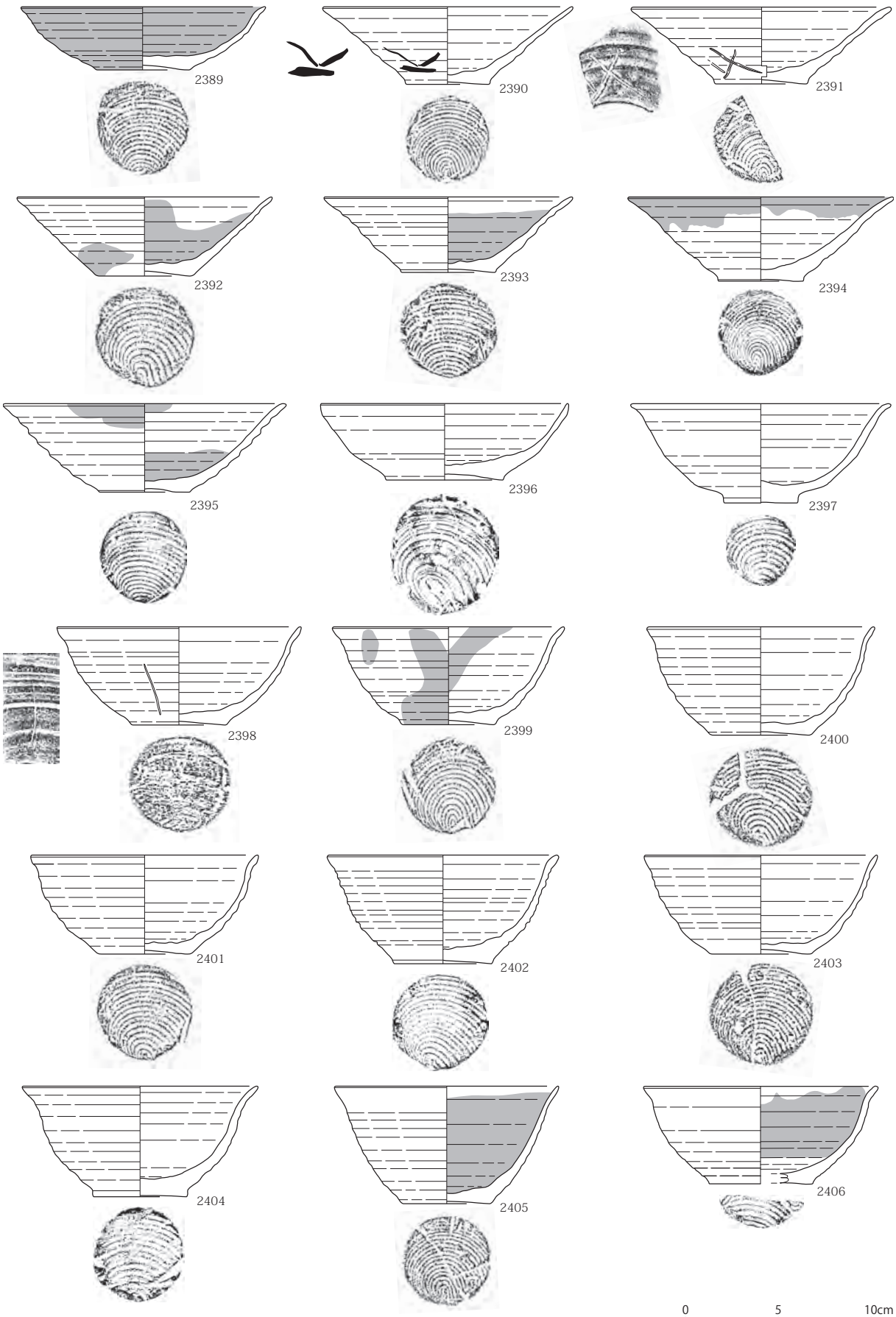
2429 は中実の支脚であり、外面にユビナデ調整が施されている。2430 ～ 2435 は土錘であり、



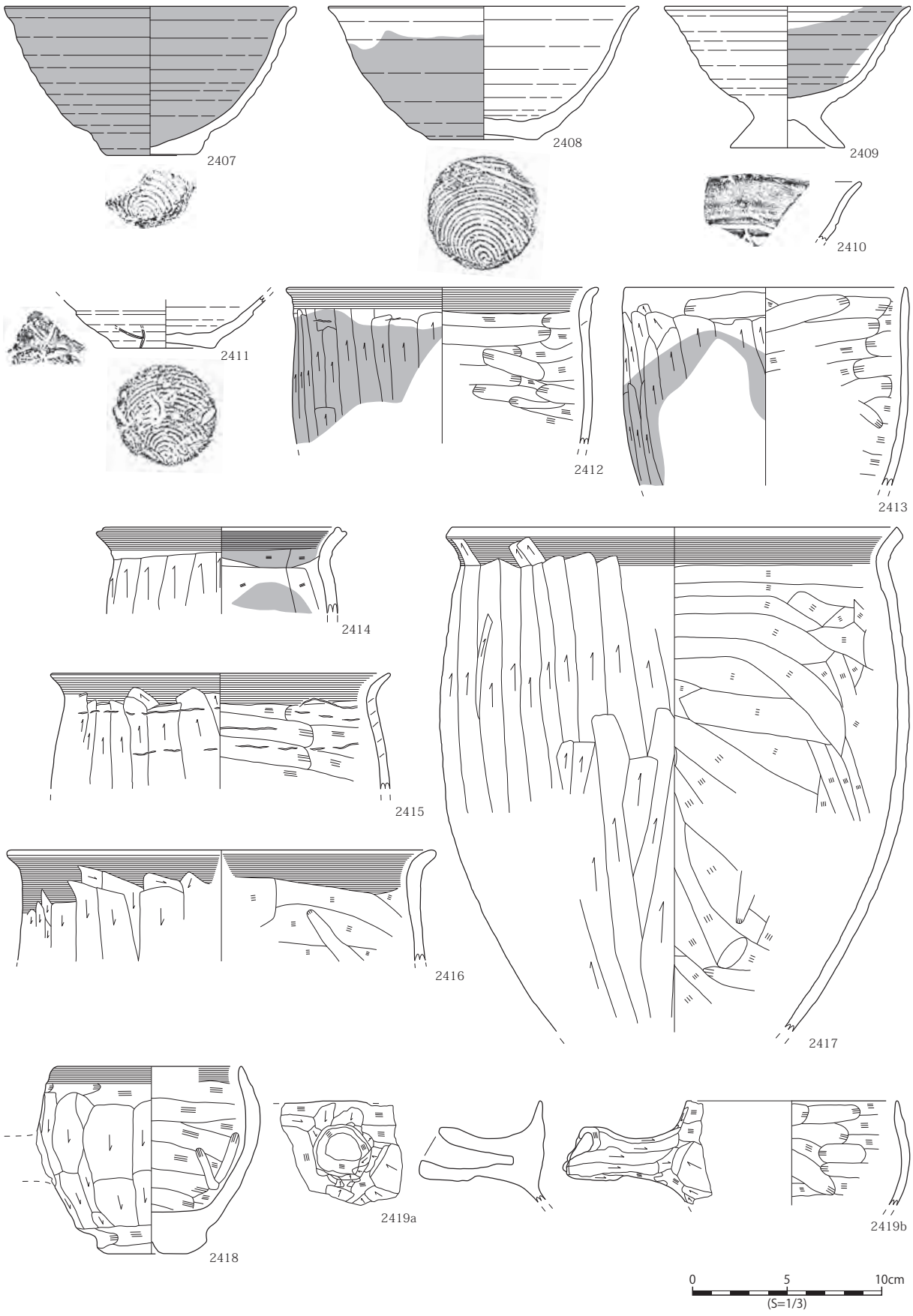
図IV-2-123　SD165遺物出土状況(1)



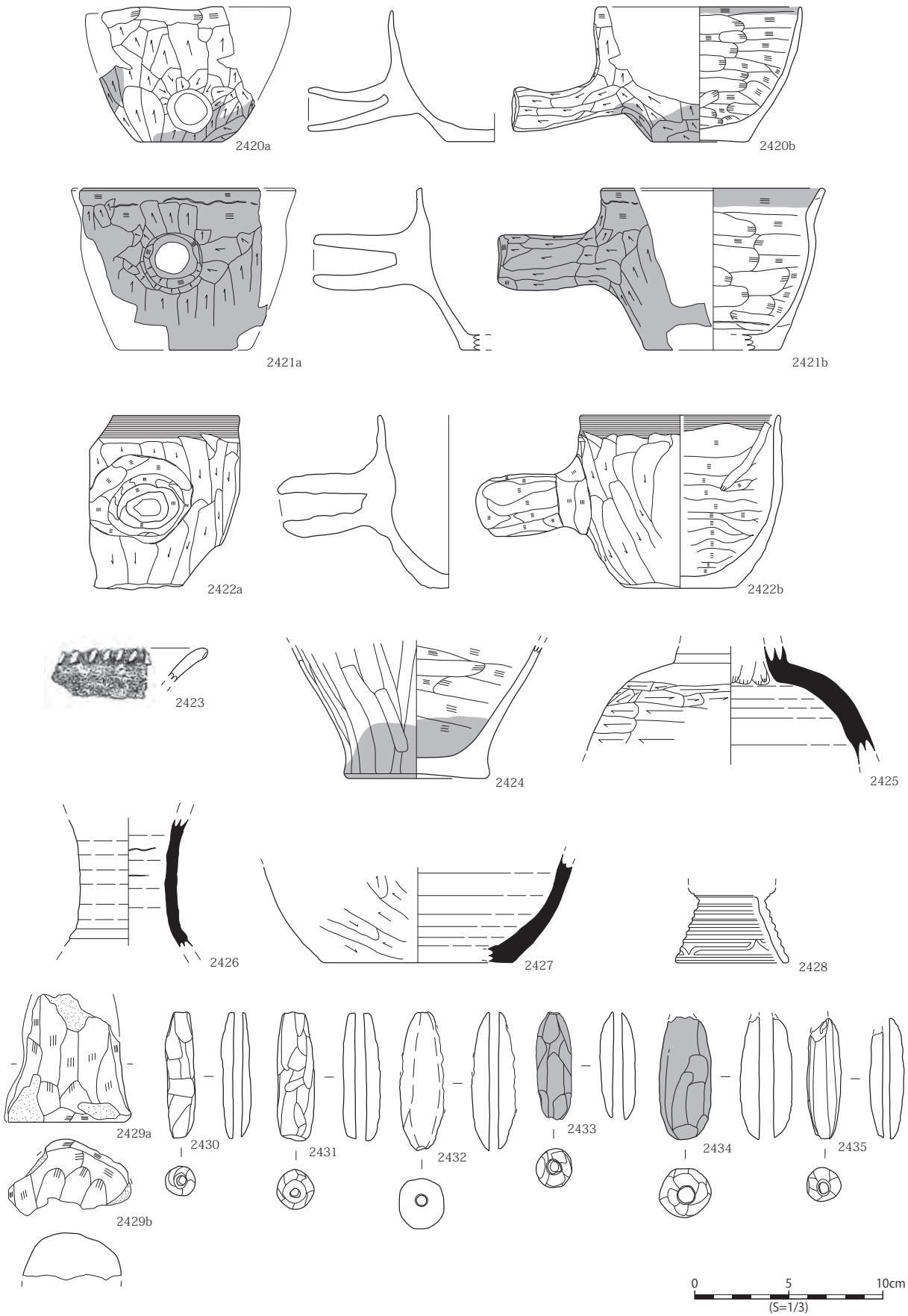
図Ⅳ-2-124　SD165 遺物出土状況 (2)



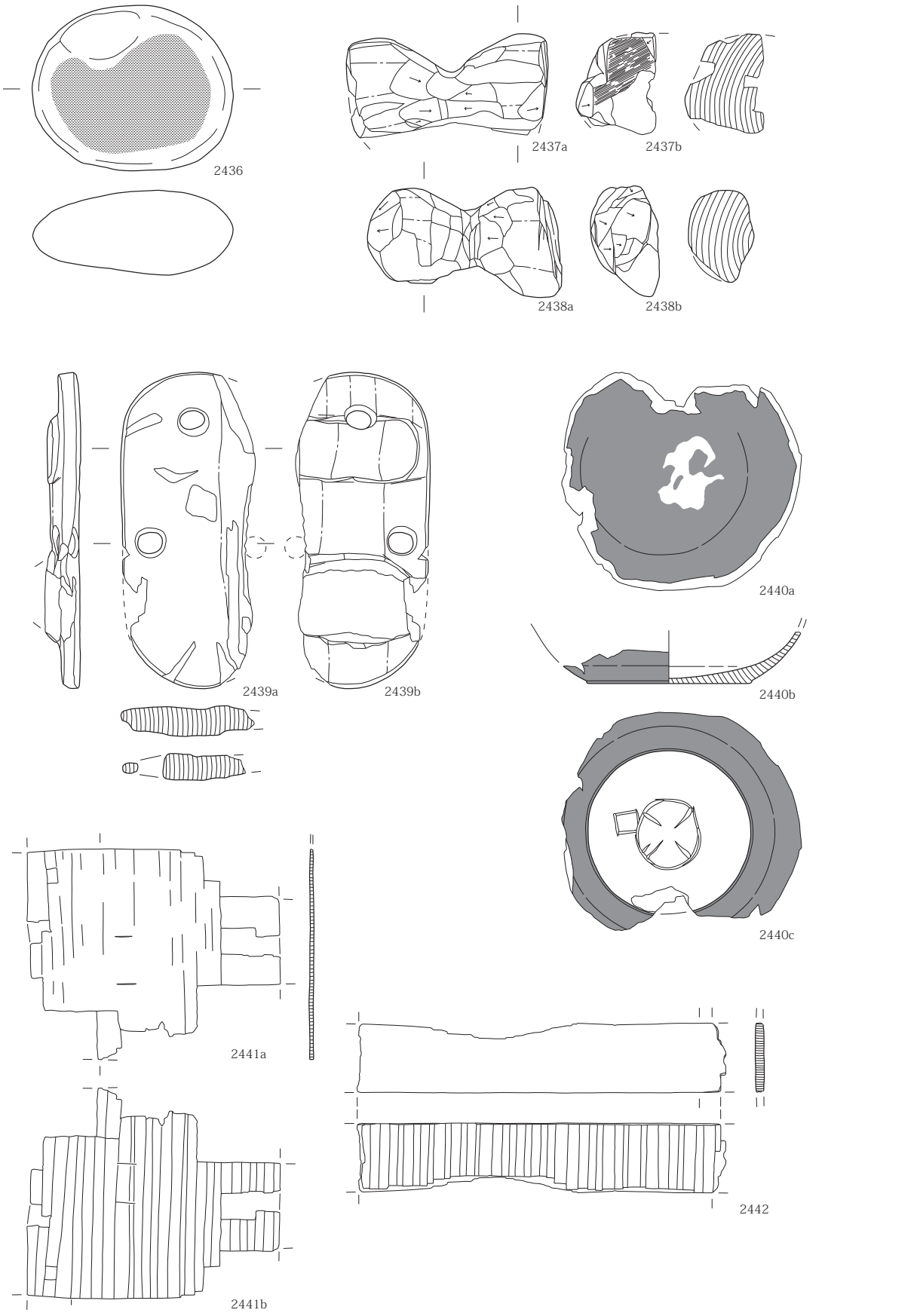
図IV-2-125　SD165 出土遺物 (1)



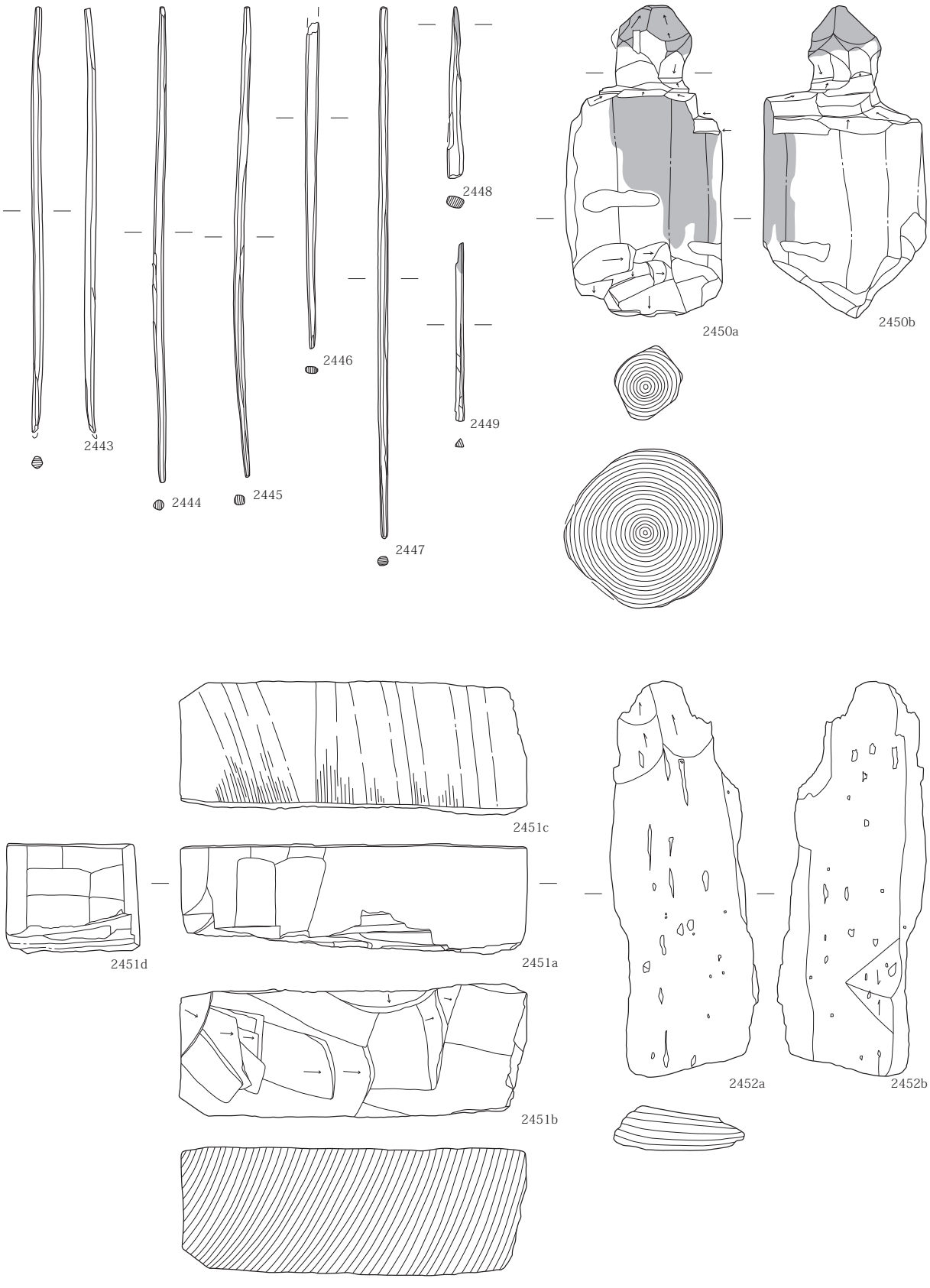
図Ⅳ-2-126　SD165 出土遺物 (2)



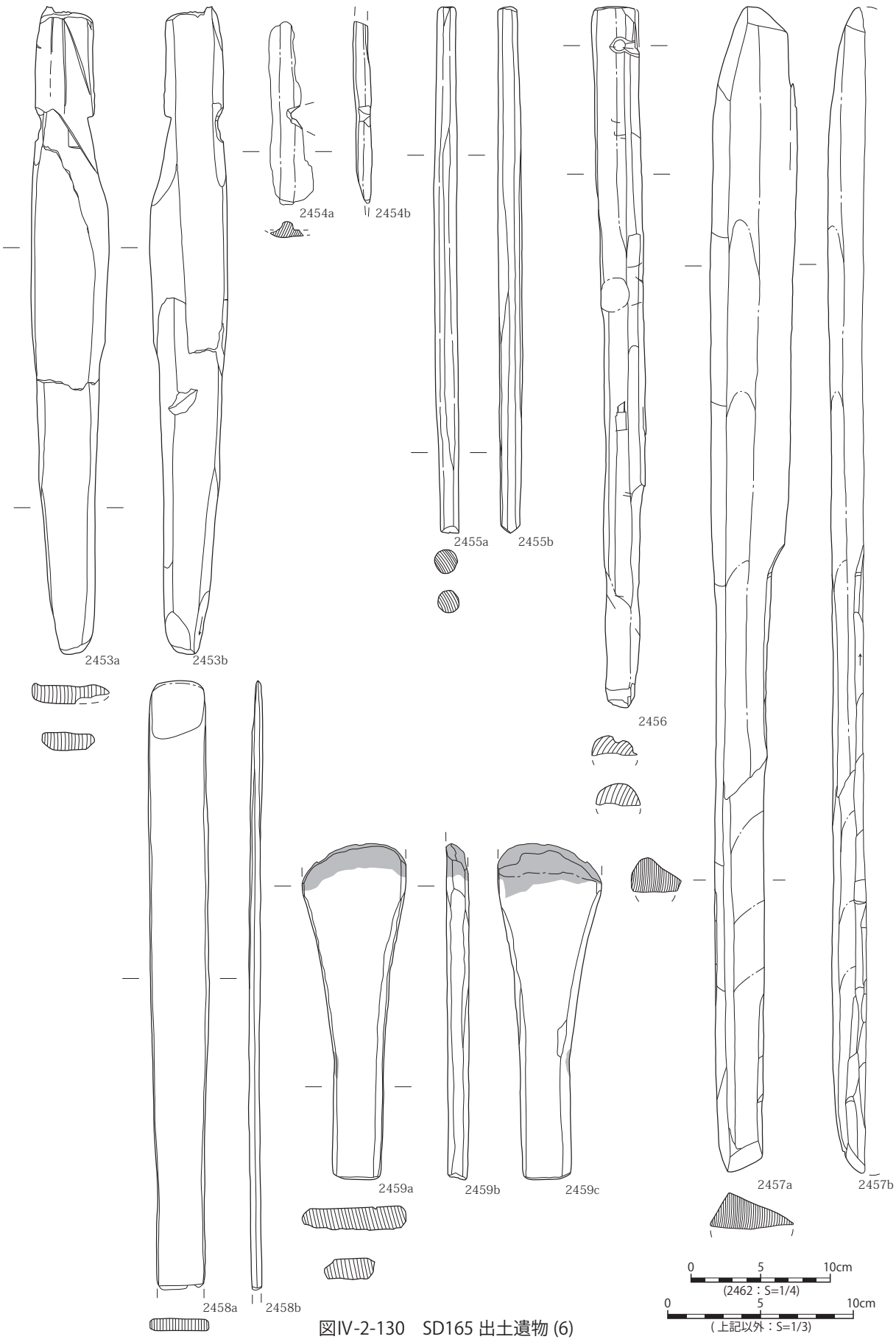
図IV-2-127　SD165 出土遺物 (3)



図Ⅳ-2-128　SD165 出土遺物 (4)



図IV-2-129　SD165 出土遺物 (5)



図Ⅳ-2-130　SD165 出土遺物 (6)

図IV-2-131　SD165 出土遺物 (7)

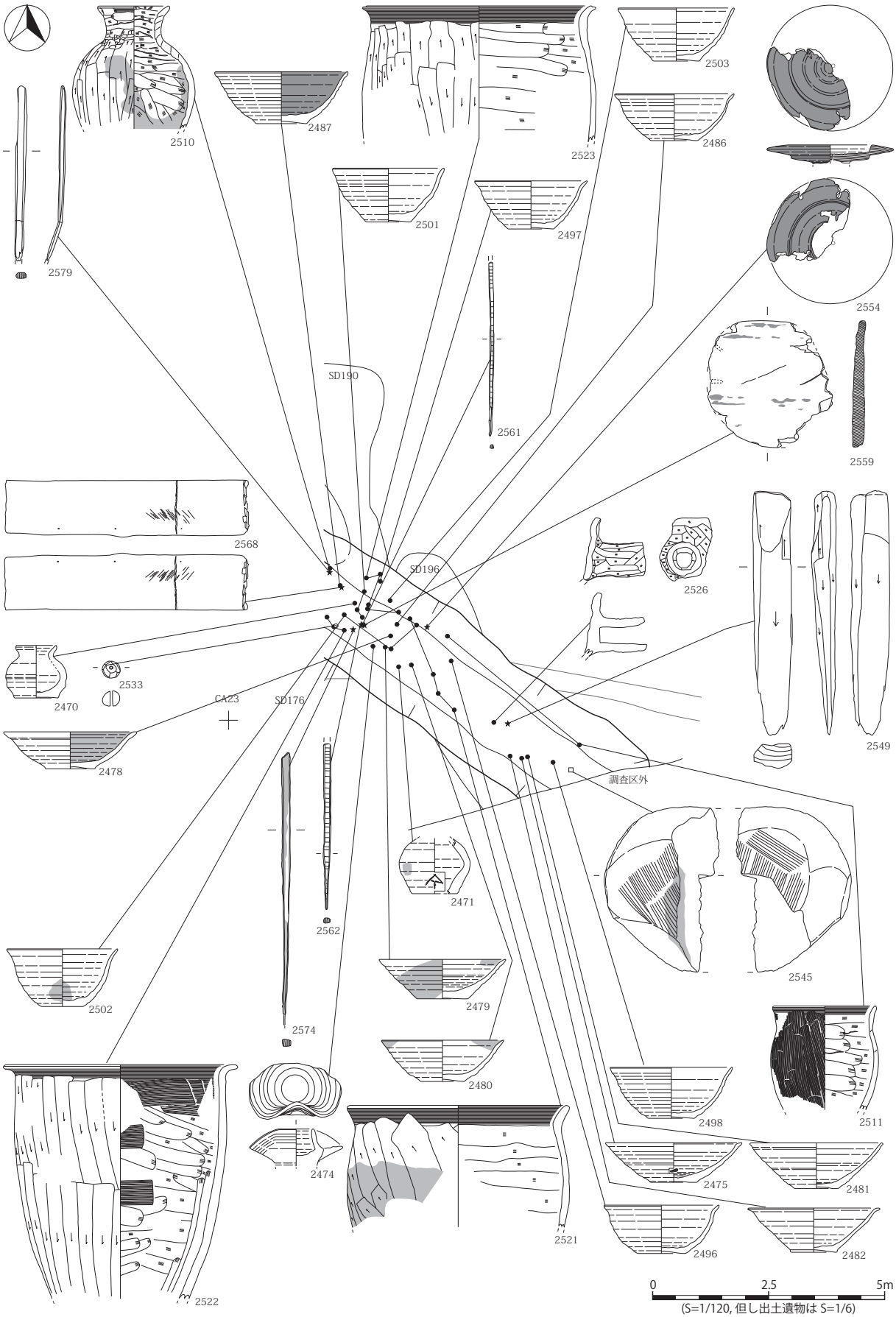
いずれもユビナデ成形である。2433・2434 は二次被熱を受けている。いずれも小型のものであり、内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

2436 は砥石であり、扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。材質はプロピライトである。

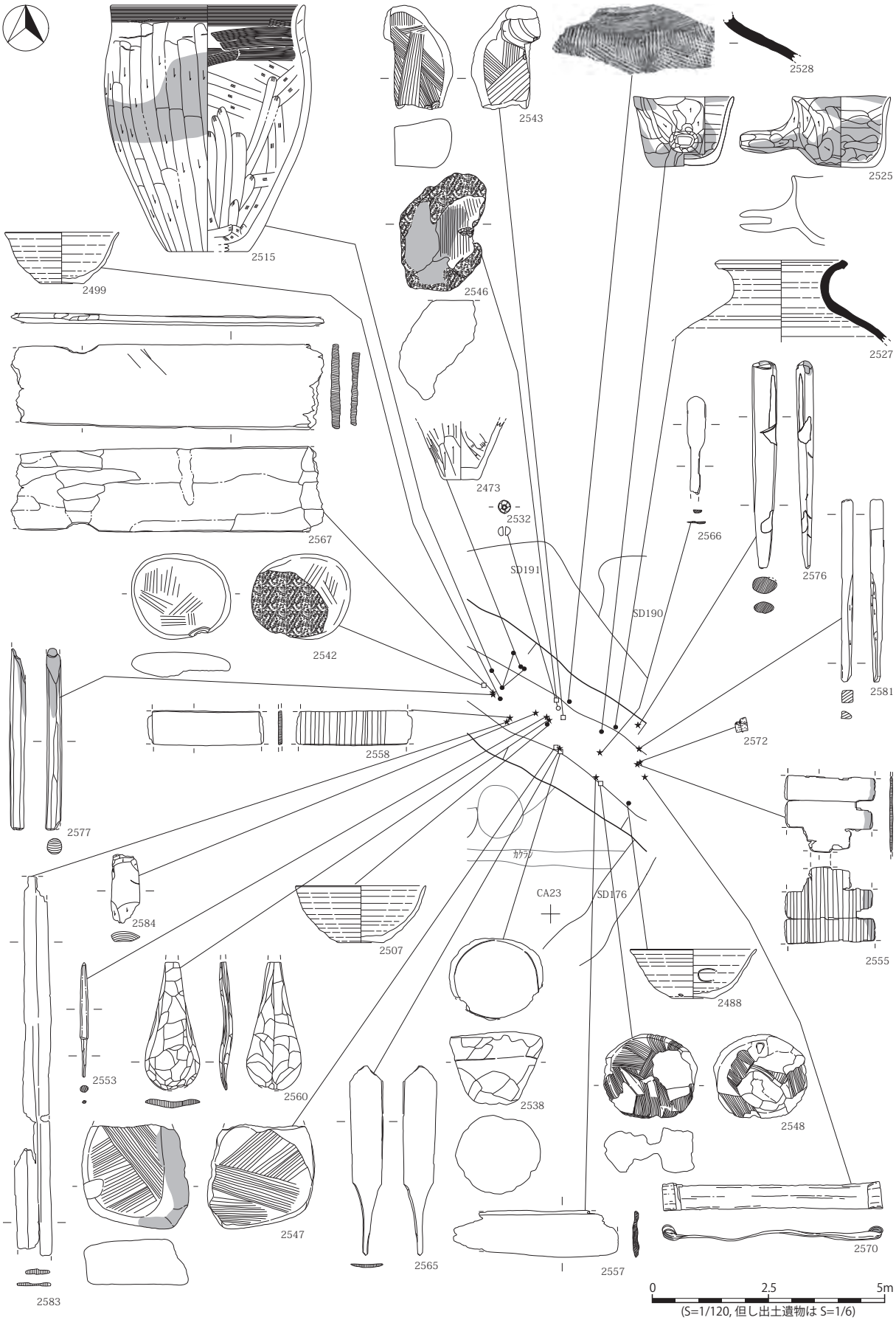
2437・2438 は編台の錘であり、いずれも中央部分に括れを有している。樹種は 2437 がクリ、2438 がクワ属である。2439 は連歯の下駄であり、使用のため、歯はかなりすり減っている。樹種はアスナロである。2440 は皿であり、底面に記号が記されている。内外面には黒漆が塗布されている。樹種はケヤキである。2441・2442 は曲物側板であり、内面にケビキ線が確認された。樹種はアスナロである。2443 ～ 2447 は箸であり、両端を細く削り出し、中央部分はミガキ整形が施されている。樹種はいずれもアスナロである。2448・2449 は串であり、先端部を細く削り出している。使用痕である二次被熱が確認されたため、串とした。樹種は 2448 がマツ属単維管束亜属、2449 がアスナロである。2450 ～ 2453 は構造部材であり、2450 は柱材である。先端に枘を切っている。2451 厚手の整形板の切り離し材であり、表面を手斧で丁寧に整形している。2452 は板材であり端部を平坦に切断している。2453 は不明部材であり、一端の両側面に抉り状の加工を有する。樹種は 2452 が環孔材であり、その他はいずれもアスナロである。2454 ～ 2459 は不明製品であり、2454 は板状で側面に V 字状の切り込みを有する。2455 は棒状で一端に凸状の作り出しを有し、全面に面取りが施されている。2456 は現状は半分に割れているが、本来は棒状の製品であったと考えられる。2457 は両端が切断されており、側面に加工が見られることから形状で判断して櫂状の未成品とした。2458・2459 は一端が徐々に薄く成形されていことから、ヘラ状具とした。樹種はいずれもアスナロである。2460 ～ 2466 は加工木であり、2460・2461 は角材であり、2460 は片側が尖り、2461 は両端に斜断状の加工が見られる。2462 は端部に杭状の加工が見られる。2463 は板材であり、一端が山型に加工されている。2465 は棒材であり、側面に刃物痕が確認された。2466 は残材であり、片側端部に伐採痕が確認された。樹種はいずれもアスナロである。2467・2468 は加工痕を有する木屑である。樹種はいずれもアスナロである。2469 は小型の鉄斧である（主要な分析は第 6 章参照。）。（SD175）

［位置・確認］グリッド BY20，21、CA21 ～ 23、CB22 ～ 24、CC24，25 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD165・176・190・191・196 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模･形状］調査区外に延びているため正確な規模･形状は不明であるが、現存長 2,258cm、幅 222 ～ 258cm、深さ 84cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層が互層を形成し、中層にⅢ層由来の層が堆積している。また、下層付近はいずれも泥炭層である。［出土遺物］土師器ミニチュア 227.3g、土師器台付耳皿 80.0g、土師器坏 14,896.8g、土師器甕 56,056.4g、土師器鍋 23.3g、須恵器甕 1,157.0g、須恵器壺 518.8g、支脚 301.1g 等が出土している（図Ⅳ -2-132 ～ 134）。この内図示できたのは、115 点である（図Ⅳ -2-135 ～ 144）。2470 ～ 2473 は土師器のミニチュアであり、2471 にはヘラ記号が描かれている。2470 ～ 2472 はロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2473 は甕であり体部外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2474 は土師器の高台付耳皿であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2475 ～ 2478 は土師器の皿であり、

2475 の内面には籾圧痕が確認された。2476 ～ 2478 は内面に二次被熱を受けている。2479 ～

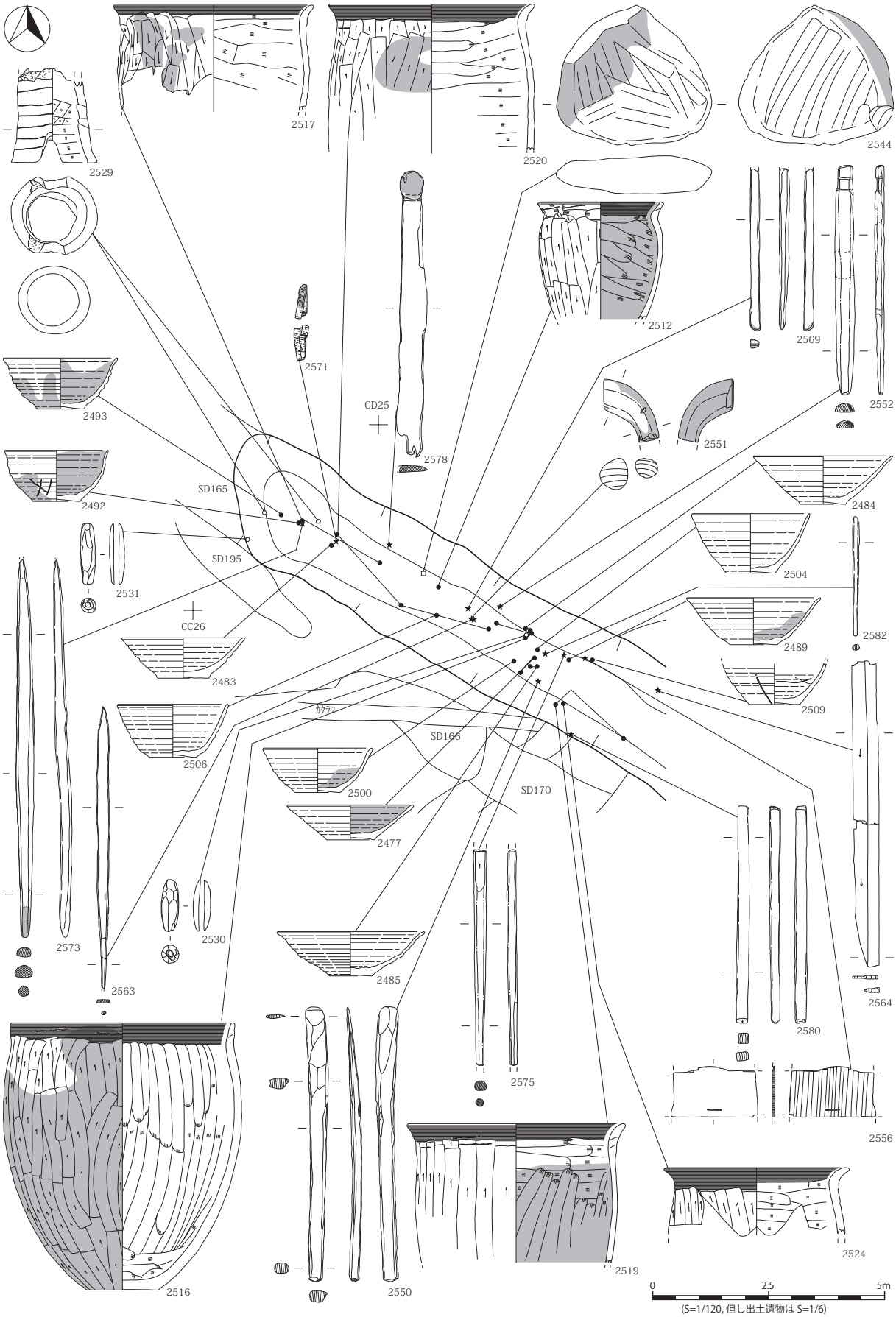


図IV-2-132　SD175遺物出土状況(1)

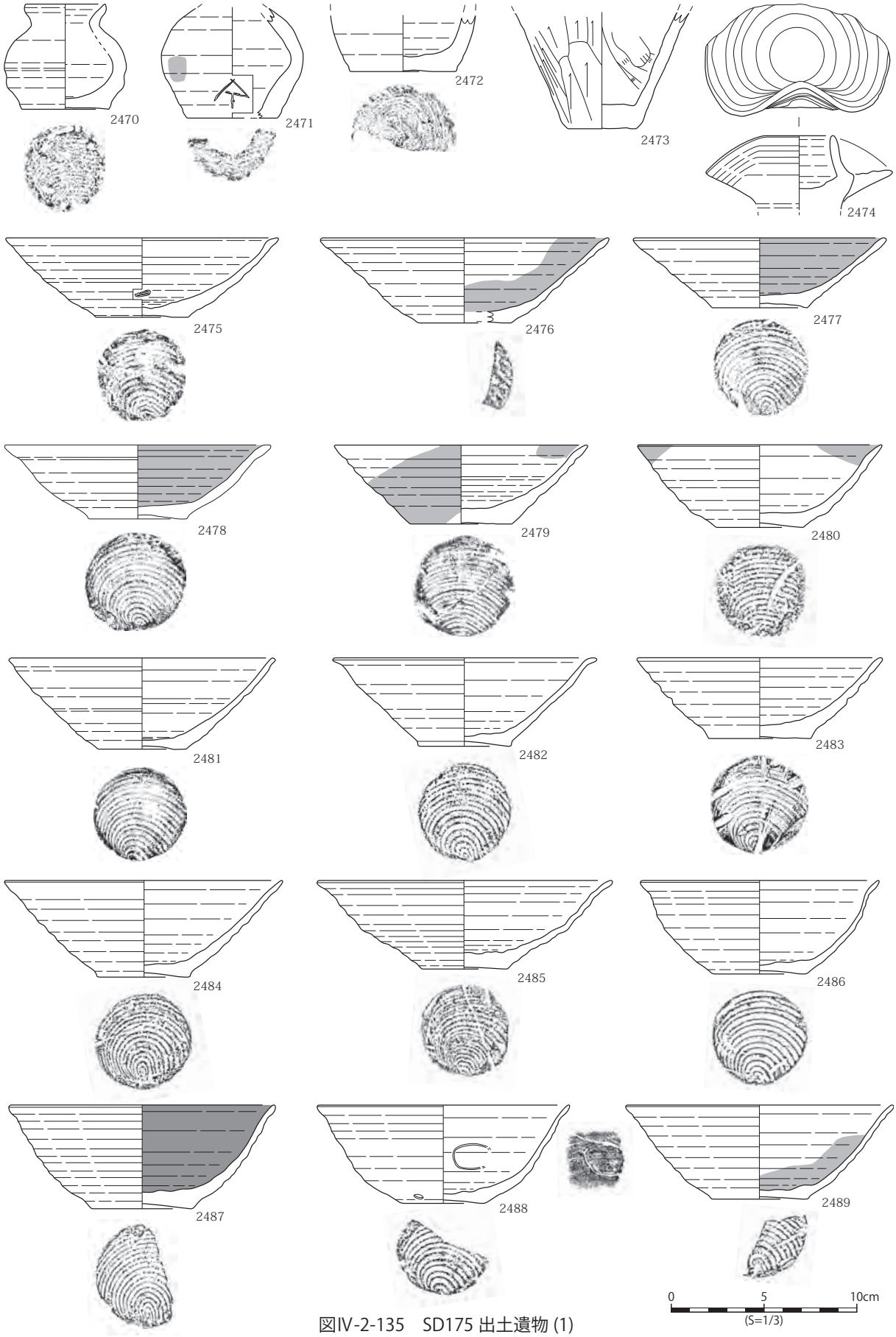


(S=1/120, 但し出土遺物は S=1/6)

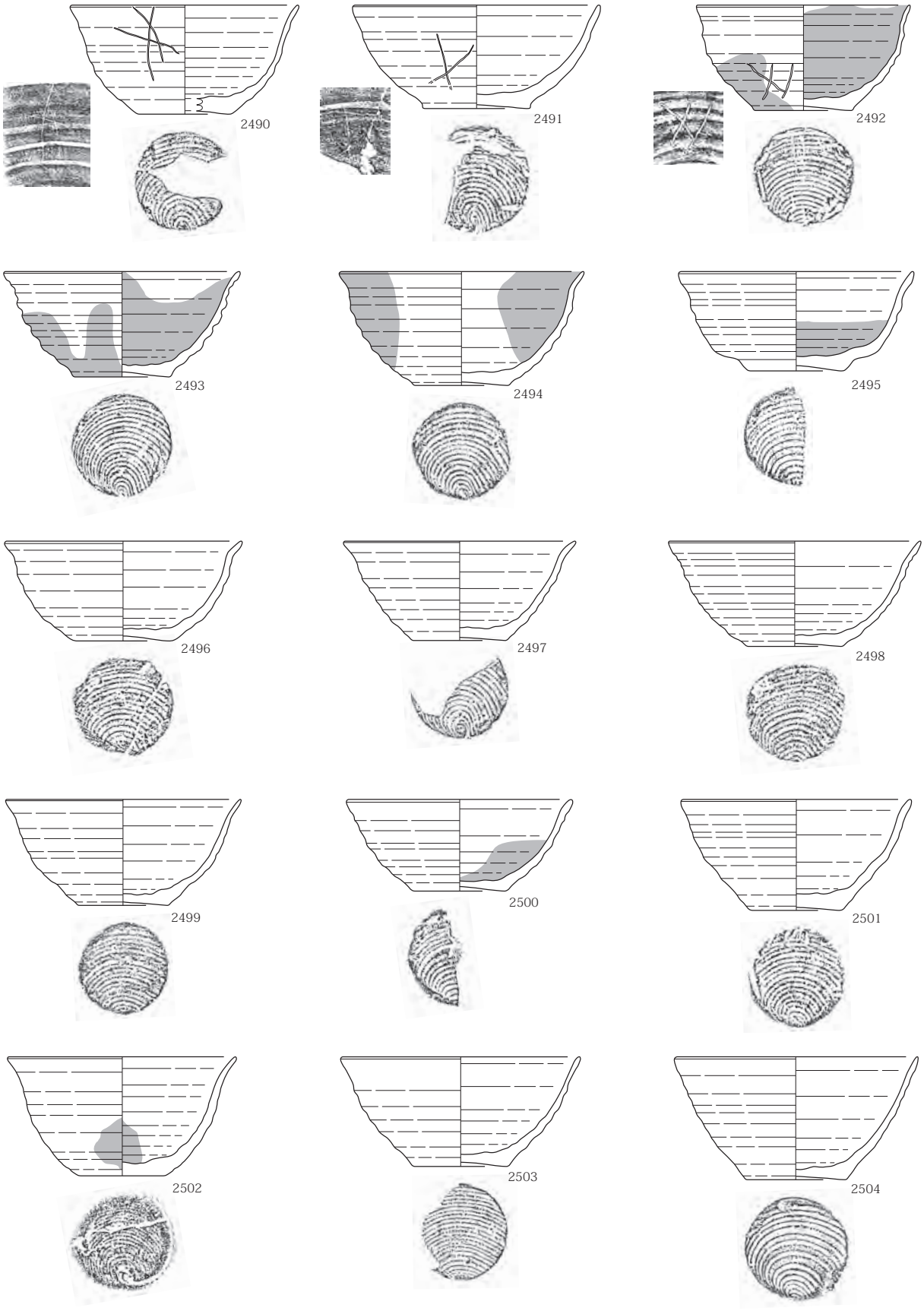
図Ⅳ-2-133　SD175遺物出土状況(2)



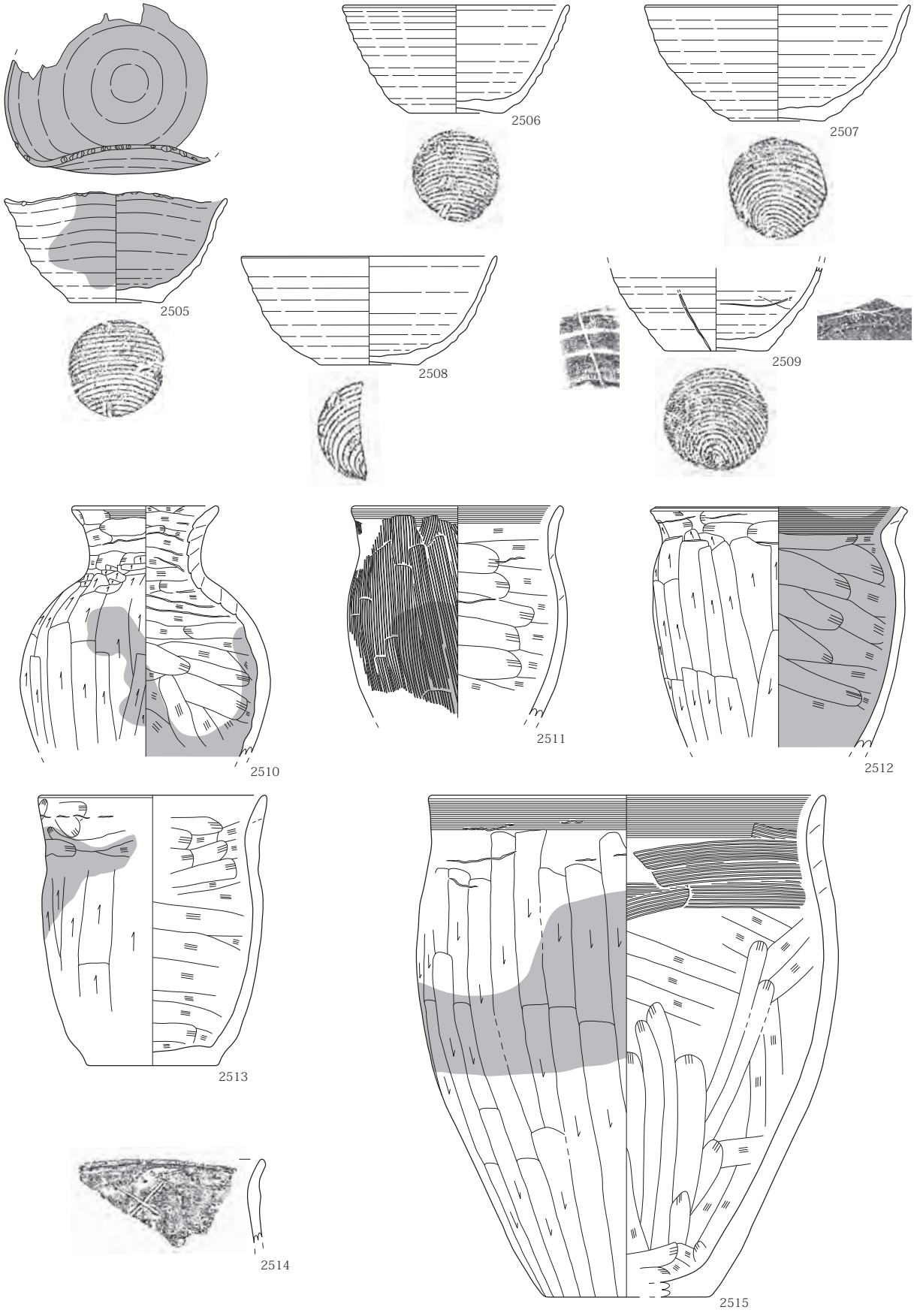
図Ⅳ-2-134　SD175遺物出土状況(3)



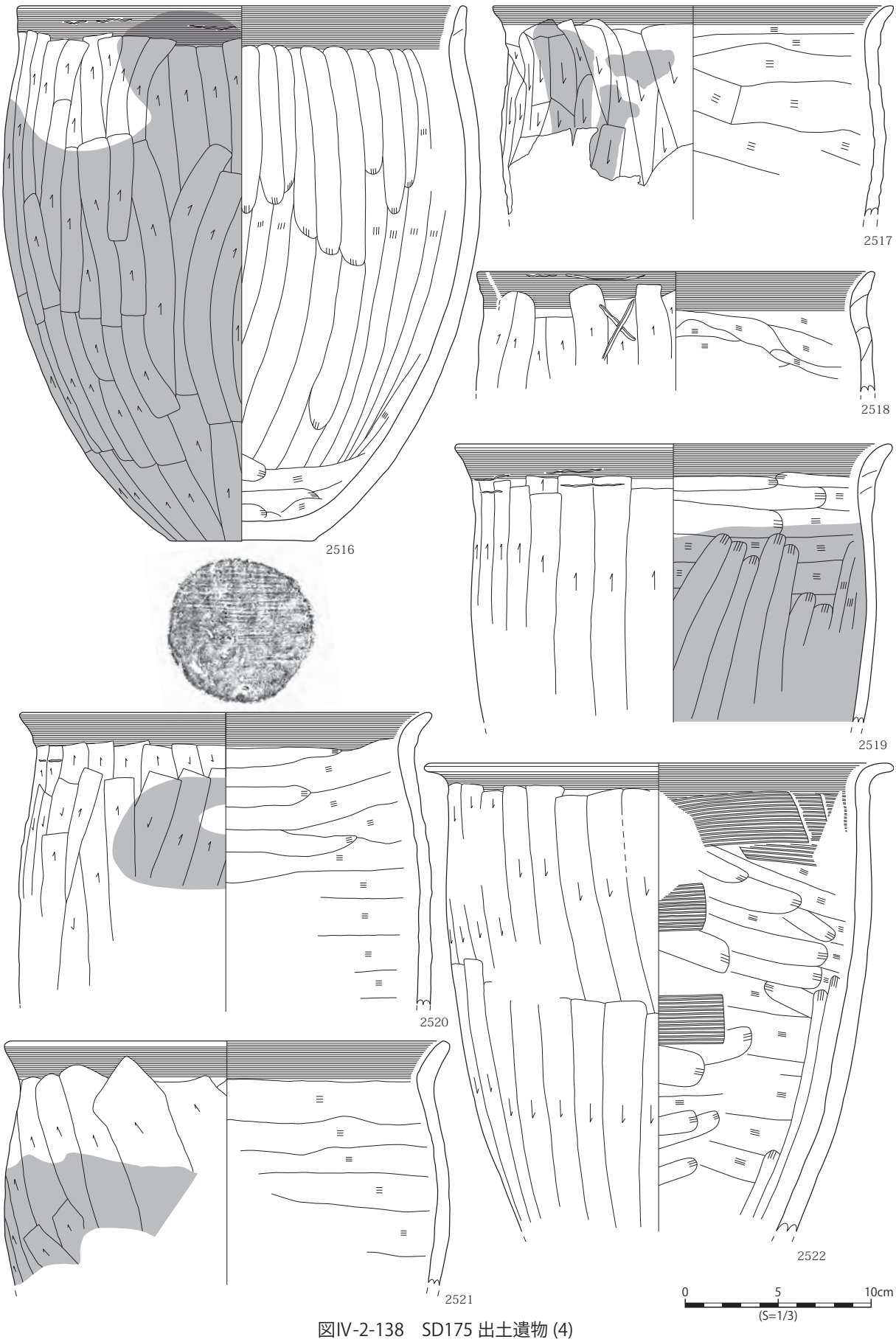
図Ⅳ-2-135　SD175 出土遺物 (1)



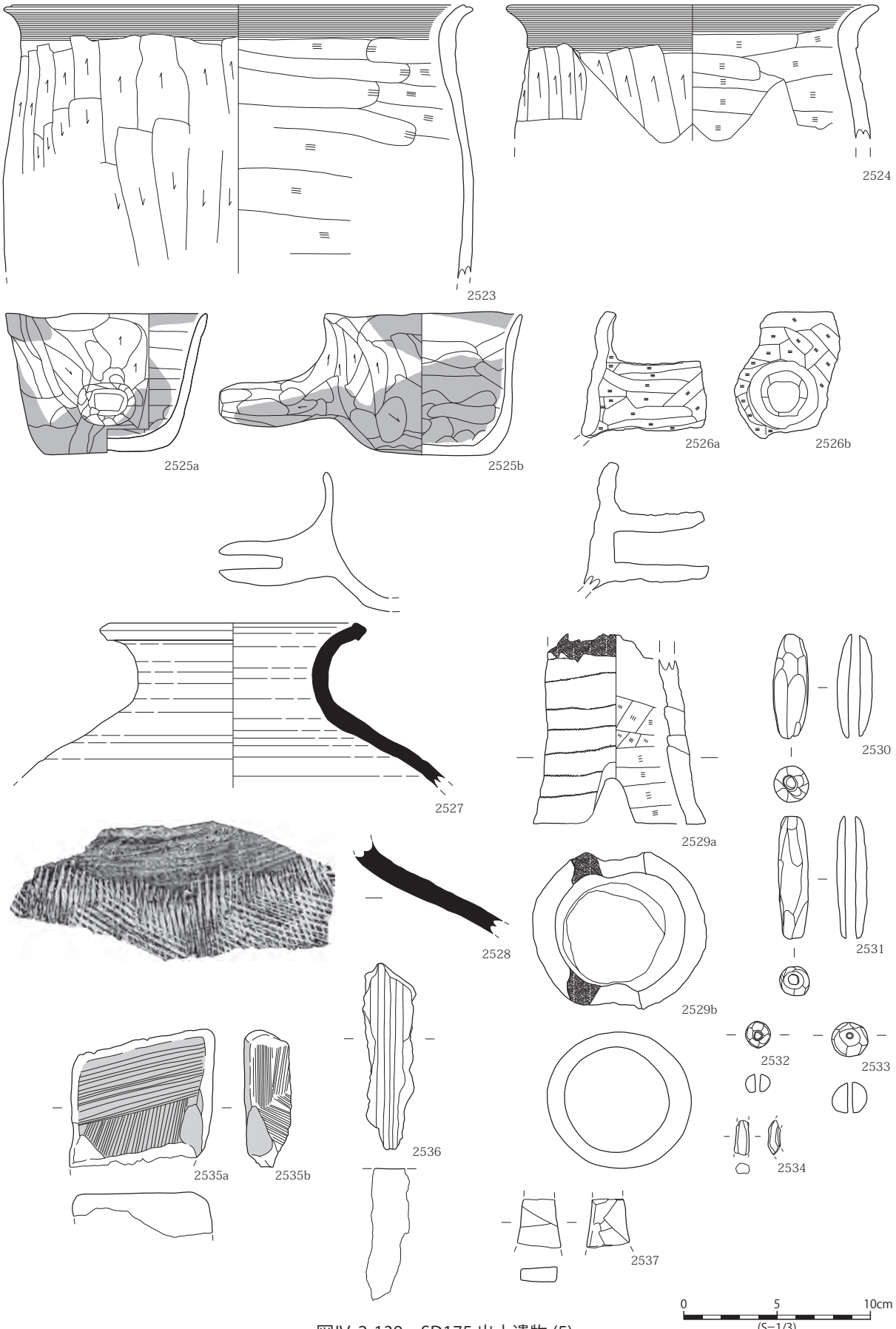
図Ⅳ-2-136　SD175 出土遺物 (2)



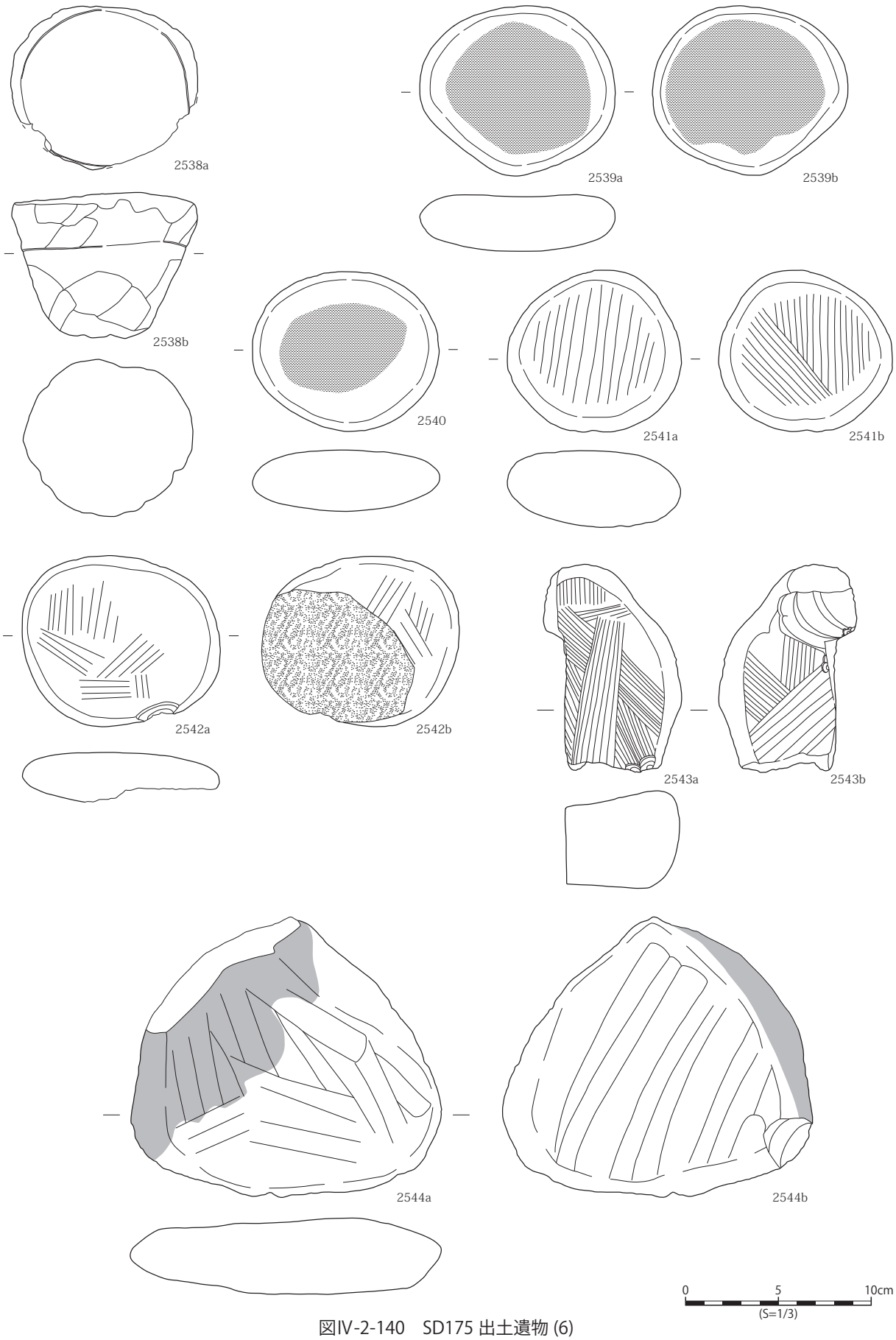
図Ⅳ-2-137　SD175 出土遺物 (3)



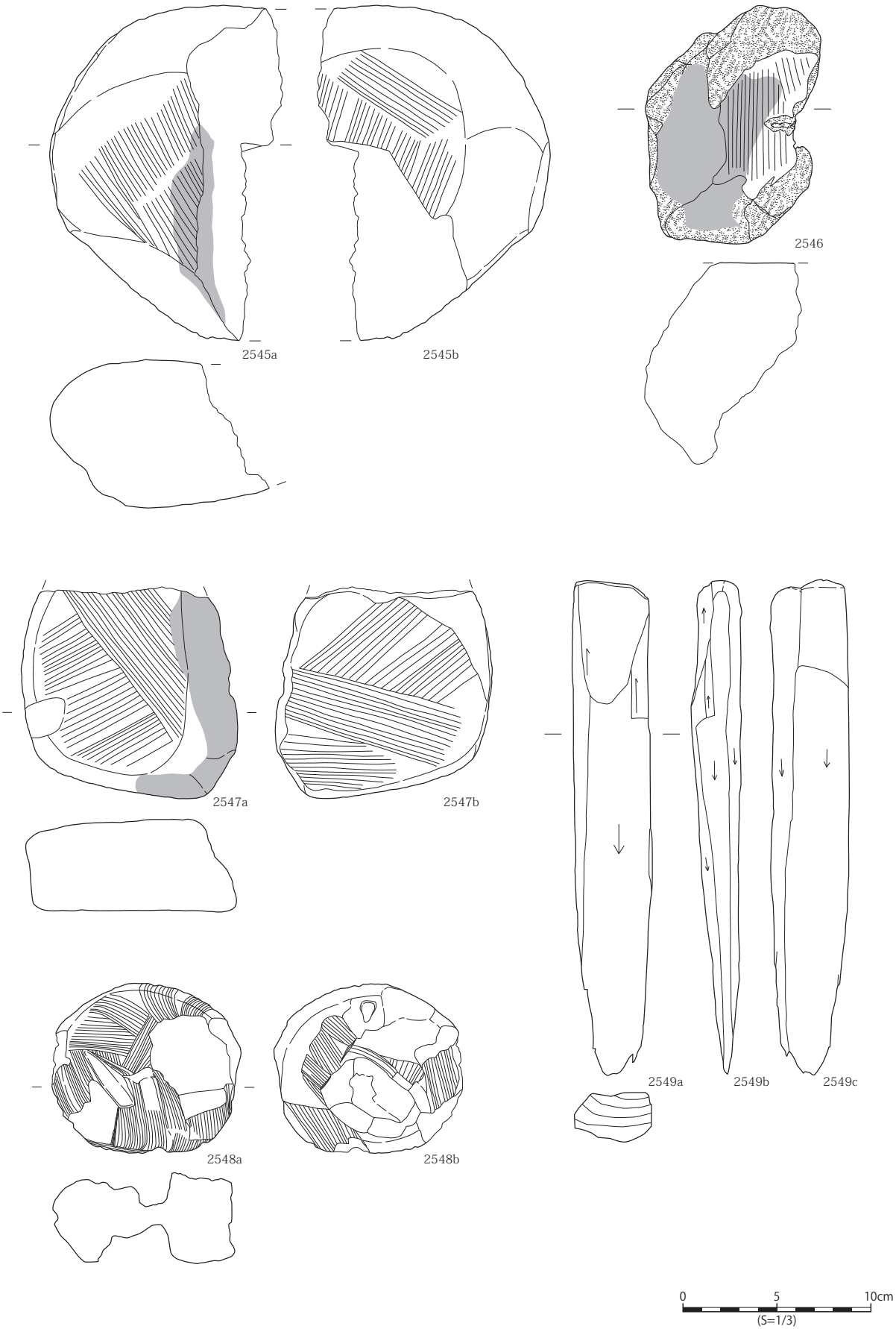
図Ⅳ-2-138　SD175 出土遺物 (4)



図Ⅳ-2-139　SD175 出土遺物 (5)

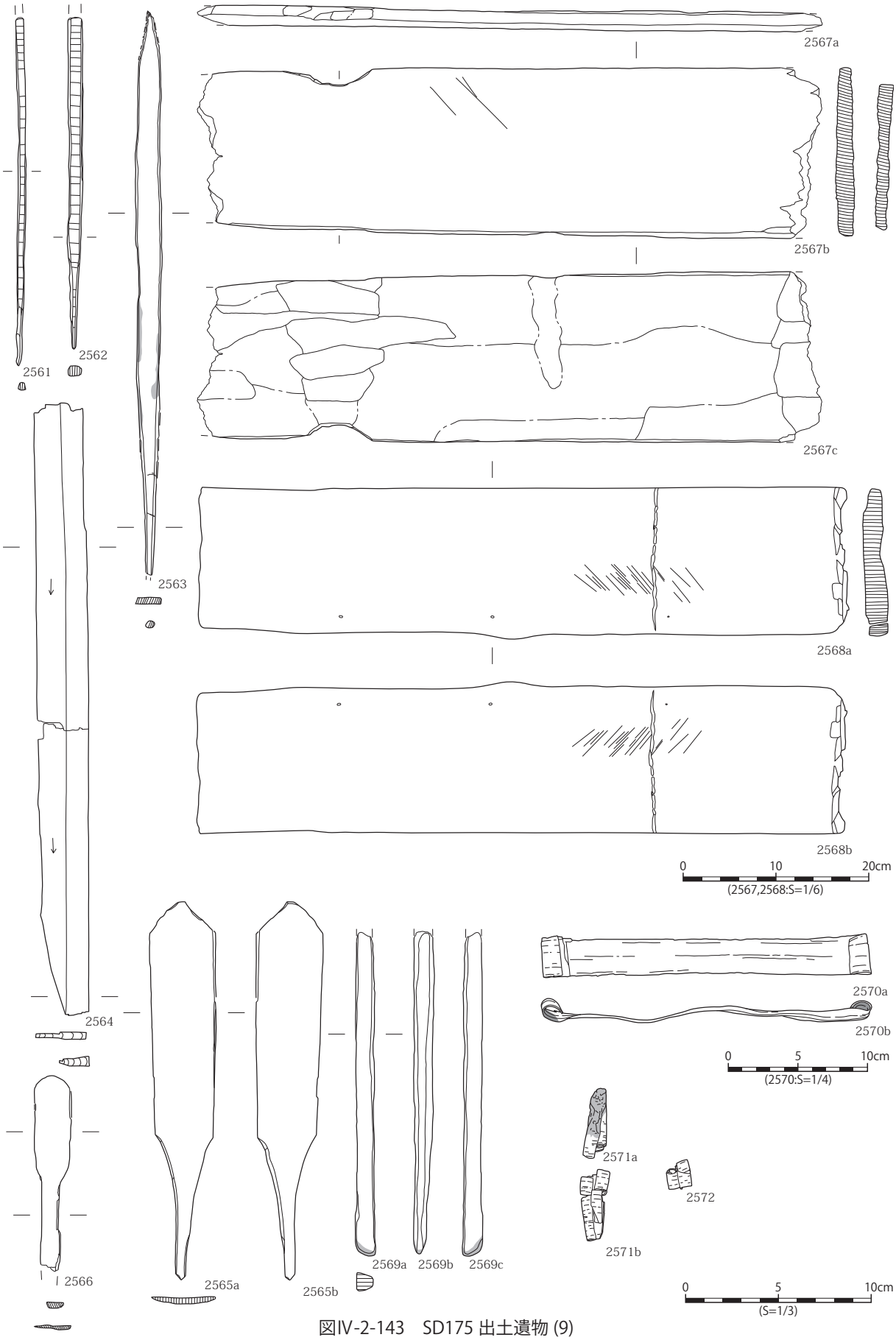


図Ⅳ-2-140　SD175 出土遺物 (6)

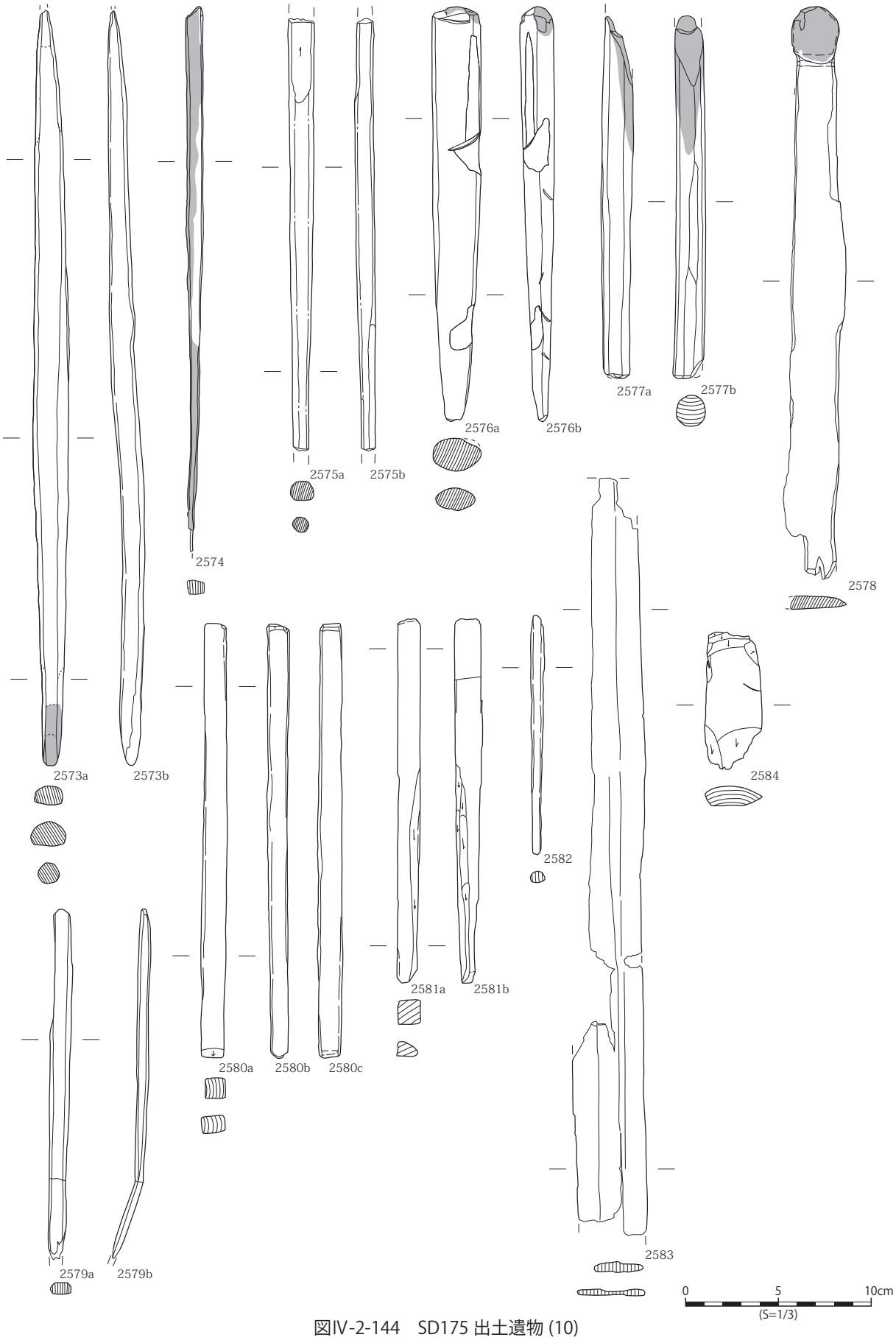


図Ⅳ-2-141　SD175 出土遺物 (7)

図IV-2-142　SD175 出土遺物 (8)



図Ⅳ-2-143　SD175 出土遺物 (9)



図Ⅳ-2-144　SD175 出土遺物 (10)

2485 は土師器の皿形坏であり、2479・2480 は内外面に二次被熱を受けている。2486 ～ 2489 は土師器の埦形坏であり、2487 は内面黒色処理が施されている。2488 は外面に籾圧痕が確認され、内面にヘラ記号が描かれている。2489 は内面に二次被熱を受けている。2490 ～ 2508 は土師器の埦であり、2490～2492 は外面にヘラ記号が描かれている。2492～2494・2502・2505 は内外面に、2495・2500 は内面に二次被熱を受けている。2509 は坏であり、内外面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形で底面は回転糸切痕を有し、無調整である。

2510 は土師器の壺であり、内外面に二次被熱を受けている。口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はユビナデ調整及びヘラケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2511 ～ 2514 は土師器の小型甕であり、2514 には外面にヘラ記号が描かれている。2511・2513 は外面に、2512 は内面に二次被熱を受けている。口縁部内外面にヨコナデあるいはユビナデ調整が施された後、体部外面はヘラケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2515 ～ 2524 は土師器の長胴甕であり、2518 は外面にヘラ記号が描かれている。2515 ～ 2517・2520・2521 は外面に、2519 は内面に二次被熱を受けている。調整は口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面にケズリ調整、内面にユビナデ（一部ヘラナデ）調整が施されている。

2525・2526 は把手付土器であり、把手部は中空である。2525 は内外面に二次被熱を受けている。調整は外面にユビナデあるいはケズリ調整が施され、内面にユビナデ調整が施されている。

2527 は須恵器の広口壺であり、内外面にロクロ成形が施されている。口縁部端面形の形態から五所川原産須恵器の中でも後期の前田野目系であると考えられる。2528 は須恵器の中甕の肩部破片であり、体部外面に格子タタキ目が確認された。

2529 は支脚であり、中空で下部には 2 箇所の切り込みが確認された。ユビナデ調整が施されているものの、造りは粗雑で粘土紐の輪積痕が確認された。2530・2531 は土錘であり、ユビナデ調整が施されている。いずれも小型のものであり、内水面の網漁に使用されたものと考えられる。2532・2533 は土玉であり、2534 は垂飾品の一部であると考えられる。

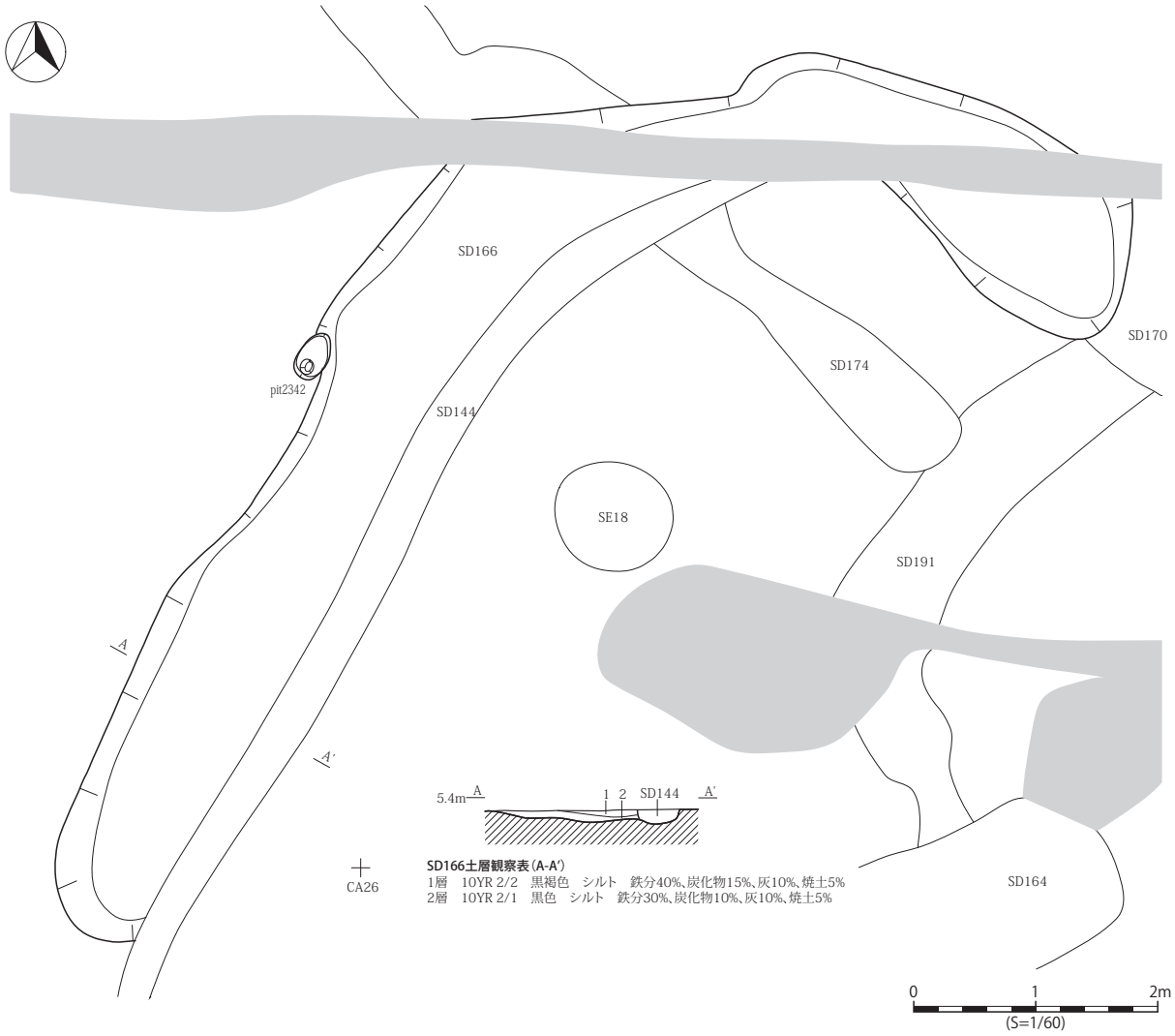
2535 ～ 2537、2539 ～ 2547 は砥石であり、2535・2537・2547 は角礫の平坦面を、2539 ～ 2545 は扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。材質は 2535・2539 が安山岩、2536・2537・2543・2544 が珪質凝灰岩、2540・2545 が流紋岩、2541 がプロピライト、2542 が玄武岩、2544・2546 が珪質流紋岩、2547 がデーサイトである。2538 は栓であり、2548 は不明製品である。材質はいずれも軽石である。

2549 は工具の楔であり、一端を薄く削り出している。2550 は工具の箆であり、側面を面取りし、先端部に片面から削りを加えさらに薄くしている。2551 は工具ないしは武器の握り部であり、全体を丁寧に整形加工し、漆が塗装されている。樹種は 2549・2550 がアスナロであり、2551 がカエデ属である。2552 は編み具・紡織具の布巻具であり、端部に緊縛痕を有し、片側端部に有頭状の加工が施され、断面は半円形を呈する。樹種はアスナロである。2553 は漁労具のヤスであり、樹種はノリウツギである。2554 は挽物の皿であり、内外面に漆が塗布されている（第Ⅴ章第 1 節参照）。樹種はトチノキである。2555 ～ 2558 は曲物側板であり、内面にケビキ線が見られ、2556 は樹皮綴じ用の孔が確認された。樹種はいずれもアスナロである。2559 は曲物底板であり、木釘用の孔が確認された。樹種はアスナロである。2560 は食事具の縦杓子であり、コベ部は丁寧なケズリ調整が施されている。樹種はアスナロである。2561・2562 は曲物側板を転用した箸状木製品であり、先

端部を細く尖らせている。樹種はアスナロである。2563 は串状木製品であり、一端を細く尖らせている。樹種はアスナロである。2564 ～ 2566 は祭祀具であり、2564 は形代の一部で中央付近は故意に折られている。2565 は人形？であり、秋田県中谷地遺跡に類例が見られる（秋田県教委 2001）。2566 は斎串であり、片側端部に山形の加工が施されている。樹種はいずれもアスナロである。2567・2568 は板材の構造部材であり、2567 は側面に抉りを有し、片面に楔の痕跡を有することから、水場の堰に使用していたものと考えられる。2568 は片面に紐状の痕跡を有し、一端に数か所釘孔を有する。両面に多数の刃物痕があることから俎板に転用された構造部材であると考えられる。樹種はいずれもアスナロである。2569 は雑具の燃えさしであり、一端が炭化している。樹種はアスナロである。2570 ～ 2572 は緊縛具の樹皮巻きである。2573 ～ 2578 は不明製品であり、2573 は両端、2574 ～ 2576 は片側端部を尖らせている。2578 は有頭状の造り出しが確認された。樹種はいずれもアスナロである。2579 ～ 2583 は加工木であり、2584 は残材である。樹種はいずれもアスナロである。

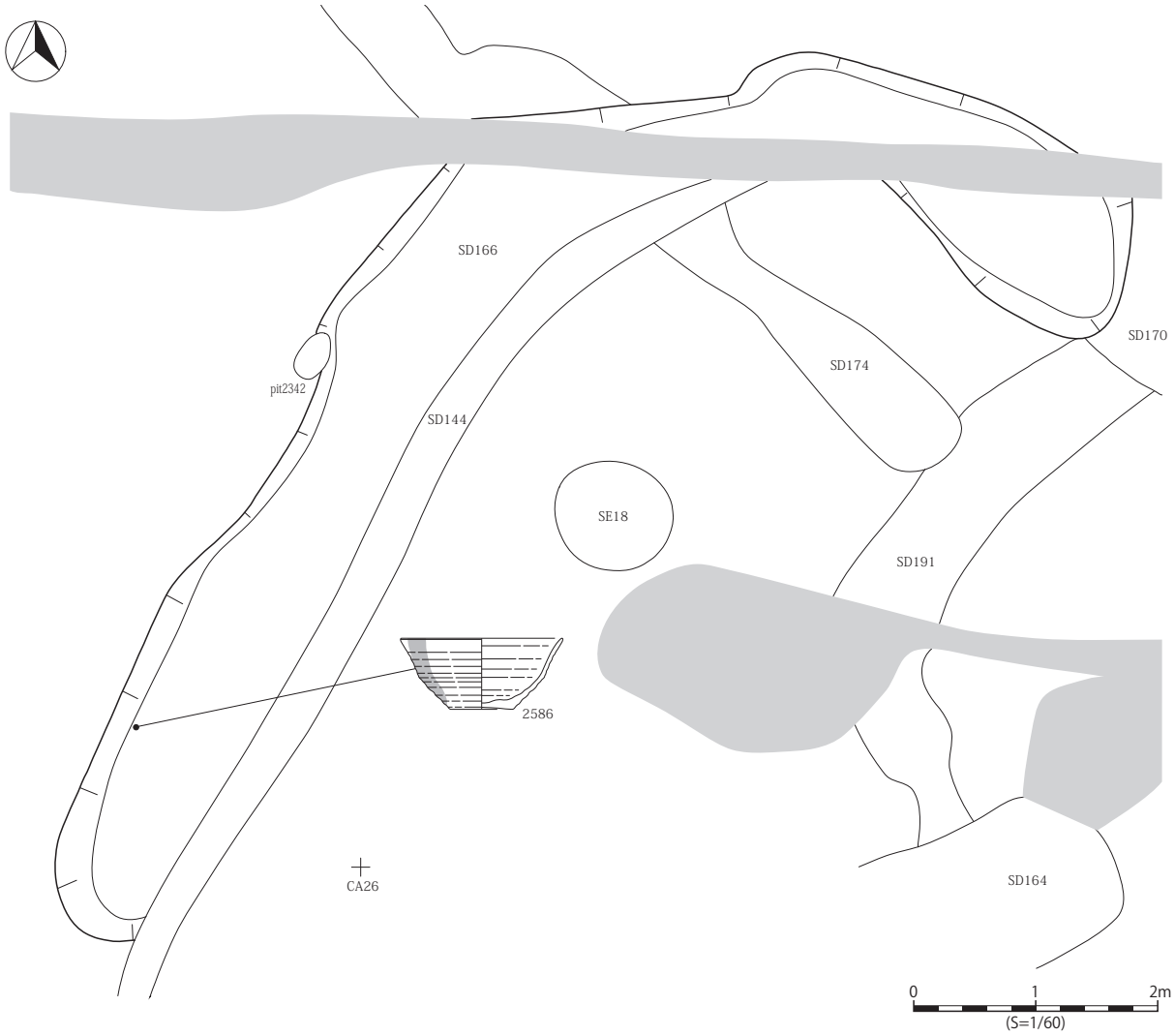
第 166 号溝跡（SD166、図Ⅳ -2-145）

［位置・確認］グリッド BY26、CA25, 26、CB24 ～ 26 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］

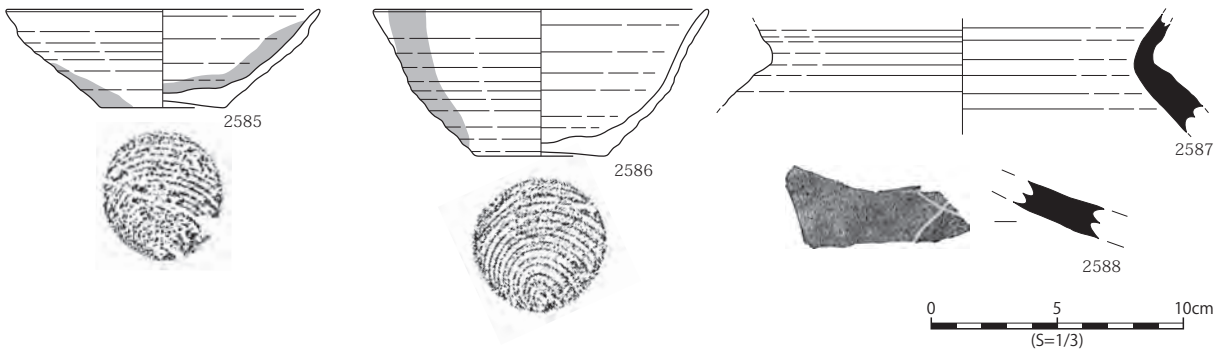


図Ⅳ-2-145　SD166

SD144・170・174・191 と重複関係にあり、SD144 よりも古く、その他の遺構よりも新しい。［規模・形状］長さ 1,255cm、幅 86 ～ 122cm、深さ 16cm を測り、南西方向から北東方向に直線状に延び、途中で向きを転じ、南東方向へ延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、上層は黒色土を主体とした層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 727.0g、土師器甕 3,157.0g、須恵器甕 199.4g、須恵器壺 203.7g が出土している（図Ⅳ -2-146）。この内図



図Ⅳ-2-146　SD166遺物出土状況

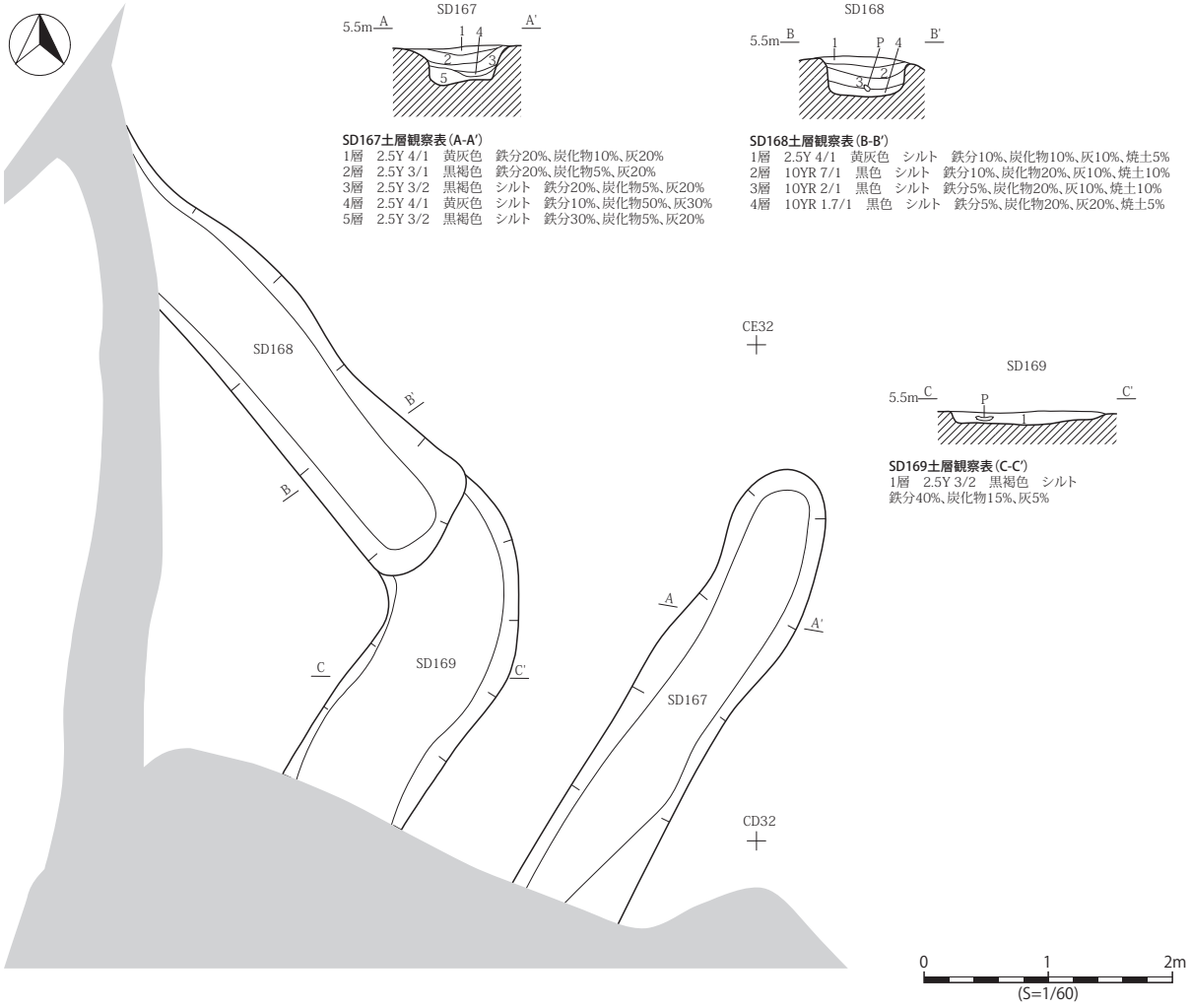


図Ⅳ-2-147　SD166 出土遺物

示できたのは 4 点である（図Ⅳ -2-147）。2585 は土師器の皿形坏であり、内外面に二次被熱を受けている。2586 は土師器の埦であり、外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2587・2588 は須恵器の広口壺であり、2588 の外面にはヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ整形である。

第 167・168・169 号溝跡（SD167・168・169、図Ⅳ -2-148）

（SD167）

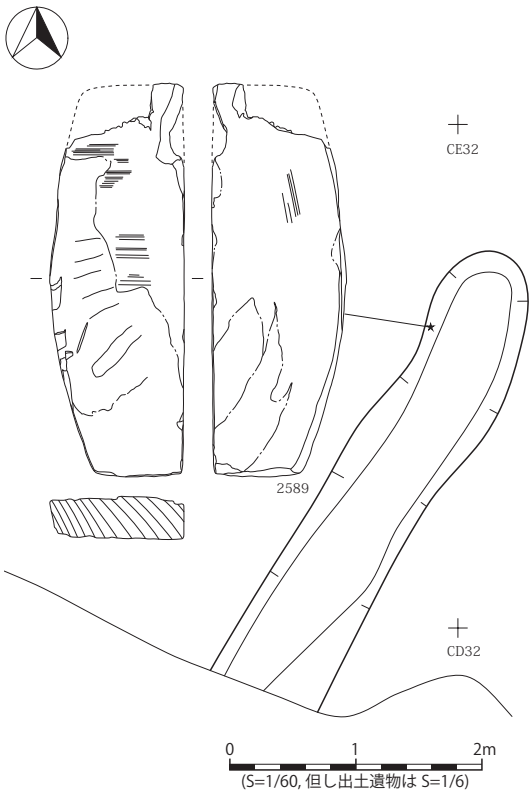


図Ⅳ-2-148　SD167･168･169

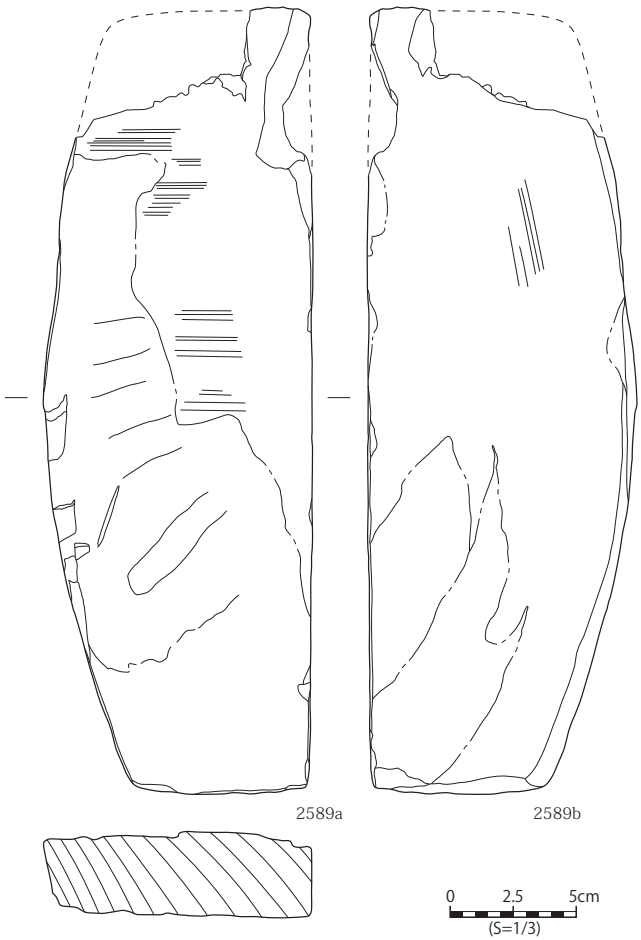
［位置･確認］グリッド CC32、CD31，32 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］長さ 400cm、幅 78 ～ 91cm、深さ 38cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］5 層確認され、黒褐色土を主体とした層とⅣ層由来の層とで互層を形成している。［出土遺物］木製品が出土している（図Ⅳ -2-149）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-150）。2589 は構造部材の整形板であり、丁寧に厚みを整形し、湾曲面を斜断状に加工している。樹種はアスナロである。

（SD168）

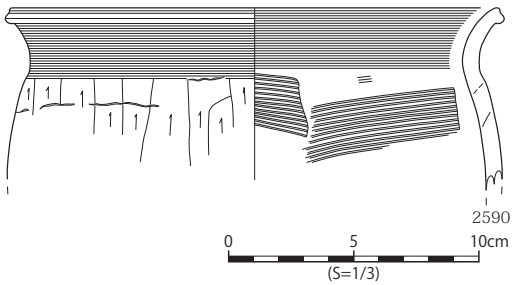
［位置・確認］グリッド CD・CE32，33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD169 と重複関係にあり、SD169 よりも新しい。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているた



図Ⅳ-2-149　SD167遺物出土状況



図Ⅳ-2-150　SD167 出土遺物



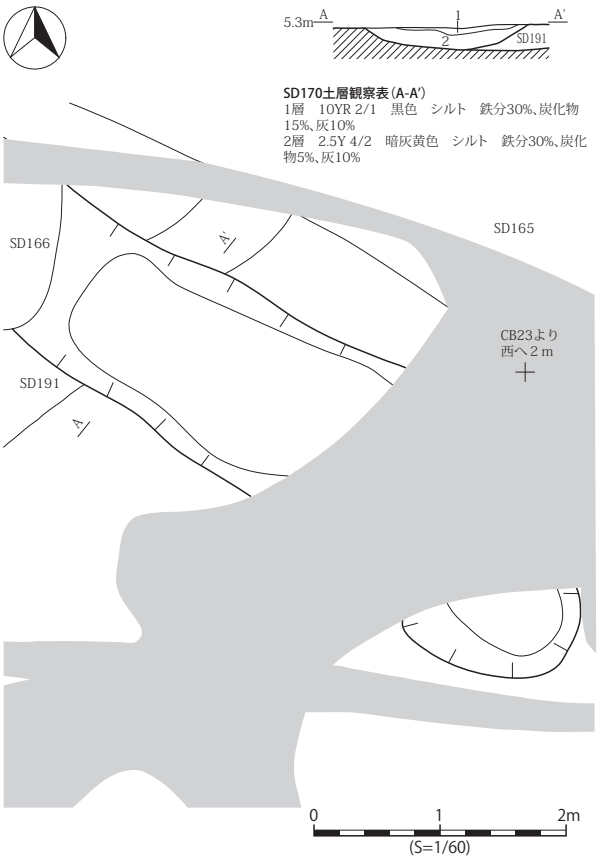
図Ⅳ-2-151　SD168 出土遺物

め、正確な規模・形状はは不明であるが、現存長 343.5cm、幅 84 ～ 106cm、深さ 38cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］4 層確認され、上層はⅣ層由来の層、下層は黒色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 214.5g、土師器甕 3,239.9g、支脚 15.3g 等が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ-2-151）。2590 は土師器の長胴甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整、体部外面にケズリ調整、体部内面にヘラナデ調整が施されている。（SD169）

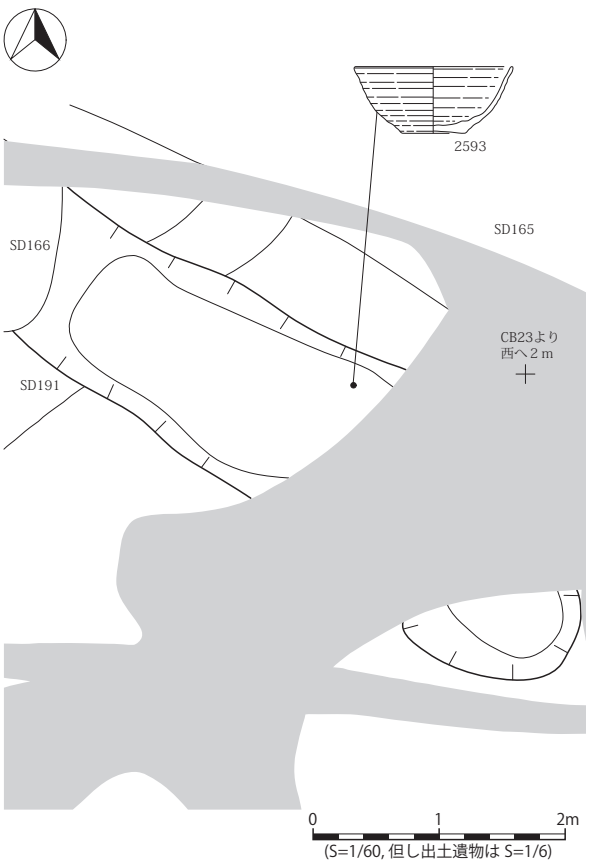
［位置・確認］グリッド CD32 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD168 と重複関係にあり､SD168 よりも古い。［規模・形状］SD168 及び近世以降の水田跡により掘削されているため、正確な規模・形状はは不明であるが、現存長 223cm、幅 105 ～ 109.5cm、深さ 16cm を測り、南西方向から北東方向に延び、途中で向きを転じ、北西方向に延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］特になし。

第 170 号溝跡（SD170、図Ⅳ -2-152）

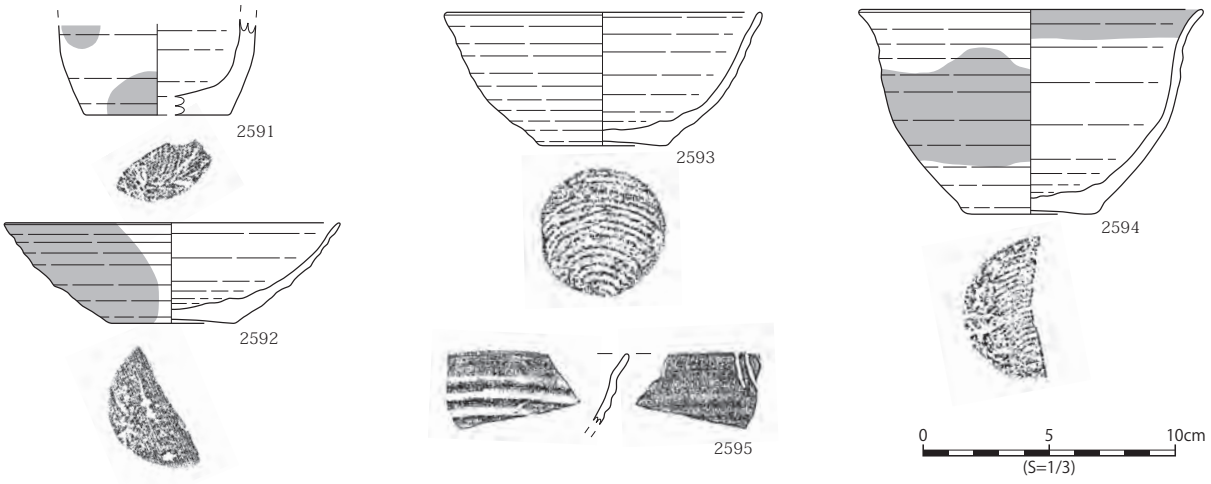
［位置・確認］グリッド CA・CB23，24 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD166・



図Ⅳ-2-152　SD170



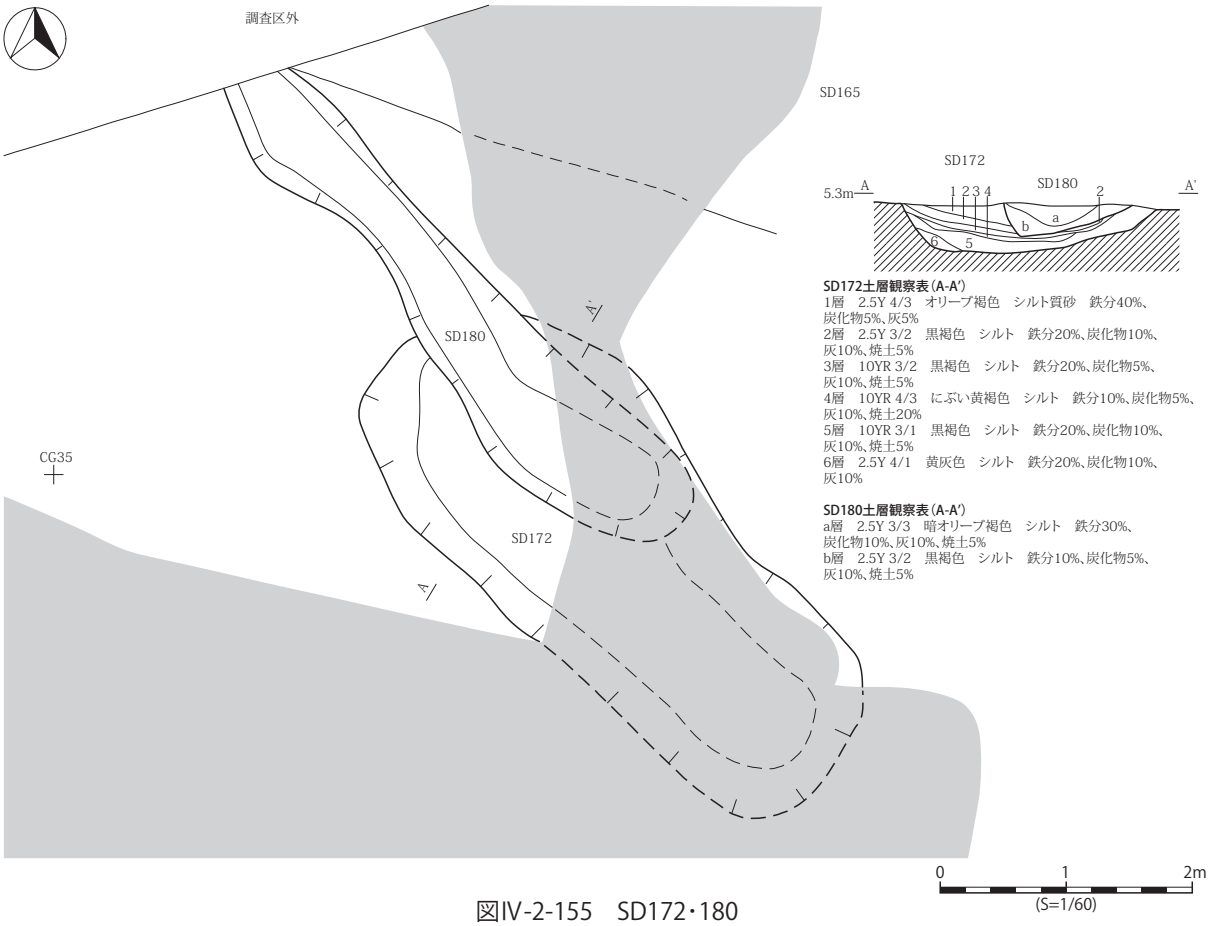
図Ⅳ-2-153　SD170遺物出土状況



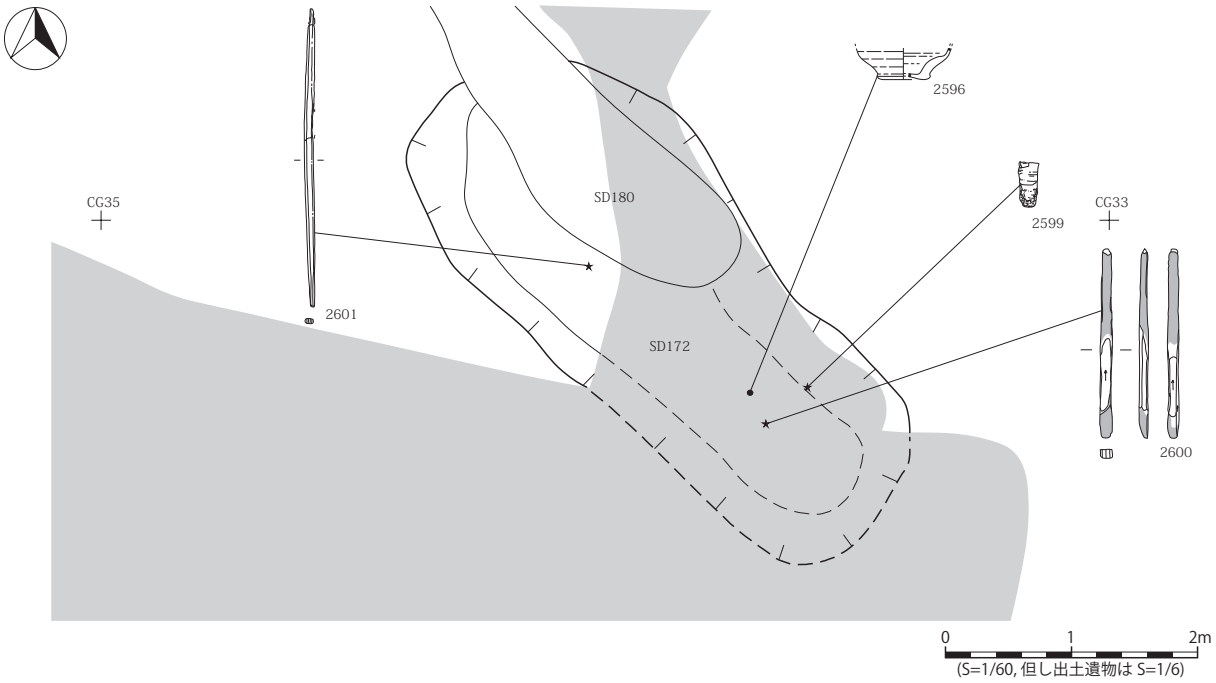
図Ⅳ-2-154　SD170 出土遺物

191 と重複関係にあり、SD166 よりも古く、SD191 よりも新しい。［規模・形状］SD166 及び撹乱により掘削されているため、正確な規模・形状はは不明であるが、現存長 511cm、幅 122 ～ 144cm、深さ 17cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、上層は黒色土を主体とした層、下層はⅢ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 43.4g、土師器坏 1,007.0g、土師器甕 1,524.2g、須恵器甕 66.9g が出土している（図Ⅳ-2-153）。この内図示できたのは 5 点である（図Ⅳ -2-154）。2591 は土師器のミニチュアの壺であり、

外面に二次被熱を受けている。2592 は土師器の皿であり、外面に二次被熱を受けている。2593・2594 は土師器の埦であり、2594 は内外面に二次被熱を受けている。2595 は坏であり、内面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面には回転糸切痕を有し、無調整である。



図Ⅳ-2-155　SD172・180

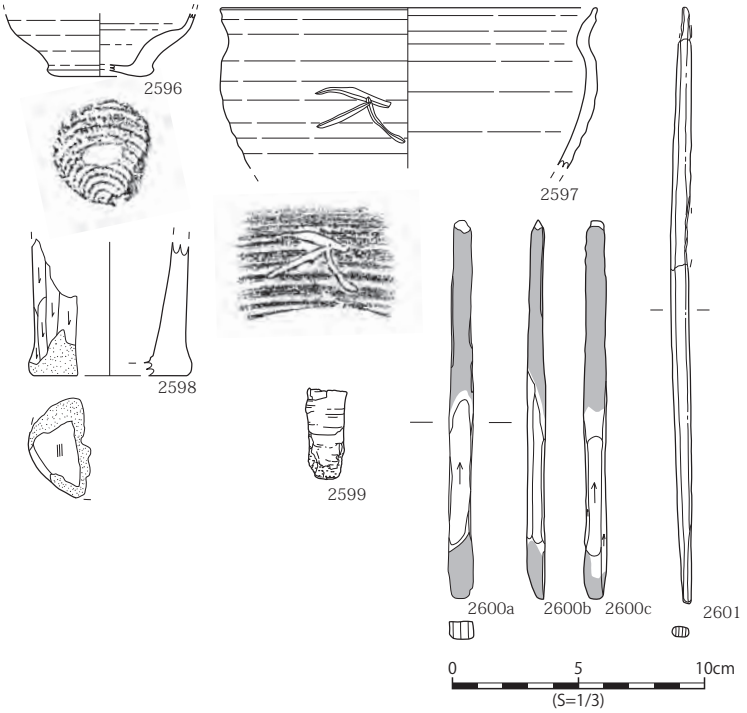


図Ⅳ-2-156　SD172遺物出土状況

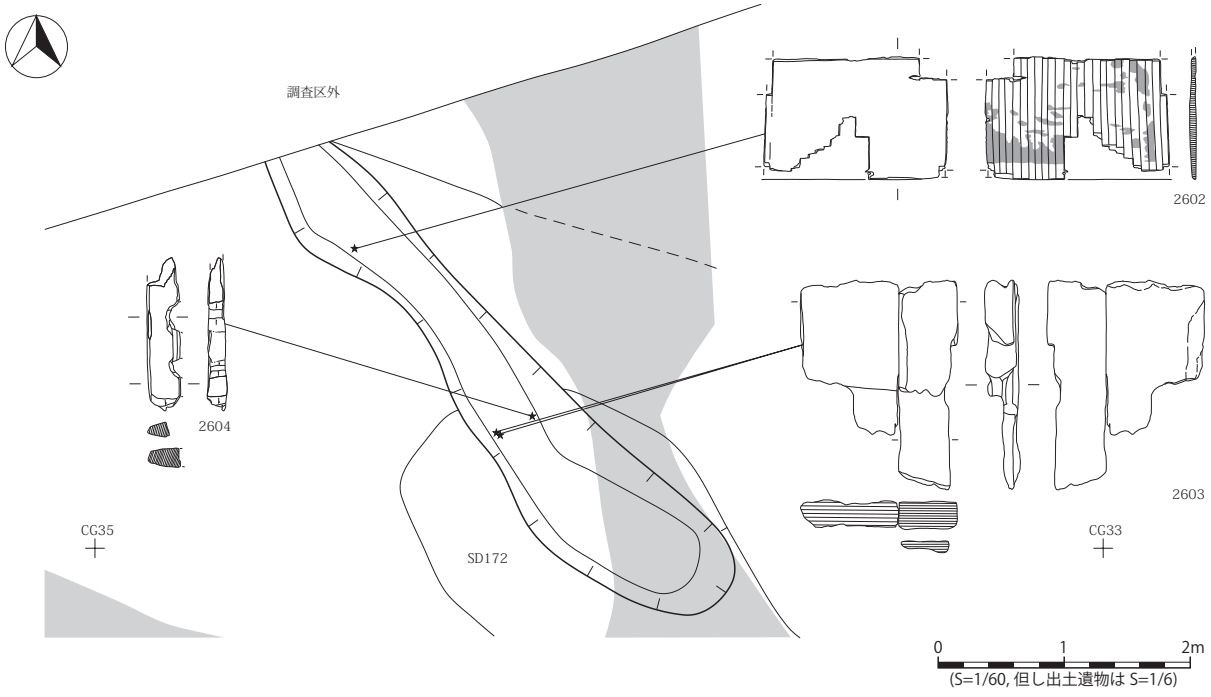
第 172・180 号溝跡（SD172・180、図Ⅳ -2-155）

（SD172）

［位置・確認］グリッド CF・CG33，34 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD180 と重複関係にあり、SD180 よりも古い。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削されているため、正確な規模・形状はは不明であるが、現存長 478cm、幅 162 ～ 178cm、深さ 40cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］6 層確認され、黒褐色土を主体とした層とⅢ層由来の層とで形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 61.5g、土師器坏 1,041.7g、土師器甕 4,533.6g、須恵器甕 44.8g、支脚 46.9g 等が出土している（図Ⅳ -2-156）。その内図示できたのは 6 点である（図Ⅳ -2-157）。2596 はミニチュアの坏であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2597 は土師器の小型甕であり、外面にヘラ記号が描かれている。ロクロ成形である。2598 は中空の支脚であり、ユビナデ調整が施されている。2599 は緊



図Ⅳ-2-157　SD172 出土遺物

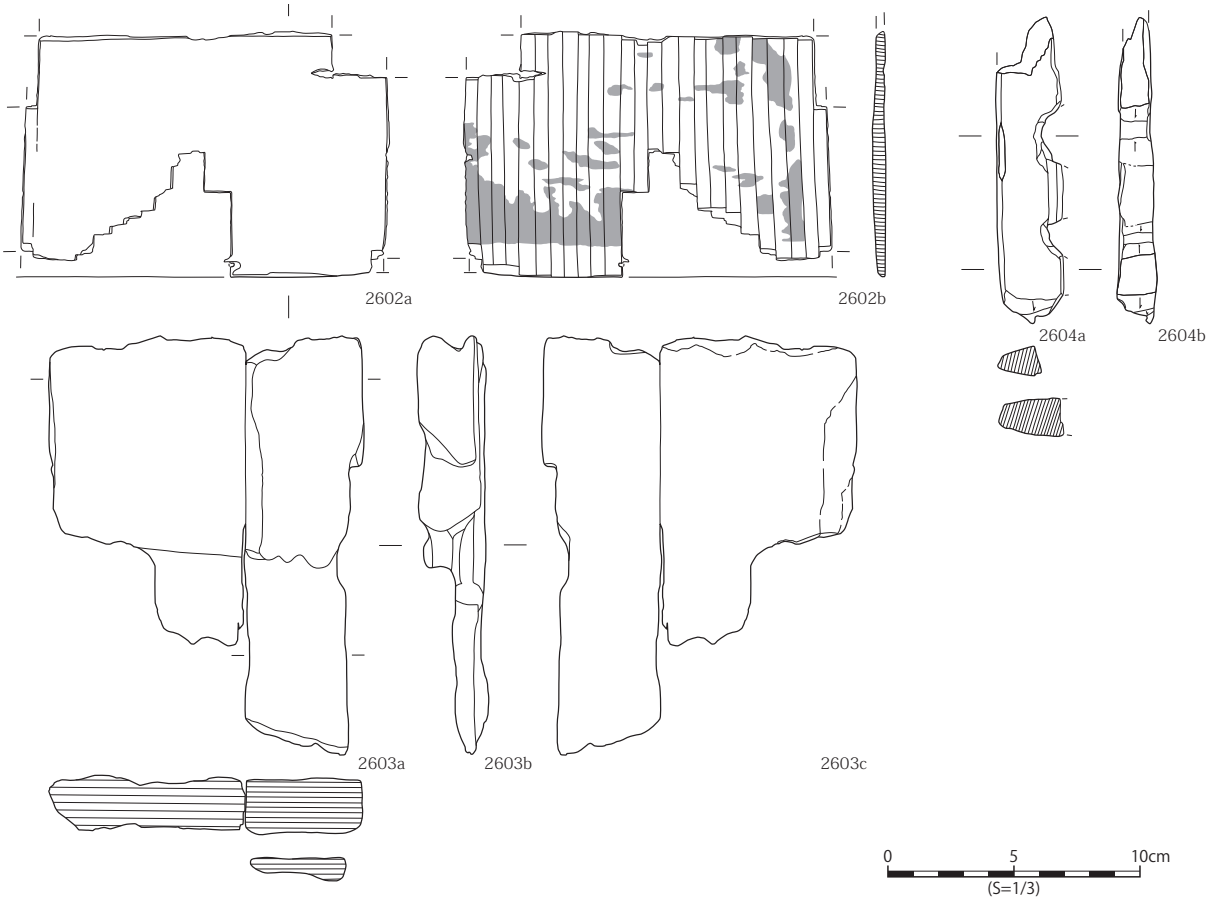


図Ⅳ-2-158　SD180遺物出土状況

縛具の樹皮巻きであり、樹種は針葉樹である。2600 は加工木であり、片側を尖らせており、二次被熱を受けていることから串の可能性も考えられる。樹種はアスナロである。2601 は箸状の不明製品であり、両端を尖らせている。樹種はアスナロである。

（SD180）

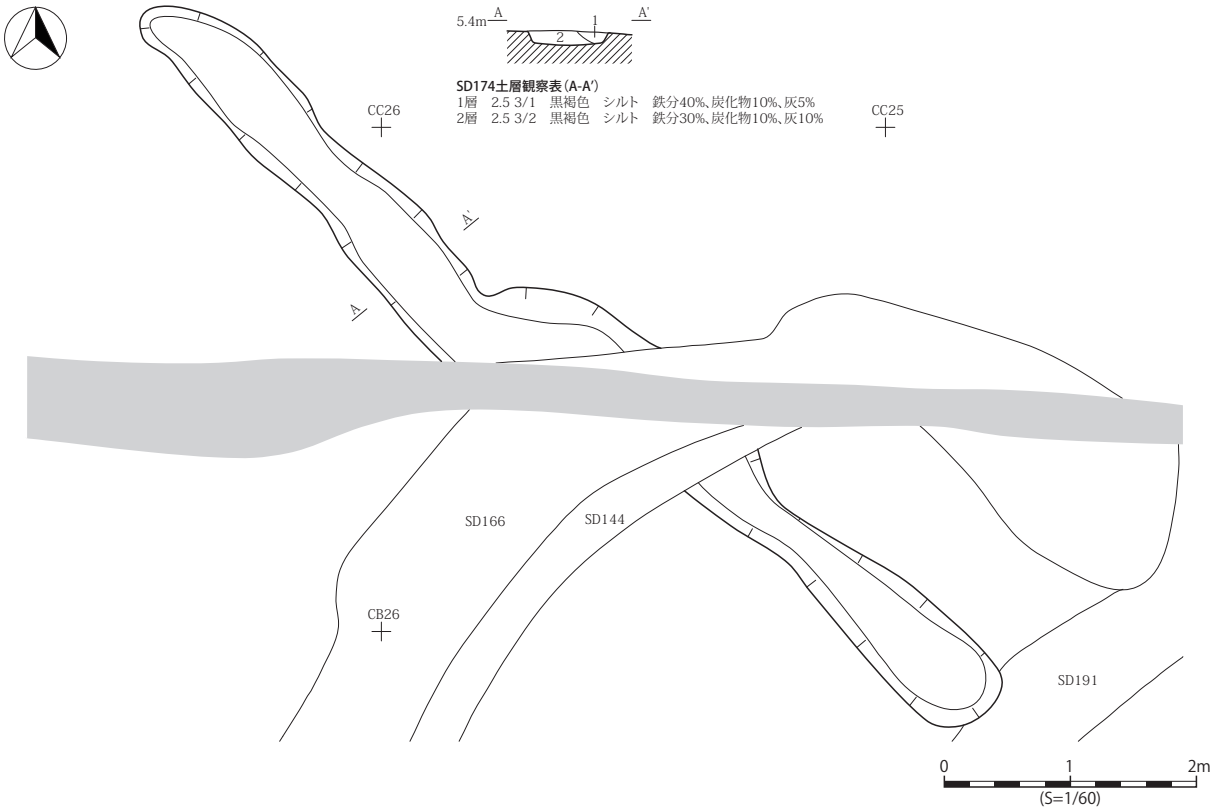
［位置・確認］グリッド CF・CG33，34 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD172 と重複関係にあり、SD172 よりも新しい。［規模・形状］調査区外に延びているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 492.5cm、幅 45.5 ～ 100cm、深さ 45cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層とで形成されている。［出土遺物］木製品が出土している（図Ⅳ -2-158）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-159）。2602 は曲物側板であり、ケビキ線が確認された。樹種はアスナロである。2603 は構造部材の整形板であり、荒い整形面を有し、一側面に段を有し、床板の可能性が考えられる。樹種はアスナロである。2604 は棒状の不明製品であり、側面に二箇所切り込みが確認された。樹種はアスナロである。



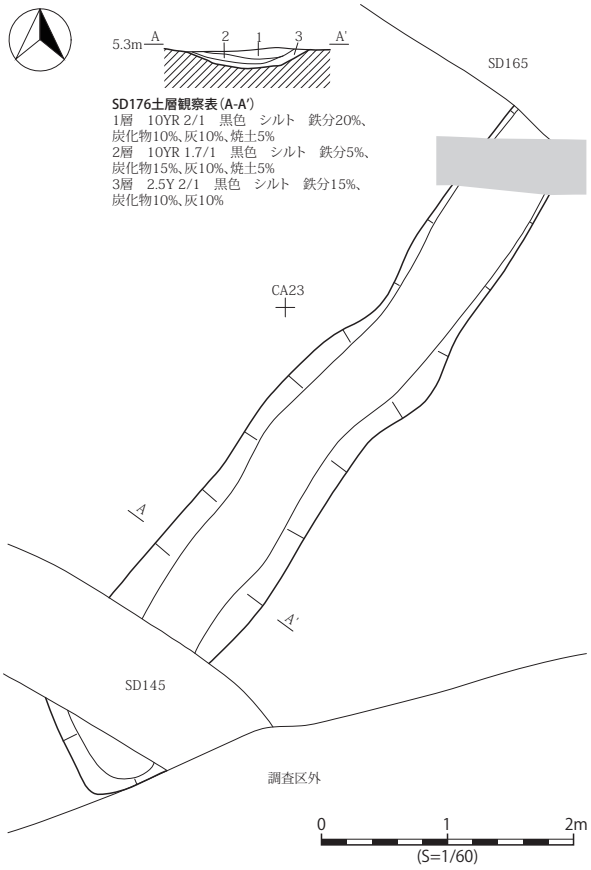
図Ⅳ-2-159　SD180 出土遺物

第 174 号溝跡（SD174、図Ⅳ -2-160）

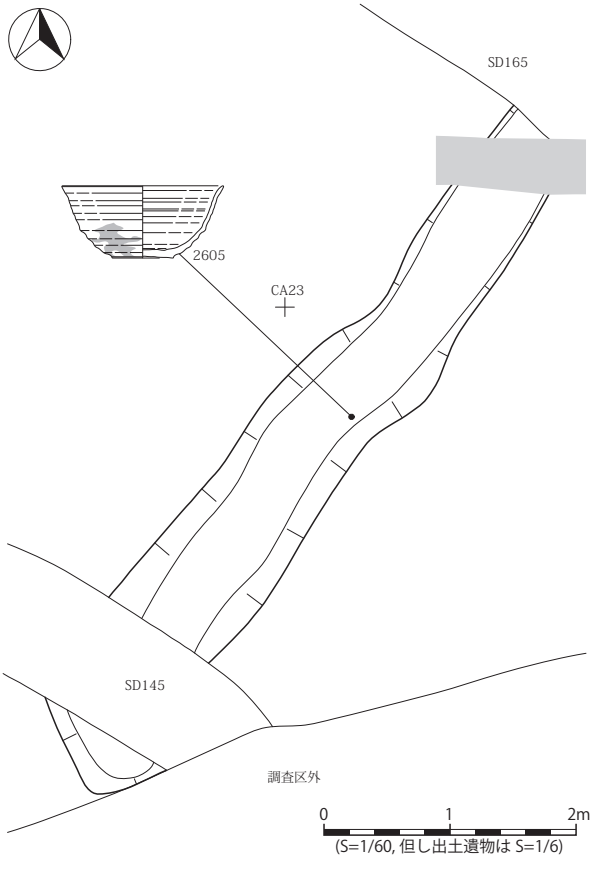
［位置・確認］グリッド CA24、CB24 ～ 26、CC26 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD144・166・191 と重複関係にあり、SD144・166 よりも古く、SD191 よりも新しい。［規模・形状］長さ 875cm、幅 34.5 ～ 91cm、深さ 19cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器



図IV-2-160　SD174



図IV-2-161　SD176

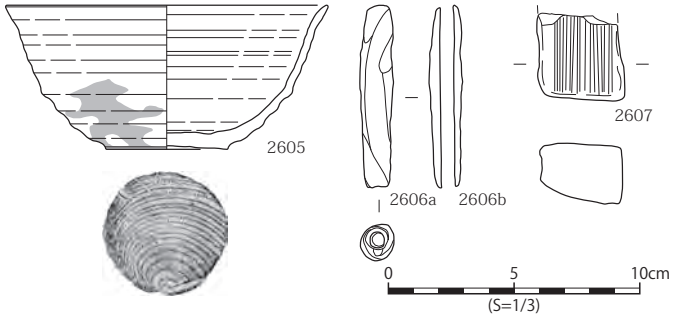


図IV-2-162　SD176遺物出土状況

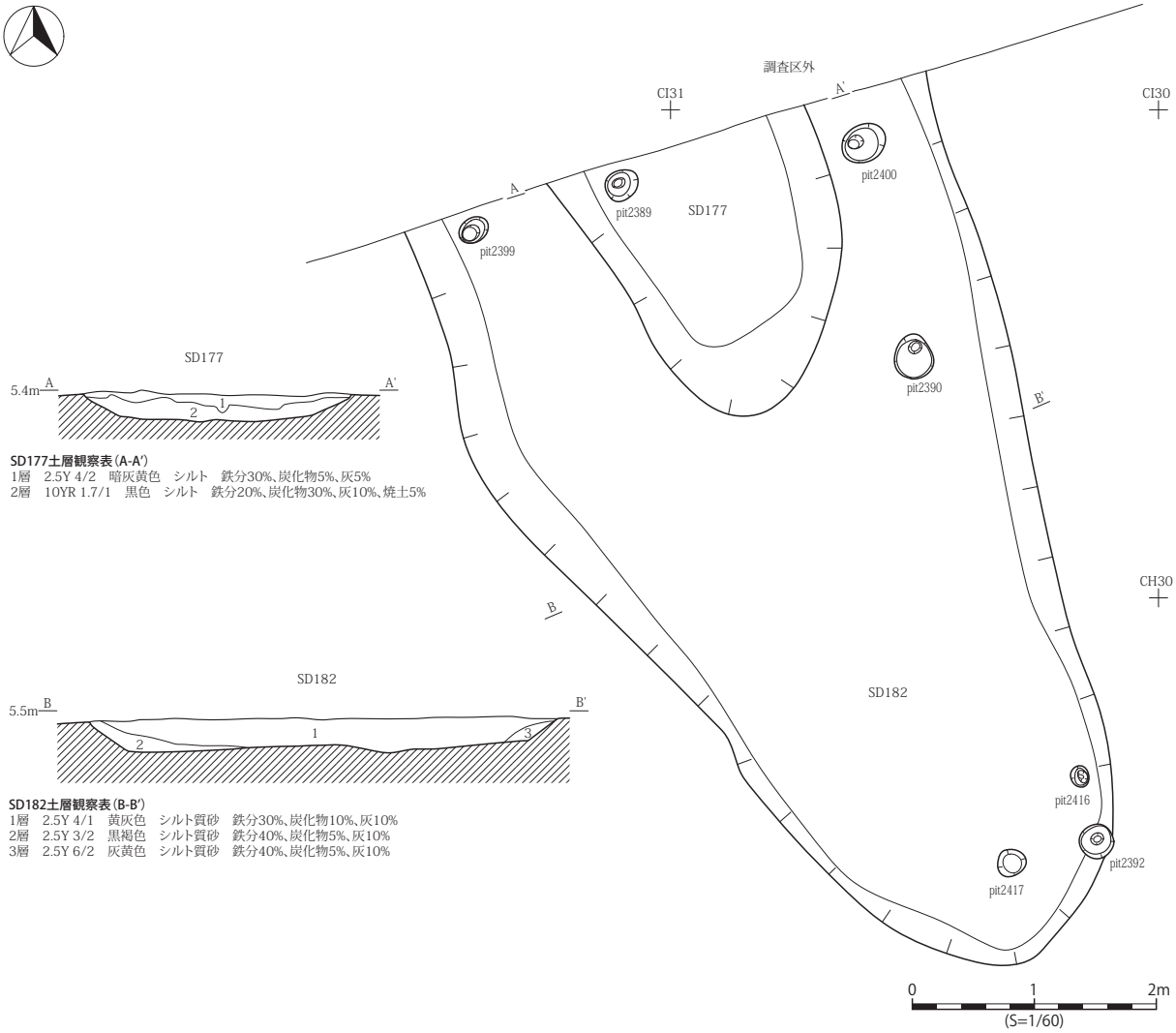
坏 39.6g、土師器甕 491.2g が出土している。

第 176 号溝跡（SD176、図Ⅳ -2-161）

［位置・確認］グリッド BY22，23、CA23 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD145・165 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD165 により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 635.5cm、幅 60 ～ 97.5cm、深さ 15cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、黒色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 342.5g、土師器甕 1,484.4g、須恵器甕 160.1g が出土している（図Ⅳ -2-162）。この内図示できたのは 3 点である（図Ⅳ -2-163）。2605 は土師器の埦であり、外面に二次被熱を受けている。ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2606 は土錘であり、ユビナデ調整が施され、小型のものであることから、内水面の網漁に使用されたものであると考えら



図Ⅳ-2-163　SD176 出土遺物



SD177土層観察表（A-A'）
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物30%、灰10%、焼土5%

SD182土層観察表（B-B'）
1層　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y 6/2　灰黄色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物5%、灰10%

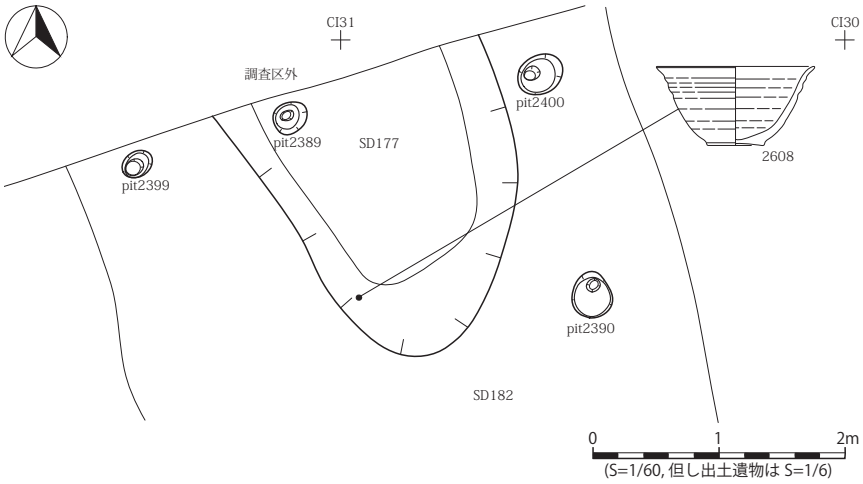
図Ⅳ-2-164　SD177・182

れる。2607 は砥石であり、角礫の平坦面を砥面として使用している。材質は珪質凝灰岩である。

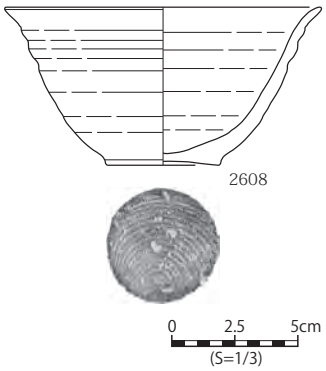
第177・182号溝跡（SD177・182、図Ⅳ-2-164）

（SD177）

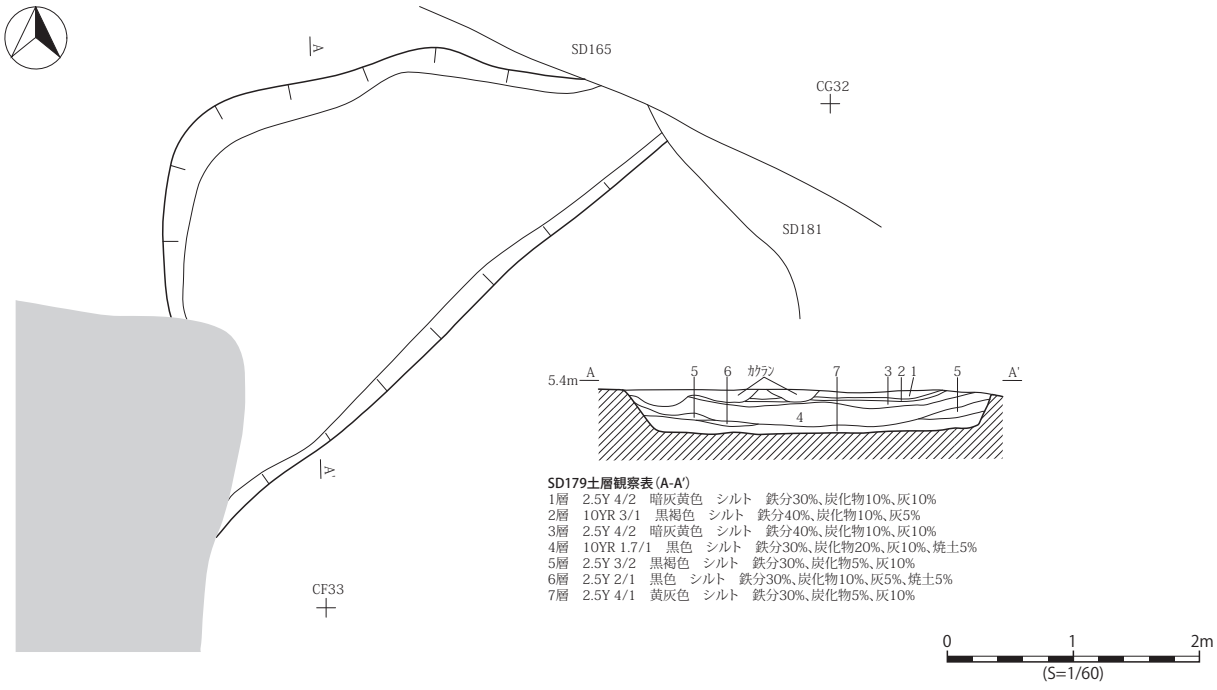
［位置・確認］グリッド CH30，31 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD182 と重複関係にあり、SD182 よりも新しい。［規模・形状］調査区外に延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 230cm、幅 181 ～ 218cm、深さ 23cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］2 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 592.6g、土師器甕 530.9g が出土している（図Ⅳ -2-165）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-166）。2608 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。



図Ⅳ-2-165　SD177 遺物出土状況



図Ⅳ-2-166　SD177 出土遺物



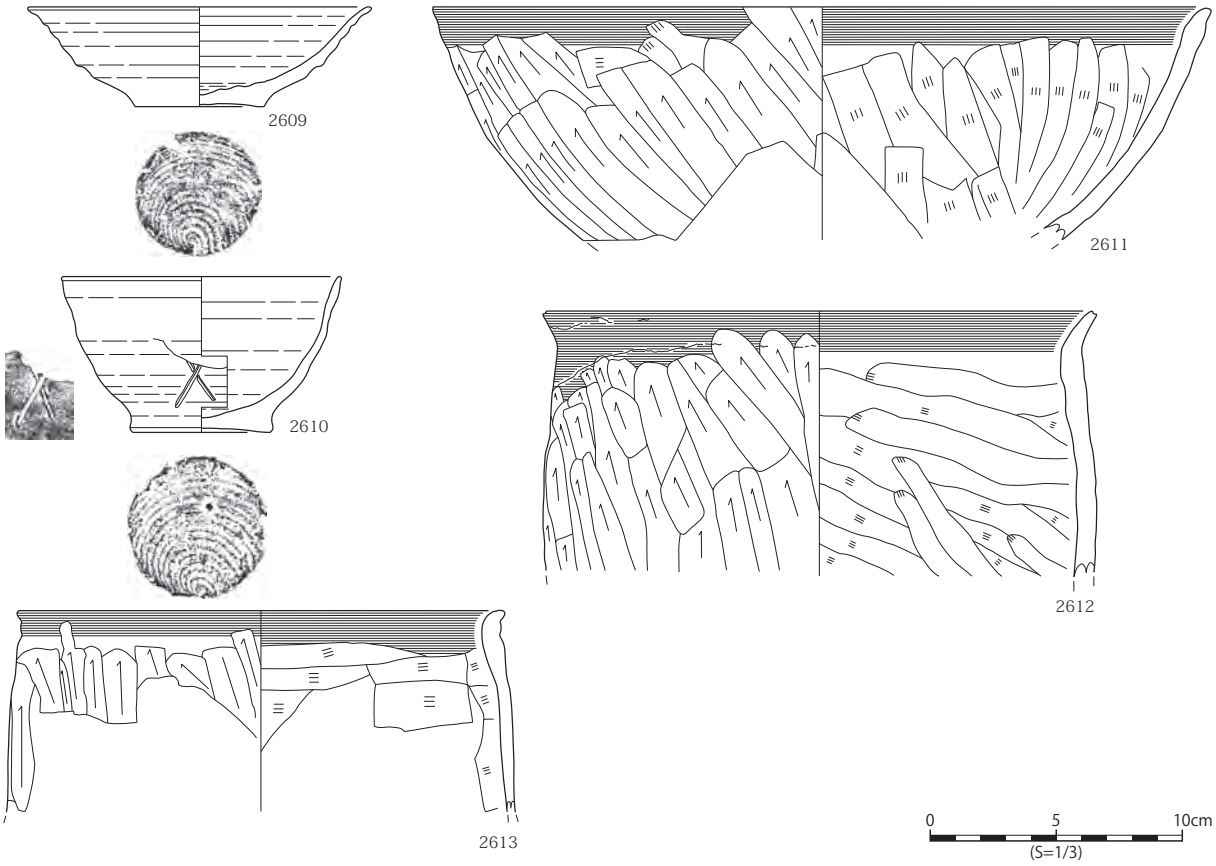
図Ⅳ-2-167　SD179

（SD182）

［位置・確認］グリッド CG・CH31，32 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD177 と重複関係にあり、SD177 よりも古い。［規模・形状］調査区外に延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 727cm、幅 295 ～ 453cm、深さ 26cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 180.9g、土師器甕 274.5g が出土している。

第 179 号溝跡（SD179、図Ⅳ -2-167）

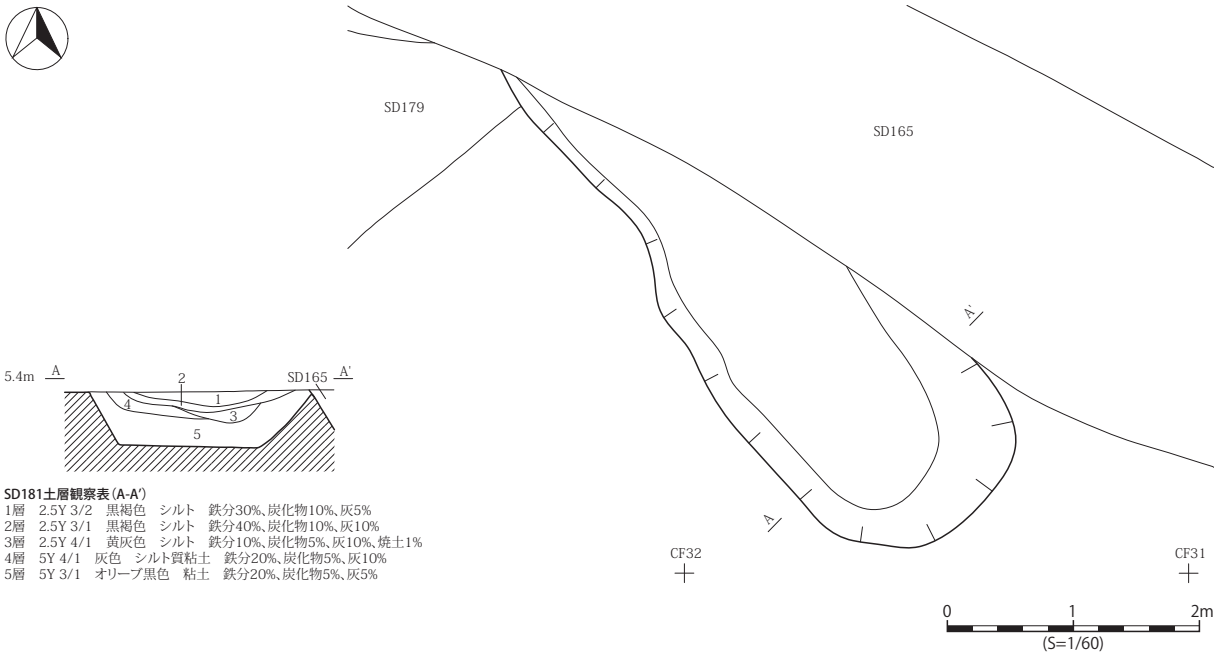
［位置・確認］グリッド CG・CH31，32 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD177 と重複関係にあり、SD177 よりも古い。［規模・形状］調査区外に延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 727cm、幅 295 ～ 453cm、深さ 26cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 180.9g、土師器甕 274.5g が出土している。この内図示できたのは 5 点である（図Ⅳ -2-168）。2609 は土師器の皿である。2610 は土師器の埦であり、外面にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2611 は土師器の鍋であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。2612・2613 は土師器の長胴甕であり、調整は 2611 と同様である。



図Ⅳ-2-168　SD179 出土遺物

第 181 号溝跡（SD181、図Ⅳ -2-169）

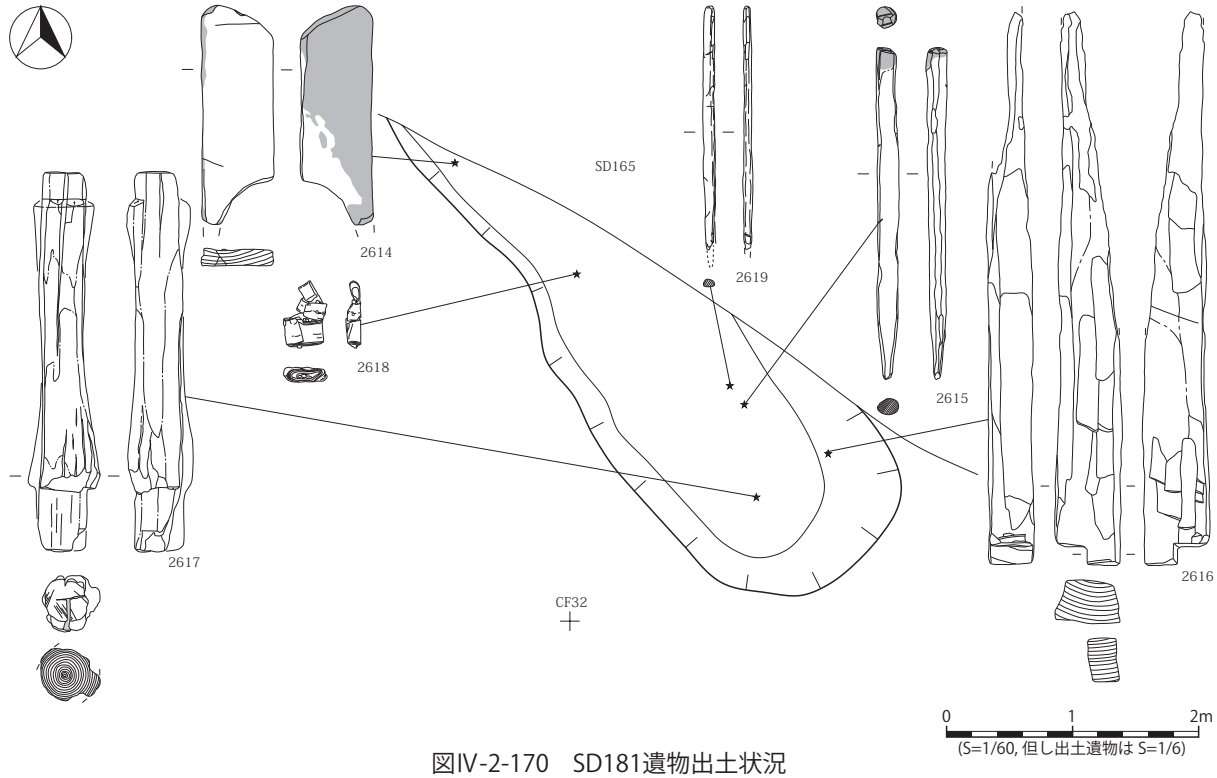
［位置・確認］グリッド CF31,32 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD165・179 と



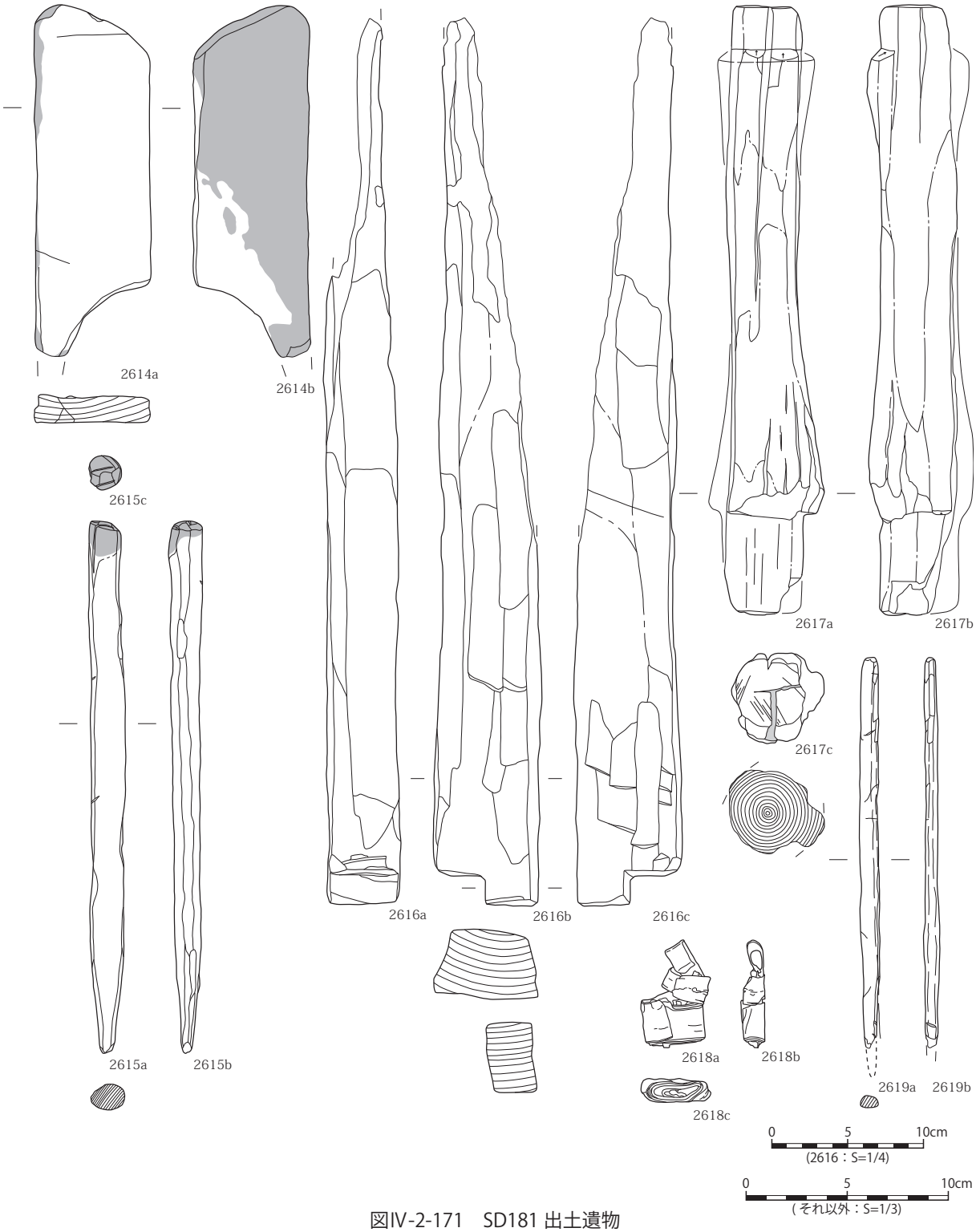
SD181土層観察表（A-A'）

1層	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト	鉄分30%、炭化物10%、灰5%
2層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分40%、炭化物10%、灰10%
3層	2.5Y 4/1	黄灰色	シルト	鉄分10%、炭化物5%、灰10%、焼土1%
4層	5Y 4/1	灰色	シルト質粘土	鉄分20%、炭化物5%、灰10%
5層	5Y 3/1	オリーブ黒色	粘土	鉄分20%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-2-169　SD181



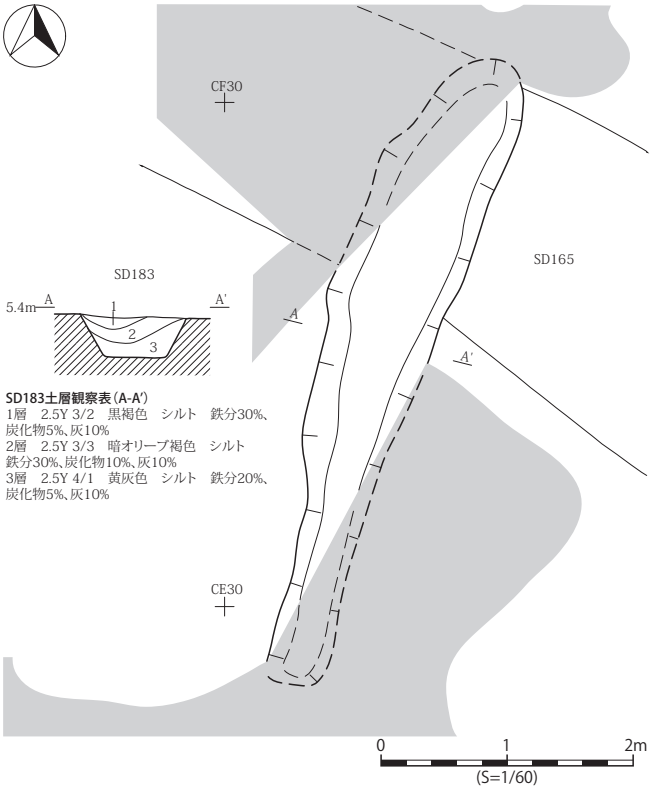
図Ⅳ-2-170　SD181遺物出土状況



図Ⅳ-2-171　SD181 出土遺物

重複関係にあり、SD165 よりも古く、SD179 よりも新しい。［規模・形状］SD165 により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 386.5cm、幅 72 ～ 178cm、深さ 54.5cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］5 層確認され、上層は黒褐色土を主体とした層、下層はⅢ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 166.0g、土師器甕 833.0g、木製品等が出土している（図Ⅳ -2-170）。この内図示できたのは 5 点である（図Ⅳ

-2-171)。2614 は容器の蓋板であり、端部に弧状の加工が施され、小円形の貫孔を有する。部分的に炭化している。樹種はアスナロである。2615 は発火具の火鑽杵であり、端部に炭化が見られる。樹種はアスナロである。2616・2617 は構造部材であり、2616 は片側端部に凸状の加工が施されている。2617 は両端に出枘を有することから支柱材であると考えられる。樹種は 2616 がクリ、2617 がコナラ属コナラ節である。2618 は緊縛具の樹皮巻であり、樹種は不明であるが針葉樹製である。2619 は棒状の不明製品であり、片側を尖らせている。樹種はノリウツギである。

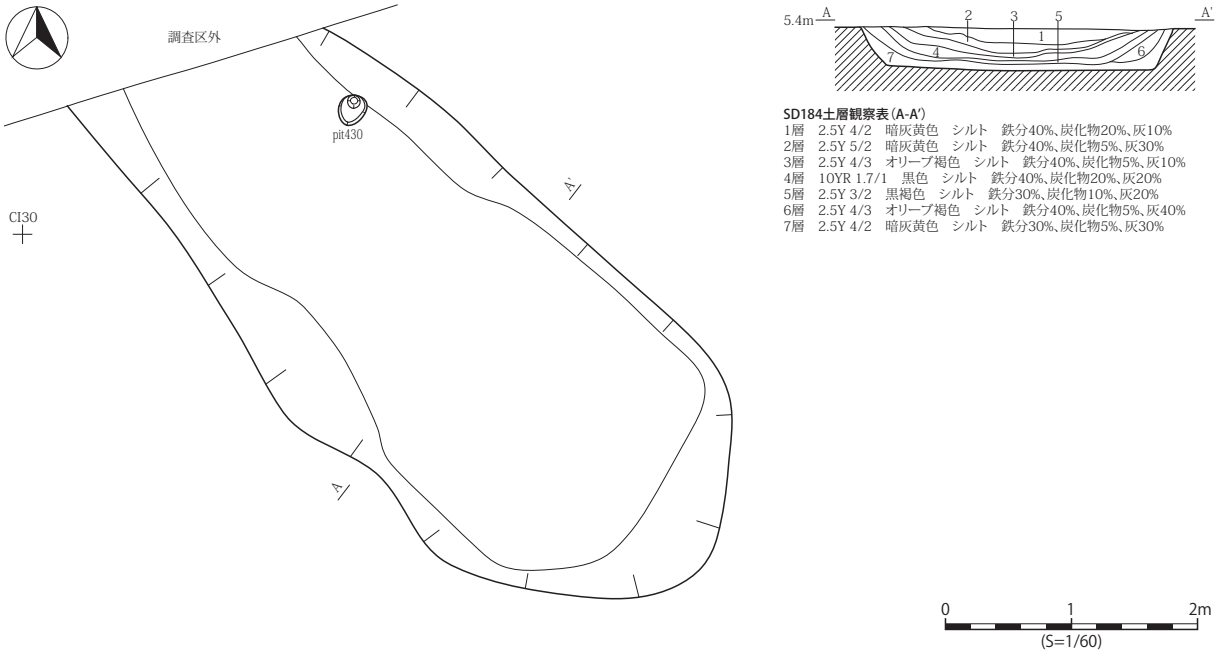


SD183土層観察表（A-A'）
1層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰10%

図Ⅳ-2-172　SD183

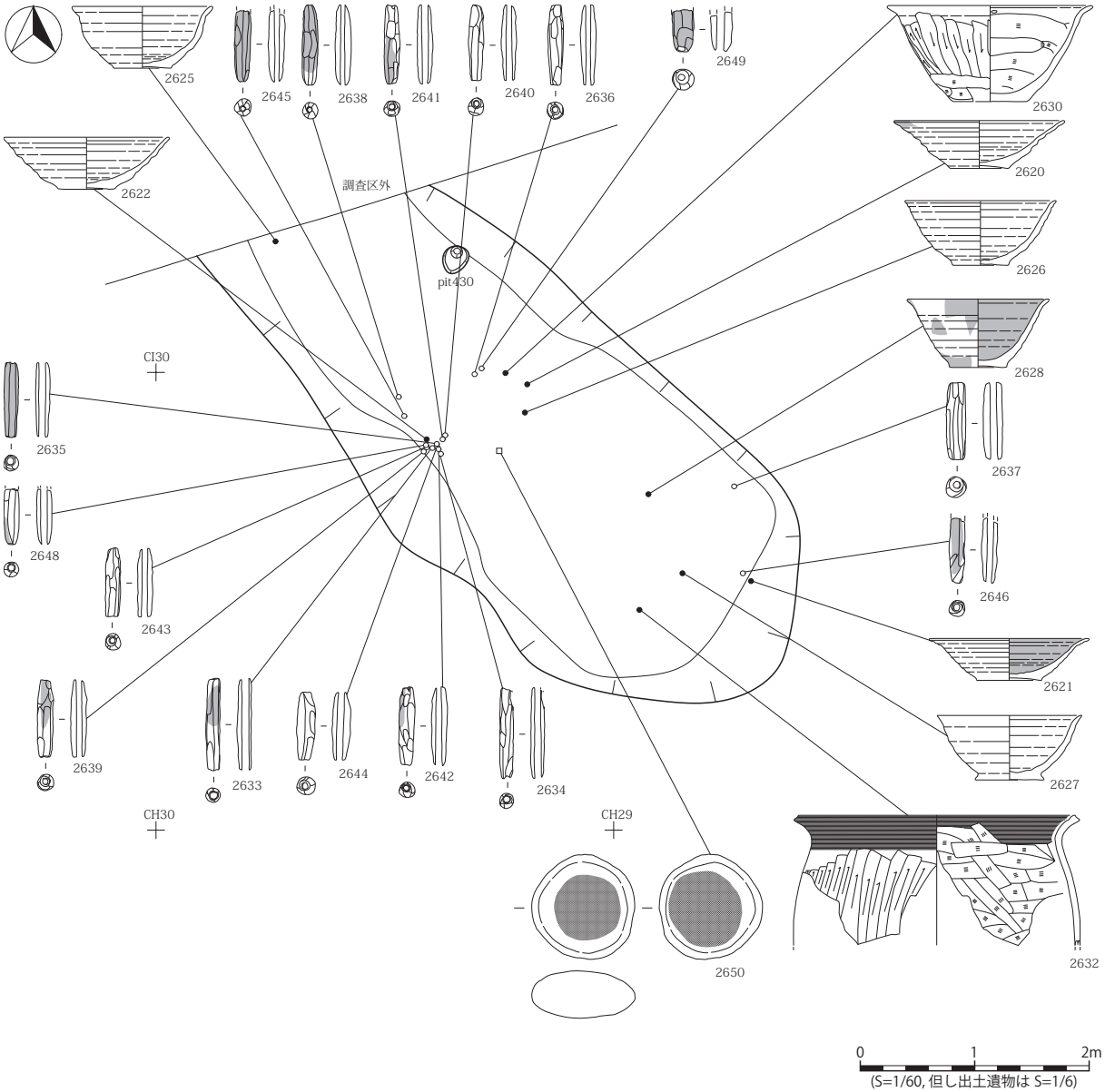
第 183 号溝跡（SD183、図Ⅳ -2-172）

［位置・確認］グリッド CD・CE・CF29 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD165 と重複関係にあり、SD165 よりも新しい。［規模・形状］撹乱を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 525cm、幅 41 ～ 96cm、深さ 41.5cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層は黒褐色土を主体とした層、下層はⅢ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 107.8g、土師器甕 606.4g が出土している。



SD184土層観察表（A-A'）
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物20%、灰10%
2層　2.5Y 5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰30%
3層　2.5Y 4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
4層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物20%、灰20%
5層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
6層　2.5Y 4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰40%
7層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰30%

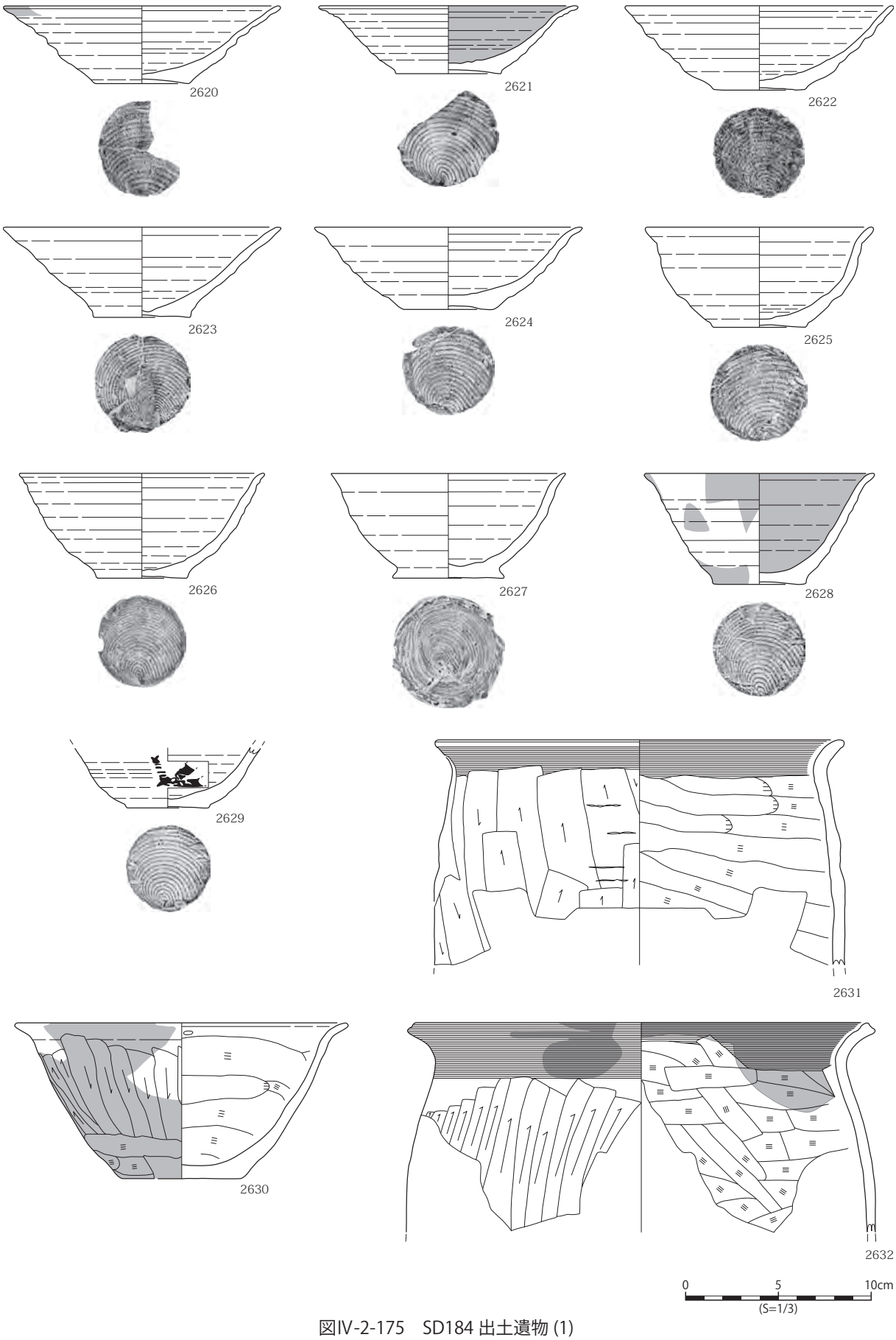
図Ⅳ-2-173　SD184



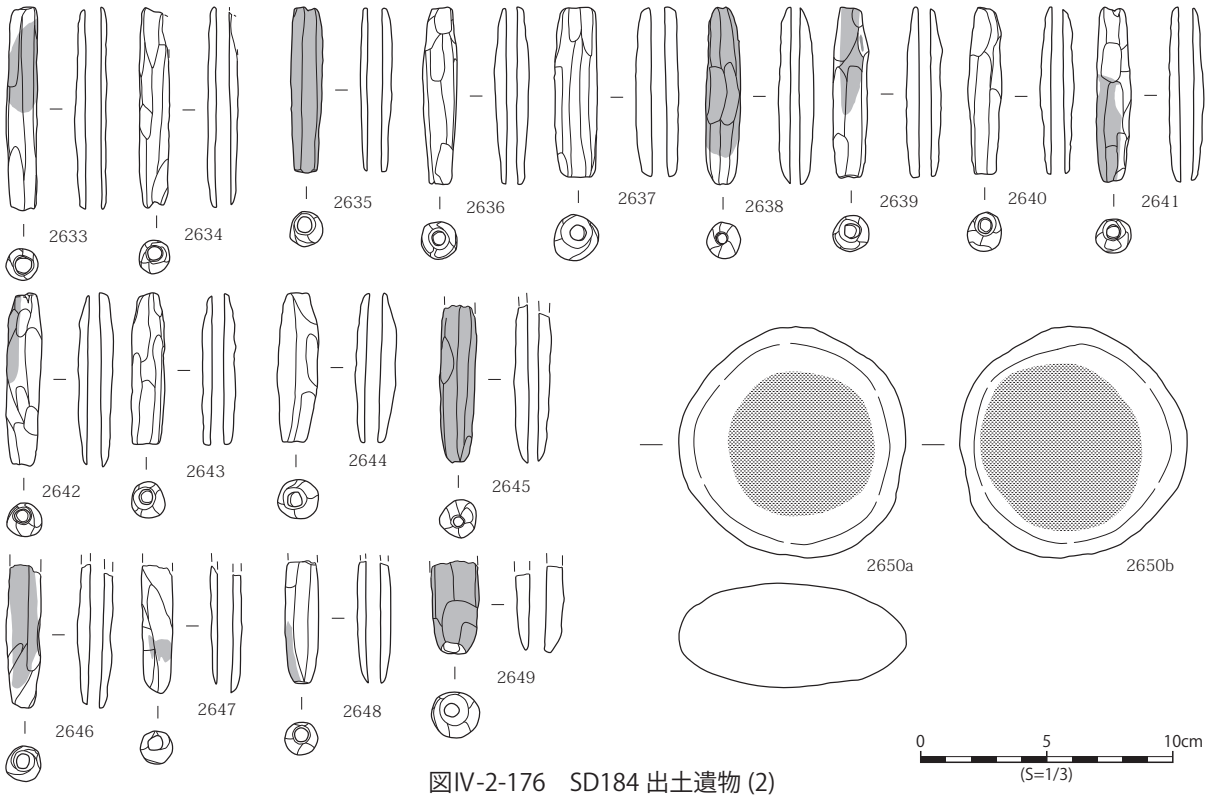
図Ⅳ-2-174　SD184遺物出土状況

第 184 号溝跡（SD184、図Ⅳ -2-173）

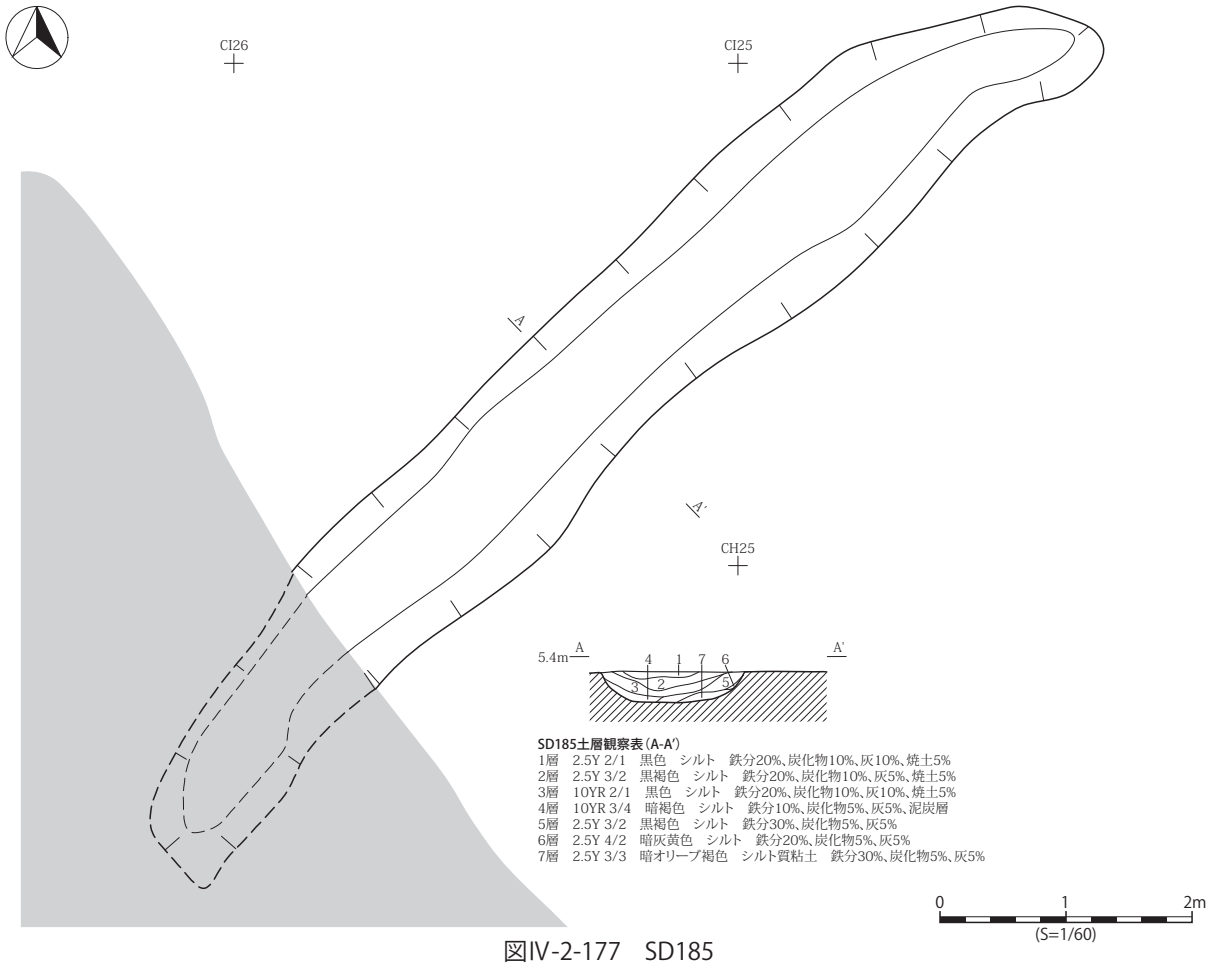
［位置・確認］グリッド CH・CI28, 29 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］調査区外に延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 557cm、幅 195.5 ～ 262cm、深さ 44.5cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、上層と下層はⅢ層由来の層、中層はは黒色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 2,848.0g、土師器甕 5,503.0g、須恵器甕 194.0g 等が出土している（図Ⅳ -2-174）。この内図示できたのは 31 点である（図Ⅳ -2-175・176）。2620・2621 は土師器の皿であり、2620 は外面に、2621 は内面に二次被熱を受けている。2622 ～ 2624 は土師器の皿形坏である。2625 ～ 2628 は土師器の埦であり、2628 は内外面に二次被熱を受けている。2629 は坏の体部～底部にかけての個体であるが、外面に墨書が書かれている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2630 は土師器の大型埦形坏であり、外面に二次被熱を受けている。非ロクロで体部



図Ⅳ-2-175　SD184 出土遺物 (1)



図Ⅳ-2-176　SD184 出土遺物 (2)



SD185土層観察表（A-A'）

1層　2.5Y 2/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰10%、焼土5%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰5%、焼土5%
3層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰10%、焼土5%
4層　10YR 3/4　暗褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%、灰5%、泥炭層
5層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
6層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
7層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト質粘土　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-2-177　SD185

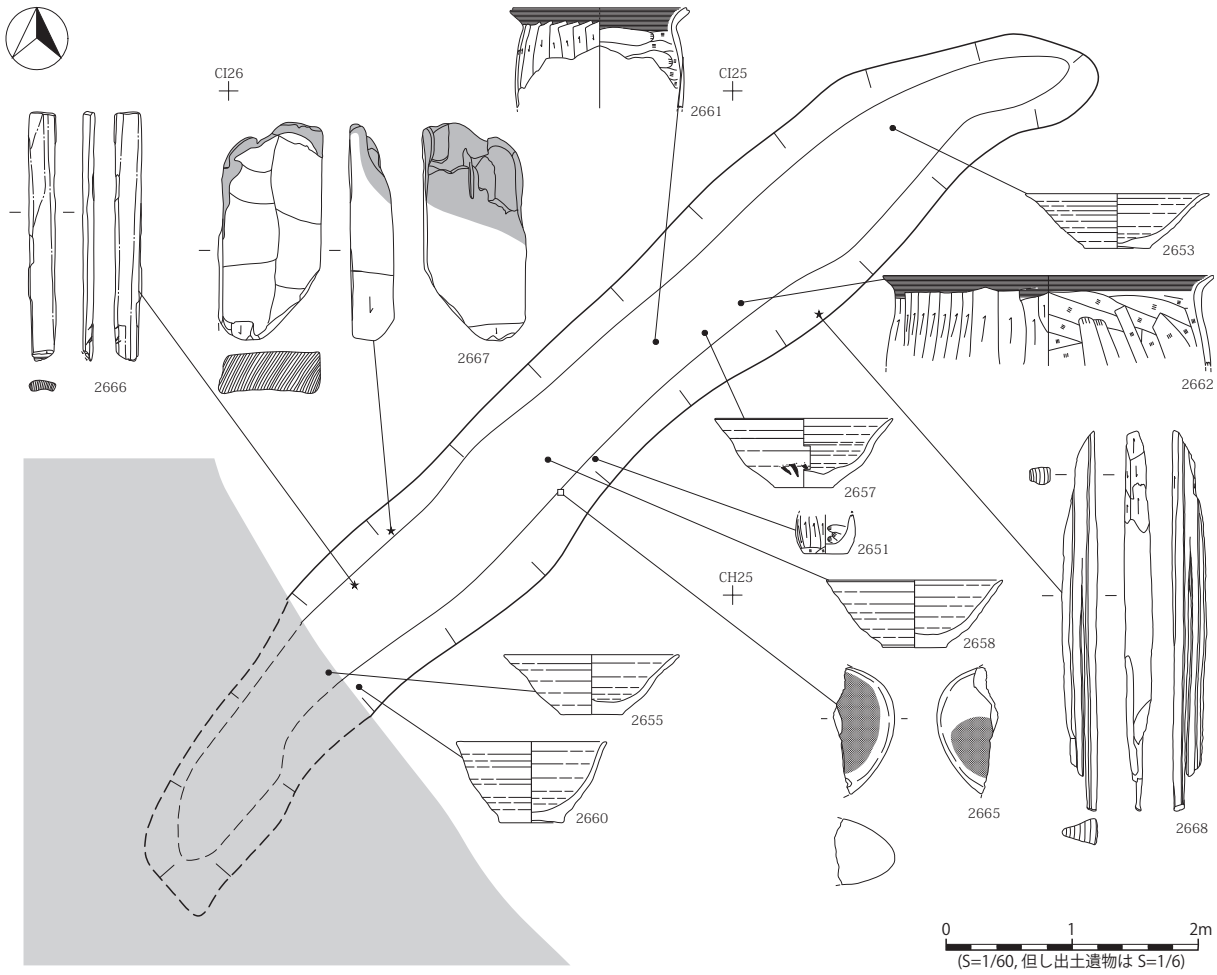
外面ケズリ調整後体部下半はユビナデ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2631・2632 は土師器の長胴甕であり、2632 は口縁部付近に二次被熱を受けている。いずれも口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。

2633 ～ 2649 は土錘であり、2633・2635・2638・2639・2641・2642・2645 ～ 2649 は二次被熱を受けている。いずれもユビナデ調整が施されている。小型のものであることから内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

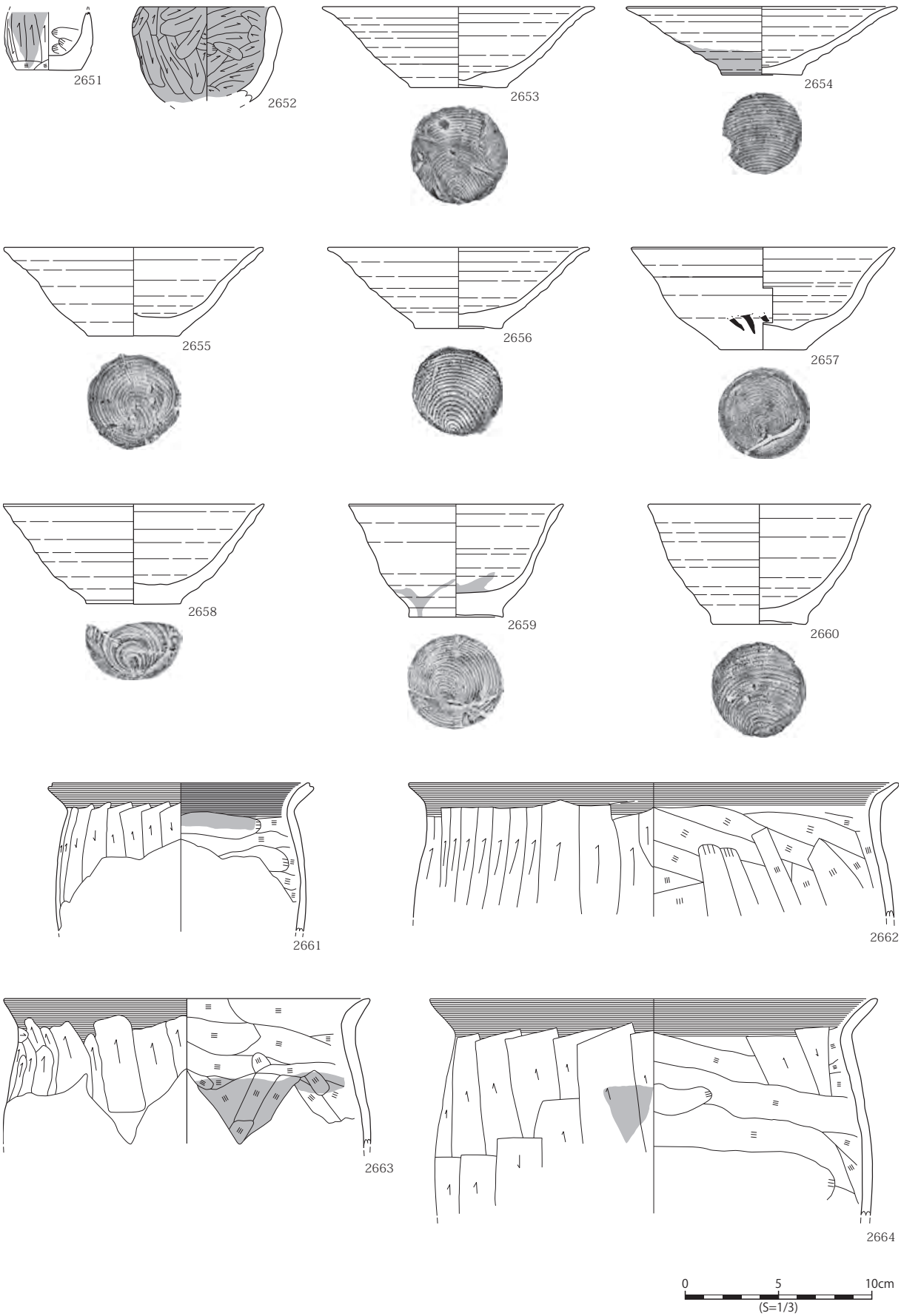
2650 は砥石であり、扁平な円礫の平坦部を砥面として使用している。材質は、プロピライトである。

第 185 号溝跡（SD185、図Ⅳ -2-177）

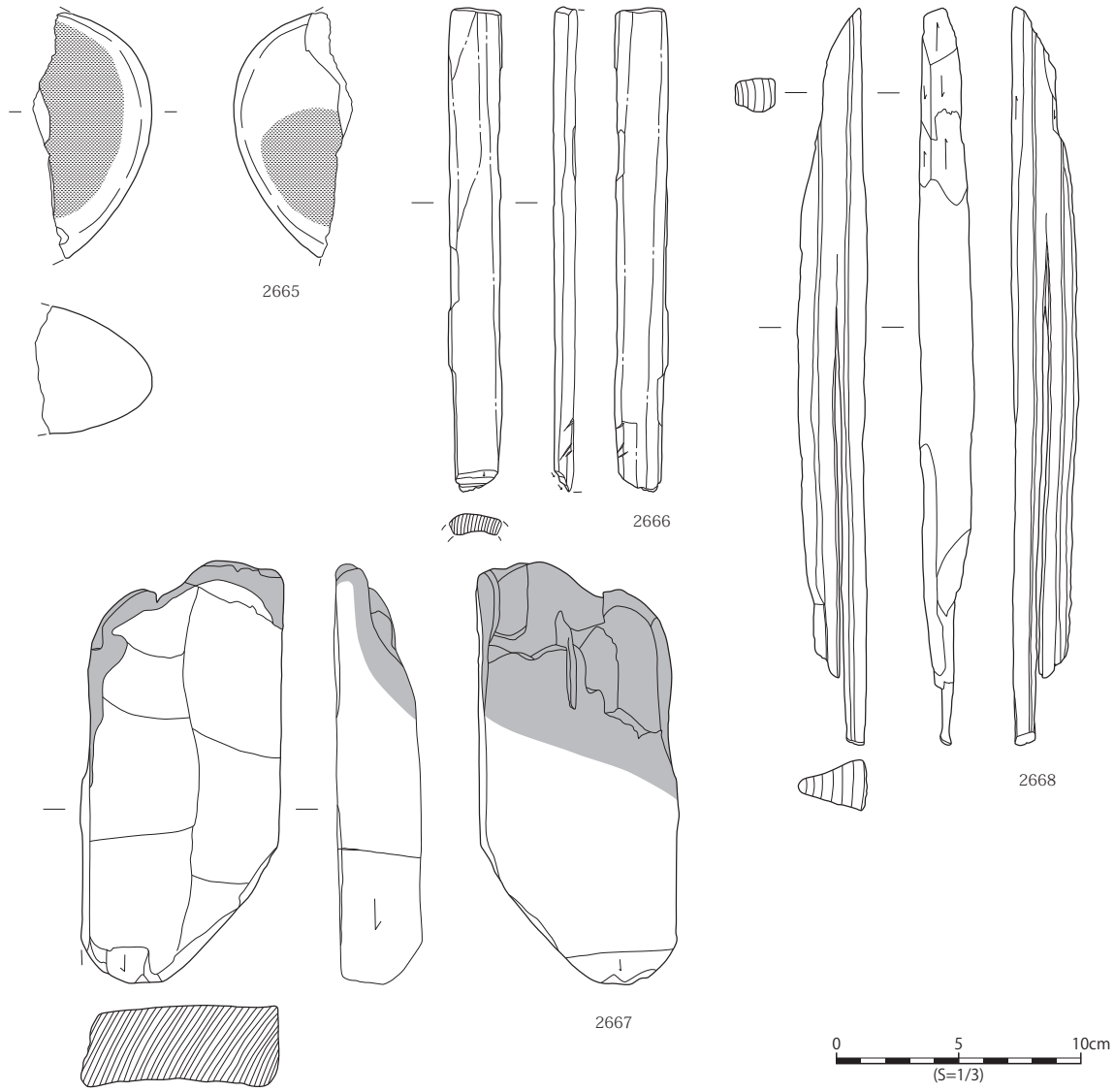
［位置・確認］グリッド CG25, 26、CH24, 25、CI24 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 1,002cm、幅 111 ～ 142cm、深さ 46cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、上層及び中層は黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層とで互層を形成しており、下層はⅢ層由来の層で形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 125.7g、土師器坏 2,026.3g、土師器甕 7,885.0g、須恵器甕 26.0g、須恵器壺 9.6g、支脚 54.1g 等が出土している（図Ⅳ -2-178）。この内図示できたのは 18 点である（図Ⅳ -2-179・180）。



図Ⅳ-2-178　SD185遺物出土状況



図Ⅳ-2-179　SD185 出土遺物 (1)



図Ⅳ-2-180　SD185 出土遺物 (2)

2651・2652 はミニチュアの甕であり、2651 は外面に、2652 は内外面に二次被熱を受けている。いずれも非ロクロであり、外面はケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2653・2654 は土師器の皿、2655・2656 は土師器の皿形坏、2657・2658 は土師器の椀形坏、2659・2660 は土師器の椀である。2657 は外面に墨書が書かれている。2654 は外面に、2659 は内外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2661 は土師器の小型甕であり、内面に二次被熱を受けている。2662 ～ 2664 は土師器の長胴甕であり、2663 は内面に、2664 は外面に二次被熱を受けている。いずれも口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。

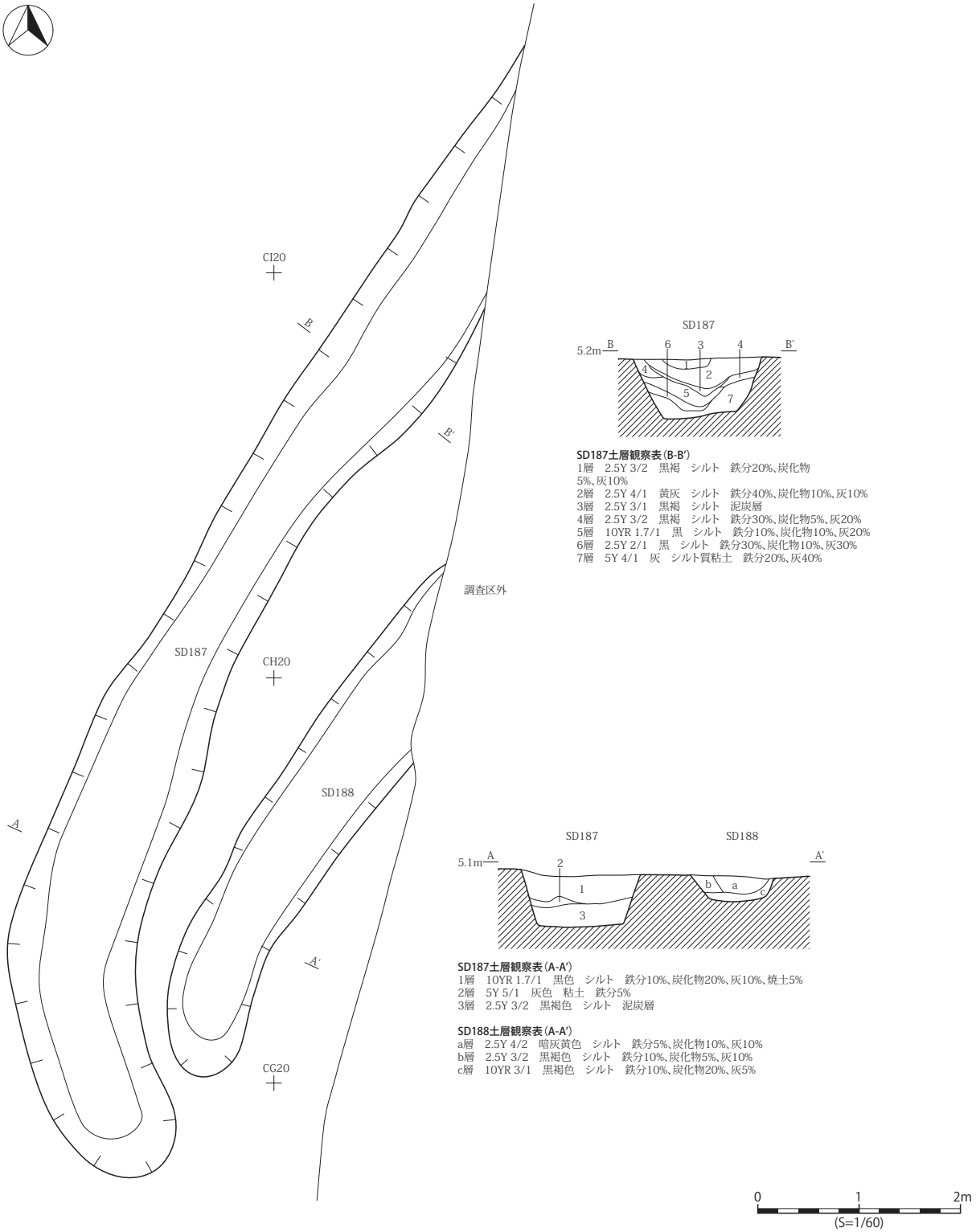
2665 は砥石であり、円礫の平坦面を砥面として使用している。材質は流紋岩である。

2666 ～ 2668 は加工木であり、2666・2667 は板材、2668 は割材であり、一部に成形の加工痕が確認された。樹種はいずれもアスナロである。

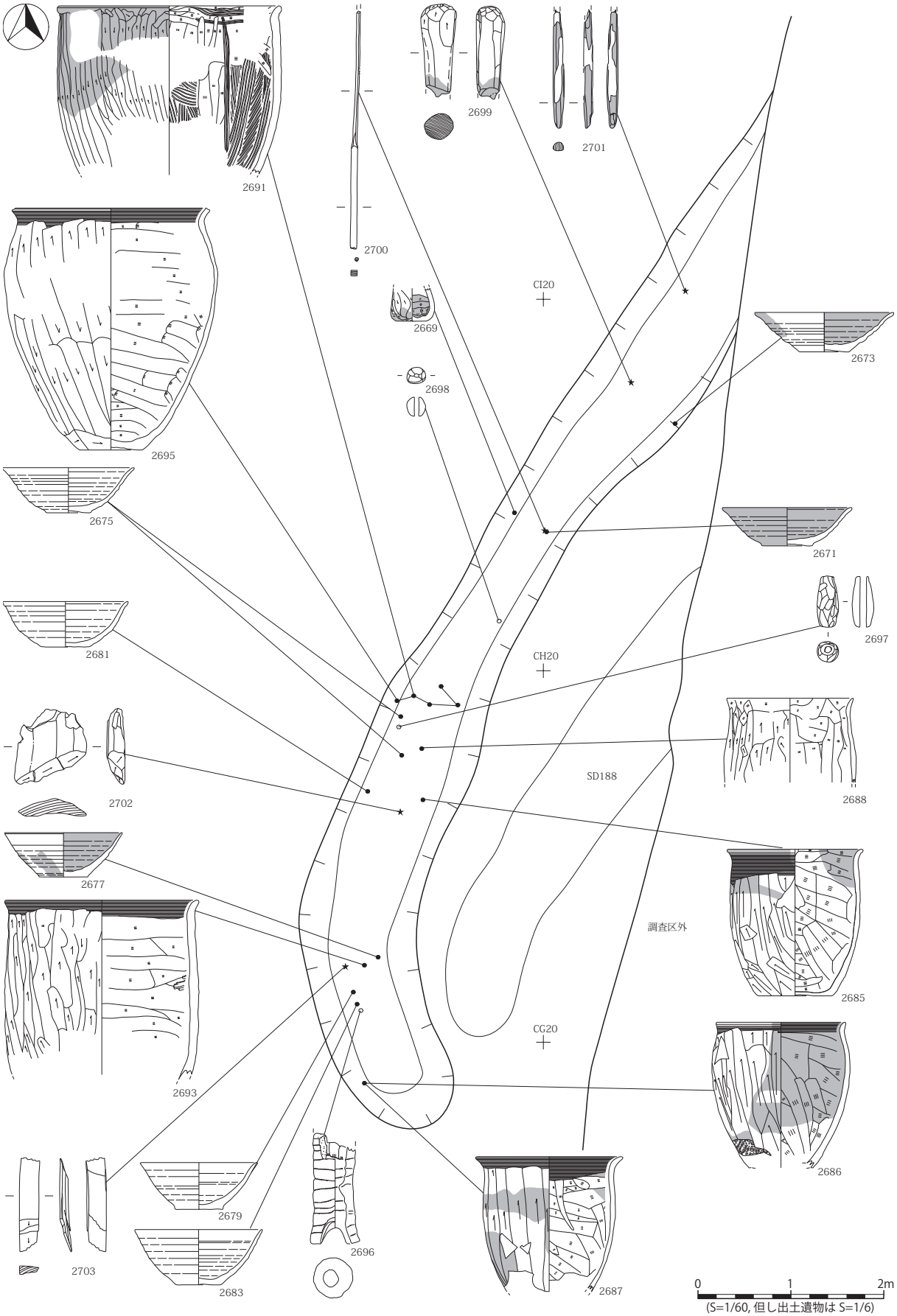
第 187・188 号溝跡（SD187・188、図Ⅳ -2-181）

（SD187）

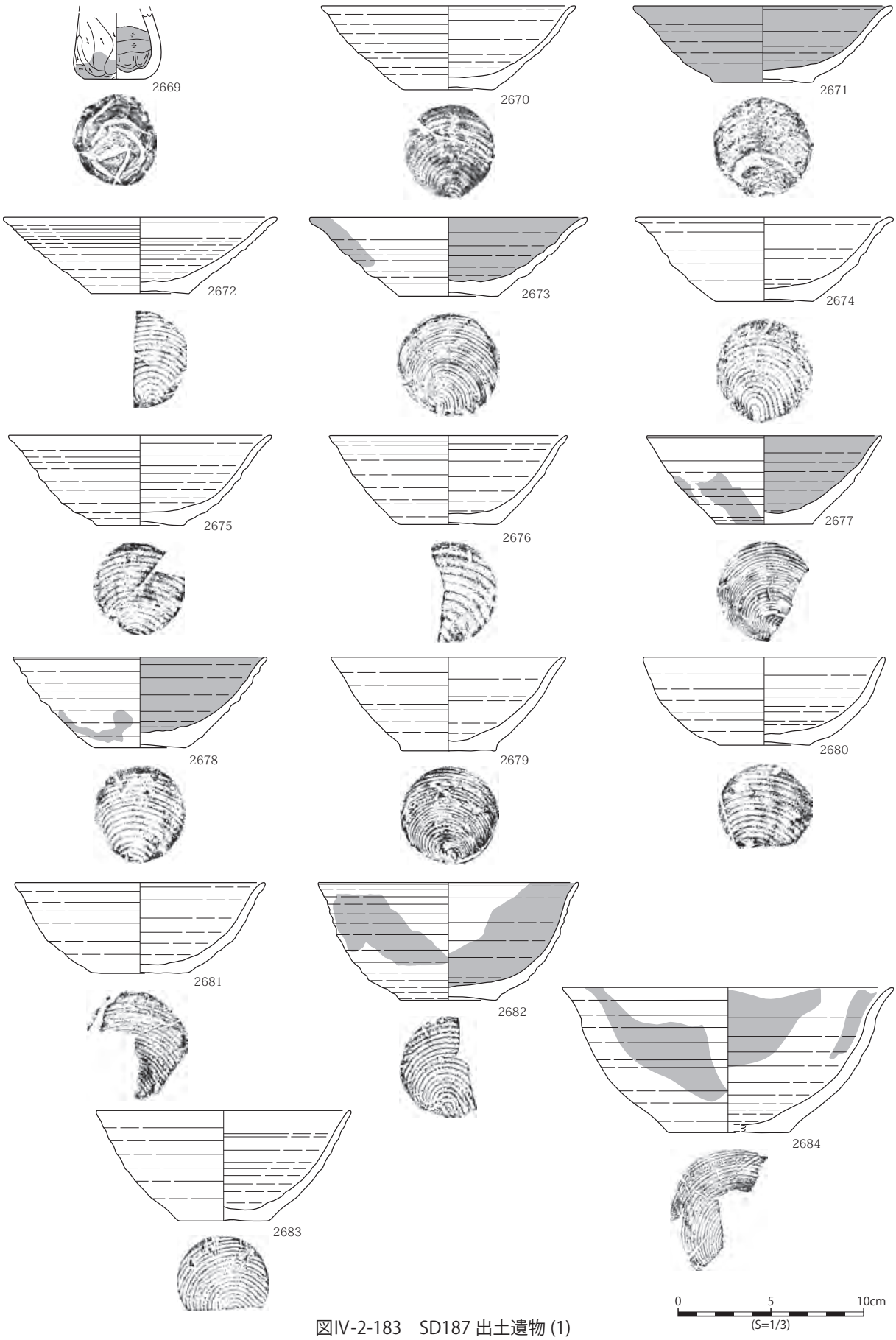
［位置・確認］グリッド CF・CG20、CH19，20、CI19 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］調査区外に延びているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 1,089cm、幅 82 ～ 127cm、深さ 69cm を測り、南西方向から北東方向に延び、途中で向きを転じ、北東方向へ延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層とで互層を形成している。［出土遺物］土師器ミニチュア 48.0g、土師器坏 2,778.1g、



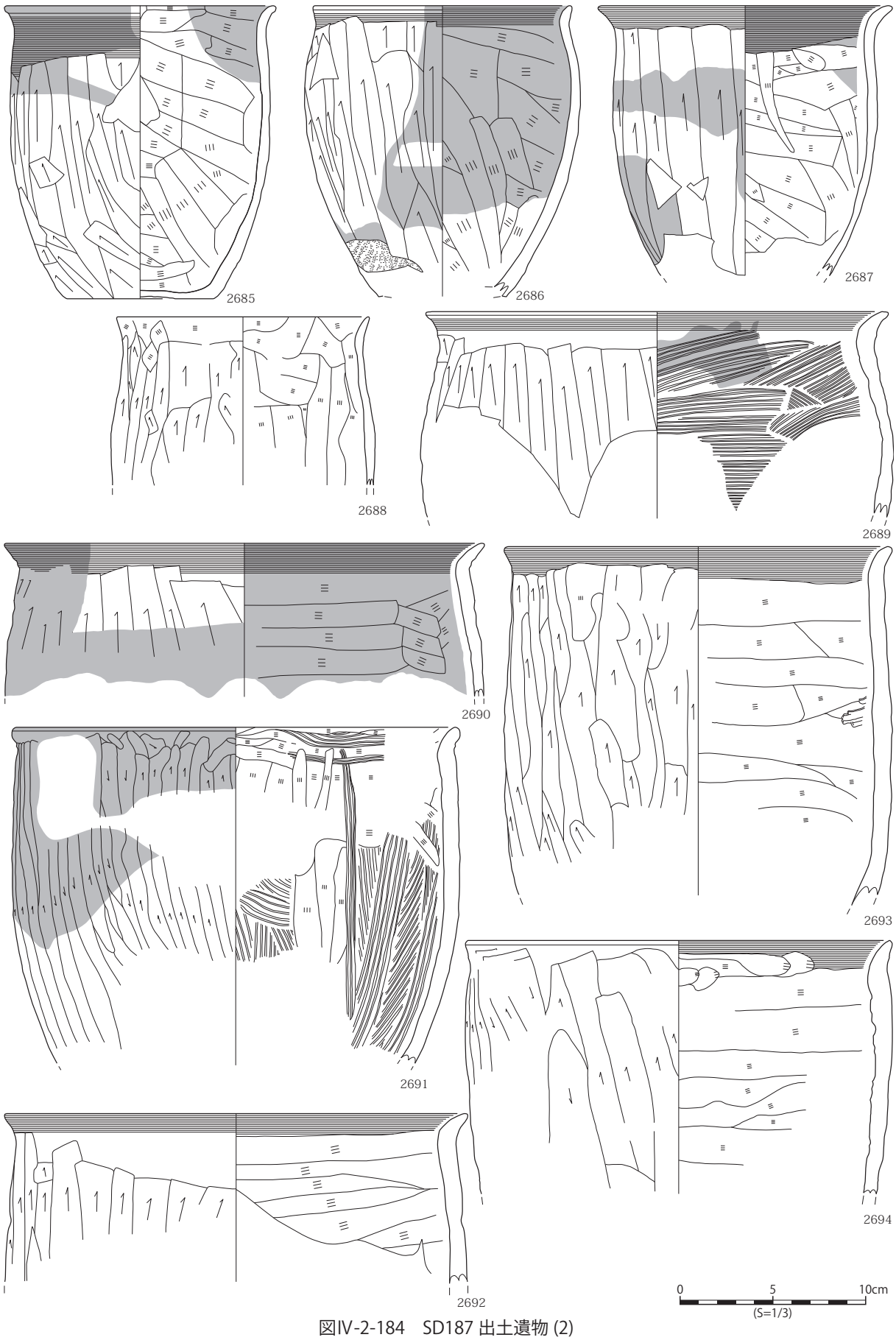
図Ⅳ-2-181　SD187・188



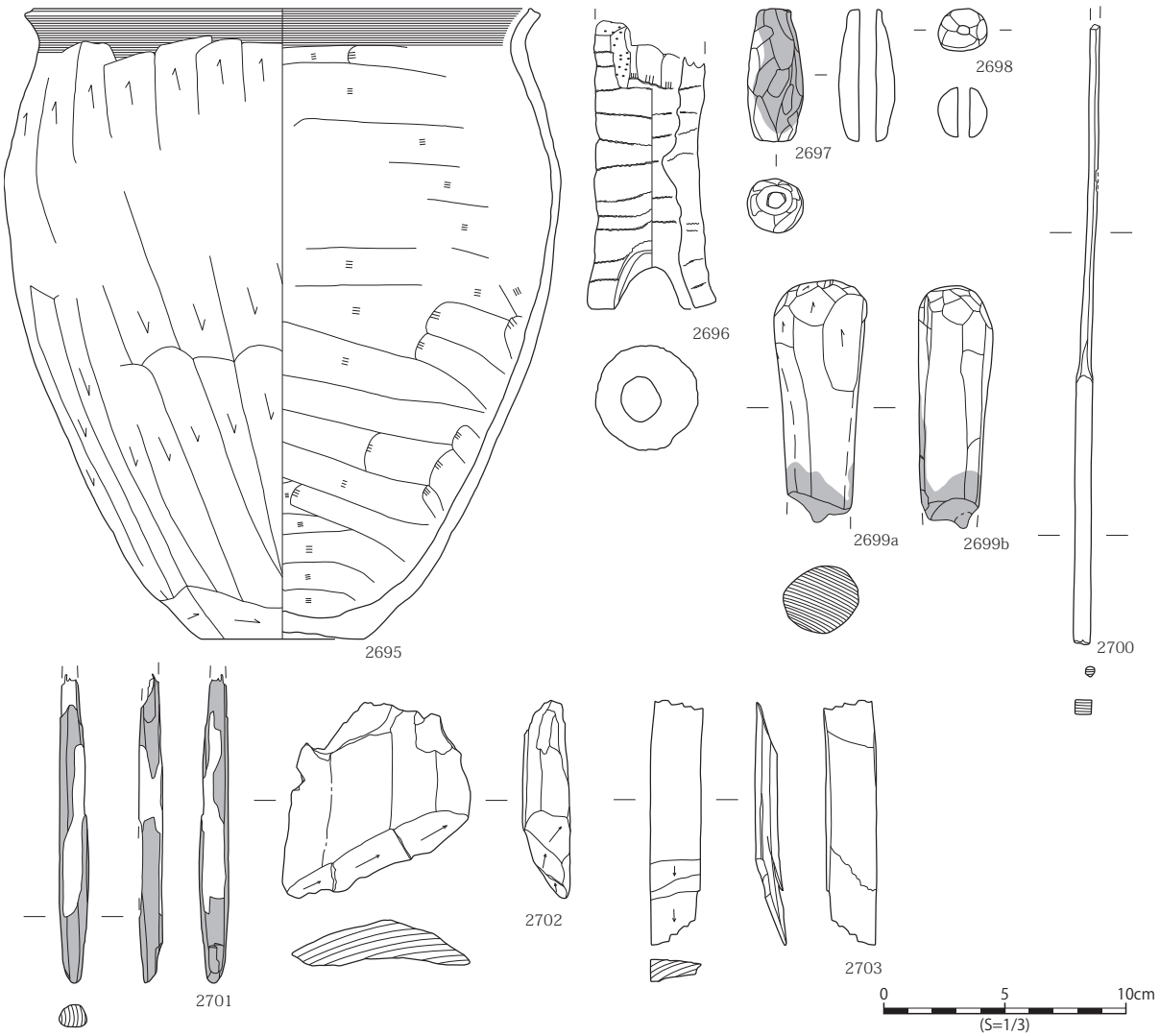
図IV-2-182　SD187遺物出土状況



図Ⅳ-2-183　SD187 出土遺物 (1)



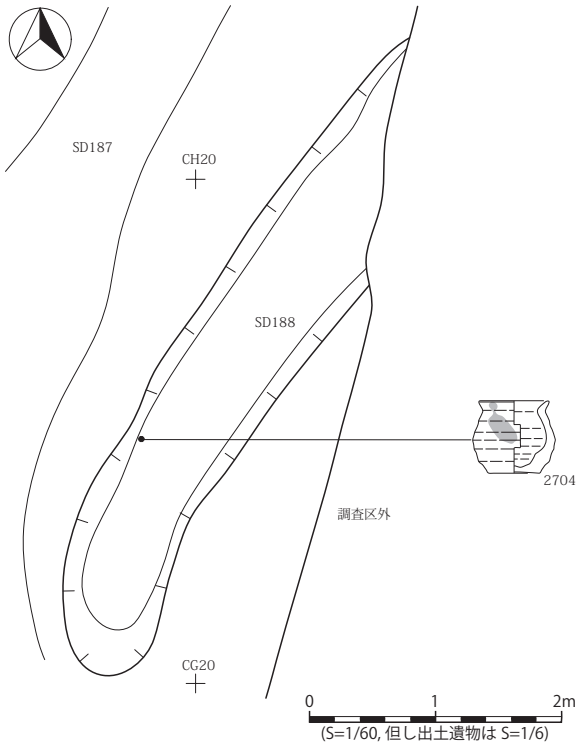
図IV-2-184　SD187 出土遺物 (2)



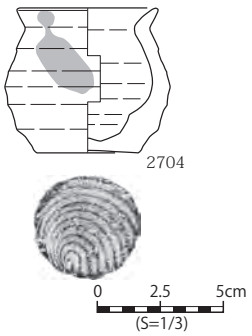
図Ⅳ-2-185　SD187 出土遺物 (3)

土師器甕 10,693.3g、支脚 208.0g 等が出土している（図Ⅳ -2-182）。この内図示できたのは 35 点である（図Ⅳ -2-183 ～ 185）。2669 はミニチュアの甕であり、底面にヘラ記号が描かれており、内外面二次被熱を受けている。非ロクロで内外面ユビナデ調整が施されている。2670 ～ 2672 は土師器の皿であり、2671 は内外面に二次被熱を受けている。2673 ～ 2675 は土師器の皿形坏であり、2673 は内外面に二次被熱を受けている。2676 ～ 2681 は土師器の埦形坏であり、2677 は内外面に、2678 は内面に二次被熱を受けている。2682・2683 は土師器の埦であり、2682 は内外面に二次被熱を受けている。2684 は土師器の大型埦であり、内外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2685 ～ 2688 は土師器の小型甕であり、2685 ～ 2687 は内外面に二次被熱を受けている。2688 以外口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、体部内面はユビナデ調整が施されている。2688 は口縁部にヨコナデ調整が施されず、体部の調整は他と同様である。2689 ～ 2695 は土師器の長胴甕であり、2689 は内面に、2690 は内外面に、2691 は外面に二次被熱を受けている。口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、体部内面はヘラナデあるいはユビナデ調整が施されている。

2696 は支脚であり、中空で底部に 1 対の切り込みが入っている。ユビナデ調整であるが、輪積み



図Ⅳ-2-186　SD188遺物出土状況



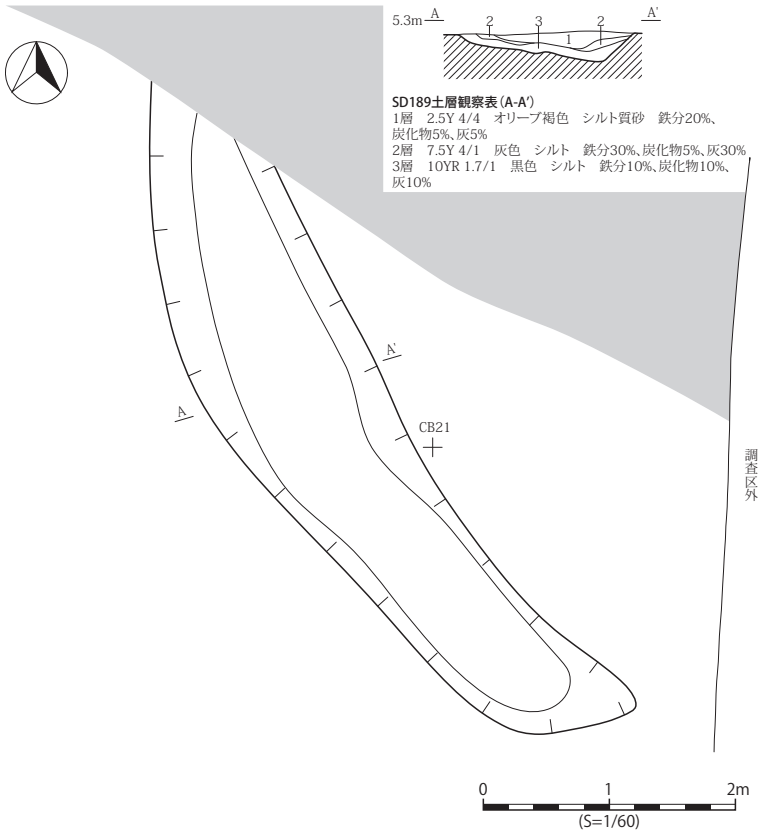
図Ⅳ-2-187　SD188 出土遺物

痕が明瞭に確認できるほど造りは粗雑である。2697 は土錘であり、外面に二次被熱を受けている。2698 は土玉であり、ユビナデ調整が施されている。

2699 は工具の柄の先端部分である。樹種はアスナロである。2700 は食事具の焼串であり、持ち手部分は未成形で、上部の細い部分を丁寧に削り出している。樹種はアスナロである。2701 は棒状の加工木であり、先端をやや尖らせている。樹種はアスナロである。2702・2703 は残材（木屑）であり、一部加工の痕跡が確認された。樹種はいずれもアスナロである。

（SD188）

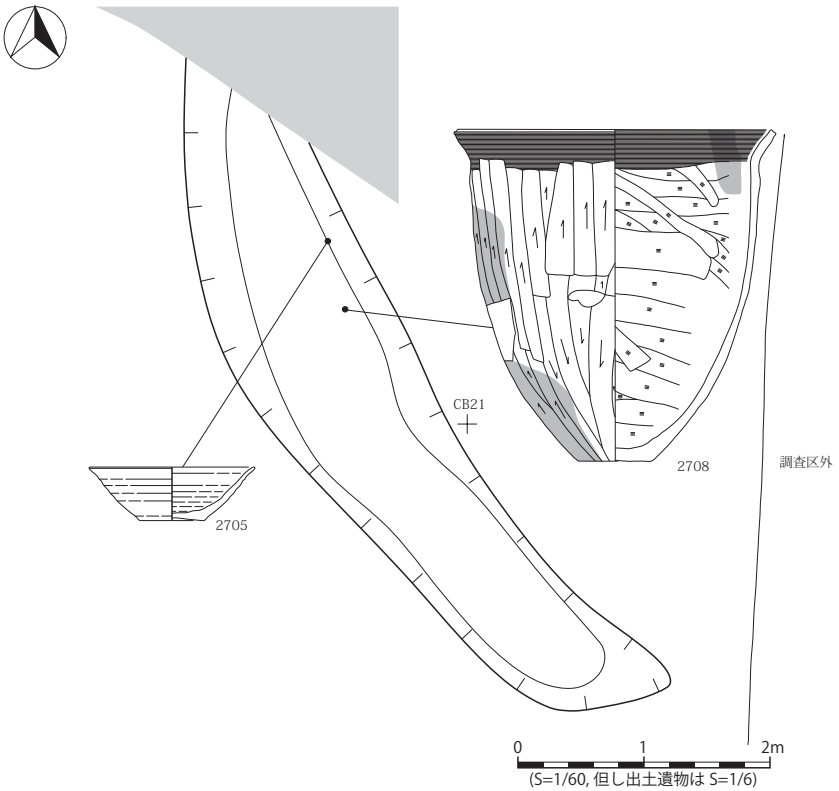
［位置・確認］グリッド CG19，20、CH19 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］調査区外へ延びているため正確な規模・形状は不明であるが、確認長 469cm、幅 81 ～ 103cm、深さ 45.5cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 129.0g、土師器坏 55.7g、土師器甕 417.9g 等が出土している（図Ⅳ -2-186）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-187）。2704 は土師器のミニチュアであり、外面に二次被熱を受けている。ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。



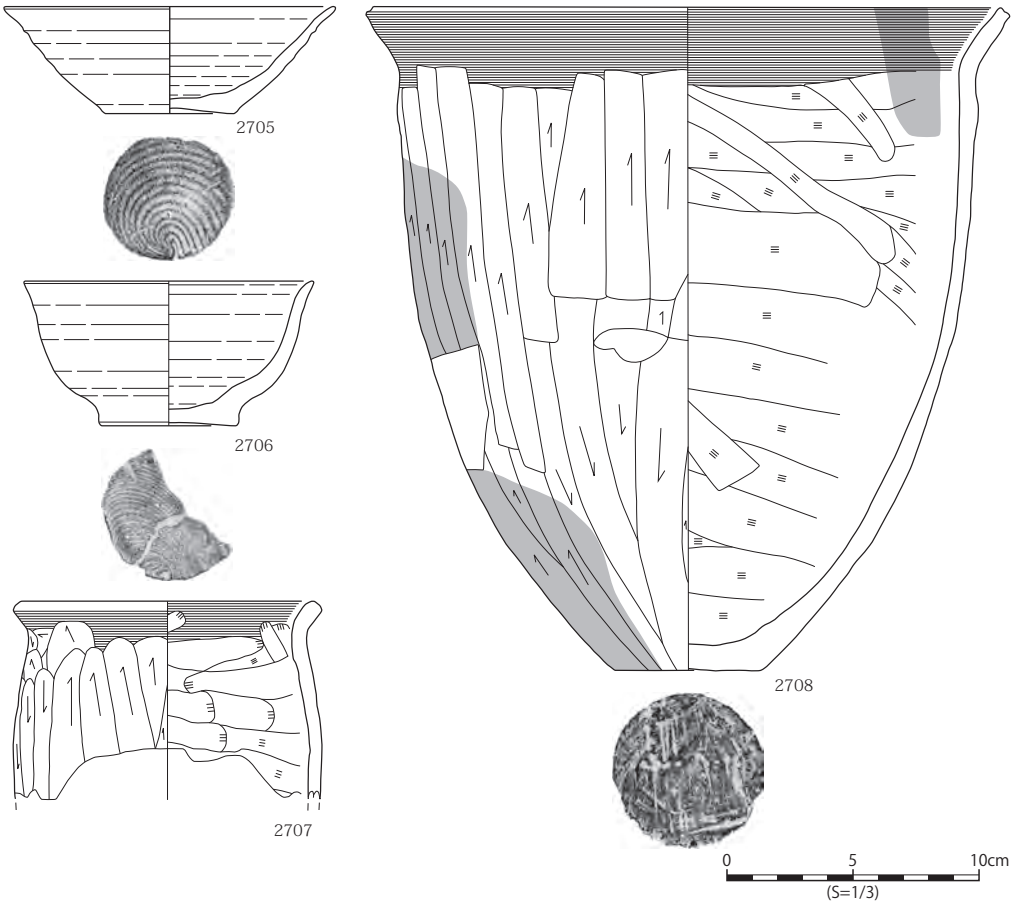
図Ⅳ-2-188　SD189

第 189 号溝跡（SD189、図Ⅳ -2-188）

［位置・確認］グリッド CA20，21、CB21 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 573cm、幅 90.5 ～ 134cm、深さ 34.5cm を測り、南東方向から北西方向にやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 6.2g、土師器坏 698.9g、土師器甕 3,160.6g 等が出土している（図Ⅳ -2-189）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅳ -2-190）。2705 は土師器の皿形坏であり、2706 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整で



図Ⅳ-2-189　SD189遺物出土状況

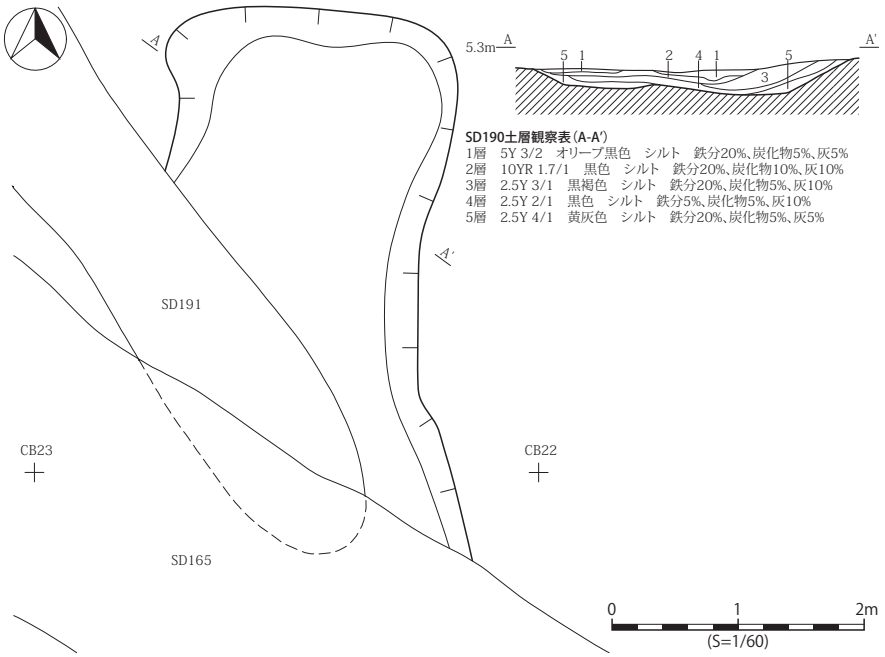


図Ⅳ-2-190　SD189 出土遺物

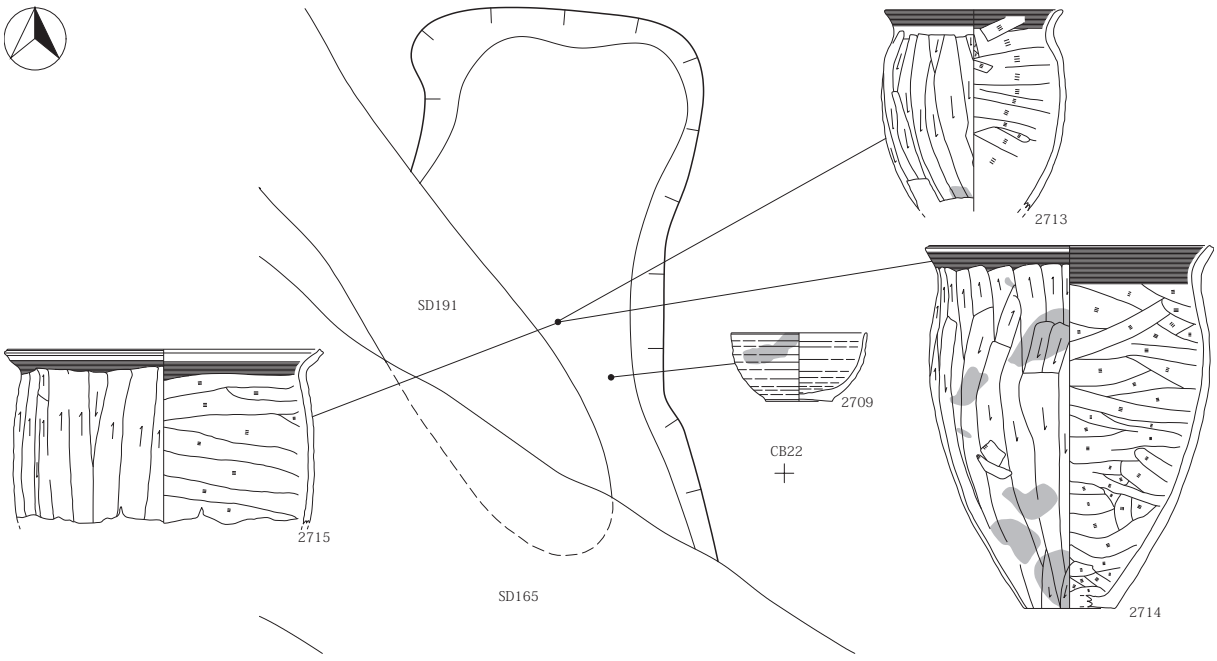
ある。2707 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデ調整が施されている。2708 は土師器の長胴甕であり、内外面に二次被熱を受けている。調整は 2707 と同様である。

第 190 号溝跡（SD190、図Ⅳ -2-191）

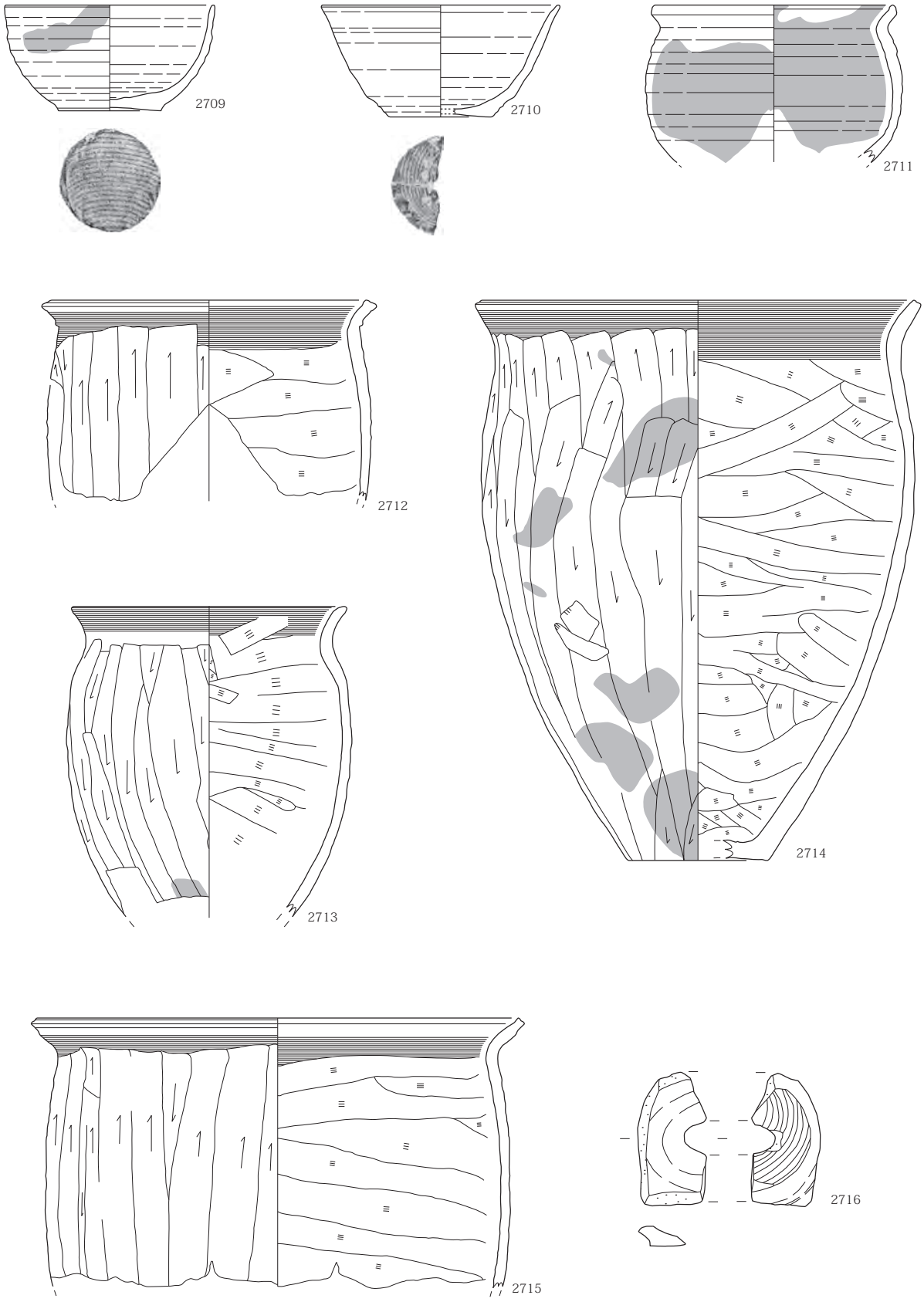
［位置・確認］グリッド CA20, 21、CB21 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］特になし。［規模・形状］近世以降の水田跡により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 573cm、幅 90.5 ～ 134cm、深さ 34.5cm を測り、南東方向から北西方向にやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 6.2g、土師器坏 698.9g、土師器甕 3,160.6g 等が出土している（図Ⅳ -2-192）。この内図示できたのは 8 点である（図Ⅳ -2-193）。2709・2710 は土師器の埦であり、2711 は土師



図Ⅳ-2-191　SD190

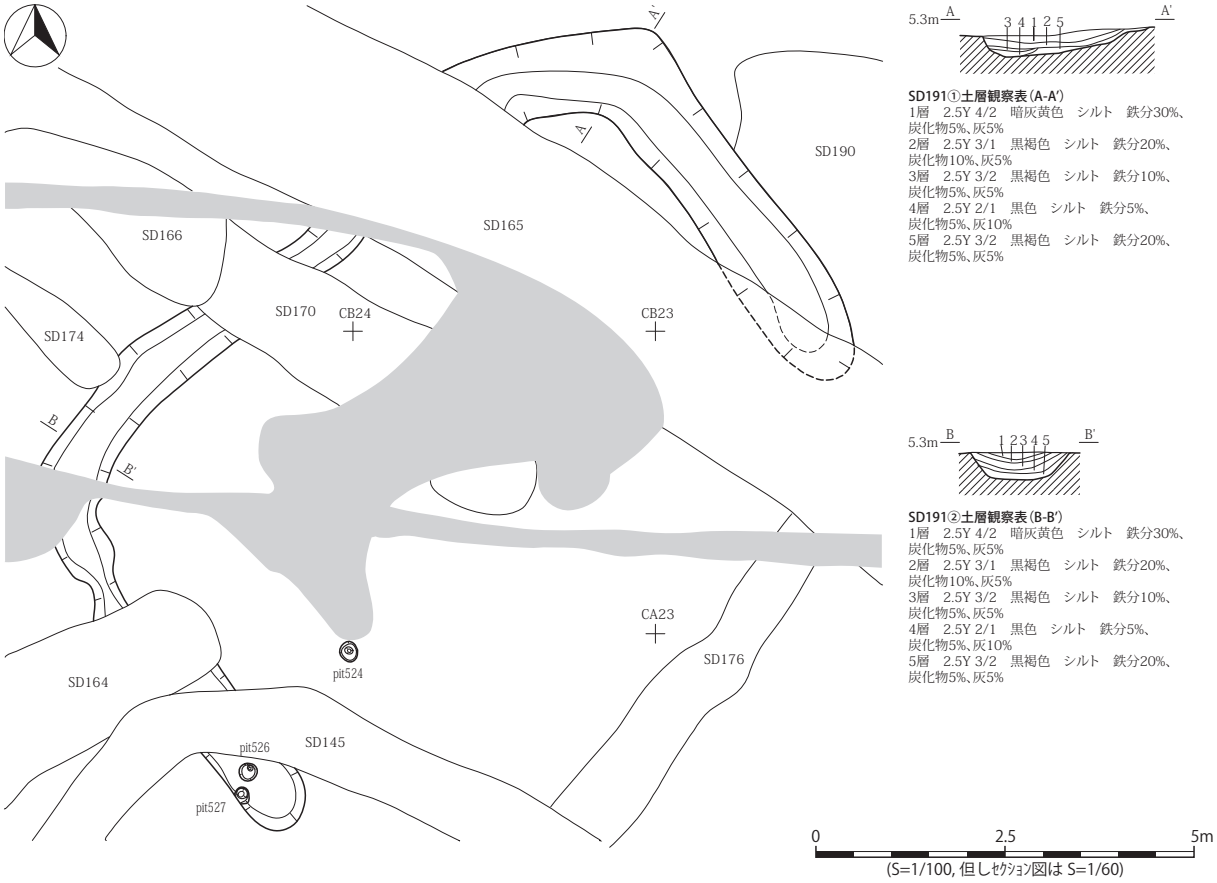


図Ⅳ-2-192　SD190遺物出土状況



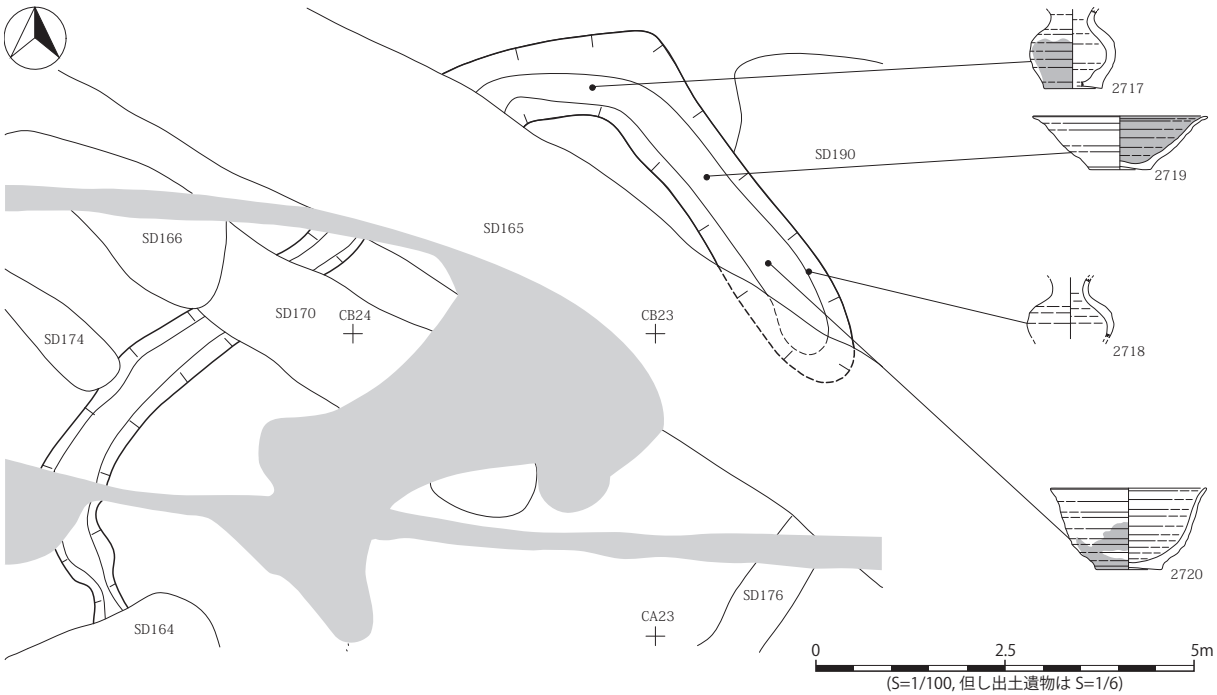
図Ⅳ-2-193　SD190 出土遺物

器の鉢であり、2711 は内外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切痕を



(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

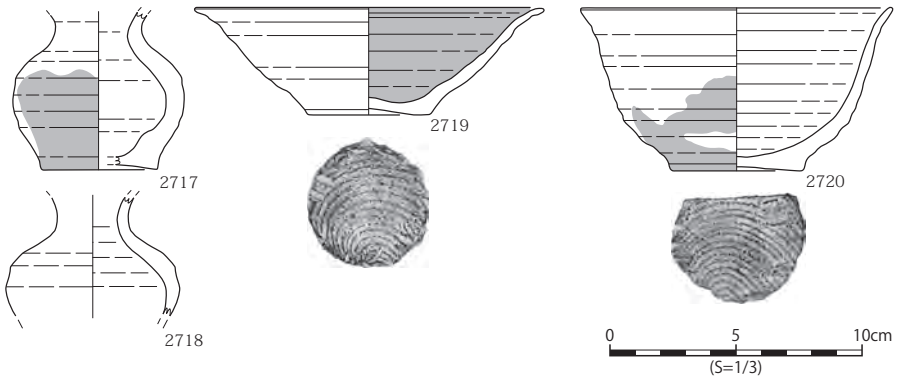
図IV-2-194　SD191



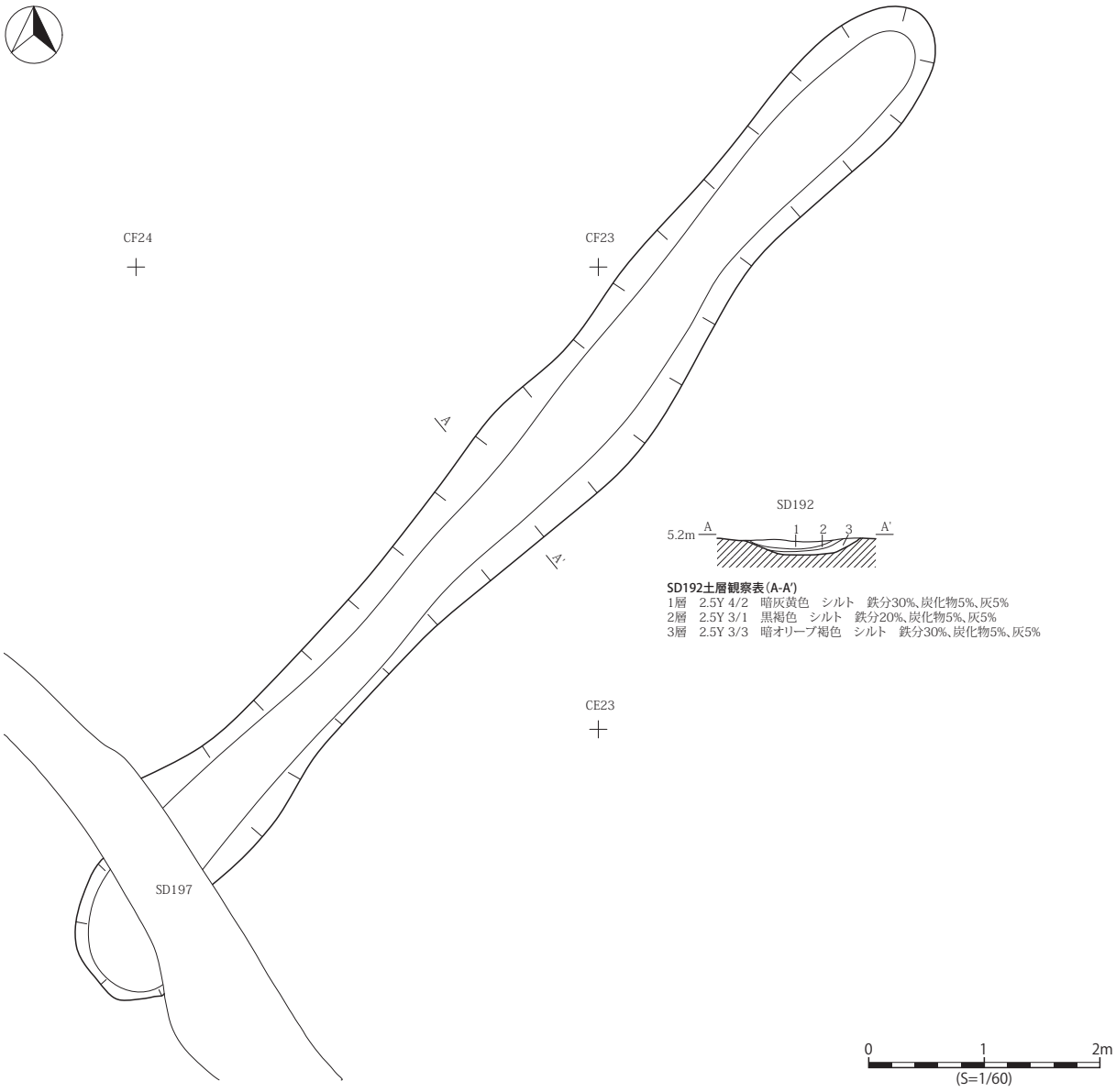
(S=1/100, 但し出土遺物は S=1/6)

図IV-2-195　SD191遺物出土状況

有し、無調整である。2712・2713は土師器の小型甕であり、2713は外面に二次被熱を受けている。口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデ調整が施されている。2714・2715は土師器の長胴甕であり、2714は外面に二次被熱を受けている。調整は土師器小型甕と同様である。2716は坏の底部破片の中心部に穿孔し、紡錘車として転用している。



図Ⅳ-2-196　SD191 出土遺物



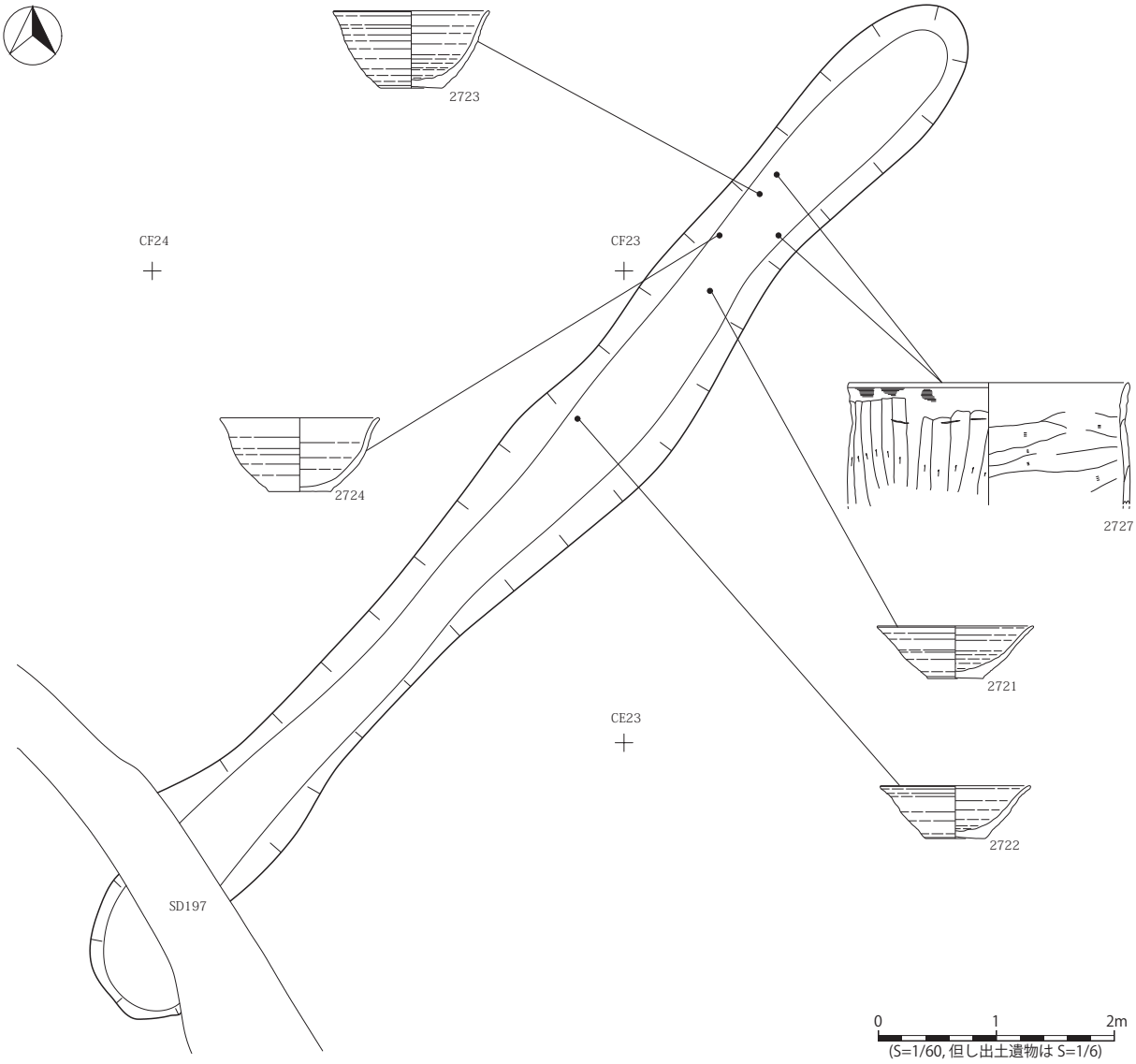
図Ⅳ-2-197　SD192

第 191 号溝跡（SD191、図Ⅳ -2-194）

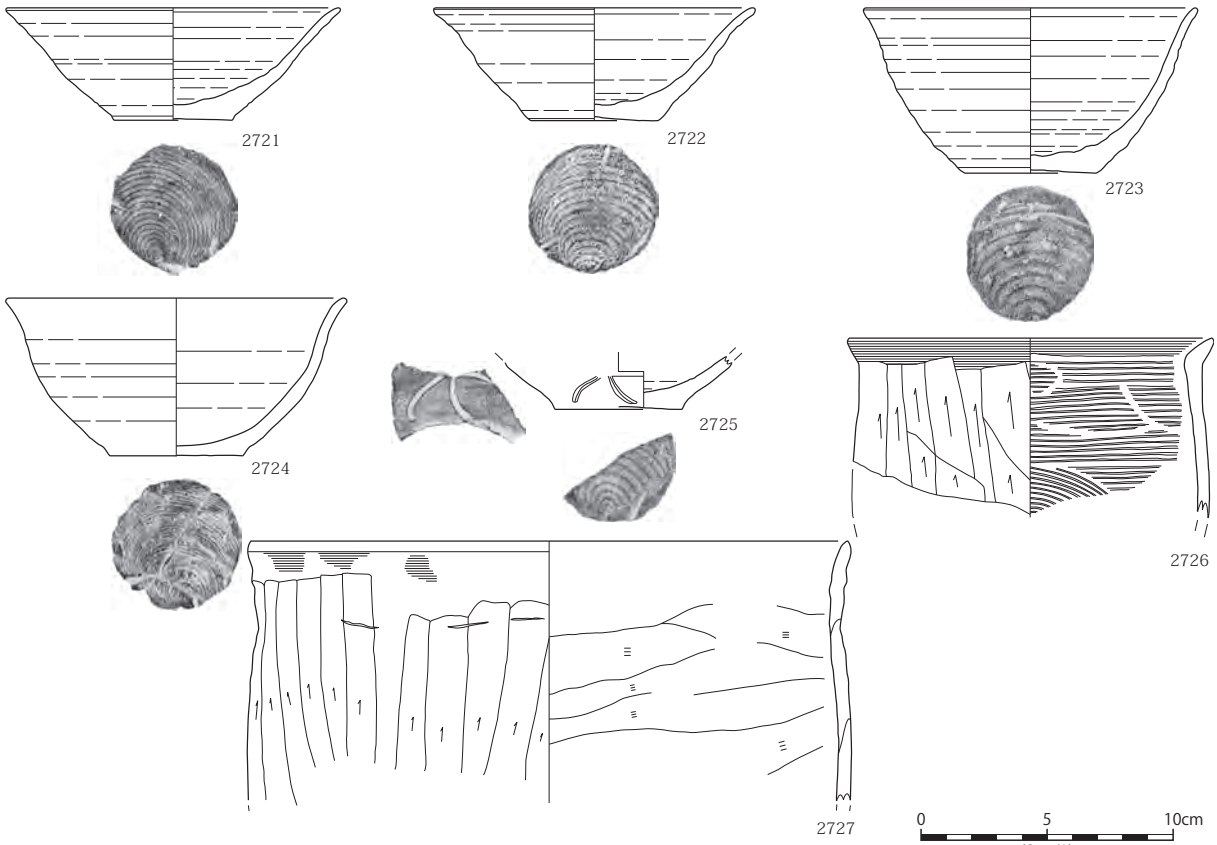
［位置・確認］グリッド BY24、CA22，24、CB22 ～ 24 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD145・164・165・170・174・190 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］各溝跡により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 1,967cm、幅 32 ～ 130cm、深さ 27cm を測り、南東方向に開口部を有するコの字状の溝跡である。［堆積土］5 層確認され、1 層はⅢ層由来の層で、それより下層は黒色土を主体とした層と黒褐色土を主体とした層が互層を成している。［出土遺物］土師器ミニチュア 126.9g、土師器坏 330.3g、土師器甕 901.7g 等が出土している（図Ⅳ -2-195）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅳ -2-196）。2717・2718 は土師器ミニチュアの壺であり、2717 は外面に二次被熱を受けている。2719 は土師器の皿形坏であり、内面に二次被熱を受けている。2720 は土師器の埦であり、外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。

第 192 号溝跡（SD192、図Ⅳ -2-197）

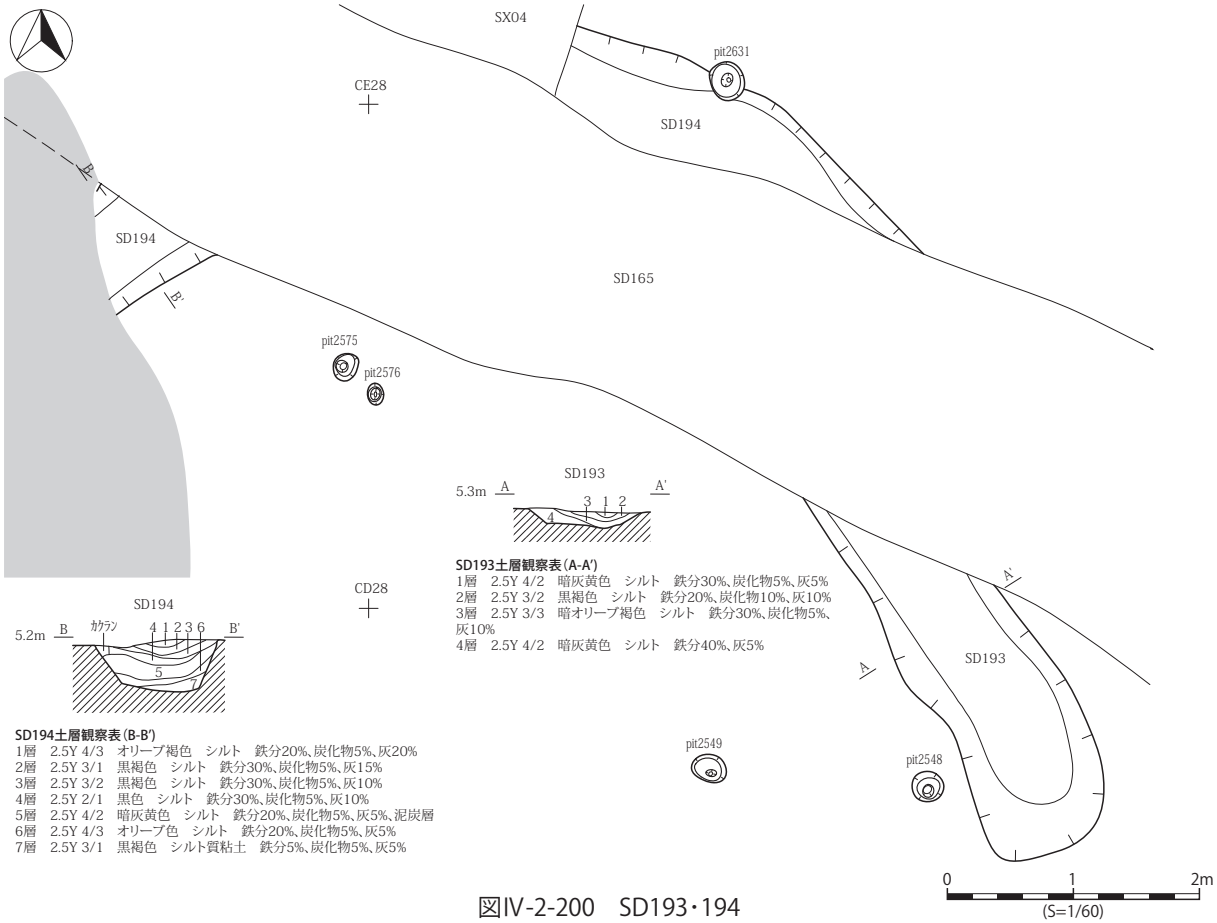
［位置・確認］グリッド CD23, 24、CE22, 23、CF22 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］



図Ⅳ-2-198　SD192遺物出土状況



図Ⅳ-2-199　SD192 出土遺物

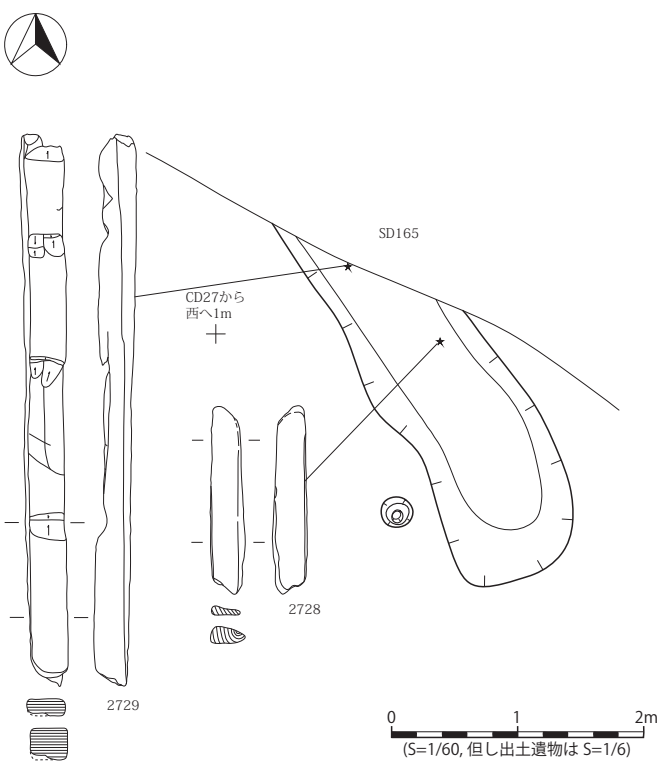


SD193土層観察表（A-A'）
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
4層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、灰5%

SD194土層観察表（B-B'）
1層　2.5Y 4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰20%
2層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰15%
3層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
4層　2.5Y 2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
5層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%、泥炭層
6層　2.5Y 4/3　オリーブ色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
7層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト質粘土　鉄分5%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-2-200　SD193・194

SD197 と重複関係にあり、SD197 よりも古い。［規模・形状］長さ 1,099cm、幅 70 ～ 114cm、深さ 19cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］3 層確認され、上層及び下層はⅢ層由来の層で、中層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 1033.3g、土師器甕 2,108.2g、須恵器甕 159.0、須恵器壺 66.9g 等が出土している（図Ⅳ -2-198）。この内図示できたのは 7 点である（図Ⅳ -2-199）。2721・2722 は土師器の埦形坏であり、2723・2724 は土師器の埦である。2726 は土師器坏の体部～底部にかけての破片であり、体部下半にヘラ記号が描かれている。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2725 は土師器の小型甕であり、口縁部内外面にユビナデ調整が施された後、体部外面はケズリ調整、体部内面はヘラナデ調整が施されている。2727 は土師器の長胴甕であり、口縁部外面にユビナデ調整が施された後、体部外面にケズリ調整、体部内面にユビナデ調整が施されている。



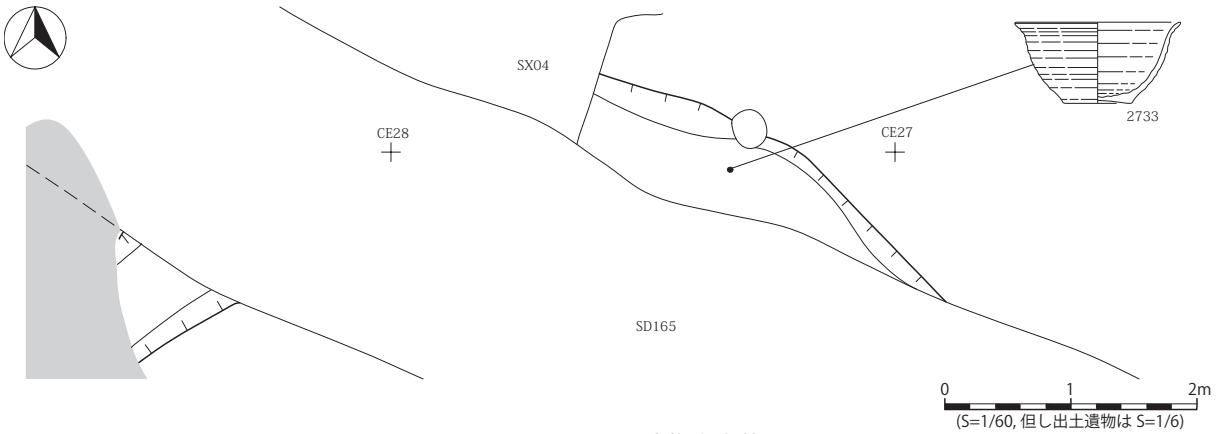
図Ⅳ-2-201　SD193遺物出土状況

第 193・194 号溝跡（SD193・194、図Ⅳ -2-200）

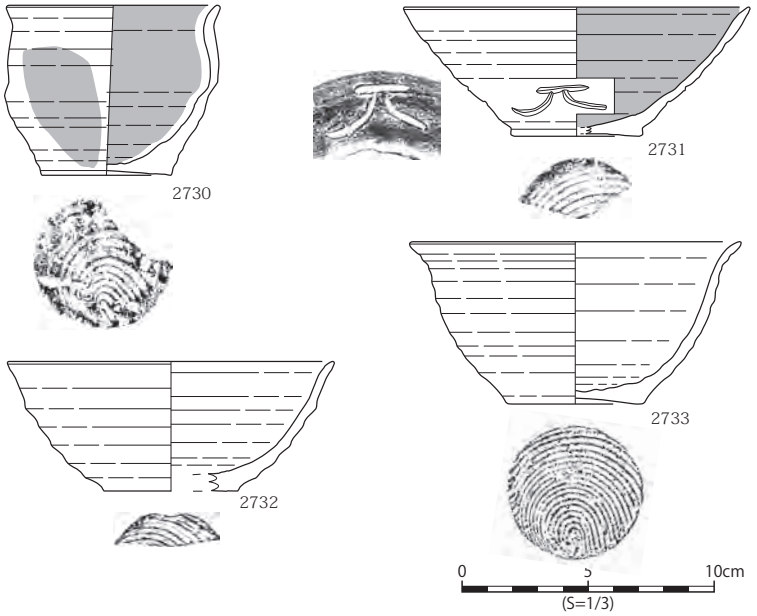
（SD193）

［位置・確認］グリッド CC26、CD26，27 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD165 と重複関係にあり、SD165 よりも古い。［規模・形状］SD165 により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 261cm、幅 95 ～ 105cm、深さ 41.5cm を測り、南東方向から北西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］4 層確認され、Ⅲ層由来の層と黒褐色土を主体とした層とが互層を成している。［出土遺物］土師器坏

図Ⅳ-2-202　SD193 出土遺物



図Ⅳ-2-203　SD194遺物出土状況



図Ⅳ-2-204　SD194 出土遺物

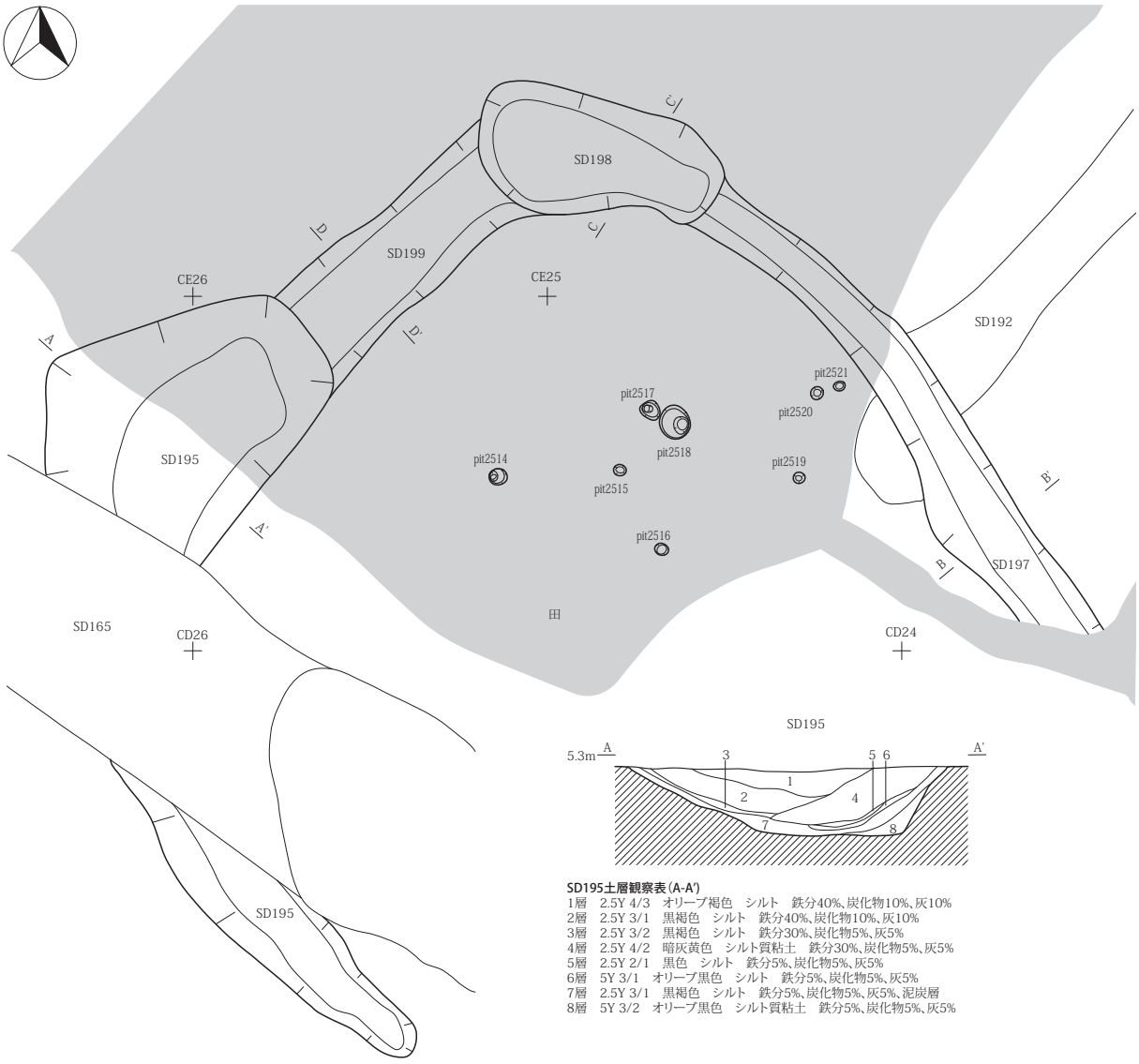
93.2g、土師器甕 368.7g、須恵器鉢 14.9g 等が出土している（図Ⅳ-2-201）。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅳ -2-202）。2728 は工具の楔であり、樹種はアスナロである。2729 は構造部材の横架材であり、1 面に 4 か所の加工痕を有し、長押の可能性が考えられる。樹種はアスナロである。

（SD194）

［位置・確認］グリッド CD26 ～ 28、CE26，27 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD165、SX04 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD165、SX04 及び近世以降の水田跡により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 610cm、幅 84 ～ 92cm、深さ 41cm を測り、南東方向から北西方向に延び、途中で向きを転じ、南西方向へと延びる L 字状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、Ⅲ層由来の層、黒褐色土を主体とした層及び黒色土を主体とした層が互層を成している。［出土遺物］土師器坏 467.0g、土師器甕 815.0g、須恵器ミニチュア 66.6g 等が出土している（図Ⅳ -2-203）。この内図示できたのは 4 点である（図Ⅳ -2-204）。2730 は土師器のミニチュアの甕であり、内外面に二次被熱を受けている。2731・2732 は土師器の埦形坏であり、2731 は外面にヘラ記号が描かれ、内面に二次被熱を受けている。2733 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。

第 195・197・198・199 号溝跡（SD195・197・198・199、図Ⅳ -2-205）

複数の溝跡により、全体で L 字状の溝跡を構成している。SD165 により、掘削されているため、正確な形状は不明であるが、後述する SD196 とも同一の溝跡を構成し、南東方向に開口部を有するコの字状の溝跡であると考えられる。また、溝跡で囲まれた内側には柱穴が検出されており、外周溝

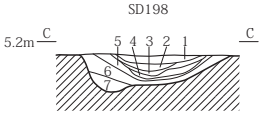


SD195

SD195土層観察表(A-A')

1層	2.5Y 4/3	オリーブ褐色	シルト	鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分40%、炭化物10%、灰10%
3層	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト	鉄分30%、炭化物5%、灰5%
4層	2.5Y 4/2	暗灰黄色	シルト質粘土	鉄分30%、炭化物5%、灰5%
5層	2.5Y 2/1	黒色	シルト	鉄分5%、炭化物5%、灰5%
6層	5Y 3/1	オリーブ黒色	シルト	鉄分5%、炭化物5%、灰5%
7層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分5%、炭化物5%、灰5%、泥炭層
8層	5Y 3/2	オリーブ黒色	シルト質粘土	鉄分5%、炭化物5%、灰5%

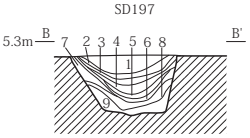
SD198



SD198土層観察表(C-C')

1層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層	10YR 1.7/1	黒色	シルト	鉄分5%、炭化物20%、灰20%
3層	2.5Y 3/1	黒褐	シルト	鉄分5%、炭化物5%、灰10%
4層	10YR 1.7/1	黒色	シルト	鉄分10%、炭化物10%、灰10%
5層	10YR 3/3	暗褐色	シルト	鉄分20%、炭化物5%、灰10%、泥炭層
6層	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト	鉄分20%、炭化物5%、灰30%
7層	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト	鉄分10%、炭化物5%、灰40%

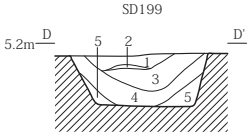
SD197



SD197土層観察表(B-B')

1層	2.5Y 3/3	暗オリーブ褐色	シルト	鉄分20%、炭化物5%、灰10%
2層	2.5Y 2/1	黒色	シルト	鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分20%、炭化物5%、灰10%
4層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分30%、炭化物10%、灰10%、焼土20%
5層	10YR 1.7/1	黒色	シルト	鉄分5%、炭化物20%、灰10%、焼土5%
6層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分5%、炭化物20%、灰10%
7層	10YR 2/3	黒褐色	シルト	鉄分30%、炭化物10%、灰10%、焼土10%
8層	10YR 1.7/1	黒色	シルト	鉄分5%、炭化物20%、灰10%、焼土5%
9層	10YR 4/3	にぶい黄褐色	シルト	泥炭層

SD199



SD199土層観察表(D-D')

1層	2.5Y 4/2	暗灰黄色	シルト	鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層	2.5Y 4/3	オリーブ褐色	シルト	鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト	鉄分30%、炭化物10%、灰5%
4層	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	鉄分40%、炭化物5%、灰10%
5層	2.5Y 3/2	黒褐色	シルト	鉄分30%、炭化物5%、灰5%

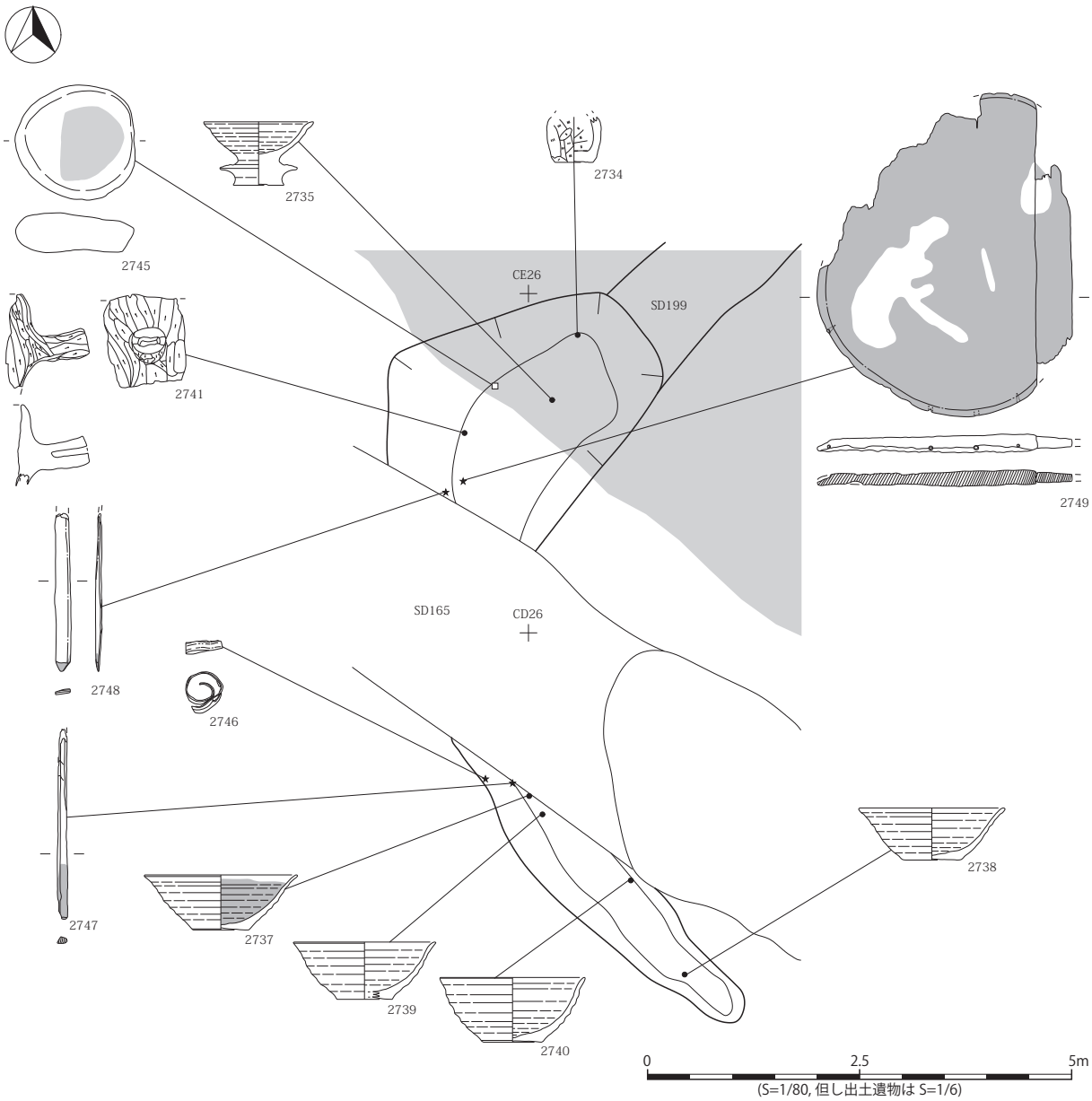
0 1 2m
(S=1/80, 但しセクション図は S=1/60)

図IV-2-205　SD195・197・198・199

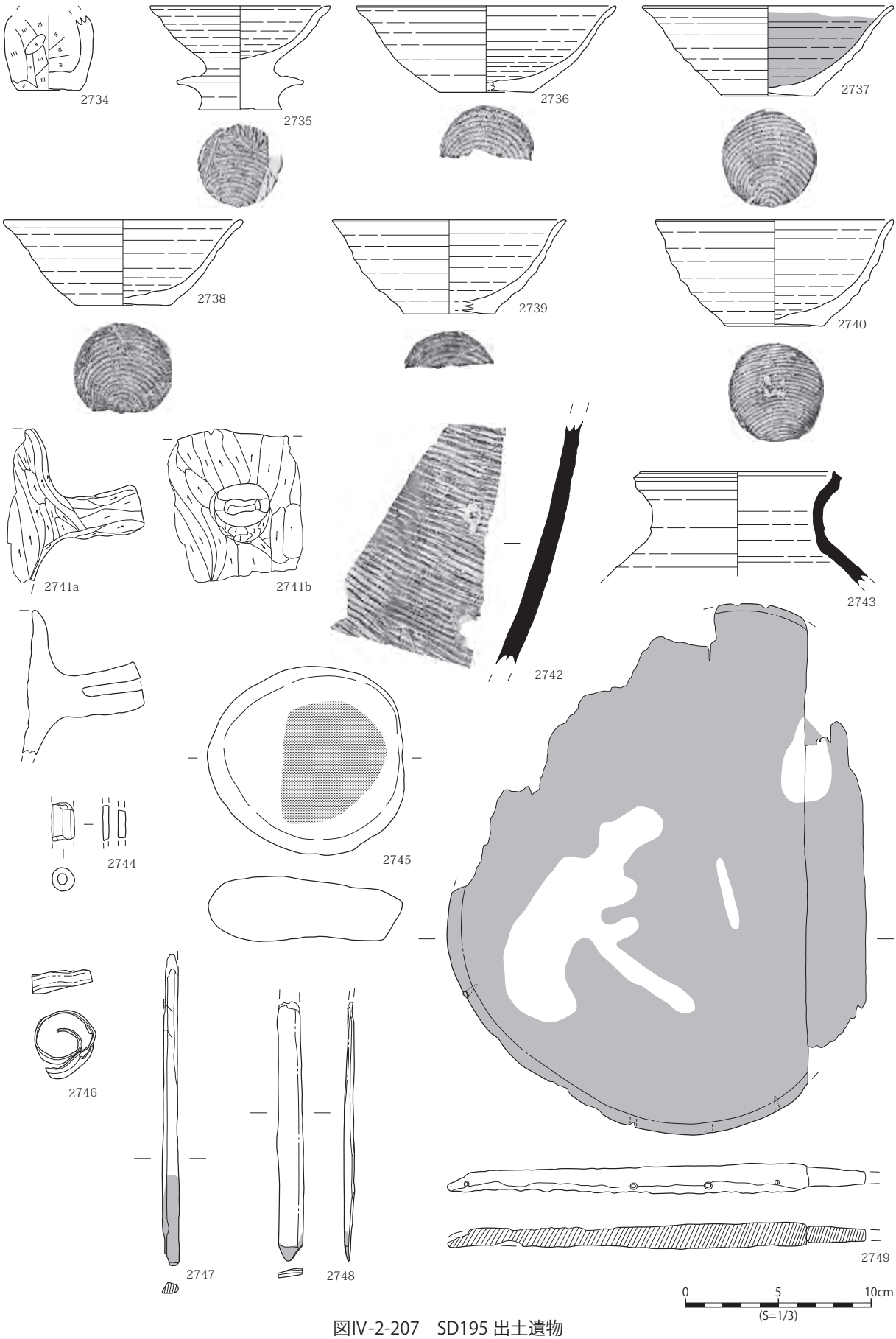
を有する建物跡が存在した可能性が高いと考えられる。

（SD195）

［位置・確認］グリッド CD25，26 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD165・199 と重複関係にあり、SD165 よりも古く、SD199 よりも新しい。［規模・形状］SD165 により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 295cm、幅 204 ～ 273cm、深さ 60cm を測り、南西方向から北東方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］8 層確認され、黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層とが互層を成している。［出土遺物］土師器ミニチュア 55.8g、土師器坏 1,552.2g、土師器甕 3,607.0g、須恵器甕 166.2g、須恵器壺 60.0g 等が出土している（図Ⅳ -2-206）。この内図示できたのは 16 点である（図Ⅳ -2-207）。2734 は土師器のミニチュアの甕であり、非ロクロでユビナデ成形である。2735 は台付坏であり、高台部上端に鍔状の張り出しを有す



図Ⅳ-2-206　SD195遺物出土状況



図Ⅳ-2-207　SD195 出土遺物

る。ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2736 は土師器の皿形坏であり、2737・2738 は土師器の埦形坏であり、2737 は内面に二次被熱を受けている。2739・2740 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2741 は把手付土器であり、把手部は中空で、外面にケズリ調整が施されている。2742 は須恵器の甕であり、平行タタキ目が見られる。2743 は須恵器の広口壺であり、ロクロ整形である。

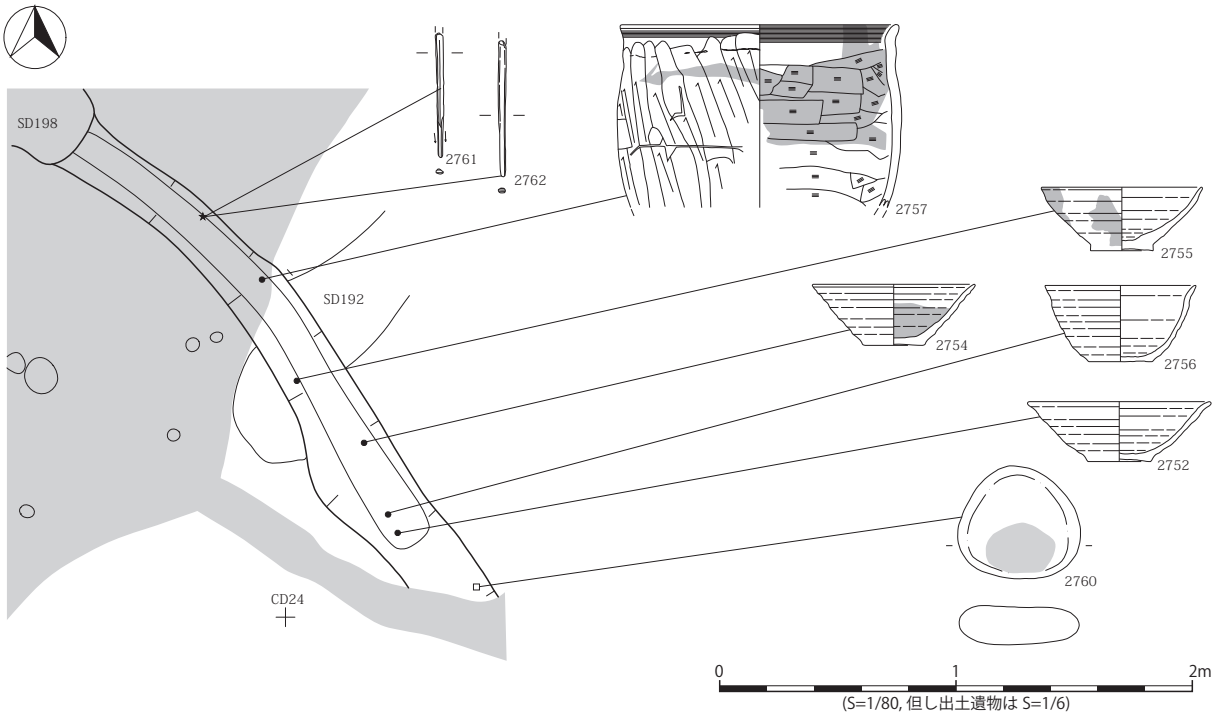
2744 は土錘であり、外面にユビナデ調整が施されている。小型のものであることから内水面の網漁に使用されたものであると考えられる。

2745 は砥石であり、扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。材質は花崗閃緑岩である。

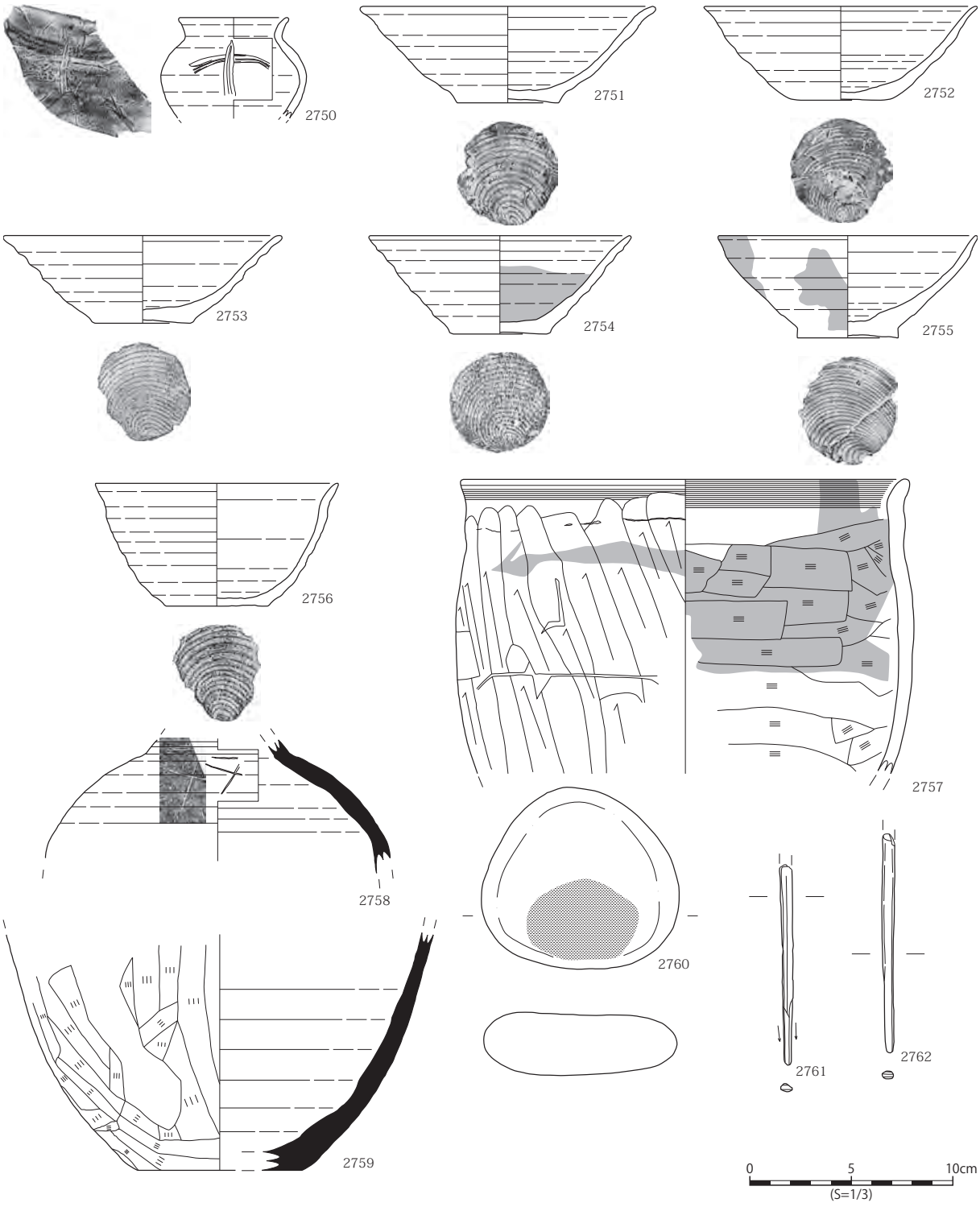
2746 は緊縛具の樹皮巻であり、樹種は不明であるが、針葉樹である。2747・2748 は加工木の棒材であり、いずれも片側端部に炭化が見られ、燃えさしの可能性も考えられる。樹種はいずれもアスナロである。2479 は曲物底板であり、全面に炭化が見られる。一部に木釘孔が確認された。樹種はアスナロである。

(SD197)

［位置・確認］グリッド CD23，24、CE24 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD192・198 と重複関係にあり、SD198 よりも古く、SD192 よりも新しい。［規模・形状］SD198 及び近世以降の水田跡により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 631cm、幅 52 ～ 96cm、深さ 59cm を測り、南東方向から北西方向にやや弧状に延びる溝跡である。［堆積土］9 層確認され、黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層とが互層を成している。［出土遺物］土師器ミニチュア 19.0g、土師器坏 1,590.2g、土師器甕 2,775.0g、須恵器甕 120.4g、須恵器壺 322.6g 等が出土している（図Ⅳ -2-208）。この内図示できたのは 13 点である（図Ⅳ -2-209）。2750 は土師器のミニチュアの壺であり、体部外面にヘラ記号が描かれている。2751 ～ 2753 は土



図Ⅳ-2-208　SD197遺物出土状況

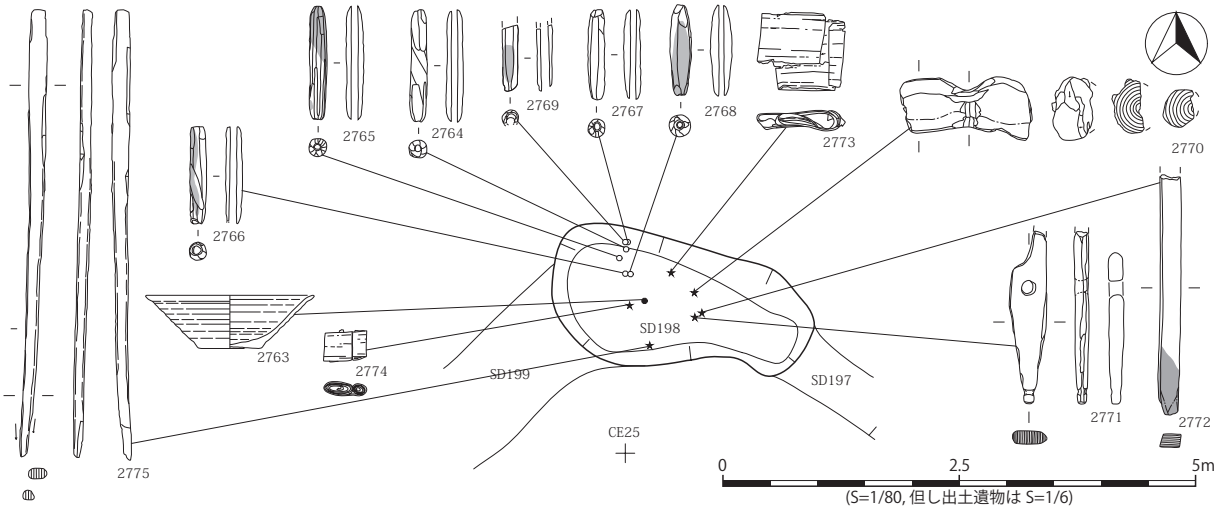


図Ⅳ-2-209　SD197 出土遺物

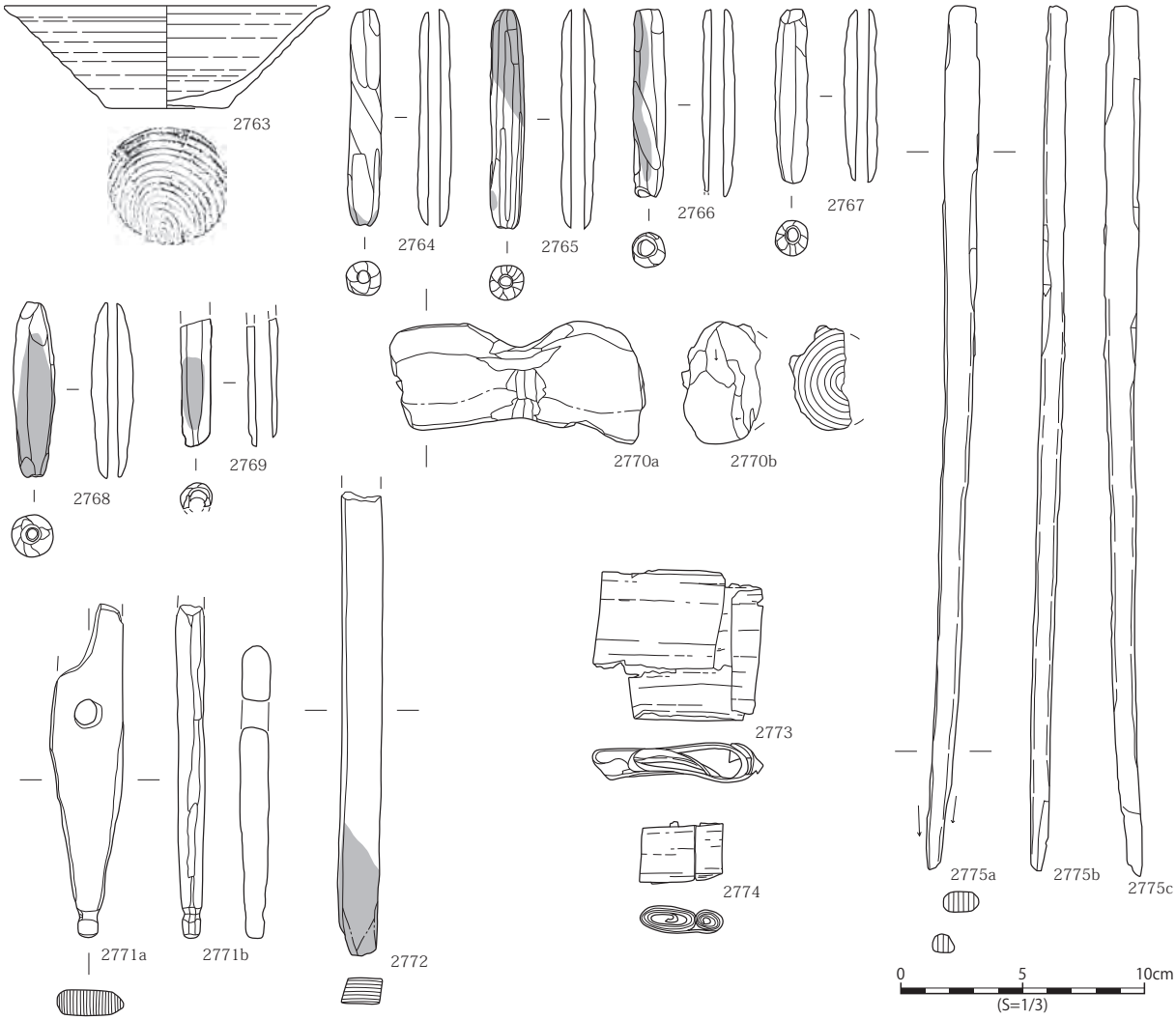
師器の皿形坏であり、2754・2755 は土師器の埦形坏であり、2754 は内面に、2755 は外面に二次被熱を受けている。2756 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2757 は土師器の長胴甕であり、内外面に二次被熱を受けている。口縁部内外面にヨコナデ調整が施された後体部外面にケズリ調整、体部内面にユビナデ調整が施されている。2758・2759 は須恵器の壺であり、2758 は体部上半外面にヘラ記号が描かれている。2758 はロクロ整形、

2759 はロクロ整形後体部外面にケズリ調整が施されている。

2760 は砥石であり、扁平な円礫の平坦部を砥面として使用している。材質は流紋岩である。



図Ⅳ-2-210　SD198遺物出土状況



図Ⅳ-2-211　SD198 出土遺物

2761 は箸状木製品であり、側面をそぎ削り、片側を尖らせている。一部炭化の可能性がある。樹種はアスナロである。2762 は箸であり、側面をそぎ削り、片側を尖らせている。全体的に磨り面が確認された。樹種はアスナロである。

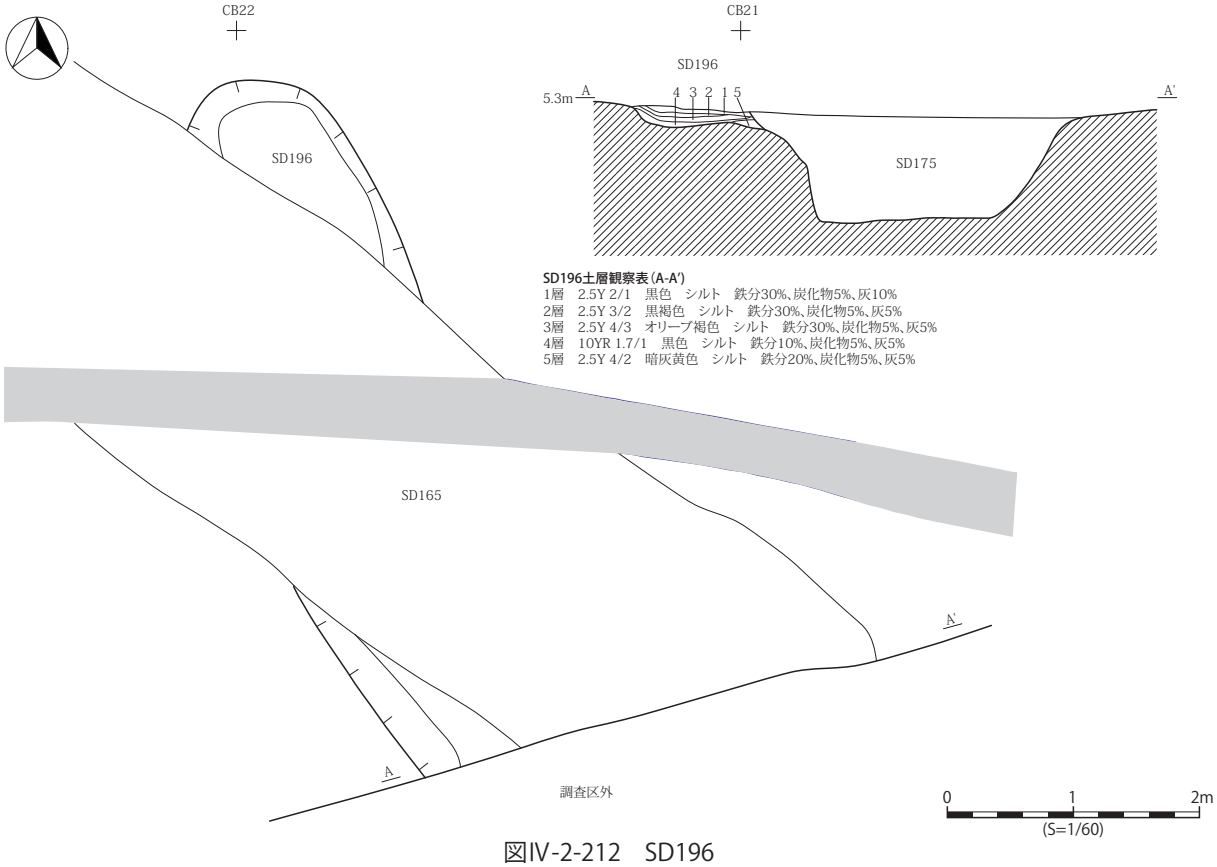
(SD198)

［位置・確認］グリッド CE24，25 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複関係］SD197・199 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模・形状］長さ 277.5cm、幅 102 ～ 144.5cm、深さ 36cm を測り、東西方向に延びる直線状の溝跡である。［堆積土］7 層確認され、黒褐色土を主体とした層と黒色土を主体とした層とが互層を成している。［出土遺物］土師器坏 129.4g、土師器甕 270.4g、須恵器甕 6.1g、須恵器壺 133.8g 等が出土している（図Ⅳ -2-210）。この内図示できたのは 13 点である（図Ⅳ -2-211）。2763 は土師器の皿形坏であり、ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。

2764 ～ 2769 は土錘であり、2765・2766・2768・2769 は外面に二次被熱を受けている。ユビナデ調整であり、小型のものであることから内水面の網漁に使用されたものであると考えられる。

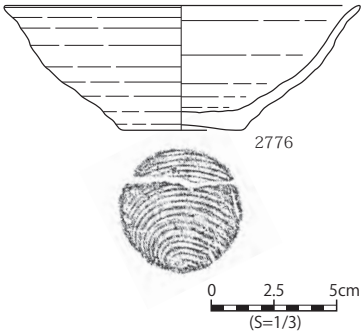
2770 は編台の錘であり、芯持ち丸木材の中央部を細く造り出している。樹種はコナラ属コナラ節である。2771 は編み具・紡織具の糸巻き桟であり、中央に軸を通す孔を有し、端部は枘穴に固定する接続部分である。樹種はアスナロである。2772 は雑具の燃えさしであり、端部が炭化している。樹種はアスナロである。2773･2774 は緊縛具の樹皮巻であり、樹種は不明であるが針葉樹皮である。2775 は棒状不明製品であり、側面に面取り調整が施されている。樹種はアスナロである。

(SD199)



図Ⅳ-2-212　SD196

［位置・確認］グリッド CD・CE25 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD195・198 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも古い。［規模・形状］SD195・198 により掘削を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 269cm、幅 106 ～ 119cm、深さ 44cm を測り、南西方向から北東方向へと延びる直線状の溝跡である。［堆積土］5 層確認され、上層はⅢ層由来の層、下層は黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］特になし。



図Ⅳ-2-213　SD196 出土遺物

第 196 号溝跡（SD196、図Ⅳ -2-212）

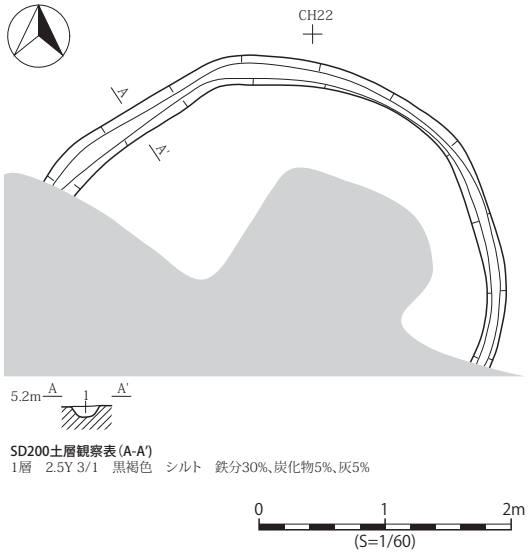
［位置・確認］グリッド BY21、CA21，22 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD165 と重複関係にあり、SD165 よりも古い。［規模・形状］調査区外へと延びているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 571cm、幅 108cm、深さ 25cm を測り、南東方向から北西方向へと延びる直線状の溝跡である。［堆積土］5 層確認され、Ⅲ層由来の層、黒褐色土を主体とした層及び黒色土を主体とした層が互層を成している。［出土遺物］土師器坏 187.5g、土師器甕 1,091.7g 等が出土している。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -2-213）。2776 は土師器の埦形坏であり、ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。

第 200 号溝跡（SD200、図Ⅳ -2-214）

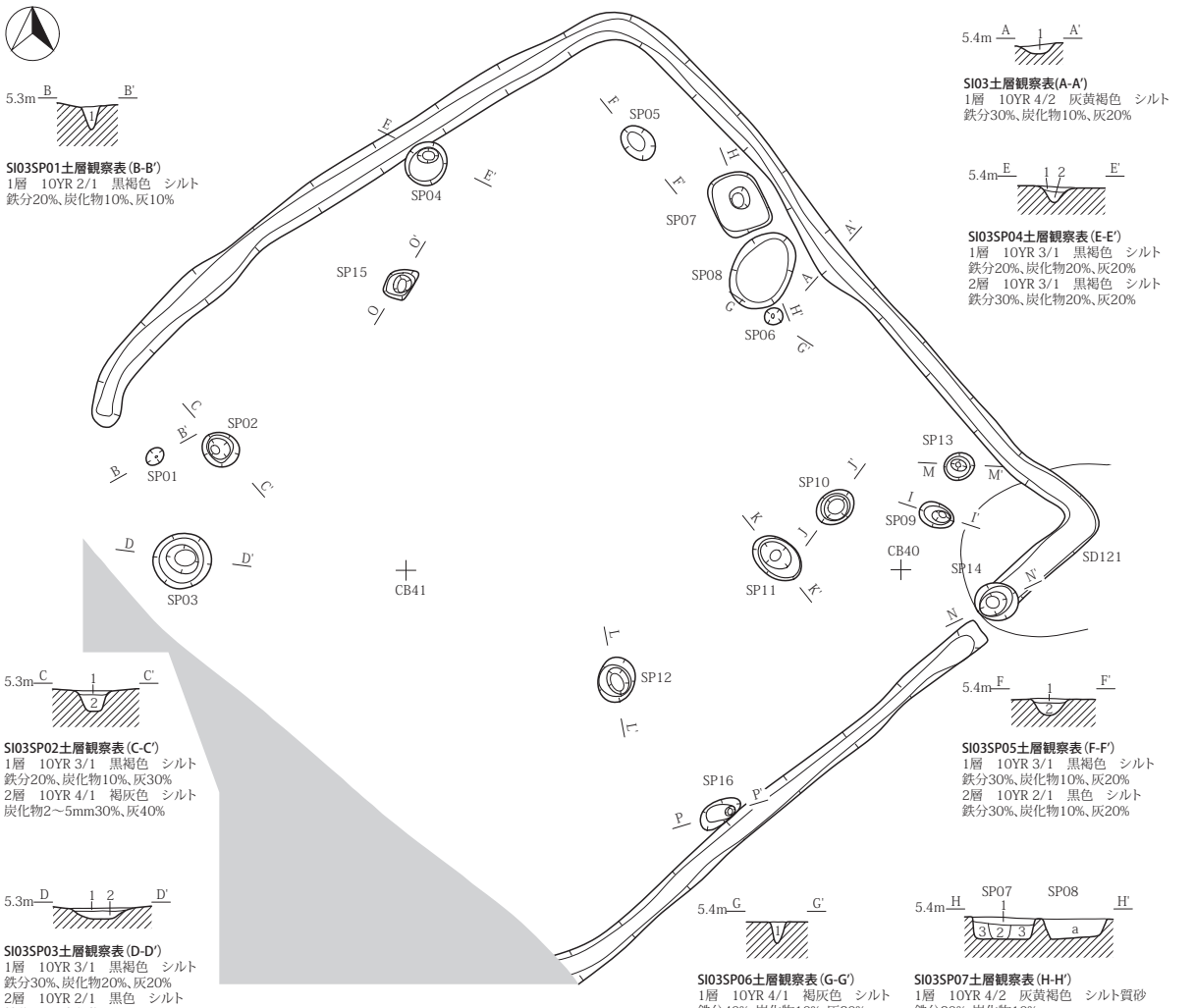
［位置・確認］グリッド CG21, 22 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］特になし。［規模・形状］風倒木による撹乱を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 538cm、幅 12 ～ 29cm、深さ 12cm を測る曲線状の溝跡である。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 10.5g、土師器甕 21.7g 等が出土している。

第 3 号竪穴住居跡（SI03、図Ⅳ -2-215）

［位置・確認］グリッド CA・CB39 ～ 41，CC40 に位置し、Ⅳ層上面で壁溝とピットのみ確認された。［重復関係］SD121 と重複関係にあり、SD121 よりも新しい。［規模・形状］水田による撹乱を受けているため正確な規模・形状は不明であるが、現存長 1,694cm、幅 15 ～ 34cm、深さ 6cm を測る隅丸方形の溝跡であると考えられる。ピットは全部で 16 基確認された（SP01 ～ 16）。［堆積土］1 層確認され、黒褐色土を主体とした層で形成されている。［出土遺物］特になし。



図Ⅳ-2-214　SD200



5.3m B B'

SI03SP01土層観察表(B-B')
1層　10YR 2/1　黒褐色　シルト
鉄分20%、炭化物10%、灰10%

5.4m A 1 A'

SI03土層観察表(A-A')
1層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分30%、炭化物10%、灰20%

5.4m E 1 2 E'

SI03SP04土層観察表(E-E')
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分20%、炭化物20%、灰20%
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分30%、炭化物20%、灰20%

5.3m C 1 2 C'

SI03SP02土層観察表(C-C')
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分20%、炭化物10%、灰30%
2層　10YR 4/1　褐灰色　シルト
炭化物2～5mm30%、灰40%

5.4m F 1 2 F'

SI03SP05土層観察表(F-F')
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分30%、炭化物10%、灰20%
2層　10YR 2/1　黒色　シルト
鉄分30%、炭化物10%、灰20%

5.3m D 1 2 D'

SI03SP03土層観察表(D-D')
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分30%、炭化物20%、灰20%
2層　10YR 2/1　黒色　シルト
鉄分10%、炭化物20%、灰30%

5.4m G G'

SI03SP06土層観察表(G-G')
1層　10YR 4/1　褐灰色　シルト
鉄分40%、炭化物10%、灰20%

5.4m H SP07 SP08 H'

SI03SP07土層観察表(H-H')
1層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分20%、炭化物10%
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分10%
3層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分20%、炭化物10%

SI03SP08土層観察表(H-H')
a層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分10%、
炭化物10%

5.4m I 3 2 1 3 I'

SI03SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質砂
鉄分20%、炭化物10%
2層　10YR 3/2　黒褐色　シルト
鉄分10%
3層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質砂
鉄分20%、炭化物10%

5.4m J 1 3 J'

SI03SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR 4/3　にぶい黄褐色　シルト質砂
鉄分20%、炭化物10%
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分20%、炭化物10%
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分20%、炭化物10%
4層　10YR 4/3　にぶい黄褐色　シルト質砂
鉄分20%、炭化物10%

5.4m K 3 1 K'

SI03SP11 土層観察表（K-K'）
1 層　10YR 4/3　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分 30%、炭化物 10%
2 層　10YR 4/1　褐灰色　シルト
鉄分 30%、炭化物 10%
3 層　10YR 4/3　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分 30%、炭化物 10%

5.4m L 3 1 2 3 L'

SI03SP12 土層観察表（L-L'）
1 層　10YR 4/3　にぶい黄褐色　シルト質砂
鉄分 10%、炭化物 5%
2 層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分 10%、炭化物 10%
3 層　10YR 4/3　にぶい黄褐色　シルト質砂
鉄分 10%、炭化物 5%

5.4m M 3 1 2 3 M'

SI03SP13 土層観察表（M-M'）
1 層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分 20%
2 層　10YR 4/2　にぶい黄褐色　シルト
鉄分 10%
3 層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分 20%

5.4m N 3 1 N'

SI03SP14 土層観察表（N－N'）
1 層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分 30%、炭化物 10%
2 層　10YR 2/2　黒褐色　シルト
鉄分 10%、炭化物 10%
3 層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂
鉄分 30%、炭化物 10%

5.4m O 3 1 2 3 O'

SI03SP15 土層観察表（O-O'）
1 層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分 20%、炭化物 20%、灰 20%
2 層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分 30%、炭化物 20%、灰 20%
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト
鉄分30%、炭化物20%、灰20%

5.4m P 3 1 2 P'

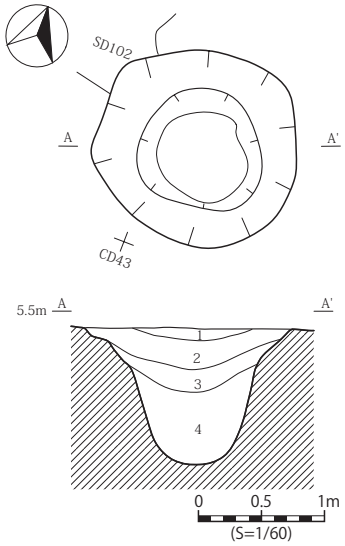
SI03SP16 土層観察表（P-P'）
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト
鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分 10%、炭化物 10%、灰 20%

0 1 2m
(S=1/60)

図IV-2-215　SI03

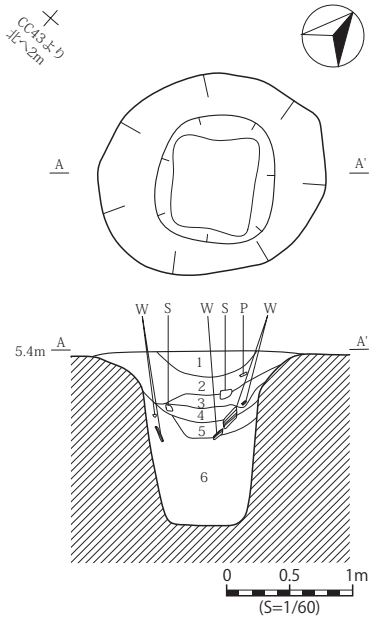
第３節　井戸跡（SE）

井戸跡は全部で９基検出された。SE14 の隅丸方形の平面プランを除いて掘り込み面は円形ないしは楕円形を呈する。深さ 30 ～ 50cm 程までは、緩やかな傾斜で掘削し、その後ほぼ垂直に井戸床面



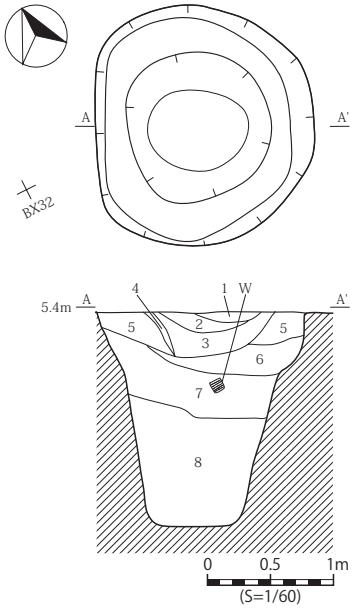
SE11土層観察表(A-A')
1層　10YR 4/2　灰黄褐色　鉄分少量、灰多量
2層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR 3/2　黒褐色　シルト質粘土
4層　10YR 3/1　黒褐色　シルト質粘土

図Ⅳ-3-1　SE11



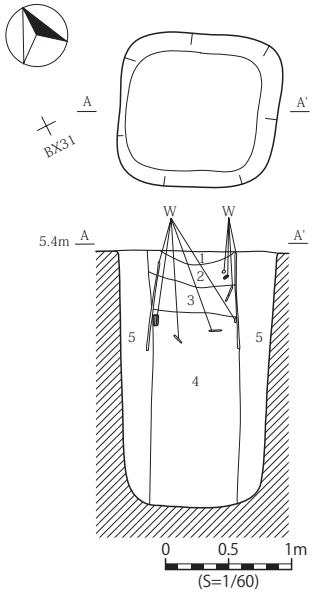
SE12土層観察表(A-A')
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～20mm中量、灰多量
2層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物2～5mm中量、灰中量
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰中量
4層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質粘土　鉄分少量、炭化物5mm～微量、灰多量
5層　2.5Y 3/1　黒褐色　粘土　鉄分少量、炭化物微量、灰多量
6層　10YR 2/1　黒色　シルト　泥炭層

図Ⅳ-3-2　SE12



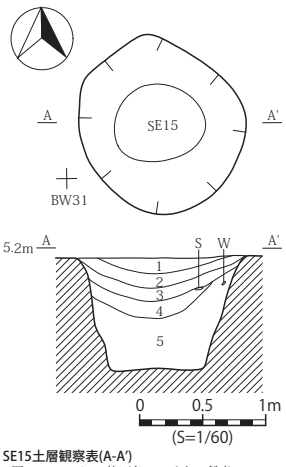
SE13土層観察表(A-A')
1層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分50%、炭化物40%、灰30%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰10%
4層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物5%、灰40%
5層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰20%
6層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
7層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
8層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト　炭化物10%、灰10%

図Ⅳ-3-3　SE13



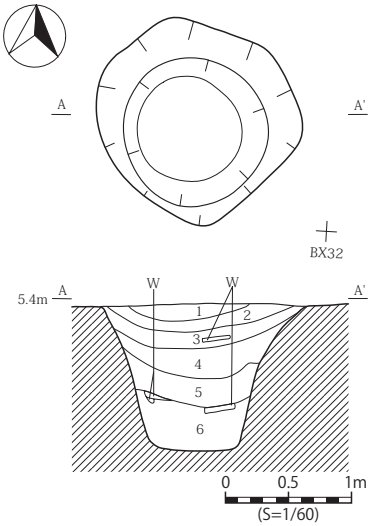
SE14土層観察表(A-A')
1層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～10mm20%、灰30%
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～15mm20%、灰30%
3層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～10mm30%、灰30%
4層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト質粘土　鉄分40%、炭化物1～3cm10%、灰20%
5層　2.5Y 4/4　オリーブ褐色　シルト質　鉄分40%、炭化物5～10mm20%、灰30%

図Ⅳ-3-4　SE14



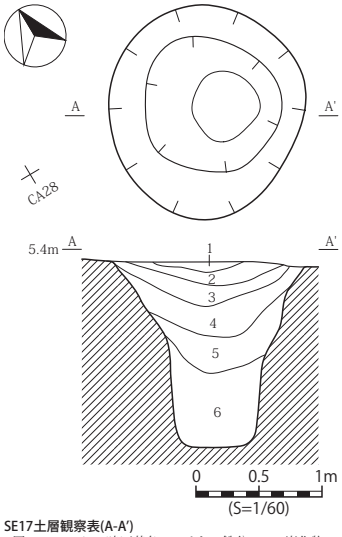
SE15土層観察表(A-A')
1層　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト　鉄分60%、炭化物2～30mm20%、灰30%
2層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト質粘土　鉄分50%、炭化物2～10mm10%、灰10%
3層　10YR 4/1　褐灰色　シルト　鉄分50%、炭化物5～30mm20%、灰30%
4層　10YR 3/1　黒褐色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物5～20mm10%、灰20%
5層　10YR 2/1　黒　シルト　炭化物2～10mm20%、灰30%

図Ⅳ-3-5　SE15



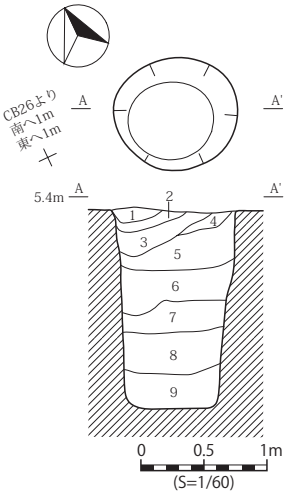
SE16土層観察表(A-A')
1層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分20%、炭化物10%、灰5%
2層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分20%
3層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%
4層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分10%
5層　2.5GY 2/1　黒色　シルト質粘土
6層　2.5GY 2/1　黒色　シルト質粘土

図Ⅳ-3-6　SE16



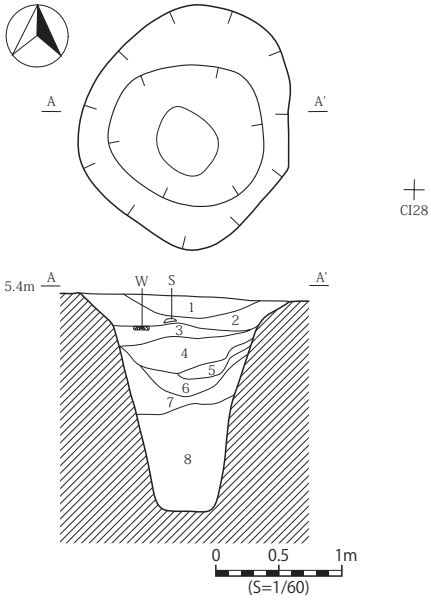
SE17土層観察表(A-A')
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰15%
3層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物15%、灰20%、焼土5%
4層　2.5Y 4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
5層　10YR 3/1　オリーブ黒色　シルト質粘土　鉄分10%、灰10%
6層　10YR 3/1　オリーブ黒色　シルト質砂　灰10%

図Ⅳ-3-7　SE17



SE18土層観察表(A-A')
1層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y 2/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
4層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
5層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰5%
6層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分5%、炭化物10%、灰10%
7層　2.5Y 4/1　黄灰色　シルト　鉄分5%、炭化物5%、灰10%
8層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト質粘土　炭化物5%、灰10%
9層　5Y 4/1　灰色　シルト質粘土　L鉄分5%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-3-8　SE18



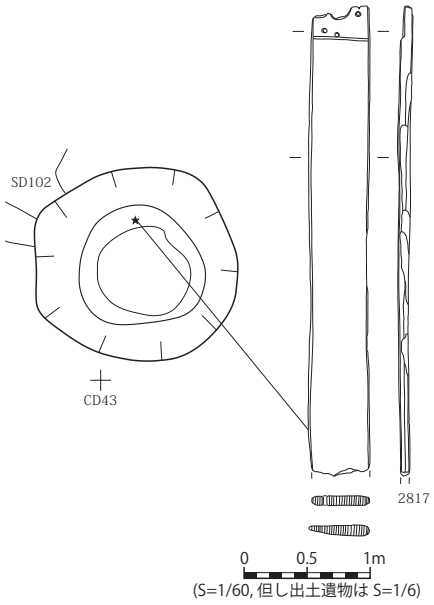
SE19土層観察表(A-A')
1層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰5%
4層　2.5Y 2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰5%、泥炭層
5層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%、灰10%
6層　10YR 2/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%、泥炭層
7層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト質粘土　鉄分5%、炭化物5%、灰5%
8層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト質粘土　鉄分5%、炭化物10%、灰10%

図Ⅳ-3-9　SE19

まで掘り下げているのが特徴である。

第 11 号井戸跡（SE11、図Ⅳ -3-1）

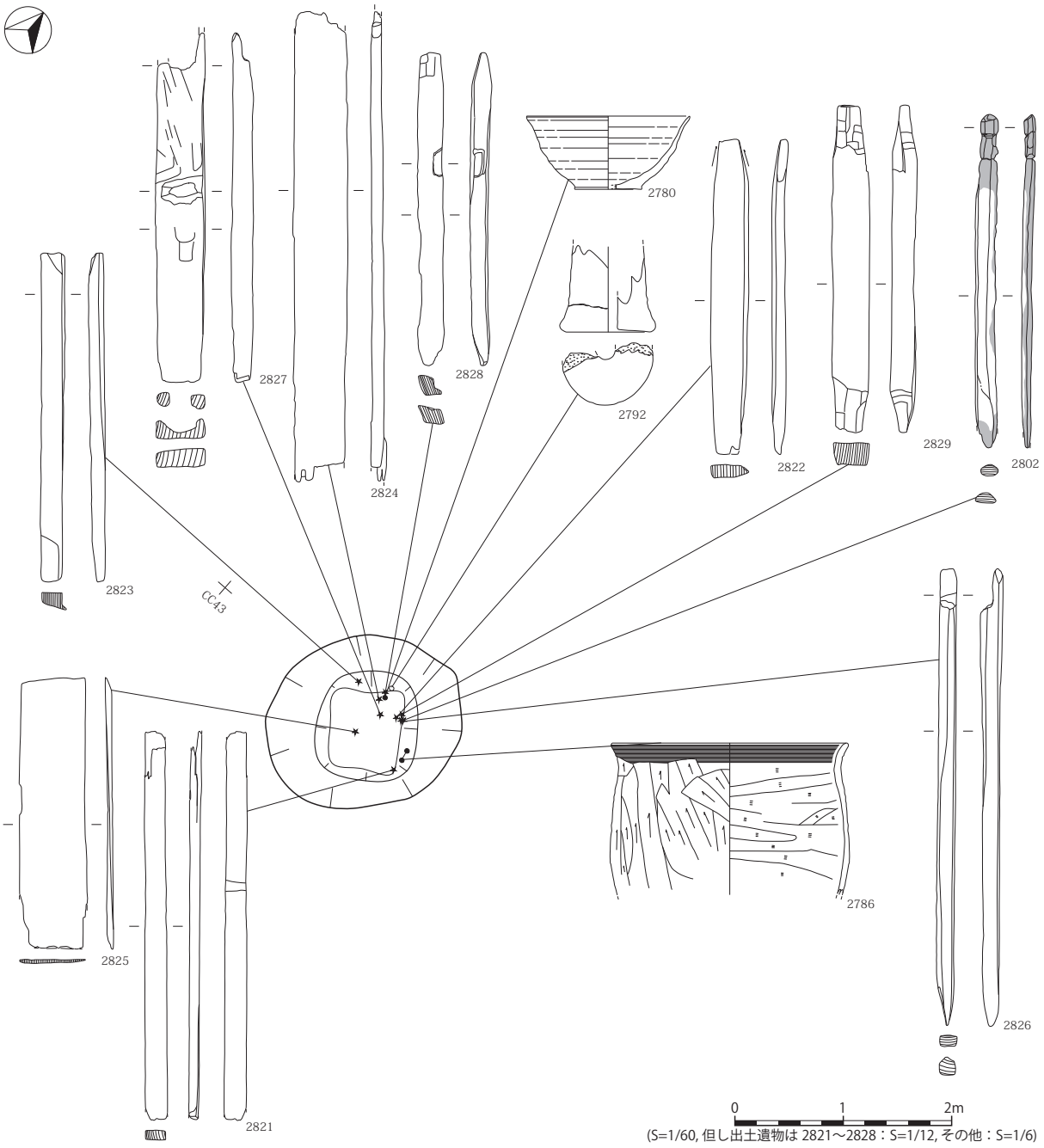
［位置・確認］グリッド CD42，43 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 163cm、短径 157.5cm、深さ 111cm を測り、不整円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 30cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］4 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒褐色土層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 229.4g、土師器甕 476.1g 等が出土している（図Ⅳ -3-10）。この内図示できたものは 1 点である（図Ⅳ -3-23）。2817 は施設材・器具材の不明部材であり、一端に段を有し、穿孔を有する。同様の板材を垂直方向に重ねて回転させて使用していたものと考えられ、回転式の糸巻具の可能性が考えられる。



図Ⅳ-3-10　SE11遺物出土状況

第 12 号井戸跡（SE12、図Ⅳ -3-2）

［位置・確認］グリッド CB・CC42 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 180cm、短径 159cm、深さ 141cm を測り、不整円形を呈する。井戸上面は、緩やかに立ち上がるが、深さ約 25cm のところからほぼ垂直に床面まで掘り下げている。［堆積土］6 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒褐色土層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 246.1g、土師器甕 1,143.8g、須恵器甕 25.0g 等が出土している（図Ⅳ -3-11）。この内図示できたものは 14 点である（図Ⅳ -3-

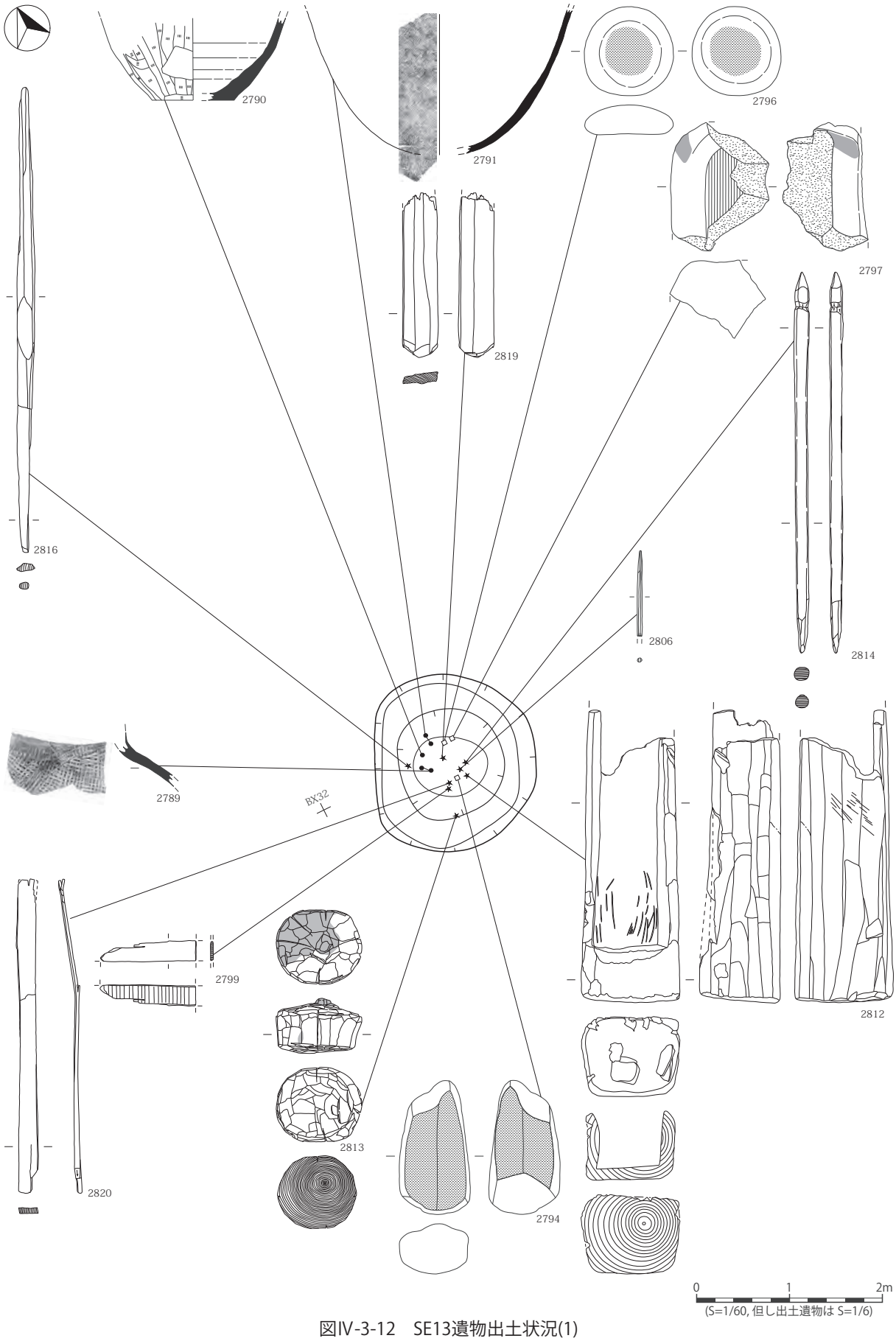


図Ⅳ-3-11　SE12遺物出土状況

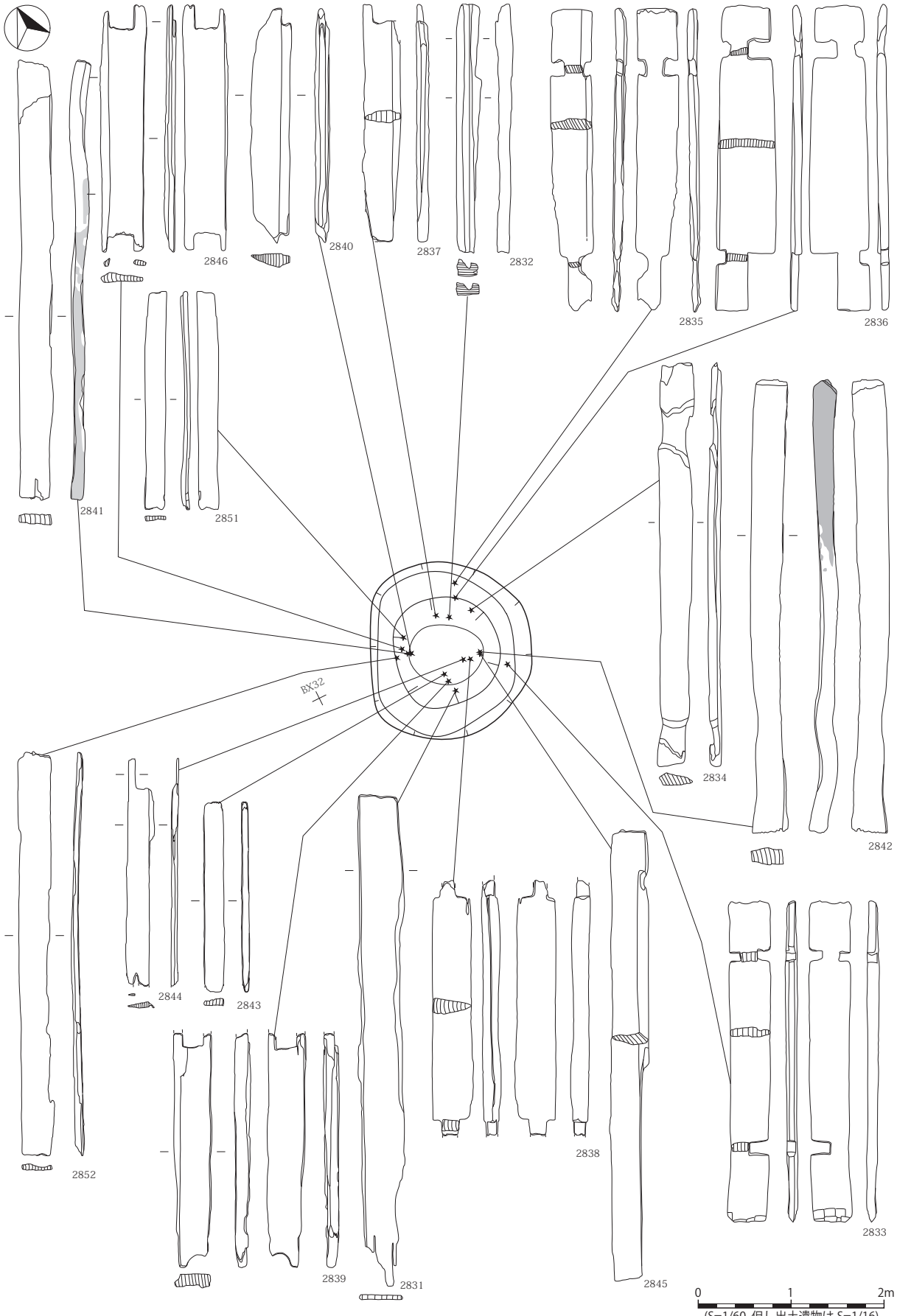
19･20･24･25)。2780 は土師器の坏であり、ロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。2786 は土師器の長胴甕であり、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。2787 は須恵器の壷の底部破片である。

2792 は支脚であり、中空で、粘土紐の輪積み痕が残存している。底面には砂の付着が見られる。

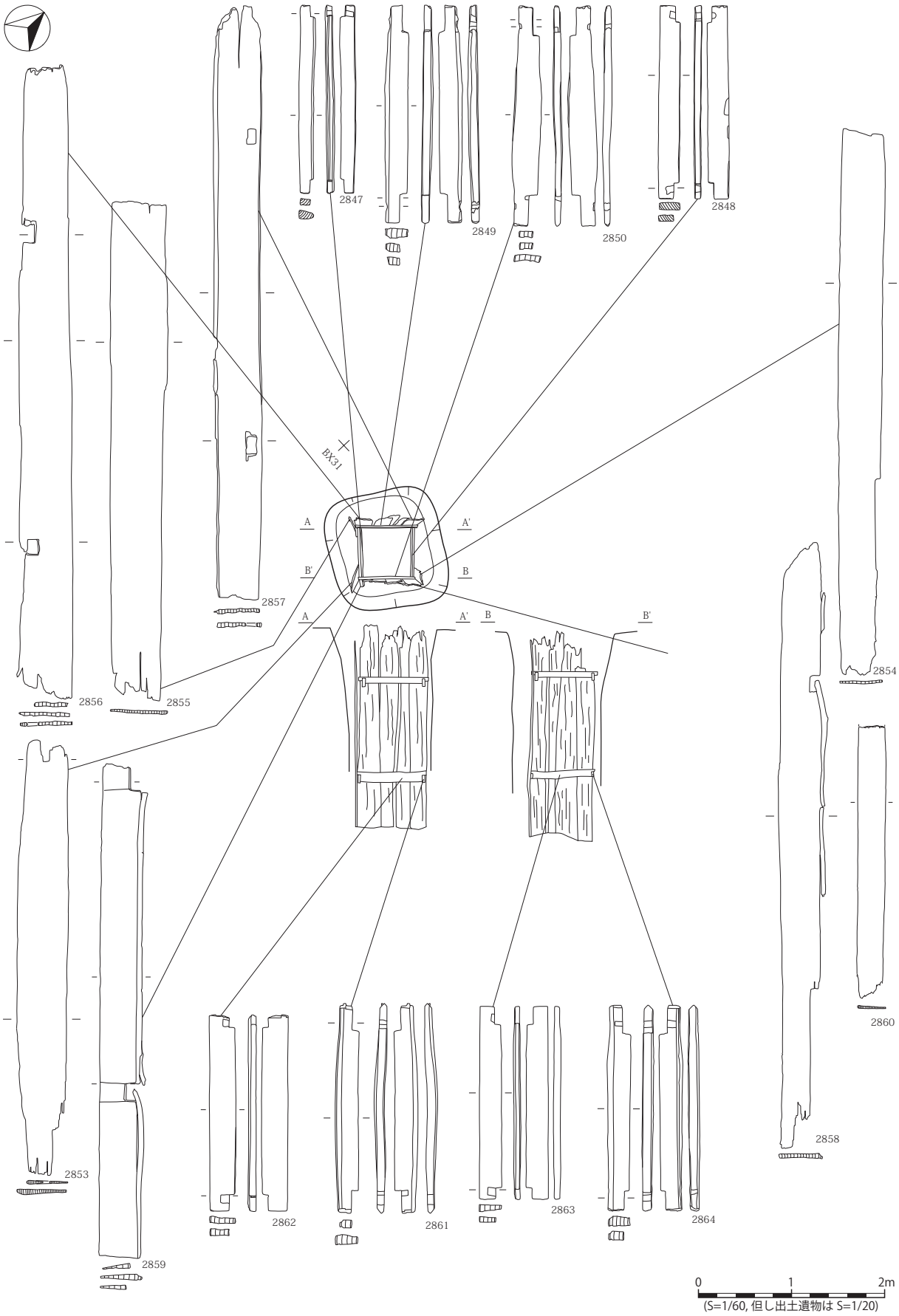
2802 は織機部材の布巻具であり、中央部が磨滅しており、端部に刻みを入れ紐の固定部分を形成している。部分的に炭化が見られる。樹種はアスナロである。2822・2823 は加工材の板材であり、井戸側材の可能性も考えられる。2824 は建築部材の壁材、2825 は屋根材、2826 は垂木材であり、いずれも井戸部材に転用された可能性が高い。2827・2828 は不明の建築部材であり、2827 には側



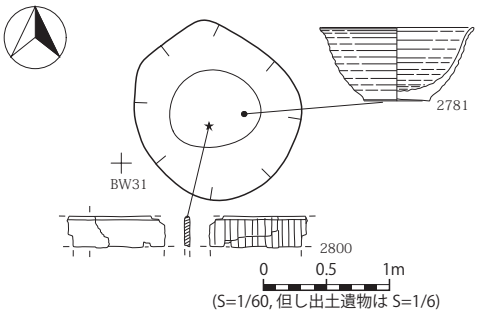
図IV-3-12　SE13遺物出土状況(1)



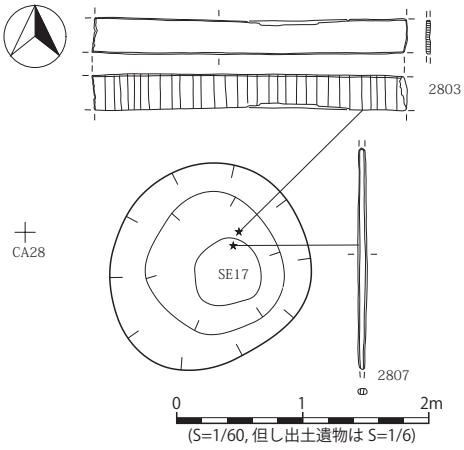
図Ⅳ-3-13　SE13遺物出土状況(2)



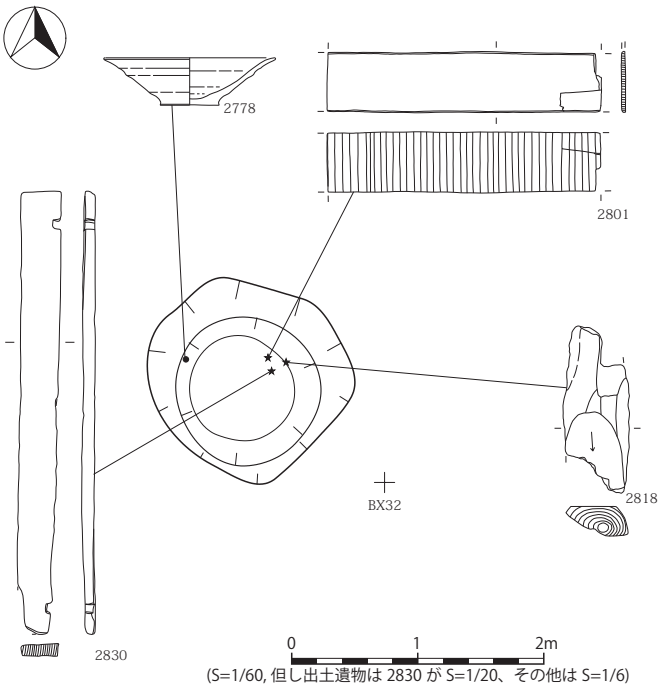
図IV-3-14　SE14遺物出土状況



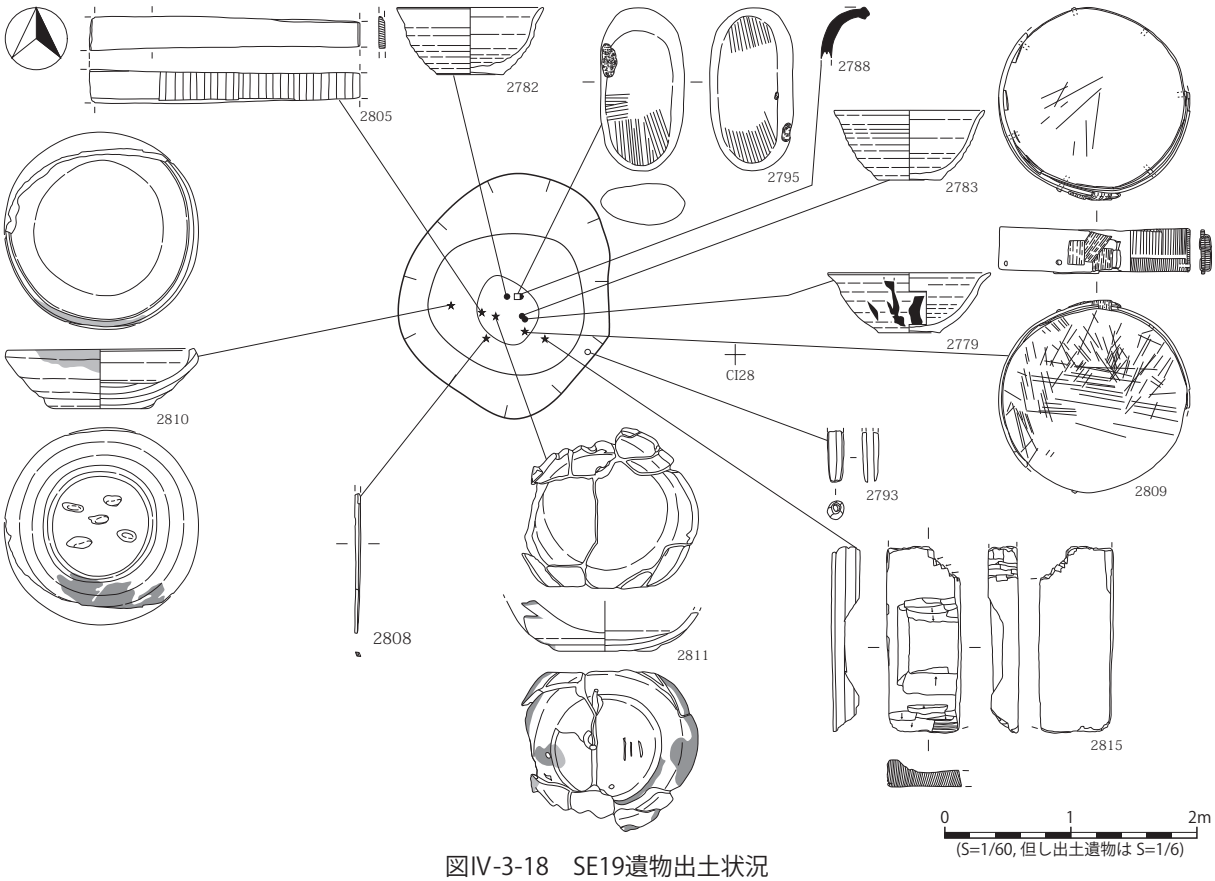
図Ⅳ-3-15　SE15遺物出土状況



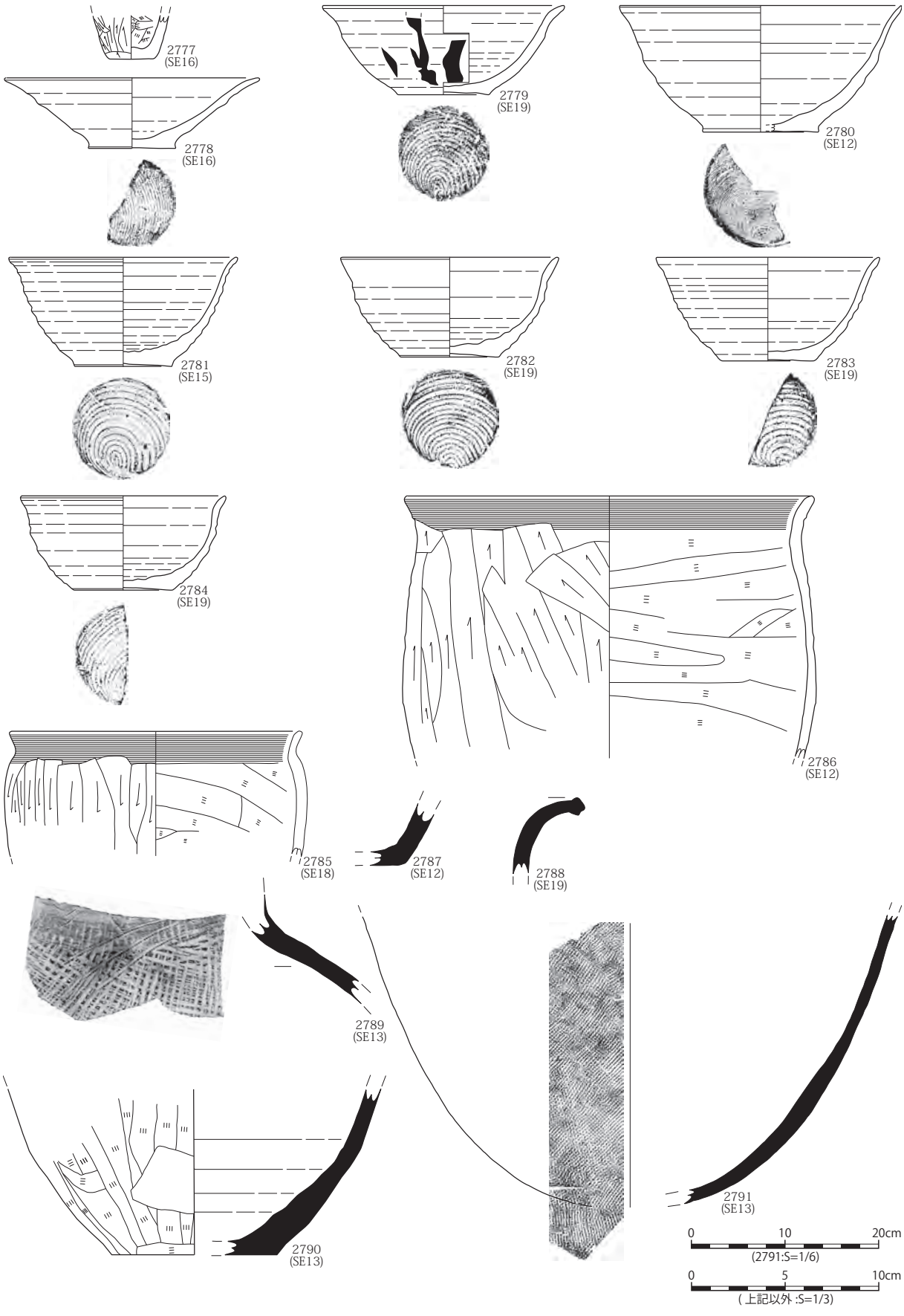
図Ⅳ-3-17　SE17遺物出土状況



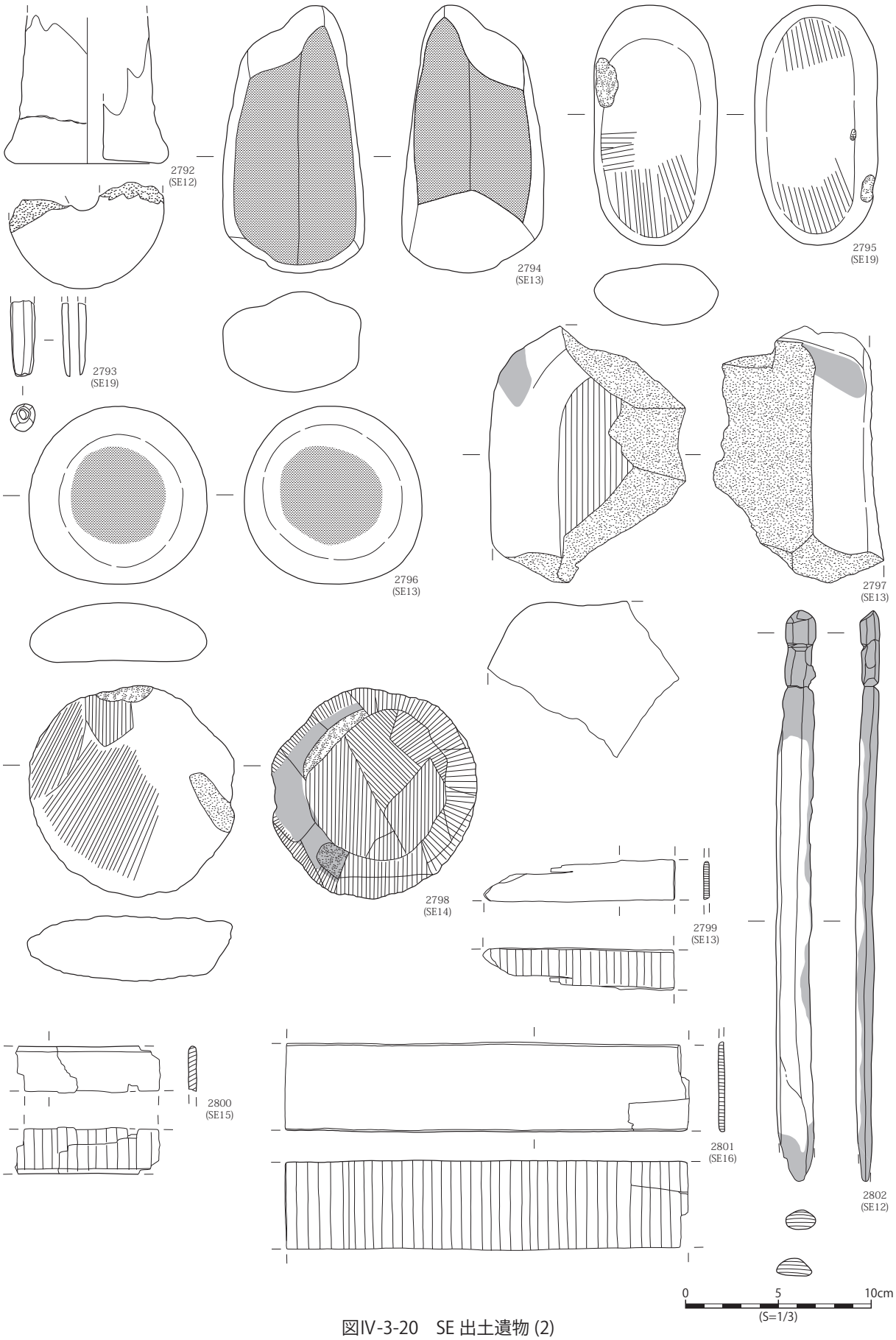
図Ⅳ-3-16　SE16遺物出土状況



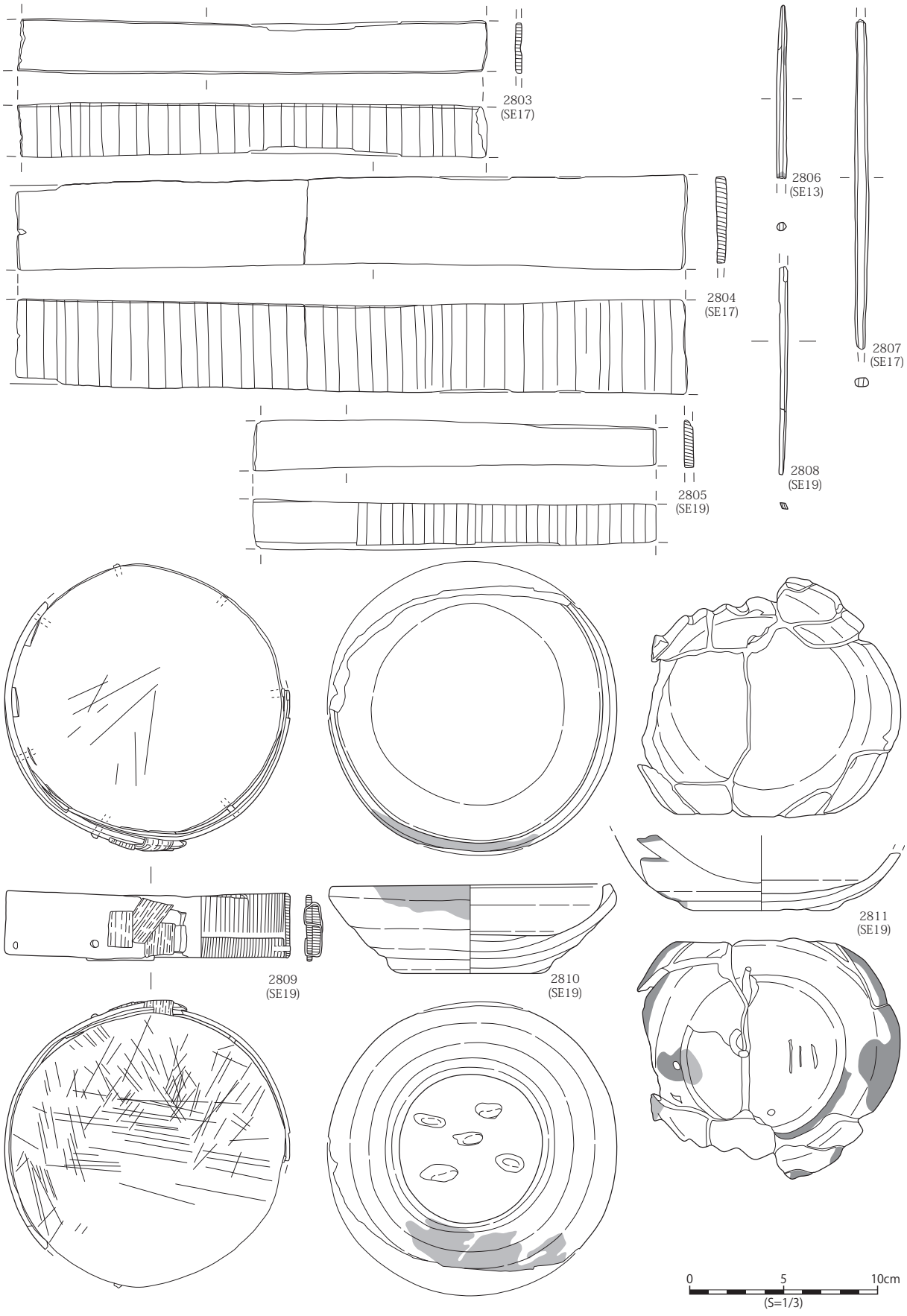
図Ⅳ-3-18　SE19遺物出土状況



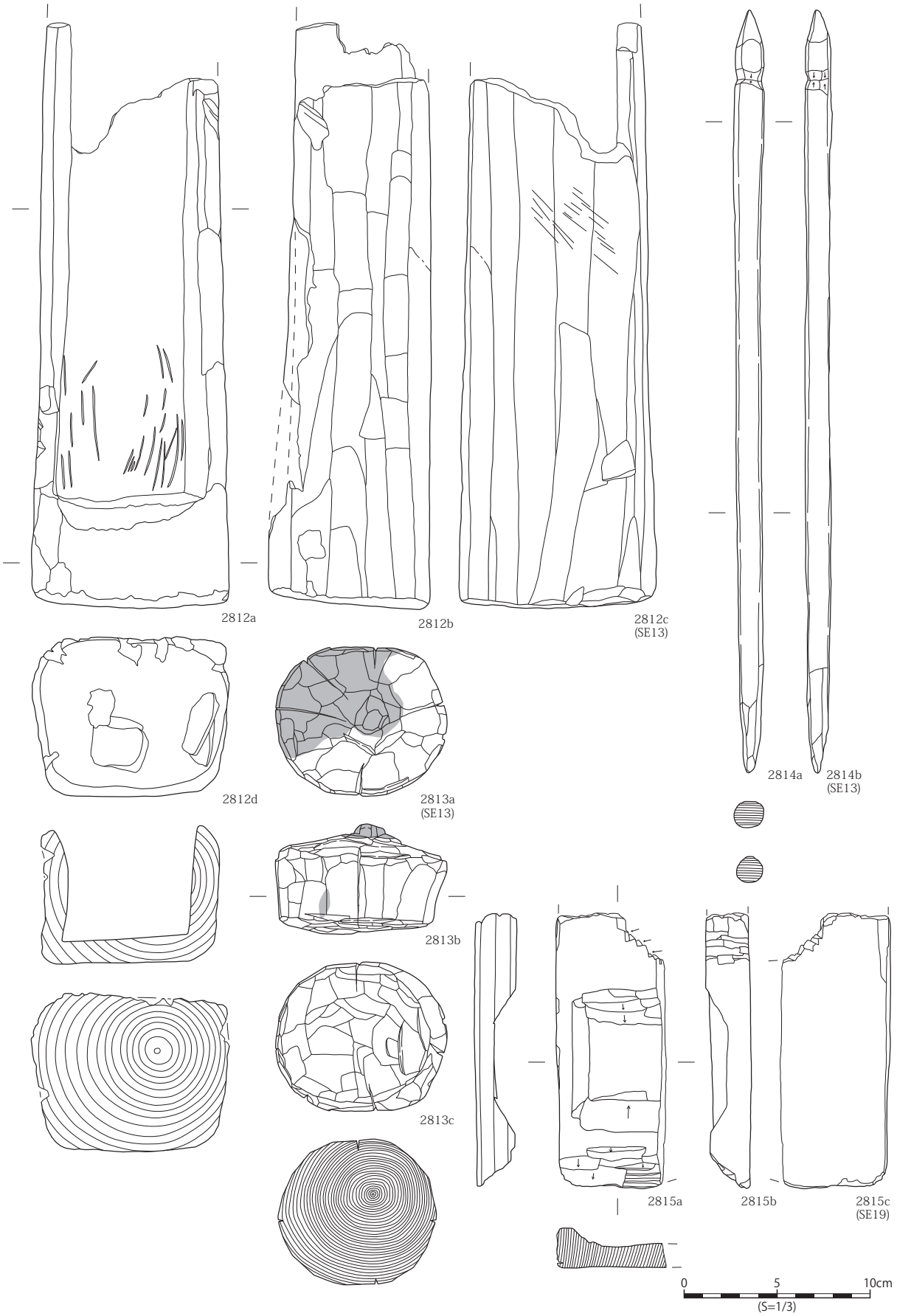
図Ⅳ-3-19　SE 出土遺物 (1)



図Ⅳ-3-20　SE 出土遺物 (2)



図Ⅳ-3-21　SE 出土遺物 (3)



図Ⅳ-3-22　SE 出土遺物 (4)

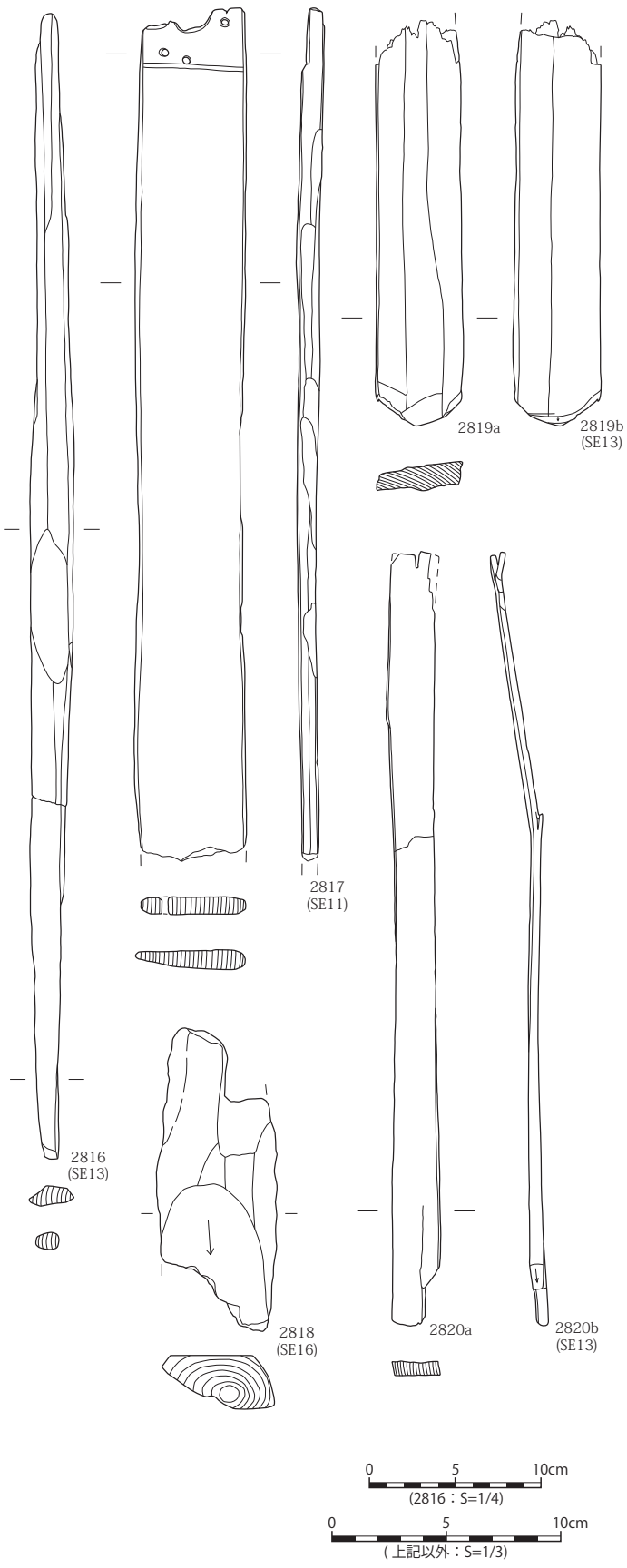
面に貫通していない枘孔を有し、2828は中央部分に枘孔を有する。いずれも井戸枠材として転用されたものと考えられる。2821・2829は最初から井戸枠材として両端に仕口状の加工が施されている。樹種はいずれもアスナロである。

第13号井戸跡（SE13、図Ⅳ-3-3）

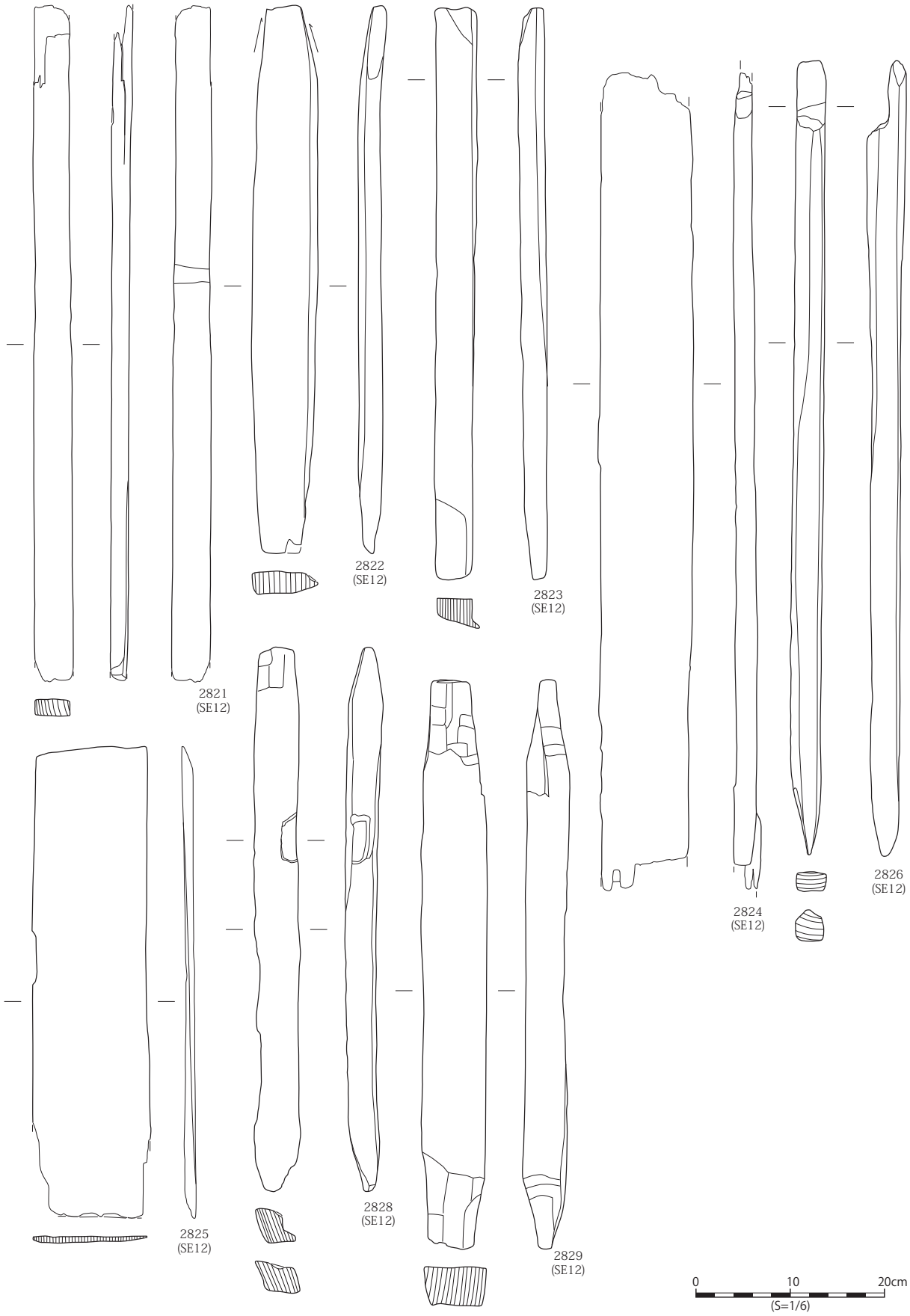
［位置・確認］グリッドBW・BX31に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径191cm、短径174cm、深さ174.5cmを測り、不整円形を呈する。［堆積土］8層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒褐色土層を基調とする。［出土遺物］土師器坏221.9g、土師器甕1,099.8g、須恵器甕4,334.6g、須恵器壷207.4g、支脚209.0g等が出土している（図Ⅳ-3-12）。この内図示できたものは28点である（図Ⅳ-3-19～23、25～29）。2789は須恵器中甕の肩部破片でありヘラ記号が描かれている。格子タタキ目が確認された。2790は須恵器の壷の体部～底部にかけての破片であり、外面はケズリ調整、内面はロクロナデ調整が施されている。2791は須恵器大甕の底部破片であり、外面に格子タタキ目が確認された。

2794・2796・2797は砥石であり、2794・2797は角礫、2796は扁平な円礫の平坦面を砥面として利用している。材質は2794・2797が流紋岩、2796が安山岩である。

2799は曲物側板であり、内面にケビキ線が確認された。2806は食事具の串であり、先端を細く削り出して尖らせ、側面を面取りしている。炭化部分が見られそこから破損している。2812は刳物の箱であり、水準器の可能性も考えられる。2813は芯持材を利用した容器（恐



図Ⅳ-3-23　SE出土遺物(5)

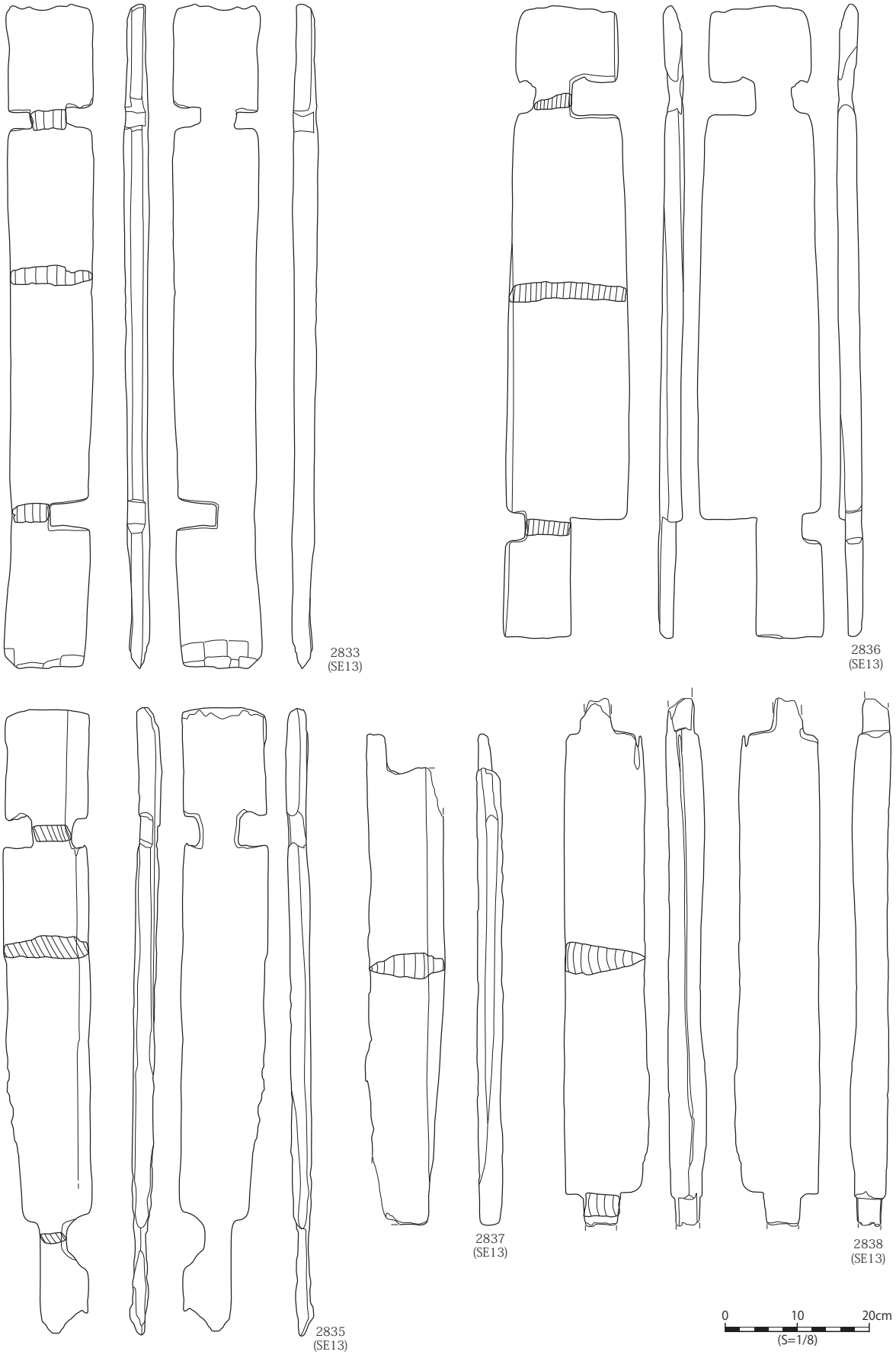


図Ⅳ-3-24　SE 出土遺物 (6)

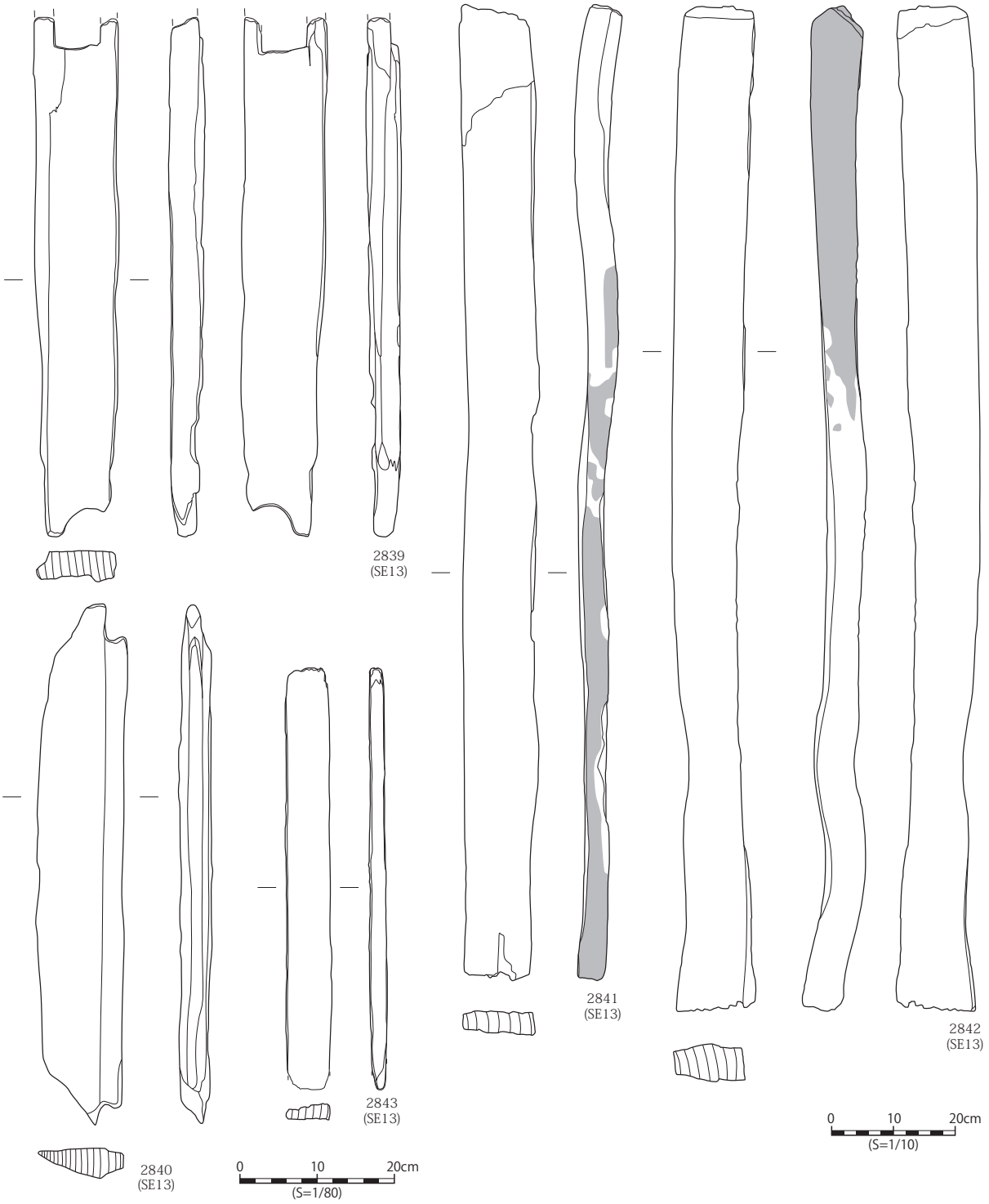
図Ⅳ-3-25　SE 出土遺物 (7)

らく須恵器の長頸壷か。）の栓であり、上下面を手斧により丁寧に仕上げている。2814 は祭祀具の有頭串であり、片側端部を有頭状に作り出し、両端を尖らせている。2819・2820 は加工材である。樹種は 2812 がモクレン属であり、他はすべてアスナロである。

2831・2845 は井戸側の縦板である。2832 は建築部材であるが、井戸側の横材に転用されたものと考えられる。2833・2835・2836 は井戸側の横板であり、側面に抉りが入り、その抉り同士で井桁状に組んでいたものと考えられる。2837・2839・2844・2846 は両端に凹状の加工があり、2838・2840 は両端に凸状の加工があることから、それぞれ組み合わせて井戸の横板として、使用



図Ⅳ-3-26　SE 出土遺物 (8)

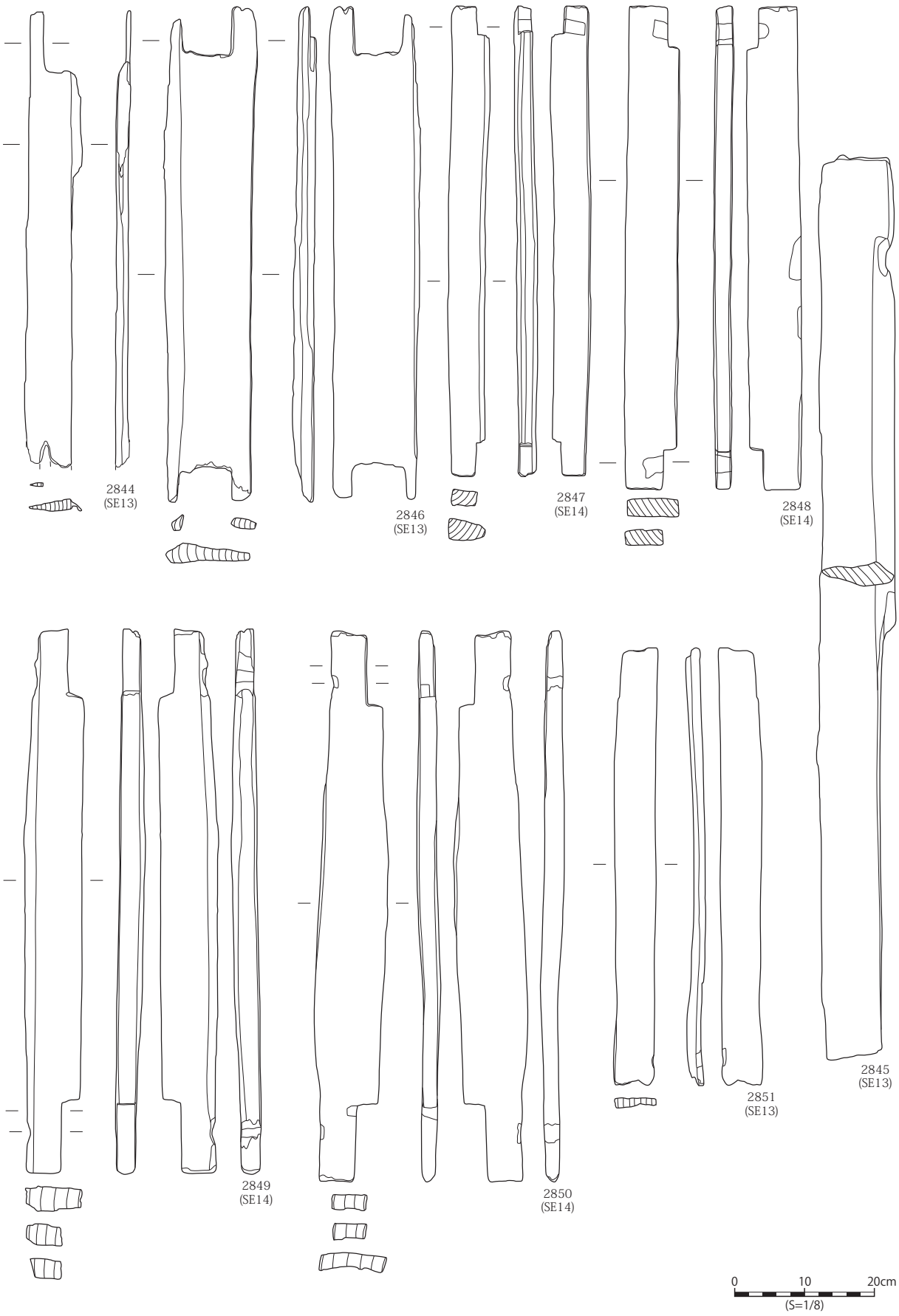


図Ⅳ-3-27　SE 出土遺物 (9)

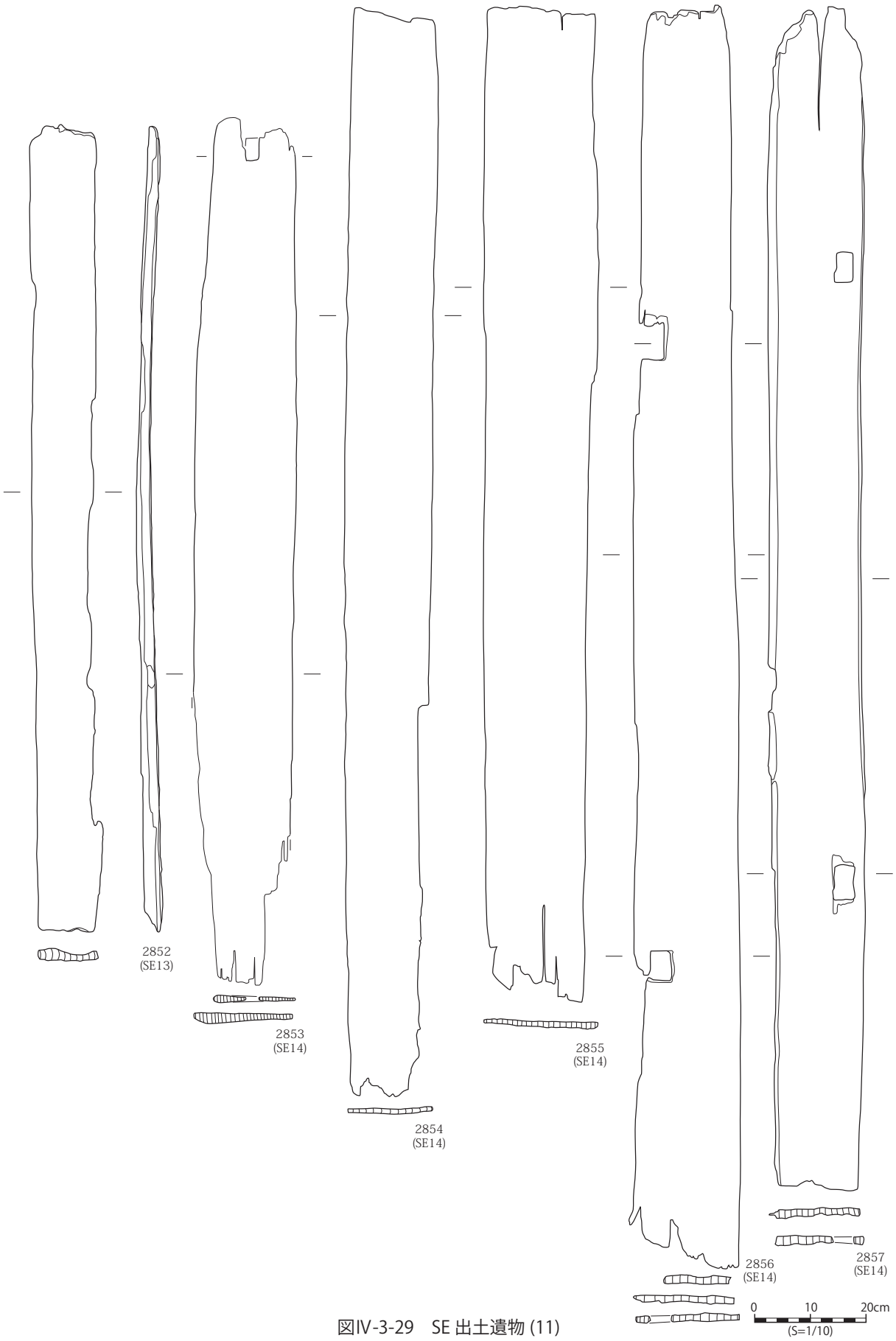
されていたものと考えられる。2841・2842 は従来建築部材の柱材として使用されていた物が、外面に二次被熱により黒色変化を受けていることから、火災等により使用されなくなった柱材を縦に 2 分割して、井戸側の隅柱として使用していたものと考えられる。樹種はいずれもアスナロである。

第 14 号井戸跡（SE14、図Ⅳ -3-4）

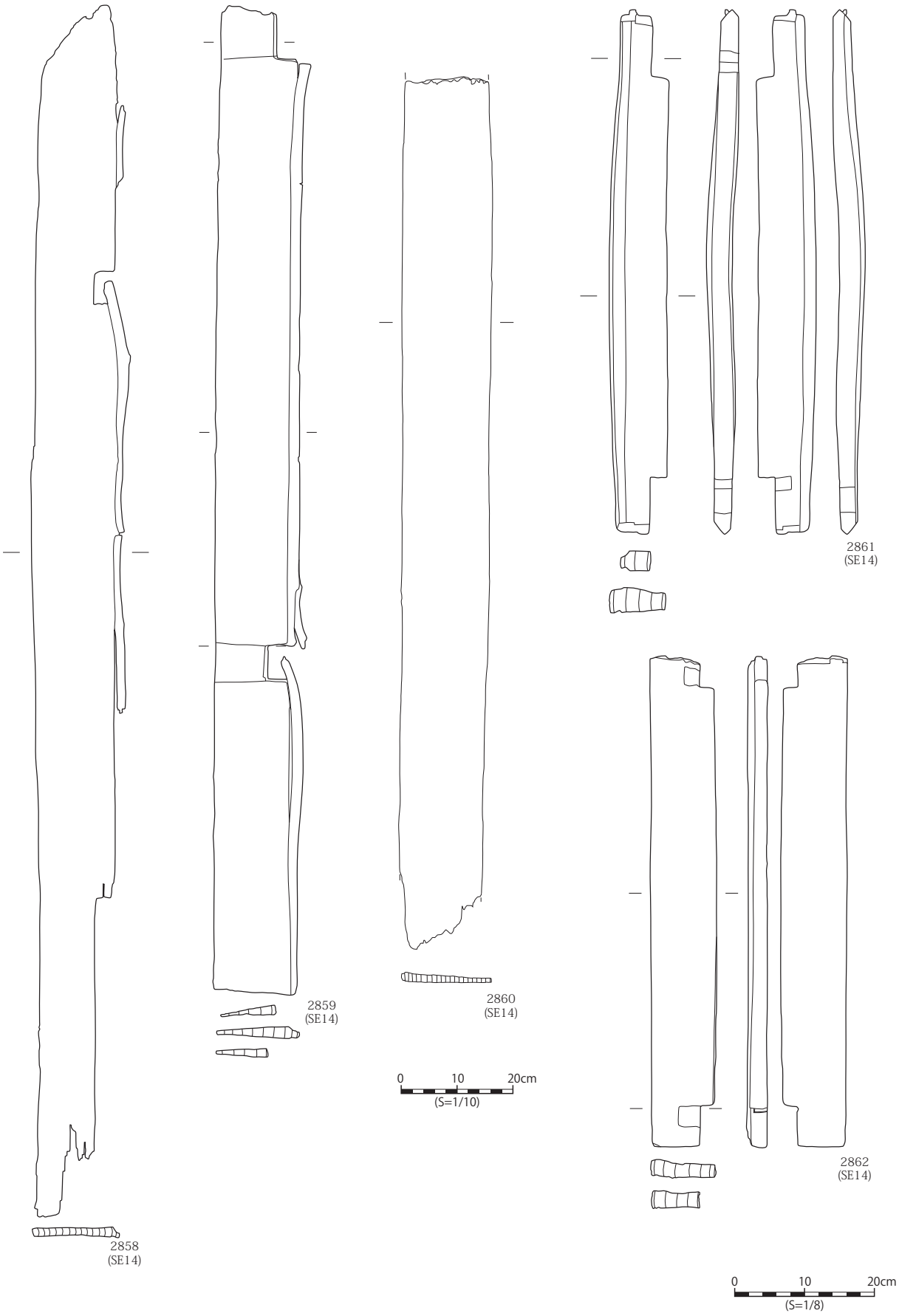
［位置・確認］グリッド BW・BX30 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 125cm、短径 122cm、深さ 206cm を測り、方形を呈する。［堆積土］6 層確認され、上層はⅢ層由



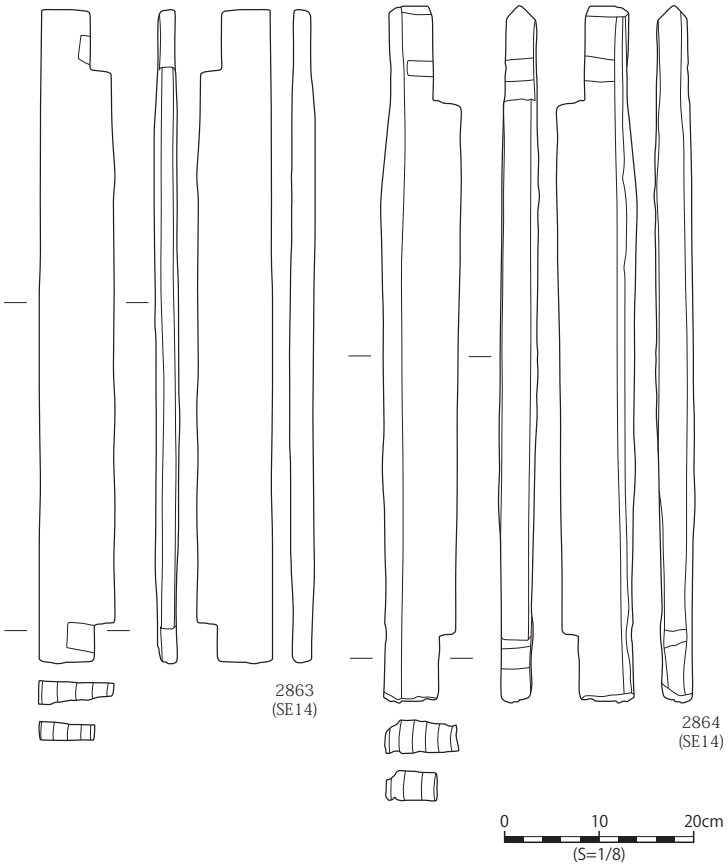
図Ⅳ-3-28　SE 出土遺物 (10)



図Ⅳ-3-29　SE 出土遺物 (11)



図Ⅳ-3-30　SE 出土遺物 (12)



図Ⅳ-3-31　SE 出土遺物 (13)

来の層を基調とし、下層は黒褐色土層を基調とする。［出土遺物］井戸部材が残存している。（図Ⅳ -3-11）。この内図示できたものは 18 点である（図Ⅳ -3-20,28 ～ 31）。2798 は容器の蓋（栓）であり、二次被熱を受けている。材質は軽石である。2847 ～ 2850、2861 ～ 2864 は井戸側の横板であり、両端をＬ字状に欠き取って垂直に組む相欠きすることにより、井桁状に組み、仕口部分の突出部に縦板を固定している。2853 ～ 2860 は井戸側の縦板であり、4 隅に設置される縦板には、上下に横板を固定するための方形の孔が開けられている。2859 には孔を一定の高さに開けるためのケビキ線が引かれている。樹種はいずれもヒバ材である。

第 15 号井戸跡（SE15、図Ⅳ -3-5）

［位置・確認］グリッド BV・BW30 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 146cm、短径 128cm、深さ 87cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］5 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒褐色土層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 249.5g 等が出土している（図Ⅳ -3-15）。この内図示できたものは 2 点である（図Ⅳ -3-19・20）。2781 は土師器の埦であり、ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2800 は曲物側板であり、内面にケビキ線が引かれている。樹種はアスナロである。

第 16 号井戸跡（SE16、図Ⅳ -3-6）

［位置・確認］グリッド BW・BX32 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 167cm、短径 147cm、深さ 113cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］6 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒褐色土層を基調とする。［出土遺物］土師器ミニチュア 14.7g、土師器坏 401.2g、土師器甕 330.1g 等が出土している（図Ⅳ -3-16）。この内図示できたものは 5 点である（図Ⅳ -3-19・20・23・25）。2777 は土師器のミニチュアであり、外面はヘラケズリ調整、内面はユビナデ調整が施されている。2778 は土師器の皿であり、ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2801 は曲物側板であり、内面にケビキ線が引かれている。2818 は加工木の残材である。2830 は井戸側の横板であり、側面に 2 箇所抉りが入る。樹種はいずれもアスナロである。

第 17 号井戸跡（SE17、図Ⅳ -3-7）

［位置・確認］グリッド BY・CA27 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 170cm、

短径 155cm、深さ 147cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］6 層確認され、上層はⅢ層由来の層を基調とし、下層は黒褐色土層を基調とする。［出土遺物］土師器坏 139.2g、土師器甕 313.7g、須恵器甕 67.3g 等が出土している（図Ⅳ -3-17）。この内図示できたものは 3 点である（図Ⅳ -3-21）。2803・2804 は曲物側板であり、内面にケビキ線が引かれている。2807 は食事具の箸であり、一端は欠損しているが、他端は細く削り出されている。樹種はいずれもアスナロである。

第 18 号井戸跡（SE18、図Ⅳ -3-8）

［位置・確認］グリッド CA25 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 97cm、短径 88cm、深さ 156cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］9 層確認され、黒褐色土とⅣ層由来の土が互層を成しており、下層は灰色土を基調とする層である。［出土遺物］土師器坏 100.0g、土師器甕 111.2g 等が出土している。

第 19 号井戸跡（SE19、図Ⅳ -3-9）

［位置・確認］グリッド CH・CI28 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 182cm、短径 166cm、深さ 170cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］8 層確認され、黒褐色土を主体とする層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 741.4g、土師器甕 608.4g 等が出土している（図Ⅳ -3-18）。この内図示できたものは 13 点である（図Ⅳ -3-19 ～ 22）。2779 は土師器の埦形坏であり、外面に墨書が書かれている。2782 ～ 2784 は土師器の埦である。いずれもロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2788 は須恵器中甕の口縁部であり、口縁部端面形から前田野目系の須恵器であると考えられる。

2793 は土錘であり、欠損しているが小型のものであることから内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

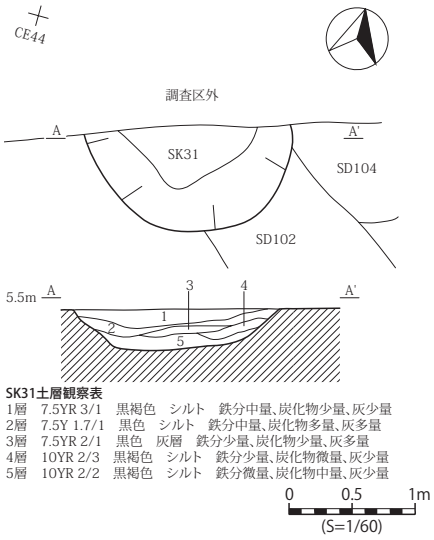
2795 は砥石であり、小判形の扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。材質は花崗閃緑岩である。

2805 は曲物側板であり、内面にケビキ線が引かれている。2808 は箸状製品であり、先端部を削り出して尖らせている。2809 は曲物であり、側板内面にケビキ線が引かれ、側面は樹皮で綴じられ、底面は木釘 7 箇所により固定されている。2810 は器厚が厚く製作過程で廃棄された挽物の椀未成品であり、底面にロクロの爪痕が残存している。また、外面には二次被熱を受けている。2811 は挽物皿であり、底面にヘラ記号が記されている。2815 は建築部材の木組補助材であり、横材が欠損しており、軸受け部のみ残存している。樹種は 2811 のみケヤキで、他はすべてアスナロである。

第 4 節　土坑（SK）

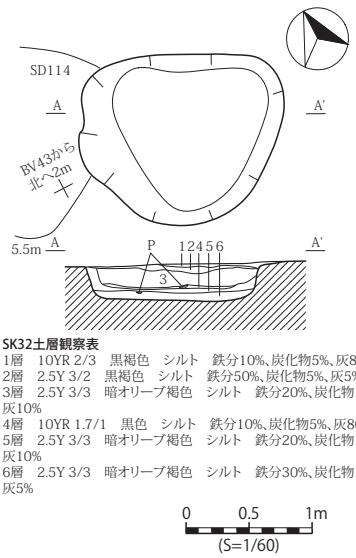
第 31 号土坑（SK31、図Ⅳ -4-1）

［位置・確認］グリッド CD43 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］調査区外へと延びているため性格な規模・形状は不明であるが、確認長 163cm、深さ 32cm を測る。［堆積土］5 層確認され、黒褐色土と黒色土が互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 97.3g、土師器甕 141.6g、須恵器壷 108.5g 等が出土している（図Ⅳ -4-12）。この内図示できたものは 4 点である（図Ⅳ -4-16・17・19）。2875 は須恵器の壷の底部破片で有り、外面はケズリ調整、内面はナデ調整が施されている。2882 は下駄であり、連歯一木作りで右足用。鼻緒孔は鑿で方形に空けられ、踵側の台部が切断されて再加工されている。2883 は発火具の火鑽臼であり、臼部を 3 カ所作り出している。



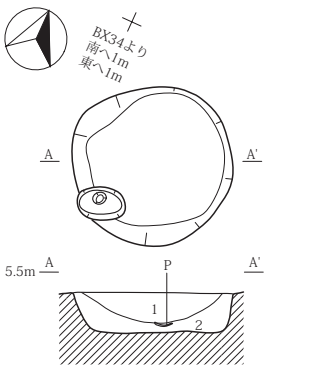
SK31土層観察表
1層　7.5YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰少量
2層　7.5Y 1.7/1　黒色　シルト　鉄分中量、炭化物多量、灰多量
3層　7.5YR 2/1　黒色　灰層　鉄分少量、炭化物少量、灰多量
4層　10YR 2/3　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰少量
5層　10YR 2/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物中量、灰少量

図Ⅳ-4-1　SK31



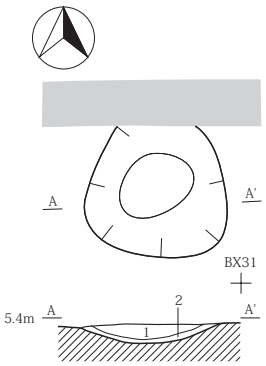
SK32土層観察表
1層　10YR 2/3　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%、灰80%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1%、灰10%
4層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物5%、灰80%
5層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1%、灰10%
6層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物1%、灰5%

図Ⅳ-4-2　SK32



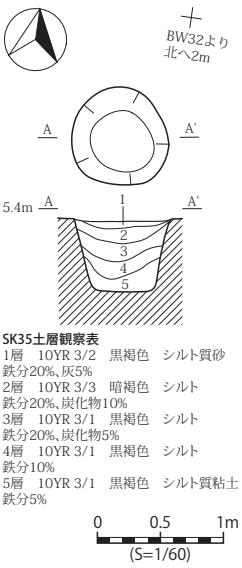
SK33土層観察表
1層　10YR 5/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物20%、灰10%
2層　2.5Y 4/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物20%、灰20%

図Ⅳ-4-3　SK33



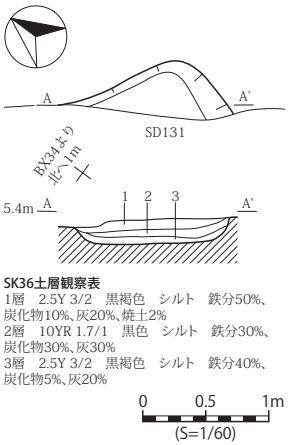
SK34土層観察表
1層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm20%、灰20%、火山灰40%
2層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%

図Ⅳ-4-4　SK34



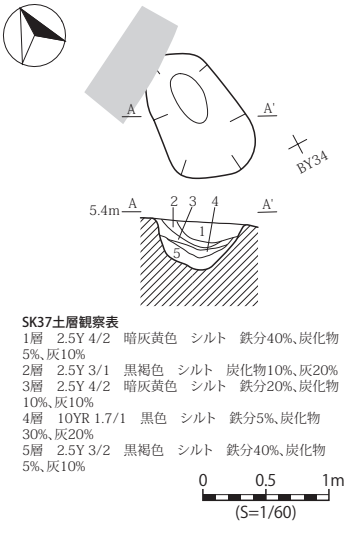
SK35土層観察表
1層　10YR 3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分20%、灰5%
2層　10YR 3/3　暗褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%
4層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分10%
5層　10YR 3/1　黒褐色　シルト質粘土　鉄分5%

図Ⅳ-4-5　SK35



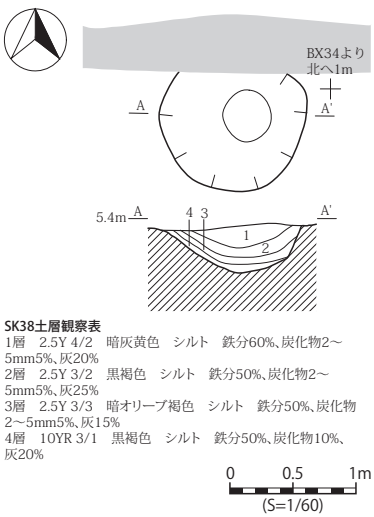
SK36土層観察表
1層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20%、焼土2%
2層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物30%、灰30%
3層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

図Ⅳ-4-6　SK36



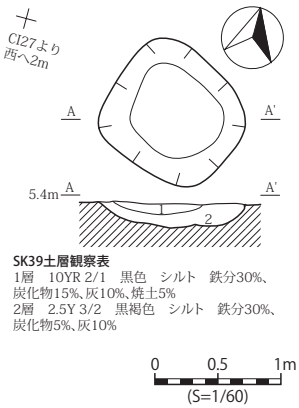
SK37土層観察表
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト　炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰10%
4層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分5%、炭化物30%、灰20%
5層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%

図Ⅳ-4-7　SK37



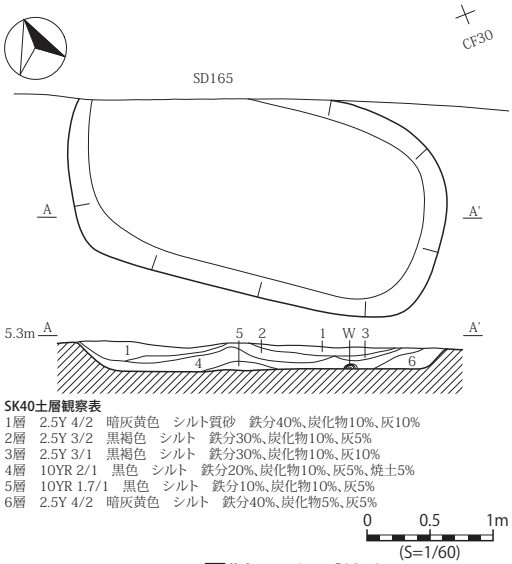
SK38土層観察表
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分60%、炭化物2～5mm5%、灰20%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm5%、灰25%
3層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm5%、灰15%
4層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20%

図Ⅳ-4-8　SK38



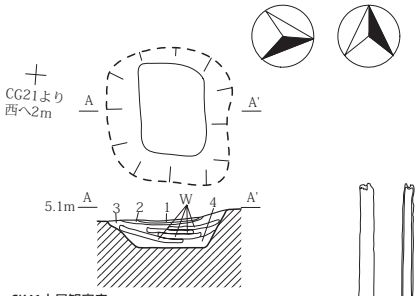
SK39土層観察表
1層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物15%、灰10%、焼土5%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

図Ⅳ-4-9　SK39

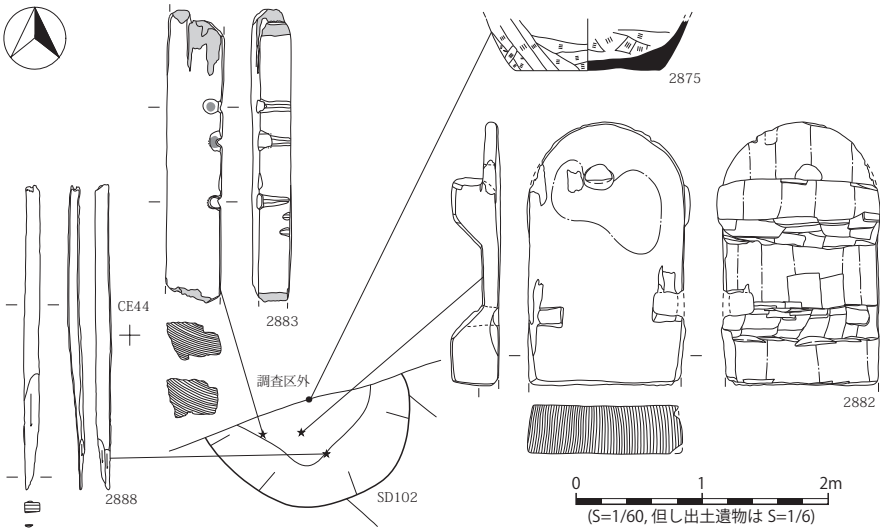


SK40土層観察表
1層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰5%
3層　2.5Y 3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
4層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰5%、焼土5%
5層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物10%、灰5%
6層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

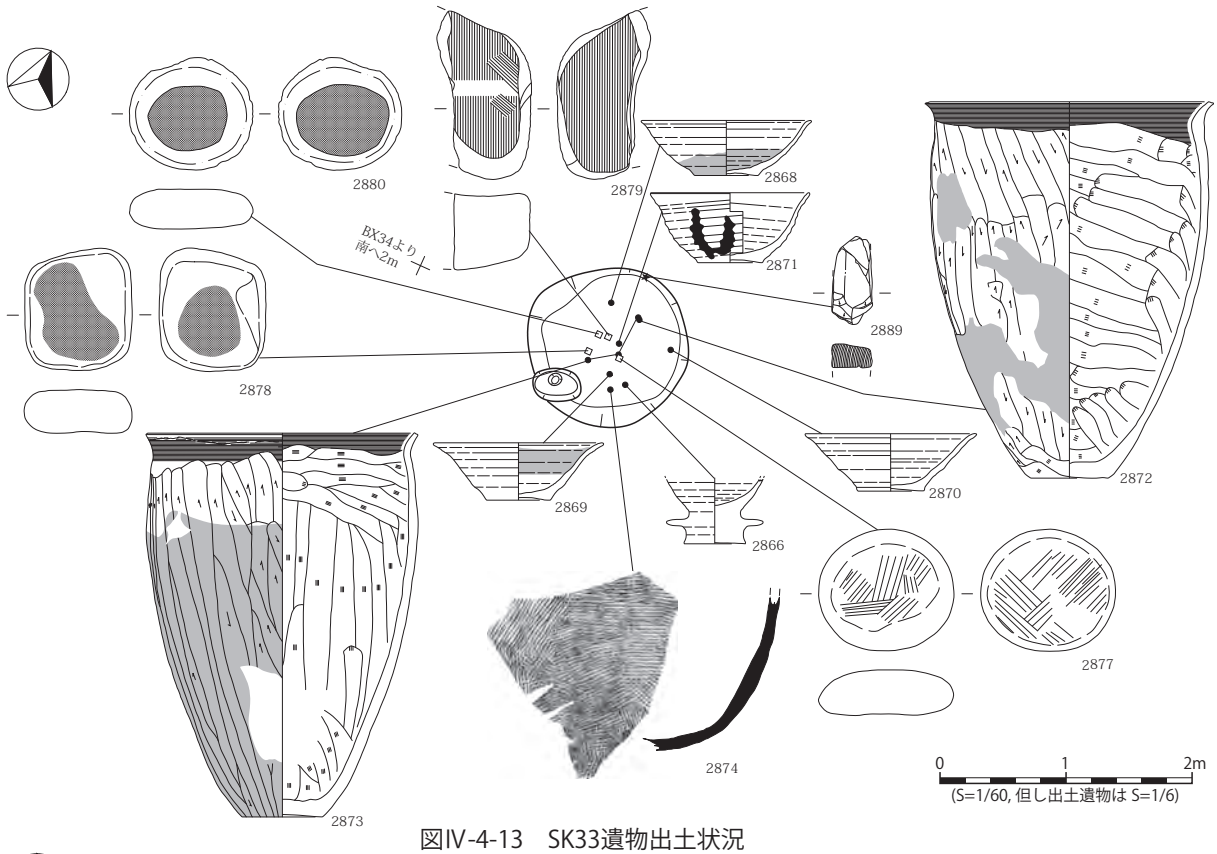
図Ⅳ-4-10　SK40



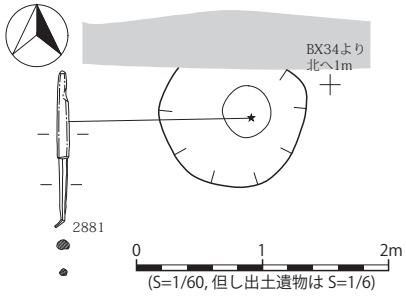
図Ⅳ-4-11　SK41



図Ⅳ-4-12　SK31遺物出土状況



図Ⅳ-4-13　SK33遺物出土状況

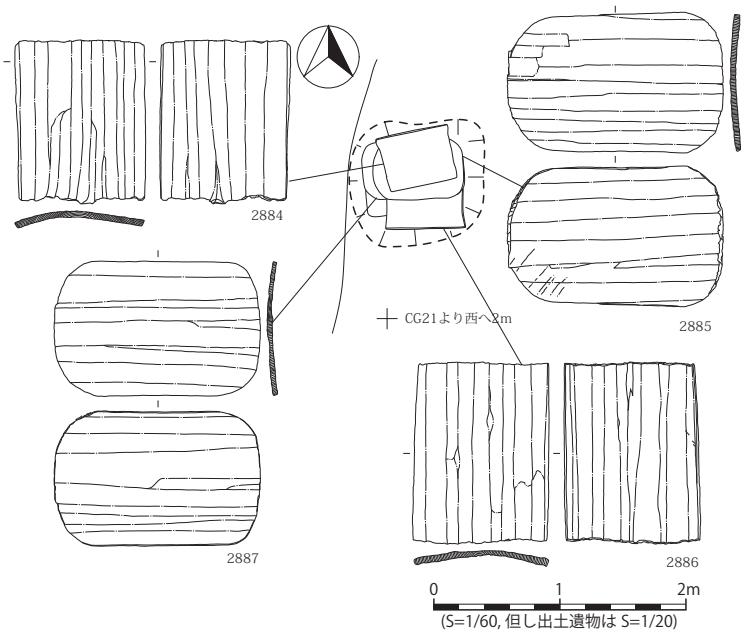


図Ⅳ-4-14　SK38遺物出土状況

2888 は角材であり、片側端部を尖らせている。2883 はスギでその他はアスナロである。

第 32 号土坑（SK32、図Ⅳ -4-2）

［位置・確認］グリッド BU42 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］直径 129cm、深さ 29cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］6 層確認され、黒褐色土と暗オリーブ色土が互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 271.6g、土師器甕 683.9g、須恵器甕 138.5g 等が出土している。



図Ⅳ-4-15　SK41遺物出土状況

第 33 号土坑（SK33、図Ⅳ -4-3）

［位置・確認］グリッド BW33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 168cm、短径 150cm、深さ 31cm を測り、円形を呈する。［堆積土］2 層確認され、上層がⅣ層由来の層、下層は黒褐色土層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 1,120.4g、土師器甕 4,586.9g、須恵器甕 541.0g 等が出土している（図Ⅳ -4-13）。この内図示できたものは 13 点である（図Ⅳ -4-16・17・19）。2866 は土師器の台付坏であり、台部と坏部の間に鍔上の張り出し部を有する。ロクロ成形で底面に回転糸切り痕を有し、無調整である。2867 は土師器の皿であり、2868 ～ 2870 は土師器の皿形坏であり、2871 は土師器の埦である。2871 には外面に墨書が書かれている。2868 は内外面に、2869 は内面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形で底面に回転糸切り痕を有し、無調整である。2872・2873 は土師器の長胴甕であり、いずれも短く外反する口頸部を有し、外面に二次被熱を受けている。調整は口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はケズリ、体部内面はユビナデ調整が施されている。2874 は須恵器の体部から底部にかけての破片であり、格子タタキ目が確認された。

2877 ～ 2880 は砥石であり、2877・2880 は扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。2878・2879 は隅丸の角礫の平坦面を砥面として使用している。材質は 2877 が安山岩、2878・2879 が流紋岩、2880 が花崗閃緑岩である。

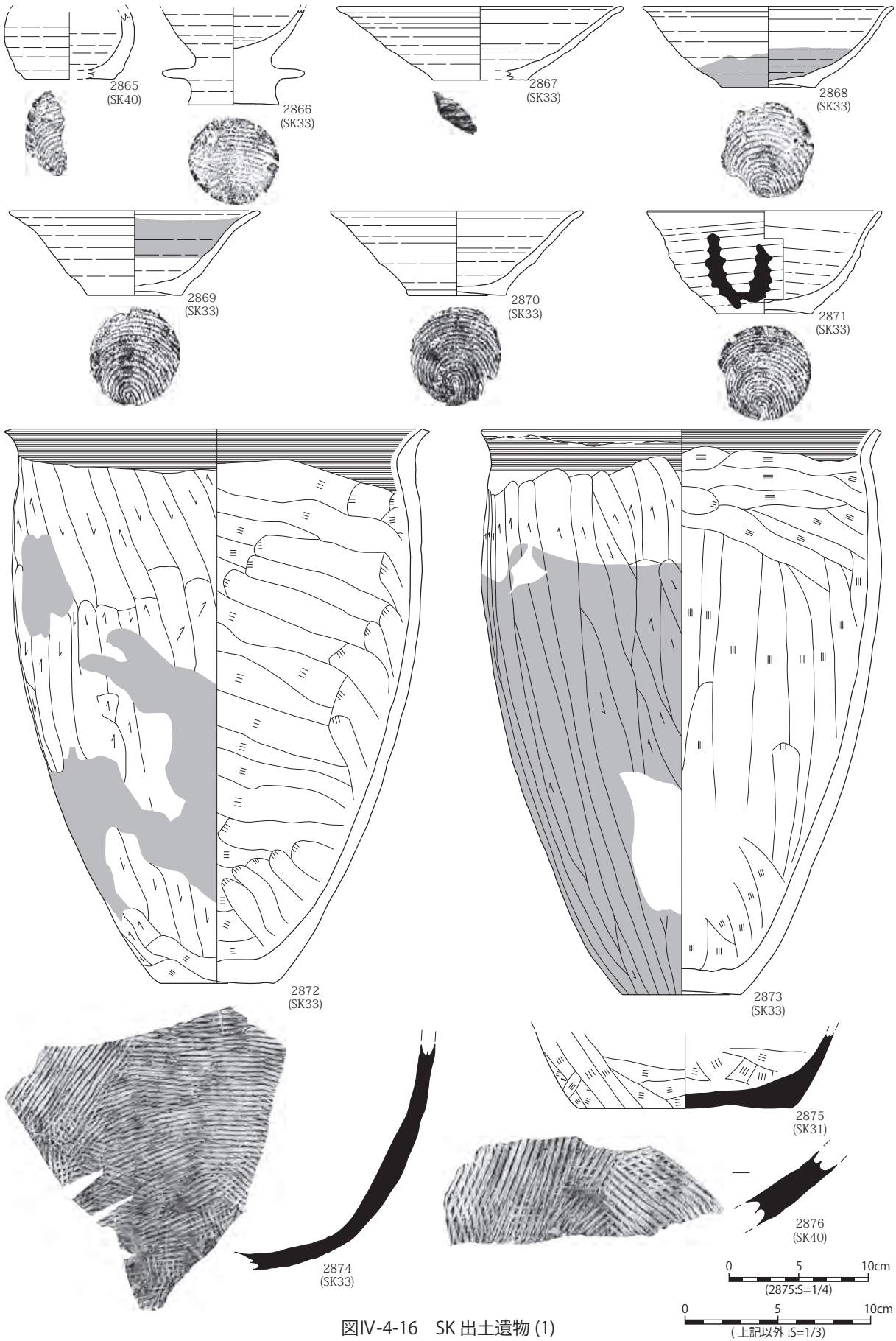
2889 は加工木の残材であり、樹種はアスナロである。

第 34 号土坑（SK34、図Ⅳ -4-4）

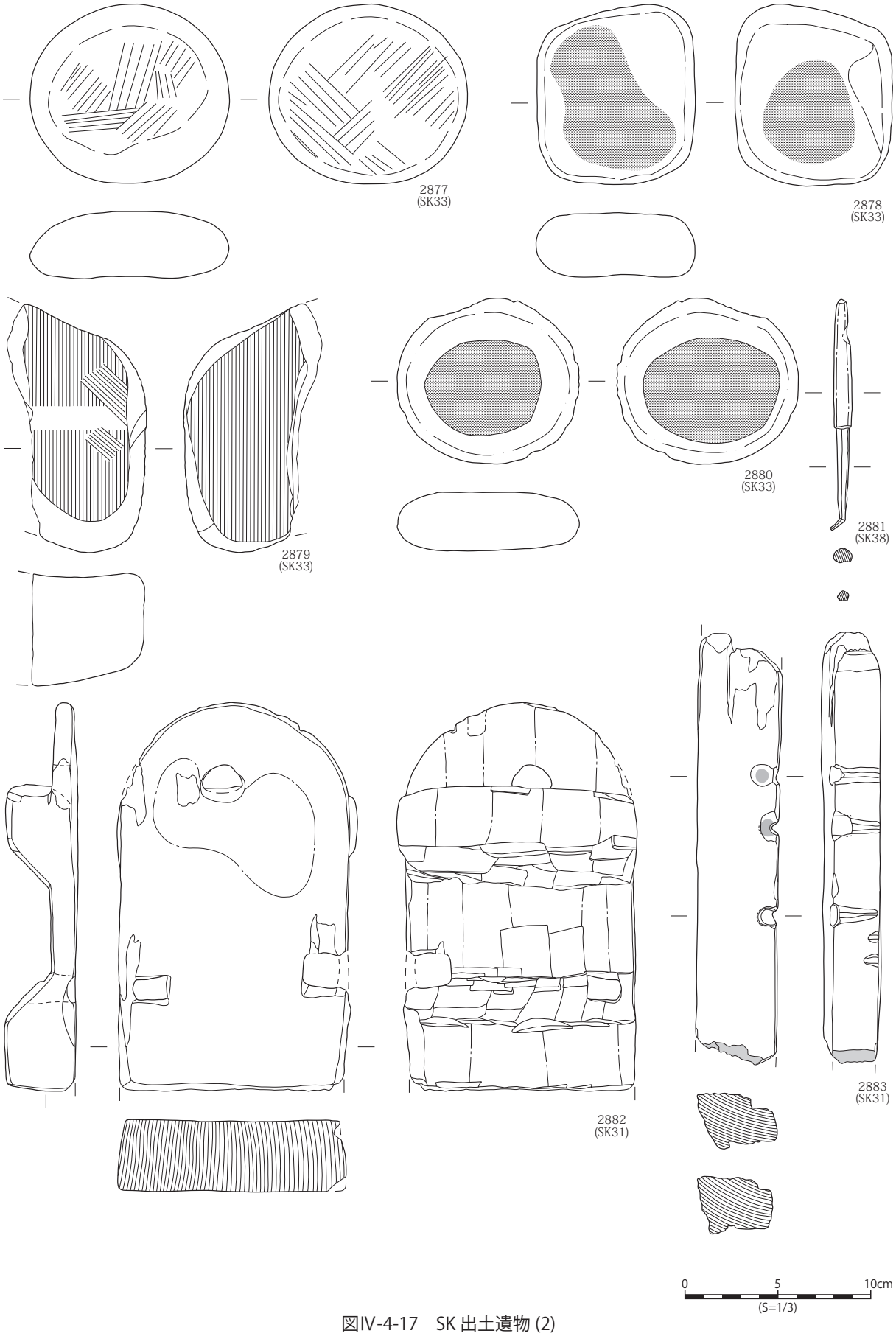
［位置・確認］グリッド BX31 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］一部撹乱を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、長径 121cm、短径 116cm、深さ 13cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］2 層確認され、黒褐色土を主体とする層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 10.9g、土師器甕 12.7g 等が出土している。

第 35 号土坑（SK35、図Ⅳ -4-5）

［位置・確認］グリッド BW32 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 80cm、短径 78cm、深さ 55cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］5 層確認され、黒褐色土層と暗褐色土



図Ⅳ-4-16　SK 出土遺物 (1)



図Ⅳ-4-17　SK 出土遺物 (2)

層で形成されている。［出土遺物］土師器坏 114.3g、土師器甕 444.5g 等が出土している。

第 36 号土坑（SK36、図Ⅳ -4-6）

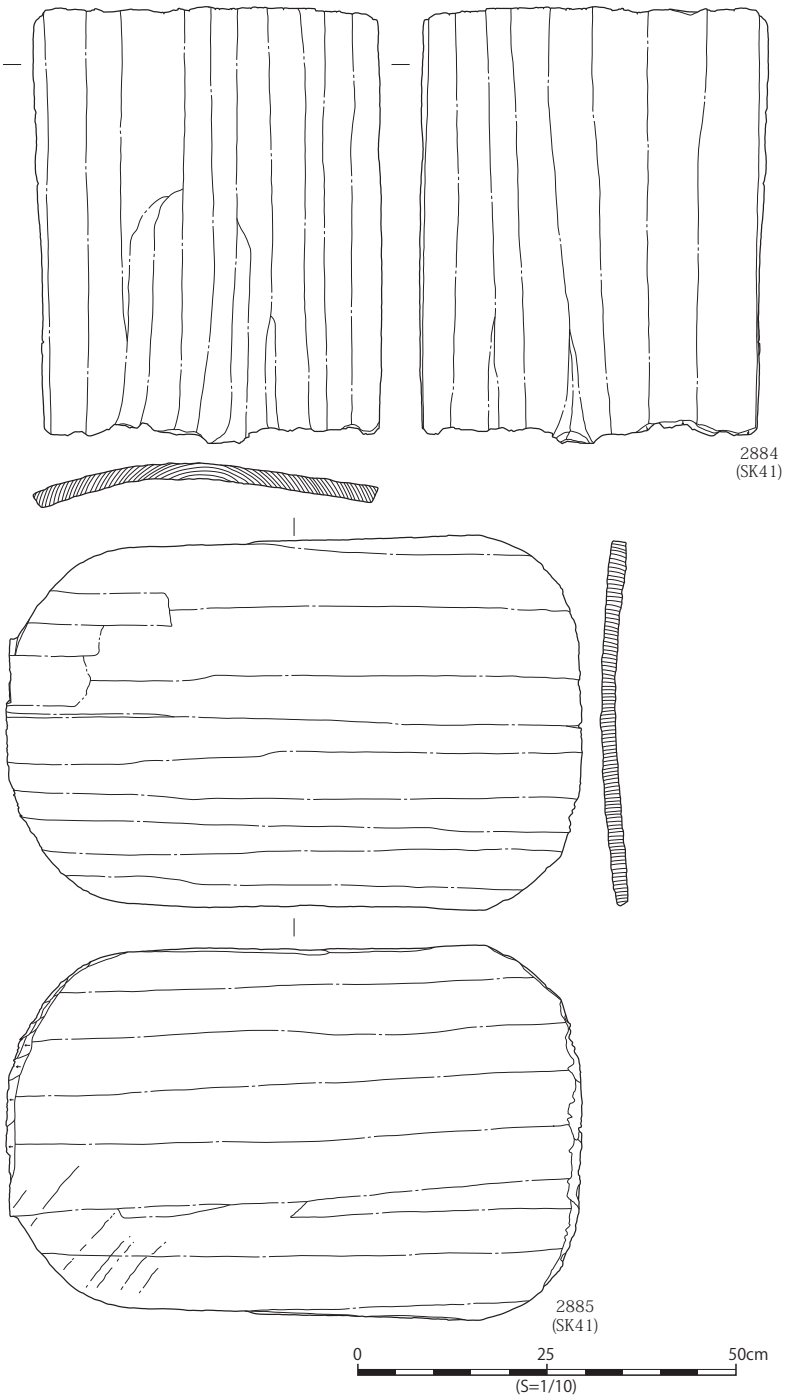
［位置・確認］グリッド BX33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］SD131 に削平されているため、正確な規模・形状は不明であるが、残存長 139cm、深さ 19cm を測り、隅丸方形を呈する。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土層と黒色土層が互層を形成している。［出土遺物］土師器坏 90.8g、土師器甕 583.4g 等が出土している。

第 37 号土坑（SK37、図Ⅳ -4-7）

［位置・確認］グリッド BW33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 109cm、短径 150cm、深さ 19cm を測り、隅丸方形を呈する。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土層と黒色土層が互層を形成している。［出土遺物］特になし。

第 38 号土坑（SK38、図Ⅳ -4-8）

［位置・確認］グリッド BW33 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 168cm、短径 62cm、深さ 37cm を測り、不正楕円形を呈する。［堆積土］5 層確認され、Ⅲ層由来の層、黒褐色土層、黒色土層で形成されている。［出土遺物］土師器甕 178.8g、須恵器甕 62.3g 等が出土している（図Ⅳ -4-14）。この内図示できたのは 1 点である（図Ⅳ -4-17）。2881 は漁労具のヤスであり、樹種はノリウツギである。



図Ⅳ-4-18　SK 出土遺物 (3)

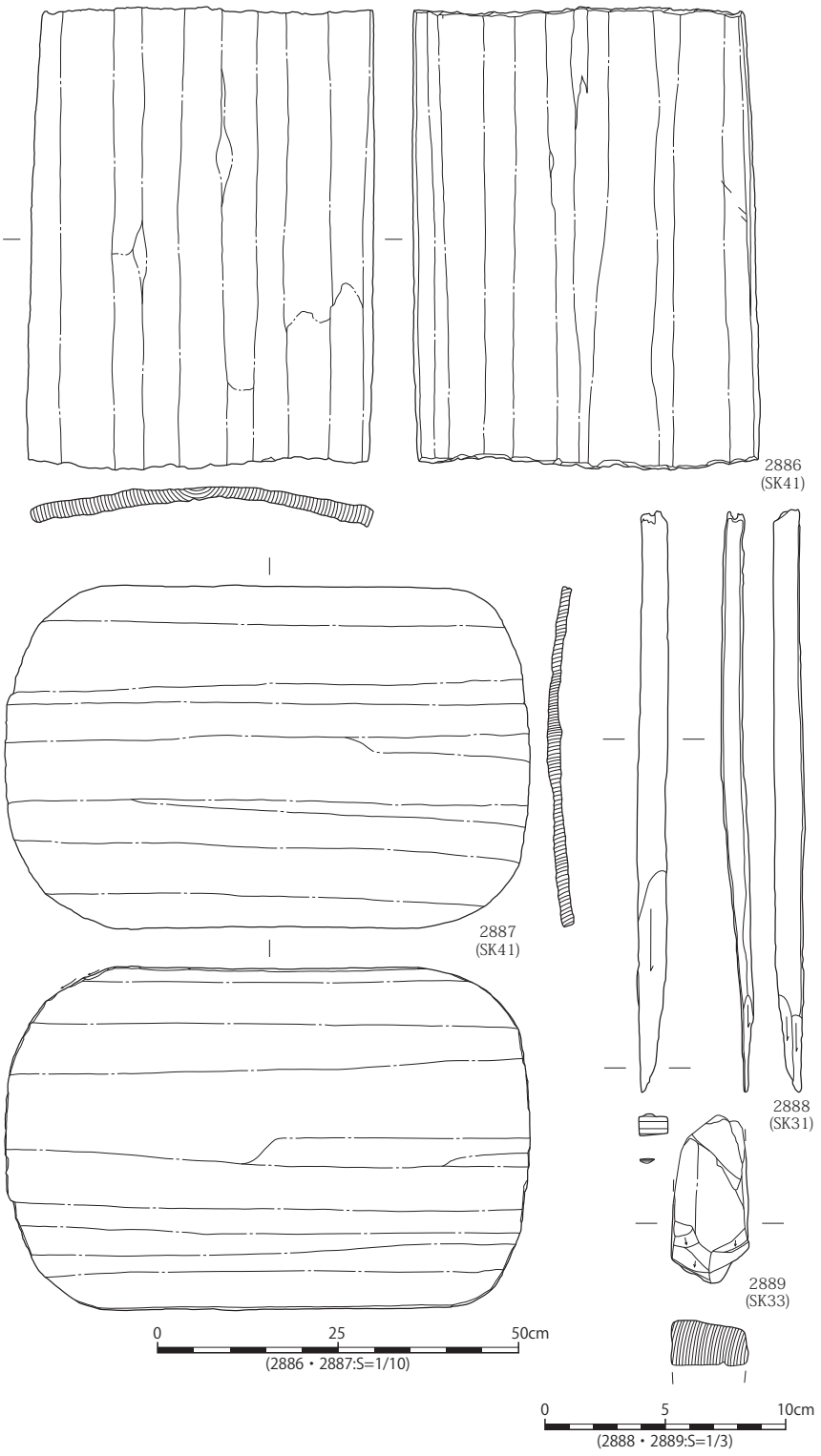
第 39 号土坑（SK39、図Ⅳ -4-9）

［位置・確認］グリッド CH27 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］長径 108cm、短径 99cm、深さ 19cm を測り、隅丸方形を呈する。［堆積土］2 層確認され、黒色土層と黒褐色土層

で形成されている。［出土遺物］土師器坏 200.5g、土師器甕 1,051.6g、須恵器甕 77.2g 等が出土している。

第 40 号土坑（SK40、図Ⅳ -4-10）

［位置・確認］リッド CE・CF30 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］SD165 に一部削平を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、長径 307cm、短径 165cm、深さ 23cm を測り、隅丸方形を呈する。［堆積土］6 層確認され、Ⅲ層由来の層、黒褐色土層、黒色土層で形成されている。［出土遺物］土師器ミニチュア 31.1g、土師器坏 232.8g、土師器甕 2,379.6g、須恵器甕 308.3g 等が出土している。この内図示できたのは 2 点である（図Ⅳ -4-16）。2865 は土師器のミニチュアの壷であり、ロクロ成形後底面に回転糸切痕を有し、無調整である。2876 は須恵器の肩部破片であり、外面に格子タタキ目が確認された。



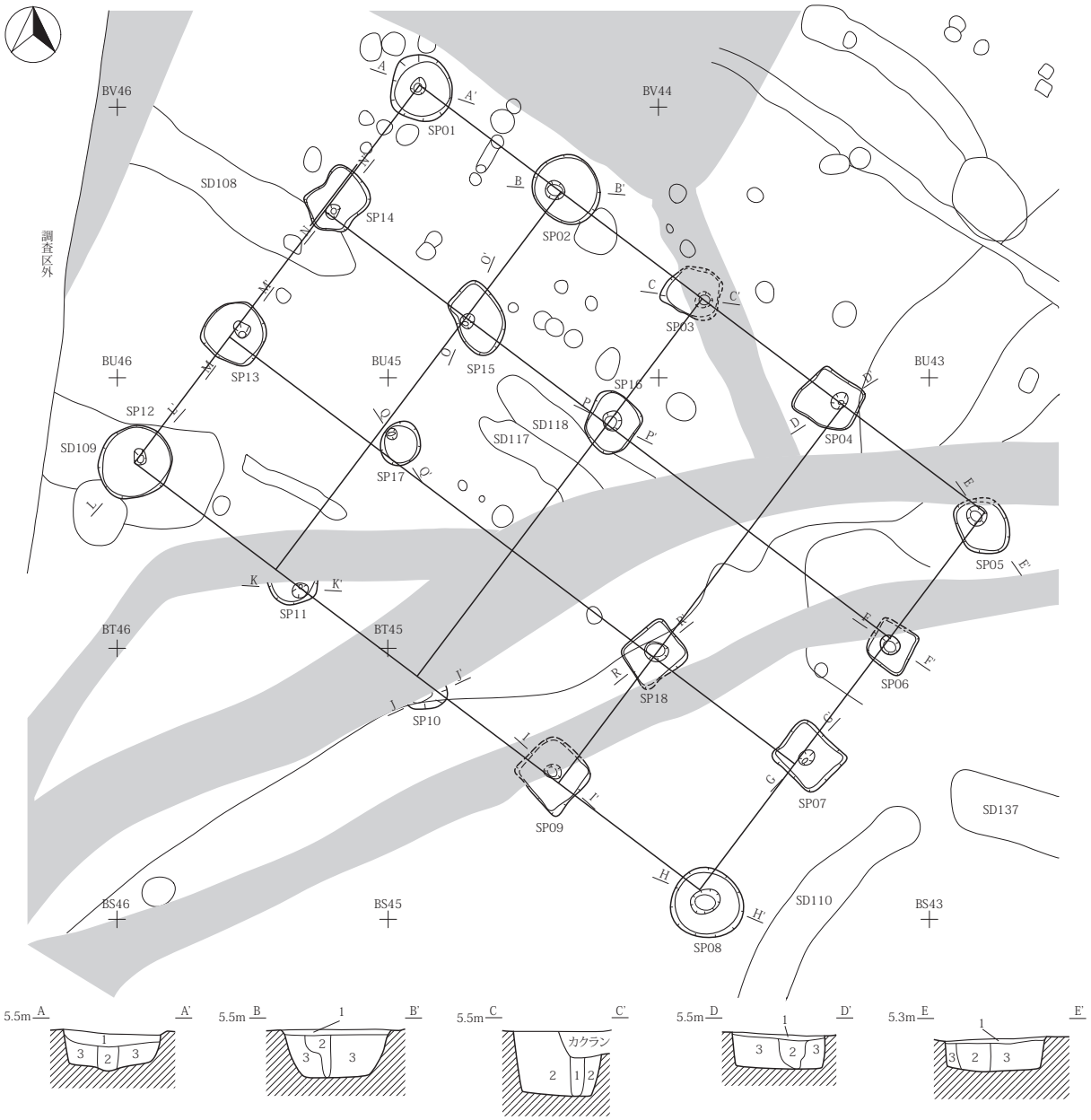
図Ⅳ-4-19　SK 出土遺物 (4)

第 41 号土坑（SK41、図Ⅳ -4-11）

［位置・確認］グリッド CG20 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］近世以降の水田跡に上部が削平を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、長径 109cm、短径 97cm、残存する深さ 29.5cm を測り、不正円形を呈する。［堆積土］4 層確認され、黒褐色土層を主体とし、中層に黒色土層が混じる。［出土遺物］桶の組物が重なり合った状況で出土している（図Ⅳ -4-15）。こ

の内図示できたものは 4 点である（図Ⅳ -4-18・19）。2884 と 2886 は桶の側板であり、2885 と 2887 は天板もしくは底板である。直線部分の側板は本来から無いものと考えられ、また木釘等による固定具の痕跡も見当たらないことから、土坑内に底板を設置し、側板の一部を立て掛け、天板を置いたものと考えられる。また、桶の形状から、近世のものと考えられ、棺桶の可能性が高いと考えられる。樹種はアスナロである。

第 5 節　掘立柱建物跡（SB）



SB28SP01土層観察表(A-A')
1層　10YR3/1 黒褐　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1 黒　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1 黒褐　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP02土層観察表 (B-B')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

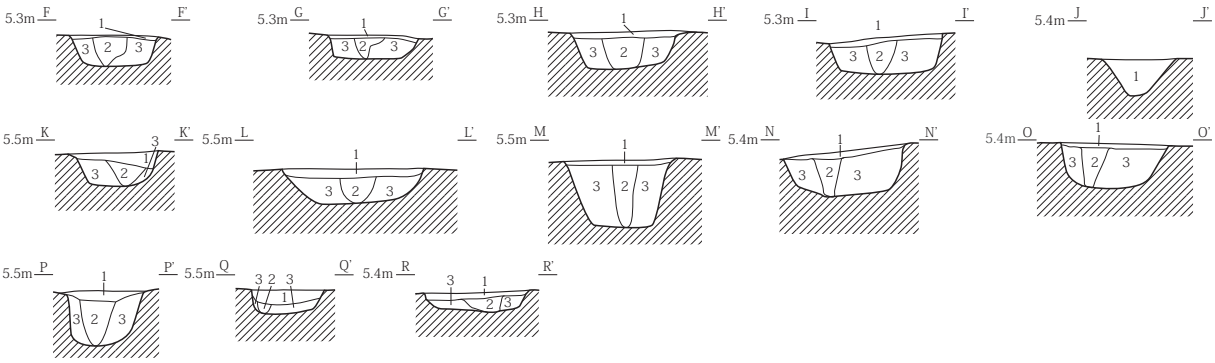
SB28SP03土層観察表(C-C')
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP04土層観察表(D-D')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP05土層観察表(E-E')
1層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰少量
2層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰多量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物中量

0　2.5　5m
(S=1/100, セクション図は S=1/60)

図Ⅳ-5-1　SB28(1)



SB28SP06土層観察表(F-F')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm 10%、灰30%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物1～5mm 30%、灰40%

SB28SP07土層観察表(G-G')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm 10%、灰30%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm 10%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物1～5mm 30%、灰40%

SB28SP08土層観察表(H-H')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm 10%、灰30%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm 10%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物1～5mm 30%、灰40%

SB28SP09土層観察表(I-I')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm10%、灰30%
2層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰少量
3層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰多量

SB28SP10土層観察表(J-J')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

SB28SP11土層観察表(K-K')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP12土層観察表(L-L')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP13土層観察表(M-M')
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分中量、灰中量
2層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分中量、炭化物少量
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量

SB28SP14土層観察表(N-N')
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　炭化物1～10mm40%、灰50%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰30%

SB28SP15土層観察表(O-O')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP16土層観察表(P-P')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP17土層観察表(Q-Q')
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

SB28SP18土層観察表(R-R')
1層　10YR4/1　褐灰色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰30%
2層　10YR3/1　暗褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　10YR4/1　灰褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰30%

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-5-2　SB28(2)

第 28 号掘立柱建物跡（SB28、図Ⅳ -5-1・2）

［位置・確認］グリッド BR43、BS43 ～ 45、BT42 ～ 46、BU43 ～ 45、BV44・45 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重複］SD108･109･118 と重複関係にあり、いずれの遺構よりも新しい。［規模･形状］桁行 36 尺（柱間 9 尺）、梁間 22 尺（柱間 7.5 尺）を測り、4 間× 3 間の長方形を呈する。[時期] Ⅱ期に相当する SD108 より新しいため、Ⅱ期以降であると考えられる。

第 6 節　柱穴跡

1) 溝跡内ピット（図Ⅲ -6-1・2）

ここでは、検出された溝跡内柱穴跡の土層観察図をまとめて掲載する。なお、各柱穴跡の平面図は第 2 節の遺構配置図に記載したとおりである。

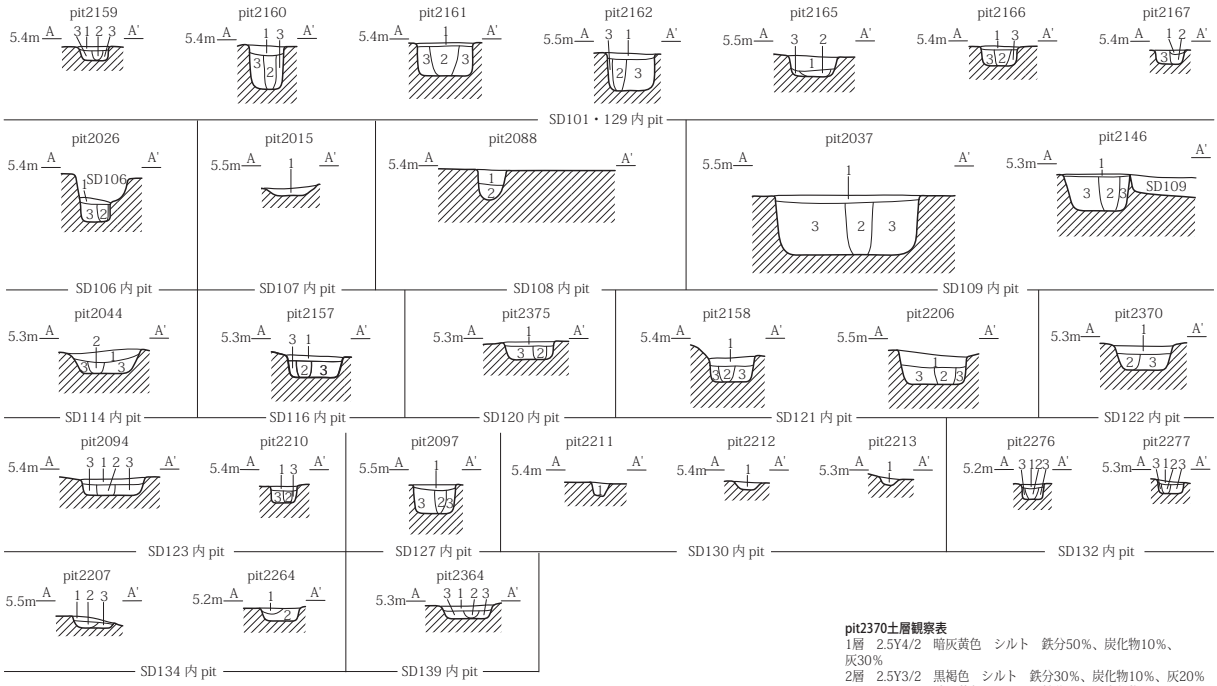
2）遺構外ピット（図Ⅲ -6-3 ～ 36）

ここでは、先に図示した溝跡内の柱穴跡以外のピットの平面図及び土層観察図を図示する。なお、堆積状況は土層観察表を参考にされたい。

3）出土遺物（図Ⅳ -6-37・38）

柱穴内での出土遺物の内実測可能な個体は全部で 7 点であった。2890 は土師器のミニチュアの壷であり、体部にヘラ記号が描かれている。ロクロ成形後底面は回転糸切り痕を有し、無調整である。2892 は須恵器の壷の体部破片であり、外面にヘラ記号が描かれている。

2892・2893 は砥石であり、いずれも扁平な円礫の平坦面を砥面として使用している。材質はいずれも安山岩である。



pit2159土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物1～5mm10%、灰10%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物1～5mm10%、灰10%

pit2160土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm30%、灰40%、焼土2～10mm10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm30%、灰40%、焼土2～10mm10%

pit2161土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm30%、灰40%、焼土2～10mm10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm30%、灰40%、焼土2～10mm10%

pit2162土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm30%、灰40%、焼土2～10mm10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm30%、灰40%、焼土2～10mm10%

pit2165土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5～20mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～15mm10%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5～20mm10%、灰20%

pit2166土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%

pit2167土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%

pit2026土層観察表
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰20%

pit2015土層観察表
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰中量

pit2088土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　炭化物1～10mm40%、灰50%

pit2037土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit2146土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm20%、灰30%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm10%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm20%、灰30%

pit2044土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%

pit2157土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm20%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2375土層観察表
1層　2.5Y3/2、黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%

pit2158土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm20%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2206土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2370土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰30%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰30%

pit2094土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物20%

pit2210土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～10mm10%、灰20%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～10mm10%、灰20%

pit2097土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト質粘土　鉄分40%、炭化物2～5mm5%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%

pit2211土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～10mm10%、灰20%

pit2212土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～10mm10%、灰20%

pit2213土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5～10mm10%、灰20%

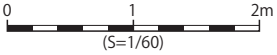
pit2276土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%

pit2277土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%

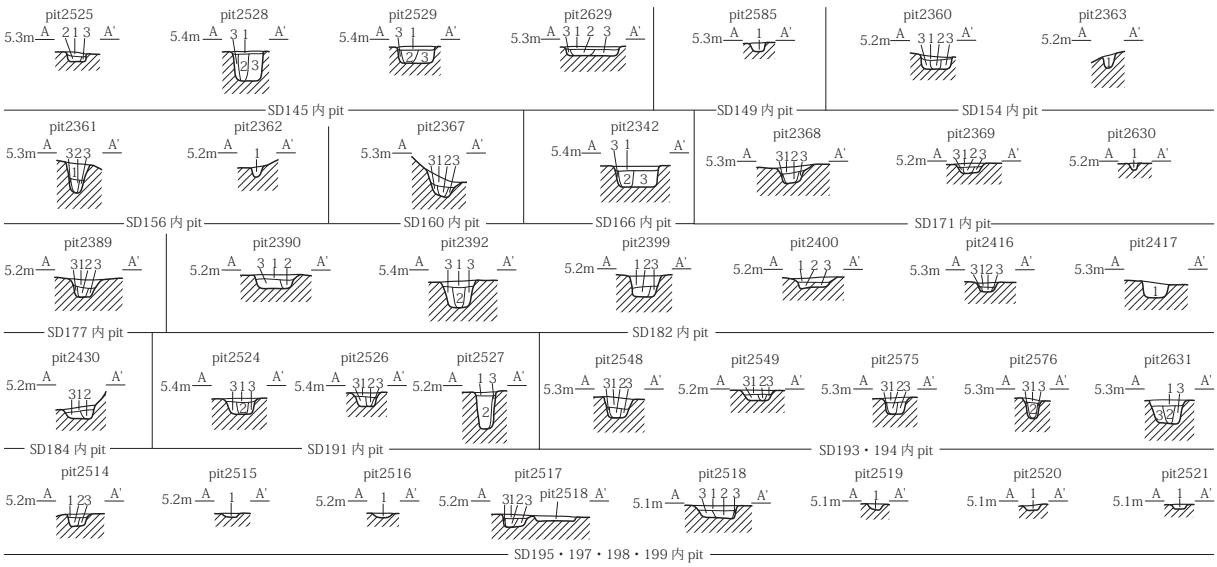
pit2207土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%
2層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰30%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%

pit2264土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分20%
2層　10YR3/1　黒褐色　砂質シルト　鉄分10%

pit2364土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　鉄分40%、炭化物5%、灰20%



図Ⅳ-6-1　SD101・129,106～109,114,116,120～123,127,130,132,134,139 内 pit



pit2525土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰10%

pit2528土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2529土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2629土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2585土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2360土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰15%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰15%

pit2363土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%

pit2361土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰15%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰15%

pit2362土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%

pit2367土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰15%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2342土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2368土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%

pit2369土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2630土層観察表
1層　2.5Y4/1　黄灰色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2389土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰5%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰5%

pit2390土層観察表
1層　2.5Y4/3　暗オリーブ褐色　粘土質シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰5%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　粘土質シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰5%

pit2392土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2399土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2400土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質粘土　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト質粘土　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質粘土　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2416土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2417土層観察表
1層　2.5Y4/4　オリーブ褐色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2430土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2524土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2526土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰10%

pit2527土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2548土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2549土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2575土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2576土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2631土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2514土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2515土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%

pit2516土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%

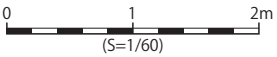
pit2517土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2518土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

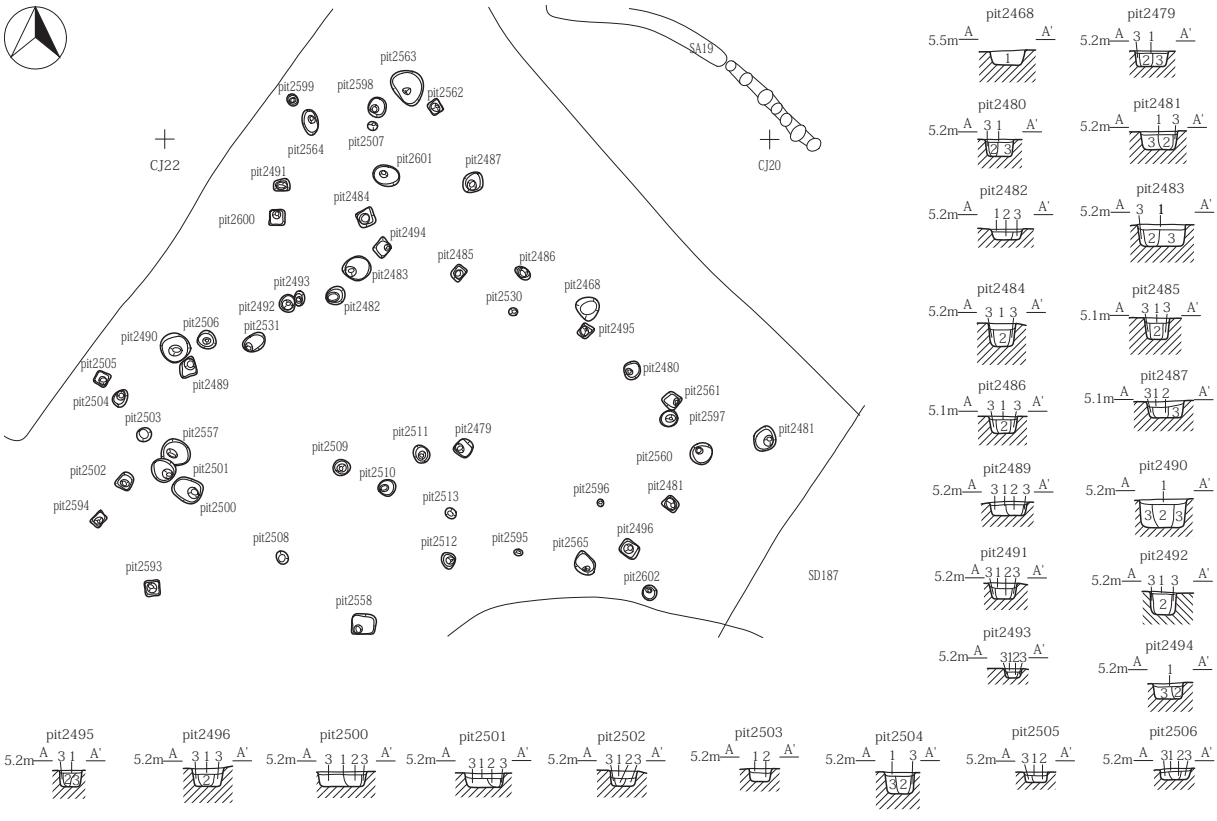
pit2519土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%

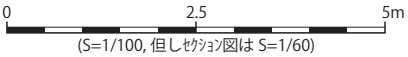
pit2520土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%

pit2521土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%



図Ⅳ-6-2　SD145,149,154,156,160,166,171,177,182,184,191,193・194,195・197～199 内 pit





(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

pit2468土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2479土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2480土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2481土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2482土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2483土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2484土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2485土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2486土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2487土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2489土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2490土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2491土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2492土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2493土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2494土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2495土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2496土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2500土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2501土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2502土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

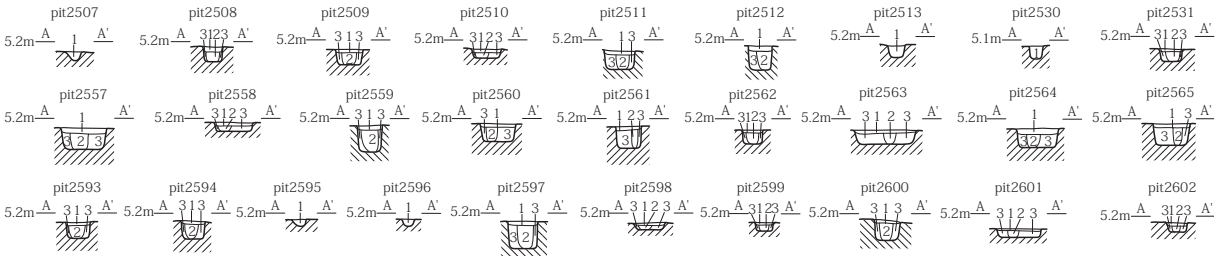
pit2503土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2504土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2505土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2506土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

図Ⅳ-6-3　遺構外pit(1-1)



pit2507土層観察表
1層 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2508土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2509土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2510土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2511土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2512土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2513土層観察表
1層 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2530土層観察表
1層 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2531土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2557土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2558土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2559土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2560土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2561土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2562土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2563土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2564土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2565土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2593土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

0 1 2m
(S=1/60)

pit2594土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2595土層観察表
1層 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2596土層観察表
1層 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2597土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2598土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

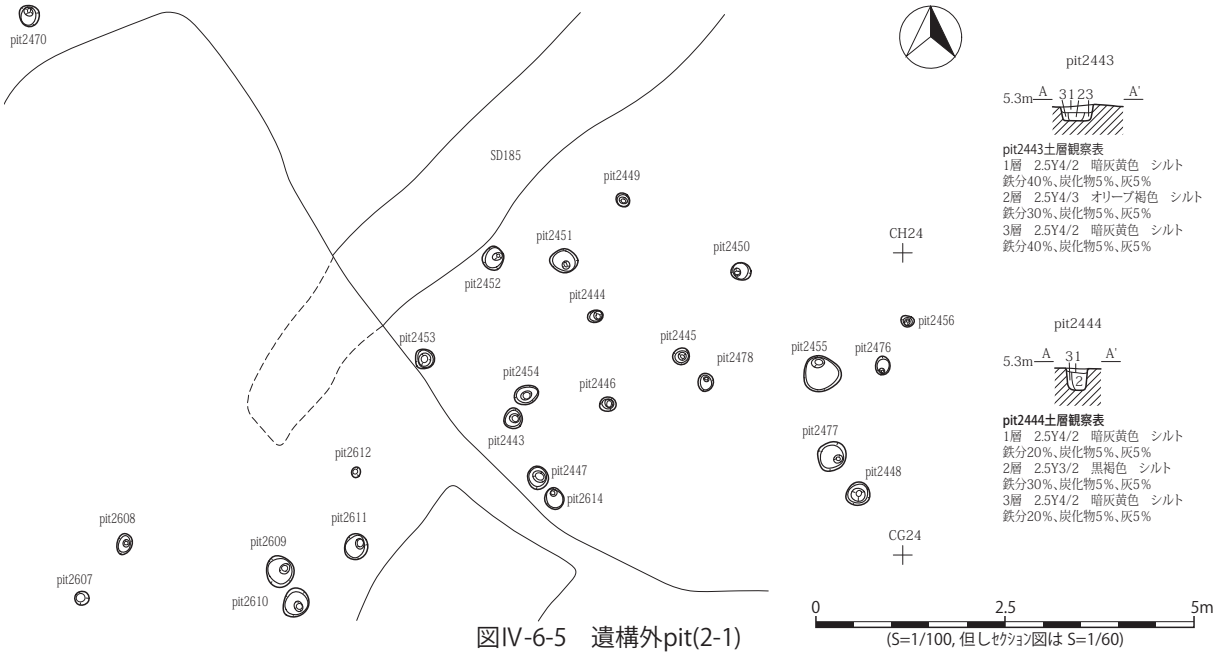
pit2599土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2600土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2601土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2602土層観察表
1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰10%

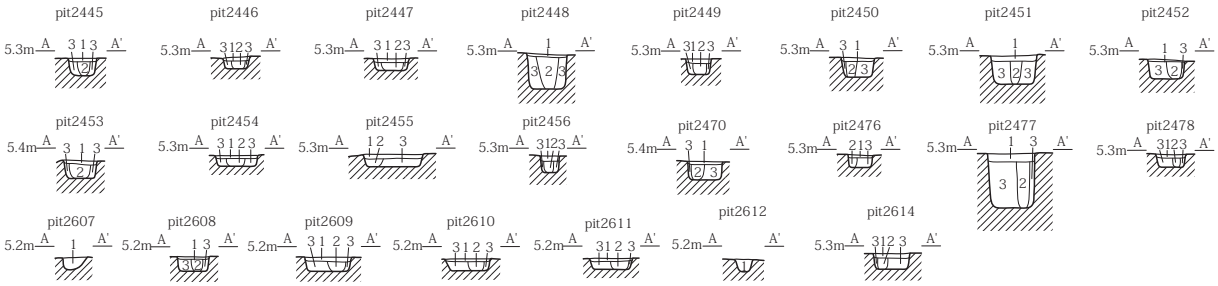
図Ⅳ-6-4 遺構外pit(1-2)



pit2443土層観察表
1層 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2444土層観察表
1層 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト 鉄分20%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-6-5 遺構外pit(2-1)



(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

pit2445土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2446土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2447土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2448土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2449土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2450土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2451土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2452土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2453土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2454土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2455土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2456土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2470土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2476土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、灰10%

pit2477土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2478土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2607土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2608土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2609土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

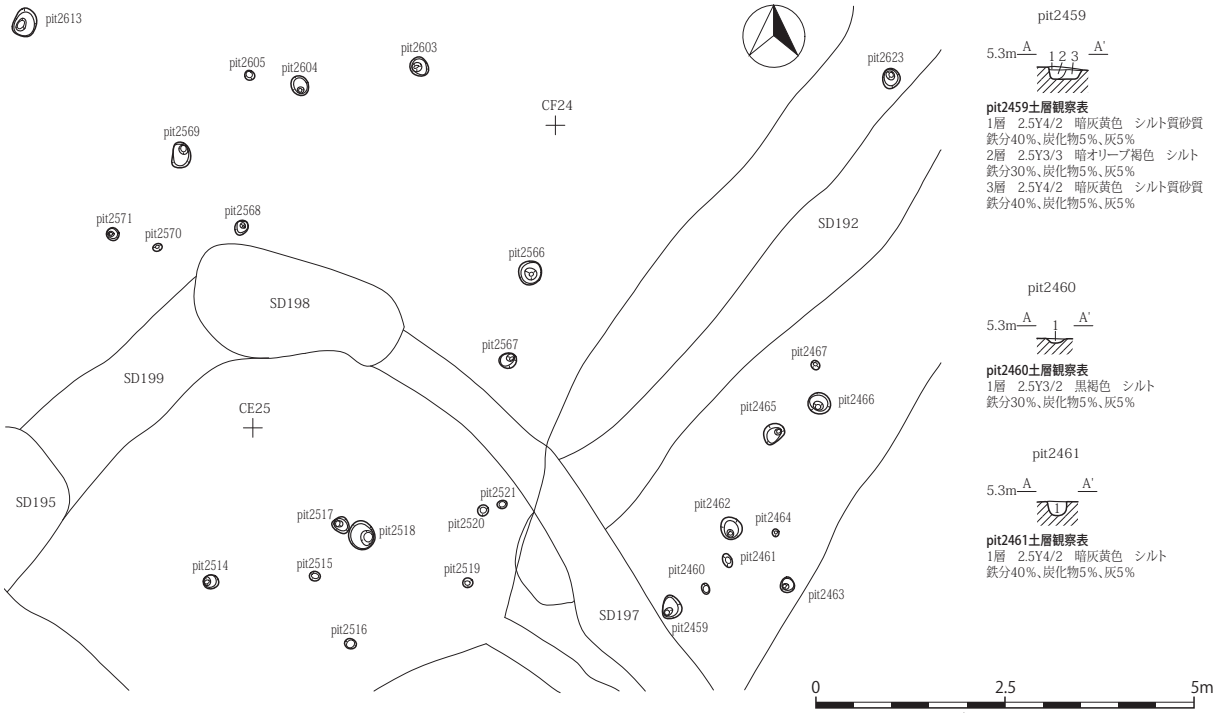
pit2610土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2611土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2612土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2614土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-6-6　遺構外pit(2-2)



pit2459

5.3m A 1 2 3 A'

pit2459土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2460

5.3m A 1 A'

pit2460土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

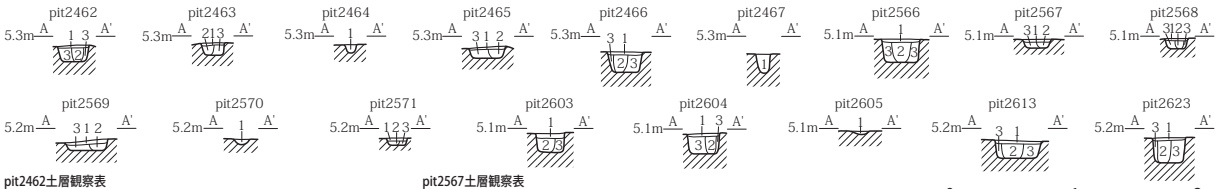
pit2461

5.3m A A'

pit2461土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅳ-6-7　遺構外pit(3-1)



pit2462土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2463土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2464土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2465土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シル　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2466土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2467土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2566土層観察表
1層　2.5Y3/2 黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2567土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2568土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2569 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2570 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　炭化物 5%、灰 5%

pit2571 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2603 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

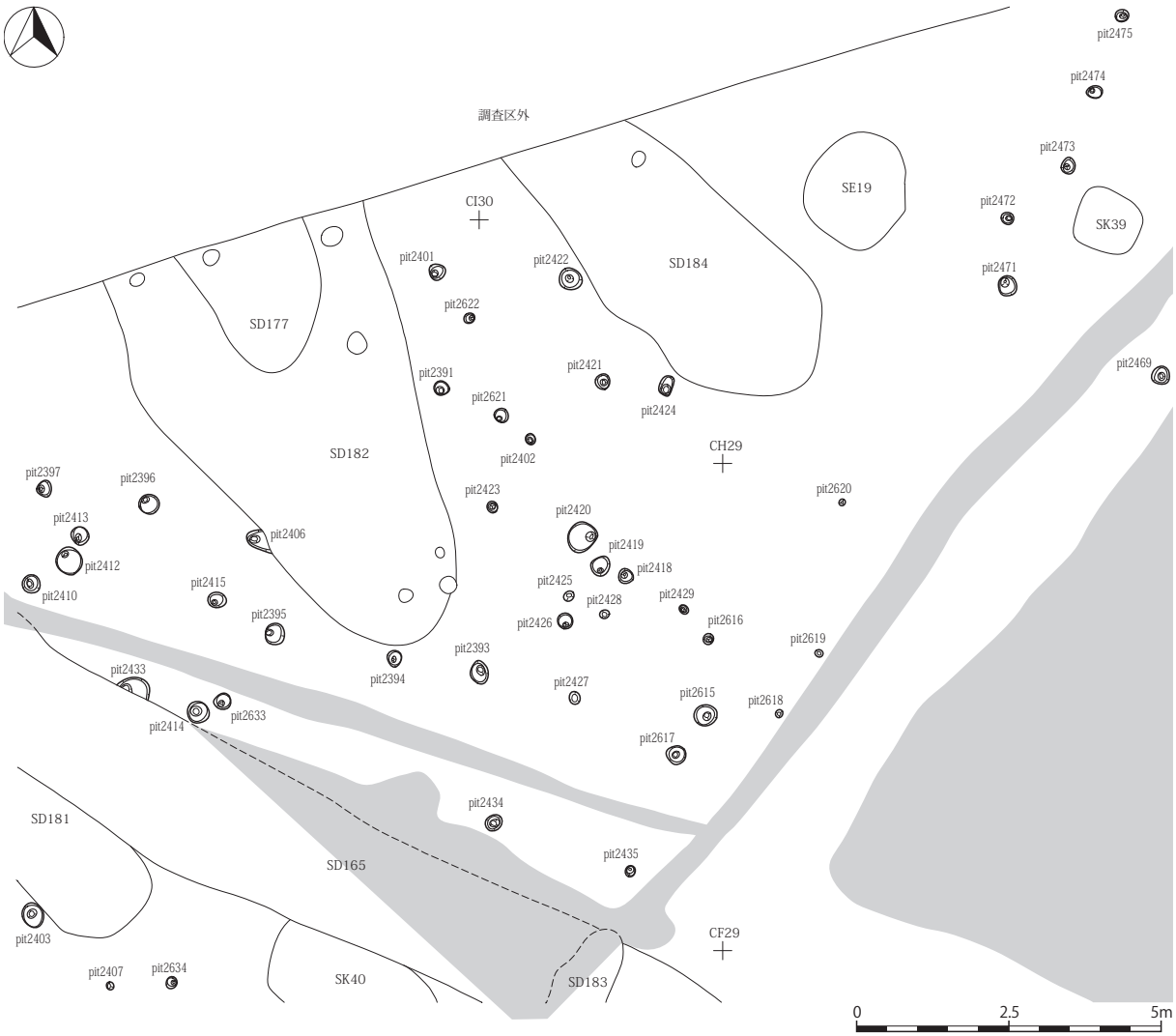
pit2604 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2605 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　炭化物 5%、灰 5%

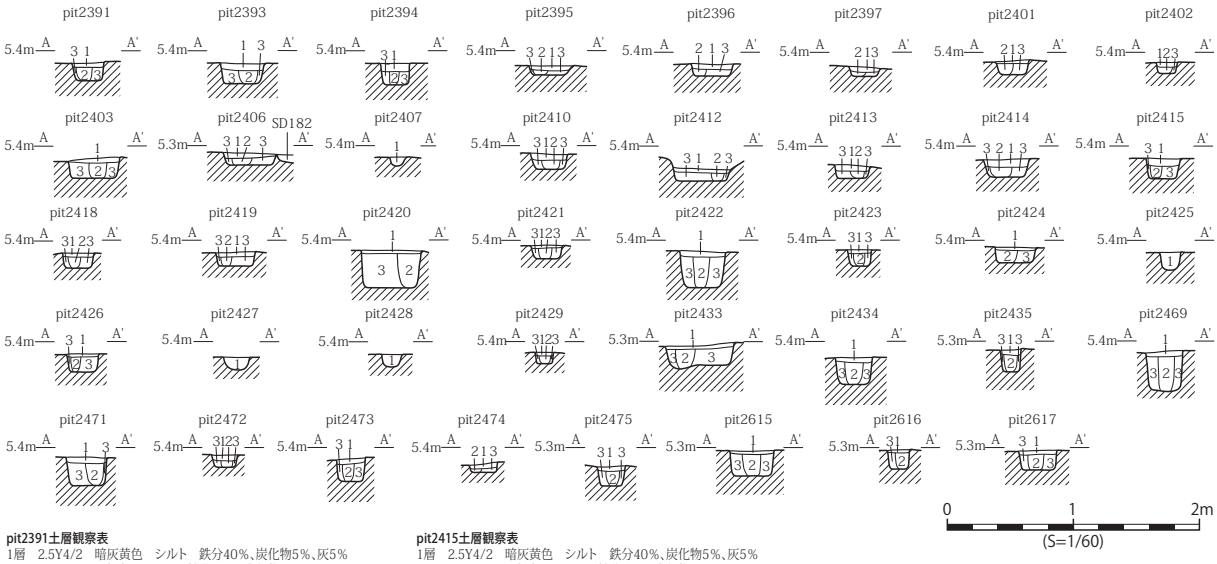
pit2613 土層観察表
1 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2623 土層観察表
1 層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%
2 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 20%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%

図Ⅳ-6-8　遺構外pit(3-2)



図Ⅳ-6-9　遺構外pit(4-1)



pit2391土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2393土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2394土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2395土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2396土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2397土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2401土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2402土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2403土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2406土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2407土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2410土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2412土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2413土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2414土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2415土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2418土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2419土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2420土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2421土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2422土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2423土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐　色シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2424土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2425土層観察表
1層　2.5Y4/4　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2426土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2427土層観察表
1層　2.5Y4/4　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2428土層観察表
1層　2.5Y4/4　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2429土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2433 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2434 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2435 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2469 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%

pit2471 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%

pit2472 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、灰 10%

pit2473 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、灰 10%

pit2474 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、灰 10%

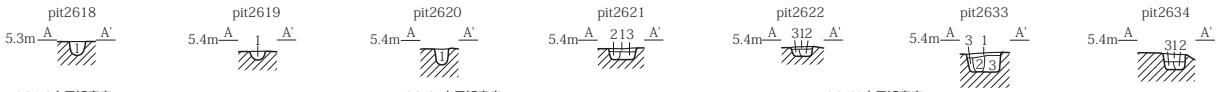
pit2475 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、灰 10%

pit2615 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2616 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

pit2617 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 5%

図Ⅳ-6-10　遺構外pit(4-2)



pit2618土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2619土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2620土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

pit2621土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

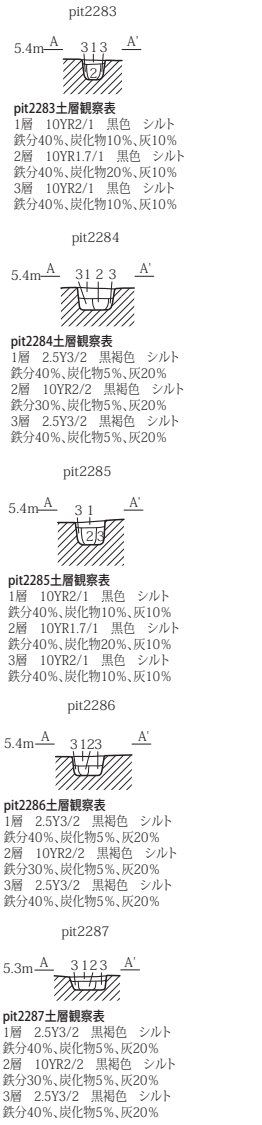
pit2622土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2633土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2634土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-6-11　遺構外pit(4-3)



pit2283土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物20%、灰10%
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2284土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2285土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物20%、灰10%
3層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2286土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2287土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2288土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2289土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2290土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

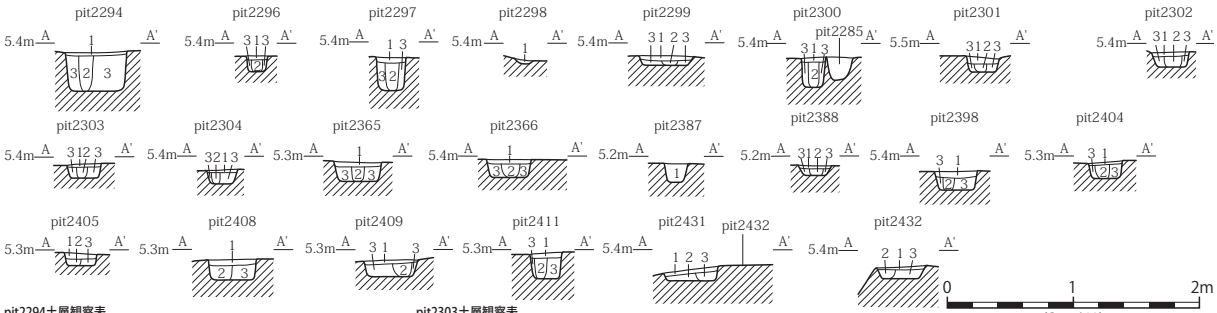
pit2291土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2292 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 20%
2 層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 20%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 20%

pit2293 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 20%
2 層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 20%
3 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 20%

0　2.5　5m
(S=1/120, 但しセクション図は S=1/60)

図Ⅳ-6-12　遺構外pit(5-1)



pit2294土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2296土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　10YR1.7/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2297土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%

pit2298土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2299土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2300土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2301土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%

pit2302土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2303土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%

pit2304土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰20%

pit2365土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2366土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰15%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2387土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%

pit2388土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2398土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2404土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2405土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2408土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

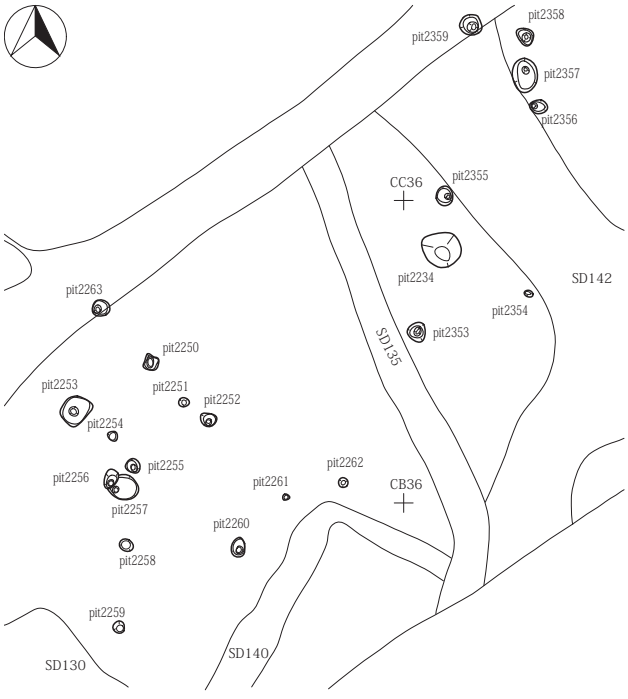
pit2409土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　砂質シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%

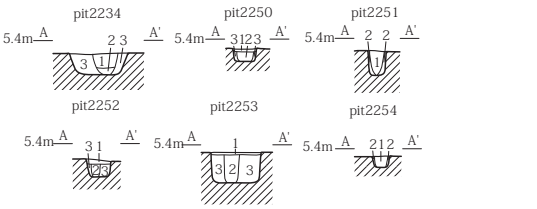
pit2411土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2431土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

pit2432土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-6-13　遺構外pit(5-2)





pit2234土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分50%、炭化物5～20mm20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%

pit2250土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分10%、炭化物10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分5%、炭化物5%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分10%、炭化物10%

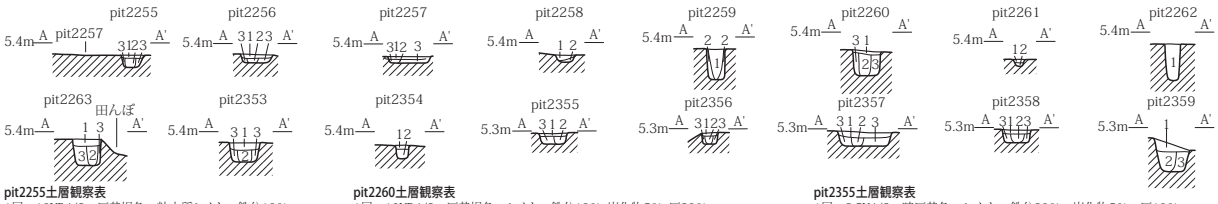
pit2251土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分10%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%

pit2252土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%

pit2253土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分20%、炭化物10%
2層　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分20%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分20%、炭化物10%

pit2254土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分5%、炭化物5%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分20%、炭化物10%

図Ⅳ-6-14　遺構外pit(6-1)



pit2255土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分5%、炭化物10%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%

pit2256土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分10%、炭化物10%、灰10%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%

pit2257土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%
2層　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　鉄分10%、炭化物10%、灰10%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　粘土質シルト　鉄分10%

pit2258土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分10%、灰5%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%

pit2259土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分10%、灰5%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%

pit2260土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%、灰20%

pit2261土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%

pit2262土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%

pit2263土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分10%、灰10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分10%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分10%、灰10%

pit2353土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2354土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%

pit2355土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2356土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

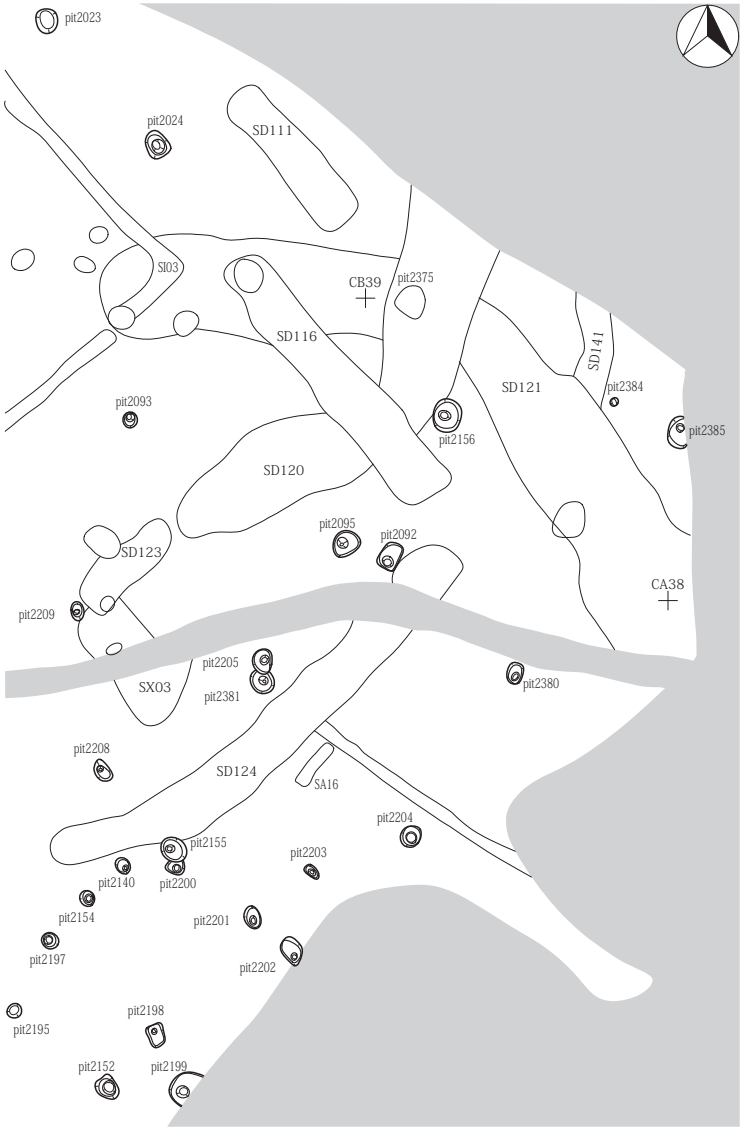
pit2357土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

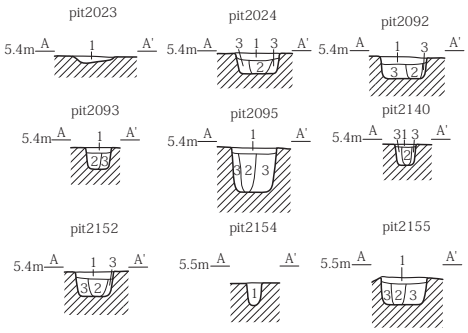
pit2358土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2359土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-6-15　遺構外pit(6-2)





pit2023土層観察表
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰20%

pit2024土層観察表
1層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物5%
3層　10YR4/1　褐灰色　砂質シルト　鉄分10%

pit2092土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分10%、炭化物5%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%
3層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分10%、炭化物5%

pit2093土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物10%
2層　10YR4/1　暗灰色　シルト　鉄分5%、炭化物5%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分10%、炭化物10%

pit2095土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%

pit2140土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

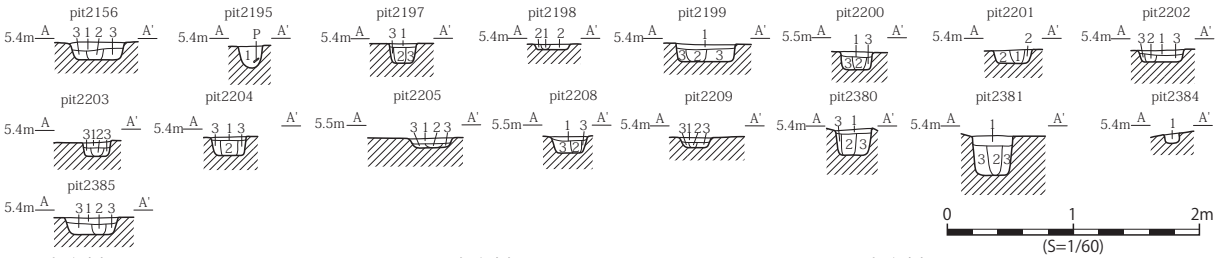
pit2152土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2154土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%

pit2155 土層観察表
1 層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 2 ～ 5mm10%、灰 20%
2 層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分 50%、炭化物 2 ～ 5mm10%、灰 20%
3 層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 2 ～ 5mm10%、灰 20%

0　2.5　5m
(S=1/100, 但しｾｸｼｮﾝ図は S=1/60)

図Ⅳ-6-16　遺構外pit(7-1)



pit2156土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2195土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5～10mm 20%、灰40%、焼土5～10mm10%

pit2197土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2198土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 20%、灰30%

pit2199土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～20mm 30%、灰30%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂質　鉄分50%、炭化物5～20mm20%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～20mm 30%、灰30%

pit2200土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト

pit2201土層観察表
1層10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 20%、灰30%

pit2202土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～20mm 30%、灰30%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂質　鉄分50%、炭化物5～20mm20%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～20mm 30%、灰30%

pit2203土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2204土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～20mm 30%、灰30%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂質　鉄分50%、炭化物5～20mm20%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～20mm 30%、灰30%

pit2205土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト質砂質　炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂質　鉄分40%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2208土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2209土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

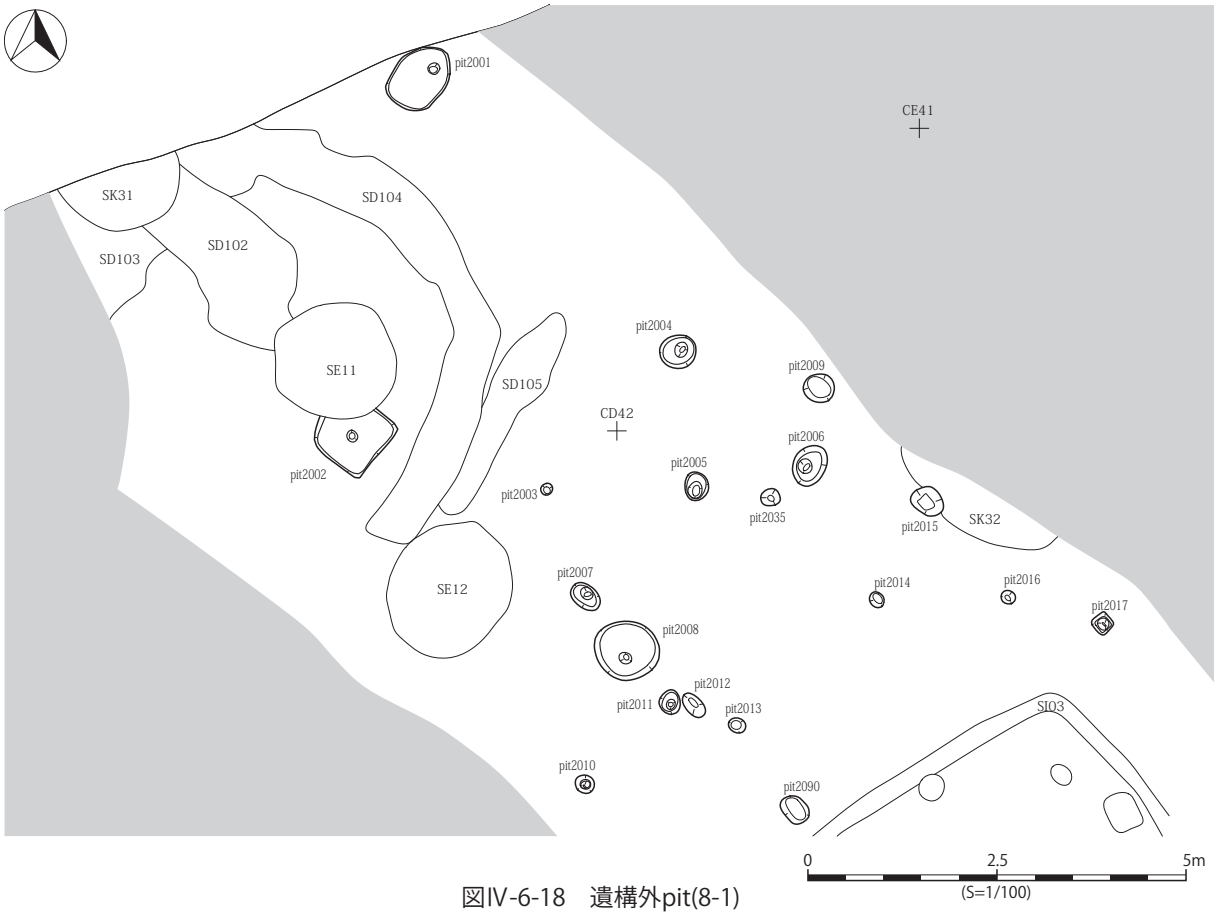
pit2380土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2381土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

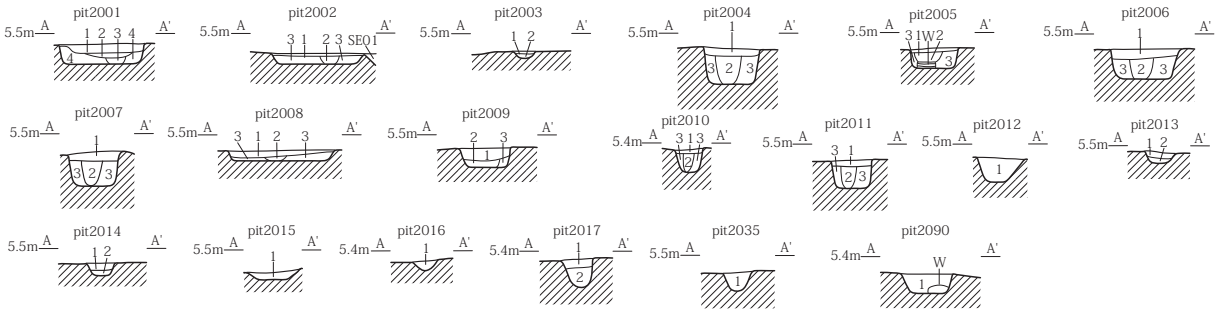
pit2384土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰20%

pit2385土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

図Ⅳ-6-17　遺構外pit(7-2)



図Ⅳ-6-18　遺構外pit(8-1)



pit2001土層観察表
1層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質砂　鉄分中量､炭化物微量
2層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質砂　鉄分中量､炭化物微量
3層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質砂　鉄分少量
4層　10YR 4/1　褐灰色　シルト質砂　鉄分中量､炭化物微量

pit2002土層観察表
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト質砂　鉄分中量､炭化物中量
2層　10YR 2/2　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物微量
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト質砂　鉄分中量､炭化物中量

pit2003土層観察表
1層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分微量、炭化物微量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量､炭化物微量

pit2004土層観察表
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量､炭化物微量

pit2005土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量
3層　10YR 3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分少量、炭化物微量

pit2006土層観察表
1層　10YR 4/1　褐色灰色　シルト質砂　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR 4/1　褐色灰色　シルト質砂　鉄分中量、炭化物少量

pit2007土層観察表
1層10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分少量
2層　10YR 2/1　黒色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分少量

pit2008土層観察表
1層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分中量、炭化物少量
2層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分微量、炭化物少量
3層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分中量、炭化物少量

pit2009土層観察表
1層　10YR 4/3　にぶい黄褐色　シルト質砂　鉄分少量、
炭化物微量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量
3層　10YR 4/3　にぶい黄褐色　シルト質砂　鉄分少量

pit2010土層観察表
1層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分少量、炭化物微量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト質砂　鉄分少量、炭化物微量

pit2011土層観察表
1層　10YR 3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量
3層　10YR 3/3　暗褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit2012土層観察表
1層　10YR 3/2　黒褐色　シルト質砂鉄分中量、炭化物少量

pit2013土層観察表
1層　10YR 4/3　にぶい黄褐色　シルト質砂　鉄分中量、
炭化物少量
2層　10YR 3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量

pit2014土層観察表
1層　10YR 4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰少量
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰少量

pit2015土層観察表
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰中量

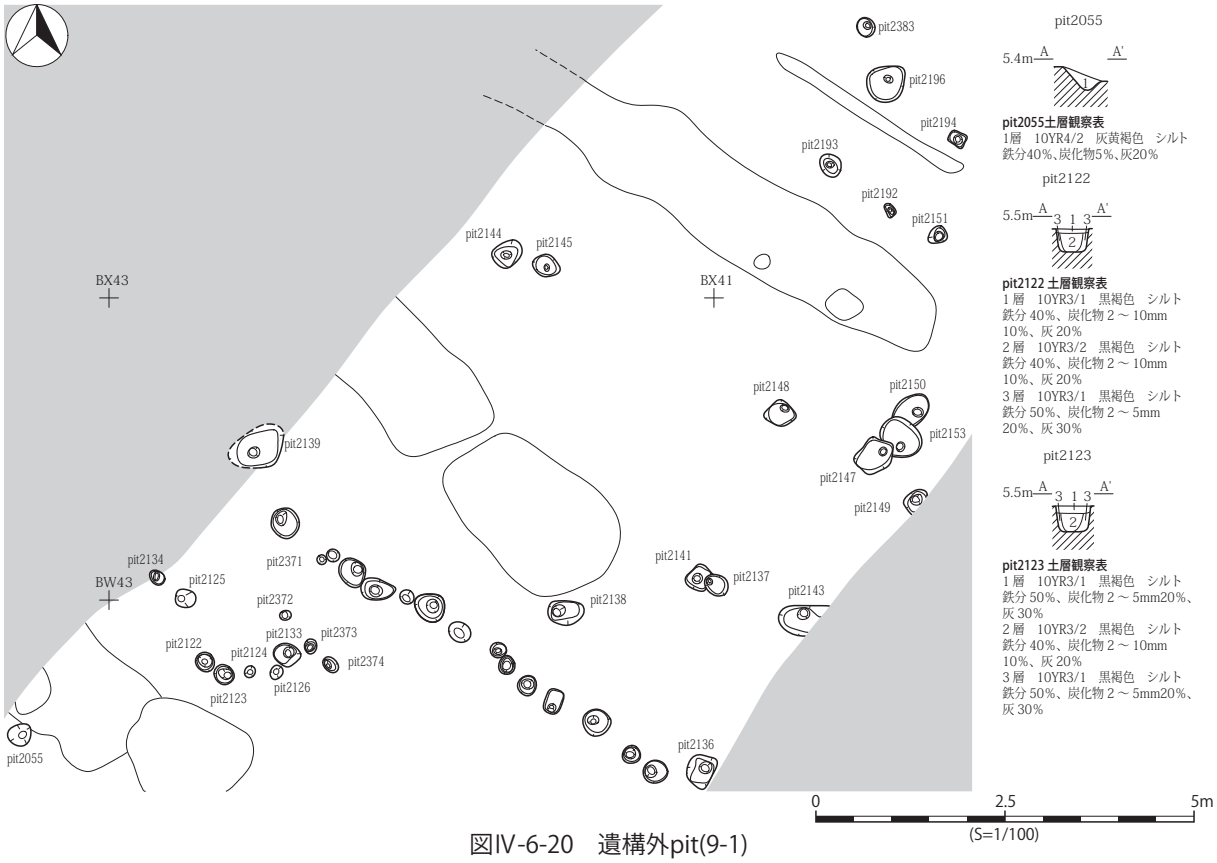
pit2016土層観察表
1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2017土層観察表
1層　10YR 4/1　褐灰色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pi2035土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰20%

pit2090土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分20%、炭化物30%、灰20%

図Ⅳ-6-19　遺構外pit(8-2)



pit2055
5.4m A A'

pit2055土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト
鉄分40%､炭化物5%､灰20%

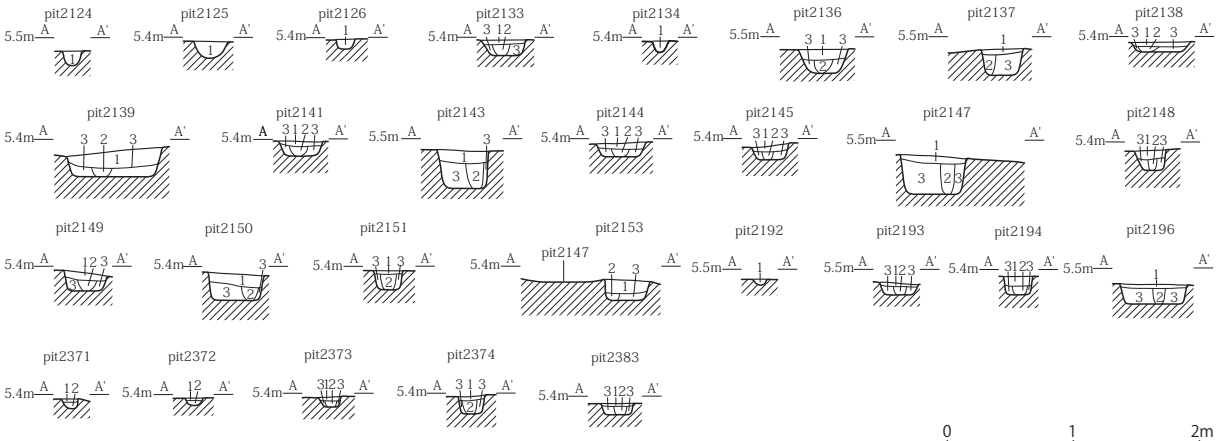
pit2122
5.5m A 3 1 3 A'

pit2122 土層観察表
1 層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分 40%、炭化物 2 ～ 10mm
10%、灰 20%
2 層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分 40%、炭化物 2 ～ 10mm
10%、灰 20%
3 層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分 50%、炭化物 2 ～ 5mm
20%、灰 30%

pit2123
5.5m A 3 1 3 A'

pit2123 土層観察表
1 層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分 50%、炭化物 2 ～ 5mm20%、
灰 30%
2 層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分 40%、炭化物 2 ～ 10mm
10%、灰 20%
3 層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分 50%、炭化物 2 ～ 5mm20%、
灰 30%

図Ⅳ-6-20　遺構外pit(9-1)



pit2124土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2125土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2126土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2133土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～3mm 5%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～3mm 5%、灰20%

pit2134土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2136土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～3mm 5%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～3mm 5%、灰20%

pit2137土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰10%

pit2138土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
2層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2139土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
2層　10YR3/2　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%

pit2141土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰10%

pit2143土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2144土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰10%
2層　2.5Y4/2　暗灰黄　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 20%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰20%

pit2145土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰10%
2層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 20%、灰30%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰20%

pit2147土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2148土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物2～10mm10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2149土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2150土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2151土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐　シルト　炭化物2～10mm10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2153土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 20%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2192土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐　シルト　炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2193土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2194土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～5mm 10%、
灰20%2層　10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質砂質　炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐　シルト　鉄分40%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2196土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 20%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 20%、灰20%

pit2371土層観察表
1層　2.5Y5/2　黒灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2372土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%

pit2373土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2374土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2383土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%

図Ⅳ-6-21　遺構外pit(9-2)

pit2027

5.5m A 3 1 A' (2 3)

pit2027土層観察表
1層　10YR 3/2　黒褐色　シルト
鉄分20%、炭化物、10%、灰30%
2層　10YR 2/2　黒褐色　シルト
鉄分40%　炭化物30%　灰40%
3層　10YR 3/2　黒褐色　シルト
鉄分40%、炭化物3～10mm20%、灰30%

pit2038

5.5m A 1 A' (3 2 3)

pit2038土層観察表
1層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト
炭化物中量、灰少量
2層　10YR3/3　暗褐色　砂質シルト
鉄分少量、炭化物中量
3層　10YR2/2　黒褐色　砂質シルト
炭化物中量、灰少量

pit2040

5.5m A 2 1 3 A'

pit2040土層観察表
1層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分中量、灰中量
2層　10YR3/4　暗褐色　シルト
鉄分少量
3層　10YR5/3　にぶい黄褐色　シルト
鉄分中量、灰中量

pit2042

5.4m A 3 1 2 A'

pit2042土層観察表
1層　2.5Y5/3　黄褐色　シルト
鉄分50%、炭化物微量、灰少量
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
3層　10YR3/3　暗褐色　シルト
炭化物微量

pit2043

5.4m A 2 1 A' (3)

pit2043 土層観察表
1 層　10YR3/1　黒褐色　シルト
鉄分 50%、炭化物 2 ～ 9mm10%、灰 30%
2 層　10YR2/1　黒色　シルト
鉄分 10%、炭化物 80%、灰 40%
3 層　10YR3/1　黒色　シルト
鉄分 50%、炭化物 2 ～ 9mm10%、灰 30%

pit2045

5.5m A 1 A'

pit2045 土層観察表
1 層　2.5Y5/3　黄褐色　シルト
鉄分 50%、炭化物微量、灰少量

pit2046

5.5m A 2 1 3 A'

pit2046 土層観察表
1 層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2 層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
3 層　10YR3/3　暗褐色　シルト
炭化物微量

pit2047

5.5m A 2 1 3 A'

pit2047 土層観察表
1 層　10YR3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2 層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分多量、炭化物微量
3 層　10YR3/3　暗褐色　シルト
炭化物微量

pit2049

5.5m A 1 A' (3 2 3)

pit2049 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト
鉄分中量、炭化物微量
2 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分中量、炭化物少量
3 層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト
鉄分多量、炭化物少量、灰多量

pit2050

5.5m A pit2049 3 1 A' (2 3)

pit2050 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　暗灰黄色　シルト
鉄分多量、灰中量
2 層　2.5Y3/2　暗灰黄色　シルト
鉄分中量、炭化物少量、灰少量
3 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト
鉄分多量、炭化物少量、灰中量

pit2051

5.5m A 1 A'

pit2051 土層観察表
1 層　10YR3/3　暗褐色　シルト
鉄分少量、炭化物少量、灰少量

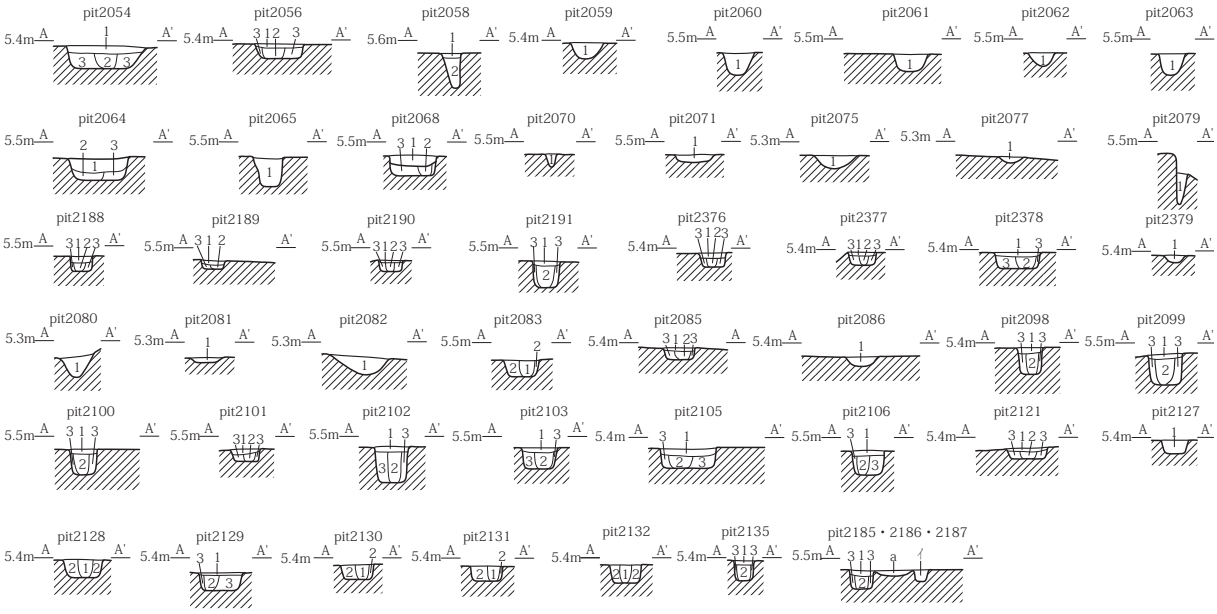
pit2052

5.5m A 3 1 A' (2 3)

pit2052 土層観察表
1 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト
鉄分 50%、炭化物微量、灰中量
2 層　10YR3/2　黒色　シルト
鉄分 30%、炭化物 2 ～ 10mm10%、灰 30%
3 層 10YR3/1 黒褐色　シルト
鉄分 40%、炭化物 2 ～ 10mm10%、灰 20%

0　2.5　5m
(S=1/120, 但しセクション図は S=1/60)

図IV-6-22　遺構外pit(10-1)



pit2054土層観察表
1層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量、灰中量
3層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分多量、炭化物微量、灰多量

pit2056土層観察表
1層　7.5YR2/3　極暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物30%、灰40%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物3～10mm20%、灰30%

pit2058土層観察表
1層　2.5Y5/2 暗灰黄色　シルト　鉄分多量、炭化物少量、灰中量
2層　10YR4/2灰黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量、灰中量

pit2059土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分微量、炭化物多量、灰中量

pit2060土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物微量、灰中量

pit2061土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物微量、灰中量

pit2063土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物微量、灰中量

pit2062土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分微量、炭化物多量、灰中量

pit2064土層観察表
1層　2.5Y4/2　黒灰黄色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰中量
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分中量、炭化物微量、灰微量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit2065土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物微量、灰少量

pit2068土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量
2層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分少量
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit2070土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰少量

pit2071土層観察表
1層　10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト　鉄分多量、炭化物微量、灰多量

pit2075土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰多量

pit2077土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm 10%、灰30%

pit2079土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分中量、炭化物中量

pit2188土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm 10%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2189土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm 10%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2190土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2 黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2191土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2376,2377,2378土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2379土層観察表
1層　2.5Y3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰5%

pit2080土層観察表
1層　2.5Y3/1 黒褐色　シルト　鉄分少量、炭化物少量、灰微量

pit2081土層観察表
1層　2.5Y5/2　暗灰黄色　シルト　鉄分少量、炭化物微量、灰少量

pit2082土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰30%

pit2083土層観察表
1層　7.5YR2/3　極暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物30%、灰40%

pit2085土層観察表
1層　7.5YR2/3　極暗褐色　シルト　鉄分中量、炭化物少量、灰少量
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物30%、灰40%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物3～10mm 20%、灰30%

pit2086土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物1～5mm 10%、灰30%

pit2098土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物30%、灰40%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物3～10mm 20%、灰30%

pit2099土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物30%、灰40%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物3～10mm 20%、灰30%

pit2100 土層観察表
1 層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分 20%、炭化物 10%、灰 30%
2 層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 30%、灰 40%
3 層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 3～ 10mm 20%、灰 30%

pit2101,2102,2103,2105,2106土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物30%、灰40%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物3～10mm 20%、灰30%

pit2121土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2127土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2128土層観察表
1層　10YR2/1　黒色　シルト　鉄分40%、炭化物50%、灰25% 焼土2～5mm30%
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト　鉄分20%、灰40%、焼土2～10mm50%

pit2129土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物30%、灰40%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物3～10mm 20%、灰30%

pit2130土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物5%。灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2131土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2132土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%

pit2135土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～3mm5%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～3mm5%、灰20%

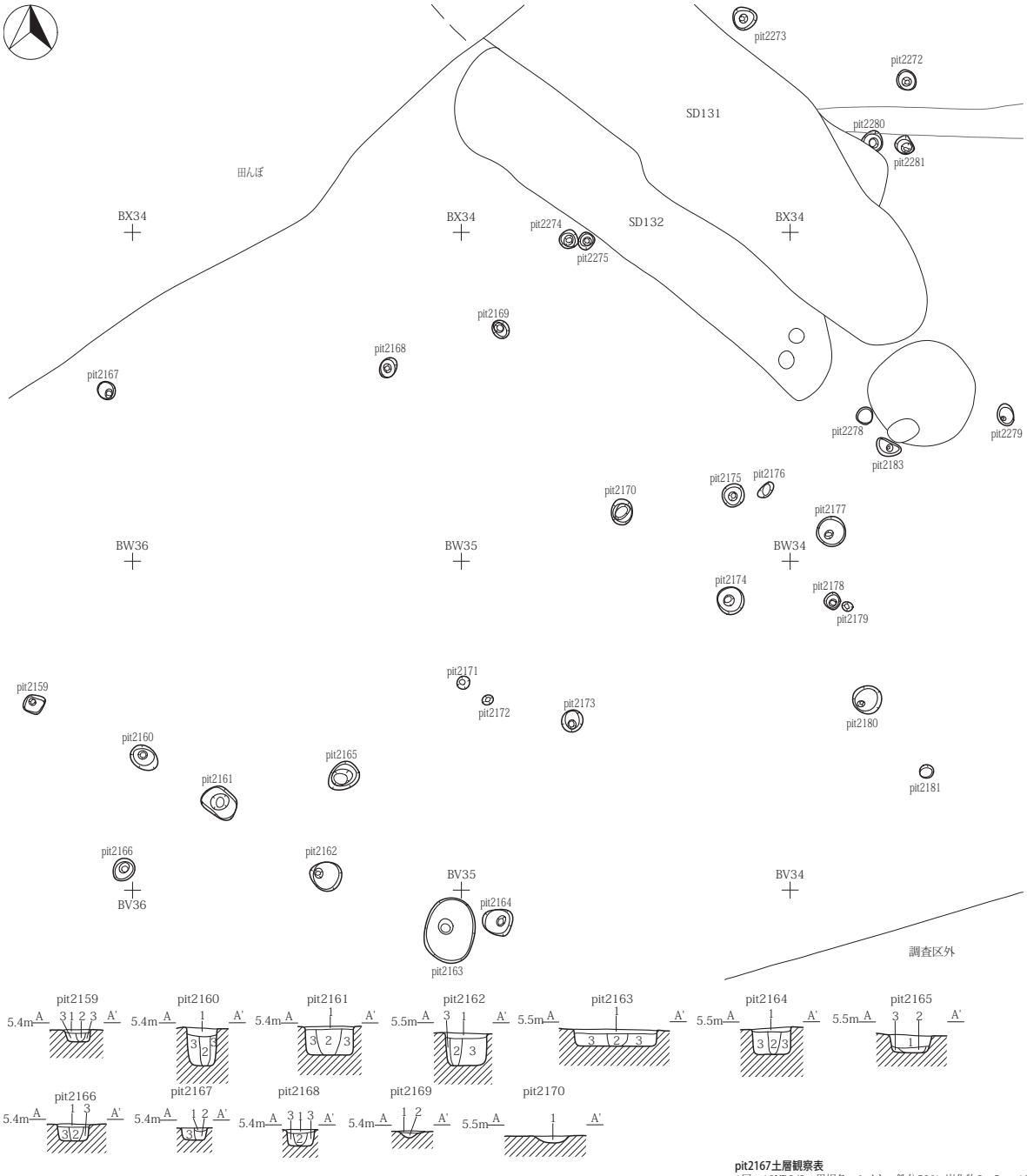
pit2185土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm 10%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2186土層観察表
a層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2187土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-6-23　遺構外pit(10-2)



pit2159土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物1～5mm 10%、灰10%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%、炭化物2～5mm 10%　灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト鉄分30%、炭化物1～5mm 10%、灰10%

pit2160,2161,2162土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 30%、灰40%、焼土2～10mm10%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm 20%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 30%、灰40%、焼土2～10mm10%

pit2163土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　炭化物2～10mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　炭化物2～10mm10%、灰20%

pit2164土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　炭化物2～10mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物2～10mm 10%、灰20%

pit2165土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5～20mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　炭化物2～15mm10%、灰30%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5～20mm10%、灰20%

pit2166土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%

pit2167土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%

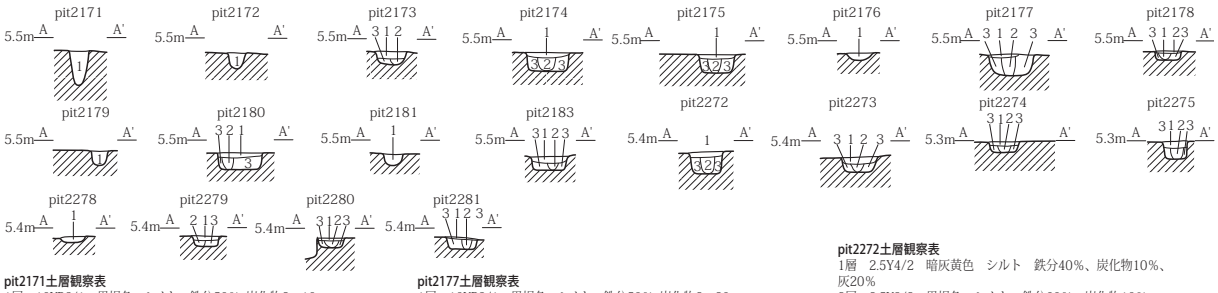
pit2168土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物2～10mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10% 、灰30%

pit2169土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2170土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm30%、灰40%

0　1　2m
(S=1/80, 但しセクション図は S=1/60)

図Ⅳ-6-24　遺構外pit(11-1)



pit2171土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～10mm 30%、灰40%、焼土2～10mm10%

pit2172土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　炭化物2～10mm10%、灰20%

pit2173土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%

pit2174土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%

pit2175土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%

pit2176土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%

pit2177土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～20mm 10%、灰30%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分40%、炭化物2～10mm10%、灰20%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～20mm10%

pit2178土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ色　シルト　鉄分60%、炭化物2～30mm20%、灰30%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ色　シルト　鉄分60%、炭化物2～30mm20%、灰30%

pit2179土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～20mm 10%、灰30%

pit2180土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ色　シルト　鉄分60%、炭化物2～30mm20%、灰30%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰20%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ色　シルト　鉄分60%、炭化物2～30mm20%、灰30%

pit2181土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～20mm 10%、灰30%

pit2183土層観察表
1層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/1　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物2～40mm 30%、灰40%

pit2272土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20%

pit2273土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20%

pit2274土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2275土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2278土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

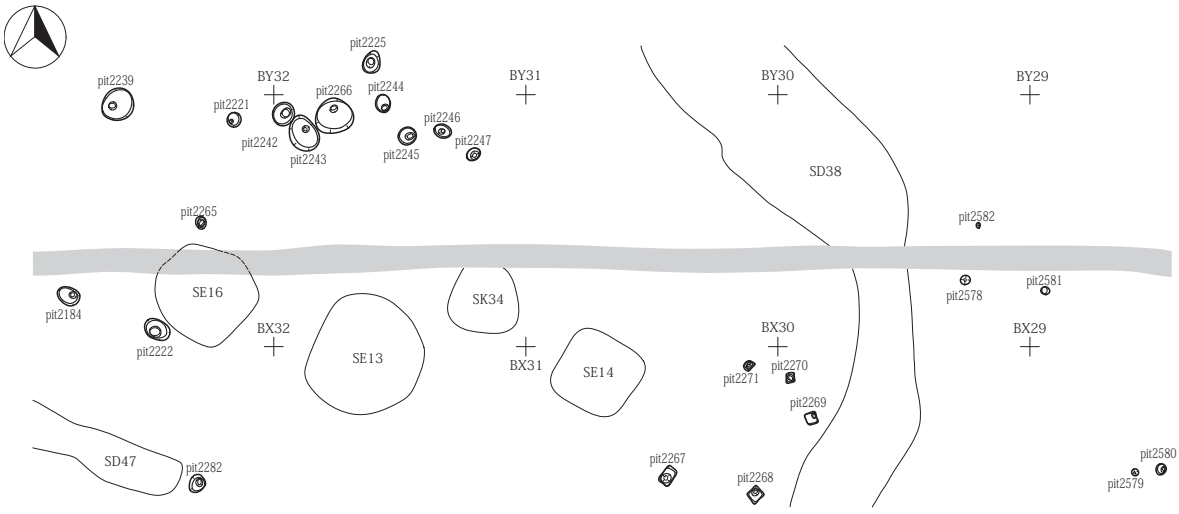
pit2279土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

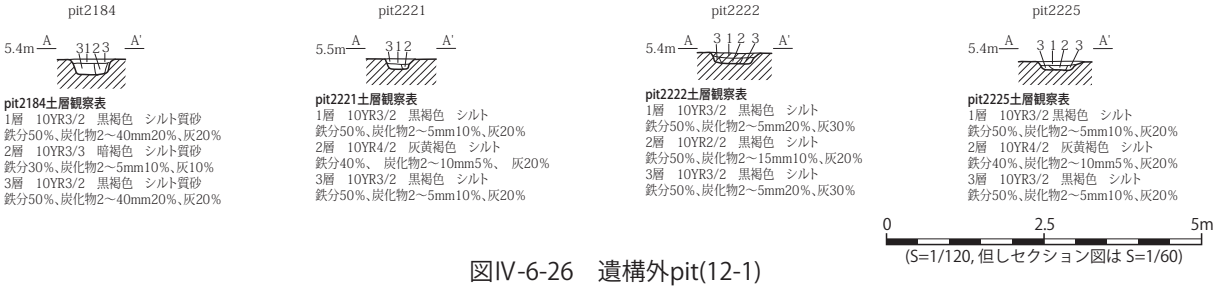
pit2280土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20%

pit2281土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分60%、炭化物10%、灰20
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰20

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-6-25　遺構外pit(11-2)





pit2184土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物2～40mm20%、灰20%
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物2～40mm20%、灰20%

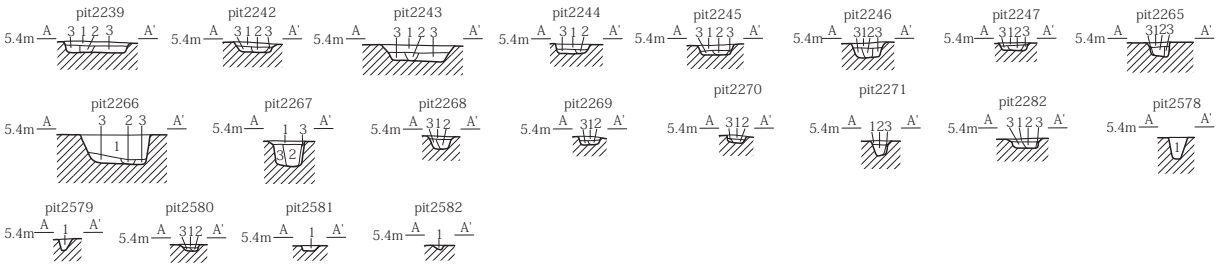
pit2221土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2222土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～15mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%

pit2225土層観察表
1層　10YR3/2 黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

0　2.5　5m
(S=1/120, 但しセクション図は S=1/60)

図Ⅳ-6-26　遺構外pit(12-1)



pit2239土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2242土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2243土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2244土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　　鉄分50%、炭化物2～5mm 10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2245土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2246土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～10mm 10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm5%、灰20%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～10mm 10%、　灰20%

pit2247土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm 5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2265土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%
2層　10YR2/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～15mm10%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%

pit2266土層観察表
1層10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2267 土層観察表
1 層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分 10%
2 層　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　鉄分 5%
3 層　10YR3/2　黒褐色　砂質シルト　鉄分 10%

pit2268 土層観察表
1 層　10YR4/2 灰黄褐色　砂質シルト　鉄分 20%
2 層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分 20%
3 層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分 20%

pit2269 土層観察表
1 層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分 20%
2 層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分 20%
3 層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分 20%

pit2270 土層観察表
1 層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質　シルト　鉄分 20%
2 層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分 20%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分20%

pit2271土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分20%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　砂質シルト　鉄分20%

pit2282土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分50%、炭化物2～40mm20%、灰20%
2層　10YR3/3　暗褐色　シルト質砂　鉄分30%、炭化物2～5mm10%、灰10%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト質砂　鉄分50%　炭化物2～40mm20%　灰20%

pit2578土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2579土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

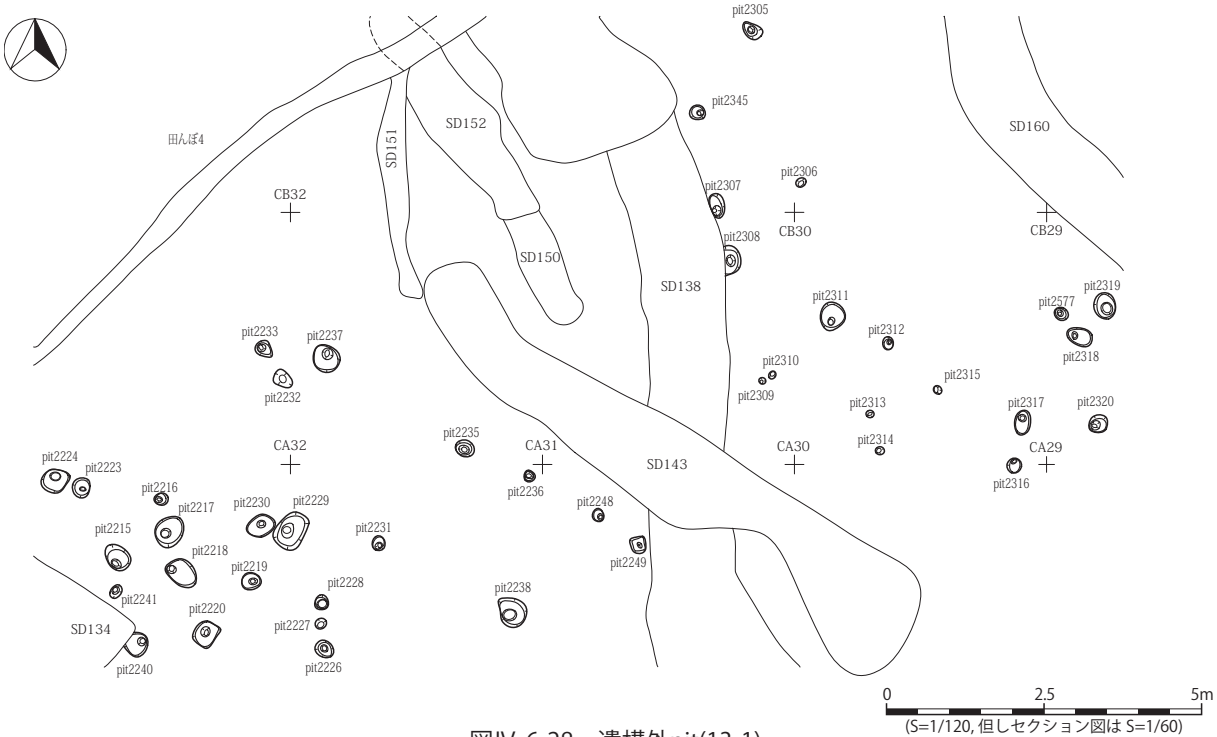
pit2580土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2581土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

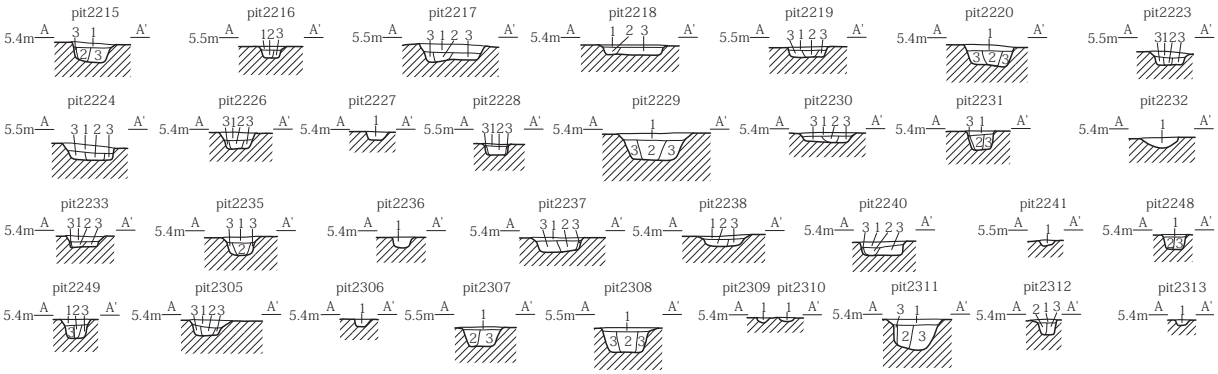
pit2582土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-6-27　遺構外pit(12-2)



図Ⅳ-6-28　遺構外pit(13-1)



pit2215土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2216土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2217土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2218土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層、10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2219土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2220土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2223土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2224土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2226土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2227土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%

pit2228土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2229土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2230土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2231土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～10mm10%、灰20%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分30%、炭化物2～5mm5%、灰20%
3層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5～10mm10%、灰20%

pit2232土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%

pit2233土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%
2層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm20%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物2～10mm20%、灰30%

pit2235土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2236土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2237土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2238土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2240土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2241土層観察表
1層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm20%、灰30%

pit2248土層観察表
1層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%
2層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　鉄分40%、炭化物2～10mm5%、灰20%
3層　10YR3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物2～5mm10%、灰20%

pit2249土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物1～10mm20%、灰30%
2層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物2～5mm10%、灰30%
3層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物1～10mm20%、灰30%

pit2305土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2306土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%

pit2307 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%

pit2308 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%

pit2309 土層観察表
1 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%

pit2310 土層観察表
1 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%

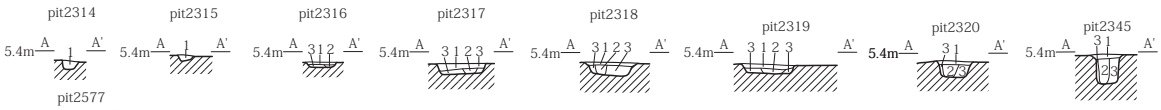
pit2311 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%

pit2312 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 50%、炭化物 10%、灰 10%

pit2313 土層観察表
1 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 10%

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-6-29　遺構外pit(13-2)



pit2314土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2315土層観察表
1層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰10%

pit2316土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰20%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%灰20%

pit2317土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰20%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰20%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰20%

pit2318土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%

pit2319土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

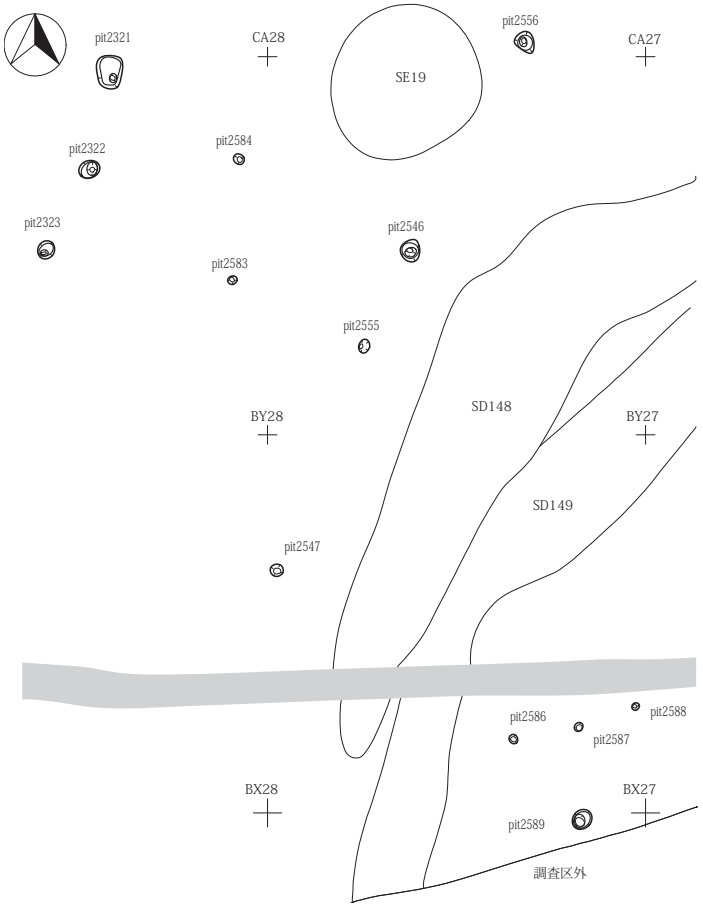
pit2320土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/2、黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

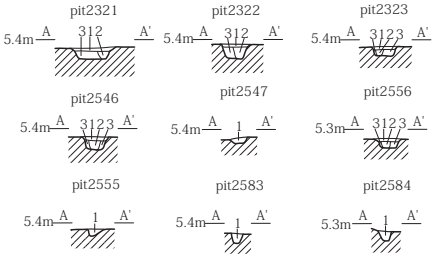
pit2345土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物10%、灰10%

pit2577 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

0　1　2m
(S=1/60)

図Ⅳ-6-30　遺構外pit(13-3)





pit2321土層注記表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2322土層注記表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2323土層注記表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2546土層注記表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

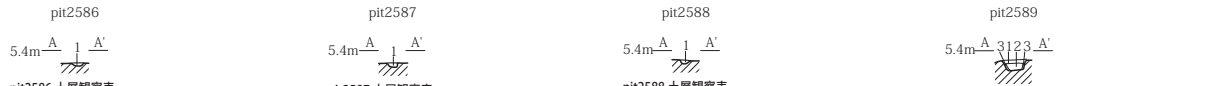
pit2547 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄 色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

pit2556 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2555 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

pit2583 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

pit2584 土層観察表
1 層　2.5Y4/2 暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%



pit2586 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

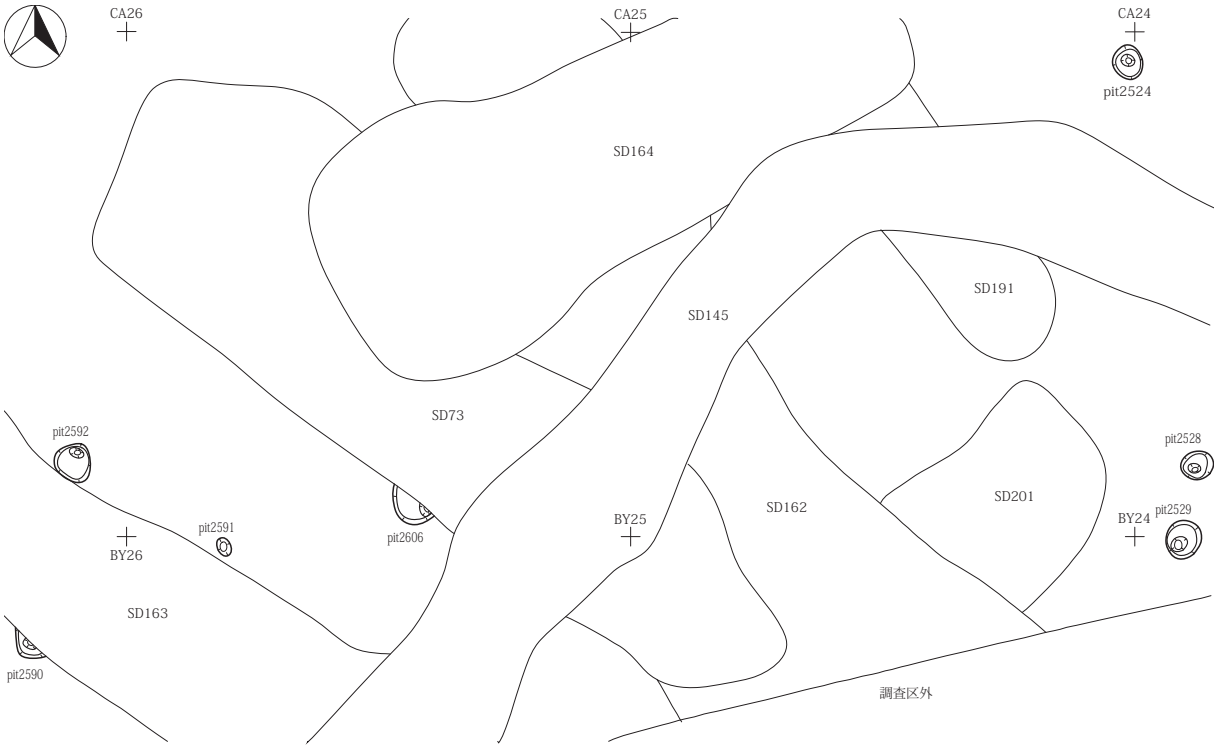
pit2587 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

pit2588 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

pit2589 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト
鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト
鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

0　1　2m
(S=1/80, 但しセクション図は S=1/60)

図Ⅳ-6-31　遺構外pit(14)



pit2524土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2590土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2591土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%

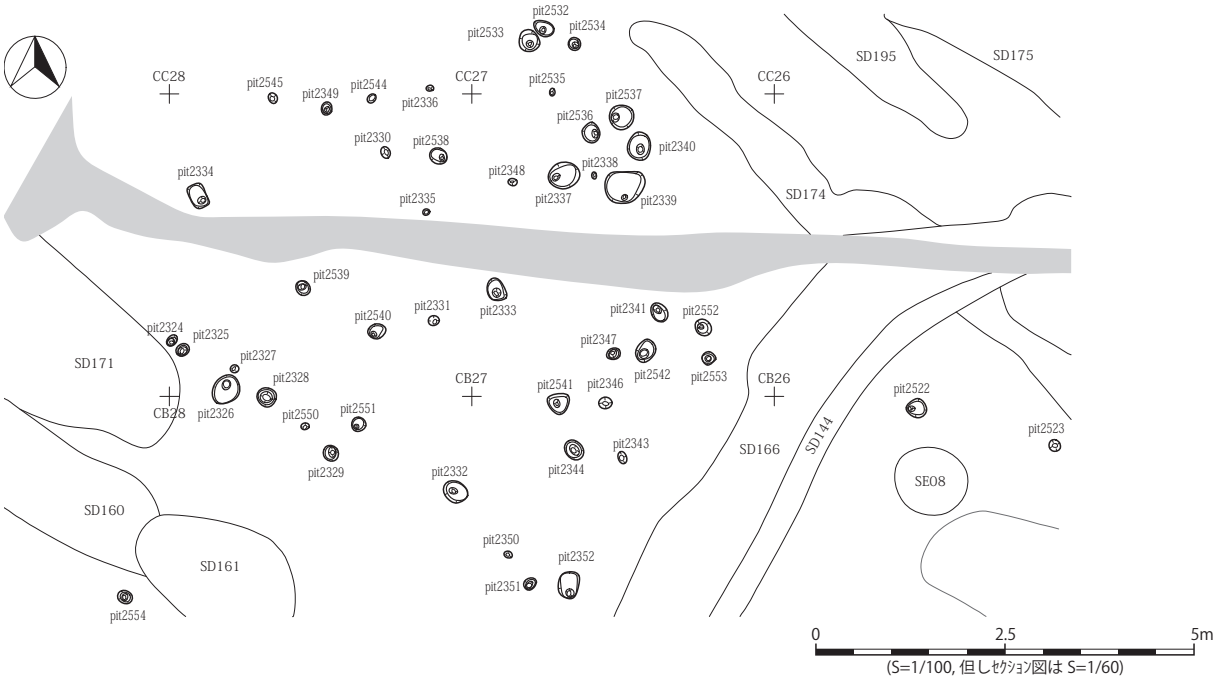
pit2592土層注記表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰5%

pit2606土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分25%、炭化物5%、灰５%

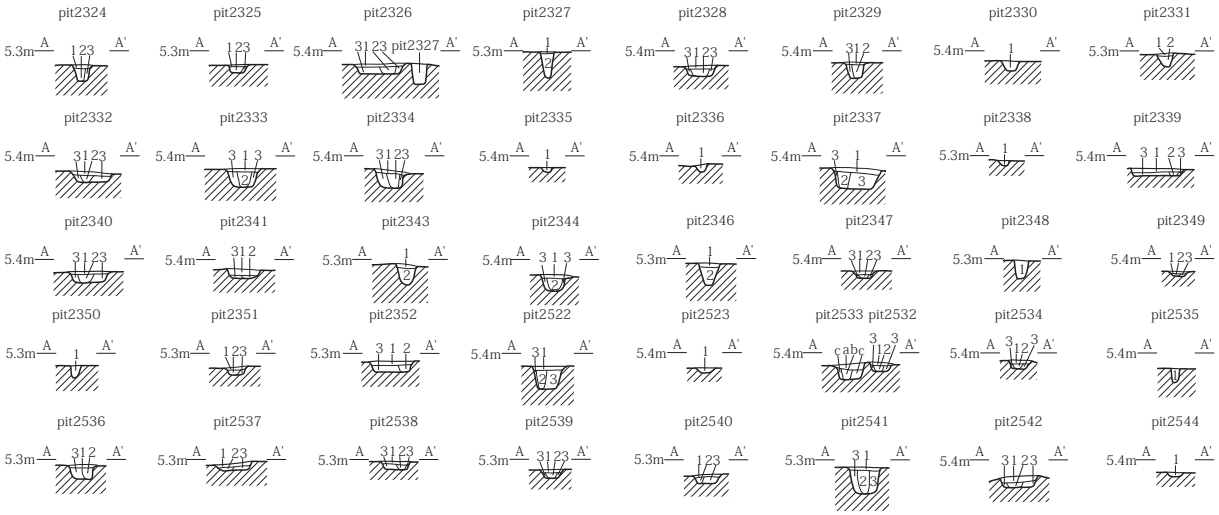
pit2528土層注記表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

pit2529土層注記表
1層 2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%
2層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　鉄分20%、炭化物5%、灰5%
3層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-6-32　遺構外pit(15)



図Ⅳ-6-33　遺構外pit(16-1)



pit2324土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%　炭化物5%　灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%

pit2325土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%

pit2326土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2327土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%

pit2328土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%

pit2329土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分10%、炭化物10、灰20%

pit2330土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%

pit2331土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%

pit2332土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分10%、炭化物10%、灰20%

pit2333土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰20%
2層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物5%、灰10%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分10%、炭化物10%、灰20%

pit2334土層観察表
1層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分30%、炭化物10%、灰10%
3層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分40%、炭化物10%、灰10%

pit2335土層観察表
1層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分50%、炭化物5%、灰10%

pit2336 土層観察表
1 層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 5%、灰 10%

pit2337 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 10%、炭化物 10%、灰 20%

pit2338 土層観察表
1 層　2.5Y4/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 5%、灰 10%

pit2339 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 10%、炭化物 10%、灰 20%

pit2340 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 10%、炭化物 10%、灰 20%

pit2341 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 10%、炭化物 10%、灰 20%

pit2343 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 10%、灰 20%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%

pit2344 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 10%、灰 20%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%

pit2346 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 10%、灰 20%

pit2347 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 10%、炭化物 10%、灰 20%

pit2348 土層観察表
1 層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 5%、灰 10%

pit2349 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%
2 層　2.5Y3/2 黒褐色　シルト　炭化物 5%　灰 10%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 5%、灰 10%

pit2350 土層観察表
1 層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分 50%、炭化物 5%、灰 10%

pit2351 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色 シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 10%、灰 20%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%

pit2352 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、 炭化物 10%、灰 20%
2 層　2.5Y3/2　黒褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 10%、灰 20%
3 層、2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 40%、炭化物 10%、灰 20%

pit2522 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y4/3　オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 10%、灰 5%

pit2523 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　炭化物 5%、灰 5%

pit2532 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2533 土層観察表
a 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
b 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
c 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2534 土層観察表
1 層　2.5Y4/2 暗灰色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2535 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

pit2536 土層観察表
1 層　2.5Y4/2 暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2537 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2538 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

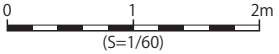
pit2539 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2540 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2541 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2542 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2 層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2544 土層観察表
1 層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%



図Ⅳ-6-34　遺構外pit(16-2)

pit2545 土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

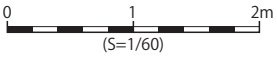
pit2550 土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 20%、炭化物 5%、灰 5%

pit2551 土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

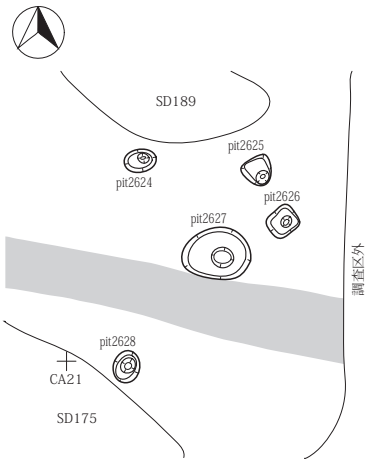
pit2552 土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

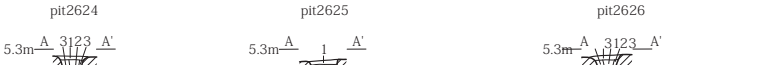
pit2553 土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30、炭化物 5%、灰 5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%

pit2554 土層観察表
1層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
2層　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　シルト　鉄分 30%、炭化物 5%、灰 5%
3層　2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　鉄分 25%、炭化物 5%、灰 5%



図Ⅳ-6-35　遺構外pit(16-3)

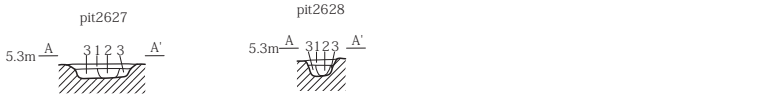




pit2624土層観察表
1層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%
2層　5Y4/1　灰色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%

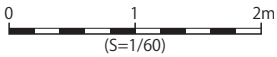
pit2625土層観察表
1層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%
2層　5Y4/1　灰色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%

pit2626土層観察表
1層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%
2層　5Y4/1　灰色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%

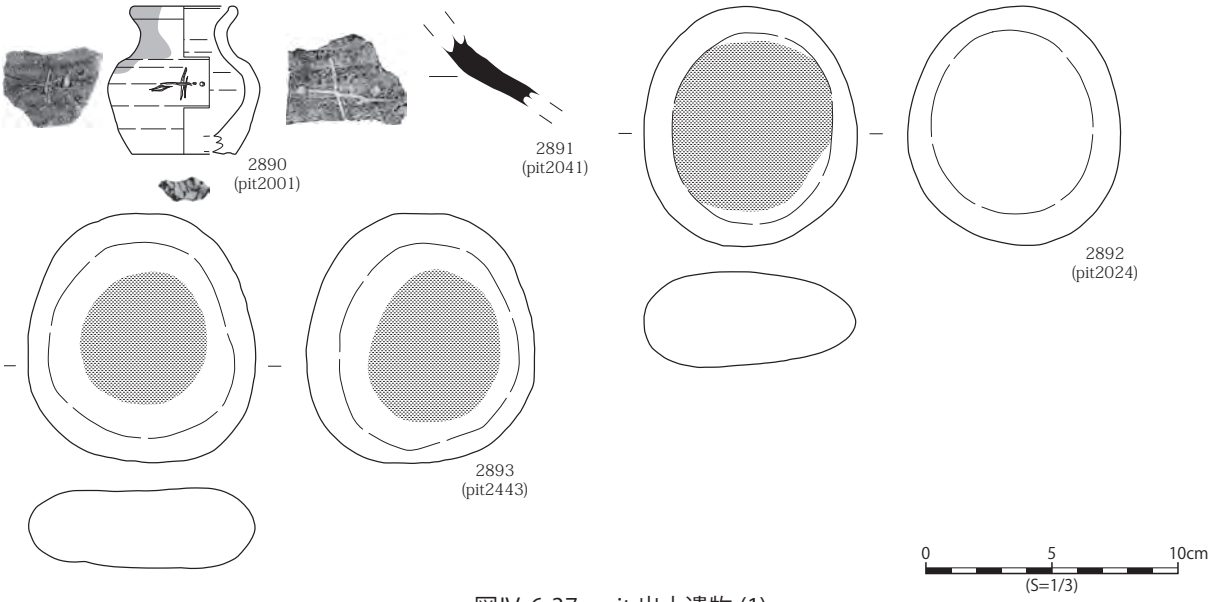


pit2627土層観察表
1層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%
2層　5Y4/1　灰色　シルト
鉄分30%、炭化物5%　灰10%
3層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%

pit2628土層観察表
1層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%
2層　5Y4/1　灰色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰10%
3層　5Y3/2　オリーブ黒色　シルト
鉄分30%、炭化物5%、灰20%

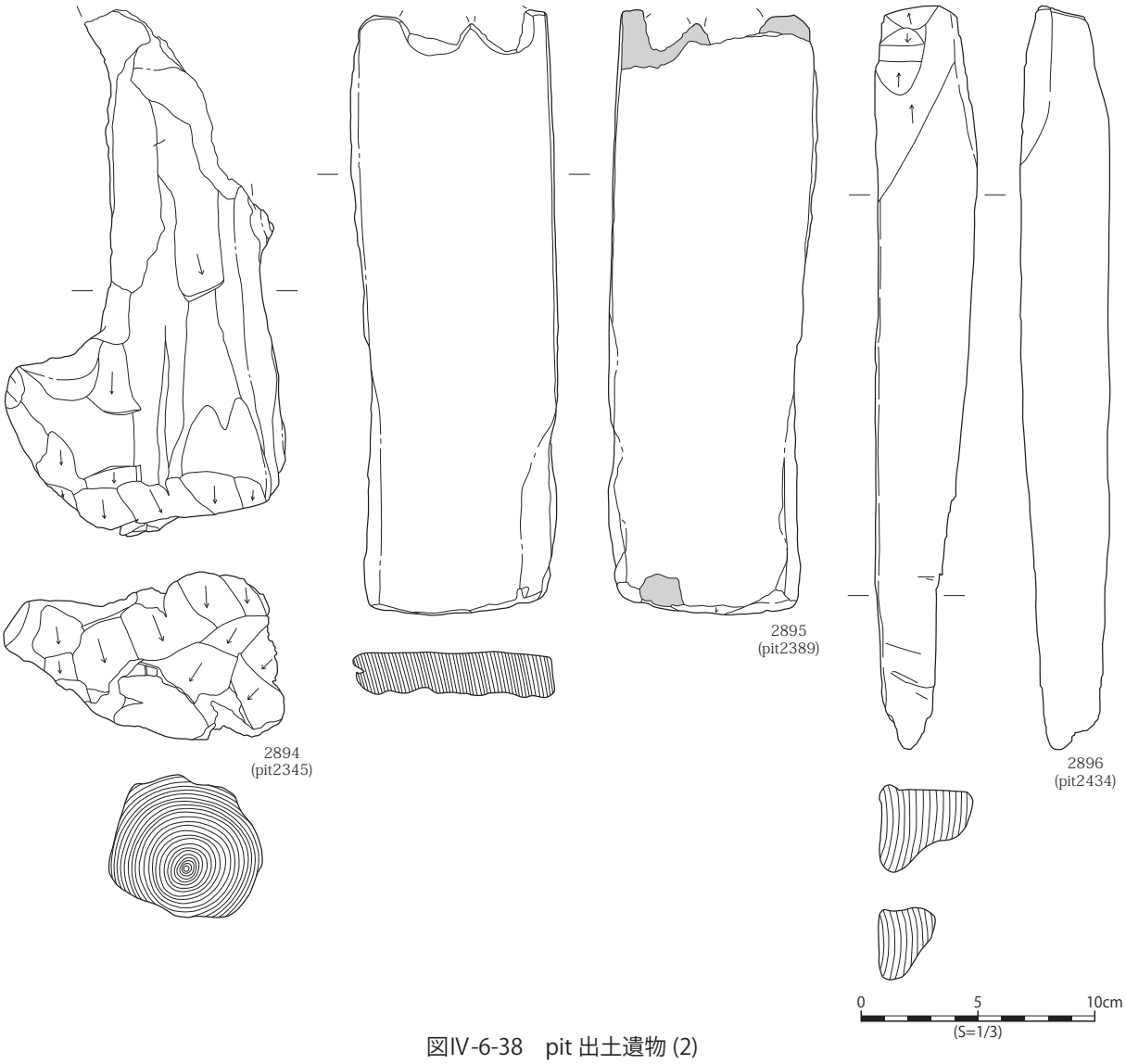


図Ⅳ-6-36　遺構外pit(17)



図Ⅳ-6-37　pit 出土遺物 (1)

2894 は建築部材の柱材であり、鉄斧による二次的な切断痕が見られた。2895 は不明の建築部材であり、柾目の板材で片側端部に穿孔が 2 箇所ある。2896 は加工材であり、割材の端部に加工痕が見られ、側面には刃物痕が見られる。樹種はいずれもアスナロである。



図Ⅳ-6-38　pit 出土遺物 (2)

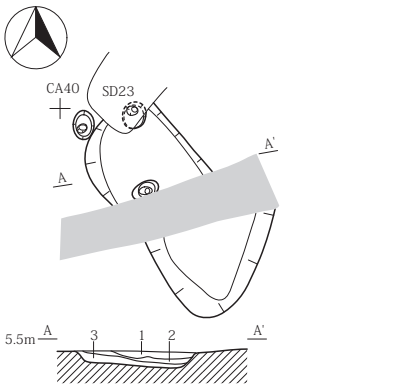
第 7 節　不明遺構（SX）

第 3 号不明遺構（SX03、図Ⅳ -7-1）

［位置・確認］グリッド BY39 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［規模・形状］近世以降の水田跡に削平を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、長径 176cm、短径 78cm、残存する深さ 12cm を測り、不正楕円形を呈する。［堆積土］3 層確認され、黒褐色土層を主体とし、中層に黒色土層が混じる。［出土遺物］特になし。

第 4 号不明遺構（SX04、図Ⅳ -7-2）

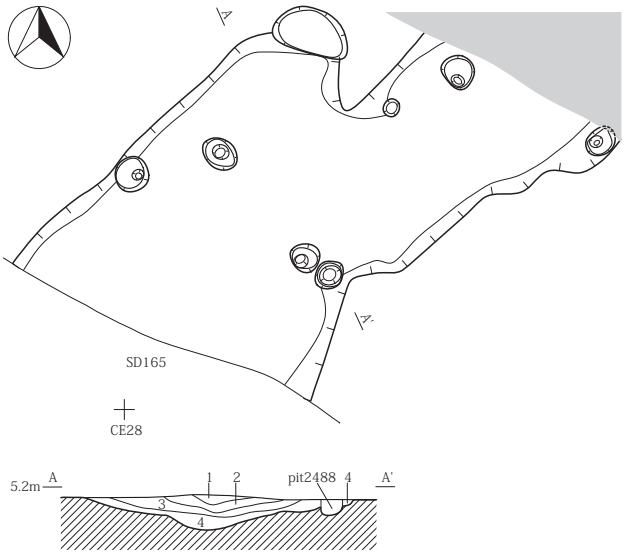
［位置・確認］グリッド CE27，28 に位置し、Ⅳ層上面で確認された。［重復関係］SD165 と重複関係にあり、SD165 よりも古い。［規模・形状］近世以降の水田跡に削平を受けており、正確な規模・形状は不明であるが、残存長 331cm、最大幅 260cm、最小幅 123cm、残存する深さ 29cm を測り、不正形な溝状遺構である。［堆積土］ 4 層確認され、上層はⅢ層由来の層、中層から下層にかけては黒褐色土層を主体とし、中層にⅣ層由来の層が混じる。［出土遺物］土師器坏 245.8g、土師器甕



SX03土層観察表

1層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　ローム粒1～9mm10%、鉄分20%
2層　10YR 1.7/1　黒色　シルト　鉄分10%、炭化物80%
3層　10YR 3/1　黒褐色　シルト　ローム粒1～9mm10%、鉄分20%

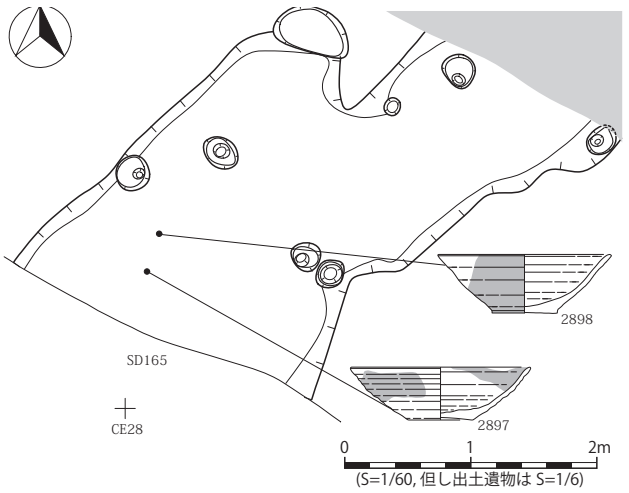
図Ⅳ-7-1　SX03



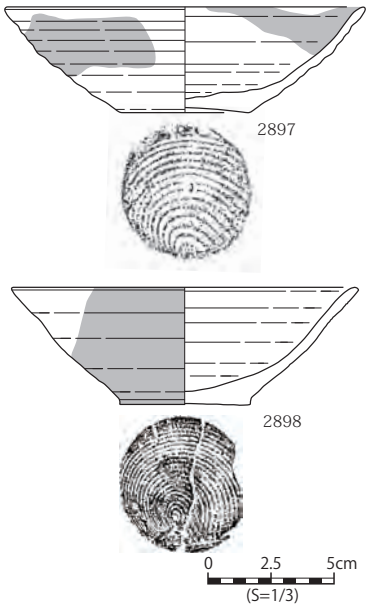
SX04土層観察表

1層　2.5Y 3/3　暗オリーブ褐色　シルト　ローム粒2～5mm5%、LB1～5cm5%、鉄分30%、炭化物5%、灰10%
2層　2.5Y 2/1　黒色　シルト　ローム粒2～5mm5%、LB1～3cm5%、鉄分30%、炭化物10%、灰5%、焼土5%
3層　2.5Y 4/2　暗灰黄色　シルト　ローム粒2～5mm5%、LB1～5cm10%、鉄分40%、炭化物5%、灰5%、焼土5%
4層　2.5Y 3/2　黒褐色　シルト　ローム粒2～5mm5%、LB1～5cm5%、鉄分40%、炭化物5%、灰5%

図Ⅳ-7-2　SX04



図Ⅳ-7-3　SX04 遺物出土状況



図Ⅳ-7-4　SX04 出土遺物

87.1g 出土している（図Ⅳ -7-3）。この内図示できたものは 2 点である（図Ⅳ -7-4）。2897 は土師器の皿であり、内外面に二次被熱を受けている。2898 は土師器の皿形坏であり、外面に二次被熱を受けている。調整はいずれもロクロ成形後底面は回転糸切痕を有し、無調整である。

第 8 節　遺構外出土遺物

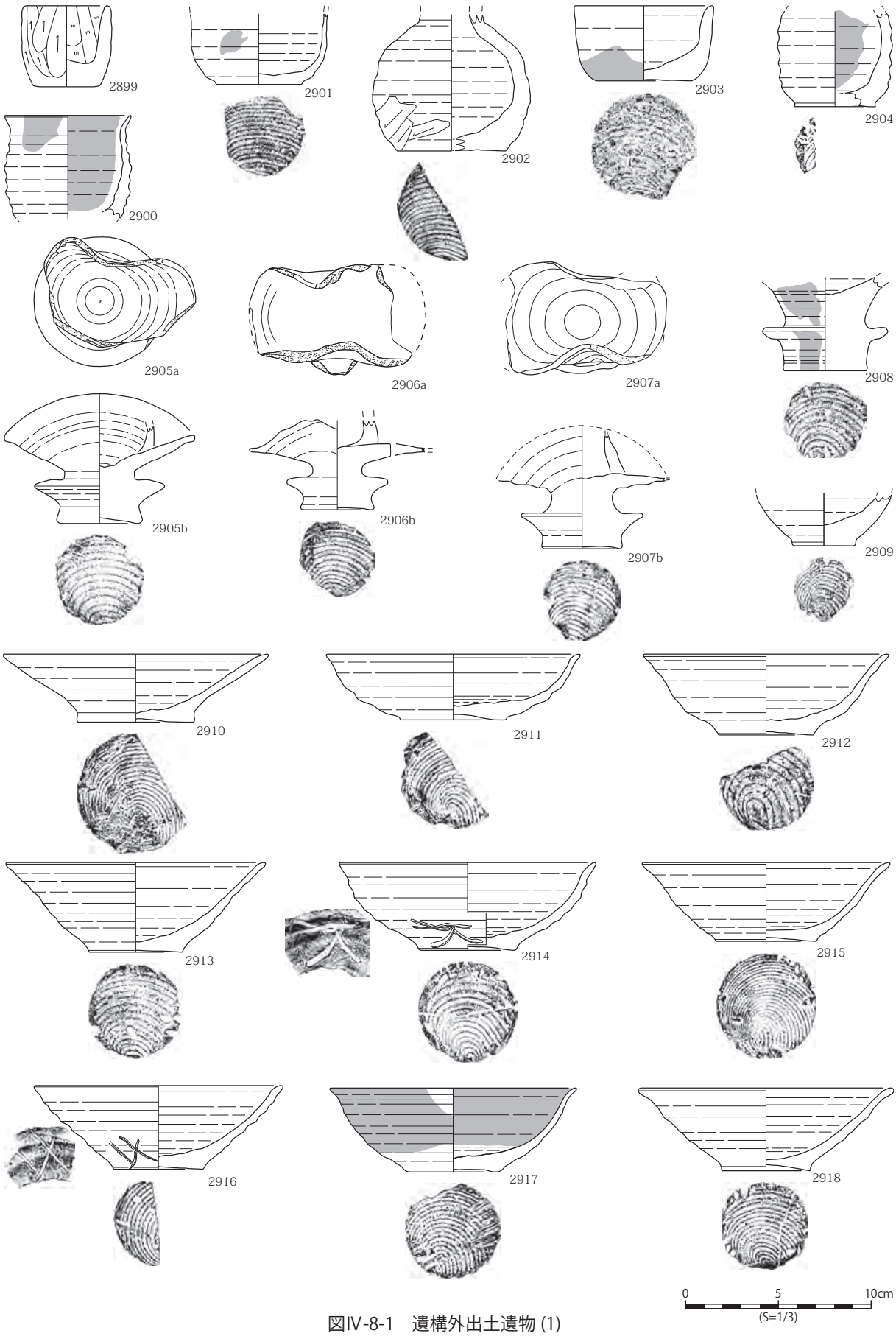
遺構外からも多量の遺物が出土したが、いずれも後世の攪乱により原形を留めている個体は少なく、図示可能なものを以下に述べることにする（図Ⅳ -8-1 ～ 15）。2899 ～ 2904・2909 は土師器のミニチュアであり、2899 ～ 2901・2904 は甕、2902 は壷、2903・2909 は坏である。2900 は内外面、2901・2903 は外面、2904 は内面に二次被熱を受けている。2899 が非ロクロでケズリ成形である

以外他はロクロ成形である。2905 ～ 2908 は土師器の台付耳皿であり、ロクロ成形後底面は回転糸切り痕を有し、無調整である。2910･2911 は皿、2912 ～ 2923 は皿形坏、2924 ～ 2927 は埦形坏、2928 ～ 2963 は埦である。2935 は外面に墨書が書かれている。2914・2916・2958・2959 は体部外面にヘラ記号が描かれている。2929・2933 は外面に籾圧痕が観察された。2945 は内面黒色処理が施されている。2917・2928・2933・2947・2952・2958・2961 は内外面に、2929・2937・2944・2945 は外面に、2920・2923・2924・2927・2930・2943・2963 は内面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切り痕を有し無調整である。2964・2965 は大型の埦であり、2966・2967 は大型の形坏であり、2964 は外面に二次被熱を受けている。いずれもロクロ成形後底面は回転糸切り痕を有し無調整である。2968 は須恵器の鉢を模した土師器の小型甕であり、ロクロ成形で外面にヘラ記号が描かれている。2969 は土師器の小型甕の口縁部破片であり、外面にヘラ記号が描かれている。2970・2971 は土師器の小型甕であり、2970 は内外面に二次被熱を受けている。いずれも口縁内外面に横ナデが施され、体部外面はケズリ、内面はユビナデ調整が施されている。2972 は土師器の長胴甕であり、調整は小型甕と同様である。2973 は須恵器の長頸壷を模した土師器の壷の頸部であり、ロクロ成形である。2974 ～ 2976 は土師器の把手付土器の把手部であり、中空であり、2974 は方形、2975・2976 は隅丸方形の孔が開けられている。2977 ～ 2982 は擦文土器である。2983 ～ 2998・3001 は須恵器であり、2997・2998 は内面に特徴的な当て具痕が見られ、非五所川原産の須恵器甕である。

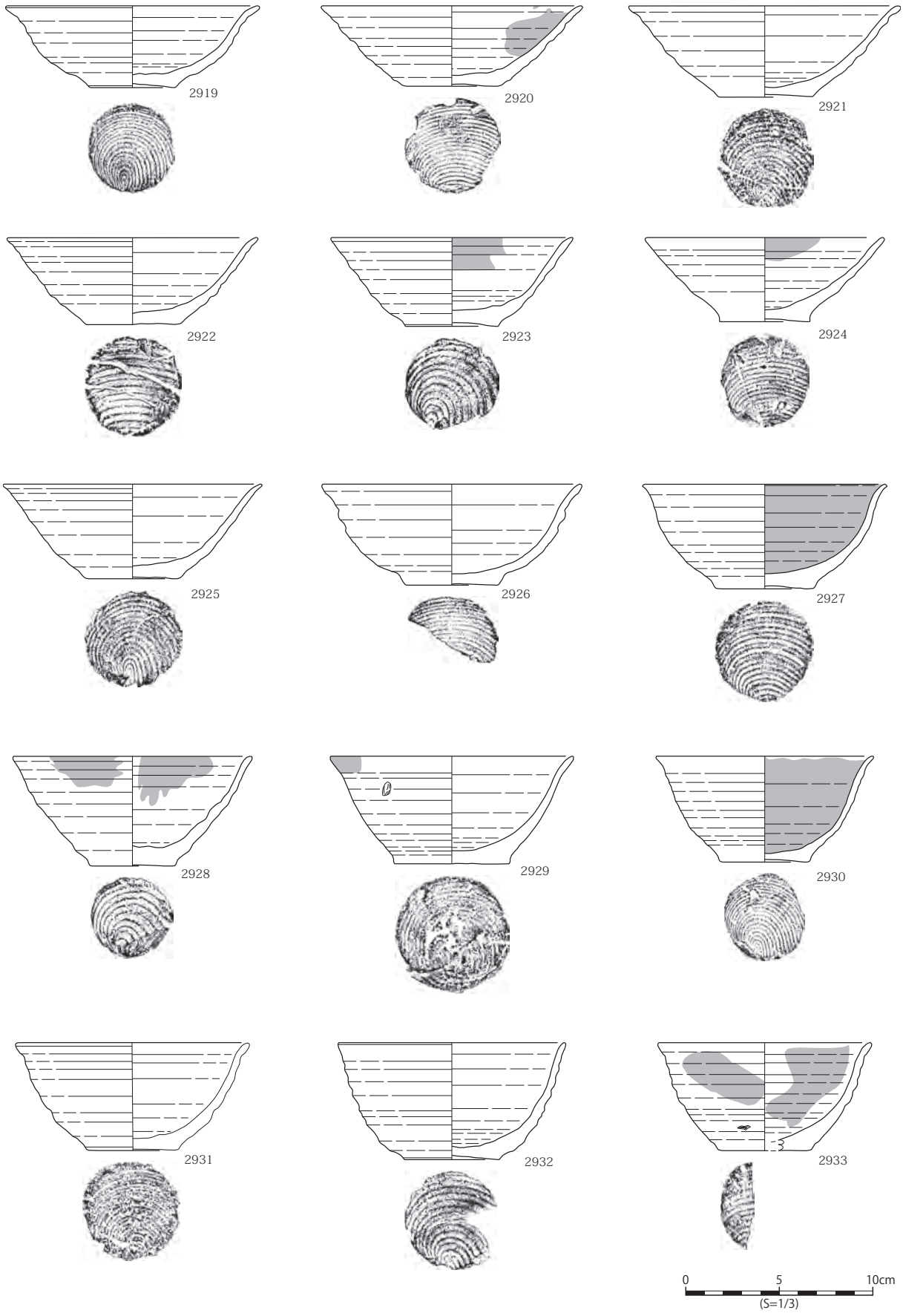
2999・3000・3002 は土師器坏の底部破片の中央部に穿孔が見られ、紡錘車の紡輪として再利用されたものと考えられる。3003･3004 は支脚であり､ナデ調整が施されている。3005 は羽口であり、ガラス質融解部分、還元部分、酸化部分が明瞭に観察された。3006 ～ 3042 は土錘であり、いずれもナデ調整で、3008・3013・3018・3019・3021・3022・3030・3031・3034・3041 は二次被熱を受けている。いずれも小型の土錘であり、内水面の網漁に使用されたものと考えられる。

3043 から 3050 はいずれも砥石であり、3043・3044・3046・3047・3049 は扁平な円礫の平坦面を砥面として利用している。3045・3048・3050 は角礫の平坦面を砥面として利用している。3050 は特に小型の砥石であり、砥面の滑らかさから仕上げ砥として使用されたものと考えられる。材質は 3043 がデーサイト、3044・3046・3047・3048 が安山岩、3045 が流紋岩、3049 が花崗閃緑岩、3050 が珪質凝灰岩である。

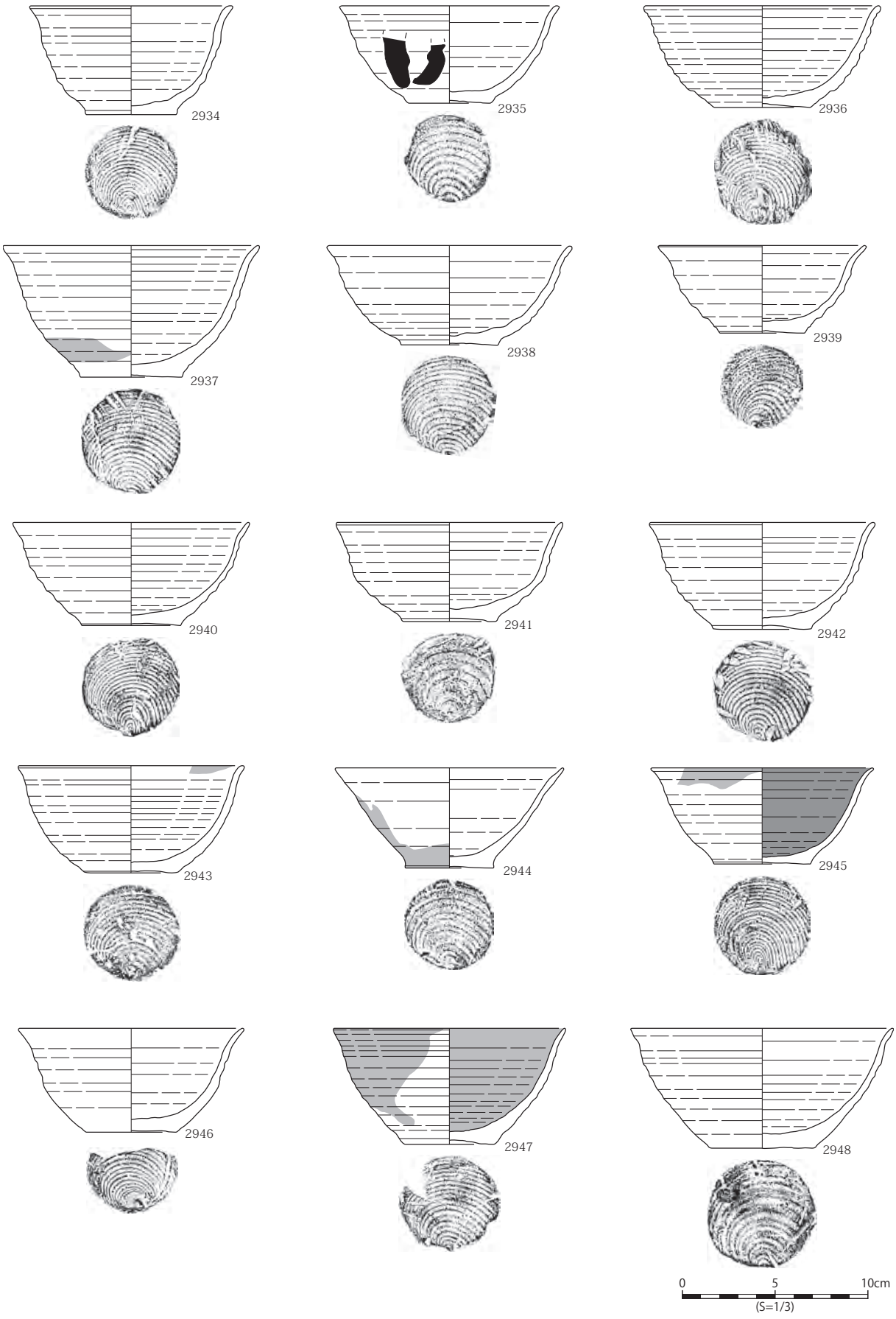
3051 は発火具の火鑽杵であり、片側端部が炭化している。3052 は発火具の火鑽臼であり、臼部が 2 カ所確認された。樹種はいずれもアスナロである。3053 ～ 3055・3057 が編台の錘であり、いずれも Aa 形式である。樹種は 3053・3057 がクワ属、3054 がナシ亜科、3055 がイヌエンジュである。3056 は編み具の木針である。中央に糸を結ぶための穿孔が有り、片側が尖る形状を呈する。樹種はアスナロである。3059・3060 は一木作りの連歯下駄であり、類型はいずれも Aa 類である。3059 は右足用で鼻緒孔は鑿で開けられ、下面が歯の部分も含め剥がれている。内側は欠損している。3060 も右足用で鼻緒孔は鑿で方形に開けられ、後ろの歯が多く磨り減っている。歯の減りは内側部分が激しい。樹種はいずれもアスナロである。3058・3061 ～ 3065 は曲物側板であり、いずれも内面にケビキ線が見られ、3058 は側板同士の樹皮とじが残存していた。3062 は外面から斜めに上から下方向への木釘孔が確認された。樹種はいずれもアスナロである。3066・3067 は曲物底板であり、3066 は外面に手斧による加工が施され、木釘留めが 3 カ所確認された。3067 は底面に加工



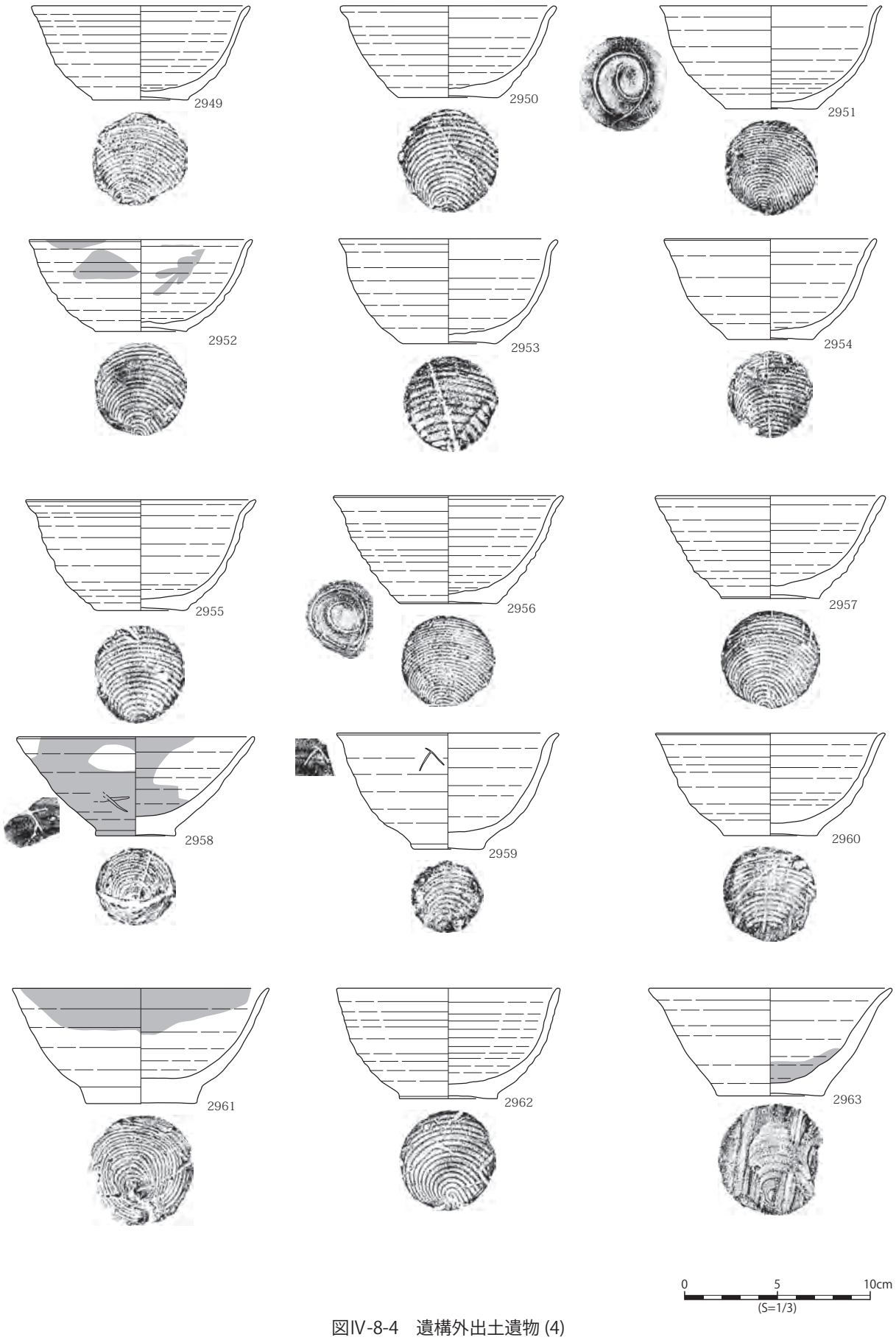
図Ⅳ-8-1　遺構外出土遺物 (1)



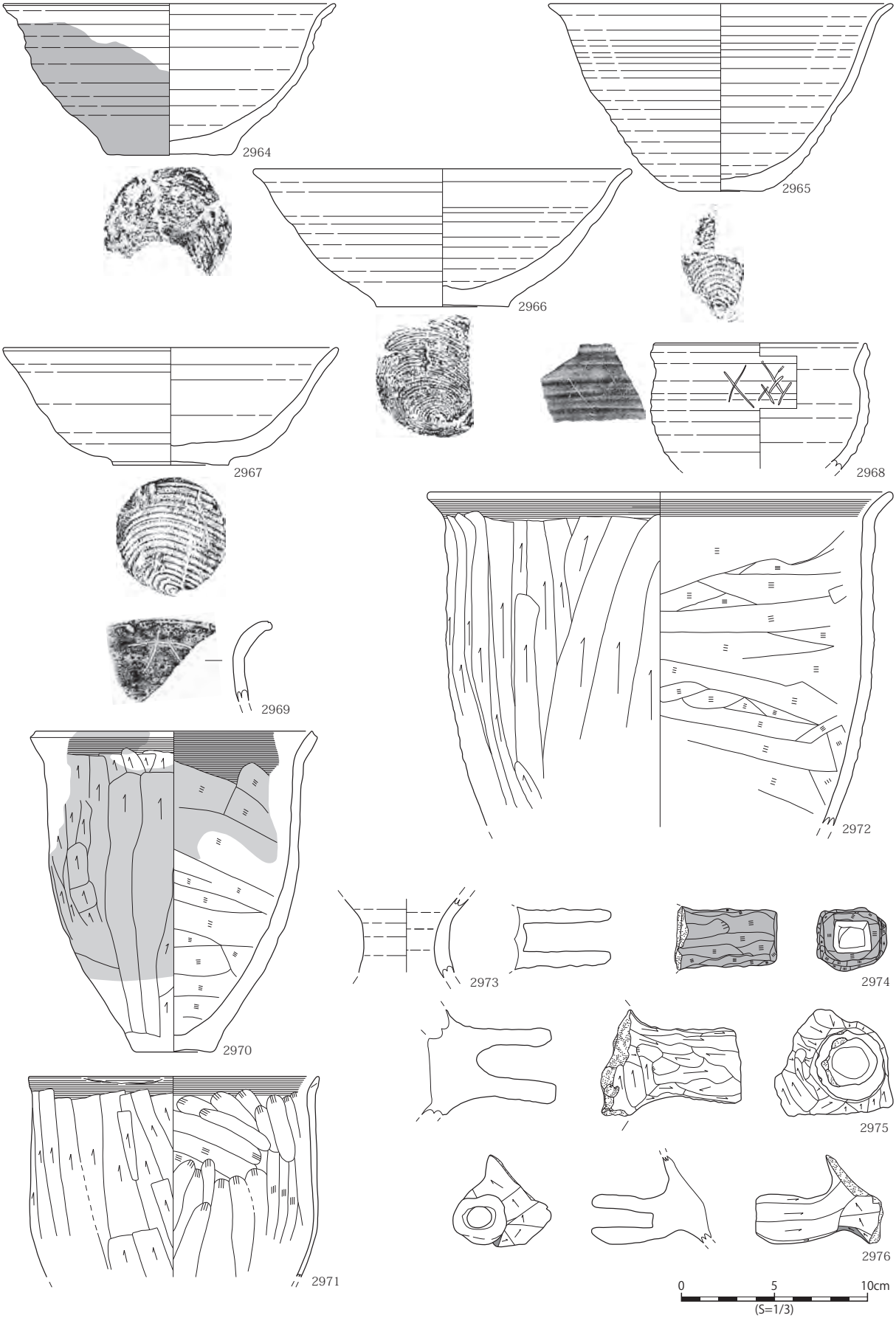
図Ⅳ-8-2　遺構外出土遺物 (2)



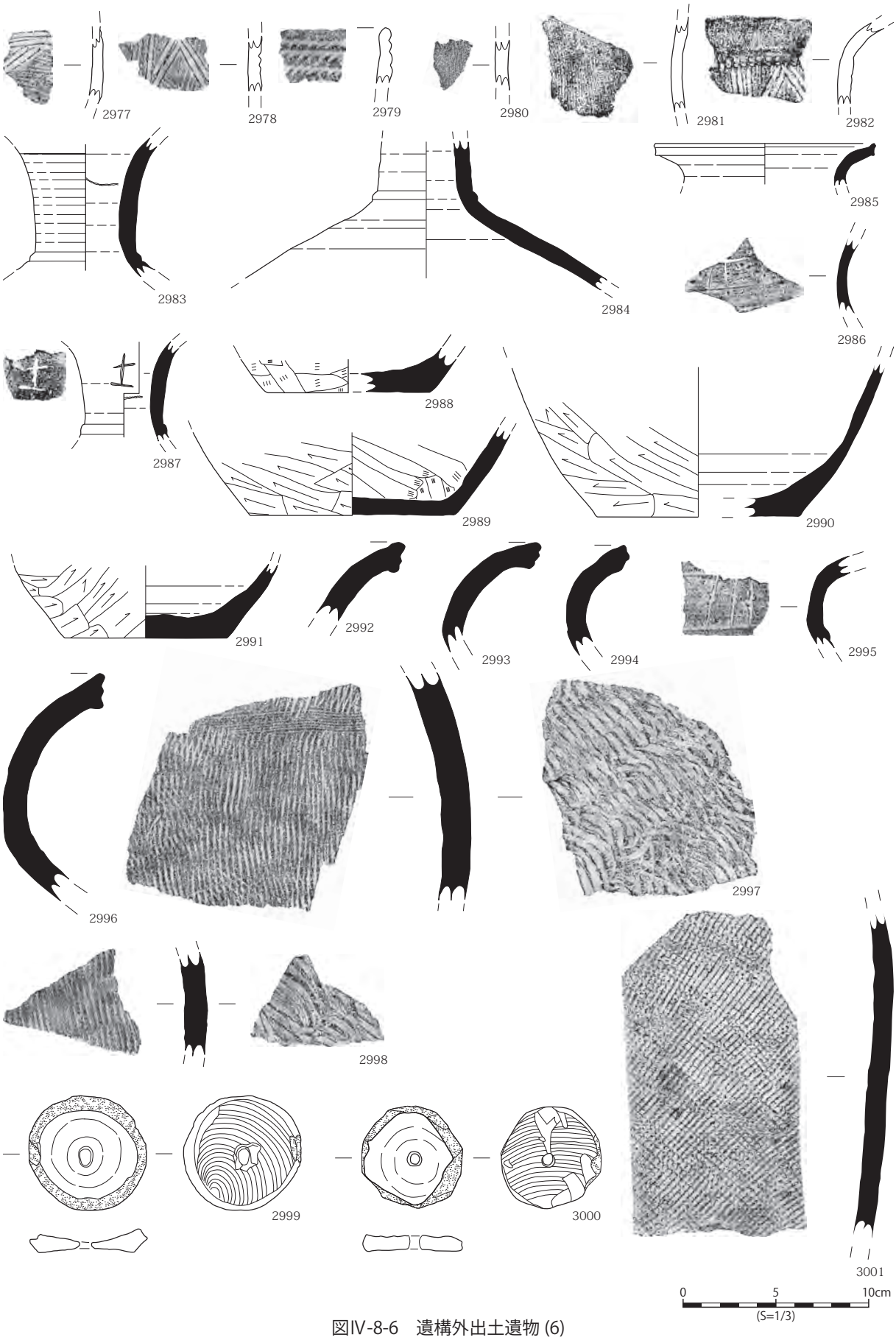
図Ⅳ-8-3　遺構外出土遺物 (3)



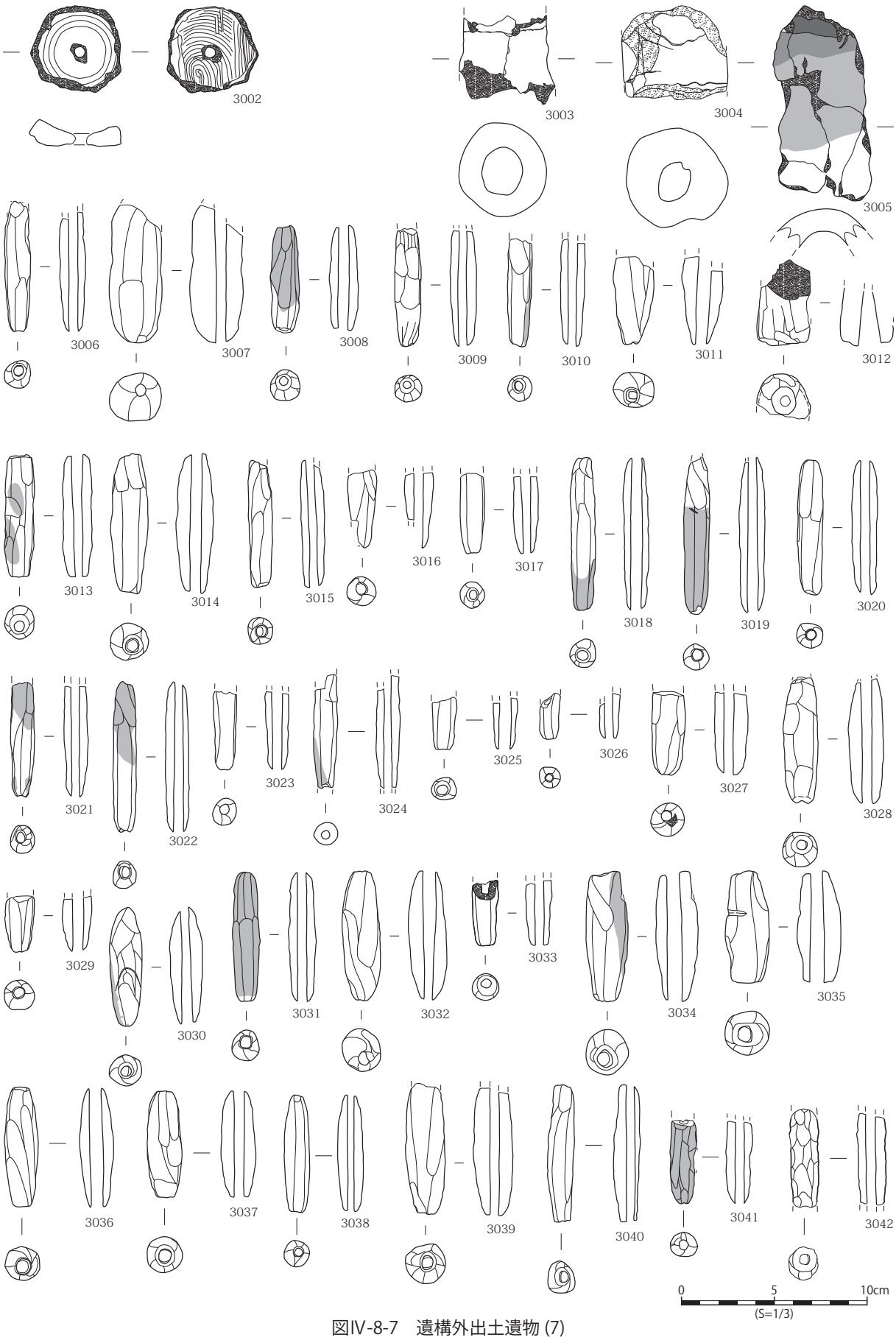
図Ⅳ-8-4　遺構外出土遺物 (4)



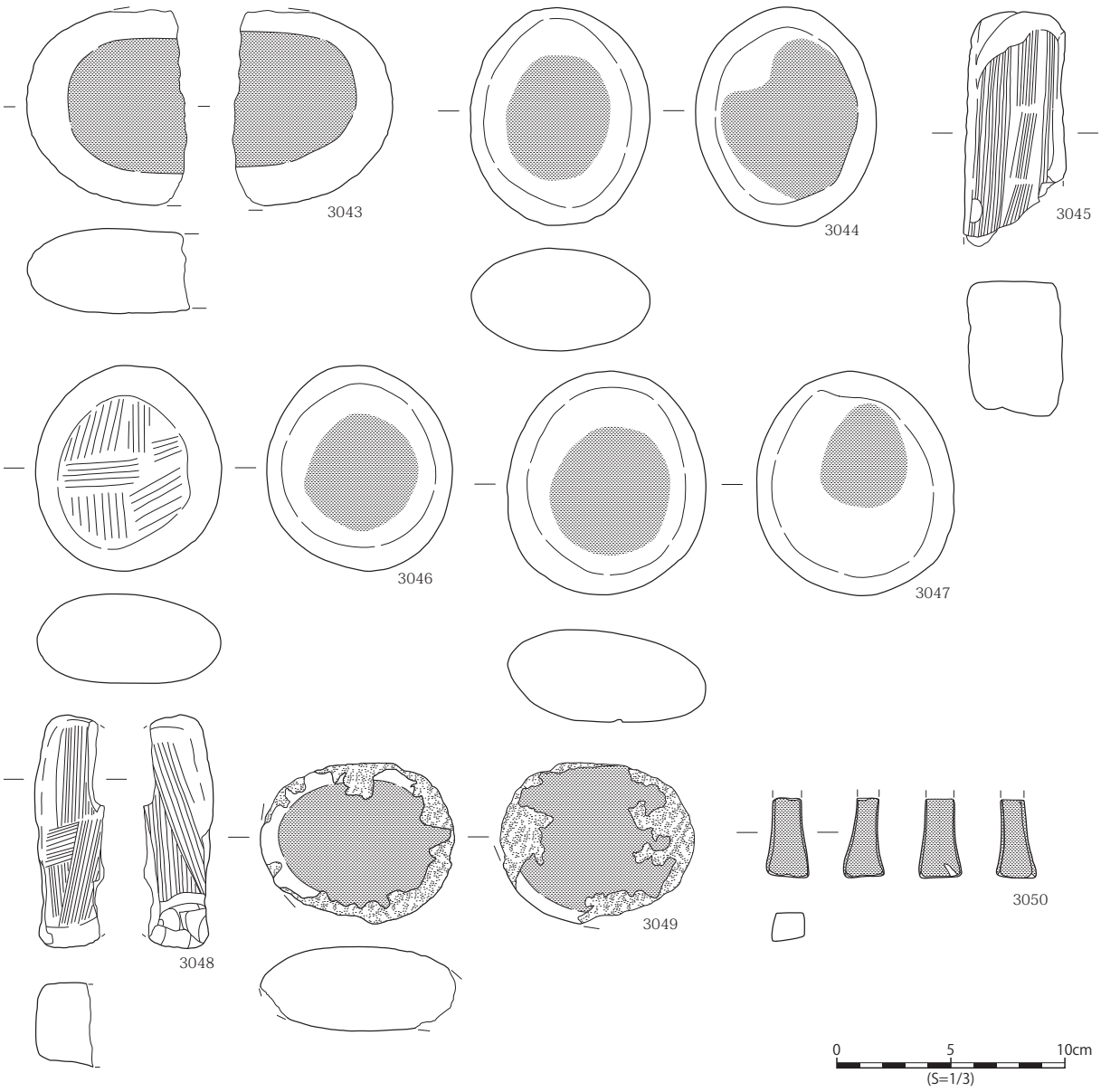
図Ⅳ-8-5　遺構外出土遺物 (5)



図Ⅳ-8-6　遺構外出土遺物 (6)

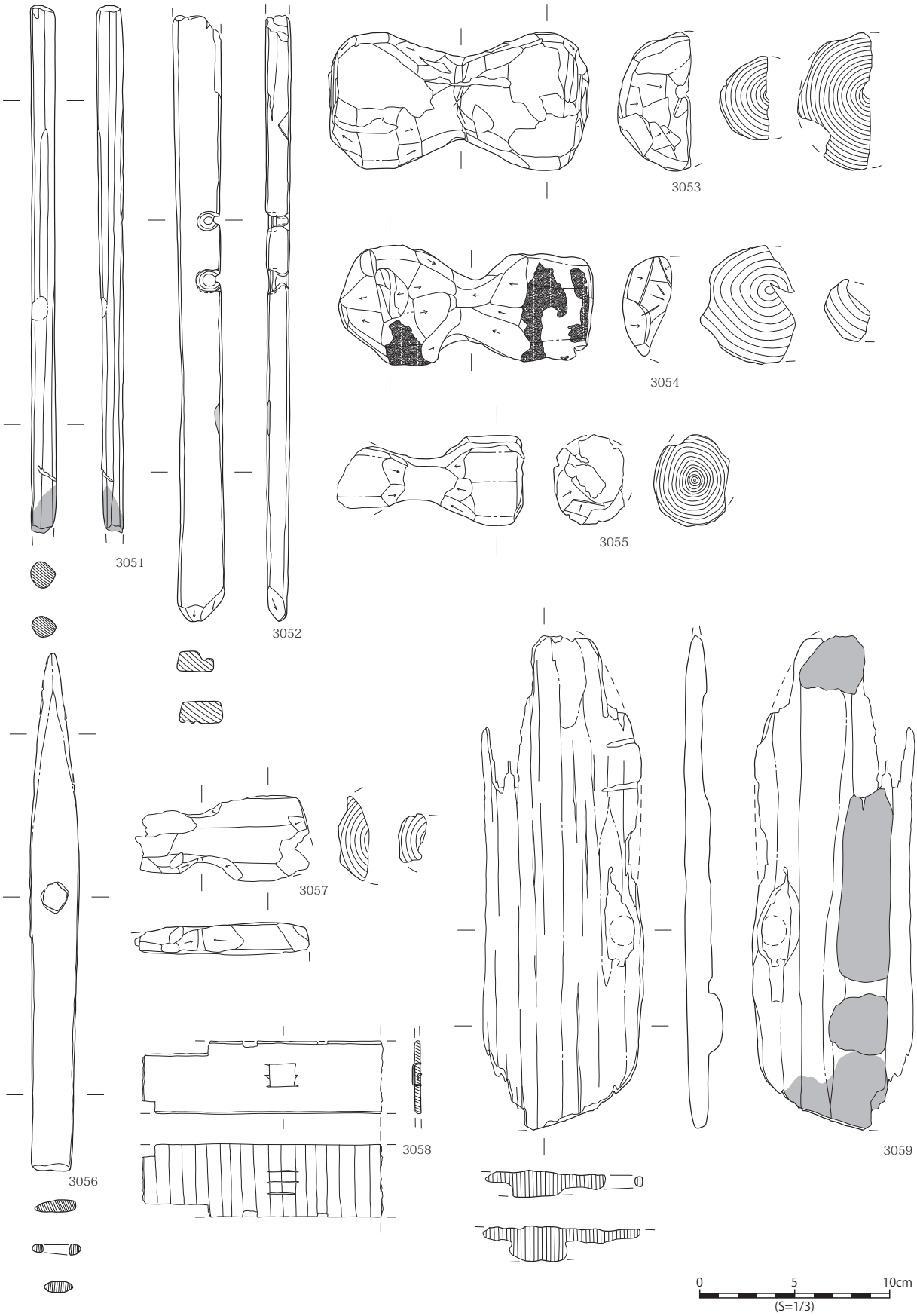


図Ⅳ-8-7　遺構外出土遺物 (7)

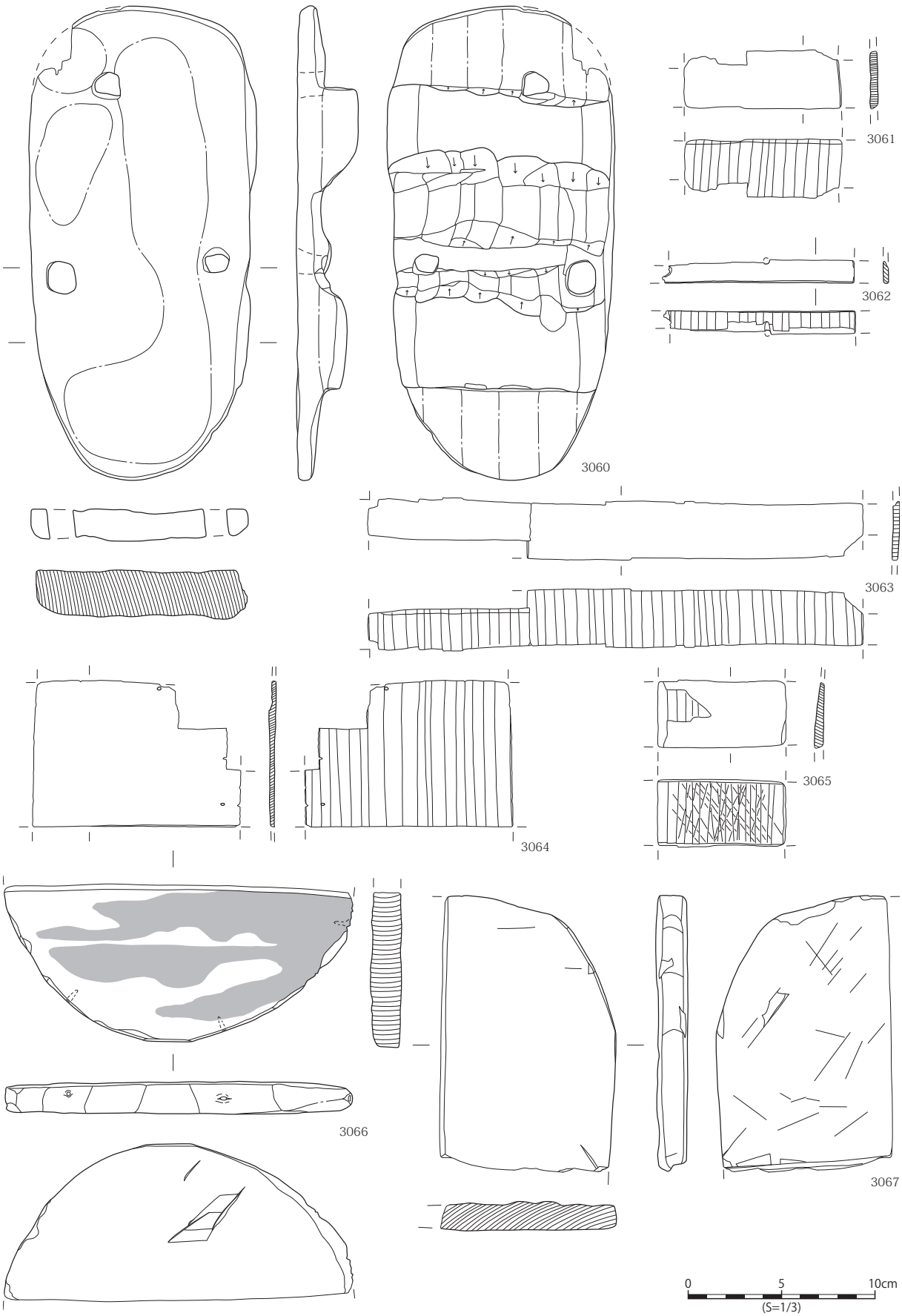


図Ⅳ-8-8　遺構外出土遺物 (8)

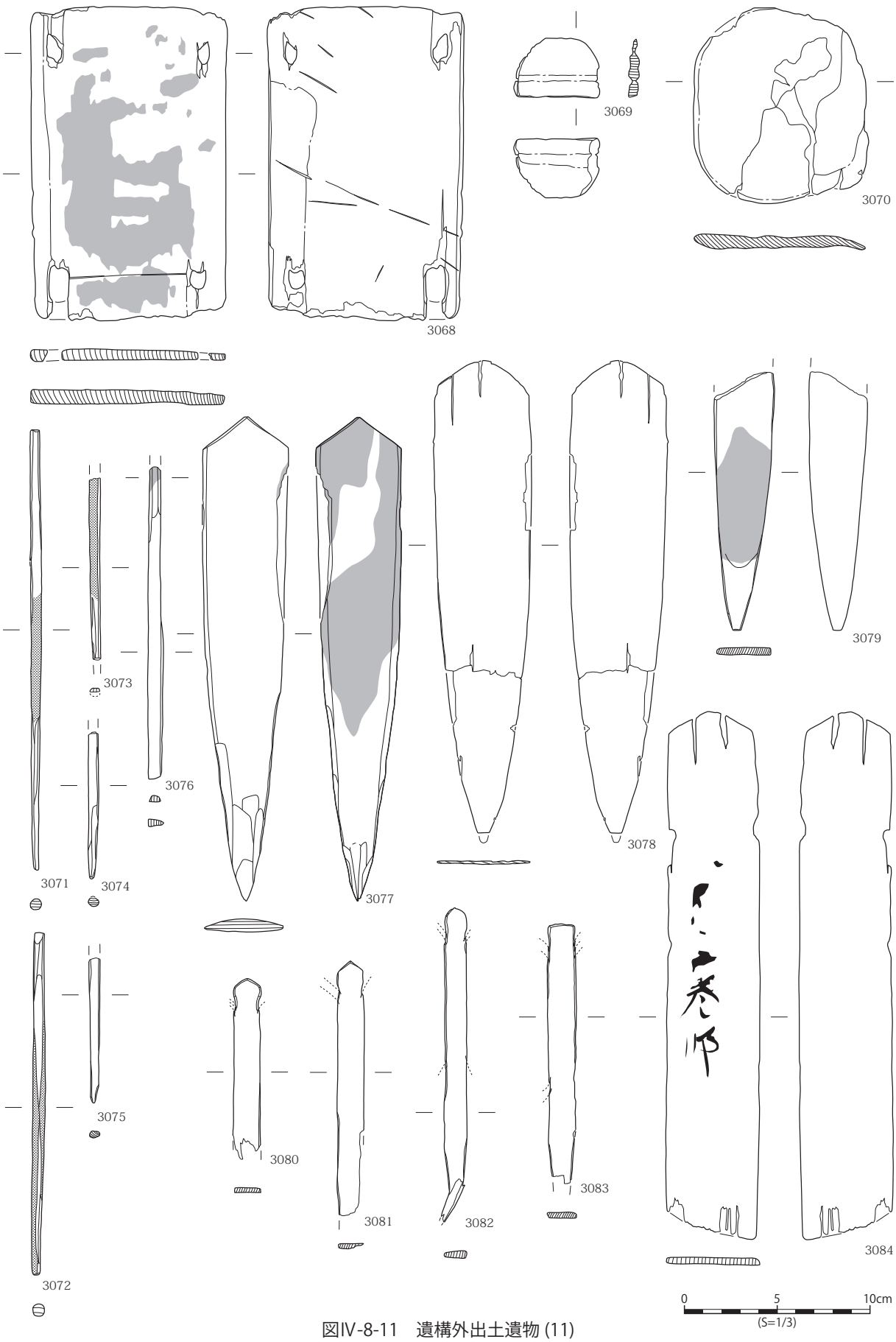
時の手斧痕が確認された。樹種はいずれもアスナロである。3068 は大型の隅丸方形曲物の把手と考えられ、穿孔が 4 か所有り、一端に孔の高さを決めるケビキ線が確認された。樹種はアスナロである。3069 は刳物脚の剥落したものであり、樹種はヤナギ属である。3070 は挽物椀の高台部の剝落部であり、樹種はアスナロである。3071 ～ 3075 は箸であり、細長い割材の両端を尖らせ、握り部である中央部分は丁寧な磨きが施されている。樹種はアスナロである。3076 は串であり、先端部が一部欠損しているが、一端を細く尖らせ、調理の際の二次焼成による炭化が確認された。樹種はアスナロである。3077 ～ 3079、3084 は幅広の斎串であり、すべて残存している 3077・3078 は一端を山形に加工し、他端を細く尖らせている。3078・3079 は途中から折られている。また 3084 は墨書が書かれており、□□巻師カと判読可能である。3084 はまた山形部分に縦方向に切り込みが入る。樹種はすべてアスナロである。3080 ～ 3083、3085 ～ 3089 は斎串であり、一端を山形に作り出し、他端を細く尖らせている。また側面にはそれぞれ 2 箇所に複数の切り込みが見られる。完全な形で出



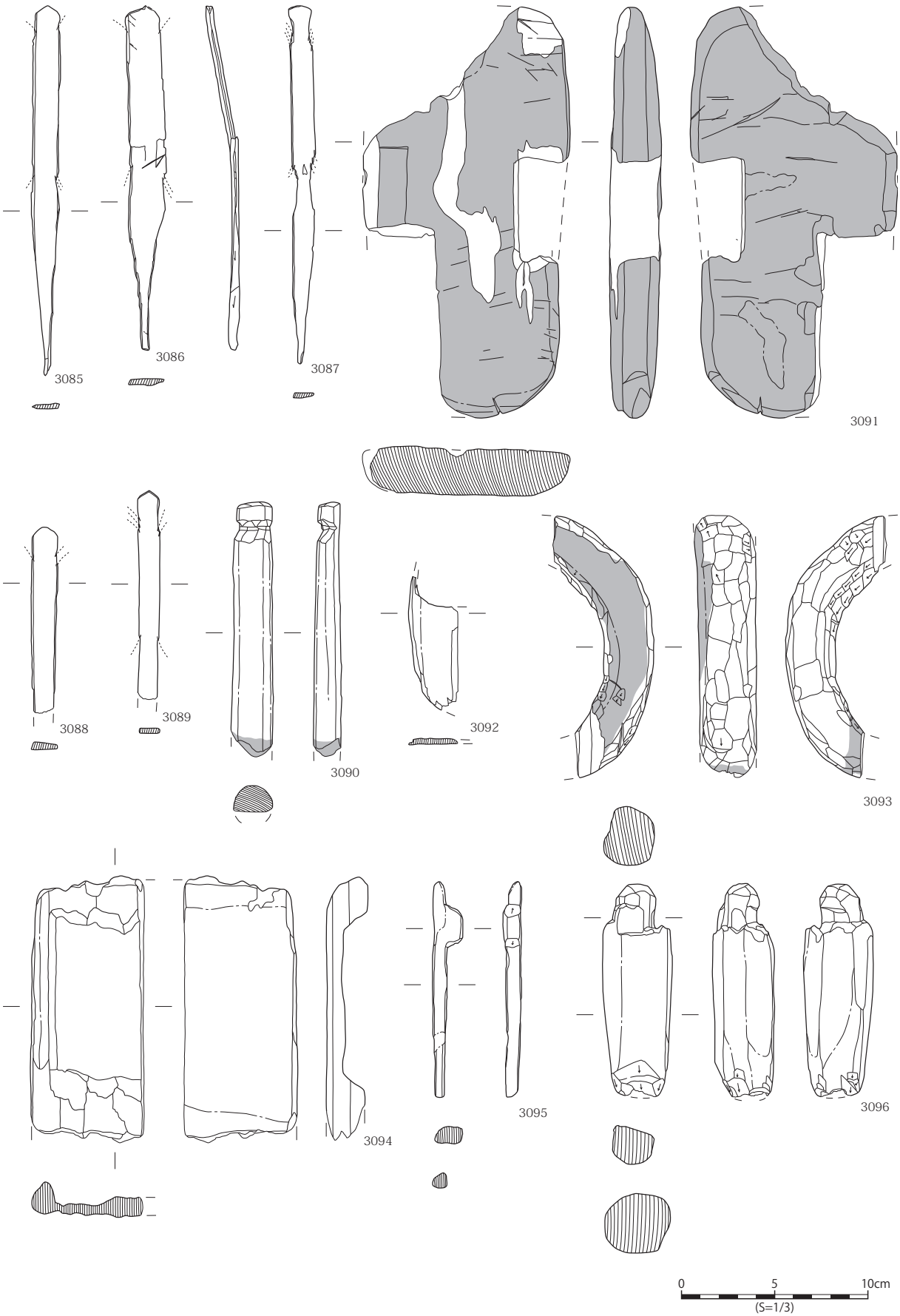
図Ⅳ-8-9　遺構外出土遺物 (9)



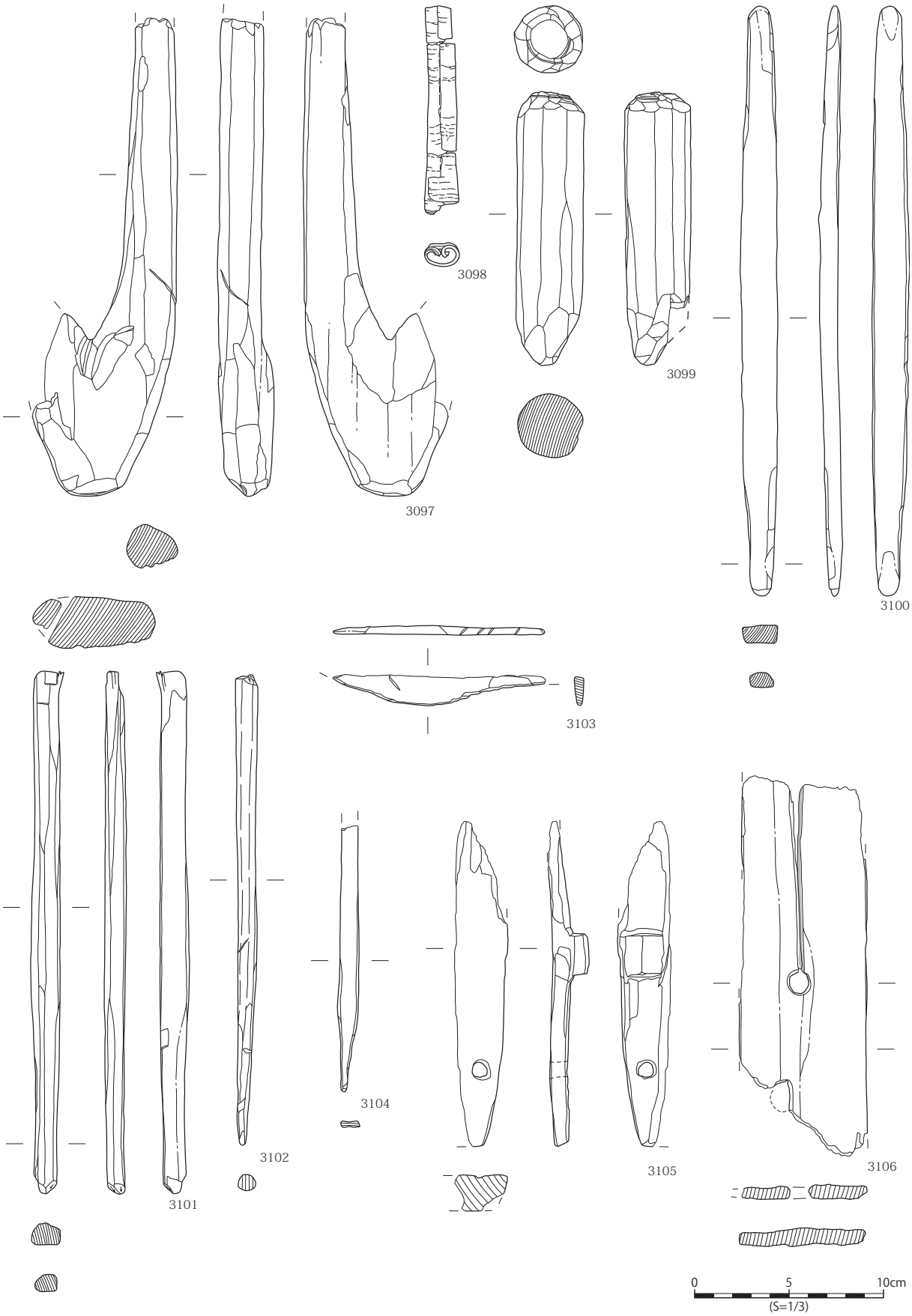
図Ⅳ-8-10　遺構外出土遺物 (10)



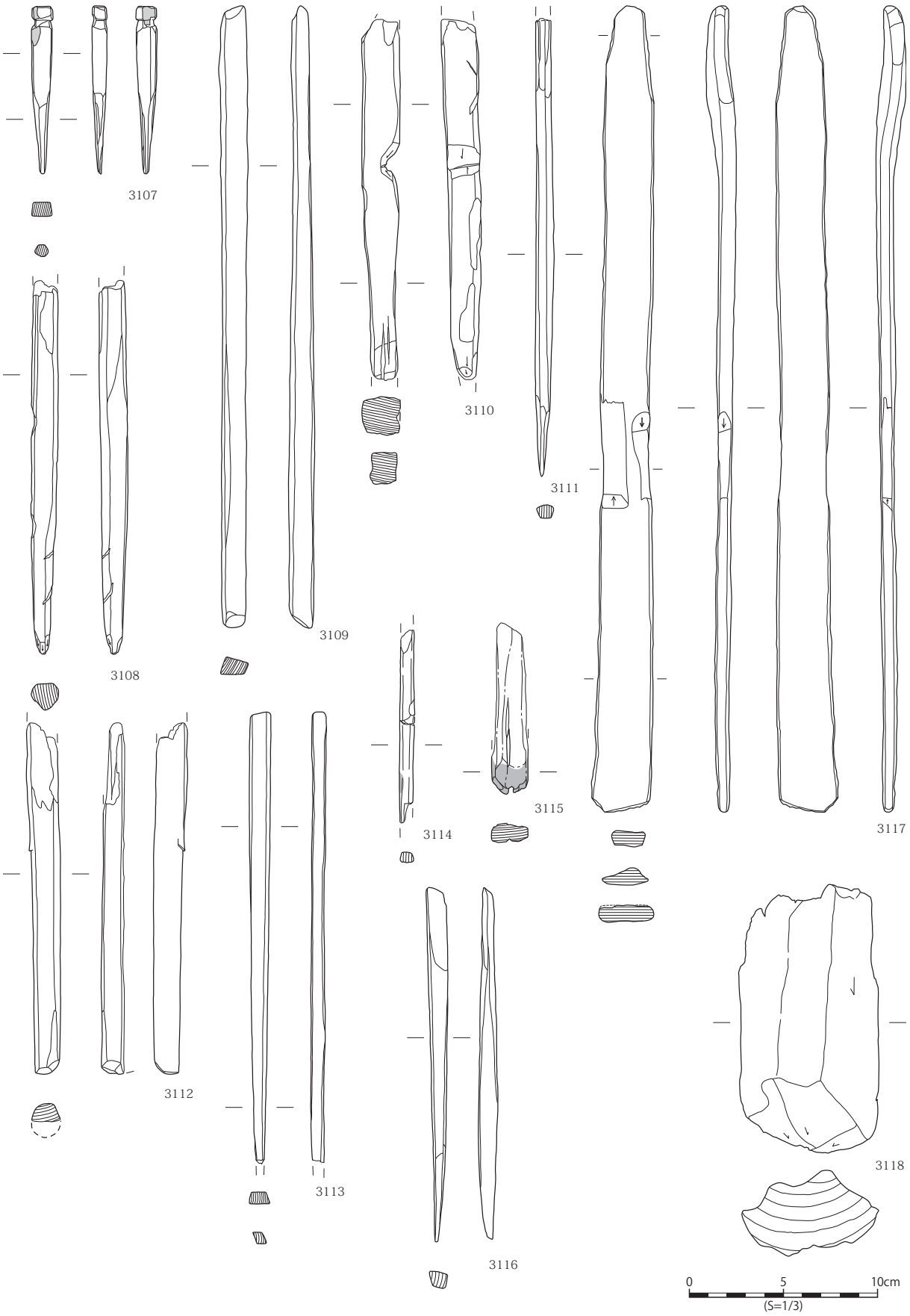
図Ⅳ-8-11　遺構外出土遺物 (11)



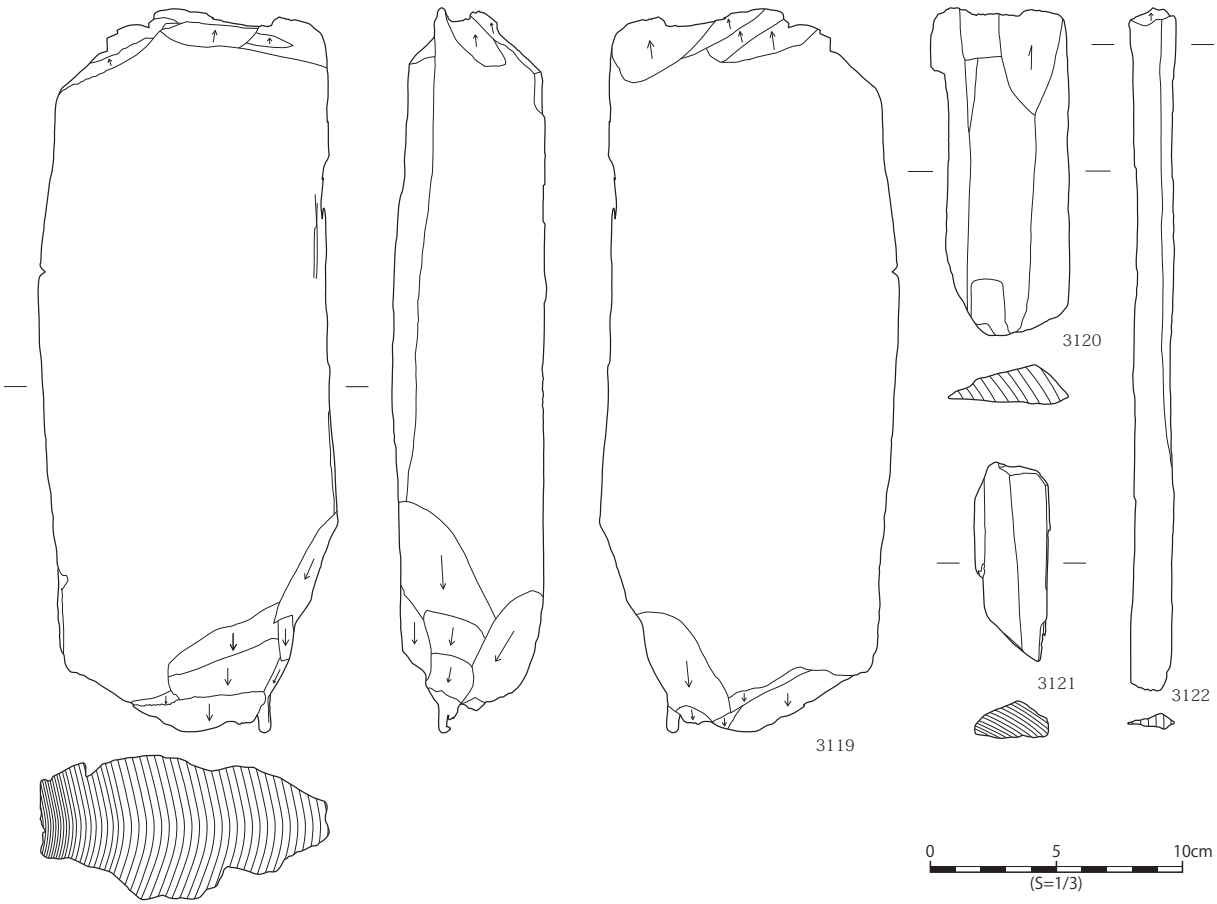
図Ⅳ-8-12　遺構外出土遺物 (12)



図Ⅳ-8-13　遺構外出土遺物 (13)



図Ⅳ-8-14　遺構外出土遺物 (14)



図Ⅳ-8-15　遺構外出土遺物 (15)

土したものは 3085 のみであり、他はいずれも折られているか欠損しているものであり、廃棄時に故意に破壊されている可能性が考えられる。樹種はいずれもアスナロである。3090 は施設材・器具材の不明固定具であり、一端に刻みを入れてくびれを有し、中央部平滑である。樹種はアスナロである。3091 は建築部材の結合補助材の留め具で、抉りが 2 か所有り、1 カ所に蟻臍を有する。樹種はアスナロである。3092 は施設材・器具材の不明部材であり、一端を面取りし、丸みを帯びている。樹種はアスナロである。3093 は扉の把手部であり、全体に手斧による丁寧な整形が施されている。樹種はアスナロである。3094 は建築部材の木組み補助材であり、一方に伸びる支え材が削られており、二次的に刳物に転用している可能性が考えられる。樹種はアスナロである。3095・3096 は施設材・器具材の不明部材であり、3095 は側面に凸状の加工を有する。3096 は一端に仕口状の加工を有する。樹種はいずれもアスナロである。3097 は刳物の槽の耳部に付属する把手の破損品と考えられる。樹種はアスナロである。3098 は緊縛具の樹皮巻であり、樹種は針葉樹皮である。3099 ～ 3102 は棒状不明製品であり、3102 は串の可能性も考えられる。3103 ～ 3106 は板状不明製品であり、3103 は祭祀具の鳥形、3104 は斎串、3105 は下駄の可能性も考えられる。3107 は一応不明製品としたが、有頭状の紐掛けがあり、先端が先細りの形状となっていることから栓の可能性が考えられる。樹種は 3108 がスギであり、他はいずれもアスナロである。3108 ～ 3122 は加工木であり、樹種はいずれもアスナロである。

五所川原市埋蔵文化財調査報告書　第33集

十 三 盛 遺 跡

― 一般国道101号五所川原西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

（第一分冊）

発行年月日　2013年３月22日

編集・発行　五所川原市教育委員会
〒037-0202 青森県五所川原市金木町朝日山319-1

印　刷　所　有限会社　アート印刷
〒037-0011 青森県五所川原市金山字亀ヶ岡46-7